2024年度
通信教育部(スクーリング)
講義概要(シラバス)

法政大学

科目一覧［発行日：2025/5/1］最新版のシラバスは、法政大学Webシラバス（https://syllabus.hosei.ac.jp/）で確認してください。

凡例　その他属性

〈他〉：他学部公開科目
〈優〉：成績優秀者の他学部科目履修制度対象科目
〈Ｓ〉：サティフィケートプログラム_SDGs
〈ダ〉：サティフィケートプログラム_ダイバーシティ
〈カ〉：サティフィケートプログラム_カーボンニュートラル
〈グ〉：グローバル・オープン科目
〈実〉：実務経験のある教員による授業科目
〈ア〉：サティフィケートプログラム_アーバンデザイン
〈未〉：サティフィケートプログラム_未来教室

【50007】政治学概論【Ⅱ】(前期メディア)［及川　智洋］前期 1
【50001】社会学【「近代」とは何か】(前期メディア)［徐　玄九］前期 2
【50003】生物学２【講義】(前期メディア)［木原　章］前期 4
【50009】基礎特講【現代に学ぶ私たち】(前期メディア)［及川　智洋］前期 6
【51001】商法総則・商行為法【Ⅰ】(前期メディア)［桜沢　隆哉］前期 7
【51005】行政法(前期メディア)［西田　幸介、久岡　将大］前期 8
【51001】労働法【働き方に関する法ルール】(前期メディア)［宮崎　由佳］前期 9
【51009】国際法各論【国際平和の追求】(前期メディア)［岡松　暁子］前期 10
【51011】保険法・海商法【Ⅰ】(前期メディア)［桜沢　隆哉］前期 11
【51013】労使関係論【Ⅱ】(前期メディア)［細川　良］前期 13
【52001】日本文芸史Ⅱ（前期メディア）［川鍋　義一］前期 15
【52003】日本文芸研究特講・近代【日本の私小説を読む】(前期メディア)［梅澤　亜由美］前期 16
【52007】日本芸能史(前期メディア)［伊海　孝充］前期 18
【52009】書道史【中国と日本の書の歴史】(前期メディア)［山口　恭子］前期 19
【53001】西洋史概説【ロシア近代史を中心として】(前期メディア)［草野　佳矢子］前期 20
【53007】東洋史概説【中国古代史】(前期メディア)［宇都宮　美生］前期 21
【54029】歴史地理学【Ⅰ】(前期メディア)［米家　志乃布］前期 22
【54013】自然地理学概論(２)(前期メディア)［小寺　浩二］前期 23
【54035】地学概論【Ⅰ】(前期メディア)［宍倉　正展］前期 25
【54001】自然地理学(地形)【Ⅰ】(前期メディア)［前杢　英明］前期 26
【54007】自然地理学(海洋・陸水)【Ⅰ】(前期メディア)［小寺　浩二］前期 27
【54039】地図学【Ⅰ】(前期メディア)［若林　芳樹］前期 28
【55001】金融論A(前期メディア)［武田　浩一］前期 29
【55003】金融論Ⅰ（前期メディア）［武田　浩一］前期 30
【55037】経済政策論A(前期メディア)［酒井　正］前期 31
【55039】経済政策論Ⅰ（前期メディア）［酒井　正］前期 32
【55005】ミクロ経済学A(前期メディア)［平井　俊行］前期 33
【55007】現代経済学Ⅰ（前期メディア）［平井　俊行］前期 34
【55009】マクロ経済学A(前期メディア)［宇都宮　仁］前期 35
【55011】マクロ経済学Ⅰ（前期メディア）［宇都宮　仁］前期 36
【55013】国際経済論A(前期メディア)［田村　晶子］前期 37
【55015】国際経済論Ⅰ（前期メディア）［田村　晶子］前期 38
【55017】環境経済論A(前期メディア)［松波　淳也］前期 39
【55019】環境経済論Ⅰ（前期メディア）［松波　淳也］前期 40
【55021】開発経済入門A(前期メディア)［池上　宗信］前期 41
【55041】国際貿易論A(前期メディア)［武智　一貴］前期 42
【55043】日本経済論A（前期メディア）［倪　彬］前期 43
【55045】日本経済論Ⅰ（前期メディア）［倪　彬］前期 44
【55029】経済地理【Ⅰ】(前期メディア)［近藤　章夫］前期 45
【55047】経済学特講【Academic Writing: SDGs及び卒業論文執筆に向けて】(前期メディア)［中谷　安男］前期 46
【55027】ビジネス英語A(前期メディア)［中谷　安男］前期 47
【56005】会計学入門Ⅰ(前期メディア)［神谷　健司］前期 48
【56001】経済学入門Ⅰ(前期メディア)［平田　英明］前期 49
【56003】経済学入門A（前期メディア）［平田　英明］前期 50

【56007】経営戦略論Ⅰ(前期メディア)［李　瑞雪］前期 51
【56009】マーケティング論Ⅰ(前期メディア)［竹内　淑恵］前期 53
【56011】管理会計論Ⅰ(前期メディア)［北田　皓嗣］前期 55
【56013】税務会計Ⅰ(前期メディア)［大下　勇二］前期 56
【56015】国際金融論Ⅰ(前期メディア)［横内　正雄］前期 57
【56019】経営組織論(前期メディア)［寺本　直城］前期 58
【55051】ファイナンス論Ⅰ（前期メディア）［高橋　秀朋］前期 60
【55049】現代ファイナンスA(前期メディア)［高橋　秀朋］前期 61
【57001】データサイエンス入門A(前期メディア)［児玉　靖司、髙田　美樹、高松　邦彦］前期 62
【10001】文学（春期スクーリング）［中澤　忠之］春期 63
【10002】論理学（春期スクーリング）［大貫　義久］春期 64
【10003】法学（日本国憲法）（春期スクーリング）［山口　哲史］春期 65
【10004】文化人類学（春期スクーリング）［ベル　裕紀］春期 66
【10005】生物学３（講義）（春期スクーリング）［大槻　涼］春期 67
【10006】化学１（講義）（春期スクーリング）［渡邉　永治］春期 68
【11001】英語Ｓ(１)（春期スクーリング）［青山　恵子］春期 69
【11002】英語Ｓ(２)（春期スクーリング）［妻鹿　裕子］春期 70
【11003】英語Ｓ(３)（春期スクーリング）［井上　紗央里］春期 71
【11004】英語Ｓ(４)（春期スクーリング）［中垣　恒太郎］春期 72
【11005】英語Ｓ(５)（春期スクーリング）［大和久　悌一郎］春期 73
【11006】独語Ｓ（春期スクーリング）［宮城　学］春期 74
【11007】仏語Ｓ（春期スクーリング）［石川　典子］春期 75
【12001】スポーツ総合演習（春期スクーリング）［竹内　洋輔］春期 76
【13001】商法総則・商行為法（春期スクーリング）［石井　宏司］春期 78
【13002】会社法（春期スクーリング）［石井　宏司］春期 79
【13003】行政法（春期スクーリング）［氏家　裕順］春期 80
【13004】債権各論（春期スクーリング）［足利　沙緒理］春期 82
【13005】刑法総論（春期スクーリング）［LEBRETON CAROLINE］春期 83
【14001】日本文芸史Ⅰ（春期スクーリング）［加藤　昌嘉］春期 84
【14002】日本言語学概論（春期スクーリング）［古牧　久典］春期 85
【14003】日本言語史（春期スクーリング）［松永　明］春期 86
【14004】文学概論（春期スクーリング）［山田　稔］春期 87
【14005】日本文芸研究特講・漢文（春期スクーリング）［吉井　涼子］春期 88
【14006】日本文芸研究特講・特域（春期スクーリング）［安原　眞琴］春期 90
【14007】日本文芸研究特講・近代（春期スクーリング）［高口　智史］春期 91
【14008】日本文芸学概論（春期スクーリング）［栗山　元子］春期 93
【14009】日本芸能史（春期スクーリング）［富山　隆広］春期 94
【15001】日本近代史（春期スクーリング）［柏木　一朗］春期 95
【15002】日本史概説（春期スクーリング）［安田　寛子］春期 96
【15003】西洋史概説（春期スクーリング）［竹下　和亮］春期 97
【15004】東洋史特講（東南アジア史）（春期スクーリング）［澁谷　由紀］春期 98
【15005】史学演習（東洋）（春期スクーリング）［宇都宮　美生］春期 99
【16001】日本史概説（春期スクーリング）［安田　寛子］春期 100
【16002】西洋史概説（春期スクーリング）［竹下　和亮］春期 101
【16003】自然地理学演習（春期スクーリング）［中山　秀晃］春期 102
【16004】写真・読図演習（２）（春期スクーリング）［沼尻　治樹］春期 103
【17001】財政学A（春期スクーリング）［天利　浩］春期 104
【17002】経済学特講（春期スクーリング）［南部　和香］春期 105
【17003】経済学特講（春期スクーリング）［金子　憲］春期 106
【18001】財政学Ⅰ（春期スクーリング）［天利　浩］春期 107
【18002】経営学特講【財務諸表分析】（春期スクーリング）［甚内　俊人］春期 108
【18003】経営管理論Ⅰ（春期スクーリング）［松本　潔］春期 109
【18004】経営学特講【NPO論】（春期スクーリング）［松本　潔］春期 110
【18005】経営学特講【ロジスティクス論】（春期スクーリング）［恩田　登志夫］春期 112
【18006】演習【貿易概論】（春期スクーリング）［恩田　登志夫］春期 113
【18007】監査論Ⅰ（春期スクーリング）［市川　佳功］春期 114
【18008】簿記Ⅲ（春期スクーリング）［市川　佳功］春期 115

【70001】日本史（ゴールデンウィークスクーリング）［矢越　葉子］ …… 116
【70002】法律学特講（ゴールデンウィークスクーリング）［新谷　里美］ …… 117
【70003】書道実技（ゴールデンウィークスクーリング）［井澤　秀彦］ …… 118
【70004】総合特講（ゴールデンウィークスクーリング）［齋藤　経史］ …… 119
【70005】経営学特講（ゴールデンウィークスクーリング）［木島　豊希］ …… 121
【80001】論理学（大阪市スクーリング）［鵜澤　和彦］ …… 122
【80002】総合特講（大阪市スクーリング）［小口　雅史］ …… 123
【80003】経営学特講（大阪市スクーリング）［平井　裕久］ …… 125
【81001】英語Ｓ（仙台市スクーリング）［磯部　芳恵］ …… 126
【81002】総合特講（仙台市スクーリング）［中沢　けい］ …… 127
【81003】経済学特講（仙台市スクーリング）［宮﨑　憲治］ …… 128
【90001】人文地理学（前期週末スクーリング）［前畑　明美］ …… 129
【90002】スポーツ特講（前期週末スクーリング）［秋本　成晴］ …… 130
【90003】法律学特講（前期週末スクーリング）［大野　達司］ …… 131
【90004】経済学特講（前期週末スクーリング）［畑　憲司］ …… 133
【90005】経営学特講（前期週末スクーリング）［市川　佳功］ …… 134
【30001】西洋史（夏期スクーリング）【オンライン】［渡辺　知］1群午前 …… 135
【30004】法学（夏期スクーリング）【オンライン】［村元　宏行］1群午前 …… 136
【31001】英語Ｓ（１）（夏期スクーリング）【オンライン】［平野井　ちえ子］1群午前 …… 137
【31009】独語Ｓ（夏期スクーリング）【オンライン】［三ツ石　祐子］1群午前 …… 138
【33001】政治学（夏期スクーリング）【オンライン】［面　一也］1群午前 …… 140
【34001】日本文芸研究特講・中世（夏期スクーリング）【オンライン】［中司　由起子］1群午前 …… 141
【35001】史学概論（夏期スクーリング）【オンライン】［秋山　千恵］1群午前 …… 142
【35002】史学演習（日本）（夏期スクーリング）【オンライン】［大塚　紀弘］1群午前 …… 143
【37001】経済学特講（夏期スクーリング）【オンライン】［馬　欣欣］1群午前 …… 144
【38001】簿記Ⅰ（夏期スクーリング）【オンライン】［神谷　健司］1群午前 …… 146
【38002】情報学入門（1）（データ演習）（夏期スクーリング）［児玉　靖司］1群午前 …… 147
【38003】コンピュータ入門（1）（データ演習）（夏期スクーリング）［児玉　靖司］1群午前 …… 148
【39001】教育方法論（ICT活用を含む）（夏期スクーリング）【オンライン】［中園　有希］1群午前 …… 149
【39002】教育方法論（ICT活用を含む）（夏期スクーリング）【オンライン】［中園　有希］1群午前 …… 150
【33002】国際法総論（夏期スクーリング）【オンライン】［田中　佐代子］1群午後 …… 151
【33003】法律学特講（夏期スクーリング）【オンライン】［武生　昌士］1群午後 …… 152
【34002】日本文芸研究特講・音楽芸能史（夏期スクーリング）【オンライン】［本塚　亘］1群午後 …… 153
【35003】史学演習（日本）（夏期スクーリング）［松本　剣志郎］1群午後 …… 154
【35004】日本中世史（夏期スクーリング）【オンライン】［仁平　義孝］1群午後 …… 155
【36001】地誌学特講（夏期スクーリング）【オンライン】［米家　志乃布］1群午後 …… 156
【36002】地誌学特講（S）（夏期スクーリング）【オンライン】［米家　志乃布］1群午後 …… 157
【38004】情報学入門（2）（表計算）（夏期スクーリング）［入戸野　健］1群午後 …… 158
【38005】コンピュータ入門（2）（表計算）（夏期スクーリング）［入戸野　健］1群午後 …… 159
【34003】日本文芸研究特講・近代（夏期スクーリング）【オンライン】［沼田　真里］1群夜間 …… 160
【37006】日本経済論A（夏期スクーリング）【オンライン】［秋元　大輔］1群夜間 …… 162
【37007】日本経済論Ⅰ（夏期スクーリング）【オンライン】［秋元　大輔］1群夜間 …… 163
【38006】人的資源管理論Ⅰ（夏期スクーリング）【オンライン】［田上　皓大］1群夜間 …… 164
【38007】情報学入門（3）（データベース）（夏期スクーリング）［渡辺　英人］1群夜間 …… 165
【38008】コンピュータ入門（3）（データベース）（夏期スクーリング）［渡辺　英人］1群夜間 …… 167
【36003】現地研究（夏期スクーリング）［小原　丈明］1群前半集中 …… 169
【36004】現地研究（夏期スクーリング）［齋藤　圭］1群後半集中 …… 170
【36005】写真・読図演習（１）（夏期スクーリング）［八木　浩司］1群後半集中 …… 172
【30002】東洋史（夏期スクーリング）［齋藤　勝］2群午前 …… 173
【30006】化学３（実験）（夏期スクーリング）［中田　和秀］2群午前 …… 174
【31002】英語Ｓ（３）（夏期スクーリング）［吉田　季実子］2群午前 …… 175
【31003】英語Ｓ（４）（夏期スクーリング）［大曲　陽子］2群午前 …… 176
【31004】英語Ｓ（５）（夏期スクーリング）［JAMES O ESSEX］2群午前 …… 178
【33004】法律学特講（夏期スクーリング）［石井　宏司］2群午前 …… 179
【33005】法哲学（夏期スクーリング）［大野　達司］2群午前 …… 180
【34004】日本文芸学概論（夏期スクーリング）［川鍋　義一，藤村　耕治］2群午前 …… 181
【34005】日本文芸史Ⅱ（夏期スクーリング）［山田　稔］2群午前 …… 182

【34006】日本文芸研究特講・言語（夏期スクーリング）［間宮　厚司］2群午前 …… 183
【34007】中国文芸史（夏期スクーリング）［遠藤　星希］2群午前 …… 184
【34008】書道実技（夏期スクーリング）［井澤　秀彦］2群午前 …… 185
【34009】リポート作成基礎講座（夏期スクーリング）［細沼　祐介］2群午前 …… 186
【35005】東洋史概説（S）（夏期スクーリング）［宇都宮　美生］2群午前 …… 187
【35006】東洋史概説（夏期スクーリング）［宇都宮　美生］2群午前 …… 188
【35007】史学演習（日本）（夏期スクーリング）［内藤　一成］2群午前 …… 189
【35008】史学演習（西洋）（夏期スクーリング）［皆川　卓］2群午前 …… 190
【36006】人文地理学演習（夏期スクーリング）［佐々木　達］2群午前 …… 191
【36007】自然地理学特講（夏期スクーリング）［宇津川　喬子］2群午前 …… 192
【37002】経済学特講（夏期スクーリング）［宇都宮　仁］2群午前 …… 193
【38009】経営学特講（夏期スクーリング）［韓　載香］2群午前 …… 194
【38010】情報学入門（4）（表計算）（夏期スクーリング）［髙田　美樹］2群午前 …… 196
【38011】コンピュータ入門（4）（表計算）（夏期スクーリング）［髙田　美樹］2群午前 …… 197
【39003】教育原理（夏期スクーリング）［森　和宏］2群午前 …… 198
【39004】教育原理（夏期スクーリング）［森　和宏］2群午前 …… 199
【30003】基礎特講（夏期スクーリング）［今泉　隆裕］2群午後 …… 200
【30005】社会学（夏期スクーリング）［徐　玄九］2群午後 …… 201
【30007】物理学３（実験）（夏期スクーリング）［井坂　政裕］2群午後 …… 202
【31005】英語Ｓ（２）（夏期スクーリング）［高井　美紀子］2群午後 …… 203
【31006】英語Ｓ（６）（夏期スクーリング）［Robert Durham］2群午後 …… 205
【31010】仏語Ｓ（夏期スクーリング）［柴崎　秀穂］2群午後 …… 207
【32002】スポーツ総合演習（夏期スクーリング）［魚住　智広］2群午後 …… 208
【33006】教育法（夏期スクーリング）［村元　宏行］2群午後 …… 209
【33007】教育法（夏期スクーリング）［村元　宏行］2群午後 …… 210
【33008】法律学特講（夏期スクーリング）［荻村　慎一郎］2群午後 …… 211
【34010】日本文芸研究特講・中古（夏期スクーリング）［庄司　敏子］2群午後 …… 212
【34011】日本文芸研究特講・現代（夏期スクーリング）［関口　雄士］2群午後 …… 213
【34012】日本文芸研究特講・韻文（夏期スクーリング）［土屋　聡］2群午後 …… 214
【34013】日本文芸研究特講・演劇（夏期スクーリング）［上野　火山］2群午後 …… 215
【34014】日本文法論（夏期スクーリング）［尾谷　昌則］2群午後 …… 216
【34015】卒業論文作成講座（夏期スクーリング）［佐藤　未央子］2群午後 …… 217
【35009】日本史概説（S）（夏期スクーリング）［安田　寛子］2群午後 …… 218
【35010】日本史概説（夏期スクーリング）［安田　寛子］2群午後 …… 219
【35011】西洋史概説（S）（夏期スクーリング）［内田　康太］2群午後 …… 220
【35012】西洋史概説（夏期スクーリング）［内田　康太］2群午後 …… 221
【35013】史学演習（東洋）（夏期スクーリング）［兼平　充明］2群午後 …… 222
【35014】日本古代史（夏期スクーリング）［杉本　一樹］2群午後 …… 223
【36009】人文地理学特講（夏期スクーリング）［木戸口　智明］2群午後 …… 224
【36008】自然地理学演習（夏期スクーリング）［前杢　英明］2群午後 …… 225
【37003】社会経済学A（夏期スクーリング）［舩木　惠子］2群午後 …… 226
【37004】社会経済学Ⅰ（夏期スクーリング）［舩木　惠子］2群午後 …… 227
【37005】経済学特講（夏期スクーリング）［中田　大悟］2群午後 …… 228
【38012】情報学入門（5）（データ演習）（夏期スクーリング）［髙田　美樹］2群午後 …… 229
【38013】コンピュータ入門（5）（データ演習）（夏期スクーリング）［髙田　美樹］2群午後 …… 230
【31007】英語Ｓ（７）（夏期スクーリング）［小田井　勝彦］2群夜間 …… 231
【33009】労働法（夏期スクーリング）［山本　圭子］2群夜間 …… 232
【37008】総合特講（夏期スクーリング）［赤石　秀之］2群夜間 …… 233
【38014】経営学特講（夏期スクーリング）［小池　祐二］2群夜間 …… 234
【38015】情報学入門（6）（データベース）（夏期スクーリング）［渡辺　英人］2群夜間 …… 236
【38016】コンピュータ入門（6）（データベース）（夏期スクーリング）［渡辺　英人］2群夜間 …… 238
【30008】数学３（夏期スクーリング）［小木曽　岳義］3群終日 …… 240
【31008】英語Ｓ（８）（夏期スクーリング）［塩谷　幸子］3群終日 …… 241
【33010】日本法制史（夏期スクーリング）［山本　弘］3群終日 …… 242
【34016】日本文芸研究特講・上代（夏期スクーリング）［坂本　勝］3群終日 …… 244
【34017】日本文芸研究特講・近世（夏期スクーリング）［牧野　悟資］3群終日 …… 245
【34018】リポート作成基礎講座（夏期スクーリング）［山口　恭子］3群終日 …… 246

【35015】東洋史特講（中国現代史）（夏期スクーリング）［齋藤　勝］3群終日 …… 247
【35016】日本考古学（夏期スクーリング）［小倉　淳一］3群終日 …… 248
【37009】経済学特講（夏期スクーリング）［島澤　諭］3群終日 …… 249
【38017】経営学特講（夏期スクーリング）［伊東　林蔵］3群終日 …… 250
【38018】経営学特講（夏期スクーリング）［齋藤　邦明］3群終日 …… 251
【39005】教育心理学（夏期スクーリング）［田澤　実］3群終日 …… 252
【39006】教育心理学（夏期スクーリング）［田澤　実］3群終日 …… 253
【32001】健康・スポーツ科学概論（夏期スクーリング）［大久保　寛之］3群終日 …… 254
【60015】法学(日本国憲法)(後期メディア)［金子　匡良］後期 …… 255
【60009】政治学概論(Ⅰ)(後期メディア)［及川　智洋］後期 …… 256
【60017】自然地理学(後期メディア)［佐藤　崇徳］後期 …… 257
【60005】英語S(1)(後期メディア)［今井　澄子］後期 …… 258
【60013】英語S(2)(後期メディア)［石原　紀子］後期 …… 259
【60011】仏語S(後期メディア)［近江屋　志穂］後期 …… 261
【60007】健康・スポーツ科学概論(スポーツコーチングの基礎)(後期メディア)［荒井　弘和］後期 …… 262
【61001】総合特講(東南アジア現代史)(後期メディア)［佐々木　研］後期 …… 264
【61003】民法総則(民法典全体に共通するルール)(後期メディア)［明石　真昭］後期 …… 266
【61005】商法総則・商行為法(Ⅱ)(後期メディア)［桜沢　隆哉］後期 …… 267
【61009】国際法総論(国際社会の法秩序)(後期メディア)［岡松　暁子］後期 …… 268
【61015】行政救済法(後期メディア)［西田　幸介,久松　将大］後期 …… 269
【61019】保険法・海商法(Ⅱ)(後期メディア)［桜沢　隆哉］後期 …… 271
【61023】労使関係論(Ⅰ)(後期メディア)［細川　良］後期 …… 272
【61021】法律学特講(国際労働法)(後期メディア)［山本　圭子］後期 …… 274
【62009】日本文芸研究特講・上代(万葉集を読む)(後期メディア)［萩野　了子］後期 …… 276
【62001】日本文芸研究特講・中古(『竹取物語』を読む―かぐや姫の”実像”)(後期メディア)［園　明美］後期 …… 277
【62005】日本文芸研究特講・近世(西鶴大句数)(後期メディア)［浅沼　博］後期 …… 278
【62011】日本文芸研究特講・児童文芸(後期メディア)［構　大樹］後期 …… 279
【62007】日本言語史(後期メディア)［間宮　厚司］後期 …… 280
【63001】日本史概説(東アジアのなかの古代日本)(後期メディア)［浜田　久美子］後期 …… 281
【64027】歴史地理学(Ⅱ)(後期メディア)［米家　志乃布］後期 …… 282
【64033】地学概論(Ⅱ)(後期メディア)［宍倉　正展］後期 …… 283
【64001】自然地理学(地形)(Ⅱ)(後期メディア)［前杢　英明］後期 …… 284
【64007】自然地理学(海洋・陸水)(Ⅱ)(後期メディア)［小寺　浩二］後期 …… 285
【64013】世界地誌(１)(アジア)(後期メディア)［小寺　浩二］後期 …… 286
【64037】地図学(Ⅱ)(後期メディア)［若林　芳樹］後期 …… 287
【64019】自然地理学特講(人間の生活と気候)(後期メディア)［狩野　真規］後期 …… 288
【65001】経済学入門B（後期メディア）［ブー　トウン　カイ］後期 …… 289
【65003】経済学入門Ⅱ(後期メディア)［ブー　トウン　カイ］後期 …… 290
【65005】金融論B(後期メディア)［武田　浩一］後期 …… 291
【65007】金融論Ⅱ(後期メディア)［武田　浩一］後期 …… 292
【65039】経済政策論B(後期メディア)［酒井　正］後期 …… 293
【65041】経済政策論Ⅱ(後期メディア)［酒井　正］後期 …… 294
【65009】ミクロ経済学B(後期メディア)［平井　俊行］後期 …… 295
【65011】現代経済学Ⅱ(後期メディア)［平井　俊行］後期 …… 296
【65017】国際経済論B(後期メディア)［田村　晶子］後期 …… 297
【65019】国際経済論Ⅱ(後期メディア)［田村　晶子］後期 …… 298
【65021】環境経済論Ｂ(後期メディア)［松波　淳也］後期 …… 299
【65023】環境経済論Ⅱ(後期メディア)［松波　淳也］後期 …… 300
【65025】開発経済入門B(後期メディア)［池上　宗信］後期 …… 301
【65043】国際貿易論B(後期メディア)［武智　一貴］後期 …… 302
【65031】経済地理(Ⅱ)(後期メディア)［近藤　章夫］後期 …… 303
【65045】経済学特講(循環型社会のミクロ経済学)(後期メディア)［赤石　秀之］後期 …… 304
【65029】ビジネス英語B(後期メディア)［中谷　安男］後期 …… 305
【65047】現代ファイナンスB(後期メディア)［高橋　秀朋］後期 …… 306
【65049】ファイナンス論Ⅱ(後期メディア)［高橋　秀朋］後期 …… 307
【66001】会計学入門Ⅱ(後期メディア)［神谷　健司］後期 …… 308
【66003】経営戦略論Ⅱ(後期メディア)［李　瑞雪］後期 …… 310

【66005】マーケティング論Ⅱ(後期メディア)［竹内　淑恵］後期 311
【66027】統計学入門(後期メディア)［高橋　慎］後期 313
【66009】税務会計Ⅱ(後期メディア)［大下　勇二］後期 314
【66011】国際金融論Ⅱ(後期メディア)［横内　正雄］後期 315
【66007】管理会計論Ⅱ（後期メディア）［北田　皓嗣］後期 316
【66013】経営学特講(ミクロ経済学)(後期メディア)［平田　英明］後期 317
【66017】事業創造論(後期メディア)［稲垣　京輔］後期 318
【66023】消費者行動論(後期メディア)［新倉　貴士］後期 320
【66025】広告論(後期メディア)［竹内　淑恵］後期 322
【66029】会計情報論Ⅰ(後期メディア)［坂上　学］後期 324
【67001】データサイエンス入門B(後期メディア)［児玉　靖司、髙田　美樹、坂上　学、長谷川　翔平、高橋　慎、伊藤　克亘、彌冨　仁］後期 326
【67003】データサイエンス応用基礎A(後期メディア)［児玉　靖司、髙田　美樹、宮崎　誠、高松　邦彦、卯木　輝彦］後期 327
【67005】データサイエンス応用基礎C(後期メディア)［髙田　美樹］後期 328
【20001】文学（秋期スクーリング）［中澤　忠之］秋期 329
【20002】論理学（秋期スクーリング）［大貫　義久］秋期 330
【20003】法学（日本国憲法）（秋期スクーリング）［山口　哲史］秋期 331
【20004】文化人類学（秋期スクーリング）［ベル　裕紀］秋期 332
【20005】生物学３（講義）（秋期スクーリング）［大槻　涼］秋期 333
【20006】化学２（講義）（秋期スクーリング）［渡邉　永治］秋期 335
【21001】英語Ｓ(１)（秋期スクーリング）［青山　恵子］秋期 336
【21002】英語Ｓ(２)（秋期スクーリング）［妻鹿　裕子］秋期 337
【21003】英語Ｓ(３)（秋期スクーリング）［井上　紗央里］秋期 338
【21004】英語Ｓ(４)（秋期スクーリング）［中垣　恒太郎］秋期 339
【21005】英語Ｓ(５)（秋期スクーリング）［大和久　悌一郎］秋期 340
【21006】独語Ｓ（秋期スクーリング）［宮城　学］秋期 341
【21007】仏語Ｓ（秋期スクーリング）［石川　典子］秋期 342
【23001】商法総則・商行為法（秋期スクーリング）［石井　宏司］秋期 343
【23002】会社法（秋期スクーリング）［石井　宏司］秋期 345
【23003】行政救済法（秋期スクーリング）［氏家　裕順］秋期 346
【23004】債権各論（秋期スクーリング）［足利　沙緒理］秋期 348
【23005】刑法各論（秋期スクーリング）［LEBRETON CAROLINE］秋期 349
【24001】日本文芸史Ⅰ（秋期スクーリング）［伊海　孝充］秋期 350
【24002】日本言語学概論（秋期スクーリング）［古牧　久典］秋期 351
【24003】日本言語史（秋期スクーリング）［松永　明］秋期 352
【24004】文学概論（秋期スクーリング）［山田　稔］秋期 353
【24005】日本文芸研究特講・漢文（秋期スクーリング）［吉井　涼子］秋期 354
【24006】書道史（秋期スクーリング）［山口　恭子］秋期 356
【24007】日本美術史（秋期スクーリング）［山本　ゆかり］秋期 357
【25001】日本近世史（秋期スクーリング）［中山　学］秋期 358
【25002】日本史特講（対外関係史）（秋期スクーリング）［宇都宮　美生］秋期 359
【25003】東洋史概説（秋期スクーリング）［柏倉　優一］秋期 360
【25004】歴史資料学（日本近代）（秋期スクーリング）［鈴木　隆春、山下　大輔］秋期 361
【25005】史学演習（西洋）（秋期スクーリング）［山野　貴彦］秋期 362
【25006】史学演習（日本）（秋期スクーリング）［中川　洋］秋期 364
【26001】東洋史概説（秋期スクーリング）［柏倉　優一］秋期 365
【26002】人文地理学演習（秋期スクーリング）［前畑　明美］秋期 366
【26003】地理情報システム(GIS)（２）（秋期スクーリング）［沼尻　治樹］秋期 367
【27001】財政学B（秋期スクーリング）［島澤　諭］秋期 369
【27002】経済学特講（秋期スクーリング）［南部　和香］秋期 370
【28001】財政学Ⅱ（秋期スクーリング）［島澤　諭］秋期 371
【28002】経営管理論Ⅱ（秋期スクーリング）［松本　潔］秋期 372
【28003】演習【エリアマーケティング論】（秋期スクーリング）［松本　潔］秋期 373
【28004】経営学特講【航空輸送概論】（秋期スクーリング）［恩田　登志夫］秋期 375
【28005】演習【国際物流論】（秋期スクーリング）［恩田　登志夫］秋期 376
【28006】経営学特講【企業価値評価】（秋期スクーリング）［甚内　俊人］秋期 377

【28007】演習【企業価値評価】（秋期スクーリング）［甚内　俊人］秋期 …… 378
【28008】経営学特講【事例で学ぶ人材マネジメント入門】（秋期スクーリング）［石川　了］秋期 …… 379
【28009】監査論Ⅱ（秋期スクーリング）［市川　佳功］秋期 …… 380
【28010】簿記Ⅳ（秋期スクーリング）［市川　佳功］秋期 …… 381
【82001】基礎特講（札幌市スクーリング）［向井　知大］終日 …… 382
【82002】総合特講（札幌市スクーリング）［小寺　浩二］終日 …… 383
【82003】法律学特講（札幌市スクーリング）［金子　匡良］終日 …… 385
【83001】自然地理学（名古屋市スクーリング）［齋藤　圭］終日 …… 386
【83002】総合特講（名古屋市スクーリング）［内田　康太］終日 …… 387
【83003】経営学特講（名古屋市スクーリング）［宮澤　信二郎］終日 …… 388
【91001】物理学３（講義）（後期週末スクーリング）［藤田　貢崇］終日 …… 390
【91002】法律学特講（後期週末スクーリング）［島村　健太郎］終日 …… 391
【91003】書道史（後期週末スクーリング）［山口　恭子］終日 …… 392
【91004】経済学特講（後期週末スクーリング）［持元　江津子］終日 …… 393
【91005】経営学特講（後期週末スクーリング）［小池　祐二］終日 …… 394
【84001】英語Ｓ（福岡市スクーリング）［LASSEGARD JAMES］終日 …… 396
【84002】総合特講（福岡市スクーリング）［中丸　宣明］終日 …… 397
【84003】経済学特講（福岡市スクーリング）［藤原　徹］終日 …… 398
【40001】日本史（冬期スクーリング）【オンライン】［矢越　葉子］1群午前 …… 399
【40003】心理学（冬期スクーリング）【オンライン】［桶谷　雅人］1群午前 …… 400
【40006】数学３（冬期スクーリング）【オンライン】［若井　健太郎］1群午前 …… 401
【40004】経済学（冬期スクーリング）【オンライン】［関口　駿輔］1群午後 …… 402
【40005】基礎特講（冬期スクーリング）［中平　千彦］2群午前 …… 403
【40007】物理学３（実験）（冬期スクーリング）［井坂　政裕］2群午前 …… 404
【40002】哲学（冬期スクーリング）［鵜澤　和彦］2群午後 …… 405
【41001】英語Ｓ（１）（冬期スクーリング）【オンライン】［磯部　芳恵］1群午前 …… 407
【41002】英語Ｓ（３）（冬期スクーリング）［吉田　季実子］2群午前 …… 408
【41003】英語Ｓ（４）（冬期スクーリング）［本間　章郎］2群午前 …… 409
【41004】英語Ｓ（５）（冬期スクーリング）［JAMES O ESSEX］2群午前 …… 411
【41005】英語Ｓ（２）（冬期スクーリング）［高井　美紀子］2群午後 …… 412
【41006】英語Ｓ（６）（冬期スクーリング）［LASSEGARD JAMES］2群午後 …… 414
【41009】総合外国語特講（英語）（冬期スクーリング）［平野井　ちえ子］2群午後 …… 415
【41007】独語Ｓ（冬期スクーリング）［三ツ石　祐子］2群午後 …… 416
【41008】仏語Ｓ（冬期スクーリング）［柴崎　秀穂］2群午後 …… 417
【42001】スポーツ総合演習（冬期スクーリング）［山田　快］2群午後 …… 418
【43007】法律学特講（冬期スクーリング）［笹久保　徹］2群午前 …… 419
【43008】法律学特講（冬期スクーリング）【オンライン】［國分　典子］1群午前 …… 420
【43005】国際法各論（冬期スクーリング）【オンライン】［田中　佐代子］1群午後 …… 421
【43010】倒産法（冬期スクーリング）【オンライン】［倉部　真由美］1群午後 …… 422
【43002】労働法（冬期スクーリング）［沼田　雅之］2群午前 …… 423
【43004】刑事訴訟法（冬期スクーリング）［朝村　太一］2群午前 …… 425
【43006】民事執行法（冬期スクーリング）［杉本　和士］2群午前 …… 426
【43009】政治学（冬期スクーリング）［佐賀　香織］2群午前 …… 428
【43001】物権法（冬期スクーリング）［伊藤　栄寿］2群午後 …… 429
【43003】民事訴訟法（冬期スクーリング）［廣尾　勝彰］2群午後 …… 430
【44001】日本文芸史Ⅱ（冬期スクーリング）【オンライン】［康　潤伊］1群午前 …… 431
【44005】リポート作成基礎講座（冬期スクーリング）［関口　雄士］2群午前 …… 432
【44006】卒業論文作成講座（冬期スクーリング）［園　明美］2群午前 …… 433
【44002】日本文芸研究特講・漢文（冬期スクーリング）［永井　弥人］2群午後 …… 434
【44003】日本美術史（冬期スクーリング）［山本　ゆかり］2群午後 …… 435
【44004】西洋美術史（冬期スクーリング）［濱西　雅子］2群午後 …… 436
【45008】日本古文書学（冬期スクーリング）【オンライン】［大塚　紀弘］1群午前 …… 439
【45005】東洋史概説（S）（冬期スクーリング）【オンライン】［宇都宮　美生］1群午後 …… 440
【45006】東洋史概説（冬期スクーリング）【オンライン】［宇都宮　美生］1群午後 …… 442
【45007】史学演習（日本）（冬期スクーリング）［仁平　義孝］1群午後 …… 444
【45001】日本史概説（S）（冬期スクーリング）［矢越　葉子］2群午前 …… 445
【45002】日本史概説（冬期スクーリング）［矢越　葉子］2群午前 …… 446

【45003】西洋史概説（S）（冬期スクーリング）［竹下　和亮］2群午前 447
【45004】西洋史概説（冬期スクーリング）［竹下　和亮］2群午前 448
【45009】東洋美術史（冬期スクーリング）［久野　美樹］2群午後 449
【45010】歴史資料学（日本近世）（冬期スクーリング）［米崎　清実］2群午後 450
【46001】人文地理学演習（冬期スクーリング）【オンライン】［米家　志乃布］1群午前 451
【46002】自然地理学演習（冬期スクーリング）【オンライン】［小寺　浩二］1群午後 452
【46007】測量学及び測量実習（１）（冬期スクーリング）［木村　勲］1群前半集中 453
【46008】測量学及び測量実習（２）（冬期スクーリング）［菅　富美男］1群後半集中 454
【46003】現地研究（冬期スクーリング）［中川　秀一］2群前半集中 455
【46009】地理情報システム（GIS）（１）（冬期スクーリング）［中山　大地］2群前半集中 456
【46004】現地研究（冬期スクーリング）［宇津川　喬子］2群後半集中 458
【46005】地誌学特講（冬期スクーリング）［前畑　明美］2群後半集中 459
【46006】地誌学特講（S）（冬期スクーリング）［前畑　明美］2群後半集中 460
【47006】経済学特講（冬期スクーリング）【オンライン】［石川　貴幸］1群午後 461
【47003】日本経済論B（冬期スクーリング）［萬代　悠］2群午前 462
【47004】日本経済論Ⅱ（冬期スクーリング）［萬代　悠］2群午前 464
【47005】総合特講（冬期スクーリング）［赤石　秀之］2群午前 466
【47001】社会経済学B（冬期スクーリング）［舩木　惠子］2群午後 467
【47002】社会経済学Ⅱ（冬期スクーリング）［舩木　惠子］2群午後 468
【48002】経営学特講（冬期スクーリング）【オンライン】［山田　裕美］1群午前 469
【48001】人的資源管理論Ⅱ（冬期スクーリング）【オンライン】［田上　皓大］1群午後 471
【48003】経営学特講（冬期スクーリング）【オンライン】［李　瑞雪］1群午後 472
【48004】経営学特講（冬期スクーリング）［近能　善範］2群午前 474
【48007】情報学入門（1）（表計算）（冬期スクーリング）［髙田　美樹］2群午前 475
【48008】コンピュータ入門（1）（表計算）（冬期スクーリング）［髙田　美樹］2群午前 476
【48011】演習（冬期スクーリング）［横山　斉理］2群午前 477
【48005】経営学特講（冬期スクーリング）［吉田　健二］2群午後 478
【48006】経営学特講（冬期スクーリング）［松本　敦則］2群午後 479
【48009】情報学入門（2）（データ演習）（冬期スクーリング）［児玉　靖司］2群午後 480
【48010】コンピュータ入門（2）（データ演習）（冬期スクーリング）［児玉　靖司］2群午後 481
【49001】教育実習事前指導（国語）（平成10年改正法）（冬期スクーリング）［丸山　義昭］2群午後 482
【49002】教育実習事前指導（国語）（平成28年改正法）（冬期スクーリング）［丸山　義昭］2群午後 484
【49003】教育実習事前指導（社会・商業）（平成10年改正法）（冬期スクーリング）［木村　良成］2群午後 486
【49004】教育実習事前指導（社会・商業）（平成28年改正法）（冬期スクーリング）［木村　良成］2群午後 487
【49005】教職実践演習（平成10年改正法）（冬期スクーリング）［遠藤　野ゆり］2群午後 488
【49006】教職実践演習（平成28年改正法）（冬期スクーリング）［遠藤　野ゆり］2群午後 490

POL100TA（政治学 / Politics 100）

政治学概論【Ⅱ】(前期メディア)

及川　智洋

カテゴリー：**前期メディア**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**前期**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日本の政治システムを他国との比較を交えて学び、現代の民主主義政治の特徴と問題点について考察、理解する。

【到達目標】
日本の政治システムについて理解し、民主主義の意味について考察を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP3」「史学科：DP1, DP3」「地理学科：DP1」「経済学科：DP7」「商業学科：幅広い教養」に関連

【授業の進め方と方法】
講義をメディア教材を通じて行う。受講生はそれを視聴して、毎回後に複数の選択式問題による小テストに回答したうえで次の授業に進む。各回の小テストについては、システム上で採点を実施し返却する。講義内容について質問がある場合、システム上の質問機能で対応する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	政治の役割	代表を選び多数決でルールを決める民主政治の意味を確認する。
2	議会と政府	議院内閣制と大統領制の関係、議会二院制の意味について考える。
3	選挙制度と政党システム	現行の衆議院小選挙区比例代表制を中心に、選挙制度と政党の関係を考える。
4	法と政治	政策を具体化する法の成立過程および司法権独立の意義、裁判例の政治に対する影響力などについて検討する。
5	地方自治と政治	身近な「民主主義の学校」の役割、地方分権に関する経緯と問題点について学ぶ。
6	財政と税制	税などの国民負担と、財政による再配分機能について、近年の問題点も含め検討する。
7	公共事業と福祉政策	国民国家の形成と「公共」の概念、公共事業と福祉政策の役割について考える。
8	福祉国家の成立と変容	戦後民主政治において福祉国家の果たした役割、「大きな政府」「小さな政府」路線の違いを見る。
9	少子高齢化と経済格差	２１世紀、社会の変化に伴う主要な政治課題について、どのような対策が可能かを検討する。
10	国際政治＝日本をめぐる国際関係	国際政治の現状と理論、日本をめぐる主要な国際関係について知る。
11	「平和主義」と憲法改正	日本国憲法の平和主義と憲法改正問題について、歴史的経緯と将来を展望する。
12	グローバル時代の国際政治＝移民問題を中心に	近年の動向について概観し、国際社会および日本の対応を検討する。
13	アイデンティティと共生社会の政治	民族や宗教の対立による民主主義の亀裂、ジェンダー平等という新しい課題などについて考える。
14	民主主義の再起動は可能か	リベラル・デモクラシーの行き詰まりとポピュリズム（大衆迎合政治）などを考察する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しない。

【参考書】
『政治のしくみがわかる本』山口二郎（岩波ジュニア新書、2009年）本体780円+税。
『政治学』新川敏光・大西裕・大矢根聡・田村哲樹（有斐閣、2017年）本体2000円+税。
『戦後政治史　第四版』石川真澄・山口二郎（岩波新書、2021年）本体1040円+税。

【成績評価の方法と基準】
期末レポートを実施する。評価は100％。

【学生の意見等からの気づき】
質問への対応は基本に立ち戻って、丁寧に回答するよう努める。

【学生が準備すべき機器他】
メディア教材を視聴できる情報機器。

【その他の重要事項】
政治学概論Ⅰから連続する授業であり、あらかじめⅠを履修していた方が内容を理解しやすいが、Ⅱのみ、あるいはⅡの後にⅠという順番でも差し支えはない。

【Outline (in English)】
The aim of this course is to study Japanese political system while comparing other nations. And students must consider assignment of modern democracy. The goals of this course are to understand about Japanese political system and democracy. Before /after each lecture, students will be expected to spend four hours to understand the course contents. Final grade will be calculated according process term-end report(100%)。

SOC100TA（社会学 / Sociology 100）

社会学【「近代」とは何か】(前期メディア)

徐　玄九

カテゴリー：**前期メディア**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**前期**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業の主な目的は、「近代（Modern age）とは何か」という問いを軸に、「近代」という時代の診断に関して、これまで社会学者たちが出してきた暫定的な「答え」を参照しながら、「私と社会」の関係をいま一度反省的に見つめなおすことです。そのために必要な社会学の基本的な「ものの見方・考え方」をその概念や理論も含めて基礎から学びます。社会学の通低する問題意識に沿って、今日の私たちは「何」から「何」へ、あるいは、「どこ」から「どこ」へ変わってきたか、またそのなかで、何が省略され、何が稀少化され、何が凝縮されているのかについて学びます。これを通して、一人ひとりの時代への問題意識の「（再）発見」のきっかけを作ります。社会学は、社会変動を理解したいという願望とともに、それに対する知的対応として登場しました。私たちを取り巻き支配しているこの時代（近代あるいは現代）とはいかなる時代なのか、そしてどのような問題を抱えており、それの解決方向をいかに見出すかという関心が社会学の成立と発展に通低していた問題意識です。

【到達目標】
以下の授業計画のテーマに沿って、社会学の核心的な概念、理論などを基礎から学びます。具体的には（1）各テーマに対するさまざまな人の異なる見方、考え方を学ぶ、（2）行為、関係、意味など社会現象を記述するときに用いられる基礎概念を文脈に沿って正しく理解する、（3）「近代」という時代の特徴の一面を理解でき、それを自分の言葉で表現できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP3」「史学科：DP1, DP3」「地理学科：DP1」「経済学科：DP7」「商業学科：幅広い教養」に関連

【授業の進め方と方法】
授業は基本的に講義形式で行いますが、社会学の学説史や理論の羅列的な紹介よりも、ストーリー性を重視しながら、出来る限り身近なものから抽象的なものへと話題を進めるようにします。そうすることで、「私的」な個別具体的な事柄のなかにも、社会性（歴史的、文化的な諸状況）が入り込んでいて、一見無関係のようにみえるある社会的現象が実は互いに影響しあっていることに気づき、「私と社会」の関係をより多角的に理解できるはずです。
中間課題に対しては、①採点もしくは個別評価・添削、②全体講評、③模範解答や優秀リポート等の掲示、のうちいずれかを実施します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	Introduction	社会学への招待：「自明なものを問う」―社会学的想像力の重要性
第2回	見えない社会を見る	目に見えない社会を見る練習をする―（E.T. Hall/E.Goffman）の「プロクセミックス」/「儀礼的無関心」の概念を学ぶ
第3回	近代と空間観の変化	テンニースのゲマインシャフトとゲゼルシャフトという社会形態の区分を中心に空間と相互行為の違いについて学ぶ
第4回	近代と時間観の変化	自然的な時間から機械的な時間の変化を歴史的に学ぶ
第5回	歴史区分としての近代	歴史区分としての「近代」とその特徴について学ぶ
第6回	社会契約論と私的所有論	近代社会理論の代表的な社会契約論と私的所有論について学ぶ
第7回	労働賛美の時代としての近代	概略的に古代から近代までの労働観の変遷を歴史的・思想的に学ぶ
第8回	逆説としての近代	理解を深めるために、「近代」への道筋をM.Weberの「近代形成論」（『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』）に即して学ぶ
第9回	規律化と臣民化としての近代	社会秩序と権力の問題をM.Foucault『監獄の誕生』に依拠して学ぶ
第10回	世俗化の時代としての近代	E.Durkheim/P.L.Bergerの「宗教論」に学びながら、社会全体の動きに大きな影響を及ぼした宗教の意味や役割、そして「世俗化」について学ぶ
第11回	ナショナリズムの時代としての近代	E.ゲルナーとB.アンダーソンの議論を中心に近代とナショナリズムの関係を学ぶ
第12回	公共性の変容としての近代	H・アレントとJ.ハバーマスの議論を手がかりにして公共性の変容について学ぶ
第13回	マニュアル化の時代としての近代	G.Ritzer『マクドナルド化する社会』を参照しながら、合理化、官僚制、などの概念について学ぶ
第14回	リスク社会としての現代	U.Beck『危険社会』に依拠しながらリスク社会としての現代社会を考える
第15回	授業内容の総括	これまでの授業内容をもう一度おさらい

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
この授業では多くの内容を比較的短時間で扱います。よって、毎回の講義のなかで取り上げる基本的な概念について、関連する参考文献や辞典等を用いて予習・復習をすることが大事です。受講生皆さんには「読書」（多読）をお薦めします。取り組もうとしている問題が重要、かつ複雑であるからこそ、平易であろうと、難解であろうと、多くの文献を読む必要があるのです。時間とコストを惜しまず取り組んでください。
本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用せず、配布資料に基づき講義を進めていきます。

【参考書】
必要に応じて配布または提示しますが、さしあたっては以下を参照してください。
ピーター・L. バーガー（1989）『社会学への招待』思索社。
ジグムント・バウマン（1990 = 1993）奥井智之訳『社会学の考え方――日常生活の成り立ちを探る』HBJ出版局。
見田宗介（2006）『社会学入門』岩波文庫。
市野川容孝（2006）『社会――思考のフロンティア』岩波書店。
長谷川公一他（2007）『社会学』有斐閣。
大澤真幸（2008）『不可能性の時代』岩波文庫。
日本社会学会社会学事典刊行委員会編（2010）『社会学事典』丸善。

【成績評価の方法と基準】
中間リポート（50％）とメディアスクーリング試験（50％）の合計点で評価します。
具体的な評価基準は、到達目標に書いてある通り「行為、関係、意味など社会現象を記述するときに用いられる基礎概念を文脈に沿って正しく理解」しているかを合格基準とし、その上、取り上げられたテーマ（問題）に関して論理的な記述、自主的な学習の成果が認められた場合はさらに高く評価します。

【学生の意見等からの気づき】
受講者の意見のなかには、「日常生活の中で疑問に感じていたことなどが、授業の随所にあり納得した。」「理解しているつもりなのに、小テストへの反応が悪く残念であった。」とのご意見をいただきました。メディアスクーリング形式の特性上、時々の疑問をすぐに解決できないかもしれませんが、「中間レポート」の提出と合わせて文末に日頃の疑問を書いてくださるか、掲示板などを積極的に活用していただければ、担当者のできる限りにおいてお答えしていくように努めます。

【学生が準備すべき機器他】
なし。

【その他の重要事項】
受講時の疑問などは積極的に掲示板などをご利用ください。

【Outline (in English)】
What is modern society? How can we understand it? How does society affect individual lives? The aim of this course is to help students acquire the basic sociological concepts and terms, and to develop a beginning critical perspective on the structure of our modern society. The course introduces students to classical theoretical traditions of Durkheim, Weber, and Tonnies. Our study is the basic social institutions (religion, economics, and politics), and major trends in sociology.

BIO100TA（その他の総合生物・生物学 / Biology 100）

生物学２【講義】(前期メディア)

木原　章

カテゴリー：**前期メディア**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**前期**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「生物学２」では、主としてマクロレベルの生命現象を対象として扱います。未だ世間では一般的ではありませんが、私は「マクロ生物学」と呼んでいます。個々の細胞が集まることで個体ができあがるしくみ。個々の生物が集まることでできあがる生態系。これらの「群れ」のしくみは、「自己組織化」と呼ばれたり、「社会現象」と呼ばれたりしています。最近では「群知能」と言って、群れ自体に潜む知的な振る舞いについて研究も進みつつあります。1＋1が2にとどまらず、新たな生命現象を引き起こす世界について考えてみましょう。

【到達目標】
本授業の到達目標は2つ有ります。第一に、「生物学」の基礎知識を身につけることです。第二に、論理的思考力と文章力を身につけてもらいます。授業計画に従って、課題をこなしているうちに、論理的思考と文章力が身につくように授業計画は組み立てられています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP3」「史学科：DP1, DP3」「地理学科：DP1」「経済学科：DP3, DP7」「商業学科：幅広い教養」に関連

【授業の進め方と方法】
授業は、ＺＯＯＭを使ったオンライン授業を録画したものです。授業では、ホワイトボードを多用します。毎回、生物学のマクロレベルの現象を一つとりあげて、その背後に潜む生物特有の仕組みを見つけ出していきます。単にホワイトボードの説明だけで無く、実際の映像資料を適宜呈示します。受講される学生は、ホワイトボードの内容をノートに書き取りながら、たまにビデオを見ながら筆を休めるという感じで、実際の授業を受けるように受講して頂けると、教育効果が上がると思います。14回目の選択式の小テストはシステム上で採点を実施し返却します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	マクロレベルの生命現象とは	生物をパーツに分解して、その仕組みを明らかにするのが「ミクロレベル」の生物学ならば、「マクロレベル」とは、生物を集めていくと何が起きるのかと言う問題を扱う学問になります。 　後半では小テストで要求されている「授業要約」の書き方を具体的に説明します。授業要約を提出する前に必ずこの説明を確認して下さい。
第2回	自己複製・変異・淘汰のサイクル	進化は、環境や他の生物との相互作用で起こります。進化が起きる仕組みを、生物以外のケースと比べて考えてみます。
第3回	共進化	進化における相互関係が2種に限定されると、共に進化を加速させて、その結果特殊な種間関係ができあがる場合が有ります。特定の花と、特定の虫と言った共進化について考えてみます。
第4回	神経回路の可塑性	記憶・学習とは、複数の神経回路がつながることです。このつながりを作り出しているのが、シナプスという神経の接続部です。生物が、神経回路を変化させて学習するメカニズムについて考えます。
第5回	本能行動	動物は生まれながらにして身につけている行動があります。これを「本能行動」と言いますが、この本能行動を可能にしている仕組みはどうなっているのでしょう？ 神経回路と遺伝子の関係について考えてみましょう。
第6回	意識と神経	ここでは「心」と「脳」の問題について考えます。神経回路が複雑化する中で、「意識」が生まれたと言われています。「意識」を作り出す背景について考えてみます。
第7回	ミームの進化	神経回路として形成された「文明」や「文化」が次の世代の神経回路として伝わるメカニズムについて考えます。
第8回	群れ	生き物の群れは、信じられないような同調行動を取ります。この群れの行動から生まれた「群知能」について考えます。
第9回	社会	人間以外の生物にも、高度な社会を構築する生き物がいます。本授業では、アリを取りあげ、その社会構造や、個々のアリの働き方について学びます。
第10回	発生・分化	多細胞生物では、それぞれの細胞が独自の役割分担を持つことで、高度な生き物が作り上げられます。受精卵が細胞分裂して、一つの個体を作り上げるしくみについて考えます。
第11回	再生	iPS細胞のように、細胞の運命をコントロールすることで、人工的に体の再生を可能とする技術が登場しています。医療まで含めて、現在の再生技術について考えます。
第12回	生態学的生命観	生態学では、それぞれのパーツが集まって作り出す新たな属性「創発的属性」を調べることで生命現象を理解しています。逆の意味で言うと、「創発的属性」は、パーツに分解することで消えてしまう特徴でも有ります。本授業では、この「創発的属性」について学びます。
第13回	種と多様性	現在、人間が引き起こした環境変動によって多くの種が消滅していると言われています。種の絶滅によって、生態系の多様性が失われ、環境問題が起きるとも言われています。本授業では、多様性の指標とされている「種」について、基礎から考えてみたいと思います。
第14回	まとめと本の紹介	13回の授業をまとめながら、本授業で得た知識を更に発展させる上で参考になる図書の紹介をします。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
受講生の皆さんは、日常的に新聞などの科学ニュースを見るように心がけて下さい（1回につき1時間以上）。予習として、各回の授業テーマについてインターネット検索を利用して事前学習してください（1回につき1時間以上）。 復習として、授業での指示に従って授業の要約を作成し提出してください（1回につき1時間以上）。以上合計して1回につき4時間以上の自習をして下さい。
毎回提出する授業の要約については、第一回目の授業の後半で、授業要約のまとめ方を説明しています。必ず、この説明をご覧になってから要約作業を行って下さい。

【テキスト（教科書）】
教科書は無し。

【参考書】
発展学習のための参考書を14回目の授業で紹介します。

【成績評価の方法と基準】
1～13回目では毎回小テストとして、授業要約を提出して頂きます。
13回全ての小テストが提出されてないと単位認定の対象とはならず、一つでもかけている場合は「未受験：E」となります。
授業要約の書き方については第一回目の授業の後半で説明しています。必ず、この説明をご覧になってから要約作業を行って下さい。
14回目の授業では選択式の小テストをおこないます。
成績は、小テストと期末試験を以下の割合で評価します。
80％　　小テスト13回分（毎回授業の要約）
20％　期末試験
　単位修得に関わる授業要約は、必ずご自分で作成して下さい。内容が同一だったり、極端に類似した要約文が提出された場合は、それに関わった全員を不正行為に荷担したと見なし、処分の対象とします。

【学生の意見等からの気づき】
①ホワイトボートの書き方が早いという意見と、ちょうど良いという意見が有るようです。
ノートが追いつかない場合は、スクリーンコピーを撮ることをおすすめします。スクリーンコピーが撮れるように、ページを換えるときには、そのことを事前に言うようにします。
②映像資料の量について。
受講生の要望に従って、映像資料を授業の途中にできるだけ多く入れるようにしています。しかし、授業内容に従った映像資料が入手できないケースもありますので、授業毎にその量は変化します。
③ビデオの重複について
もともと、リアルタイムでオンライン配信する目的で作られたため、必要に応じて同一の映像資料を繰り返し使用するケースもあります。
④単元区切りについて
オンデマンド教材では、授業を単元に細分化して提供するケースがありますが、本授業は実際の授業の録画になりますので、基本的には連続的に見て頂くことを前提として作成しております。その為、一回の授業を分割して提供はしておりません。それでも、ご自身で工夫されて、必要に応じて部分的に繰り替えしてご覧になられている学生さんもいらっしゃるようです。オンデマンドの良さをうまく活用して頂ければと思います。

【学生が準備すべき機器他】
オンデマンド授業に参加するための、コンピュータ機器とネットワーク環境を準備して下さい。

【その他の重要事項】
本授業は、実際に行われた授業の録画になりますので、オンデマンドで受講する場合、多少不自然と感ぜられる内容も含まれます。それは、過去の授業の録画であるという事でご理解頂ければと思います。

【Outline (in English)】
(Course outline)In this class, we will learn the most basic biological concepts which are relating to our life. Major topics for the semester include: developmental biology, neuroscience, behavior science, ecology and biodiversity.
(Learning Objectives)The goal of this class is to understand the macro-mechanism of living organisms.
(Learning activities outside of classroom)Students will be expected to have completed the lecture summaries after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.
(Grading Criteria /Policies)
Final grade will be calculated according to the following process each lecture summary x 13 times (80%), term-end examination (20%).

BSP100TA（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）

基礎特講【現代に学ぶ私たち】(前期メディア)

及川　智洋

カテゴリー：**前期メディア**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**前期**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
大学で学ぶことの意味、学問の目的と役割、個人と社会、国家、世界との関係について考える。

【到達目標】
大学での学問の意義、社会とのかかわり、公共の概念から政治・経済の仕組みと国際関係、情報の扱い方などについて、概略を理解できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP3」「史学科：DP1, DP3」「地理学科：DP1」「経済学科：DP5」「商業学科：幅広い教養」に関連

【授業の進め方と方法】
メディア教材を通じて講義形式で行う。各回、教材を視聴後に小問題に答えて次の回に進む。講義内容で質問がある場合、システム上の質問機能から対応する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	大学で学ぶということ	人ははぜ大学で学ぶのか。大学はどんなところか。
2	社会の中の自己	自分が存在する社会とは何だろうか、その中で自分の役割は。
3	学問の世界	学問とは何か、どんな分野があり、どのように発展してきたか。
4	公共とルール	「公共」の意味と、その中でルールを決める政治の役割について。
5	代議制民主主義	平等な権利を持つ我々が代表を選び、議論のうえルールを決めるのが標準的な民主政治。
6	市場・共同体・政府	それぞれの機能と変遷、人は、社会はどのように関わるのか。
7	民主政治と路線の左右	政治的な「右」「左」はどのように違い、政策はどう異なるのか。
8	三権分立と司法の独立	立法と行政との関係、司法が独立していることの意義とは何か。
9	経済・労働・消費	経済活動の概略と、私たちの生活、労働とのかかわりを知る。
10	税・社会保険・財政	政府・地方公共団体に私たちが支払うものと、暮らし、社会保障との関係を理解する。
11	国際関係と世界の課題	近代から現代にかけての世界、国際連合の役割と、直面している問題について。
12	現代日本の課題	21世紀における各分野の課題を概観し、考える。
13	情報とメディア	情報を見極めるには何が必要か、誰もが発信者となり得る時代の注意点。
14	調べ・まとめ・書く	リポート作成の要点と、気をつけるべきこと。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しない。

【参考書】
外岡秀俊『発信力の育てかた』（河出書房新社、2015年）1300円＋税

【成績評価の方法と基準】
期末レポートの評価を100％とする。授業の内容を理解したうえで、自ら独自に考察する能力、それを適切に論述できているかを評価基準とする。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【学生が準備すべき機器他】
メディア教材を視聴できる情報機器。

【その他の重要事項】
特になし。

【Outline (in English)】
You shall comte m plate about academic descipline in colleges.And you can understand relationship between individual and the society or the states or the worid.

LAW300TB（法学 / law 300）

商法総則・商行為法【Ⅰ】（前期メディア）

桜沢　隆哉

カテゴリー：**前期メディア**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**前期**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
企業及び企業取引における法律関係の特質と法規制の基礎的理解

【到達目標】
この講義は､全14 回の講義で商取引法上の諸制度､内容、機能に関する基礎的・体系的な理解が得られることを主眼とし､今後現実の社会における応用問題に取り組んで行くことができるようしっかりとした事案の分析能力､解釈論を展開する能力を高めることを目標とする。企業の制度的背景である商取引(企業活動) を理解することにより、会社法等の企業関係法への理解を深化させることにある。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP1,DP2,DP3,DP4」「日本文学科：DP1,DP2」「史学科：DP1」「地理学科：DP1,DP2,DP3」「経済学科：DP2」「商業学科：自由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

【授業の進め方と方法】
本講義では商法の中で、第一編総則(商法1 条～31 条) および第二編商行為(商法501 条～617 条) を中心に、その他関連する法令や実務などについてもできる限り言及し、商取引の進化とともに発展・変化していく「商法」を学び、現代社会における企業・取引活動といった事象について法的な問題意識とその解釈を身に付けることを目的とします。特別な知識や能力は必要ありません。必要なのは、常に「なぜ」と考え、制度の背景事情を観察する知的好奇心と意欲であると考えています。
中間課題やその他の課題に対しては、①採点もしくは個別評価・添削、②全体講評、③模範解答や優秀リポート等の掲示、のうちいずれかを実施します。
　また、質問については、LMS(クラスルーム)で寄せられた質問に随時お応えする形で対応する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	序章：商法の歴史および意義	本講義の射程（範囲・対象)、講義の進め方、教科書・参考書の紹介、商法典の歴史について
第2回	第１章：商法総論	商法の概念、商法の法源、商法と他の法規の適用関係について
第3回	第２章：商人と商行為(1) ―商人・商行為の概要	商人と商行為概念と商法の適用について
第4回	第３章：商人と商行為(2) ・商号(1)	商法の適用時期（商人資格の取得時期)、商号の意義・機能について
第5回	第４章：商号(2)	商号と名板貸責任について
第6回	第５章：営業・事業	営業・事業の概念および営業譲渡と営業に関わる利害関係者の調整について
第7回	第６章：企業の人的補助(1) ―総説・商事代理―	企業の人的補助総説、商法と代理制度について
第8回	第７章：企業の人的補助(2) ―商業使用人―	商業使用人（支配人、特定の事項の委任を受けた使用人、物品の販売等の店舗使用人）について
第9回	第８章：企業の人的補助(3) ―代理商―	代理商（フランチャイズ契約を含む)、代理商の内部関係と外部関係
第10回	第９章：商業登記(1) ―商業登記制度の概要と効力―	商業登記制度の意義、内容・手続、商業登記の効力について
第11回	第10章：商業登記(2) ―不実の登記の効力―	商業登記と不実の登記の効力について
第12回	第11 章：商業帳簿	商業帳簿の意義、種類・作成、保存・提出について
第13回	第12 章：商行為総則(1) ―商行為の特則―	商行為の営利性、契約の成立、債務者の連帯等について
第14回	第13章：商行為総則(2) ―商行為の特則―	債権担保、有価証券に関する特則について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
配布資料、およびテキストの該当箇所をよく読んで予習・復習をすること。特に判例百選（参考書(5)の文献）は、実際の裁判例とその解説が書かれてありますので、講義中に出てきた知識と実際とをつなげる理解を得るために有益です。
本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
大塚英明・川島いづみ・中東正文『商法総則・商行為法< 有斐閣アルマ > 』（有斐閣、第４版、2023年）

【参考書】
(1)落合誠一=大塚龍児=山下友信『商法Ⅰ総則・商行為< 有斐閣Sシリーズ> 』（有斐閣、第６版、2019 年）
(2)近藤光男『商法総則・商行為法』（有斐閣、第９版、2023年）
(3)弥永真生『リーガルマインド商法総則・商行為法』（有斐閣、第３版、2019年）
(4)北村雅史編『スタンダード商法I 商法総則・商行為法』（法律文化社、第2版、2022年）
(5) 神作裕之＝藤田友敬編『商法判例百選』（別冊ジュリスト243号、有斐閣、2019 年）
上記のテキスト(教科書)および参考書は、平成29年民法改正法・平成30年商法改正に対応しているものを挙げた。テキスト(教科書) は、商法総則・商行為の両分野にまたがり、基礎から応用に至るまで丁寧な説明で書かれており、初めて商法を学ぶ方々にも十分対応しているが、コンパクトに情報を伝えようとしているためか、その内容を参考書(5)で重要判例を補う必要がある。(1)～(4) は、資格試験等でよく利用されるものであり、全講義を通して体系的な整理のために利用するのが適切であると考えている。

【成績評価の方法と基準】
中間リポート（1 回／ 30 %）およびメディアスクーリング試験（70%）によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】
開始後、「おしらせ」や「ディスカッション」を活用してください。

【Outline (in English)】
【Course outline】Understanding Principal of Commercial Law (general remarks)
【Learning Objectives】This course consists of 14 lectures, with the main focus being to provide a basic and systematic understanding of the various systems, contents, and functions of commercial transactions law, and to enable students to tackle applied problems in real society in the future. The goal is to improve the ability to analyze cases and develop interpretive theories. By understanding commercial transactions (corporate activities), which are the institutional background of companies, the aim is to deepen the understanding of the Corporate laws.
【Learning activities outside of classroom】Carefully read the distributed materials and the relevant sections of the text for preparation and review. In particular, the 100 Case Laws (reference book (5)) contains actual court cases and their explanations, so they are useful for gaining understanding that connects the knowledge learned during lectures with reality.
The standard preparation and review time for this class is two hours each.
【Grading Criteria /Policy】Evaluated by mid-term report (once/30%) and media schooling exam (70%).

LAW300TB（法学 / law 300）

行政法(前期メディア)

西田　幸介、久岡　将大

カテゴリー：**前期メディア**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**前期**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
行政法とは行政に関する法のことを指す。行政法が他の法分野と大きく異なるのは、行政法という名前の法律（行政法典）がないことである。このため、学習者は行政法の体系や基本原理を法典を通して知ることができない。「行政法は難しい」といわれる理由の一つはこの点にあろう。行政法も、法の一種であるから、権利義務あるいは法律関係を対象とする。しかし、行政法では、民事法と異なり、権利義務の有無よりも行政の行為の適法性あるいは法的統制が問題となる。
この授業では、行政法を学ぶ土台を作るために、行政法とはどのような法なのか、行政法の基本原理、行政の組織に関する法律論の基礎的な枠組みおよび行政作用に関する法律論の基礎的な枠組みを学ぶ。

【到達目標】
(1) 行政法における基本的な概念（行政行為、行政契約、法律による行政の原理など）について、正確に説明することができる。
(2) 行政主体（国や地方公共団体など）と私人との法律関係を把握することができる。
(3) 行政主体と行政機関の関係について、正確に説明することができる。
(4) 行政の各種の行為（行為形式）について、それぞれの概念や分類、法的規制の概略について、正確に説明することができる。
(5) 行政の実効性確保について、その手段、それに対する法的規制の概略について、正確に説明することができる。
(6) 行政法の基本原理、行政組織および行政作用について、それが抱える問題点や現代的課題を理解し、その解決策を論じることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP1,DP2,DP3,DP4」「日本文学科：DP1,DP2」「史学科：DP1」「地理学科：DP1,DP2,DP3」「経済学科：DP4,DP5」「商業学科：自由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

【授業の進め方と方法】
一般的な講義形式による。
中間課題に対しては、①採点もしくは個別評価・添削、②全体講評、③模範解答や優秀リポート等の掲示、のうちいずれかによってフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第01回	行政法の意義	行政の概念・分類
		行政法の三分野
第02回	行政組織法の基礎（1）	行政主体と行政機関
第03回	行政組織法の基礎（2）	行政主体の種類
第04回	行政法の基本原理（1）	法律による行政の原理
第05回	行政法の基本原理（2）	権利濫用禁止の原則
		信義誠実の原則
第06回	行政法の基本原理（3）	比例原則
		平等原則
第07回	行政法の基本原理（4）	適正手続の保障
第08回	行政の各種の行為（1）	行政の行為形式
第09回	行政の各種の行為（2）	法規命令
第10回	行政の各種の行為（3）	行政行為
第11回	行政の各種の行為（4）	行政契約
第12回	行政の各種の行為（5）	行政指導
		即時強制
第13回	行政の実効性確保（1）	行政上の強制執行
第14回	行政の実効性確保（2）	行政上の制裁

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
テキスト、参考図書、その他授業内で指示された内容にもとづく学習。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
指定しない。ただし、西田幸介『行政法』（2016年、法政大学通信教育部）を適宜参照すること。

【参考書】
稲葉馨『行政法と市民』（2006年、放送大学教育振興会）
宇賀克也『行政法概説Ⅰ［第8版］』（2023年、有斐閣）
小早川光郎『行政法（上）』（1999年、弘文堂）
塩野宏『行政法Ⅰ行政法総論［第6版］』（2015年、有斐閣）
芝池義一『行政法読本［第4版］』（2016年、有斐閣）
高橋滋『行政法［第3版］』（2023年、弘文堂）
原田尚彦『行政法要論［全訂第7版補訂2版］』（2012年、学陽書房）
藤田宙靖『行政法総論（上）』（2020年、青林書院）

【成績評価の方法と基準】
中間リポート（40%）とメディアスクーリング試験（60%）による。いずれにおいても、行政法の基本的な概念や法律論が適切に理解できているか、それらを具体的な問題に当てはめて考えることができるかを問うこととする。

【学生の意見等からの気づき】
授業改善アンケートの結果からは、とくに変更を要すると考えられる事項はないと考えている。ただ、引き続き、授業改善に努めていきたい。

【Outline (in English)】
In this course, student learn the outline of Administrative Law. After taking this course, student will be able to:
- Explain the basic concepts in administrative law.
- Explain the legal relationship between state or public entities and private natural or legal person.
- Explain the relationship between state or public entities and administrative agencies.
- Describe the concepts, classifications, and outlines of legal restrictions concerning various acts of administrative agencies.
- Explain the means of securing the effectiveness of acts of administrative agencies and the outline of legal restrictions on them.
- Understand the problems and contemporary issues of the basic principles, administrative organization and acts of administrative agencies in administrative law, and discuss their solutions.
Before/after each class meeting, student will be expected to spend four hours to understand the course content.
Your overall grade in the class will be decided based on the following;
Term-end examination: 60%, Short reports : 40%.

LAW300TB（法学 / law 300）

労働法【働き方に関する法ルール】(前期メディア)

宮崎　由佳

カテゴリー：**前期メディア**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**前期**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
雇用関係を規律する法ルールとその役割について考察します。

【到達目標】
使用者と労働者の権利と義務を理解すること、労働条件を決定する仕組みを理解すること、および職場で起こる(起こりうる)問題に対して法的にアプローチする力(当該問題の本質を捉え、関連条文や判例によりながら解決する力)をつけることを本講義の目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
【授業の進め方と方法】
雇用関係を規律する法ルールおよびその役割を概観した上で、職場で起こり得る法的問題について、具体的な事例を示し、関連判例や条文等を参照しながら考察します。
【課題等に対するフィードバック方法】
中間レポートのフィードバックは、優秀リポート等の提示にて実施します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	労働法とは	労働法とは。なぜ労働法は必要なのか、その意義など
第2回	採用内定・試用期間	労働契約関係はいつから始まるのか。採用内定や試用期間の法的性質など
第3回	労働時間	労働時間の意義、労働時間に関する法ルールとその課題について
第4回	労働者の安全と健康	労働者の安全と健康に関する法ルールとその課題について
第5回	休憩・休日・休暇	休憩時間や休日・休暇の意義、各制度に関わる法ルールとその課題
第6回	賃金	賃金の支払いや決定に関する法ルールについて
第7回	労働条件の決定と変更	労働条件の決定の仕組みや決定・変更に関する法ルールについて
第8回	人事異動	配置転換・出向・転籍の意義、法ルールとその課題について
第9回	労働契約の終了	解雇、整理解雇や退職など労働契約の終了に関する法ルールについて
第10回	雇用平等	労働者の人権、人格権や雇用平等に関する法ルールと課題について
第11回	非正規雇用	パートタイム、有期契約雇用や派遣労働など、多様な雇用形態に関する法ルールと課題について
第12回	労働組合	労働組合とは。その目的や労働組合法上の労働組合の要件、不当労働行為制度について
第13回	団体交渉・労働協約	団体交渉および労働協約に関する法ルールについて
第14回	労使トラブルを解決する仕組み	労使紛争の状況や企業内および公的な労使トラブルを解決する仕組みについて

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
予習をされた上での受講を前提としておりますので、教科書及び参考資料には必ず目を通しておいて下さい。
本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
『ベーシック労働法　第９版』(有斐閣アルマ)〈新版が出た場合は新版。旧版も可〉

【参考書】
法の制定・改正や判例の動向により適宜資料を配布し、内容等について紹介します。

【成績評価の方法と基準】
中間レポート（50点）およびメディアスクーリング試験（50点）の総合評価とします。

【学生の意見等からの気づき】
注目すべき法改正や判例などについて、適宜情報提供を行います。

【Outline (in English)】
【Course outline】
The objective of this course is to help students acquire an understanding of the regulations covering employment relations and their roles.
【Learning Objectives】
The goals of this course are to understand the rights and obligations of employers and employees, and the mechanisms that determine working conditions,and then to develop the ability to legally approach problems that arise in the workplace based on the relevant provisions and precedents.
【Learning activities outside of classroom】
Students will be expected to read the textbook and reference materials,so please be sure to read them.
Your standard study time for preparation and review will be about 2 hours for a class.
【Grading Criteria /Policy】
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Mid-term report :50%、Term-end examination:50%

LAW400TB（法学 / law 400）

国際法各論【国際平和の追求】(前期メディア)

岡松　暁子

カテゴリー：**前期メディア**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**前期**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では、国際法の各論を扱う。第一に、国際関係の基本単位としての国家管轄権の発現態様である実体法に焦点を当て、個別分野における国際的な規制枠組を検討する。
第二に、国際法秩序の維持と国際法の履行確保のための方式や制度について考察する。

【到達目標】
国際社会における具体的な事象を法的に分析する素地を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
主として国際法の各論部分についての講義を行う。
中間課題に対しては、採点結果を通知する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	海洋法（1）	海洋法の歴史的発展、内水、領海
第2回	海洋法（2）	排他的経済水域、公海、大陸棚、深海底、海洋環境
第3回	国際化地域、空域、宇宙	南極の法的地位、領空、宇宙空間の利用、天体の資源開発
第4回	国際人権法（1）	人権保障の展開、国連による人権保障、人権保障の普遍性
第5回	国際人権法（2）	人権条約、履行確保、人権条約の国内的効力
第6回	国際環境法（1）	国際環境法の対象と接近方法、国際環境法の生成と発展、リオ宣言
第7回	国際環境法（2）	国際環境条約の性質、持続可能な開発、枠組条約と議定書、制度化
第8回	国際環境法（3）	手続的義務、履行確保、環境と貿易
第9回	紛争の平和的解決（1）	国際社会における紛争解決手続きの特徴、平和的解決と強制的解決、非裁判的手続
第10回	紛争の平和的解決（2）	裁判的手続の特徴、国際仲裁裁判、国際司法裁判、国際裁判機関の多元化
第11回	国際刑事法	個人の犯罪、国際刑事裁判所
第12回	国際安全保障	武力不行使原則、自衛権、国連軍、多国籍軍、平和維持活動、人道的介入
第13回	軍備管理・軍縮	武器・兵器、軍隊の変遷、冷戦と軍拡競争、核軍縮
第14回	国際人道法	戦争の違法化、武力紛争法規

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
教科書の該当部分を読んでおくこと。
本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
岩沢雄司『国際法［第2版］』東京大学出版会、2023年。
植木俊哉・中谷和弘編代『国際条約集』有斐閣。

【参考書】
森川幸一・兼原敦子・酒井啓亘・西村弓編『国際法判例百選［第3版］』有斐閣、2021年。
繁田泰宏・佐古田彰・岡松暁子・小林友彦編『ケースブック国際環境法』東信堂、2020年。

【成績評価の方法と基準】
中間リポート課題（50％）、リポート試験（50％）の総合点で評価する。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【その他の重要事項】
履修者は「国際法総論」を履修済みであることが望ましいが、それを履修の条件とはしない。

【Outline (in English)】
This course introduces the legal order and rules over the specific areas in the international society referring to precedents by both international and domestic courts.
Acquire the grounding for the legal analysis for specific events in the international community.
The course will focus on the various subjects of international law.
Students will be notified of the grades for their midterm assignments.
Students will be expected to have read the required chapter before each lecture.
Your required study time is at least two hours for each lecture.
Midterm assignments(50%), Final report(50%)

LAW300TB（法学 / law 300）

保険法・海商法【Ⅰ】(前期メディア)

桜沢　隆哉

カテゴリー：**前期メディア**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**前期**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
保険法に関する基本的知識の習得

【到達目標】
この講義は、全14回の講義で保険法上の諸制度、内容、機能に関する基礎的・体系的な理解が得られることを主眼とし、今後現実の社会における応用問題に取り組んで行くことができるようしっかりとした事案の分析能力、解釈論を展開する能力を高めることを目標とする。保険法の教科書を解説するだけでは上記目標を達成することは難しいので、毎回の講義の中では具体的なケースを用いて、それを基に保険法の制度が実際にどのように運用されているのか、それは社会の実態に合致しているのか、さらにそれに問題があるとすればいかにして解決・克服すべきなのかといった観点から、保険法の諸制度と現実の社会における問題とをつなげる力の修得を目指したい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「法律学科： DP2,DP4」「日本文学科：DP1,DP2」「史学科： DP1」「地理学科： DP1,DP2,DP3」「経済学科：DP4,DP5」「商業学科：自由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

【授業の進め方と方法】
この講義では、保険法（保険契約法および保険業法）に関する基本的知識の習得を目的とする。保険法および海商法はいずれも我々の実社会と密接に結びついた重要な法制度である。このうちで、保険法・海商法（I）では保険法を扱う。

まず、本講義で扱う保険法は、保険制度それ自体がわれわれの日常生活における様々な危険に備えるための有用な手段として用いられているが、他方で濫用されるおそれの高い制度でもある。本講義では、保険制度が有するこれら2つの側面を意識しながら、それを法的視点から解説する。また保険法は、2008年に約100年ぶりともいえる法改正および商法から単行法化がなされ、世間でも多くの注目を集めてきたが、その後の技術革新により改正以後あらたな問題も出てきている。そこで、保険法については、実務の動向や裁判例を常に意識しながら講義を展開していきたいと考えている。

中間課題に対しては、①採点もしくは個別評価・添削、②全体講評、③模範解答や優秀リポート等の掲示、のうちいずれかを実施する。

質問については、LMS(クラスルーム)で寄せられた質問に随時お応えする形で対応する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	保険法総論(1)	保険制度と保険法保険制度と保険法、保険の分類、保険法の体系
第2回	保険法総論(2)	保険契約の当事者・関係者保険契約の意義・性質、保険契約の当事者・利害関係者
第3回	損害保険契約法・総論(1)―損害保険契約の成立―	損害保険契約の意義、損害保険契約の成立、損害保険契約と告知義務
第4回	損害保険契約法・総論(2)―損害保険契約の内容①―	損害保険契約における保険事故、保険期間、保険料の性質、損害保険契約の基本構造
第5回	損害保険契約法・総論(3)―損害保険契約の内容②―	保険金額と保険価額、全部保険と一部保険・超過保険、重複保険
第6回	損害保険契約法・総論(4)―損害保険契約の効果とその変動―	損害保険契約における保険者の権利義務、保険契約者等の権利義務、損害保険契約関係の変動
第7回	損害保険契約法・総論(5)―損害保険契約と保険給付―	損害てん補義務とその要件、保険者免責、損害発生の通知義務等、保険給付の履行、保険代位
第8回	損害保険契約法・総論(6)―損害保険契約の終了・損害保険債権の処分と保険担保―	保険契約者による保険契約の解除等、告知義務違反による保険契約の解
第9回	損害保険契約法・各論(1)―火災保険契約及び責任保険契約	損害保険契約各論としての火災保険契約、責任保険契約
第10回	損害保険契約法・各論(2)―自動車保険契約及び運送保険契約	損害保険契約各論としての自動車保険（自賠責保険・任意自動車保険）
第11回	生命保険契約法(1)―生命保険契約の成立・効力―	生命保険契約の成立、保険料と保険者の責任、他人の生命の保険、保険給付請求権の消滅時効
第12回	生命保険契約法(2) ―生命保険契約の給付・終了―	第三者のためにする生命保険契約、保険金受取人の指定・変更、保険金受取人の死亡、保険金受取人の介入権、生命保険契約と保険者免責
第13回	傷害疾病保険契約法(1)―傷害保険契約・疾病保険契約の意義・内容―	傷害保険契約と偶然性要件、傷害保険契約と外来性要件
第14回	傷害疾病保険契約法(2)―傷害・疾病保険契約に特有の重要問題―	疾病保険契約の意義、責任開始期前発病不担保条項、所得補償保険

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
配布資料、およびテキストの該当箇所をよく読んで予習・復習をすること。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
潘阿憲『保険法〔第2版〕』（中央経済社、2018年）

【参考書】
【参考書 /References】
参考書（教科書としての指定はしていないが講義の補足で使用することが学習上望ましいもの）
・山下友信・洲崎博史編『保険法判例百選』有斐閣、2010年
＊そのほか最新の重要な裁判例等については、ポータルサイト上で適宜紹介する。
・六法(判例・解説付ではないもの)
（講義を聴く際には、判例・解説付でも構わないが試験等に持ち込むことが認められていないため）※メディアスクーリング試験では六法の持ち込みも不可です
▼　その他の参考文献の紹介
≪保険法・海商法の両方に関するもの≫
・山野嘉朗・山田泰彦著『現代保険・海商法30講〔第9版〕』中央経済社、2013年
・江頭憲治郎『商取引法〔第9版〕』 弘文堂、2022年
≪保険法のみに関するもの≫
＊新法対応済み
・甘利公人・福田弥夫『ポイントレクチャー保険法〔第3版〕』有斐閣、2020年
・石山卓磨編著『現代保険法〔第２版〕』成文堂、2011年
・金澤理『保険法』成文堂、2018年
・山下友信ほか著『保険法〔第４版〕』有斐閣アルマ、2019年
・岡田豊基『現代保険法〔第２版〕』中央経済社、2017年
・山下友信『保険法（上）』有斐閣、2017年
・山下友信『保険法（下）』有斐閣、2022年
・保険法の実務と理論研究会編『保険法の実務と理論Q＆A』（保険毎日新聞社、2023年）
＊旧商法にのみ対応
・倉沢康一郎『保険法通論』三嶺書房、1982年
・大森忠夫『保険法〔改訂版〕』有斐閣、1985年
・西島梅治『保険法〔第３版〕』悠々社、1998年
・金澤理『保険法上〔改訂版〕』成文堂、2001年
・中西正明『生命保険法入門』 有斐閣、2006年
・山下友信『保険法』有斐閣、2005年
≪海商法のみに関するもの≫
・戸田修三『海商法〔第5版〕』文眞堂、1995年
・重田晴生編著『海商法』青林書院、1994年
・中村真澄・箱井崇史『海商法』成文堂、2010年
・箱井崇史『基本講義・現代海商法〔第４版〕』成文堂、2021年
・小林登『新海商法〔増補版〕』信山社、2022年

≪判例解説等の参考書≫
・鴻常夫ほか編『商法（保険・海商）判例百選（第２版)』有斐閣、1993年
・鴻常夫ほか編『損害保険判例百選〔第２版〕』有斐閣、1996年
・鴻常夫ほか編『生命保険判例百選〔増補版〕』有斐閣、1988年
・山下友信・洲崎博史編『保険法判例百選』有斐閣、2010年
・山下友信・神田秀樹編『商法判例集〔第４版〕』有斐閣、2010年
＊判例については、上記参考文献に掲載されていない最新の判例も次々に出されている。それらは授業の中の各該当箇所で指示するが、基本的にはレジュメの中に反映させる。

【成績評価の方法と基準】
中間リポート（1回／30％）およびメディアスクーリング試験（70%）によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【Outline (in English)】
【Course outline】Understanding Principal of Insurance Law and Maritime &Aviation Law
【Learning Objectives】This course consists of 14 lectures, with the main focus being to provide a basic and systematic understanding of the insurance law's various systems, contents, and functions, and to enable students to tackle applied problems in real society in the future. The goal is to improve the ability to analyze cases and develop interpretive theories. It is difficult to achieve the above goals by simply explaining insurance law textbooks, so each lecture uses specific cases to explain how the insurance law system is actually operated. Connect various insurance law systems with real social problems, from the viewpoints of whether there is a problem with the system, whether it corresponds to the reality of society, and if there is a problem, how to solve and overcome it.
【Learning activities outside of classroom】 Carefully read the distributed materials and the relevant sections of the text for preparation and review. The standard preparation and review time for this class is two hours each.
【Grading Criteria /Policy】Evaluated by mid-term report (once/30%) and media schooling exam (70%).

SOC300TB（社会学 / Sociology 300）

労使関係論【Ⅱ】（前期メディア）

細川　良

カテゴリー：**前期メディア**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**前期**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「労使関係」とは、一般に一人一人の労働者個人と使用者（企業）との間の関係ではなく、労働組合などの労働者の集団と使用者（企業）あるいは使用者団体との間の関係（集団的労使関係）のことを指します。もっとも、一口に労使関係（集団的労使関係）といっても、その実態は国によって大きく異なります。そして、労使関係の実態は、その国における雇用をめぐるシステムがどのようなものか、ということに大きく左右されます。実際、日本における労使関係（集団的労使関係）の実態や特徴は、それを支えてきたいわゆる「日本的雇用慣行」、およびそれを踏まえた雇用に関する法制度とも深い結びつきがあります。そこで、本講義では、まず前半で、前提としての日本における雇用システムの特徴と、それを基礎として形成された雇用に関する法制度について考えます。後半では、前半で検討した雇用システムを踏まえつつ、日本における集団的労使関係と、それを支える法制度について考えてみたいと思います。

【到達目標】

多くの学生の皆さんは、将来、就職して労働に関わる領域で生きていくことになるでしょう。本科目を受講した学生は、こうした労働に関わる労使関係、労働組合、労働法に関してさまざまな知識と関心を得ることが期待されます。
日本の雇用制度や労使関係が、従来の仕組みから変化しつつあることは、多かれ少なかれ共通認識であると思います。そこで本講義では、「日本型雇用システム」において形成されてきた労働関係と労働法の仕組みを理解し、それらがどのような課題に直面しているのかを学ぶことを通じて、こうした仕組みを、今後どのように変えていく必要があるのか（変えるべきではないのか）、自分なりの答えを見つけてほしいと思います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP2,DP3,DP5」「日本文学科：DP1,DP2」「史学科：DP1」「地理学科：DP1,DP2,DP3」「経済学科：DP4,DP5」「商業学科：自由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

【授業の進め方と方法】

本講義では、「授業の概要と目的」で述べたことについて、逐次検討していきたいと思います。具体的には、①日本における雇用システムとそれを基礎とした法制度について、基本的な理解を進めたうえで、②日本における労使関係の実態や特徴と、③日本における（集団的）労使関係に関する法制度を学び、④これらを通じて、日本の雇用システムや労使関係が抱える課題や今後のあり方を考えたいと思います。
講義の形態としては、通常の講義方式を予定しています。
中間課題に対しては、①採点もしくは個別評価・添削、②全体講評、③模範解答や優秀リポート等の掲示、のうちいずれかを実施します。授業内容についての質問や、課題について気になる点があれば、積極的に提示してください。適宜、フィードバック等の補足を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	本講義の目的、労使関係を学ぶ意義、労使関係や労働法が形成されてきた歴史について説明します。
2	日本的雇用慣行の特徴と労働法・労使関係	日本の労使関係や労働法は、いわゆる「日本的雇用慣行」と深く結びつく形で発展してきました。この回では、日本的雇用慣行とはいかなるものか、という点を踏まえつつ、日本の労使関係や労働法の特徴について考えます。
3	解雇をめぐる法システム－「日本では解雇は難しい」とは本当か？	日本的雇用システムの特徴として、「解雇が難しい」という指摘がしばしばなされますが、それは本当でしょうか。日本における解雇をめぐる法制度について、諸外国との比較や、近年の政策動向を踏まえつつ、考えてみたいと思います。
4	採用をめぐる法システム－「新卒一括採用」を前提とした法制度	「新卒一括採用」は、日本の雇用システムの極めて大きな特徴です。この回では、採用に関する法制度と、「新卒一括採用」の持つ意義について考えたいと思います。
5	賃金－日本の賃金制度は今も「年功型賃金」なのか	日本の雇用システムの特徴の一つとして、「年功型賃金」がしばしば挙げられますが、今も日本企業では「年功型賃金」を採用しているといえるのでしょうか。この回では、賃金に関する基本的な法制度とともに、日本における賃金制度について考えたいと思います。
6	労働時間－なぜ日本の労働者は長時間労働になるのか	日本における働き方の問題点として、「長時間労働」の問題がしばしば指摘されます。この回では、労働時間に関する法制度と、長時間労働をめぐる課題について、近年の政策動向を踏まえつつ、考えたいと思います。
7	人事異動－配転・出向・転籍	日本の雇用システムの特徴の一つに、人事異動が頻繁に行われることが挙げられます。この回では、人事異動に関する法制度について、近年の政策動向を踏まえつつ、考えてみたいと思います。
8	労働条件の変更－就業規則の機能	日本の雇用に関する法制度の特徴の一つとして、企業が状況に応じて柔軟に労働条件を変更できることが挙げられます。それを可能としているのが、就業規則に関する法制度です。この回では、日本の企業における就業規則の機能とその法制度について考えます。
9	非典型雇用－労働市場の二重構造をどう解消するか？	日本の雇用システムの特徴の一つとして、「正社員」と「非典型雇用（非正規雇用）」の２つの雇用形態の格差がしばしば指摘されます。ここでは、両者の格差解消に向けた最近の政策を踏まえつつ、「非典型雇用」をめぐる法制度とその課題を考えます。
10	日本における労使関係システムー諸外国との比較から	日本の集団的労使関係は、欧米諸国とは大きく異なっていることがしばしば指摘されます。この回では、これまで学んできた日本の雇用システムの特徴や、諸外国との比較を交えつつ、日本の労使関係システムの特徴を考えたいと思います。
11	労働組合の結成と運営活動－「労働組合」は、誰が何をするのか	労働組合にはだれが入ることができて、どのような活動をしているのか、詳しくは知らない人が少なくないのではないでしょうか。この回では、誰が労働組合に入ることができて、どのような活動をしているのか、考えたいと思います。
12	団体交渉と争議	労働組合の大事な役割は、使用者と「団体交渉」をすることによって、組合員の労働条件を改善することです。この回では、団体交渉とそれが行き詰った時に実施する争議行為に関する法制度について考えたいと思います。

13	労働協約－労使交渉を通じたルールメイキング	団体交渉が無事に妥結した場合、労働組合と使用者は、労働協約を締結し、これを通じて組合員の労働条件を事実上決定します。この回では、この労働協約に関する法制度について考えたいと思います。
14	不当労働行為－労働組合の活動を守るために	使用者は、ときに労働組合の活動を不当に妨害しようとすることがあります。こうした妨害から労働組合を守る制度が不当労働杭制度です。この回では、不当労働行為制度の内容と機能について考えたいと思います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
基本的には講義内容をしっかりと復習し、理解を深めてもらいたいとおもいます。
また、現実社会には労使関係や労働法、それに関連する法制度や法政策が多岐に渡って存在しており、現在も様々な動きが行われています。したがって、労使関係や労働法だけでなく、新聞やニュースなどを通じて、労働に関わるさまざまな事象にも耳を傾けてチェックしていただきたいと思います。
この授業の標準的な予習・復習時間はそれぞれ2時間です。

【テキスト（教科書）】
藤本茂・沼田雅之ほか『ファーストステップ労働法』（エイデル研究所・2020年）（2300円・税別）を使用します。
ただし、科目の性質上、テキストの順番通りに進むわけではない、ということは承知しておいてください。また、講義においてテキストに記載されていない内容を扱うことが一部ありますが、その場合はパワーポイントその他の資料を配布します。

【参考書】
指定はありません。各講義ごとに、必要に応じて参考となる文献資料等を提示します。

【成績評価の方法と基準】
最終成績は基本的に単位試験によって評価されます。（ただし、レポートもきちんと取り組むこと）講義をよく復習し、労使関係をめぐるシステムを理解した上で、テーマについて考えてください。

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【Outline (in English)】
At the end of this course, participants will learn the reality, problems and future prospects by looking directly at the structural change of labor relations relations.
It is expected that the students taking this course will have a variety of knowledge and interests in industrial relations, labor unions, and labor law. However, there is no doubt that many of our students will live in the world of employment in the future. Furthermore, I believe there is a common understanding, to a greater or lesser extent, that the employment system and labor-management relations in Japan are undergoing changes from the traditional mechanisms. Therefore, in this lecture, we will understand the labor relations and labor law mechanisms that have been formed in the "Japanese employment system," and we will also discuss what issues they face and how they need to change in the future. I would like you to find your own answer to the question of whether there is (or whether it should not change).
Basically, you are required to carefully review the lecture content and try to solidify your understanding.
However, labor-management relations, labor laws, and related legal systems and legal policies exist in many ways in real society, and many movements are currently underway. Therefore, I would like you to keep your ears open and check out not only labor-management relations and labor laws, but also various labor-related phenomena through newspapers and news.
The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
Final grades are basically evaluated by a credit exam. (However, be sure to study the reports as well.) Review the lectures thoroughly, understand the system surrounding labor-management relations, and then consider the topic.

LIT200TC（文学 / Literature 200）

日本文芸史Ⅱ（前期メディア）

川鍋　義一

カテゴリー：**前期メディア**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**前期**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日本近現代文学（明治20年頃～昭和40年頃）の歴史を把握する。

【到達目標】
各回の授業では、ある時代を代表する文学者の代表的な作品がいかなる事情のもとに生まれたのかを考察する（具体的には下記「授業計画」を参考にされたい）。
この方法によって、日本近代文学史の大きな流れを把握し、また日本近代文学史と歴史的、社会的背景との連関を有機的に把握できるようにする。
受講生はこの授業の履修によって、日本近代文学史という巨視的観点を習得し、個々の作家、作品についてのより深い理解を得られるであろう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
日本近代文学史を、逍遙・二葉亭の写実主義、浪漫主義、擬古典主義、自然主義（以上明治）、私小説、白樺派、労働文学・プロレタリア文学、モダニズム文学（以上大正）、小林秀雄、転向の問題、無頼派、近代文学派／新日本文学派、第三の新人とそれ以降（以上昭和）という流れで概観していく（漱石・鴎外、芥川を、明治、大正の最後に入れる）。
各回テキストで当該箇所を学習した上で、授業に臨むことを求める。またプリントもテキストなので、全てきちんと読み、理解することを求める。（「関連リンク」にて「配付資料」をダウンロードすること）
さらにプリントにはないものでも、関連すると思われる作品は積極的に読んでほしい。
中間課題に対しては、①採点もしくは個別評価・添削、②全体講評、③模範解答や優秀リポート等の掲示、のうちいずれかを実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	近代文学の始まり	・近代文学とはなにか ・写実主義とはどういうものか ・言文一致体の問題 以上を坪内逍遙『小説神髄』、二葉亭四迷『浮雲』から考察する。
第2回	浪漫主義と擬古典主義	写実主義よりやや後に展開した ・浪漫主義 ・擬古典主義 とはどういうものかを樋口一葉『たけくらべ』などと、尾崎紅葉『金色夜叉』から考察する。
第3回	自然主義	・浪漫主義から自然主義への展開 ・口語体の問題 ・私小説の始まり 以上を、国木田独歩『武蔵野』、島崎藤村『破戒』、田山花袋『蒲団』から考察する。
第4回	私小説	自然主義の日本的展開である私小説について、葛西善蔵「子をつれて」を例に、その意味、その後の歴史的展開を学ぶ。
第5回	夏目漱石	文学史の流れと一定の距離を置いていた夏目漱石の生涯と作品にふれる。近代とは何か、他者とは何かという現代的な課題を『こころ』から読む。
第6回	森鷗外と白樺派	漱石と同じく文学史の潮流から一定の距離を置いていた森鷗外について学ぶ。また、破滅しない私小説のあり方を、時代背景である大正デモクラシーとともに白樺派から学ぶ。この回では日本近代文学の重要な概念である「余計者」について学ぶ。
第7回	文学の革命	プロレタリア文学が「革命の文学」だとすれば、モダニズム文学の一つである新感覚派は「文学の革命」を志すものであった。その新しさと意義について学ぶ。横光利一「蠅」などを読む。
第8回	大正の終焉	大正文学の特異な存在であった芥川龍之介の生涯と作品にふれる。『歯車』を読む。
第9回	昭和初年の状況	昭和初年の三派鼎立の状況について学ぶ。 批評理論の確立者であった小林秀雄『様々なる意匠』を読む
第10回	戦前から戦後へ	。プロレタリア文学壊滅後の文芸復興の状況／転向の状況について学ぶ。中野重治『村の家』。 戦後すぐの無頼派の活躍を学ぶ。坂口安吾「堕落論」、太宰治『人間失格』、それらと対比するために志賀直哉「灰色の月」を読む。
第11回	戦後（１）	戦後文学最初にして最大の論争であった「政治と文学」論争を学ぶ。小林多喜二『党生活者』、平野謙『政治と文学（二）』を読む。
第12回	戦後（２）	梅崎春生『桜島』、野間宏『暗い絵』、荒地派の詩を通じて、戦後文学はどのように始まったのかを学ぶ。
第13回	戦後（３）	第三の新人とそれ以降の文芸思潮はどのようなものであったのかを学ぶ。吉行淳之介『驟雨』、安岡章太郎『宿題』、三島由紀夫『憂国』、大江健三郎『不意の唖』、谷川俊太郎の詩を読む。
第14回	まとめ	三島・大江までの日本近代文学史を概観する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
下記【テキスト】（プリント含む）を精読すること。
本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
奥野健男『日本文学史』（中公新書、および電子書籍kindle版）。
その他毎回使用するプリント。

【参考書】
毎回使用するプリントに記載されている参考文献。

【成績評価の方法と基準】
・中間リポートの提出を前提にメディアスクーリング試験で評価する。中間リポート（50%）メディアスクーリング試験（50%）。
・シラバスに記載されている【授業の概要と目的（何を学ぶか）】と、【到達目標】を受講前に熟読されたい。文学の歴史の流れ、およびそれと社会的背景との関連がこの授業の主要な関心事である。したがって、中間リポート、試験で、その観点を欠いた答案は評価されない。
・中間リポートで、設題に答えていない答案、引用のルールを無視した答案、何を言っているのかわからない答案、字数制限（８～１０割）を無視した答案が時折見られる。このような答案は、再提出となることがある。留意されたい。

【学生の意見等からの気づき】
中間リポートおよび試験では、しっかり設問を読み、設問に答えられたい。

【その他の重要事項】
プリントに一部しか載せられなかった長い作品も、各自入手し、全編読むことが望ましい。

【Outline (in English)】
The aim of this course is to help studets acquire a history of Japanese modern literature.

LIT100TC（文学 / Literature 100）

日本文芸研究特講・近代【日本の私小説を読む】(前期メディア)

梅澤　亜由美

カテゴリー：**前期メディア**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**前期**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
【テーマ】日本独特の小説形式とされる私小説について学ぶ。
この授業では、日本の私小説について勉強します。日本の近代に、19世紀西欧小説の変形として生まれたとされる私小説は、日本独特の小説形式と考えられています。私小説についてこれまで言われてきたこと（否定的評価が多いです）を理解するとともに、実際の私小説を読んでいくことで、私小説に対する理解を深めること（文学史の定説からの解放）を目指してほしいです。

【到達目標】
具体的には、以下の３点が目標となります。
1.実際の私小説について、これまで言われてきたことを理解する。
2.授業でとりあげられた私小説を、実際に読み、自分の考えをもつ。
3.特定の作家、私小説について、これまで言われてきたことと、実際に読んでみての自分の考えをまとめて、レポートや試験などで表現する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP3,DP5」「日本文学科：DP1,DP2」「史学科：DP1」「地理学科：DP1,DP2,DP3」「経済学科：DP4,DP5」「商業学科：自由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

【授業の進め方と方法】
１回目にガイダンスと、これまでの私小説言説（＝私小説についてこれまでいわれてきたこと）について、説明をします。2回目から10回目までは、近代文学史における代表的な作家の私小説をとりあげます。11回めから14回めでは、戦後から現代まで、比較的新しい私小説をとりあげます。1時間に、1人の作家をとりあげ、代表的な私小説について、ポイントを説明していきます。他、授業でとりあげた作家が、作中人物として登場する私小説なども、紹介していきます(私小説を立体的に読む試み)。
これらの授業内容を理解した上で、気に入った私小説のいくつかを実際に自分で読み、これまで言われてきたこととあわせて、自分の考えをもつようにしましょう。
中間課題に対しては、受講者数によって、①採点もしくは個別評価・添削、②全体講評、③模範解答や優秀リポート等の掲示、のうちいずれかを実施します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第01回	私小説と私小説言説について	私小説の定義、先行研究など、基礎知識を学ぶ。
第02回	田山花袋『蒲団』	私小説の祖とされる田山花袋の『蒲団』をとりあげ、基礎知識を学び、そこから読みの可能性を探る。
第03回	近松秋江『疑惑』	平野謙によって「最初の金無垢な私小説」とされた近松秋江の『疑惑』をとりあげ、基礎知識を学び、そこから読みの可能性を探る。
第04回	志賀直哉『和解』	私小説を代表する作家とされる志賀直哉の『和解』をとりあげ、基礎知識を学び、そこから読みの可能性を探る。
第05回	葛西善蔵『子をつれて』	破滅型の代表とされる葛西善蔵の『子をつれて』をとりあげ、基礎知識を学び、そこから読みの可能性を探る。
第06回	嘉村礒多『崖の下』	葛西善蔵の系譜にある嘉村礒多の崖の下』をとりあげ、基礎知識を学び、そこから読みの可能性を探る。
第07回	小林多喜二『党生活者』	プロレタリア文学と私小説として、小林多喜二の『党生活者』をとりあげ、基礎知識を学び、そこから読みの可能性を探る。
第08回	中野重治『村の家』	転向文学の代表とされる中野重治の『村の家』をとりあげ、基礎知識を学び、そこから読みの可能性を探る。
第09回	徳田秋声『仮装人物』	私小説の一つの達成とも言える徳田秋声の『仮装人物』をとりあげ、基礎知識を学び、そこから読みの可能性を探る。
第10回	太宰治『人間失格』	私小説批判の私小説を書いた太宰治の『人間失格』をとりあげ、基礎知識を学び、そこから読みの可能性を探る。
第11回	島尾敏雄『出発は遂に訪れず』	戦後派の私小説として島尾敏雄の『出発は遂に訪れず』をとりあげ、基礎知識を学び、そこから読みの可能性を探る。
第12回	安岡章太郎『悪い仲間』	第三の新人の私小説として安岡章太郎の『悪い仲間』をとりあげ、基礎知識を学び、そこから読みの可能性を探る。
第13回	西村賢太『どうで死ぬ身の一踊り』	現代の私小説として西村賢太の『どうで死ぬ身の一踊り』をとりあげ、基礎知識を学び、そこから読みの可能性を探る。
第14回	リービ英雄『千々にくだけて』	越境作家による私小説としてリービ英雄の『千々にくだけて』をとりあげ、基礎知識を学び、そこから読みの可能性を探る。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
百聞は一見にしかずです。講義でとりあげられている小説は、必ず読みましょう。
・準備学習:講義を聞く前にテキストを読む（120分）
・事後学習:講義で学んだことをもとにテキストを読み返す（120分）

【テキスト（教科書）】
各種文庫本、講義の一回目で手に入りやすい文庫本を紹介しています。

【参考書】
小谷野敦『私小説のすすめ』2009、平凡社新書（入門書）
梅澤亜由美『増補改訂　私小説の技法』2017、勉誠出版（研究書）
私小説研究会編『私小説ハンドブック』2014、勉誠出版（研究ガイド）
井原あや他編『「私」から考える文学史　私小説という視座』2018、勉誠出版（研究書）

【成績評価の方法と基準】
中間リポート(50%）の提出を前提に、リポート試験（50％）の評価とあわせ、総合的に判断します（合計100点満点で60点以上が合格)。目標達成のための判断基準として、講義や文献等で勉強したことと自分で小説テキストを読み考察したこと、これら2点がしっかりそろっていることを重視します。

【学生の意見等からの気づき】
中間リポートの講評方法について、今後、検討したいと思います。

【Outline (in English)】
【Course outline】

This course introduces the watakushi－ shosetsu of Japan. The watakushi－ shosetsu is a unique novel form in Japanese modern times. We learn the study on watakushi－ shosetsu and analyze it about the watakushi－ shosetsu.
【Learning Objectives】
By the end of the course, students should be able to do the following:
· The student will explain the the watakushi－ shosetsu of Japan and major previous studies about it.
· The student will read and think each watakushi－ shosetsu.
· The student will write papers of their thoughts on watakushi－ shosetsu.
【Learning activities outside of classroom】
Preparation：Students read each watakushi－ shosetsu before watching each lecture video.
Reviewing: Students read and think each watakushi－ shosetsu after watching each lecture video.
【Grading Policies】
Your final grade will be calculated according to the following process: Usual performance midterm paper 50%, final paper exam 50%. To pass, students must earn at least 60 points out of 100.

ART200TC（芸術学 / Art studies 200）

日本芸能史(前期メディア)

伊海　孝充

カテゴリー：**前期メディア**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**前期**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日本芸能史において大事な要素である能楽の歴史について、正確な知識と研究の方法を身につけます。

【到達目標】
この講義では、能楽の歴史を学びます。中世に生まれた能楽は、600年間まったく変化しなかったわけではありません。政治的基盤や社会状況の変化の影響を受けながら、為政者や観客の視線を反映しながら、少しずつ変化していったと考えられています。本講義では、能楽の芸質の変化ではなく、それを取り巻く環境（能楽の庇護者や能役者の組織）の変化を理解することに主眼を置いて話していきます。また、本講義は「日本芸能史」なので、各時代の主要芸能も取り上げ、特に能楽との影響関係について言及していきます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
授業は自宅で講義ビデオを見るかたちで進めます。ただし、ただビデオを一通り閲覧すれば良いというわけではありません。分からない箇書や理解しにくい箇書がある場合は、一度ビデオを止め、辞書を引いたり、参考文献を見たりして、自分自身でしっかり咀嚼した上で、先に進むようにしてください。また、権利の制約上、授業内で芸能のビデオを用いていません。授業習った芸能について、自身で映像を探し、実際に見ることも大切です。
中間課題に対しては、①採点もしくは個別評価・添削、②全体講評、③模範解答や優秀リポート等の掲示、のうちいずれかを実施します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	猿楽	猿楽の特徴を文学作品から学びます。
第2回	白拍子	白拍子の特徴を文学作品から学びます。
第3回	田楽	田楽の特徴を文学作品から学びます。
第4回	延年	延年の特徴を文学作品から学びます。
第5回	能・狂言の発生	猿楽能が誕生した背景を芸能史・政治史から学びます。
第6回	観阿弥と世阿弥	観阿弥と世阿弥の功績を作品・伝書から学びます。
第7回	世阿弥以降の能（1）	世阿弥時代以降の能作者と彼らの作品について学びます。
第8回	世阿弥以降の能（2）	世阿弥時代以降～江戸時代までの能楽史を学びます。
第9回	狂言の歴史	「式楽」となった能楽の状況について、幕政と諸藩の状況から学びます。また能役者であったと考えられる写楽について学びます。
第10回	江戸時代の能楽	「式楽」となった能楽の状況について、幕政と諸藩の状況から学びます。
第11回	曲舞の歴史	幸若舞曲と能の関係について学びます。
第12回	人形浄瑠璃と能	人形浄瑠璃の歴史と芸質を理解し、能から受けた影響について学びます。
第13回	歌舞伎と能	歌舞伎の歴史と芸質を理解し、能から受けた影響について学びます。
第14回	近現代の能楽	江戸幕府の瓦解は、能楽に大きな影響を及ぼしました。明治時代から現在の能楽史を概観します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
日本芸能史を通史的にまとめた文献は、とても少なく、「ベスト」のものはありません。自分が興味をもった芸能については、各芸能別にまとめた文献を探し、熟読してください。
本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
指定はありません。

【参考書】
講義中に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
中間リポート30％、リポート試験70％で評価する予定です。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【Outline (in English)】
The instructor will acquire accurate knowledge and research methods on the history of Noh which is an important element in the history of Japanese performing arts.

ART300TC（芸術学 / Art studies 300）

書道史【中国と日本の書の歴史】(前期メディア)

山口　恭子

カテゴリー：**前期メディア**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**前期**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講座では、中国、および日本の「書の歴史」を学びます。また、このことを通じ、広く文字の文化に関する知見を養います。

【到達目標】
・中国、および日本の書芸術の流れと、それに関わる基本的な事項を習得すること。
・とくに、主要な書道史的事項、人物、作品、それらの書道史上の意義等について理解し、説明できるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「法律学科：,DP3,DP5」「日本文学科：DP1,DP2」「史学科：DP1」「地理学科：DP1,DP2,DP3」「経済学科：DP4,DP5」「商業学科：自由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

【授業の進め方と方法】
【授業の進め方と方法】
中国、および日本における書の史的展開について講義します。中国の書道史では漢字の起こりから唐代までを、日本の書道史では飛鳥・奈良時代から近世初期までを中心に取り上げます。書体の発展、書風の変遷、高名な能書や作品、そしてその史的意義といったきわめて基礎的な事項の理解を目標とします。書芸術が長い時間をかけて発展してゆくさまを眺め、その多様な世界をともに味わいたいと思います。
【課題等に対するフィードバック方法】
中間課題に対しては、①採点もしくは個別評価・添削、②全体講評、③模範解答や優秀リポート等の掲示、のうちいずれかを実施します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	中国書道史（1）	文字の誕生と殷・周代の書
第2回	中国書道史（2）	秦代の書
第3回	中国書道史（3）	漢代の書
第4回	中国書道史（4）	三国時代の書
第5回	中国書道史（5）	西晋・東晋の書
第6回	中国書道史（6）	北朝・隋代の書
第7回	中国書道史（7）	唐代の書
第8回	日本書道史（1）	漢字の伝来と飛鳥・奈良時代の書
第9回	日本書道史（2）	平安時代前期の書
第10回	日本書道史（3）	平安時代中期の書
第11回	日本書道史（4）	仮名の書
第12回	日本書道史（5）	平安時代後期の書
第13回	日本書道史（6）	中世の書
第14回	日本書道史（7）	近世初期の書

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
図書館で『書道全集』（平凡社、1974年）、石川九楊『書の宇宙』（二玄社、1996年）といった全集、図版類を見たり、博物館・美術館での展示に足を運ぶなどして、より多くの書にふれて下さい。

【テキスト（教科書）】
玉村霽山編『中国書道史年表』（二玄社、1998年）
名児耶明編『日本書道史年表』（二玄社、1999年）
※『中国書道史年表』が入手できない場合は『日本書道史年表』のみでも可とする。

【参考書】
書学書道史学会編『日本・中国・朝鮮　書道史年表事典』（萱原書房、2005年）
角井博監修『決定版中国書道史』（芸術新聞社、2009年）
名児耶明監修『決定版日本書道史』（芸術新聞社、2009年）
そのほか、講義時に提示します。

【成績評価の方法と基準】
中間リポート（30％）と試験（70％）により総合的に評価します。とくに、中国・日本の書道史の基礎的事項を理解しているか、また、各自の考察を行うことができているかを重視します。

【学生の意見等からの気づき】
本講義をもとにさらに書道史に関する知識・教養が広がるよう、「ディスカッション」等を活用するよううながしたい。また、関連する美術館や博物館の展示について伝えるなど、書に関する情報を発信するよう努めたい。

【Outline (in English)】
This course deals with the history of Chinese and Japanese calligraphy.
The aim of this course is to understand the fundamentals of calligraphy history, such as typefaces, calligraphers, written works.

HIS200TD（史学 / History 200）
西洋史概説【ロシア近代史を中心として】(前期メディア)

草野　佳矢子

カテゴリー：**前期メディア**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**前期**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
1917年のロシア革命までのロシアの歴史を、西ヨーロッパ諸国のそれとの比較も含めて、国家と社会の関係や、統治制度改革、政治改革をめぐる問題を中心に学習する。
ヨーロッパ史を背景に、帝政崩壊までのロシア史の流れをとらえ、その独自性と共通性について説明できるようになる。ロシア史との比較によって、ヨーロッパ史への視野を広め、理解を深める。

【到達目標】
帝政崩壊までのロシア史の流れ、キエフ・ルーシ、モスクワ・ロシアの特徴、ロシア帝国成立後に関しては各皇帝の治世の概要や主要な事件・改革の内容などについて、西ヨーロッパとの比較も含めて説明できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP3,DP5」「日本文学科：DP1,DP2」「史学科：DP2,DP3」「地理学科：DP1,DP2,DP3」「経済学科：DP4,DP5」「商業学科：自由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

【授業の進め方と方法】
添付資料（レジュメ）にそって講義します。
中間課題に対するフィードバックとしては、①全体講評、②模範解答や優秀リポート等の掲示、のうちいずれかを実施します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	ロシア帝国成立前のロシア①	キエフ・ルーシからモスクワ・ロシアへ
第2回	ロシア帝国成立前のロシア②	モスクワ・ロシアの特徴
第3回	ピョートル大帝の西欧化政策	西欧化の開始、大北方戦争、統治理念の西欧化、中央・地方の行政制度改革、社会の再編
第4回	女帝たちの時代	エカチェリーナ1世～ピョートル3世の治世、ピョートル体制の修正
第5回	エカチェリーナ２世の統治	エカチェリーナの啓蒙思想、プガチョフの乱、地方行政改革、貴族・都市への恵与状、農奴制の強化、パーヴェル1世
第6回	アレクサンドル１世とニコライ1世	秘密委員会、スペランスキーの改革案、省制の導入、ポーランド憲法とロシア憲法案、デカブリストの乱、官僚制の整備
第7回	アレクサンドル2世と大改革①	大改革の前提、農奴解放，ゼムストヴォ制度の導入
第8回	アレクサンドル2世と大改革②	都市自治制度、地方官僚制の整備、司法制度改革、軍制改革、教育制度改革
第9回	革命運動と政治改革の試み	農奴解放後の革命運動の展開、大改革期の政治改革の試み、ロリス＝メリコフの改革案
第10回	アレクサンドル3世時代のロシア①	専制体制の安定化、農民統治制度改革
第11回	アレクサンドル3世時代のロシア②	地方自治制度改革、ヴィッテ蔵相の工業化政策とその影響
第12回	ニコライ2世の治世－1894～1904年	19世紀末～20世紀初頭のロシア社会、労働者対策、農業・農民問題、「自由主義者の春」
第13回	第一次ロシア革命	血の日曜日事件、政治改革の開始
第14回	帝政ロシアの崩壊	「1906年立憲体制」の成立、ストルイピン改革、第一次世界大戦とロシア

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各回の授業前に前回の内容をよく復習すること。参考文献の関連する部分を読み、理解を深めることが望ましい。
本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特定の教科書は使用しません。

【参考書】
『世界歴史体系　ロシア史１、２、３』山川出版社、1997
『ロシア史　上』『ロシア史　下』（YAMAKAWA SELECTION）山川出版社、2023
藤本・松原編『ロシア近現代史』ミネルヴァ書房、1999
マルク・ラエフ『ロシア史を読む』名古屋大学出版会、2001
栗生沢猛夫『図説　ロシアの歴史』河出書房新社、2010
和田春樹『ヒストリカル・ガイド　ロシア』山川出版社、2001
『新版　ロシアを知る事典』平凡社、2004

【成績評価の方法と基準】
中間リポート　30％
メディアスクーリング試験　70％

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【Outline (in English)】
The teacher will give lectures on Russian history to 1917, especially　on relationship between Russian state and society, administrative and political reforms.
The goal for this class is to master the basic knowledge of Russian history to 1917　and get more understanding of European history.

HIS200TD（史学 / History 200）

東洋史概説【中国古代史】(前期メディア)

宇都宮　美生

カテゴリー：**前期メディア**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**前期**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
・中国古代史を議論するために不可欠な研究上の問題を考える。
・中国各地の開発は著しく、それに伴い考古学の成果が続々と出ているが、遺跡を取り巻く人文・自然環境についても最新の情報を学習する。
・図や写真を多く利用し、歴史をより深く理解する。
・古代という枠にとらわれることなく、政治・経済・社会・文化などにわたる幅広い歴史知識を得ることによって、現代社会の問題を見る眼を養い、未来を展望する見識を身につける。

【到達目標】
・中国史の流れをつかみ、史実を生み出した要因と背景、それによる影響と発展、さらには周辺地域との相互影響と国際関係について理解する。
・具体的事例を通して、文献史料だけでなく文物・遺構・古地図などを併用した研究の方法、分析および考察について実践的テクニックを身につける。
・レポートを通して、自分の意見を論理化・体系化して相手に伝え、かつ相手の意見を理解するコミュニケーション能力を備える。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP3,DP5」「日本文学科：DP1,DP2」「史学科：DP1,DP3」「地理学科：DP1」「経済学科：DP4,DP5」「商業学科：自由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

【授業の進め方と方法】
授業ではパワーポイントで概要を説明するので、各自ノートあるいは配布資料に必要事項を記入し、説明を記録する。文献・地図・写真・絵・表などの資料を多用し、その活用の仕方を学ぶ。中間レポート（40%、添削あるいは評価でフィードバックする）と期末レポート(60％）により成績を評価する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	中国新石器時代	中国新石器文化の特質と多元的文明発生
第2回	二里頭と殷	二里頭文化から殷へ
第3回	殷	殷青銅器文化
第4回	周と三星堆	周封建制と四川三星堆文化
第5回	春秋戦国時代１	春秋戦国の都市国家と地域１
第6回	春秋戦国時代２	春秋戦国の都市国家と地域２
第7回	秦１	秦の統一
第8回	秦２	秦の兵馬俑と簡牘研究
第9回	前漢１	前漢成立時の諸問題
第10回	前漢２	漢長安と皇帝陵
第11回	前漢３	漢武帝の為政と対外政策
第12回	匈奴	匈奴帝国の変遷と中国王朝
第13回	南越と新	南越の興亡と王莽の改革
第14回	後漢	後漢の豪族社会と洛陽

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
事前に参考文献を読んでおく。授業内で質疑応答により確認をし、理解度を高める。授業後は、各自参考書等により補足する。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特になし。

【参考書】
・『図説中国文明史』シリーズ（先史・殷周・春秋戦国・秦漢)、創元社、2005年
・冨谷至・森田憲司編『概説中国史・上』昭和堂、2016年
・愛宕元・冨谷至編『中国の歴史・上』昭和堂、2005年
・尾形勇・平勢隆郎『世界の歴史：中華文明の誕生』中央公論社、1998年
購入できない本もあるが、古本屋で購入するか、図書館などで参照してほしい。

【成績評価の方法と基準】
中間レポート（40%、添削あるいは評価でフィードバックする）と期末レポート(60％）

【学生の意見等からの気づき】
受講したのにレポートを出さない方がいるが、各回で学習した内容をまとめるだけなので、がんばってレポートを書いてほしい。また、中間レポートだけ提出して期末レポートを放棄する人がいるが、最後まで努力してほしい。
提出されたレポートの中に、白紙、途中までの文章、他の科目のレポートがあるので、レポート提出時には確認してほしい。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【その他の重要事項】
手を動かして書き留めることで理解が深まるため、写真・動画撮影を禁止し、事前に配布したプリントに必要事項を書いてください。写真や動画だけですと、その場限りの理解となりますし、膨大な量になってレポートを書くのが大変になります。図や絵などはご自身で手書きにするとより一層理解が深まります。補足として『図説中国文明史』やその他の参考文献を参照されると効果的です。複数の地域の文化を比較するためには、一つの年表に地域ごとに分けて書き込んで見直すと理解しやすくなります。「聞くだけ」「見るだけ」の参加ではなく、能動的積極的な学習をお願いします。
質問の書き方についてはメディアスクーリング受講システムのお知らせを理解した上で、提出してください。
レポート提出前に、減点されないための注意点をメール等で通知するので、事前に目を通してから提出してください。

【Outline (in English)】
Outline and objectives:　This course introduces an understanding of Chinese history (from Neolithic to Han Periods) in respect to international relations with other areas.　The aim of this course is to help students acquire historical changes in politics, economy, organization, military affairs, agriculture, culture and diplomacy.
Learning Objectives: The goal of this course is to understand the flow of Chinese history, the factors and backgrounds that created the historical facts, their influence and development, and the mutual influence and international relations with the surrounding areas.
Learning activities outside of classroom:　Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Grading Criteria/Policies: Your overall grade in the class will be decided based on Mid-term report (50%) and term-end report (50%).

HUG300TE（人文地理学 / Human geography 300）

歴史地理学【Ⅰ】(前期メディア)

米家　志乃布

カテゴリー：**前期メディア**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**前期**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、日本の様々な地域や景観を事例として、歴史地理学の基本的な考え方を学びます。

【到達目標】
地域の個性や景観の歴史を読み解く「歴史地理学的考え方」ができるようになることを目標とします。受講生のみなさんが経験する日常の風景や旅先の風景にも、つねに歴史地理的な意味があることを理解できるようになれれば、と思います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP3,DP5」「日本文学科：DP1,DP2」「史学科：DP1」「地理学科：DP1」「経済学科：DP4,DP5」「商業学科：自由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

【授業の進め方と方法】
春学期（1）の講義では、主に日本の歴史的都市や地域の具体的事例と日本における歴史地理的な都市計画や制度・思想を中心に取り上げます。中間のリポート課題に対しては、①採点もしくは個別評価・添削、②全体講評、③模範解答や優秀レポート等の掲示、のいずれかを実施します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	歴史地理学とは？（導入）	本授業全体の概要　地理学の一分野としての歴史地理学
第2回	都城の歴史地理	奈良（平城京）を中心に考える 現在の景観に残る条坊制
第3回	京都の歴史地理	平安京の空間構造　豊臣秀吉による都市改造　近代以降の京都
第4回	城下町の歴史地理	城と城下町の関係　城下町プラン　天守閣
第5回	江戸東京の歴史地理	古地図・鳥瞰図からみる江戸東京
第6回	大阪の歴史地理	難波京から大坂へ　近世大坂 近代大阪
第7回	港町の歴史地理	北海道の港町 北前船文化
第8回	札幌の歴史地理	近代札幌の都市計画と風景
第9回	蝦夷地/北海道の歴史地理	紀行文・地誌 松浦武四郎と蝦夷地/北海道
第10回	盛り場の歴史地理	江戸・東京の盛り場
第11回	京・江戸の名所	江戸時代の名所 京都の名所空間 江戸の都市景観
第12回	近代東京の名所	明治・大正の東京名所 昭和戦前期の東京名所
第13回	地域の歴史と遺産	文化財保存法 地域と遺産
第14回	日本における歴史的景観保存	重要伝統的建造物保存地区 文化的景観の歴史地理

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・学習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に指定しません。

【参考書】
講義担当者の研究論文集として、米家志乃布『近世蝦夷地の地域情報- 日本北方地図史再考』法政大学出版局、2021年などがあります。その他、多くの文献や史料を参考にしますので、各回の授業内で適宜紹介いたします。

【成績評価の方法と基準】
中間リポート（30％）、メディアスクーリング試験（70％）

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【Outline (in English)】
【Course outline】 This lecture examines a historical geography of Japan. 【Learning Objectives】 The goals of this course are to learn, understand, and practice about historical geography of Japan.
【Learning activities outside of classroom】Your study time will be more than four hours for class.
【Grading Criteria】Mid-term report (30%) and term-exam (70%).

GEO100TE（地理学 / Geography 100）

自然地理学概論(２)(前期メディア)

小寺　浩二

カテゴリー：**前期メディア**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**前期**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地理学の重要な一分野である自然地理学の基礎を学び、地域における人間活動の舞台として自然環境を捉え、その分析を通して人間・社会と自然環境との相互関係について学ぶ。また、自然災害や環境問題における応用学としての自然地理学の役割の大きさについても理解を深める。

【到達目標】

地球の成り立ち・構造・歴史・自然災害から地球規模の環境変化の事例、人間活動の影響まで、幅広く様々なテーマを取り上げて講義すると同時に、それらに対するレポート作成によって、より深く問題を掘り下げる能力と習慣を育成する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP3,DP5」「日本文学科：DP1,DP2」「史学科：DP1」「地理学科：DP1」「経済学科：DP4,DP5」「商業学科：自由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

【授業の進め方と方法】

人間活動の舞台である地球表面の自然環境を構成する要素は、大きく岩圏、気圏、水圏及び生物圏にわけられる。それぞれ内部に独自の仕組みを持ち、さらに相互作用を及ぼしあっている多様で複雑なシステムである。自然地理学は、このような自然環境のシステムに対応した地形学、気候学、水文学（陸水学）、植生地理学などの多様な分野から構成されており、自然環境を理解するための広範な視野と学問的な基礎力を身につけることができる。講義では、様々な資料をもとに、概論を論じ、さらに深く学ぶための文献なども提示する。その上で、３段階の課題に取り組み、ただ、教科書的な内容を学ぶだけでなく、関連資料を収集、整理、解析し、独自のテーマに沿って、オリジナリティのある小論文を作成する技量も養う。
中間課題に対しては、①採点もしくは個別評価・添削、②全体講評、③模範解答や優秀リポート等の掲示、のうちいずれかを実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり /Yes

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	地理学と自然地理学	1）地理学とは？ 2）自然地理学とは？ 3）講義の構成と課題
第2回	地球惑星科学としての（自然）地理学	1）地球惑星科学とは？ 2）惑星探査の歴史 3）惑星としての地球
第3回	気候①＜大気大循環と気候因子＞	1）地球の熱収支 2）大気大循環 3）気候要素 4）気候因子
第4回	気候②＜世界の気候区分と気候変動＞	1）世界の気候区分 2）気候の変化・変動
第5回	気候③＜日本の気候と局地気候＞	1）日本の気候の特色 2）日本の気候区分 3）局地循環と地域の気候 4）局地風 5）都市気候
第6回	地形①＜世界と日本の大地形＞	1）世界の大地形とプレートテクトニクス 2）日本の地質 3）日本の造山運動と地形の特色 4）火山の分布と成因
第7回	地形②＜第四紀と山地の地形＞	1）第四紀 2）氷河時代 3）氷河地形と周氷河地形 4）山地と丘陵地 5）変動地形 6）河谷と水系
第8回	地形③＜平野と海岸の地形＞	1）平野と海岸 2）台地と扇状地 3）沖積低地の微地形 4）平野の開発と改変
第9回	水文①＜水循環と流域＞	1）水循環と水収支 2）流域の水循環と物質循環 3）河川学の基礎
第10回	水文②＜地下水と湖沼＞	1）地下水学の基礎 2）湖沼学の基礎
第11回	水文③＜雪氷と海洋＞	1）雪氷学の基礎 2）海洋学の基礎
第12回	植生＜植生分布・景観・文化＞	1）世界の植生分布 2）日本の植生分布 3）原植生の衰退 4）日本の植生景観 5）森林と文化
第13回	自然災害と地理学の応用	1）自然災害とは？ 2）地震災害 3）洪水・高潮災害 4）火山災害
第14回	環境問題と地理学の応用・まとめ	1）身近な環境問題 2）地球規模の環境問題 3）自然地理学の応用 4）まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキスト・参考書の内容は多岐にわたるが、全てをまんべんなく学ぶ必要がある。その上で、メディア授業の内容についても深く理解し、設題で示されたいくつかの課題の中から具体的なテーマを選び、対象地域を選定してより深く学習する。

毎回の講義に対しては、予習復習を確実に行い（４時間が目安）、中間レポート、最終レポートには、十分な時間をかけて臨んでほしい。

【テキスト（教科書）】

小寺浩二(2020）：『自然地理学概論（１）』.法政大学通信教育部,

【参考書】

・高橋日出男・小泉武栄編著（2008）：『自然地理学概論』（地理学基礎シリーズ２）、朝倉書店、￥3,300+税
・杉谷隆・平井幸弘・松本淳（2005）：『風景のなかの自然地理（改訂版）』、古今書院、￥2,500+税

【成績評価の方法と基準】

テキスト、参考書とメディア授業の学習を踏まえて、設題に取り組み(中間リポート1回)、その結果に対する指導によって具体的な課題への取り組み方を学習した上で、最終リポートを提出し、それらを総合して成績評価する。

【学生の意見等からの気づき】

講義毎に示してある課題に毎回取り組み、中間リポートで途中経過をまとめた上で、最終リポートに取り組んでいただきたい。また、中間リポートの評価に当たっては、模範リポートとコメントを示すので、必ず参照して次のリポートの参考とするように。

【学生が準備すべき機器他】

基本的には、課題はパソコンを使って形式に従って作成する必要があるため、最低限のパソコンと、Officeソフトは用意しておかなければ成りません。また、課題の質を向上させるためには、ある程度のGIS活用も求められるため、MANDARAやQ-GISなどのフリーソフトはインストールして使えるようにしておいて下さい。

【その他の重要事項】
メディアスクーリングでは、中間レポートや最終レポートの提出時期が重なるため（通学でも同じではありますが)、余り多くの科目を同時履修することはさけることが好ましい。やむを得ない場合は、期限に余裕をもってレポートに取り組むなど、計画的な履修をしていただきたい。

【Outline (in English)】
Learning the fundamentals of natural geography, which is an important area of geography, capturing the natural environment as a stage of human activities in the area, and learning about the relationship between human beings and society and the natural environment through analysis. Also understand the magnitude of the role of natural geography as applied science in natural disasters and environmental problems.

GEO200TE（地理学 / Geography 200）

地学概論【Ⅰ】(前期メディア)

宍倉　正展

カテゴリー：**前期メディア**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**前期**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「地学」は地球とそれを構成する岩石圏、気圏、水圏を対象とする自然科学の総称であり、学校教育においては天文分野も含まれる。本講義では宇宙や地球の構造と構成物質、地球に働く力やプレート運動とそれに付随して起こる地震や火山活動のメカニズムと諸現象について学び、地学の基礎について習得する。

【到達目標】
我々が住む地球がどのように生まれ、どのように構成されているのか、また潮汐や磁場のような地球規模の現象、プレートテクトニクス理論とそれに関連した地震や火山噴火など、地球にまつわる様々な事象を理解することを目標とする。また普段から地学に関連したニュースや科学番組に接し、教科書の範囲を超えた科学の最新事情を知る姿勢を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP3,DP5」「日本文学科：DP1,DP2」「史学科：DP1」「地理学科：DP1」「経済学科：DP4,DP5」「商業学科：自由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

【授業の進め方と方法】
宇宙から始まり、地球の構造と構成物質、地球内部から働く営力としてプレートテクトニクスとそれに付随する地震、地殻変動、火山活動について紹介していく。秋学期（2）では地球表層で起こる様々な事象を取り上げ、生命の歴史から気候変動、自然災害等について説明する。中間課題に対しては、①採点もしくは個別評価・添削、②全体講評、③模範解答や優秀リポート等の掲示、のうちいずれかを実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	本講義の概略をダイジェストで紹介し,地学を学ぶ意義について説明する。
第2回	宇宙	宇宙の構造や広がり、ビッグバンから始まる宇宙の成因などについて説明する。
第3回	太陽系と地球	太陽系の成因、地球のでき方について、他の惑星と比較しながら説明する。
第4回	地球の構造	地球の形と大きさ、内部の構造とそれらをどのように測るか説明する。
第5回	地球に働く力	地球に働く磁場や重力，潮汐力について、そのしくみや地層に残された記録について説明する。
第6回	プレートテクトニクス1	プレートテクトニクスの概念とメカニズムについて説明する。
第7回	プレートテクトニクス2	プレートテクトニクス理論の歴史について、日本における受容と拒絶を中心に説明する。
第8回	地震1	地震の種類、震度とマグニチュードの違いなど、地震の基礎について説明する。
第9回	地震2	地震のメカニズムを様々な観測データとともに説明する。
第10回	地震3	地震予測の情報に関する説明を行う。
第11回	地殻変動1	緩急様々な地殻の動きとそれを観測する方法について説明する。
第12回	地殻変動2	地形や地層，生物化石の痕跡から復元された過去の地殻変動について説明する。
第13回	火山1	火山の種類や噴出物、噴火メカニズムなどについて説明する。
第14回	火山2	破局的噴火と広域火山灰について説明する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
普段から宇宙や地球，地震，火山に関する最近の話題を新聞、雑誌、インターネットなど媒体を問わず各自で情報収集し、リポート作成等に役立てる。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
テキストは特に定めない。

【参考書】
「改訂版　視覚でとらえるフォトサイエンス地学図録」数研出版
https://www.chart.co.jp/goods/item/rika/35056.php
泊 次郎「プレートテクトニクスの拒絶と受容　戦後日本の地球科学史」東京大学出版会
http://www.utp.or.jp/bd/978-4-13-060307-2.html
宍倉正展「巨大地震をほり起こす」少年写真新聞社
http://www.schoolpress.co.jp/s-293/
大木聖子「地球の声に耳をすませて」くもん出版
http://kumonshuppan.com/ehon/ehon-syousai/?code=34518

【成績評価の方法と基準】
中間リポート（30％）
メディアスクーリング試験（70％）

【学生の意見等からの気づき】
リポート作成において文献を検索する方法の質問があったので，出題時にインストラクションを加えることとする.

【Outline (in English)】
Geoscience is generally known as a natural science covering the earth and its lithosphere, atmosphere, and hydrosphere, including astronomy in the case of school education. In this course, students learn about the basis of geosciences such as the universe, the structure and component materials of the earth, the external and internal forces acting on the earth, plate tectonics, and the various phenomena and mechanisms of earthquakes and volcanic activities.

GEO300TE（地理学 / Geography 300）

自然地理学(地形)【Ⅰ】(前期メディア)

前杢　英明

カテゴリー：**前期メディア**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**前期**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
自然地理学に関連する諸分野のうち、地形学に関する基本的な知識、考え方、研究成果等について、体系的に解説する。地形形成過程について理解することにより、土砂災害や地震災害などについてその本質を理解することができ、地域防災のリーダー的役割を担えるようになる。

【到達目標】
いつも漫然と見ていたなんでもない地形が、本授業を受講することにより、ダイナミックな地形形成過程を、風景の背後に想像できるようになること、また地形・地質学的タイムスケールで考えられるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP3,DP5」「日本文学科：DP1,DP2」「史学科：DP1」「地理学科：DP1」「経済学科：DP4,DP5」「商業学科：自由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

【授業の進め方と方法】
地形とは何かについて地球規模で確認することからはじめ、地形を形成する作用ごとに、地形形成の実例を紹介していく。春学期（1）では主に「外作用」とよばれる太陽の放射エネルギーを源とした地形形成作用について取り上げる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	地形と生活（導入）	本授業全体の概要。地形と我々の暮らし。地形学と自然地理学の関係
第2回	地形形成に関する序説	地球の構造、地球規模での地形の意味、地形のスケール、地形の発達、地形を変化させるエネルギー
第3回	風化作用	風化作用と地形形成における意味
第4回	マス・ムーブメントと斜面	さまざまな集塊移動のメカニズムについて。斜面の基本分類。
第5回	河川による作用	河川の形成、侵食・運搬・堆積作用の基本
第6回	河川地形	侵食作用、堆積作用によって形成される地形
第7回	海岸における作用	波の種類。波の作用、沿岸流など海岸で地形を変化させる作用
第8回	海岸地形	海岸でのさまざまな堆積地形､侵食地形について
第9回	風がつくる地形	風の作用と地形、乾燥地形
第10回	周氷河作用と地形	周氷河作用によるさまざまなスケールの地形
第11回	氷河による作用	氷河の形成と流動。氷河が地形を変化させるメカニズム
第12回	氷河地形	氷河が形成するさまざま地形について
第13回	カルスト地形	石灰岩特有のカルスト地形の特徴と形成メカニズム
第14回	人類の活動と地形変化	人類の活動による地形変化についていくつかのケースを事例に解説する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
日本や世界の独特な地形､美しい地形に興味を持ち、参考書、写真集、ＤＶＤ教材等を見ることによって、自ら授業への動機付けを行うこと。質問等は通教LMSを利用すること。
本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
使用しない

【参考書】
『地形学入門』A.L.ブルーム、榧根　勇訳、1970年
『写真と図で見る地形学』（復刻版）太田陽子ほか、東京大学出版会、2007年
『発達史地形学』貝塚爽平、東京大学出版会、1998年
『日本列島の地形学』太田陽子ほか、東京大学出版会、2010年
『東京の自然史』貝塚爽平、講談社学術文庫、2011年
『日本の地形』貝塚爽平、岩波新書、1977年
『建設技術者のための地形図読図入門1～4巻』鈴木隆介、古今書院、1997～
『対話で学ぶ江戸東京・横浜の地形』松田磐余、之潮、2013
『地形学』松倉公憲、朝倉書店、2021

【成績評価の方法と基準】
メディアスクーリング試験（100％）

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【その他の重要事項】
中間リポートはありません

【Outline (in English)】
The aim of this course is to get fundamental knowledge of geomorphology.The goals of this course are to understand land-form processes and to recognize geological time scale.Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.Final grade will be calculated according to the following process Mid-term report (30%) and term-end examination (70%).

GEO300TE（地理学 / Geography 300）

自然地理学(海洋・陸水)【Ⅰ】(前期メディア)

小寺　浩二

カテゴリー：**前期メディア**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**前期**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
水循環を中心とした水文学的な視点を取り入れつつ、地理学の重要な一分野である「海洋・陸水学」の再構築を試み、受講生の系統的な「水」に関する知識の習得をめざす。水資源、水利用、水質汚濁、地下水汚染、親水、洪水など、「水」に関する様々な問題を、身近な水辺からグローバルスケールまでの様々なスケールで扱う。

【到達目標】
海洋陸水学の基礎的な知識と理論についての理解を深めると同時に、具体的なテーマについての研究成果についても学ぶ。また、実際の調査方法に関しても理解し、具体的な課題に取り組んでまとめる力を育成する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP3,DP5」「日本文学科：DP1,DP2」「史学科：DP1」「地理学科：DP1」「経済学科：DP4,DP5」「商業学科：自由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

【授業の進め方と方法】
各回とも、テーマに沿った基礎知識について概要を説明し、具体的なフィールドデータを紹介しながら理解を深める。その上で、調査技術についても紹介し、具体的な課題にも取り組んで、確実な力を育成する。
中間課題に対しては、①採点もしくは個別評価・添削、②全体講評、③模範解答や優秀リポート等の掲示、のうちいずれかを実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	海洋陸水学とは？	陸水学・水文学・講義の構成と課題
第2回	河川学入門	流域の形状・水系網・流況
第3回	地下水学入門	土層の三層構造・不飽和帯・不圧地下水
第4回	湖沼学入門	三つの分類・水温躍層・集水域
第5回	雪氷学入門	雪氷の分布・氷河・南極・グリーンランド
第6回	海洋学入門	海底の地形・プレートテクトニクス・深層海流
第7回	水環境の諸問題①	身近な水環境・湧水・地下水汚染・富栄養化
第8回	河川学の基礎	ハックの法則・ホートンの水系網・流況曲線
第9回	地下水学の基礎	ダルシーの法則・水温の鉛直分布
第10回	湖沼学の基礎	湖盆形態・湖水の物理、化学、生物
第11回	雪氷学の基礎	氷河の流動モデル・降雪、積雪、融雪
第12回	沿岸域・汽水域の水環境	内湾の水環境・大河川下流域
第13回	自然災害と流域圏	津波・洪水・火山災害・流域の人間活動・流域委員会
第14回	水環境の諸問題②・まとめ	地下水汚染・湖沼の酸性化・中性化・緑のダム

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回示してある課題に取り組む。また、調査技術についても可能な限り取り組む。
本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
通教テキスト『自然地理学（海洋・陸水）』第１版、小寺浩二・三井嘉都夫、2019年
通教テキスト『自然地理学概論（１）』第1版、小寺浩二、2020年

【参考書】
毎回の講義資料で提示。

【成績評価の方法と基準】
テキスト、参考書とメディア授業の学習を踏まえて、設題に取り組み (中間リポート 2 回)、具体的な課題への取り組み方を学習した上で、最終リポートを提出し、それらを総合して成績評価する。

【学生の意見等からの気づき】
レポートの内容やその際のコメントを考慮して、昨年度からレポート設題を変更した。具体的には、違うテーマで独立したレポート２本を課していたが、同一テーマで中間レポートを提出した上で最終レポートを提出する形式として、一つのテーマにじっくり取り組めるようにし、より内容の充実したレポートが提出できるように配慮した。

【学生が準備すべき機器他】
毎回の講義で説明した調査機器のうち、自作するものや、安価なものは、出来るだけ用意して、出来るだけ実際の水環境調査を行うこと。

【その他の重要事項】
提示した参考文献は多いが、できる限り参照して理解を深めること。メディアスクーリングでは、中間レポートや最終レポートの提出時期が重なるため（通学でも同じではありますが)、余り多くの科目を同時履修することはさけることが好ましい。やむを得ない場合は、期限に余裕をもってレポートに取り組むなど、計画的な履修をしていただきたい。

【Outline (in English)】
Attempting to reconstruct "Oceanography and limnology" which is an important area of geography while trying to adopt a hydrological viewpoint centered on water circulation, aim to acquire students' knowledge on systematic "water". We deal with various problems concerning "water" such as water resources, water use, water pollution, groundwater contamination, hydrophilic, flood etc. on various scales from familiar water side to global scale.

GEO300TE（地理学 / Geography 300）

地図学【Ⅰ】(前期メディア)

若林　芳樹

カテゴリー：**前期メディア**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**前期**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
デジタル化の進展により、いつでも、どこでも、誰もが自由に地図を使ったり作成に参加したりすることが容易になっている。しかし、適切に地図を作成・利用するためには、地図学の知識と技術をふまえた一定のリテラシーが必要になる。この授業は、地図学の基礎的事項を学ぶことで、身の回りの地図の善し悪しを評価し、自ら地図を作成するための技法を修得することにねらいがある。

【到達目標】
1）地図の基礎的事項を理解した上で、地図表現の善し悪しを評価したり適正に利用したりできるようになる。
2）自分で地図を作成するための知識や技術を習得する。
3）デジタル地図を作成・利活用するためのGISの基礎を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP3,DP5」「日本文学科：DP1,DP2」「史学科：DP1」「地理学科：DP1」「経済学科：DP4,DP5」「商業学科：自由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

【授業の進め方と方法】
前半では、地図の歴史を踏まえて現代の地図の特徴と基礎的事項を学習する。後半では、地図の利用と表現のためのさまざまな概念や方法を学んだ上で、身の回りの地図を収集し、目的に合った表現や内容になっているかどうかを評価する。最後に、この授業で学習した地図学の知識と技術が社会で果たす役割について考える。
中間課題に対しては、①採点もしくは個別評価・添削、②全体講評、③模範解答や優秀リポートの掲示、のうちいずれかを実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	地図の概念、授業計画
第2回	地図の歴史	地図の起源と発達、メディアと伝達様式の変化
第3回	地図の図式と記号	図式と地図記号、地図デザイン
第4回	地図の分類と投影法	基本図、主題図、地図投影法と座標系
第5回	地形図の利用	地形図の読図、図上計測、地図分析
第6回	空間スケールと地図	スケールの意味、メッシュコードの体系、総描
第7回	主題図の表現と利用	土地利用図、統計地図、道案内図、ハザードマップ
第8回	地図の記号化とデザイン	視覚変数、地図記号のデザイン
第9回	地図で嘘をつく方法	地図表現のレトリック、メディアリテラシー
第10回	デジタルマップの時代	地形表現、時間表現、マルチメディア、参加型
第11回	バーチャル地図とメンタルマップ	人間の空間認知と地図
第12回	地図と社会	地図の政治性、地図と文化、地図の力
第13回	地図と地名	地図にとっての地名の役割、地名をめぐる現代的課題
第14回	現代世界の地図事情	地図に表れたお国柄、データ標準化と表現の多様性

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
身の回りの地図を収集し、授業で学んだことをふまえて内容・表現・用途を吟味する。自ら情報を集めて主題図を作成する。

【テキスト（教科書）】
『地図づくりの現在形』（宇根寛著、講談社、2021年）
『デジタル社会の地図の読み方　作り方』（若林芳樹、筑摩書房、2022年）

【参考書】
『地図の歴史　世界篇・日本篇』（織田武雄著、講談社、2018年）、『地図表現ガイドブック』（浮田典良・森　三樹著、ナカニシヤ出版、2004年）、『地図の事典』（日本地図学会監修、朝倉書店、2021年）、『地図の進化論』（若林芳樹著、創元社、2018年）

【成績評価の方法と基準】
小テスト60％、レポート（中間レポートを含む）40％で総合評価

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
インターネット接続可能なパソコン

【Outline (in English)】
Since the end of the 20th century, the widespread availability of information technology has led to the increasing use of digital maps based on geospatial information. This trend has drastically changed the form and function of maps. The aim of this class is to acquire contemporary map literacy by learning the way of making and using a variety of maps. Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Final grade will be calculated according to the following process: mid-term report (60%) and term-end examination (40%).

ECN200TF（経済学 / Economics 200）

金融論A(前期メディア)

武田　浩一

カテゴリー：**前期メディア**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**前期**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この講義では，金融の基本的な仕組みを知り，金融や経済に関する身近な問題を考えるときに金融の基礎理論がいかに役立つかを学ぶ。講義の目的は，初めて金融を学ぶ学生が，まず金融の面白さに触れ，さらに現実の金融問題を理解し自ら考察するために必要となる基本的な考え方の枠組みを身につけることである。

【到達目標】
この講義の最終的な目標は，現実の金融問題を理解し自ら考察するために必要となる基本的な考え方の枠組みを修得することである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP3,DP5」「日本文学科：DP1,DP2」「史学科：DP1」「地理学科：DP1,DP2,DP3」「経済学科：DP1,DP4,DP5」「商業学科：経済学」に関連

【授業の進め方と方法】
金融取引の機能や金融機関の役割，貨幣の意義，日本の金融システムの特徴などについて主に解説する。金融取引は，近年の急速な金融技術革新の進展に伴って国境や伝統的な業態の枠を越えて行われるようになっており，従来からの業態や規制の体系に依拠した枠組みでは的確にその鳥瞰図を描くことが困難になりつつあるが，この講義では，金融の基本的な機能に立ち返って金融システムについて議論することによって，金融市場はどのように機能し，そこで市場参加者はどのように行動しているのか，また市場の変化に金融監督・規制がどのように対応しようとしているのか，などのテーマについて新しい視点から俯瞰してゆく。
中間課題に対しては、システム上で採点を実施し返却する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	はじめの一歩：「金融」とは？	金融とは何か
2	直接金融と間接金融	金融取引において金融機関が果たす役割
3	銀行の機能	銀行の決済機能と信用創造機能
4	日本の金融システムと銀行	日本の金融システムと銀行の特徴
5	協同組織金融機関と証券会社	協同組織金融機関と証券会社の機能
6	保険会社と消費者信用会社	保険会社と消費者信用会社の機能
7	資金循環と金融構造	日本の資金循環と金融構造の特徴
8	貨幣の意義と機能	貨幣の意義・機能と現代の通貨制度
9	決済システム	決済システムの機能
10	貨幣需要	貨幣需要と流動性選好
11	流動性のわなとマネーストック	貨幣需要における流動性のわなと貨幣供給
12	公的金融	日本の公的金融の役割と特徴
13	企業の資金調達	企業の財務状態と資金調達
14	国際金融機関	国際金融機関の意義と役割

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義では先に説明した知識を後の説明のときに使うため，講義で分からないことがあるときには，テキストを活用するなどして十分に復習して，次の講義までに分からないことを持ち越さないように心がけること。
本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
酒井良清・鹿野嘉昭『金融システム』第 4 版（有斐閣，2011年刊，2,200円）

【参考書】
特になし

【成績評価の方法と基準】
成績は試験によって評価する。メディアスクーリング試験（配分90％）だけでなく中間テスト（配分10％）も受講すること。
授業への出席が単位認定の前提条件となる。全てのメディアコンテンツを視聴・学習して小テストを受講した上で中間テストやメディアスクーリング試験を受講すること。

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【Outline (in English)】
This is a course on the economics of money, banking, and financial markets. The course aims to provide the students with an introduction to the role of money, financial markets, financial institutions, and monetary policy in the economy.
Students will be expected to have completed the required assignments after classes. Your study time will be more than four hours for a class. Your overall grade in the class will be decided based on Term-end examination (90%) and Mid-term examinations (10%).

ECN200TG（経済学 / Economics 200）

金融論Ⅰ（前期メディア）

武田　浩一

カテゴリー：**前期メディア**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**前期**
受講可能な学科・学年：
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この講義では，金融の基本的な仕組みを知り，金融や経済に関する身近な問題を考えるときに金融の基礎理論がいかに役立つかを学ぶ。講義の目的は，初めて金融を学ぶ学生が，まず金融の面白さに触れ，さらに現実の金融問題を理解し自ら考察するために必要となる基本的な考え方の枠組みを身につけることである。

【到達目標】
この講義の最終的な目標は，現実の金融問題を理解し自ら考察するために必要となる基本的な考え方の枠組みを修得することである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
金融取引の機能や金融機関の役割，貨幣の意義，日本の金融システムの特徴などについて主に解説する。金融取引は，近年の急速な金融技術革新の進展に伴って国境や伝統的な業態の枠を越えて行われるようになっており，従来からの業態や規制の体系に依拠した枠組みでは的確にその鳥瞰図を描くことが困難になりつつあるが，この講義では，金融の基本的な機能に立ち返って金融システムについて議論することによって，金融市場はどのように機能し，そこで市場参加者はどのように行動しているのか，また市場の変化に金融監督・規制がどのように対応しようとしているのか，などのテーマについて新しい視点から俯瞰してゆく。
中間課題に対しては、システム上で採点を実施し返却する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	はじめの一歩：「金融」とは？	金融とは何か
2	直接金融と間接金融	金融取引において金融機関が果たす役割
3	銀行の機能	銀行の決済機能と信用創造機能
4	日本の金融システムと銀行	日本の金融システムと銀行の特徴
5	協同組織金融機関と証券会社	協同組織金融機関と証券会社の機能
6	保険会社と消費者信用会社	保険会社と消費者信用会社の機能
7	資金循環と金融構造	日本の資金循環と金融構造の特徴
8	貨幣の意義と機能	貨幣の意義・機能と現代の通貨制度
9	決済システム	決済システムの機能
10	貨幣需要	貨幣需要と流動性選好
11	流動性のわなとマネーストック	貨幣需要における流動性のわなと貨幣供給
12	公的金融	日本の公的金融の役割と特徴
13	企業の資金調達	企業の財務状態と資金調達
14	国際金融機関	国際金融機関の意義と役割

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義では先に説明した知識を後の説明のときに使うため，講義で分からないことがあるときには，テキストを活用するなどして十分に復習して，次の講義までに分からないことを持ち越さないように心がけること。
本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
酒井良清・鹿野嘉昭『金融システム』第 4 版（有斐閣，2011年刊，2,200円）

【参考書】
特になし

【成績評価の方法と基準】
成績は試験によって評価する。メディアスクーリング試験（配分90％）だけでなく中間テスト（配分10％）も受講すること。
授業への出席が単位認定の前提条件となる。全てのメディアコンテンツを視聴・学習して小テストを受講した上で中間テストやメディアスクーリング試験を受講すること。

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【Outline (in English)】
This is a course on the economics of money, banking, and financial markets. The course aims to provide the students with an introduction to the role of money, financial markets, financial institutions, and monetary policy in the economy.
Students will be expected to have completed the required assignments after classes. Your study time will be more than four hours for a class. Your overall grade in the class will be decided based on Term-end examination (90%) and Mid-term examinations (10%).

ECN300TF（経済学 / Economics 300）

経済政策論A(前期メディア)

酒井　正

カテゴリー：**前期メディア**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**前期**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
学生は、「就業」という切り口を通して、日本における社会保険を中心としたセーフティーネットに関する政策について理解を深めます。特に、経済学の観点から、エビデンスに基づいた議論をおこなえるようにします。

【到達目標】
受講者が、本講義を通じて、経済政策としての社会保障制度が直面している課題や論点を把握することができるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP3,DP5」「日本文学科：DP1,DP2」「史学科：DP1」「地理学科：DP1,DP2,DP3」「経済学科：DP1,DP4,DP5」「商業学科：経済学,自由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

【授業の進め方と方法】
始めに日本の労働市場と社会保障制度について概観した後に、各論について扱います。労働市場と社会保障制度という「両輪」を常に念頭に置きながら、議論します。
スライド資料にはいくつもの「問い」を提示するので、受講者自身でもその答を考えることが期待されます。
各回の小テストではシステム上で採点を実施し返却します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	労働市場の概観	日本の労働市場に生じている変化
2	社会保障制度の概観	日本の社会保険の概要
3	社会保険料の未納問題	「皆保険」なのになぜ未納者がいるのか
4	労働市場のセーフティーネット①	雇用保険は失業者を救済できているか
5	労働市場のセーフティーネット②	「第二のセーフティーネット」を巡って
6	両立支援策の経済分析①	保育施策を巡る課題
7	両立支援策の経済分析②	育休制度やその他の制度
8	高齢者就業の経済分析①	高齢者就業促進政策と介護要因
9	高齢者就業の経済分析②	高齢者就業と労災、労災保険
10	社会保険料の帰着問題とその応用	誰が社会保険料を負担しているのか
11	若年就業問題	「就労支援」を巡って
12	社会政策とエビデンス①	エビデンスの政策活用において注意すべきこと
13	社会政策とエビデンス②	「自助」・「互助」・「共助」・「公助」の相互関係
14	まとめ	今後のセーフティーネット施策に必要なこと

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
学生は、講義内容をよく復習し、毎回、自分で議論を整理してみることが求められます。
本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
酒井正『日本のセーフティーネット格差 労働市場の変容と社会保険』（慶應義塾大学出版会，2020年）

【参考書】
特になし

【成績評価の方法と基準】
期末におこなうレポート（100%）によって評価します。

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【Outline (in English)】
The goal of this course is to understand policies, primarily based on empirical evidences from economic researches. The lecture focuses on safety-net such as unemployment insurance. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grading will be decided based only on term-end report (100%).

ECN300TG（経済学 / Economics 300）

経済政策論Ⅰ（前期メディア）

酒井　正

カテゴリー：**前期メディア**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**前期**
受講可能な学科・学年：
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
学生は、「就業」という切り口を通して、日本における社会保険を中心としたセーフティーネットに関する政策について理解を深めます。特に、経済学の観点から、エビデンスに基づいた議論をおこなえるようにします。

【到達目標】
受講者が、本講義を通じて、経済政策としての社会保障制度が直面している課題や論点を把握することができるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
始めに日本の労働市場と社会保障制度について概観した後に、各論について扱います。労働市場と社会保障制度という「両輪」を常に念頭に置きながら、議論します。
スライド資料にはいくつもの「問い」を提示するので、受講者自身でもその答を考えることが期待されます。
各回の小テストではシステム上で採点を実施し返却します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	労働市場の概観	日本の労働市場に生じている変化
2	社会保障制度の概観	日本の社会保険の概要
3	社会保険料の未納問題	「皆保険」なのになぜ未納者がいるのか
4	労働市場のセーフティーネット①	雇用保険は失業者を救済できているか
5	労働市場のセーフティーネット②	「第二のセーフティーネット」を巡って
6	両立支援策の経済分析①	保育施策を巡る課題
7	両立支援策の経済分析②	育休制度やその他の制度
8	高齢者就業の経済分析①	高齢者就業促進政策と介護要因
9	高齢者就業の経済分析②	高齢者就業と労災、労災保険
10	社会保険料の帰着問題とその応用	誰が社会保険料を負担しているのか
11	若年就業問題	「就労支援」を巡って
12	社会政策とエビデンス①	エビデンスの政策活用において注意すべきこと
13	社会政策とエビデンス②	「自助」・「互助」・「共助」・「公助」の相互関係
14	まとめ	今後のセーフティーネット施策に必要なこと

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
学生は、講義内容をよく復習し、毎回、自分で議論を整理してみることが求められます。
本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
酒井正『日本のセーフティーネット格差 労働市場の変容と社会保険』（慶應義塾大学出版会，2020年）

【参考書】
特になし

【成績評価の方法と基準】
期末におこなうレポート（100%）によって評価します。

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【Outline (in English)】
The goal of this course is to understand policies, primarily based on empirical evidences from economic researches. The lecture focuses on safety-net such as unemployment insurance. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grading will be decided based only on term-end report (100%).

ECN200TF（経済学 / Economics 200）

ミクロ経済学A(前期メディア)

平井　俊行

カテゴリー：**前期メディア**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**前期**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ミクロ経済学について学習する。ミクロ経済学A/現代経済学Iでは特に価格理論と呼ばれる、完全競争市場における価格を通じた資源配分について学ぶ。ミクロ経済学はそれ自体重要であるが経済学の専門的なトピックを学ぶための基礎でもあるので、内容を確実に身に付ける。

【到達目標】
・ミクロ経済学の用語の定義を理解し、説明できるようになる。
・実際の経済事象をミクロ経済学の考え方で捉えることができるようになる。
・基本的な計算問題を解けるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP3,DP5」「日本文学科：DP1,DP2」「史学科：DP1」「地理学科：DP1,DP2,DP3」「経済学科：DP1,DP3,DP4,DP5」「商業学科：経済学」に関連

【授業の進め方と方法】
講義形式でおこないます。講義スライドをメディアスクーリング受講システムにアップロードしておくので受講前に必ずダウンロードして、必要があれば印刷しておいてください。
中間課題に対しては、システム上で採点を実施し返却します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	ミクロ経済学の目的、講義についての注意事項など。
第2回	微分の考え方・計算	微分の基本的な考え方・計算方法
第3回	部分均衡分析①	需要・供給・市場均衡
第4回	部分均衡分析②	余剰分析
第5回	部分均衡分析③	課税と死荷重
第6回	消費者行動理論①	選好・効用・無差別曲線
第7回	消費者行動理論②	予算制約
第8回	消費者行動理論③	限界代替率・需要関数の導出
第9回	消費者行動理論④	代替財・補完財、上級財・下級財、ギッフェン財
第10回	生産者行動理論①	生産と費用
第11回	生産者行動理論②	平均可変費用・平均総費用・限界費用
第12回	生産者行動理論③	供給関数の導出
第13回	一般均衡分析①	関連する2つの財の市場の間の影響。
第14回	一般均衡分析②	純粋交換経済

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
事前学習：講義資料や参考書を読んでおくこと。
事後学習：講義内容や講義中に解説した練習問題の復習。参考書についている演習問題を解く。
本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
使用しない。

【参考書】
第1回の講義内で紹介します。配布スライドにも掲載しておきます。

【成績評価の方法と基準】
中間テスト30％、期末試験70％

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【Outline (in English)】
Outline: This course introduces microeconomic theory, especially price theory that analyzes resource allocations through a price in a competitive market. Students should surely acquire the contents of this course since microeconomic theory is an essential foundation for advanced topic courses.
Learning activities outside of classroom: Students will be required to spend two hours for each of
(1) preparation: reading handouts and references;
(2) review: reviewing the contents of lectures and resolving exercise in the class.
Grading Criteria: 70%for Final exam; 30%for mid-term exams (15%per one mid-term exam)

ECN300TG（経済学 / Economics 300）

現代経済学Ⅰ（前期メディア）

平井　俊行

カテゴリー：**前期メディア**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**前期**
受講可能な学科・学年：
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ミクロ経済学について学習する。ミクロ経済学A/現代経済学Ⅰでは特に価格理論と呼ばれる、完全競争市場における価格を通じた資源配分について学ぶ。ミクロ経済学はそれ自体重要であるが経済学の専門的なトピックを学ぶための基礎でもあるので、内容を確実に身に付ける。

【到達目標】
・ミクロ経済学の用語の定義を理解し、説明できるようになる。
・実際の経済事象をミクロ経済学の考え方で捉えることができるようになる。
・基本的な計算問題を解けるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
講義形式でおこないます。講義スライドをメディアスクーリング受講システムにアップロードしておくので受講前に必ずダウンロードして、必要があれば印刷しておいてください。
中間課題に対しては、システム上で採点を実施し返却します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	ミクロ経済学の目的、講義についての注意事項など。
第2回	微分の考え方・計算	微分の基本的な考え方・計算方法
第3回	部分均衡分析①	需要・供給・市場均衡
第4回	部分均衡分析②	余剰分析
第5回	部分均衡分析③	課税と死荷重
第6回	消費者行動理論①	選好・効用・無差別曲線
第7回	消費者行動理論②	予算制約
第8回	消費者行動理論③	限界代替率・需要関数の導出
第9回	消費者行動理論④	代替財・補完財、上級財・下級財、ギッフェン財
第10回	生産者行動理論①	生産と費用
第11回	生産者行動理論②	平均可変費用・平均総費用・限界費用
第12回	生産者行動理論③	供給関数の導出
第13回	一般均衡分析①	関連する2つの財の市場の間の影響。
第14回	一般均衡分析②	純粋交換経済

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
事前学習：講義資料や参考書を読んでおくこと。
事後学習：講義内容や講義中に解説した練習問題の復習。参考書についている演習問題を解く。
本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
使用しない。

【参考書】
第１回の講義内で紹介します。配布スライドにも掲載しておきます。

【成績評価の方法と基準】
中間テスト30％、期末試験70％

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【Outline (in English)】
Outline: This course introduces microeconomic theory, especially price theory that analyzes resource allocations through a price in a competitive market. Students should surely acquire the contents of this course since microeconomic theory is an essential foundation for advanced topic courses.
Learning activities outside of classroom: Students will be required to spend two hours for each of
(1) preparation: reading handouts and references;
(2) review: reviewing the contents of lectures and resolving exercise in the class.
Grading Criteria: 70%for Final exam; 30%for mid-term exams (15%per one mid-term exam)

ECN200TF（経済学 / Economics 200）

マクロ経済学A(前期メディア)

宇都宮　仁

カテゴリー：**前期メディア**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**前期**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
マクロ経済学とは国、あるいは地域全体の経済の動きを勉強する学問です。マクロ経済学をきちんと身につけることにより、日本経済や地域の経済、世界の経済を俯瞰的に考える一つの基準を身につけることができるようになります。この講義では標準的なマクロ経済学の理論を理解し、理論を現実に応用する応用力を身につけることを目的とします。

【到達目標】
・GDPなどマクロ経済学の基本的な用語やメカニズムを理解できる。
・マクロ経済学の理論を理解できる。
・現実の経済問題についてマクロ経済学の考え方を使って考察できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
【授業の進め方と方法】
講義
【課題等に対するフィードバック方法】
①採点

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	マクロ経済学とは	マクロ経済学とはどのような考え方なのかを、マクロ経済学の登場人物や経済変数を説明しながら学びます。
第2回	マクロ経済学における主要概念	経済変数のフローとストックの違い、名目と実質の違いなどを学び、実際の経済指標を用いて経済成長についてみていきます。
第3回	GDPとは	最も重要な経済指標の一つであるGDPについて、測り方や考え方を学びます。
第4回	GDPの特徴	名目と実質の違いなどから国の豊かさとは何なのか、それを表すのに適した指標は何なのかについて学びます。
第5回	財市場の総需要	マクロ経済学の登場人物から財市場の総需要を考えます。
第6回	財市場の総供給とGDPの決定	財市場の総供給の特徴について学び、財市場の均衡について考えます。
第7回	乗数効果	財市場の均衡から乗数について学びます。
第8回	消費関数	家計の消費について様々な仮説を紹介します。
第9回	投資の決定	投資についての理論を紹介します。
第10回	貨幣とは	貨幣についての考え方と、貨幣と債券の関係について学びます。
第11回	貨幣市場の需要と供給	貨幣市場の需要と供給について学びます。
第12回	IS- LM曲線	財市場の均衡からIS曲線を、貨幣市場の均衡からLM曲線を導出します。
第13回	財政政策とその効果	財政政策について学び、その効果をIS-LM分析で考察します。
第14回	金融政策とその効果	金融政策について学び、その効果をIS-LM分析で考察します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特になし

【参考書】
福田慎一・照山博司『マクロ経済学・入門（第5版）』、有斐閣アルマ、2016年
竹内信仁・柳原光芳『スタンダードマクロ経済学』、中央経済社、2013年
平口良司・稲葉大『マクロ経済学（第3版）』、有斐閣、2023年
二神孝一『マクロ経済学入門（第3版）』、日本評論社、2017年

【成績評価の方法と基準】
確認テスト　40％
中間テスト　30％
期末テスト（リポート試験）　30％

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】
動画配信のため、動画が閲覧できる環境（パソコンやネットワーク環境、イヤホンなど）

【その他の重要事項】
マクロ経済学Bを続けて履修することを強く推奨します。

【Outline (in English)】
Course Outline
This course provide an introduction to macroeconomics.
Learning Objectives
-Understand basic macroeconomic theory.
-Apply the tools of macroeconomics to real-world phenomena.
-Consider real-world phenomena using economic tools.
Learning activities outside of Classroom
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Grading Criteria/Policy
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Midterm examination: 30%, Term-end examination: 30%, in-class quizzes: 30%, Usual performance score: 10%.

ECN300TG（経済学 / Economics 300）

マクロ経済学Ⅰ（前期メディア）

宇都宮　仁

カテゴリー：**前期メディア**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**前期**
受講可能な学科・学年：
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
マクロ経済学とは国、あるいは地域全体の経済の動きを勉強する学問です。マクロ経済学をきちんと身につけることにより、日本経済や地域の経済、世界の経済を俯瞰的に考える一つの基準を身につけることができるようになります。この講義では標準的なマクロ経済学の理論を理解し、理論を現実に応用する応用力を身につけることを目的とします。

【到達目標】
・GDPなどマクロ経済学の基本的な用語やメカニズムを理解できる。
・マクロ経済学の理論を理解できる。
・現実の経済問題についてマクロ経済学の考え方を使って考察できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
【授業の進め方と方法】
講義
【課題等に対するフィードバック方法】
①採点

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	マクロ経済学とは	マクロ経済学とはどのような考え方なのかを、マクロ経済学の登場人物や経済変数を説明しながら学びます。
第2回	マクロ経済学における主要概念	経済変数のフローとストックの違い、名目と実質の違いなどを学び、実際の経済指標を用いて経済成長についてみていきます。
第3回	GDPとは	最も重要な経済指標の一つであるGDPについて、測り方や考え方を学びます。
第4回	GDPの特徴	名目と実質の違いなどから国の豊かさとは何なのか、それを表すのに適した指標は何なのかについて学びます。
第5回	財市場の総需要	マクロ経済学の登場人物から財市場の総需要を考えます。
第6回	財市場の総供給とGDPの決定	財市場の総供給の特徴について学び、財市場の均衡について考えます。
第7回	乗数効果	財市場の均衡から乗数について学びます。
第8回	消費関数	家計の消費について様々な仮説を紹介します。
第9回	投資の決定	投資についての理論を紹介します。
第10回	貨幣とは	貨幣についての考え方と、貨幣と債券の関係について学びます。
第11回	貨幣市場の需要と供給	貨幣市場の需要と供給について学びます。
第12回	IS- LM曲線	財市場の均衡からIS曲線を、貨幣市場の均衡からLM曲線を導出します。
第13回	財政政策とその効果	財政政策について学び、その効果をIS-LM分析で考察します。
第14回	金融政策とその効果	金融政策について学び、その効果をIS-LM分析で考察します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特になし

【参考書】
福田慎一・照山博司『マクロ経済学・入門（第5版）』、有斐閣アルマ、2016年
竹内信仁・柳原光芳『スタンダードマクロ経済学』、中央経済社、2013年
平口良司・稲葉大『マクロ経済学（第3版）』、有斐閣、2023年
二神孝一『マクロ経済学入門（第3版）』、日本評論社、2017年

【成績評価の方法と基準】
確認テスト　40％
中間テスト　30％
期末テスト（リポート試験）　30％

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】
動画配信のため、動画が閲覧できる環境（パソコンやネットワーク環境、イヤホンなど）

【その他の重要事項】
マクロ経済学Bを続けて履修することを強く推奨します。

【Outline (in English)】
Course Outline
This course provide an introduction to macroeconomics.
Learning Objectives
-Understand basic macroeconomic theory.
-Apply the tools of macroeconomics to real-world phenomena.
-Consider real-world phenomena using economic tools.
Learning activities outside of Classroom
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Grading Criteria/Policy
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Midterm examination: 30%, Term-end examination: 30%, in-class quizzes: 30%, Usual performance score: 10%.

ECN200TF（経済学 / Economics 200）

国際経済論A(前期メディア)

田村　晶子

カテゴリー：**前期メディア**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**前期**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
国際貿易論の基礎理論を勉強します。なぜ自由な貿易が望ましいのか、貿易がもたらす利益、関税などの貿易政策が社会全体におよぼす影響を理解し、ＦＴＡやＥＰＡなどが進む現在の国際貿易体制について考えます。

【到達目標】
貿易の基礎理論により、どのように貿易の利益が示せるかを説明できる。貿易政策が、各経済主体に与える影響を説明し、その是非を議論できる。地域貿易協定の是非について、理論に基づき議論できる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP3,DP5」「日本文学科：DP1,DP2」「史学科：DP1」「地理学科：DP1,DP2,DP3」「経済学科：DP1,DP3」「商業学科：経済学」に関連

【授業の進め方と方法】
中間課題に対しては、①採点もしくは個別評価・添削、②全体講評、③模範解答や優秀リポート等の掲示、のうちいずれかを実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	世界貿易の概観	データによる世界貿易の動向
第2回	比較優位の理論①	リカードモデルの仮定
第3回	比較優位の理論②	貿易後の相対価格と世界供給
第4回	比較優位の理論③	貿易の利益と実証研究
第5回	資源と貿易①	ヘクシャーオリーンモデルの仮定
第6回	資源と貿易②	貿易による利益と実証研究
第7回	規模の外部経済と生産の国際立地	規模の外部経済と貿易
第8回	新しい貿易理論とグローバル経済の企業	輸出判断と多国籍企業（直接投資）
第9回	貿易政策のツール①	輸入関税の効果
第10回	貿易政策のツール②	輸入関税、輸出補助金の費用と便益
第11回	貿易政策のツール③	輸入割当と輸出自主規制の効果
第12回	貿易政策の政治経済	国際貿易体制とWTO
第13回	国際貿易体制	地域貿易協定の経済効果
第14回	貿易政策をめぐる論争	貿易政策をめぐる論争

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
クルグマン・オブズフェルド・メリッツ（山形浩生、守岡桜訳）『クルーグマン国際経済学理論と政策〔原書第10 版〕上:貿易編』丸善出版、2017 年

【参考書】
石川城太・椋寛・菊地徹著　『国際経済学をつかむ（第2版）』　有斐閣、2013年

【成績評価の方法と基準】
中間レポート（40％）と期末レポート（60％）により評価します。

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【Outline (in English)】
Students study the basics of International Trade. At the end of the course, students will comprehend why free trade is desirable, as well as they will learn the effect of trade policy such as tariffs. Also, students comprehend the international trade framework with Free Trade Agreements.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grading will be decided based on midterm report(40%) and term-end report(60%).

ECN300TG（経済学 / Economics 300）

国際経済論Ⅰ（前期メディア）

田村　晶子

カテゴリー：**前期メディア**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**前期**
受講可能な学科・学年：
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
国際貿易論の基礎理論を勉強します。なぜ自由な貿易が望ましいのか、貿易がもたらす利益、関税などの貿易政策が社会全体におよぼす影響を理解し、ＦＴＡやＥＰＡなどが進む現在の国際貿易体制について考えます。

【到達目標】
貿易の基礎理論により、どのように貿易の利益が示せるかを説明できる。貿易政策が、各経済主体に与える影響を説明し、その是非を議論できる。地域貿易協定の是非について、理論に基づき議論できる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
中間課題に対しては、①採点もしくは個別評価・添削、②全体講評、③模範解答や優秀リポート等の掲示、のうちいずれかを実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	世界貿易の概観	データによる世界貿易の動向
第2回	比較優位の理論①	リカードモデルの仮定
第3回	比較優位の理論②	貿易後の相対価格と世界供給
第4回	比較優位の理論③	貿易の利益と実証研究
第5回	資源と貿易①	ヘクシャーオリーンモデルの仮定
第6回	資源と貿易②	貿易による利益と実証研究
第7回	規模の外部経済と生産の国際立地	規模の外部経済と貿易
第8回	新しい貿易理論とグローバル経済の企業	輸出判断と多国籍企業（直接投資）
第9回	貿易政策のツール①	輸入関税の効果
第10回	貿易政策のツール②	輸入関税、輸出補助金の費用と便益
第11回	貿易政策のツール③	輸入割当と輸出自主規制の効果
第12回	貿易政策の政治経済	国際貿易体制とWTO
第13回	国際貿易体制	地域貿易協定の経済効果
第14回	貿易政策をめぐる論争	貿易政策をめぐる論争

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
クルグマン・オブズフェルド・メリッツ（山形浩生、守岡桜訳）『クルーグマン国際経済学理論と政策〔原書第10 版〕上:貿易編』丸善出版、2017 年

【参考書】
石川城太・椋寛・菊地徹著　『国際経済学をつかむ（第2版）』　有斐閣、2013年

【成績評価の方法と基準】
中間レポート（40％）と期末レポート（60％）により評価します。

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【Outline (in English)】
Students study the basics of International Trade. At the end of the course, students will comprehend why free trade is desirable, as well as they will learn the effect of trade policy such as tariffs. Also, students comprehend the international trade framework with Free Trade Agreements.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grading will be decided based on midterm report(40%) and term-end report(60%).

ECN200TF（経済学 / Economics 200）

環境経済論A(前期メディア)

松波　淳也

カテゴリー：**前期メディア**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**前期**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
環境経済学の基礎理論・概念を習得する。

【到達目標】
環境経済学はその体系化への努力が始まって以来，地球環境問題などグローバルな環境問題への直面を経て，各方面への深化を遂げている。本講義では，環境経済学の基本概念，手法を習得できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP3,DP5」「日本文学科：DP1,DP2」「史学科：DP1」「地理学科：DP1,DP2,DP3」「経済学科：DP1,DP4,DP5」「商業学科：経済学,自由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

【授業の進め方と方法】
現代の環境経済学の基礎概念・手法を身につけてもらうことを目標とし，最重要であり，かつ，環境経済学の幅広い分野に応用の効く3つの概念（外部性，環境の経済評価，持続可能な発展）に絞って講義する。その際，特に，社会システムと環境の関係についての基本的考え方，および，経済学的方法，政策的志向をもとらえていきたい。中間課題に対しては、採点基準および優秀リポートの掲示を実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第01回	環境経済学とは？	環境経済学の誕生。環境か経済か？　本講の立場と進め方。
第02回	環境問題の政策的整理	人類史と環境。近代化と環境問題。環境問題と総合政策。
第03回	外部性①	外部性の概念。外部性のモデル分析。ピグー・モデル。
第04回	外部性②	ピグー税政策とボーモル=オーツ税政策
第05回	外部性③	コース・モデル～コースの定理
第06回	外部性④	外部性のモデル分析再考
第07回	公共財としての環境財	コモンプール財としての環境財
第08回	環境の経済評価①	環境を価格付けする意義。非市場財の価格付け。環境経済評価手法。
第09回	環境の経済評価②	需要曲線アプローチ　CVM。
第10回	環境の経済評価③	需要曲線アプローチ　TCM，HPM。非需要曲線アプローチ　RCM。
第11回	環境の経済評価④	環境価値の概念。
第12回	持続可能な発展①	持続可能な発展SDとは？　環境経済学におけるSD。SDGs(持続可能な開発目標)
第13回	持続可能な発展②	デイリーの問題提起。経世済民思想としてのSD。SDの視点からの経済政策目標。環境マクロ経済学。
第14回	持続可能な発展③	SDの経済思想・再論。本講義のまとめと環境経済学の今後

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
経済学の基礎を身に付けていることが望ましい（ミクロ経済学，マクロ経済学等，経済学の基礎学習）。
本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
指定なし。

【参考書】
時政他編著『環境と資源の経済学』勁草書房
環境省『環境白書』最新版

【成績評価の方法と基準】
中間リポート（50％）とリポート試験（50％）の総合評価とする。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【Outline (in English)】
The aim of this course is to help students acquire the basic environmental economics. The goal of this course is to acquire the basic concepts and methods of environmental economics. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Final grade will be calculated according to the following process: Mid-term report(50%), term-end report(50%).

ECN300TG（経済学 / Economics 300）

環境経済論Ⅰ（前期メディア）

松波　淳也

カテゴリー：**前期メディア**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**前期**
受講可能な学科・学年：
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
環境経済学の基礎理論・概念を習得する。

【到達目標】
環境経済学はその体系化への努力が始まって以来，地球環境問題などグローバルな環境問題への直面を経て，各方面への深化を遂げている。本講義では，環境経済学の基本概念，手法を習得できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
現代の環境経済学の基礎概念・手法を身につけてもらうことを目標とし，最重要であり，かつ，環境経済学の幅広い分野に応用の効く3つの概念（外部性，環境の経済評価，持続可能な発展）に絞って講義する。その際，特に，社会システムと環境の関係についての基本的考え方，および，経済学的方法，政策的志向をもとらえていきたい。中間課題に対しては、採点基準および優秀リポートの掲示を実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第01回	環境経済学とは？	環境経済学の誕生。環境か経済か？　本講の立場と進め方。
第02回	環境問題の政策的整理	人類史と環境。近代化と環境問題。環境問題と総合政策。
第03回	外部性①	外部性の概念。外部性のモデル分析。ピグー・モデル。
第04回	外部性②	ピグー税政策とボーモル=オーツ税政策
第05回	外部性③	コース・モデル～コースの定理
第06回	外部性④	外部性のモデル分析再考
第07回	公共財としての環境財	コモンプール財としての環境財
第08回	環境の経済評価①	環境を価格付けする意義。非市場財の価格付け。環境経済評価手法。
第09回	環境の経済評価②	需要曲線アプローチ　CVM。
第10回	環境の経済評価③	需要曲線アプローチ　TCM，HPM。非需要曲線アプローチ　RCM。
第11回	環境の経済評価④	環境価値の概念。
第12回	持続可能な発展①	持続可能な発展SDとは？　環境経済学におけるSD。SDGs(持続可能な開発目標)
第13回	持続可能な発展②	デイリーの問題提起。経世済民思想としてのSD。SDの視点からの経済政策目標。環境マクロ経済学。
第14回	持続可能な発展③	SDの経済思想・再論。本講義のまとめと環境経済学の今後

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
経済学の基礎を身に付けていることが望ましい（ミクロ経済学，マクロ経済学等，経済学の基礎学習）。
本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
指定なし。

【参考書】
時政他編著『環境と資源の経済学』勁草書房
環境省『環境白書』最新版

【成績評価の方法と基準】
中間リポート（50％）とリポート試験（50％）の総合評価とする。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【Outline (in English)】
The aim of this course is to help students acquire the basic environmental economics. The goal of this course is to acquire the basic concepts and methods of environmental economics. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Final grade will be calculated according to the following process: Mid-term report(50%), term-end report(50%).

ECN200TF（経済学 / Economics 200）

開発経済入門A(前期メディア)

池上　宗信

カテゴリー：**前期メディア**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**前期**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
途上国貧困家計の栄養、健康、教育、出産という人的資本への投資、彼らの直面するリスクとその対策を学びます。さらに、それらを理解するのに有用な時間的不整合、モラル・ハザードなどの理論、ランダム化比較試験、差の差の分析、操作変数法などの実証分析手法を並行して学びます。

【到達目標】
開発途上国の貧困家計にとって重要な栄養、健康、教育、出産、リスクという経済問題を経済学の理論、手法を応用し、統計資料などを見ながら、主体的に考察、議論、公正に判断できるようになることが授業の到達目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP3,DP5」「日本文学科：DP1,DP2」「史学科：DP1」「地理学科：DP1,DP2,DP3」「経済学科：DP1,DP5」「商業学科：自由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

【授業の進め方と方法】
教員による講義が中心になりますが、授業中に演習問題があるので、ビデオを一時停止し、受講生自身で解く努力をしてから、ビデオを再生、解答を見てください。
中間課題に対しては、システム上で採点を実施し返却します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	貧困	貧困の罠、人口・貧困の分布・変化
2	ランダム化比較試験	因果関係、第3の要因
3	栄養	貧困家計の栄養に関する選択
4	健康	貧困家計の健康に関する選択
5	時間的不整合	コミットメントとあと押し
6	差の差の分析	パラレル・トレンドの仮定
7	操作変数法	内生変数、誤差項
8	教育	貧困家計の就学に関する選択
9	出産	妊娠、出産の意思決定
10	リスク1	期待値、期待効用
11	リスク2	状態空間分析
12	リスク3	独占的な保険会社
13	リスク4	完全競争保険市場
14	モラル・ハザード	リスク分担とインセンティブ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
予習・復習として各授業のスライドの最後にある参考文献、特に参考文献リストの最初の文献を読んでください。授業、演習問題の内容を必要に応じて復習してください。講義の後に学生が自分でさらに調べたくなるような授業を目指したいと思います。
本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しません。

【参考書】
講義のスライドは、各授業のスライドの最後にある参考文献リストの文献、特にリストの一番上の文献に基づきます。
以下のような文献などです。

池田新介(2012)「第3章　不本意な選択のメカニズム」『自滅する選択』東洋経済新報社
ディーン・カーラン、ジェイコブ・アペル(2013)『善意で貧困はなくせるのか? 貧乏人の行動経済学』みすず書房
神取道宏(2014)「8 保険とモラル・ハザード」『ミクロ経済学の力』日本評論社
神戸伸輔(2004)「13章リスクと保険」『入門ゲーム理論と情報の経済学』日本評論社
高野久紀(2014, 2015)「実践　開発経済学　1-8」『経済セミナー』2014年6/7月号-2015年8/9号
アビジット・バナジー、エスター・デュフロ（2012）『貧乏人の経済学』みすず書房
森田果(2014)「第18章 DD」『実証分析入門』日本評論社

【成績評価の方法と基準】
オンラインシステム上の中間テスト20％、期末（メディアスクーリング）テスト80％で評価します。

【学生の意見等からの気づき】
2021年度の授業改善アンケートに、本講義は難しい、難しすぎると答えた受講生が複数名いました。そこで、2022年度のシラバスには、そのような回答があったこと、および、「統計学、経済学入門を履修後に本講義を履修すること、ミクロ経済学、マクロ経済学などを同時に履修することなどをご検討いただければと思います。」と書きました。2022-2023年度の授業改善アンケートには、難しい、難しすぎるという回答はありませんでした。
2023度は授業改善アンケートへの回答が1つしかありませんでした。回答へのご協力をよろしくお願いいたします。

【Outline (in English)】
* Course outline
We will study human capital investment decision such as nutrition, health, and schooling decision by poor households in developing countries. We will also study theoretical model of time inconsistency and empirical methods such as randomized controlled experiment, difference in difference method, instrument variable methods, which are useful for studying the decision.
* Learning Objectives
The goal of this class is that students will become able to proactively think and discuss economic issues related to developing countries, such as nutrition, health, education, birth, and risk, based on economic theories, methods, and data.
* Learning activities outside of classroom
Students will read around 20 pages of texts that form the basis of each lecture slide as a reading assignment before each lecture.
Students will review the contents of the classes and exercises according to their own needs.
The standard time for preparation and review for this class is 2 hours each.
* Grading Criteria, Policies
Grading will be decided based on mid-term exams on online system (20%) and end-term exam (80%).

ECN300TF（経済学 / Economics 300）

国際貿易論A(前期メディア)

武智　一貴

カテゴリー：**前期メディア**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**前期**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
国際貿易論Aでは国際貿易論の基本概念を学習する。

【到達目標】
国際貿易論を学び、貿易の利益の源泉、貿易政策の効果について分析出来る事を目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP3,DP5」「日本文学科：DP1,DP2」「史学科：DP1」「地理学科：DP1,DP2,DP3」「経済学科：DP1,DP3」「商業学科：自由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

【授業の進め方と方法】
まず国際取引の基本問題である、貿易からの利益を考える。さまざまな理由で貿易が行われるが、その動機について理論的に解説する。また、貿易を阻害する要因である貿易政策についてもその影響を分析する。
中間リポートに対しては、採点結果の返却および模範解答を掲示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	国際取引とは何か？なぜ我々は貿易を行うのか？	国際取引の基礎、貿易からの利益
第2回	余剰分析の基礎：消費者行動から	消費者の効用、需要
第3回	余剰分析の基礎：消費者の余剰	消費者余剰
第4回	余剰分析の基礎：企業行動から	企業の費用、供給
第5回	余剰分析の基礎：生産者の余剰	生産者余剰
第6回	市場の役割	市場均衡、社会的余剰
第7回	貿易の利益	自給自足時と自由貿易時の社会的余剰の比較
第8回	貿易政策の効果	自由貿易時と輸入関税下の余剰の計算
第9回	一般均衡分析の基礎	リカードモデル
第10回	比較優位	リカードモデルにおける自給自足均衡
第11回	一般均衡における貿易利益	リカードモデルにおける貿易均衡
第12回	戦略的状況の分析の基礎	ゲーム理論
第13回	戦略的貿易政策	ナッシュ均衡と貿易政策
第14回	戦略的貿易政策の意味	展開形ゲーム

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
経済学の基礎を講義中にも解説するが、各自でも経済学の入門について自習しておくこと。講義では経済学の考え方について主に紹介するが、各自で具体例に基づいた計算なども可能になっておく事が望ましい。
本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特になし。

【参考書】
石井他著、入門・国際経済学、有斐閣
石川・菊池・椋著、国際経済学をつかむ、有斐閣
Krugman and Obstfeld, International Economics,Addison Wesley

【成績評価の方法と基準】
中間リポート（30％）、リポート試験(70%)で評価する。講義内容を踏まえ、自ら計算・グラフの作成（解釈）が出来る事を評価する。

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【Outline (in English)】
This course is intended to introduce students to basic concepts of international trade. Our learning objective is to understand the standard theories in international trade and apply these theories to real world examples. Students are expected to study four hours to prepare for the class. Grading will be determined by the performance of midterm report (30%) and final report (70%).

ECN300TF（経済学 / Economics 300）

日本経済論A（前期メディア）

倪　彬

カテゴリー：**前期メディア**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**前期**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日本は今、グローバル化の進展で様々な課題を抱えている。今後の動向を理解するために、様々なツールが必要になってくる。本講義では、日本国内経済のみならず、企業の海外進出における諸問題にも焦点を置きながら議論していく。

【到達目標】
本講義は、日本経済事象を理論的に捉え、実証的に分析し、問題意識を持つ能力を身につけさせることを目標とする。またグローバル経済における日本の経済現象を経済学の視点から考察する。日頃目に耳にしている出来事や現象を通して、経済の仕組みやそのメカニズムについて学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP3,DP5」「日本文学科：DP1,DP2」「史学科：DP1」「地理学科：DP1,DP2,DP3」「経済学科：DP2,DP5」「商業学科：経済学」に関連

【授業の進め方と方法】
基本的には講義予定に基いて進める。オンデマンドコンテンツを事前にこちらから用意し、毎回の授業でコンテンツを実習してもらい、小テストなどで理解度を高めてもらう。
各回の小テストではシステム上で採点を実施し返却する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	内容の紹介と授業の説明
2	経済学の基本概念1	機会費用
3	経済学の基本概念2	需要と供給、均衡
4	経済学の基本概念3	GDPとGDPデフレーター
5	日本の金融政策、財政政策1	財政政策
6	日本の金融政策、財政政策2	金融政策
7	日本の金融政策、財政政策3	財政・金融政策の効果と事例
8	経済成長理論1	ソローモデル1
9	経済成長理論2	ソローモデル2
10	経済成長理論3	成長会計
11	日本企業の海外進出1	国際貿易の理論1
12	日本企業の海外進出2	国際貿易の理論2
13	日本企業の海外進出3	貿易政策：関税
14	日本企業の海外進出4	FDI: 日本のケース

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
準備・復習時間は、各2時間を目安とする。

【テキスト（教科書）】
特になし

【参考書】
石川城太・椋寛・菊地徹『国際経済学をつかむ』（テキストブックつかむシリーズ）第2版、有斐閣、2013年、ISBN=9784641177192
阿部顕三・遠藤正寛『国際経済学』（有斐閣アルマ）、有斐閣、2012年、ISBN=9784641124806

【成績評価の方法と基準】
期末試験 100%

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【Outline (in English)】
Course outline: We will discuss the economic issues in the context of Japan. Apart from domestic issues such as fiscal and monetary policies, we will also extend to the global framework, mainly from two important perspectives: international trade and foreign direct investment (FDI).
Learning Objectives: This course aims to help the students theoretically and empirically analyze the events regarding the Japanese economy, fostering the students' ability to be aware of the economic issues.
Learning activities outside of classroom: Approximately 2 hours for preparation and review respectively.
Grading Criteria/Policy: The final examination accounts for 100%of the total grade.

ECN300TG（経済学 / Economics 300）

日本経済論Ⅰ（前期メディア）

倪　彬

カテゴリー：**前期メディア**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**前期**
受講可能な学科・学年：
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日本は今、グローバル化の進展で様々な課題を抱えている。今後の動向を理解するために、様々なツールが必要になってくる。本講義では、日本国内経済のみならず、企業の海外進出における諸問題にも焦点を置きながら議論していく。

【到達目標】
本講義は、日本経済事象を理論的に捉え、実証的に分析し、問題意識を持つ能力を身につけさせることを目標とする。またグローバル経済における日本の経済現象を経済学の視点から考察する。日頃目に耳にしている出来事や現象を通して、経済の仕組みやそのメカニズムについて学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
基本的には講義予定に基いて進める。オンデマンドコンテンツを事前にこちらから用意し、毎回の授業でコンテンツを実習してもらい、小テストなどで理解度を高めてもらう。
各回の小テストではシステム上で採点を実施し返却する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	内容の紹介と授業の説明
2	経済学の基本概念1	機会費用
3	経済学の基本概念2	需要と供給、均衡
4	経済学の基本概念3	GDPとGDPデフレーター
5	日本の金融政策、財政政策1	財政政策
6	日本の金融政策、財政政策2	金融政策
7	日本の金融政策、財政政策3	財政・金融政策の効果と事例
8	経済成長理論1	ソローモデル1
9	経済成長理論2	ソローモデル2
10	経済成長理論3	成長会計
11	日本企業の海外進出1	国際貿易の理論1
12	日本企業の海外進出2	国際貿易の理論2
13	日本企業の海外進出3	貿易政策：関税
14	日本企業の海外進出4	FDI: 日本のケース

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
準備・復習時間は、各2時間を目安とする。

【テキスト（教科書）】
特になし

【参考書】
石川城太・椋寛・菊地徹『国際経済学をつかむ』（テキストブックつかむシリーズ）第２版、有斐閣、2013年、ISBN=9784641177192
阿部顕三・遠藤正寛『国際経済学』（有斐閣アルマ）、有斐閣、2012年、ISBN=9784641124806

【成績評価の方法と基準】
期末試験 100%

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【Outline (in English)】
Course outline: We will discuss the economic issues in the context of Japan. Apart from domestic issues such as fiscal and monetary policies, we will also extend to the global framework, mainly from two important perspectives: international trade and foreign direct investment (FDI).
Learning Objectives: This course aims to help the students theoretically and empirically analyze the events regarding the Japanese economy, fostering the students' ability to be aware of the economic issues.
Learning activities outside of classroom: Approximately 2 hours for preparation and review respectively.
Grading Criteria/Policy: The final examination accounts for 100%of the total grade.

ECN300TF（経済学 / Economics 300）

経済地理【Ⅰ】(前期メディア)

近藤　章夫

カテゴリー：**前期メディア**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**前期**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では、世界の国・地域、アジアと日本、日本国内の都市と地方などの多層的な空間スケールを念頭におき、経済地理学的な思考方法や分析枠組を用いて、経済成長と人口構造、産業立地の空間的パターン、都市化と地域間格差、企業立地と国際分業、国土計画と地域政策、の諸問題について多角的に論じる。

【到達目標】
日本を中心とした世界の国・地域における経済活動の地理的側面について共通したメカニズムと実態を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP3,DP5」「日本文学科：DP1,DP2」「史学科：DP1,DP3」「地理学科：DP1」「経済学科：DP2,DP5」「商業学科：経済学」に関連

【授業の進め方と方法】
経済地理学とは、多様な人間活動が立地をつうじて相互に補完することで生じる、経済の諸事象の空間的配置を説明し、都市、地域、国際間の空間経済システムのダイナミックな変遷を分析する経済学と地理学の融合領域である。授業では経済地理学の基礎理論やモデルをベースにして国内外の社会経済動向や研究事例を用いながら解説していく。講義に資する資料を適宜提示し、地図・統計を用いながら理解を深める。
中間課題に対しては、①採点もしくは個別評価・添削、②全体講評、③模範解答や優秀リポート等の掲示、のうちいずれかを実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	講義の概要と学習のポイント
第2回	経済成長と人口構造①	世界経済の歴史と地理
第3回	経済成長と人口構造②	人口構造と経済成長論
第4回	経済成長と人口構造③	都市化と人口問題
第5回	立地論の基礎①	経済活動の立地行動と理論の概要
第6回	立地論の基礎②	産業・工業立地論の枠組
第7回	立地論と都市研究①	農業立地論と中心地理論
第8回	立地論と都市研究②	都市内部構造と都市システム
第9回	グローバル化とローカル化①	産業発展のダイナミズムと空間的分業論
第10回	グローバル化とローカル化②	比較制度分析とグローカルネットワーク論
第11回	国土利用と地域政策①	日本の地域構造と国土政策の歴史
第12回	国土利用と地域政策②	戦後の国土・地域政策と新たな動向
第13回	国土利用と地域政策③	都市・地域問題と現代の課題
第14回	まとめ	経済活動と地理的スケールの重層性

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
事前の予習は必要ないが、授業後にノート、レジュメ、地図等で関心を持った点を中心に復習して欲しい。
本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
教科書は指定しない。適宜、文献と資料を提示する。

【参考書】
河野稠果（2000）『世界の人口（第2版）』東京大学出版会
デイヴィッド・N・ワイル（2010）『経済成長（第2版）』ピアソン桐原
松原宏編著（2013）『現代の立地論』古今書院
富田和暁（2006）『地域と産業―経済地理学の基礎―』原書房
山田浩之・徳岡一幸編（2007）『地域経済学入門（新版）』有斐閣
竹内淳彦・小田宏信編著（2014）『日本経済地理読本（第9版）』東洋経済新報社

【成績評価の方法と基準】
期末試験の評価（60%）が中心となる。授業終了時小テスト（平常点20点）、レポート課題（20%）で最終評価とする。

【学生の意見等からの気づき】
講義だけでなく関連する話題や発展的学習につながる資料や文献なども積極的に提示する。

【その他の重要事項】
履修者の関心や授業の進捗状況によって、授業計画を一部変更することがある。

【Outline (in English)】
Course outline and objectives:
From the perspective of economic geography, this lecture will cover various issues such as economic growth and population, urban and regional economies, industrial location theory, spatial structure of the economy, national land planning, and regional policy.
Learning activities outside of classroom：
Before/after each class, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Grading Criteria /Policy:
Final grade will be calculated according to the following process, Term-end exam(60%), each-class requirements(20%), and mid-term report(20%)

ECN200TF（経済学 / Economics 200）

経済学特講【Academic Writing: SDGs及び卒業論文執筆に向けて】(前期メディア)

中谷　安男

カテゴリー：**前期メディア**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**前期**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
・持続可能な発達目標（SDG s）の課題に対して理解を深め将来社会に貢献す
　るための当事者意識を高める
・卒業論文などのアカデミックライティングの基礎を学ぶ
・説得力があり読者の心を掴む英文がかけるようになる。
・TOEFLやIELTSなどのエッセイを楽しみながら書けるようになる
・英語で卒業論文を書く基礎を身に着ける

【到達目標】
・Academic Writing Strategies を身に着け、Coherence や Chohesion を構築し読　みやすく説得力のある英文が書けるようになる。
・英語論文執筆の基礎を学ぶ
・SDG s の課題を認識する
The goal is to acquire academic writing strategies to build coherence and cohesion which enables you to write readable and persuasive English texts; to earn the basics of writing English research papers;
to recognize the issues related to the SDGs (Sustainable Development Goals)

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP3,DP5」「日本文学科：DP1,DP2」「史学科：DP1」「地理学科：DP1,DP2,DP3」「経済学科：DP1」「商業学科：経済学」に関連

【授業の進め方と方法】
・アカデミックライティングの演習を行う
・英語で積極的にSDG s の課題をディスカッションする
・テーマによってリアクションペーパーや課題を解く
Engaging in academic writing exercises.
Discussing SDG issues in English.
Completing reaction papers and assignments based on the themes.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	Introduction Flow of Sentences	Healthy food 1
第2回	Basic Paragraph	Food issues 第1章
第3回	Coherence	Mobile broadband network 第2章
第4回	Guiding Readers	AI and Singularity 第3章
第5回	Hedges and Boosters	Ecotourism 第４章
第6回	Generating Ideas	Convenient for who? 第５章
第7回	How to attract your readers	Starting your essay more attractively 第６章
第8回	Supporting your ideas	第７章
第9回	Concluding Paragraph	第８章
第10回	Comparison and Contrast	第９章
第11回	Essay Structure	第10章
第12回	Problem-solving Essay	第11章
第13回	The first step for academic papers	第12章
第14回	Creating a Research Niche	第13章

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業の前にテキストを最低2時間予習する。
授業の復習を最低2時間必ず行うこと。特に重要語彙やイディオムは毎回習得するよう努める。
Spending at least two hours preparing the textbook before class. Ensuring to review the class for a minimum of two hours. Making an effort to learn key vocabulary and idioms each time.

【テキスト（教科書）】
Academic Writing Strategies: Focus on Global Issues for SDGs　金星堂
Nakatani. Y.
『大学生のためのアカデミック英文ライティング』大修館書店　中谷安男

【参考書】
『オックスフォード世界最強のリーダーシップ教室』
中谷安男　中央経済社

【成績評価の方法と基準】
中間(40%)および期末(60%) レポートで評価する。
テキストのアカデミックライティング・ストラテジーの理解と実践
適切な英文エッセイライティングができるか
Evaluation will be based on midterm (40%) and final (60%) reports.
Understanding and applying the academic writing strategies from the textbook
Ability to write appropriate English essays

【学生の意見等からの気づき】
学生にも理解ができるようにペースを考える。

【学生が準備すべき機器他】
PC

【その他の重要事項】
ビジネス英語A,Bの履修に必須です

【Outline (in English)】
We can learn how to develop persuasive essays by focusing on reader-centered approach.
We can learn significant issues about SDGs.
Developing proficiency in Academic Writing Strategies and learn to construct coherent and cohesive English texts that are easy to read and persuasive.
Learning the basics of writing English research papers.
Gaining awareness of the challenges related to the Sustainable Development Goals (SDGs).
Preparation and review:
The standard allotted time for preparation and review for this class is 2 hours each.
40%for the midterm report
60%for the final report
The assessment will focus on the following criteria:
Proficiency in　Academic English.
Understanding of academic writing strategies covered in the textbook.
Ability to provide relevant essays in English.

LAN300TF

ビジネス英語A(前期メディア)

中谷　安男

カテゴリー：**前期メディア**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**前期**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日本を代表する企業のグローバルリーダーのケーススタディを通してビジネス英語の基礎力をつける。実際のとても興味深いビジネスの成功事例を理解しながら楽しく英語を学ぶ。経済学のアカデミックライティングを身に付ける。

【到達目標】
実際のビジネスケーススタディを英語で学びながら、ビジネスにおけるリーダーシップ、ビジネス戦略、国際マーケティングの基礎知識を身に付ける。経済学に必要なアカデミック・ライティングを学ぶ。
The goal is to learn the fundamentals of leadership in business, business strategy, and international marketing while studying real business case studies in English.　Acquire academic writing skills necessary for economics.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「法律学科：,DP3,DP5」「日本文学科：DP1,DP2」「史学科：DP1」「地理学科：DP1,DP2,DP3」「経済学科：DP6,DP8」「商業学科：自由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

【授業の進め方と方法】
有名企業のビジネスケースを扱い、語彙、リスニング、リーディングの演習を行う。
ライティングのテキストを活用し英文の書き方を自学する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	イントロダクション Shiseido	Shiseido Thailand 翻訳はだめ
2	Kao	Kao USA 冠詞の使い方
3	Ryohinkeikaku AW　第１章	MUJI 論文の構成
4	Morinaga AW　第２章	Morinaga USA 先行研究
5	Coca-Cola AW　第３章	Coca-Cola Laos スタンス
6	Toshiba AW　第４章	Toshiba Vietnam Introduction 1
7	Honda AW　第５章	Honda USA Introduction 2
8	Hachando AW　第6章	Hachando Vietnam Introduction 3
9	Lexus AW　第7章	Lexus Global LR
10	Tashiro Alloy Inc AW　第8章	Japanese Art Method 1
11	Imperial Hotel Establishing a Regional Brand AW　第9章	Luxury Hotel Method 2
12	Twitter AW　第10章	SNS Discussion
13	IC Net AW　第11章	BOP Business
14	Sumitomo Co. AW　第12章	Mobile Business in Mongolia Abstract

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
予習・復習
本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。
The standard preparation and review time for this course is two hours each.

【テキスト（教科書）】
Business Case Studies of Global Leaders 成美堂　Nakatani, Y. &Smithers, R.
『経済学・経営学のための英語論文の書き方』中谷安男　中央経済社

【参考書】
『ケース・メソッド入門』　石田英夫　他　慶應義塾大学出版

【成績評価の方法と基準】
中間リポート４割
期末リポート６割
・ビジネス英語の基礎力がついているか
・テキストで取り扱うビジネスリーダーシップの理解ができているか
・ビジネスケースの簡単な要約が英語でできるか
・アカデミック英語ライティングの基礎が身に付いているか
Midterm Report: 40%
Final Report: 60%
Demonstrating basic business English skills
Understandsing the business leadership concepts covered in the text
Summarizing business cases in English
Acquiring fundamental academic English writing skills

【学生の意見等からの気づき】
英語ライティングの自学自習を指示する。

【その他の重要事項】
ビジネス英語の履修目安の英語力としてはTOEIC480点、英検2級以上とする。
中谷の担当する「経済学特講」をいずれ履修すること

【Outline (in English)】
The objective of this course is to develop your understanding of the basic principles, strategies, and tactics of effective negotiation in business contexts.　By using case study approaches, this course improves your business English skills. Students should Learn the fundamentals of leadership, business strategy, and international marketing in English through real business case studies.
Preparation and review
The standard allotted time for preparation and review for this class is 2 hours each.
40%for the midterm report
60%for the final report
The assessment will focus on the following criteria:
Proficiency in Business English.
Understanding of business leadership concepts covered in the textbook.
Ability to provide a brief summary of business cases in English.
Mastery of the basics of academic English writing.

MAN200TG（経営学 / Management 200）

会計学入門Ⅰ (前期メディア)

神谷　健司

カテゴリー：**前期メディア**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**前期**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
　この講義の中心は企業が公表している基本的な財務諸表である損益計算書、貸借対照表、キャッシュ・フロー計算書の仕組みの理解と、それらを用いた財務諸表分析の基礎を学ぶことである。

【到達目標】
　14回の講義を聞いて、毎回の復習を行うことによって、基本的な財務諸表である損益計算書、貸借対照表、キャッシュ・フロー計算書を読むことができ、基本的な財務諸表分析ができるようになることである。この講義では原則的には個別財務諸表に限定し、連結財務諸表の話は行わない。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP3,DP5」「日本文学科：DP1,DP2」「史学科：DP1」「地理学科：DP1,DP2,DP3」「経済学科：DP2,DP3」「商業学科：会計学・ファイナンス」に関連

【授業の進め方と方法】
　原則的には指定テキストに従って説明を行う。パワーポイントを使って説明を行うが、指定テキストを用意し、復習を行うことが必要である。また理解度を確認するために各回ごとに問題を数問用意しているが、指定テキストの問題を解くことによって、各回の重要な論点が身についているかどうかチェックすることが必要である。テキストは受講前に入手することが必要である。
　各回の小テストではシステム上で採点を実施し返却する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	通信教育部で会計学を学ぶ意義	通信教育部で会計学を学ぶ意義を考える。また会計分野 にはどのような領域があり、本通信教育部ではどのような科目があるかを紹介する。
第2回	財務会計の役割と会計の法的制度	財務会計情報が提供する社会的役割と制度会計の法的枠組みについて学ぶ。
第3回	財務会計の基本構造	財務会計の基本的構造として会計公準と企業会計原則における一般原則について学ぶ。
第4回	財務諸表とは	財務諸表とはどのようなものか。その体系や全体的な内容について学ぶ。
第5回	貸借対照表を読む（1）	貸借対照表の仕組み、資産の概念と分類、流動資産、固定資産、繰延資産について学ぶ
第6回	貸借対照表を読む（2）	負債の概念と分類、流動負債、固定負債、純資産の概念と分類、純資産の諸項目について学ぶ。
第7回	損益計算書を読む（1）	損益計算書の仕組み、損益計算のルール、売上総利益、営業利益といったことを学ぶ。
第8回	損益計算書を読む（2）	経常利益、税引前当期純利益、当期純利益といったことについて学ぶ。
第9回	キャッシュフロー計算書を読む	キャッシュ・フロー計算書の読み方について学習する。
第10回	財務諸表分析（1）	財務諸表分析の基本体系、百分比財務諸表分析について学習する。
第11回	財務諸表分析（2）	成長性分析、安全性の分析、キャッシュ・フロー情報の分析について学習する。
第12回	財務諸表分析（3）	収益性分析、1株当たり分析について学習する。
第13回	実際の企業の財務諸表を読む	実際の財務諸表を読むことによって、今まで学習した財務諸表分析についての基本的事項について復習する。
第14回	財務会計の基礎理論と本講義の全体のまとめ	財務会計において議論されている基本的な考え方や概念フレームワークの基礎などについて紹介するとともに、本講義の全体的なまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
　基本的な会計用語を覚えることと、テキストの練習問題を解くことが必要である。
　本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
大阪商工会議所編『ビジネス会計検定試験公式テキスト3級（第5版）』中央経済社、2023年

【参考書】
　谷武幸他『1からの会計（第2版）』碩学舎、2021年

【成績評価の方法と基準】
　最終的なメディアスクーリング試験にて成績評価を行う。小テストについては、途中の理解度を確認するために実施するものとする。

【学生の意見等からの気づき】
　特になし。

【学生が準備すべき機器他】
　パソコンなど。

【その他の重要事項】
　簿記の基本的知識がない方は並行して簿記Ⅰ・Ⅱの学習を行って欲しい。日商簿記3級程度の知識があると本講義の理解も深まります。

【Outline (in English)】
The purpose of this lecture is to understand disclosure systems in Japan,and the specific accounting procedures in applying accounting standards.　We learn accounting standards of assets items,liabilities items, and shareholders' equies items, revenues and expensesloss accounting. We also will learn the basic analysis methods of financial statements.

ECN100TG（経済学 / Economics 100）

経済学入門Ⅰ (前期メディア)

平田　英明

カテゴリー：**前期メディア**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**前期**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：
その他属性：**〈実〉**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ミクロ経済学の基本的な理論を理解します。ビジネスの現場で起きている事象や消費者行動を、ミクロ経済学的な視点より論理的に考えることができるようになることを目標にしていきます。

【到達目標】
現実の経済事象を理解する上で必要となる理論を学び、現実のビジネスや消費者行動の事例を挙げながら、理解を深めていくことです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP3,DP5」「日本文学科：DP1,DP2」「史学科：DP1」「地理学科：DP1,DP2,DP3」「経済学科：DP1,DP3,DP4」「商業学科：経済学,自由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

【授業の進め方と方法】
ミクロ経済学の基本的な理論を理解することを目標としてレクチャーを行います。そして、ビジネスの現場で起きている事象や消費者行動を、ミクロ経済学的な視点より論理的に考えることができるようになることを目標にしていきます。
中間課題に対しては、①採点もしくは個別評価・添削、②全体講評、のうちいずれかを実施します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	市場における需要と供給１	需要の基礎を学びます。
第2回	市場における需要と供給２	需要曲線のシフト、供給の基礎を学びます。
第3回	市場における需要と供給３	供給曲線のシフト、需要と供給の一致（均衡）の基礎を学びます。
第4回	市場における需要と供給４	均衡の変化について様々なケースを学びます。
第5回	弾力性とその応用１	需要の価格弾力性について学びます。
第6回	弾力性とその応用２	供給の価格弾力性、弾力性を考慮した場合の均衡分析について学びます。
第7回	需給と政府の政策１	価格規制の基礎を学びます。
第8回	需給と政府の政策２	課税の基礎を学びます。
第9回	消費者、生産者、市場の効率性１	余剰分析の基礎を学びます。
第10回	消費者、生産者、市場の効率性２	市場の効率性を余剰分析を使いながら理解していきます。
第11回	課税の応用１	余剰分析を使った課税の効果について学びます。
第12回	課税の応用２	弾力性を考慮して余剰分析を行い課税の効果を理解していきます。例題にも取り組みます。
第13回	国際貿易１	海外部門を含めた需給分析と余剰分析を学びます。
第14回	国際貿易２	貿易の余剰分析に関税や貿易制限の影響を学びます。また、国際的な貿易協定について学びます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
予習は不要ですが、しっかり復習しましょう。例題をきちんと自分で解き、しっかり理解してください。
本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。ただし、前半は準備よりも復習に時間をかけて欲しいと思います。直観的な理解を授業を通じて行った上で、理解を深めて頂くのがよいと思います。

【テキスト（教科書）】
『マンキュー経済学Ⅰミクロ編 （第4版）』N.グレゴリ・マンキュー著　（東洋経済新報社）
第3版をベースに授業は作成していますので、入手できるようでしたら第3版を使って頂いて全く問題ありません。基礎的な理論がメインのテキストですので、両版に大差はありません。

【参考書】
『クルーグマン ミクロ経済学』ポール・クルーグマン他著　（東洋経済新報社）

【成績評価の方法と基準】
中間リポート40%、リポート試験60%で評価する予定です。いずれも４択などの選択方式かそれに準ずる方式の問題です。長文での記述等を求めるようなタイプの出題はしません。
毎年、答案の提出について、指示通りでは無い対応をする方がいらっしゃいます。そのような場合は、仮に正答であったとしても加点しない可能性があります。きちんとこちらの指示に従った対応をお願いします。

【学生の意見等からの気づき】
中間試験（中間レポート）、リポート試験後、模範解答を求める声がたまに聞かれますが、原則として公開しません。全て授業内で教えている内容の範囲内の内容だからです。正答がわからない場合、自分がどのように解答を導出したかを説明の上、質問をするようにお願いしています（お一人、最大で３問程度までとします）。
中間試験がよくても、リポート試験が悪いケースが散見されます。いろいろ理由はあるかと思いますが、気を抜かないようにしましょう。

【その他の重要事項】
過去に試験について、Yahoo知恵袋やLine等で質問や共同作業をしているケースが見られました。このような不正行為については、厳正な対処をしますので、絶対にしないようにしてください。このようなオンライン等でのカンニングの可能性を踏まえ、試験期間は中間リポート、リポート試験ともにきわめて限定した期間（２日間程度＜毎年、『法政通信』に記載＞）で実施します。ご自身のカレンダーを確認の上、履修登録をしてください。
担当教員は、日本銀行における金融政策業務の経験を有します。また、国際通貨基金におけるコンサルタント業務の経験も有します。こういった実務的な経験を踏まえ、生きた経済事象の説明を心がけたいと考えます。

【Outline (in English)】
This class is designed for the students who study economics for the first time. This class offers lectures on introductory microeconomics. The theory of microeconomics is formal but this class tries to teach that as intuitively as possible. In doing so, the lecturer will give you a bunch of examples that can be observed in your real life and that are actually going on in real business. Understanding economics with relevant examples strengthen your knowledge of economics.

【実務経験のある教員による授業科目】
○

ECN100TF（経済学 / Economics 100）

経済学入門A（前期メディア）

平田　英明

カテゴリー：**前期メディア**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**前期**
受講可能な学科・学年：
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ミクロ経済学の基本的な理論を理解します。ビジネスの現場で起きている事象や消費者行動を、ミクロ経済学的な視点より論理的に考えることができるようになることを目標にしていきます。

【到達目標】
現実の経済事象を理解する上で必要となる理論を学び、現実のビジネスや消費者行動の事例を挙げながら、理解を深めていくことです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
ミクロ経済学の基本的な理論を理解することを目標としてレクチャーを行います。そして、ビジネスの現場で起きている事象や消費者行動を、ミクロ経済学的な視点より論理的に考えることができるようになることを目標にしていきます。
中間課題に対しては、①採点もしくは個別評価・添削、②全体講評、のうちいずれかを実施します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	市場における需要と供給１	需要の基礎を学びます。
第2回	市場における需要と供給２	需要曲線のシフト、供給の基礎を学びます。
第3回	市場における需要と供給３	供給曲線のシフト、需要と供給の一致（均衡）の基礎を学びます。
第4回	市場における需要と供給４	均衡の変化について様々なケースを学びます。
第5回	弾力性とその応用１	需要の価格弾力性について学びます。
第6回	弾力性とその応用２	供給の価格弾力性、弾力性を考慮した場合の均衡分析について学びます。
第7回	需給と政府の政策１	価格規制の基礎を学びます。
第8回	需給と政府の政策２	課税の基礎を学びます。
第9回	消費者、生産者、市場の効率性１	余剰分析の基礎を学びます。
第10回	消費者、生産者、市場の効率性２	市場の効率性を余剰分析を使いながら理解していきます。
第11回	課税の応用１	余剰分析を使った課税の効果について学びます。
第12回	課税の応用２	弾力性を考慮して余剰分析を行い課税の効果を理解していきます。例題にも取り組みます。
第13回	国際貿易１	海外部門を含めた需給分析と余剰分析を学びます。
第14回	国際貿易２	貿易の余剰分析に関税や貿易制限の影響を学びます。また、国際的な貿易協定について学びます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
予習は不要ですが、しっかり復習しましょう。例題をきちんと自分で解き、しっかり理解してください。
本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。ただし、前半は準備よりも復習に時間をかけて欲しいと思います。直観的な理解を授業を通じて行った上で、理解を深めて頂くのがよいと思います。

【テキスト（教科書）】
『マンキュー経済学Ⅰミクロ編 （第4版）』N.グレゴリ・マンキュー著　（東洋経済新報社）
第3版をベースに授業は作成していますので、入手できるようでしたら第3版を使って頂いて全く問題ありません。基礎的な理論がメインのテキストですので、両版に大差はありません。

【参考書】
『クルーグマン ミクロ経済学』ポール・クルーグマン他著　（東洋経済新報社）

【成績評価の方法と基準】
中間リポート40%、リポート試験60%で評価する予定です。いずれも４択などの選択方式かそれに準ずる方式の問題です。長文での記述等を求めるようなタイプの出題はしません。
毎年、答案の提出について、指示通りでは無い対応をする方がいらっしゃいます。そのような場合は、仮に正答であったとしても加点しない可能性があります。きちんとこちらの指示に従った対応をお願いします。

【学生の意見等からの気づき】
中間試験（中間レポート）、リポート試験後、模範解答を求める声がたまに聞かれますが、原則として公開しません。全て授業内で教えている内容の範囲内の内容だからです。正答がわからない場合、自分がどのように解答を導出したかを説明の上、質問をするようにお願いしています（お一人、最大で３問程度までとします）。
中間試験がよくても、リポート試験が悪いケースが散見されます。いろいろ理由はあるかと思いますが、気を抜かないようにしましょう。

【その他の重要事項】
過去に試験について、Yahoo知恵袋やLine等で質問や共同作業をしているケースが見られました。このような不正行為については、厳正な対処をしますので、絶対にしないようにしてください。このようなオンライン等でのカンニングの可能性を踏まえ、試験期間は中間リポート、リポート試験ともにきわめて限定した期間（２日間程度＜毎年、『法政通信』に記載＞）で実施します。ご自身のカレンダーを確認の上、履修登録をしてください。
担当教員は、日本銀行における金融政策業務の経験を有します。また、国際通貨基金におけるコンサルタント業務の経験も有します。こういった実務的な経験を踏まえ、生きた経済事象の説明を心がけたいと考えます。

【Outline (in English)】
This class is designed for the students who study economics for the first time. This class offers lectures on introductory microeconomics. The theory of microeconomics is formal but this class tries to teach that as intuitively as possible. In doing so, the lecturer will give you a bunch of examples that can be observed in your real life and that are actually going on in real business. Understanding economics with relevant examples strengthen your knowledge of economics.

MAN200TG（経営学 / Management 200）

経営戦略論Ⅰ (前期メディア)

李　瑞雪

カテゴリー：**前期メディア**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**前期**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、経営学における中核領域の一つである経営戦略論に関する概論的講義である。経営戦略論の基本的な理論や概念を理解するとともに、具体的な企業の取り組みとの関連について検討することを通じて、企業の戦略的行動を分析する能力を養う。

【到達目標】
主要な経営戦略に関する理論と概念を使って、現実の経営戦略を説明し、分析することができるようになることを、本講義の主たる到達目標としている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「法律学科：,DP3,DP5」「日本文学科：DP1,DP2」「史学科：DP1」「地理学科：DP1,DP2,DP3」「経済学科：DP4,DP5」「商業学科：経営学・商学」に関連

【授業の進め方と方法】
ある程度大人数となることがが予想されるため、基本的には講義方式で行うが、講義中で演習問題と具体的なケースを用いた学習を行う。スライド資料は各自確認すること。質問や発言等は「学習質疑制度」を参考に学習に関する質問やディスカッションで行うこと。中間課題に対しては、①採点もしくは個別評価・添削、②全体講評、③模範解答や優秀リポートの掲示、のうちいずれかを実施します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第01回	イントロダクション	講義内容の構成、戦略の定義、経営戦略の定義、経営ビジョンと経営戦略などの説明
第02回	プランニング・アプローチ(1)	製品・市場ポートフォリオ、戦略的意思決定と業務的意思決定、成長ベクトル、シナジー、企業目標のヒエラルキー
第03回	プランニング・アプローチ(2)	戦略策定の手順、SWOT分析、PPM、ビジネス・スクリーン、バランスド・スコアカード
第04回	ポジショニング・アプローチ（1）	S-C-Pモデル（産業構造- 企業行動- 経営業績モデル）、ファイブ・フォーセズ・モデル、ハーフィンダール指数、参入障壁
第05回	ポジショニング・アプローチ（2）	PIMSモデル、戦略グループ、移動障壁
第06回	ポジションニング・アプローチ(3)-1	産業構造と戦略的機会（前半）。市場分散型産業、新興産業、成熟産業、衰退産業、国際産業、ネットワーク産業、超競争産業、コア無し産業、集約・統合戦略、先行者優位、市場リーダーシップ戦略、ニッチ戦略、収穫戦略、撤退産業、勝者総取り戦略など
第07回	ポジショニング・アプローチ(3)-2	産業構造と戦略的機会（後半）。国際産業、ネットワーク産業、超競争産業、コア無し産業、マルチナショナル戦略、グローバル戦略、トランスナショナル戦略、デファクト・スタンダード戦略、勝者総取り戦略、先制破壊戦略、埋没コスト、破滅的競争など
第08回	資源アプローチ, RBV(1)	経営資源、経営資源の異質性と固着性、VRIO分析フレームワーク、一時的競争優位と持続的競争優位
第09回	資源アプローチ, RBV(2)	経営資源模倣困難の要因、経路依存性、社会的複雑性のある経営資源、経営資源保有のパラドックス、経営資源蓄積のメカニズム、戦略的意図、コア・コンピタンスの探究、バリュー・チェーンなど
第10回	ゲーム・アプローチ(1)	価値相関図（バリュー・ネット）、「付加価値」の概念、競争と協調、顧客への「本質的サービス」の分析視点
第11回	ゲーム・アプローチ(2)	「価値」貢献度、明示的ルールと暗黙の認識、MFC条項とMCC条項、戦略的補完関係、意図的抑止（contrived deterrence）
第12回	学習アプローチ、創発戦略(1)	分析型・計画型アプローチとの違い、意図された戦略と実現された戦略、プロセス重視・学習重視、間接的戦略、帰納的戦略
第13回	学習アプローチ、創発戦略(2)	学習の「場」、実験による学習、「反省」の重視、ダイナミック・シナジ
第14回	一般戦略と競争優位(1)	競争優位とその累計、スタック・イン・ザ・ミドル、三つの一般戦略、見える差別化と見えざる差別化、垂直的差別化と水平的差別化
第15回	一般戦略と競争優位(2)	競争優位とその累計、スタック・イン・ザ・ミドル、三つの一般戦略、見える差別化と見えざる差別化、垂直的差別化と水平的差別化

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
日頃に日本経済新聞、日経ビジネス、Bloomberg Businessweekなどの経済紙、ビジネス誌を読む習慣を身に着け、とりわけ企業の戦略的取り組みをめぐる記事や論説を読んで考えることをお勧めします。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
青島矢一・加藤俊彦『競争戦略論』東洋経済新報社

【参考書】
M．E．ポーター『競争の戦略』ダイヤモンド社、デビッド・J．コリス＋シンシア・A・モンゴメリー『資源ベースの経営戦略論』東洋経済新報社、Jay B. Barney『企業戦略論』ダイヤモンド社

【成績評価の方法と基準】
中間リポート（50％）とリポート試験（50％）で評価します。

【学生の意見等からの気づき】
シェアリングエコノミーやユニコーン企業などに関わる経営戦略の事例を紹介し解説してほしいとのご意見をいただいております。今後の授業内容改訂時に対応させていただきたいと思います。

【その他の重要事項】
主な関連科目として、経営学総論、国際経営戦略論、戦略意思決定論、経営分析、日本経営論、経営組織論、マーケティング論、経営管理論などが挙げられます。

【Outline (in English)】
This course deals with the strategic management, which is one of the core fields of business administration. The goal of this course is to understand the basic theories and concepts related to the strategic management. At the end of the course, students are expected to be able to analyze and assess companies' stratigic activities based on relevant theoretical framworks and concrete cases. After each class meeting, students will be expected to spend more two hours to review the course content. Final grade will be calculated according to the following process. Mid-term report (50%),and term-end examination (50%).

MAN200TG（経営学 / Management 200）

マーケティング論Ⅰ(前期メディア)

竹内　淑恵

カテゴリー：**前期メディア**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**前期**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：
その他属性：**〈実〉**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

経済のサービス化、グローバル化、ICTの進展や消費者ニーズの多様化など、市場環境は変化しています。こうした環境変化や取引対象の変化に伴って、マーケティングの概念や対象にも変遷があります。しかしながら、その本質は、消費者ニーズを満たす価値を提供する仕組みづくりに集約されるでしょう。

本講義では、顧客創造に焦点を当て、マーケティング上の課題に対してどのように取り組めばよいのか、どのような解決策があるのかを学びます。毎回、具体的なケースを通じてマーケティングの基礎を習得します。

【到達目標】

・マーケティングに関する知識と技術を習得し、マーケティングの意義や役割について学ぶ。
・消費者購買行動の特徴を理解し、顧客の視点からマーケティング活動を計画的、合理的に行う能力と態度を身につける。
・レポート課題に取り組むことにより、文章作成・表現力、情報収集・分析力を養う。
・マーケティングを通じて企業経営に対して興味・関心を持ち、新製品情報など市場の動向に敏感に反応する力を涵養する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP3,DP5」「日本文学科：DP1,DP2」「史学科：DP1」「地理学科：DP1,DP2,DP3」「経済学科：DP4,DP5」「商業学科：経営学・商学」に関連

【授業の進め方と方法】

・講義形式で授業を進めます。
・基本的には使用するテキストに沿って丁寧に解説します。
・中間課題に対しては、システム上で採点を実施し返却します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第01回	第1章　マーケティング発想法 －ニューコークとタイド	消費者のニーズとウォンツについて、性能ではなく、価値で考えることの重要性を学ぶ。
第02回	第2章　マーケティング・ミックスによる顧客創造 －ネスレ日本 キットカット	キットカットの事例を用い、マーケティングの4P(製品、価格、流通、プロモーション)によっていかに顧客創造を行うかを学ぶ。
第03回	第3章 製品による顧客創造　－カモ井加工紙株式会社 マスキングテープ「mt」	マスキングテープ「mt」の事例を用い、製品開発と価値共創のパートナーとしてのユーザー等について学ぶ。
第04回	第4章 価格による顧客創造　－サントリー ザ・プレミアムモルツ	プレミアムモルツの事例を用い、価格設定と価格維持等の価格マネジメントについて学ぶ。
第05回	第5章 チャネルによる顧客創造 －ネスレ日本 ネスカフェ アンバサダー	ネスレの事例を用い、コーヒービジネスの既存チャネルの管理、ネスレによるチャネルの構築と管理、これからのチャネル創造について学ぶ。
第06回	第6章 コミュニケーションにおける顧客創造　－ファーストリテイリング ヒートテック	ヒートテックの事例を用い、訴求点の設定(焦点を絞った差別化された表現)、広告コミュニケーション段階の理解と効果的なメディアの利用を学ぶ。
第07回	第7章 顧客理解　－ライオン株式会社「Ban 汗ブロックロールオン」	Ban汗ブロックロールオンの事例を用い、マーケティングリサーチ、製品開発における各種調査、リサーチにおける留意点を学ぶ。
第08回	第8章 関係構築 －ガンホー・オンライン・エンターテイメント パズドラ	パズドラの事例を用い、関係性パラダイムと交換パラダイム、プラットフォームビジネス等を学ぶ。
第09回	第9章 デジタル・マーケティング　－ハウス「ウコンの力」	ウコンの力を事例とし、デジタルマーケティングによる顧客創造、接点構築におけるメディアの使い分け、デジタルメディアの役割等を学ぶ。
第10回	第10章 ディマンドチェーン　－カルビー ポテトチップス	カルビーポテトチップスを事例とし、在庫の役割、在庫管理の重要性、2つの在庫管理のデザイン等を学ぶ。
第11回	第11章 ブランド構築　－マンダム ギャツビー	ギャツビーを事例とし、ブランド構築における要点、ブランド構築の鍵概念、ブランドの活性化を学ぶ。
第12回	第12章 営業活動　－カゴメ 瀬戸内レモン	カゴメ瀬戸内レモンを事例とし、営業活動の多様さ、営業活動を進めるためのポイント等を学ぶ。
第13回	第13章 マーケティングの戦略展開　－花王 ヘルシア緑茶	花王ヘルシア緑茶を事例とし、戦略とは何か、マーケティングと戦略、代表的な戦略定石を学ぶ。
第14回	第14章 社会共生　－トヨタ プリウス	プリウスを事例とし、社会共生を目指すマーケティング、社会的課題の解決への取組みの重要性、社会共生を実現する仕組みについて学ぶ。
第15回	第15章 マーケティング3.0　－P&G	P&Gのマーケティングの歩みを事例とし、マーケティングの構図・発展について学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・マーケティングでは理論と実務の融合が重要です。毎回の講義内容を復習する意味でも、市場での実践の事例を見て、洞察することを各自フィールドワークとして実施してください。スーパーやドラッグストアなどの店頭に行ったり、イベントやキャンペーンに参加してみたり、授業で学習した内容を実際の製品・サービスで確認・経験してみましょう。
・今年度の配布資料には、新しいデータ等を参考資料として追加します。これらの資料は、企業が投資家向けに毎年公表しているIR情報である「統合報告書」に基づいています。講義の中では言及しませんが、追加資料も各自で確認してください。また、出所をURLで明示しますので、企業の経営戦略やマーケティング戦略等を「統合報告書」で一読するのも大変良い学習になります。チャレンジしてみてください。
・関連科目としてマーケティング論Ⅱがあります。あわせて履修することをお勧めします。
・本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

石井淳蔵・廣田章光・坂田隆文『1からのマーケティング・デザイン』碩学舎(2016年)。

【参考書】

・西尾チヅル編著『マーケティングの基礎と潮流』八千代出版(2007年)。
・和田充夫・恩蔵直人・三浦俊彦『マーケティング戦略第5版』有斐閣(2016年)。
・コトラー, P., G. アームストロング, 恩藏 直人『コトラー、アームストロング、恩藏のマーケティング原理』丸善出版(2014年)。

【成績評価の方法と基準】
・中間テスト1,2は各々25％、トータル50％を平常点として扱います。中間テストを受けていないと成績評価に大きく影響しますので、必ずテストを受けてください。
・最終課題であるレポート試験を50％として扱い、平常点と加算して評価します。
・平常点50点＋レポート課題50点、計100点満点とし、60点以上が合格となります。

【学生の意見等からの気づき】
・授業を受講して質問等がある場合は、「お知らせ」や「学習に関する質問」を活用してください。
・授業の受講に加えて、レポート課題が負担になる、大変だという感想を持つ受講生もいると思いますが、「単位取得」のため、それ相応の努力をお願いします。
・皆さんの勉学へ向けた努力と熱意を期待しています。一緒に頑張ってマーケティング論を勉強しましょう！

【その他の重要事項】
メーカーのマーケティング本部広告制作部と広告会社の戦略プランニング室に計20年間勤務した経験を有する教員が、理論と実務の融合を目的に、毎回具体的な事例を取り上げて、マーケティングの理論を解説する。

【Outline (in English)】
Market environments, such as progress of the service economy, globalization, ICT and diversification of consumer needs, are changing. With changes of those environments and trading objective, there have been transitions in the concept and objective of marketing. However, its essence is ultimately to create a mechanism providing value to satisfy consumer needs. In this course, we will focus on customer creation and learn how to deal with marketing problems and how to solve them. In each lecture, we will learn the basics of marketing through case studies.
Before /after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.
Your overall grade in the class will be decided based on the following: two mid-term examinations 25%+25%, and term-end report 50%.

【実務経験のある教員による授業科目】
○

MAN300TG（経営学 / Management 300）

管理会計論Ⅰ(前期メディア)

北田　皓嗣

カテゴリー：**前期メディア**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**前期**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
管理会計とは、組織管理に不可欠な経済的情報を提供する理論と技術である。したがって、管理会計の学習にあたっては、単に計算テクニックを使えるというだけでなく、組織実践との関係で、経営管理とは何であるかについて理解する必要がある。そのため講義では、企業の構想を実現するため会計の仕組みについて、組織構造との関係のなかで理解を試みる。

【到達目標】
経営管理問題と管理会計との関係についての知識の習得を目指します。管理会計情報が経営管理における問題ごとに異なる会計情報が利用されること、またそのときに必要となる財務・非財務情報について理解することを目指します。また関連した計算方法を使えるようにすることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP3,DP5」「日本文学科：DP1,DP2」「史学科：DP1」「地理学科：DP1,DP2,DP3」「経済学科：DP2,DP3」「商業学科：会計学・ファイナンス」に関連

【授業の進め方と方法】
講義形式で授業を進めるとともに、随時、計算問題や復習のための問題演習を取り入れていきます。そのため、講義を聴くだけでなく、授業中に設定されている問題についても必ず取り組むようにしてください。
中間課題に対しては、①採点もしくは個別評価・添削、②全体講評、③模範解答や優秀リポート等の掲示、のうちいずれかを実施します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の概要と、費用の考え方の紹介
第2回	固定費と変動費１	固定費と変動費、貢献利益
第3回	固定費と変動費２	損益分岐点
第4回	固定費と変動費３	固定費のマネジメント
第5回	固定費と変動費４	固定費とビジネスモデル
第6回	固定費と変動費５	セールズミックス
第7回	固定費と変動費６	固変分解
第8回	マネジメントコントロールシステム１	PDCAサイクル
第9回	マネジメントコントロールシステム２	上司と部下の関係
第10回	マネジメントコントロールシステム３	４つのコントロール
第11回	マネジメントコントロールシステム４	コストセンター・プロフィットセンター
第12回	経営計画１	計画の種類
第13回	経営計画２	中期経営計画とその改定
第14回	経営計画３	短期利益計画

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義後に復習を通じて知識の習得を行ってください。
本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
谷武幸(2013)『エッセンシャル管理会計（第3版）』中央経済社

【参考書】
浅田孝幸監訳(2008)『管理会計のエッセンス』同文舘

【成績評価の方法と基準】
「中間リポート」40％と「メディアスクーリング試験」60％との総合評価とする。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【Outline (in English)】
Management Accounting is an essential tool that enhances a manager's ability to make effective economic decisions. This course teaches students how to extract and modify costs in order to make informed managerial decisions.

MAN300TG（経営学 / Management 300）

税務会計Ⅰ(前期メディア)

大下　勇二

カテゴリー：**前期メディア**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**前期**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「税務会計Ⅰ」では、会社の中心的な税金である法人税の課税所得計算の基礎とその基本的考え方を学習します。これにより、税務会計の基礎を修得し、財務会計との関係と考え方の違いを理解した上で、今日的な企業課税の諸問題を的確に議論できる能力の涵養を目的とします。

【到達目標】
法人税の基礎、課税所得計算の基礎、益金の計算、原価配分を中心とした損金の計算など、法人税法における課税所得計算の基本的なフレームワークを理解し、財務会計と比較しながら税務会計特有の考え方を理解することを目標とします。これにより、法人課税上の諸問題を考え理論的に整理できる基礎的能力の修得を目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP3,DP5」「日本文学科：DP1,DP2」「史学科：DP1」「地理学科：DP1,DP2,DP3」「経済学科：DP4,DP5」「商業学科：会計学・ファイナンス」に関連

【授業の進め方と方法】
授業は、わが国法人税法の課税所得計算に関する主要項目をスライドに基づき講義する形で進めて行きます。各自各章の最後の○×問題を解答した上で次の章に進みます。また、受講生には中間レポートを提出してもらいます。
中間レポートに対しては、提出期間終了後に模範解答を開示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
①	法人税の基礎(1)	法人税の基礎を学習し、法人課税の基本的考え方を理解する。
②	法人税の基礎(2)	法人税の基礎を学習し、法人課税の特徴を理解する。
③	課税所得計算の基礎(1)	課税所得計算の基礎を学習し、財務会計の利益計算との関係を理解する。
④	課税所得計算の基礎(2)	課税所得計算の基礎を学習し、課税所得計算の特徴を理解する。
⑤	売買損益等の計算(1)	売上収益の認識等を中心に売買損益計算の基礎を学習する。
⑥	売買損益等の計算(2)	売上収益の原則的な認識基準に対する例外的な処理を学習する。
⑦	その他の収益の計算(1)	受贈益、受取配当等(前半)の営業外収益の計算の基礎を学習する。
⑧	その他の収益の計算(2)	受取配当等(後半)の営業外収益の計算の基礎を学習する。
⑨	売上原価の計算(1)	売上原価の計算の仕組みを学習する。
⑩	売上原価の計算(2)	棚卸資産の期末評価の考え方を学習する。
⑪	有価証券の譲渡原価の計算	有価証券の譲渡原価の仕組みを学習し、有価証券の期末評価の考え方を理解する。
⑫	固定資産の減価償却(1)	減価償却計算の仕組み、償却の特例および取得原価の算定の考え方を学習する。
⑬	固定資産の減価償却(2)	耐用年数、残存価額および償却方法の考え方を理解し、償却限度額の計算を学習する。
⑭	繰延資産の償却	税法上の繰延資産の考え方を学習し、税法固有の繰延資産を理解する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
事前に指定した通教テキストを読んでおくこと。また、中間レポートの提出が求められます。
本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
通信教育部テキスト
大下勇二著『税務会計Ⅰ・Ⅱ』法政大学,2019年

【参考書】
必要に応じて指示する予定。

【成績評価の方法と基準】
中間レポートの提出(必須)を条件として、修了試験(100%)により評価します。中間レポートを提出しないで修了試験を受けても、単位は取得できませんので注意して下さい。

【学生の意見等からの気づき】
法人税課税の問題について、各自自分なりの問題意識をもって授業に参加してもらう。

【Outline (in English)】
The objective of Tax Accounting Ⅰ is to understand the foundations of corporate tax accounting in Japan. You will learn the basics of taxable income of corporate income tax which is the core tax of the company.
Student will be expected to have completed the quiz and mid-term report. Your overall grade will be decided based on term-end examination(100%).

ECN300TG（経済学 / Economics 300）

国際金融論Ⅰ(前期メディア)

横内　正雄

カテゴリー：**前期メディア**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**前期**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
現代はグローバル化の時代といわれるが、その中でも金融グローバル化の現象はなはなしく、日々のニュースなどでそれに関連した事柄が取りあげられないことはないほどである。国際金融論Ⅰは、こうした金融グローバル化の背後にある外国為替や国際収支などの国際金融に関する基本的な概念と基礎的な理論を学ぶ。

【到達目標】
国際金融論Ⅰは、現実の世界における様々な国際金融現象の背後にある基礎的な理論を学び、その意味を理解することを目標とする。この講義を通じて日頃われわれが耳にする国際金融のニュースが理解しやすくなれば良いと考える。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「法律学科：,DP3,DP5」「日本文学科：DP1,DP2」「史学科：DP1」「地理学科：DP1,DP2,DP3」「経済学科：DP1,DP5」「商業学科：経済学」に関連

【授業の進め方と方法】
講義はパワーポイントを用いるとともに、個別のテーマについて毎回完結した内容の講義を行う。また、できる限り多くの資料を用いることによって理解しやすいように努める。
中間課題に対しては、①採点もしくは個別評価・添削、②全体講評、③模範解答や優秀リポート等の掲示、のうちいずれかを実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	世界経済の中における位置を確認するとともに国際金融の特徴について学ぶ
第2回	国際取引と外国為替	国際貿易取引と国際送金の流れと外国為替の基本について学ぶ
第3回	外国為替相場	外国為替の本質と外国為替相場の種類について学ぶ
第4回	外国為替市場	外国為替市場の構造と銀行による為替リスク管理について学ぶ
第5回	為替相場制度と為替介入	固定相場制および変動相場制のメカニズムと外国為替市場への介入について学ぶ
第6回	先物為替と金利平価	金利裁定取引とその結果成立する金利平価について学ぶ
第7回	国際収支	国際収支の概念・項目と国際収支表の作成原理について学ぶ
第8回	国際金融市場	国際金融市場の構造と現状について学ぶ
第9回	国際通貨	国際通貨の基本理論と現状について学ぶ
第10回	外国為替相場の理論(1)	外国為替相場に関する国際収支説、為替心理説、購買力平価説を学ぶ
第11回	外国為替相場の理論(2)	アセットアプローチの考え方とそのモデルについて学ぶ
第12回	為替リスクとデリバティブ	為替リスクの種類とその管理手法としてのデリバティブについて学ぶ
第13回	国際収支の理論(1)	弾力性アプローチの考え方を学ぶ
第14回	国際収支の理論(2)	貯蓄投資バランスアプローチの考え方を学ぶ
第15回	国際金融とマクロ経済政策	マンデルフレミングモデルとその政策的インプリケーションを学ぶ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
事前に国際金融論に関する文献の中の該当する箇所を読んで講義に臨むと理解しやすい。文献は特に指定しないが、以下の参考文献として挙げているもののうち初級レベルのものが読みやすい。また、日頃からテレビや新聞などの国際金融に関するニュースに関心を持っておくことが望ましい。
本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
テキストは使用しない。

【参考書】
☆初級レベルの参考書
秦忠夫・本田敬吉・西村陽造『国際金融のしくみ』［第４版］有斐閣、2012年
川本明人『外国為替・国際金融入門』中央経済社、2012年
中條誠一『現代の国際金融を学ぶ』［第2版］勁草書房、2015年
清水順子・大野早苗・松原聖『徹底解説 国際金融』日本評論社、2016年
永易淳・江阪太郎・吉田裕司『はじめて学ぶ国際金融論』有斐閣、2015年
奥田宏司・代田純・櫻井公人編『現代国際金融』［第３版］法律文化社、2016年
佐々木百合『国際金融論入門』新世社、2017年
☆中級レベルの参考書
高木信二『入門 国際金融』［第４版］日本評論社、2011年
勝悦子『新しい国際金融論』有斐閣、2011年
川上孝夫・藤田誠一編『現代国際金融論』［第４版］有斐閣、2012年
藤井英次『コア・テキスト国際金融論』［第2版］新世社、2014年
小川英治・岡野衛士『国際金融』東洋経済新報社、2016年
☆資料集
神田眞人編『図説 国際金融 2015-2016年版』財形詳報社、2015年

【成績評価の方法と基準】
中間レポート（30％）と試験（70％）による。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【その他の重要事項】
特になし。

【Outline (in English)】
The purpose of this lecture is to understand the basic concepts and theory of international finance. In particular, learning about the concepts and theory of foreign exchange, the concept and theory of the balance of payments, etc. can help you to understand the phenomena of modern international finance.

MAN300TG（経営学 / Management 300）

経営組織論(前期メディア)

寺本　直城

カテゴリー：**前期メディア**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**前期**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
経営組織論は，経営組織についての基礎知識から最新の組織研究の動向までを理解することを目的としている。私たちの社会生活は様々な組織によって成立している。会社や大学，役所やNPOなど全て組織であり，これらの組織なしに我々の社会生活は成り立たない。経営組織論の授業では，「組織とは何か」といった経営組織の基礎的事項から，組織のデザインや組織論の系譜，組織の中の人々のモチベーションやリーダーシップなどについて理解し，それらの知見を習得することを目的とする。

【到達目標】
本授業の到達目標は次の３点にある。第１に，受講生が経営組織についての基礎的な知識や概念を理解することである。第２に，受講生がそれらの知識や概念を自らが興味関心を持っている組織の分析に活用することができるようになることである。そして，最後に受講生が自らの就職先や自らが所属したり関係をもったりすることになる組織の経営について考えられるよになることである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
【授業の進め方と方法】
この授業は，講義形式の形態を採用して進めることとなる。毎回，オンデマンドで配信される講義を視聴し，自分なりに理解するよう努めること。講義を視聴する際には，自分なりのノートを作成することが望ましい。
【課題等に対するフィードバック方法】
中間テストは当該回までの内容を盛り込んだ選択肢式の試験とし、システム上で採点を実施し返却する。また，質問等については適宜個別にフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
講義	経営組織論の概要ー経営組織とは何で，経営組織論とはどのような学問かー	これから経営組織について議論・研究するにあたって，その前提となる経営組織の概念や，経営組織論の論点について，その背景なども含めて概説する。
講義	官僚制組織	近現代に出現した，あるいは，するであろうと考えられた組織の理念系である官僚制組織について概説する。官僚制組織がどのような思想的背景から現れ，そしてどのような特徴を持つのか，そしき官僚制組織がもつ逆機能について議論する。
講義	経営組織の形態	組織の基本的な形，そして，実際に企業が採用している組織の形について，その特徴や利点，欠点について概説する。
講義	経営組織論の系譜１ー科学的管理法の展開ー	経営組織論の発展の礎に位置付けられ，経営学・経営組織論の萌芽的な理論である科学的管理法について議論する。科学的管理法が出現した時代背景や，当時の組織が持っていた問題点を指摘したうえで，科学的管理法の基本的な考え方，そしてその結果，貢献と限界について議論する。
講義	経営組織論の系譜２ー人間関係論ー	科学的管理法の限界を看破し，組織における人間の精神的側面について発見したホーソン実験について概説する。ホーソン実験の概要，そして，そこでの発見事実などについて議論する。
講義	経営組織論の系譜３ー近代組織論の萌芽ー	近代の経営組織論の基礎を気づいた近代組織論について，その代表的論者であるBarnardとSimonに焦点をあて，彼らの経営組織論について概説する。
講義	経営組織のコンティンジェンシー理論	オープン・システムとして経営組織を捉えようとするコンティンジェンシー理論について，代表的な議論をいくつか概説する。コンティンジェンシー理論と，それらの諸理論から発生した，組織の不確実性への対応について議論する。
講義	組織と個人の関係ー組織行動論の考え方ー	人間関係論以来，組織と個人の関係は切っても切れない相互関係にあることが了解されてきた。人間関係論以降，発展してきた組織行動論の考え方を中心に，組織と個人の関係について議論する。
講義	経営組織とパーソナリティ	個人の心理的特性のことであるパーソナリティと組織の関係について議論する。組織は全く異なる個人の集合体であり，その異なる個人を理解し，それぞれを適合的な職務に配置する必要がある。そういった意味におけるパーソナリティと組織の関係について議論するのが本講義のテーマである。
講義	組織における人々のモチベーション	組織がよりよく活動するためには，組織の人々がモチベーションをもっていることが重要である。本講義ではモチベーションとは何か，そして今まで組織論のなかでモチベーションがどのように議論されてきたのか代表的な理論について概説する。
講義	組織におけるリーダーシップ	リーダーとは誰で，リーダーシップと何かといったリーダーシップ論の基礎的な概念について概説し，既存のリーダーシップ理論において議論されてきたことについて概観する。
講義	経営組織と文化１ー組織文化論ー	経営組織と文化にはどのような関係があるのか，そして組織内部の文化として位置づけられる組織文化について，その機能や構成について議論する。

講義	経営組織と文化２－国・地域の文化と経営組織－	経営組織が活動していく際には，経営組織が活動する国や地域の文化の影響を色濃く受けることになる。それを数値化したHofstedeの議論を概観しながら，国・地域の文化と経営組織の関係について議論する。
講義	組織から組織化へ	今まで組織は客観的な実在物であるという前提のもと議論が進められてきた。しかしながら，最近では，組織は社会的な構成としてみなす議論が出現しつつあす。本講義では，その中でも代表的な組織化論について，その背景から，その実際について議論する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
教科書を使用しない

【参考書】
各回の講義を行うのに使用・参考にした文献は，各回の講義の最後に紹介するので，気になった場合はそれらを参考にされたい。

【成績評価の方法と基準】
中間テストとメディアスクーリング試験を総合的に評価する。中間テストは中間テストを行う当該回までの知識や理解度を問う選択肢式の問題とし、メディアスクーリング試験は全ての回を網羅した内容として、その知識や理解度を問う構成となっている。中間テスト30%、メディアスクーリング試験70%として成績評価とする。

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバック事項なし

【Outline (in English)】
This course aims to provide students with an understanding from basic knowledge to the latest trends in organizatinal studies. The goals of this course are to understand basic knowledge and concepts about organization, apply them to the analysis of the organization students are interested in, and be think about the management of the organizaion in which students work and to which they belong or with with they have a relationship for students. Before/after each class, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Final grade will be calculated according to the following process, Mid-term examination (30%) and term-end examination (70%).

ECN300TG（経済学 / Economics 300）

ファイナンス論Ⅰ（前期メディア）

高橋　秀朋

カテゴリー：**前期メディア**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**前期**
受講可能な学科・学年：
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義は、金融もしくはファイナンスの基本的な知識である、①マネー（貨幣）の時間価値の概念、②一物一価の法則と裁定、③リスクに関する知識を解説し、その知識を応用して、債権の価格評価、債券のポートフォリオ管理、リスク分散化など実際の資産運用で実践されている知識を解説する。

【到達目標】
本講義の目標は、資産運用方法および投資戦略のベースとなる理論的背景を理解し、銀行や保険会社が預金者から預かったお金が実際にどのように運用されているのか、それらの行動が経済に対してどのようなインパクトを与えるかを考察できる力の基礎を身につけることにある。また、株価データを分析し、実証分析がきるようになるために必要な確率や統計の基礎知識も身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
本講義は講義形式で視聴してもらう形式となる。受講にあたっては、数学、統計、確率の知識に関して、ある程度身についているものとして進める。しかしながら、それらの知識がない学生にも配慮して、できる限り数値例を多く導入し、わかりやすく解説していく。そのため、講義では随時EXCELを利用した演習を取り入れていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	金融の機能	異時点間、異状態間の交換
2	マネーの時間価値	現在価値、将来価値
3	実効年利率	連続時間モデルにおける複利計算
4	債券価格	債券価格の計算、デュレーション
5	債券リスク管理	イミュニゼーション
6	キャピタルバジェッティング	サンクコスト、節税効果
7	企業価値の計算1	WACC、FCFの計算
8	企業価値の計算2	DCF法による企業価値の計算
9	資本構成の影響	資本構成と企業価値
10	リスクとその計量化	期待値、分散、標準偏差
11	リスク分散化	共分散
12	現代ポートフォリオ理論1	効率的フロンティア
13	現代ポートフォリオ理論2	資本市場線の記述
14	現代ポートフォリオ理論3	CAPMの導出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義ではEXCELを利用し計算を行う機会が多々ある。そのため、受講にかかる時間は実際の動画視聴にかかる時間より長くなることが予想され、それらは受講生に受講時間外で補ってもらう必要がある。目安として、講義の準備学習・復習時間（特に、EXCELの演習）は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
指定なし

【参考書】
手嶋宣之『ファイナンス入門』（ダイヤモンド社、2011年）
ツヴィ・ボディー、ロバート・マートン（著）、大前恵一朗（翻訳）『現代ファイナンス論 第2版』（ピアソン・エドゥケーション、2011年
Z. Bodie, A. Kane, A. Marcus『Essentials of Investments 10th ed.』（McGraw-Hill, 2016）
S. Benninga『Financial Modeling 5th ed.』（The MIT Press, 2022）

【成績評価の方法と基準】
期末課題レポート100%で評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】
講義内容理解のためのフィードバックを可能な限り行い、学生の内容理解に尽力する。

【学生が準備すべき機器他】
講義ではEXCELを利用した演習を中心に進めるので、受講生はMS EXCELが利用可能なPCを準備して講義に臨むこと。

【Outline (in English)】
This course provides an introduction to the theories and the methods in investment analysis such as present value, yield to maturity, arbitrage, risk, and risk diversification. This course also introduces how the theories and methods in investment are utilized into the practical world. The goal of this course is to acquire basic skills concerning risk management. Before each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content. Students are also required to spend two hours to review the content after each class. Final grade will be calculated according to the term-end report (100%).

ECN300TF（経済学 / Economics 300）

現代ファイナンスA(前期メディア)

高橋　秀朋

カテゴリー：**前期メディア**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**前期**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義は、金融もしくはファイナンスの基本的な知識である、①マネー（貨幣）の時間価値の概念、②一物一価の法則と裁定、③リスクに関する知識を解説し、その知識を応用して、債権の価格評価、債券のポートフォリオ管理、リスク分散化など実際の資産運用で実践されている知識を解説する。

【到達目標】
本講義の目標は、資産運用方法および投資戦略のベースとなる理論的背景を理解し、銀行や保険会社が預金者から預かったお金が実際にどのように運用されているのか、それらの行動が経済に対してどのようなインパクトを与えるかを考察できる力の基礎を身につけることにある。また、株価データを分析し、実証分析がきるようになるために必要な確率や統計の基礎知識も身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
本講義は講義形式で視聴してもらう形式となる。受講にあたっては、数学、統計、確率の知識に関して、ある程度身についているものとして進める。しかしながら、それらの知識がない学生にも配慮して、できる限り数値例を多く導入し、わかりやすく解説していく。そのため、講義では随時EXCELを利用した演習を取り入れていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	金融の機能	異時点間、異状態間の交換
2	マネーの時間価値	現在価値、将来価値
3	実効年利率	連続時間モデルにおける複利計算
4	債券価格	債券価格の計算、デュレーション
5	債券リスク管理	イミュニゼーション
6	キャピタルバジェッティング	サンクコスト、節税効果
7	企業価値の計算1	WACC、FCFの計算
8	企業価値の計算2	DCF法による企業価値の計算
9	資本構成の影響	資本構成と企業価値
10	リスクとその計量化	期待値、分散、標準偏差
11	リスク分散化	共分散
12	現代ポートフォリオ理論1	効率的フロンティア
13	現代ポートフォリオ理論2	資本市場線の記述
14	現代ポートフォリオ理論3	CAPMの導出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義ではEXCELを利用し計算を行う機会が多々ある。そのため、受講にかかる時間は実際の動画視聴にかかる時間より長くなることが予想され、それらは受講生に受講時間外で補ってもらう必要がある。目安として、講義の準備学習・復習時間（特に、EXCELの演習）は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
指定なし

【参考書】
手嶋宣之『ファイナンス入門』（ダイヤモンド社、2011年）
ツヴィ・ボディー、ロバート・マートン（著）、大前恵一朗（翻訳）『現代ファイナンス論 第2版』（ピアソン・エドゥケーション、2011年
Z. Bodie, A. Kane, A. Marcus『Essentials of Investments 10th ed.』（McGraw-Hill, 2016）
S. Benninga『Financial Modeling 5th ed.』（The MIT Press, 2022）

【成績評価の方法と基準】
期末課題レポート100%で評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】
講義内容理解のためのフィードバックを可能な限り行い、学生の内容理解に尽力する。

【学生が準備すべき機器他】
講義ではEXCELを利用した演習を中心に進めるので、受講生はMS EXCELが利用可能なPCを準備して講義に臨むこと。

【Outline (in English)】
This course provides an introduction to the theories and the methods in investment analysis such as present value, yield to maturity, arbitrage, risk, and risk diversification. This course also introduces how the theories and methods in investment are utilized into the practical world. The goal of this course is to acquire basic skills concerning risk management. Before each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content. Students are also required to spend two hours to review the content after each class. Final grade will be calculated according to the term-end report (100%).

PRI100TG（情報学基礎 / Principles of informatics 100）

データサイエンス入門A(前期メディア)

児玉　靖司、髙田　美樹、高松　邦彦

カテゴリー：**前期メディア**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**前期**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
情報通信技術の発展により、大量で多様なデータの収集が簡単にできるようになった。これらのデータが現代社会における様々な現象の解明や意思決定にどのように役立っているのか、その重要性と価値を理解し、ビッグデータが社会にもたらす影響を考察する。

【到達目標】
現代社会におけるデータサイエンスの役割と、データ収集・活用の一般的な方法を理解する。データサイエンスがもたらす利点だけでなく、リスクを認識し、データを守るための倫理・モラルを身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「法律学科： DP5」「日本文学科：DP1,DP2」「史学科：DP1,DP3」「地理学科：DP1,DP2,DP3」「経済学科：DP3,DP4」「商業学科：情報・統計学」に関連

【授業の進め方と方法】
オンデマンド方式により配信された講義資料と動画で学習し、毎回の小テストによって知識を定着させる。また、小テストの結果や、受講生から得られた質問・意見などは学習支援システムを通じてフィードバックするので、それらを踏まえて講義内容を復習すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンスと導入	本講義の目標と各回の概要を提示する。
第2回	情報とは・ビッグデータとは	データを種類に分け、それぞれの特徴と実例を紹介する。
第3回	社会で起きている変化・社会におけるデータの活用	社会の中で、すでにデータが活用されている事例、研究中でこれからの活用が期待される事例を紹介する。
第4回	オープンデータの利用	収集したデータを社会に還元するためのオープン化が進められている。どこにどのようなデータがあり、どのように利用できるのかを紹介する。
第5回	データ解析のための技術	取得したデータを活用するための解析技術について、収集・蓄積・分析の３つのフェーズに分けて紹介する。
第6回	データの可視化	データ解析の結果や、データの特徴を人間が理解するための可視化の方法を紹介する。
第7回	データサイエンスのサイクル　PPDAC	データを活用した問題解決の５つの手順を紹介する。
第8回	統計的品質管理	生産現場などにおける「もの」の品質管理について統計的に分析する方法を紹介する。
第9回	画像データの活用	画像データは、今後その利用がますます重要視されてくる。画像データの扱い方と活用事例を紹介する。
第10回	データ倫理	データを扱う上での倫理について紹介する。データと情報の違いについても紹介する。
第11回	個人情報の保護	個人情報保護の目的と、個人情報の適切な取り扱いについて解説する
第12回	データを守る情報セキュリティ１	データの重要度が増している昨今、情報セキュリティーもまた重要である。どのようなリスクに対し、どのような対策が必要なのかを解説する。
第13回	データを守る情報セキュリティ２	情報を守る技術的な仕組みを解説し、一人ひとりが気をつけるべき点について注意喚起を行う。
第14回	まとめ	授業内総合テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各２時間を標準とする。オンラインで課される小テスト等に取り組むこと。

【テキスト（教科書）】
オンデマンドシステムより講義資料と動画を配信する。

【参考書】
【参考書 /References】
・大学生のためのデータサイエンスⅠ　オフィシャルスタディーノート　滋賀大学データサイエンス学部編
・社会人のためのデータサイエンス入門　オフィシャルスタディーノート　総務省統計局

【成績評価の方法と基準】
各回のチェックテスト（60%）、授業内総合テスト（期末テスト）と毎回のアンケートの提出（40%）の合計点で評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】
「問題が抽象的でわかりにくい」という指摘がありましたので、改善いたします

【学生が準備すべき機器他】
オンデマンドのため、動画を視聴し、オンデマンドシステムにアクセスすることのできる端末。

【Outline (in English)】
[Course Outline]
This course aims to experience the process of the data science technology using the real data that can be collected on the Internet. Students also know the practical examples of the data science technologies in the real world.
[Learning Objectives]
Understand the process of collecting, analyzing and visualizing real data. Understanding the contribution and role of data science in society, three important elements in data science: how to collect data from the Internet, generally used analytical methods, and interpretation and visualization of analytical results, and their utilization.
[Learning Activities Outside of Classroom]
The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each. Work on quizzes, etc. that are imposed online.
[Grading Criteria /Policy]
The total score for each check test (60%), in-class comprehensive test (final test), and submission of each survey will be evaluated at a rate of 40%.
Please note that there is a deadline for submitting each check test and each questionnaire.

LIT100TA（文学 / Literature 100）

文学（春期スクーリング）

中澤　忠之

カテゴリー：**春期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：　｜　単位数：**2単位**
期間：**春期**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講手続き等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
小説を読むとき、私たちはどんなところを重視するでしょう。たとえば、泣けるかどうかとか、感情移入できるかどうか、とかいったところでしょうか。実際、これまで中学校や高校の現国の授業では、主人公の心情を素直に読み取るトレーニングを受けてきたはずです。しかし、小説の書き方・読み方は一様ではありません。この講義は、小説の書き方・読み方には多様性があることを知り（夏目漱石とライトノベルを優劣関係ではなく多様性の一つとして捉えること）、それを身に付ける土台作りとなるでしょう。そのためにはまず、小説の成り立ちをおさらいすることからはじめます。そして文学史にしたがって、小説の書き方・読み方が変化し、新たな書き方・読み方の発見が文学史を豊かに形成してきたことを確認します。戦前の文学史がメインですが、最近の文学史にも積極的にふれます。マンガや映画、美術など、文学に隣接するジャンルにもしばしば言及したい。

【到達目標】
創作物を単に主観的に受容するのではなく、対象化して評価する技術と教養を身に付け、作品受容の許容範囲が広がることを目指します。文学に関心がある学生はもちろん、ポップカルチャーやサブカルチャーのジャンルに関心がある学生も歓迎します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP3」「史学科：DP1, DP3」「地理学科：DP1」「経済学科：DP6, DP7」「商業学科：幅広い教養」に関連

【授業の進め方と方法】
配布する資料をもとに講義するスタイルです。
必要に応じてリアクションペーパーを書いてもらいます（3回程度）。授業中・授業後の質問やリアクションペーパーにおける有意義なコメントは授業内で紹介し、今後の授業に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	講義の概要説明および導入。
第2回	現在の文学が置かれた状況	最近の文学事情を、他のジャンルとの関係から明らかにする。
第3回	文学作品の読み方	文学の仕組みを解説して、高校時代までの読み方を相対化する。
第4回	近代文学の誕生①	言文一致（いわゆる近代日本語）を中心に、近代文学が形になったプロセスを解説。 言文一致形成の全体像を確認する。
第5回	近代文学の誕生②	言文一致形成の初期（明治10から20年代）の状況を作品を参照しながら確認する。
第6回	近代文学の誕生③	言文一致形成の後期（明治30から40年代）の状況を作品を参照しながら確認する。
第7回	文学史第1期（明治20～40年の文学）	リアリズム（写実主義）は近代に確立した表現法だが、そのリアリズムが確立した時代の表現パターンを解説。
第8回	文学史第2期（大正時代の文学）	私小説がはやった時代の表現パターンを解説。文学における自己表現を問題にしたい。
第9回	文学史第3期（1920年代）①	社会が大衆化したモダニズムの時代の表現パターンを解説。
第10回	文学史第3期（1920年代）②	具体的な文学作品を参照する。
第11回	文学史第4期（1930年代）①	文学表現が成熟した時代の表現パターンを解説。現代の表現とも関係させる。
第12回	文学史第4期（1930年代）②	具体的な文学作品を参照する。
第13回	現在の文学との接点	過去の文学を参照することで現代文学の読み書きにいかに応用できるのかを考察する。
第14回	まとめと試験	これまでの講義の総括。今後の現代文学の読み方についても触れる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
少しでも文学作品に触れてください。しかし闇雲に読むのではなく、ジャンルを意識しながら読むことをおすすめします。ジャンルが分からなければ、大きめの本屋に行って書棚がどういう配置になっているのか、どういう本が収まっているのかを確認してみるのもよいです。たとえば、映画をよく観る人はTSUTAYAの棚陳列がどういうジャンル区分に従っているのかよくわかっているはずです。アイドルグループのファンは、素人目には同じように見える顔が、それぞれ個性を持ち、ジャンル分けできることを知っているはずです。文学も同じです。
小説を全く読まない人は、まず『ノルウェイの森』（村上春樹）と『時をかける少女』（筒井康隆）と『涼宮ハルヒの憂鬱』（谷川流）の3冊を読み比べてみてください。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
随時プリントを配布します。

【参考書】
なし。

【成績評価の方法と基準】
最後の試験が評価の主要な対象となります。3回予定のリアクションペーパー（400字程度）も評価したい。評価の割合は最後の試験が70％、リアクションペーパーを30％とします。

【学生の意見等からの気づき】
基本的に口述と板書が多いので、「授業の概要を示すプリントがあればよい」という意見がありました。重要なポイントとなるところではプリントで示すことも考慮に入れようと思います。

【Outline (in English)】
【Course outline and Learning objectives】
This lecture aims to give techniques and cultures to read novels, using the work of modern Japanese literature.
How to write and read novels is not single. In this lecture, you can learn that diversity exists in how to write and read novels. Let's begin by reviewing the origins of the novel. And according to the history of literature, We confirm that the way of writing and reading the novel has changed.
【Learning activities outside of classroom】
Please read even a little literary work. I recommend reading while being aware of the genre. If you don't know the genre, check the shelves in the bookstore.
【Grading Criteria /Policy】
The final report is the main subject of evaluation. I also want to evaluate the short reports (about 400 characters) for each session. The evaluation rate is 70%for the final report and 30% for short reports.

PHL100TA（哲学 / Philosophy 100）

論理学（春期スクーリング）

大貫　義久

カテゴリー：**春期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：　｜　単位数：**2単位**
期間：**春期**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講手続き等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
私たち人間は自分の意思を言葉によって表現し、他の人に伝えることができます。しかしその際、正しく考え、誤解のないように伝えることが大切です。そして正しく考えるには、正しい判断（認識）と正しい論理（推理）が必要です。その正しい思考を教えてくれるのが論理学です。この授業は、論理学を初めて学ぶ学生のために、「論理的」とはいかなることなのか、また論理的に考え、表現するためには、どのようにしたらよいのかということを、基礎から順に学んで行きます。論理的思考を身につけることは、今後に役立ちます。

【到達目標】
説明と練習問題によって、論理的に考え、表現する方法が実際に身につくようにすることが、到達目標です。試験においては、正しく論理的に考え、表現する力が、身についたかを見ます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP3」「史学科：DP1, DP3」「地理学科：DP1」「経済学科：DP4」「商業学科：幅広い教養」に関連

【授業の進め方と方法】
ノート（プリント）を配布し、それを使用して授業を進めていきます。説明のあと、問題演習をして論理的思考が実際に身に着くようにします。フィードバックとして、演習の答えについて解説をし、その都度、各自で授業内容の理解度を確認してもらいます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の内容と論理学への導入
第2回	論理学の根本原理、概念について	同一の原理・矛盾の原理・排中の原理、概念の成り立ち、概念の内包・外延
第3回	命題について	判断と命題、定言命題の種類、命題の記号化
第4回	定言命題の4種類とオイラーの図について	定言命題のオイラーの図、概念の周延・不周延についての説明
第5回	判断の命題化（標準形式化）について	判断を命題の形にする方法の説明と練習問題
第6回	推理及び演繹推理について	推理とは何か、推理の妥当・非妥当、演繹推理の説明
第7回	演繹推理の直接推理、特に変形による推理について	対当による推理、変形による推理、練習問題に取り組む
第8回	演繹推理の直接推理について	換質・換位による本格的な推理を学ぶ
第9回	演繹推理の間接推理について	三段論法の定言三段論法について、その構造と規則を学ぶ。
第10回	演繹推理の間接推理について	定言三段論法の練習問題に取り組み、論理を身につける。
第11回	演繹推理の間接推理について	定言三段論法の練習問題に取り組み、論理を身につける。
第12回	演繹推理の間接推理について	仮言三段論法について学び、練習問題に取り組む選言三段論法と両刀論法の説明。練習問題に取り組む。
第13回	現代論理への導入、	選言三段論法と両刀論法の説明。練習問題に取り組む。
第14回	まとめと試験	まとめのあと、試験を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業で扱う項目を教科書に従い予習し、さらに授業で扱った項目をそのつど復習して下さい。本授業の予習・復習学習は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
大貫義久・他　『改訂版 論理学の初歩』梓出版社。アマゾンＰＯＤで入手可能。授業での説明のあと、主に復習用に使用して下さい。

【参考書】
授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】
最終授業内での試験で決定します。

【学生の意見等からの気づき】
論理学は理解できれば楽しいという意見が多くありました。説明が少し早くなってしまった箇所もあったので、十分に理解してもらうために工夫したいと思います。

【その他の重要事項】
授業に出席し、授業内容を理解して下さい。論理は、理解すれば、面白くなります。

【Outline (in English)】
The aim of this course is to help students acquire an ability to think logicaly.　This course introduces the basics of the traditional logic and symbolic logic to students. Students can understand the outline of the traditional logic（syllogisms） by taking this course. Learning time outside classloom is 4 hours: 2 hours each for preparation and review. Your overrall grade in the class will be decided based on Term-end examination.

LAW100TA（法学 / law 100）

法学（日本国憲法）（春期スクーリング）

山口　哲史

カテゴリー：**春期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：　｜　単位数：**2単位**
期間：**春期**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講手続き等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
主に法学の初学者・入門者を対象に、法学の基礎に関する講義を行う。内容は、主に日本国憲法の構造と基本原理に関するものである。

【到達目標】
この授業の目的は、はじめて法学を学ぶ学生が、法学の基礎を習得し、現代法の仕組みと基本原則を理解することにある。法的な知識と資質を身に付けると共に、民主的な国家の主権者として備えるべき基礎的な法的素養の習得を目指す。
到達目標は次の通り。
①法学の基本概念・用語の意味内容を習得し、現代法の基本的な仕組みと体系を理解する。
②社会の中での法の役割を理解し、法によって社会的な紛争がいかに解決されるか、個人の権利がどのように守られるかが分かるようになる。
③日本国憲法の基本を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP3」「史学科：DP1, DP3」「地理学科：DP1」「経済学科：DP7」「商業学科：幅広い教養」に関連

【授業の進め方と方法】
法学・日本国憲法の基本を解説していきます。授業内で学生のみなさんに発言を求める場合があります。授業の進み具合によって内容を修正・変更する場合があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	導入	授業の進め方と法学の意義について
2	日本国憲法	憲法総論－憲法とは何か、憲法の歴史、立憲主義
3	日本国憲法	憲法総論－憲法とは何か、憲法の歴史、立憲主義
4	日本国憲法	統治機構－国会
5	日本国憲法	統治機構－内閣
6	日本国憲法	統治機構－裁判所と司法権
7	日本国憲法	違憲審査制
8	日本国憲法	基本的人権－幸福追求権（包括的基本権）・法の下の平等
9	日本国憲法	基本的人権－精神的自由（思想・良心の自由、信教の自由）
10	日本国憲法	基本的人権―表現の自由
11	日本国憲法	基本的人権―経済的自由、人身の自由
12	日本国憲法	社会権・国務請求権
13	日本国憲法	平和主義・天皇制
14	期末試験	筆記試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
現時点で指定の教科書はありません。授業開始時に指定する教科書があれば、授業内でお知らせします。

【参考書】
宍戸常寿、石川博康編『法学入門』（有斐閣, 2021）ISBN：978-4641126183
毛利透『グラフィック 憲法入門 第2版』（新世社、2021） ISBN：978-4883843244
長谷部恭男・石川健治・宍戸常寿編『憲法判例百選Ⅰ・Ⅱ』（有斐閣、2019）
必要に応じて授業中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】
期末試験で評価します。これにより、到達目標欄の達成度を評価します。

【学生の意見等からの気づき】
引き続き、具体例を示しながら授業を進めていきます。

【学生が準備すべき機器他】
お知らせ等がある場合には、Hoppiiを利用することがあります。

【その他の重要事項】
特になし

【Outline (in English)】
The aim of this course is to help students acquire legal studies including constitutional law.
The goals of this course are to understand basics of legal studies, how to work law in society, and basics of constitutional law.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Final grade will be calculated according to term-end examination (100%).
Details will be announced later.

CUA100TA（文化人類学・民俗学 / Cultural anthropology 100）

文化人類学（春期スクーリング）

ベル　裕紀

カテゴリー：**春期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：　｜　単位数：**2単位**
期間：**春期**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講手続き等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
学生は、マリノフスキー以降の文化人類学の諸概念および理論を毎回トピック別に学習し、文化人類学の基礎的かつ体系的な理解を目指す。それを通じて、文化人類学的な社会の見方を身に付け、「異文化」「他者」の理解とは何なのか、考える。

【到達目標】
学生は、文化人類学的な社会の見方を身に付け、「異文化」「他者」の理解について認識論的な立場から批判的に学習する。それを通じて、現代的な問題、身近な問題においても、内省的な思考力を養うことを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP3」「史学科：DP1, DP3」「地理学科：DP1」「経済学科：DP6, DP7」「商業学科：幅広い教養」に関連

【授業の進め方と方法】
講義を基本とするが、受講者の積極的な参加を期待する。授業後に毎回リアクションペーパーの提出を課し、次の回の冒頭で可能な限り紹介し、授業内容に反映させる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第一回	文化人類学の考え方	文化人類学が成立した時代的背景および学問的な特徴を概説する。
第二回	機能構造主義と文化相対主義	機能構造主義と文化相対主義が主張された理論的・時代的背景を踏まえた上で理解し、それに対する1960年代以降の批判を理解する。
第三回	贈与・交換	文化人類学の理論の中核を成す、贈与、交換に関する研究の展開を学習する。
第四回	贈与・交換と「負い目」	D.グレーバーや小田亮の議論を手掛かりに、シェアリングや贈与、市場交換、再分配というモノやサービスの流通を「負い目」という観点から捉えなおす。
第五回	宗教・呪術・儀礼	儀礼論・宗教人類学の議論を、とりわけ呪術研究や通過儀礼を中心に理解する。
第六回	規範と法	法人類学における法の捉え方、諸研究を概観し、とりわけ法多元主義をめぐる議論に焦点を当てる。
第七回	言語・記号論	ソシュール以降の記号論の展開、および人類学における言語行為論について学習する。
第八回	発話行為とエージェンシー	言語および発話行為と政治に着目した人類学的な研究の展開を概観し、理解を深める。
第九回	人種と民族	人類学のみならず、社会科学全般にとって重要な概念である、「人種」と「民族」という概念の歴史的な変遷について学習する。
第十回	都市人類学	都市人類学において発展したネットワーク論や都市における集団形成の意味とその形式について学習する。
第十一回	国民国家とナショナリズム	A.ゲルナーやB.アンダーソンなど、国民国家をめぐる代表的な議論を学習する。
第十二回	グローバル化と人類学	人類学のみならず、社会科学におけるグローバル化の理論を概観した上で、グローバル化という現象を政治人類学の文脈に沿って理解する。
第十三回	移民研究と人類学	移民研究の流れを概観しながら、適応やトランスナショナリズム、統合、国境管理といったトピックを扱う。
第十四回	「異文化」「他者」の理解	人類学の目的である「異文化」「他者」の理解という問題を、これまでの講義の要点を踏まえて改めて確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回のリアクションペーパーを通じた復習と、翌週の授業の準備に概ね2時間程度の時間をかけるものとする。また、それに加えて授業内で紹介する参考文献を、各自の関心に応じて読みこみ、理解と思考を深めることが望ましい。

【テキスト（教科書）】
なし。毎回の授業で講義レジュメを配布する。

【参考書】
岸上伸啓編2018『はじめて学ぶ文化人類学：人物・古典・名著からの誘い』ミネルヴァ書房。
桑山敬己・綾部恒雄編2018『詳論　文化人類学：基本と最新トピックを深く学ぶ』ミネルヴァ書房。
中島成久編著2016『グローバリゼーションのなかの人類学案内』第7刷、明石書店。
松村圭一郎2011『ガイドブックシリーズ基本の30冊　文化人類学』人文書院。
ヘンドリー、ジョイ　2017『＜増補新版＞社会人類学入門　多文化共生のために』桑山敬己・堀口佐千子訳　法政大学出版局。
その他、授業時間内に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
期末レポート50％、毎回のリアクションペーパー42％、授業への参加度8％で評価する。

【学生の意見等からの気づき】
毎回の授業の冒頭に学生が前回提出したリアクションペーパーの一部を紹介し、応答を行ったり、講義の中で言及したりして、学生の理解を深めていく。

【Outline (in English)】
This course provides an introduction to cultural/social anthropological discussion.
Students who take this course will:
1, learn anthropological discussion about the gift, kinship, politics/power, ethnicity, gender, nation-states and so on.
2,gain anthropological understanding for interpretations and analyses of our daily lives and social system.
3, gain better understanding about culture and about difficulties inherent in writing culture.

BIO100TA（その他の総合生物・生物学 / Biology 100）

生物学３（講義）（春期スクーリング）

大槻　涼

カテゴリー：**春期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：　｜　単位数：**2単位**
期間：**春期**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講手続き等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
生物学を「おぼえる」だけではなく、「つなげる」ことで理解を深めることを目指します。生物学を２つの軸、「普遍性」と「多様性」にとらえ、春学期「生物学３」では普遍性に着目します。おもに全生物にみられる特徴や多様性を生み出す仕組みについて基礎的な内容から解説します。

【到達目標】
生物学に関する最新のニュースについて、背景となる事柄を自分で探すことができる。
講義で理解した事柄を文章で説明することができる。
生命現象の基本的な事柄を理解し、説明することができる。
大学初級向けの生物学の教科書を自力で理解することができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP3」「史学科：DP1, DP3」「地理学科：DP1」「経済学科：DP3, DP7」「商業学科：幅広い教養」に関連

【授業の進め方と方法】
講義はPowerPointをつかったプレゼンテーションを主体とする予定です。
毎回の講義でリアクションペーパーを出し、翌回に解説と復習によるフィードバックを予定しています。
法政大学　学習支援システムを使用予定しています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	生物学とはどのような学問か？ 生物学の２つの「軸」	・イントロダクション ・なぜ、生物学を学ぶのか？ ・生物学と、ほかの自然科学は何が違うのか？ ・ティンバーゲンの４つのなぜ
第2回	生命の階層性	・分子-細胞-集団-生態系でかわる生物観 ・生物学研究の方法と特徴
第3回	生命誕生前夜	・地球誕生から生命まで ・小惑星探査とわれわれのつながり ・宇宙生物学のいま
第4回	細胞誕生と地球の歴史	・「地球型生命体」の特徴とは？ ・細胞の２つのカタチ ・「全球凍結」がもたらした変化
第5回	われわれの生命をささえる物質たち	・水：異質な物質としての水 ・タンパク質：多様性と機能 ・核酸：しなやかで変化する特性 ・脂肪：ユニークで大事なしごと
第6回	細胞の構造	・細胞膜の構造 ・細胞小器官と役割分担
第7回	タンパク質ができるまで	・遺伝子発現のしくみ ・適材適所”と“臨機応変”　遺伝子発現と制御のしなやかな仕組み
第8回	細胞内でのいとなみ	・「生きる」を支える化学反応 ・「ごはん」が「エネルギー」になるまで
第9回	細胞がふえる	・細胞分裂のしくみと研究の歴史
第10回	かたちがかわる、かたちができる	・発生学とはなにか？ ・かたちをつくるしなやかな仕組み
第11回	世代をこえたつながり	・遺伝の仕組み ・なぜ、メンデルは気づけたのか？
第12回	「普遍性」と「多様性」の架け橋	・進化とは何か
第13回	ゲノム解読とバイオインフォマティクス	・「情報」としての生物のありかた ・生物学研究と情報科学
第14回	バイオテクノロジーと生物学研究	・生物学研究の方法と他分野とのつながり ・生物学のこれから

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。
講義内容をノートにまとめ、自分の言葉で説明できるように、基本事項を自分から調べる必要があります。

【テキスト（教科書）】
指定はしないが、適宜必要な資料は提示します。

【参考書】
岩波 生物学辞典、巌佐庸　ら（編）、岩波書店、　2013、第5版、ISBN-13 : 978-4000803144
キャンベル生物学 原書11版、池内昌彦　ら (監修, 翻訳)、　丸善出版、　2018 ISBN-13 : 978-4621302767

【成績評価の方法と基準】
期末試験（80％）およびリアクションペーパーによる評価（20％）

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【その他の重要事項】
積極的に最新の科学に関する話題も講義で取り上げる予定です。
社会情勢などにより講義の順番を変更する場合もある。

【Outline (in English)】
【Course outline】
The course aims to deepen students' understanding of biology not only by learning it, but also by connecting it. The spring semester "Biology 3" focuses on universality. The course will focus on universality, and will explain the characteristics of all living organisms and the mechanisms that give rise to diversity, starting from the basics.
【Learning Objectives】
Can find background information on the latest news in biology on his/her own.
To be able to explain in writing what they have understood in the lectures.
Understand and explain the basic principles of biological phenomena.
Understand biology textbooks for beginners on their own.
【Learning activities outside of classroom】
The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
You will need to research basic matters on your own so that you can summarize the lecture content in your notes and explain it in your own words.
【Grading Criteria /Policy】
Grades will be based on two report assignments (40%each) and a reaction paper (20%).

CHM100TA（その他の化学 / Chemistry 100）

化学１（講義）（春期スクーリング）

渡邉　永治

カテゴリー：**春期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：　｜　単位数：**2単位**
期間：**春期**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講手続き等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
身近にある化学を理解し、役に立つ化学を身につけることをねらいとする。そのために、生活の中でよく出合う化学物質の性質を題材とする。化学物質の物性、構造、反応などを理論的に考察できるように、さらに、現代化学のトピックスについても、メカニズムを理解できるようにする。

【到達目標】
生活の中でよく出合う化学物質の物性、構造、反応などを、分子レベルで理論的に考察できるようになる。さらに、現代化学のトピックスについても、メカニズムを理解できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP3」「史学科：DP1, DP3」「地理学科：DP1」「経済学科：DP3, DP7」「商業学科：幅広い教養」に関連

【授業の進め方と方法】
教科書の内容について、板書を中心に講義を行ない、基本的な内容を理解していただき、その都度、参考書で紹介されている、関連する応用例も解説する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	原子の構造（1）	元素記号、同位体、原子量、モル
第2回	原子の構造（2）	光電効果、不確定性原理
第3回	核化学	放射性元素の反応
第4回	分子構造と電子配置	電子雲、軌道の形、分子量
第5回	結合次数と結合角	混成軌道、シグマ結合、パイ結合
第6回	電気陰性度と結合	イオン結合、共有結合、親水性と疎水性、水素結合
第7回	IUPAC命名法	炭素骨格（飽和、不飽和、直鎖、環状）と置換基の種類による命名
第8回	異性体	構造異性体、立体異性体、光学異性体
第9回	分子軌道法（1）	波動関数、演算子
第10回	分子軌道法（2）	ヒュッケル法、共役の長さと軌道エネルギー
第11回	有機化合物の構造決定（1）	質量分析、X線構造解析
第12回	有機化合物の構造決定（2）	可視紫外吸収スペクトル、赤外吸収スペクトル
第13回	有機化合物の構造決定（3）	核磁気共鳴
第14回	有機化合物の性質	酸性と塩基性、共役系と発色、旋光性、DL表示とRS表示

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
ノートをまとめておくこと。重要なキーワードについて説明できるようにしておくとよい。
本授業の準備・復習時間は、各2時間を目安とする。

【テキスト（教科書）】
『絶対わかる有機化学』齋藤勝裕著、講談社、2003年、￥2,640

【参考書】
『グレイ 化学− 物質と人間− 』H.B.Gray、J.D.Simon、W.C.Trogler著、東京化学同人、1997年、￥2,200+税

【成績評価の方法と基準】
成績は、期末試験（配分100％）により評価する。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【Outline (in English)】
The aim of this course is letting students acquire general chemistry through studying various materials and phenomena. To achieve the goal, students will learn chemical topics closely related to our daily life. It is expected that students can become to discuss properties and reactions of chemical species theoretically as well as to understand chemical background of cutting-edge topics in modern society. The final grade will be based on the term-end examinations, but the content of the previously submitted reports will be taken into consideration in the evaluation.

LANe100TA（英語 / English language education 100）

英語Ｓ(１)（春期スクーリング）

青山　恵子

カテゴリー：**春期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：　｜　単位数：**1単位**
期間：**春期**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講手続き等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業は英語のテキストを正確に読解しながら、現在の日本が直面する様々な課題と将来の展望について考えていくことを目的としています。

【到達目標】
1.英和辞典を適切に使えるようになること
2.英語の文章の内容を正確に理解できるようになること
3.適切な英語の音読ができるようになること
4.正確に英語の音声を聞き取ることができるようになること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP3」「史学科：DP1, DP3」「地理学科：DP1」「経済学科：DP6, DP8」「商業学科：幅広い教養」に関連

【授業の進め方と方法】
授業の進め方：
演習形式で行います。
1.paragraph reading（リーディング）
2.comprehension check（読解の確認）
3.reading aloud（音読練習）and dictation（リスニング）
フィードバック方法：
授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーをいくつかを取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introduction / Impact of Lowering the Age of "Adulthood" 成人年齢 #1	1. Orientation オリエンテーション 2. Reading the first paragraph of Chapter 1
2	Impact of Lowering the Age of "Adulthood" 成人年齢 #2	Understanding issue: 1.Paragraph reading 2.Comprehension Check
3	Impact of Lowering the Age of "Adulthood" 成人年齢 #3	Exercise 1.Structure Practice 2.Listening Challenge 3.Reading aloud practice
4	Gender Equality 男女格差 #1	Understanding issue: 1.Paragraph reading 2.Comprehension Check
5	Gender Equality 男女格差 #2	Understanding issue: 1.Paragraph reading 2.Comprehension Check
6	Gender Equality 男女格差 #3	Exercise 1.Structure Practice 2.Listening Challenge 3.Reading aloud practice
7	Freedom of Speech and Its Implications 言論の自由とその影響 #1	Understanding issue: 1.Paragraph reading 2.Comprehension Check
8	Freedom of Speech and Its Implications 言論の自由とその影響 #2	Understanding issue: 1.Paragraph reading 2.Comprehension Check
9	Freedom of Speech and Its Implications 言論の自由とその影響 #3	Exercise 1.Structure Practice 2.Listening Challenge 3.Reading aloud practice
10	digitalization and Public Administration デジタル化と行政 #1	Understanding issue: 1.Paragraph reading 2.Comprehension Check
11	digitalization and Public Administration デジタル化と行政 #2	Understanding issue: 1.Paragraph reading 2.Comprehension Check
12	digitalization and Public Administration デジタル化と行政 #3	Understanding issue: 1.paragraph reading 2.Comprehension Check
13	digitalization and Public Administration デジタル化と行政 #4	Exercise 1.Structure Practice 2.Listening Challenge 3.Reading aloud practice
14	Review &Test	Final Test 学期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備 学習・復習時間は合わせて授業 1 回あたり 1 時間を標準とします

【テキスト（教科書）】
James M. Vardaman, Japan's Dilemmas and Solutions: 15 Topics You Need to Consider（『考えよう日本の論点１５』, 音羽書房鶴見書店, 2023年）￥2,000＋税

【参考書】
授業中に指示します。

【成績評価の方法と基準】
授業への積極的参加　40%
学期末試験　60%
実授業日数のうち２分の１以上の出席がない場合、試験の受験資格を失うので注意してください

【学生の意見等からの気づき】
英文読解の解説が分かりやすかった、テキストの内容も興味深かったとのコメントに励まされています。今年度も「英語をていねいに読み」「英語で読んだ内容についてじっくり考える」授業を続けていきたいと思っています。

【学生が準備すべき機器他】
辞書（電子辞書可）

【Outline (in English)】
In this class, you will read English texts that focus on current social issues in Japan. You will practice not only systematic reading but listening skills to check your comprehension. By the end of the course, students should be able to do the followings:1.to use an English Japanese dictionary appropriately 2. to accurately understand English texts 3. to read aloud English sentences appropriately 4. to accurately listen to English sentences. University guidelines suggest preparation and review are around an hour a week for a one-credit course. Final grade will be calculated according to the following process in-class contribution (40%) and final test (60%).

LANe100TA（英語 / English language education 100）

英語Ｓ(２)（春期スクーリング）

妻鹿　裕子

カテゴリー：**春期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：　｜　単位数：**1単位**
期間：**春期**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講手続き等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
CNNのニュース映像とスクリプトを使用し、様々なトピックについて学びながら、リスニングとリーディングを中心に総合的な英語力の向上を目指します。

【到達目標】
・英語の文章を正確に読む力をつけます
・論理的な思考力を養います
・語彙力を増やします
・様々な英語（Englishes）の発音に慣れます
・英語のリズムを身につけます

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP3」「史学科：DP1, DP3」「地理学科：DP1」「経済学科：DP6, DP8」「商業学科：幅広い教養」に関連

【授業の進め方と方法】
一つのunitを二回の授業で扱います。前半は語彙とリスニングを、後半はリーディングを中心に進めます。前半はExamplesを小テストとして行い、DefinitionとExamplesの答え合わせをした後、Blanks to Fill inでリスニングをし、答えの確認をします。後半はJudgments to Makeを小テストとして行い、リスニングのスクリプトの訳をした後、Judgments to Makeの答え合わせをします。小テストのフィードバックは授業中に、学期末試験のフィードバックは試験終了後に行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業内容・成績評価等に関する説明
第2回	Unit 1	Seven Decades of Service (listening)
第3回	Unit 1	Seven Decades of Service (reading)
第4回	Unit 2	Seeking Safety in Numbers (listening)
第5回	Unit 2	Seeking Safety in Numbers (reading)
第6回	Unit 3	Keeping to the Sidelines (listening)
第7回	Unit 3	Keeping to the Sidelines (reading)
第8回	Unit 4	Protected by Love (listening)
第9回	Unit 4	Protected by Love (reading)
第10回	Unit 5	Victory in the Kitchen (listening)
第11回	Unit 5	Victory in the Kitchen (reading)
第12回	Unit 6	Controversial Debt Relief (listening)
第13回	Unit 6	Controversial Debt Relief (reading)
第14回	試験・まとめと解説	学期末試験と復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
前半はDefinitionとExamplesを予習をしましょう。後半はスクリプトの訳をし、Judgments to Makeの答えを探しておきましょう。本授業の準備・復習時間は、合わせて2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
『CNNビデオで見る世界のニュース(25)』
（朝日出版社）

【参考書】
学習用音声ストリーミング配信
https://text.asahipress.com/free/english/

【成績評価の方法と基準】
テスト35％、小テスト35%、平常点30%で評価します。試験の受験資格として出席要件が定められていますので、各自確認しておいて下さい。

【学生の意見等からの気づき】
文法事項等の丁寧な説明と質問しやすい雰囲気づくりを心がけたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】
・辞書（英和・英英）
・学習支援システムに接続できる環境と情報機器

【Outline (in English)】
Course Outline
This class aims to help you develop your listening and reading skills.
Learning Objectives
Students will build up their vocabulary, learn the pronunciation features of English, and acquire reading strategies.
Learning Activities Outside of Classroom
Students will be expected to have completed the required assignments before each class meeting. Study time will be two hours for each class.
Grading Criteria/Policy
The final grade will be based on the following criteria:
1. Final Exam 35%
2. Mini Tests 35%
3. Classroom Participation 30%

LANe100TA（英語 / English language education 100）

英語Ｓ(３)（春期スクーリング）

井上　紗央里

カテゴリー：**春期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：　｜　単位数：**1単位**
期間：**春期**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講手続き等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
映画教材を使用し、リーディング、リスニング、スピーキング、ライティングの演習を行います。特に映画のセリフを利用したスピーキングの練習を通して、英語の発音や会話に慣れることを目標とします。

【到達目標】
1. 映画の視聴を通して英語の音声に慣れリスニング力を強化する。
2. 映画スクリプトの読解を通して英語の文法、語彙力を強化する。
3. 映画で使用される会話表現を身に着けることで自分の意見を英語で述べられるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP3」「史学科：DP1, DP3」「地理学科：DP1」「経済学科：DP6, DP8」「商業学科：幅広い教養」に関連

【授業の進め方と方法】
授業形態は講義と演習形式。映画は Bohemian Rhapsody を視聴します。授業では、英語の発音練習、語彙、演習問題の答え合わせ、リスニング練習、映画のスクリプトの読解、会話練習を行います。演習の答え、ニュースの内容などについて適宜受講生に質問をするので、その質問に答えられるように事前に予習が必要です。隔週で学習支援システム (Hoppii)から課題を出題します。フィードバックには学習支援システムとE-mailを使用します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の進め方の説明と評価について、テキストの紹介、英語の発音について
2	Unit 1 Forming the Band, Queen ①	映画視聴, P9-10 Vocabulary. Plot Synopsis, Reading
3	Unit 1 Forming the Band, Queen ②	P11-12 Reading Comprehension, Expressions, Dictation
4	Unit 1 Forming the Band, Queen ③ Unit 2 Bohemian Rhapsody ①	P13-15 Listening Comprehension, Discussion, Writing Unit 2 映画視聴, Movie Review, Vocabulary
5	Unit 2 Bohemian Rhapsody ②	P16-17 Reading, Reading Comprehension, Expressions
6	Unit 2 Bohemian Rhapsody ③	P18-20 Dictation, Listening Comprehension, Discussion, Writing
7	Unit 3 Drifting Apart Queen ①	P21-22 Unit 3 映画視聴, Movie Review, Vocabulary
8	Unit 3 Drifting Apart Queen ②	P22-24 Reading, Reading Comprehension, Expressions, Dictation
9	Unit 3 Drifting Apart Queen ③ Unit 4 The Truth Comes Out ①	P24-26 Listening Comprehension, Discussion, Writing, Unit 4 映画視聴
10	Unit 4 The Truth Comes Out ②	P27-29 Background Information, Vocabulary, Reading, Reading Comprehension
11	Unit 4 The Truth Comes Out ③	P30-32 Listening Comprehension, Discussion, Writing
12	Unit 5 Performing in Live Aid ①	P33-35 Unit 5 映画視聴, Background Information, Vocabulary, Reading, Reading, Comprehension, Expressions
13	Unit 5 Performing in Live Aid ②	P36-38 Listening Comprehension, Subtitling, Discussion, Writing
14	期末試験とまとめ	第1回から13回までの授業内容を試験範囲とします。春期授業全体のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
事前に指定したテキストの演習問題や Reading Script を予習してきてください。受講者が予習をしていることを前提にスクリプトのディクテーション、内容理解、演習問題の答え合わせなどを進めていきます。各ユニットの演習問題の一部を宿題として学習支援システム (Hoppii) から出題します。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
Active English through Movies　アクティブ・ラーニング型 映画で学ぶ英語4技能　塩見佳代子 /Matthew Coomber /宮林賀奈子 著 (金星堂2021) 2000円 (税別) ISBN 978-4-7647-4125-6

【参考書】
なし

【成績評価の方法と基準】
試験50％、平常点（予習、授業内での発言等の貢献度、学習支援システム (Hoppii) からの課題提出）50％で評価します。最終試験の受験資格を得るためには実授業日数の 2 分の 1 以上の出席が必要となります。

【学生の意見等からの気づき】
受講生のレベルに合わせたペースで進めていくよう努めます。

【学生が準備すべき機器他】
授業連絡、課題の出題、フィードバック等はすべて学習支援システム (Hoppii) を通じて行います。課題提出の際にPC、タブレットPC、スマートフォン等インターネットに接続できるデバイスが必要です。教員との連絡用に使用できる e-mail アドレスも必要です。

【その他の重要事項】
学習支援システムの授業ページに教員のメールアドレスを掲載するので連絡や質問がある場合はメールで連絡をお願いします。メール本文に「授業曜日、時限、学籍番号、氏名」を明記してください。

【Outline (in English)】
The aim of this course is to improve students' reading, speaking, writing, and listening skills through watching movies in English. At the end of the course, participants are expected to acquire basic English skills for outputting their opinions in English. Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter from the text. Your required study time is at least one hour for each class meeting. Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination (50%), In-class contribution and assignment submissions (50%).

LANe100TA（英語 / English language education 100）

英語Ｓ(４)（春期スクーリング）

中垣　恒太郎

カテゴリー：**春期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：　｜　単位数：**1単位**
期間：**春期**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講手続き等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「映画を用いた語学教材による総合的英語能力の育成」を目標に掲げ、アメリカ映画『いまを生きる』（_Dead Poets Society_, 1989）を題材にした教科書を軸に、大学で勉強していく上で必要とされるアカデミック・スキルとしての英語運用能力と、論理的なものの考え方（critical thinking）とを身につけることを目的とする。映画『いまを生きる』は伝統と規律を重んじる全寮制の高校を舞台にした生徒たちの成長物語である。アメリカ映画を通して、実際に話されている英語のスピードや、どういう場面で、どういう立場の人物がその表現を用いるかを直に学ぶことができる。毎回、DVDや教材用に作成されたCDにより、リスニングやディクテーション（書き取り）の活動を行う。
　この教材を通して、現代アメリカの教育制度および文化（「寄宿制学校」「学生スポーツ」「プレップスクール」「創作科」）についても学ぶことができる。本授業では与えられた情報を的確に摂取し、歴史や文化、社会現象、比較文化などの文脈で把握し、それに対して受講生の皆さん一人一人がどのように考えるのかを重視する。

【到達目標】
・映画を用いた語学教材により、大学で勉強していく上で必要とされるアカデミック・スキルとしての英語運用能力と、論理的なものの考え方（critical thinking）とを身につけることを目的とする。
・映画を題材とした英語の自習方法について学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP3」「史学科：DP1, DP3」「地理学科：DP1」「経済学科：DP6, DP8」「商業学科：幅広い教養」に関連

【授業の進め方と方法】
総合英語教材として、「背景知識と語彙」「リスニング」「リーディング」「意見を表現する」という、４項目により構成されている。教室での課題演習に重きを置く。課題に対しては、全体の講評を授業時に行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の運営方針について。英語の自主学習の方法について。
第2回	「映画『いまを生きる』の背景」	概説講義
第3回	教科書演習 第１章「A New Semester　新学期」	教科書による演習
第4回	教科書演習 第２章「Seize the Day　その日をつかめ」	教科書による演習
第5回	教科書演習 第３章「An Invitation to Poetry　詩へのいざない」	教科書による演習
第6回	教科書演習 第４章「Free Thinkers　自由思想家」	教科書による演習
第7回	教科書演習 第５章「Dead Poets Society　死せる詩人の会復活」	教科書による演習
第8回	教科書演習 第６章「Your Own Voice　自分自身の言葉」	教科書による演習
第9回	教科書演習 第７章「Poetry Class　詩作の授業」	教科書による演習
第10回	教科書演習 第８章「Conformity vs. Individuality　順応性と自分らしさ」	教科書による演習
第11回	教科書演習 第９章「Time for Action　行動の時」	教科書による演習
第12回	教科書演習 第10章「Father and Son　父と息子」	教科書による演習
第13回	教科書演習 第11～12章「A Midsummer Night's Dream　真夏の夜の夢」	教科書による演習
第14回	教科書演習 第13～14章「The End of the Society　死せる詩人の会終結」	教科書による演習と「まとめ」

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
特に予習を前提としないが、事前に下読みをしておくと学習効果は高まるであろう。予習よりも復習に力を注いでいただきたい。ただし時々、宿題が課されることがある。
本授業の復習時間は１時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
田中長子ほか『映画総合教材　いまを生きる』（音羽書房鶴見書店、2014年）。

【参考書】
『名作映画完全セリフ集――スクリーンプレイ・シリーズ』（スクリーンプレイ出版）

【成績評価の方法と基準】
教室での演習（80％）、学期末の「まとめ」回での演習（20％）

【学生の意見等からの気づき】
通信教育課程としてのスクーリング科目として対面授業が基本として戻ったことによる運用の工夫をあらためて考えてみたい。通信教育課程は受講者の背景も多彩であり、多彩な受講生が集い学んでいることからもお互いに刺激を得られるような場にできればと思う。

【Outline (in English)】
The course will help students foster critical thinking skills, that is, skills to make objective and multifaceted analysis of the given information, instead of accepting it unquestioningly. The course will offer instruction of and practice in the development of effective listening skills. Students will also learn how to paraphrase what they have read.
【Learning activities outside of classroom】
Students are expected to spend at least 60 minutes per week before and after each class.
【Grading Criteria/Policy】
Evaluation will be based on (1) active class participation and commitment in class projects = 80%(2) essays in class = 20%.

LANe100TA（英語 / English language education 100）

英語Ｓ(５)（春期スクーリング）

大和久　悌一郎

カテゴリー：**春期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：　｜　単位数：**1単位**
期間：**春期**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講手続き等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
現在、英語読解能力は、国際社会の中で専門的な学問領域だけでなく、一般的な時事問題・日常生活においても重要になってきています。本授業では、そうした社会の中で用いられている英語に対応するために必要な英語読解能力の習得を目的として、語彙力や文法の理解をより確実にみにつけるとともに、海外の社会のあり方についての理解も深めながら、英語運用能力を充実させていくことを目指します。

【到達目標】
・TOEICレベルのリーディングで用いられる文法事項の基礎を理解する。
・TOEICレベルのリーディングで用いられる語彙の基礎を身につける。
・英語時事ニュースの要旨を把握できる、基礎力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP3」「史学科：DP1, DP3」「地理学科：DP1」「経済学科：DP6, DP8」「商業学科：幅広い教養」に関連

【授業の進め方と方法】
日常的な英語表現と、英文法の各事項について解説しているテキストを用いて、基礎力を身につけていきます。また随時、新聞など海外の英語のニュース記事を読み、読解力を養っていきます。
授業期間中に、数回、アンケートとしてリアクション・ペーパーで回答必須の質問をだし、小テストとして成績に含めます。質問・感想へのフィードバックは次回の授業で行い、課題などについての解説も行います。必要に応じて、指示した箇所の予習をおこなうことをお願いします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の内容の紹介
第2回	Unit 1（例文読解）	空港での日常表現
第3回	Unit1（文法）	文型について
第4回	Unit 2（例文読解）	マンションなどでの日常表現
第5回	Unit 2（文法）	文型について
第6回	Unit 3（例文読解）	友人を歓迎するさいの日常表現
第7回	Unit 3（文法）	不定詞、動名詞について
第8回	Unit 4（例文読解）	買い物をするときの日常表現
第9回	Unit 4（文法）	不定詞について
第10回	Unit 5（例文読解）	催しもののときの日常表現
第11回	Unit 5（文法）	分詞について
第12回	Unit 6（例文読解）	観光地での日常表現
第13回	Unit 6（文法）	接続詞について
第14回	まとめ	テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各回であつかう章について、事前に予習をしておく。また、テキストに登場した単語や表現については復習する。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて１時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
愛甲ゆかり、池田有花著『英語で紹介するニッポン！ -続・イングリッシュ・ワンス・モア！ - Introduce Japan in Easy English -English Once More! Ⅱ-』朝日出版社、2016年

【参考書】
特になし。

【成績評価の方法と基準】
平常点（出席・予習・小テスト等）６０%、期末テスト４０%で評価します。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【学生が準備すべき機器他】
資料や課題の提示・提出に学生支援システムを用いることがありますので、利用できるようにしておいてください

【Outline (in English)】
With reading text book, learning English grammar and words. First of all, I have set a goal of reading articles in English, not only in the classroom, but also in daily life. And toward this goal, I use educational textbook and handouts. As a procedure in one lesson, first, reading one chapter in the textbook, and in the rest of time, reading handouts for 15-30 minutes. Handouts including news stories, essays, and short fiction in newspapers and magazines. Topic is mainly on the current world news. And reading these hangouts, I encourage to read articles in English, not only classroom but also everyday life.
Grading criteria: Attending a lecture(60%), term-end exam(40%).

LANd100TA（ドイツ語 / German language education 100）

独語Ｓ（春期スクーリング）

宮城　学

カテゴリー：**春期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：　｜　単位数：**1単位**
期間：**春期**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講手続き等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ドイツ語圏の文化や情報を、ドイツ語で収集できるようにドイツ語の基礎訓練を行います。春期ではまず動詞や冠詞などの語形変化に慣れるのが目標です。アルファベット、文字、発音から始め、動詞の変化を中心に文の基本構造を学びます。

【到達目標】
ドイツ語の音や単語に親しみ、文を組み立てる基本的なルールを身に付けることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP3」「史学科：DP1, DP3」「地理学科：DP1」「経済学科：DP6, DP8」「商業学科：幅広い教養」に関連

【授業の進め方と方法】
授業は基本的に講義形式ですが、テキストのドイツ語文を中心に学生諸君に発音、発言していただく機会を多くとり、さらに課題や小テストによって文法の習得を確認していく予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション 文字と発音(1)	学習の仕方、辞書等について。 アルファベット、母音と綴り字の関係
第2回	文字と発音(2) 簡単なあいさつ	子音と綴り字の関係
第3回	動詞の変化と文の語順	人称代名詞の種類、動詞の形、動詞を置く位置
第4回	動詞の変化と文の語順	人称代名詞の種類、動詞の形、動詞を置く位置
第5回	動詞のの不規則変化	母音が不規則に変化する動詞、不規則動詞seinとhaben
第6回	動詞のの不規則変化	母音が不規則に変化する動詞、不規則動詞seinとhaben
第7回	名詞の性・数	名詞の性と定冠詞・不定冠詞、定冠詞と不定冠詞の使い分け、名詞の複数形
第8回	名詞の性・数	名詞の性と定冠詞・不定冠詞、定冠詞と不定冠詞の使い分け、名詞の複数形
第9回	名詞・代名詞の格変化	名詞と定冠詞の格変化、名詞と不定冠詞の格変化、代名詞の格変化
第10回	名詞・代名詞の格変化	名詞と定冠詞の格変化、名詞と不定冠詞の格変化、代名詞の格変化
第11回	冠詞類	定冠詞類、不定冠詞類、否定冠詞keinと否定副詞nicht
第12回	冠詞類	定冠詞類、不定冠詞類、否定冠詞keinと否定副詞nicht
第13回	総復習と練習	文法や語彙、表現を総復習し、練習問題によって定着を図る。
第14回	確認テスト	定着度の確認とまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
宿題や課題は重要な予習ですので必ずしてくるようにしてください。また前回の既習事項を確認してから授業に臨むようにしましょう。本授業の準備・復習時間は、各1時間を目安とする。

【テキスト（教科書）】
これからはじめるドイツ語入門
著者：高橋亮介
出版社：NHK出版
価格：2200円税込み

【参考書】
授業中に指示します。

【成績評価の方法と基準】
授業への参加度（平常点）（４０％）および学期末の確認テスト（６０％）により評価します。

【学生の意見等からの気づき】
学生諸君の理解度・習得度を確認しながら授業を進めていくよう心掛けているため、総合的に満足のいく評価をいただいていますが、やはり語学は「わかった」よりも「できた」が大切です。真の実力がつくように反復練習を増やしていきたいと思います。

【Outline (in English)】
The students will get a basic training in German so that German-speaking culture and information can be collected in German. The goal is to get used to the changes of word such as verb and article.

LANf100TA（フランス語 / French language education 100）

仏語Ｓ（春期スクーリング）

石川　典子

カテゴリー：**春期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：　｜　単位数：**1単位**
期間：**春期**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講手続き等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
フランス語の初学者が文法や会話表現を学ぶ授業です。最低限の文法知識をもとに、簡単なフランス語が聞き取れ、運用することができるようになることを目指します。フランス語を身近なものに感じることで、フランスの文化についても理解を深めてゆきましょう。

【到達目標】
フランス語であいさつができるようになる。
フランス語で自己紹介ができるようになる。
フランス語で身近な人々のことが話せるようになる。
フランス語で好きなものが言えるようになる。
フランス語で現在の気持ちを表現できるようになる。
実用フランス語技能検定試験では、５級レベルへの到達を目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP3」「史学科：DP1, DP3」「地理学科：DP1」「経済学科：DP6, DP8」「商業学科：幅広い教養」に関連

【授業の進め方と方法】
初回授業時に、今後の進め方等についてガイダンスを行います。
各回授業の初めに、前回の授業の疑問点や課題などに対して、フィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス・挨拶する	今後の進め方等についてのガイダンス・アルファベ、綴り字の読み方の基本、フランス語の音に慣れる
第2回	Leçon 1	名詞の性と数、不定冠詞、定冠詞
第3回	Leçon 2	主語人称代名詞、être の直接法現在、提示表現（1）
第4回	Leçon 3	部分冠詞、avoir の直接法現在、提示表現（2）
第5回	Leçon 4	-er 動詞の直接法現在、否定文（1）
第6回	Révision 1	Leçon 1 から Leçon 4 までの復習、数字
第7回	Leçon 5	変則的な-er 動詞の直接法現在、疑問文、否定文（2）
第8回	Leçon 6	形容詞（女性形・複数形・位置）
第9回	Leçon 7	語尾が-ir の動詞の直接法現在、指示形容詞、所有形容詞
第10回	Leçon 8	aller, venir の直接法現在、近い未来・近い過去、前置詞と定冠詞の縮約
第11回	Révision 2	Leçon 5 から Leçon 8 までの復習、色彩、国籍を表す形容詞
第12回	Leçon 9	faire, prendre の直接法現在、疑問形容詞、疑問副詞
第13回	Leçon 10	attendre の直接法現在、疑問代名詞
第14回	まとめと試験	これまでのまとめと期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・復習時間は、各1時間を標準とします。とくに復習に力を入れてください。家でも声を出して練習してみましょう。その際は付属の音声ファイルや「書き込み復習ノート」を活用してください。

【テキスト（教科書）】
『À pied！（ア・ピエ！ ―フランス語初級文法）』、西部由里子著、朝日出版社、2022年、2200円＋税

【参考書】
参考書は指定しませんが、授業中に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
授業内での毎回の取り組み50％、期末試験50％で、総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
フランス語を運用するための基本的な文法確認をしっかりとおこないます。その上で、余裕があれば、学習したことを実際に活かす演習をおこないます。

【学生が準備すべき機器他】
辞書に関しては、電子辞書、紙の辞書どちらでも良いですが、手元に用意しておくと便利です。授業の復習にぜひ活用してください。

【Outline (in English)】
This course is for students who start studying French.Students will learn the basic expressions and vocabulary of the French language. At the end of the course, students will be able to speak about themselves in French.
After each class meeting, students will be expected to spend one hour on this review. Repeating learned expressions aloud will be a good method.
Grading will be decided based on in-class contribution (50%) and term-end examination(50%).

HSS100TA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 100）

スポーツ総合演習（春期スクーリング）

竹内　洋輔

カテゴリー：**春期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：　｜　単位数：**2単位**
期間：**春期**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講手続き等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】
①身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
②豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
③自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
④卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケートを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
⑤就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP3」「史学科：DP1, DP3」「地理学科：DP1」「経済学科：DP5」「商業学科：幅広い教養」に関連

【授業の進め方と方法】
この授業は、週1回、半期にわたって開講される。
この科目は数種目のスポーツ・身体活動を教材とした演習や講義等で構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験やレポート等の評価を総合的に判定して単位を授与する。
スポーツ総合演習の詳細については、ガイダンス時に説明か、もしくは動画で説明する。
毎回の授業の初めに、前回の授業で提出された意見や感想をいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。
基本的に対面での実施をするため、大学の感染症対策等を守って対面で参加できる学生が受講することが望ましい。
その他、授業に関わる連絡事項については、市ヶ谷総合体育館の掲示板や、授業前日までに授業支援システム（Hoppii）を通して告知する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス（講義）	授業ガイダンスによって、授業の概要を理解する
2	体力測定（講義および実習)	体力測定の意義を理解して実施する。自らの体力測定結果を評価し、考察する
3	健康と体力（講義）	様々な健康関連・医学的情報を理解し、体力測定の結果を踏まえ、自らの健康の維持・改善に必要な情報を適切に選択できる能力の修得をする（講義）
4	トレーニング演習（講義及び実習）	トレーニングの理論及び実践方法を理解する
5	対戦形式（ネット型）のスポーツを学ぶⅠ	対戦形式（ネット型）を通じた協同活動の理解、バドミントンの基礎技術のトレーニングおよび、ミニゲームを行う
6	対戦形式（ネット型）のスポーツを学ぶⅡ(講義および実習)	バトミントンの基礎技術を応用し、実践を行う
7	ウォーキング(講義および実習)	有酸素運動としてウォーキングを校外にて実施し、人間のエネルギーの消費系統に関する理解を深める
8	得点形式スポーツを学ぶⅠ (講義および実習)	得点形式スポーツの特徴の理解、バレーボールの競技特性を理解したうえで、対戦相手に応じてルールを工夫し、安全に配慮してゲームを行う
9	得点形式スポーツを学ぶⅡ (講義および実習)	バレーボールの基礎技術を応用し、安全に配慮してゲームを行う
10	対戦形式（ネット型）のスポーツを学ぶⅢ(理論と実習)	対戦形式（ネット型）を通じた協同活動の理解、ネットスポーツとして卓球の基礎技術のトレーニングおよび、シングルスのゲームを行う
11	対戦形式（ネット型）のスポーツを学ぶⅣ(理論と実習)	卓球の応用技術を習得し、ダブルスのゲームを行う
12	得点形式スポーツを学ぶⅢ (理論と実習)	得点形式スポーツの特徴の理解、フットサルについて、基礎技術のトレーニングおよび、ミニゲームを行う
13	得点形式スポーツを学ぶⅣ (理論と実習)	フットサルについて、応用技術の習得し、ゲームを行う
14	総括（講義）	これまで授業で行った内容やその関連項目について理論を含め講義し、質問や意見交換を行い総括とする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。
実習するにあたっては、授業での身体活動時に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えた上で授業に臨むこと。
また授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、各授業担当教員の指示に従って実践すること。

【テキスト（教科書）】
特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて配布する。

【参考書】
必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】
1) 授業中の活動に対する参画状況・授業態度を60%　2) 授業に対する理解度や課題・レポートを40 %の配分として総合評価する。

【学生の意見等からの気づき】
大学で体育を行う意味や、健康の維持・増進に運動がどう関わるのか、またそのための運動についてや、他者とのコミュニケートの重要性について良く理解をできた等の意見を頂きました。
今後も受講生との対話や授業改善アンケートをもとに、より良い授業内容を実施できるよう努めます。

【学生が準備すべき機器他】
必要時に案内を行う。
学習支援システムを使用する。

【その他の重要事項】
実技種目を実施するにあたって他の学生と協力し実施することが多いことから、個別の身体状況に対応して授業を実施することが難しい。そのため受講にあたっては、健康診断書の結果および、自己の評価から、運動に支障が無い身体状態であることが必要である。
授業においては、運動着の着用および室内運動靴が必要となる。
教場の関係により、授業計画の順序等が変更になることがある。
初回授業に関しては、ガイダンスの為、運動着への着替えを必要としない。

授業当日、実技実施前後において、自身の身体で体調・障害等気になる点が有った際には、必ず担当教員に申告し、対応の指示を受けること。

【Outline (in English)】
【Course outline】This course will make students deeply understand the significance and the effect of physical activity. Therefore, students who take this course can improve properly learning and attitude about physical, mental, and social health necessary throughout the students' future of life.
【Learning Objectives】By the end of the course, students should be able to:
1. Understand more about the meaning and role of physical activity from various perspectives.
2. Use sports and physical activities to establish a prosperous and healthy student life and social life.
3. Develop essential knowledge and attitudes that contribute to self-management.
4. Develop the ability to demonstrate leadership and solve problems through communication with others.
5. Acquire various skills related to the development of employability.
【Learning activities outside of classroom】Students are expected to follow the lecture's instructions in charge of the class regarding the assignments to be done after class and preparations for the next class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
【Grading Criteria/Policy】Grading will be decided based on the contents of experiments, investigations, and presentations (60 %) and the class participation (not attendance) (40%).

LAW300TB（法学 / law 300）

商法総則・商行為法（春期スクーリング）

石井　宏司

カテゴリー：**春期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：　｜　単位数：**2単位**
期間：**春期**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講手続き等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では、商法第一編商法総則についての講義を行う。
商法総則は商法の総則であると同時に主に個人商人を対象とした法規制である。商法の総則的な法規制とともに、個人商人の商号や商業帳簿、商業登記など個人商人の組織に関する法規制を講義する。
本講義においては法学概論等を未修であっても受講者が理解できるよう法学の基礎から丁寧な解説を行うことを予定している。また本講義では条文の文言に即して詳しくわかりやすく講義していく予定である。条文の文言解釈にあたり重要な法の沿革、学説、判例等を理解する
学生は商法総則の各制度、条文の重要な文言の解釈、主要な判例学説を理解できるようになることが本講義の目標となる。本講義を通して、商法総則の法規制を理解し実社会において活用することができるレベルまで到達することが望ましい。

【到達目標】
商法総則の条文の文言の理解に関して、文言の理解に必須な解釈と沿革、学説等について十分に理解できるようにする。
また、一般用語と異なる商法における専門用語の理解ができるようにする。
授業中は質問等を行い法律学的な回答方法についての指導も行う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
対面式授業を行います。
配布資料は教科書の要点を中心にイラストをまじえさらにわかりやすくしたものであり、配布資料と教科書を同時並行で読むことが望ましい。さらに配布資料においては小テストと答えを添付するので事後的な復習に利用して欲しい。
授業においては質問等を行い、簡単な議論を行ってもらうことがある。質問やディスカッションを通じて商法や法律全般についての理解を深めてもらうこととする。
授業に対する質問等は授業後に受け付けます。授業や課題等に対するフィードバックは授業中に行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス・商法の意義と法源①	授業の進め方を説明する 商法とは何かと言う問題とその沿革について学ぶ
第2回	商法の意義と法源②	商法における法源の種類およびその適用を学ぶ
第3回	商法の基本概念①	商法における商人の意義について学ぶ
第4回	商法の基本概念②	商法における商行為の意義について学ぶ
第5回	商業登記	商業登記の意義及びその効力について学ぶ
第6回	商号①	商号の意義とその制限について学ぶ
第7回	商号②	商号の貸与や譲渡などについて学ぶ
第8回	商業帳簿	商業帳簿の意義及びその作成保存等について学ぶ
第9回	商業使用人①	商業使用人、特に支配人についてその意義及び権限を学ぶ
第10回	商業使用人②	支配人以外の商業使用人についてその意義及び権限を学ぶ
第11回	代理商①	代理商の意義と法的性格について学ぶ
第12回	代理商②	代理商の権限及び代理商契約の終了等について学ぶ
第13回	営業①	営業の意義について学ぶ
第14回	営業②	営業の意義を踏まえてその譲渡や担保化などを学ぶ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
受講する学生は予習と復習を行うこと。
予習に関して、次回範囲の教科書及び概要に目を通して2時間分程度一読する程度で良い。
復習に関して、教科書を中心として配布資料と六法を用いて3時間程度読み合わせを行ってほしい。復習の際は必ず六法で全ての条文を確認して欲しい。また、復習する際には配布資料で赤文字等で特に強調した文言や学説等を中心に勉強してほしい。自分がその要件に当たるか等、現実への応用意識を考慮しながら復習することが望ましい。その際に必ず六法の条文を参照することが望ましい。
より高度な学習を望む場合は、配布資料にある判例を裁判所ウェブサイトで調査し判決の原文を読むと理解がさらに深まる。判例を全て読む場合の学習時間はさらに2時間から3時間程度になると想定されます。

【テキスト（教科書）】
近藤光男『商法総則・商行為法(第9版)』(有斐閣、2023)

【参考書】
『商法判例百選〔No.243〕』（有斐閣、2019）

【成績評価の方法と基準】
期末に行う授業内試験の得点により成績を評価する（配分：100％）

【学生の意見等からの気づき】
商法総則は全般的に抽象的な条文が多く非常にわかりにくいので判例等の実例を用いて具体的に説明するようにします。また、様々な法律用語が出てきますが、これらについては配布資料でさらにわかりやすく説明するように工夫を行っております。

【学生が準備すべき機器他】
対面型授業においては筆記用具、小型六法、教科書を所持して出席すること。
資料等の参照時にインターネットを用いることがあるのでパソコンまたはスマホ等があることが望ましい。

【その他の重要事項】
特になし

【Outline (in English)】
This course is intended to provide understanding of the General Provisions of the Japanese Commercial Code. In addition to providing a general introduction to the Japanese legal system, this course will concentrate on specific legal topics such as trade name, commercial books, and commercial agents. Through this course , students will learn the history, the case law and the doctrine of commercial law.
【Learning activities outside of classroom】
Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.
【Grading Criteria /Policy】
Your overall grade in the class will be decided based on the following:Term-end examination:100%

LAW300TB（法学 / law 300）

会社法（春期スクーリング）

石井　宏司

カテゴリー：**春期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：　｜　単位数：**2単位**
期間：**春期**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講手続き等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義は商法に属する会社法に関する講義である。
本講義を通じて、現在の日本の経済活動の主役である会社（特に株式会社）を規律する会社法の基本原則を理解し、会社に関する問題に関心を持ってもらいたい。
会社に関連する会社法以外の法律にも関心を持ってもらいたい。

【到達目標】
・会社の仕組みや原則について会社法の条文を通じて理解する。
・会社法の条文について解釈上の問題がある場合は学説や判例等を通じて理解し、自分で説明できるようにする。
・自分の身の周りや実社会において生じている会社法上の問題に気付き、会社法による解決策を考えられるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
本科目は講義形式で行う。
本科目は基礎的事項の解説に重点を置き、丁寧に進める。講義内で資料を配布し、図等を使用して、受講生ができるかぎり容易に理解できるように講義する。
本科目における課題等へのフィードバックは授業内で行う。
なお、本科目の受講者は、秋期スクーリングの「会社法」も続けて受講することを推奨する。秋期スクーリングも受講することで会社法の全体を理解することができる。
授業内容に対する質問等は授業後に受け付けます。
授業や課題等に対するフィードバックは授業中に行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス 会社法　総論	ガイダンス、及び、 会社法を学ぶための前提知識や用語等の解説
第2回	株式会社の機関 総論	機関の概要に関する解説
第3回	株式会社の機関 株主総会1	株主総会の権限・種類・招集に関する解説
第4回	株式会社の機関 株主総会2	株主総会の議事・議決権に関する解説
第5回	株式会社の機関 株主総会3	株主総会の決議・決議の瑕疵等に関する解説
第6回	株式会社の機関 取締役1	取締役の資格・員数・任期・選任解任等に関する解説
第7回	株式会社の機関 取締役2	取締役会の権限・招集・決議等に関する解説
第8回	株式会社の機関 取締役3	代表取締役等に関する解説
第9回	株式会社の機関 取締役4	取締役の義務に関する解説
第10回	株式会社の機関 取締役5	取締役の会社に対する責任に関する解説
第11回	株式会社の機関 取締役6	取締役に対する責任追及の方法に関する解説
第12回	株式会社の機関 取締役7	取締役の第三者に対する責任に関する解説
第13回	株式会社の機関 監査役・会計監査人 指名委員会等設置会社 監査等委員会設置会社	監査役、会計監査人、指名委員会等設置会社、監査等委員会設置会社に関する解説
第14回	定期試験とまとめ	定期試験とまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業1回に付き、学生の予習時間は1時間、復習時間は3時間を目安とする。
予習は教科書及び参考書等を読むこと。参考書の図表や判例等を予め読むと授業の理解が容易になる。
復習は、六法を開いて会社法の条文を参照しつつ、講義で配布した配布物や指定テキストを熟読すること。

【テキスト（教科書）】
柴田和史『会社法詳解〔第3版〕』（商事法務、2021）。

【参考書】
・柴田和史『日経文庫ビジュアル　図でわかる会社法〔第2版〕』（日本経済新聞出版社、2014）
・神作裕之ほか編『会社法判例百選〔第4版〕』別冊ジュリストNo.254（有斐閣、2021）

【成績評価の方法と基準】
成績評価は、期末の定期試験による（定期試験100％）。

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
現在の法律を参照できるポケット六法等を用意してください。この点については最初の授業で説明をします。

【その他の重要事項】
受講生は最新の六法を持参すること。
テキスト及び参考書は、改訂版が出版される可能性がある。購入を考えている受講生は、初回の授業で講師の説明を受けてから購入した方がよい。

【Outline (in English)】
【Course outline】
This course introduces the foundations of the corporation law to students taking this course. The aim of this course is to help students acquire an understanding of clauses and fundamental principles of the corporation law.
This course introduces the foundations of the corporation law to students taking this course. The aim of this course is to help students acquire an understanding of clauses and fundamental principles of the corporation law.
【Learning Objectives】
The goals of this course are to (1) able to obtain basic knowledge about the corporation law, (2) able to explain clauses and systems of the corporation law, (3) able to understand the relationship between the corporation law and our society.
【Learning activities outside of classroom】
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
【Grading Criteria /Policy】
Your overall grade in the class will be decided based on the following：Term-end examination 100%.

LAW300TB（法学 / law 300）

行政法（春期スクーリング）

氏家　裕順

カテゴリー：**春期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：　｜　単位数：**2単位**
期間：**春期**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講手続き等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国・都道府県などの行政は、われわれ私人の活動を規制したり、私人に対して給付したりするほか、租税の徴収もしている。さらに行政は、実質的な立法活動も行っており、私人の権利義務を一般的に規律する場合がある。行政の活動が適法に行われることが、私人の生活にとって重要なことである。行政活動の適法性を確保するための法解釈・法理論を提供しているのが行政法学である。

行政法という科目において学習することは多岐にわたる（西田幸介『行政法〔第２版〕』〔法政大学通信教育部、2023年〕、あるいは、通信学習「行政法」シラバスを参照のこと）が、春期スクーリングでは、行政規範の制定、行政行為、行政指導、行政計画、行政調査、行政の実効性確保の手段（行政罰、制裁的措置）の意義と法的規制を学ぶ。

【到達目標】

法規命令の意義と法的規制について説明することができる。
行政規則の意義と性格について説明することができる。
行政行為の意義について説明することができる。
行政行為の成立と効力の発生について説明することができる。
行政行為の附款について説明することができる。
行政行為の職権取消しと撤回について説明することができる。
行政指導の意義と法的規制について説明することができる。
行政計画の意義と法的規制について説明することができる。
行政調査の意義と法的規制について説明することができる。
行政の実効性確保の手段（行政罰、制裁的措置）について説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式で行う。フィードバックは授業内で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	導入講義	行政法という科目での学習事項と本スクーリングでの学習事項
第2回	行政規範の制定（行政立法）（1）	行政規範の意義と分類
第3回	行政規範の制定（行政立法）（2）	法規命令の法的規制
第4回	行政規範の制定（行政立法）（3）	行政規則の性格
第5回	行政行為（1）	行政行為の意義　行政行為の成立と効力発生
第6回	行政行為（2）	行政行為の附款
第7回	行政行為（3）	行政行為の職権取消しと撤回
第8回	行政指導（1）	行政指導の意義と分類
第9回	行政指導（2）	行政指導の法的規制
第10回	行政計画	行政計画の意義と法的規制
第11回	行政調査	行政調査の意義と法的規制
第12回	行政の実効性確保（1）	各種の実効性確保の手段・仕組み　行政罰
第13回	行政の実効性確保（2）	制裁的措置、とりわけ違反金、給付拒否、公表
第14回	定期試験	試験の実施と解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

スクーリングの開講日までに、後掲の参考書のいずれかを通読することによって、行政法を大まかに理解するように努め、また、疑問点を明確にしておく（準備学習）。授業後、毎回、参考書にあたりながら、自筆のまとめノートを作成することによって、授業内容を把握する（復習）。

準備学習および復習が適切かつ充分に行われるべきであり、少なくとも、準備学習には計30時間、復習には各2時間を要すると考えられる。

【テキスト（教科書）】

テキストは指定しない。配布するレジメ・資料を用いる。

【参考書】

宇賀克也『行政法概説Ⅰ〔第８版〕』（有斐閣、2023年）
大橋洋一『行政法Ⅰ〔第５版〕』（有斐閣、2023年）
塩野宏『行政法Ⅰ〔第６版〕』（有斐閣、2016年）
芝池義一『行政法読本〔第４版〕』（有斐閣、2016年）
芝池義一『行政法総論講義〔第４版補訂版〕』（有斐閣、2006年）
曽和俊文＝山田洋＝亘理格『現代行政法入門〔第５版〕』（法律文化社、2023年）
西田幸介『行政法〔第２版〕』（法政大学通信教育部、2023年）
原田尚彦『行政法要論〔全訂第７版補訂２版〕』（学陽書房、2012年）
藤田宙靖『新版行政法総論（上）』（青林書院、2020年）
室井力編『現代行政法入門（１）〔補訂版〕』（法律文化社、2005年）

【成績評価の方法と基準】

第14回授業において実施する試験による（100％）が、Covid-19の再感染爆発に伴う感染症り患リスクを回避するために通学できない場合にはレポートによる（100％）。

【学生の意見等からの気づき】

準備学習と復習が授業内容を理解するために必要である。

【学生が準備すべき機器他】

レジメ・資料を印刷して配布する一方、それらのデータを学習支援システムに掲載する予定である。そのため、データにアクセスしたい場合には、学習支援システムを利用するためにPCあるいはスマートフォンを準備されたい。ただし、定期試験では紙媒体のもののみ、参照可能とする。

Covid- 19の再感染爆発に伴う感染症り患リスクを回避するために通学できない場合にはさらに、(1) Zoomが利用できるだけの通信環境、(2) 各回の配布物を参照するためのPDF閲覧ソフトウェア（Adobe Acrobat Reader〔無料〕など）、(3) レポート課題の閲覧・提出のために用いる、.doc, .docxの形式で保存できるソフトウェア（Microsoft Wordなど）が必要となる。

【その他の重要事項】

後に行政救済法も履修することが望ましい。

【Outline (in English)】

In order to establish your best possible foundation for studying administrative law, this course is designed to learn meaning and legal controls of acts performed by the executive agencies (hereinafter the executive agencies' acts are simply referred to as 'acts'), specially focusing on (1) making Administrative Rules (=Decrees and Guidelines), (2) 'Gyousei Koui', (3) Administrative Guidance, (4) Administrative Plan (Administrative Planning), (5) Administrative Investigation, and (6) acts which may be done for a purpose of ensuring that a particular administrative objective should be achieved (hereinafter these acts are referred to as 'Measures for Ensuring Administrative Efficacy').

After completing this course, you should be able to:
· Explain meaning and legal controls of Decrees;
· Explain meaning and characteristics of the Guidelines;
· Explain meaning of 'Gyousei Koui';
· Explain when 'Gyousei Koui' comes into existence and becomes effective;
· Explain conditions, time limits, and other manifestations of intention added to 'Gyousei Koui';
· Explain acts making void ab initio (with relation back) 'Gyousei Koui' which has become effective;

· Explain acts making void ex post facto 'Gyousei Koui' which has become effective;
· Explain meaning, sorts, and legal controls of Administrative Guidance;
· Explain meaning and legal controls of Administrative Plan;
· Explain meaning and legal controls of Administrative Investigation; and
· Explain about Measures for Ensuring Administrative Efficacy.

You should spend at least 4 hours on independent learning in order to prepare for and/or follow up every class, reading your own reference book(s).

Assessment for degree of your understanding is done by an end-of-term written exam (100%). If you cannot attend school because of the spread of COVID-19, it is done by an essay in using 'Learning Management System [an internet-based system for learning]'.

LAW300TB（法学 / law 300）

債権各論（春期スクーリング）

足利　沙緒理

カテゴリー：**春期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：　｜　単位数：**2単位**
期間：**春期**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講手続き等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「民法第三編債権第二章契約第一節総則」に規定されている、契約の成立・効力・解除等に関する事柄および「民法第三編債権第二章契約第二節贈与～第十四節和解」に規定されている、各種契約の効力等について学ぶ。
関連する判例等についてもあわせて学習をすることで、各規定はそれぞれどのような場面で問題となってくるのかについて具体的に理解する。

【到達目標】
①契約に共通するルールを理解する。
②民法に規定されている各種契約に関するそれぞれのルールを理解する。
③①・②をもとに、具体的な検討ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
講義形式で行う。
授業では、テキスト・六法を使用し、適宜資料も配布する。
フィードバックは授業内で行う予定。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス 契約の概念	授業内容や進め方についての説明 契約の意義や種類などについての解説
第2回	契約の成立	申込と承諾に関する問題、契約締結上の過失や定型約款などについての解説（521条～532条、548条の2～548条の4）
第3回	契約の効力	同時履行の抗弁権、危険負担などについての解説（533条、536条～539条の2）
第4回	契約の解除	法定解除、合意解除、約定解除などについての解説（540条～548条）
第5回	売買①	売買の成立に関わる問題についての解説（555条～559条）
第6回	売買②	売買の効力に関わる問題についての解説(560条～570条、572条～578条）
第7回	売買③ 交換	特殊な売買、交換についての解説（579条～585条、586条）
第8回	贈与	贈与の成立・効力などについての解説（549条～554条）
第9回	消費貸借 使用貸借	消費貸借・使用貸借の成立・効力などについての解説（587条～592条、593条～600条）
第10回	賃貸借①	賃貸借の成立・当事者間での効力などについての解説（601条～604条、606条～616条）
第11回	賃貸借②	賃貸借の第三者に対する効力・終了などについての解説（605条～605条の4、616条の2～622条の2）
第12回	雇用 請負 委任	雇用・請負・委任の成立・効力・終了などについての解説（623条～631条、632条～637条、641条・642条、643条～656条）
第13回	その他の契約	寄託、組合等についての解説（657条～696条）
第14回	試験	授業で扱った内容についての試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。
予習：次回の授業で扱う条文に目を通す。
復習：配布資料も参照するなどしながら、改めてテキストの該当部分を読み、理解を確認する。

【テキスト（教科書）】
滝沢昌彦・武川幸嗣・花本広志・執行秀幸・岡林伸幸『債権各論』（新ハイブリッド民法４）、法律文化社、2018年

【参考書】
窪田充見・森田宏樹編『民法判例百選Ⅱ債権』（第９版）、有斐閣、2023年
そのほか、授業内でも適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
期末試験により評価。（100％）

【学生の意見等からの気づき】
身近な例を積極的に取り上げるなどして、より具体的な解説をひきつづき心がける。

【Outline (in English)】
・Course outline
This course deals with the rules and problems about when is a contract be made, if a contract be made, what effects come up, and what is the case that a contract can be dissolved, and the effects of various kinds of contract that are provided in the code of civil law.
And by learning about the cases that have relations to the problems stated previously, students aim to acquire how to apply each of these articles, practically.
・Learning Objectives
By the end of the course, students should be able to do the followings:
① to understand the rules that applied to all contracts, commonly.
② to understand each rules that applied to contracts that provided in the code of civil law, specially.
③ to apply each articles that learn at this course to practical cases, taking ① and ② into consideration.
・Learning activities outside of classroom
Before each class meeting, students will be expected to have read the articles that took up at next class meeting.
After each class meeting, students will be expected to review the content that took up at last class by reading the relevant part of the text, referring to the explanation and the papers about summary that provided at each class meeting.
Your required study time is at least four hours for each class meeting.
・Grading Criteria
Final grade will be decided based on Term-end examination(100％).

LAW200TB（法学 / law 200）

刑法総論（春期スクーリング）

LEBRETON CAROLINE

カテゴリー：**春期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：　｜　単位数：**2単位**
期間：**春期**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講手続き等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
刑法とは、何が犯罪であるか、それに対してどのような刑罰が科されるかを規定する法律であり、この内刑法総論が刑法典第1編（72条まで）を基礎として各犯罪のいわば共通項としての一般的成立要件を中心に論ずるものである。
本授業では、その一般的成立要件について学ぶことを目的とする。

【到達目標】
刑法総論の勉強は、犯罪の成立要件と阻却事由を単に覚えるのではなく、条文から厳格な理論を展開しつつ、実際上も妥当な結論を導くという、特有の思考様式が必要となる。このような思考方法の基礎を身につけることを目的とする。
刑法典における一般的な成立要件について、判例・学説で問題とされている基本的な論点に関して、解釈論を展開することができる。
以上のような解釈論の結論を事例に適用し、犯罪の成立を議論することできることを目的とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
受講生が本講義で学んだ知識を道具として社会事象に適用できるという「考える力」を身につけることが目標であり、授業内で学説（内容と根拠）と具体的な事例（主に判例）研究を行う。
フィードバックは試験採点後にオンラインでアクセスできる資料として提供する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	刑法の意義、罪刑法定主義
第2回	成立要件①	成立要件（構成要件）とは何か、構成要件の様子
第3回	成立要件②	不作為論
第4回	成立要件③	因果関係論
第5回	違法性①	違法性の基礎、阻却事由の紹介、35条
第6回	違法性②	正当防衛
第7回	違法性③	緊急避難
第8回	故意・過失	責任の意義、責任の要素、責任阻却事由
第9回	故意・過失	過失論
第10回	責任	錯誤論（事実の錯誤、法律の錯誤）
第11回	未遂犯	未遂とは、中止犯、不能犯
第12回	共犯①	共犯とは、共犯の処罰根拠、共同正犯
第13回	共犯②、罪数	教唆犯、補助犯、共犯と身分
第14回	まとめ、試験	全体的なまとめ 試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業の復習を中心に行う。（ただし、事前に判例を読む（確認する）ことはお勧めです）
具体的には，講義の説明及びレジュメと照らし合わせながら，各自で教科書及び判例集の判例を読んで、理解すること。
本授業の準備・復習時間は、各 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
西田典之「刑法総論(第３版)」(弘文堂)
山口厚, 佐伯仁志, 橋爪隆「判例刑法総論〈第八版〉」(有斐閣)

【参考書】
別冊ジュリスト刑法判例百選１総論[第7版](有斐閣)

【成績評価の方法と基準】
最終時限に試験評価する。(100 %)

【学生の意見等からの気づき】
次の講義で予習した方が良い判例の番号を指示するようにします。

【学生が準備すべき機器他】
小型六法(「デイリー六法」三省堂など、オンラインで閲覧することも可)

【Outline (in English)】
Course outline: In this course, we will focus on the basic principles in criminal law, and the common elements of criminal offenses. In that regard, we will be focusing on the discussions regarding their interpretation(doctrines, jurisprudence).
Learning objectives: The main goal is for students to understand the foundations of criminal law thinking and the common elements of any offense. Mainly
1- understand how to read a section of the law and apply it to an actual situation
2- understand the different doctrines(the reason of the differences in interpretation and the practical consequences of those differences) and the position of the jurisprudence
Learning activities outside the classroom: Before/after each class meeting, each student should spend approximately four hours to understand the course content.
Grading criteria : Final examination 100%

LIT200TC（文学 / Literature 200）

日本文芸史Ⅰ（春期スクーリング）

加藤　昌嘉

カテゴリー：**春期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：　｜　単位数：**2単位**
期間：**春期**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講手続き等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
◆上代・中古・中世（奈良～平安～鎌倉時代）に成った、歌集や日記や物語を読み、文学の多様なありようを俯瞰します。同時に、今も議論が続き、定説が更新されつつある、《研究上の論争点・未解決問題》を考察してゆきます。
※「日本文芸史ＩＡ・Ｂ」は、日本文学科２～３年次、全コースの“必修科目”です。火曜６限（加藤＆伊海）クラスか、水曜２限（坂本＆阿部）クラス、いずれかを選んで受講してください。

【到達目標】
◆以下の３点を目標とします。
（A）古典文学の作られ方、組み立て、表現などを学ぶ。
（B）古典文学を研究するための着眼点や方法を知る。
（C）古典文学を、歴史の流れの中で捉える目を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
◆プリントを配布し、講義形式で進めます。
◆受講者からの疑問やアイディアは、授業内でフィードバック（フォローアップ）します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	概説	定説はアップデートされる
2	『竹取物語』	複数種類の竹取説話
3	『伊勢物語』	和歌から物語を作る
4	『古今和歌集』	配列とレトリック
5	ブックデザイン	写本・版本の形
6	『源氏物語』	フィクションの技法
7	『紫式部日記』『紫式部集』	女の悪口、女どうしの友愛
8	『蜻蛉日記』『更級日記』	夢と輪廻転生
9	『枕草子』	類聚と回想
10	『大鏡』『栄花物語』	天皇・貴族の、裏話
11	『日本霊異記』	生まれ変わりと愛欲
12	『今昔物語集』『宇治拾遺物語』	不思議な話、滑稽な話
13	『新古今和歌集』	前衛的な言語実験
14	『百人秀歌』『百人一首』	藤原定家が編纂した？

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
◆授業内で取り挙げられた本を、図書館や書店で手に取り、（部分的でもよいので）読んでみること。
※本授業の準備・復習時間は、各２時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
◆以下の国語便覧を教科書とします。歴史や文化を知るためのビジュアルハンドブックです。高校で教えられている内容が、最新の研究成果とどれくらい違うのか、この本で確認します。
◎足立直子ほか監修『プレミアムカラー国語便覧　改訂版』（数研出版）

【参考書】
◆以下のシリーズには、授業で取り挙げる作品の、原文＋現代語訳＋注釈が収められています。
◎角川ソフィア文庫（KADOKAWA）
◎講談社学術文庫（講談社）
◎ちくま学芸文庫（筑摩書房）
◎岩波文庫【黄帯】（岩波書店）
◎笠間文庫（笠間書院）
◎新編日本古典文学全集（小学館）
◎新潮日本古典集成（新潮社）
◎新日本古典文学大系（岩波書店）
◆以下のシリーズには、小説家や詩人による、古典文学の現代語訳が収められています。
◎古典新訳コレクション（河出文庫）
◆以下のデータベースで、新編日本古典文学全集（小学館）全巻を読むことができます。
◎法政大学図書館ホームページ「オンラインデータベース」→自宅の場合はVPN接続→ログイン→「ジャパンナレッジLib」を選び、ログイン→「本棚」の中の「新編日本古典文学全集」

【成績評価の方法と基準】
◆期末レポート（72％）、各回のリアクションペーパー（28％）。
※期末レポートは、複数の課題の中から１つを選択し、2000字～3000字程度の小論文を書くものです。
※毎回、リアクションペーパーに、疑問・アイディア・創作文などを書いて、提出してもらいます。

【学生の意見等からの気づき】
◆文学コースの受講者だけでなく言語コースや文芸コースの受講者にも有益な考え方や調べ方を紹介してゆきます。
◆日本の古典だけでなく現代の文学や海外の文学も積極的に取り挙げます。

【Outline (in English)】
Course Outline: This course provides an overview of the varieties of literature by reading poetry anthologies, diaries, and stories produced during the Nara (8th century), Heian (8th-12th centuries), and Kamakura (12th-14th centuries) periods. At the same time, we will examine "unresolved issues in the history of research" that are still being debated and the theories that are still being updated.
Learning Objectives: The goals of the course are the following three points:
- To understand the formation, composition, expression, etc. of classical literature.
- To understand the viewpoints and methods for studying classical literature.
- To learn to view classical literature in the context of historical trends.
Learning Activities Outside of the Classroom: Students will be expected to read the books introduced in class. Preparation and review time will be 2 hours for each class.
Grading Criteria/Policy: Grading will be decided based on a final report (72%), and reaction papers for each session (28%).

LIN100TC（言語学 / Linguistics 100）

日本言語学概論（春期スクーリング）

古牧　久典

カテゴリー：**春期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：　｜　単位数：**2単位**
期間：**春期**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講手続き等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では、ことばについての考え方を学ぶ。特に、言語の持つ柔軟性・流動性という側面を中心に概観する。

【到達目標】
・ことばの性質に迫るための考察技法を理解する。
・多角的な視点からことばを観察することができる。
・日本語を相対化し、ことばの本質を捉える姿勢を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
授業は配布資料によるスライドを使用しての講義形式で行い、リアクションペーパーで内容についてのコメント・意見を求めるという形式で進む。考える必要のあるコメント・意見を集約し、一部を次の授業内で紹介することにより、理解を深め、検討や議論を行う。毎回テーマごとに関連する現象について、実例を収集・整理する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	「日本言語学概論」の概要
第2回	ことばの常識を疑う	言語についての常識
第3回	「言語」とは？	言語・ことばの本質
第4回	従来の言語学とは？	比較・歴史言語学
第5回	言語の科学とは？	共時・汎時言語学
第6回	ことばが異なれば思考も違うのか？	人類言語学
第7回	心とことばの関係は？	心理言語学
第8回	ことばはどう習得される（する）のか？	言語習得論
第9回	社会とことばの関係は？	社会言語学
第10回	「方言」とは？	地域方言学
第11回	ことばの世代差とは？	年齢差の社会方言学
第12回	ことばのジェンダーとは？	ジェンダーの社会方言学
第13回	対人関係を築くことば遣いとは？	ポライトネス理論
第14回	まとめ	全体総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業は事前の予備知識は必要としないが、ことばに日頃から興味を持つ姿勢を身につける。授業で扱った現象の事例を収集、検討してみる。毎回簡単な課題が出るので、その課題に取り組む。疑問が生じた場合には、（質問も歓迎するが）図書館等を積極的に活用し、調べる。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
配布資料

【参考書】
加藤 重広 著 『ことばの科学（学びのエクササイズ）』（ひつじ書房）
斎藤 純男・田口 善久・西村 義樹 編 『明解言語学辞典』（三省堂）
その他、講義内で適時紹介する。

【成績評価の方法と基準】
リアクションペーパー・課題（70 %）、期末レポート（30 %）
（ただし、提出物の遅延提出や未提出があった場合には、合格評価とはならない。）

【学生の意見等からの気づき】
できるだけ身近な例を使ってわかりやすい説明を心がけます。

【その他の重要事項】
質問がある場合には、授業終了後に受け付ける。

【Outline (in English)】
Course Outline: This course is a general introduction to linguistics, the study of human language. The aim of this class is to help students learn the methodology of linguistics and related fields, such as the areas of approaches to language as a sign system (general linguistics), the study of the historical relationships of languages (comparative linguistics), anthropology of language (ethnolinguistics), psychology of language (psycholinguistics), and sociology of language (sociolinguistics).
Learning Objectives: The goals of this course are to introduce students to different perspectives on language issues.
Learning Activities Outside of the Classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Grading Criteria/Policy: Your overall grade in the class will be decided based on the following: short reports (70%); term-end report (30%). (You will not pass this course without submitting each report.)

LIN200TC（言語学 / Linguistics 200）

日本言語史（春期スクーリング）

松永　明

カテゴリー：**春期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：　｜　単位数：**2単位**
期間：**春期**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講手続き等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日本語の歴史について様々な面から、ある時は広く浅く、ある時は狭く深く学びます。

【到達目標】
日本語の「過去・現在・未来」について、理解を深めます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
プリントやビデオ等を使用して、日本語の歴史に関する知識を修得します。毎時間、100～200字程度の小レポートを授業中に提出してもらい、次の時間に紹介します。なお、受講者数が確定した段階で、座席を指定する予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業内容・受講の仕方・成績評価等についての説明
第2回	奈良時代の言語的特徴（1）	プリント等で解説し、授業中に小レポートを提出（1）
第3回	奈良時代の言語的特徴（2）	プリント等で解説し、授業中に小レポートを提出（2）
第4回	奈良時代の言語的特徴（3）	プリント等で解説し、授業中に小レポートを提出（3）
第5回	奈良時代の言語的特徴（4）	プリント等で解説し、授業中に小レポートを提出（4）
第6回	平安時代の言語的特徴（1）	プリント等で解説し、授業中に小レポートを提出（5）
第7回	平安時代の言語的特徴（2）	プリント等で解説し、授業中に小レポートを提出（6）
第8回	平安時代の言語的特徴（3）	プリント等で解説し、授業中に小レポートを提出（7）
第9回	平安時代の言語的特徴（4）	プリント等で解説し、授業中に小レポートを提出（8）
第10回	鎌倉・室町時代の言語的特徴（1）	プリント等で解説し、授業中に小レポートを提出（9）
第11回	鎌倉・室町時代の言語的特徴（2）	プリント等で解説し、授業中に小レポートを提出（10）
第12回	鎌倉・室町時代の言語的特徴（3）	プリント等で解説し、授業中に小レポートを提出（11）
第13回	鎌倉・室町時代の言語的特徴（4）	プリント等で解説し、授業中に小レポートを提出（12）
第14回	まとめ	大レポート提出と総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
図書館を活用し、日本語の歴史に関する本を積極的に多く読みましょう。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
テキストは指定せず、プリントを使用します。

【参考書】
参考書は授業の進行にそって、そのつど紹介します。

【成績評価の方法と基準】
毎時間提出する小レポート(50%)と最終授業時に提出する大レポート（50％）の内容を勘案して、評価します。

【学生の意見等からの気づき】
学期末レポートの提出期限は、もう少し遅くしてほしい。

【Outline (in English)】
Course Outline: The lecture introduces the history of the Japanese language. We will use several handouts to be distributed in class.
Learning Objectives: Students deepen their understanding of Japanese (past, present, and future).
Learning Activities Outside of the Classroom: Use the library and read as many books related to the history of Japanese as you can. As preparation and review of the class, students will be expected to spend about 2 hours to understand the course content.
Grading Criteria/Policy: Your overall grade in the class will be decided based on the following: short report at each class meeting (50%); long report at the last class meeting (50%).

LIT200TC（文学 / Literature 200）

文学概論（春期スクーリング）

山田　稔

カテゴリー：**春期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：　｜　単位数：**2単位**
期間：**春期**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講手続き等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講座では「日本近代文学」の成り立ちについて、具体的な作品鑑賞をもとに考えていきます。それを柱としながら、「文学を学ぶ」とはどういうことか、また、文学研究の方法といったことも考えていきます。つまり「日本近代文学」についての認識を深めるとともに、文学鑑賞、文学研究についての認識も深めていきたいと思います。その過程で多くの多様な作品に触れてほしいと思います。
その中で、近代文学の成立についての認識を深めていく。
特に春学期は、近代文学の成立と「明治から大正の文学への流れ」の特質について、考えていきたい。

【到達目標】
日本近代における「文学」の成立とその特質を、多方面から理解し、その理解を深めること。
また、その上に立って、文学研究の方法などについての認識を深めることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
「日本近代文学」とは何かを、文学史を意識して、言語についてなど、多方面からのアプローチを試み、学問として、その特質や研究方法などを意識しながら学んでいく。また実際に文学作品を取り上げながら、近代文学の成立過程から現代にいたる流れとその特質について理解を深める。その上で文学表現の可能性についても認識を深めていく。基本は講義形式であるが、出席者との対話も取り入れながら進めていくので、取り上げる作家・作品を事前に読んで授業に参加してほしい。フィードバック方法としては、書かれたものや発言などに対する授業内での講評や、よりよい先行研究や資料の例示などを行っていきます。授業後に質問を受け付けます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	講義概要―「文学」とは何か	今年度の講義概要と日本近代文学の成立における「文学」とはどういうものかについて考える 受講希望者は必ず出席してください。
第2回	近代・小説とは何か―構造と語り	文学と小説の構造―三島由紀夫「小説とは何か」、村上春樹「鏡」を一例として
第3回	日本語とはどういう言語か―近代日本語の成立と国語	和文の成立（紀貫之を中心として）から近代日本語の成立と国語という問題（二葉亭四迷など）を概説的に
第4回	文学研究とは何か―文学と社会について	鑑賞から研究へ―小田切秀雄と法政大学（『文学概論を中心に』）
第5回	研究の方法ー鑑賞と文学史、さまざまな方法について	作品鑑賞と作品論、作家論から文学史へ（小田切秀雄と三好行雄）、テクスト論とそれ以降の方法論の概説
第6回	「近代文学」の成立過程 第１回ー近代文学の始まり	日本近代に於ける文学の概念と小説の成立（坪内逍遙「小説神髄」、二葉亭四迷「浮雲」）
第7回	同２回ー近代詩の成立と批評性	『新体詩抄』と北村透谷
第8回	同３回ー内面描写と文体	二葉亭四迷『浮雲』第一篇から三篇へ、「没理想論争」について
第9回	同４回ー内面描写と文体２	鴎外『舞姫』擬古文体と漱石『吾輩は猫である』写生文など
第10回	可能性としての大正文学１ー自然主義と告白	島崎藤村『破戒』自然主義と田山花袋『蒲団』の告白と柳田国男について
第11回	同２―近代小説の完成と敗北	近代小説の完成者としての芥川龍之介―『羅生門』『奉教人の死』『歯車』などと芥川の死について
第12回	同３―文学と祈り	宮沢賢治の文学的営為について―『春と修羅』と『銀河鉄道の夜』
第13回	同４―プロレタリア文学について	プロレタリア文学理論と中野重治
第14回	前期まとめ	前期を総括して

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義で取り上げる作家・作品は事前に読んでおくこと。

【テキスト（教科書）】
上記に挙げた作品
どの作品も文庫などに入っている。とくに本の指定はしない。

【参考書】
中村光夫『日本の近代小説』（岩波新書）
磯田光一『鹿鳴館の系譜』（講談社文芸文庫）
柄谷行人『日本近代文学の起源』（講談社文芸文庫）
小田切秀雄『文学概論』（勁草書房、または小田切秀雄全集　勉誠出版）
三好行雄『三好行雄著作集』（筑摩書房）
安藤宏『日本近代小説史』新装版（中公選書）

【成績評価の方法と基準】
数回に１回の授業内の小課題提出（２０％）と講義で取り上げたテーマ作品についての論述テスト（７０％）を実施します。また、授業への参加度（１０％）などを総合的に判断して評価します。

【学生の意見等からの気づき】
本年度新たに担当するので特になし

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【その他の重要事項】
作品は変更する場合がある。その場合は事前に連絡する。

【Outline (in English)】
Course Outline: I will consider the origins of modern Japanese literature based on the appreciation of specific works. I will also consider what “learning literature” means.
Learning Objectives: The primary goal of this course is to deepen the students’ understanding of “Modern Japanese Literature”, as well as of literary appreciation and of literary research.
Learning Activities Outside of the Classroom: Read the works covered in the lecture in advance.
Grading Criteria/Policy: Evaluation is made comprehensively based on the submission of short assignments in class (20%), an essay test (70%), and the degree of participation in the class (10%).

LIT100TC（文学 / Literature 100）

日本文芸研究特講・漢文（春期スクーリング）

吉井　涼子

カテゴリー：**春期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：　｜　単位数：**2単位**
期間：**春期**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講手続き等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
先秦時代の有名な書物や親しみのある故事成語の典拠などを用い、比較的短文のものやシンプルな構造のものから読み始めることで、漢文（古典中国語）の訓読法の基礎を学習する。当時の文化や習俗も合わせて学んでいく。

【到達目標】
漢文の基礎構造を学び、訓読の手法を理解する。
有名な文献や故事成語の典拠、エピソードなどを読むことで、古代中国の歴史・文化に対する知識を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
講義形式で行う。訓点（句読点・返り点・送り仮名）を付した漢文資料をテキストとして配布し、文の構造を解説しながら精読する。読解に必要な時代背景や古代中国の文化に関する知識も、適時解説する。
毎回授業時にリアクションペーパーもしくは小課題を提出してもらい、学生の理解度や興味の方向性を確認し、補足が必要な部分や疑問点などは次の授業時に解説する。また、このリアクションペーパー（又は小課題）の提出と内容で平常点を決定する。
授業計画各回の「内容」にあるものは主として取り扱うものであり、適宜加える可能性がある。
Lecture format. Chinese materials with *kunten* (punctuation marks, *kaeriten*, *okurigana*) are distributed as texts and we read them carefully as I explain the structure of the sentences. I will also explain the historical background necessary for reading and knowledge of ancient Chinese culture in a timely manner.
In each class, you will submit a reaction paper or sub-assignment, which check the students' understanding and interests, and I will explain the sections and questions that need to be supplemented in the next class. In addition, a general grade will be based on the reaction papers (or short assignments). The "contents" of each lesson plan may be added to as appropriate.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業内容及び採点方法などの説明をする。また、先秦時代についての概要を学習する。
第2回	『論語』を読む	為政篇を中心に学ぶ。
第3回	『孟子』を読む	梁恵王上から「五十歩百歩」などの出典の部分などを読む。
第4回	『管子』を読む	牧民から「倉廩実ちて則ち礼節を知り、衣食足りて則ち栄辱を知る」の成語を学ぶ。
第5回	『荘子』を読む	『荘子』は寓意的な話の宝庫である。斉物論から「夢に胡蝶となる」の話を、応帝王から「混沌の死」を読み解く。
第6回	『淮南子』を読む	『淮南子』人間から「塞翁が馬」の故事を読む。
第7回	『春秋左氏伝』を読む	『春秋』と『春秋左氏伝』の違いについて解説し、「不及黄泉、無相見也」の故事を知る。
第8回	『史記』越世家を読む（1）	「臥薪嘗胆」の故事で有名な『史記』越世家を読む。
第9回	『史記』越世家を読む（2）	「呉越同舟」でも知られる呉と越が、どのような結末を迎えるかを知る。
第10回	『史記』廉頗藺相如列伝を読む（1）	当時の中国の歴史状況を解説しつつ、「完璧」の故事の部分を読む。
第11回	『史記』廉頗藺相如列伝を読む（2）	「完璧」の故事の部分を精読し、当時の秦と六国の関係性を理解する。
第12回	『史記』廉頗藺相如列伝を読む（3）	「完璧」の故事の部分の結末を読む。
第13回	復習と総括	改めて、漢文の基礎構造や初歩的な訓読方法を復習する。
第14回	試験・まとめと解説	授業で学んだ知識などが身についているか確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
事前に配られたテキストには必ず予習を行うこと。
予習には漢和辞典・漢字辞典が必須となる。
本授業の準備・復習時間は、各２時間を標準とする。
Be sure to prepare for the materials distributed in advance.
Chinese-Japanese dictionaries and kanji dictionaries are used for preparation.
The preparation and review time for this class is 2 hours each.

【テキスト（教科書）】
授業時に配布するプリントをテキストとする。
Texts will be distributed in class.

【参考書】
三省堂『全訳　漢辞海』（漢和辞典）
高校時代に使用した国語便覧など。
A dictionary of Chinese characters explained in Japanese.
High school supplementary textbook.

【成績評価の方法と基準】
毎回のリアクションペーパーもしくは小課題を主とする平常点を３０％、期末考査の点数を７０％として評価する。出席は大前提とする。

【学生の意見等からの気づき】
本授業は、漢文訓読を通じて行う。中国・台湾などからの留学生の方には難解な技法かと思うが、この点にご留意の上で受講を決めるようにしていただきたい。
１回ごときちんと理解ができるよう、授業はゆるやかなペースで行う。
This class is conducted through *kundoku*, or a method for reading ancient Chinese in literary Japanese. I think that it may be difficult for international students from China, Taiwan, etc., but please pay attention to this point before deciding to take the course. Classes are held at a gentle pace.

【学生が準備すべき機器他】
・できれば紙のものが望ましいが、アプリ等でも構わないので漢和辞典
・高校国語の副教本(便覧・要覧)
など。
・また、オンライン授業になった場合はHoppiiを使うので、使用できるような環境を整えておくこと。
・If possible, a paper dictionary is desirable, but it does not matter if it is an app, as long as it is a Chinese-Japanese dictionary.
・High school supplementary textbook.
・Also, if we have an online class, I will use Hoppii, so make sure you have an environment where you can use it.

【その他の重要事項】
対面授業の予定だが、オンライン(オンデマンド)になる可能性のあることを了解の上で登録すること。その場合はHoppiiを利用し、zoomなどは使わない予定である。

I'm planning a face-to-face class, but I'm going to register with the understanding that it might be online (on demand). In that case, I plan to use Hoppii rather than Zoom.

【Outline (in English)】

Course Outline: In this class, we learn how to read classical Chinese using familiar stories. We start with simple and short passages from famous books of the pre-Qin Dynasty, carefully reading them while touching on Chinese culture and stories, in order to cultivate basic skills in reading classical Chinese.

Learning Objectives: Students will learn the basic structures of classical Chinese and gain an understanding of the *kundoku* method for reading Chinese in literary Japanese. They will also deepen their knowledge of the history and culture of ancient China by reading famous works of literature, historical stories and episodes.

Learning Activities Outside of the Classroom: Students should prepare by examining the materials distributed in advance. Chinese-Japanese dictionaries and Chinese character dictionaries are necessary for preparation. The preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading Criteria/Policy: Grades will be based on the following: a general grade based on contents of regular reaction papers and short assignments (70%), and a final examination (30%). Attendance is assumed.

LIT200TC（文学 / Literature 200）

日本文芸研究特講・特域（春期スクーリング）

安原　眞琴

カテゴリー：**春期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：　｜　単位数：**2単位**
期間：**春期**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講手続き等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
文芸読解の前提としての江戸／東京を、古地図や浮世絵などを見ながら学ぶ。

【到達目標】
・現在我々がいる「場」への関心、理解を高めることができる。
・文学の舞台の重要性に気付くことができる。
・古地図や浮世絵の知識を身に付けることができる。
・資料の分析・解釈を行う上で必要となる情報を収集し、それらを咀嚼し発表するなど、活用することができる。
・現在と過去の町を比較することで、都市の成り立ちや町づくりのあり方などを考えられるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
毎回リアクションペーパーを提出し平常点を付加していく。
授業は講義形式だが、中間レポート以降、各自実際に町に出て調査してもらう予定である。
リアクションペーパーと中間レポートはMLS上で点数でフィードバックする。最終レポートはブラッシュアップ時に必要であればアドバイスするが、最終的な点数などの評価はフィードバックも公表もしない。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	・授業の進め方などを説明する。 ・文学の舞台になってきた東京の土地の歴史を学ぶ。
第2回	東京の概要を知る	江戸時代以降の首都「東京」の成り立ちを学ぶ。
第3回	古地図を知る	古地図の種類と見方を学ぶ。
第4回	現在の東京を知る	23区の１区ごとの位置や特徴などを学ぶ。
第5回	江戸の中心「江戸城」を知る	江戸城について学ぶ。
第6回	城下町「江戸」の概要を知る	下町と山の手について学ぶ。
第7回	日本橋を知る	東京の具体的な町の歴史を学ぶ。（日本橋など）
第8回	上野を知る	東京の具体的な町の歴史を学ぶ。（日本橋など）
第9回	浅草を知る	東京の具体的な町の歴史を学ぶ。（日本橋など）
第10回	銀座を知る	東京の具体的な町の歴史を学ぶ。（日本橋など）
第11回	赤坂を知る	東京の具体的な町の歴史を学ぶ。（日本橋など）
第12回	新宿を知る	東京の具体的な町の歴史を学ぶ。（日本橋など）
第13回	その他の町を知る	東京の具体的な町の歴史を学ぶ。（日本橋など）
第14回	各自、担当した町について最終的なまとめを行う。	これまでの学習をブラッシュアップして、最終レポートを作成する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
準備学習：授業内容に関する事柄を事前に学習してくる（2時間）
復習：授業で学んだことを踏まえて、事前学習をブラッシュアップしてくる。（２時間）
宿題：担当する町について調べる。

【テキスト（教科書）】
特に定めず、授業時に指示する。

【参考書】
錦絵で楽しむ江戸の名所（国会図書館のサイト： https://www.ndl.go.jp/landmarks/index.html）
安原眞琴『東京の老舗を食べる』（亜紀書房、2015）
安原眞琴『東京おいしい老舗散歩』（東海教育研究所、2017）

【成績評価の方法と基準】
・リアクションペーパーを毎回提出させ平常点として加算していきます。60％
・中間レポート（宿題）20％
・期末レポート20％
これらの総合判断により評価します。

【学生の意見等からの気づき】
毎年、まじめな学生が多く、この先どんな分野に進むにせよ、ますますの成長を楽しみにさせてくれる。これからも、何か少しでも自分のために学ぼうとし、且つ学んだことを自分のこやしにしていってほしい。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムを使いたいと思っています。

【その他の重要事項】
授業終了時の教壇前での会話・相談をオフィスアワーとします。
ただし、重要な連絡がある場合は、次の安原眞琴公式ホームページのコンタクト欄を使用します。
http://www.makotooffice.net/

【Outline (in English)】
Course Outline: In this class, we learn about Edo/Tokyo as a premise for reading comprehension, while examining old maps and ukiyo-e woodblock prints.
Learning Objectives: The aims of the class are to become more conscious of where we are, and of the settings of works of literature, while gaining knowledge about old maps and ukiyo-e. Students learn to collect and digest relevant information, and report on it. Comparing urban areas of the past and present gives students insight into how they are formed and evolve.
Learning Activities Outside of the Classroom: 1 to 2 hours of preparation on the topic of each lecture, and a similar amount of time of review. This will occasionally be supplemented with short assignments.
Grading Criteria/Policy: Grading is based on the following: written reactions to each lecture (60%); mid-semester assignments (20%); and final report (20%).

LIT100TC（文学 / Literature 100）

日本文芸研究特講・近代（春期スクーリング）

高口　智史

カテゴリー：**春期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：　｜　単位数：**2単位**
期間：**春期**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講手続き等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
〈明治〉文学を読む――〈居場所〉を失う人々の物語
文学には様々なアプローチの仕方があるが、この授業では文学作品の想像力と批評性という点から文学作品の持つ今日における可能性について考えたい。
明治の文学というと21世紀の今日では100年を経過し既に古典のように思う人も多いかもしれない。明治の人々の苦悩を、古い封建時代に抵抗した「新しい人間」の苦悩の問題と捉えると、確かに現在では解決済みの古びた問題のように見える。しかし視点を変えて、明治の文学が新たに確立していく近代の資本主義国家体制に翻弄され、その中でどう生きるかという問題を投げかけた文学だったと考えると、「新自由主義」の暴走の中で、旧来の秩序が崩壊し、個の尊厳が奪われていく現在の私たちにそれほど遠い話ではないように思われる。
そこでなぜ〈居場所〉をテーマとするのか。ひとは個で生きているのではなく、自分の存在が承認され、日常が永続的に繰り返される環境を必要としている。〈居場所〉という言葉に象徴される関係性の中で生きているのだ。しかし近代国家や資本は、それらにとって「役に立たない」＝価値のない人間から〈居場所〉を奪い、容赦なく排除してきた。言い換えれば、人間をつねに流動化させ、生の基盤である平穏な日常を過ごす〈居場所〉を奪ってきた。私たちの抱える不安は近代社会の構造に根差しているところが大きい。
ところでこのような経験は既に近代化の始まった「明治」に始まっている。明治の文学者こそ、なんの予備知識や情報、理論も持ち合わせないまま突然現れた新しい時代に向き合い、物語という想像力だけを頼りに困難な時代の中での人間の生き方を模索したのだと言える。授業ではいずれも明治の代表的な作品（「浮雲」「十三夜」「坊っちゃん」「舞姫」）を「〈居場所〉を失う人々の物語」という視点で新たに読み返し、私たちの現在を照射する鏡としたいと思っている。

【到達目標】
・新しい視点から「明治」文学の歴史的意味、さらに今日における意味を理解する。
・文学作品のもつ想像性や批評性を理解する。
・小説の基本的な構造分析と読みの方法について学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
講義形式で行う。授業に入る時にその作品についての感想を提出してもらう。また終了時には、どういう発見があったか、何を学ぶことが出来たか、または授業への質問疑問などを提出してもらい、適宜その内容について授業で発表し問題を共有していく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	①この授業の目的と進め方について ②近代文学の発生をめぐる歴史的コンテクスト
第2回	二葉亭四迷「浮雲」を読む①	①第一篇の物語を読む（失業という問題） ②第一篇の語りの構造についての考察
第3回	二葉亭四迷「浮雲」を読む②	①第二篇の物語を読む（イエのエゴイズム） ②第二篇の語りの構造についての考察
第4回	二葉亭四迷「浮雲」を読む③	①第三篇の物語を読む ②第三篇の語りの構造と中絶との関連をめぐる歴史的問題 ③「浮雲」の批評性について（ポスト自由民権時代の問題をめぐって）
第5回	森鷗外「舞姫」を読む①	①物語の概要の確認　②物語を読む1―「まことの我」への新しい視点
第6回	森鷗外「舞姫」を読む②	①物語を読む2―相沢謙吉登場の意味・二つの文化の衝突の問題
第7回	森鷗外「舞姫」を読む③	①物語を読む3―豊太郎の破綻と語りの構造についての考察（文語文の意味）　②「舞姫」の批評性について（自我と文化）
第8回	樋口一葉「十三夜」を読む①	①物語を読む1―歴史的コンテクストをめぐる考察（没落士族という身分・明治のジェンダー）
第9回	樋口一葉「十三夜」を読む②	①物語を読む2―録之助の物語に表象される近代の暴力 ②作品の批評性について考える（近代と対峙する一葉）
第10回	夏目漱石「坊っちゃん」を読む①	①物語を読む1―四国に旅立つまで ②語りの構造について考える（行為としての語り）
第11回	夏目漱石「坊っちゃん」を読む②	①物語を読む2―四国の物語をめぐる重層的な語りの構造について考える
第12回	夏目漱石「坊っちゃん」を読む③	①物語を読む3―「清」という表象 ②漱石における「坊っちゃん」の位置と「坊っちゃん」の批評性
第13回	まとめ	近代の暴力と〈居場所〉―〈明治〉文学を今日に活かすために
第14回	学期末試とその解説	①授業の理解を確認する試験 ②試験の解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
事前に必ず作品を読んで授業に臨んでほしい。いずれも文庫でテキストが手に入りやすい作品なので、その周辺の作品にも目を通しておいてほしい。また今回取り上げる作品の歴史的コンテクストについても予習し、明治時代についてのおおまかなイメージをつかんでおいてくれればなおよい。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
「浮雲」（岩波文庫）、「坊っちゃん」（新潮文庫）を使用する。そのほかの「舞姫」「十三夜」のテキスト及び資料は学習システムや授業を通して配布する。

【参考書】
・内田樹『映画の構造分析』（文春文庫）なぜテクスト論なのか、映画を対象にテクスト分析の実際をわかりやすく論じている。
・土方洋一『物語のレッスン』（青簡舎・品切れ）手に入りにくいが、読み方をめぐる最良の入門書。探してでも読んでほしい。
・三原芳秋他『クリティカル・ワード文学理論』（フィルムアート社）少々何回だが、テクスト分析用語、様々な批評理論についての知識を身につけるためにはよい。
・西郷信綱『古典の影』（平凡社ライブラリー・品切れ）読みとはなにかについて考える上でのヒントにあふれている。

【成績評価の方法と基準】
・平常点＝各作品をめぐる感想や授業コメント等（５０％）
授業に対する取り組む姿勢（作品をしっかり読みこんでいるか、授業を理解しようとする姿勢があるか等）
・学期末試験（５０％）
授業の理解度についての試験。

【学生の意見等からの気づき】
・講義形式で一方通行になりがちなので、学習支援システムを有効に活用し出来る限りリアクションペーパーや感想を通して受講生の声を取り上げていきたい。
・話が早くて理解が追いつかないという意見もあった。なるべく基本的な点については丁寧に説明するように心掛けたい。

【Outline (in English)】
Reading Meiji Literature: Stories of People Who Lose Their Place
There are various approaches to literature, but in this class, we would like to think about the possibilities of literary works today in terms of their imagination and criticality.
Today, in the 21st century, many people may think of Meiji literature as a classic, as 100 years have passed. If we think of the suffering of the Meiji people as the problem of how to adapt to a new era in the midst of being at the mercy of the old feudal era and the new Western civilization, it certainly seems like an old problem that had been resolved. However, if we change our perspective and consider that the problem was how to live at the mercy of the newly established modern capitalist state system, it doesn't seem to be an old story for us today, as the old order collapses and individual dignity is being taken away in the face of the runaway capitalism of "neoliberalism."
Then, why do we choose "their place" as a theme? "Their place" does not just mean a place to live. We do not live as individuals; we need a place where our existence is acknowledged and where our daily routine can be repeated permanently. We live in a variety of relationships symbolized by the word "place." However, the modern state and capital have deprived people who are "useless" or have no value of "their place" and have ruthlessly eliminated them. We live in a society where humans are constantly in flux, and it is extremely difficult to have our place to belong, which is the foundation of humanity. Our inability to feel happiness even though we have enough food and clothing is largely due to the structure of modern society.

However, if you read literary works, you will find that this kind of experience already began in the Meiji era. It can be said that the people of the Meiji era were the ones who searched for the human condition in a new era that suddenly appeared, relying only on the imagination of stories, without any theory. In this class, we would like to reread representative works of the Meiji era such as “Ukigumo,” “Zyusanya,” “Botchan,” and “Maihime” from the perspective of “stories of people who lose their place,” and use them as mirrors to illuminate our current situation.
Work to be done outside of class (preparation, etc.)
Please be sure to read the work before coming to class. All of these works are easily available in paperback, so please take a look at their surrounding works as well. It would also be a good idea to study the historical context of the works we will be discussing this time and have a rough idea of the Meiji period. The standard preparation and review time for this class is two hours each.
Grading criteria
· Normal score = impressions about each work, class comments, etc. (50%)
Attitude toward the lesson (are you reading the work thoroughly, are you trying to understand the lesson, etc.)
· Final exam (50%)
A test of understanding of the lesson.

LIT100TC（文学 / Literature 100）

日本文芸学概論（春期スクーリング）

栗山　元子

カテゴリー：**春期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：　｜　単位数：**2単位**
期間：**春期**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講手続き等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この講義では、平安期の物語を中心とした散文作品において「女性がどのように書かれているか」ということをテーマに考察を行っていきます。毎回取り上げる作品についての基礎的な知識を押さえつつ、それぞれの作品における女主人公や脇役の女房たちなどの造型の意義や特徴について考えていくことで、作品の表現や世界観についての認識を深めることを狙いとします。また主人公像の変化といったことから物語史の流れについての把握を促します。総じて、平安期の物語や物語を生んだ時代などの背景についての理解を深めていくことを目指します。

【到達目標】
①平安期の散文作品について、その表現に触れることを通じて、それぞれの作品の持つ魅力や意義についての理解を深めます。
②平安期の物語史の流れについての理解を深めます。
③平安期における女性像を散文作品の中に探ることで、古典文学と時代性の関わりへの理解や関心を高めます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
テキストには講師作成のプリントを使用しますが、パワーポイントも併用します。また授業への主体的参加度や理解度を計るために、受講者には毎授業ごとにリアクションペーパーの提出を課します。次週の授業では、そのリアクションペーパーでの意見や質問に答える形でのフィードバックを行い、学習の定着を促します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第一回	ガイダンス	授業の内容や方針、進め方などについての説明と「物語」についての基礎知識の確認をします。
第二回	『竹取物語』における女性像	かぐや姫の造型やあまり存在感のない媼について考えていきます。
第三回	『伊勢物語』における女性たち	『伊勢物語』に登場するさまざな女性像について見ていきます。
第四回	『落窪物語』における女性像	『落窪物語』における主人公の姫君やその侍女の造型について考えていきます。
第五回	『うつほ物語』における女性像	求婚譚のヒロイン・あて宮像について考察していきます。
第六回	『源氏物語』の女性像①	桐壺更衣像について考えていきます。
第七回	『源氏物語』の女性像②	紫の上像について考えていきます。
第八回	『源氏物語』の女性像③	女三宮像について考えていきます。
第九回	『源氏物語』の女性像④	浮舟像について見ていきます。
第十回	『夜の寝覚』の女性像	『夜の寝覚』の主人公について考察していきます。
第十一回	『枕草子』におけるさまざまな女性像	『枕草子』に書かれた女性像（女房たち）を見ていきます。
第十二回	説話文学の中の女性像	説話文学におけるさまざまな女性をめぐる話を読んでいきます。
第十三回	中世王朝物語における女性像	中世王朝物語における主人公である女性像を見ていくことで、平安期の物語の影響などについても考えます。
第十四回	授業のまとめと理解度の確認	全体のまとめ／授業後半では理解度の確認のための教場試験を行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。準備学習としては次回に取り上げる作品について、事前にその内容や成立年代、人物関係などの基礎知識について確認をしておいてください。また授業後には講義内容の確認と整理、参考資料などを読んで理解を深めるなどの復習を行ってください。

【テキスト（教科書）】
テキストは使用せず、講師が作成するプリントを教室にて配布します。教室ではパワーポイントも併用します。

【参考書】
・必要に応じて授業内で紹介を行います。
・中野幸一編『新装版　常用　源氏物語要覧』（武蔵野書院　2012年）
・有精堂編集部編『時代別日本文学史事典　中古編』（有精堂出版　1995年）
・各作品については、小学館新編日本古典文学全集や岩波新日本古典文学大系、新潮日本古典集成、岩波文庫、角川文庫、笠間書院の中世王朝物語全集などのテキスト類を各自で適宜参照し、読んでください。

【成績評価の方法と基準】
①理解度の確認のための試験　３０％。
②平常点　７０％　（毎回のリアクションペーパーにおいて、授業への主体的な取り組み姿勢を評価します）。

【学生の意見等からの気づき】
授業は講義形式ですが、昨年度は受講者相互に意見交換する機会を設けたことに対し好意的な意見が寄せられたので、なるべくそういった双方向的な場を提供できるように心がけたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】
特にありません。

【Outline (in English)】
【Course outline】In this class, You will be lectured on how women of the Heian period were written in narrative stories（Monogatari）.By looking at the similarities and differences among the heroines in several works, you will be provided an overview of Heian-period tales. And you will also learn about the influences of the period on the works.【Learning Objectives】By the end of this course,you will learn basic knowledge about Monogatari of Heian-period,and deepen an understanding of the history of the development of narrative works.【Learning activities outside of classroom】Students will be expected to make a preparation of each lessons,and will be also expected to have reviewed of the last lesson.Your study time will be two hours each for preparation and review.【Grading Criteria/Policy】Grading will be decided based on short reports in class room(70%),and Test to check understanding at the end of the semester(30%).

ART200TC（芸術学 / Art studies 200）

日本芸能史（春期スクーリング）

富山　隆広

カテゴリー：**春期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：　｜　単位数：**2単位**
期間：**春期**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講手続き等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では、室町～現代に至るまでの能楽の歴史を学びます。各時代における諸芸能との関連にも触れ、能楽の視点から日本芸能史を把握することを目指します。

【到達目標】
①能楽の歴史について、正確な知識のもと説明することができる。
②能楽を軸とした日本の芸能史について、自らの考えをまとめることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
資料を配布し、それに基づいて講義形式で進めます。適宜、映像資料も用いる予定です。
授業のはじめに前回の授業で提出されたリアクションペーパーをいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	講義の進め方を確認し、能楽に関する基礎知識をおさえます。
第2回	観阿弥・世阿弥	能の大成者である観阿弥・世阿弥の生涯と業績を学びます。
第3回	世阿弥作品①	世阿弥の作品について鬼能を中心に学びます。
第4回	世阿弥作品②	世阿弥の確立した複式夢幻能について学びます。
第5回	観世元雅の生涯と作品	世阿弥の後継者の一人、観世元雅の生涯と作品を学びます。
第6回	風流能について	室町後期に流行した風流能について学びます。
第7回	権力者と能①	豊臣秀吉と能の関わりについて学びます。
第8回	権力者と能②	徳川将軍と能の関わりについて、綱吉の事例を中心に学びます。
第9回	近世諸芸能と能	近世の芸能・文芸と能の関わりについて学びます。
第10回	危機と能楽	明治維新・関東大震災が能楽界に与えた影響や変化について学びます。
第11回	戦時下と能	戦時下に制作された新作能（時局能）について学びます。
第12回	近現代文学と能	近現代文学と能の関わりについて、三島由紀夫『近代能楽集』を中心に学びます。
第13回	新作能について	近現代に制作された新作能について学びます。
第14回	まとめ・筆記試験	これまでの総括と試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
講義時に配布する資料を教材とします。

【参考書】
配布資料に適宜示します。

【成績評価の方法と基準】
試験50％、平常点50％。平常点はリアクションペーパーに出席状況を加味して評価します。

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】
なし。

【Outline (in English)】
In this course, students will study the history of Nohgaku from Muromachi to the present day. We will also touch on the relationship between Nohgaku and other performing arts in each period, aiming to grasp the history of Japanese performing arts from the perspective of Nohgaku.

HIS300TD（史学 / History 300）

日本近代史（春期スクーリング）

柏木　一朗

カテゴリー：**春期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：　｜　単位数：**2単位**
期間：**春期**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講手続き等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
近代から現代へと時代が移行した昭和時代に焦点をあて、日本はなぜ戦争への道を選んだのか。戦前・戦中・戦後の昭和史を政治・外交・軍事の各分野から紐解き、開戦から敗戦に至る過程を理解することを目的とする。

【到達目標】
近代現代日本の歴史の大きな流れを把握する。昭和時代、日本が戦争への道を選んだ要因について、特定の歴史観やイデオロギーに偏らず実証を旨とし歴史を考察する力を会得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
講義形式で講義をすすめ適宜プリントを配布する。授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーから何点か取り上げ、全体に対してフィードバックをおこなう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	はじめに　軍縮の時代と陸海軍	第一次世界大戦後の軍縮と軍人の社会的地位について考察する。
2	世界恐慌下の日本	世界恐慌下における日本の政局について考察する。
3	満州事変後の政局と政党政治の終焉	満州事変後の日本の政局について考察する。
4	軍部の台頭	五・一五事件以降の日本の政局について天皇機関説事件を中心に考察する。
5	日中戦争における和平工作	日本及び中国側から見た日中和平工作について考察する。
6	日中戦争の拡大	日中戦争の拡大と米国の対日政策について考察する。
7	第二次世界大戦勃発と日本	第二次世界大戦勃発と新体制運動について考察する。
8	太平洋戦争への分岐点	日本の仏印進駐と関東軍特種演習について考察する。
9	日米開戦	日米開戦について海軍の政策を中心に考察する。
10	太平洋戦時下の日本	太平洋戦争の戦局の推移と戦争下の内政に考察する。
11	日本の敗戦	戦局の転換と敗戦に至る政局の推移について考察する。
12	終戦から占領改革へ	戦後日本の占領改革について考察する。
13	戦争政策の転換と戦後復興　おわりに	東アジアにおける冷戦の激化と米国の占領政策の転換について考察する。
14	授業内試験	参照不可

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
日本の歴史の大きな流れを把握しておくこと。テキストをよく読み要点をノートにまとめておくこと。本授業の準備・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
『昭和史講義２』筒井清忠編 筑摩書房 ちくま新書1194 2016年 1,000円（税抜）

【参考書】
テキスト各章毎に記載されている「さらに詳しく知るための参考文献」を適宜参照すること。

【成績評価の方法と基準】
最終講義で実施する試験（授業内試験）で成績を評価する。

【学生の意見等からの気づき】
パワーポイントの文字の大きさ、マイクの音量に注意する。

【Outline (in English)】
Focusing on the Showa era, when transitioned from modern to post modern, why did Japan go to war?
Focusing on the history of the Showa era from pre-war to post-war in the field of politics diplomacy and military, our purpose is to understand the process from the start of the war to the defeat.
You can understand flow of modern Japanese history from a broader perspective.
Without having a particular historical view or ideology, you can acquire the ability to consider the historical factors that led Japan to go to war in the Showa era by proofs.
Before you take a class, you must understand flow of Japanese history.
You must read the textbook and summarize the main points in your notebook, spending 2 hours learnings.
Your grade will be evaluated by exam held in the final class.

HIS100TD（史学 / History 100）

日本史概説（春期スクーリング）

安田　寛子

カテゴリー：**春期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：　｜　単位数：**2単位**
期間：**春期**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講手続き等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
国際化の進展のなかで、日本文化の発信が重要視されているが、その多くが江戸時代に成熟した、あるいは生み出されたものである。それは、この時代が幕藩体制と呼ばれる仕組みのうえに、260年余りも平和が続いた時代であったことが大きく影響していたといえる。そこで、この時代を支えた支配機構の特質や、そこで生きた人々について取り上げ、このような平和で安定的な長期政権となった理由はどこにあったのか、またそれだけ続いた政権がなぜ崩壊することになったのかについて考える。

【到達目標】
今後、広く国際社会に日本を発信していくためには、日本とはどういう国なのかということを我々自身がより深く知る必要がある。そこで、今も日本のなかに多くの影響を残す江戸時代について、単に紙の上の学問としてではなく、我々と同じ生身の人間が生きた時代として身近に感じながら学んでいく。
これにより、自分たちの国についての理解を深め、ひいては物事の本質を見抜き、判断する力を養うことが目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
授業は講義形態で実施する。まず江戸幕府の成立過程を概観し、そこから徳川政権の特質について考え、その後いくつか特徴的なテーマを選んで詳しく見ていく。
なお、授業内で課す課題などに対するフィードバックはすべて授業内で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	講義概要と参考文献	授業の進め方と参考文献
第2回	江戸幕府の成立 1	天下統一と民衆への対応
第3回	江戸幕府の成立 2	武家への対応、朝廷への対応①
第4回	江戸幕府の成立 3	朝廷への対応②、宗教への対応、徳川政権の特質
第5回	鷹場制度　1	鷹場制度とは、なぜ放鷹なのか
第6回	鷹場制度　2	鷹場制度の維持基盤
第7回	鷹場制度　3	鷹場制度の解体
第8回	享保の改革　1	近世の政治改革、享保の改革第１期①
第9回	享保の改革　2	享保の改革第１期②、第２期、第３期
第10回	寛政の改革　1	定信政権の性格・危機感、経済政策、社会政策
第11回	寛政の改革　2	医療改革、朝幕関係、対外関係、国防体制
第12回	天保の改革　1	背景、物価対策、風俗・情報統制、農村復興策、将軍権威
第13回	天保の改革　2	対外政策
第14回	試験	まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
事前の学習は特に必要としない。
ただし、授業開始後の復習は必ず行い、内容を理解出来ているか、毎回きちんと確認すること。
復習および関連の学習時間は、１回につき４時間以上を目安とする。

【テキスト（教科書）】
教科書等は使用せず、毎回プリントを配布する。

【参考書】
安田寛子『幕末期の江戸幕府鷹場制度－徳川慶喜の政治構想－』（河出書房新社、2020年）3080円（税込み）
児玉幸多・佐々木潤之介編『新版　史料による日本の歩み（近世編）』（吉川弘文館、1996 年）4180 円（税込み）
この他の参考図書については、授業のなかで紹介していく。

【成績評価の方法と基準】
期末試験１００％

【学生の意見等からの気づき】
なるべくわかりやすく、ゆっくり話すように心がける。

【Outline (in English)】
We will discuss the characteristics of the control system that supported the Edo period and the people who lived there, and consider why it became such a peaceful and stable long-term government and why it collapsed.
The goal of this course is to develop the ability to see and judge the essence of things.
After each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Final grade will be decided based on the Term-end examination:100%

HIS200TD（史学 / History 200）

西洋史概説（春期スクーリング）

竹下　和亮

カテゴリー：**春期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：　｜　単位数：**2単位**
期間：**春期**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講手続き等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
西洋は世界の様々な地域の一つであるに過ぎないが、同時に、いま私たちが生きる世界の形成にあたって極めて大きな役割を果たしてきた。本講義ではその両面をみすえた上で、とくに中世以降の西洋の歴史の流れ、基本的な歴史用語を解説する。本年度は、とくにまとめて言及されることの少ない重要なヨーロッパの小国（北欧諸国、スイス・オーストリア、ベネルクス）に焦点を当てる予定である。

【到達目標】
中世以降の西洋の歴史に関する基礎的な知識を習得し、他の地域の歴史と比較したときの独自の特徴、及びとりわけヨーロッパにおける小国の果たした歴史的な役割を理解することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
王家の系図と年表を詳細に検討しながら講義をします。質問は授業内、授業終了後などでいつでも受け付けます。課題等のフィードバックは授業内で行います。授業の内容と日程は、受講の関心等により多少変更されることもあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	時代区分と主要な概念
第2回	ローマ帝国の崩壊とゲルマン諸王国の成立	フランス王国、ドイツ王国、イタリア王国、イングランド王国の成立
第3回	北欧諸国の歴史 I	デンマークの歴史 I
第4回	北欧諸国の歴史 II	デンマークの歴史 II
第5回	北欧諸国の歴史 III	スウェーデンの歴史　I
第6回	北欧諸国の歴史 IV	スウェーデンの歴史　II
第7回	北欧諸国の歴史 V	ノルウェーの歴史
第8回	北欧諸国の歴史 VI	フィンランドとアイスランドの歴史
第9回	スイス・オーストリアの歴史　I	スイスの歴史
第10回	スイス・オーストリアの歴史　II	オーストリアの歴史
第11回	ベネルクスの歴史 I	オランダの歴史 I
第12回	ベネルクスの歴史 II	オランダの歴史 II
第13回	ベネルクスの歴史 III	ベルギーとルクセンブルクの歴史
第14回	まとめ	ヨーロッパの小国と世界の歴史

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
文献が配布されたときは、事前に読んでおいてください。
本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
レジュメと資料を配布します。

【参考書】
百瀬宏『小国―歴史にみる理念と現実』岩波現代文庫、2022年

【成績評価の方法と基準】
試験（100%）

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【その他の重要事項】
特になし

【Outline (in English)】
Europe is only a part of the world just like any other regions on the earth; however, we can't deny its considerable contributions to the formation of the present world. By focusing on these aspects of Europe, this course will lecture on the general flow of its history, from the Medieval Age onwards, and the basic terminology for the historical research.

HIS300TD（史学 / History 300）

東洋史特講（東南アジア史）（春期スクーリング）

澁谷　由紀

カテゴリー：**春期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：　｜　単位数：**2単位**
期間：**春期**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講手続き等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、古代から現代までの東南アジア通史を学びます。授業を通じて東南アジア史の主な特徴を理解し、それを基盤として現代の東南アジアに関する様々な問題について自ら探求する力を養うことを目的とします。

【到達目標】
・東南アジアの地理と歴史にかかわる基本的な事項を知ること
・東南アジア史の特徴を理解すること
・東南アジア史の諸問題に関して自らの見解を述べる力をつけること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
（1）それぞれの時代の概要について解説し、（2）課題となる史料や先行研究を紹介するという形で進めます。
課題については、個別にコメントをお返しするか、提出していただいた内容の一部を（匿名で）とりあげ、授業の中でご紹介します。期末レポート草稿については、個別にコメントをお返しします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	「東南アジア」概念の成立	東南アジアの地域認識
第2回	東南アジア地域の地理的概観	生態的背景
第3回	青銅器文化と初期国家の形成	先史時代から9世紀
第4回	中世国家の展開	10～14世紀
第5回	交易の時代前期	15～16世紀前半
第6回	交易の時代後期	16世紀前半～17世紀
第7回	近世国家群の展開と再編	18～19世紀前半
第8回	植民地支配の進展	19世紀後半
第9回	東南アジア経済の再編成	19世紀後半～1930年代①
第10回	ナショナリズムの勃興	19世紀後半～1930年代②
第11回	第二次世界大戦と東南アジア諸国の独立	1940年代～1950年代
第12回	冷戦への主体的対応	1950年代半ば～1970年代半ば
第13回	経済発展・ASEAN10・民主化	1970年代半ば～1990年代
第14回	まとめ	ふりかえり

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業内で示される課題に取り組み、原則として次回授業開始時までに提出してください。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
古田元夫『東南アジア史10講』（岩波新書, 新赤版 1883） 2021年、岩波書店
通教テキスト『東洋史特講（南海史）』第 1 版、河原正博、1978年は使用しません。

【参考書】
石井米雄・桜井由躬雄編『東南アジア史①大陸部』1999年、山川出版社
池端雪浦編『東南アジア史②島嶼部』1999年、山川出版社
その他の参考文献は授業中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】
課題（40%）, 期末レポート（60%）
期末レポートの詳細は別途配布します。
期末レポートについては第9回授業までに予定しているテーマと関連する文献を報告していただき、第11回授業までに草稿を、最終授業日に最終稿を提出していただきます。

【学生の意見等からの気づき】
期末レポート作成の際には、参考文献等はレポートの末尾に文献名を列挙するだけではなく、参考にしたまたは引用した箇所それぞれに注等をつけ、著作者名、刊行年、文献名（単行本のタイトル、論文のタイトル、学術雑誌に掲載された論文の場合は論文が掲載されている雑誌名等）、参考にしたまたは引用した箇所のページが参照できるようにしてください。参考文献等の書き方がわからない場合は、法政大学図書館のウェブサイト「レポート・論文を書くには」https://www.hosei.ac.jp/library/kensaku/support/report//に記載されている「参考文献の書き方」や、「学習支援ハンドブック」を参考にしてください（著作者名、刊行年、文献名、該当ページといった必要な情報が記載されていれば書式は問いません）。

【学生が準備すべき機器他】
オンライン授業時には、「学習支援システム」を使用します。また課題提出のためにワードファイルを作成し、課題をメール添付で送ることができる環境が必要です。

【その他の重要事項】
2023年度春期スクーリングとほぼ同内容です。

【Outline (in English)】
This course explores the entire span of Southeast Asian history, from prehistoric times to the present day. At the end of this course, students will understand major themes in the historical analysis of Southeast Asian history. Grades will be based on the written assignments (including final papers and in-class writing assignments).

HIS300TD（史学 / History 300）

史学演習（東洋）（春期スクーリング）

宇都宮　美生

カテゴリー：**春期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：　｜　単位数：**2単位**
期間：**春期**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講手続き等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
晋の陸翽の撰による『鄴中記』を講読することにより、中国古代史についての知識を身に付けるだけでなく、東洋史の卒論作成にあたって必要とされる漢文史料の読解能力を養い、関連資料の探し方や使い方を学ぶ。

【到達目標】
『鄴中記』は後趙の石虎の時代の鄴の宮殿や風俗等を記した歴史書であり、比較的平易な文法構造である。したがって、授業では句読点のない原文を用い、訓点、送り仮名、訓読という日本独自の漢文の読み方に習熟し、原文講読に対する基礎的な能力の向上を目指す。また、講読に必要とされる工具書に関する知識や使い方を学び、使えるようにするだけでなく、考古資料、関連論文等の資料を自分で探し、それを併用して広範囲な意味の解釈をする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
毎回担当者に訓読と現代語訳という形で報告をしてもらい、全員でその部分について議論するという形で進めていく。学生からの質問に関しては授業中随時受け付け、学習内容に対するフィードバックも行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	テキストの紹介、授業の進め方の説明、工具書の使い方。
第2回	『鄴中記』講読 1	担当者の報告と参加者全員による議論。
第3回	『鄴中記』講読 2	担当者の報告と参加者全員による議論。
第4回	『鄴中記』講読 3	担当者の報告と参加者全員による議論。
第5回	『鄴中記』講読 4	担当者の報告と参加者全員による議論。
第6回	『鄴中記』講読 5	担当者の報告と参加者全員による議論。
第7回	『鄴中記』講読 6	担当者の報告と参加者全員による議論。
第8回	『鄴中記』講読 7	担当者の報告と参加者全員による議論。
第9回	『鄴中記』講読 8	担当者の報告と参加者全員による議論。
第10回	『鄴中記』講読 9	担当者の報告と参加者全員による議論。
第11回	『鄴中記』講読 10	担当者の報告と参加者全員による議論。
第12回	『鄴中記』講読 11	担当者の報告と参加者全員による議論。
第13回	『鄴中記』講読 12	担当者の報告と参加者全員による議論。
第14回	学習のまとめ	学習のまとめ(試験)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回、担当者以外にも回答を求めるため、全員予習をしておく。高校での漢文の基礎的な知識があることを前提に授業を進めるため、初心者は基礎的知識に関して自宅学習を求める。授業ではそれを用いて説明をするため、事前に目を通しておく。本授業の準備・復習時間は、各２時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
随時配布する。

【参考書】
授業時に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
予習と授業中の積極的な参加と予習状況を基準とした平常点(５０％)及び期末試験あるいは期末レポート(５０%)

【学生の意見等からの気づき】
わかりやすい授業を心がける。
既習事項を確実に理解し、同様の文型に応用してほしい。

【学生が準備すべき機器他】
『漢和辞典』

【その他の重要事項】
写真撮影・録音をすべて禁止する。

【Outline (in English)】
Outline and objectives: This course introduces an understanding of Chinese History by reading of Old Chinese Literature The aim of this course is to help students acquire reading Chinese Literature and history.
Learning Objectives: The goals of this course are to read old Chinese texts, to learn the knowledge and usage of various tools required for reading and to search for archaeological materials, related papers and other materials.
Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Grading Criteria/Policies: Your overall grade in the class will be decided based on assignments at each class meeting (50%) and term-end examination or report (50%).

HIS300TE（史学 / History 300）

日本史概説（春期スクーリング）

安田　寛子

カテゴリー：**春期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：　｜　単位数：**2単位**
期間：**春期**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講手続き等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
国際化の進展のなかで、日本文化の発信が重要視されているが、その多くが江戸時代に成熟した、あるいは生み出されたものである。それは、この時代が幕藩体制と呼ばれる仕組みのうえに、260年余りも平和が続いた時代であったことが大きく影響していたといえる。そこで、この時代を支えた支配機構の特質や、そこで生きた人々について取り上げ、このような平和で安定的な長期政権となった理由はどこにあったのか、またそれだけ続いた政権がなぜ崩壊することになったのかについて考える。

【到達目標】
今後、広く国際社会に日本を発信していくためには、日本とはどういう国なのかということを我々自身がより深く知る必要がある。そこで、今も日本のなかに多くの影響を残す江戸時代について、単に紙の上の学問としてではなく、我々と同じ生身の人間が生きた時代として身近に感じながら学んでいく。
これにより、自分たちの国についての理解を深め、ひいては物事の本質を見抜き、判断する力を養うことが目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
授業は講義形態で実施する。まず江戸幕府の成立過程を概観し、そこから徳川政権の特質について考え、その後いくつか特徴的なテーマを選んで詳しく見ていく。
なお、授業内で課す課題などに対するフィードバックはすべて授業内で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	講義概要と参考文献	授業の進め方と参考文献
第2回	江戸幕府の成立 1	天下統一と民衆への対応
第3回	江戸幕府の成立 2	武家への対応、朝廷への対応①
第4回	江戸幕府の成立 3	朝廷への対応②、宗教への対応、徳川政権の特質
第5回	鷹場制度　1	鷹場制度とは、なぜ放鷹なのか
第6回	鷹場制度　2	鷹場制度の維持基盤
第7回	鷹場制度　3	鷹場制度の解体
第8回	享保の改革　1	近世の政治改革、享保の改革第１期①
第9回	享保の改革　2	享保の改革第１期②、第２期、第３期
第10回	寛政の改革　1	定信政権の性格・危機感、経済政策、社会政策
第11回	寛政の改革　2	医療改革、朝幕関係、対外関係、国防体制
第12回	天保の改革　1	背景、物価対策、風俗・情報統制、農村復興策、将軍権威
第13回	天保の改革　2	対外政策
第14回	試験	まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
事前の学習は特に必要としない。
ただし、授業開始後の復習は必ず行い、内容を理解出来ているか、毎回きちんと確認すること。
復習および関連の学習時間は、１回につき４時間以上を目安とする。

【テキスト（教科書）】
教科書等は使用せず、毎回プリントを配布する。

【参考書】
安田寛子『幕末期の江戸幕府鷹場制度－徳川慶喜の政治構想－』（河出書房新社、2020年）3080円（税込み）
児玉幸多・佐々木潤之介編『新版　史料による日本の歩み（近世編）』（吉川弘文館、1996 年）4180 円（税込み）
この他の参考図書については、授業のなかで紹介していく。

【成績評価の方法と基準】
期末試験１００％

【学生の意見等からの気づき】
なるべくわかりやすく、ゆっくり話すように心がける。

【Outline (in English)】
We will discuss the characteristics of the control system that supported the Edo period and the people who lived there, and consider why it became such a peaceful and stable long-term government and why it collapsed.
The goal of this course is to develop the ability to see and judge the essence of things.
After each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Final grade will be decided based on the Term-end examination:100%

HIS300TE（史学 / History 300）

西洋史概説（春期スクーリング）

竹下　和亮

カテゴリー：**春期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：　｜　単位数：**2単位**
期間：**春期**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講手続き等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
西洋は世界の様々な地域の一つであるに過ぎないが、同時に、いま私たちが生きる世界の形成にあたって極めて大きな役割を果たしてきた。本講義ではその両面をみすえた上で、とくに中世以降の西洋の歴史の流れ、基本的な歴史用語を解説する。本年度は、とくにまとめて言及されることの少ない重要なヨーロッパの小国（北欧諸国、スイス・オーストリア、ベネルクス）に焦点を当てる予定である。

【到達目標】
中世以降の西洋の歴史に関する基礎的な知識を習得し、他の地域の歴史と比較したときの独自の特徴、及びとりわけヨーロッパにおける小国の果たした歴史的な役割を理解することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
王家の系図と年表を詳細に検討しながら講義をします。質問は授業内、授業終了後などでいつでも受け付けます。課題等のフィードバックは授業内で行います。授業の内容と日程は、受講の関心等により多少変更されることもあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	時代区分と主要な概念
第2回	ローマ帝国の崩壊とゲルマン諸王国の成立	フランス王国、ドイツ王国、イタリア王国、イングランド王国の成立
第3回	北欧諸国の歴史 I	デンマークの歴史 I
第4回	北欧諸国の歴史 II	デンマークの歴史 II
第5回	北欧諸国の歴史 III	スウェーデンの歴史　I
第6回	北欧諸国の歴史 IV	スウェーデンの歴史　II
第7回	北欧諸国の歴史 V	ノルウェーの歴史
第8回	北欧諸国の歴史 VI	フィンランドとアイスランドの歴史
第9回	スイス・オーストリアの歴史　I	スイスの歴史
第10回	スイス・オーストリアの歴史　II	オーストリアの歴史
第11回	ベネルクスの歴史 I	オランダの歴史 I
第12回	ベネルクスの歴史 II	オランダの歴史 II
第13回	ベネルクスの歴史 III	ベルギーとルクセンブルクの歴史
第14回	まとめ	ヨーロッパの小国と世界の歴史

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
文献が配布されたときは、事前に読んでおいてください。
本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
レジュメと資料を配布します。

【参考書】
百瀬宏『小国―歴史にみる理念と現実』岩波現代文庫、2022年

【成績評価の方法と基準】
試験（100%）

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【その他の重要事項】
特になし

【Outline (in English)】
Europe is only a part of the world just like any other regions on the earth; however, we can't deny its considerable contributions to the formation of the present world. By focusing on these aspects of Europe, this course will lecture on the general flow of its history, from the Medieval Age onwards, and the basic terminology for the historical research.

GEO400TE（地理学 / Geography 400）

自然地理学演習（春期スクーリング）

中山　秀晃

カテゴリー：**春期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：　｜　単位数：**2単位**
期間：**春期**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講手続き等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
自然地理関連の地理情報を扱った主題図作成と分析

【到達目標】
受講者が各自のテーマに沿った主題図をGIS を使用して作成・分析できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
めざましく進化するＧＩＳ及びデジタル地図の技術を仕事や研究にどのように活用するのか。実際にコンピュータを操作しながら基本を理解し技術を習得する。講義前半は簡単な統計量を手作業で分析し主題図作成の基礎を学ぶ。後半は「Excel」、「MANDARA10」、「カシミール3D」、「QGIS」等のソフトを活用し情報の分析と作図演習を行う。最終的には受講者が各自のテーマに沿った主題図を作成し分析ができるようにしたい。演習科目のため課題の提出を求める。受講には継続する意欲とある程度のＰＣ操作への慣れが必要となる。なお、本講座では自然地理関連（特に気候と地形)のデータをより多く扱う予定である。学習方法は本講座ホームページを活用し，対面での授業と演習課題の作成および復習を中心とする。提出された課題に対しては講評をつけて返却する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	主題図とは何か	テーマ、講義内容・計画の確認、アンケート、読図の基礎基本(解説と演習）
第2回	手作業で基礎を学ぶ	手作業による主題図作成(解説と演習）
第3回	地形の表現①	演習①地形図からの作図(解説と演習）
第4回	地理統計を使ったデー タの処理と地図表現	PC を活用した情報処理と主題図の作成演習②ＧＩＳソフトをつかって主題図を作る(MANDARA，解説と演習）
第5回	地形の表現②	演習③地形図からの作図２（カシミール３ D，解説と演習）
第6回	地形の表現③	ＤＥＭ（ＳＲＴＭ，基盤地図情報）を使用しての作図 (解説と演習）
第7回	数値地図の取り込み	データの扱い方と分析の基礎（国土数値情報，解説と演習）
第8回	気候気象データ利用①	データの扱い方と分析の基礎２（アドレスマッチングと観測地点の取り込み，解説と演習）
第9回	気候気象データ利用②	データの扱い方と分析の基礎３（アメダスデータを使った主題図作成，演習④，解説と演習）
第10回	気候気象データ利用③	データの扱い方と分析の基礎４（WebGIS との連携，解説と演習）
第11回	自由課題作成①	自然地理関連のデータ収集と加工（自由課題，演習⑤，解説と演習）
第12	自由課題作成②	ベースマップの作成と発表準備（自由課題，演習⑤，解説と演習）
第13回	自由課題発表	受講者による自由課題発表と意見交換
第14回	定期考査	考査と課題提出（オンライン時はレポート）および演習⑤の提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業内容の復習及び演習①～⑤の作成と考察。定期考査の準備。
本授業の準備・復習時間は、各2時間を目安とする。

【テキスト（教科書）】
なし（授業用プリントを使用する）

【参考書】
「ﾌﾘｰGISｿﾌﾄＭＡＮＤＡＲＡ10パーフェクトマスター」谷謙二　著，古今書院,￥3,800＋税別
「二訂版　QGISの基本と防災活用」橋本雄一　編, 古今書院, ￥3,000＋税別
「地理情報科学 GIS スタンダード」浅見泰司・矢野桂司・他編，古今書院，￥3,000＋税別

【成績評価の方法と基準】
演習①～⑤の作図結果と考察内容（50％），定期試験の結果（40%），平常点（10%），演習の提出については，丁寧に作図をし，考察をしっかりと行うこと。定期試験を論述筆記で実施する。

【学生の意見等からの気づき】
ＧＩＳ関係の基礎は別講座にてある程度習得済みの学生が多くなってきたので，本講座では，自然地理関連のデータ（特に気候分野）を中心に扱うようにしたい。 また、WebGISの機能が充実してきているので，地理院地図をはじめ各種WebGISの利用法についても適宜紹介していきたい。

【学生が準備すべき機器他】
配付資料はdocx、xlsx、pptx、pdf、zipなどの形式を想定．各自でPC環境を整えて利用できるようしておくこと．

【その他の重要事項】
必要に応じて，データを保存するクラウド上のドライブ、USB メモリなどを準備すること。

【Outline (in English)】
【Course outline】
Creating and analyzing a thematic map dealing with geographical information of physical geography.
【Learning Objectives】
At the end of the course, students are expected to create and analyze thematic maps according to their own themes using GIS.
【Learning activities outside of classroom】
After each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content and prepare for exercises ① to ⑤.
【Grading Criteria /Policy】
Your overall grade in the class will be decided based on the following.
Short exercise reports ①～⑤: 50%, Term-end examination: 40%, in class contribution: 10%

GEO300TE（地理学 / Geography 300）

写真・読図演習（2）（春期スクーリング）

沼尻　治樹

カテゴリー：**春期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：　｜　単位数：**2単位**
期間：**春期**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講手続き等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
地形図をはじめとした地図は，現実世界を平面上に再構成した仮想世界といえる。この仮想世界を読み取ることは，その場にいなくても現地の地理情報を知ることができる有益な情報源になる。地形図だけでなく空中写真や衛星データの利用を含めた地図の基礎的な判読方法について実習を通して学習する。ここで学ぶ基礎的な判読方法を使って，地域の特徴を定性的・定量的に明らかにできるようになることが目的となる。

【到達目標】
地形図やリモートセンシングデータを通して，そこに記録された地理情報を判読し理解できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
講義によって演習に必要な知識を学習し，それをふまえて具体的な演習を行う。基本的には無料のデータやアプリケーションソフトウェアを使用して授業を行う。配付資料は事前に公開するので，各自で印刷等をして利用する。演習内容を反映した課題を行い，演習の成果を確認しながら授業を進める。
受講者からの質問やコメントの重要なものについては，授業内で取り上げ，受講者全体にフィードバックする。
リモートセンシングの演習は，PCを利用することが前提のため基本的なWindowsの操作ができることが望まれる。よって基本的なWindowsの操作についてはフォローしない。また，電算教室を利用するが，私物のノートパソコンを利用してもよい。MAC，Linux環境での受講も認めるがトラブル時に十分なフォローができるか保証できない。Windowsは32ビット，64ビットを問わないが，パソコンのスペックによってはデータ処理に時間がかかってしまう可能性もある。資料の配付・提出は学習支援システムを利用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス 地図について	授業の全体的な内容説明と地図とは何か
第2回	地形図の読み方（1）	地球の表現方法
第3回	地形図の読み方（2）	投影法と縮尺
第4回	地形図の判読（1）	等高線の判読法 図式について
第5回	地形図の判読（2）	等高線の読み方 尾根線と谷線の判読と標高断面図の作成
第6回	地形図の判読（3）	距離の測定 面積の測定
第7回	空中写真の読み方（1）	空中写真の概要
第8回	空中写真の読み方（2）	航空写真判読
第9回	メッシュ図の作成（1）	グリッドダイアグラムの作成
第10回	メッシュ図の作成（2）	グリッドダイアグラムの解析
第11回	リモートセンシング（1）	GISアプリケーションの基本操作
第12回	リモートセンシング（2）	衛星データの演算
第13回	写真・地形図判読の実践（1）	空中写真や地形図から地理情報の判読を行う
第14回	写真・地形図判読の実践（2）	空中写真や地形図から地理情報の考察を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
事前に配布した資料を用いて準備学習を行い，授業後には復習・自習を行って実習内容の確認または課題を行う。それぞれ2時間を目安とする。
また，この授業では適宜PCを利用する。WindowsによるPCの操作方法は解説しないので，受講生は基本操作が十分出来ることが望まれる。

【テキスト（教科書）】
自作テキストを使用する。

【参考書】
CAD/CG/GIS ユーザーのための航空・衛星写真画像ハンドブック：津留宏介ほか，古今書院
月刊『測量』別冊 いまさら聞けない地形判読：「いまさら聞けない地形判読」編集小委員会，公益社団法人日本測量協会

【成績評価の方法と基準】
本授業は演習科目であることから，平常点も重視する。その他，中間課題，最終レポートによって成績評価を行う。
成績評価の配分は，平常点として出席点が30％，小課題点が30％，中間課題が20％，最終レポートが20％である。

【学生の意見等からの気づき】
最新の地図・測量に関する話題提供を適宜行い，授業と実社会が乖離しないよう努める。演習の感想や意見も随時受け付ける。

【学生が準備すべき機器他】
電算教室を利用する。また学習支援システムを用いて資料の配付や課題の提出も行う。必要に応じてUSBメモリなどの外部記録装置を各自用意して欲しい。私物のPCで実習を行ってもよい。

【その他の重要事項】
授業の半分はPCを使った演習になることから，Windowsの操作は前もって習熟しておいて欲しい。授業で用いる資料は事前に配布していくので，あらかじめ予習することも望まれる。また，地理情報システム（GIS）（2）を受講しておくと，よりスムーズに演習を行えるだけでなく，合わせて受講するとより学習効果が高まることが期待できる。
オフィスアワーは授業の前後，学習支援システムの掲示板，メールにて対応する。

【Outline (in English)】
The purpose of this lesson is to learn how to read geographical information from maps and aerial photographs. A map is a virtual world which reconstructed the real world. We practice reading with a paper map and data processing using a computer. Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content. Final grade will be calculated according to the following process Mid-term report (20%), term-end examination (30%), and in-class contribution.

ECN200TF（経済学 / Economics 200）

財政学A（春期スクーリング）

天利　浩

カテゴリー：**春期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：　｜　単位数：**2単位**
期間：**春期**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講手続き等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
政府の活動が資源配分や人々の幸福度に与える影響を評価するため、経済学の手法を学ぶ。多くの経済活動が市場を通して行われ、社会の資源が有効に使われている。しかし公共財の市場に関しては、政府が資源配分を是正する必要がある。また、景気悪化の際には、政府は財政政策を実施し、景気を安定化する。さらに政府は累進的な所得税などを通して所得再分配を行う。
基本的な経済モデルを学び、個別の市場に対する政府の介入の効果、政策が個人の選択に与える影響、財政政策が経済全体の生産水準に与える影響などを分析する。学生は、経済モデルを様々な場面に応用することで、政策効果が発現する理由を理解できるようになる。

【到達目標】
市場における資源配分を是正するため、政府が果たすべき役割を理解し、政府が取るべき対策を提言できる。公共財の市場では、政府が適切な公共財の数量を提供することが難しい事情を説明できる。税制のあるべき姿を学び、現実の税制の問題点を指摘できる。課税が個人の行動に与える影響や、最終的に誰が税を負担するかをグラフで分析できる。減税が景気を刺激する効果の有無は、国民の消費行動や将来の政策に関する予想に依存することを説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
講義を行う。
グラフや簡単な数式を使って、ミクロ経済学やマクロ経済学の経済モデルを学習し、それらのモデルで財政学に関する分析を行う。
宿題はHoppiiで出題し、解答と講評を示す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	財政学とは、政府の三機能、政府の規模	財政学についての案内、政府の３機能（資源配分、所得再分配、景気安定化）
第2回	日本の財政制度　政府部門、一般会計予算	一般政府の定義、政府の諸活動
第3回	市場の機能	生産者余剰、消費者余剰、社会的余剰 部分均衡分析による余剰分析
第4回	公共財（公共財の性質、最適供給）	排除不可能性、非競合性、ただ乗り問題、公共財の最適供給
第5回	租税の基礎理論（租税の分類、租税原則、租税の帰着）	租税三原則、直接税と間接税
第6回	個別物品税の効果	個別物品税がもたらす非効率性、価格弾力性
第7回	最適消費	無差別曲線と予算制約、所得効果と代替効果
第8回	労働所得税の仕組み、労働所得税の効果	各種控除、無差別曲線を使った労働所得税の分析
第9回	資本所得税1	貯蓄行動、利子所得課税がもたらす資源配分上の歪み（超過負担） 閉じ込め効果
第10回	資本所得税2	法人税とは　法人税が投資に及ぼす効果
第11回	消費課税と所得課税	労働所得税と消費税の等価性 所得課税から消費課税へ
第12回	財政政策の効果	ケインズ型消費関数、乗数理論
第13回	公債の負担	税と公債の等価
第14回	年金制度	賦課方式と積立方式　世代間所得移転

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
財政学あるいは公共経済学の標準的な内容を講義するので、教科書で予習する。その後、講義で経済分析を学ぶと、経済分析を理解できるようになるはずなので、確かに経済分析の部分まで理解できているか確認する。復習では、経済モデルのグラフを自分でノートなどに描き、自分自身に説明するようにする。
学生の自習は、準備時間2時間、復習時間2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
『財政学１５講』麻生良文、小黒一正、鈴木将覚著、新世社、2018年　2350円＋税ISBN978-4-88384-269-8
https://www.hosei.ac.jp/library/shien/syllabus.html

【参考書】
『図説日本の財政』　各年度　財経詳報社

【成績評価の方法と基準】
提出課題25％、期末試験75％。
政策の効果をグラフで表し、文章で説明できることが重要。限界費用と限界便益を比較することにより、個人にとって最適な数量や、社会的にとって最適な取引量を分析できる。
財政学および経済学の基本的な概念を正確に理解する。日本の財政や税制の現状をそれらの概念を使いながら説明できる。

【学生の意見等からの気づき】
受講や予復習がしやすいように心がけます。

【Outline (in English)】
Economic analysis is used to evaluate the effects government activities have on the resource allocation and the social welfare. Three major roles of the government are resource allocation, income redistribution and stabilization.
Students will be expected to learn what the government should do for the society. They will be able to analyze how the government activities affect the decision making of people and whether they can improve the efficiency of the markets.
Students should spend four hours of study for each class. Students will be quite familiar with basic economic analysis of demand and supply curves and optimizing behaviors of firms and consumers.Keeping abreast of the current state of the public sector is another requirement.
The overall grade will be based on assignments (25%) and the final exam (75%).

ECN200TF（経済学 / Economics 200）

経済学特講（春期スクーリング）

南部　和香

カテゴリー：**春期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：　｜　単位数：**2単位**
期間：**春期**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講手続き等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
計量経済学とは、経済理論をベースに、統計的手法を用いて経済変数間の関係を計測する学問分野です。推定を行うことによって、政策効果を測ったり、予測を行うことも可能となります。この講義では、実証分析ツールとしての基礎を学ぶ事に重点を置き、計量経済学の分析手法、特に推定の基礎について学ぶ。適宜、計量分析ソフトを用い実習する。

【到達目標】
統計データの収集、回帰モデルの推定、仮説の検定など、実証分析に必要な基礎的能力を身につけることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「経済学科：DP1」「商業学科：経済学」に関連

【授業の進め方と方法】
授業は講義形式で進めます。
演習の回では実際にデータを用いて回帰分析を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	講義の概要や進め方について説明します。
2	統計学の復習	平均、分散、標準偏差、相関係数
3	単回帰分析	単回帰モデルについて説明します。
4	最小二乗法	最小二乗法（OLS）の推定方法について説明します。
5	決定係数	決定係数について説明します。
6	t検定	t検定について説明します。
7	演習１	実際にデータを使って単回帰分析を行います。
8	重回帰分析	回帰モデルと自由度修正済み決定係数について説明します。
9	多重共線性	多重共線性について説明します。
10	演習２	データを使って重回帰分析を行います。
11	ダミー変数	ダミー変数について説明します。
12	F検定	F検定について説明します。
13	不均一分散と系列相関	不均一分散と系列相関について説明します。
14	試験・まとめと解説	試験を実施します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
テキストは使用しません。

【参考書】
適宜講義内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】
試験（80％）、演習課題（10％）、平常点（10％）

【学生の意見等からの気づき】
本年度新規科目につきアンケートを実施していません。

【学生が準備すべき機器他】
演習を実施する回はパソコンを持参してください。
Excelで演習を行います。

【その他の重要事項】
講義資料は印刷したものは配布しません。
初回講義時に講義資料をダウンロードするサイトを提示します。

【Outline (in English)】
【Course outline】
Econometrics is a field of study that uses statistical methods based on economic theory to measure relationships between economic variables. Estimation also makes it possible to measure policy effects and make forecasts. This course focuses on developing the ability to use regression analysis as an empirical analysis tool, particularly emphasizing the basics of estimation within the analytical techniques of econometrics.
【Learning Objectives】
The goal of this course is to acquire the basic skills necessary for empirical analysis, including collecting statistical data, estimating regression models, and testing hypotheses.
【Learning activities outside of classroom】
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
【Grading Criteria/Policy】
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Term-end examination: 80%、Short reports : 10%、in class contribution: 10%

ECN200TF（経済学 / Economics 200）

経済学特講（春期スクーリング）

金子　憲

カテゴリー：**春期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：　｜　単位数：**2単位**
期間：**春期**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講手続き等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ミクロ経済学の理論を概説した上で、現在の日本が直面している様々な政策課題に焦点をあてながら、国や地方公共団体などの公共部門が果たす役割を、理論面・制度面・政策面から分析を行う。

【到達目標】
市場の働きや政府の役割についての理解を深めるとともに、政策形成に資する能力を身に付けることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「経済学科：DP1」「商業学科：経済学」に関連

【授業の進め方と方法】
講義

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	講義の概要
第2回	市場の失敗	公共財の理論
第3回	市場の失敗	外部性、ピグー税、コースの定理
第4回	市場の失敗	公共部門による所得再分配政策
第5回	市場理論	市場均衡の数学的分析
第6回	市場理論	余剰分析と政策効果
第7回	市場理論	課税のミクロ経済分析
第8回	消費者理論	無差別曲線と効用最大化
第9回	消費者理論	予算制約下での効用最大化
第10回	消費者理論	異時点間の最適消費選択モデル
第11回	情報の経済学	「情報の非対称性」による市場の失敗
第12回	情報の経済学	アカロフ「レモンの原理」
第13回	情報の経済学	スペンス「シグナリング理論」
第14回	総括	講義のまとめ、試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義の重要論点をまとめる。問題演習を通して講義内容の理解を深める。本講義の準備・復習時間は、各２時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しない。必要に応じてレジュメ等を配布する。

【参考書】
講義の際、適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
期末試験（100％）の結果によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【Outline (in English)】
This course presents theory of microeconomics, focusing on various policy issues that current Japan faces. At the end of the course, students are supposed to be familiar with the status of the policy discussions in Japan.
After each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Grading will be decided based on term-end examination (100%).

ECN300TG（経済学 / Economics 300）

財政学Ⅰ（春期スクーリング）

天利　浩

カテゴリー：**春期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：　｜　単位数：**2単位**
期間：**春期**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講手続き等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
政府の活動が資源配分や人々の幸福度に与える影響を評価するため、経済学の手法を学ぶ。多くの経済活動が市場を通して行われ、社会の資源が有効に使われている。しかし公共財の市場に関しては、政府が資源配分を是正する必要がある。また、景気悪化の際には、政府は財政政策を実施し、景気を安定化する。さらに政府は累進的な所得税などを通して所得再分配を行う。
基本的な経済モデルを学び、個別の市場に対する政府の介入の効果、政策が個人の選択に与える影響、財政政策が経済全体の生産水準に与える影響などを分析する。学生は、経済モデルを様々な場面に応用することで、政策効果が発現する理由を理解できるようになる。

【到達目標】
市場における資源配分を是正するため、政府が果たすべき役割を理解し、政府が取るべき対策を提言できる。公共財の市場では、政府が適切な公共財の数量を提供することが難しい事情を説明できる。税制のあるべき姿を学び、現実の税制の問題点を指摘できる。課税が個人の行動に与える影響や、最終的に誰が税を負担するかをグラフで分析できる。減税が景気を刺激する効果の有無は、国民の消費行動や将来の政策に関する予想に依存することを説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「経済学」に関連

【授業の進め方と方法】
講義を行う。
グラフや簡単な数式を使って、ミクロ経済学やマクロ経済学の経済モデルを学習し、それらのモデルで財政学に関する分析を行う。
宿題はHoppiiで出題し、解答と講評を示す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	財政学とは、政府の三機能、政府の規模	財政学についての案内、政府の３機能（資源配分、所得再分配、景気安定化）
第2回	日本の財政制度　政府部門、一般会計予算	一般政府の定義、政府の諸活動
第3回	市場の機能	生産者余剰、消費者余剰、社会的余剰 部分均衡分析による余剰分析
第4回	公共財（公共財の性質、最適供給）	排除不可能性、非競合性、ただ乗り問題、公共財の最適供給
第5回	租税の基礎理論（租税の分類、租税原則、租税の帰着）	租税三原則、直接税と間接税
第6回	個別物品税の効果	個別物品税がもたらす非効率性、価格弾力性
第7回	最適消費	無差別曲線と予算制約、所得効果と代替効果
第8回	労働所得税の仕組み、労働所得税の効果	各種控除、無差別曲線を使った労働所得税の分析
第9回	資本所得税1	貯蓄行動、利子所得課税がもたらす資源配分上の歪み（超過負担） 閉じ込め効果
第10回	資本所得税2	法人税とは　法人税が投資に及ぼす効果
第11回	消費課税と所得課税	労働所得税と消費税の等価性 所得課税から消費課税へ
第12回	財政政策の効果	ケインズ型消費関数、乗数理論
第13回	公債の負担	税と公債の等価
第14回	年金制度	賦課方式と積立方式　世代間所得移転

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
財政学あるいは公共経済学の標準的な内容を講義するので、教科書で予習する。その後、講義で経済分析を学ぶと、経済分析を理解できるようになるはずなので、確かに経済分析の部分まで理解できているか確認する。復習では、経済モデルのグラフを自分でノートなどに描き、自分自身に説明するようにする。
学生の自習は、準備時間2時間、復習時間2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
『財政学１５講』麻生良文、小黒一正、鈴木将覚著、新世社、2018年　2350円＋税ISBN978-4-88384-269-8
https://www.hosei.ac.jp/library/shien/syllabus.html

【参考書】
『図説日本の財政』　各年度　財経詳報社

【成績評価の方法と基準】
提出課題25％、期末試験75％。
政策の効果をグラフで表し、文章で説明できることが重要。限界費用と限界便益を比較することにより、個人にとって最適な数量や、社会的にとって最適な取引量を分析できる。
財政学および経済学の基本的な概念を正確に理解する。日本の財政や税制の現状をそれらの概念を使いながら説明できる。

【学生の意見等からの気づき】
受講や予復習がしやすいように心がけます。

【Outline (in English)】
Economic analysis is used to evaluate the effects government activities have on the resource allocation and the social welfare. Three major roles of the government are resource allocation, income redistribution and stabilization.
Students will be expected to learn what the government should do for the society. They will be able to analyze how the government activities affect the decision making of people and whether they can improve the efficiency of the markets.
Students should spend four hours of study for each class. Students will be quite familiar with basic economic analysis of demand and supply curves and optimizing behaviors of firms and consumers.Keeping abreast of the current state of the public sector is another requirement.
The overall grade will be based on assignments (25%) and the final exam (75%).

MAN200TG（経営学 / Management 200）

経営学特講【財務諸表分析】（春期スクーリング）

甚内　俊人

カテゴリー：**春期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：　｜　単位数：**2単位**
期間：**春期**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講手続き等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義は、会計情報を活用して、企業の戦略や行動を分析する手法と、それを支える財務諸表に関する知識の習得を目的とする。財務諸表を作成するプロセスを学ぶことで、企業の活動がどのように財務諸表に反映されているかを理解する。また、公表された会計情報を分析する手法を学ぶことで、企業の実態をどのように推論するかを理解する。これら双方の視点から、財務会計の基礎知識と活用方法の習得を目指す。

【到達目標】
1. 財務諸表を作成するプロセスを理解することができる。
2. 企業の戦略や行動が財務諸表にどのように表れるかを読み解く力を習得する。
3. 財務諸表に基づいて、企業の戦略や行動を推論する力を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「経済学科：DP2」「商業学科：経営学・商学, 自由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

【授業の進め方と方法】
本講義はPowerPointあるいはレジュメに基づいて講義形式で進める。講義資料は配付、あるいは「学習支援システム」を通じて掲出する。ワークシートを用いて実際に計算することも予定している。
また、「学習支援システム」上でアンケートを実施して、感想や質問を提出してもらうことを予定している。建設的な質問やコメントは授業内で紹介してさらなる議論に活かす。また、課題に対する講評も授業内で行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	本講義の概要と進め方
第2回	会計制度と財務諸表の役割	会計制度と財務諸表の役割を学ぶ。
第3回	貸借対照表（1）	貸借対照表の構造と「資産」の認識・測定・開示の方法について学ぶ。
第4回	貸借対照表（2）	「負債」の認識・測定・開示の方法について学ぶ。
第5回	貸借対照表（3）	「純資産（資本）」の認識・測定・開示の方法について学ぶ。
第6回	損益計算書（1）	損益計算書の構造と「収益」の認識・測定・開示の方法について学ぶ。
第7回	損益計算書（2）	「費用」の認識・測定・開示の方法について学ぶ。
第8回	キャッシュフロー計算書	キャッシュフロー計算書の構造と項目について学ぶ。
第9回	連結会計	連結会計や企業結合会計について学ぶ。
第10回	財務比率（1）	収益性の分析について学ぶ。
第11回	財務比率（2）	効率性の分析について学ぶ。
第12回	財務比率（3）	安全性の分析について学ぶ。
第13回	財務比率（4）	成長性の分析について学ぶ。
第14回	本講義のまとめと期末試験	本講義のまとめと期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
事前学習として、「簿記」や「会計学」の基本的知識があると本講義の理解も深まる。もし未履修の場合には、日商簿記検定3級の内容を学んでおくことを薦める。
なお、本講義の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
指定はない。講義資料は配付する。以下の参考書に基づいて資料・スライドを作成する。

【参考書】
・伊藤邦雄『新・現代会計入門』日本経済新聞社, 2024年4月現在の最新版.
・伊藤邦雄『企業価値経営』日本経済新聞社, 2024年4月現在の最新版.
・桜井久勝『財務会計講義』中央経済社, 2024年4月現在の最新版.
・桜井久勝『財務諸表分析』中央経済社, 2024年4月現在の最新版.
・川島健司『起業ストーリーで学ぶ会計』中央経済社, 2021年.
・渡部裕亘・片山覚・北村敬子『検定簿記講義／3級商業簿記』中央経済社, 2024年4月現在の最新版.
そのほか、必要に応じて講義内で紹介する。

【成績評価の方法と基準】
期末試験：80%
平常点：20%
講義終了後にアンケート（任意提出）を実施することがある。講義の内容を深める意見や質問に対しては加点対象とする。

【学生の意見等からの気づき】
本年度新規科目につきアンケートを実施していない。

【学生が準備すべき機器他】
講義および試験には、電卓を持参すること。

【その他の重要事項】
経営学特講［企業価値評価］（秋期スクリーニング）と併せて受講するとより理解が深まることが期待される。

【Outline (in English)】
【授業概要（Course outline）】
The objective of this course is to provide students with the tools to analyze business strategies and activities using accounting information. Through the process of preparing financial statements, students will gain an understanding of how a company's activities are reflected in its financial statements. In addition, by learning the methods of analyzing published accounting information, students will be able to draw conclusions about the true condition of an entity. The course is designed to provide students with a fundamental knowledge of financial accounting and its use from both perspectives.
【到達目標（Learning Objectives）】
By the end of the course, students should be able to do the followings:
1) To understand the financial reporting process
2) To understand how financial statements reflect the strategies and actions of an organization.
3) To demonstrate an understanding of how to prepare and analyze financial reports. Use financial statements to infer an organization's strategies and actions.
【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】
After each class meeting, students are expected to have completed the required assignments. The study time required for each class is more than four hours.
【成績評価の方法と基準（Grading Criteria /Policies）】
The final grade will be determined based on the term-end examination (80%) and in-class contribution (20%).

MAN200TG（経営学 / Management 200）

経営管理論Ⅰ（春期スクーリング）

松本　潔

カテゴリー：**春期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：　｜　単位数：**2単位**
期間：**春期**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講手続き等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
経営管理論Ⅰにおいては、経営管理の基礎的な理論を取り上げ、それらを解説していく。春期の講座では、伝統的管理論としての F. W. テイラーの「科学的管理法」、アンリ・ファイヨールの「管理過程論」などをとりあげる。また、続いて E. メイヨー、F. J. レスリスバーガーの「人間関係論」、そして「行動科学（組織行動論）」として認識される、C. アージリス、D. マグレガーなどの「近代的モチベーション論」を取り上げ、それらの理論の有する意味・意義を現在の状況に合わせて読み解いていく。

【到達目標】
・経営管理の伝統的理論および行動科学の学説の意義を理解することができる。
・経営管理の理論と実際の企業活動についての関連性を理解することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「経営学・商学」に関連

【授業の進め方と方法】
講義を中心とするが、企業などの経営管理活動の実際を、映像資料などを活用して紹介する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の進め方および経営管理の理論的変遷を考察する。
第2回	伝統的管理論Ⅰ	「科学的管理法」の理論的意義（F. W. テイラー）
第3回	伝統的管理論Ⅱ	「管理過程論」の理論的意義（アンリ・ファイヨール）
第4回	伝統的管理論の実際	伝統的管理手法が与えた影響と課題
第5回	人間関係論	前期人間関係論の理論的意義（E. メイヨー＆F. J. レスリスバーガー）
第6回	人間関係論の実際	前期人間関係管理手法が与えた影響と課題
第7回」	行動科学Ⅰ（近代的ﾓﾁﾍﾞｰｼｮﾝ理論）	心理学的アプローチとパーソナリティの成熟理論（A. H. マズロー、C. アージリス）
第8回	行動科学Ⅱ（近代的ﾓﾁﾍﾞｰｼｮﾝ理論）	Ｙ理論による企業の人間的側面理解（D. マグレガー）
第9回	行動科学Ⅲ（近代的ﾓﾁﾍﾞｰｼｮﾝ理論）	動機づけ・衛生理論によるモチベーション・アプローチ（F. ハーズバーグ）
第10回	行動科学（近代的ﾓﾁﾍﾞｰｼｮﾝ理論理論）の実際	近代的モチベーション手法が与えた影響と課題
第11回	行動科学Ⅳ（近代的リーダーシップ理論）	システム４の参加型リーダーシップ論（R. リカート）
第12回	行動科学Ⅴ（近代的リーダーシップ理論）	リーダーシップの形態理論（三隅二不二、R. R. ブレーク＆J. S. ムートン）
第13回	行動科学（近代的リーダーシップ理論）の実際	近代的リーダーシップ手法が与えた影響と課題
第14回	経営管理論Ⅰ総括＆経営管理論Ⅱへの展望および授業時間内の定期試験	これまで学習してきた経営管理の諸理論の振り返り、秋期の経営管理論Ⅱを展望し、最後に定期試験を実施する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業において配布されたプリント教材の読み直し・再確認をすることが要求される。また、事前に各授業スケジュールにおけるテーマについて下調べをしておくと理解が促進される。なお、本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
授業時に配布されるプリント教材を使用する。

【参考書】
各授業スケジュールごとに適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
成績評価の方法と基準は、教室内での定期試験（７０％）および平常点（３０％）の観点から総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
一昨年の授業評価アンケートからは、できる限り実際の企業事例を経営管理の理論や学説とを関連づけながら、その理解をいかにして深めることができるかに改善の努力を傾けていきたい。

【学生が準備すべき機器他】
特にありません。

【その他の重要事項】
特にありません。

【Outline (in English)】
Basic theory of business management is taken up and explanation is being added at this session. I have for my object to take up traditional management theory (scientific management and management process theory), theory of human relations and behavioral science (modern motivation theory and modern leadership theory) etc. by this term and acquire those theory as knowledge.

MAN200TG（経営学 / Management 200）

経営学特講【NPO論】（春期スクーリング）

松本　潔

カテゴリー：**春期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：　｜　単位数：**2単位**
期間：**春期**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講手続き等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では、特講としてNPO論をテーマとして掲げ、その基礎知識を学習する。なお、取り上げる項目は、NPOの定義と位置づけ、NPOにおける活動の歴史的な経緯・側面、NPO活動におけるマネジメントの重要性を学習していく。なお、特にNPOのマネジメントの側面として、そこに参加するメンバーのモチベーションの問題、他のセクター（行政、企業など）との連携・協働における問題、などに焦点を当て、その理論的な背景にも考察を加える。さらに、近年注目を集める社会的起業家が活躍する「コミュニティビジネス」、社会的活動に参加する人たちのキャリア観にも触れる。

【到達目標】
・NPOの活動とその意義を理解し、その組織特性やマネジメント思考および他セクターとの協働における特徴について理解することができる。
・NPOの活動を通して、受講者自身の今後のキャリア形成について、具体的行動指針を考えることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「経済学科：DP2」「商業学科：経営学・商学, 自由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

【授業の進め方と方法】
対面式の教室授業では、教員による講義を中心として進め、合わせてＮＰＯの活動の実際を、映像資料などを活用して紹介しながら解説を加える。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション & NPOについての解説	授業の概要、進め方、などについて確認を行う。また、非営利組織（NPO）の社会における位置づけの解説を行う。
第2回	NPOの概念	非営利組織（NPO）の概念を整理し、広範囲な視点からNPOについての理解を深め、NPO法におけるさまざまな活動領域についての考察を加え、自身の興味のある領域を探索する。
第3回	NPO・市民活動の歴史的変遷	日本におけるNPO・市民活動についての歴史的な変遷から、現在の市民活動やNPOの活動との関連を探索する。
第4回	NPOのマネジメントと組織特性	NPOのマネジメントについて、企業における経営資源を踏まえ、その共通点・相違点を理解し、そのうえで、NPOのマネジメントを把握する。
第5回	NPOにおける人的資源管理（ボランティアおよび事務局スタッフ）	NPOに必要な人的資源管理、特に、NPOにおけるボランティア会員また事務局スタッフについて、その行動特性・動機などについて理解を深め、マネジメント上の課題を考える。
第6回	日本のNPOにおける公益活動制度	NPO法人を含めた公益活動制度の現状と動向について検討する。
第7回	NPOと他セクターとの協働と組織間関係論	NPOを中心とする他のセクターとの協働またその関係性のあり方について、組織間関係論の視点から考察を加えていく。
第8回	NPOと政府・行政組織との協働	NPOと政府・行政組織との協働について理解を深める。また、それらの協働の実際事例などを考察して理解を深める。
第9回	NPOと企業との協働	NPOと企業との協働について、企業の社会的貢献活動やCSRの観点から理解する。また、それらの協働の実際事例などを考察して理解を深める。
第10回	社会的企業とコミュニティ・ビジネス	社会的企業の登場の背景およびコミュニティ・ビジネスについての現状から、その特徴を検討する。また、社会的企業およびコミュニティ・ビジネスの実際事例などを考察する。
第11回	NPOの事例研究①国際協力NGOの活動から考える	国際協力の領域で活動するNGOの事例を取り上げ、そこで活動するメンバーの苦労ややりがいを考察する。
第12回	NPOの事例研究②環境保護・保全の領域のNPOの活動から考える	環境保護・保全の領域で活動するNPOの事例を取り上げ、そこで活動するメンバーの苦労ややりがいを考察する。
第13回	NPOにおけるライフ・キャリアの形成およびNPO論まとめ	これまでの学習を踏まえ、NPOにおける市民活動としてのライフ・キャリアの形成について、今後の受講者自身のキャリア形成のあり方として 検討する。
第14回	NPO論の総括と今後の展望および授業時間内の定期試験	これまで学習してきたNPO論の振り返りと今後の展望を行い、最後に定期試験を実施する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業において配布されたプリント教材の読み直し・再確認をすることが要求される。また、事前に各授業スケジュールにおけるテーマについて下調べをしておくと理解が促進される。なお、本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
授業時に配布されるプリント教材を使用する。

【参考書】
各授業スケジュールごとに適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
成績評価の方法と基準は、教室内での定期試験（７０％）および平常点（３０％）の観点から総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
一昨年度からのアンケートからは、理論的な概念と実際の事例との関連性を詳しく具体的に解説することが望まれ、その改善の努力をしていきたい。

【学生が準備すべき機器他】
特にありません。

【その他の重要事項】
特にありません。

【Outline (in English)】
In this lecture, the theme of NPO theory is set as a special lecture, and the basic knowledge is learned. The items to be taken up are positioned as the definition of NPO, and we will learn the historical background and aspects of NPO activities and the importance of management in NPO ctivities. In particular, as an aspect of NPO management, we will focus on the issues of motivation of the members who participate in it, issues of cooperation and collaboration with other sectors (administration, companies, etc.), and the theoretical background. Also consider. In addition, we will touch on the "community business" in which social entrepreneurs who have been attracting attention in recent years play an active role, and the career views of those who participate in social activities.

MAN200TG（経営学 / Management 200）

経営学特講【ロジスティクス論】（春期スクーリング）

恩田　登志夫

カテゴリー：**春期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：　｜　単位数：**2単位**
期間：**春期**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講手続き等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：
その他属性：**〈実〉**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ロジスティクスは、経営戦略の一つであり、企業成長を図るうえで重要なシステムです。したがって、最近の企業では、調達・生産・物流システムの有機的連携を図った事例が多く見られます。これらの事例を通して、これまでの物流の概念とは異なるロジスティクスの概念を学ぶことができます。

【到達目標】
授業の終了時には、以下のことが修得できる。
①ロジスティクスは経営戦略であることを説明できる。
②収益性劣化率の計算式を使用して、どの輸送手段が最善なのか判断できる。
③ロジスティクスの重要性についてレポートを書くことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「経済学科：DP2」「商業学科：経営学・商学, 自由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

【授業の進め方と方法】
一般的な講義のほかに、統計資料や視聴覚メディアを活用したり、ディスカッションを行い、参加型の授業を行う。なお、授業内でロジスティクス企業による3PLの現状と課題について講演を予定している。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ロジスティクスの概要	ロジスティクスの定義 棚卸資産粗利益率の考え方
2	ロジスティクスと物流の相違	ロジスティクス管理 物流管理
3	物流管理の問題点とABC分析手法	物流管理の問題点 ABC分析
4	ロジスティクス管理手法（1）	収益性劣化率の概要 収益性劣化率の計算
5	ロジスティクス管理手法（2）	収益性劣化率の利用事例
6	ロジスティクス管理手法（3）	収益性劣化率から輸送手段の選択手法 海上、国際複合、航空輸送
7	ロジスティクス戦略を実施する企業の事例研究（1）	仕出し弁当企業の事例紹介
8	ロジスティクス戦略を実施する企業の事例研究（2）	仕出し弁当企業の調達、製造、配達システムの概要
9	ロジスティクス戦略を実施する企業の事例研究（3）	仕出し弁当企業と他企業との企業分析比較
10	自動車メーカーの生産システムの概要	自動車メーカーの販売・生産計画策定 自動車メーカーの部品調達システム
11	自動車メーカー物流システムの概要	自動車メーカーの物流システムの概要 ミルクラン輸送 中継地物流
12	ロジスティクスの類型	1 PL, 2 PL, 3 PL, 4 PLの相違と具体例
13	3PLの現状と課題	3PL市場規模 3PL企業動向の特徴 3PLビジネスの課題
14	3PL事業の事例研究	国際物流事業者による3 PL事業への取り組みの現状と課題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
準備学習として、授業の事前にテキストを確認して要点を整理すること。
復習として、準備学習として要点を整理したことを授業中のメモと確認し、理解を深めること。
本授業の準備・復習時間は、各2時間を目安とする。

【テキスト（教科書）】
必要なプリントを配布する。

【参考書】
『現代ロジスティクス論』齊藤実他、中央経済社、2009年、3080円

【成績評価の方法と基準】
期末テスト100％

【学生の意見等からの気づき】
受講生より、授業の時間割を6時限と7時限を隔年で変更して欲しいという要望があり、2024年度の経営学特講（ロジスティクス論）は6時限にて対応する予定。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【その他の重要事項】
「実務経験のある教員による授業」
航空会社に約20年勤務していたことから、実務経験を踏まえて説明する。

【Outline (in English)】
Logistics is one of the management strategies, and it is an important system to promote corporate growth. Therefore, recent companies often see examples of organically coordinating procurement, production, and distribution systems. Through these examples, we can learn the concept of logistics different from the concept of physical distribution so far.

【実務経験のある教員による授業科目】
○

MAN300TG（経営学 / Management 300）

演習【貿易概論】（春期スクーリング）

恩田　登志夫

カテゴリー：**春期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：　｜　単位数：**2単位**
期間：**春期**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講手続き等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：
その他属性：**〈実〉**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
グローバル経済が進展すると海外との貿易取引が活発になります。米国と中国の貿易戦争のように保護主義の主張とTPPのように貿易を活発化させる取組みも進展しています。この講義では、貿易取引の基礎的な物の流れやお金の流れを理解することにより、貿易ビジネスの実態を学ぶことができます。

【到達目標】
貿易取引に関係する国際ビジネスの観点から国際物流、輸出入通関に関係する基礎的知識を習得することができる。さらに、秋期スクーリングにて開講される国際物流を履修することにより、国際流通全般を理解することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「経済学科：DP4, DP5」「商業学科：自由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

【授業の進め方と方法】
一般的な講義のほかに、統計資料や視聴覚メディアを活用したり、ディスカッションを行い、参加型の授業を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業全般の説明と貿易取引の全体像の理解	貿易取引と国内取引の相違
2	日本の貿易の現状	日本の貿易収支 産業組織の変化 輸出入の流れ
3	貿易取引全体の理解	貿易取引のしくみ 貿易取引と関係機関 貿易取引の種類
4	貿易保険	貨物海上保険 貿易保険 製造物賠償責任保険（PL保険）
5	貿易取引契約条件	取引交渉の全体像 各種取引条件
6	貿易条件とトレードタームズ（1）	インコタームズ2000とインコタームズ2010の比較
7	貿易条件とトレードタームズ（2）	インコータームズの具体例 FOB,CFR,CIF等
8	取引一般条件	取引一般条件と契約書の概要 ウィーン売買条約の概要
9	貿易代金決済	信用状決済の概要と仕組み
10	通関手続きと関税	通関制度の概要 AEO制度の概要 保税制度の概要
11	貨物輸送と船積書類（1）	海上貨物の船積み手続きの概要
12	貨物輸送と船積書類（2）	航空貨物の積み込み手続きの概要
13	貨物輸送と船積書類（3）	国際複合輸送の概要と国際複合輸送の国際ルール
14	貿易書類の概要	インボイス パッキングリスト 船積依頼書

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
準備学習として、授業の事前にテキストを確認して、要点を整理すること。
復習として、準備学習として要点を整理したことを、授業中のメモと確認し、理解を深めること。
本授業の準備・復習時間は、各2時間を目安とする。

【テキスト（教科書）】
授業毎に資料を配布する。

【参考書】
『新貿易取引・基礎から最新情報まで』石原伸志他著、経済法令研究会出版、3024円（税込）

【成績評価の方法と基準】
期末テスト100％

【学生の意見等からの気づき】
受講生より、この演習（春学期スクリーング）の授業を隔年で6時限、7時限に入れ替えて欲しいという要望から、2024年度のこの演習は、7時限にて対応する予定。

【その他の重要事項】
「実務経験のある教員による授業」
航空会社に約20年勤務していたことから、貿易と国際輸送に関する内容において実務経験を踏まえて説明する。

【Outline (in English)】
Trade transactions with overseas will become active as the global economy progresses. As in the trade war between the United States and China, protectionism advocacy and efforts to activate trade like TPP are progressing as well. In this lecture, you will be able to learn the realities of trading business by understanding the flow of basic trade transactions and the flow of money.

【実務経験のある教員による授業科目】
○

MAN300TG（経営学 / Management 300）

監査論Ⅰ（春期スクーリング）

市川　佳功

カテゴリー：**春期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：　｜　単位数：**2単位**
期間：**春期**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講手続き等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
企業が公表する財務諸表に対する監査の必要性、監査制度、監査手続がテーマです。財務諸表は企業が作成する自社の活動結果についての報告書であり、その企業に関心をもつ者（利害関係者）にとっては企業の状況を理解するためのほとんど唯一の情報源です。もし、財務諸表が適正に作成されたものでなければ企業に対する利害関係者の判断を誤らせてしまいます。そこで、公認会計士または監査法人が財務諸表の適正性をチェックする監査が重要な役割を果たします。「監査論Ⅰ」では、監査を理解するための導入部分として、財務諸表監査とは何か、我が国の監査制度、監査手続について学習していきます。

【到達目標】
授業で学習した基礎概念と監査制度についての理解をとおして、財務諸表監査が有する機能とその限界について自ら考察するための基礎知識を身につけることを到達目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「会計学・ファイナンス」に関連

【授業の進め方と方法】
授業は指定テキストを使用した講義形式で進めます。毎回の授業の後に学生から質問を受けます。受けた質問の内容については、次回の授業の冒頭で紹介し前回授業の復習及び理解に厚みが出るようにしていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	企業会計と財務諸表１	監査の対象である財務諸表を理解
第2回	企業会計と財務諸表２	財務諸表作成の基礎となる会計のルールの紹介
第3回	財務諸表監査の制度化	監査の必要性と制度化の必要性
第4回	会社法監査制度１	会社法における情報開示と財務諸表監査の位置づけ
第5回	会社法監査制度２	株式会社の機関構成と監査との関係
第6回	金融商品取引法監査制度	金融商品取引法における情報開示と財務諸表監査の位置づけ
第7回	監査規範としての監査基準	監査基準の性質と必要性
第8回	一般基準１	専門的能力、公正不偏の態度と独立性、正当な注意、重要な虚偽表示の可能性、監査計画、監査調書
第9回	一般基準２	監査の品質を維持するための制度
第10回	内部統制	財務諸表監査と内部統制の関係
第11回	要証命題と経営者の主張	財務諸表監査特有の概念である経営者の主張とは
第12回	監査証拠	監査証拠の種類と証拠力
第13回	監査手続	具体的な監査の技術を学ぶ
第14回	総復習と期末試験	監査論で学習した各概念の整理などの総復習の後、授業中に期末試験を実施します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
監査論で学習する概念には抽象的なものが多く存在します。理解しにくい場合には、テキスト以外の書籍等も参考にして自らの理解を補強していく必要があります。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
伊豫田隆俊・松本祥尚・林隆敏『ベーシック監査論　九訂版』同文舘出版　3,800円＋消費税

【参考書】
蟹江 章/井上 善弘/栗濱 竜一郎【編著】『監査論スタンダードテキスト（第６版）』中央経済社　4,800円＋税

【成績評価の方法と基準】
授業最終日に行う試験（期末試験）により成績評価（配分100％）を行います。

【学生の意見等からの気づき】
専門用語を多用することなく、丁寧な説明をしていきます。

【Outline (in English)】
In this lecture, we will learn accounting audit theory conducted by CPA. The main learning content is the necessity of audit, audit system, audit procedure.

MAN200TG（経営学 / Management 200）

簿記Ⅲ（春期スクーリング）

市川　佳功

カテゴリー：**春期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：　｜　単位数：**2単位**
期間：**春期**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講手続き等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日商簿記検定2級レベルを意識した商業簿記を学習対象とします。日商簿記検定2級では商業簿記と工業簿記の双方の知識が要求されますが、簿記Ⅲでは商業簿記のみを学習します。実際の日商簿記2級検定試験では、連結財務諸表が出題範囲に含まれるようになりましたが、授業実施回数に制限があることから、この講義では連結財務諸表の学習は省略します。他方、2級よりレベルの高い内容もいくつか取り扱っていきます。

【到達目標】
学習範囲について正確に仕訳ができるようになることを到達目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「経済学科：DP2, DP3」「商業学科：経営学・商学, 会計学・ファイナンス」に関連

【授業の進め方と方法】
授業は指定テキストを使用した講義形式で進めます。毎回の授業の後に学生から質問を受けます。受けた質問の内容については、次回の授業の冒頭で紹介し前回授業の復習となり理解が深まるようにしていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	財務諸表 商品売買	財務諸表の様式 一般商品売買と3分割法の意味
第2回	税金・当座勘定照合表	費用になる税金と費用にならない税金の会計処理 貸借対照表上の当座預金勘定残高の確定方法
第3回	手形取引	約束手形と為替手形の会計処理
第4回	手形取引	自己宛為替手形と自己指図為替手形
第5回	手形取引	手形の裏書と割引、それに伴う保証債務 手形の不渡り
第6回	電子記録債権・債務	電子記録債権・債務
第7回	有価証券	有価証券の4つの保有目的と有価証券の期末会計処理
第8回	固定資産	有形固定資産・無形固定資産の会計処理
第9回	繰延資産	繰延資産とは何か、繰延資産の会計処理
第10回	社債の発行とその他負債	企業の資金調達手段としての社債の発行とその他の負債
第11回	引当金１	引当金とは 貸倒引当金 商品保証引当金 修繕引当金
第12回	引当金２	売上割戻引当金 役員賞与引当金 退職給付引当金
第13回	純資産	資本金・資本準備金の増加 剰余金の処分
第14回	決算手続と期末試験	決算手続きの全体像を再確認した後、授業中に期末試験を実施する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
市販されている日商2級レベルの問題集をたくさん解いてください。簿記ができるようになるには問題を解くことが必要不可欠です。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
神谷健司　市川佳功『簿記Ⅲ』法政大学通信教育部

【参考書】
渡部裕亘/片山覚/北村敬子編著『検定簿記講義2級商業簿記』（2023年度版）中央経済社900円＋税 授業開講前に新版が出るかもしれません。ただし、当該書籍は指定テキストと収録内容が一致しているわけではありませんので、学習上の参考にはなりますが授業中に使用することはありません。

【成績評価の方法と基準】
授業最終日に行う試験（期末試験）により成績評価（配分100％）を行います。

【学生の意見等からの気づき】
仕訳の意味が分かるように丁寧に説明します。

【Outline (in English)】
In this lecture, we will learn Commercial Bookkeeping of Nissho Bookkeeping Test Level 2. However, consolidated financial statements are excluded.

HIS100TA（史学 / History 100）

日本史（ゴールデンウィークスクーリング）

矢越　葉子

カテゴリー：**ゴールデンウィーク**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本の古代国家は東アジアの国々との交流を通じて先進的な制度や文化を獲得すると同時に、時として対立して交戦に至ることもあった。本授業では、古代日本の「対外戦争」の検討を通じて、国際関係の変化や後世にも影響を与えることとなる異国観の形成、またそれに連動して生じた国内情勢の変化について学ぶ。

【到達目標】

古代東アジアの国際関係および日本国内の状況について、要素を個別に把握するのではなく、その関連性を理解して総合的に考える姿勢を養う。また、史料を分析し、先行研究を踏まえて論理を構築し実証する歴史学の研究方法を理解することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP3」「史学科：DP1, DP3」「地理学科：DP1」「経済学科：DP7」「商業学科：幅広い教養」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式で行う。重要な史料についてはその都度訓読し、読解のポイントについて解説する。

質問の受け付けおよびフィードバックは授業内で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	歴史学の基本的な史料の形態と研究方法について学ぶ。
第2回	古代東アジアの国際情勢	本講義の前提となる古代東アジアの国際情勢について学ぶ。
第3回	高句麗好太王との戦い	高句麗好太王碑の読解を通じて、4～5世紀の朝鮮半島との関係を学ぶ。
第4回	「任那」をめぐる争い	6～7世紀の朝鮮半島との関係を学ぶ。
第5回	白村江の戦い①	白村江の戦いを通じて、7世紀に生じた朝鮮半島情勢の転換点を学ぶ。
第6回	白村江の戦い②	白村江の戦いでの敗戦が日本にもたらした影響を考える。
第7回	列島内での版図拡大の戦い①	隼人・南島の古代国家への編入過程を学ぶ。
第8回	列島内での版図拡大の戦い②	蝦夷の古代国家への編入過程を学ぶ。
第9回	藤原仲麻呂の新羅征討計画	藤原仲麻呂の新羅征討計画を中心に、8世紀の対新羅観の変化を学ぶ。
第10回	「敵国」としての新羅・高麗	平安時代を通じて徐々に形成されていく「敵国」観を学ぶ。
第11回	その後の「対外戦争」と異国観	中世以降の「対外戦争」により形成された異国観が近代に与えた影響を考える。
第12回	試験、まとめと解説	試験、まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

（準備）高校までの教科書が手許にある場合は、古代史部分について事前に目を通しておくことが望ましい。その上で、下記の参考書や授業中に紹介する文献を読み、知識を習得すること。
（復習）配付したレジュメを読み返しておくこと。また、史料にもしっかり目を通し、史料に基づいて考察する姿勢を養って欲しい。
本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし。資料を配付します。

【参考書】

倉本一宏『戦争の日本古代史－好太王碑、白村江から刀伊の入寇まで―』（講談社現代新書2428）、講談社、2017年
森公章『東アジアの動乱と倭国』（戦争の日本史1）、吉川弘文館、2006年
鈴木拓也『蝦夷と東北戦争』（戦争の日本史 3）、吉川弘文館、2008年

【成績評価の方法と基準】

記述式試験100％で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【Outline (in English)】

Ancient Japan acquired advanced institutions and culture through exchange with East Asian countries. At the same time, they sometimes confronted each other, leading to war. Through an examination of 'foreign wars' in ancient Japan, this course will study the changes in international relations and the formation of views of foreign countries that would influence later generations, as well as the changes in domestic conditions that occurred in conjunction with these changes.

The goal of this course are 1) to develop an attitude of thinking comprehensively about the international relations in ancient East Asia and the situation in Japan by understanding the relationship between the elements rather than grasping them individually, and 2) to understand the research methods of historiography, which constructs and demonstrates logic based on historical documents and previous research.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the Term-end examination.

LAW200TB（法学 / law 200）

法律学特講（ゴールデンウィークスクーリング）

新谷　里美

カテゴリー：**ゴールデンウィーク**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
国際法の総論部分の中でも特に基本的で重要な部分と、国際経済法の基本原則について学ぶ。

【到達目標】
国際法と国際経済法の基本的概念・枠組およびその機能と限界について、一応の理解ができること。
加えて、現代国際社会の諸課題や日本に関する国際紛争などについて国際法に基づき検討を試みられるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP1，DP3，DP4」「日本文学科：DP1，DP2」「史学科：DP1」「地理学科：DP1，DP2，DP3」「経済学科：DP4，DP5」「商業学科：自由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

【授業の進め方と方法】
「授業計画」に基づき講義を行う。1つの項目が終わるごとに、質疑応答の時間を取る。
学生に対するフィードバックは、授業中のコメント等により行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス、国際社会と国際法	授業の進め方、国際社会・国際法の特徴
第2回	主体	国家
第3回	国家の主権（1）	基本原則
第4回	国家の主権（2）	管轄権・免除
第5回	国際法の存在形式	条約・慣習法・その他
第6回	国際法の国内的実施	国際法と国内法の関係
第7回	国際法の国際的実施（1）	国家責任法
第8回	国際法の国際的実施（2）	紛争解決法
第9回	国際経済法（1）	貿易の規律（1）：WTO協定の概要、WTO紛争解決手続きの特徴
第10回	国際経済法（2）	貿易の規律（2）：基本原則、例外
第11回	国際経済法（3）	国際投資の規律：紛争解決手続きの特徴、基本的な規定
第12回	試験と解説	試験の実施とその解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
教科書（玉田・水島・山田『国際法〔第２版〕』）第１章～第５章、第１２章を事前に読んでおくこと。
ざっと目を通しておく程度でもかまわないが、短期集中のスクーリング授業に対応するためには、予習によって全体像を把握しておくことがきわめて重要である。
また、講義で使用する資料は学支援システムを通じて事前に配布するので、授業前に目を通しておくこと。
本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
玉田大・水島朋則・山田卓平『国際法〔第２版〕』（有斐閣）2022年、1800円＋税
『国際条約集』（有斐閣）
教科書と条約集、いずれも必ず授業に持参すること。なお、条約集は、ここ数年のものであれば、最新年度版でなくてもよい。

【参考書】
森川幸一、兼原敦子、酒井啓亘、西村弓編『国際法判例百選〔第3版〕』（有斐閣、2021年）
判例集は必携とはしないが、あると判例の理解に非常に役立つ。
柳原・森川・兼原編『プラクティス国際法講義〔第３版〕』（信山社、2017年）
杉原高嶺『基本国際法〔第3版〕』（有斐閣、2018年）
中谷和弘他『国際法〔第４版〕』（有斐閣、2021年）
岩沢雄司『国際法　第二版』（東京大学出版会、2023年）
これらの概説書は、発展的に学習したい場合に有用である。

【成績評価の方法と基準】
試験100％

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムを通じて講義資料を事前に配布する。
授業において講義資料を紙媒体で配布することはしないので、授業中に閲覧できるようにPCやタブレットを持参するか、自分で資料を印刷して持参すること。

【Outline (in English)】
【Course outline】
The course will cover the most basic and important general parts of international law and the basic principles of international economic law.
【Learning Objectives】
The student should be able to understand the basic concepts and frameworks of international law and international economic law, as well as their functions and limitations.
In addition, the student should be able to examine various issues in contemporary international society and international disputes concerning Japan based on international law.
【Learning activities outside of classroom】
Students are required to read the textbook (Tamada, Mizushima, and Yamada, "International Law (2nd Edition)", Chapters 1-5 and Chapter 12 in advance.
Although it is acceptable to skim through the textbook, it is extremely important to have an overall picture of the course through preparatory study in order to be prepared for the intensive, short-term schooling classes.
Materials to be used in the lecture will be distributed in advance via the academic support system, so please read through them before the class.
The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
【Grading Criteria/Policy】
Examination 100%

LIT300TC（文学 / Literature 300）

書道実技（ゴールデンウィークスクーリング）

井澤　秀彦

カテゴリー：**ゴールデンウィーク**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**1単位**
期間：
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
中学校国語科書写の指導を中心とした実技と指導法
姿勢・執筆法から始まり、用具・用材の基本的な扱い方、楷書、行書、漢字と仮名の調和などを、現在の教育現場の書写の役割や実情を踏まえながら、順次学習を進めていく。

【到達目標】
中学校国語科書写における知識・技能の習得
基本的な書の表現力（基本点画・書字のきまり・文字感覚など）の習得
中学校国語科書写の指導者として、生徒に何をどのように教えるのか、また、生徒作品を客観的に評価する着眼点の習得

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
授業ノート（持ち物参照）を丁寧にとり、最終日に全ての作品を貼付したノートを提出する。
講義と実技の時間的な割合は課題にもよるが、おおよそ１：１くらいである。
最終授業内で、それまでの講義内容のまとめや復習だけでなく、授業内で書いた作品の講評や通信添削課題に対する解説も行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	書写と書道の違い	書写・書道における基礎的な用語の理解や用具・用材の扱い方
第2回	表現・鑑賞とは 楷書の基本点画	書写における「表現」は技術、「鑑賞」は知識 表現の第一歩は基本点画の習得
第3回	楷書の学習 （書字のきまり１）	「口」の書き方、「八」の書き方などから、文字を書くための決まりごとの理解
第4回	楷書の学習 （書字の決まり２）	偏と旁の関係、横画と縦画の関係などから、文字を書くための決まりごとの理解
第5回	筆順指導について 楷書の許容される書き方	教育現場における筆順指導の重要性の理解 楷書の基本的な字形と許容される字形
第6回	楷書のまとめ	四字句・六字句などの学習から、半紙に対する文字の大きさや配列・配字の理解
第7回	行書の特徴１	なぜ中学校で行書を学習するのか 楷書と行書の違い
第8回	行書の特徴２	行書の特徴（点画の丸み・連続・変化など） 点画の省略、筆順の変化
第9回	小筆の学習１	楷書に調和する仮名の学習 行書に調和する仮名の学習
第10回	小筆の学習２	漢字（楷書・行書）と仮名の調和 「散らし書き」の理解と習得
第11回	楷書および行書の古典	楷書の成立と唐の四大家 『九成宮醴泉銘』の学習 行書の成立と王羲之 『蘭亭序』の学習
第12回	試験およびスクーリング授業のまとめと作品等解説	試験は楷書・行書各１題 スクーリング授業のまとめと通信添削課題に対する解説など

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
実技の習得は練習の積み重ねが大切である。自分の目標をしっかり持ち、基本点画の習得、自己の欠点の確認・矯正および新しい技量の習得を目指して欲しい。
本授業の準備学習・復習時間は、各1時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
『国語科書写の理論と実践』　全国大学書写書道教育学会編
萱原書房　￥1,000＋税
通教テキスト「書道教本」

【参考書】
指定なし

【成績評価の方法と基準】
平常点30点、授業ノート（作品を含む）40点、試験30点

【学生の意見等からの気づき】
書道用具に関してですが、自らが中学生のころに使用していたものではうまく書けないようです。筆は大筆・小筆とも使用に耐えられず（やはり小中学生用はその程度です）、固形墨は上手に磨っても濃くならず、硯も小さかったり石製ではなかったりで、初日が終わってから慌てて専門店に行き、書道用具を購入する学生が毎年います。将来、教壇に立つ者として、相応の書道用具をそろえてください。また、墨で服を汚さぬよう各自工夫してください。

【その他の重要事項】
持ち物
①筆（大筆・小筆）②墨（固形墨）③硯（プラスチック製・セラミック製はＮＧ）④半紙（多めに用意してください）⑤毛氈（下敷き）⑥文鎮⑦ノート（Ｂ５・横罫）⑧筆記用具⑨赤ペン⑩スティックのり
※特に筆・墨・硯・半紙は安価なものは使いにくいものが多い。
上記テキストは必携のこと。

【Outline (in English)】
Practical skills and teaching methods centered on teaching junior high school Japanese language penmanship
Starting with the posture and writing method, we will continue to study the basic handling of tools and materials, regular script, semi-cursive script, harmony between Chinese characters and kana, etc., based on the role and actual situation of penmanship in the current educational field.

BSP100TF（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）

総合特講（ゴールデンウィークスクーリング）

齋藤　経史

カテゴリー：**ゴールデンウィーク**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ICT［Information and Communication Technology（情報通信技術）］の発達・普及により、IoT［Internet of Things（モノのインターネット）］、クラウド、AI［Artificial Intelligence（人工知能）］の活用に注目が集まっています。本講座では、これらのICTを利用するデータ活用を包括的に学習します。受講者はIoTによるデータ収集・クラウドへのデータ蓄積・プログラミングやAIによるデータ分析の全体像と各論を学ぶことができます。

【到達目標】
受講生は「IoTによるデータ収集」「クラウドによるデータ蓄積」「プログラミングやAIによるデータ分析」の全体像と各論を総合的に理解することができます。IoTやクラウドサービスに関する概要を事例とともに理解できます。また、データ活用の概要に加えて、RESAS、Excelを活用したデータ分析の基礎技術を理解できます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP3，DP5」「日本文学科：DP1，DP2」「史学科：DP1」「地理学科：DP1，DP2，DP3」「経済学科：DP1」「商業学科：経済学」に関連

【授業の進め方と方法】
講義を主体とする授業を行いますが、講師が実際のPC画面を投影してRESASやExcelの操作を実演することで受講生はツールの使い方や分析手順を習得することができます。質問は授業時間内、リアクションペーパーで受け付けます。また、最後の第12回においては、受講生の理解度や習得技能を確認する試験を実施します。なお、試験後には試験に対する講評や解説を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	IoTとデータ収集技術［講義］	IoTの概論とデータ利活用の全体像を示します。また、IoTのデータ収集技術を紹介します。
第2回	xRとロボット［講義］	xR(AR、MR、VR)の概要と利用事例を紹介します。また、IoTの一種としてロボット・ドローンを示します。
第3回	ビッグデータとオープンデータ［講義］	ビッグデータとオープンデータのそれぞれの特徴と利用例を紹介します。
第4回	RESAS（地域経済分析システム）の活用［実演］	ウェブブラウザを使って地域データを可視化するRESAS（地域経済分析システム）の実演を行います。
第5回	クラウドの定義と分類［講義］	クラウドの意味と出自を説明し、クラウドのサービスモデル、実装モデルの概要と事例を示します。
第6回	クラウドの特性と新たな利用方法［講義］	クラウドに関連する特性やデータ分析などに利用するクラウドの使い方を示します。
第7回	基本統計量の作成［実演］	代表的な基本統計量の意味を示し、Excel使った統計量の作成を実演します。
第8回	相関と回帰分析［実演］	相関分析、回帰分析の特性、用途、出力をExcelの分析ツールを利用して実演します。
第9回	APIと改正個人情報保護法［講義］	API（Application Programming Interface）の概要と利用例を示します。また、デジタル技術と関連する個人情報保護法の概要を示します。
第10回	人工知能とICT利活用事例［講義］	近年の人工知能に関する技術の進展を示し、ICTの活用事例を分野別に紹介します。
第11回	プログラミング、RPA、BIツール［実演］	プログラミングによるデータ活用の実演を行い、RPA（Robotic Process Automation）、BI (Business Intelligence)ツールの特性を示します
第12回	試験・まとめと解説	授業の理解度を確認するための試験を行います。また試験時間終了後、参加希望者に対して試験の解説を行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講師が2017年度に教材作成に携わり、総務省のウェブサイトにオープンデータとして公表していた「総務省ICTスキル総合習得プログラム」を可能な限り直近の状況や事例にアップデートした教材を配布して講座を実施します。総務省のウェブサイトにおける「総務省ICTスキル総合習得プログラム」の公開は2023年1月で終了しましたが、国立国会図書館のWARP等のウェブアーカイブから教材の概要把握や予習を行うことができます。（短縮リンク：https://lead.to/soict) なお、本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
各授業での教材投影・プリント配付を行うため、教科書は使用しません。

【参考書】
必要に応じて、ICTスキル総合習得プログラムの参考文献リスト（https://keijisaito.info/pdf/hosei_ict_ref.pdf）を参照してください。

【成績評価の方法と基準】
最終日の12コマ目に理解度を確認する試験を行い、成績評価を行います。また、授業への参加度を平常点として成績に反映することもあり得ます。(1)理解度確認試験：90～100％ (2)平常点：0～10％

【学生の意見等からの気づき】
ChatGPT等の新しい製品・サービスの事例が豊富で分かり安かったという意見が多かったため、可能な限り、授業実施時の最新の状況や事例にアップデートした教材で講義を行います。

【学生が準備すべき機器他】
RESASやExcelの実演は、講師が操作するPC画面を投影する形で行うので、学生が準備すべき機器はありません。ただし、学生自身でPCを持参し、電源/ネットワーク環境を用意すれば、講座時間内にも操作再現が可能です。

【その他の重要事項】
PCのウェブブラウザを使ってインターネット閲覧、Microsoft Excelを使っての表やグラフの作成ができる程度の基本的なPCスキルを前提とします。

【Outline (in English)】
[Course outline] This lecture shows the overall picture of data utilization related to "Information and Communication Technology". Students comprehensively learn "data collection by IoT", "data accumulation by cloud service", and "data analysis by programming and AI".
[Learning Objectives] The purpose of this course is to understand the overview of IoT and cloud services along with case studies, and to comprehend the basic techniques of data analysis using RESAS and Excel.

[Learning activities outside of classroom] The "Ministry of Internal Affairs and Communications ICT Skills Comprehensive Acquisition Program," which forms the basis of the course materials, is no longer available on the Ministry's website. However, students can grasp the outline of the materials and prepare for the course through web archives such as the National Diet Library's WARP. (Short link: https://lead.to/soict) The standard time allocated for preparation and review for this course is 2 hours each.
[Grading Criteria/Policy] An exam will be conducted during the 12th session of the final day to assess understanding, and grades will be evaluated based on this exam. Additionally, participation in the class may also be reflected in the grade as attendance points. (1) Understanding assessment exam: 90 – 100%(2) attendance points: 0 – 10%

MAN200TG（経営学 / Management 200）

経営学特講（ゴールデンウィークスクーリング）

木島　豊希

カテゴリー：**ゴールデンウィーク**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
流通の基本的な仕組みや役割について理解することを目指します。

【到達目標】
流通の基本を幅広く学ぶことを通じて、流通の今日的課題を具体的に理解し、それを論理的に説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP3, DP5」「日本文学科：DP1, DP2」「史学科：DP1」「地理学科 DP1, DP2, DP3」「経済学科：DP2」「商業学科：経営学・商学, 自由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

【授業の進め方と方法】
授業は、教科書に沿って講義形式で行います。
試験に対するフィードバックは、第12回の試験終了後に口頭で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	流通と商業のはたらき	流通・商業の仕組みや役割を理解する。
2	発展する商業	小売業・卸売業の歴史的な発展を理解する。
3	流通・商業とそれを取り巻く環境	流通・商業の外部環境や消費者の変化による影響を理解する。
4	システム革新と流通・商業	流通・商業に関する情報・物流システムを理解する。
5	進展する流通チャネルの再編成	大規模小売組織主導の流通再編成などを理解する。
6	激変する小売業	小売業の構造変化や大規模小売企業の動向を理解する。
7	存在意義を問われている卸売業	卸売業の構造変化や卸売業の機能を理解する。
8	時空間を超えるニュービジネス	ネット小売を理解する。
9	流通活動空間の広がり	流通の国際化を理解する。
10	流通・商業と社会	地球環境、まちづくり、公正競争を理解する。
11	まとめ	試験に向けて、これまでの授業内容を再度確認する。
12	試験、解説	試験を実施した後に、試験内容を解説する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。教科書を読んでください。

【テキスト（教科書）】
原田英生・向山雅夫・渡辺達朗『ベーシック流通と商業〔第3 版〕-現実から学ぶ理論と仕組み』有斐閣、2021年3月、税抜2,000円。

【参考書】
坪井晋也・河田賢一編著『流通と小売経営［改訂版］』創成社、2021年4月、税抜2,600 円。

【成績評価の方法と基準】
平常点を40％、期末試験（スクーリング最終日に実施する試験）による評価を60％として、成績評価を行います。試験では、持ち込み不可とします。

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【その他の重要事項】
質問は授業終了後に受け付けます。

【Outline (in English)】
The aim of this course is to understand system and role of the distribution.
Please read the textbook outside of class.
The grade evaluation is 40%for normal grades and 60%for final examination grades.

PHL100TA（哲学 / Philosophy 100）

論理学（大阪市スクーリング）

鵜澤　和彦

カテゴリー：**大阪市**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
論理学の学びは、わたしたちが物事を理性的に考えて、行動するための基礎となります。問題となる対象や事柄の定義を把握し、それについて正しい推論を行うことは、わたしたちが日常生活で出会うさまざまな問題の解決に役立ちます。本授業は、日常言語を使用する伝統的論理学の概念・判断・推論を習得することを目的とします。

【到達目標】
①正しい推理のための基礎的な知識を得ることができる。たとえば、オイラーの図をイメージして、概念間の関係を適切に捉えることができるようになる。
②論理的に筋道を立てて冷静に考える態度を身につけることができる。たとえば、直接推理や間接推理（三段論法）の規則を使って、正しい推論を行うことができるようになる。
③論理的なコミュニケーション能力を習得できる。具体的には、相手が詭弁を弄してきた際に、その論理的な誤謬を指摘し、反論することができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP3」「史学科：DP1, DP3」「地理学科：DP1」「経済学科：DP4」「商業学科：幅広い教養」に関連

【授業の進め方と方法】
授業は対面で行われます。課題はおもに教科書の練習問題で、理解を確認する目的で行われます。課題の解説は、授業中に行います。質問はリアクションペーパーに書いてもらい、次回の授業時にお答えします。なお、**授業資料の配布は、学習支援システムHoppiiを使って行います。授業開始前にHoppiiの教材から、資料をダウンロードしてください。スクーリング会場では、受講生用の電源ポートや無線LANの用意がありません。必ず、授業前日までに自宅等で、資料をダウンロードしておいてください。**

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業全体のガイダンスと思考の基礎	春学期講義全体（教員紹介、授業のテーマ、到達目標、方法、成績評価基準）、思考の３原則（同一律、矛盾律、排中律）
2	知識の成り立ち	概念、内包と外延、上位と下位、類と種、普遍と特殊、種差と定義、区別と分類、定義とその種類
3	1.判断・命題、2.オイラーの図、3.命題の標準形式化	判断・命題の定義、定言命題の4種類（全称肯定、全称否定、特称肯定、特称否定）、概念の周延と不周延、オイラーの図、命題の標準形式化
4	1.推理の定義と分類、2.対当推理	推理の概念、演繹推理と蓋然推理、直接推理と間接推理、真偽と妥当・非妥当、対当推理（矛盾、反対、大小、小反対）
5	変形推理（1.換質法、2.換位法、3.換質換位法、4.戻換法）	換質法、換位法、換位不可能な命題、換質換位法、戻換法、直接推理の有用性
6	課題プリント（第1回から第5回）の解答と解説、三段論法	三段論法の概念、種類、定言三段論法
7	定言三段論法の規則	三段論法の導入、三つの一般原則、六つの規則と三つの派生規則
8	定言三段論法の判定、誤謬判定の練習問題、妥当性の判定の練習問題	誤謬判定の練習問題（設問１から設問６）、妥当性の判定の練習問題（設問８から１１）
9	定言三段論法の格と式	定言三段論法の格（第1格、第2格、第3格、第4格）、定言三段論法の式、全体及び皆無の原理（第1格）、差異の原理（第2格）、用例の原理(第3格)、逆の原理（第4格）
10	仮言三段論法と選言三段論法	仮言三段論法と選言三段論法の概念、種類、誤謬の名称、正しい推論の見分け方
11	筆記試験	これまでの学習事項に関する筆記試験を行います。
12	筆記試験の解答と解説	筆記試験の解答と解説を行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
予習：テキストの関連個所を一読し、全体の概要を把握する（2時間）。
復習：前回の授業内容をテキストやプリントを用いて復習し、論理学の知識を確実に習得する。また、教科書の課題を解く（2時間）。

【テキスト（教科書）】
菅沢龍文著『論理学　はじめの一歩　オイラー図とベン図で知る伝統的論理学』春風社、2021年、ISBN：978-4-86110-738-2、1300円

【参考書】
①『論理哲学入門』E.トゥーゲントハット、U.ヴォルフ著、鈴木・石川訳、ちくま学芸文庫

【成績評価の方法と基準】
成績評価は100点満点で、筆記試験の得点で成績を出します。受講生は、各授業回の教科書の練習問題を解いて、筆記試験に備えてください。60点以上が合格となります。

【学生の意見等からの気づき】
論理学の知識が、日常生活のどのようなところで役に立つのかを提示しながら、授業を進めて行きます。

【学生が準備すべき機器他】
とくにありません。

【その他の重要事項】
とくにありません。

【Outline (in English)】
The study of logic is fundamental to our ability to think and act rationally. The definitions of objects and matters in question help us to understand and solve various problems that we encounter in our daily lives. Furthermore, the ability to discern correct inferences is the foundation of critical thinking. The purpose of this class is to master the concepts, judgments, and reasoning of traditional logic using ordinary language.
Read through the relevant sections of the textbook to get a general overview (2 hours). Review the contents of the previous class using the textbook and handouts to ensure mastery of the knowledge of logic. Also, solve assignments from the textbook (2 hours).
Grades will be on a 100-point scale, with scores on the written exam being the sole basis. To prepare for the written exam, students must solve practice problems in the textbook for each class session. A passing grade is 60 points or higher.

BSP100TD（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）

総合特講（大阪市スクーリング）

小口　雅史

カテゴリー：**大阪市**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
歴史学は「現在と過去との対話」だと言われています。現代社会を理解し、その未来を展望するためには、過去の歩みの正しい理解が必要となります。とくに日本古代の歴史は、日本国家の原点であり、中国を中心とする東アジア世界の政治・外交秩序と密接な関係を保ちながら展開されました。まさに現代世界の基盤になったものです。
　この講義では、こうした特徴ある日本古代史をベースに、1回毎に時代を代表するメルクマールを設定しますので、みなさんは、歴史の見方、歴史の流れを総体的・論理的にとらえ、現代との対話ができるようになる方法を取得することを目標に頑張ってください。

【到達目標】
　暗記主体の高校までの日本史とは異なって、大学の日本史は、「歴史を考える」ことを目指します。そのことは、例えば中学校・高等学校で日本史を教える立場にたったときにも重要です。「歴史を考える」時に、必要となる知識の習得と歴史的事実の調べ方、その全体像の論理的構成方法を学ぶことになります。高校で学んだ教科書の記述がどのように成り立っているのか、その根拠になった学説にまで遡って根拠史料を踏まえて解説していきます。もはや、高校生のようにひたすら暗記することは必要ありません。なぜその時点で、そこで、その事象が発生したのかを論理的に考える力をつけましょう。
　最終的には、古代の日本史像について、東アジア世界のなかの日本という国際環境ないし地理的視点を常に保ちながら、豊かで多様な価値観に支えられた新しい歴史像を構築する能力を養うことを目標とします。このことは現代社会を正しく理解し、さらには将来の社会生活において必ず役に立つはずです。
高校までの「勉強としての日本史」とはまったく異なる、大学での「学問としての日本史」「科学としての日本史」の魅力を十分味わってください

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP1，DP2」「史学科：DP1，DP3」「地理学科：DP1，DP2，DP3」「経済学科：DP4，DP5」「商業学科：自由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

【授業の進め方と方法】
　講義形式で進めます。適宜、画像類を用いて視覚的な理解をはかることも考えています。
　謎多き日本古代国家の成立過程からはじめて、その展開・崩壊と、そこから生まれてくる中世国家の形成過程、展開・崩壊を、論理的に考えながら「時代」像を構築してみます。具体的に当時の生の史料を解読しながら皆さんといっしょに考えていきます。
　歴史学は「解釈」の学問です。多様な「解釈」が可能です。高校までの日本史では原則として正解は一つでしたが、大学での日本史は正解は一つではありません。答えは私の講義を聴いた上で、皆さん各自で正解を考えてみましょう。
　皆さんから出された質問その他へのフィードバックは、まとめて最終授業で、講評や解説として実施します。　皆さんから出された質問その他へのフィードバックは、まとめて最終授業で、講評や解説として実施します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	序論・日本史の時代区分	科学ないし学問としての歴史学とは何かを考えます。そのための大前提が時代区分論です。ここで古代とは何かを定義します。
第2回	ヤマト王権－日本国家の初源	律令国家の前史として、ヤマト王権の最終的な国家の姿を検討してみます。
第3回	大化改新－古代史上最大の政治改革	対外的緊張の高まりのなかで、ヤマト政権の限界を打破して新国家体制を作るべく、古代史上最大のクーデターが実行されます。その政治改革の実像を検討してみます。
第4回	律令法の成立と展開	新国家体制の柱となった律令とは何かについて考えてみます。
第5回	律令国家の財政制度	古代国家の財政の特徴を、中央財政と地方財政とにわけて考えてみます。
第6回	在地首長と地方政治	通信手段が貧弱だった時代にわずか60余名の国司で日本を統治できたのはなぜか。現地に根ざした在地首長たちの姿を追ってみます。
第7回	古代家族論	世界史の奇跡と言われた「正倉院文書」中にはたくさんの戸籍があります。古代家族の真実の姿を考えてみます。
第8回	律令国家の転換	東大寺に代表される天平文化華やかなりし時代は、じつは律令国家の大きな転換点でもありました。その実態を検討します。
第9回	公営田制－人から土地へ	戸籍によって人を支配する古代国家は、次第にその維持が難しくなります。変わって登場したのが土地を支配する体制でした。その実態を探ります。
第10回	王朝国家論	人から土地への変化は、中央政府の在り方は変えませんでしたが、地方政治は大きく変化しました。それを重視する「王朝国家論」について検討してみます。
第11回	摂関政治とは	地方の変化にもかかわらず中央で権勢を奮った貴族政治の実態とその力の源泉を探ってみます。
第12回	日本古代国家の特徴についての総括、試験	これまでの講義を通じて日本古代国家の特徴をまとめてもらいます。そのあと試験で単位を認定します。質疑応答やフィードバックも行います

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
予習は事前のテキスト内容の理解を期待します。人によって異なりますが、2時間が標準と考えられます。また授業当日プリントなど補足教材を配布することもあります。その場合は、それを活用しながらテキストを読んでおくと、講義内容がいっそう分かりやすくなると思います。
　実際に「歴史を考える」作業は授業のなかだけで完結するように講義を工夫して行います。復習しておくと次回の講義の理解に役立ちます。これも人によって異なりますが2時間程度が標準と考えられます。

【テキスト（教科書）】
日本史概論編集委員会編『日本史概論』(上)（同成社）

【参考書】
特に指定しません。必要に応じて授業当日補助プリントを配布します。

【成績評価の方法と基準】
期末試験（論述問題）によって行います（１００％相当）。

この講義の目標である、現代と対話しながら「歴史を考える」という思考方法が身についたかどうかを、具体的に論述してもらって判断します。

【学生の意見等からの気づき】
高校日本史を履修していない人にははやや難解かもしれません。ただ高校日本史を繰り返すことはしませんので。高校で日本史を履修しなかった人はあらかじめ日本古代史の概説書を読んでから受講することを強く勧めます。

【学生が準備すべき機器他】
とくになし

【その他の重要事項】
とくになし

【担当教員の専門分野等】
〈専門領域〉
日本古代史・法制史・北方史・国際日本学
〈研究テーマ〉
日本古代社会経済史・日中比較律令法史・古代中世北方史
〈主要研究業績〉
2010年、『古代末期・日本の境界－城久遺跡群と石江遺跡群』
2008年、『エミシ・エゾ・アイヌ』（編著）、岩田書院
2008年、「近時の在欧吐魯番出土漢文文書の整理・公開等をめぐって」『古文書研究』66
2007年、「『在ベルリン吐魯番出土漢文世俗文書総合目録』のその後－FileMakerによるDatebaseのWeb公開の一例として」『漢字文献情報処理研究』8

【Outline (in English)】
Course outline : In this lesson, we will examine from the birth of Japan to the modern society from various aspects such as politics, diplomacy, social economy, culture.
Learning Objectives : we will introduce specific methods to acquire the ability to "think" rather than "remember" the "history". In some cases, I also ask students opinions on interpretation of historical materials.
Learning activities outside of classroom : Before each class meeting, students will be expected to spend 120 minutes to understand the course content. After each class meeting, students will be expected to spend 120 minutes to understand the course content.
Grading Criteria /Policies : Final grade will be calculated according to the following process term-end examination (100%).

MAN200TG（経営学 / Management 200）

経営学特講（大阪市スクーリング）

平井　裕久

カテゴリー：**大阪市**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では、財務諸表（貸借対照表、損益計算書、キャッシュ・フロー計算書など）から得られる情報を利用し、そこから算定される経営指標などによって、企業の経営状態の実像や課題を観察する眼を養うことを目標とする。
財務諸表分析における、企業の収益性、安全性、効率性、成長性などに関する伝統的な分析方法を中心とし、また近年話題のテーマである企業価値評価についても、設例や上場企業のデータを用いて講義をおこなう。

【到達目標】
具体的な到達目標は以下である。
①基本的な財務諸表(貸借対照表、損益計算書、キャッシュフロー計算書）を読むことができる。
②財務数値の意味を理解する。
③企業の財務数値を用いて分析を行える。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP3, DP5」「日本文学科：DP1, DP2」「史学科：DP1」「地理学科 DP1, DP2, DP3」「経済学科：DP2」「商業学科：経営学・商学, 自由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

【授業の進め方と方法】
本講義では、プレゼンテーションソフトを用いて説明する。講義内では、補足説明のためのプリントなどを配布し、より具体的な事例を確認する。また講義内において、数回の計算課題などを行う予定である。その課題に対するフィードバックはその場で解説によりおこなう。なお、教室の配置や受講生の人数にもよるが、可能であればグループディスカッションを行いたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	講義の進め方や、経営分析を学ぶ意義について説明する。
第2回	第１章　財務諸表分析の基礎	・財務諸表分析の意義 ・財務諸表分析の方法 ・財務諸表分析と実証会計研究
第3回	第２章　財務諸表の見方	・連結財務諸表について ・連結財務諸表の相互関係
第4回	第３章　貸借対照表データによる安全性分析	・貸借対照表データによる基本分析 ・短期財務安全性の分析 ・長期財務安全性の分析 ・有利子負債の分析
第5回	第４章　損益計算書データによる収益性分析	・損益計算書データによる基本分析 ・段階別売上高利益率の算定 ・プロフォーマ利益 ・セグメント情報の分析
第6回	第５章　相互関係比分析による収益性分析	・相互関係比と収益性分析について ・投下資本利益率の算定 ・投下資本利益率の分解 ・ＲＯＡとＲＯＥの関係
第7回	第６章　効率性分析 第10章　付加価値分析	・使用総資本回転率 ・回転期間の分析 ・付加価値の意味 ・労働生産性の分析
第8回	第９章　成長性分析 第７章　キャッシュ・フロー・データによる分析	・業績の推移 ・上場企業の成長性 ・キャッシュ・フローと会計利益 ・キャッシュ・フロー・データによる分析
第9回	第８章　損益分岐点分析	・営業レバレッジ ・変動費と固定費
第10回	第11章　倍率指標とキャッシュ・フローに基づく価値評価	・ファンダメンタル分析 ・企業価値評価の間便法 ・配当割引モデル ・割引キャッシュ・フローモデルと企業価値評価
第11回	第12章　会計利益に基づく価値評価 第13章　利益マネジメントと財務諸表分析	・会計利益と株式価値評価 ・価値関連性分析 ・利益マネジメント
第12回	試験	試験、フィードバック（解説）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
テキストの該当章を事前によく読んで予習しておくこと。
講義終了後には、内容の理解を確実なものとするためにも復習をすること。
本授業の準備・復習時間は、各４時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
乙政正太 著『財務諸表分析(第3版)』同文舘出版，2019

【参考書】
桜井久勝『財務諸表分析（第8版)』中央経済社，2020
佐藤裕一『ビジュアル経営分析の基本（第5版)』日本経済新聞出版社，2012
森田松太郎『経営分析入門（第4版)』日本経済新聞出版社，2009
S.H.ペンマン，荒田映子他訳『アナリストのための財務諸表分析とバリュエーション』有斐閣，2018
C.G.パレプ他,斎藤静樹監訳『企業分析入門（第2版)』東京大学出版会，2001

【成績評価の方法と基準】
試験(100％)
ただし、スクーリング試験の受験資格を満たしていない場合には、成績評価の対象とはならない。
https://www.tsukyo.hosei.ac.jp/schooling-ex/

【学生の意見等からの気づき】
前年度は担当していません。

【学生が準備すべき機器他】
資料配布や課題提出等のために学習支援システム等を事前に利用することがある。
ただし、講義の教室においてWIFI環境は無く、基本的にPCの利用環境ではない。
授業および試験においては、必ず“電卓”を準備すること。

【その他の重要事項】
受講に際して、簿記の基礎的な知識(日商簿記3級程度)は必須であり、CF計算書を含む簿記および原価計算の内容(日商簿記2級程度)を理解している前提で講義を進める。

【Outline (in English)】
The objective of this course is to assist students in acquiring Business Analysis skills. The course aims to utilize financial statement information to comprehend the business conditions of companies based on management indicators and other relevant data.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Term-end examination: 100%.

LANe100TA（英語 / English language education 100）

英語Ｓ（仙台市スクーリング）

磯部　芳恵

カテゴリー：**仙台市**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**1単位**
期間：
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講手続き等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
映画教材を使用し、口語表現や早い発話における音変化や各場面で用いられる単語・表現について意味や使い方を学び、リスニング・スピーキング力の向上を目指すとともにアメリカ文化に対する理解を深める。

【到達目標】
（1）アメリカ英語の個々の音やイントネーション、会話でよく使われる表現を理解する。
（2）自然な発話速度における音変化を理解し、つながった音が聞き取れるようにする。
（3）映画を通してアメリカの生活・文化などについて理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP3」「史学科：DP1, DP3」「地理学科：DP1」「経済学科：DP6, DP8」「商業学科：幅広い教養」に関連

【授業の進め方と方法】
Classroom methods include:
1. watching the video
2. pair and group discussions
3. various activities including dictation
4. acting out Viewing & Listening
5. giving feedback in class

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	Unit 1 Meeting Truman	Vocabulary, Phrases, Chunk check、Viewing &Listening, Comprehension Questions
第2回	Unit 2 Fear of the Ocean	Unit 1 My favorite line Unit 2 Vocabulary, Phrases, Chunk check、Viewing &Listening
第3回	Unit 3 Lauren &Sylvia	Unit2 My favorite line Unit 3 Vocabulary, Phrases, Chunk check、Viewing &Listening
第4回	Unit 3 Lauren &Sylvia	Comprehension Questions My favorite line
第5回	Unit 4 Something Strange Is Going On	Vocabulary, Phrases, Chunk check、Viewing &Listening, Comprehension Questions
第6回	Unit 5 Something Strange Is Going On	Unit 4 My favorite line Unit 5 Vocabulary, Phrases, Chunk check、Viewing &Listening
第7回	Unit 6 Truman Tries to Leave	Unit 5 My favorite line Unit 6 Vocabulary, Phrases, Chunk check、Viewing &Listening
第8回	Unit 6 Truman Tries to Leave	Comprehension Questions My favorite line
第9回	Unit 7 The Reunion	Vocabulary, Phrases, Chunk check、Viewing &Listening, Comprehension Questions
第10回	Unit 7 The Reunion	Comprehension Questions My favorite line
第11回	Review	Review Unit 1-7 Acting out
第12回	Wrap up and in-class exam	まとめと授業内テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Students will be expected to　have read the relevant chapter(s) from the text.
Your required study time is at least one hour for each class meeting.

【テキスト（教科書）】
『The Truman Show 映画総合教材「トゥルーマン・ショー」New Format Edition』
松柏社
ISBN:978-4-88198-569-4

【参考書】
必要に応じて紹介する、
http://www.shohakusha.com/streaming.html
音声ストリーミングサイト

【成績評価の方法と基準】
Your overall grade in the class will be decided on the following: term-end exam 40%, homework 30%(including　giving a presentation about your favorite line), acting out 10 %, and in class contribution 20%.

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【学生が準備すべき機器他】
辞書。

【その他の重要事項】
学習への接触的な姿勢を評価する。欠席は平常点から減点となります。病気等で欠席の場合、それを証明する書類を提出すること。
・音読やペア活動では、積極的に周囲と協力しながら行うこと。
・３０分以内の遅刻、早退は３回で１回とみなします。
・３０分以上の遅刻、早退は欠席１回として扱います。
・授業態度の悪い者（携帯電話の使用、居眠り、私語、度重なる遅刻、ペア活動不参加など）は、減点の対象となるので注意すること。
・欠席は減点とする。

【Outline (in English)】
This course will integrate all language skills by using the teaching material based on the film, especially listening and speaking skills and aims to provide students opportunities to learn colloquial expression and express their opinions on the content of the material.　Students will learn about aspects of American culture while building their communication skills.

BSP100TC（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）

総合特講（仙台市スクーリング）

中沢　けい

カテゴリー：**仙台市**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：
その他属性：**〈実〉**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
林芙美子の時代　大衆と民衆の時代
近代の出版の歴史を学びながら女性の職業作家の登場について学びます。その背景に都市に流入した人々がいたことに注目します。

【到達目標】
近代文学の読者としての大衆の登場と女性作家の関係を学びます。林芙美子の読者はどのような人々だったのでしょう。林芙美子の読者であった人々は現在の人々とどのようなつながりを持っているのでしょうか。考察します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP1，DP2」、「史学科：DP1，DP3」「地理学科：DP1，DP2，DP3」「経済学科：DP4，DP5」「商業学科：自由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

【授業の進め方と方法】
講義と授業内の質疑応答。質疑応答については授業内のアンケートを考えています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	林芙美子はどのような作家か。	林芙美子の作家として仕事の概略をご紹介します。
第2回	大正から昭和の出版状況について	林芙美子登場の時代背景を当時の出版状況を中心にお話します。
第3回	林芙美子の出生以前	林芙美子の両親についてお話をいたします。時代背景を理解するために執拗な知識です。
第4回	下関から尾道へ 詩人としての出発	林芙美子は詩人としてまず評価されました。
第5回	東京の林芙美子 関東大震災を挟んで 「放浪記」まで	東京での詩人としての活動、平林たい子など林芙美子を囲む人々についてお話します。
第6回	「放浪記」ベストセラーとなる。	「放浪記」がベストセラーとなるまでを長谷川時雨の「女院芸術」との関係などを含めお話いたします。
第7回	パリの林芙美子	「放浪記」がベストセラーとなった林芙美子はパリ旅行へ出かけます。パリ旅行と当時の欧州の様子をお話します。
第8回	林芙美子が描いた人々と従軍記	林芙美子の描いた小説の中に描かれた人々についてご紹介します。また日中戦争の従軍作家として戦争をどう描いたかをご紹介します。
第9回	「うず潮」と「浮雲」	晩年の代表作となった「うず潮」と「浮雲」についてお話します。
第10回	林芙美子作品と映画、演劇、テレビドラマとの関係。	林芙美子死後もその作品は映画、演劇、テレビドラマとして親しまれました。
第11回	菊田一夫による「放浪記」 森光子主演から仲間由紀恵へ	演劇としての放浪記についてお話します。
第12回	まとめと試験	授業内容についての試験を教室で実施します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
以下の２冊を事前に読んでください。
林芙美子「放浪記」（岩波文庫）
「放浪記」については岩波文庫のほかに、複数の文庫や全集がありますので、どちらで読んでいただいてもいいえす。
林芙美子「下駄で歩いたパリ」（立松和平編　岩波文庫）
本授業の準備・復習時間は、各２時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しません。授業内でプリントをお配りします。

【参考書】
林芙美子「放浪記」（岩波文庫）
林芙美子「下駄で歩いたパリ」（立松和平編　岩波文庫）

【成績評価の方法と基準】
授業内でアンケートを実施します。アンケートへの回答の評価２０％。授業中の受講態度１０％。最終授業での試験の評価７０％。

【学生の意見等からの気づき】
パワーポイントを利用します。パワーポイントで読みにくい文字表現などはプリント配布で対応いたします。

【学生が準備すべき機器他】
とくにありません。

【その他の重要事項】
授業内で簡単なアンケートを実施します。アンケートの回答を受講生のみなさんにご紹介するようにいたします。
「実務経験のある教員による授業」
小説家。1978年「海を感じる時」で第21回群像新人賞受賞。1985年「水平線上にて」で第6回野間新人賞受賞。小説、評論、エッセイなどを執筆。

【Outline (in English)】
The era of Fumiko Hayashi: the era of the masses and the people

【実務経験のある教員による授業科目】
○

ECN200TF（経済学 / Economics 200）

経済学特講（仙台市スクーリング）

宮﨑　憲治

カテゴリー：**仙台市**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講手続き等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
映画・ドラマの中の経済学を学びます

【到達目標】
経済学が日常生活でどのように用いられているかを説明できるようになることが到達目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP3,DP5」「日本文学科：DP1,DP2」「史学科：DP1」「地理学科：DP1,DP2,DP3」「経済学科：DP1」「商業学科：経済学」に関連

【授業の進め方と方法】
映画やドラマのワンシーンなどを使いながら、経済学が日常生活でどのように用いられるかを講義します。授業の初めに前回の授業で提出されたリアクションペーパーについて講評します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	サンクコスト	ロード・オブ・ザ・リング (2001)・ソラニン (2010)・これは経費で落ちません！ (2016) などを用いて解説
第2回	機会費用	ブライベートライアン（1998）・天使のくれた時間 (2001)・ジェネラル・ルージュの凱旋 (2009) などを用いて解説
第3回	トレードオフ	七人の侍(1954)・キューティ・ブロンド (2002)・マッドマックス 怒りのデス・ロード (2015) などを用いて解説
第4回	比較優位	ベイブ (1996)・スクール・オブ・ロック (2003)・ハンガーゲーム (2012)などを用いて解説
第5回	交易からの利得	ハドソン河のモスコー (1984)・ジョゼと虎と魚たち (2003)・堕天使のパスポート (2004)などを用いて解説
第6回	完全競争市場	未来は今 (1995)・ウルフ・オブ・ウォールストリート（2013）・架空OL日記 (2020)などを用いて解説
第7回	不完全競争市場	フォレスト・ガンプ (1995)・アメリカン・ギャングスター (2008)・インフォーマント（2009）などを用いて解説
第8回	裁定	ショーシャンクの空に (1995)・ブロウ（2001）・映像研には手を出すな (2020)などを用いて解説
第9回	インセンティブ	レザボアドックス (1992)・ターミナル (2004)・信長協奏曲 (2014)などを用いて解説
第10回	モラルハザード	純喫茶磯辺 (2008)・ウォール・ストリート (2010)・俺の話は長い (2019)などを用いて解説
第11回	逆選択	ドライビング Miss デイジー（1989）・ディボース・ショウ（2003）・２６世紀青年 (2006) などを用いて解説
第12回	囚人のジレンマ	ビューティフル・マインド（2001）・ダークナイト (2008)・ライヤーゲーム （2010）などを用いて解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・復習時間は、各４時間を標準とします。余裕があれば、取り上げる予定の映画やドラマを、サブスクやレンタルを利用してあらかじめ鑑賞しておいてください。ただ鑑賞していないからといって授業がわからなくなるわけではありません。

【テキスト（教科書）】
教科書を使用しない

【参考書】
経済学の入門レベルのミクロ経済学のテキストが手元にあると便利でしょう。例えば：
アセモグル/レイブソン/リスト「ミクロ経済学」東洋経済新報社
クルーグマン「ミクロ経済学」東洋経済新報社
マンキュー「マンキュー経済学：ミクロ編」東洋経済新報社
など

【成績評価の方法と基準】
平常点50%・レポート課題50%
レポート課題「授業で扱ったもの以外で、映画やドラマや漫画や歌詞から経済学を見つけて解説せよ」

【学生の意見等からの気づき】
2015年も仙台にて経済学特講を開講しました。そこでの内容からいくつかの映画やドラマをアップデートしました。

【学生が準備すべき機器他】
「学習支援システム」のツールを使用する予定なのでスマホを持参することが望ましい。ただ、スマホを持っていなくても紙媒体の配布等で対応しますので、この授業のためにわざわざ購入する必要はありません。また、教室にパソコンを持参する必要もありません。

【Outline (in English)】
(Course outline)
Economics in movies and dramas
(Learning Objectives)
When you take this course, you can explain how economics is used in everyday life
(Learning activities outside of classroom)
Please watch in advance the movies and dramas we plan to take up using rental or subscription services, if possible.
(Grading Criteria /Policy)
50%for regular score, 50%for report assignment

HUG100TA（人文地理学 / Human geography 100）

人文地理学（前期週末スクーリング）

前畑　明美

カテゴリー：**前期週末**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
海の誕生とともに存在するともいわれる「島」は、一見すると水に閉ざされた小さな静的空間のように思われます。しかしながら、地球上の様々な生物や人間社会の諸活動の舞台という観点から島を捉えてみると、そこには海と陸の普遍的な関係性に由来するダイナミックな性質や人間社会とのコラボレーションによる多様な社会的ネットワークがみられます。本科目では、地図、海図、統計、映像、写真をはじめ諸資料をもとに、島々の一般的性質や多様な姿を理解していくことを目的としています。

【到達目標】
全12回の授業を通して、島に関する基礎知識、および「島嶼性」という島の特性について理解していくことを目指します。その上で、国内外でみられる島々の興味深い実態、諸現象について、その全体的状況はどうなのか、いかなる仕組み・構造のもとで発現しているのか、またどのような意味を有しているのかなど、総合的かつ論理的に考えて説明できるようになることを最終目標にしたいと思います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP3」「史学科：DP1, DP3」「地理学科：DP1」「経済学科：DP6, DP7」「商業学科：幅広い教養」に関連

【授業の進め方と方法】
講義形式を基本としますが、プリント教材等に沿いながら、出席者の個人的経験や見解を交えつつ授業を進めていきます。
・授業関連のプリントの配布は「学習支援システム」を通じて行う予定です。また試験のフィードバックは、試験後に時間を設けて行います。初回時に詳しく説明することといたします。
・履修や授業に関するご質問は、授業の前後、もしくは「学習支援システム」にてお伺いいたします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス，重要事項の説明	授業の概要説明，大学で学ぶ地理学と人文地理学
第2回	「島嶼性」と日本の島々（1）	人々の暮らしと島
第3回	「島嶼性」と日本の島々（2）	島の定義，「島嶼性」とは，雑誌『嶋』と現代日本の島嶼観
第4回	「島嶼性」と日本の島々（3）	島嶼ネットワークとその歴史的展開
第5回	「島嶼性」と世界の島々（1）	チリ・イースター島―社会衰退の道―
第6回	「島嶼性」と世界の島々（2）	アイルランド・アラン諸島―社会存続の道―
第7回	島々の自然と人間社会	島の誕生，島の気候・風・水・生態と人々の対応
第8回	島々の歴史（1）	バード・ラッシュと現代社会
第9回	島々の歴史（2）	沖縄の基地問題―島の視点から考える―
第10回	島々の歴史（3）	豊島産廃問題と瀬戸内国際芸術祭
第11回	島々の文化	戦後日本の図書館運動と島
第12回	スクーリング試験および解説	スクーリング試験および解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。
「島」について、日頃からキーワードとして留意し、ぜひ情報収集に努めてください。その際、図書館を活用してできるだけ複数の資料にあたっていただきたいと思います。

【テキスト（教科書）】
特になし。プリント教材を「学習支援システム」を通じて配布いたします。

【参考書】
地図帳をご用意いただくと、位置確認が容易となり役立つことと思います。
初回時をはじめ、授業内でも随時、参考文献を紹介いたしますが、ぜひ授業の開始前に以下の文献のいずれかと、「島」に関する一般書を1冊程度、通読いただきたいと思います。
・スティーヴン・A.ロイル、中俣均訳（2018）：『島の地理学：小さな島々の島嶼性』法政大学出版局　￥4,400＋税
・田辺悟（2015）：『島』法政大学出版局　￥3,200＋税
法政大学の図書館、もしくは最寄りの図書館をご活用ください。

【成績評価の方法と基準】
平常点（50％）・リポート（50％）
質問やコメントなど積極的な姿勢を評価いたします。

【学生の意見等からの気づき】
質問時間を設けて、ぜひ双方向的な学びをしていただける機会にしていきたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【その他の重要事項】
授業前に予め「学習支援システム」にて当日分のプリントをダウンロードし、印刷してお手元にご準備ください。

【Outline (in English)】
The islands that exist with the birth of the sea are like small quiet spaces closed by water. But when we look at islands in terms of the activities of various creatures and human societies on the Earth, we can see the dynamic nature derived from the universal relationship between the sea and land, and the diverse social networks created by the collaboration between islands and human society. The purpose of this course is to understand the general nature of the island and the various island phenomena based on a variety of materials such as maps, charts, statistics, videos, and photographs.
Before/after each class, students will be expected to spend four hours to understand the class content.
Your overall grade in the class will be decided based on the following:
Normal score: 50%Final exam: 50%

HSS200TB（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 200）

スポーツ特講（前期週末スクーリング）

秋本　成晴

カテゴリー：**前期週末**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
運動・スポーツ・身体活動を通して、生涯に渡って健康的な生活を営むために必要な知識の習得と生活習慣の形成を目指す。

【到達目標】
①自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
②豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
③様々なスポーツ参加の方法について学び、ライフステージに応じた運動習慣を自ら考えることができる力を身につける。
④運動・スポーツを通じて他者とのコミュニケーションをはかり、協調性やチームワークを通した問題解決能力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP1, DP2」「史学科：DP1」「地理学科：DP3」「経済学科：DP5」「商業学科：自由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

【授業の進め方と方法】
本授業は、講義を中心とした授業と、実技を中心とした演習形式の授業を組み合わせて実施する。各授業の最後に学生からフィードバックシートあるいは小レポートを書いてもらい、次の時限にて教員からフィードバックを行う。
各授業に関わる連絡事項については、授業前日までに学習支援システムを通して告知する。
なお、授業内容については、受講者の数や様子、理解度等を考慮し一部変更することがある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス（講義）	講義の概要、ねらい、進め方、到達目標などを説明する。
第2回	ウォーキング①（講義および実習）	ウォーキングについて、その理論と実践方法を学ぶ。
第3回	生活習慣と健康（講義）	健康とは何かを学び、自身の生活習慣を見直す。
第4回	卓球（基礎）（講義および実習）	卓球の基礎について学び、安全に配慮したゲームを行う。
第5回	卓球（応用）・サウンドテーブルテニス（講義および実習）	卓球のテクニックおよび試合の実施方法について学ぶとともに、視覚障害のある人に親しまれている卓球について学ぶ。
第6回	体づくりとトレーニング（講義および実習）	健康的な体づくりを目指す際に必要なトレーニングの基礎知識を習得する。
第7回	運動と栄養（講義）	健康的な生活を送るために必要な栄養学の基礎知識を習得する。
第8回	バドミントン（講義および実習）	バドミントンの基礎について学び、安全に配慮したゲームを行う。
第9回	ウォーキング②（講義および実習）	ウォーキングを行う際のコース設定について学び、実際にウォーキングを行う。
第10回	様々なスポーツ参加の方法とパラ（障害者）スポーツ（講義）	様々なスポーツ参加の可能性について、パラスポーツを基に考える。
第11回	ボッチャ（講義および実習）	多くの人が親しめるボッチャについて学び、実際にゲームを行う。
第12回	スクリーニング試験および解説	本授業に関する試験を実施し、その解説を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に使用しない。必要に応じて資料等を配布する。

【参考書】
必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】
１）授業中の活動に対する参画状況：８０％
２）課題およびレポート：２０％
上記配分により総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】
・実習に際しては、運動着の着用および室内運動靴が必要である。

【その他の重要事項】
・授業内容や授業の進め方については、第１回目の授業で説明するので、必ず出席すること。
・受講者数、教場の使用可能状況によって、授業計画の順序・内容等が変更になることがある。
・実習前後において、自身の体調及び傷害等気になる点があった場合は、必ず担当教員に申告し、対応の指示を受けること。

【Outline (in English)】
【Course outline】
The aim of this class is to acquire the knowledge and form the lifestyles necessary to lead a lifelong healthy life through exercise, sports, and physical activity.
【Learning Objectives】
(1) To acquire basic knowledge and develop attitudes that contribute to self-management in daily life.
(2) To be able to utilize sports activities as a means to establish a healthy life.
(3) To be able to learn and think about various ways to participate in sports according to life stages.
(4) To acquire skills of cooperation and teamwork with others through physical activities and sports.
【Learning activities outside of classroom】
The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
【Grading Criteria/Policy】
(1) Participation in class activities: 80%
(2) Assignments and reports: 20%

LAW200TB（法学 / law 200）

法律学特講（前期週末スクーリング）

大野　達司

カテゴリー：**前期週末**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
法哲学と法思想史の基本的な言葉をもとに、おおまかな流れを押さえることを目的とします。

【到達目標】
法哲学の基礎概念を、歴史的観点から理解する第一歩とします。今回はどちらかというと、西洋思想を中心に大きな流れを押さえます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP1,DP3,DP4」「日本文学科：DP1,DP2」「史学科：DP1」「地理学科：DP1,DP2,DP3」「経済学科：DP4,DP5」「商業学科：自由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

【授業の進め方と方法】
質問は授業後にも受けつけますが、リアクションペーパー（授業支援システム）でも質問可能とします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ノモス	①ノモス主権論 ②尾高朝雄の戦中と戦後 ③国体と政体 ④現象学 ⑤シュミットの大地のノモス ⑥具体的秩序 ⑦批判されたケルゼン的法規範と法体系 ⑧国際組織の認識 ⑨憲法の番人論争 ⑩ギリシアのノモスとローマのノモス
第2回	ノモスと法	①自然法論と法実証主義 ②「法」と「のり」 ③法と律令 ④刑法的法観念から私法的法観念へ ⑤遵法義務
第3回	法と権利	①権力 ②利益 ③意思説と利益説 ④権利の発展 ⑤権利の境界
第4回	権利と所有	①無所有と教会における所有の問題：所有と使用 ②原始教会と修道会 ③騎士修道会と托鉢修道会 ④清貧論争 ⑤ロックの社会契約論と労働投下説 ⑥ロックと聖書 ⑦ルソーと所有・文明 ⑧カントによる労働から先占への転換 ⑨ヘーゲルによる意志の外化と承認
第5回	所有と統治	①王権神授説 ②堕罪と支配権 ③統治契約と所有権
第6回	国体	①君主と体 ②有機体論 ③分類概念 ④日本の国体論
第7回	公と私と自治	①公と私の歴史 ②国家と社会 ③媒介項としての議会と民主主義
第8回	統治と正当性	①支配の三類型 ②合法性と正統性 ③実質的正統性と手続的正統性 ④媒介項としての説得と弁論
第9回	配慮	①自己への配慮・他人への配慮・共同体への配慮 ②Care, cure, cura ③ローマでの互酬性 ④慈善の展開 ⑤国家による「配慮」
第10回	配慮と正義	①現代正義論の特徴 ②配慮と正義 ③アリストテレス正義論とその継受 ④配分基準としての「相応しさ」 ⑤イスラムでの継受とイスラム的正義観念
第11回	正義と法	①法実証主義と自然法 ②「性法」 ③自然法論の再興
第12回	授業内試験	全体に関する試験です。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・復習時間は、各2時間とします。各日最後に、復習を兼ねて簡単な「クイズ」を発信します。翌週までに回答してください。

【テキスト（教科書）】
大野・森元・吉永『近代法思想史入門』法律文化社、2016年、2800円（半分ぐらい利用します。なお「法思想史」教科書とします。

【参考書】
今のところ特にありません。

【成績評価の方法と基準】
上記「クイズ」への回答を30％、期末試験を70％とします。

【学生の意見等からの気づき】
なし

【学生が準備すべき機器他】
「学習支援システム」を利用します。

【その他の重要事項】
なし

【Outline (in English)】
【Cource outline】This course introducesfundamental concepts of legal philosophy to students taking this course.
【Learning Objektives】The goals of the cource, students are with examples of them to understand framework of legal philosophy and its history.

【Learning activities outside of classroom】Before /after each classmeeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
【Grading Criteria/Policy】Finalgrade will be decided based on small tests (30%), term-end examination (79%).

ECN200TF（経済学 / Economics 200）

経済学特講（前期週末スクーリング）

畑　憲司

カテゴリー：**前期週末**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
学生は、企業分析のを実施するために必要な前提知識として、主に公知情報の情報収集方法や読み方の基礎を整理する。経営戦略を策定するために必要となるアプローチについて、経営学的知見と経済学的知見の接続論点について高度な理解を図る。総まとめとして、事業計画策定のアプローチを理解する。

【到達目標】
学生は、企業分析に必要な分析の諸相について理解することを目標とする。分析の領域は、マクロ経済を含む市場動向分析、業界構造分析、企業のポジショニング分析から構成される。各回の内容に関連する経済学的トピックスの紹介に相当程度の時間を投下する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP3,DP5」「日本文学科：DP1,DP2」「史学科：DP1」「地理学科：DP1,DP2,DP3」「経済学科：DP1」「商業学科：経済学」に関連

【授業の進め方と方法】
授業は講義形式と、学生によるディスカッションを併用して進行する。各回の授業内容について、理解度や疑問点を解消するためのアンケートを行う。授業内にて、小テストの配布・回収を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	企業分析の枠組み	・3C 分析など企業分析の枠組み ・企業の事業領域
第2回	企業が置かれている環境	・マクロ経済を含めた、最近の企業が置かれている競争環境 ・付加価値概念と GDP
第3回	最近の消費動向	・家計調査報告などを含めた最近の消費動向 ・統計調査とサンプリング
第4回	市場分析の方法	・実務的な市場分析の方法 ・MECE と推定
第5回	業界構造分析の枠組み	・5F分析を中心とする業界構造、分析の枠組み ・ポジショニングと RBV
第6回	業界の競争環境	・業界の寡占度の違いによる競争環境の違い ・独占的競争
第7回	新規参入と代替のメカニズム	・新規参入の脅威と新技術による代替の脅威 ・イノベーションのジレンマ
第8回	サプライチェーンと産業組織	・サプライチェーンの発展動向についての理解、価格交渉のメカニズム ・垂直統合戦略
第9回	企業戦略と事業戦略マーケティング戦略	・事業ポートフォリオと事業戦略の構成要素 ・規模の経済と範囲の経済 ・STP+4P分析 ・事業戦略と製品戦略
第10回	公知情報の活用方法	・有価証券報告書、企業HPの活用方法 ・経営者と投資家
第11回	フィールドワークの方法	・店舗や売り場を実際に見る際のポイント ・リアルとウェブ
第12回	事業戦略の策定 事業計画の策定	・11 回の授業のまとめ ・定量的事業計画の構成要素、事業戦略との整合性確保

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の復習時間は、各回4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特になし。

【参考書】
特になし。

【成績評価の方法と基準】
平常点： 20%
出席点： 40%
小テスト： 40%

【学生の意見等からの気づき】
平常点は、授業中の質問による授業運営への貢献で評価する。質の高い質問ができる発言者を優先し、登録学生にまんべんない発言機会を提供する位置づけとはしない。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【その他の重要事項】
特になし。

【Outline (in English)】
This course introduces general knowledge and procedure for company analysis in strategic context to students taking this course. The goals of this course is getting several approaceh for corporate analysis. After each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the following
Term-end examination: 40%、your attendancece, in class examination : 40%、in class contribution: 20%

MAN200TG（経営学 / Management 200）

経営学特講（前期週末スクーリング）

市川　佳功

カテゴリー：**前期週末**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
授業で配布する資料に基づき、講義形式で授業を進めます。この授業では、信託とは何かについて学習します。授業において信託の仕組みとその利用例を紹介し、信託の機能についての理解を深めることを目的とします。

【到達目標】
信託という用語をときどき耳にすることがあると思いますが、信託の利用方法や信託において自分はどのような立場になるのかを理解している人は多くないと思います。この講義では、信託の仕組みと実際の利用方法について説明できるようになることが到達目標です。この講義で得た知識に基づいて信託の新たな利用方法を発見するきっかけをつかんでください。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP3,DP5」「日本文学科：DP1,DP2」「史学科：DP1」「地理学科：DP1,DP2,DP3」「経済学科：DP2」「商業学科：経営学・商学、自由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

【授業の進め方と方法】
配布資料に基づく講義形式で授業を進めていきます。授業中にときどき質疑応答を盛り込んでいく予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	信託の仕組み	信託の本的な仕組みについて解説します。第2回目以降の講義を理解するのに必要な知識です。
第2回	信託の設定・信託財産	信託設定の仕方と何が信託財産になるのかについて説明します。
第3回	受託者の役割	信託関係者のうち最も重要な役割を担う受託者について説明します。
第4回	委託者・受益者の役割	信託のを委託する者と信託によって利益を得る者について説明します。
第5回	個人が利用する信託1	投資信託について説明します。
第6回	個人が利用する信託2	教育資金贈与信託。結婚子育支援信託について説明します。
第7回	個人が利用する信託3	相続と信託の関係について説明します。
第8回	企業が利用する信託	信託は個人だけでなく企業も利用しています。企業が活用する信託の一例を説明します。
第9回	公益目的の信託1	公益信託の意義及び公益信託の利用例について説明します。
第10回	公益目的の信託2	特定寄附信託の利用例について説明します。
第11回	公益目的の信託3	特定贈与信託の利用例について説明します。
第12回	総復習と試験	信託の核概念について復習した後、授業中に試験を実施します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
テキストの指定はありません。授業で配布する資料で学習を進めます。

【参考書】
新井誠『信託法 第４版』（2014年3月）有斐閣4,950円（税込）、道垣内弘人『信託法　第２版』（2022年7月）有斐閣4,070円（税込）が参考になりますが、これらは法学的な内容の書籍であり、講義内容とは必ずしも合致していません。また、これらの参考書を授業中に使用する予定はありません。

【成績評価の方法と基準】
授業最終回に実施する筆記試験のみ（評価割合100％）によって評価します。

【学生の意見等からの気づき】
事例を用いると学習することに興味をより深く持てるようなので、信託の事例を多用して講義を実施します。

【Outline (in English)】
Based on the materials distributed in the class, the class will proceed in a lecture format. In this lesson, we will learn about what a trust is. In this class, we will introduce the structure of trusts and examples of their use. The purpose is to deepen understanding of the functions of trusts.

HIS100TA（史学 / History 100）

西洋史（夏期スクーリング）【オンライン】

渡辺　知

カテゴリー：**夏期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**1群午前**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
近世以降の西洋は、新たな知識、制度―その弊害も含めて―を生みだし、世界史の動向を大きく規定してきました。本授業では、近世から現代にかけてのヨーロッパにおける国家形成と国際体制の展開をを学び、それが現在に与える影響を考えます。

【到達目標】
・近世から現代までの西洋史にかんする基礎知識を習得する。
・西洋世界内部の動向とその外部世界との関係の双方に目配りしつつ、歴史を複眼的に理解する姿勢を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP3」「史学科：DP1, DP3」「地理学科：DP1」「経済学科：DP6」「商業学科：幅広い教養」に関連

【授業の進め方と方法】
講義形式で行います。リアクションペーパーを積極的に活用したりして、受講生の主体的な参加を求めます。必要に応じて、リアクションペーパ等へのコメントを授業内で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の概要について説明する。
第2回	1主権国家の誕生	イギリス、フランスにおける主権国家の形成について説明する。
第3回	2　三十年戦争とウェストファリア体制の成立　1	三十年戦争の展開とその結果について説明する。
第4回	2　三十年戦争とウェストファリア体制の成立　2	三十年戦争の結果成立したウェストファリア体制の特徴とその問題点を説明する。
第5回	3　ウィーン体制	ウィーン体制の特徴について説明する。
第6回	4　国民国家の形成　1	ドイツを事例に国民国家の形成について説明する。
第7回	4　国民国家の形成　2	フランス、イギリス等を事例に国民国家の形成について説明する。
第8回	5　帝国主義の時代　1	帝国主義の時代の国際体制のについて説明する
第9回	5　帝国主義の時代　2	イギリスを事例とし社会帝国主義について説明する。
第10回	6　第一次世界大戦とヴェルサイユ体制　1	第一次世界大戦の展開とその性質について説明する。
第11回	6　第一次世界大戦とヴェルサイユ体制	第一次世界大戦後に成立したヴェルサイユ体制について説明する。
第12回	試験と解説	試験とその解説を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。授業で紹介する参考文献などを読み授業の理解を深めて下さい。

【テキスト（教科書）】
特に設けません。

【参考書】
授業中に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
授業の区切りにリアクションペーパー等を書いて頂き、この提出をもって平常点とします。これら平常点と最終回の試験の総合評価とします（平常点40％、学期末の試験60％）

【学生の意見等からの気づき】
オンラインでの授業は対面授業と違い受講生方々の表情が見えません。授業の前後に質問時間やリアクションペーパーを利用してできるだけ交流を図りたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムとZoomに接続できる環境と情報機器

【Outline (in English)】
< Course outline>
This course explores major themes of western history, particularly focusing on modern and contemporary periods.
< Learning objectives>
1) Students are able to acquire basic knowledge about modern and contemporary history of the western world. 2) Students are able to understand history of the western world in view of its interaction with non-western worlds.
< Learning activities outside of classroom>
Students have to spend at least two hours on preparation for and review of each class respectively.They are expected to read relevant books and learn by themselves.
< Grading policy>
Class participation and assignments: 20%Final examination: 80%

LAW100TA（法学 / law 100）

法学（夏期スクーリング）【オンライン】

村元　宏行

カテゴリー：**夏期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**1群午前**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
　この授業は、法学の基礎を学ぶものですが、主には、法律を知識として吸収していくことの重要性と、論理的思考力のトレーニングとしての法学学修という二つの側面から授業を行う予定です。

【到達目標】
法の種類や法の解釈について基礎的な説明ができるようになる。
民事法や刑事法の基本原則について基礎的な説明ができるようになる。
現実の社会問題に法的視点からアプローチできるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP3」「史学科：DP1, DP3」「地理学科：DP1」「経済学科：DP7」「商業学科：幅広い教養」に関連

【授業の進め方と方法】
　授業はレジュメに沿って講義形式で行います。ただし一方通行にならないためにも、毎回小レポート（リアクションペーパー）を提出してもらい、授業の初めにいくつかを取り上げ、全体に対してフィードバックを行うなど、授業に取りいれていきます。
　この授業は学習支援システムを活用するとともに、ZOOMによるオンラインで行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	受講にあたっての諸注意など法学を学修する意義について
第2回	法の種類について	制定法としての法律やレ政令等、不文法としての慣習や条理等の種類について
第3回	法の解釈について	法解釈について、強制力の有無や解釈の類型について
第4回	法に関わる職業について	法曹三者（裁判官、検察官、弁護士）と中心とする法律専門職について
第5回	民事法について－法体系と基本原則－	民法を中心とした民事法体系と私的自治の原則等について
第6回	刑事法について－法体系と基本原則－	刑法、刑事訴訟法を中心とした法体系と罪刑法定主義等について
第7回	社会問題と法①－教育と法－	校則や体罰について法的視点から考察する
第8回	社会問題と法②－貧困と法－	生活保護や子どもの貧困について法的視点から考察する
第9回	社会問題と法③－消費生活と法－	18 歳成年や消費者トラブルについて法的視点から考察する
第10回	社会生活と法④－労働と法－	過労死やブラック職場について法的視点から考察する
第11回	社会生活と法⑤－最近の法律問題から－	この時点でホットな法律問題を取り上げる予定
第12回	まとめと試験	授業のまとめと筆記試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
　テキストや関連文献による予習と復習のほか、授業で取り上げる事柄について新聞や専門誌で最新動向をつかんでおくことが求められます。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
『デイリー六法』（三省堂）や『ポケット六法』（有斐閣）等の小型六法。最新版が望ましい。

【参考書】
授業で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
期末試験（50％）
授業内小レポート（リアクションペーパー）（50％）

【学生の意見等からの気づき】
本年度からの担当につき、特にありません。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムと Zoom に接続できる環境と情報機器。

【Outline (in English)】
Course outline
The purpose of this lecture is to understand the basic principle that law.
Learning Objectives
The goals of this course are to understand the basic principle that law.
Learning activities outside of classroom
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Grading Criteria /Policies
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Term-end examination: 50%、Short reports : 50%

LANe100TA（英語 / English language education 100）

英語Ｓ（1）（夏期スクーリング）【オンライン】

平野井　ちえ子

カテゴリー：**夏期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**1単位**
期間：**1群午前**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
テキスト*Integrated Skills Through Movies*により、映画について書かれたエッセイを精読し、映画に出てくる表現が身につくよう練習します。

【到達目標】
1．楽しみながら英語を読む習慣を身につけます。
2．映画の内容について理解を深めます。
3．エッセイに出てくる語句や文法の知識を正確に身につけます。
4．映画に出てくる表現を身につけます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP3」「史学科：DP1, DP3」「地理学科：DP1」「経済学科：DP6, DP8」「商業学科：幅広い教養」に関連

【授業の進め方と方法】
1．映画の中で注目すべき英語表現を理解します。
2．単語や文法を確認しながら各課のエッセイを精読します。
3．映画の見どころを解説します。
4．エッセイ理解のための練習問題と、1で学んだ表現をより深く理解するための練習問題に取り組みます。
授業内で随時フィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション Chapter 1: Finding Mr. Right	授業の進め方をテキストに沿って詳しく説明します。 *Bridget Jones's Diary*に関するエッセイを精読し、映画について解説します。
第2回	Chapter 1: Finding Mr. Right Chapter 1の小テスト	*Bridget Jones's Diary*の中の英語表現を学びます。 学習支援システムの「テスト／アンケート」で小テストを実施します。
第3回	Chapter 2: Email: A Communication Revolution	*You've Got M@il*に関するエッセイを精読し、映画について解説します。
第4回	Chapter 2: Email: A Communication Revolution Chapter 2の課題作成・提出	*You've Got M@il*の中の英語表現を学びます。 学習支援システムの「課題」に課題テーマに即した英文ショートコメント（WORD文書）を提出します。
第5回	Chapter 3: Love and Courage	*Titanic*に関するエッセイを精読し、映画について解説します。
第6回	Chapter 3: Love and Courage Chapter 3の小テスト	*Titanic*の中の英語表現を学びます。 学習支援システムの「テスト／アンケート」で小テストを実施します。
第7回	Chapter 6: Over the Rainbow	*The Majestic*に関するエッセイを精読し、映画について解説します。
第8回	Chapter 6: Over the Rainbow Chapter 6の課題作成・提出	*The Majestic*の中の英語表現を学びます。 学習支援システムの「課題」に課題テーマに即した英文ショートコメント（WORD文書）を提出します。
第9回	Chapter 11: Hollywood Laughs at Hollywood	*America's Sweethearts*に関するエッセイを精読し、映画について解説します。
第10回	Chapter 11: Hollywood Laughs at Hollywood Chapter 11の小テスト	*America's Sweethearts*の中の英語表現を学びます。 学習支援システムの「テスト／アンケート」で小テストを実施します。
第11回	Chapter 12: Getting Rid of the Politicians	*Dave*に関するエッセイを精読し、映画について解説します。
第12回	Chapter 12: Getting Rid of the Politicians Chapter 12の小テスト	*Dave*の中の英語表現を学びます。 学習支援システムの「テスト／アンケート」で小テストを実施します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。テキストのエッセイ読解と各練習問題は、予習を前提として授業を進めます。その他に各映画を自主的に鑑賞することが望ましいです。

【テキスト（教科書）】
Integrated Skills Through Movies 映画英語ワークショップ (Asahi Press)

【参考書】
特に指定しません。

【成績評価の方法と基準】
平常点（50％）と各日の小テストまたは課題（50％）から総合的に評価します。合計4時限以上の欠席があった場合、単位の取得はできません。

【学生の意見等からの気づき】
本年度新規科目につきアンケートを実施していません。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムとZoomに接続できる環境と情報機器。Zoomでも動画共有を行うので、使用機器（PC利用のこと）とネットワークの安定性を事前に御確認ください。円滑な授業展開のため、Zoomでは顔出し参加と静逸な環境での参加をお願いしています。その他、教材・資料の配布や課題提出のため、学習支援システムも利用します。

【その他の重要事項】
各日の小テストまたは課題は、学習支援システム「テスト／アンケート」または「課題」を通じての提出となります。PCのキーボード操作だけでなく学習支援システムの基本操作になじんでおいてください。決して速度を争うほどの分量を入力するわけではありません。

【Outline (in English)】
You will be expected to read intensively essays in *Integrated Skills Through Movies* and to practice key phrases in movies. Before/after each class, you will be expected to spend two hours to learn the class materials. Grading will be decided based on active participation(50%) and small tests/assignments in the end of each day(50%).

LANd100TA（ドイツ語 / German language education 100）

独語Ｓ（夏期スクーリング）【オンライン】

三ツ石　祐子

カテゴリー：**夏期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**1単位**
期間：**1群午前**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業はドイツ語を初めて学習する学生のための授業です。ドイツ語文法の基礎の基礎を身につけることを目標とします。その際、ドイツ語やドイツ語圏の文化を断片的ではありますが紹介します。ドイツ語やドイツ語圏の文化に対する興味や理解を深めることによって、日本や他の文化圏に対する理解が深まることを期待します。

【到達目標】
この授業を履修することで以下のことが出来るようになります。
1）発音ルールを覚え、初見の単語や文章も発音できる。
2）挨拶ができる。
3）基本的な文法事項を習得する。
4）簡単な文（1週間の予定、1週間の出来事など）が理解できる。
5）数字を使った表現（時間や値段を確認するなど）ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP3」「史学科：DP1, DP3」「地理学科：DP1」「経済学科：DP6, DP8」「商業学科：幅広い教養」に関連

【授業の進め方と方法】
・アルファベットやウォーミングアップ的な発音練習の後、一緒に教科書を読み進めます。
・内容の理解を深めるためにペア、あるいはグループワークを行います。
・学習した内容を応用した会話練習なども行い、実際に自分で声に出して発音します。
・授業内で行われたアウトプットに対しては授業の場でコメントします。
・提出物などのフィードバックは適宜全体と各自に向けて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	アルファベートと挨拶	綴りと発音の関係
第2回	動詞	人称代名詞と基本的な人称変化
第3回	名詞と冠詞	辞書の見方（名詞）、不定冠詞と名詞の変化
第4回	冠詞類	定冠詞類と所有冠詞の格変化
第5回	形容詞	形容詞の格変化と比較変化
第6回	疑問代名詞と人称代名詞	疑問代名詞と人称代名詞の格変化
第7回	前置詞	前置詞の格支配
第8回	話法の助動詞	枠構造（1）
第9回	分離動詞、副文	枠構造（2）
第10回	動詞の三基本形と過去	過去と現在完了の人称変化
第11回	再帰代名詞と再帰動詞	再帰動詞の人称変化
第12回	まとめ	第1回～11回の振り返り、試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
予習は特に必要ありませんが、毎回の授業で学習した内容の復習は必須です。各回で学習したことを定着させるのには個人差があると思いますが、平均的に毎回1時間程度の復習を標準とします。また授業進度によっては、標準復習時間とは別に、練習問題や簡単な作文の宿題を課す場合もあります。

【テキスト（教科書）】
橋本政義著『ひとりで学べるドイツ語』三修社、2020年第1刷、￥1,800＋税、ISBN978-4-384-05958-8 C1084

【参考書】
『はじめてのドイツ語』　福本義徳著、　講談社現代新書1073、1991年初版、　￥800＋税、　ISBN 978-4-06-149073-4
『知ってほしい国　ドイツ』　新野守広・飯田道子・梅田紅子編著、　高文研　2017年初版　￥1700 ＋税
『ドイツ語のしくみ＜新版＞』　清野智昭著　白水社　2014年　￥1300 ＋税

【成績評価の方法と基準】
平常点（授業への参加態度（ペアワーク、グループワーク等含む）、宿題、発言など）50 %＋試験50 %とし、60 %以上 (各 30 %以上) で合格となります。

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムとZoomに接続できる環境と情報機器（ご使用のPC にカメラや
マイクがついていない場合は、外付けのものをご準備ください。ヘッドセッは、受講する際の環境に合わせ、各自で必要性を判断し、ご準備ください）。
辞書はできるだけ用意してください（電子辞書でも構いません）。

【その他の重要事項】
「授業計画」は、授業の進度や内容の一部など、状況により変更する可能性があります。
「参考書」は、もし興味があったらお読みください。必須ではありません。
本授業はZoomでのリアルタイム授業になりますが、実際に発音していただいたり、ペアワークやグループワークを行っていただく場合もありますので、受講する際の環境配慮をお願いします。
課題などはワードファイルをメールに添付する形で提出していただきます。PCのメールアドレスが正常に機能しているかご確認ください。

【Outline (in English)】
This course is designed for students who are learning German for the first time. The aim is to provide students with a basic grounding in German grammar. In doing so, students will be introduced to the German language and the culture of German-speaking countries, albeit in fragments. By deepening your interest in and understanding of the German language and German-speaking cultures, we hope that you will deepen your understanding of Japan and other cultural areas.
【Learning Objectives】
By taking this class, you will be able to.
(1) Learn pronunciation rules and be able to pronounce words and sentences that are new to you.
(2) Be able to greet people.
(3) Acquire basic grammatical matters.
(4) Understand simple sentences (e.g. weekly schedule, what happened during the week).
(5) Be able to use numerical expressions (e.g. checking time and prices).
【Learning activities outside of classroom】
No specific preparation is required, but review of what is learnt in each lesson is essential. Although it may take different individuals to consolidate what they have learnt in each session, on average, about one hour of review is standard for each session. Depending on the progress of the class, students may also be required to do some homework in addition to the standard review time, such as exercises or simple writing assignments.

【Grading Criteria/Policy】
The grade is 50%of normal marks (e.g. class participation (including pair work, group work, etc.), homework, comments, etc.) plus 50%for the examination, with a minimum of 60% (minimum of 30%each).

POL200TB（政治学 / Politics 200）

政治学（夏期スクーリング）【オンライン】

面　一也

カテゴリー：**夏期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**1群午前**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
政治学の基本的概念と政治制度に関する講義を行います。

【到達目標】
政治学の基本概念と政治制度に関する基本的知識を習得することと、政治について考え・判断できる能力の獲得を目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
(1) 授業の実施形態:講義形式で行います。
(2) 資料や課題の配信、課題の回収方法:学習支援システムを使用します。資料は必要に応じて配布します。また、学習内容の区切りになる箇所で、リアクション・ペーパーの提出を課す予定です(学習を通じて考えたことを、200 400 字程度で。計2回を予定しています)。
(4) 翌日の授業時に、提出されたリアクション・ペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	講義の概要について説明します。
第2回	民主政治の起源 (教科書第1章)	直接民主政治から間接民主政治へ
第3回	民主政治の変容 (第2章)	ナショナリズム、ポピュリズム、全体主義の経験から
第4回	福祉と政治 (第3章)	社会民主主義と新自由主義
第5回	民主政治のさまざまな仕組み (第4章) 選挙 (第5章)	議院内閣制と大統領制 (第4章) 組織票、無党派、無関心 (第5章)
第6回	議会と政党 (第6章)	国会無能論、多数者の専制
第7回	政策過程と官僚・利益集団 (第7章)	縦割り行政、官僚性の肥大化、族議員
第8回	世論とマスメディア (第8章)	マスメディアの役割、SNSの台頭
第9回	地方自治 (第9章)	地方分権改革の問題
第10回	グローバル化 (第10章)	グローバル・イシューの噴出
第11回	民主政治の現在 (第11章)	フェミニズム、多文化主義、熟議民主主義
第12回	期末試験	まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
川出良枝、谷口将紀編著『政治学 第2版』東京大学出版会、2022年、2,420円。

【参考書】
授業内で適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】
筆記試験 (50%)、リアクション・ペーパー (50%)。

【学生の意見等からの気づき】
発展学習に関わる文献紹介などを、いっそう充実させたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムと Zoom に接続できる環境と情報機器

【Outline (in English)】
In this course, we will learn the basic concepts in political science and the political institutions.
Learning Objectives:
1. The students will acquire the basic concepts of political science and the basic knowledge of political institutions.
2. The students will grasp the problems of contemporary politics through this course.
3. The students will acquire the ability to consider critically the problems of politics.
Learning activities outside of classroom:
120 minutes for preparation and review.
Grading Criteria /Policy:
Written exam (50%) and reaction paper (50%).

LIT100TC（文学 / Literature 100）

日本文芸研究特講・中世（夏期スクーリング）【オンライン】

中司　由起子

カテゴリー：**夏期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**1群午前**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では、中世に成立した能を扱います。本年度は『源氏物語』を素材の一つとする能〈葵上〉をとりあげ、作品を読んで鑑賞し、主題やねらいを考えていきます。能の歴史にも目を配りつつ、能の魅力を味わうために必要な知識を深めます。

【到達目標】
①能の作品の主題・趣向を考え、それを文章にまとめることができる。
②能に関する基本的知識を理解することができる。
③現代に生きる古典芸能に関心をもつことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
オンラインの講義形式でおこないます。
毎回の講義終了時に、「学習支援システム」にてリアクションペーパーの提出を求めます。
授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックをおこないます。
オフィス・アワーを講義後にZoomにておこないます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	能の梗概	能の基本的事項をおさえる。
第2回	能の歴史	能の歴史と流儀、役籍等について知る。
第3回	能の素材	『源氏物語』の内容をおさえる。
第4回	〈葵上〉を読む・観る1	1段を解釈する。
第5回	〈葵上〉を読む・観る2	2・3 段を解釈する。
第6回	〈葵上〉を読む・観る3	4段を解釈する。
第7回	〈葵上〉を読む・観る4	5段を解釈する。
第8回	〈葵上〉を読む・観る5	6段を解釈する。
第9回	世阿弥伝書	世阿弥の伝書に見える〈葵上〉と犬王
第10回	〈葵上〉のまとめ	〈葵上〉の主題と趣向をまとめる。
第11回	能のひろがり	現代における能の問題点を考える。
第12回	全体のまとめ・試験	これまでのまとめと試験をおこなう。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。
【準備】参考文献を読む。配布資料を読み、自分なりの問題点をあげる（2時間）
【復習】配布資料を読み、講義内容を振り返り、問題点を確認する（2時間）。
可能であれば能楽堂などで催される実際の舞台にできるだけ足を運んでください。難しい場合は、インターネット上の能の動画を視聴してください。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しません。
毎回の講義で資料を配布します。
資料は、「学習支援システム」にアップします。各自でダウンロードし、必ず手許で見られる状態にしておいてください。

【参考書】
小林責ほか『能楽大事典』（筑摩書房）
西野春雄・羽田昶編『新版　能・狂言事典』（平凡社）
小山弘志ほか校注『謡曲集』①②　（小学館、新編日本古典文学全集）
伊藤正義校注『謡曲集』上中下（新潮社、新潮日本古典集成）
そのほか講義内で指示します。

【成績評価の方法と基準】
平常点50%（毎回のリアクションペーパーの提出とその内容により判断）
期末試験50%

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムとZoomに接続できる環境と情報機器。

【その他の重要事項】
特になし。

【Outline (in English)】
In this lecture, we will deal with Noh plays that were established in the Middle Ages. In this year's course, we will focus on the Shura Noh play "Aoinoue" , reading and appreciating the play and considering its themes and aims. We will also look at the history of Noh, and deepen our knowledge of what it takes to appreciate the appeal of Noh.

HIS200TD（史学 / History 200）

史学概論（夏期スクーリング）【オンライン】

秋山　千恵

カテゴリー：**夏期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**1群午前**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
歴史学を学ぶ際の基本的な知識を整理し、世界史の理解をめぐる理論と分析方法がどのように構築されてきたのか、その歴史を検討しつつ、現代の歴史学が直面する諸問題についての理解を深めることを目的とします。

【到達目標】
戦後の日本および世界における歴史学の歴史をふり返りながら、現代における歴史学について考えるための基本的知識を獲得することを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「史学科：DP2,DP3」「地理学科：DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
今年度のスクーリングでは、戦後の日本および世界における歴史学の歴史をふり返りながら、近年の歴史研究の動向・世界史認識の問題点を整理します。
講義の進行状況により講義内容を若干変更する可能性があります。授業はオンラインで行いますので、学習支援システムの「お知らせ」でZoomのURLを提示します。また、授業前にレジュメを学習支援システムに提示します。質疑応答は学習支援システムの「授業内掲示板」を利用します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	戦後歴史学 1945年から1975年 前半まで	日本における戦後歴史学の出発点について 「社会構成体史」
第2回	戦後歴史学 1945年から1975年 前半まで	「比較経済史」
第3回	戦後歴史学 1945年から1975年 前半まで	戦後歴史学への批判
第4回	現代歴史学へ 1970年代後半から 1990年代まで	アナール学派と日本の「社会史」
第5回	現代歴史学へ 1970年代後半から 1990年代まで	フェミニズムと女性史（1）
第6回	現代の歴史学 1990年代以降	フェミニズムと女性史（2）
第7回	現代の歴史学 1990年代以降	ジェンダーの歴史学（1）
第8回	現代の歴史学 1990年代以降	ジェンダーの歴史学（2）
第9回	現代の歴史学 1990年代以降	「国民の社会史」
第10回	現代の歴史学 1990年代以降	カルチュラル・スタディーズ ポストコロニアリズム
第11回	現代の歴史学 1990年代以降	現代歴史学の諸論点
第12回	試験・まとめと解説	戦後日本の歴史学の歩みについて

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
学習支援システムに毎回のレジュメを提示します。事前にダウンロード・印刷してください。授業後にレジュメをみながら復習してください（約4時間）。

【テキスト（教科書）】
特定のテキストは使用しません。

【参考書】
テーマごとの参考文献はレジュメにて紹介します。

【成績評価の方法と基準】
第12回の授業時間に行う論述試験（100％）で評価します。試験では、授業内容の把握と論述の論理的展開を重視します。授業時間内に学習支援システムの「課題」に答案を提出してください。

【学生の意見等からの気づき】
学習支援システムを大いに利用します。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムを通して、ZoomのURLを提示します。資料の配布、課題提出、質疑応答も学習支援システムを利用します。学習支援システムの「お知らせ」を見てください。

【その他の重要事項】
授業内容は2018年度の夏期スクーリングと重なります。また2021年度および2022年度の夏期スクーリングの内容とも一部重なります。

【Outline (in English)】
This course introduces the foundation of the science of history to students taking this course.

HIS300TD（史学 / History 300）

史学演習（日本）（夏期スクーリング）【オンライン】

大塚　紀弘

カテゴリー：**夏期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**1群午前**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
鎌倉幕府の歴史書である『吾妻鏡』を講読する。今年度は、文治４年（１１８８）６月１４日条から講読を始める予定である。担当者の読解・考察についての報告を基に全員で議論し、中世の日本漢文を読解する基礎的な力を養成することを目的とする。

【到達目標】
日本漢文で書かれた中世の史料を正しく訓読した上で、語句を調べ、内容を正確に理解し、現代語訳することができる。所定の事項を満たしたレジュメを作成し、発表することができる。関連史料や先行研究を収集・読解して内容を整理し、自分なりの論点を提示することができる。鎌倉幕府や朝廷、鎌倉や京都の都市社会を中心に、日本中世史に関する事柄について、自身の見解を提示あるいは発言することができる。所定の条件を満たしたレポートを作成し、第１２回の授業終了時間までに提出することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
第１回、第２回、第１２回は講義形式、第３回～第１１回は演習形式で進める予定である。担当者が「学習支援システム」を利用して提出したレジュメに基づいて発表した後、その内容に基づいて、司会者の進行のもと、原則として全員が発言し議論する。
課題等のフィードバックは授業中に行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	『吾妻鏡』とは（１）	履修のガイダンス
第2回	『吾妻鏡』とは（２）	史料の性格と講読の進め方の解説
第3回	『吾妻鏡』講読（１）	読解の報告と議論
第4回	『吾妻鏡』講読（２）	読解の報告と議論
第5回	『吾妻鏡』講読（３）	読解の報告と議論
第6回	『吾妻鏡』講読（４）	読解の報告と議論
第7回	『吾妻鏡』講読（５）	読解の報告と議論
第8回	『吾妻鏡』講読（６）	読解の報告と議論
第9回	『吾妻鏡』講読（７）	読解の報告と議論
第10回	『吾妻鏡』講読（８）	読解の報告と議論
第11回	『吾妻鏡』講読（９）	読解の報告と議論
第12回	講読内容の総括	レポートの提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
「学習支援システム」の「教材」から配布資料をダウンロードする。履修者全員が事前に講読する部分の訓読文・現代語訳文を作成する。担当者は担当部分を読解し、関係する論文や史料を収集・読解・整理し、発表レジュメを用意し、「学習支援システム」の「掲示板」を通じて全員に配布する。
第１０回までに講読した部分の訓読文・現代語訳をレポートとしてまとめ、第１２回の授業終了時間までに、「学習支援システム」の「課題」から提出する。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
新訂増補国史大系『吾妻鏡』（吉川弘文館）
講読する予定の部分（文治４年６月１４日条から８月３０日条）を用意しておくこと。

【参考書】
五味文彦『増補　吾妻鏡の方法』（吉川弘文館、１９９０年）
西田友広編『吾妻鏡 ビギナーズ・クラシックス　日本の古典』（ＫＡＤＯＫＡＷＡ、２０２１年）
その他は授業時に指示する。

【成績評価の方法と基準】
平常点２４％、発表点４０％、レポート点３６％の合計で評価する予定である。正当な理由なく発表やレポート提出を怠った場合はＤ評価とする。５回以上欠席した場合は成績評価の対象外となる。

【学生の意見等からの気づき】
議論が活発になるように努める。

【学生が準備すべき機器他】
パソコンなどの機器を準備する。「Zoom」を利用してオンライン授業に参加し、「学習支援システム」を利用して配布資料をダウンロードし、レジュメやレポートを提出することが求められる。

【Outline (in English)】
The aim of this course is to help students read the medieval Chinese texts. The goals of this course are to train the ability to understand the contents deeply. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the following. Short reports : 36%, in class contribution: 64%.

ECN200TF（経済学 / Economics 200）

経済学特講（夏期スクーリング）【オンライン】

馬　欣欣

カテゴリー：**夏期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**1群午前**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義ではまずマクロ経済学の視点から中国経済成長の軌跡、計画経済から社会主義市場経済への体制移行のパターン、そして高度成長した現代中国経済の実態及び問題点を紹介する。次に労働者・家計、企業、産業などの具体的な課題について、さまざまなデータ（たとえば、中国政府公表の統計データ、実態調査データ）を活用し、国有企業改革、企業生産とイノベーション、産業集積と産業構造転換、格差問題(例えば、都市と農村間の所得格差と社会保障格差)などについて考察し、ミクロレベルで中国経済の実態と問題点を検討する。中国経済成長の要因を様々な側面から、理解してもらう。また先進国と比較し、中国経済の位置づけおよび中国経済成長の特徴を明確にする。

【到達目標】
中国経済に関しては、マクロおよびミクロレベルの視点から、経済成長の実態および問題点を把握したうえで、自らが経済学の諸理論やモデルを適用して、中国政府統計データおよび様々な調査データを活用し、中国経済成長の要因および問題点を説明できる能力を身につけることを目標とする。
The goal is to comprehend the situations and issues in the Chinese economy from a macroeconomic and microeconomics perspective and to develop the academic capability to elucidate the features of the Chinese economy using economic theories and data from the Chinese government's statistical sources, as well as various academic surveys.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「経済学科：DP1」「商業学科：経済学」に関連

【授業の進め方と方法】
パワーポイント資料にもとづいて講義形式で行う。リアルタイムで実施。課題（レポート等）に対するフィードバックを行います。具体的には、授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行い、また「学習支援システム」（Hoppii）を通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	世界経済からみた中国経済、歴史的視点からみた経済の成長	世界経済の現状を紹介し、中国経済の位置づけを理解する。また、科学技術発展史からみた経済発展の謎（ニーダム仮説）とマディソンの長期GDP 推計データからみた経済成長の軌跡を理解する。
第2回	社会主義時代の経済および経済改革	旧ソ連計画経済モデルと中国社会主義モデルの比較、国営企業と農村人民公社の実態と問題点について理解する。また、社会主義市場経済の概念、２つの移行パターン、体制移行における政府の役割について理解する。
第3回	人口変動と労働力	経済発展と人口転換の国際比較、人口ボーナスと経済成長、一人っ子政策の背景と問題点について理解する。また、都市労働市場の失業、農村過剰労働力、ルイスの二重構造モデルと経済転換点にについて理解する。
第4回	国家資本主義と開発独裁モデル、対外貿易と外需依存型成長からの転換	国家資本主義、開発独裁モデルについて理解する。また、輸出主導型経済成長、外資の役割、外資導入の国際比較について理解する。
第5回	経済成長と格差問題	農村部と都市部の格差、東部・中部と西部の格差の実態および形成要因について理解する。また、所得格差、貧困の実態、貧困削減政策およびその効果について理解する。
第6回	財政政策と経済成長、地域振興政策とその影響	地域開発・振興政策実施の背景、政策変遷、およびその効果について理解する。また、地域開発・振興政策実施の背景、政策変遷、およびその効果について理解する。
第7回	国有企業改革	計画経済期の国営企業の特徴、国有企業の改革とその問題点について理解する。また、国有企業の内部統治と企業業績、国有企業改革の結果とその問題点について理解する。
第8回	世界の工場と産業構造の転換	対中直接投資の原因と構造変化、FDI と中国経済発展について理解する。また、産業政策の改革、産業構造の転換と「中国製造2025」、深センの産業発展を紹介し、産業構造の転換の原因について理解する。
第9回	農村改革	農村の土地改革、「家庭生産請負制度」、土地流動化について理解する。農村貧困実態と地域間の差異、農村貧困の原因、および農村貧困対策について理解する。
第10回	出稼ぎ就業と農民工、経済発展と教育	経済発展と出稼ぎ就業、中国経済の謎―農民工不足現象、と農民工の就業と生活の実態について理解する。また、教育制度と改革、高等教育拡大政策、大学生就職難問題の原因について理解する。
第11回	金融市場および住宅市場の改革	金融市場改革の歴史、、株式市場と国有企業、国有銀行の改革について理解する。また、土地政策と住宅政策の変遷、住宅制度と住宅金融制度の改革、住宅と不動産市場の実態と問題点について理解する。
第12回	社会保障政策と労働雇用政策の改革および期末テスト	人口高齢化と社会保障制度の改革、都市部と農村部の社会保障の格差について理解する。また、計画経済期の雇用・賃金政策の特徴、市場経済期の雇用・賃金政策の変遷、賃金格差の実態について理解する。期末テストを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
中国経済に関連する他の科目（例えば、開発経済学、マクロ経済学、経済政策論など）を履修していない受講生は、それらの科目に関する教科書あるいは概説書を事前に読んでおくこと。授業で使用する資料を事前に学習支援システムを通じてダウンロードし、各回の授業の流れを理解しておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各４時間を標準とする。
Students who have not taken other courses related to the Chinese economy (e.g., development economics, macroeconomics, economic policy, etc.) should read the textbooks or introductions on those courses in advance. Download the learning materials in advance through the learning support system (Hoppii) and understand the content of each lesson. The standard time for preparation and review for each lesson is 4 hours each.

【テキスト（教科書）】
特に指定しないが、毎回パワーポイントで作成した資料を、学習支援システムを通じてダウンロードしておくこと。

【参考書】
1.南亮進・牧野文夫編著(2016)『中国経済入門　第4版』日本評論社。
2.加藤弘之(2016)『中国経済学入門』名古屋大学出版会。
3.梶谷懐・藤井大輔編著（2018）『現代中国経済論』ミネルヴァ書房。
4.中兼和津次編著（2013）『中国経済はどう変わったか―改革開放以後の経済制度と政策を評価する』国際書院。
5.加藤弘之・渡邉真理子・大橋英夫（2013）『21世紀の中国経済篇―国家資本主義の光と影』朝日新聞出版。

【成績評価の方法と基準】
１．平常点および宿題（70％）
２．期末試験（30％）
両者の組み合わせ：100％
1. Regular performance and homework (70%)
2. Final examination (30%)
Combinations of both: 100%

【学生の意見等からの気づき】
パワーポイントの作成については工夫をしたい。また、適宜の質疑応答等、双方向的な講義の進行に努めたい。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムとZoomに接続できる環境と情報機器

【その他の重要事項】
特になし。

【Outline (in English)】
The lecture introduces the trajectory of China’s economic growth from historical and macroeconomic perspectives, the pattern of the transition from a planned economy to a socialist market economy, and the facts and problems of the modern Chinese economy. introduces the determinants of the economic development in China from a microeconomic perspective, using many kinds of data (i.e., government official statistical data, academic survey data etc.). The topics’ targets focus on individuals, households, firms, and industry sectors. We also discuss some special issues on state-owned enterprise reform, enterprise innovation, industrial structural transformation, inequality issues such as income and social security inequality between rural and urban residents and understand the facts, issues and mechanisms in Chinese economy from a microeconomic perspective.We will explore the factors behind China’s economic growth from multiple perspectives and institutional transitions comparing with the developed countries.
The goal is to comprehend the situations and issues in the Chinese economy from a macroeconomic and microeconomics perspective and to develop the academic capability to elucidate the features of the Chinese economy using economic theories and data from the Chinese government’s statistical sources, as well as various academic surveys.
Grading criteria
1. Regular performance and homework (70%)
2. Final examination (30%)
Combinations of both: 100%

MAN100TG（経営学 / Management 100）

簿記Ⅰ（夏期スクーリング）【オンライン】

神谷　健司

カテゴリー：**夏期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**1群午前**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
　この授業では、ビジネスの言語と言われている「簿記」の基本的事項を学びます。簿記のレベルとしては、日商簿記検定3級の範囲のうちの基礎的な部分を扱います。簿記の学習は、将来、会計の分野を学習するときの基礎となるもので、経済学部（特に商業学科）の学生は早い段階でマスターすべき内容であると思います。在学中に会計専門科目を履修しようとする学生はもちろん、それ以外の学生にとってもこの科目は重要な科目の１つです。簿記の3級の試験を目指して学習することも1つのやり方だと思います。

【到達目標】
　この授業の内容を理解することによって、日商簿記検定の3級の出題範囲の基本的内容（全範囲の7割程度位迄）が理解できるようになります。到達目標は授業で講義した内容の重要箇所が理解でき、その範囲の問題が解けるようになることです。またこの科目の単位を取った後に通信学習で簿記Ⅱを履修する学生も多いと思うので、接続がうまくいくように講義を進めていきたい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「経済学科：DP2,DP3」「商業学科：会計学・ファイナンス」に関連

【授業の進め方と方法】
　授業はZoomによるオンラインで行います。まずテキストに従って説明を行い、次に例題等の問題を解いて受講生の皆さんの理解を確認します。毎回の授業終了後、復習問題を解いてもらい、学習支援システムを用いて提出してもらいます。また翌日までに、各自、復習を十分に行っておくことが必要です。1日200分授業ですから、毎日2，3時間程度の復習が必要になります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクションと簿記の意義と仕組み	授業の進め方、簿記の意義、会計学を学ぶ意義、会計に関する国家試験その資格案内、会計情報が読めるメリット 簿記の意義、簿記の基礎、貸借対照表、損益計算書、貸借対照表と損益計算書の関係
第2回	仕訳と転記	勘定、取引の意義と種類、取引8要素と結合関係、仕訳と転記
第3回	仕訳帳と元帳	帳簿の種類、仕訳帳から元帳への転記
第4回	決算	決算の意義と手続、試算表の作成、帳簿の締切りと財務諸表の作成、決算手続と精算表
第5回	現金と預金	現金、現金過不足の会計処理、当座預金と当座借越、小口現金
第6回	第5回までの復習	第1回から第5回までの重要箇所の確認
第7回	繰越商品・仕入・売上	3分法のあらまし、諸掛と返品、仕入帳と売上帳、商品有高帳
第8回	売掛金と買掛金 その他債権債務	売掛金と買掛金の処理、クレジット売掛金の処理、その他債権債務の処理
第9回	貸倒損失と貸倒引当金	貸倒損失、および貸倒引当金の処理
第10回	有形固定資産	有形固定資産の取得、減価償却の考え方、会計処理
第11回	決算の手続の理解と重要仕訳の確認他	講義で話してきたことで補足追加説明の必要な部分の解説。
第12回	総まとめと、テキストの中の重要問題の確認 最終的な試験	総復習と最終的な試験を実施する。試験は60分程度を予定。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
　予習としては、その回の授業で何を学ぶかをあらかじめ確認しておき、講義を聞いた後は関連するワークブックの問題を解くことが必要です。3級レベルでは
それだけの繰り返しで十分マスターできます。
毎日2，3時間程度の復習が必要になります。

【テキスト（教科書）】
渡辺裕亘、片山覚、北村敬子編『検定簿記講義3級（最新版）』中央経済社

【参考書】
渡辺裕亘、片山覚、北村敬子編『検定簿記ワークブック3級（最新版）』中央経済社

【成績評価の方法と基準】
　毎回の課題提出（50点）と定期試験（50点）の合計で最終的な評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】
　新規開講のため特になし。

【学生が準備すべき機器他】
　オンライン授業のためパソコンを準備することが必要です。

【その他の重要事項】
　この科目は、経済学部の学生にとっての基本的な科目の1つであり、将来会計専門科目を履修する時に必要な基礎を提供するものです。

【Outline (in English)】
　Bookkeeping is the process of recording daily transactions.The objective of this class is to understand fundamental bookkeeping technique for students who are going to study accounnting and/or corporate finance.　Grading will be decided based on mid-term examination(50%),and term-end examination(50%).

PRI200TG（情報学基礎 / Principles of informatics 200）

情報学入門（1）（データ演習）（夏期スクーリング）

児玉　靖司

カテゴリー：**夏期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**1群午前**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
表計算ソフトウェア Excel のマクロ言語としての Visual Basic Applications (以下、VBAという）について学ぶ。最初に、コンピュータの基礎として、ネットワークやWordによる文書作成を行う。その後、 Excel について簡単に触れ、マクロ言語の意義を解説し、VBA の文法から応用問題について解説する。

【到達目標】
コンピュータの基礎を理解し、表計算ソフトウェア Excel について理解してマクロ言語を使いこなして応用となる処理を記述できることが目標である。問題解決のためにモデル化し適宜プログラミングできることが望ましい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「法律学科： DP5」「日本文学科：DP1,DP4」「史学科：DP1」「地理学科：DP2,DP3」「商業学科：情報・統計学」に関連

【授業の進め方と方法】
コンピュータ上で様々な処理を実行することができる表計算ソフトウェア Excel 全般について解説し、そのマクロ言語としてのVBA を解説する。プログラミング言語として細かな命令から比較的大きなプログラミングまで行なうことができるようにする。最初に、コンピュータの基礎として、ネットワークに関する話題、ワードによる簡単な文書作成を行い、変数と型から、式、文について説明し、分岐文、繰り返し文を説明する。後半には、ユーザフォームを使った簡単なアプリケーション、アルゴリズムについて説明する。
毎回、Classroom から Google フォームにて授業アンケートをとり、次回の授業の最初にフィードバックする。さらに、質問は、Classroom や、チャットにて受け付ける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	本講義の導入を行う。
第2回	コンピュータの仕組み	簡単にコンピュータの仕組みとネットワークについて学ぶ。
第3回	Word による文書作成	Word による簡単な文書作成について学ぶ。
第4回	表計算の基礎	Excel の入門について学ぶ。
第5回	表計算の応用	Excel の応用について学ぶ。
第6回	VBAの起動	Excel のマクロとして備わっている Visual Basic Applications の簡単な使い方について学ぶ。
第7回	変数と型	変数と型について学ぶ。
第8回	定数と演算子	定数と演算子について学ぶ。
第9回	分岐	分岐について学ぶ。
第10回	繰り返し	繰り返しについて学ぶ。
第11回	構造化プログラムラミング	構造化プログラミングの応用について学ぶ。
第12回	レポート課題	簡単な試験としてレポート課題を課す。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
プログラミングに関する実習なので予習、復習をすることが望ましい。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
Google Classroom 上に講義資料（配布資料のみ）を提示する。

【参考書】
特に専門性の高い内容については、適宜、講義の中で指示する。

【成績評価の方法と基準】
平常点（50%）、提出されたレポートと最終試験（50%）により総合的に判断する。

【学生の意見等からの気づき】
プログラミングの初学者でも理解できるように工夫する。

【学生が準備すべき機器他】
コンピュータ、講義資料を多用し詳しく解説する。Classroom 上で情報をやり取りする。

【その他の重要事項】
問題解決のための情報活用能力および簡単なプログラミング能力を養う。

【関連科目】
情報学に関する基礎科目

【Outline (in English)】
Learning about Visual Basic for Applications (VBA) as a macro language for spreadsheet software called Excel. First, as a basis for a computer, documents are created using a network or Word. We will explain the significance of the macro language and explain applications from the VBA grammar.

PRI200TF（情報学基礎 / Principles of informatics 200）

コンピュータ入門（1）（データ演習）（夏期スクーリング）

児玉　靖司

カテゴリー：**夏期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**1群午前**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
表計算ソフトウェア Excel のマクロ言語としての Visual Basic Applications (以下、VBAという）について学ぶ。最初に、コンピュータの基礎として、ネットワークやWordによる文書作成を行う。その後、 Excel について簡単に触れ、マクロ言語の意義を解説し、VBA の文法から応用問題について解説する。

【到達目標】
コンピュータの基礎を理解し、表計算ソフトウェア Excel について理解してマクロ言語を使いこなして応用となる処理を記述できることが目標である。問題解決のためにモデル化し適宜プログラミングできることが望ましい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP4」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】
コンピュータ上で様々な処理を実行することができる表計算ソフトウェア Excel 全般について解説し、そのマクロ言語としてのVBAを解説する。プログラミング言語として細かな命令から比較的大きなプログラミングまで行なうことができるようにする。最初に、コンピュータの基礎として、ネットワークに関する話題、ワードによる簡単な文書作成を行い、変数と型から、式、文について説明し、分岐文、繰り返し文を説明する。後半には、ユーザフォームを使った簡単なアプリケーション、アルゴリズムについて説明する。
毎回、Classroom から Google フォームにて授業アンケートをとり、次回の授業の最初にフィードバックする。さらに、質問は、Classroom や、チャットにて受け付ける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	本講義の導入を行う。
第2回	コンピュータの仕組み	簡単にコンピュータの仕組みとネットワークについて学ぶ。
第3回	Word による文書作成	Word による簡単な文書作成について学ぶ。
第4回	表計算の基礎	Excel の入門について学ぶ。
第5回	表計算の応用	Excel の応用について学ぶ。
第6回	VBAの起動	Excel のマクロとして備わっている Visual Basic Applications の簡単な使い方について学ぶ。
第7回	変数と型	変数と型について学ぶ。
第8回	定数と演算子	定数と演算子について学ぶ。
第9回	分岐	分岐について学ぶ。
第10回	繰り返し	繰り返しについて学ぶ。
第11回	構造化プログラムラミング	構造化プログラミングの応用について学ぶ。
第12回	レポート課題	簡単な試験としてレポート課題を課す。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
プログラミングに関する実習なので予習、復習をすることが望ましい。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
Google Classroom 上に講義資料（配布資料のみ）を提示する。

【参考書】
特に専門性の高い内容については、適宜、講義の中で指示する。

【成績評価の方法と基準】
平常点（50%）、提出されたレポートと最終試験（50%）により総合的に判断する。

【学生の意見等からの気づき】
プログラミングの初学者でも理解できるように工夫する。

【学生が準備すべき機器他】
コンピュータ、講義資料を多用し詳しく解説する。Classroom 上で情報をやり取りする。

【その他の重要事項】
問題解決のための情報活用能力および簡単なプログラミング能力を養う。

【関連科目】
情報学に関する基礎科目

【Outline (in English)】
Learning about Visual Basic for Applications (VBA) as a macro language for spreadsheet software called Excel. First, as a basis for a computer, documents are created using a network or Word. We will explain the significance of the macro language and explain applications from the VBA grammar.

教育方法論（ICT活用を含む）（夏期スクーリング）【オンライン】

中園　有希

カテゴリー：**夏期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**1群午前**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：**※旧法（平成10年改正法）用**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
教育の方法や技術のなかにICTの活用を位置づけ、教育方法の基礎的な理論や概念、ICT活用法を学ぶとともに、それらの知識・技能をもとに資質・能力を育成するための学習指導案を作成する。

【到達目標】
①資質・能力の育成をめざして、教育の方法や技術、ICTの活用に関する基礎的な知識・技能を身に付けるとともに、学習指導案を効果的に作成することができる。
②授業と学びの様々な方法やその現代的課題を理論的、実践的に理解することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
教育の方法に関する理論的知見を講義形式で具体的に提示するとともに、技法については演習形式で実践を重視する。視聴覚資料や情報通信機器を活用し、グループワークにおける協働を受講者に求める。リアクションペーパー、課題等については講義内でフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション：教育方法と中心的な課題としてのICTの活用、ICT活用（学習指導と校務）と教師の専門性	授業の概要説明と内容の導入を行う。本講義の内容を教師の専門性と関連づけて理解する。
第2回	教育方法とICTの基礎的理論と実践	授業や学びを巡る様々な理論や実践（ICTの活用を含む）の諸形態を理解する。
第3回	ICTを活用した学習指導と校務（統合型校務支援システムを含む）の意義と理論	学習指導や校務におけるICTの活用の現代的意義や方法の重要性を理解する。
第4回	新学習指導要領と教育方法、ICT（情報モラルを含む各教科等での横断的活用）	ICTの活用の意義と理論を踏まえつつ、個別最適な学びと協働的な学び、主体的・対話的で深い学びを実現する教育方法について理解する。
第5回	教育方法と情報活用能力（情報モラルを含む）	情報活用能力（情報モラルを含む）の教科横断的な育成と各教科等の特性に応じたその指導方法について理解する。
第6回	授業の観察と批評	授業研究の方法と意義について理解する。
第7回	教育目標と授業のデザイン／主体的・対話的で深い学びとICT活用	授業デザインにおける教育目標の意義やその設定方法について理解する。また、主体的・対話的で深い学びを実現するためのICT活用方法について理解する。
第8回	学力と評価の観点、学習評価（ICTの活用を含む）	指導と一体化した学習評価のあり方やその観点、方法（ICTの活用を含む）について理解する。
第9回	個に応じた指導の工夫とICTの活用	個に応じた指導の工夫とICT活用の意義と方法、留意点について理解する。
第10回	教材の作成・活用と各教科等の特性に応じたICT（情報モラルを含む）の活用	教材の作成・活用方法や各教科等の特性に応じたICT（情報モラルを含む）の活用方法の実際について理解する。
第11回	発問や板書、ICT活用などの指導技術	発問、板書、ICT活用など指導技術の実際について理解する。
第12回	試験・まとめと解説	期末試験及び授業のまとめ、解説を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書は指定しない。

【参考書】
①佐藤学『教育の方法』左右社、2010年
②秋田喜代美／藤江康彦『授業研究と学習過程』、放送大学教育振興会、2010年
③中川一史／苑復傑『教育のためのICT活用〔改訂版〕』、放送大学教育振興会、2022年
④中学校・高等学校学習指導要領（最新版）
⑤「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料（各校種・教科版）

【成績評価の方法と基準】
リアクションペーパー：20％
提出課題：30％
期末試験：50％

【学生の意見等からの気づき】
今年度の授業でも、グループワークや実技演習の時間を大切にします。

【学生が準備すべき機器他】
・学習支援システムとZoomに接続できるネットワーク環境
・パソコンまたはタブレット端末
・講師の指示に応じてオン・オフができるWebカメラとマイク（パソコンやタブレット端末に内蔵されている場合は、別途用意する必要はない）
・授業の中で「Google Classroom」を利用するので、Googleアカウントにログインできるようにしておくこと
・授業の中で「ロイロノート」を利用するので、Webブラウザ（Chromeブラウザを予めインストールしておくことを推奨）に接続できるようにしておくこと

【その他の重要事項】
新聞やそれに準ずる媒体に毎日必ず目を通し、教職も含めた時事的課題について関心を持ち理解をしておくこと。

【Outline (in English)】
【Course outline】
The course situates the use of information and communication technologies within educational methods and techniques, and teaches the basic theories, concepts, and practical applications. With this knowledge and skillset, students will be able to design effective lesson plans aimed at cultivating aptitudes and abilities of children.
【Learning Objectives】
− Students can not only acquire basic knowledge and skills on educational methods, techniques, and information and communication technologies to cultivate aptitudes and abilities of children, but also will be able to design effective lesson plans.
− Students can acquire both theoretical and practical understanding of various methods of teaching and learning, as well as contemporary issues related to them.
【Learning activities outside of classroom】
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
【Grading Criteria /Policy】
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Term-end examination: 50%、Short reports: 30%、Minute paper: 20%

教育方法論（ICT活用を含む）（夏期スクーリング）【オンライン】

中園　有希

カテゴリー：**夏期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**1群午前**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：**※新法（平成28年改正法）用**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
教育の方法や技術のなかにICTの活用を位置づけ、教育方法の基礎的な理論や概念、ICT活用法を学ぶとともに、それらの知識・技能をもとに資質・能力を育成するための学習指導案を作成する。

【到達目標】
①資質・能力の育成をめざして、教育の方法や技術、ICTの活用に関する基礎的な知識・技能を身に付けるとともに、学習指導案を効果的に作成することができる。
②授業と学びの様々な方法やその現代的課題を理論的、実践的に理解することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
教育の方法に関する理論的知見を講義形式で具体的に提示するとともに、技法については演習形式で実践を重視する。視聴覚資料や情報通信機器を活用し、グループワークにおける協働を受講者に求める。リアクションペーパー、課題等については講義内でフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション：教育方法と中心的な課題としてのICTの活用、ICT活用（学習指導と校務）と教師の専門性	授業の概要説明と内容の導入を行う。本講義の内容を教師の専門性と関連づけて理解する。
第2回	教育方法とICTの基礎的理論と実践	授業や学びを巡る様々な理論や実践（ICTの活用を含む）の諸形態を理解する。
第3回	ICTを活用した学習指導と校務（統合型校務支援システムを含む）の意義と理論	学習指導や校務におけるICTの活用の現代的意義や方法の重要性を理解する。
第4回	新学習指導要領と教育方法、ICT（情報モラルを含む各教科等での横断的活用）	ICTの活用の意義と理論を踏まえつつ、個別最適な学びと協働的な学び、主体的・対話的で深い学びを実現する教育方法について理解する。
第5回	教育方法と情報活用能力（情報モラルを含む）	情報活用能力（情報モラルを含む）の教科横断的な育成と各教科等の特性に応じたその指導方法について理解する。
第6回	授業の観察と批評	授業研究の方法と意義について理解する。
第7回	教育目標と授業のデザイン／主体的・対話的で深い学びとICT活用	授業デザインにおける教育目標の意義やその設定方法について理解する。また、主体的・対話的で深い学びを実現するためのICT活用方法について理解する。
第8回	学力と評価の観点、学習評価（ICTの活用を含む）	指導と一体化した学習評価のあり方やその観点、方法（ICTの活用を含む）について理解する。
第9回	個に応じた指導の工夫とICTの活用	個に応じた指導の工夫とICT活用の意義と方法、留意点について理解する。
第10回	教材の作成・活用と各教科等の特性に応じたICT（情報モラルを含む）の活用	教材の作成・活用方法や各教科等の特性に応じたICT（情報モラルを含む）の活用方法の実際について理解する。
第11回	発問や板書、ICT活用などの指導技術	発問、板書、ICT活用など指導技術の実際について理解する。
第12回	試験・まとめと解説	期末試験及び授業のまとめ、解説を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書は指定しない。

【参考書】
①佐藤学『教育の方法』左右社、2010年
②秋田喜代美／藤江康彦『授業研究と学習過程』、放送大学教育振興会、2010年
③中川一史／苑復傑『教育のためのICT活用〔改訂版〕』、放送大学教育振興会、2022年
④中学校・高等学校学習指導要領（最新版）
⑤「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料（各校種・教科版）

【成績評価の方法と基準】
リアクションペーパー：20％
提出課題：30％
期末試験：50％

【学生の意見等からの気づき】
今年度の授業でも、グループワークや実技演習の時間を大切にします。

【学生が準備すべき機器他】
・学習支援システムとZoomに接続できるネットワーク環境
・パソコンまたはタブレット端末
・講師の指示に応じてオン・オフができるWebカメラとマイク（パソコンやタブレット端末に内蔵されている場合は、別途用意する必要はない）
・授業の中で「Google Classroom」を利用するので、Googleアカウントにログインできるようにしておくこと
・授業の中で「ロイロノート」を利用するので、Webブラウザ（Chromeブラウザを予めインストールしておくことを推奨）に接続できるようにしておくこと

【その他の重要事項】
新聞やそれに準ずる媒体に毎日必ず目を通し、教職も含めた時事的課題について関心を持ち理解をしておくこと。

【Outline (in English)】
【Course outline】
The course situates the use of information and communication technologies within educational methods and techniques, and teaches the basic theories, concepts, and practical applications. With this knowledge and skillset, students will be able to design effective lesson plans aimed at cultivating aptitudes and abilities of children.
【Learning Objectives】
− Students can not only acquire basic knowledge and skills on educational methods, techniques, and information and communication technologies to cultivate aptitudes and abilities of children, but also will be able to design effective lesson plans.
− Students can acquire both theoretical and practical understanding of various methods of teaching and learning, as well as contemporary issues related to them.
【Learning activities outside of classroom】
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
【Grading Criteria /Policy】
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Term-end examination: 50%、Short reports: 30%、Minute paper: 20%

LAW300TB（法学 / law 300）

国際法総論（夏期スクーリング）【オンライン】

田中　佐代子

カテゴリー：**夏期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**1群午後**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
国際法の総論分野を学ぶ。

【到達目標】
現代国際法の総論分野における基本的な概念や法制度を説明できるようになることが、最低限の到達目標である。
これに加えて、各概念・制度の歴史的展開と今日の実態を、その背景にある国際社会の構造とその変化をふまえながら深く理解することが求められる。それにより、日々生起する国際問題を法的視点からどのように捉えるべきかを自ら考えるための基礎を築くことが、最終的な到達目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
下記【授業計画】に示す項目について検討する。（内容は、前年度までの同科目と一部重複することがある。）
講義形式の授業だが、教科書の内容について受講生との質疑応答を交えつつ進める。
特定の分野について理解を深めるためのゲスト講義も実施することを検討している。
学生に対するフィードバックは、授業中のコメント等により行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	主体（1）	序説、国家
第2回	主体（2）	国際機構、私人・私的団体
第3回	国家の主権（1）	基本原則
第4回	国家の主権（2）	管轄権
第5回	国際法の存在形式（1）	条約
第6回	国際法の存在形式（2）	慣習国際法、法の一般原則
第7回	国際法の国内的実施（1）	体系的関係、国際法平面における国内法
第8回	国際法の国内的実施（2）	国内法平面における国際法
第9回	国際法の国際的実施（1）	国家責任法
第10回	国際法の国際的実施（2）	国際コントロールほか
第11回	領域	基本原則、領域権原論、裁判による領土紛争の解決
第12回	総括、試験	全体の復習と試験実施

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
下記掲載の教科書（玉田・水島・山田『国際法〔第２版〕』）第１章～第６章を事前に読んでおくこと。
ざっと目を通しておく程度でもかまわないが、短期集中のスクーリング授業に対応するためには、予習によって全体像を把握しておくことがきわめて重要である。
本授業の準備学習・復習時間は各２時間を標準とする（ただし、これはあくまで一般的な標準の時間を示したものにすぎず、各回の内容等により大きく異なることがある）。

【テキスト（教科書）】
玉田大・水島朋則・山田卓平『国際法〔第２版〕』（有斐閣、2022年）
『国際条約集』（有斐閣）
教科書と条約集、いずれも必ず授業に持参すること。なお、条約集は、ここ数年のものであれば、最新年度版でなくてもよい。

【参考書】
森川幸一、兼原敦子、酒井啓亘、西村弓編『国際法判例百選〔第3版〕』（有斐閣、2021年）
その他は開講時に指示する。

【成績評価の方法と基準】
筆記試験（60％）および平常点（40％）。
詳細は初回授業で説明する。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムとZoomに接続できる環境と情報機器。
授業で使用する資料は、学習支援システムを通じて配布予定。また、リアクションペーパーや試験解答の提出も、学習支援システムを通じて行うこととなる。
オンライン（Zoom）授業の際、ビデオはオフでも構わないが、必要に応じてマイクはオンにして発言できる環境で受講すること。

【Outline (in English)】
【Course outline and Learning Objectives】This course provides students with a basic understanding of public international law with reference to general topics including but not limited to: historical development of contemporary international legal system, sources of law, law of treaties, relationship between international and municipal law, States and its territory, diplomatic and consular relations, jurisdiction and immunity, international responsibility of States, and international organizations.
【Learning activities outside of classroom】Students are expected to read the assignment before each class.
【Grading Criteria /Policy】Grading is based on the term-end examination (60%) and the in-class contribution (40%).

LAW200TB（法学 / law 200）

法律学特講（夏期スクーリング）【オンライン】

武生　昌士

カテゴリー：**夏期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**1群午後**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、知的財産法に分類される法律のうち主要なもののひとつである著作権法を一通り学ぶことを内容とする。著作権法は、基本的には民法の特別法と位置付けられるものであり、物権法や不法行為法の学習を進めた者がそれらの理解を活かしてさらに進んで学ぶべき応用的な科目と位置付けることができる。

【到達目標】

著作権法について、制度全体に関する一通りの体系的理解及び主要な論点における基本的な考え方を身に付けてもらうことにより、今後著作権法に関する問題に直面した際に、自分で調査し考えることができるだけの基礎的素養を涵養すること、また、そのことを通じて、法的なものの考え方や法制度設計の技法を習得することが目標である。

より具体的には、第一に、著作権法を理解する上で重要な基礎的な概念について十分に理解し、その内容を正確に示すことができるようになることを目標とする。

第二に、著作権法が問題となる具体的な事例（紛争）について、著作権法を適用するとどのような帰結が導かれる（解決が図られる）こととなるのかを、裁判例・学説の理解の前提に立った上で示すことができるようになることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

この授業では、知的財産法の中核を担う法律のひとつである著作権法について、文化の発展に寄与するためにどのような制度が設けられているのかを、具体的な裁判例にも触れながら、講義形式で一通り説明していく。

夏期1群午後配当科目であるこの授業は、Zoomを用いた【オンラインスクーリング】として開講される。講義資料は学習支援システムを通じて配布する。質問については、授業終了後にZoom上で受け付ける。また、授業期間中、メールでお送りいただいても差し支えない。

最終日（最終コマ）に実施する試験に関しては、終了後に簡単な講評を行う予定である。また、採点後に成績分布なども含めた講評を学習支援システム上にアップすることも検討している。

下記授業計画に示した形での講義を予定しているが、順序や内容については必要に応じ変更する可能性がある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス・知的財産法の概要	本講義の概要説明、知的財産法の全体像
第2回	著作権法の概要・権利の客体(1)	著作権法の全体像、著作物の定義（創作性要件など）
第3回	権利の客体(2)	著作物の定義（その他の要件）、特殊な著作物など
第4回	権利の主体	著作者の認定、職務著作、映画の場合など
第5回	著作者人格権	公表権、氏名表示権、同一性保持権など
第6回	著作権(1)	各支分権の説明
第7回	著作権(2)	権利制限規定の説明
第8回	著作権(3)・著作権に関する取引	保護期間、著作権の譲渡、利用許諾など
第9回	著作隣接権	実演家の権利など
第10回	侵害と救済(1)	侵害成立の要件（依拠性、類似性）、みなし侵害など
第11回	侵害と救済(2)	民事的救済（差止・損害賠償請求）及び刑事罰など
第12回	まとめと試験	全体の総括と試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習は必ずしも必須ではないが、余裕のある方は参考文献などを適宜読み進めてほしい。が、むしろ復習にしっかりと時間を割いてほしい。講義資料を読み直す、自分なりにまとめたノートを作成するなどして、著作権の体系の理解をしっかりと身につけること。

本授業の準備・復習学習は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は特に使用しない（講義資料を学習支援システムを通じて配布する）。

【参考書】

愛知靖之ほか『知的財産法〔第2版〕』（有斐閣、2023）島並良ほか『著作権法入門〔第3版〕』（有斐閣、2021），田村善之『知的財産法〔第5版〕』（有斐閣、2010），中山信弘『著作権法〔第4版〕』（有斐閣、2023）、小泉直樹ほか編『著作権判例百選〔第6版〕』（有斐閣、2019）、前田健ほか『図録 知的財産法』（弘文堂、2021）など。

詳細は開講時に改めて、また授業中にも適宜、指示する。

【成績評価の方法と基準】

最終日・最終コマに実施する試験で評価する（100％）。

試験の実施方法は以下を想定している。まず、学習支援システムの「課題」を、最終コマの一定の時刻に公開されるよう設定しておく。公開され次第、受講者は「課題」に示された問題を確認し、これに対する解答をWordを用いて作成して、時間内に学習支援システムを通じて提出すること。試験時間自体は60分を予定しているが、学習支援システムを通じてファイルを提出するのに一定の時間を要するので、提出期限は試験開始時刻から65分後までとすることを予定している。

以上のように、成績評価の前提としてWordによる文書作成能力が求められるので、注意されたい。

なお、試験の予行演習を兼ねて、加点要素としての小テストを実施することも検討している。詳細は開講時に改めて説明する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムとZoomに接続できる環境と情報機器。加えて、Microsoft Word及びPowerPointを備えていること。

【その他の重要事項】

繰り返しになるが、最終回に実施する試験において、Wordを用いた文書作成を行ってもらう予定であるので、Wordの使用に自信のない方には、大変恐縮だが今回の受講はお勧めしない。学習支援システムやZoomの利用に不安のある方も同様である。

また、2016年度及び2021年度に私が担当した「法律学特講」を受講し単位を修得した者については、内容が相当程度重複するので、履修は推奨しない。

【Outline (in English)】

【授業の概要（Course outline）】

This course covers the basics of Copyright Law of Japan with attention to fundamental case law.

【到達目標（Learning Objectives）】

By the end of the course, students should be able to :

— Demonstrate knowledge and understanding of Copyright Law System.

【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

【成績評価の方法と基準（Grading Criteria /Policy）】

Your overall grade in the class will be decided based on the last day (last class) examination (100%).

ART200TC（芸術学 / Art studies 200）

日本文芸研究特講・音楽芸能史（夏期スクーリング）【オンライン】

本塚　亘

カテゴリー：**夏期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**1群午後**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、主に雅楽を中心とする日本音楽の古代・中世史について概観しながら、古典文学作品の中に表れる音楽描写について学んでいきます。「日本の音楽」を外来文化とのかかわりの中で客観的に捉え、その普遍性と特殊性について考えてみましょう。

【到達目標】

・日本音楽史（古代・中世）の概要について理解することができる。
・古典文学作品に表れる音楽描写について理解することができる。
・日本の音楽と外来文化との関係性についての理解が深まる。
・日本の音楽の普遍性と特殊性について考察を深めることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

Zoomを利用したリアルタイムのオンライン授業です。音源や映像などの鑑賞を含みます。毎時、学習支援システム（Hoppii）から意見や質問等の提出を求めます。意見や質問等へのフィードバックは授業中に行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	雅楽の成立概観「日本の音楽」とは？	《越殿楽》を鑑賞し、雅楽（管絃）に用いられる楽器や楽譜、演奏形式について考えます。また「日本の音楽とは何か」という本講義の問題意識を共有します。
第2回	雅楽の機能	古代の日本の音楽制度とその機能について学びます。また、東大寺大仏開眼供養会、及びその歴史的背景について考えます。
第3回	雅楽の楽器と楽理	正倉院の楽器を中心に日本の様々な伝統楽器について学び、そのルーツについて考えます。また日本で伝統的に用いられる音楽理論のルーツについても考えます。
第4回	日本の在来音楽	在来音楽である国風歌舞、特に東遊（あずまあそび）について学びます。
第5回	舞楽	左舞と右舞の違いや、その成立背景について学びます。
第6回	管絃	舞楽との違い、および御遊（ぎょゆう）の演奏形式などについて学びます。
第7回	催馬楽（さいばら）	『源氏物語』に多出する催馬楽（さいばら）の表現と機能について学びます。
第8回	雅楽の伝承	古楽譜や説話などを通して、音楽の伝承方法とその意味について学びます。
第9回	仏教音楽との関係	雅楽と仏教音楽との密接な関係について理解を深めます。
第10回	越殿楽の系譜	改めて《越殿楽》に関連して、中世以降の「うた」と「音楽」の変遷について考えます。
第11回	平家語り	平家語りについて学び、雅楽や声明から受けた影響について考えます。また国外の語り物文化との関係について学び、語り物芸能の普遍性について考えます。
第12回	総括と最終課題の説明	まとめと解説。最終課題についての説明。最終課題は学習支援システム（Hoppii）から提出、締切は当日23:55厳守。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

短期の集中授業であるため、各回の予習・復習時間を指定しません。大学設置基準に鑑みた場合の標準の予習・復習時間は各2時間とされていますので、各自で必要な学習機会を確保してください。

音楽の知識に関する予習は必須としませんが、下記**【参考書】**の『日本音楽基本用語辞典』などを活用することも有効です。随時、図書館などを利用して、疑問点や興味を持った点について調べてみてください。

【テキスト（教科書）】

なし。プリントを配布する。

【参考書】

・岸辺成雄『古代シルクロードの音楽』（講談社、1982）
・平野健二ほか編『日本音楽大事典』（平凡社、1989）
・『日本音楽基本用語辞典』（音楽之友社、2007）
・遠藤徹『雅楽を知る事典』（東京堂出版、2013）
その他、授業時に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

上記**【到達目標】**に照らして以下の2項目を評価の対象とする。
・毎時学習支援システム（Hoppii）から提出する意見・質問等　50%
・最終日に学習支援システム（Hoppii）から提出する最終課題　50%

【学生の意見等からの気づき】

授業内容の理解度に不安を感じる方は、上記**【到達目標】**を目安として、大まかな授業の流れや考え方を中心に学習をすすめてください。授業の性質上専門的な述語を用いることがありますが、受講生のみなさんには、短期間でそれらのすべてについて理解することを求めていません。また研究上未解明の課題についても取り扱いますが、それらの課題について、授業では必ずしも「正解」を提示できない場合があります。
（2018年度授業時の独自アンケートによる気づき）

【学生が準備すべき機器他】

自宅でZoom、及び学習支援システム（Hoppii）にアクセスできるPC、インターネット環境をご用意ください。また、授業の性質上動画等の音声資料を扱いますので、周囲の環境には十分ご配慮ください。

【Outline (in English)】

Outline: In this class, we will study the music as it appears in classical literary works, while overviewing the ancient and medieval history of Japanese music, mainly *gagaku* (court music). We will objectively watch "Japanese music" in relation to foreign cultures and consider its universality and uniqueness.

Goal: Students should deepen understanding of the followings by the end of the course.
- Basic of Japanese ancient and medieval music history.
- The accurate depiction of music in classical literary works.
- The relationship between Japanese and foreign music.
- The universality and uniqueness of Japanese music.

Learning activities outside of classroom: Since this is a short-term intensive course, no study time is assumed between each class.In accordance with the standard out-of-class time of 4 hours each.
Preparation for the musical studies is not required, but it is also effective to use the reference books introduced in Japanese. And, please use the library or other sources to research any questions or points of interest.

Grading Criteria /Policies: In accordance with the above Goals, the following two will be scored.
- Reaction Papers 50.
- In-class final exam 50.

HIS300TD（史学 / History 300）

史学演習（日本）（夏期スクーリング）

松本　剣志郎

カテゴリー：**夏期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**1群午後**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
歴史を学ぶ者にとって、史料の正確な読解は基本であり、そこから自らの歴史像を組み立てることを要求される。この授業は、江戸の町触を素材として、学生が史料の読解力を高めることを目的とする。

【到達目標】
①史料を正確に音読し、現代語訳することができる。
②史料上の用語について調べ、それを説明できる。
③史料の内容を理解し、それを時代背景のなかに位置づけることができる。
④史料の解釈について討議できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
学生の報告および討議が中心である。『江戸町触集成』の史料を担当者が書き下し、現代語訳、語句説明および史料の位置づけをレジュメにして発表する。こうした課題等に対するフィードバックは授業内ですべておこなう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	本授業の説明、近世史研究入門
第2回	史料読解の基礎	近世史料の読み方
第3回	調査研究の実践（1）	図書館の使い方
第4回	調査研究の実践（2）	研究論文の探索
第5回	史料講読（1）	『江戸町触集成』18～19号
第6回	史料講読（2）	『江戸町触集成』20～21号
第7回	史料講読（3）	『江戸町触集成』22～23号
第8回	史料講読（4）	『江戸町触集成』24～25号
第9回	史料講読（5）	『江戸町触集成』26～27号
第10回	史料講読（6）	『江戸町触集成』28～29号
第11回	史料講読（7）	『江戸町触集成』30～31号
第12回	総括と質疑応答	卒論執筆に向けた準備

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
史料講読においては、報告担当者以外も事前学習として史料の書き下しと現代語訳に取り組み、語句などを調べてくること。授業後には、史料の意味確認や授業時に紹介された参考文献などを読み、理解を深めること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
『江戸町触集成』（塙書房）。ただし、該当部分をコピーして配布するので、購入する必要はない。

【参考書】
『国史大辞典』（吉川弘文館）、大石学編『江戸幕府大事典』（吉川弘文館）ほか

【成績評価の方法と基準】
到達目標に即した評価基準とする。１報告（80％）。担当者は、レジュメを作成し、出席者全員にコピーして配布する。２質疑応答（20％）。報告順番を決めるので第１回および第２回の授業への欠席は原則認められない。

【学生の意見等からの気づき】
卒論を書ける力を養成していきます。

【Outline (in English)】
This course deals with the early modern history of Japan, reading Edo City Ordinances.　At the end of the course, participants are expected to read historical documents aloud and translate them into modern Japanese. Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant document.　Your required study time is at least 4 hour for each class meeting.　Grading will be decided based on students presentation(80%), and the quality of the students' performance in the class(20%).

HIS300TD（史学 / History 300）

日本中世史（夏期スクーリング）【オンライン】

仁平　義孝

カテゴリー：**夏期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**1群午後**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
鎌倉幕府の基本法である御成敗式目を読む。その内容は多岐にわたるが、今回は刑事法に関する条文を中心に読み、鎌倉幕府法の特質や中世社会の様々な側面を考えていきたい。

【到達目標】
鎌倉幕府法の特質を理解し、史料に基づく検証方法を学ぶことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
Zoomによるオンライン授業。講義形式で行う。
ZoomのURLなどは学習支援システムにて連絡する。
講義資料の配布、試験も学習支援システムを通じて行う。
課題に対するフィードバックは授業内に行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	御成敗式目について(1)	御成敗式目制定の目的などの解説。
第2回	御成敗式目について(2)	御成敗式目の条文構成などの解説。
第3回	御成敗式目第9条	謀叛の罪について。
第4回	御成敗式目第10条	殺害・刃傷の罪について。
第5回	御成敗式目第11条	夫の罪科の妻への縁坐について。
第6回	御成敗式目第21・24条	離婚・再婚と女性所領について。
第7回	御成敗式目第12条	悪口の罪について。
第8回	御成敗式目第13・14条	殴人の罪および地頭代の罪について。
第9回	御成敗式目第15条	謀書の罪について。
第10回	御成敗式目第33条	強盗・窃盗・放火の罪について。
第11回	御成敗式目第34条	密懐の罪について。
第12回	まとめと試験	授業内容のまとめと試験。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
参考書や授業時に紹介する文献を読む。
本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
なし。講義資料を学習支援システムにて配布する。

【参考書】
『中世政治社会思想　上』（日本思想大系21、岩波書店、1972年）
笠松宏至編『中世を考える　法と訴訟』（吉川弘文館、1992年）
水林彪・大津透・新田一郎・大藤修編『法社会史』（新体系日本史2、山川出版社、2001年）
佐藤雄基『御成敗式目』（中公新書、2023年）
その他、授業時に紹介する。

【成績評価の方法と基準】
試験100％

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムとZoomに接続できる環境と情報機器。
授業中のマイク・カメラは特に必要ない。

【その他の重要事項】
配布した資料はプリントアウトして、手元に置いて受講すること。
質問は授業終了後や学習支援システムの掲示板などで受け付ける。

【Outline (in English)】
This course studies low of the Kamakura shogunate.

GEO200TE（地理学 / Geography 200）

地誌学特講（夏期スクーリング）【オンライン】

米家　志乃布

カテゴリー：**夏期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**1群午後**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：**※地理学科本科生用**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
授業の概要：日本北方フロンティアの歴史地誌
本講義で扱う「フロンティア」とは、近代国家が拡大する際の最前線である「辺境地域」を指します。この講義では、担当者の専門の関係から、日本やロシアにおける「フロンティア」の歴史とそれらの地域をめぐる現代まで続く歴史地誌を扱います。たとえば、19世紀日本における北方フロンティアとして蝦夷地・北海道、17世紀以降のロシアにおける東方フロンティアとしてシベリアが挙げられます。近代において、帝国主義国家によるその領土拡大と先住民族支配および植民地経営は、歴史学・地理学・民族学などの分野において重要な研究テーマです。現在における北方領土問題も、このフロンティアの歴史、つまり両国家による領土拡大と植民地経営に大きく関わってきます。本講義ではこのような視点から、北東アジアにおける17世紀～20世紀にかけての日本とロシアの「フロンティア」、具体的には、蝦夷地・北海道や樺太・千島、シベリア・極東などの歴史地誌を考察していきます。

【到達目標】
この講義の目標は、国民国家と「領土」を歴史・政治地理的に改めて見直し、近代国家とは何か、先住民族・少数民族と近代国家の関係とはどういうものか、歴史地理学的方法を通して、日本北方フロンティアの歴史地誌を学びます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
１．蝦夷地・北海道について，歴史地理学的方法を通して学びます。２．北方領土問題について学びます。３．近代国家と「フロンティア」の関係を、先住民族との関係から考えます。
本授業はオンライン授業です。授業のパワーポイントや資料はすべて学習支援システムで配布します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業内容および授業方法の説明，成績評価基準について
第2回	日本北方フロンティアの地誌	北海道/ロシア極東/シベリアの基礎知識を学ぶ
第3回	蝦夷地の歴史地誌	蝦夷地・北海道をめぐる和人・アイヌ関係を学ぶ
第4回	古地図からみた蝦夷地①	蝦夷地を描いた日本・欧米の地図の歴史
第5回	古地図から見た蝦夷地②	ロシア・日本・ヨーロッパの日本像と蝦夷地
第6回	旅行記から見た蝦夷地・北海道①	松浦武四郎とライマンの旅行記からみた蝦夷地・北海道
第7回	旅行記から見た蝦夷地・北海道②	松浦武四郎とライマンのアイヌ民族へのまなざしについて考える
第8回	風景画から見た北海道・札幌①	風景画・写真・古地図などの画像史料と開拓の歴史の関係
第9回	風景画から見た北海道・札幌②	開拓都市の表象について、歴史地理学的方法で考える
第10回	北方領土問題①	北方領土問題とは何か、基礎知識を学ぶ
第11回	北方領土問題②	日本とロシアの国際的な関係、北方領土問題を考える
第12回	千島列島（クリル諸島）・樺太（サハリン）の歴史地誌	千島列島・樺太の歴史地誌を日本側・ロシア側の両方から学ぶ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本講義にかかわる準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。アイヌ民族にかかわる日本の法令や雑誌の特集などは積極的に読んでみてください。アイヌ民族だけでなく、世界の領土問題や先住民族に関する文献も自分で探して読んでみてください。

【テキスト（教科書）】
米家志乃布『近世蝦夷地の地域情報-日本北方地図史の再考』2021年、法政大学出版局、2900円（税別）を使います。各自で購入してください。その他、必要に応じて、適宜資料をPDFファイルで学習支援システムにアップします。

【参考書】
適宜、必要に応じて、授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】
最終レポート75％、平常点25％で評価いたします。レポート課題は授業内でお知らせいたします。

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
基本的に教科書の記述をもとにパワーポイントで補足しながら説明するか、学習支援システムで資料配信します。随時確認できるように、教科書は受講時に参照し、PCやスマートフォンなど機器類を準備してください。

【その他の重要事項】
本授業はオンラインで行います。オンラインで授業を受けるための適切な環境で受講をお願いいたします。

【Outline (in English)】
【Course outline】　This lecture examines a historical geography of northern frontier in Japan and Russia.
【Learning Objectives】 The goals of this course are to learn, understand, write a report of the history of Hokkaido.
【Learning activities outside of classroom】 Your study time will be more than 4 hours for a class.
【Grading Criteria】 Term-end report: 75%
and in class　contribution:25%

GEO200TE（地理学 / Geography 200）

地誌学特講（S）（夏期スクーリング）【オンライン】

米家　志乃布

カテゴリー：**夏期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**1群午後**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：**※科目等履修生用**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
授業の概要：日本北方フロンティアの歴史地誌
本講義で扱う「フロンティア」とは、近代国家が拡大する際の最前線である「辺境地域」を指します。この講義では、担当者の専門の関係から、日本やロシアにおける「フロンティア」の歴史とそれらの地域をめぐる現代まで続く歴史地誌を扱います。たとえば、19世紀日本における北方フロンティアとして蝦夷地・北海道、17世紀以降のロシアにおける東方フロンティアとしてシベリアが挙げられます。近代において、帝国主義国家によるその領土拡大と先住民族支配および植民地経営は、歴史学・地理学・民族学などの分野において重要な研究テーマです。現在における北方領土問題も、このフロンティアの歴史、つまり両国家による領土拡大と植民地経営に大きく関わってきます。本講義ではこのような視点から、北東アジアにおける17世紀～20世紀にかけての日本とロシアの「フロンティア」、具体的には、蝦夷地・北海道や樺太・千島、シベリア・極東などの歴史地誌を考察していきます。

【到達目標】
この講義の目標は、国民国家と「領土」を歴史・政治地理的に改めて見直し、近代国家とは何か、先住民族・少数民族と近代国家の関係とはどういうものか、歴史地理学的方法を通して、日本北方フロンティアの歴史地誌を学びます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
１．蝦夷地・北海道について，歴史地理学的方法を通して学びます。２．北方領土問題について学びます。３．近代国家と「フロンティア」の関係を、先住民族との関係から考えます。
本授業はオンライン授業です。授業のパワーポイントや資料はすべて学習支援システムで配布します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業内容および授業方法の説明，成績評価基準について
第2回	日本北方フロンティアの地誌	北海道/ロシア極東/シベリアの基礎知識を学ぶ
第3回	蝦夷地の歴史地誌	蝦夷地・北海道をめぐる和人・アイヌ関係を学ぶ
第4回	古地図からみた蝦夷地①	蝦夷地を描いた日本・欧米の地図の歴史
第5回	古地図から見た蝦夷地②	ロシア・日本・ヨーロッパの日本像と蝦夷地
第6回	旅行記から見た蝦夷地・北海道①	松浦武四郎とライマンの旅行記からみた蝦夷地・北海道
第7回	旅行記から見た蝦夷地・北海道②	松浦武四郎とライマンのアイヌ民族へのまなざしについて考える
第8回	風景画から見た北海道・札幌①	風景画・写真・古地図などの画像史料と開拓の歴史の関係
第9回	風景画から見た北海道・札幌②	開拓都市の表象について、歴史地理学的方法で考える
第10回	北方領土問題①	北方領土問題とは何か、基礎知識を学ぶ
第11回	北方領土問題②	日本とロシアの国際的な関係、北方領土問題を考える
第12回	千島列島（クリル諸島）・樺太（サハリン）の歴史地誌	千島列島・樺太の歴史地誌を日本側・ロシア側の両方から学ぶ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本講義にかかわる準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。アイヌ民族にかかわる日本の法令や雑誌の特集などは積極的に読んでみてください。アイヌ民族だけでなく、世界の領土問題や先住民族に関する文献も自分で探して読んでみてください。

【テキスト（教科書）】
米家志乃布『近世蝦夷地の地域情報-日本北方地図史の再考』2021年、法政大学出版局、2900円（税別）を使います。各自で購入してください。その他、必要に応じて、適宜資料をPDFファイルで学習支援システムにアップします。

【参考書】
適宜、必要に応じて、授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】
最終レポート75％、平常点25％で評価いたします。レポート課題は授業内でお知らせいたします。

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
基本的に教科書の記述をもとにパワーポイントで補足しながら説明するか、学習支援システムで資料配信します。随時確認できるように、教科書は受講時に参照し、PCやスマートフォンなど機器類を準備してください。

【その他の重要事項】
本授業はオンラインで行います。オンラインで授業を受けるための適切な環境で受講をお願いいたします。

【Outline (in English)】
【Course outline】　This lecture examines a historical geography of northern frontier in Japan and Russia.
【Learning Objectives】 The goals of this course are to learn, understand, write a report of the history of Hokkaido.
【Learning activities outside of classroom】 Your study time will be more than 4 hours for a class.
【Grading Criteria】 Term-end report: 75%
and in class　contribution:25%

PRI200TG（情報学基礎 / Principles of informatics 200）

情報学入門（2）（表計算）（夏期スクーリング）

入戸野　健

カテゴリー：**夏期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**1群午後**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ワープロ、表計算、インターネットを活用した情報リテラシーを習得する。

【到達目標】
ワープロソフト、表計算ソフト、インターネットをツールとして利用し、基本的な情報の編集・集計・利用等ができるようになることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「法律学科： DP5」「日本文学科：DP1,DP4」「史学科：DP1」「地理学科：DP2,DP3」「商業学科：情報・統計学」に関連

【授業の進め方と方法】
PC利用の初級者を対象として基本操作から始め、文書作成・表計算を中心に実習形式で学習を進めます。基礎を中心とするため、事前の準備は特に必要としませんが、後半は表計算まで学習を進めるため、文字の入力操作に自信のない人はそれなりの努力が必要になります。また、初歩的な内容が主となるため、普段から実務等で既にワープロや表計算を活用している方にはやや物足りない内容となるかもしれませんが、再度、基礎から俯瞰的に実習をしたい方には勧められます。
課題等についての講評は適宜、授業内で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクションとWindowsの基本操作	授業の概要と、Windowsのアプリケーションの起動、ファイル整理等の基本操作を学習します。
第2回	文書処理 (1) 文字の入力と書式設定	文字の入力方法、文書の書式設定、フォントの設定等について学びます。
第3回	文書処理 (2) 定型文書の作成	一般的な定型文書の作成に必要な箇条書きや段落設定などを学習します。
第4回	文書処理 (3) 表の作成	文書内に表を作成して体裁の整った文書を作成する方法を学びます。
第5回	文書処理 (4) 図形の利用	文書内にイラスト挿入したり、簡単な案内図を作成する方法について学習します。
第6回	電子メールとインターネット検索	電子メールの送受信、メール文面の書式やマナー等に加えて、検索サイトの利用について学びます。
第7回	表計算 (1) 表計算ソフトの基本操作	基本的なデータの入力方法とそれらを計算する方法を学びます。
第8回	表計算 (2) 関数の利用	各種の関数を利用してデータを効果的に集計する方法を学習します。
第9回	表計算 (3) グラフの利用	棒グラフ、円グラフ、折れ線グラフなどの基本的なグラフの作成方法を学習します。
第10回	表計算 (4) 様々な処理への応用	応用的な関数やグラフのの機能を利用して様々な処理を行う方法を学習します。
第11回	表計算 (5) 他のソフトとの連携	作成した表やグラフをWord等の文書内で連携しながら利用する方法を学びます。
第12回	試験とまとめ	演習形式の試験を実施し授業のまとめを行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業内の実習でやり残した部分があった場合は、各自で完成させておく等の事後学習を行って下さい。
本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
「30時間でマスター Excel2019」実教出版 ISBN978-4-407-34837-8

【参考書】
進捗状況に応じて授業内で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
平常点20%、課題20%、テスト60%とします。毎回授業に参加して、各回の実習で課題等をきちんとこなしながら、それらを着実に身につけて行くことが大切です。

【学生の意見等からの気づき】
受講者の学習状況に合わせた丁寧な授業進行に努めます。

【学生が準備すべき機器他】
毎回の授業は情報実習室に設置のPCを使用して行います。

【Outline (in English)】
(Course outline) The objective of this course is to acquire information literacy using word processing, spreadsheets, and the Internet.
(Learning objectives) The goal is to provide fundamental skills for accumulating, editing and summarizing information using word processing, spreadsheet and internet application software.
(Learning activities outside of classroom) If you are not able to reach the assigned goal in class, it is recommended that you complete it on your own before the next week's class.
(Grading Criteria /Policy) Grading will be decided based on in-class contribution (20%), mid-term reports (20%), and term-end examination (60%)

PRI200TF（情報学基礎 / Principles of informatics 200）

コンピュータ入門（2）（表計算）（夏期スクーリング）

入戸野　健

カテゴリー：**夏期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**1群午後**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ワープロ、表計算、インターネットを活用した情報リテラシーを習得する。

【到達目標】
ワープロソフト、表計算ソフト、インターネットをツールとして利用し、基本的な情報の編集・集計・利用等ができるようになることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP4」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】
PC利用の初級者を対象として基本操作から始め、文書作成・表計算を中心に実習形式で学習を進めます。基礎を中心とするため、事前の準備は特に必要としませんが、後半は表計算まで学習を進めるため、文字の入力操作に自信のない人はそれなりの努力が必要になります。また、初歩的な内容が主となるため、普段から実務等で既にワープロや表計算を活用している方にはやや物足りない内容となるかもしれませんが、再度、基礎から俯瞰的に実習をしたい方には勧められます。
課題等についての講評は適宜、授業内で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクションとWindowsの基本操作	授業の概要と、Windowsのアプリケーションの起動、ファイル整理等の基本操作を学習します。
第2回	文書処理 (1) 文字の入力と書式設定	文字の入力方法、文書の書式設定、フォントの設定等について学びます。
第3回	文書処理 (2) 定型文書の作成	一般的な定型文書の作成に必要な箇条書きや段落設定などを学習します。
第4回	文書処理 (3) 表の作成	文書内に表を作成して体裁の整った文書を作成する方法を学びます。
第5回	文書処理 (4) 図形の利用	文書内にイラスト挿入したり、簡単な案内図を作成する方法について学習します。
第6回	電子メールとインターネット検索	電子メールの送受信、メール文面の書式やマナー等に加えて、検索サイトの利用について学びます。
第7回	表計算 (1) 表計算ソフトの基本操作	基本的なデータの入力方法とそれらを計算する方法を学びます。
第8回	表計算 (2) 関数の利用	各種の関数を利用してデータを効果的に集計する方法を学習します。
第9回	表計算 (3) グラフの利用	棒グラフ、円グラフ、折れ線グラフなどの基本的なグラフの作成方法を学習します。
第10回	表計算 (4) 様々な処理への応用	応用的な関数やグラフのの機能を利用して様々な処理を行う方法を学習します。
第11回	表計算 (5) 他のソフトとの連携	作成した表やグラフをWord等の文書内で連携しながら利用する方法を学びます。
第12回	試験とまとめ	演習形式の試験を実施し授業のまとめを行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業内の実習でやり残した部分があった場合は、各自で完成させておく等の事後学習を行って下さい。
本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
「30時間でマスター Excel2019」実教出版 ISBN978-4-407-34837-8

【参考書】
進捗状況に応じて授業内で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
平常点20%、課題20%、テスト60%とします。毎回授業に参加して、各回の実習で課題等をきちんとこなしながら、それらを着実に身につけて行くことが大切です。

【学生の意見等からの気づき】
受講者の学習状況に合わせた丁寧な授業進行に努めます。

【学生が準備すべき機器他】
毎回の授業は情報実習室に設置のPCを使用して行います。

【Outline (in English)】
(Course outline) The objective of this course is to acquire information literacy using word processing, spreadsheets, and the Internet.
(Learning objectives) The goal is to provide fundamental skills for accumulating, editing and summarizing information using word processing, spreadsheet and internet application software.
(Learning activities outside of classroom) If you are not able to reach the assigned goal in class, it is recommended that you complete it on your own before the next week's class.
(Grading Criteria /Policy) Grading will be decided based on in-class contribution (20%), mid-term reports (20%), and term-end examination (60%)

LIT100TC（文学 / Literature 100）

日本文芸研究特講・近代（夏期スクーリング）【オンライン】

沼田　真里

カテゴリー：**夏期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**1群夜間**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この講義では、近代文学の知識とさまざまな視点や研究手法を学びます。それらにより作品を深く読み解き、独自性のある自分の観点や発想を養うことを目指します。
前半では、正岡子規、夏目漱石、森鷗外の作品を取り上げ、三人の死生観を比較し考察します。明治期の時代状況や日本人の死生観についても併せて検討することで、作家・作品をより深く理解することを目指します。
後半では、以下のテーマから文学作品や文学に関連する事象を取り上げ、多角的な視点で近代文学を分析します。
〈コンテンツツーリズムと文学〉：文学作品が観光資源として活用される事例や、文学作品に描かれた場所を訪ねる旅の魅力を探ります。
〈郷土と文学〉：地域に根ざした文学作品を読み解き、地域の歴史や文化との関わりを考察します。具体的には、愛媛の政治家で俳人の森盲天外の作品や、文学作品に描かれた四国巡礼やお遍路の表象について考察します。
〈新資料の発掘〉:新資料を発掘した際の事例を紹介し、取材の方法や資料を分析する方法を講義し、作家研究や作品研究への理解を深めます。

【到達目標】
本授業から、以下の能力を身につけることを目標とします。
1.様々な視点や方法で作家や作品を分析し、自身の解釈や論点を構築できる。
2.文学作品が書かれた時代背景や文化・思想を学び、理解することができる。
3.独自の視点と発想から、資料を探索・調査し、それを自身の研究に活かせる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
講義形式です。定期的に学生の質問や感想を聞く機会を作ります。授業の終わりに、リアクションペーパーの提出を求めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンスと概説	本授業のガイダンス。授業全体の概説。
第2回	正岡子規	正岡子規とその作品についての講義。病・障碍の当事者としての表現や、子規の美意識について考察。
第3回	正岡子規	正岡子規の死生観と美意識について、「日本人の死生観」研究を参考に考える。
第4回	夏目漱石	夏目漱石の『こころ』『硝子戸の中』をとりあげ、漱石の死生観について考える。
第5回	夏目漱石	夏目漱石の『こころ』『硝子戸の中』をとりあげ、漱石の死生観について考える。
第6回	森鷗外／文豪と死生観のまとめ	森鷗外の作品をとりあげ、死生観を検討する。 三人の文豪の死生観の比較・検討とまとめ。
第7回	コンテンツツーリズムと文学	文学作品が観光資源として活用される事例や、文学作品に描かれた場所を訪ねる旅の魅力を探る。
第8回	郷土と文学――森盲天外	愛媛の地方政治家で俳人・視覚障碍者である森盲天外について。新資料発掘の事例をあげて解説。
第9回	郷土と文学――森盲天外	森盲天外の作品や時代的意味を検討。 明治啓蒙主義、自由民権運動との関連や、障碍当事者文学としての可能性について考察する。
第10回	日本近現代文学と四国巡礼	近現代文学作品に登場する四国巡礼者の表象について。これまでの研究と現状を解説する。
第11回	日本近現代文学と四国巡礼――井伏鱒二「へんろう宿」	井伏鱒二「へんろう宿」「虎松日記」を例に、日本の近現代文学作品に登場する、四国巡礼者の表象について検討する。
第12回	試験	授業内容の理解を問う、記述式試験を実施。 学習支援システムまたはZoomで課題を提示し、指定期間内に課題を提出します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業で取り上げる作品を読んで、受講することが望ましい。少なくとも、各作家ごとに１作品以上は目を通しておいてください。
リアクションペーパーや課題の提出は、学習支援システムを用います。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
正岡子規『墨汁一滴』（岩波文庫他）、夏目漱石『こころ』『硝子戸の中』（新潮文庫他）、森鷗外『阿部一族』『高瀬舟』（新潮文庫、角川文庫他）。文庫以外にも、文学全集や個人全集に収録されています。これら三人の作品は、青空文庫でも入手可能です。
井伏鱒二「へんろう宿」は『山椒魚』（新潮文庫）に収録。
その他のテキストは、適宜授業内で指示します。

【参考書】
森盲天外『一粒米：盲人たちの自叙伝２』（大空社）については、入手が難しいので、図書館で読むことが可能であればで可です。
井伏鱒二「虎松日記」は『井伏鱒二全集（筑摩書房)』に収録。こちらも公共図書館等にも所蔵されているので、可能ならば読んでください。
正岡子規『病牀六尺』、夏目漱石『坊ちゃん』も一部とりあげるので、可能ならば読んでおくと理解しやすいです。
その他、日本近代文学史にまつわる概説書や各作家の研究書は、授業内でも紹介します。

【成績評価の方法と基準】
リアクションペーパーなどの「平常点」が３０％、試験が７０％。
試験は、最終授業時に学習支援システムかZoomで課題を提示し、指定期間内に答案を提出します。
試験内容は論述式で、授業内容の知識を問う問題と、文学作品や作家について自分の論を展開する問題です。

【学生の意見等からの気づき】
実際の研究の事例を様々なタイプでとりあげたところ、大変参考になったという感想が多かったので、各自の卒業論文やレポート作成に活かせる内容を意識しています。

【学生が準備すべき機器他】
Zoomが利用＆視聴できる情報機器端末が必要です。
質疑応答や指名による意見交換など、Zoomでの発表では、マイクとカメラの両方があることが望ましいですが、使用できる端末が音声のみの場合は、事前にお知らせください
リアクションペーパーの提出にも、学習支援システムを使用するので、そのための情報機器が必要です。

【その他の重要事項】
オフィスアワーは、講義の前後で、Emailや学習支援システムで受け付けます。
昨年度までの『特講・近代』（夏期スクーリング）と重なる内容が多いです。再履修する場合は、その点を考慮して受講してください。
提出物や試験の文章を作成する際は、講義内容や書籍などの参考文献、信頼できるインターネット上の情報を参考にまとめ、自分の言葉で書いて提出してください。
提出物や試験において、生成AIを使用して作成した点が明らか（文章が不自然、一般論で表面的な内容をまとめている）な場合、その点を採点や評価に反映させます。
生成AIを利用したい場合は、自分が作成した文章の推敲や、持論の構想のブラッシュアップなどで利用してください。

【Outline (in English)】
This course aims to deepen your knowledge of Japanese modern literature while fostering your ability to analyze works from various perspectives and develop your own unique perspective and originality of thought in reading them.
In the first half, we will focus on the works of Masaoka Shiki, Natsume Soseki, and Mori Ogai, comparing and examining their views on life and death. We will also explore the Meiji period's social conditions and Japanese views on life and death to gain a deeper understanding of the works.
In the second half, we will analyze modern literature from a multifaceted perspective, focusing on the following themes:
Content Tourism and Literature: We will explore cases where literary works are utilized as tourism resources and the appeal of traveling to places depicted in literary works.
Literature and Local Communities: We will examine literary works rooted in local communities and explore their relationship with local history and culture.
Unearthing New Materials: We will introduce examples of the discovery of new materials and learn how to analyze them, deepening our understanding of author and work studies.

ECN300TF（経済学 / Economics 300）

日本経済論A（夏期スクーリング）【オンライン】

秋元　大輔

カテゴリー：**夏期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**1群夜間**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「日本経済論A」では「日米関係」という視点から、日本の政治経済に関する諸課題について学習する。「日米関係の中の日本経済」というグローバルな視点からアメリカが日本経済に与えてきた影響について理解することを目的とする。

【到達目標】
「日米関係」という視点から、アメリカが日本経済へと与えてきた影響について分析し、論じることができる学力を養うこと。
【Goal】
At the end of this course, students are expected to understand the impact of historical and political issues on the Japanese economy from Japan-U.S. relations and to consider and explain how the United States has influenced the Japanese economy.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
オンライン/Online

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	米国経済と日本経済	オリエンテーション（講義概要、参考図書紹介、評価方法）
第2回	江戸時代の経済と日米関係	黒船来航、日本開国、開国の経済的影響
第3回	明治時代の経済と日米関係	明治政府の財政難、新たな市場としての米国、不平等条約の改正
第4回	近代戦争の経済的影響と日米関係	ドル外交、桂・ハリマン協定、日本脅威論
第5回	大正・昭和期の経済とアメリカの影響	大戦景気、ワシントン体制、世界恐慌
第6回	世界恐慌から日米開戦へ	ブロック経済、対日経済封鎖、真珠湾攻撃
第7回	戦後の経済復興とアメリカの影響	三大経済改革、ドッジ・ライン、朝鮮特需
第8回	高度経済成長と日米関係	戦後復興、ケネディ・ラウンド、ベトナム特需
第9回	高度経済成長の終焉と日米関係	レーガノミクス、日米貿易摩擦、プラザ合意
第10回	バブル期前後の日米関係	日米半導体協定、バブル経済、湾岸戦争
第11回	平成不況と日米関係	9・11、国際金融危機、東日本大震災の影響
第12回	令和時代の経済と日米関係	米国のTPP離脱、日米貿易協定、インド太平洋経済枠組み

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の予習・復習時間は、2時間が標準。予習に関しては、講義に関連する内容について、事前にインターネットもしくは参考書等で調べること。復習については、講義ノートを読み返すこと。
【Work To Be Done Outside of Class】
Before each lecture, students will be expected to review the relevant lecture topic and complete recommended readings. Study time for each lecture is approximately two-hours.

【テキスト（教科書）】
指定なし/N/A

【参考書】
原田泰『日米関係の経済史』（ちくま新書、1995年）
五百旗頭真（編）『日米関係史』（有斐閣、2009年）
河村哲二・弘兼憲史『アメリカ経済入門』（幻冬舎、2009年）

【成績評価の方法と基準】
平常点（出席点）12％、レポート88％（アカデミック・ライティングとしての構成、講義との関連性、エビデンスなどを重視し、ワードで2000字程度）。
【Grading Criteria】
Grading will be decided based on your attendance (12%) and term paper (88%). The term paper will be examined based on criteria, such as the structure of the report, relevance to the course, evidence of research, and keeping within word limits (around 2,000 words including references).

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムと Zoom に接続できる環境と情報機器。

【その他の重要事項】
特になし。

【Outline (in English)】
This introductory course provides students with historical and political perspectives on the Japanese economy in terms of Japan-U.S. relations. In particular, the course will help students learn how the United States has influenced the Japanese economy in global politics.

ECN300TG（経済学 / Economics 300）

日本経済論Ⅰ（夏期スクーリング）【オンライン】

秋元　大輔

カテゴリー：**夏期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**1群夜間**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「日本経済論A」では「日米関係」という視点から、日本の政治経済に関する諸課題について学習する。「日米関係の中の日本経済」というグローバルな視点からアメリカが日本経済に与えてきた影響について理解することを目的とする。

【到達目標】
「日米関係」という視点から、アメリカが日本経済へと与えてきた影響について分析し、論じることができる学力を養うこと。
【Goal】
At the end of this course, students are expected to understand the impact of historical and political issues on the Japanese economy from Japan-U.S. relations and to consider and explain how the United States has influenced the Japanese economy.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「経済学」に関連

【授業の進め方と方法】
オンライン/Online

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	米国経済と日本経済	オリエンテーション（講義概要、参考図書紹介、評価方法）
第2回	江戸時代の経済と日米関係	黒船来航、日本開国、開国の経済的影響
第3回	明治時代の経済と日米関係	明治政府の財政難、新たな市場としての米国、不平等条約の改正
第4回	近代戦争の経済的影響と日米関係	ドル外交、桂・ハリマン協定、日本脅威論
第5回	大正・昭和期の経済とアメリカの影響	大戦景気、ワシントン体制、世界恐慌
第6回	世界恐慌から日米開戦へ	ブロック経済、対日経済封鎖、真珠湾攻撃
第7回	戦後の経済復興とアメリカの影響	三大経済改革、ドッジ・ライン、朝鮮特需
第8回	高度経済成長と日米関係	戦後復興、ケネディ・ラウンド、ベトナム特需
第9回	高度経済成長の終焉と日米関係	レーガノミクス、日米貿易摩擦、プラザ合意
第10回	バブル期前後の日米関係	日米半導体協定、バブル経済、湾岸戦争
第11回	平成不況と日米関係	9・11、国際金融危機、東日本大震災の影響
第12回	令和時代の経済と日米関係	米国のTPP離脱、日米貿易協定、インド太平洋経済枠組み

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の予習・復習時間は、2時間が標準。予習に関しては、講義に関連する内容について、事前にインターネットもしくは参考書等で調べること。復習については、講義ノートを読み返すこと。
【Work To Be Done Outside of Class】
Before each lecture, students will be expected to review the relevant lecture topic and complete recommended readings. Study time for each lecture is approximately two-hours.

【テキスト（教科書）】
指定なし/N/A

【参考書】
原田泰『日米関係の経済史』（ちくま新書、1995年）
五百旗頭真（編）『日米関係史』（有斐閣、2009年）
河村哲二・弘兼憲史『アメリカ経済入門』（幻冬舎、2009年）

【成績評価の方法と基準】
平常点（出席点）12％、レポート88％（アカデミック・ライティングとしての構成、講義との関連性、エビデンスなどを重視し、ワードで2000字程度）。
【Grading Criteria】
Grading will be decided based on your attendance (12%) and term paper (88%). The term paper will be examined based on criteria, such as the structure of the report, relevance to the course, evidence of research, and keeping within word limits (around 2,000 words including references).

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムと Zoom に接続できる環境と情報機器。

【その他の重要事項】
特になし。

【Outline (in English)】
This introductory course provides students with historical and political perspectives on the Japanese economy in terms of Japan-U.S. relations. In particular, the course will help students learn how the United States has influenced the Japanese economy in global politics.

MAN300TG（経営学 / Management 300）

人的資源管理論Ⅰ（夏期スクーリング）【オンライン】

田上　皓大

カテゴリー：**夏期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**1群夜間**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
人的資源管理（Human Resource Management）は、経営学・商学のなかで、経営資源としてのヒトの管理を行う学問分野です。本科目では、そうした人的資源管理の基礎として、①人的資源管理の基本的考え方、②人的資源管理にかかわる課題や論点、③日本企業の人的資源管理の現状や変化について学びます。人的資源管理論Ⅰでは特に①を中心的に学ぶことで、会社や職場でのヒトの管理に関わる制度と慣行について、理解を深めることができます。

【到達目標】
人的資源管理論Ⅰでは、人的資源管理の基礎について理解することを学習目標とします。
①人的資源管理の基本的な考え方を習得する。
②人的資源管理に関わる論点を知る。
③日本企業における人的資源管理の現状と変化について理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「経営学・商学」「自由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

【授業の進め方と方法】
講義形式で行います。配付資料に沿って講義を進めます。また、毎回の授業で10～15分の時間をとり、リアクションペーパーを提出してもらいます。リアクションペーパーは、授業内容に関連した設題に回答する形式とします。リアクションペーパーについては翌日の授業内でフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業概要の説明、基本的概念の整理
第2回	雇用管理	採用、配置・異動、雇用調整、定年
第3回	人事制度	職能資格制度、人事考課制度、昇進
第4回	能力開発	人的資本、企業内教育訓練・OJT、Off-JT・自己啓発
第5回	賃金管理と福利厚生	賃金決定、賃金体系、年功賃金、賃金制度、福利厚生
第6回	雇用システムと社会保障	日本的な経営・雇用慣行・人事管理の特徴
第7回	労働時間と勤務場所	長時間労働、労働時間短縮、弾力的な労働時間制度、テレワーク
第8回	労使関係	労働組合、集団的・個別的労使関係
第9回	多様な人材	女性、高齢者、外国人、ダイバーシティ・マネジメント
第10回	多様な働き方	非正社員、雇用類似の働き方、副業、ボランティア・NPO、労働者協同組合
第11回	まとめ	日本的な経営・雇用慣行・人事管理とその改革
第12回	試験	試験、解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。準備学習として、テキストの該当する箇所を読んでおいてください。復習として、参考書の該当箇所や、関心のあるトピックを扱った学術論文を探して読んでみましょう。また、新聞記事に日々目を通し、仕事や雇用に関する最新の情報に触れることも大事です。

【テキスト（教科書）】
『よく分かる　産業社会学』ミネルヴァ書房、上林千恵子編著、2012年、￥2,600+税

【参考書】
『新しい人事労務管理　第6版』、有斐閣、佐藤博樹・藤村博之・八代充史著、2020年、￥2,100+税

【成績評価の方法と基準】
平常点40％、試験60％で評価します。平常点には、毎回のリアクションペーパーへの評価も含めます。試験では、①人的資源管理の基本的な考え方を理解しているかだけでなく、②示されたデータから要点を読み取ることができているか、③論理的な記述をできているか、を重要な評価基準とします。

【学生の意見等からの気づき】
学生からの意見や要望には、可能な範囲で応えるようにします。意見や要望は、随時オンラインQ&Aアプリ（Slido）を用いて、あるいは毎回のリアクションペーパー上で受け付けます。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムとZoomに接続できる環境と情報機器

【その他の重要事項】
冬期開講予定の人的資源管理論Ⅱと合わせて受講することで、人的資源管理についてより深く理解することができます。本講は学術的に人的資源管理論を学ぶことを目的とする講義で、経営・労務における実務的なノウハウやスキルを教授する講義でありません。

【Outline (in English)】
Human Resource Management (HRM) is a field of study in business administration and commerce that deals with the management of "human" as management resources. In this course, students will learn (1) basic concepts of HRM, (2) issues and problems related to HRM, and (3) current situation and changes of HRM in Japanese companies. In Human Resource Management I, by focusing on (1) in particular, students will be able to deepen their understanding of the systems and practices related to HRM in companies and workplaces.

PRI200TG（情報学基礎 / Principles of informatics 200）

情報学入門（3）（データベース）（夏期スクーリング）

渡辺　英人

カテゴリー：**夏期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**1群夜間**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
大学生のための情報処理入門講座です。みなさんが自宅で使用しているパソコンを最大限有効活用できるように解説します。Microsoft Word、Excel、あるいはPowerPointやAccessなどの代表的なソフトを使って、社会科学、人文科学などを学ぶみなさんが、大学で、さらに社会や家庭でも役立つ知識と技術をわかりやすく解説し、確実に習得していただきます。文献やインターネット上から有益な情報をどのようにして検索、収集し、それを効率的に整理して、利用するかという実践的な内容です。大学で、仕事で、家庭でも将来にわたって、必ず役に立ちます！ 初心者大歓迎！！

【到達目標】
大学で学ぶ「社会科学」「人文科学」における様々な問題に、情報機器、とりわけパーソナルコンピュータとソフトウエアを効率的に利用して、それぞれの研究や学習を深める方法を受講者全員が正確に理解し、応用できるようになることが目標です。大学での研究学習のみならず、社会でも家庭でも「役に立つ」スキルを身につけよう！ 初心者大歓迎！！ 苦手な人ほど参加して欲しい！！！

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「法律学科： DP5」「日本文学科：DP1,DP4」「史学科：DP1」「地理学科：DP2,DP3」「商業学科：情報・統計学」に関連

【授業の進め方と方法】
授業ではWindows PCとMicrosoft WordおよびExcelを使います。Apple MacBookやiPad等でも復習できるように解説いたします。自宅で使っているPC機器類を有効活用し、大学での研究学習活動のみならず社会でも家庭でも必要となる知識と技術を、講義と実習形式で、わかりやすく解説します。使用するコンピュータとソフトウェアは、みなさんが日常的に使用しているものと同程度のものを使います。また、実社会においても標準的に使用されているものだけを選んで解説します。とくにMicrosoft「Word」と「Excel」は確実に覚えましょう。毎回、授業の冒頭で、前回の振り返り（復習）、課題についての講評や必要に応じて追加の解説も行います。
　講義と実習を併用するこの授業では、分からないことがあった場合にはすぐに質問し、いっしょに解決しましょう。授業中、授業後にも質問時間を設けます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	コンピューターとは何か（ハードウェアとソフトウェア）。	情報処理の基礎
第2回	キーボード入力練習から機器の取扱いとWindowsの操作法まで。	情報処理の基礎
第3回	電子メールやソーシャルメディアの利用。インターネットと大学生の研究・学習。生成AIを正しく理解し、活用する。	電子メールの利用やその他のソーシャルメディアについて。操作、利用、マナーなど解説する。インターネットを利用した効率的な情報検索、収集の基礎。
第4回	ワープロ操作（Wordによる文章入力の練習）インターネットとWordを使った課題作成。	情報処理の基礎。文書作成法。
第5回	Excelの操作法。基本操作）Excelの操作法。	表計算ソフトについて解説する。データの収集、入力、読み込み、保存、印刷。
第6回	Excelの操作法（計算機能と関数。表作成、グラフ作成）。	表計算ソフトの計算機能、作表機能、グラフ作成機能について解説する。
第7回	インターネットとExcel。情報収集と整理活用法。	ネット上から有益な情報を収集して、エクセルを利用した蓄積方法を解説する。
第8回	インターネットとExcelを活用して資料作成。（課題作成）	インターネットを利用した情報検索、収集とレポート作成。
第9回	効率的情報検索、収集、整理、再利用の方法。	ネット上に存在する有益な情報の発見、収集、蓄積、再利用方法について解説する。
第10回	データベースを作る。有益な情報の収集、蓄積、そして有効利用方法。	マイクロソフトACCESS（データベースソフト）の利用方法について解説する。（Excelで代用可能）
第11回	データベースを作る。自分にとって、重要な情報を収集、整理、蓄積、再利用。（課題作成準備）	マイクロソフトACCESS、またはExcelを使って、自分のためにデータベースを作ってみよう。
第12回	課題作成	オリジナルテーマに基づくデータベースを作成する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
必要に応じて、あらかじめ授業内容を記した資料を配付するので、復習のみならず予習、授業準備を行って欲しい。
本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書の準備はありません。必要に応じて資料を配付します。詳細については開講時に説明します。

【参考書】
開講時、および授業中に指示します。

【成績評価の方法と基準】
Word、Excel、Access等を使って、課題（50％）を作成します。ひとりひとりの理解度と授業への参加状況（平常点：50％）を合わせて評価します。

【学生の意見等からの気づき】
この授業を通して、情報処理が大学生としての研究・学習のみならず、日常生活においても積極的に応用できることが受講者に理解されている。授業の目的、目標は、大学生として、そして将来にわたって職業人、家庭人としても「役に立つ」知識や技術を身につけることに力を入れている。

【学生が準備すべき機器他】
データ保存用にUSBフラッシュメモリ等を用意してください。詳細については開講時に説明します。

【その他の重要事項】
〔受講上の注意〕
大学でのあらゆる学習・研究活動の基礎となる「実学」です。実習を伴う授業ですから参加者全員が同時にスタートし、終了することが必要です。授業に遅刻しないこと。全員が理解できるようにていねいに解説します。大学、社会、家庭でも、将来にわたり必要不可欠な知識と技術です。初心者大歓迎！ 大切なことは「意欲がある」ことだけ！「積極的に授業に参加する学生のみ」集まって欲しい！

【質問について】
授業後に質問を受け付ける。

【Outline (in English)】
This is an introductory course in information processing for university students. Using typical software such as Microsoft Word, Excel, PowerPoint, and Access, students of social sciences and humanities will acquire knowledge and skills that will be useful at university, in society, and at home. The course provides easy-to-understand explanations and ensures that students acquire knowledge and skills that will be useful to them at university, in society and at home. The practical content of the course focuses on how to search for and collect useful information from the literature and the Internet, and how to organize and use it efficiently. This course is sure to be useful at university, at work, and at home in the future! Beginners are welcome!
The goal of this course is for all students to be able to accurately understand and apply how to efficiently use information equipment, especially personal computers and software, to deepen their respective research and study on various problems in the "social sciences" and "humanities" they study at university. Acquire skills that will be "useful" not only for research and study at the university, but also in society and at home! Beginners are welcome! The more you are not good at it, the more we want you to participate!
If necessary, materials describing the contents of the class will be handed out in advance, so please prepare for the class and prepare for the class as well as review.
The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
Assignments (50%) will be made using Word, Excel, Access, etc. Each student's level of understanding and participation in class (normal score: 50%) will be combined for evaluation.

PRI200TF（情報学基礎 / Principles of informatics 200）

コンピュータ入門（3）（データベース）（夏期スクーリング）

渡辺　英人

カテゴリー：**夏期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**1群夜間**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
大学生のための情報処理入門講座です。みなさんが自宅で使用しているパソコンを最大限有効活用できるように解説します。Microsoft Word、Excel、あるいはPowerPointやAccessなどの代表的なソフトを使って、社会科学、人文科学などを学ぶみなさんが、大学で、さらに社会や家庭でも役立つ知識と技術をわかりやすく解説し、確実に習得していただきます。文献やインターネット上から有益な情報をどのようにして検索、収集し、それを効率的に整理して、利用するかという実践的な内容です。大学で、仕事で、家庭でも将来にわたって、必ず役に立ちます！ 初心者大歓迎！！

【到達目標】
大学で学ぶ「社会科学」「人文科学」における様々な問題に、情報機器、とりわけパーソナルコンピュータとソフトウエアを効率的に利用して、それぞれの研究や学習を深める方法を受講者全員が正確に理解し、応用できるようになることが目標です。大学での研究学習のみならず、社会でも家庭でも「役に立つ」スキルを身につけよう！ 初心者大歓迎！！ 苦手な人ほど参加して欲しい！！！

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP4」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】
授業ではWindows PCとMicrosoft WordおよびExcelを使います。Apple MacBookやiPad等でも復習できるように解説いたします。自宅で使っているPC機器類を有効活用し、大学での研究学習活動のみならず社会でも家庭でも必要となる知識と技術を、講義と実習形式で、わかりやすく解説します。使用するコンピュータとソフトウェアは、みなさんが日常的に使用しているものと同程度のものを使います。また、実社会においても標準的に使用されているものだけを選んで解説します。とくにMicrosoft「Word」と「Excel」は確実に覚えましょう。毎回、授業の冒頭で、前回の振り返り（復習）、課題についての講評や必要に応じて追加の解説も行います。
　講義と実習を併用するこの授業では、分からないことがあった場合にはすぐに質問し、いっしょに解決しましょう。授業中、授業後にも質問時間を設けます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	コンピューターとは何か（ハードウェアとソフトウェア）。	情報処理の基礎
第2回	キーボード入力練習から機器の取扱いとWindowsの操作法まで。	情報処理の基礎
第3回	電子メールやソーシャルメディアの利用。インターネットと大学生の研究・学習。生成AIを正しく理解し、活用する。	電子メールの利用やその他のソーシャルメディアについて。操作、利用、マナーなど解説する。インターネットを利用した効率的な情報検索、収集の基礎。
第4回	ワープロ操作（Wordによる文章入力の練習）インターネットとWordを使った課題作成。	情報処理の基礎。文書作成法。
第5回	Excelの操作法。基本操作）Excelの操作法。	表計算ソフトについて解説する。データの収集、入力、読み込み、保存、印刷。
第6回	Excelの操作法（計算機能と関数。表作成、グラフ作成）。	表計算ソフトの計算機能、作表機能、グラフ作成機能について解説する。
第7回	インターネットとExcel。情報収集と整理活用法。	ネット上から有益な情報を収集して、エクセルを利用した蓄積方法を解説する。
第8回	インターネットとExcelを活用して資料作成。（課題作成）	インターネットを利用した情報検索、収集とレポート作成。
第9回	効率的情報検索、収集、整理、再利用の方法。	ネット上に存在する有益な情報の発見、収集、蓄積、再利用方法について解説する。
第10回	データベースを作る。有益な情報の収集、蓄積、そして有効利用方法。	マイクロソフトACCESS（データベースソフト）の利用方法について解説する。（Excelで代用可能）
第11回	データベースを作る。自分にとって、重要な情報を収集、整理、蓄積、再利用。（課題作成準備）	マイクロソフトACCESS、またはExcelを使って、自分のためにデータベースを作ってみよう。
第12回	課題作成	オリジナルテーマに基づくデータベースを作成する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
必要に応じて、あらかじめ授業内容を記した資料を配付するので、復習のみならず予習、授業準備を行って欲しい。
本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書の準備はありません。必要に応じて資料を配付します。詳細については開講時に説明します。

【参考書】
開講時、および授業中に指示します。

【成績評価の方法と基準】
Word、Excel、Access等を使って、課題（50％）を作成します。ひとりひとりの理解度と授業への参加状況（平常点：50％）を合わせて評価します。

【学生の意見等からの気づき】
この授業を通して、情報処理が大学生としての研究・学習のみならず、日常生活においても積極的に応用できることが受講者に理解されている。授業の目的、目標は、大学生として、そして将来にわたって職業人、家庭人としても「役に立つ」知識や技術を身につけることに力を入れている。

【学生が準備すべき機器他】
データ保存用にUSBフラッシュメモリ等を用意してください。詳細については開講時に説明します。

【その他の重要事項】
〔受講上の注意〕
大学でのあらゆる学習・研究活動の基礎となる「実学」です。実習を伴う授業ですから参加者全員が同時にスタートし、終了することが必要です。授業に遅刻しないこと。全員が理解できるようにていねいに解説します。大学、社会、家庭でも、将来にわたり必要不可欠な知識と技術です。初心者大歓迎！ 大切なことは「意欲がある」ことだけ！「積極的に授業に参加する学生のみ」集まって欲しい！

【質問について】
授業後に質問を受け付ける。

【Outline (in English)】
This is an introductory course in information processing for university students. Using typical software such as Microsoft Word, Excel, PowerPoint, and Access, students of social sciences and humanities will acquire knowledge and skills that will be useful at university, in society, and at home. The course provides easy-to-understand explanations and ensures that students acquire knowledge and skills that will be useful to them at university, in society and at home. The practical content of the course focuses on how to search for and collect useful information from the literature and the Internet, and how to organize and use it efficiently. This course is sure to be useful at university, at work, and at home in the future! Beginners are welcome!
The goal of this course is for all students to be able to accurately understand and apply how to efficiently use information equipment, especially personal computers and software, to deepen their respective research and study on various problems in the "social sciences" and "humanities" they study at university. Acquire skills that will be "useful" not only for research and study at the university, but also in society and at home! Beginners are welcome! The more you are not good at it, the more we want you to participate!
If necessary, materials describing the contents of the class will be handed out in advance, so please prepare for the class and prepare for the class as well as review.
The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
Assignments (50%) will be made using Word, Excel, Access, etc. Each student's level of understanding and participation in class (normal score: 50%) will be combined for evaluation.

GEO300TE（地理学 / Geography 300）

現地研究（夏期スクーリング）

小原　丈明

カテゴリー：**夏期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**1単位**
期間：**1群前半集中**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
岩手県盛岡市およびその周辺地域を対象として，長い時間軸の中で都市がどのように形成および変容してきたのか学ぶことを目的とします。また，現代の都市におけるまちづくりや産業の動向についても学びます。以上を通じて，都市における経済や政治，開発のメカニズムについて考えます。

【到達目標】
本授業（現地研究）を通じて，以下の点を修得できるようになることが目標となります。
①都市地理学や都市計画学の観点から，都市形成や都市（圏）構造，都市機能について理解できるようになる。
②都市形成や都市変容に関わるさまざまな要因について理解し，それら要因の関係性について考えられるようになること。
③都市における諸事象について，空間軸だけでなく時間軸に位置付けて考えられるようになること。
④現地の産業が形成されてきた要因を理解できるようになるとともに，現状の利点や問題点について考察できるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
主として，現地調査と担当者による解説，相互討論を通じて学んでいきます。現地調査には観察を中心とする実地調査や施設の見学，ヒアリングなどが含まれます。また，現地研究中に，各自が学んだ点についての発表や討論を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	1日目　オリエンテーション	現地研究の狙い・進め方について
第2回	自然条件と都市形成	盛岡市の都市形成と自然条件との関わりを考える
第3回	歴史と都市形成	盛岡市の都市形成の歴史的経緯を考える
第4回	都市計画・都市開発・まちづくり	盛岡市のまちづくりの功罪を考える
第5回	2日目　地場産業と地域経済①	食料品製造業の見学・探訪
第6回	地場産業と地域経済②	農林業の見学・探訪
第7回	地場産業と地域経済③	観光業の見学・探訪
第8回	地場産業と地域経済④	鋳物業の見学・探訪
第9回	3日目　郊外開発地の実態①	早期の郊外開発地の現状と問題点
第10回	郊外開発地の実態②	新規の郊外開発地の特徴・狙いと問題点
第11回	都市と交通	交通網の整備と都市（圏）構造の変容
第12回	まとめ・総括	現地研究を通じての論点整理・ディスカッション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
事前に，各自で盛岡市の概要など基本的な事項について理解しておいてください。なお，事前に配布する資料に参考書等の情報を記載するので，その情報を事前学習に活用して下さい。
本授業は実習系の授業に該当するため，各回の授業外学習が1時間以上が標準となりますが，現地研究は集中講義形式であるため，その限りではありません。ただし，上記の事前学習とともに，事後のレポート課題があるので，多くの授業外学習が求められると理解しておいて下さい。

【テキスト（教科書）】
特定のテキストは使用しません。現地研究で使用するレジュメ・資料は担当者が作成し，配布します。

【参考書】
事前に資料を配布する際に提示します。

【成績評価の方法と基準】
現地研究中に対する参加の姿勢（積極性，発言などを総合的に評価）（40％），および事後に提出してもらうレポート課題（60％）によって評価します。

【学生の意見等からの気づき】
できるだけ受講者が能動的に取り組めるような授業内容を心掛けます。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムやEメールにて事前指導を行うこともあるので，添付ファイルが受信できるように設定しておいてください。

【その他の重要事項】
・実施期間：2024年7月22日（月）～7月24日（水）
・実施場所：岩手県盛岡市およびその周辺地域（雫石町など）
・費用（宿泊費等）：3万円～3.5万円程度（宿泊費・朝食代・施設使用料金・バスチャーター代金等）
・見学施設等：未定
・宿泊場所：未定（盛岡市内を予定）
※暑い時期に現地研究を行うので，健康への対策は各自で行うよう留意して下さい。
※授業の性格上，多くの徒歩による移動を伴うことを理解しておいて下さい。
※未定部分などの詳細については，改めて連絡します。
※費用や巡検の内容については変更の可能性があります。

【Outline (in English)】
Excursion and Field work survey in Morioka city, Iwate prefecture. We will learn about the urban formation, urban structure, machizukuri, local industries, local economy and their lives.
Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than one hour for a class.
Final grade will be calculated according to the following process Term-end report (60%), and in-class contribution (40%).

GEO300TE（地理学 / Geography 300）

現地研究（夏期スクーリング）

齋藤　圭

カテゴリー：**夏期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**1単位**
期間：**1群後半集中**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
大分県央～県南地域を対象に，「水」と「火山活動」に伴う熱水の形成および地形プロセスを学ぶと共に，人間の営みの歴史を学ぶことを目的とします。本授業を通じて，文理の垣根を越えた地域研究の方法論に触れ，そこに地理学的視点がどのように位置づくのかを探究していきます。

【到達目標】
本授業（現地研究）を通じて，以下の点を修得できるようになることが目標となります。
①地下で生成される熱水（いわゆる温泉）の泉質が化学的にどのように形成されるのかを理解できるようになる
②熱水の水源がどこで得られ，どこを流動しているのかを知るための水文学的アプローチを理解し，地理的背景と関連付けて考えられるようになる
③火山活動に起因する地質的特徴とそれに紐づけられる地形プロセスを理解できるようになる
④諸々の自然現象に対する理解を深めつつ，それらが人間活動にどう影響を及ぼしてきたのか考えられるようになる
⑤以上を踏まえつつ，地域の歴史を解明するうえでのフィールドワークの意義と地理学分野に求められる素養について考えられるようになる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
主として，現地調査と担当者による解説，ディスカッションによって授業が構成されます。現地調査には観察を中心とする実地調査や施設の見学などが含まれます。
行程（予定）は以下の通りです。
1日目：別府駅現地集合。鉄輪～明礬周辺の温泉を見学する
2日目：県南地域（長湯、竹田、緒方）を巡り，二酸化炭素泉，原尻の滝，周辺集落などを見学する
3日目：臼杵市街を散策して解散
現地研究中に，各自が学んだ点についての発表や討論を行う場合があります。なお，現地研究中での発表や討論の内容に対するフィードバックは適宜行うとともに，事後のレポート課題に対してはコメント等の返却を通じてフィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	別府温泉の全体像	別府の地理と温泉の地球科学について紹介します
第2回	食塩泉について	別府温泉で最も重要な泉質と考えられている、食塩泉について紹介します。
第3回	硫酸・酸性泉について	蒸気加熱型熱水の一つである硫酸・酸性泉について紹介すると同時に、近年の研究成果によって得られた新たな治験についても触れます。
第4回	炭酸水素塩泉について	蒸気加熱型熱水の一つである炭酸水素塩泉について紹介します。また、地下水の賦存量を知ることの大切さについても触れます。
第5回	二酸化炭素泉について	別府温泉には無いとされる二酸化炭素泉について紹介します。
第6回	大分県南部の自然環境と町並みについて1	岡城と城下町の立地及び周辺自然環境について紹介します。
第7回	大分県南部の自然環境と町並みについて2	原尻の滝の後退速度と緒方荘の景観復元について紹介します。
第8回	大分県南部の自然環境と町並みについて3	緒方荘と八幡信仰の関係について紹介します。
第9回	臼杵と自然環境について1	臼杵の町並みと自然環境の関係について紹介します。
第10回	臼杵と自然環境について2	寺の立地と井戸の関係について紹介します。
第11回	臼杵と自然環境について3	臼杵城の古地図を元に当時の町並みの特徴について紹介します。
第12回	臼杵と自然環境について3	地下水とそれを利用した伝統産業について紹介します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
事前に，各自で地域概要など基本的な事項について理解しておいてください。また，高校化学（無機化学）および高校日本史（荘園や村落）について復習されることを推奨します。
本授業は実習系の授業に該当するため，各回の授業外学習が2時間以上が標準となります。

【テキスト（教科書）】
特定のテキストは使用しません。現地研究で使用するレジュメ・資料は担当者が作成し，配布します。

【参考書】
大沢信二・西村進（2016）：『温泉と地球科学』．ナカニシヤ出版．
日本温泉科学会（2020）：『図解　日本の温泉―170温泉のサイエンス―』．朝倉書店．
アラン ベイカー（2009）：『地理学と歴史学―分断への架け橋―』．金田章裕 監訳，社原書房．

【成績評価の方法と基準】
授業への積極的参加（40％）および事後レポート課題（60％）によって評価します。

【学生の意見等からの気づき】
初担当科目のため、特にありません。

【学生が準備すべき機器他】
現地連絡や電子地図を利用できるよう，スマートフォンを携帯することを推奨します。
事後レポートやフィードバックのため，学習支援システムを利用できるようにしていてください。

【その他の重要事項】
・実施期間：2024年7月25日（木）～27日（土）
・実施場所：大分県中部～南部地域（別府市，竹田市，豊後大野市，臼杵市など）
・費用（宿泊費等）：3万円程度（宿泊費・朝食代・現地交通費等）
・見学施設等：未定
・宿泊場所：未定（別府市，臼杵市を予定）
※暑い時期に現地研究を行うので，各自健康対策をお願いします。
※雨天決行ですので、雨具の準備をお願いします。
※未定部分などの詳細については，改めて連絡します。
※新型コロナウイルスなどの状況により，費用や巡検の内容については変更の可能性があります。

【Outline (in English)】
The objective of this course is to study hydrothermal formation and geomorphic processes associated with "water" and "volcanic activity" in the central to southern regions of Oita Prefecture, as well as to study the history of human activities. Through this class, students will be exposed to methodologies of regional studies that transcend the boundaries between the humanities and sciences, and will explore how geographical perspectives can be placed in such studies.
Through this class (field research), students should be able to acquire the following points.

(1) To be able to understand how the quality of hydrothermal water (so-called hot spring) produced underground is chemically formed.
(2) To be able to understand the hydrological approach to understand where hydrothermal water is obtained and where it flows, and to be able to relate this to the geographical background.
(3) To be able to understand geological features caused by volcanic activities and the geomorphic processes associated with them.
4) To deepen understanding of various natural phenomena and to consider how they have affected human activities.
(5) Based on the above, to be able to consider the significance of fieldwork in elucidating regional history and the qualities required in the field of geography.
Please make sure that you have a basic understanding of the region in advance. It is also recommended that students review high school chemistry (inorganic chemistry) and high school Japanese history (manors and villages).
Since this class is a hands-on class, at least 2 hours of study outside of class for each session is the standard.
Evaluation will be based on active participation in class (40%) and post-class report (60%).

GEO300TE（地理学 / Geography 300）

写真・読図演習（1）（夏期スクーリング）

八木　浩司

カテゴリー：**夏期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**1群後半集中**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
地形面の概念を把握したうえで，活断層による地形面の変位，地すべり・崩壊などの斜面のマス・ムーブメント現象を理解する．

【到達目標】
活断層や地すべり現象による地形面の変形とは何かを理解した上で，空中写真判読により，活断層による地形の変形地すべり,崩壊等の斜面変動を自分自身で認定できるようにする．さらに，各自が居住したりしたことのある地域を選び，そこの地形災害の状況を把握出来るようにする．さらにそこで将来地変の発生しそうな地変を予想できるようにする．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
講義形式で用語等の解説をした後，配付資料を用いて空中写真判読を進めながら地形面の変位現象を捉える演習を行う．判読結果のプレゼンをおこなうことで受講者間での情報交換を進める．
[課題やレポートに対するフィードバック方法]
本演習は，地形理解のための実践的なスキル獲得を主目的としていることから，各テーマ毎に課題の結果を提出してもらいます．それらに対して評価をおこない修正すべき点をそれぞれ指示します．また，プレゼンテーションもあるので，そこでのコメントも行います．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	1. 地形景観を読む	環境の基層構造として地形を以下に認識するか
第2回	2. 地形面とは何か	景観の中に隠れた段差を読み取る．地形図に示された浸食面，段丘崖，段丘面を読み取る．事例として東京，大阪，仙台西部等を取り上げる．
第3回	3.地形面を読み取る	地形図上に示された扇状地を読み取る．札幌，山形，胆沢，松本，富山，武蔵野
第4回	4.地形図上で活断層による垂直変位を読み取る1	扇状地や段丘面など数万年以降形成された平坦な地形面の変形を地形図で読み取る．京都，福島，鳥海山山麓部，長野盆地西縁
第5回	5.地形面上で活断層による垂直を読み取る2	扇状地や段丘面など数万年以降形成された平坦な地形面の変形を地形図で読み取る．斜里，飯山，山形盆地西縁，琵琶湖西岸，
第6回	6.空中写真で活断層による変位を読み取る	扇状地や段丘面など数万年以降形成された平坦な地形面の変形を空中写真で読み取る．山崎断層，三浦半島，吉野川左岸
第7回	7.地すべりとは何か 地すべり地形を読み取ろう	山地斜面を変形させる現象としての地すべり．空中写真と地形図を用いて地すべり地形を読み取る．南八甲田
第8回	8.地すべり地形を読み取る1	空中写真と地形図を用いて地すべり地形を読み取る． 町居崩れ，定義地すべり，羽後川井，岩倉山崩
第9回	9.地形図を作る1	国土地理院の地図サイトから陰影図や傾斜分布などのさまざま地形表現を学び，それらの重ね合わせてより立体的な地形図を自身で作り出すことが出来ることを学ぶ．
第10回	10.地形図を作る2	GIS ソフトを使って地形図作りにチャレンジする．自身が最も関心を持つ地域について，DEMデータをダウンロードし，さまざまな地形表現法を駆使して見やすい地形図作に挑む．
第11回	11.地すべり地形判読実践	受講者が選んだ地域の地すべり地形判読実習 対象地域：羽後川井，小谷温泉，加奈木崩などの地すべり地形についてグループ毎に地すべり地形判読図を作成する．
第12回	12.地すべり地形判読実践プレゼンテーション	受講者による地すべり判読地形判読結果のプレゼンテーション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
国土地理院のウェブサイトから空中写真をダウンロードして予習されるとを勧めます．また可能なら，数値地図をダウンロードし地図が作れるようにして下さい．
本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
あえて指定しません．参考図書を読んでおいてください．

【参考書】
「活断層とは何か」池田安隆ほか，東大出版会，1996年
「建設技術者のための土砂災害の地形判読実例問題 中・上級編」井上公夫，古今書院，2006年
「Landslide Handbook」Highland et al.USGS,https://pubs.usgs.gov/circ/1325/pdf/C1325_508.pdf
「図説　日本の活断層」岡田篤正，八木浩司，朝倉書店，205頁，ISBN978-4-254-16073-4C3055
「斜面防災危険度評価ハンドブック」日本地すべり学会，朝倉書店．125頁，ISBN 978-4-354-26173-8
「図説空から見る日本の地すべり・山体崩壊」,八木浩司・井口隆,朝倉書店,168頁，ISBN978-4-254-16278-3

【成績評価の方法と基準】
授業中の作業資料の提出（8割），プレゼンテーション（2割）で評価します．
60点以上を合格とする．

【学生の意見等からの気づき】
過去実施の授業をふまえ，学生による地すべり地形判読結果を，グループ毎に発表し参加者全員で批評しあうことを追加した．

【学生が準備すべき機器他】
ノート型パソコンあるいはパッドから地理院地図に入ると便利です．

【Outline (in English)】
Outline and objectives of this subject is how to detect deformation of ground surface due to tectonic movement and gravity understanding the concept of geomorphological surface.
Learning activities outside of classroom is to use GSI Map really well at GSI website.
Grading criteria is how student can topographic surfaces well through interpretation of aerial photographs and topographic maps. Detail and clear mapping is required for getting good marks.

HIS100TA（史学 / History 100）

東洋史（夏期スクーリング）

齋藤　勝

カテゴリー：**夏期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**2群午前**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
前近代における中国世界の形成と拡大
中国の前近代史を概括的にとらえながら、世界史の中における中国、現代世界における中国の位置づけについて考える。

【到達目標】
漢民族及びその伝統的領域・文化の形成過程を理解すること、それを根幹として今日の多民族世界としての中国の形成過程と問題点、中国の文化が東アジア世界に与えた影響、ユーラシア世界の変動の中での位置づけについて理解を深めることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP3」「史学科：DP1, DP3」「地理学科：DP1」「経済学科：DP6」「商業学科：幅広い教養」に関連

【授業の進め方と方法】
講義形式で行う。レポートについてのフィードバックは、最終授業の時間中に対面にて行う。授業・レポートに関する個別の質疑には授業後に応じる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	中華文明の始まり	黄河文明と初期王朝
第2回	中華思想の始まり	春秋戦国時代
第3回	中華帝国の始まり	秦と漢の天下統一
第4回	中華帝国と中国世界	漢の武帝と帝国の完成
第5回	中華の分裂	後漢から魏晋南北朝時代へ
第6回	中華帝国の再生	隋唐帝国
第7回	中国の社会と文化の変容	唐宋時期の変革
第8回	中国の統一と地方	五代十国から北宋へ
第9回	漢民族と異民族	遼・金と南宋
第10回	ユーラシア世界の変動と中国	モンゴル・元とユーラシア世界
第11回	漢民族王朝の復活と崩壊	明から清へ
第12回	スクーリング試験および解説	試験とその正答に関する解説、質疑

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・復習時間は、各２時間を標準とします。
初回に配布するプリントによって事前に知識を深めてきてもらいます。

【テキスト（教科書）】
特になし。

【参考書】
随時、紹介していきます。

【成績評価の方法と基準】
レポート100％
講義で扱ったテーマについて論述してもらいます。講義の内容の理解とまとめ方を評価の対象にするつもりです。

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【Outline (in English)】
Outline:Surveying the history of premodern China.
Objectives:Considering how the traditional "China" had been formed.
Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Grading criteria/policy: Term-end report(100%)

CHM100TA（その他の化学 / Chemistry 100）

化学３（実験）（夏期スクーリング）

中田　和秀

カテゴリー：**夏期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**2群午前**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
有史以来、人類は多くの有用な化学物質をつくりだして生活に利用してきました。近年、化学の著しい進歩によって化学製品の性能は飛躍的に上がり、高度な現代文明の一翼を担っています。しかし、同時に耐久性も増したことで、人々が物質に関心をもつ機会が減少してきたように思えます。本授業では、いろいろな物質の合成や分析を体験し、「物質」に関する基礎的な理解を深めることを目的とします。

【到達目標】
本授業では、石けんからエッセンシャルオイルまで、我々に身近な物質を幅広く取りあげます。化学実験を取り入れた授業を行い、各テーマに現れる物質の性質や反応について基礎的に理解することを目標とします。作成したものの一部は持ち帰ることが出来るので、授業に対する興味が増すと思われます。また、これまで化学を履修したことがなくても授業を理解できるように配慮します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP3」「史学科：DP1, DP3」「地理学科：DP1」「経済学科：DP3, DP7」「商業学科：幅広い教養」に関連

【授業の進め方と方法】
第１回の授業でプリント教材を配布します。そのプリント教材をよく読んでから授業に臨んでください。各テーマごとに講義、演習、および、実験を取り入れた授業を行います。最初に各実験に関する注意事項の説明を受けた後、各自またはグループで実験を行います。注意事項には実験器具の操作や危険な薬品に関する情報が含まれます。注意を聴かずに実験にのぞむと火災や失明などの重大な事故を招く恐れがあるので遅刻はしないで下さい。各テーマ毎に課題として演習問題や実験レポートの作成・提出を行います。完成した課題は、基本的に翌日の授業開始時までに提出します。それらの課題については次回の授業内でフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の目的と概要を説明します。また、実験を行う上での注意事項の説明を行います。
第2回	香料(ラベンダー)の精製	水蒸気蒸留によってラベンダーのつぼみから精油を取り出します。
第3回	香料(ラベンダー)の分析(1)	薄層クロマトグラフィーの原理を学習し、薄層プレートやキャピラリの準備を行います。
第4回	香料(ラベンダー)の分析(2)	ラベンダー精油について薄層クロマトグラフィーを行い、成分の分析を行います。
第5回	定量分析	キレート滴定や中和滴定など、定量分析の手法や理論について解説を行います。
第6回	水中のカルシウムイオンの定量	天然水や水道水など、種々の水に含まれるカルシウムイオンの定量分析を行います。
第7回	けん化価の測定(1)	種々の油脂から石けんを合成する際に必要なけん化価について定義や測定方法を解説する。
第8回	けん化価の測定(2)	ヤシ油のけん化価を中和滴定によって測定します。
第9回	けん化価の測定(3)	ラードのけん化価を中和滴定によって測定します。
第10回	けん化価の測定(4)	測定されたけん化価から石けんを合成する際に必要な水酸化ナトリウムの量を計算する。
第11回	石けんの合成(1)	ヤシ油とラードの混合油脂から石けんを合成する。
第12回	石けんの合成(2)	ヤシ油とラードの混合油脂から石けんを合成する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・復習時間は、各２時間を標準とします。できるだけ早い段階で、プリント教材を通読して授業に臨んでください。各授業終了後は、データ整理や発展的な読書を行って課題やレポート作成をおこなってください。

【テキスト（教科書）】
授業ではプリント教材を配布して使用します。教科書は使用しません。

【参考書】
授業中に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
期末試験は実施しません。成績は、各テーマ毎に提出する課題やレポート（50 %）、および、平常点（50 %）によって決定されます。

【学生の意見等からの気づき】
実験を体験できる授業は非常に楽しく有意義であるとのことですので、引き続きそのような授業形式で進めてまいります。

【学生が準備すべき機器他】
いろいろな化学薬品やガスバーナー等を使用しますので、動きやすい服装で参加してください。髪の長い方は、安全のため、束ねるなどしていただくことをお勧めします。

【その他の重要事項】
特にありません。

【Outline (in English)】
Since the dawn of history, human beings have synthesized a variety of useful chemical substances to utilize them in daily lives. In recent years, performances of chemical products have exponentially improved with the rapid progress of chemistry and chemical technology, which play a part of advanced modern civilization. On the other hand, our interests on such chemical substances seem to have unfortunately decreased with the increase of their durability. In this lecture, students perform various kinds of chemical experiments such as analyses, syntheses, and so on. Understanding chemistry in the fundamental viewpoint through experiments is the purpose of this lecture. Studying time will be more than two hours for a class. Students will be expected to have completed the required assignments and lab reports. Overall grade in the class will be decided based on the following; assignments and lab reports: 50%、in class contribution: 50%.

LANe100TA（英語 / English language education 100）

英語Ｓ（３）（夏期スクーリング）

吉田　季実子

カテゴリー：**夏期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**1単位**
期間：**2群午前**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
海外向けのニュース番組という最新の身近な題材を通して、英語のListening, Reading, Writing, Speakingの技能を高める

【到達目標】
実際に放送されている英語での海外向けニュース映像を見て、身近な話題に関しては日本語字幕なしでも内容が理解できるようになるまた実際に話されている文章についてもある程度まで聞き取れるようになる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP3」「史学科：DP1, DP3」「地理学科：DP1」「経済学科：DP6, DP8」「商業学科：幅広い教養」に関連

【授業の進め方と方法】
テキストの課題に添って進めていくが、各章の終わり事に確認の小テスト、問題演習を行う。
テキスト内で使用されている音声を、別途ダウンロードして視聴が必須となるがそちらについては毎回指示
最終授業で、講義内容のまとめや復習だけでなく、授業内で行った試験や小レポート等、課題に対する講評や解説も行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	Unit1	単語や表現を確認 映像をみての問題演習
第2回	Uint1	聞き取りと本文の和訳 英作文
第3回	Unit1/2	Unit1の小テスト Unit2 単語や表現を確認 映像をみての問題演習
第4回	Unit2	聞き取りと本文の和訳 英作文
第5回	Unit2/3	Unit2の小テスト Unit3 単語や表現を確認 映像をみての問題演習
第6回	Unit3	聞き取りと本文の和訳 英作文
第7回	Unit3/4	Unit3の小テスト Unit4 単語や表現を確認 映像をみての問題演習
第8回	Unit4	聞き取りと本文の和訳 英作文
第9回	Unit4/5	Unit4の小テスト Unit5 単語や表現を確認 映像をみての問題演習
第10回	Unit5	聞き取りと本文の和訳 英作文
第11回	Unit5/6	Unit5の小テスト Unit6 単語や表現を確認 映像をみての問題演習
第12回	Unit6	聞き取りと本文の和訳 英作文

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。
小テストに合わせて前回学習範囲の復習をすること
また各章冒頭、表題とその下のページは予習の時に目を通しておくことが望ましい

【テキスト（教科書）】
NHK NEWSLINE7
山﨑達朗
金星堂　2024年　2500円（税別）

【参考書】
特になし

【成績評価の方法と基準】
小テスト80％
平常点20％

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
辞書
また、自宅学習用のオンライン教材があるので
それを再生できるPC　スマートフォンなどのメディア機器があると望ましい

【その他の重要事項】
学習支援システムを使用する可能性があります

【Outline (in English)】
This course introduce students 4 skills of English (Reading, Writing, Listening, Speaking) through NHK news.
The goals of this course are to understand the familiar topics in English.
Students will be expected to have completed the required assignments before each class meeting. Your study time will be more than an hour.
Your overall grade in the class will be based on the following, Short tests 80%, in class contribution 20%

LANe100TA（英語 / English language education 100）

英語Ｓ（4）（夏期スクーリング）

大曲　陽子

カテゴリー：**夏期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**1単位**
期間：**2群午前**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
CNN International シリーズ2024年版を教材として、経済不況や震災、コロナウィルスといった世界的な混迷の中にあっての世界情勢を、ナマのニュース英語で理解していく。

【到達目標】
タイムリーなトピックを取り上げ、リスニング、リーディング、ライティング､スピーキング学習を通して、英語資格試験のためではなく、変化する社会情勢を的確に把握し、異なる意見を持つ人たちと対等に渡り合える英語力、批判的な視点の持ち方を身に着けていく。高い英語力だけでなく、社会的教養を身に着けることも目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち､「法律学科：DP5」「日本文学科：DP3」「史学科：DP1, DP3」「地理学科：DP1」「経済学科：DP6, DP8」「商業学科：幅広い教養」に関連

【授業の進め方と方法】
本授業は12回全てを対面授業とします。
本授業で扱うUnitは、次に指定する6つのUnit　とする。
Unit 1, 5, 6, 7, 9, 12
予習の際気をつけること。
ほぼ2回の授業で1つのUnitを学習する。1回目の授業ではDefinitionで語彙を学習し、Examplesを完成させる。ニュースの音声を聞いてディクテーションし、リスニングに挑戦する。2回目の授業では、ニュースクリプトの内容理解を行い、TF問題で仕上げをする。
Unit一つ終了ごとに語彙の小テストを行う。
グループワークを行うことがある。
課題等に対するフィードバック方法
毎回課題の提出がある。次回授業時に返却される。
小テストは採点返却される。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス Unit 1 Seven Decades of Service	初回授業説明 definition、Examplesの確認。 全員でリスニングをしてニュースクリプトの完成させる。
第2回	Unit 1 エリザベス女王と王室の軌跡	スクリプト、ニュース内容の確認（和訳） 内容のTF問題
第3回	Unit 5 Victory in the Kitchen	Unit 1 語彙テストdefinition、Examplesの確認。 全員でリスニングをしてニュースクリプトの完成させる。
第4回	Unit 5 ボルシチ戦争の勝者はウクライナ？ ユネスコの決定にロシア反発	スクリプト、ニュース内容の確認（和訳） 内容のTF問題
第5回	Unit 6 Controversial Debt Relief	Unit 5 語彙テストdefinition、Examplesの確認。 全員でリスニングをしてニュースクリプトの完成させる。
第6回	Unit 6 最大2万ドルの学生ローン返済免除へ	スクリプト、ニュース内容の確認（和訳） 内容のTF問題
第7回	Unit 7 Controversial Debt Relief	Unit 6 語彙テストdefinition、Examplesの確認。 全員でリスニングをしてニュースクリプトの完成させる。
第8回	Unit 7 産みの苦しみ　世界最低の出生率にあえぐ韓国	スクリプト、ニュース内容の確認（和訳） 内容のTF問題
第9回	Unit 9 Creative Thinking	Unit 7語彙テストdefinition、Examplesの確認。 全員でリスニングをしてニュースクリプトの完成させる。
第10回	Unit 9 今話題の言語処理人工知能、Chat GPTを使ってみた	スクリプト、ニュース内容の確認（和訳） 内容のTF問題
第11回	Unit 12 Goofy Gadgets	Unit9 語彙テストdefinition、Examplesの確認。 全員でリスニングをしてニュースクリプトの完成させる。
第12回	Unit 12 最新機器よ集まれ！世界最大のテクノロジー見本市CES 期末試験	内容のTF問題 期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.
授業前の準備としては、ニュース音声をしっかりと聞いてディクテーションを行う。テキストのDefinition 、Examples はしっかりと調べて完成させておく。
その他未知な語彙があれば徹底的に調べておく。
ニュースのリスニングは、授業で一緒に行いますが、適宜和訳も行うので、授業前に音声を聴いておいたほうがより効果的です。
翌日前半授業の冒頭で前日の語彙テストを行いますがそのときの出題範囲はJudgments To Makeのページとします。

【テキスト（教科書）】
CNN ビデオで見る世界のニュース（25）
朝日出版　2420円（税込 ）

【参考書】
特になし。
辞書必携。

【成績評価の方法と基準】
● 授業内課題提出　20%

● 小テスト 10点×5回分 50点　30%
● 期末試験　50%
＊　6日間合計12コマのうち8コマ以上の出席していること。（各コマの遅刻、もしくは早退は、0.5コマ分の出席としてカウントする。）
＊　最終日（試験日）のみ、前半授業を2コマとしてカウントする。（欠席は2コマ分の欠席、遅刻、早退は1コマ分の欠席とする。）

【学生の意見等からの気づき】
Unit に関連したプリント教材を配布する。

【学生が準備すべき機器他】
課題にリスニングが含まれるので、教科書のQRコードから音声をスマートフォンにダウンロードして聞くことになる。

【その他の重要事項】
出欠席について
＊　6日間合計12コマのうち8コマ以上の出席していること。（各コマの遅刻、もしくは早退は、0.5コマ分の出席としてカウントする。）
＊　最終日（試験日）のみ、前半授業を2コマとしてカウントする。（欠席は2コマ分の欠席、遅刻、早退は1コマ分の欠席とする。）
担当教員に質問などの連絡がある場合は、以下のアドレスにメールで連絡をください。

yohko.ohmagari.3n@hosei.ac.jp

【Outline (in English)】
【Course outline】
The aim of this course is help students acquire an understanding the international situation, an environmental problem, natural disasters, culture
and so on through CNN original English.
【Learning Objectives】
The goals of this course are to acquire high English proficiency, critical thinking and social skills through listeing, reading , writing and speaking.
【Learning activities and outside of classroom 】
Before each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content and have read the relevant chapter and completed the assighnments.
【 Grading Criteria 】
Your overall grade in the class will be decided based on the following
class contribution 20%
classroom quiz 30%
term-end examination 50%

LANe100TA（英語 / English language education 100）

英語S（5）（夏期スクーリング）

JAMES O ESSEX

カテゴリー：**夏期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**1単位**
期間：**2群午前**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
このコースでは、中級から上級のリーディングスキルの基礎をしっかりと学びます。様々な興味深い物語や記事を読みながら、流暢な読解力と理解力の向上を目指す。また、予測力と主旨の理解力も引き続き伸ばします。また、文法や語彙の新たな特徴への認識を高めるなど、言語の細部に焦点を当てることで、読解力を養います。

【到達目標】
The primary aim of this course is to prepare you for extended study abroad in a university in an English speaking country. Students will receive training and experience in critical reading skills to analyze, synthesize and evaluate articles from sources such as periodicals and newspapers. The texts will be chosen to cover issues important to many students. Students may also do extensive reading appropriate for their level. In addition to reading, students will also engage in written and spoken activities/assignments.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP3」「史学科：DP1, DP3」「地理学科：DP1」「経済学科：DP6, DP8」「商業学科：幅広い教養」に関連

【授業の進め方と方法】
The professor will provide a mix of lecture-style and workshop classes. Feedback will be provided face-to-face, through Hoppii or LessonAccess. Regarding review/preparation, the standard preparation and review time for this class is two hours per week: 1 hour preparation and 1 hour review

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	Course Introduction and LessonAccess explanation Unit 1	Illuminating the Morning Star
第2回	Unit 2	From Old English to Hashtags
第3回	Unit 3	The Theatre of Slumber
第4回	Unit 4	A New Dawn in Human History
第5回	Unit 5	Seeing is Perceiving
第6回	Unit 6	Beyond an Algorithm
第7回	Unit 7	All Roads Lead to X
第8回	Unit 8	Dilemma in a Nutshell
第9回	Unit 9	Site Sight Unseen
第10回	Unit 10	Fertile Grounds, Barren Solutions
第11回	Unit 11	Phantom Frequencies
第12回	Final Test	Final Test

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Homework - task completion from the previous lesson, preparation for a subsequent lesson or a combination of both will be assigned daily. The standard preparation and review time for this class is two hours per week: 1 hour preparation and 1 hour review

【テキスト（教科書）】
Immersive Reading - Read, Reflect, and Discover: Book 1
Michael Dyer
ISBN 978-88-7598-018-3
Only available from Amazon: https://www.amazon.co.jp/-/en/dp/B0CSD6KJN1

【参考書】
www.lessonaccess.com

【成績評価の方法と基準】
Participation: 10%
Unit vocabulary quizzes, textbook review quizzes, reading comprehension extension quizzes taken online in LessonAccess: 60%
Final Test: 30%

【学生の意見等からの気づき】
From this year, the class has been overhauled following student feedback. The textbook and material are not only more appropriate, but more conducive to helping students meet the aims and goals of the class.

【学生が準備すべき機器他】
Notebook and pen for class notes

【Outline (in English)】
The course will provide a strong foundation in intermediate and advanced reading skills. The course will seek to increase students' reading fluency and comprehension while reading a variety of interesting stories and articles. The skills of prediction and the comprehension of main ideas will continue to be developed. A focus on language details will also help to develop reading skills, such as raising awareness of new features of grammar and vocabulary.

LAW200TB（法学 / law 200）

法律学特講（夏期スクーリング）

石井　宏司

カテゴリー：**夏期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**2群午前**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は手形法に関する講義である。
近年はインターネットの普及に伴って電子決済が発展し、企業の決済手段としての手形は、かつてほど絶対的な意味をなさなくなった。しかしながら、現在においてもなお、中小企業等においては手形が頻繁に利用されている。本授業の目的は、受講生が手形の基本的なルールを知り、手形および企業決済に関連する問題に関心を持つことにある。本授業は、授業時間との関係上、約束手形に関する解説を中心とした講義となる。

【到達目標】
・手形の基本的ルールを理解し、条文から制度を説明できるようにする。
・手形に関する法律問題を知り、それに関する判例及び学説を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
本授業は講義形式である。受講生のほとんどが初めて手形法を学ぶ者であろうから、授業は基礎的な解説を中心に丁寧に進めるつもりである。レジュメや資料を配布し、図解を駆使して、受講生ができるかぎり容易に理解できるように講義する。フィードバックは授業内で行う。授業内容に関する質問は、授業の前後においても受け付ける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス 手形の概要１	ガイダンス及び手形の沿革に関する解説。
第2回	手形の概要２	有価証券及び手形の概要に関する解説。
第3回	原因関係	原因関係と手形関係に関する解説。
第4回	手形要件	手形の記載事項に関する解説。
第5回	手形の振出	手形の振出等に関する解説。
第6回	手形の譲渡	手形の裏書等に関する解説。
第7回	善意取得・手形抗弁	善意取得及び手形抗弁等に関する解説。
第8回	他人による手形行為１	他人による手形行為に関する解説。
第9回	他人による手形行為２	偽造、変造等に関する解説。
第10回	約束手形の支払い、遡求	手形の支払いや遡求に関する解説。
第11回	白地手形、時効	白地手形、時効に関する解説。
第12回	まとめ・補足、試験	これまでの授業のまとめと補足。試験を実施する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業1回につき、予習1時間および復習3時間を標準とする。復習の際には、条文を参照しつつ、授業での配布物や参考書等を熟読すること。

【テキスト（教科書）】
特になし。

【参考書】
・大塚龍児＝林たつみ＝福瀧博之『商法Ⅲ　手形・小切手〔第5版〕』（有斐閣Sシリーズ）（有斐閣、2018）本体価格2300円
・弥永真生『リーガルマインド手形法・小切手法〔第3版〕』（有斐閣、2018）本体価格2800円
・前田庸『手形法・小切手法』（法律学大系）（有斐閣、1999）本体価格6000円
・神田秀樹＝神作裕之編『手形小切手判例百選〔第7版〕』別冊ジュリスト222号（有斐閣、2014）本体価格2200円
上記の参考書は、改訂版が出版される可能性がある。購入を考えている受講生は、初回の授業で講師の説明を受けてから購入した方がよい。

【成績評価の方法と基準】
最終試験（試験100％）。

【学生の意見等からの気づき】
図等を使用した資料等の配布等を行う。

【学生が準備すべき機器他】
対面授業の場合には、筆記用具等通常の対面授業で必要なもの以外で受講生が準備すべき機器はない。
新型コロナの感染状況から授業が対面からオンラインに変更となった場合、受講生は、Zoom の授業を受講するための端末 (パソコン等) が必要になる。

【その他の重要事項】
受講生は最新の六法を持参すること。
参考書は新しい版が出版されている可能性がある。新しい版が出版されている場合、新しい版を購入すること。講義の初回において、講師から説明を受けてから購入した方がよい。

【Outline (in English)】
【Course outline】This course introduces the Bills of Exchange and Promissory Notes Act to students taking this course. The aim of this course is to help students acquire an understanding of clauses and fundamental principles of the Bills and Notes Act.
【Learning Objectives】The goals of this course are to (1) able to obtain basic knowledge about the Bills and Notes Act, (2) able to explain clauses and systems of the Bills and Notes Act, (3) able to understand the relationship between the Bills and Notes Act and our society.
【Learning activities outside of classroom】Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
【Grading Criteria /Policies】Your overall grade in the class will be decided based on Term-end examination 100%.

LAW200TB（法学 / law 200）

法哲学（夏期スクーリング）

大野　達司

カテゴリー：**夏期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**2群午前**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
法哲学は、実定法の基礎・背景となる思想や理論を学ぶ学問である。受講者が法哲学における基本的諸概念の習得を通じて、法を多様な観点から見ることができるようになることを本講義の目標とする。
本科目は、法律学科科目の中で主として「文化・社会と法コース」の分野に属するほか、他のすべてのコースとも関係する科目である。

【到達目標】
法哲学は大きく分けて、法が追求するべき目的を取り扱う正義論と、法とはなにかという問題を取り扱う法概念論とからなる。法哲学１では、前者の正義論の基本を理解する。具体的には、社会が追求するべき正義とはなにか、客観的な価値は存在するのか、自由や平等という価値はどのようなものであるのかという諸問題を代表的な法哲学者の議論を通じて学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
授業は対面を基本としますが、必要に応じてオンライン（あるいはオンデマンド）の可能性があります。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示します。質問は随時受け付けます。授業内か、必要に応じて学習支援システムで応答します。テキスト各章に上がっている事例について意見交換の時間を設けます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	はじめに	授業・評価の方法と全体の概要
第2回	古典的正義論	現代正義論以前の正義論を見る
第3回	功利主義	正義とは諸個人の快の総和であるとする功利主義について見る
第4回	ロールズと『正義論』	現代正義論において最も主要な論者であるジョン・ロールズのリベラリズムのうち、前期における議論について見る
第5回	ロールズと『政治的リベラリズム』	後期ロールズの議論を見る
第6回	ロールズとグローバル正義論	ロールズのグローバル正義論を見る
第7回	ロールズに対する批判	功利主義・リバタリアニズム・共同体論などからの問題提起を取り上げる。
第8回	リバタリアニズム	最小国家を超える国家は正当化できないとするリバタリアニズムの議論を見る
第9回	コミュニタリアニズム	正義と人間の生き方を区別するリベラリズムを批判するコミュニタリアニズムの議論を見る
第10回	自由	J.S.ミルの自由論とその後の展開について
第11回	平等	正義自由と平等の関係について
第12回	試験・まとめと解説	授業内試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
配布するレジュメや教科書、下記に挙げる参考書、講義時に記載したノートに基づいて予習復習をすること。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
瀧川裕英/宇佐美誠/大屋雄裕『法哲学』(有斐閣、2014年)、2,800円＋税

【参考書】
那須耕介・平井亮輔編『レクチャー法哲学』法律文化社、2020年
宇佐美誠／児玉聡／井上彰／松元雅和『正義論』法律文化社、2019年
瀧川裕英編『問いかける法哲学』法律文化社、2018年
平野仁彦/亀本洋/服部高宏『法哲学』有斐閣、2002年
住吉雅美『あぶない法哲学』講談社、2020年
大野・森元・吉永『近代法思想史入門』法律文化社、2016年

【成績評価の方法と基準】
最終回に授業内試験と各回終了後の内容確認オンライン「クイズ（10問ほど、穴埋め）」による。平常点／クイズ30％、試験を70％とする。（クイズは復習が主なので、何度でも回答可）

【学生の意見等からの気づき】
なし

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システム（レジュメとクイズ）とグーグル・クラスルーム（大きい資料がある場合）を利用する。

【その他の重要事項】
なし

【Outline (in English)】
(Course outline) "Philosophy of Law" is a discipline, which considers fundamental legal ideas and backgrounds of positive laws.
(Learining Objectives) The aim of this lecture is that students can understand basic concepts or principles, and get various viewpoints for laws. Themas of "Philosophy of Law 1" are around Theory of Justice, namely Liberty, Equlity, (Human) Rights and so on.
(Learning activities outside of classroom) Before each lesson, participants should read the rellevant chapter.
(Grading Criteria/Policiy) After each lesson, a simple "quiz" to check the contents will be given online(30%), and grades will be evaluated based on the term-end examination(70%).

LIT100TC（文学 / Literature 100）

日本文芸学概論（夏期スクーリング）

川鍋　義一，藤村　耕治

カテゴリー：**夏期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**2群午前**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
文学作品の鑑賞、研究の前提となることがらについて学ぶ。

【到達目標】
具体的に作品に触れながら、読者と作品、作者はいかなる関係にあるのかを検討し、理解することを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
大人数にはならないと予想されるので、受講者には積極的に議論に参加してもらう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス、および文芸学とはどういうものか	11回の授業の概観。および、文芸学とはどういうものか
第2回	文学鑑賞と研究の方法①	小林秀雄、小田切秀雄、前田愛①――作者と読者
第3回	文学鑑賞と研究の方法②	小林秀雄、小田切秀雄、前田愛②――空白とはなにか
第4回	樋口一葉「たけくらべ」を読む①	文学作品における空白とはなにか
第5回	樋口一葉「たけくらべ」を読む②	「たけくらべ」における空白とはどういうものか
第6回	樋口一葉「大つごもり」「にごりえ」を読む	一葉が空白という方法を獲得するまで
第7回	芥川龍之介「羅生門」、「藪の中」を読む①	「羅生門」、「藪の中」はどういう物語か
第8回	黒澤明「羅生門」を鑑賞する	原作との相違に注意しながら映画を鑑賞する
第9回	芥川龍之介「羅生門」、「藪の中」を読む②	映画と比較することでなにが見えるか
第10回	芥川龍之介「羅生門」、「藪の中」を読む③	「羅生門」のラストと、「藪の中」の構造について考察する
第11回	まとめ	空白という問題を通じて、作者と読者と作品の関係を考える
第12回	試験	試験と解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
上記５作品を事前に読み、意見を持って授業に参加することを必須の条件とする。これができていない者には単位は認定されない。この授業の準備・復習時間は、各２時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
樋口一葉「大つごもり」「にごりえ」「たけくらべ」（『大つごもり・十三夜　他五篇』、『にごりえ・たけくらべ』ともに岩波文庫）。芥川龍之介「羅生門」「藪の中」（『羅生門・鼻・芋粥・偸盗 』、『地獄変・邪宗門・好色・藪の中 他七篇』ともに岩波文庫)。
他社版、青空文庫、電子ブックなどの利用も可。

【参考書】
『文芸学講義』小田切秀雄、菁柿堂、2016年

【成績評価の方法と基準】
試験80％、討論時の発言およびリアクション20％とし、総合的に判断する。

【学生の意見等からの気づき】
学生が課題に取り組んでいることを前提に、わかりやすい授業に努める。

【学生が準備すべき機器他】
持っていればノートパソコン、タブレットなど（リアクションに使う可能性あり）。

【その他の重要事項】
刺激し合うこと、自己研鑽などを目的として、リアクションは名前・番号など個人情報を伏せた上で、他の学生と共有する。

【Outline (in English)】
Students learn about the prerequisites for appreciating and researching literary works.

LIT200TC（文学 / Literature 200）

日本文芸史Ⅱ（夏期スクーリング）

山田　稔

カテゴリー：**夏期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**2群午前**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講座では、近代以降の日本文学の歴史について、作品の鑑賞を通して認識を深めていきます。特に、第二次世界大戦後の文学を中心に、そこに至る過程やその後の作品への影響や現在性についても考察し、理解を深めていきます。

【到達目標】
第二次世界大戦後の日本文学について、史的アプローチによる認識を深め、戦後文学に現れた鋭い問題意識を理解すると共に、現在における意義についても考えを深め、最終的には、自らの一定の見解を打ち立てることを目標とする。
また、日本近代現代文学全体への史的理解を深め、その特色や時代との関わり、文学史的意義について、個々の作家の作品を通し具体的に考察できるように学習する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
まず、小説の概念と日本近代文学の成立から始め、そこから日本近代文学史を作品を中心に概括し、戦後文学とその後の文学について史的アプローチから学んでいく。そして、その問題意識の現在性についても考えていく。
基本は講義形式である。出席者との対話や発言も取り入れていく予定なので、取り上げる作家と作品について事前に学習して、授業に参加して欲しい。また１日の終わりに課題の提出を求めます。「フィードバック」については、提出された課題からいくつかピックアップして、授業の中で講評する。「オフィスアワー」については、授業後に質問を受け付けます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	文学という概念、日本近代文学の出発について	明治の始まりと文学、定説としての、坪内逍遥「小説神髄」と二葉亭四迷「浮雲」について考える。
第2回	「文学史」という考え方、文学研究について	「テクスト論」（バルト）と「作品論から文学史へ」（三好行雄）を参考に、文学史と研究について考える。
第3回	近代・小説という概念を用意したものについて	江戸から明治へ。近代小説を用意したものについて概説する。
第4回	明治期の文学１―近代文学の嚆矢、近代詩の成立について	感情の表出、自意識としての批評性について、『新体詩抄』、北村透谷、島崎藤村の詩について考える。
第5回	明治期の文学２―近代文学の自覚、小説の始まりについて	個人の内面描写と近代日本語の成立について、坪内逍遙・二葉亭四迷『浮雲』と森鴎外『舞姫』を中心に考える。
第6回	明治から大正へ―近代文学の確立・自然主義について	夏目漱石と島崎藤村の文学的意義について、『破戒』、『夢十夜』『吾輩は猫である』などから考える
第7回	大正期の文学―近代文学の成熟と文学の可能性について	芥川龍之介『羅生門』、宮沢賢治の詩と『銀河鉄道の夜』など。近代文学の行き詰まり、文学の可能性ついて考える。
第8回	昭和前期の文学ー新しい文学と革命と転向と	プロレタリア文学の歩みと中野重治『村の家』と小林秀雄。文学における社会性と芸術性について考える
第9回	戦中から戦後へ―敗戦直後の文学状況について	志賀、太宰、安吾の立ち位置について。志賀直哉『灰色の月』、坂口安吾『堕落論』、太宰治『斜陽』などから考える。
第10回	戦後文学―戦後文学の誕生について	近代文学派と戦後派作家について、小田切秀雄と雑誌「近代文学」、埴谷雄高、武田泰淳などから考える。
第11回	現代の文学1―戦後派をどう乗り越えるか	第三の新人と大江健三郎、内向の世代（古井由吉）などについて考える。
第12回	現代の文学２―中上・村以降、多様な文学にふれて	中上健次、村上春樹、小川洋子、村田紗耶香などを読む。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業計画に書かれている作家や作品を事前に学習しておくこと。また、一般的な近代日本文学史について、できれば参考書に挙げた本を読んで、一定の認識を持っておくこと。
本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
指定しない。

【参考書】
中村光夫『日本の近代小説』『日本の現代小説』（岩波新書）
小田切秀雄『日本文学の百年』（東京新聞出版局）
柄谷行人『日本近代文学の起源』（講談社文芸文庫）
磯田光一『鹿鳴館の系譜』（講談社文芸文庫）
本多秋五『物語戦後文学史』（岩波現代文庫）
江藤淳『成熟と喪失』（講談社文芸文庫）
その他、授業計画に示してある、各作家の作品。（文庫などでかまわない。特にどの出版社のものなどと、本の指定はしない）

【成績評価の方法と基準】
授業内での小課題の提出または発表（１０％）と、最後に講義全体の中で取り上げたテーマについての論述課題の提出（８０％）を行います。また、授業への参加度（出席、質疑応答など）（１０％）で、総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
取り上げる作品が多く、作品を限定して提示する。

【Outline (in English)】
In this course, we will deepen our awareness of the history of Japanese literature since modern times by appreciating the works. In particular, we will deepen our understanding by considering the process leading up to it, its influence on subsequent works, and its presentness, focusing on the literature after World War II.

LIN200TC（言語学 / Linguistics 200）

日本文芸研究特講・言語（夏期スクーリング）

間宮　厚司

カテゴリー：**夏期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**2群午前**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
『万葉集』の名歌・類歌・難訓歌を取り上げ、言語学的に読み解く方法について考えます。万葉歌の訓読の再検討と類歌の比較を行うことにより、上代日本語の表記・文法・表現について理解を深めます。

【到達目標】
千年以上も前に、漢字だけで書かれた万葉歌を言語学的に読み解くプロセスを通して、上代日本語の歌ことばについて学びます。テキストを読み進め、解説することで、問題点の発見・資料の集め方・論証の仕方・論の展開・結論の導き方についても学び、応用のきく、考える力を多方面から身につけます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
授業は講義形式で、テキストとプリントを併用して、丁寧に解説します。講義形式の授業ですが、リアクションペーパーに書かれた「質問・コメント・感想等」を次の授業で紹介したり、質問に対しては個別に答えたりします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	テキストの5頁～22頁を解説(受講の仕方等々)
第2回	『万葉集』の訓読の再検討と類歌の表現比較（1）	テキストの第１話と第２話と第２話補遺
第3回	『万葉集』の訓読の再検討と類歌の表現比較（2）	テキストの第３話導入と第３話
第4回	『万葉集』の訓読の再検討と類歌の表現比較（3）	テキストの第４話と第５話
第5回	『万葉集』の訓読の再検討と類歌の表現比較（4）	テキストの第６話と第７話
第6回	『万葉集』の訓読の再検討と類歌の表現比較（5）	テキストの第８話と第９話
第7回	『万葉集』の訓読の再検討と類歌の表現比較（6）	テキストの第10話と第11話
第8回	『万葉集』の訓読の再検討と類歌の表現比較（7）	テキストの第12話と第13話
第9回	『万葉集』の訓読の再検討と類歌の表現比較（8）	テキストの第14話と第15話
第10回	『万葉集』の訓読の再検討と類歌の表現比較（9）	テキストの第16話と第17話と第18話
第11回	『万葉集』の訓読の再検討と類歌の表現比較（10）	テキストの第19話と第20話と第21話
第12回	まとめ・試験（60分）	テキスト参照可の記述式の試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
テキストを事前に読んで、授業に臨んで下さい。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
間宮厚司『万葉異説［増補版］』（森話社、2021年、2000円＋税）

【参考書】
参考書はテキストの１５８頁に一覧してありますが、授業の進行にそって、そのつど紹介します。

【成績評価の方法と基準】
毎時間提出する「課題（感想等）」(50%)と第12回の試験(50%)の内容を勘案して、評価します。

【学生の意見等からの気づき】
何か疑問等があれば、授業中でも休み時間でも遠慮せずに質問していただきたく。

【Outline (in English)】
In this lecture, you are going to use a textbook that I've showed on the list. The lecture introduces the way of how to read the poems of "Manyoshu" to students taking this course.
Learning objectives of this class:
Throughout the process to read Manyo-ka which was written in Kanji over a thousand years ago, students learn Old Japanese Uta-Kotoba (Words for Manyo-ka).
By reading textbook and explaining it, students learn how to find problems, collect materials, argue thoughts, and summarize conclusion.
Students acquire the ability to think from different perspective flexibly.
Learning activities outside of classroom:
Before each class, students need to read the textbook. As preparation and review of the class, students will be expected to spend about 2 hours to understand the course content.
Grading Criteria/Policies:
Your overall grade in the class will be decided based on the following:
Assignment (Comments, thoughts, etc.) at each class meeting (50%), term-end exam (50%).

LIT200TC（文学 / Literature 200）

中国文芸史（夏期スクーリング）

遠藤　星希

カテゴリー：**夏期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**2群午前**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
中国文芸史における時代区分のうち、日本文学への影響力がとりわけ強かった唐代の文芸及びその土壌となった社会背景について講義をする。中国の古典文学といえば、おそらく唐詩（李白・杜甫・白居易などの詩）が日本にとって最も馴染み深いものの一つといえるだろうが、唐代の文芸ジャンルは詩だけではなく、「伝奇」と呼ばれる小説や韓愈・柳宗元らの散文も文芸史上において重要な意義を持っている。本授業では、唐代各期の様々なジャンルの文学作品を読解することを通して、唐代に書かれた詩や小説・散文の多様性、現代にも通じるその芸術性及び現代では理解しがたい特殊性などについて、幅広い知識を習得する。

【到達目標】
唐代文芸史のアウトラインを理解すること。また、唐詩の形式的特徴（絶句・律詩など）や内容的特徴（辺塞詩・閨怨詩・送別詩など）及び唐代に書かれた小説や散文の特徴について、具体例に即して人に説明できるようになること。加えて、中国の古い文献を読解したり探したりする際に利用すべき基本資料を把握することなどを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
毎回設定されたテーマに即して講義形式で授業を行う。テーマは原則として時代順に設定されている。各テーマに関連する作品や資料のプリントを毎回配布し、それらを参照しながら解説を加える。漢文で書かれた作品や資料には原則として現代日本語訳を用意するが、原文の読解が比較的容易な資料については、書き下し文のみのこともある。必要に応じてプロジェクターとスライドを使用し、画像や動画を映すこともある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス（1）	唐代文学についての概説
第2回	ガイダンス（2）	中国古典詩における諸々の規則についての概説
第3回	初唐の詩	初唐の代表的な詩人の作品を読む
第4回	辺塞詩	辺境地帯の風物や出征兵士の嘆きを詠んだ「辺塞詩」というジャンルの詩について
第5回	閨怨詩	愛の喪失を嘆く女性の姿を詠んだ「閨怨詩」というジャンルの詩について
第6回	盛唐の詩（1）	中国を代表する詩人であり、「詩仙」とも呼ばれる李白の詩を読む
第7回	盛唐の詩（2）	中国を代表する詩人であり、「詩聖」とも呼ばれる杜甫の詩を読む
第8回	唐代伝奇小説（1）	唐代に書かれた「伝奇」と呼ばれる短篇小説についての概説
第9回	唐代伝奇小説（2）	中島敦「山月記」の粉本として知られる伝奇「李徴」を読む
第10回	唐代伝奇小説（3）	芥川龍之介による翻案で知られる伝奇「杜子春」を読む
第11回	中唐の詩	中唐の代表的な詩人である韓愈・柳宗元・李賀の詩を読む
第12回	試験とまとめ	試験および総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業のテーマと内容について、授業前にあらかじめ参考書に目を通して大まかなイメージを掴んでおく。時間がなければ、インターネットの検索サイトを利用して、授業のテーマに関連するサイトをなるべく多く閲覧しておく。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
テキスト（教科書）は使用しない。担当教員が作成した印刷物を授業開始時に配布する。

【参考書】
・前野直彬編『中国文学史』（東京大学出版会、1975年）
・小川環樹著『唐詩概説』（岩波文庫、2005年）
・松原朗・佐藤浩一・児島弘一郎著『教養のための中国古典文学史』（研文出版、2009年）
その他、適宜授業中に指示する。

【成績評価の方法と基準】
100％スクーリング教室試験（筆記）の結果に基づいて評価する。試験の際の持ち込み・参照は不可。唐代文芸史の重要事項を把握できているか、簡単な漢文・漢詩をきちんと翻訳できるか等を、評価の基準とする。

【学生の意見等からの気づき】
講義形式とはいえ、一方的に話すだけではなく、授業中に学生に質問して回答やコメントを求めるなど、なるべく双方向的な授業になるように工夫をする。

【その他の重要事項】
授業の進み具合によっては、事前に受講者に説明をした上で、講義内容を一部変更する可能性がある。

【Outline (in English)】
Course Outline: Amongst other periods in the history of Chinese literature, this lecture course will be focus on the literature and the underlying social background during the Tang dynasty, when there was a particularly strong influence on Japanese literature. As far as Chinese classical literature goes, Tang poetry (the poetry of Li Bai, Du Fu and Bai Juyi) is arguably one of the most familiar genres for the Japanese. Poetry, however, was not the only literary genre of the Tang, and novels called *chuan-qi* as well as the prose of Han Yu and Liu Zongyuan are particularly noteworthy in the history of Chinese literature. In this course, through reading literary works of various genres from each period during the Tang, we will attain broad knowledge of the diversity of poetry, novels and prose written during the Tang dynasty, their artistry that can be appreciated today, as well as peculiarities that are difficult to understand today.
Learning Objectives: By the end of the course, students will:
A. understanding the outline of Tang-Dynasty literary history;
B. understand the form and content of Tang poetry and the characteristics of novels and prose written in the Tang Dynasty; and
C. have acquired the basic skills necessary to read and comprehend Chinese materials.
Learning Activities Outside of the Classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Grading Criteria/Policy: Term-end examination (100%)

LIT300TC（文学 / Literature 300）

書道実技（夏期スクーリング）

井澤　秀彦

カテゴリー：**夏期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**1単位**
期間：**2群午前**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
中学校国語科書写の指導を中心とした実技と指導法
姿勢・執筆法から始まり、用具・用材の基本的な扱い方、楷書、行書、漢字と仮名の調和などを、現在の教育現場の書写の役割や実情を踏まえながら、順次学習を進めていく。

【到達目標】
中学校国語科書写における知識・技能の習得
基本的な書の表現力（基本点画・書字のきまり・文字感覚など）の習得
中学校国語科書写の指導者として、生徒に何をどのように教えるのか、また、生徒作品を客観的に評価する着眼点の習得。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
授業ノート（持ち物参照）を丁寧にとり、最終日に全ての作品を貼付したノートを提出する。
講義と実技の時間的な割合は課題にもよるが、おおよそ１：１くらいである。
最終授業内で、それまでの講義内容のまとめや復習だけでなく、授業内で書いた作品の講評や通信添削課題に対する解説も行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	書写と書道の違い	書写・書道における基礎的な用語の理解や用具・用材の扱い方
第2回	表現・鑑賞とは 楷書の基本点画	書写における「表現」は技術、「鑑賞」は知識 表現の第一歩は基本点画の習得
第3回	楷書の学習（書字のきまり１）	「口」の書き方、「八」の書き方などから、文字を書くための決まりごとの理解
第4回	楷書の学習（書字の決まり２）	偏と旁の関係、横画と縦画の関係などから、文字を書くための決まりごとの理解
第5回	筆順指導について 楷書の許容される書き方	教育現場における筆順指導の重要性の理解 楷書の基本的な字形と許容される字形
第6回	楷書のまとめ	四字句・六字句などの学習から、半紙に対する文字の大きさや配列・配字の理解
第7回	行書の特徴１	なぜ中学校で行書を学習するのか 楷書と行書の違い
第8回	行書の特徴２	行書の特徴（点画の丸み・連続・変化など） 点画の省略、筆順の変化
第9回	小筆の学習１	楷書に調和する仮名の学習 行書に調和する仮名の学習
第10回	小筆の学習２	漢字（楷書・行書）と仮名の調和 「散らし書き」の理解と習得
第11回	楷書の古典	楷書の成立と唐の四大家 『九成宮醴泉銘』の学習
第12回	行書の古典	行書の成立と王羲之 『蘭亭序』の学習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
実技の習得は練習の積み重ねが大切である。自分の目標をしっかり持ち、基本点画の習得、自己の欠点の確認・矯正および新しい技量の習得を目指して欲しい。
本授業の準備学習・復習時間は、各1時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
『国語科書写の理論と実践』　全国大学書写書道教育学会編　萱原書房　￥1,000＋税
通教テキスト「書道教本」

【参考書】
指定なし

【成績評価の方法と基準】
授業参加30％、授業ノート（作品を含む）40％、試験30％

【学生の意見等からの気づき】
書道用具に関してですが、自らが中学生のころに使用していたものではうまく書けないようです。筆は大筆・小筆とも使用に耐えられず（やはり小中学生用はその程度です）、書道セットに入っていたような固形墨は上手に磨っても濃くならず、硯も小さかったり石製ではなかったりで、初日が終わってから慌てて専門店に行き、書道用具を購入する学生が毎年います。将来、教壇に立つ者として、相応の書道用具をそろえてください。
また、墨で服を汚さぬよう各自工夫してください。

【その他の重要事項】
持ち物
①筆（大筆・小筆）②墨（固形墨）③硯（プラスチック製・セラミック製はＮＧ）④半紙（多めに用意してください）⑤毛氈（下敷き）⑥文鎮⑦ノート（Ｂ５・横罫）⑧筆記用具⑨赤ペン⑩スティックのり
※特に筆・墨・硯・半紙は安価なものは使いにくいものが多い。
上記テキストは必携のこと。

【Outline (in English)】
Practical skill and teaching method centered on teaching of junior high school Japanese language department calligraphy

BSP100TC（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）

リポート作成基礎講座（夏期スクーリング）

細沼　祐介

カテゴリー：**夏期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**2群午前**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、研究に必要な思考法や資料収集を含むレポート作成法について基礎から学びます。最終的にはレポート作成だけでなく、卒業論文を射程に入れた準備を行います。

【到達目標】
①研究を行うための思考法やテーマ設定、資料の読み方を学ぶ
②自身が必要とし、かつ使用するに足る資料の探し方を学ぶ
③上記を踏まえて実際にレポートを書けるようになる
④自身の卒業論文の見通しを立てる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
①テーマにあわせて適宜実演を踏まえた講義を行い、概略について指導します
②実際に自身で演習を行い、それに対してフィードバックを行います
こうした進め方である以上、限られた時間で課題をこなすことが要請されることが多いため、それなりに厳しいものとなります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	そもそも「レポート」とはなにか
第2回	「考え方」を学ぶ①	「自分の意見」の持ち方
第3回	「考え方」を学ぶ②	概念の精査、反論の仕方
第4回	「考え方」を学ぶ③	テーマの決め方
第5回	「集め方」を学ぶ①	資料の活用法
第6回	「集め方」を学ぶ②	資料のある場所、探し方
第7回	「集め方」を学ぶ③	大学図書館の利用法
第8回	「書き方」を学ぶ①	マナーに沿った文章の書き方
第9回	「書き方」を学ぶ②	全体の構成、目次の立て方
第10回	「書き方」を学ぶ③	パラグラフライティング
第11回	レポート作成実践①	執筆事前準備の演習
第12回	レポート作成実践②	レポート作成演習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。
実際に技能を身に着ける講義となるため、必ず自身の演習が伴わねば意味がありません。各自しっかり取り組んでください。

【テキスト（教科書）】
なし

【参考書】
テーマに応じて授業内で提示します。

【成績評価の方法と基準】
各授業内課題を50％、最終レポートを50％とします。
この最終レポートが最終時限の試験となります。

【学生の意見等からの気づき】
本年度新規科目につきアンケートを実施していません。

【学生が準備すべき機器他】
①レポートは原則Microsoft Wordを利用します
②Google Workspaceを利用する可能性があるため、自身のアカウントがあるとよいですが、授業内でも案内します

【Outline (in English)】
In this class, you will learn how to write a report from the basics to the application. Learn the ways of thinking necessary for research, how to collect materials, and how to write actual reports.

HIS200TD（史学 / History 200）

東洋史概説（S）（夏期スクーリング）

宇都宮　美生

カテゴリー：**夏期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**2群午前**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：**※史学科本科生用**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
人の生活に不可欠な水を通して、中国が水問題に対してどのように対処したのか、水をどのように有効利用したのかをみていく。これにより、近年頻発する日本の水害についても考えていきたい。

【到達目標】
水に関する中国人の活動に対し、それを生み出した要因と背景、それによる影響と発展について理解する。また具体的事例を通して、文献史料だけでなく文物、遺構、古地図などを併用した研究の方法、分析および考察について実践的テクニックを身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「史学科：DP1,DP3」「地理学科：DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
授業ではパワーポイントで概要を説明するので、各自レジュメに必要事項を記入し、説明を記録する。文献、地図、写真、絵、表などの資料を多く用いて説明する。随時、授業に対するフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	水問題	水問題と学習の意義
第2回	河川史１	黄河
第3回	河川史２	長江
第4回	河川史３	渭水
第5回	河川史４	洛水
第6回	運河史	運河の発展
第7回	穀倉	穀物の運搬と保管
第8回	船舶史	船舶の種類と水軍
第9回	農業史	灌漑と水車
第10回	庭園史	庭園の種類と発展
第11回	災害史	水害の種類と概要
第12回	学習のまとめと試験	学習のまとめと試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
事前に資料を配布するので、それを読んでおく。また、質疑応答により確認をし、理解度を高める。授業後は、各自参考書等により補足する。
準備・復習時間は1回につきそれぞれ２時間とする。

【テキスト（教科書）】
特になし。資料を配布する。

【参考書】
宇都宮美生『隋唐洛陽の都城と水環境』雄山閣、2023年（生協価格税込み4455円）
概説書ではなく論文集であるが、卒業論文の書き方の参考にもなる。その他、随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点(30%)と期末試験（70%）

【学生の意見等からの気づき】
この授業では自分で書くことにより、より鮮明に理解してもらいたいので、写真撮影を禁じる。なお、授業を聞き逃す、あるいは欠席する受講生に対しての完成レジュメは配布しない。

【学生が準備すべき機器他】
色の鉛筆・ペン・マーカー（あれば青色）：作業をしてもらう。

【Outline (in English)】
Outline &Learning Objectives ： This course introduces an understanding of Chinese history concerning various issues on the water. This course aims to help students acquire the importance of water in life, city, military affairs, agriculture, culture, and diplomacy.
Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Grading Criteria/Policies: Your overall grade in the class will be decided based on assignments at each class meeting (30%) and term-end examination(70%)

HIS300TE（史学 / History 300）

東洋史概説（夏期スクーリング）

宇都宮　美生

カテゴリー：**夏期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**2群午前**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：**※地理学科本科生および科目等履修生用**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
人の生活に不可欠な水を通して、中国が水問題に対してどのように対処したのか、水をどのように有効利用したのかをみていく。これにより、近年頻発する日本の水害についても考えていきたい。

【到達目標】
水に関する中国人の活動に対し、それを生み出した要因と背景、それによる影響と発展について理解する。また具体的事例を通して、文献史料だけでなく文物、遺構、古地図などを併用した研究の方法、分析および考察について実践的テクニックを身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「史学科：DP1,DP3」「地理学科：DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
授業ではパワーポイントで概要を説明するので、各自レジュメに必要事項を記入し、説明を記録する。文献、地図、写真、絵、表などの資料を多く用いて説明する。随時、授業に対するフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	水問題	水問題と学習の意義
第2回	河川史１	黄河
第3回	河川史２	長江
第4回	河川史３	渭水
第5回	河川史４	洛水
第6回	運河史	運河の発展
第7回	穀倉	穀物の運搬と保管
第8回	船舶史	船舶の種類と水軍
第9回	農業史	灌漑と水車
第10回	庭園史	庭園の種類と発展
第11回	災害史	水害の種類と概要
第12回	学習のまとめと試験	学習のまとめと試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
事前に資料を配布するので、それを読んでおく。また、質疑応答により確認をし、理解度を高める。授業後は、各自参考書等により補足する。
準備・復習時間は1回につきそれぞれ２時間とする。

【テキスト（教科書）】
特になし。資料を配布する。

【参考書】
宇都宮美生『隋唐洛陽の都城と水環境』雄山閣、2023年（生協価格税込み4455円）
概説書ではなく論文集であるが、卒業論文の書き方の参考にもなる。その他、随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点(30%)と期末試験（70%）

【学生の意見等からの気づき】
この授業では自分で書くことにより、より鮮明に理解してもらいたいので、写真撮影を禁じる。なお、授業を聞き逃す、あるいは欠席する受講生に対しての完成レジュメは配布しない。

【学生が準備すべき機器他】
色の鉛筆・ペン・マーカー（あれば青色）：作業をしてもらう。

【Outline (in English)】
Outline &Learning Objectives ： This course introduces an understanding of Chinese history concerning various issues on the water. This course aims to help students acquire the importance of water in life, city, military affairs, agriculture, culture, and diplomacy.
Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Grading Criteria/Policies: Your overall grade in the class will be decided based on assignments at each class meeting (30%) and term-end examination(70%)

HIS300TD（史学 / History 300）

史学演習（日本）（夏期スクーリング）

内藤　一成

カテゴリー：**夏期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**2群午前**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日本近代史を研究する上では、史料（資料）や文献を博捜し、内容を深く読み込まなければならない。また先行研究を正しく「批判」し、自らの創造的な意見を打ち立てなければならない。本授業では、こうした能力の習得をめざす。

【到達目標】
日本近代史を研究するのに必要な能力の習得を目標とする。特に以下の4点を重視する。①一次史料の解読能力を身につける。②多様な史料（資料）の特徴を理解する。③学術論文を「批判的」に読み込む能力を身につける。④発表を通じてプレゼンテーションやディスカッションの能力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
演習形式をとる。史料解読および、個人またはグループによる発表を基本とする。史料解読は事前に配布した史料をテキストとして、輪読形式で行う。発表は『原田熊雄関係文書』をテキストに、各書簡について、①語句の説明、②内容の要約、などをレジュメ形式にして行う。授業は対面で実施する。
これら課題等に対するフィードバックは、すべて授業内で行う。
※なお、受講生の人数や授業の進捗状況等によって弾力的に授業内容を組み替えることがある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	講義に関する全体の説明、注意点など
第2回	歴史史料の調べ方	史料解読テキストの説明
第3回	学術論文の探し方、読み方	歴史研究に関する基礎知識
第4回	史料解読1　発表1	史料解読　書簡報告1
第5回	史料解読2　発表2	史料解読　書簡報告2
第6回	史料解読3　発表3	史料解読　書簡報告3
第7回	史料解読4　発表4	史料解読　犬養書簡報告4
第8回	史料解読5　発表5	史料解読　書簡報告5
第9回	史料解読6　発表6	史料解読　書簡報告6
第10回	史料解読7　発表7	史料解読　書簡報告7
第11回	史料解読8　発表8	史料解読　書簡報告8
第12回	まとめ	授業総括・質疑応答

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
史料解読は、事前に解読文を作成しておく。授業後には、字句や内容の意味を確認しておく。発表では、発表者以外の学生も積極的な議論が行えるよう予習を進めておく。授業後には、関係する参考文献や論文に目を通すなどして理解を深めるようにする。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
『原田熊雄関係文書』（同成社、2020年）、ただし授業では関係部分をコピーで配布する（購入の必要はなし）。このほか必要があれば国立国会図書館憲政資料室が所蔵する日記・書簡のコピーを史料解読のテキストに用いる。

【参考書】
『シリーズ 日本近現代史』（岩波新書）全10冊、黒沢文貴・季武嘉也編『日記で読む近現代日本政治史』（ミネルヴァ書房）

【成績評価の方法と基準】
史料解読（おおむね20％）、発表（おおむね70％）内容、ディスカッションへの参加（おおむね10％）を総合化し、これを平常点（100％）として評価する。なお、特別の事情がなく、授業への参加度が不良と判断された場合には不合格の評価とする。

【学生の意見等からの気づき】
議論が活発になるように努める。

【Outline (in English)】
(Course outline)
The purpose of this course is twofold. The first is to search for historical materials and scholarly books in modern Japan and read the contents deeply. The second is to properly criticize previous research and establish one's own creative opinion. Through this course, I aim for students to acquire such abilities.
(Learning Objectives)
The goals of this course are to acquire the ability to decipher historical materials, read academic papers critically, and presentations and discussions.
(Learning activities outside of classroom)
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
(Learning activities outside of classroom)
Final grades are calculated according to the process of presentation, discussion and in-class contribution.Combine all elements to make 100%

HIS300TD（史学 / History 300）

史学演習（西洋）（夏期スクーリング）

皆川　卓

カテゴリー：**夏期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**2群午前**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ドイツ、オーストリア、チェコ、ベネルクス三国、北イタリア、スイスなどに広がっていた「神聖ローマ帝国」は、「帝国」という言葉が想起させる中央集権的・権威主義的国家とは逆の存在で、長い間「分裂国家」の代表例とされてきました。しかし現在ではその見方は変化し、ＥＵのモデルといわれるまでになっています。このハイブリッドな政治的共同体の歴史をさまざまな角度から学び、履修者とともにそれが持っていた可能性や限界を考えます。

【到達目標】
近世ヨーロッパの政治秩序の多元性を認識し、そのメカニズムと基底にある社会の複雑さを理解することによって、近代主権国家を多角的、批判的に検証し、その問題点を解決するための歴史的素養を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
通常の講義形式で行いますが、数度に一回簡単な質問・感想票に記入してもらい、できるだけフィードバックします（履修者多数の場合は複数の履修者から寄せられた質問に授業中に回答します。授業後の個別質問も受け付けます）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	初期の神聖ローマ帝国―建国から皇帝選挙制の成立まで	神聖ローマ帝国の成立と最初の意味、その成長に伴う混乱の概略を紹介します。
第2回	領邦の成立	14-15世紀に神聖ローマ帝国の「構成国」となった領邦（領域国家）の誕生を論じます。
第3回	領邦の諸類型	領邦が中世的な「領地」と近代的な「国家」の両面を持っていたこと、それらの間でも多様性があったことを、14-18世紀までの長いスパンで紹介します。
第4回	帝国改造①－平和志向への道	社会の発展に見合う統一性がなく、領邦が互いに武力抗争する時代が、二つの歴史的変化によって変化する状況を論じます。
第5回	帝国改造②―「国家連合」的システムへの成立	有力な国が他国を併呑するのが一般的な他の歴史的事例に対し、帝国内の各国は法と安全保障で連携する特異な発展を遂げたことを論じ、その背景を紹介します。
第6回	「宗教改革」と帝国分裂の危機	キリスト教は領邦の「絆」の重要な部分でしたが、それが神へのアプローチ方法で対立し、帝国を揺るがした経緯を論じます。
第7回	人口過剰と宗派の対立－宗教メディアの台頭とリテラシーの危機	16-17世紀の帝国は人口増と産業の限界、そして情報通信手段の発展という、現在と似た状況にありました。その中で敵意がどのように高まったのかを論じます。
第8回	「三十年戦争」―宗教戦争から生まれた「理性」	25%以上という空前絶後の人口減を帝国にもたらした宗教戦争の中で、伝統的な認識と行動の方法を改める大きな変化がもたらされました。その実相を紹介します。
第9回	帝国をまとめ上げる二つの柱①―法治主義と帝国裁判所	帝国改造の過程で生み出され、三十年戦争後に安定した仕組みに、領邦間の対立を裁く法と裁判の仕組みがありました。その発展を実例を交えつつ簡単に論じます。
第10回	帝国をまとめ上げる二つの柱②―心の支配「バロック文化」	法制の枠組みと並んで帝国の連帯を維持したのが、「美意識」の普及でした。そのために開発されたバロック文化とその様々な局面における役割を紹介します。
第11回	社会契約説の光と影―プロイセンの台頭	18世紀になると、西欧の「科学革命」の影響が帝国にも及んできます。その中で帝国を支える「神授権」に挑戦し、軍事力に全てを賭けた一領邦が歴史を大きく変えました。その変化を読み解きます。
第12回	①神聖ローマ帝国の終焉②試験	1789年のフランス革命は、隣国神聖ローマ帝国にも「解党的出直し」を強いることになります。帝国の解体によって得られたもの、失われたものを、その後の歴史も紹介しながら論じます。 受講者数が普通以下であればレポートを課しますが、受講者多数の場合は試験を行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
レジュメはなるべく分かりやすく作成していますが、このテーマにはじめて取り組む受講者には耳慣れないテクニカル・ターム（専門用語）も登場します。授業中にいくつかのポイントとなる事項を示しますので、配布のレジュメの欄外に、それらの歴史的背景をメモしてください。本授業の準備・復習時間は、各２時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
テキストは用いません（単元ごとにプリントを配布いたします）。

【参考書】
木村靖二・成瀬治・山田欣吾編『世界歴史大系　ドイツ史１』山川出版社 1997
木村靖二・成瀬治・山田欣吾編『世界歴史大系　ドイツ史２』山川出版社 1996
P.H.ウィルソン（山本文彦訳）『神聖ローマ帝国』1495－1806 岩波書店 2005
山本文彦『近世ドイツ国制史研究―皇帝・帝国クライス・諸侯』北海道大学図書刊行会 1995
渋谷聡『近世ドイツ帝国国制史研究―等族制集会と帝国クライス』ミネルヴァ書房 2000
永田諒一『宗教改革の真実』講談社 2004
池谷文夫『神聖ローマ帝国－ドイツ王が支配した帝国』刀水書房 2019
その他適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
平常点（質問・感想票の記述など）：40%
期末試験（受講者が多い場合）ないしレポート（受講者が少ない場合）：60%
期末試験かレポートかは、受講者数30人を目安とします。

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】
特にありません。

【その他の重要事項】
特にありません。

【Outline (in English)】
(Course outline) The Holy Roman Empire, which spread across Germany, Austria, the Czech Republic, the Benelux countries, northern Italy, and Switzerland, was the opposite of the centralized and authoritarian state that the word "empire" conjures up. It has been considered a typical example of a "divided state." However, that view has now changed, and it is now being referred to as a model for the EU. We will study the history of this hybrid political community from various angles, and together with students we will consider its possibilities and limitations.
(Learning Objectives) By recognizing the pluralism of the political order in early modern Europe and understanding its mechanisms and the complexity of the underlying society, a history that examines modern sovereign states from multiple perspectives and critically and resolves their problems. Acquire technical skills.
(Learning activities outside of classroom) Although we have created resumes that are as easy to understand as possible, there may be some technical terms that may be unfamiliar to students who are tackling this topic for the first time. We will show you some important points during class, so please write down the historical background of them in the margins of the resumes you will receive. The standard preparation and review time for this class is two hours each.
(Grading Criteria /Policy) Normal score (questions, impression sheet description, etc.): 40%
Final exam (if there are many students) or report (if there are few students): 60%
Whether it is a final exam or a report, we aim for 30 participants.

HUG400TE（人文地理学 / Human geography 400）

人文地理学演習（夏期スクーリング）

佐々木　達

カテゴリー：**夏期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**2群午前**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本演習は，卒業論文の作成にとって必要な知識、手法の獲得を目指して，ゼミ形式で実施します。学生が主体となって，各自のテーマを決めたうえで，発表とディスカッションを行います。地理学の学術論文（地理学評論，経済地理学年報，人文地理，季刊地理学など）から各自の関心に基づいて選び，内容を報告したうえで，卒業論文に必要なスキルを身に着けることが目的です。

【到達目標】
地理学の学術論文の講読を通じて，各自の研究のアイデア，問題意識の醸成，既存研究の踏査方法，研究手法，図表の作成方法を獲得し，より良い卒業論文の作成できることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
授業はゼミ形式で行います。学生は授業内での発表、議論を行います。本演習受講者は，あらかじめ地理学の査読付き学術論文である地理学評論，経済地理学年報，人文地理，季刊地理学，地理科学，地学雑誌の6誌の中から，関心のある論文を選び，レジュメを作成しておくこと。レジュメの作成の際には，①論文の紹介，②取り上げた論文へのコメントと自分の研究テーマとの関連性の記述，③自分の研究テーマの紹介（問題意識と研究目的）を書くこと。レジュメの書式は自由とするが，A4要旨で最大4ページにまとめること。初回時に，各自が取り上げる論文を取りまとめ，受講者に共有したうえでゼミを進めていくこととします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	自己紹介、発表論文の決定，発表の順番の決定，発表方法に関するガイダンス
第2回	レジュメ，卒業論文の作成方法	論文の読み方，レジュメの作成方法，卒業論文の心構えについて学習する。
第3回	資料の作成方法	文献・資料の探し方，図表の作り方を学習する。
第4回	学生による論文紹介と卒論テーマ発表①	学生による発表とディスカッション
第5回	学生による論文紹介と卒論テーマ発表②	学生による発表とディスカッション
第6回	学生による論文紹介と卒論テーマ発表③	学生による発表とディスカッション
第7回	学生による論文紹介と卒論テーマ発表④	学生による発表とディスカッション
第8回	学生による論文紹介と卒論テーマ発表⑤	学生による発表とディスカッション
第9回	学生による論文紹介と卒論テーマ発表⑥	学生による発表とディスカッション
第10回	学生による論文紹介と卒論テーマ発表⑦	学生による発表とディスカッション
第11回	学生による論文紹介と卒論テーマ発表⑧	学生による発表とディスカッション
第12回	まとめ	学生発表についての講評、学生間の議論を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
発表の目的は，各自の卒業論文のテーマの確定と研究方法の獲得です。学術雑誌論文
を紹介する前段階として，必要な論文や資料を収集し，「先行研究のまとめ」と「自らの研究目的」を必ず含めた発表にしてください。発表形式は，レジュメもしくはパワーポイントで行います。本授業の準備・復習時間は各2時間、計4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
テキストはありません。

【参考書】
伊藤達也・小田宏信・加藤幸治編(2020)『経済地理学への招待』ミネルヴァ書房
経済地理学会編(2018)『キーワードで読む経済地理学』原書房
竹中克行編(2015)『人文地理学への招待』ミネルヴァ書房

【成績評価の方法と基準】
成績は，ゼミでの発表内容と討論への参加姿勢に基づいて，発表50％，討論50％で評価します。

【学生の意見等からの気づき】
各自，「自分ごと」として積極的にゼミの場を活用してください。

【学生が準備すべき機器他】
学生の発表については、パワーポイントでの発表を原則としますので，PCやタブレットを準備してください。ただし、電子機器を持参できない学生は個別で対応します。

【その他の重要事項】
本演習は，受講前に各自が学術雑誌論文を読んで，自分の研究テーマを深めておくことが前提です。限られた時間で最大限の学習効果を引き出すために，事前学習に労力を惜しまず取り組んできてください。事前学習ができていなかった場合，本演習の学習効果はほとんど期待できません。

【Outline (in English)】
Course outline
The Human Geography Exercise aims to acquire the knowledge and means necessary for a graduation thesis created in the 4th grade. Students make presentations, give their opinions, and have discussions as they participate in the exercises. The purpose is to acquire the skills necessary for the graduation thesis at the stage of selecting and reporting the content based on each interest from geography academic papers.
Learning Objectives
The goals of this course are to acquire the knowledge and means necessary for a graduation thesis
Learning activities outside of classroom
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
・Experiment/Practice（one-credit）
Grading Criteria /Policies
Your overall grade in the class will be decided based on the following
presentaton of graduation thesis : 50%、discussion: 50%

GEO200TE（地理学 / Geography 200）

自然地理学特講（夏期スクーリング）

宇津川　喬子

カテゴリー：**夏期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**2群午前**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
人間の主な生活基盤である大地の成り立ちや自然環境、そして大地の上で営まれている社会生活そのものや自然災害の素因を地理学的に捉えるにあたり、地球科学とくに地質学の諸要素を背景として踏まえることはとても重要である。本講義では、地質学の中でも岩石学と堆積学に関する基本的な知識や理論について体系的に学ぶ。

【到達目標】
1）地球科学の基礎を岩石学や堆積学と関連づけて理解し、自分の言葉で説明することができる
2）岩石の成因やその理論の基礎を理解し、岩石の種類をおおよそ判別することができる
3）堆積学の基礎を理解し、堆積構造からおおよその堆積環境を推定することができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
基本的に講義形式で進める。受講生の人数を踏まえつつ、授業内で鉱物・岩石標本の観察やスケッチ等の簡単な実習作業を適宜行う。毎回の授業の最後にコメントシート（感想、質問など）を提出してもらう。翌日の授業開始時に、前日に提出されたコメントシートからいくつか取り上げ、コメントに対するフォローを行う。コメントシートや時事などに応じて、各テーマから若干異なる内容を授業内で展開する場合がある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス・導入：自然地理学と地質学	授業概要と注意事項、地球科学の基礎、地質学の歴史
第2回	鉱物	鉱物の基礎（結晶系や造岩鉱物）を鉱物標本を用いつつ学ぶ
第3回	マグマと火成岩	火成岩の成因と種類を岩石標本も用いつつ学ぶ
第4回	続成作用と堆積岩	堆積岩の形成過程と種類を岩石標本も用いつつ学ぶ
第5回	変成作用と変成岩	変成岩の形成過程と種類を岩石標本も用いつつ学ぶ
第6回	日本列島と地質図	日本列島の地質の特徴や地質図の読み方を地質図を用いながら学ぶ
第7回	岩石の利用と社会	身の回りの石材利用（学内でのフィールドワークを予定）
第8回	堆積学の基礎	堆積物とは、堆積学の基礎用語
第9回	堆積物から見た陸域～河口環境	陸域～河口で見られる堆積構造の特徴とその形成過程を学ぶ
第10回	堆積物から見た浅海～深海環境	浅海～深海で見られる堆積構造の特徴とその形成過程を学ぶ
第11回	気候変動と堆積学	気候変動を堆積学的に捉える（シークェンス層序学）
第12回	小テスト・解説	記述式の小テストを行い、テスト後に解説する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
岩石学や地質学を中心とした地質学や地球科学をめぐる動向や社会的な応用に日々関心を持ち、テキストに加え新聞や雑誌などからの情報収集に努めること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
使用しない（適宜レジュメを配布）

【参考書】
主要な参考書は以下の通り。その他にも授業で適宜紹介する。
黒田吉益・諏訪兼位『偏光顕微鏡と岩石鉱物　第2版』1983年．共立出版.
日本堆積学会監修・伊藤 慎総編集『フィールドマニュアル 図説 堆積構造の世界』2022年．朝倉書店.

【成績評価の方法と基準】
出席を含めた平常点（40％）、小テスト（60％）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】
特にありません。

【Outline (in English)】
This course focuses on the basis knowledge of Petrology and Sedimentology in Geology.
By the end of the course, students should be able to do the followings:
− A) understand the basics of Earth Science in relation to Petrology and Sedimentology, and be able to explain them in own words,
− B) understand the origin of rocks and the basics of their theory, and be able to roughly distinguish the type of rocks,
− C) understand the basics of Sedimentology, and be able to roughly estimate the sedimentary environment from the sedimentary structure.
Before/after each class meeting students will be expected to spend two hours to understand the course content.
Grading will be decided based on the student's performance(40%) and test (60%).

ECN200TF（経済学 / Economics 200）

経済学特講（夏期スクーリング）

宇都宮　仁

カテゴリー：**夏期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**2群午前**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義ではビジネスの世界での現象を経済学のツールを用いて分析する。本講義の目的は、これまでミクロ経済学などで学んでいた経済理論を現実の現象に応用する力を身に着けることである。

【到達目標】
・ミクロ経済学の基礎理論を理解する。
・ミクロ経済学で学んだ経済学のツールを特定の現実の現象に応用できる。
・ビジネスの世界での現象を経済学のツールを用いて考えることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「経済学科：DP1」「商業学科：経済学」に関連

【授業の進め方と方法】
講義形式
講義中にフォームスなどを利用して受講生のコメントや考え、クイズの答えなどを集め、それについて解説を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ビジネス・エコノミクスとは	ビジネスの現場で起こっている様々な現象を、経済学のツールを使って分析できることを概観する。
第2回	価格引き下げ戦略	デフレ期の吉野家の価格引き下げを例にとり、需要の価格弾力性を用いてその戦略の是非を考る。
第3回	価格差別化	映画の料金やダンピングなどから価格差別化について学ぶ。
第4回	市場の論理	資本主義と計画経済の対比から市場の機能を学ぶ。
第5回	市場の限界	市場の失敗から市場をうまく活用する方法について学ぶ。
第6回	ゲーム理論とは	囚人のジレンマゲームを用いてゲーム理論の基本的な考え方を学ぶ。
第7回	ゲーム理論の応用	地方百貨店やオークションの例からゲーム理論の応用方法を学ぶ。
第8回	インセンティブとは	報酬体系からインセンティブはどのように機能するかについて学ぶ。
第9回	モラルハザード、シグナルの理論	銀行や労働市場を例にモラルハザードやシグナルについて学ぶ。
第10回	限定合理性とは	レストランのメニューや商品の価格付けから限定合理性について学ぶ。
第11回	総復習	試験前の総復習を行う。
第12回	期末試験と解説	期末試験を行う。その後、全体の解説を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
なし。

【参考書】
伊藤元重「ビジネスエコノミクス第2 版」日本経済新聞出版、2021 年
今井誠、坂井豊貴（編著)「そのビジネス課題、最新の経済学で「すでに解決」しています。」日経BP、2022 年

【成績評価の方法と基準】
平常点　40 %
期末試験　60 %

【学生の意見等からの気づき】
授業内のクイズをFormsですぐに回答できたことは講評であったため、今後も続けていきたい。

【学生が準備すべき機器他】
スマートフォンを持ってきてください。（QR コード読み取りのため）ない場合や忘れた場合は別途対応しますので、講義ごとに申し出てください。

【その他の重要事項】
なし。

【Outline (in English)】
This course introduce the use of economic tools to analyze realworld phenomena.
By the end of the course, students should be able to do the followings:
-Understand basic microeconomic theory.
-Apply the tools of microeconomics to real-world phenomena.
-Consider real-world phenomena using economic tools.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the following
Term-end examination: 60%, in-class contribution: 40%

MAN200TG（経営学 / Management 200）

経営学特講（夏期スクーリング）

韓　載香

カテゴリー：**夏期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**2群午前**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では、20世紀の日本における代表的産業を時代別に取り上げながら、産業のあり方の変化に光を充て、産業を成り立たせる基盤（市場、システムなど）や成長要因（技術、マネジメント、労働等）について説明します。特定の国において、特定の時期に、ある産業が形成、成長し、時には衰退するあり様に注目し、その背景となる経済発展及び競争条件や企業者活動によるダイナミックな変化を織り込みながら、企業活動の舞台となる産業を歴史立体的に理解することを目的とします。

【到達目標】
(1)産業とは何かについて説明することができる。
(2)産業発展の背景となったマクロ的な経済の特徴について述べることができる。
(3)産業が成長する条件や基盤について、特定分野を取り上げて説明することができる。
(4)特定産業の形成、成長、成熟までを、外部環境の条件を考慮しながら、企業活動に関連付けて解説することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「経済学科：DP2」「商業学科：経営学・商学,自由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

【授業の進め方と方法】
受講生は事前に教員が提示する参考資料を読んで授業に参加してください。
講義形式で進めますが、講義中のグループで議論することがあります。受講者状況(人数など)により、講義関連のクイズと回答に対する(授業にて口頭で行う)フィードバックを取り入れる可能性があります。これについては初回にて説明します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	産業史Ⅰのためのイントロダクション：産業とは？	・「企業と産業と経済発展の歴史」から学ぶこと ・「日本標準産業分類」と産業構造
第2回	Ⅰ　産業史という方法： 経済発展の鳥瞰	産業構造変化の国際比較
第3回	Ⅱ　戦前 ①経済発展と産業のあり方の変容、そして諸問題：産銅業の産業化と環境問題	生産の急増は自然が提供する原料の供給量とのバランスを狂わせたが、自然との調和のなかで営んでいた鉱山周辺の農業にも影響を及ぼし、環境問題を発生させた。その結果としての企業の対応過程を追いかけ、その意味合いについて考える。
第4回	Ⅱ　戦前 ②経済発展と産業のあり方の変容、そして諸問題：別子暴動事件	産業化と働くということ：　急激な需要増加によって生産増加が要求されたとき、産業内、企業はどのように対応し、産業成長の軌道に乗ることができるのでしょうか。労働の管理方法の変化やそれによる働き方の変容が見えてきます。
第5回	Ⅱ　戦前 ③経済発展と産業のあり方の変容、そして諸問題 ：製糸業(1)	輸出産業化とジェンダー：繊維産業の発展は多くの国において女子労働に支えられる特徴を持っている。産業の在り方にジェンダーの側面がどのように関連したか、就労の意思決定に影響する要因はなにか、労働過程における労働管理の在り方に与えた結果に注目しながら、産業成長と日本経済の発展についてジェンダーの視点から考える。
第6回	Ⅱ　戦前 ④経済発展と産業のあり方の変容、そして諸問題 ：製糸業(2)	輸出産業化とジェンダー：繊維産業の発展は多くの国において女子労働に支えられる特徴を持っている。産業の在り方にジェンダーの側面がどのように関連したか、就労の意思決定に影響する要因はなにか、労働過程における労働管理の在り方に与えた結果に注目しながら、産業成長と日本経済の発展についてジェンダーの視点から考える。
第7回	第2次世界大戦後の世界経済	戦前とは異なるマクロ経済の在り方の変容と国際経済の環境について解説します。
第8回	Ⅲ　戦後 ⑤消費革命と耐久消費財産業の発展	1950年代末の消費革命という現象に注目し、戦後始まる本格的経済発展のメカニズムを説明します。
第9回	Ⅲ　戦後 ⑥機械産業の発展とトヨタ生産方式	機械産業は中小企業を含む広い範囲の諸産業との関連性があり、且つ大量の雇用を生み出すため、高度成長をけん引する分野として意義深いです。日本と他国の自動車産業を比較します。
第10回	Ⅲ　戦後 ⑦サービス産業化(1) ――パチンコ産業の成長	民族マイノリティが関わる分野について、ドキュメンタリー映画「在日」から、彼らのおかれた環境に注目して考えます。
第11回	Ⅲ　戦後 ⑧サービス業化(2)――多様なニーズをビジネスに、焼肉の普及(映画鑑賞「焼肉ドラゴン」から焼肉レストランの発祥について考える)	日本に定着した焼肉食文化はどのようにして始まったのでしょうか。マイノリティ集住地域に注目して、この点について考えます。
第12回	総括(40分)及び期末テスト(60分)	授業を振り返りながら総括し、期末テストを行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
学習支援システムの参考資料を事前に読む、授業内で示される課題（レポート、問題）への対応のため、本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
指定教科書なし。
参考資料あり（学習支援システム）

【参考書】
武田晴人『日本経済史の事件簿』日本経済評論社、2008年、ジャネット・ハンター『日本の工業化と女性労働』阿部武司他訳、有斐閣、2008年、中林真幸『近代資本主義の組織』東京大学出版会、2003年、橘川武郎『日本電力発展のダイナミズム』名古屋大学出版会、2004年、宮本又郎他編『1からの経営史』碩学舎、2014年、加藤健太・大石直樹『ケースに学ぶ日本企業』有斐閣、2013年、武田晴人『日本産業発展のダイナミズム』東京大学出版会、1995年、ジェームズ・P・ウォーマック他『リーン生産方式が、世界の自動車産業をこう変える。最強の日本車メーカーを欧米が追い越す日』経済界、1990年、和田一夫『ものづくりの寓話』名古屋大学出版会、2009年、韓載香『パチンコ産業史』名古屋大学出版会、2018年

【成績評価の方法と基準】
期末テスト100％

【学生の意見等からの気づき】
(1)時事的な問題に関して歴史的観点からどのような理解が可能かを取り上げて解説します。
(2)学生から受けた質問を受講者全員に共有していただけるように解説します。
(3)講義以外の学習方法として、関連映画や動画なども使用し、多方面の知的刺激を受けるようにします。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【その他の重要事項】
なし

【Outline (in English)】
【Course Outline】 The purpose of this course is to understand the industry's history as the stage of business activities. In this course, while focusing on representative industries in Japan by era, I will examine the foundations (market, systems, etc.) that made up the industry and growth factors (technology, policies, management, labor policies etc.), shedding light on the changes in the state of industry. I will pay attention to how an industry forms, grows, and sometimes declines in a specific country and incorporates three dimensions in the underlying economic development, competitive conditions, and dynamic changes due to corporate activities.
【Learning Objectives】
By the end of the course, students should be able to do following:
To explain what industry is.
To explain how an industry develops and conditions and foundations for the growth dividing the time periods based on the example of that industry.
To explain the formation, growth, and maturity of a specific industry in relation to corporate activities, considering the conditions of the external environment.
【Learning activities outside of classroom】
Before each class meeting, students will be expected to spend one or two hours to read the material provided by me.
【Grading Criteria/Policy】
Final grade will be calculated according to a final examination (100 %).

PRI200TG（情報学基礎 / Principles of informatics 200）

情報学入門（4）（表計算）（夏期スクーリング）

髙田　美樹

カテゴリー：**夏期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**2群午前**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ワープロ、表計算、インターネットを活用した情報リテラシーを習得する。

【到達目標】
ワープロ(文書処理)ソフト、表計算ソフト、インターネットをツールとして利用し、情報を収集し、集計してレポートを作成することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「法律学科： DP5」「日本文学科：DP1,DP4」「史学科：DP1」「地理学科：DP2,DP3」「商業学科：情報・統計学」に関連

【授業の進め方と方法】
実習室のパソコンを利用して表計算、文書作成、インターネットからの情報収集を行います。
パソコンの初級者を対象として基本操作から始めます。基礎を中心とするため、事前の準備は特に必要としませんが、毎回の講義で積み上げていきます。毎回の講義を一つひとつ身につけていきましょう。文字の入力操作に自信のない人はそれなりの努力が必要になります。普段から実務等で既に文書作成や表計算を活用している方にはやや物足りない内容となるかもしれませんが、再度、基礎から俯瞰的に実習をしたい方には勧められます。Classroomを利用して、講義資料を配布し、課題の提出を行います。課題のフィードバックもClassroom上で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	Windowsの基本操作と電子メール操作	アプリケーションの起動、ファイルの整理などの基本操作とメールの仕組みを学びます。
第2回	表計算による表の作成	罫線などで表を整え、データを入力し、表を作成します。
第3回	表計算による計算	表計算の計算式について学びます。
第4回	表計算による関数（1）	表計算でよく使う関数を学びます。
第5回	表計算による関数（2）	少し高度な表計算の関数を学びます。
第6回	インターネット情報検索	インターネットからデータを収集する方法を学びます
第7回	情報の可視化	グラフを作成し、収集したデータを可視化します。
第8回	文書の作成	長い文書を作成するときに必要なスキルを学びます。
第9回	レポートの書き方	アカデミックライティングの詳細を学びます。
第10回	アプリケーションの連携	表計算により作成したグラフを取り込んでレポートを作成する方法を学びます。
第11回	最終課題とまとめ	収集したデータを可視化・集計して考察します。
第12回	最終課題とまとめ	これまで学んだことをすべて利用して最終課題としてレポートを作成します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
事前に講義資料を確認し、内容を把握してください。
講義終了後は、その日の目標を完成させてください。
課題は２つあります
１。Excelファイルの作成（前半）
２。データ解析レポートの作成（後半）
本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
講義資料を提供します。

【参考書】
授業内で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
中間課題４０％　最終課題６０％とします。毎回授業に参加して、各回の実習をこなし、積み上げていくことが大切です。

【学生の意見等からの気づき】
前半のExcelの関数部分は、もともとのスキルの差に対応することが求められており、練習問題などで対応します。
後半のレポート作成では、WORDの使い方とアカデミックライティングを同時に行うので、負担が大きかった。レポート作成の条件のいくつかを取りやめる。

【学生が準備すべき機器他】
教室のパソコンを利用します。

【その他の重要事項】
2024年度より付与される「統合認証アカウント ユーザID」を使用します。
各種ログインに使用しますので、教室で使用できるように準備してください。

【オフィスアワー】
授業時間内に積極的に質問してください。
時間外には、メールで対応します。
miki.takata.43@hosei.ac.jp

【Outline (in English)】
（Course outline）
You will learn information literacy through word ,Excel, and the Internet.
（Learning Objectives）
You can write your report with collecting data from the Internet.
（Learning activities outside of classroom）
It takes about 2 hours.
（Grading Criteria /Policy）
40%intermediate assignment; 60%final assignment.

PRI200TF（情報学基礎 / Principles of informatics 200）

コンピュータ入門（4）（表計算）（夏期スクーリング）

髙田　美樹

カテゴリー：**夏期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**2群午前**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ワープロ、表計算、インターネットを活用した情報リテラシーを習得する。

【到達目標】
ワープロ(文書処理)ソフト、表計算ソフト、インターネットをツールとして利用し、情報を収集し、集計してレポートを作成することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP4」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】
実習室のパソコンを利用して表計算、文書作成、インターネットからの情報収集を行います。
パソコンの初級者を対象として基本操作から始めます。基礎を中心とするため、事前の準備は特に必要としませんが、毎回の講義で積み上げていきます。毎回の講義を一つひとつ身につけていきましょう。文字の入力操作に自信のない人はそれなりの努力が必要になります。普段から実務等で既に文書作成や表計算を活用している方にはやや物足りない内容となるかもしれませんが、再度、基礎から俯瞰的に実習をしたい方には勧められます。Classroomを利用して、講義資料を配布し、課題の提出を行います。課題のフィードバックもClassroom上で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	Windowsの基本操作と電子メール操作	アプリケーションの起動、ファイルの整理などの基本操作とメールの仕組みを学びます。
第2回	表計算による表の作成	罫線などで表を整え、データを入力し、表を作成します。
第3回	表計算による計算	表計算の計算式について学びます。
第4回	表計算による関数（1）	表計算でよく使う関数を学びます。
第5回	表計算による関数（2）	少し高度な表計算の関数を学びます。
第6回	インターネット情報検索	インターネットからデータを収集する方法を学びます
第7回	情報の可視化	グラフを作成し、収集したデータを可視化します。
第8回	文書の作成	長い文書を作成するときに必要なスキルを学びます。
第9回	レポートの書き方	アカデミックライティングの詳細を学びます。
第10回	アプリケーションの連携	表計算により作成したグラフを取り込んでレポートを作成する方法を学びます。
第11回	最終課題とまとめ	収集したデータを可視化・集計して考察します。
第12回	最終課題とまとめ	これまで学んだことをすべて利用して最終課題としてレポートを作成します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
事前に講義資料を確認し、内容を把握してください。
講義終了後は、その日の目標を完成させてください。
課題は２つあります
１。Excelファイルの作成（前半）
２。データ解析レポートの作成（後半）
本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
講義資料を提供します。

【参考書】
授業内で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
中間課題４０％　最終課題６０％とします。毎回授業に参加して、各回の実習をこなし、積み上げていくことが大切です。

【学生の意見等からの気づき】
前半のExcelの関数部分は、もともとのスキルの差に対応することが求められており、練習問題などで対応します。
後半のレポート作成では、WORDの使い方とアカデミックライティングを同時に行うので、負担が大きかった。レポート作成の条件のいくつかを取りやめる。

【学生が準備すべき機器他】
教室のパソコンを利用します。

【その他の重要事項】
2024年度より付与される「統合認証アカウント ユーザID」を使用します。
各種ログインに使用しますので、教室で使用できるように準備してください。

【オフィスアワー】
授業時間内に積極的に質問してください。
時間外には、メールで対応します。
miki.takata.43@hosei.ac.jp

【Outline (in English)】
（Course outline）
You will learn information literacy through word ,Excel, and the Internet.
（Learning Objectives）
You can write your report with collecting data from the Internet.
（Learning activities outside of classroom）
It takes about 2 hours.
（Grading Criteria /Policy）
40%intermediate assignment; 60%final assignment.

教育原理（夏期スクーリング）

森　和宏

カテゴリー：**夏期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**2群午前**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：**※旧法（平成10年改正法）用**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「教育」は社会においても、またそれを生きる一人ひとりの人生においても欠かすことのできないものである。また、多くの人にとって、「教育」は自らも経験した身近なことがらでもある。しかしながら、「教育とは何か？」、あるいは「良い教育とは何か？」といった根源的な問いに答えることは容易ではない。そこで、この授業では、「教育」について幅広い視点から捉え直し、自分なりの意見を表現する力を養うことを目指したい。
そのために、まず教育とはどのような営みであるのかについて、基礎的な概念を概観する。次いで、それらを踏まえたうえで、西洋並びに日本の教育の歴史と思想をたどり、今日までの教育がどのような理念に基づいて成立し、どのような歴史的な過程をたどってきたのかを考察する。最後に、学習をとおして得られた教育の歴史と思想に関する知見に基づいて、現代の教育を対象化し、それらの教育課題について歴史的・思想的に考察する可能性について確認する。

【到達目標】
１．教育の基本的概念を理解するとともに、教育を成り立たせる諸要素とそれらの相互関係を理解する。
２．家族と社会による教育の歴史、近代教育制度の成立と展開について理解し、それらの知識にもとづいて、現代社会における教育課題を歴史的に考える力を身につける。
３．教育、学習、子どもに関わる様々な思想を理解し、それらと多様な教育の理念や実際の教育・学校との関わりについて理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
基本的に講義形式で授業を進めるが、講義内容等に応じて、ディスカッションを取り入れる場合がある。授業で使用するスライド・資料については事前に配布する。
また、授業の最後に、毎回リアクションペーパーを記入し、提出してもらう。リアクションペーパーに書かれた疑問や考えなどについては、適宜次回の授業において回答・紹介する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション：「教育」とは何か	講義の内容や進め方について説明を行う。また、講義全体の導入として、「教育」とは何かについて考察する。
第2回	子ども・家族・社会	教育を支える諸要素とその関係について学習する。
第3回	学習・発達とは何か？	「学習」「発達」とは何かについて考察し、その捉え方と変遷について概観する。
第4回	近代以前の人間形成	近代以前の学校以外の場での人間形成について、その特徴を理解する。
第5回	近代教育の理念とその思想	近代市民社会において登場した「教育」の理念および思想について学習する。
第6回	近代学校制度の成立と定着	近代学校の制度について、その成立・定着の過程について、歴史的な背景も踏まえて理解する。
第7回	日本における学校の誕生と定着	日本における「学校」制度の定着について、西洋の近代学校とも比較しつつ、その特徴を理解する。
第8回	太平洋戦争と戦後教育改革	戦時下の学校教育について概観し、その反省としての戦後教育改革についてその理念や戦前との断絶・連続について理解する。
第9回	新教育運動の思想と実践	日本を含む新教育運動の思想および実践について概観し、その意義と課題について考察する。
第10回	近代教育批判と学校の変容	近代教育批判の主張について概観し、どのような学校改革が求められるのか、現代的な課題も交えて考察する。
第11回	インクルーシブな教育に向けて	教育の現代的な課題の一つとして、「インクルーシブな教育」について取り上げ、講義で学習した知見をもとに考察する。
第12回	講義のまとめ・定期試験	近代教育の成立と展開を中心として、講義のまとめを行う。また、学習内容の習得について、試験を実施し評価する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
復習では、前回の講義内容について自分なりに整理し、疑問点や深く調べてみたい点についてまとめておく。
予習では、前回の講義の最後に出された問いについて、ほかの考え方がないか考える。また、事前に配布される資料に目を通し、自身の経験やこれまでの学習で得た知識をもとに、疑問点などを整理しておく。
本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に指定しない。

【参考書】
木村元・汐見稔幸編著『アクティベート教育学１教育原理』ミネルヴァ書房、2020年。
木村元・小玉重夫・船橋一男『教育学をつかむ 改訂版』有斐閣、2019年。
田中智志・今井康雄編『キーワード　現代の教育学』東京大学出版会、2009年。
そのほか、講義のなかで適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点および毎回の小課題（40％）と試験（60％）によって、評価する。

【学生の意見等からの気づき】
特になし（本年度新規担当のため）。

【学生が準備すべき機器他】
講義のなかでも本学の「学習支援システム」を利用することがあるため、パソコン・タブレット等を持参して受講すること。

【Outline (in English)】
授業概要（Course outline）
This course deals with the history and philosophy of education. It also asks students to consider contemporary issues related to education based on the knowledge gained.
到達目標（Learning Objectives）
The goals of this course are A, B, and C.
－ A.To understand the basic concepts of education.
－ B.To understand the establishment and development of the modern education system.
－ C.To gain knowledge to consider contemporary issues in education.
授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
成績評価の方法と基準（Grading Criteria /Policies）
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Term-end examination:　60%、Short reports and in class contribution: 40%

教育原理（夏期スクーリング）

森　和宏

カテゴリー：**夏期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**2群午前**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：**※新法（平成28年改正法）用**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「教育」は社会においても、またそれを生きる一人ひとりの人生においても欠かすことのできないものである。また、多くの人にとって、「教育」は自らも経験した身近なことがらでもある。しかしながら、「教育とは何か？」、あるいは「良い教育とは何か？」といった根源的な問いに答えることは容易ではない。そこで、この授業では、「教育」について幅広い視点から捉え直し、自分なりの意見を表現する力を養うことを目指したい。
そのために、まず教育とはどのような営みであるのかについて、基礎的な概念を概観する。次いで、それらを踏まえたうえで、西洋並びに日本の教育の歴史と思想をたどり、今日までの教育がどのような理念に基づいて成立し、どのような歴史的な過程をたどってきたのかを考察する。最後に、学習をとおして得られた教育の歴史と思想に関する知見に基づいて、現代の教育を対象化し、それらの教育課題について歴史的・思想的に考察する可能性について確認する。

【到達目標】
１．教育の基本的概念を理解するとともに、教育を成り立たせる諸要素とそれらの相互関係を理解する。
２．家族と社会による教育の歴史、近代教育制度の成立と展開について理解し、それらの知識にもとづいて、現代社会における教育課題を歴史的に考える力を身につける。
３．教育、学習、子どもに関わる様々な思想を理解し、それらと多様な教育の理念や実際の教育・学校との関わりについて理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
基本的に講義形式で授業を進めるが、講義内容等に応じて、ディスカッションを取り入れる場合がある。授業で使用するスライド・資料については事前に配布する。
また、授業の最後に、毎回リアクションペーパーを記入し、提出してもらう。リアクションペーパーに書かれた疑問や考えなどについては、適宜次回の授業において回答・紹介する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション：「教育」とは何か	講義の内容や進め方について説明を行う。また、講義全体の導入として、「教育」とは何かについて考察する。
第2回	子ども・家族・社会	教育を支える諸要素とその関係について学習する。
第3回	学習・発達とは何か？	「学習」「発達」とは何かについて考察し、その捉え方と変遷について概観する。
第4回	近代以前の人間形成	近代以前の学校以外の場での人間形成について、その特徴を理解する。
第5回	近代教育の理念とその思想	近代市民社会において登場した「教育」の理念および思想について学習する。
第6回	近代学校制度の成立と定着	近代学校の制度について、その成立・定着の過程について、歴史的な背景も踏まえて理解する。
第7回	日本における学校の誕生と定着	日本における「学校」制度の定着について、西洋の近代学校とも比較しつつ、その特徴を理解する。
第8回	太平洋戦争と戦後教育改革	戦時下の学校教育について概観し、その反省としての戦後教育改革についてその理念や戦前との断絶・連続について理解する。
第9回	新教育運動の思想と実践	日本を含む新教育運動の思想および実践について概観し、その意義と課題について考察する。
第10回	近代教育批判と学校の変容	近代教育批判の主張について概観し、どのような学校改革が求められるのか、現代的な課題も交えて考察する。
第11回	インクルーシブな教育に向けて	教育の現代的な課題の一つとして、「インクルーシブな教育」について取り上げ、講義で学習した知見をもとに考察する。
第12回	講義のまとめ・定期試験	近代教育の成立と展開を中心として、講義のまとめを行う。また、学習内容の習得について、試験を実施し評価する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
復習では、前回の講義内容について自分なりに整理し、疑問点や深く調べてみたい点についてまとめておく。
予習では、前回の講義の最後に出された問いについて、ほかの考え方がないか考える。また、事前に配布される資料に目を通し、自身の経験やこれまでの学習で得た知識をもとに、疑問点などを整理しておく。
本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に指定しない。

【参考書】
木村元・汐見稔幸編著『アクティベート教育学１教育原理』ミネルヴァ書房、2020年。
木村元・小玉重夫・船橋一男『教育学をつかむ 改訂版』有斐閣、2019年。
田中智志・今井康雄編『キーワード　現代の教育学』東京大学出版会、2009年。
そのほか、講義のなかで適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点および毎回の小課題（40％）と試験（60％）によって、評価する。

【学生の意見等からの気づき】
特になし（本年度新規担当のため）。

【学生が準備すべき機器他】
講義のなかでも本学の「学習支援システム」を利用することがあるため、パソコン・タブレット等を持参して受講すること。

【Outline (in English)】
授業概要（Course outline）
This course deals with the history and philosophy of education. It also asks students to consider contemporary issues related to education based on the knowledge gained.
到達目標（Learning Objectives）
The goals of this course are A, B, and C.
－ A.To understand the basic concepts of education.
－ B.To understand the establishment and development of the modern education system.
－ C.To gain knowledge to consider contemporary issues in education.
授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
成績評価の方法と基準（Grading Criteria /Policies）
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Term-end examination:　60%、Short reports and in class contribution: 40%

BSP100TA（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）

基礎特講（夏期スクーリング）

今泉　隆裕

カテゴリー：**夏期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**2群午後**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では能（謡曲）とその周辺事項について、とくに日本仏教とのかかわりについて考える。
短歌や俳句が固定した形式をもつゆえに、かえって想像力を刺激するように、能もいくつかの決まった形式をもっている。この形式（話の枠）には、この芸能が胎動した当時の時代状況や、人々の期待が反映されている。どのような状況下で、どのようなことが、この芸能に要請されたのか。どのような歴史社会の状況に影響を受け、それらの形式が確立されのか。さらにその形式がどのような想像力を促がしたのか。
本講義では、とくに能と宗教文化（おもに日本仏教）との関連を紹介しながら、その一端を垣間見たいと考える。とはいえ能に関する知識はそれほど一般的ではない。はじめの数回、能楽に関する入門的内容をふまえることになる。また時間に余裕があれば、近代における能楽の動向を紹介しつつ、文化がいかに歴史社会とのかかわりの中で存続するのか（あるいは消滅するのか）を考える機会も持ちたい。
入門的内容を終えたあと、「夢幻能」、なかでも幽霊を主人公（シテ）とする曲をおもに扱う。
※講義内容はその都度変更する場合がある。

【到達目標】
能楽に関する基本的な知識を身につけることを目指す。同時に、文芸作品が歴史社会とのかかわりのなかで、いかに規制されるのか。また、その規制された視点がどのような想像を促し、どのような表現を創造するのか。その一端を垣間見る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP3」「史学科：DP1, DP3」「地理学科：DP1」「経済学科：DP5」「商業学科：幅広い教養」に関連

【授業の進め方と方法】
授業は講義形式とする。またリアクションペーパーに記入された内容、および質問など全体でも共有したほうが良いものについては講義内で適時フィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	能楽入門①　授業展開について	能楽入門 基本的な用語などについて解説する。DVD映像を参照して説明していく。
2	能楽入門②　舞台について（1）	上記、能楽入門つづき 能舞台についての解説（1）
3	能楽入門③　舞台について（2）	上記、能楽入門つづき 能舞台の変遷について（2）
4	能楽入門④　能の歴史について（1）	上記、能楽入門つづき 能の歴史（1）世阿弥以前以後
5	能楽入門⑤　能の歴史について（2）	上記、能楽入門つづき 能の歴史（2）近代における能楽について
6	能楽入門⑥　能の用語について（1）	上記、能楽入門つづき基本用語についての解説（1）曲種　五番立て
7	能楽入門⑥　能の用語について（2）	上記、能楽入門つづき 基本用語についての解説（2）夢幻能／現在能
8	夢幻能について①（幽霊能〈求塚〉について）	夢幻能のなかでも幽霊を主人公（シテ）とするものを取り上げ、その特徴について論じる。 ・夢幻能について〈求塚〉作品概要・及び鑑賞する。
9	夢幻能について②（幽霊能〈船橋〉について）	上記、夢幻能について（つづき） 〈船橋〉〈鵜飼〉ほかも時間があれば、作品概要を説明して、鑑賞をする。
10	現在能について①（現在能〈隅田川〉について）	現在能について 〈隅田川〉の鑑賞① 作品概要を説明して、鑑賞する。
11	現在能について②	現在能について 〈隅田川〉の鑑賞②そのほか親子物狂能〈弱法師〉ほかも時間があれば作品概要を説明して、鑑賞する。
12	まとめ 試験（60分）	まとめ及び試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業内で指示した課題にしっかり取り組む。
本講義ではいくつかの曲を取り上げる予定である。
その際には【参考書】『謡曲集』『謡曲百番』等で本文を事前に確認することが望ましい。集中講義であり、時間には制約があるが、2単位科目であるため準備・復習になるべく時間を割くよう努めてほしい（ちなみに学則上は準備・復習時間は講義及び演習（2単位）では1回につき4時間以上とされている）。

【テキスト（教科書）】
特に指定しない。必要な際は授業内で指示する。

【参考書】
本文
『謡曲集』上・下（表章日本古典文学大系、岩波書店）
『謡曲百番』（新日本古典文学大系、岩波書店）
『謡曲集』一・二（日本古典文学全集、小学館）など
入門書
西野春雄『能・狂言・風姿花伝』（新潮社、1992年）など
ほかは授業内で指示する。

【成績評価の方法と基準】
成績評価は平常点〈20％〉と試験〈80％〉によっておこなう。
平常点は出席した上での積極的授業への参画を評価する。具体的にはリアクションペーパーの内容で評価する。試験は最終回に行う。

【学生の意見等からの気づき】
試験解答をみていると、そもそも質問の意味を了解していないものが散見される。能に関する知識は、あまり一般的ではないので、図書館等を積極的に活用し、理解を深めてほしい。

【学生が準備すべき機器他】
特にありません。

【その他の重要事項】
集中講義のため、オフィスアワーを設けることが難しいが授業前後で質問を受け付ける。

【Outline (in English)】
In this lecture, we will think about Noh (Kayo) and its surroundings, especially concerning Japanese Buddhism.
Haiku and Tanka have a fixed form, so they stimulate the imagination of people. It is needless to say that this form (the framework of the story) reflects the circumstances and expectations of people when this entertainment is created. Under such circumstances, what was expected for this entertainment? what kind of historical society did affect the establishment of the form? What kind of imagination from that form was newly promoted?
The goals of this course are to Understand Nogaku.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Final grade will be calculated according to the following process term-end examination (80%), and in-class contribution（20％）.

SOC100TA（社会学 / Sociology 100）

社会学（夏期スクーリング）

徐　玄九

カテゴリー：**夏期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**2群午後**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
私たちは長い時間をかけて形成された社会構造の影響を強く受けながら考え、行動しており、その結果として社会構造に変化をもたらす。今回のスクーリングでは社会構造のなかでとくに国家の本質、機能、市民の役割などについて学ぶ。具体的には、マックス・ウェーバーによって定義された支配と服従、国家などの概念を手掛かりに、歴史上登場した国家論の変遷と共に「市民」や政治制度の「民主主義」に関する理論を取り上げる。これらを通して受講者自らの「国家」と「市民」、「民主主義」に関する見解と比較してみることで、自らの考え方を少しでも明瞭にすることが目的である。

【到達目標】
・国家論の変遷を歴史的な文脈で説明できる。
・市民の自由と権利の意義と限界を受講生の経験を踏まえて具体的に説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP3」「史学科：DP1, DP3」「地理学科：DP1」「経済学科：DP7」「商業学科：幅広い教養」に関連

【授業の進め方と方法】
・対面授業で実施する。可能なかぎり双方的な授業を心がける。とくに、テーマごとの関連性を重視しながら、具体的で身近なものから抽象的なものへと話題を進める。理解を深めるために、絵画や詩、映像資料などの教材も取り入れて視覚的な理解も図る。
・授業資料は教室にて配布する（授業支援システムからもダウンロード可能）。
・リアクションペーパー課題の提出を求める予定であり、課題等のフィードバックは授業の始めに行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	基礎概念の理解	前半はガイダンス（授業の概要および受講時の注意点、成績評価の方法）を実施し、後半に基礎となる概念を学ぶ
第2回	統治術の変化	前半は「誰が統治すべきか」から「如何に統治すべきか」へ。後半は「rule of law」（法の支配）と「rule by law」（法による支配）の違いを実例を通して学ぶ
第3回	国家主義国家論	トマス・ホッブズ『リヴァイアサン』の一部講読
第4回	自由主義国家論（政治的な側面から）	ジョン・ロック『統治二論』の一部講読と討論
第5回	自由主義国家論（経済的な側面から）	アダム・スミス『道徳感情論』と『国富論』の一部講読と討論
第6回	自由と平等をめぐるルソーの立場	ルソー『人間不平等起源論』、『社会契約論』の一部講読
第7回	階級国家論、国家消滅論	カール・マルクス―『共産党宣言』の一部講読
第8回	大衆社会論	オルテガ・イ ガセット『大衆の反逆』、エリック・フロム『自由からの逃走』の一部講読と討論
第9回	全体主義について	ハンナ・アーレント、丸山眞男、藤田省三の分析を学ぶ
第10回	「悪の平凡さ」について	映画「ハンナアーレント」を題材に「悪の平凡さ」概念を理解し、「考える」ことの大事さについて討論
第11回	民主主義について	杉田敦『デモクラシーの論じ方』、同『境界線の政治学』の一部講読
第12回	テストおよび総括	授業内テスト（60分）、講評・まとめ（40分）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用せず、配布資料（レジュメ、参考文献の抜粋）を用いる。

【参考書】
マックス・ウェーバー（1919＝2018）野口雅弘訳「仕事としての政治」『仕事としての学問・仕事としての政治』所収、講談社。
杉田敦（2001）『デモクラシーの論じ方』ちくま新書。

【成績評価の方法と基準】
期末テスト（50％）、リアクションペーパー課題（30％）、平常点（質疑応答や討論への参加：20％）
詳細な評価基準は以下の通りである。
〈期末テスト〉
40-50点：以下の条件を満たしたうえで到達目標を達成できたと認められる場合
30-39点：以下の条件を満たしたうえで、明確な論点の提示、論理的な論述がなされている場合
10-29点：授業内容の理解、概念の正しい使用が認められている場合
1-9点：不十分ながら最低限の理解と論点が提示されている場合
〈リアクションペーパー課題〉
12～15点：授業内容の十分な理解が認められ、自分の意見が自分の言葉で論理的に述べられている場合
5～11点：不十分ながら授業内容を理解していると認められる場合
1～4点：最低限の理解は認められる場合

【学生の意見等からの気づき】
・アクティブラーニングの時間を増やす。

【Outline (in English)】
（Course outline） Learn about the nature, function, and role of the nation. Specifically, this paper takes up the theory on "democracy" of "citizen" and political system as well as the transition of state theory which has appeared in history, taking into consideration the concepts of rule, obedience and nation defined by Max Weber. The purpose of this study is to clarify the students' views by comparing them with their own views on "nation," "citizen," and "democracy".（Learning Objectives）· The basic concepts of political sociology can be logically presented and discussed in one's own words. · The transition of the theory of nation in modern times can be understood in the historical context. · To enhance sociological understanding of political conflicts.（Learning activities outside of classroom）Since materials such as resumes and reference materials are distributed in advance, grasp the content of the lesson as a preparatory lesson and review it after the lesson. · Two hours of advanced study: study concepts and read textbooks and references in advance. · 2 hours of post-course learning: Organize notes, look up textbooks, and read related literature.（Grading Criteria /Policy） Final exams (50%), preparation and review tasks (30%) and participation in biweekly group discussions (20%).

PHY100TA（物理学 / Physics 100）

物理学３（実験）（夏期スクーリング）

井坂　政裕

カテゴリー：**夏期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**2群午後**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
自然科学の１つである物理学では、実験や観測を通して物理法則が発見され、さらに、それをもとに構築された物理理論も実験や観察によって検証されることで発展してきました。
この授業では、光・波・重力・エネルギーなどの身近な現象に関する実験を学生自らが行うことにより、これらの現象の本質を理解できるようになるとともに、その背後にある物理法則や理論を深く理解することを目的としています。

【到達目標】
身の回りの物理現象に関する実験を通して、物理学に関する知識を深めるとともに、科学的なものの見方を修得することを目標としています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP3」「史学科：DP1, DP3」「地理学科：DP1」「経済学科：DP3, DP7」「商業学科：幅広い教養」に関連

【授業の進め方と方法】
学生自身が行う４種類の実験を中心に授業が行われます。高校での物理の基礎知識が無くても実験内容の理解が深められるように、実験の前には印刷資料や一部映像を使用して講義を行います。なお、４種類の実験をローテーションで行うため、場合によっては実験の順番が授業計画欄に記載のものから前後します。質問などに対するフィードバックは、講義内で行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス及び落体の法則	授業全体の進め方について説明し、その後、実験１に関する落体の法則についての講義を行う。
第2回	熱エネルギー	実験２に関する熱エネルギーについての講義を行う。
第3回	実験１（落体実験）	重力によって落下する物体の様子を調べ、落体の法則やエネルギー保存則について理解を深める。
第4回	実験２（熱の仕事等量の測定）	熱の仕事当量を測定することにより、熱についての理解を深めるとともに、エネルギー変換について理解を深める。
第5回	光の性質	実験３と実験４に関する光の性質について講義を行う。
第6回	太陽電池とLED	第５回に引き続き、光の性質や、太陽電池と発光ダイオード（LED）の構造について講義を行う。
第7回	光の二重性	光の性質に関連して、光や電子などが持つ二重性についての講義を行う。
第8回	実験３（光スペクトルの観察）	蛍光灯やLEDなどが放つ光の波長を測定することによって、それぞれの光源の原理や、原子の発光メカニズムについての理解を深める。
第9回	実験４（LEDの実験）	LEDを発光させるために必要な電気エネルギーと光の色との関係を調べることによって、光の性質について理解を深める。
第10回	万有引力の法則	落体の法則に関連して、万有引力の法則についての講義を行う。
第11回	無重力状態での物理現象	日常では経験できない無重力状態での物理現象について紹介する。
第12回	超伝導現象	日常では見ることができない超伝導現象について紹介する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
実験をスムーズに行うため、実験前に予め配付プリントを読んで予習してください。さらに、実験後にデータ解析とレポート作成を行う必要があります。授業の準備やレポート作成を含めた予習・復習時間は、各２時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
配付プリントを使用するため、テキストは使用しません。

【参考書】
必要に応じて授業中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】
試験は実施せず、実験のレポート（80％）と平常点（20%）で評価します。

【学生の意見等からの気づき】
特にありません。

【学生が準備すべき機器他】
筆記用具に加えて、15cm程度の定規と電卓（携帯電話やスマートフォンのアプリでも可）を持参してください。
レポートを手書きで作成する場合は、市販のA4サイズ横書きのレポート用紙を用意してください。レポートをワープロソフトで作成する場合は、作成後、各自で印刷する必要があります。

【Outline (in English)】
In this course, students carry out experiments related to physical phenomena such as light, wave, gravity, and energy by themselves. The goals are to understand various fields in physics by experimental methods, and to acquire the scientific perspective. Before/after each class, students will be expected to spend four hours to understand the course content and to write reports. Grading will be decided based on reports (80%), and in class contribution (20%).

LANe100TA（英語 / English language education 100）

英語Ｓ（２）（夏期スクーリング）

高井　美紀子

カテゴリー：**夏期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**1単位**
期間：**2群午後**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、19世紀末から20世紀初めのイギリスの恐怖小説を題材に、英語のリーディング、リスニング、そして文法力を強化する講座です。授業では、ヘクター・マンロー（サキ）、オスカー・ワイルド、リチャード・ミドルトン、アーサー・クィラ=クーチ、ヘンリー・ジェームズという5人のイギリス人、アメリカ人小説家の短編を取り扱います。扱われる短編は、すべて原文の語彙文体を損なわない形で英語学習者の取り組みやすい英文にリライトされています。本授業は読解力を鍛えることを目指し、授業の中心はリーディングとなりますが、リスニングの演習も行います。テキストの本文のストーリーを理解した後には文法の演習も行います。このようにして、英語で小説を楽しみながら、リーディング、リスニング、文法力をバランスよく鍛えます。18世紀のイギリスで生まれたゴシック小説というジャンルがいかに現代のエンターテイメントに影響を及ぼしているかなどの考察も行い、その意義についても考えてみたいと思います。学生が、各々の習熟度に応じて様々な英語の文章を読み、それを楽しむ土台となるスキルと身に着けることが本授業の目的です。

【到達目標】
学生は、本授業を通して以下の能力を身に着けます。
①2分程度の長さのストーリーを英語で聞き、必要な情報を正確に聞き取るリスニング力。
②英語の短編小説を読み、日本語に訳さずに原文のまま意味を理解するリーディング力。
③英文を読むために必須の5文型の正確な知識。
④動詞の正確な理解、特に自動詞と他動詞の正確な理解。
⑤標準レベルの英文を読むのに必要な基本語彙の習得。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP3」「史学科：DP1, DP3」「地理学科：DP1」「経済学科：DP6, DP8」「商業学科：幅広い教養」に関連

【授業の進め方と方法】
授業は演習形式で行います。2回の授業で短編小説を１つ読み終えるペースで進めます。
各授業の最初に導入リスニングを行い物語の背景的知識を得ます。その後リーディングに取り組み、最後に物語の結末を再びリスニングで聞きとります。ストーリーを理解した後、Comprehension QuestionsやGrammar Practiceに取り組み、学んだ知識の定着を図ります。まった、授業時間内に課題プリントのフィードバックも行います。演習形式ですので、学生の積極的な授業参加が求められます。
　最終授業（第12回授業）で行う筆記試験のフィードバックは、試験の後に講評において行います。試験内容や採点の基準について解説を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	Chapter1: Sredni Vashtar < 1>	ヘクター・マンローの短編小説を題材にしたリーディング、リスニング、文法課題に取り組む
第2回	Chapter2: Sredni Vashtar < 2>	ヘクター・マンローの短編小説を題材にしたリーディング、リスニング、文法課題に取り組む
第3回	Chapter3: The Cabterville Ghost < 1> Chapter4:The Cabterville Ghost < 2>	オスカー・ワイルドの短編小説を題材にしたリーディング、リスニング、文法課題に取り組む
第4回	Chapter5: The Cabterville Ghost < 3>	オスカー・ワイルドの短編小説を題材にしたリーディング、リスニング、文法課題に取り組む
第5回	Chapter6: On the Brighton Road < 1 >	リチャード・ミドルトンの短編小説を題材にしたリーディング、リスニング、文法課題に取り組む
第6回	Chapter7: On the Brighton Road < 2 >	リチャード・ミドルトンの短編小説を題材にしたリーディング、リスニング、文法課題に取り組む
第7回	Chapter8：A Pair of Hands < 1>	アーサー・クィラ=クーチの短編小説を題材にしたリーディング、リスニング、文法課題に取り組む
第8回	Chapter9: A Pair of Hands < 2>	アーサー・クィラ=クーチの短編小説を題材にしたリーディング、リスニング、文法課題に取り組む
第9回	Chapter10: The Romance of Certain Old Clothes < 1>	ヘンリー・ジェームズの短編小説を題材にしたリーディング、リスニング、文法課題に取り組む
第10回	Chapter11:The Romance of Certain Old Clothes < 2>	ヘンリー・ジェームズの短編小説を題材にしたリーディング、リスニング、文法課題に取り組む
第11回	Chapter12:The Romance of Certain Old Clothes < 3>	ヘンリー・ジェームズの短編小説を題材にしたリーディング、リスニング、文法課題に取り組む
第12回	筆記試験 試験フィードバック	学習の定着度を確認するための筆記試験（60分）、筆記試験の内容・採点基準の解説、質疑応答等（40分）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。
準備学習として、取り上げる5人の作家の背景について書かれた日本語の導入文を授業前に読んで物語の背景的知識を得てください。導入文はChapter1、Chapter3、Chapter6、Chapter8、Chapter10の冒頭に載っています。復習としては、毎回の授業後に学習したChapterに出てきた重要語句に関するVocabulary ListとSummary Practiceのプリントを配布しますので、復習教材として取り組んでください。これらのプリントは翌日回収し、採点したうえでフィードバックを行います。

【テキスト（教科書）】
【教科書名】Wicked and Shuddering Tales with Love
【著者】Yuko Hosokawa
【出版社】開文社
【出版年】2011年
【価格】税抜き1800円

【参考書】
特に指定しません。

【成績評価の方法と基準】
成績は評価の内訳は以下の通りです。
平常点：40%（授業貢献度20％、復習プリント20％）
筆記試験：60%
の合計100％で評価します。
全授業12回のうち8回以上出席していることが筆記試験受験の条件となります。
遅刻や早退は0.5コマとしてカウントされます。

【学生の意見等からの気づき】
前年度の冬期スクーリングで、英語の5文型に関する補助プリントを作成して配布したところ、分かりやすいと講評でしたので、今回も5文型に関する補助教材のプリントを配布する予定です。

【学生が準備すべき機器他】
特に必要ありません。

【その他の重要事項】
授業開始前までに各自テキストを購入しておいてください。
授業には辞書を持参してください。電子辞書、または紙の辞書を推奨しますが、どちらもない場合はスマートフォンの辞書を使うことを認めます。

【Outline (in English)】
The aim of this course is to help students improve their skills in English reading, listening, and grammar, using English Gothic novels as material. In the course, students will read five short stories written between the end of the19th century and the beginning of the 20th century, by five English or American novelists, Hector H. Munro (Saki), Oscar Wilde, Richard Middleton, Arthur Q. Couch, and Henry James. All these short stories are rewritten versions of the original texts, rewritten in simple, plain English without spoiling the atmosphere and style of the originals. Each lesson consists of listening practice, reading practice, comprehension questions, and grammar practice, giving students well-balanced training in English. Moreover, students will consider how the genre of Gothic novels born in 18th century Britain still impact various works of entertainment today. At the end of the course, students are expected to read and enjoy various types of English texts according to each student's interest and ability. Before each class meeting, students will be expected to have read the Japanese introduction of the author of the story. After each class meeting, students will have to do review assignments. Your study time will be more than one hour for a class.
Grading will be decided based on review assignments (20%), in class contribution (20%), and term-end examination (60%).

LANe100TA（英語 / English language education 100）

英語Ｓ（6）（夏期スクーリング）

Robert Durham

カテゴリー：**夏期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**1単位**
期間：**2群午後**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
This is an English course to assist students to further develop their English proficiency, via content-based English-learning. Your teacher hopes that discussing many International topics will assist students to speak up more boldly, to say their opinions in English.　Students will be urged to learn to explain in English their answers to questions about Current International News videos.

【到達目標】
Students will learn about cultures &social practices from around the English-speaking world; and will also learn how to explain Japanese culture to English-speaking people in this Global Society.
Students will be encouraged to learn how to think critically [in-depth] about important Global Issues; and will be urged to effectively express their own thoughts and opinions in modern English.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP3」「史学科：DP1, DP3」「地理学科：DP1」「経済学科：DP6, DP8」「商業学科：幅広い教養」に関連

【授業の進め方と方法】
Students will be challenged to integrate their skills in English listening, speaking, reading, &writing in an advanced manner, via exposure to authentic English materials such as English News videos &audio, and inspirational video/audio talks (including TED Talks).　Students will then be required to practice their English communication skills via pair practice conversations with their classmates &professor.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	[All SCHEDULE items are tentative...&might change, depending on class level(s); student abilities; & recent world events.] Introductions, in smoothly, natural, friendly English. English video #1	Introduction vocabulary; & 'EQ' responses thereto. Students will be asked to express English opinions, re: English video.
第2回	Video #1, part 2: asking students to express active opinions in English.	How to say (speak) your own opinions, in English...and how to EXPLAIN them.
第3回	Using the Future tense in English, to explain your weekend or future plans.	Active English spoken expressions, re: future plans.
第4回	Using English Past tense to explain your weekend activities, in spoken English.	Atively speaking about the recent Past, in spoken English, using the English Past Tense.
第5回	"How are you?" & Speaking test.	Pairwork will be used to practice many, various ways to reply dynamically in English, to questions such as "How's it going?"/"How are you doing?"/etc. Speaking test.
第6回	Expressing your opinions about Current Affairs News video #2, in active, dynamic spoken English.	Pair practice: saying (speaking) your opinions about English videos, in modern English.
第7回	Speaking (& elaborating in detail), in modern English, about your five active hobbies.	Pair practice &questions about hobbies: students will learn how to speak their opinions (in English) to classmates.
第8回	News or documentary video #3	Lots of practice in spoken English, to explain student opinions about the topics raised by the video.
第9回	Explaining how to ask for (&give/ speak) street directions, in clear English.	Practicing asking/giving English directions, as pair practice.
第10回	Current news or documentary video #3	Much practice in spoken English, to explain student opinions about the topics raised by the video. Reviewing &practicing topics for the Speaking Test.
第11回	Using 'would' & Past tense, vs. "will' &Present tense.	Pair practice &questions, re: 'would'/Past Tense; &'will'/ Present Tense. Speaking Exam.
第12回	Speaking Exam. Then, final 'wrap up' &summary, including questions about Summer plans.	Speaking Exam. After that: Pair practice regarding Summer plans.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Please do homework well before the deadline [NOT "ichiyazukke"]; please try to arrive in class ON TIME [not late]; please try not to do too much overtime work; and please keep a weekly notebook/binder for this class, using pen.
本授業の準備・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。
Yes, there will be Speaking test(s)/exam.　Please make sure to study beforehand, for those.

【テキスト（教科書）】
A textbook might be chosen, depending on students' levels & requirements. (On the other hand: textbooks are expensive....)
Some inexpensive handouts will be distributed and/or e-mailed to students.
In addition, some News videos &video documentaries may be assigned as in-class or at-home viewing (with questions to answer about those videos).

【参考書】

–

【成績評価の方法と基準】

Tentatively, grading may depend on in-class responses (approximately 25%); speaking exam(s) answers (approximately 30%); attendance/on-time arrival (approximately 15%); class participation/motivation (20%); and homework (10%).
IMPORTANT: A MAXIMUM OF THREE ABSENCES IS ALLOWED...&ONE LATE IS EQUIVALENT TO HALF AN ABSENCE

【学生の意見等からの気づき】

–

【学生が準備すべき機器他】

Please bring to each class: a notebook/binder; a black pen; a red pen; an English-Japanese/Japanese-English dictionary [paper or electronic]; an English language LARGE namecard; and a daily planner/schedule book [a 'techo', in Nihongo].
A fast COMPUTER with a large screen, a full keyboard, and fast Wi-Fi, will be useful in viewing any News video homework; and in typing up answers to bring to class. (Smartphones are TOO SMALL to do homework effectively.)

【その他の重要事項】

Please participate ACTIVELY in class; please sit together with other students, in class, AT THE FRONT OF THE ROOM; and please speak together with your classmates, using lots of eye contact, smiling, &good Body Language. If you're not sure about how to answer, please speak up and GUESS...instead of reflexively answering "I don't know".
Class etiquette: please fully cover your nose &mouth, if/when you cough/sneeze/yawn.
If a student becomes ill, he/she should stay home, to avoid infecting classmates &the teacher.

【Outline (in English)】

This class will include English conversations about everyday topics (for example, asking/answering "How are you?"/"How was your weekend?"/"What are your plans for this weekend?"/ etc.)
+ Also included: discussion about timely, current International News topics &discussion topics. (Some recent News videos may be shown/watched.)
+ IF there's enough time (&IF there is student interest): we can watch &discuss some English TED TALK videos.
+ Student requests are welcome: if enough students request a topic for study, your teacher might be able to practice/study that, in English.

LANf100TA（フランス語 / French language education 100）

仏語Ｓ（夏期スクーリング）

柴崎　秀穂

カテゴリー：**夏期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**1単位**
期間：**2群午後**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
フランス語を初めて学ぶ人を対象とするクラスです。フランス語に親しみながら、基本的な語彙と文法を学習します。

【到達目標】
簡単なフランス語が話せて、聞けて、書けて、読めるようになること。フランス文部省認定フランス語資格試験（ＤＥＬＦ）のＡ１レベルに対応しています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP3」「史学科：DP1, DP3」「地理学科：DP1」「経済学科：DP6, DP8」「商業学科：幅広い教養」に関連

【授業の進め方と方法】
毎回「授業資料」を配付します。まず「資料」を読みながら教師が文法事項を解説、全員でフランス語例文を音読、次に学生が練習問題を解く、という形で授業を進めます。練習問題は自作のプリントを多用します。教科書の練習問題の一部は「課題」とし、提出してもらった後、採点して返却、「正解と総評」を配布します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回目	オリエンテーションとアルファベ。教科書第０課	授業の進め方、勉強の仕方、成績の付け方などの説明。仏和辞典の紹介。アルファベ。
2回目	第０課。第１課。	アルファベ、フランス語の音、名詞。
3回目	第１課。第２課。	冠詞、「～である」と「持つ」。第一群規則動詞。
4回目	第２課。	否定文と疑問文。
5回目	第３課。	命令法、第二群規則動詞。
6回目	第３課。第４課。	疑問副詞。「する」と「取る」。
7回目	第４課。	否定の冠詞、強勢形、指示形容詞。
8回目	第５課。	形容詞、所有形容詞。
9回目	第５課。第６課。	所有形容詞。「行く」と「来る」。
10回目	第６課。	近接未来と近接過去。縮約。
11回目	第７課。	比較と最上級。
12回目	期末試験。	期末試験とまとめ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
教科書の練習問題の一部は「課題」となります。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
『文法と文化で学ぶ基礎フランス語』近江屋・竹本著、朝日出版社、２，３００円＋税

【参考書】
『クラウン仏和辞典』三省堂
『プチ・ロワイヤル仏和辞典』旺文社
『新・リュミエール　フランス文法参考書』駿河台出版社

【成績評価の方法と基準】
期末試験（50％）と平常点（50％）で総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
「授業資料」と「練習問題」を、より分かりやすく効果的になるよう修正しました。

【学生が準備すべき機器他】
仏和辞典は必ず持参すること。

【その他の重要事項】
若いころ短期間ですが、日仏会館日本事務所に勤務していました。仕事で使うフランス語および外国語一般について、アドヴァイスができると思います。また、TOEICスコアも「975点」を持っていますので、英語との比較でフランス語を解説します。

【Outline (in English)】
・Course outline
This is a course for students who start to study French. You will learn especially French grammar.
・Learning objectives
At the end of the course, students are expected to understand basic French grammar.
・Lecture/Exercise
Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be almost an hour for a class.
・Grading Criteria /Policies
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Term-end examination: 50%、Short reports: 25%、in-class contribution: 25％

HSS100TA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 100）

スポーツ総合演習（夏期スクーリング）

魚住　智広

カテゴリー：**夏期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**2群午後**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業の目的は、集中的な身体活動を通じて、他者とともに運動するための知識と技能を身につけることです。卓球を主な競技として、道具を用いた運動を行いながら、生涯スポーツやレクリエーションの意義について理解を深めます。本授業で取り組む運動の負荷は大きくないため、運動習慣のない学生の受講も十分に可能です。

【到達目標】
1. 身体活動を通じて、安全に運動を実施するための知識を修得できる。
2. 個々の能力に応じて、他者と運動するための技能を修得できる。
3. 運動に親しみながら、身体や体調の変化に気づくことができる。
4. 生涯スポーツとレクリエーションの意義と課題を理解できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP3」「史学科：DP1, DP3」「地理学科：DP1」「経済学科：DP5」「商業学科：幅広い教養」に関連

【授業の進め方と方法】
実技授業、講義授業ともに対面で実施します。講義授業後は、指定の課題を提出する必要があります。提出された課題は、次回授業でフィードバックをします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	（教室）授業概要、目的、スポーツの定義
第2回	卓球①	基礎動作、ラケット操作
第3回	健康とは何か	（教室）健康の定義、なぜ人は健康を求めるのか、
第4回	卓球②	フォアハンド
第5回	身体と現代社会	（教室）理想とされる身体、老いと病理化
第6回	卓球③	バックハンド
第7回	生涯スポーツ・レクリエーション	（教室）生涯スポーツとは何か、レクリエーションとは何か、その意義と課題
第8回	卓球④	サーブ
第9回	スポーツとルール	（教室）安全と公平性、近代スポーツの課題
第10回	卓球⑤	シングルスゲーム
第11回	まとめ	（教室）スポーツをめぐる視座
第12回	卓球⑥	ダブルスゲーム

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。受講期間中は、授業内容を踏まえ、自らの日常生活と結びつけながら情報収集に取り組んでください。また適宜文献を紹介しますので、復習時間に精読してください。

【テキスト（教科書）】
特にありません。授業計画に基づいて適宜スライドを提示します。

【参考書】
授業内で教員が紹介する場合があります。

【成績評価の方法と基準】
1. 実技授業の目標達成度（50%）、講義授業後に提出する課題（50%）の総合評価とします。
2. 10回以上の出席がない場合は単位を取得できません。
3. すべての課題において、以下を評価の基準とします。
・課題の内容を理解したものであるか
・授業の内容を適切に踏まえたものであるか
・レポートの体裁をなしたものであるか
・適切な引用がなされているか（盗用・剽窃などの不正行為をしていないか）

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更により授業を進めながら柔軟に対応します。

【学生が準備すべき機器他】
「学習支援システム」等のツールを使用する場合があります。
課題を作成・提出するためのデバイスを用意してください。

【Outline (in English)】
This course aims to acquire the knowledge and skills to exercise with others through intensive physical activity. Students will deepen their understanding of the significance of lifelong sports and recreation while exercising with equipment, with table tennis as the main sport. The exercise load involved in this class is not heavy, so students who do not have an exercise habit can take this course.
By the end of the course, students should be able to do the followings:
1. to acquire knowledge of safe exercise through physical activity.
2. to acquire the skills to exercise with others according to individual abilities.
3. to recognize changes in one's body and physical condition while engaging in sports.
4. to understand the significance and issues of lifelong sports and recreation.
Students are expected to complete assigned tasks after some sessions, with a recommended out-of-class learning time of at least four hours per class. The final grade will be determined through the evaluation of goal achievement(50%) and these assigned tasks(50%).

LAW300TB（法学 / law 300）

教育法（夏期スクーリング）

村元　宏行

カテゴリー：**夏期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**2群午後**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：**※2013年4月1日時点で学習未着手の法学部法律学科本科生および選科生は本科目の授業コードで履修申請してください。選択科目として履修されます。**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業は、教育法の基礎と現代的課題について、国家と教育との関わりと、学校における子どもの人権という二つの側面から進めていきます。

【到達目標】
教育法制の全体像を把握する。
教育をめぐる主な裁判について理解する。
教育法制の改正動向について理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
教育法は最近立法や法改正が相次いでおり、また今後もその動きがあります。それを理解するためにも、まずは教育法の基礎をしっかり理解することが必要です。
そのために、講義形式を中心に授業を行います。
フィードバック方法
授業の初めに、前回の授業で提出された小レポート（リアクションペーパー）からいくつかを取り上げてコメントすることで、全体に対してフィードバックを行います。
オフィスアワー（質問への対応）
授業後に質問を受け付けます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	教育法の基本原理①	教育法の歴史について
第2回	教育法の基本原理②	教育法の法源について
第3回	憲法・教育基本法制①	旧教育基本法の制定と理念について。その後の教育政策の展開について。
第4回	憲法・教育基本法制②	教育基本法の改正について
第5回	教育三法の改正	教育基本法改正に伴う学校教育法、地教行法、教育職員免許法の改正について
第6回	最近の教育法制の改正動向	教育委員会制度の改革動向等について
第7回	国家の教育内容統制とその限界①	学習指導要領の法的拘束力について
第8回	国家の教育内容統制とその限界②	教科書検定、全国学力テストについて
第9回	学校における子どもの人権：校則	校則について(裁判例を中心に)
第10回	学校における子どもの人権：懲戒・体罰	懲戒・体罰について(現行法制と裁判例)
第11回	学校における子どもの人権：いじめ、その他学校災害	いじめについて（裁判例を中心に）
第12回	学校における子どもの人権：その他学校災害 後半は試験	上記以外の学校災害について 後半は試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
教育をめぐる時事問題について、授業前から積極的に学習しておくと、授業の理解に役立ちます。それ以上の本格的な予習は難しいので、授業後の復習を丁寧に行ってください。
これらの予習・復習については、あわせて4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
『ハンディ教育六法２０２４年版』（北樹出版）を持参してください。

【参考書】
予習・復習用に姉崎洋一ほか編『ガイドブック教育法　新訂版』（三省堂、2015年）を挙げておきます。

【成績評価の方法と基準】
試験（５０％）：試験は論述中心で、講義で取り上げた重要論点について正しい理解がなされ、それについて自らの見解を述べることができるかを評価します。
リアクションペーパー(５０％)：毎回あるいは複数回、リアクションペーパーを提出してもらい、提出状況や記述内容を評価します。

【学生の意見等からの気づき】
わかりやすい板書を心がけます。

【Outline (in English)】
Course outline
The purpose of this lecture is to understand the basic principle that supports the education law and its historical background.
Learning Objectives
The goals of this course are to understand the basic principle that supports the education law and its historical background
Learning activities outside of classroom
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Grading Criteria /Policies
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Term-end examination: 50%、Short reports : 50%

LAW300TB（法学 / law 300）

教育法（夏期スクーリング）

村元　宏行

カテゴリー：**夏期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**2群午後**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：**※2013年3月31日時点で履修途中の法学部法律学科本科生は本科目の授業コードで履修申請してください。選択必修科目として履修されます。**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業は、教育法の基礎と現代的課題について、国家と教育との関わりと、学校における子どもの人権という二つの側面から進めていきます。

【到達目標】
教育法制の全体像を把握する。
教育をめぐる主な裁判について理解する。
教育法制の改正動向について理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
教育法は最近立法や法改正が相次いでおり、また今後もその動きがあります。それを理解するためにも、まずは教育法の基礎をしっかり理解することが必要です。
そのために、講義形式を中心に授業を行います。
フィードバック方法
授業の初めに、前回の授業で提出された小レポート（リアクションペーパー）からいくつかを取り上げてコメントすることで、全体に対してフィードバックを行います。
オフィスアワー（質問への対応）
授業後に質問を受け付けます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	教育法の基本原理①	教育法の歴史について
第2回	教育法の基本原理②	教育法の法源について
第3回	憲法・教育基本法制①	旧教育基本法の制定と理念について。その後の教育政策の展開について。
第4回	憲法・教育基本法制②	教育基本法の改正について
第5回	教育三法の改正	教育基本法改正に伴う学校教育法、地教行法、教育職員免許法の改正について
第6回	最近の教育法制の改正動向	教育委員会制度の改革動向等について
第7回	国家の教育内容統制とその限界①	学習指導要領の法的拘束力について
第8回	国家の教育内容統制とその限界②	教科書検定、全国学力テストについて
第9回	学校における子どもの人権：校則	校則について(裁判例を中心に)
第10回	学校における子どもの人権：懲戒・体罰	懲戒・体罰について(現行法制と裁判例)
第11回	学校における子どもの人権：いじめ、その他学校災害	いじめについて（裁判例を中心に）
第12回	学校における子どもの人権：その他学校災害 後半は試験	上記以外の学校災害について 後半は試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
教育をめぐる時事問題について、授業前から積極的に学習しておくと、授業の理解に役立ちます。それ以上の本格的な予習は難しいので、授業後の復習を丁寧に行ってください。
これらの予習・復習については、あわせて4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
『ハンディ教育六法２０２４年版』（北樹出版）を持参してください。

【参考書】
予習・復習用に姉崎洋一ほか編『ガイドブック教育法　新訂版』（三省堂、2015年）を挙げておきます。

【成績評価の方法と基準】
試験（５０％）：試験は論述中心で、講義で取り上げた重要論点について正しい理解がなされ、それについて自らの見解を述べることができるかを評価します。
リアクションペーパー(５０％)：毎回あるいは複数回、リアクションペーパーを提出してもらい、提出状況や記述内容を評価します。

【学生の意見等からの気づき】
わかりやすい板書を心がけます。

【Outline (in English)】
Course outline
The purpose of this lecture is to understand the basic principle that supports the education law and its historical background.
Learning Objectives
The goals of this course are to understand the basic principle that supports the education law and its historical background
Learning activities outside of classroom
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Grading Criteria /Policies
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Term-end examination: 50%、Short reports : 50%

LAW200TB（法学 / law 200）

法律学特講（夏期スクーリング）

荻村　慎一郎

カテゴリー：**夏期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**2群午後**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
比較法学入門：主要先進諸国の政治体制（統治機構）の特徴を考える
・コロナ禍やロシアによるウクライナ侵略をめぐる各国の対応をみていますと、諸外国においては、日本社会が共通の前提としている常識や価値観がそのままのかたちでは通用しないことがわかります。
・そこで本講義では、比較研究（法学、政治学）の手法を用いて、主要先進諸国の政治体制（統治機構）の特徴について学びます。
・憲法および行政法の基本事項を段階的に確認しながら、日本に加えて、英国、米国、フランス、ドイツ、イタリアなどの諸国の政治体制（統治機構）を扱います。
・それによって、日本国憲法そのものの理解を深めることを目指します。

【到達目標】
本講義では、以下の3点の修得を目指します。
・憲法、行政法、法史学（法制史）、法社会学、比較法・外国法学という法学系科目の基本事項を理解する。
・法学および政治学に加えて、社会学、経済学などの社会科学系諸分野に共通する学問的方法論の基礎を理解する。
・多角的かつ総合的な視点を用いて先端的な社会問題を考察する思考技法を体験する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
本科目は、視聴覚教材を適宜用いた講義形式の授業です。
・講義は基本から応用へと段階的に展開されるので、予備知識は必要ありません。
・学生のみなさんとの簡単な対話を織り込みつつ、参加者の理解度を確認しながら進めます。
・個別のご質問については、授業の前後の時間に対応させて頂きます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	この授業の展望	議会制民主主義と国民主権の意味について
第2回	議会制民主主義が機能する歴史的前提①	西欧諸国と東欧・ロシア語圏諸国の歩みを分けた分岐点
第3回	議会制民主主義が機能する歴史的前提②	英国とその他の西欧諸国の歩みを分けた分岐点（その1）
第4回	議会制民主主義が機能する制度的前提①	英国とその他の西欧諸国の歩みを分けた分岐点（その2）
第5回	議会制民主主義が機能する制度的前提②	英国と米国の歩みを分けた分岐点
第6回	主要先進諸国の憲法体制の特徴①	英国とドイツ
第7回	主要先進諸国の憲法体制の特徴②	米国とフランス
第8回	主要先進諸国の憲法体制の特徴③	日本とイタリア
第9回	主要先進諸国の憲法体制の特徴④	三権の関係（三権分立）について
第10回	主要先進諸国の憲法体制の特徴⑤	中央と地方の関係について
第11回	この授業のまとめ	法学の持つ可能性について（この授業で学んだことのふり返り）
第12回	試験および解説	スクーリング試験および解説を行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。
・配布される印刷教材に掲載された復習課題・予習課題に取り組みましょう。

【テキスト（教科書）】
オリジナル教材（印刷教材）を配布します。

【参考書】
オリジナル教材（印刷教材）の中で紹介します。

【成績評価の方法と基準】
筆記試験(100%)
・授業最終回に実施する筆記試験によって成績評価を行います。
・授業時における復習課題・予習課題の学修が自然な形で試験準備へとつながるように配慮しています。
・本講義の講義内容の理解を問う問題と普段の学修の成果を活かせる問題の2種類を出題することにより、偏りのない評価となるように努めます。

【学生の意見等からの気づき】
前年度は、幸いなことに、学生のみなさんから高い評価を頂くことができました。
ご意見を寄せてくださったみなさんにおかれましては、どうもありがとうございました。
今年度につきましても、前年度の授業方法を踏襲させて頂きます。
具体的には、毎回の授業で視聴覚教材を用いる講義を行います。
どうぞよろしくお願いいたします。

【Outline (in English)】
[Course outline]
Using comparative research methods (law and politics), we will examine the different forms of government structures in Western countries.
That makes us understand the 1947 Constitution of Japan more deeply.
[Learning Objectives]
Students shall aspire to attain the appropriate insight into their own developing studies going forward by systematically learning the elements of Positive Law (Constitution, Administrative Law) while relying on the methodology of Basic Law (Comparative Legal Studies, Sociology of Law, and legal history).
[Learning activities outside of classroom]
Your required study time is at least four hours for each class meeting.
[Grading Criteria /Policy]
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Term-end examination: 100%

LIT100TC（文学 / Literature 100）

日本文芸研究特講・中古（夏期スクーリング）

庄司　敏子

カテゴリー：**夏期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**2群午後**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、平安時代に成立した日記文学作品の流れを追いながら、関連する周辺作品も幅広く取り上げていきます。日記文学作品の作者は、他にもすぐれた作品を残していることが少なくありません。また、日記文学作品内部には同時代の（あるいはそれまでの）文学作品に言及しているものもあります。そこで、日記文学を核としながら、平安時代の様々なジャンルの作品群にも目を向け、それらの関わりを学んでいきます。あわせて、同時代の社会状況や文化などにも触れ、この時代に成立した諸作品の理解を深めていくことを目指します。

【到達目標】
①平安時代に生成された文学作品の知識を深める。
②様々なジャンルの作品に広く触れ、作品相互の連関性や影響関係を理解する。
③個々の作品成立の背景を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
講義形式で行います。数回コメントシート記入の時間を設けます。コメントシートのフィードバックは次回授業の冒頭で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス／中古日記文学概説	「日記文学」とは何かを考える。
第2回	『土佐日記』と紀貫之	『土佐日記』と作者紀貫之について確認し、表現の特徴を考える。
第3回	『土佐日記』と『古今和歌集』	貫之が選者の一人である『古今和歌集』の基礎的事項を確認する。
第4回	『蜻蛉日記』と道綱母周辺	『蜻蛉日記』の基礎的事項を確認する。 道綱母周辺についての歴史的事項や周辺作品（とくに私家集）を確認し、作品成立の背景を考える。
第5回	『蜻蛉日記』と物語	『伊勢物語』など、10世紀後半までに成立した物語作品を確認しながら、『蜻蛉日記』における「物語」への意識を考える。
第6回	『蜻蛉日記』と手紙	『蜻蛉日記』における手紙のありかたを確認し、その意図を考える。
第7回	『和泉式部日記』と古典のジャンル	『和泉式部日記』の基礎的事項や研究史を確認し、古典作品の「ジャンル」について考える。
第8回	『紫式部日記』と紫式部	『紫式部日記』および作者についての基礎的事項を確認する。
第9回	『紫式部日記』と『源氏物語』	『紫式部日記』中に見える『源氏物語』について考える。
第10回	『紫式部日記』と女房	『紫式部日記』中に名の見える女房を紹介する。 『枕草子』などにも触れ、同時代の「女房による文学活動」のありかたを考察する。
第11回	『更級日記』と物語	『更級日記』の基礎的事項を確認する。 『夜半の寝覚』『浜松中納言物語』など、孝標女の物語作家としての一面を考察する。
第12回	最終試験およびまとめ	ここまでの内容を総括する。 理解度を確認するための試験を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。
取り上げる作品が多岐にわたるので、授業内で個々の作品を熟読することはできません。興味をもった作品を各自でじっくり読んでみてください。

【テキスト（教科書）】
各回、講師作成のプリントを配布します。

【参考書】
①平安時代の文学作品・文化を概観する
・秋澤亙、川村裕子編『王朝文化を学ぶ人のために』（世界思想社、2010）
・川村裕子『王朝文学入門』（角川選書、2011）
・小峯和明『日本文学史 古代・中世編』（ミネルヴァ書房、2013）
・保科恵『入門 平安文学の読み方』（新典社、2020）
②作品本文・現代語訳など
・角川ソフィア文庫が入手しやすく、現代語訳付きで便利です。
ほかに、小学館新編日本古典文学全集・新潮日本古典集成などにも現代語訳がついています。
※その他、授業内で必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】
最終試験（60％）とコメントシートの内容による平常点（40％）を合算して評価します。授業内容を理解した上で、到達目標①～③をどの程度達成しているかにより判断します。

【学生の意見等からの気づき】
受講者の皆さんの意見をプリントにして配布する形式が好評だったため、今回も可能な限り様々な意見を紹介していきます。

【Outline (in English)】
In this class, students will learn the flow of literature in diary form established in the Heian period and also know related peripheral works. The aim of this course is to help you acquire interrelationships between works of various genres.

LIT200TC（文学 / Literature 200）

日本文芸研究特講・現代（夏期スクーリング）

関口　雄士

カテゴリー：**夏期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**2群午後**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では、敗戦後間もない時期に広く読まれた、文学史的に「新戯作派（無頼派）」と呼ばれる区分の文学作品を読むことによって、世界が大きく転変する状況において文学が表現したものを探っていくことを目的とします。
具体的には「新戯作派（無頼派）」と呼ばれる区分の代表的作家である太宰治・坂口安吾・石川淳の文学を扱います。各作家の生涯を概観したうえで、戦中と戦後の作品を1つずつ取りあげ、それらを精読することを通じて各作家と作品の特質について受講者に考えてもらうことで、授業目的の達成を目指していきます。

【到達目標】
それぞれの作家の文学的特質を把握したうえで、扱った作品の主題や表現方法について受講者自身の評価を下すことを到達目標とします。
①テクストに書かれている内容を正確に読みとること。
②読みとった内容をもとに自分なりの観点をもつこと。
③自分なりの観点を明確・具体的なものとし、学術的文章の形式を意識しつつ、他者に伝わるように表現できること。
以上が、具体的な到達目標になります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
講義を中心として進めていきます。
各作家について3コマ分で「人物」「戦中の作品」「戦後の作品」を講義します。
「人物」についてはスライドを使って解説します。受講者がそれぞれメモを取り、後の作品理解につなげてください。
「作品」については作品を精読していきながら〈読み〉のポイントとなる点を確かめていきます。そのうえで、当該作品に関連する参考資料の紹介・解説を通して理解を深めてもらいます。
各授業の後半には、質問や感想を書いてもらいます。
そこで書いてもらった内容について、翌日の授業の導入でフィードバックをおこなうことによって、前日授業の内容の理解をさらに深められるような、双方向性のある授業をおこないたいと考えています。
（以下は、2023年度冬期スクーリングで「日本文芸研究特講・現代」を受講した学生へのお知らせです）
扱う作家は同じですが、作品は変更する予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業内容と新戯作派（無頼派）についての基礎知識を確認する。
第2回	太宰治の文学①	太宰治の紹介。
第3回	太宰治の文学②	太宰治の戦中の作品を読む。
第4回	太宰治の文学③	太宰治の戦後の作品を読む。
第5回	坂口安吾の文学①	坂口安吾の紹介。
第6回	坂口安吾の文学②	坂口安吾の戦中の作品を読む。
第7回	坂口安吾の文学③	坂口安吾の戦後の作品を読む。
第8回	石川淳の文学①	石川淳の紹介。
第9回	石川淳の文学②	石川淳の戦中の作品を読む。
第10回	石川淳の文学③	石川淳の戦後の作品を読む。
第11回	まとめ①	質問へのフィードバックを中心に授業内容の振り返りをおこなう。
第12回	まとめ②と試験	授業内容全体の振り返りを実施したのち、筆記試験を実施する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。
授業であつかう3人の作品は、できるだけ事前に読んでおくことが望ましいです。少なくとも、1人につき1作品は読んで、自分なりの印象を持ったうえで受講してください。
また、事前に日本近代文学史をあつかった本の、戦中・戦後の記述に眼をとおしておくと語句や流れについて、より理解が深まるでしょう。

【テキスト（教科書）】
事前に指定しません。
あつかう作品は、初回授業時にHoppii（学習支援システム）を通じてデータを配布する予定です。

【参考書】
あらかじめ作品を読むにあたって迷った場合、筑摩書房から刊行されている「ちくま日本文学」の太宰治（008）・坂口安吾（009）それぞれの巻を読むのが便利です。ただし、石川淳は旧版の「ちくま日本文学全集11」しかないため、現在は新刊で入手できないので、図書館などを利用する必要があります。
日本近現代文学史についての書籍としては、一例として安藤宏『日本近代小説史（新装版）』（中央公論新社、2020年）を挙げておきます。
その他、併読を推奨する文献については、授業内で適宜紹介する予定です。

【成績評価の方法と基準】
平常点：50％
筆記試験：50％
全回出席を前提とします。
平常点は、授業後に書いてもらう質問や意見、感想の内容から判断します。
筆記試験では、授業で扱った作家から1人を選び、その文学的特質について簡潔に説明した後、具体的な作品について各人の〈読み〉を記述してもらいます。

【学生の意見等からの気づき】
「フィードバックの時間が理解に役立った」という意見を多くもらいましたので、引きつづき皆さんの理解に役立つ丁寧なフィードバックを心がけます。
また、それに関連して「質問や感想を書く時間がもう少し欲しかった」という意見もあったので、授業の構成を考えて、受講者が質問・感想を書く時間を多めに取れるように意識したいと思います。

【学生が準備すべき機器他】
資料の配付にあたり「Hoppii（学習支援システム）」を使用します。

【Outline (in English)】
In this lecture, we will read literary works from a category called “Shingisakuha(Buraiha)”. We will consider what these literary works express.
Specifically, we will study the literature of Osamu Dazai, Ango Sakaguchi, and Jun Ishikawa,who are representative writers of“Shingisakuha(Buraiha)”. We will learn about each writer’s life and carefully read each of the wartime and postwar works. Then, we will consider the characteristics of each writer and his works.

LIT200TC（文学 / Literature 200）

日本文芸研究特講・韻文（夏期スクーリング）

土屋　聡

カテゴリー：**夏期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**2群午後**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

堀口大學の詩歌を通じて日本の近現代詩を学ぶことを目的とする。

歌人であり詩人、そして飜訳家として知られた堀口大學（明治２５年～昭和５６年）は数えで十八歳の明治四十二年に雑誌「スバル」へはじめて短歌を投稿し、やがてその創作を自由詩へと広げてゆく。その後外交官である父のもと、明治末年から大正期の多くを海外で過ごしつつ大學は創作を続け、その経験が大正から昭和の時代の日本に、フランス語を中心とした新しい詩の息吹を紹介する契機となる。詩人とはその時代の空気をその作品に反映する性質を持つものであり、この講義では明治から昭和前期にかけての堀口大學による短歌と自由詩、翻譯詩を一つの軸とし、佐藤春夫や萩原朔太郎など大學に関わりのある詩人、およびその時代を代表する詩人による作品をとりあげてゆく。

文語から口語、定型詩から自由詩へと移り変わる作品の素材や形式の変化や、作品に内在する文学内容の普遍性と新しい方法の変化への試みなどを意識しつつ、日本近代の詩歌の歩みを考えてゆく。

【到達目標】

詩歌それぞれの形式の特性とその内容を正確に理解するとともに、さまざまな詩歌の表現に親しむ。
堀口大學の場合、まずは短歌から出発し、その文学は自由詩やフランス文学を中心とした飜訳まで多岐に広がってゆく。大學の文学の生成のあゆみを客観的に捉えるために、講義においては年譜資料や単行本化される以前の雑誌発表段階の作品も参照して考察を進めることで、より多角的に研究の対象を捉え、考える訓練ともなる。
その訓練は、いわば読み手の主観による「思い込み」を修正し、より客観的に自らの考えを磨き、積み上げて行く作業ともいえる。
文学に対する主観的な「思い込み」ではなく、より客観的に考察する方法と習慣を身に着けることが大きな到達目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式で進める。
また、毎回授業のおわりに出席表を兼ねてリアクション・ペーパーの記入を求める。これは的確な文章表現力を身に付けるためのよい訓練ともなるので、積極的に記入すること。必要があれば講義の内容の充実のために反映させてゆく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	講義の進め方と堀口大學について
第2回	明治末期の詩歌	短歌による出発
第3回	ロマン派の短歌の世界	明治期の連作の短歌を味わう
第4回	自由詩への広がり	佐藤春夫との関わり
第5回	大正期の詩歌（１）	羇旅と恋愛
第6回	大正期の詩歌（２）	萩原朔太郎との関わり
第7回	大正期の詩歌（３）	外国の詩と日本の詩
第8回	昭和期の詩歌（１）	発想の転換と近代化
第9回	昭和期の詩歌（２）	新しい要素と詩のかたち
第10回	戦後の詩歌	普遍的な視点への到達
第11回	まとめ	学習した内容の総括と補足
第12回	試験及び総括	学習した内容の理解度を問う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で扱った内容を各自で復習を行うこと。配布したプリントのすべての内容を授業時間内で扱うことはできないため、復習はその確認をふくめて丁寧に行うこと。また、次回の授業までに目を通すように指示された場合は、きちんと読んでおくこと。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストは指定せず、必要に応じプリントを配布する。

【参考書】

特に指定しないが、講義の展開により必要が生じた場合は適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

毎回のリアクション・ペーパー10％、最終日に実施する論述試験の90％で評価をおこなう。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

特になし。

【Outline (in English)】

The purpose of this lecture is to study the characteristics and development of poetry in modern and contemporary Japanese literature, based on reading of poetry works of DAIGAKU HORIGUCHI.
Daigaku Horiguchi was born in Japan in the middle of the Meiji era and later became known as a translator. His full-fledged literary career began in the field of poetry during his youth.
He was first involved in the writing of tanka. In the Meiji era, Hiroshi Yosano became one of the masters of one of the classic poetry styles of Japan, waka, which was updated to a modern style of tanka. Daigaku was also under the influence of Hiroshi's wife Akiko Yosano.
His father, a foreign diplomat, gave him the opportunity to live abroad intermittently, unusual for Japanese at the time. Living in the Japanese Embassy and the Japanese Embassy's residence, he acquired French, the official language of diplomacy at the time. In two different languages, French and Japanese, the world of his poetry extends to tanka and the creation of unconventional free poems. Translations of verses and prose, mainly in French literature, fueled his attempt to expand the world of literature.
Modern Japanese poetry has evolved between a style based on the characteristics of the Japanese language and the content and style of foreign poetry formed by different styles in different languages. His translation works had a new impact on modern Japanese poetry.
We learn the development of poetry in modern and contemporary literature in Japan, and at the same time, from various perspectives, consider how the poetry works are written, published in magazines and other media, and the collection of poetry is eventually created.

LIT200TC（文学 / Literature 200）

日本文芸研究特講・演劇（夏期スクーリング）

上野　火山

カテゴリー：**夏期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**2群午後**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この講義は『比較演劇学』といいます。ここでは古今東西、そしてジャンルを問わず、社会学的視点、思想史的視点、 及び政治経済的視点から人間の行う演劇的営為を観察し比較することで、現代に失われ理解されないままでいる価値観や倫理を再発見し、「今」を理解したいと思います。

【到達目標】
< 到達目標> 受講者は、受身のまま、思考停止状態に甘んじることなく、批 判的及び批評的に思考することを正しく理解し、作品鑑賞のみならず現実世 界に応用できるようになる。
< 講義内容> 演劇とはドラマです。舞台芸術を始め、映画、テレビ、ラジオ、 インターネットといった様々なメディアを通じ、演劇は姿を変えながらも存 在し続けています。あるメディアと別のメディア、海外と日本、過去と現在、 日常と非日常、見えるものと見えないもの、見せられているものと隠れてい るもの、といった比較対照を通して、失われ見えにくくなったり、 あるいは また、あらかじめ隠されているものを発見 し、在るはずの、在るべきものを 見いだしてみたいと思います。演劇はどこへ向かう のだろうか。このまま権 力のプロパガンダに堕すのだろうか。それを考えることは我々自身がどこへ 向かっているのかを見据えることになると思います。作品自体の比較もさる ことながら、方法論の差異、世界観価値観の差異、時代の差異、思想の差異と いった比較を通して「ドラマ」あるいは「物語」の共通性や普遍性へ向かい、 単なる「消費者」ではない「真の良き観客」をめざしたいと思います。仮にあ なたが創作者であろうとも、すべては「真の良き観客」であるところから始 まるのですから。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
講義を中心に行います。 授業ごとにリアクションペーパーを出して頂き、各 講義の最初にリアクションペーパーの内容を一部取り上げ、質問等にも答え ていきます。 時にはディスカッションも組み 込みたいと思いますので、発言 を求められた場合は積極的にお願いします。講義中に映像等の資料も観てい きます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	演劇とは何か:妄想と隠喩としての演劇	比較演劇学とは何かを明らかにし つつ、このリアルで自明であると 思われている世界と演劇的世界の 関係性を考えます。
第2回	テレビドラマと現在;この複雑な存在形式	テレビドラマというジャンルの昨今の形態論、及びその存在意義を見つめます。
第3回	80年代から;ポストモダニズムを超えて	現代につながる価値観の源泉は1980年代にあった。今に対し、どのように、どれ程の影響を及ぼしたのか考えます。
第4回	■ 劇映画を観ます	劇映画を一本鑑賞します。
第5回	虚構の壁と認知	フィクションはノンフィクションに次ぐものなのか。虚構性の意義と価値について考えます。
第6回	日常の向こう側;創り手と受け手	実作の現場から、演劇的営為を考えます。
第7回	メディア・コントロール;その演劇化された家畜化の方法	政治も経済も所詮は「メディア」によって如何様にも動かされ得る。演劇やドラマもまたその装置のひとつであることを自覚する。
第8回	日常という名の劇場;劇場化する政治、経済、そしてこの世界	日常を劇的空間と見なすことは日常に溢れる虚構性を告発することに他ならない。
第9回	■ ドキュメンタリーを観ます	現在を映し出すノンフィクションを観ることで、メディアに対する理解を深めたい。
第10回	沈黙の螺旋と希望の原理	民衆の思考停止を生み出し、更に悪化させるの、そして同時に希望を生むものとは。
第11回	共感の次元を超えて	共感とはいったい何だったのか。そして、それを超えて僕らが向かうべき未来とは。
第12回	「比較演劇論」最終解説とまとめ、及び「最終小論文試験」	試験として、共通の「タイトル」で小論文を書いていただきます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
この講義に出る限りは、できる限り多くの舞台作品、もしくは映像作品に触 れて欲しいと思います。そして講義で触れた文献の読書及び作品の鑑賞、それらが準備であり復習です。従って、本授業の準備・復習時間は、紹介作品の鑑賞を含め各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特定のテキストは使用致しません。

【参考書】
特に用意して頂く参考書はございません。 毎回、レジュメ (プリントもしくは PDF) を講義内、もしくはオンライン（学習支援システムを予定）でお渡しします。参考文献及び参考ドラマ・映画・舞台作品等はレジュメに明記します。

【成績評価の方法と基準】
成績評価は以下の通りに行います。
●平常点 (授業への参加態度を含む) 70%
●小論文試験 30%
※ 注意点!「試験」のみの参加では単位にはなりません。

【学生の意見等からの気づき】
種々様々な問題が噴出しているこの萎縮した時代にあって、例年にも増して、 更に一層自分自身の言葉を大切に、学生諸君に伝えていきたいと思っています。

【学生が準備すべき機器他】
特にありません。

【Outline (in English)】
Course Outline: The theme of this course is "Comparative Dramatics." It represents a means of analyzing drama with a view to understanding the meaning and value of our current reality from sociological, ideological, political-economic and other perspectives.
Learning Objectives: On completing this course, students will be able to correctly understand how to think critically, without being passive or in a state of suspended thinking, and will be able to apply this knowledge not only to the appreciation of works of art but also to the real world.
Learning Activities Outside of the Classroom: If you attend this lecture, I would like you to be exposed to as many theatrical or visual works as possible. For preparation and review students should read the literature and view the works mentioned in the lecture. Standard preparation and review time for this class is 2 hours each, including the viewing of the works introduced in the lecture.
Grading Criteria/Policy: Ordinary marks including class participa- tion (70%); essay exam (30%).

LIN200TC（言語学 / Linguistics 200）

日本文法論（夏期スクーリング）

尾谷　昌則

カテゴリー：**夏期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**2群午後**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
小中学校の国語で習う文法は橋本進吉の理論に基づいており「学校文法」とも呼ばれている。しかし、教科書に採用されているからといって、決して完璧な理論とは言えず、不備や例外もある。どこが間違っているのか、どう修正すべきなのか、それらを考えながら、学校文法を概観する。

【到達目標】
(1) 国語教員が押さえておきたい学校文法の基礎を理解する。
(2) 学校文法の不備・例外について理解する。
(3) 日本語文法が抱える諸問題について、適切な具体例を挙げながら論理的に説明できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
基本的には講義形式で進めるが、単に結論を暗記すればいいと思ってもらっては困るので、受講生に積極的に発言してもらうべく、様々な問題・課題を与え、回答をリアクションペーパーに書いてもらう。フィードバックはすべて授業中（もしくは次の授業回）に行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	品詞	品詞の定義と問題点について
第2回	活用	活用体系とその問題点について
第3回	文構造	文節同士の関係と文構造について
第4回	格助詞	格助詞の用法と意味について
第5回	副助詞	副助詞の用法と意味について
第6回	接続助詞	接続助詞の用法と意味について
第7回	修飾	連用修飾と連体修飾について
第8回	助動詞(1)	受身・使役・可能の助動詞とその問題点について
第9回	助動詞(2)	否定・時間の助動詞とその問題点について
第10回	助動詞(3)	モダリティに関して
第11回	助動詞と働きかけの形式	対人的モダリティについて
第12回	まとめ	試験とフィードバック

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
※本授業の準備・復習時間は、各２時間を標準とします。
Before/after each class meeting, students will be expected to spend 2 hours to understand the course content.

【テキスト（教科書）】
『国語教師が知っておきたい日本語文法』（山田敏弘著、2004年、くろしお出版、1,600円）

【参考書】
（基礎）町田健　2002.『まちがいだらけの日本語文法』東京：講談社（￥735）
（発展）庵功雄ほか2000.『初級を教える人のための日本語文法ハンドブック』東京：スリーエーネットワーク.（￥2,310）

【成績評価の方法と基準】
最終テスト：100％

【学生の意見等からの気づき】
小中学校で習った文法にも多くの例外や不備があるということが新鮮だったとのコメントが多かった。そういった例外についてもっと深く考えてもらい、「文法は単なる暗記の授業ではない」ということを分かってもらうためにも、受講生が考え、発言する時間を多めにとりたい。

【Outline (in English)】
This course introduces the traditional grammar of comtemporary Japanese adopted to the textbooks for Japanese public junior high schools, and points out some irregularities or bugs in it. After reviewing the traditional grammar, we will discuss and study the irregularities or bugs in it.
The objectives of this class are to understand such irregularities and to become able to explain them to someone else with proper examples.
Your overall grade in the class will be decided based on the following:
term-end test (100%).

BSP300TC（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 300）

卒業論文作成講座（夏期スクーリング）

佐藤　未央子

カテゴリー：**夏期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**2群午後**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
卒業論文の作成に向けて、文章の読解能力や調査力、自らの言葉で書く表現力を養う。近代文学の研究フローを通して段階的な演習を行い、「論じる」ための基礎的なスキルを体得する。
教材としては、法政大学の教員を務めたことがある小説家・内田百閒の短篇「旅順入城式」を読み、考察レポートを作成する。作品への注釈作業や先行研究の調査を行い、小説を考察して自分の言葉で論じる力をつける。

【到達目標】
・文献を扱うためのルールについて理解している。
・情報を調査収集・分析し、問いを立てることができる。
・明確でわかりやすく、論理的な文章の表現ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
辞典を使用した注釈作業や、先行研究の調査検討、自分の意見をまとめるなどの段階的な取り組みを経て、最後に2000字程度のレポートを作成する。
課題提出や質問は授業の前後や学習支援システムを通して受け付ける。提出物は添削を通してフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	論文を書くための基礎的な知識を確認する。内田百閒の人生や作風を学び、「旅順入城式」を読む。
第2回	情報探索の方法	各種データベースサイトを使用した調査の方法を確認する。
第3回	小説への注釈と発表	「旅順入城式」を読解するにあたり、わからない単語や固有名詞の意味を辞典で調べる。発表を通して情報を共有する。
第4回	論文の構成①	学術的な文章のアウトラインや、論理の立て方について学ぶ。
第5回	先行研究の調査①	文献引用や出典表記に関するルールを確認する。
第6回	先行研究の調査②	先行研究を調査して読解し、独自の問いを立てる方法を学ぶ。
第7回	先行研究の調査③	ひとり１本の文献を選び、内容の要約と疑問点をまとめて提出する。
第8回	論文の構成②	先行研究をすり合わせ、研究史を確認する。 注釈と先行研究の要約を含めた論文全体の構成を考える。
第9回	論文演習①	レポートの前半部分を執筆する。
第10回	相互批評（ピア・サポート）①	学生同士でレポートの相互批評を行う。自らの課題を見つけ、伝わりやすい文章にはいかなる工夫が必要かを考える。
第11回	論文演習②	レポートの後半部分を執筆する。
第12回	相互批評（ピア・サポート）②／全体の復習	レポートの相互批評を行ったうえで、学習の総復習を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。
配布したプリントは必ず読んでください。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しません。
授業で取り扱う「旅順入城式」は、初回授業時にプリントで配布します。
また、授業内容に応じてプリントを配布します。

【参考書】
『冥途・旅順入城式』（岩波文庫、1990）
『新潮日本文学アルバム 42 内田百閒』（新潮社、1993）
『別冊太陽　内田百閒 (平凡社、2008）
内田百閒の他の作品もご一読をお勧めします。
ほか、講義内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】
・授業ごとの提出物：40％
・口頭発表：10％
・最終レポート：50％
　８コマ以上の出席を単位取得の条件とします。
　※遅刻・早退は０．５コマ分の出席となります。
　※最終日のみ、前半の授業を２コマとしてカウントします。

【学生の意見等からの気づき】
積極的に意見を交換できる場を作れるよう努めます。
不安なことや質問があればご遠慮なくお問い合わせください。

【学生が準備すべき機器他】
①レポートは学習支援システムを通して提出していただきます。学習支援システムを使用するための統合認証IDとパスワードは郵送でお知らせしてあります。かならず確認のうえ、授業にご持参ください。
②図書館資料を利用するため、「ライブラリーカード」の発行も推奨します。
③パソコンと文書作成ソフト（Microsoft Word等）があれば、自宅でもレポートの作成が進められるため、用意していただくことを推奨します。

【その他の重要事項】
文献資料の検索やレポート作成にあたり、パソコンスキルが求められる授業となります。
授業前にかならず操作方法を確認し、習得したうえで授業に臨んでください。
なお、大学で使用しているパソコンのOSはWindowsです。

【Outline (in English)】
【Course outline】
In this lecture, we aim to acquire reading, researching and writing skills necessary for preparation of graduation thesis. By conducting step-by-step exercises through the research flow of modern literature, students acquire basic skills to "argue". And this course will focus on Hyakken Uchida's short story, "Ryojun Nyujoshiki". Students discuss their views by making notes on novels and researching references.
【Learning Objectives】
By the end of the course, students should be able to do the following:
-Understand the rules for dealing with literature.
-Examine and analyze data and raise issues.
-Write intelligible and logical sentences.
【Learning activities outside of classroom】
Before /after each class meeting, students will be expected to spend 2 hours to understand the course content.
【Grading Criteria /Policy】
Your overall grade in the class will be decided based on the following: term-end report(50%), presentation(10%), in-class contribution(40%).

HIS100TD（史学 / History 100）

日本史概説（S）（夏期スクーリング）

安田　寛子

カテゴリー：**夏期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**2群午後**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：**※史学科本科生用**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
国際化の進展のなかで、日本文化の発信が重要視されているが、その多くが江戸時代に成熟した、あるいは生み出されたものである。それは、この時代が幕藩体制と呼ばれる仕組みのうえに、260年余りも平和が続いた時代であったことが大きく影響していたといえる。そこで、この時代を支えた支配機構の特質や、そこで生きた人々について取り上げ、このような平和で安定的な長期政権となった理由はどこにあったのか、またそれだけ続いた政権がなぜ崩壊することになったのかについて考える。

【到達目標】
今後、広く国際社会に日本を発信していくためには、日本とはどういう国なのかということを我々自身がより深く知る必要がある。そこで、今も日本のなかに多くの影響を残す江戸時代について、単に紙の上の学問としてではなく、我々と同じ生身の人間が生きた時代として身近に感じながら学んでいく。
これにより、自分たちの国についての理解を深め、ひいては物事の本質を見抜き、判断する力を養うことが目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「史学科：DP1,DP3」「地理学科：DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
授業は講義形態で実施する。まず江戸幕府の成立過程を概観し、そこから徳川政権の特質について考え、その後いくつか特徴的なテーマを選んで詳しく見ていく。
なお、授業内で課す課題などに対するフィードバックはすべて授業内で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	講義概要と参考文献	授業の進め方と参考文献
第2回	江戸幕府の成立	天下統一と民衆・武家・朝廷・宗教への対応
第3回	慶弔儀礼　1	「鳴物停止令」とその変質
第4回	慶弔儀礼　2	「鳴物停止令」と在日外国人
第5回	慶弔儀礼　3	儀礼における対外摩擦
第6回	近世の村　1	近世の村の特徴と機能
第7回	近世の村　2	法令・史料などから見る近世農村の実態
第8回	近世の村　3	結婚・離婚などから見る近世女性の地位
第9回	宗教と武家・民衆　1	幕府の宗教政策、宗教と民衆との関係
第10回	宗教と武家・民衆　2	宗教と武家・民衆との関係
第11回	幕府法令	触書の形成過程、伝達交付、発令手順、高札とその意義
第12回	試験	まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
事前の学習は特に必要としない。
ただし、授業開始後の復習は必ず行い、内容を理解出来ているか、毎回きちんと確認すること。
復習および関連の学習時間は、1回につき4時間以上を目安とする。

【テキスト（教科書）】
教科書等は使用せず、毎回プリントを配布する。

【参考書】
安田寛子『幕末期の江戸幕府鷹場制度－徳川慶喜の政治構想－』（河出書房新社、2020年）3080円（税込み）
児玉幸多・佐々木潤之介編『新版　史料による日本の歩み（近世編）』（吉川弘文館、1996年）4180円（税込み）
この他の参考図書については、授業のなかで紹介していく。

【成績評価の方法と基準】
期末試験１００％

【学生の意見等からの気づき】
なるべくわかりやすく、ゆっくり話すように心がける。

【Outline (in English)】
We will discuss the characteristics of the control system that supported the Edo period and the people who lived there, and consider why it became such a peaceful and stable long-term government and why it collapsed.
The goal of this course is to develop the ability to see and judge the essence of things.
After each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Final grade will be decided based on the Term-end examination:100%

HIS300TE（史学 / History 300）

日本史概説（夏期スクーリング）

安田　寛子

カテゴリー：**夏期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**2群午後**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：**※地理学科本科生および科目等履修生用**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
国際化の進展のなかで、日本文化の発信が重要視されているが、その多くが江戸時代に成熟した、あるいは生み出されたものである。それは、この時代が幕藩体制と呼ばれる仕組みのうえに、260年余りも平和が続いた時代であったことが大きく影響していたといえる。そこで、この時代を支えた支配機構の特質や、そこで生きた人々について取り上げ、このような平和で安定的な長期政権となった理由はどこにあったのか、またそれだけ続いた政権がなぜ崩壊することになったのかについて考える。

【到達目標】
今後、広く国際社会に日本を発信していくためには、日本とはどういう国なのかということを我々自身がより深く知る必要がある。そこで、今も日本のなかに多くの影響を残す江戸時代について、単に紙の上の学問としてではなく、我々と同じ生身の人間が生きた時代として身近に感じながら学んでいく。
これにより、自分たちの国についての理解を深め、ひいては物事の本質を見抜き、判断する力を養うことが目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「史学科：DP1,DP3」「地理学科：DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
授業は講義形態で実施する。まず江戸幕府の成立過程を概観し、そこから徳川政権の特質について考え、その後いくつか特徴的なテーマを選んで詳しく見ていく。
なお、授業内で課す課題などに対するフィードバックはすべて授業内で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	講義概要と参考文献	授業の進め方と参考文献
第2回	江戸幕府の成立	天下統一と民衆・武家・朝廷・宗教への対応
第3回	慶弔儀礼　1	「鳴物停止令」とその変質
第4回	慶弔儀礼　2	「鳴物停止令」と在日外国人
第5回	慶弔儀礼　3	儀礼における対外摩擦
第6回	近世の村　1	近世の村の特徴と機能
第7回	近世の村　2	法令・史料などから見る近世農村の実態
第8回	近世の村　3	結婚・離婚などから見る近世女性の地位
第9回	宗教と武家・民衆　1	幕府の宗教政策、宗教と民衆との関係
第10回	宗教と武家・民衆　2	宗教と武家・民衆との関係
第11回	幕府法令	触書の形成過程、伝達交付、発令手順、高札とその意義
第12回	試験	まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
事前の学習は特に必要としない。
ただし、授業開始後の復習は必ず行い、内容を理解出来ているか、毎回きちんと確認すること。
復習および関連の学習時間は、1回につき4時間以上を目安とする。

【テキスト（教科書）】
教科書等は使用せず、毎回プリントを配布する。

【参考書】
安田寛子『幕末期の江戸幕府鷹場制度－徳川慶喜の政治構想－』（河出書房新社、2020年）3080円（税込み）
児玉幸多・佐々木潤之介編『新版　史料による日本の歩み（近世編）』（吉川弘文館、1996年）4180円（税込み）
この他の参考図書については、授業のなかで紹介していく。

【成績評価の方法と基準】
期末試験１００％

【学生の意見等からの気づき】
なるべくわかりやすく、ゆっくり話すように心がける。

【Outline (in English)】
We will discuss the characteristics of the control system that supported the Edo period and the people who lived there, and consider why it became such a peaceful and stable long-term government and why it collapsed.
The goal of this course is to develop the ability to see and judge the essence of things.
After each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Final grade will be decided based on the Term-end examination:100%

HIS200TD（史学 / History 200）

西洋史概説（S）（夏期スクーリング）

内田　康太

カテゴリー：**夏期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**2群午後**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：**※史学科本科生用**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
古代ローマ世界の誕生から終焉に至るまでの歴史をヨーロッパ中世世界への接続も射程に入れて学ぶ。

【到達目標】
到達目標は以下のとおり。
・古代ローマの歴史に関する基礎的知識を習得する。
・古代ローマにおける社会構造の変質や転換を「断絶」だけでなく「連続」という観点からも説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「史学科：DP1,DP3」「地理学科：DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
授業は講義形式で行うが、授業時間内に質疑応答の機会を設ける。さらに、授業終了後に毎回リアクションペーパーを提出してもらうことで、受講生の理解度、関心事項、疑問点等を確認しながら授業を進めていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	古代ローマのはじまり
第2回	共和政（1）	地中海世界の覇権をめぐって
第3回	共和政（2）	「内乱の1世紀」
第4回	共和政（3）	ユリウス・カエサルと共和政の終焉
第5回	元首政（1）	アウグストゥスと共和政の存続、あるいは、帝政の樹立
第6回	元首政（2）	ユリウス・クラウディウス朝からフラウィウス朝へ
第7回	元首政（3）	五賢帝の治世と「ローマの平和」
第8回	元首政（4）	軍人皇帝時代／3世紀の危機
第9回	専制君主政（1）	ディオクレティアヌス以後の帝国再編成
第10回	専制君主政（2）	キリスト教の迫害と保護
第11回	専制君主政（3）	西ローマ帝国の滅亡とヨーロッパ中世世界の成立
第12回	試験・まとめと解説	到達度の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。参考書として挙げた書籍などを用いて、自主的に学習することが求められる。

【テキスト（教科書）】
特になし。担当教員が作成したレジュメ・資料を配布する。

【参考書】
服部良久／南川高志／山辺規子『大学で学ぶ西洋史［古代・中世］』，ミネルヴァ書房，2006年.
本村凌二／中村るい『古代地中海世界の歴史』，ちくま学芸文庫，2012年.

【成績評価の方法と基準】
期末の筆記試験（80％）
リアクションペーパーや質問等、授業への積極的参加度（20％）

【学生の意見等からの気づき】
リアクションペーパーを通じた質疑応答の方式を引き続き積極的に活用する。授業内容と直接かかわらずとも、受講生の学習にとって助けとなる質問も取り上げるなどして、広く西洋前近代史への関心を高めることに努める。

【Outline (in English)】
Course outline: This course outlines the history of ancient Rome from its birth to the end with an eye on the connection to the Medieval Europe.
Learning Objectives: The followings are the goals of this course.
- Students are able to acquire fundamental knowledge concerning the history of ancient Rome.
- Students are able to explain the structural changes in the Roman society, not only from the aspect of 'seperation', but also from the aspect of 'continuity'.
Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. They are required to read relevant books, such as those listed in the reference section, and learn by themselves.
Grading Criteria: Grading will be decided based on term-end examination (80%) and in-class contribution (20%).

HIS300TE（史学 / History 300）

西洋史概説（夏期スクーリング）

内田　康太

カテゴリー：**夏期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**2群午後**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：**※地理学科本科生および科目等履修生用**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
古代ローマ世界の誕生から終焉に至るまでの歴史をヨーロッパ中世世界への接続も射程に入れて学ぶ。

【到達目標】
到達目標は以下のとおり。
・古代ローマの歴史に関する基礎的知識を習得する。
・古代ローマにおける社会構造の変質や転換を「断絶」だけでなく「連続」という観点からも説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「史学科：DP1,DP3」「地理学科：DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
授業は講義形式で行うが、授業時間内に質疑応答の機会を設ける。さらに、授業終了後に毎回リアクションペーパーを提出してもらうことで、受講生の理解度、関心事項、疑問点等を確認しながら授業を進めていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	古代ローマのはじまり
第2回	共和政（1）	地中海世界の覇権をめぐって
第3回	共和政（2）	「内乱の1世紀」
第4回	共和政（3）	ユリウス・カエサルと共和政の終焉
第5回	元首政（1）	アウグストゥスと共和政の存続、あるいは、帝政の樹立
第6回	元首政（2）	ユリウス・クラウディウス朝からフラウィウス朝へ
第7回	元首政（3）	五賢帝の治世と「ローマの平和」
第8回	元首政（4）	軍人皇帝時代／3世紀の危機
第9回	専制君主政（1）	ディオクレティアヌス以後の帝国再編成
第10回	専制君主政（2）	キリスト教の迫害と保護
第11回	専制君主政（3）	西ローマ帝国の滅亡とヨーロッパ中世世界の成立
第12回	試験・まとめと解説	到達度の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。参考書として挙げた書籍などを用いて、自主的に学習することが求められる。

【テキスト（教科書）】
特になし。担当教員が作成したレジュメ・資料を配布する。

【参考書】
服部良久／南川高志／山辺規子『大学で学ぶ西洋史［古代・中世］』，ミネルヴァ書房，2006年.
本村凌二／中村るい『古代地中海世界の歴史』，ちくま学芸文庫，2012年.

【成績評価の方法と基準】
期末の筆記試験（80％）
リアクションペーパーや質問等、授業への積極的参加度（20％）

【学生の意見等からの気づき】
リアクションペーパーを通じた質疑応答の方式を引き続き積極的に活用する。授業内容と直接かかわらずとも、受講生の学習にとって助けとなる質問も取り上げるなどして、広く西洋前近代史への関心を高めることに努める。

【Outline (in English)】
Course outline: This course outlines the history of ancient Rome from its birth to the end with an eye on the connection to the Medieval Europe.
Learning Objectives: The followings are the goals of this course.
- Students are able to acquire fundamental knowledge concerning the history of ancient Rome.
- Students are able to explain the structural changes in the Roman society, not only from the aspect of 'seperation', but also from the aspect of 'continuity'.
Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. They are required to read relevant books, such as those listed in the reference section, and learn by themselves.
Grading Criteria: Grading will be decided based on term-end examination (80%) and in-class contribution (20%).

HIS300TD（史学 / History 300）

史学演習（東洋）（夏期スクーリング）

兼平　充明

カテゴリー：**夏期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**2群午後**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
前漢の司馬遷により著された歴史書『史記』を講読することにより、漢文史料の読解能力を養い、あわせて中国古代史についての基本的な知識を身に付ける。

【到達目標】
『史記』は上古から前漢の武帝の時代に至るまでの中国の歴史を紀伝体で記した正史であり、中国古代史を研究する上で必読の史料である。また古くから中国のみならず日本をはじめとする漢字文化圏の国々において、知識人に必須の教養として読み継がれてきた代表的な漢籍の古典でもある。本演習では浩瀚な『史記』の中から漢の高祖の功臣の一人である張良の生涯を記した「留侯世家」を講読し、①訓読 (書下し) という日本独自の漢文の読み方に習熟する。②漢文史料の読解の際に必要とされる工具書についての知識を得て使いこなせるようになる。③教員による解説を通じて張良が活躍した秦漢時代について理解を深める。という三点を目標とする。以上の目標の達成度については学期末の筆記試験によって評価する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
授業の進め方：毎回担当者に訓読(書下し) と現代語訳という形で報告をしてもらい、そのあと全員でその部分について議論するという形で進めていく。また必要な箇所でこの時代の政治・制度・社会などについて説明を加えることにより、一層深いテキストの理解をめざす。
フィードバック方法：授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の進め方および『史記』についての説明。
第2回	『史記』留侯世家講読	張良の生い立ちと始皇帝暗殺計画
第3回	『史記』留侯世家講読	橋上の出会い－黄石公との邂逅
第4回	『史記』留侯世家講読	張良の挙兵－劉邦との出会い
第5回	『史記』留侯世家講読	鴻門の会－劉邦の危機と張良の活躍
第6回	『史記』留侯世家講読	張良の献策－封建制復活の否定
第7回	『史記』留侯世家講読	論功行賞－勝を千里の外に決するは子房の功なり
第8回	『史記』留侯世家講読	首都の決定－長安か洛陽か
第9回	『史記』留侯世家講読	高祖の後継者問題－商山四皓の招へい
第10回	『史記』留侯世家講読	劉邦の死と恵帝の即位
第11回	『史記』留侯世家講読	張良の隠棲と死－司馬遷の評価
第12回	『史記』留侯世家講読	まとめ・最終試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
当日読む部分については参加者全員が予習しておく。予習をする際には史料に出てくる人名・地名等についてもできる限り調べておくようにする。予習・復習に必要な時間は一回につき四時間程度を目安とする。

【テキスト（教科書）】
授業時に資料を配布する。漢和辞典を必ず持ってくること。

【参考書】
授業時に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点(３０%)、最終試験(７０%)

【学生の意見等からの気づき】
質問を歓迎します。

【Outline (in English)】
Reading of classical Chinese

HIS300TD（史学 / History 300）

日本古代史（夏期スクーリング）

杉本　一樹

カテゴリー：**夏期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**2群午後**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日本の古代という時代について、あらためてこの時代を歴史学の対象として「学ぶ」こと。これ自身が授業の目的です。そのために実際にはどのようなアプローチがあるのか。いくつかのトピックを挙げて話を進めます。主たる対象時期は8世紀。この時代の諸相を知るためには、時代の骨組みを通時的・共時的に表現する六国史・律令格式のような包括的・体系的な史料と、そこに歴史個別具体性に富んだディテールを付け加える正倉院文書や木簡などの史料との双方が欠かせません。この二つを柱に、美術工芸や建築などの分野も視野に入れながら講義を行います。

【到達目標】
（1）日本古代史についての基本史料とその特質について知り、その中でも特に正倉院文書についての理解を深める。
（2）「史料の記事内容」を「研究の材料」としてのみとらえるのではなく、その中間に「対象の理解」を介在させ、これまでの諸研究の辿った道筋を再確認する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
授業は対面形式で行なうことを予定しています。
（1）資料は適宜プリントを配布します。
（2）授業の区切りごとに、授業中に出された小課題への回答、授業の感想・質問や自分の発見などを記入したリアクションペーパーの提出を求めます。ここで述べられたコメントは、次回以降、授業内の関連箇所で紹介するなど、授業に反映させます。
（3）状況によって、シラバスの内容を適宜組み替えながら授業を進めることがあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	日本古代史を学ぶということ	導入とガイダンスを行なう。
第2回	古代史料の概要（その1）	六国史・律令格式ほか日本の史書について説明する。
第3回	古代史料の概要（その2）	日本古代仏教史の概観を行い、正倉院文書理解の前提となる時代背景について説明する。
第4回	古代史料の概要（その3）	正倉院文書の概要について。所在・現況・整理・研究資源化について説明する。
第5回	古代史料の概要（その4）	木簡と出土文字資料、金石文について説明する。
第6回	日本古代史を知るための材料（その1）	仏典と漢籍について説明する。
第7回	日本古代史を知るための材料（その2）	美術工芸品を歴史資料として利用することについて。
第8回	正倉院文書の主要文書（その1）	律令制公文書について、歴史学・古文書学の立場から説明する。
第9回	正倉院文書の主要文書（その2）	写経所文書の諸類型を紹介する。また国文学・国語学・書道史からのアプローチについて説明する。
第10回	正倉院文書の主要文書（その3）	写経所文書の諸類型、構造と機能について説明する。
第11回	日本古代史を学ぶための手法	古代史研究の諸分野と研究のツールについて説明する。
第12回	再び日本古代史を学ぶということ。	まとめと全体にわたる補足説明を行なった後、試験を行なう。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しません。必要に応じて資料プリントを配布します。

【参考書】
杉本一樹『日本古代文書の研究』吉川弘文館（2001-2）
杉本一樹責任編集『皇室の名宝 05 正倉院 文書と経巻』朝日新聞社（1999-5）
杉本一樹編『正倉院の古文書』至文堂 日本の美術440　（2003-1）
杉本一樹『正倉院　歴史と宝物』中公新書 1967　（2008-10，韓国語版2015，電子版2019）
杉本一樹『正倉院宝物の世界』山川出版社 日本史リブレット 74（2010-6）

【成績評価の方法と基準】
授業での学習状況（授業の区切りに提出するリアクションペーパーを含む）を「平常点」（40％）として、期末に実施する試験の結果（60％）とあわせて評価を行ないます。

【学生の意見等からの気づき】
これまでの受講生の感想等を反映しています。

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【Outline (in English)】
The purpose of this class is to learn about the ancient times of Japan based on the method of history.
Sources of this period are *Rikkokusi*（六国史）, the officially compiled chronicle of the dynasty, and *Rituryou*（律令）, the comprehensive code of law. In addition, historical materials such as *Shosoin* Documents（正倉院文書）and *Mokkan*（木簡）, which have specific content, are also important.
I will consider what approaches to the purpose of the class mentioned at the beginning, and introduce some topics necessary for that. In addition, classes will be conducted with a view to arts, crafts and architecture.

HUG200TE（人文地理学 / Human geography 200）

人文地理学特講（夏期スクーリング）

木戸口　智明

カテゴリー：**夏期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**2群午後**

受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**

備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では，地理学的な観点から日本における農業・農村の変容過程とそのメカニズムについて学習します。ある地域の農業の変化は、地域内部の要因だけで説明できるものではなく、つねに他地域との相互関係をはらんでおり，一国あるいは世界全体の経済情勢や諸政策とも密接に関係しています。本講義では，農業地理学の基本的な考え方を学習した上で，戦後の日本農業および農村社会の変化を時系列的に辿りながら，農業地理学がどのような観点から地域性を解き明かしてきたのかについて理解することを目的とします。

【到達目標】
1. 農業地理学の基本的な考え方について理解すること。
2. 日本農業の地域性が，いかなる経済的，政策的，地理的条件によって形成されてきたのかについて理解すること。
3. 近年の日本農業および農村社会が抱える課題について説明できること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
講義形式で授業を進めます。毎回の講義でリアクションペーパーを配布するので，講義内容に関する感想や疑問点などを自由に記述し，講義終了時に提出してください。リアクションペーパーで出された疑問点については，次の講義内で適宜フィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション/農業を地理学的にみるとはどういうことか？	本講義の進め方と最終試験の概要について説明したのち，地理学的な見方・考え方について概説します。
第2回	農業地理学の基礎①	農業が一つの産業部門として成立する背景と，他の産業部門とは異なる特徴について概説します。
第3回	農業地理学の基礎②	チューネンの『孤立国』を題材に，農業の地域分化が生じるメカニズムについて学習します。
第4回	高度成長と基本法農政	日本経済の高度成長期に施行された「農業基本法」の枠組みと狙いについて概説します。
第5回	農産物の産地形成	農産物産地の発展過程について，主産地形成論の枠組みから説明します。
第6回	農産物過剰問題と生産調整	生産調整政策が実施された背景と，農業地域に与えた影響について学習します。
第7回	工業の地方分散と兼業化	労働市場の拡大と農家兼業が農村社会にもたらした変化について学習します。
第8回	農産物輸入の自由化と食料供給構造の変化	フードシステム論を手掛かりにして，1990年代以降に農産物の生産・流通・消費の構造がいかに変化したのか学習します。
第9回	農産物のブランド化・高付加価値化	1990年代以降における農産物産地の動向について，ブランド化や高付加価値化をヒントに読み解きます。
第10回	農業経営の大規模化と法人化	農産物産地のもう一つの変化である規模拡大や法人化の動きについて，水田農業の事例を取り上げながら学習します。
第11回	「地方消滅」論をどう読み解くか？	今日の農村が抱える課題と持続可能性について，「地方消滅」論を題材に考えます。
第12回	試験・まとめ	試験を実施し，本講義の内容について振り返ります。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各自，以下にあげる参考書と講義内で紹介する文献を予習・復習に活用してください。また，日頃からニュースや新聞等を通じて農業や地域経済に関する情報に積極的にアクセスしてください。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用せず，教員が配布する資料をもとに講義を進めます。資料はパワーポイントで作成し，講義のはじめに印刷したものを配布します。

【参考書】
・伊藤達也ほか編著（2020）『経済地理学への招待』，ミネルヴァ書房
・経済地理学会編（2018）『キーワードで読む経済地理学』，原書房
・増田寛也編著（2014年）『地方消滅』，中公新書
・荒木一視（2013）『食料の地理学の小さな教科書』，ナカニシヤ出版
・高柳長直ほか編著（2008）『グローバル化に対抗する農林水産業』，農林統計出版
・チューネン著：近藤康男・熊代幸雄訳（1989年）『孤立国』，日本経済評論社
・長岡顕ほか編著（1978）『日本農業の地域構造』，大明堂

【成績評価の方法と基準】
リアクションペーパーの提出状況（30%），最終試験（70%）に基づいて評価します。最終試験の内容と評価基準については，講義の第1回で説明します。

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【Outline (in English)】
【Course outline /Learning Objectives】
In this course, we will learn about the transformation process and mechanism of agriculture and rural areas in Japan from a geographical perspective.
After learning the basic concepts of agricultural geography, we will trace the changes in Japanese agriculture and rural society in order to understand how agricultural geography has revealed regional characteristics.
At the end of the course, students are expected to understand how the regional characteristics of Japanese agriculture have been shaped by economic, policy, and geographical conditions.
【Learning activities outside of classroom】
Students will be expected to prepare for and review the following reference books and the literature to be introduced in the lecture. Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.
【Granding Criteria /Policy】
Your overall grade in the class will be decided based on the following.
In class contribution:30%, Term-end examination:70%

GEO400TE（地理学 / Geography 400）

自然地理学演習（夏期スクーリング）

前杢　英明

カテゴリー：**夏期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**2群午後**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本演習は自然地理学のうち「地形」を中心とした内容であるが、第四紀学、自然災害科学、および人類文明環境史など、自然地理学が関係する周辺諸科学の領域についても自由に学習・議論し、自然環境と持続可能な人間社会のあり方について考察を深める。

【到達目標】
自然地理学諸分野およびその関連分野の研究成果に自らが積極的に触れ、批判的に読み解き、また他者と議論する過程を通して、新たな現代的課題を発見し、自分自身がその解決手法を考え、実践していく能力を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
授業は学術雑誌から各自があらかじめJ-stage等から検索し、読み込み、レジュメやPowerPoint等を使って発表する形式をとる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の運営方法、発表の方法，発表の順序などを決める
第2回	教員研究紹介	教員が行っている研究のダイジェストで紹介する
第3回	学生文献発表	数名の学生が分担部分を発表・紹介し議論する。主に学術雑誌の論文を紹介する。
第4回	学生文献発表	数名の学生が分担部分を発表・紹介し議論する。主に学術雑誌の論文を紹介する。
第5回	学生文献発表	数名の学生が分担部分を発表・紹介し議論する。主に学術雑誌の論文を紹介する。
第6回	学生文献発表	数名の学生が分担部分を発表・紹介し議論する。主に学術雑誌の論文を紹介する。
第7回	学生文献発表	数名の学生が分担部分を発表・紹介し議論する。主に学術雑誌の論文を紹介する。
第8回	学生文献発表	数名の学生が分担部分数名の学生が分担部分を発表・紹介し議論する。主に学術雑誌の論文を紹介する。
第9回	学生文献発表	数名の学生が分担部分数名の学生が分担部分を発表・紹介し議論する。主に学術雑誌の論文を紹介する。
第10回	学生文献発表	数名の学生が分担部分を発表・紹介し議論する。主に学術雑誌の論文を紹介する。
第11回	学生文献発表	数名の学生が分担部分を発表・紹介し議論する。主に学術書・教科書を読む。
第12回	学生文献発表	数名の学生が分担部分を発表・紹介し議論する。主に学術書・教科書を読む。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
発表準備、プレゼンの工夫など、関連ビジネス書なども参考にする。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
今年度は統合認証IDが全員に付与されているので、図書館が契約している和雑誌データベース（CiNii）やフリーのJ-stageなどで検索し、地理学の学術雑誌から自分が興味ある自然地理学系の論文を各自ダウンロードし、授業日までに読み込んでいつでも発表できる体制で臨むこと。

【参考書】
地理学評論、第四紀研究、地学雑誌、季刊地理学、地理科学、活断層研究、法政地理等の地理学系雑誌を対象とする。原著論文（論説）は専門性が高いため、研究ノートや短報、フォーラム等から選択したほうがよいかもしれない。総説論文（展望論文）や単なる報告は避けること。

【成績評価の方法と基準】
発表80%、議論への積極的参加20%。基本的に全回出席が原則。欠席等は通信教育課程の規定にそって判断する。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【学生が準備すべき機器他】
パソコンとPowerPointなどのプレゼンソフトでの発表を基本とする。無理な場合は紙のレジュメでもよい。

【Outline (in English)】
The aim of this course is to get fundamental knowledge of Physical Geography.The goals of this course are to understand Earth science processes and to recognize geological time scale.Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.Final grade will be calculated according to the following process; Positive attitude (20%) and presentation (80%).

ECN300TE（経済学 / Economics 300）

社会経済学A（夏期スクーリング）

舩木　恵子

カテゴリー：**夏期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**2群午後**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では、現代経済を歴史的・理論的に考察することによって「なぜ経済学の基礎理論が必要なのか」について学び考える。経済学は理論のための「理論」ではなく、現実の経済を「批判的」に分析し、深く思考するための理論である。社会経済学A/Ⅰでは、基本的にマルクス経済学にもとづきながら、資本主義が発生した歴史的条件、基本的性格そして基礎概念について学ぶことにする。

【到達目標】
1. 資本主義経済の基本的仕組みを歴史的・理論的に理解すること。
2. 経済学の専門諸科目で学ぶ現代資本主義の諸問題の解明に必要な基礎理論を習得すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP3,DP5」「地理学科：DP1」「経済学科：DP2,DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
・プリントを配布する。
・オフィスアワーとして授業の後に質問時間を設ける。詳しくは、最初の授業時に説明します。
・授業中にリアクション・ペーパーや小テストなどを適宜おこなう予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	・授業の進め方 ・社会経済学の対象と課題	現代経済と経済学について説明する
第2回	市場経済（1）市場とは何か	市場経済のしくみを学ぶ
第3回	市場経済（2）商品形態、商品の物神的性格	マルクス経済学に基づく商品の生産と交換について理解する
第4回	市場経済（3）貨幣の成立と貨幣の諸形態	貨幣とは何か、貨幣の仕組みをマルクス『資本論』から理解する
第5回	資本と生産（1）資本主義的生産と賃労働	資本主義経済に基づく労働について学ぶ
第6回	資本と生産（2）機械制大工業の成立と発展	資本主義経済の発展段階における資本と生産のしくみ及び剰余価値について
第7回	資本と生産（3）現代の情報化	現代資本主義における労働の変容について
第8回	雇用と蓄積（1）失業と人口法則	経済学史における人口論の緒論と過剰人口における失業の問題(マルクス経済学)
第9回	雇用と蓄積（2）相対的過剰人口と産業予備軍	マルクスの相対的過剰人口論と現代資本主義について
第10回	雇用と蓄積（3）現代における労働市場①	産業循環と失業の問題
第11回	雇用と蓄積（4）現代における労働市場②	現代における労働と労働市場の変容
第12回	ディーセント・ワーク	夏季スクーリングの内容整理及び現代の労働事情

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・復習時間は、各2時間程度を標準とする。授業評価における試験対策やレポート提出を視野に入れた課題を宿題にしたりリアクションペーパーを実施するなどして授業に取り入れる。

【テキスト（教科書）】
以下の参考書を示唆しながらプリントにて授業をおこなう

【参考書】
増田壽男・沢田幸治編『現代経済と経済学[新版]』有斐閣2007年
柳沢哲哉著『経済学史への招待』2018年
原伸子著『ジェンダーの政治経済学-福祉国家・市場・家族』有斐閣、2016年
マルクス『資本論』岩波文庫　国民文庫　第1分冊

【成績評価の方法と基準】
平常点(リアクションペーパーや小テスト、課題など)30%、期末レポートもしくは確認試験の70%で評価します(レポートか試験のどちらかを実施)

【学生の意見等からの気づき】
様々な学科の学生が受講することを理解、考慮し、わかりやすく経済全般に配慮した授業にしたいと考えます。

【Outline (in English)】
In this lecture, students will learn "why a basic theory of economics is necessary" by considering the modern economy historically and theoretically. Economics is not a "theory" for the sake of theory, but a theory for critically analyzing and thinking deeply about the real economy. In Socioeconomics A/I, we will study the historical conditions, basic characteristics, and basic concepts of capitalism based on Marxian economics.
[Learning objects] 1. To understand the basic structure of the capitalist economy historically and theoretically. 2. Acquire the basic theories necessary to clarify various problems of modern capitalism learned in specialized economics subjects.
[Learning activities outside of classroom]
Read the text in preparation before class. After class, review the content and complete the assignment.
[Grading Criteria /Policy] Evaluation is based on 30%of normal scores (reaction papers or quizzes) and 70%of final reports or confirmation exams.

ECN300TG（経済学 / Economics 300）

社会経済学Ⅰ（夏期スクーリング）

舩木　恵子

カテゴリー：**夏期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**2群午後**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では、現代経済を歴史的・理論的に考察することによって「なぜ経済学の基礎理論が必要なのか」について学び考える。経済学は理論のための「理論」ではなく、現実の経済を「批判的」に分析し、深く思考するための理論である。社会経済学A/Ⅰでは、基本的にマルクス経済学にもとづきながら、資本主義が発生した歴史的条件、基本的性格そして基礎概念について学ぶことにする。

【到達目標】
1. 資本主義経済の基本的仕組みを歴史的・理論的に理解すること。
2. 経済学の専門諸科目で学ぶ現代資本主義の諸問題の解明に必要な基礎理論を習得すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「経済学」に関連

【授業の進め方と方法】
・プリントを配布する。
・オフィスアワーとして授業の後に質問時間を設ける。詳しくは、最初の授業時に説明します。
・授業中にリアクション・ペーパーや小テストなどを適宜おこなう予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	・授業の進め方 ・社会経済学の対象と課題	現代経済と経済学について説明する
第2回	市場経済（1）市場とは何か	市場経済のしくみを学ぶ
第3回	市場経済（2）商品形態、商品の物神的性格	マルクス経済学に基づく商品の生産と交換について理解する
第4回	市場経済（3）貨幣の成立と貨幣の諸形態	貨幣とは何か、貨幣の仕組みをマルクス『資本論』から理解する
第5回	資本と生産（1）資本主義的生産と賃労働	資本主義経済に基づく労働について学ぶ
第6回	資本と生産（2）機械制大工業の成立と発展	資本主義経済の発展段階における資本と生産のしくみ及び剰余価値について
第7回	資本と生産（3）現代の情報化	現代資本主義における労働の変容について
第8回	雇用と蓄積（1）失業と人口法則	経済学史における人口論の緒論と過剰人口における失業の問題(マルクス経済学)
第9回	雇用と蓄積（2）相対的過剰人口と産業予備軍	マルクスの相対的過剰人口論と現代資本主義について
第10回	雇用と蓄積（3）現代における労働市場①	産業循環と失業の問題
第11回	雇用と蓄積（4）現代における労働市場②	現代における労働と労働市場の変容
第12回	ディーセント・ワーク	夏季スクーリングの内容整理及び現代の労働事情

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・復習時間は、各2時間程度を標準とする。授業評価における試験対策やレポート提出を視野に入れた課題を宿題にしたりリアクションペーパーを実施するなどして授業に取り入れる。

【テキスト（教科書）】
以下の参考書を示唆しながらプリントにて授業をおこなう

【参考書】
増田壽男・沢田幸治編『現代経済と経済学[新版]』有斐閣2007年
柳沢哲哉著『経済学史への招待』2018年
原伸子著『ジェンダーの政治経済学-福祉国家・市場・家族』有斐閣、2016年
マルクス『資本論』岩波文庫　国民文庫　第1分冊

【成績評価の方法と基準】
平常点(リアクションペーパーや小テスト、課題など)30%、期末レポートもしくは確認試験の70%で評価します(レポートか試験のどちらかを実施)

【学生の意見等からの気づき】
様々な学科の学生が受講することを理解、考慮し、わかりやすく経済全般に配慮した授業にしたいと考えます。

【Outline (in English)】
In this lecture, students will learn "why a basic theory of economics is necessary" by considering the modern economy historically and theoretically. Economics is not a "theory" for the sake of theory, but a theory for critically analyzing and thinking deeply about the real economy. In Socioeconomics A/I, we will study the historical conditions, basic characteristics, and basic concepts of capitalism based on Marxian economics.
[Learning objects] 1. To understand the basic structure of the capitalist economy historically and theoretically. 2. Acquire the basic theories necessary to clarify various problems of modern capitalism learned in specialized economics subjects.
[Learning activities outside of classroom]
Read the text in preparation before class. After class, review the content and complete the assignment.
[Grading Criteria /Policy] Evaluation is based on 30%of normal scores (reaction papers or quizzes) and 70%of final reports or confirmation exams.

ECN200TF（経済学 / Economics 200）

経済学特講（夏期スクーリング）

中田　大悟

カテゴリー：**夏期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**2群午後**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
社会保障政策の経済分析について学ぶ。特に、ミクロ経済学とマクロ経済学の基礎的な経済理論を用いて、社会保障制度が有する機能と効果についての理解を深める。これにより、現実の社会保障政策をめぐる議論の要点やパースペクティブを得ることを目的とする。

【到達目標】
社会保障に関する見解にはさまざまなものが考えられるが、政策論議においては、自らの意見が、どのような理念、理論に基づくものなのかを理解した上で議論する能力が強く求められる。そのために、まず現実の社会保障制度の枠組みと現状について正確に理解する。その上で、制度が有する経済学的な機能について整理し、理解する。さらに、これらの知識を基に、日本経済が置かれた現状を鑑みながら、これからの制度のあるべき方向性について、主体的に考え、発信できるようになることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「経済学科：DP1」「商業学科：経済学」に関連

【授業の進め方と方法】
原則として講義形式で実施する。まず、講義スライドを用いながら各回における要点を講義する。社会保障制度は、毎年、制度改正が行われるとともに、新たなホットイシューが生まれることから、政府資料や統計を用いた議論のアップデートはここで行う。それを受けて、各回授業の後半において、受講生に短い論述課題を課す(問題形式は教科書の演習問題と類似したもの)。受講生は、この論述課題を毎時間、提出する必要がある。なお、一部の論述課題については教室内でのグループディスカッション等で取り組む予定である。そのため、受講生は、事前に教科書の該当箇所を入念に学習しておく必要がある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	社会保障の歴史1	(教科書第1章前半) 救貧法の成立過程、社会保険制度の確立
第2回	社会保障の歴史2	(教科書第1章前半) 福祉国家の誕生と展開
第3回	効率性と公平性	(教科書第1章後半) 政策介入の経済学的根拠
第4回	社会保険の経済分析	(教科書第2章前半) リスク選好、モラルハザード、逆選択
第5回	給付と負担の経済分析	(教科書第2章後半) 租税と社会保険料の転嫁と帰着
第6回	所得格差の評価	(教科書第3章前半) 社会厚生、功利主義、潜在能力
第7回	所得格差の測定	(教科書第3章後半) 等価尺度、ジニ係数、アトキンソン指標
第8回	社会保障財政	(教科書第4章) 再分配機能と財源調達
第9回	貧困概念の展開	(教科書第5章前半) 社会的排除、貧困線、相対的貧困、相対的剥奪
第10回	扶助制度(生活保護)概説	(教科書第5章後半) 扶助制度
第11回	所得保障制度と就労インセンティブ	(教科書第5章後半) 負の所得税、ベーシックインカム
第12回	試験とレビュー	これまでの学習内容について試験するとともに、重要なポイントについてレビューを行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
『社会政策 – 福祉と労働の経済学 (有斐閣アルマ)』、駒村康平・山田篤裕・四方理人・田中聡一郎・丸山桂著、有斐閣、2015年、￥2,750、ISBN 978-4-641-22058-4

【参考書】
『はじめての社会保障 (有斐閣アルマ)』、椋野美智子・田中耕太郎、有斐閣、最新版(ほぼ毎年改訂版が出版される)、￥1,980(注:18版の価格)

【成績評価の方法と基準】
各授業で課せられる論述課題 40%
筆記による期末試験 60%

【学生の意見等からの気づき】
本年度新規科目につきアンケートを実施していません

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【その他の重要事項】
基礎的なミクロ経済学の知識を事前に修得していることが極めて望ましい

【Outline (in English)】
This lecture focuses on the economic analysis of social security policies. In particular, we will use elementary economic theories and concepts from microeconomics and macroeconomics to enhance our understanding of the functions and effects of social security programs. By the end of the course, students should be able to grasp an essentials and perspective on the debate surrounding actual social security policy. Before/after each class meeting, students will be expected to spend 2 hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the following
Term-end examination: 60%、Short reports : 40%

PRI200TG（情報学基礎 / Principles of informatics 200）

情報学入門（5）（データ演習）（夏期スクーリング）

髙田　美樹

カテゴリー：**夏期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**2群午後**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
表計算ソフトウェア Excel のマクロ言語としての Visual Basic Applications (以下、VBA という）について学ぶ。 Excel について簡単に触れ、マクロ言語の意義を解説し、VBA の文法から応用問題について解説する。

【到達目標】
ExcelVBAマクロプログラミングを実習し、プログラミングの考え方とプログラミングによるデータ解析の手法を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「法律学科： DP5」「日本文学科：DP1,DP4」「史学科：DP1」「地理学科：DP2,DP3」「商業学科：情報・統計学」に関連

【授業の進め方と方法】
コンピュータ上で様々な処理を実行することができる表計算ソフトウェア Excel の使い方を解説し，そのマクロ言語としての VBA を解説する.Excel マクロ VBA の文法とアルゴリズムを理解し，プログラミングの基本を実習を 通して学ぶ.
Classroomを利用して，講義資料を配布し，課題の提出を行う．課題のフィードバックもClassroom上で行う.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンスと Excel の基礎	学習計画を把握し，マクロとは，プログラミングとは，という概念 を学ぶ.
第2回	サブルーチン	マクロ自動記録を用いて，サブルーチ ンの呼び出しと実行順序について学ぶ.
第3回	値と式、および書式の設定	マクロで値や式，書式を自動的に設定する方法を学ぶ.
第4回	繰り返し処理(1)	Excel シートの全行に同じ処理を行う 構文を学ぶ.
第5回	範囲選択	変更部分の範囲を指定して元に戻す処理を行う。範囲が上下しても対応できる方法を学ぶ。
第6回	繰り返し(2)	集計処理を学ぶ。
第7回	選択	条件による二者択一を学ぶ。
第8回	繰り返しと選択の組み合わせ	最大値をはじめとした簡単なアルゴリズムを学ぶ。
第9回	多肢選択(1)	3 択以上の中から条件により選択する 方法を学ぶ。
第10回	多肢選択(2)	範囲のある条件分岐を学ぶ。
第11回	配列的な考え方	インデックスを用いてデータを指定する方法を学ぶ。
第12回	繰り返し(3)	回数がわかっている場合の繰り返し処理の構文を学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
事前に講義資料を確認し、内容を把握する.
講義終了後は、その日の目標を完成させて提出する．おおむね２コマに１つの課題提出を求める.
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
Google Classroom 上に講義資料（配布資料のみ）を提示する。

【参考書】
適宜、講義の中で指示する。

【成績評価の方法と基準】
毎回の課題で評価を行う（100％）

【学生の意見等からの気づき】
プログラミングの初学者でも理解できるように工夫する。

【学生が準備すべき機器他】
教室のパソコンを利用します。

【その他の重要事項】
2024年度より付与される「統合認証アカウント ユーザID」を使用します。
各種ログインに使用しますので、教室で使用できるように準備してください。

【オフィスアワー】
メールなどで対応する
miki.takata.43@hosei.ac.jp

【Outline (in English)】
（Course outline）
Learning about Visual Basic for Applications (VBA) as a macro language for spreadsheet software called Excel.　We will explain the significance of the macro language and explain applications from the VBA grammar.
（Learning Objectives）
You can understand programming concepts and method for data analysis.
（Learning activities outside of classroom）
It takes about 2 hours.
（Grading Criteria /Policy）
Every quizzes 100%

PRI200TF（情報学基礎 / Principles of informatics 200）

コンピュータ入門（5）（データ演習）（夏期スクーリング）

髙田　美樹

カテゴリー：**夏期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**2群午後**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
表計算ソフトウェア Excel のマクロ言語としての Visual Basic Applications (以下、VBAという）について学ぶ。 Excel について簡単に触れ、マクロ言語の意義を解説し、VBA の文法から応用問題について解説する。

【到達目標】
ExcelVBAマクロプログラミングを実習し、プログラミングの考え方とプログラミングによるデータ解析の手法を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP4」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】
コンピュータ上で様々な処理を実行することができる表計算ソフトウェア Excel の使い方を解説し，そのマクロ言語としての VBA を解説する.Excel マクロ VBA の文法とアルゴリズムを理解し，プログラミングの基本を実習を 通して学ぶ.
Classroomを利用して，講義資料を配布し，課題の提出を行う．課題のフィードバックもClassroom上で行う.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンスとExcelの基礎	学習計画を把握し，マクロとは，プログラミングとは，という概念 を学ぶ.
第2回	サブルーチン	マクロ自動記録を用いて，サブルーチ ンの呼び出しと実行順序について学ぶ.
第3回	値と式、および書式の設定	マクロで値や式，書式を自動的に設定する方法を学ぶ.
第4回	繰り返し処理(1)	Excel シートの全行に同じ処理を行う 構文を学ぶ.
第5回	範囲選択	変更部分の範囲を指定して元に戻す処理を行う。範囲が上下しても対応できる方法を学ぶ。
第6回	繰り返し(2)	集計処理を学ぶ。
第7回	選択	条件による二者択一を学ぶ。
第8回	繰り返しと選択の組み合わせ	最大値をはじめとした簡単なアルゴリズムを学ぶ。
第9回	多肢選択(1)	3 択以上の中から条件により選択する 方法を学ぶ。
第10回	多肢選択(2)	範囲のある条件分岐を学ぶ。
第11回	配列的な考え方	インデックスを用いてデータを指定する方法を学ぶ。
第12回	繰り返し(3)	回数がわかっている場合の繰り返し処理の構文を学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
事前に講義資料を確認し、内容を把握する.
講義終了後は、その日の目標を完成させて提出する．おおむね２コマに１つの課題提出を求める.
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
Google Classroom 上に講義資料（配布資料のみ）を提示する。

【参考書】
適宜、講義の中で指示する。

【成績評価の方法と基準】
毎回の課題で評価を行う（100％）

【学生の意見等からの気づき】
プログラミングの初学者でも理解できるように工夫する。

【学生が準備すべき機器他】
教室のパソコンを利用します。

【その他の重要事項】
2024年度より付与される「統合認証アカウント ユーザID」を使用します。
各種ログインに使用しますので、教室で使用できるように準備してください。

【オフィスアワー】
メールなどで対応する
miki.takata.43@hosei.ac.jp

【Outline (in English)】
（Course outline）
Learning about Visual Basic for Applications (VBA) as a macro language for spreadsheet software called Excel.　We will explain the significance of the macro language and explain applications from the VBA grammar.
（Learning Objectives）
You can understand programming concepts and method for data analysis.
（Learning activities outside of classroom）
It takes about 2 hours.
（Grading Criteria /Policy）
Every quizzes 100%

LANe100TA（英語 / English language education 100）

英語Ｓ（7）（夏期スクーリング）

小田井　勝彦

カテゴリー：**夏期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**1単位**
期間：**2群夜間**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では興味深い日常に関する自然・科学を扱った下記の教科書を教科書を使用し、外国文化に触れる機会を持ち、国際理解に関する見識を高めるとともに、英語の総合運用能力を身につける。

【到達目標】
・現代社会についての見識を高める
・国際理解についての見識を高める
・上記に必要な英語の語彙を習得する
・「読む」「書く」「聞く」「話す」といった英語の総合運用能力を身につける

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP3」「史学科：DP1, DP3」「地理学科：DP1」「経済学科：DP6, DP8」「商業学科：幅広い教養」に関連

【授業の進め方と方法】
下記に記載の教科書に沿って授業を進める。事前に本文の読解、各問題に解答することが求められる。授業では、まずは教科書本文を学生が1文1文日本語に直すことにより内容理解をする。その後、語彙、内容理解に関する演習問題、文法に関する演習問題を行なう。本文の和訳や問題の1部をリアクションペーパーとして回収する。回収したものについては適宜コメントや解説をつけてフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス Unit 1 Eureka	授業の進め方、評価について説明する。その後教科書に入り、アルキメデスについての文章の読解、名詞・冠詞の文法演習を行う。
第2回	Unit 2 Hot Weather	温暖化についての文章の読解、代名詞の文法演習を行います。
第3回	Unit 3 Bringing the Beauty of Math to Life	数学についての文章の読解、代名詞の文法演習を行う。
第4回	Unit 4 Restrict Pesticides to Save Bees	殺虫剤についての文章の読解、現在時制・現在進行形の文法演習を行う。
第5回	Unit 5 Henry Ford	Henry Fordについての文章の読解、過去時制・過去進行形の文法演習を行う。
第6回	Unit 6 3-D Map of the Milky Way	天の川についての文章の読解、未来時制・未来進行形の文法演習を行う。
第7回	Unit 7 The World of Engineering	工学についての文章の読解、助動詞の文法演習を行う。
第8回	Unit 8 Time	時間についての文章の読解、現在分詞の文法演習を行う。
第9回	Unit 9 Bug Eating	昆虫食についての文章の読解、過去分詞の文法演習を行う。
第10回	Unit 10 Space Junk	宇宙ゴミについての文章の読解、完了の文法演習を行う。
第11回	Unit 11 The Father of Television	テレビについての文章の読解、完了の文法演習を行う。
第12回	まとめと試験	前回に続きこれまでに学んだことのまとめを行い、その後内容理解、習熟度を確認するために試験を行う(60分)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。
事前に、教科書の本文については読むこと、各問題に解答することが求められます。

【テキスト（教科書）】
Itomi Maruyamaほか『読解力向上は基礎文法から』(英宝社, 2015)

【参考書】
『ジーニアス英和辞典』など学習用英和辞典を用意して下さい。電子辞書でも良い。

【成績評価の方法と基準】
平常点(予習の有無、授業での参加度)　30%
試験　70%
※試験の受験資格として、6日間合計 12 コマ（1 日 2 コマ×6 日）のうち 8 コマ以上出席していることが求められます（各コマの遅刻もしくは早退は、 0.5 コマ分の出席としてカウントする。最終日のみ、前半授業を 2 コマとしてカウントする（欠席は 2 コマ分の欠席、遅刻もしくは早退は1コマ分とします）。

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【Outline (in English)】
This class is aimed at improving students' international understanding and learning comprehensive English abilities by using a textbook about a variety of cultures.
[Learning Objectives]
1. Students can read English passages accurately
2. Students can master necessary vocabularies and expressions for reading English passages.
3. Student understand English grammar.
4. Students get the knowledge about foreign cultures.
[Learning activities outside of classroom]
University guidelines suggest preparation and review should be around an hour for a one-credit course.
[Grading Criteria /Policy]
・term test 70%
・activities in class 30%

LAW300TB（法学 / law 300）

労働法（夏期スクーリング）

山本　圭子

カテゴリー：**夏期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**2群夜間**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
労働法の基礎を身につけることを目的とする。
学生が、労働法の意義を理解し、労働基準法、労働契約法、労働組合法の基礎を身につけることを目標とする。

【到達目標】
学生が、以下の事項について、条文・判例・学説に基づいて正しく理解し、論理的に説明できることを目標とする。
①学生が労働契約の成立・展開・終了について条文・判例・学説を説明できる。
②学生が労働条件（賃金・労働時間・休暇等）の基準について条文・判例。学説に基づき説明できる。
③学生が労働基本権について、条文・判例・学説に基づいて論理的に説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
レジュメは学習支援システムを通じて配布し、パワーポイントを用いて講義形式で授業を行う。
オフィスアワーについては、授業の前後に教室において質問を受け付ける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス・労働法とは	労働法の成立過程と労働法の意義を学ぶ
第2回	就職活動と法	労働契約の成立過程について、募集、選考過程、採用、試用期間について学ぶ
第3回	労働契約	労働契約法の意義と内容について学ぶ
第4回	就業規則	労働契約と就業規則の関係、労働条件の決定と変更について学ぶ
第5回	賃金・賞与・退職金	賃金の決定、最低賃金法、賃金の支払方法について学ぶ
第6回	労働時間の原則と例外	法定労働時間、労働時間の意義、休憩、休日、変形労働時間制度について学ぶ
第7回	時間外労働・休暇・休業	時間外労働と割増賃金、休暇・休業について学ぶ
第8回	人事異動・服務規律	人事異動（配転・出向・転籍）、企業秩序と服務規律、懲戒処分について学ぶ
第9回	労働契約の終了	解雇規制、解雇権濫用法理、雇止め、退職について学ぶ
第10回	労働基本権	労働組合法の意義、労組法上の労働組合、労働協約について学ぶ
第11回	不当労働行為	不当労働行為制度の意義と救済制度を学ぶ
第12回	試験とまとめ	論述式の筆記試験を実施しする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・講義前に、教科書の各単元について、テキストを読み、準備学習を行う。各授業前にテキストのQRコードのリーディングケースに目を通すこと。授業後には、復習を行い、テキストの練習問題を解くこと。
・本授業の準備・復習学習は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
『ファーストステップ労働法』藤本茂・沼田雅之・山本圭子・細川良、エイデル研究所、2020年、2900円＋税

【参考書】
【参考書（必ずしも読了・購入の必要はない）】
・浜村彰,唐津博,青野覚, 奥田香子『ベーシック労働法 第９版』(有斐閣アルマ)、2023年、有斐閣
・森戸英幸『プレップ労働法 第7版 (プレップシリーズ)』有斐閣、2023年

【成績評価の方法と基準】
論述式の筆記試験で評価する（100％）。すなわち、最終時限の筆記試験を受験して、60点以上の者に単位を与える。
労働基準法、労働契約法、労働組合法等の基礎を理解し、到達目標の①から③について条文・判例・学説に即して論理的に論じ結論を導くことができることを評価の基準とする。
（試験に際してテキストの持込を可とするかどうかは初回の授業時に指示する。持ち込み可とした場合でも、テキストを写しただけの答案では合格点を与えることはない。テキストのコピーや図書館の図書の持込は認めない）。

【学生の意見等からの気づき】
テキストのQRコードからリーディングケースを読むことができるのが好評だった。
レジュメは初日に印刷したものを配布する。
試験に際してテキストを持ち込める場合でも、図書館の書籍は禁止する。テキストに何かを貼ったり挟んでいる場合はカンニングペーパーとして扱う。試験に際して、レジュメの持込は禁止する。

【学生が準備すべき機器他】
試験に際してテキストの持込参照を許可するかは未定であるが、受講にあたっては必ずテキスト、初日配布のレジュメを持参すること。

【その他の重要事項】
・関連科目：社会政策、、法律学特講（国際労働法）
・法改正の動向などによって授業計画を変更することがある。

【Outline (in English)】
This course aims to acquire the foundation of labor law.
Students understand the significance of the Labor Law and aim to acquire the foundation of Labor Standards Law, Labor Contract Law, and Labor Union Act.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend 4 hours to understand the course content.
Your final grade will be assessed by an exam on the last day of summer schooling (100%).

ECN100TB（経済学 / Economics 100）

総合特講（夏期スクーリング）

赤石　秀之

カテゴリー：**夏期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**2群夜間**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、フードシェアリングシステムを題材として、経済学の基礎とその使い方について学んでいく。フードシェアリングとは、余った食材や食品を捨てずに、他の人に分けたり、安く売ったりすることである。これは、食品ロスの問題を解決するための有効な手段として考えられている。この授業では、フードシェアリングシステムの仕組みや効果、問題点や改善策などについて、経済学の基本を学びながら議論をしていく事を目的とする。

【到達目標】
⑴フードシェアリングシステムの仕組みや効果、問題点、改善策などを経済学の基本的な知識とツールを用いて分析できるようになる。
⑵フードシェアリングシステムに関する最新の事例やデータを収集し、評価し、提案できるようになる。
⑶フードシェアリングシステムに関する自分の意見や考えを論理的に整理し、発表や討論できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「法律学科： DP5」「日本文学科： DP1, DP2」「史学科： DP1, DP3」「地理学科 DP1, DP2, DP3」「経済学科： DP4, DP5」「商業学科：自由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

【授業の進め方と方法】
授業の進め方としては、主にミクロ経済学で用いるグラフを使った授業が行われる。また、授業内ではグラフを作成して考える学習などがある。また、受講生の人数によっては、授業内での発表が行われる場合もある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	フードシェアリングシステムの経済学の役割	授業の進め方やフードシェアリングシステムの意味や基本的な仕組みについて解説する。
第2回	フードシェアリングシステムの市場分析その1	経済学で学ぶ「市場」について解説する。
第3回	フードシェアリングシステムの市場分析その2	「市場」の視点から、フードシェアリングシステムを解釈する。
第4回	フードシェアリングシステムの市場分析その3	「市場」の視点から、フードシェアリングシステムの現実を解説する。
第5回	フードシェアリングシステムの消費者分析その1	経済学で学ぶ「消費者」について解説する。
第6回	フードシェアリングシステムの消費者分析その2	「消費者」の視点から、フードシェアリングシステムを解釈する。
第7回	フードシェアリングシステムの消費者分析その3	「消費者」の視点から、フードシェアリングシステムの現実を解説する。
第8回	フードシェアリングシステムの生産者分析その1	経済学で学ぶ「生産者」について解説する。
第9回	フードシェアリングシステムの生産者分析その2	「生産者」の視点からフードシェアリングシステムを解釈する。
第10回	フードシェアリングシステムの生産者分析その3	「生産者」の視点から、フードシェアリングシステムの現実を解説する。
第11回	フードシェアリングシステムの環境経済分析	「環境経済」の視点から、フードシェアリングシステムを解説する。
第12回	試験とまとめ	講義の理解度を確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
特に事前の学習は必要ではないが、日ごろから新聞・テレビ・インターネットなどを通じて、自身の経済や環境に対する関心・興味を高めておくことが望ましい。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
使用しない。

【参考書】
植田和弘（1992）『廃棄物とリサイクルの経済学』有斐閣。
リチャード・C・ポーター（2005）『入門廃棄物の経済学』東洋経済新報社。
細田衛士（2012）『グッズとバッズの経済学（第2版）』東洋経済新報社。

【成績評価の方法と基準】
ミニ課題（授業中に実施する課題）で４０％、期末試験で６０％、合わせて１００％の総合評価とする。

【学生の意見等からの気づき】
学生の目線に合わせた授業を心掛けていきます。

【Outline (in English)】
In this class, we will learn the basics and applications of economics using food sharing systems as a topic. Food sharing is the act of sharing or selling excess food ingredients or products instead of throwing them away. This is considered an effective way to solve the problem of food loss. The purpose of this class is to discuss the mechanisms, effects, challenges, and solutions of food sharing systems while learning the fundamentals of economics.
The overall evaluation is 40%for mini assignments (issues to be carried out during class), 60%for final exams, and 100%in total.

MAN200TG（経営学 / Management 200）

経営学特講（夏期スクーリング）

小池　祐二

カテゴリー：**夏期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**2群夜間**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
現在、社会には解決しなければならない課題がたくさんあります。そして企業にはSDGsへの積極的な取り組みなど、社会的な課題解決に大きな役割を果たすことが期待されています。この講義では企業の社会貢献という切り口から、企業経営のあり方やイノベーションについて議論していきます。フィランソロピーや社会的責任投資、メセナ、CSR、MDGs、SDGs、CSV経営、BOPビジネス、ソーシャルビジネスなど、企業の社会貢献に関する歴史や様々な背景、世界における企業の経営思想、経営戦略などについて学び、取り組みの事例を学習します。そうした基礎知識をもとに、現代の中小企業や大企業経営における社会貢献の意味や役割などを考えます。企業の社会貢献とは、顧客や従業員、取引先、地域社会といった利害関係者、また社会全体に広く配慮し、長期的に企業価値を高めることを意味しています。この講義ではゲストスピーカーにもご参加いただき、この授業のテーマに関連するお話を伺います。

【到達目標】
①世界における企業の社会貢献活動と社会問題解決のための取り組みを学び、経営学の現代的課題を学びます。
②現代の日本企業がどのような社会貢献を行っているのか、その背景や考え方、実践を知り、社会的課題への対応を知り、未来における企業経営のありかたを考える素養を身につけます。
③企業が、その社会貢献のために、どのような製品開発を行い、ソリューションを探索し、イノベーションを起こしてきたか、について理解する論理的思考力を身につけます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「経済学科：DP2」「商業学科：経営学・商学,自由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

【授業の進め方と方法】
教室での対面の講義、グループワーク、ゲストスピーカーのお話（教室とゲストの方をネットで結んでのオンライン講演になる場合もあります）の組み合わせとなります。また、学生の皆さんには、授業中のグループワークの成果のプレゼンテーションを行ってもらいます。なお、受講者数やゲストスピーカーの方の都合によって、進め方や予定などを変更する場合があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	この講義の進め方を説明します。また講義の基本として資本主義経済と企業経営がどのように発達してきたのかを振り返ります。
第2回	メセナとフィランソロピー	メセナは芸術や文化の支援、フィランソロピーは奉仕的活動を指すことばです。高級ブランドを作り上げた女性企業家シャネルや石油王ロックフェラーなどを例に挙げながら、メセナやフィランソロピーの歴史と現代的意味を考えていきます。
第3回	CSRとCSV経営、マーケティング	企業の社会貢献としてよく行われているCSRと、社会貢献をビジネスの中心にして利益と企業の社会的価値の向上を目指すCSV経営について考えます。また、マーケティングの手法からの企業の社会貢献を考えます。
第4回	途上国経済と企業	途上国の経済開発に果たす企業の役割を、BOPビジネス、ソーシャルビジネスなどの切り口から考えます。
第5回	企業の社会貢献と投資	現在、ESG投資など、企業の社会に対する貢献度を評価する投資が広がっています。ここでは企業の社会貢献と投資の関わりを考えます。
第6回	SDGsと企業経営	現在、大きな社会的トレンドとなっているのがSDGsです。その成り立ちと基本的な考え方、そして企業経営との関わりについて考えます。
第7回	ゲストスピーカーのお話	ゲストスピーカーをお招きし、企業が社会に対して果たす役割や責任について、お話をしていただきます。
第8回	グループワークに関する説明と準備	学生の皆さんをいくつかのグループに分け、起業家の立場に立って、自分たちだったら、どのような社会貢献ができる企業を起業してみたいか、プランをまとめてもらいます。この時間は、そのために必要な基礎的なことがらを説明します。
第9回	グループワーク	第8回目の授業をもとに、グループワークの作業に入ってもらいます。
第10回	グループワーク（続き）	第9回に引き続き、グループでプランをまとめてもらいます。
第11回	プレゼンテーション	グループワークの成果を、各グループごとにプレゼンテーションしてもらいます。
第12回	授業のまとめと試験	授業全体を振り返ります。また、授業内試験を行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。テキストや参考書、シラバスの記載などを利用して、それぞれの授業の内容に関連する事柄の基礎を学んだうえで授業に参加してください。学生の皆さんどうしでのディスカッションなどが展開されることを、おおいに期待しています。学生の皆さんからのリアクションペーパーの内容をフィードバックして、毎日の授業の質を高めていきたいと考えています。

【テキスト（教科書）】
洞口治夫・小池祐二編著『集中講義　高校生の経営学　経営学部の受験を迷っている人に』文眞堂、2018。

【参考書】
適宜、授業中に紹介しますが、
・コトラー他『コトラーのマーケティング５・０』朝日新聞出版、2022。
・ユヌス『３つのゼロの世界　貧困０・失業０・CO_2 排出０の新たな経済』早川書房、2018。
・名和高司『CSV経営戦略―本業での高収益と、社会の課題を同時に解決する』東洋経済新報社、2015。
・南他『SDGs　危機の時代の羅針盤』岩波書店、2020。
・シュワブ他『ステークホルダー資本主義』日経ナショナルジオグラフィック、2022。
は、簡便で参考になります。

【成績評価の方法と基準】
第12回目の授業で行う授業内試験が40％、グループワークのプレゼンテーションの品質が30％（同一グループは全員に同じ点数を付与します）、リアクションペーパーの提出と品質が30％とします。第1日（第1回）から第4日目（第8回）までの授業は、1日ごとにリアクションペーパーを提出してもらいます。

【学生の意見等からの気づき】
毎年、学生の皆さんはゲストスピーカーのお話に、たいへん興味を持たれているので、今年度も学生の皆さんに期待に叶うゲストをお招きする予定です。また、グループワークの充実に対する要望が強かったので、今年度は作業と学習成果のプレゼンテーションを、より強化する予定です。

【学生が準備すべき機器他】
「学習支援システム」で資料などを配布します。授業前に忘れずにチェックしてください。必要に応じてスマートフォン、PC、タブレットなど、ネットに接続できるものを授業に持参してください。

【Outline (in English)】
Companies, governments, and individuals contribute to attaining the Sustainable Development Goals (SDGs) agreed upon at the UN Summit in 2015. In this class, we will study the theoretical and practical aspects of corporate efforts to achieve the SDGs goals. Particularly, we shall invite guest speakers, including business managers and entrepreneurs who aspire to contribute to society and solve social issues, to talk about their efforts. They will discuss how corporate management and innovation should be from the perspective of addressing the SDGs. We shall also clarify the historical background of the emergence of the SDGs and their relationship with corporate social responsibility (CSR) and creating shared value (CSV). Based on this basic knowledge, we will consider the meaning and role of corporate efforts toward the SDGs goals in managing modern small and medium-sized enterprises and large corporations. In this lecture, we shall use case studies of companies that make social contributions in various fields, with participants from each company.

PRI200TG（情報学基礎 / Principles of informatics 200）

情報学入門（6）（データベース）（夏期スクーリング）

渡辺　英人

カテゴリー：**夏期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**2群夜間**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
大学生のための情報処理入門講座です。みなさんが自宅で使用しているパソコンを最大限有効活用できるように解説します。Microsoft Word、Excel、あるいはPowerPointやAccessなどの代表的なソフトを使って、社会科学、人文科学などを学ぶみなさんが、大学で、さらに社会や家庭でも役立つ知識と技術をわかりやすく解説し、確実に習得していただきます。文献やインターネット上から有益な情報をどのようにして検索、収集し、それを効率的に整理して、利用するかという実践的な内容です。大学で、仕事で、家庭でも将来にわたって、必ず役に立ちます！ 初心者大歓迎！！

【到達目標】
大学で学ぶ「社会科学」「人文科学」における様々な問題に、情報機器、とりわけパーソナルコンピュータとソフトウエアを効率的に利用して、それぞれの研究や学習を深める方法を受講者全員が正確に理解し、応用できるようになることが目標です。大学での研究学習のみならず、社会でも家庭でも「役に立つ」スキルを身につけよう！ 初心者大歓迎！！ 苦手な人ほど参加して欲しい！！！

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「法律学科： DP5」「日本文学科：DP1,DP4」「史学科：DP1」「地理学科：DP2,DP3」「商業学科：情報・統計学」に関連

【授業の進め方と方法】
授業ではWindows PCとMicrosoft WordおよびExcelを使います。Apple MacBookやiPad等でも復習できるように解説いたします。自宅で使っているPC機器類を有効活用し、大学での研究学習活動のみならず社会でも家庭でも必要となる知識と技術を、講義と実習形式で、わかりやすく解説します。使用するコンピュータとソフトウェアは、みなさんが日常的に使用しているものと同程度のものを使います。また、実社会においても標準的に使用されているものだけを選んで解説します。とくにMicrosoft「Word」と「Excel」は確実に覚えましょう。毎回、授業の冒頭で、前回の振り返り（復習）、課題についての講評や必要に応じて追加の解説も行います。
　講義と実習を併用するこの授業では、分からないことがあった場合にはすぐに質問し、いっしょに解決しましょう。授業中、授業後にも質問時間を設けます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	コンピューターとは何か（ハードウェアとソフトウェア）。	情報処理の基礎
第2回	キーボード入力練習から機器の取扱いとWindowsの操作法まで。	情報処理の基礎
第3回	電子メールやソーシャルメディアの利用。インターネットと大学生の研究・学習。生成AIを正しく理解し、活用する。	電子メールの利用やその他のソーシャルメディアについて。操作、利用、マナーなど解説する。インターネットを利用した効率的な情報検索、収集の基礎。
第4回	ワープロ操作（Wordによる文章入力の練習）インターネットとWordを使った課題作成。	情報処理の基礎。文書作成法。
第5回	Excelの操作法。基本操作）Excelの操作法。	表計算ソフトについて解説する。データの収集、入力、読み込み、保存、印刷。
第6回	Excelの操作法（計算機能と関数。表作成、グラフ作成）。	表計算ソフトの計算機能、作表機能、グラフ作成機能について解説する。
第7回	インターネットとExcel。情報収集と整理活用法。	ネット上から有益な情報を収集して、エクセルを利用した蓄積方法を解説する。
第8回	インターネットとExcelを活用して資料作成。（課題作成）	インターネットを利用した情報検索、収集とレポート作成。
第9回	効率的情報検索、収集、整理、再利用の方法。	ネット上に存在する有益な情報の発見、収集、蓄積、再利用方法について解説する。
第10回	データベースを作る。有益な情報の収集、蓄積、そして有効利用方法。	マイクロソフトACCESS（データベースソフト）の利用方法について解説する。（Excelで代用可能）
第11回	データベースを作る。自分にとって、重要な情報を収集、整理、蓄積、再利用。（課題作成準備）	マイクロソフトACCESS、またはExcelを使って、自分のためにデータベースを作ってみよう。
第12回	課題作成	オリジナルテーマに基づくデータベースを作成する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
必要に応じて、あらかじめ授業内容を記した資料を配付するので、復習のみならず予習、授業準備を行って欲しい。
本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書の準備はありません。必要に応じて資料を配付します。詳細については開講時に説明します。

【参考書】
開講時、および授業中に指示します。

【成績評価の方法と基準】
Word、Excel、Access等を使って、課題（50％）を作成します。ひとりひとりの理解度と授業への参加状況（平常点：50％）を合わせて評価します。

【学生の意見等からの気づき】
この授業を通して、情報処理が大学生としての研究・学習のみならず、日常生活においても積極的に応用できることが受講者に理解されている。授業の目的、目標は、大学生として、そして将来にわたって職業人、家庭人としても「役に立つ」知識や技術を身につけることに力を入れている。

【学生が準備すべき機器他】
データ保存用にUSBフラッシュメモリ等を用意してください。詳細については開講時に説明します。

【その他の重要事項】
〔受講上の注意〕
大学でのあらゆる学習・研究活動の基礎となる「実学」です。実習を伴う授業ですから参加者全員が同時にスタートし、終了することが必要です。授業に遅刻しないこと。全員が理解できるようにていねいに解説します。大学、社会、家庭でも、将来にわたり必要不可欠な知識と技術です。初心者大歓迎！ 大切なことは「意欲がある」ことだけ！「積極的に授業に参加する学生のみ」集まって欲しい！

【質問について】
授業後に質問を受け付ける。

【Outline (in English)】
This is an introductory course in information processing for university students. Using typical software such as Microsoft Word, Excel, PowerPoint, and Access, students of social sciences and humanities will acquire knowledge and skills that will be useful at university, in society, and at home. The course provides easy-to-understand explanations and ensures that students acquire knowledge and skills that will be useful to them at university, in society and at home. The practical content of the course focuses on how to search for and collect useful information from the literature and the Internet, and how to organize and use it efficiently. This course is sure to be useful at university, at work, and at home in the future! Beginners are welcome!
The goal of this course is for all students to be able to accurately understand and apply how to efficiently use information equipment, especially personal computers and software, to deepen their respective research and study on various problems in the "social sciences" and "humanities" they study at university. Acquire skills that will be "useful" not only for research and study at the university, but also in society and at home! Beginners are welcome! The more you are not good at it, the more we want you to participate!
If necessary, materials describing the contents of the class will be handed out in advance, so please prepare for the class and prepare for the class as well as review.
The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
Assignments (50%) will be made using Word, Excel, Access, etc. Each student's level of understanding and participation in class (normal score: 50%) will be combined for evaluation.

PRI200TF（情報学基礎 / Principles of informatics 200）

コンピュータ入門（6）（データベース）（夏期スクーリング）

渡辺　英人

カテゴリー：**夏期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**2群夜間**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
大学生のための情報処理入門講座です。みなさんが自宅で使用しているパソコンを最大限有効活用できるように解説します。Microsoft Word、Excel、あるいはPowerPointやAccessなどの代表的なソフトを使って、社会科学、人文科学などを学ぶみなさんが、大学で、さらに社会や家庭でも役立つ知識と技術をわかりやすく解説し、確実に習得していただきます。文献やインターネット上から有益な情報をどのようにして検索、収集し、それを効率的に整理して、利用するかという実践的な内容です。大学で、仕事で、家庭でも将来にわたって、必ず役に立ちます！ 初心者大歓迎！！

【到達目標】
大学で学ぶ「社会科学」「人文科学」における様々な問題に、情報機器、とりわけパーソナルコンピュータとソフトウエアを効率的に利用して、それぞれの研究や学習を深める方法を受講者全員が正確に理解し、応用できるようになることが目標です。大学での研究学習のみならず、社会でも家庭でも「役に立つ」スキルを身につけよう！ 初心者大歓迎！！ 苦手な人ほど参加して欲しい！！！

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP4」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】
授業ではWindows PCとMicrosoft WordおよびExcelを使います。Apple MacBookやiPad等でも復習できるように解説いたします。自宅で使っているPC機器類を有効活用し、大学での研究学習活動のみならず社会でも家庭でも必要となる知識と技術を、講義と実習形式で、わかりやすく解説します。使用するコンピュータとソフトウェアは、みなさんが日常的に使用しているものと同程度のものを使います。また、実社会においても標準的に使用されているものだけを選んで解説します。とくにMicrosoft「Word」と「Excel」は確実に覚えましょう。毎回、授業の冒頭で、前回の振り返り（復習）、課題についての講評や必要に応じて追加の解説も行います。
　講義と実習を併用するこの授業では、分からないことがあった場合にはすぐに質問し、いっしょに解決しましょう。授業中、授業後にも質問時間を設けます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	コンピューターとは何か（ハードウェアとソフトウェア）。	情報処理の基礎
第2回	キーボード入力練習から機器の取扱いとWindowsの操作法まで。	情報処理の基礎
第3回	電子メールやソーシャルメディアの利用。インターネットと大学生の研究・学習。生成AIを正しく理解し、活用する。	電子メールの利用やその他のソーシャルメディアについて。操作、利用、マナーなど解説する。インターネットを利用した効率的な情報検索、収集の基礎。
第4回	ワープロ操作（Wordによる文章入力の練習）インターネットとWordを使った課題作成。	情報処理の基礎。文書作成法。
第5回	Excelの操作法。基本操作）Excelの操作法。	表計算ソフトについて解説する。データの収集、入力、読み込み、保存、印刷。
第6回	Excelの操作法（計算機能と関数。表作成、グラフ作成）。	表計算ソフトの計算機能、作表機能、グラフ作成機能について解説する。
第7回	インターネットとExcel。情報収集と整理活用法。	ネット上から有益な情報を収集して、エクセルを利用した蓄積方法を解説する。
第8回	インターネットとExcelを活用して資料作成。（課題作成）	インターネットを利用した情報検索、収集とレポート作成。
第9回	効率的情報検索、収集、整理、再利用の方法。	ネット上に存在する有益な情報の発見、収集、蓄積、再利用方法について解説する。
第10回	データベースを作る。有益な情報の収集、蓄積、そして有効利用方法。	マイクロソフトACCESS（データベースソフト）の利用方法について解説する。（Excelで代用可能）
第11回	データベースを作る。自分にとって、重要な情報を収集、整理、蓄積、再利用。（課題作成準備）	マイクロソフトACCESS、またはExcelを使って、自分のためにデータベースを作ってみよう。
第12回	課題作成	オリジナルテーマに基づくデータベースを作成する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
必要に応じて、あらかじめ授業内容を記した資料を配付するので、復習のみならず予習、授業準備を行って欲しい。
本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書の準備はありません。必要に応じて資料を配付します。詳細については開講時に説明します。

【参考書】
開講時、および授業中に指示します。

【成績評価の方法と基準】
Word、Excel、Access等を使って、課題（50％）を作成します。ひとりひとりの理解度と授業への参加状況（平常点：50％）を合わせて評価します。

【学生の意見等からの気づき】
この授業を通して、情報処理が大学生としての研究・学習のみならず、日常生活においても積極的に応用できることが受講者に理解されている。授業の目的、目標は、大学生として、そして将来にわたって職業人、家庭人としても「役に立つ」知識や技術を身につけることに力を入れている。

【学生が準備すべき機器他】
データ保存用にUSBフラッシュメモリ等を用意してください。詳細については開講時に説明します。

【その他の重要事項】
〔受講上の注意〕
大学でのあらゆる学習・研究活動の基礎となる「実学」です。実習を伴う授業ですから参加者全員が同時にスタートし、終了することが必要です。授業に遅刻しないこと。全員が理解できるようにていねいに解説します。大学、社会、家庭でも、将来にわたり必要不可欠な知識と技術です。初心者大歓迎！ 大切なことは「意欲がある」ことだけ！「積極的に授業に参加する学生のみ」集まって欲しい！

【質問について】
授業後に質問を受け付ける。

【Outline (in English)】
This is an introductory course in information processing for university students. Using typical software such as Microsoft Word, Excel, PowerPoint, and Access, students of social sciences and humanities will acquire knowledge and skills that will be useful at university, in society, and at home. The course provides easy-to-understand explanations and ensures that students acquire knowledge and skills that will be useful to them at university, in society and at home. The practical content of the course focuses on how to search for and collect useful information from the literature and the Internet, and how to organize and use it efficiently. This course is sure to be useful at university, at work, and at home in the future! Beginners are welcome!
The goal of this course is for all students to be able to accurately understand and apply how to efficiently use information equipment, especially personal computers and software, to deepen their respective research and study on various problems in the "social sciences" and "humanities" they study at university. Acquire skills that will be "useful" not only for research and study at the university, but also in society and at home! Beginners are welcome! The more you are not good at it, the more we want you to participate!
If necessary, materials describing the contents of the class will be handed out in advance, so please prepare for the class and prepare for the class as well as review.
The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
Assignments (50%) will be made using Word, Excel, Access, etc. Each student's level of understanding and participation in class (normal score: 50%) will be combined for evaluation.

MAT100TA（数学 / Mathematics 100）

数学３（夏期スクーリング）

小木曽　岳義

カテゴリー：**夏期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**3群終日**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
予備知識を高校で学習する数学I程度として、アクティブラーニング形式、グループ学習形式の授業で、一方的にノートをとる授業ではなく、自ら参加し、仲間と議論し発表し、それについてみんなで意見交換し、最後に教員がその数理的背景を説明する授業にする。授業の最後には試験をする。

【到達目標】
(1)カタラン数、黄金比、マルコフ数など魅力的な数, (2)いろいろなゲームとその必勝法について、(3) 数列のある種の一般化であるコンウェイ・コクセター・フリーズと応用、などについてその出現した背景などとともにを、手を動かしながら、仲間と議論しながら学んでゆく。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP3」「史学科：DP1, DP3」「地理学科：DP1」「経済学科：DP3, DP7」「商業学科：幅広い教養」に関連

【授業の進め方と方法】
問題提起、グループで議論、グループでまとめ、グループで発表、それについての他のグループも含めた議論、最後に教員がその数理的背景をその応用について述べ、そのテーマに関する計算問題や応用問題を出題し、それについては個人で考えて答えを出し、個人で発表してもらう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	数列１	フィボナッチ数列にてういて
第2回	数列２	フィボナッチ数列から黄金比へ
第3回	数列３	カタラン数について１
第4回	数列３	カタラン数とその様々な様相について
第5回	数理ゲーム１	石とりゲーム１
第6回	数理ゲーム２	石とりゲーム２
第7回	数理ゲーム３	石とりゲームとその背後にある数理１
第8回	数理ゲーム４	その他の数理ゲームとその必勝法
第9回	コンウェイ・コクセター・フリーズ１	数列のある種の一般化としてのコンウェイ・コクセター・フリーズ
第10回	コンウェイ・コクセター・フリーズ２	コンウェイ・コクセター・フリーズの様々な様相よその応用
第11回	総合復習	今までの学習内容をもう一度振り返る
第12回	最終テスト	ここまで学習してきたことの達成度をみるための最終試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特になし

【参考書】
特になし

【成績評価の方法と基準】
最終テストに授業での平常点を加味する

【学生の意見等からの気づき】
学生からの意見やコメントについては真摯な態度で尊重し対応する。

【Outline (in English)】
In the course of Mathematics I, which is studied in high school, students will participate in the course of active learning and group learning, and instead of taking notes unilaterally, they will participate in the class, discuss and present with their peers, exchange opinions about it, and finally the teacher will explain the mathematical background. At the end of the class, there will be an exam.

LANe100TA（英語 / English language education 100）

英語Ｓ（８）（夏期スクーリング）

塩谷　幸子

カテゴリー：**夏期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**1単位**
期間：**3群終日**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
世界を取り巻く様々な状況を英語で正確に理解して、それを批判的に読み解き、その上で自国の社会や文化についても客観的かつ多面的な視点で捉えることのできる教養豊かな国際人を養成する。

【到達目標】
英語に対する苦手意識を払拭して、自信を持って次のステップに移行できるよう英語の基礎を学び直すことが本授業の目的である。具体的には、基礎文法・基本語彙の定着を図り、易しい英文を正確にすばやく読み取る力を養う。そのために英文を意味のかたまりごとに読み（チャンク・リーディング）、ある一定の速度で安定的に読む訓練を行う。音読とチャンク・リーディングは車の両輪のようなものであるから、音読練習も時間をかけて行う。英語らしい発音やリズムを習得し、意味のかたまりを意識することによって、リスニング・スピーキング・ライティング力も鍛えられ、総合的な英語力アップ（＝大きな自信）に繋がる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP3」「史学科：DP1, DP3」「地理学科：DP1」「経済学科：DP6, DP8」「商業学科：幅広い教養」に関連

【授業の進め方と方法】
ペア /グループワークを多用し、主体的に、対話的に、そしてより深く学び合う参加型（＝協働学習）の授業を行う。英文をかたまりごとに分け、前から読んで理解する訓練を行う。音読はペア/グループで互いの成果をチェックしたり、教科書問題はクイズサイトで一斉に答え合わせをしたりする。提出課題に対しては、個別またはクラス全体のフィードバックを行う。洋楽、洋画、TOEICの問題等も副教材として活用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業方針の説明
第2回	Unit 1: Warm up	Listening &Short Conversation /Grammar
第3回	Unit 1: Reading / Unit 2: Warm up	Listening &Short Conversation
第4回	Unit 2: Grammar	Reading
第5回	Unit 3: Warm up	Listening &Short Conversation /Grammar
第6回	Unit 3: Reading / Unit 4: Warm up	Listening &Short Conversation
第7回	Unit 4: Grammar	Reading
第8回	Unit 5: Warm up	Listening &Short Conversation /Grammar
第9回	Unit 5: Reading / Unit 6: Warm up	Listening &Short Conversation
第10回	Unit 6: Grammar	Reading
第11回	プレゼンテーション	音読発表とクラスメートによる評価
第12回	最終試験（筆記）	解説とまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・復習時間は、合わせて1時間を標準とする。
・開講までの準備学習として、（1）授業計画に記載の学習Unitは必ず予習をしておくこと（2）教科書後半の"Grammar Sections"（文法解説：58～129ページ）は丁寧に読んでおくことが求められる。
・開講中はテキストの復習と音読練習を続けることによって、自律的な学習習慣を身につけて欲しい。
・ペア・ワークやグループ・ワークを頻繁に行う参加型の授業である。予習を怠ると授業に参加できないばかりか、他の受講生にも迷惑がかかるので十全な準備が必要である。

【テキスト（教科書）】
Dear Learners『英語の世界へ踏み出そう』（南雲堂，2020）

【参考書】
伊藤サム「英語の世界：やさしくたくさん」< http://mellow.na.coocan.jp/easy.htm>
速読のコツ「スラッシュリーディング」の効果・やり方　< https://x.gd/THbVk>
古川昭夫『英語多読入門(めざせ! 100万語)』（コスモピア、2010）
Grammar in Use Intermediate, 3rd Edition (Cambridge U. P., 2010)
Practical English Usage (Oxford U. P., 2005)
その他の参考書や参考サイトについては授業時に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
試験（筆記）50％＋小テスト/課題 20％＋音読 20％＋平常点 10％によって評価する。成績評価は100点満点とし、60点以上が合格。出席については、以下のスクーリング の規定に準拠します。
【終日 3 日型】
(1) 3 日間合計 12 コマ(午前・午後各 2 コマ×3 日)のうち 8 コマ以上(「書道実技」「スポーツ総合演習」「スポーツ特講」は 10 コマ以上)の出席、かつ 毎日出席していること(各コマの遅刻もしくは早退は、0.5 コマ分の出席としてカウントする)。
(2)最終日(試験日)の午後のみ、前半授業を 2 コマとしてカウントする(欠席は 2 コマ分の欠席、遅刻もしくは早退は 1 コマ分の欠席)。

【学生の意見等からの気づき】
「本年度授業担当者変更によりフィードバックできません」

【学生が準備すべき機器他】
・学習支援システムを利用する。IDとパスワードを確認しておくこと。
・オンラインのクイズサイトを利用するため、学内LANが利用できるスマートフォンもしくはPCを用意しておくこと。
・辞書の引き方を指導するので、辞書（紙媒体または電子版など）があれば持参すること。
・教科書に付属する音声は出版社の指定サイト（教科書に記載）からダウンロードし、スマートフォンや音楽メディア等に保存しておくこと。音声を聞いて読む練習が毎回の課題になるためである。

【その他の重要事項】
・資料や課題の配信、回収方法については、学習支援システム と担当教員の授業ページ（初回授業で紹介）で行う。
・質問受付方法については、授業後もしくはメールにて対応する。連絡用メールアドレスは初回授業時に伝え、授業用ウェブサイトと学習支援システムにも掲載する。

【Outline (in English)】
The main focus of this class is to improve students' reading speed and accuracy through phrase reading and oral reading / shadowing practice.
This course will cover a wide range of significant issues confronting the world today. It expects students to gain an increased critical understanding of them in order to become responsible global citizens.
· Students will learn to read and listen efficiently.
· Students will develop critical reading and thinking skills.
· Students will acquire knowledge and skills to become autonomous learners of English.
Students are required to practice phrase reading and shadowing at least for 60 minutes outside of class.
Grading Criteria: Final Exam (50%) + Presentation (20%) + Assignments (20 %) + Participation (10%)

LAW300TB（法学 / law 300）

日本法制史（夏期スクーリング）

山本　弘

カテゴリー：**夏期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**3群終日**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
現代社会の様々な問題は、対応のために法制度をつくり、既存の法制度は現代の社会を構成する要因となっている。社会が法制度を作り、法制度が社会を作り上げていることは歴史的にみても同様であり、我々の生活する現在の社会や法制度もまた歴史のなかに位置づけられることになる。本講義は、現在ある法をより深く理解するための歴史的視点を培うため、歴史のなかの法と裁判を概観し各時代の特徴について認識を深めていく。

【到達目標】
1．前近代における日本の法と裁判に関する基礎的事項を列挙できる。
2．各時代の法や裁判の特徴について概説できる。
3．前近代の法制度と現代の法制度を比較できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
基本的には講義形式によって進めるが、受講生によるディスカッションも行う。また、各回においてリアクションペーパーの任意提出を求め、提出されたリアクションペーパーに対する応答をおこなうことによって、内容理解の一助とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	講義の進め方・評価等についての説明 法政大学と法の歴史
第2回	古代の法と裁判	律令以前の日本法～固有法時代～：原始国家、初期国家、犯罪と裁判（天津罪・国津罪、盟神探湯等）など
第3回	古代の法と裁判	律令法：統治組織、土地制度、刑事法、裁判制度、親族と相続　など
第4回	古代の法と裁判	律令法：統治組織、土地制度、刑事法、裁判制度、親族と相続　など
第5回	中世の法と裁判	鎌倉・室町期の法：中世法の基本的性格、封建制度の諸概念、統治組織、土地制度、裁判制度、親族と相続　など
第6回	中世の法と裁判	鎌倉・室町期の法：中世法の基本的性格、封建制度の諸概念、統治組織、土地制度、裁判制度、親族と相続　など
第7回	中世の法と裁判	鎌倉・室町期の法：中世法の基本的性格、封建制度の諸概念、統治組織、土地制度、裁判制度、親族と相続　など
第8回	中世の法と裁判	鎌倉・室町期の法：中世法の基本的性格、封建制度の諸概念、統治組織、土地制度、裁判制度、親族と相続　など
第9回	戦国法	戦国大名の法、在地社会の法：分国法、村法（村掟）など。
第10回	近世の法と裁判	幕府法と藩法：統治組織、法源、土地制度、刑法、裁判制度（吟味筋、出入筋）、『御定書』、親族と相続　など
第11回	近世の法と裁判	幕府法と藩法：統治組織、法源、土地制度、刑法、裁判制度（吟味筋、出入筋）、『御定書』、親族と相続　など
第12回	まとめ	まとめと試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。
（準備学習）
教科書を熟読した上で出席すること。なお、事前課題のある場合は、当該講義までに課題を終えておくこと。準備学習の時間は1回の講義につき2時間以上が望ましい。
なお、理解度確認及び双方向型講義実施のために、リアクションペーパー（不定期・5分程度・提出自由）の提出を課すこともある。
（事後学習）
疑問点や不明な箇所がある場合は、教員への質問、大学図書館の蔵書利用等を通じて早期に解決をはかること。復習の時間は1回の講義につき2時間程度が望ましい。

【テキスト（教科書）】
配布資料

【参考書】
浅古 弘・伊藤孝夫・植田信廣・神保文夫 編『日本法制史』青林書院、2010年。
村上一博・西村安博・畠山亮・北康宏『【新版】史料で読む日本法史』法律文化社、2016年。
宮地正人ほか編『国家史（新体系日本史1）』山川出版社、2006年。
水林彪編『法社会史（新体系日本史2）』山川出版社、2001年。
出口雄一・神野潔・十川陽一・山本英貴編著『概説 日本法制史』弘文堂、2018年。
高谷知佳・小石川裕介編著『日本法史から何がみえるか – 法と秩序の歴史を学ぶ』有斐閣、2018年。

【成績評価の方法と基準】
期末試験の成績（70％）、議論への取り組み（30％）で評価する。
期末試験では、日本法制史に関する基礎的事項の知識及び各時代の法や裁判に関する理解度を問う。
講義内の議論では、議論への貢献、議論の内容及び成果物について、評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】
全体像における各項目の位置付けを丁寧に紐付けながら講義していきたい。
学生の理解度にあわせ、緩急をつけた進行としたい。

【Outline (in English)】
We survey historical law and trial to develop a historic viewpoint to understand modern law and deepen recognition about a characteristic of the law in each time.
1. Be able to enumerate basic matters regarding Japanese law and court cases in pre-modern times.
2. Be able to outline the characteristics of laws and trials in each era.
3. Compare pre-modern legal systems and modern legal systems.
The standard preparation and review time for this class is two hours each.
(Preparatory study)
Read the textbook thoroughly before attending. If there are any pre-assignments, please complete them before the relevant lecture. It is recommended that the preparatory study time be at least one hour per lecture.
Please note that in order to check your understanding and conduct interactive lectures, you may be required to submit a reaction paper (on an irregular basis, approximately 5 minutes, free to submit).
(Post-study)

If you have any questions or points that are unclear, try to resolve them as soon as possible by asking the instructor, using the university library's collection, etc. It is recommended that the review time be approximately one hour per lecture.
Students will be evaluated based on the final exam performance (70%) and discussion efforts (30%).
The final exam tests students' basic knowledge of Japanese legal history and their understanding of the laws and court cases of each era.
During the discussion in the lecture, the contribution to the discussion, the content of the discussion, and the results will be evaluated.

LIT100TC（文学 / Literature 100）

日本文芸研究特講・上代（夏期スクーリング）

坂本　勝

カテゴリー：**夏期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**3群終日**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
古代日本の神話について、その概要、意味について学ぶ。古代の神話は日本文学の発生期に近い内容や様式をもっており、それらを学ぶことで、文学のもつ意義について学ぶことを目的とする。

【到達目標】
なぜ私たちは神話という思考様式を生み出したのか、その意味を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
講義形式によって進める。授業内容の理解度を確かめるためにリアクションペーパーの提出を求める。最終授業では、それまでの講義内容のまとめや復習だけでなく、提出されたリアクションペーパーについて解説や講評などを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	古代日本の神話について	授業全体の概説
第2回	賀茂の〈御生れ（ミアレ）〉神事と山城国風土記の神話	自然と文化の共生
第3回	日本の《はじまり》物語	古事記、日本書紀の創世神話を学びます
第4回	最初の《喪失》体験	火の誕生と文化の始まりについて考えます
第5回	《生》と《死》の神話	神話を産み出す心のメカニズムを考えます
第6回	《黄泉の国》はどこにある	生と死の神話について考えます
第7回	《根の国》の話	大地と生命の神話について考えます
第8回	ヲロチ退治の物語	英雄神話について考えます
第9回	《天》と《地》の神話	古代の宇宙観を学びます
第10回	《海》の神話	同前
第11回	神々と出会う《場所》	神話と祭りの関係について考えます
第12回	まとめとレポート提出	あらためて今、神話を学ぶ意味を考えます

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
配布資料をよく読んでおくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
『古事記』岩波文庫（漢字の原文が付いているテキストであればその他の『古事記』のテキストでもよい。たとえば、『新編日本古典文学全集　古事記』小学館、『日本古典文学大系　古事記』岩波書店など）

【参考書】
『はじめての日本神話』坂本勝、ちくまプリマー新書、（紙の本がない場合は電子版でも結構です）

【成績評価の方法と基準】
授業の目的を理解し、到達目標を学んでいるか、リポート試験（60％）出席状況（40％、リアクションペーパーなど）によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】
作品を丁寧に読むことの重要性。

【学生が準備すべき機器他】
特にはないです

【その他の重要事項】
テキスト（古事記）を必ず用意してください。

【Outline (in English)】
【授業の概要（Course outline）】Lecture on the myths of ancient Japan.
【到達目標（Learning Objectives）】
To understand the reason why we have created a mode of thought called myth, and the meaning of this creation.
【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】
Please read the handouts carefully. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
【成績評価の方法と基準（Grading Criteria /Policy）】
Evaluation will be based on the following: report exam (60%), attendance (40%, reaction papers, etc.).

LIT100TC（文学 / Literature 100）

日本文芸研究特講・近世（夏期スクーリング）

牧野　悟資

カテゴリー：**夏期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**3群終日**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
狂歌の詠み方を学び、それを踏まえて近世狂歌（江戸狂歌）を読んでみる。

【到達目標】
・近世狂歌に関する知識を身につける。
・近世狂歌の作法に関する知識を身につける。
・近世狂歌を読むことができる。
・近世狂歌の修辞技法やおかしみを説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
講義形式で行う。テーマに関する概説をした後で実際に作品を読んでいく。毎回課題を出し、受講者が積極的に授業参加できるかたちにする。フィードバックは授業内に実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	狂歌について	ガイダンス 狂歌概説
第2回	狂歌は読めるのか	テキスト・解釈概説
第3回	詠み方と歌学	詠み方と歌学概説
第4回	歌意が通じること	歌意が通じること概説 歌意が通じる狂歌を読む
第5回	狂歌の言葉	狂歌の言葉概説 俗語を用いた狂歌を読む
第6回	狂歌の修辞技法１－縁語	縁語概説 縁語を用いた狂歌を読む
第7回	狂歌の修辞技法２－掛詞	掛詞概説 掛詞を用いた狂歌を読む
第8回	狂歌の修辞技法３－地口	地口概説 地口を用いた狂歌を読む
第9回	狂歌の修辞技法４－枕詞	枕詞概説 枕を用いた狂歌を読む
第10回	狂歌の修辞技法５－秀句	秀句概説 秀句を用いた狂歌を読む
第11回	題詠	題詠概説 寄物題の狂歌を読む
第12回	まとめと試験	まとめと試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
予習として各回ともにテーマについて簡単に下調べしておくこと。復習として各回ともに配布資料及び授業ノートを読み直して内容について理解すること。毎日、簡単な課題を出す。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
教科書として作成した資料を配付する

【参考書】
授業時に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
授業時の課題（５５％）と第１２回に実施する試験（４５％）を中心に平常点を加味して総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
見やすい資料、分かりやすい説明を心がけ、なるべく学生のみなさんも参加できるかたちの授業作りをしたいと思います。

【Outline (in English)】
The object of this class is to learn how to compose a kyoka and to read early modern kyoka by taking it into account.

BSP100TC（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）

リポート作成基礎講座（夏期スクーリング）

山口　恭子

カテゴリー：**夏期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**3群終日**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
リポートを執筆するための基礎となる、リポートの書式や文体、引用の方法、先行研究の検索方法、先行研究文献リスト作成等の基本を学ぶ。初年次向けの講座である。

【到達目標】
・通信学習科目、メディアスクーリング科目等におけるリポート執筆の基本を身に付ける。
・リポート執筆において先行研究を踏まえることの重要性を理解する。
・大学図書館等専門図書館の活用方法について理解する。
・インターネットを利用した先行研究の検索方法を習得する。
・研究に必要な先行研究文献リストの作成の基本を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
・リポートを執筆するうえでの基礎的事項（リポートの書式や文体、引用の方法、先行研究を踏まえることの重要性、図書館の利用方法、データベースの利用・活用方法、先行研究文献リストの作成等）について、講義、および実習を行う。
・授業時、あるいは授業後に寄せられた質問やコメントについては、翌日の授業においていくつか取り上げながら、全体に対してフィードバックを行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	リポート執筆に向けて（1）リポートとは何か	リポートとは何か、リポートを書くうえで大切なことは何かを考える。
第2回	リポート執筆に向けて（2）先行研究の重要性	先行研究の種類（研究書、雑誌論文）を知り、それらを踏まえることの重要性について理解する。
第3回	大学図書館について（1）ガイダンス	法政大学図書館の利用ガイダンスを受ける。
第4回	大学図書館について（2）図書館を知ろう	ガイダンスで得た知識を生かしつつ、図書館の活用方法を知る。
第5回	文献検索の方法	国会図書館データベース、国文学研究資料館データベース、CiNii等の利用方法を学ぶ。
第6回	文献リスト作成の基本	文献の記述の方法、および文献リスト作成の基本を学ぶ。
第7回	アカデミックライティングの基本（1）	文体、語句、段落等、リポートに適した文章の基本を理解する。
第8回	アカデミックライティングの基本（2）	引用のルールや方法、論証の方法等を学ぶ。
第9回	文献リスト作成実習（1）	自ら選択したテーマについて各種データベースを検索する。
第10回	文献リスト作成実習（2）	文献リスト作成の基本を踏まえ、文献リストを作成する。
第11回	アカデミックライティング実習（1）	文章を読解し、要約する。
第12回	アカデミックライティング実習（2）	アカデミックライティングの基本を踏まえ、文章を作成する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業でとりあげた内容、また紹介したデータベースの利用方法は、授業外においても復習し、習熟すること。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
『日本文学科のしおり』

【参考書】
授業時に提示する。

【成績評価の方法と基準】
最終日に行う実習の成果（100％）で成績評価を行う。
リポート執筆の基本を身に付けたか、先行研究を踏まえることの重要性について理解したか、インターネットを利用した先行研究の検索方法を習得したか、先行研究文献リストの作り方の基本を習得したかを判断基準として評価する。

【学生の意見等からの気づき】
受講生のみなさんの要望や習熟度にできるだけ応えるよう配慮して進めてゆきたい。

【学生が準備すべき機器他】
・授業は情報実習室で、同室備え付けのパソコンを利用して行う（インターネット、およびWordを中心的に使う）。
・授業時に作成したデータ等を保存するためのUSBメモリを各自用意すること。

【その他の重要事項】
・初年次向けの講座である。
・オフィスアワーとして、授業後の時間に対応する。
・受講生数によって、授業計画に若干の変更の可能性がある。

【Outline (in English)】
（Course outline）
In this course, you will learn how to search for previous research, how to write literature, and how to format and write reports.
This will serve as the basis for writing a repor.
（Learning Objectives）
・Learn the basics of report writing.
・Understand the importance of taking into account previous research when writing a report.
・Learn how to search for previous research using the Internet.
・Learn how to cite previous research and write the names of research books and journal articles.
・Understand how to utilize specialized libraries such as university libraries.
（Learning activities outside of classroom）
Before and after each class meeting, students are expected to spend two hours understanding the content of the course.
（Grading Criteria /Policy）
Grades will be evaluated based on the results of the practical training conducted on the final day (100%).

HIS300TD（史学 / History 300）

東洋史特講（中国現代史）（夏期スクーリング）

齋藤　勝

カテゴリー：**夏期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**3群終日**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
現代中国の政治と民衆
歴史の学習を通じて現代中国への理解を深め、政治が人の生活・人生に及ぼす影響について考える。

【到達目標】
現代中国の変動を知識として学ぶだけでなく、その時代を生きた人々を描いた映画を通じて、彼らの味わってきた苦しみや社会矛盾を感得する。それにより、現在の中国の成り立ちを理解するだけでなく、政治と一人一人の生活・人生とがいかに関わっているかについても考察を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「史学科：DP1,DP3」「地理学科：DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
中国の激動の軌跡を講ずるとともに、それを描いた映画を通して現代中国への理解を深めていく。レポートについてのフィードバックは、最終授業の時間中に対面にて行う。授業に関する個別の質疑には授業後に応じる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	中華人民共和国の成立	抗日戦争から国共内戦、中華人民共和国の成立まで
第2回	1950年代	社会主義化の推進、反右派闘争、大躍進
第3回	1960年代	文化大革命へ
第4回	1970年代	文化大革命の展開と終焉
第5回	身分と抑圧(1)	『芙蓉鎮』の描く社会(1)
第6回	身分と抑圧(2)	『芙蓉鎮』の描く社会(2)
第7回	支配と教育(1)	『子供たちの王様』の描く教育問題(1)
第8回	支配と教育(2)	『子供たちの王様』の描く教育問題(2)
第9回	1980年代	改革開放
第10回	1990年代以降	経済成長
第11回	格差社会(1)	『あの子を探して』の描く現代(1)
第12回	格差社会(2)	『あの子を探して』の描く現代(2)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・復習時間は、各２時間を標準とします。
プリントによって事前・事後に知識を深める。

【テキスト（教科書）】
プリントを配布します。

【参考書】
随時、紹介していきます。

【成績評価の方法と基準】
レポート100％
講義で扱ったテーマについて論述してもらいます。講義の内容の理解とまとめ方を評価の対象にするつもりです。

【学生の意見等からの気づき】
授業に関する質問は授業の前後に受け付けますので、気楽にお訊き下さい。

【Outline (in English)】
Course outline: Students will survey the history of modern China.
Learning objectives: At the end of the course, students are expected to consider how politics had affected the life of people in China.
Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Grading criteria/policy: Term-end report(100%)

HIS200TD（史学 / History 200）

日本考古学（夏期スクーリング）

小倉　淳一

カテゴリー：**夏期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**3群終日**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日本の旧石器時代から古墳時代までの歴史展開を、物質文化にもとづいてアジアとの交流史の中で理解する。

【到達目標】
物質文化としてとりあげる各種の資料を、中国や朝鮮半島との交流を物語る資料として理解し、その歴史的展開や意義について説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
日本の原始・古代をアジア史の中に位置づけるために、考古学資料にみられる中国大陸や朝鮮半島との関連に基づいた交流史をとりあげる。
各回の授業はテーマやトピックに基づいた講義形式で行う。プリント等の資料も利用する。質問等へのフィードバックは授業内で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	概要説明	授業の概要と方法・評価基準に関する説明、授業で扱う時代の概要解説
第2回	旧石器時代のアジアと日本列島(1)	文化交流基盤の形成
第3回	旧石器時代のアジアと日本列島(2)	縄文文化形成への道程
第4回	旧石器・縄文時代の海洋利用	海を渡る丸木舟
第5回	縄文時代の東アジア交流	朝鮮半島との交流の成果
第6回	弥生文化と対外交流(1)	稲作の導入と集落遺跡
第7回	弥生文化と対外交流（2）	北部九州と中国・朝鮮半島・琉球諸島との交流
第8回	弥生文化と対外交流（3）	日本海側の諸地域における玉生産と交流
第9回	古墳文化と対外交流(1)	前方後円墳と舶載鏡
第10回	古墳文化と対外交流(2)	ヤマト王権の対外交渉
第11回	古墳文化と対外交流(3)	磐井の乱と朝鮮半島の墳墓
第12回	授業のまとめと試験	授業内試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
参考書等をよく読み、時代の流れを理解するとともに、考古学によって検討される交流史についての知見を深めておくこと。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特に指定しない。

【参考書】
白石太一郎編（2002）『倭国誕生』（日本の時代史１）　吉川弘文館
鈴木靖民編（2002）『倭国と東アジア』（日本の時代史２）　吉川弘文館
後藤直・茂木雅博編（2003）『東アジアと日本の考古学』第３巻　交流と交易　同成社
石川日出志（2010）『農耕社会の成立』（シリーズ日本古代史１　岩波新書　新赤版1271）　岩波書店
吉村武彦（2010）『ヤマト王権』（シリーズ日本古代史２　岩波新書　新赤版1272）　岩波書店
佐々木憲一ほか（2011）『はじめて学ぶ考古学』有斐閣アルマ（2023年改訂）
（以上、年代順）

【成績評価の方法と基準】
記述式の筆記試験を行う（参照不可・100％）。ただし、平常点については通信教育部の規定に従う。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【Outline (in English)】
The aim of this course is to learn the history of exchanges between the Japanese archipelago and other areas through archeological materials.
Students will be able to understand archaeological materials in relation to their interactions with China and Korea, and explain their historical development and significance.
The standard preparation and review time by students is 2 hours each.
The final grade is based on a written test (100%).

ECN200TF（経済学 / Economics 200）

経済学特講（夏期スクーリング）

島澤　諭

カテゴリー：**夏期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**3群終日**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
入門レベルのマクロ経済学の基礎理論を用いて日本経済が抱えるマクロ経済的な諸課題について講義する。現実のマクロ経済問題を考える際の基礎となるマクロ経済指標の読み方からマクロ理論モデルの基本概念及び最近のトピックスまでを日本経済を題材にしつつ幅広く紹介する。

【到達目標】
現実のマクロ経済を理解するうえで欠かすことのできない、オーソドックスなマクロ経済理論について、理解する。また、日本のマクロ経済を取り巻く問題を把握する。その上で、日本のマクロ経済を取り巻くさまざまな環境変化を考慮したとき、今後の日本経済がどうあるべきかについて、自分なりの意見を持てるようになるための論理的思考力、分析能力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「経済学科：DP1」「商業学科：経済学」に関連

【授業の進め方と方法】
主に、講義用スライドを用いながら講義形式で授業を進める。理論の説明の際は、数式やグラフを多用するため、板書は多めとなる。理論の理解の補強を図るため、最新のマクロ経済情勢を踏まえながら、日本のマクロ経済が直面している課題について、官公庁や、民間シンクタンク等の統計データ、報告資料、並びに新聞・雑誌等のメディア媒体等を活用しつつ、具体的に取り上げる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	マクロ経済学と日本経済	日本経済の抱えるマクロ問題の把握。特に世界経済との関係について
第2回	統計資料（1）	国民経済計算とGDP。日本の経済規模を把握する
第3回	統計資料（2）	国民経済計算とGDP。日本経済と世界経済のつながりを把握する
第4回	乗数モデル（1）	国民所得の決定メカニズムを考察する
第5回	乗数モデル（2）	乗数メカニズムと経済対策の効果
第6回	失業とインフレーション	インフレやデフレの決定メカニズムを考察する
第7回	開放経済	国際収支、為替レート制度について理解する
第8回	日本の経済成長と経済成長モデル	ハロッド＝ドーマーモデル、新古典派成長モデル、内生的成長モデル、人口と経済成長、日本の高度成長と失われた20年
第9回	国民と投票	中位投票者定理、投票のパラドクス、日本の投票率が低いことは問題なのか？
第10回	財政の持続可能性	ドーマー条件、ドーマー命題、MMT、プライマリーバランス
第11回	金融政策	信用乗数
第12回	復習と試験	今までのことをどれくらい理解したかを復習し、それを試験する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
日々の経済ニュースをTVや新聞を通じて吸収するよう心がけてほしい。また、復習は必ず行うこと。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
使用しない

【参考書】
[1]井堀利宏『入門マクロ経済学 第３版』、新世社、2011年
[2]齊藤誠・岩本康志・太田聰一・柴田章久『マクロ経済学 新版』、有斐閣、2016年
[3]浅子和美・倉澤資成・加納悟『マクロ経済学 第２版』、新世社、2009年
[4]竹田 陽介・小巻 泰之『マクロ経済学をつかむ』、有斐閣、2006年
[5]島澤諭『シルバー民主主義の政治経済学 世代間対立克服への戦略』、日本経済新聞出版社、2017年

【成績評価の方法と基準】
授業態度（40％）、筆記テストによる期末試験（60％）

【学生の意見等からの気づき】
該当しない。

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【Outline (in English)】
In this course, you can learn about the economic data related with the basic macro economic model.
To understand orthodox macroeconomic theory, which is indispensable for understanding the real macroeconomy. This course will also provide an understanding of the issues surrounding the Japanese macroeconomy. Students will then acquire the logical thinking and analytical skills to be able to formulate their own opinions on what the Japanese economy should be like in the future, taking into account the various changes in the environment surrounding the Japanese macroeconomy.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.
Your overall grade in the class will be decided based on the following Term-end examination: 60%, in class contribution: 40%

MAN200TG（経営学 / Management 200）

経営学特講（夏期スクーリング）

伊東　林蔵

カテゴリー：**夏期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**3群終日**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
・産業革命から第二次世界大戦終結までを、ドイツがヨーロッパに覇権を追求し、その試みが挫折し、「ヨーロッパのドイツ」として協調していく過程と捉え、経済統合へと連なるヨーロッパ経済体制の発展にドイツ企業・企業体制がいかなる寄与をし、また逆に影響を受けたのか考察する。
・それにより、現代社会における企業・企業体制の影響力や役割・責任を理解する一助とする。

【到達目標】
・第二次世界大戦以前のヨーロッパにおいてドイツはどのような位置を占め、現在のヨーロッパ経済体制の形成にドイツの企業・企業体制がいかに寄与し、また影響を受けたのか理解する。
・現代ヨーロッパを語る上で最も「大きな物語」である経済統合は、第二次世界大戦前のどのような歴史的蓄積の上に築かれたのか理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「経済学科：DP2」「商業学科：経営学・商学,自由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

【授業の進め方と方法】
講義形式であるが、小テスト、リアクション・ペーパー、質疑応答なども取り入れる予定である。各課題の実施は受講者数に応じる。小テストにおける理解不足・誤認、リアクション・ペーパー・質疑応答における質問に対しては、後の講義で復習・応答し、授業全体の中での位置づけを明確にすることで、有機的に理解を促す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イギリス産業革命期	綿工業と製鉄業，技術革新の要因，工場制と職人的技能，家族と経営の分離，雇用形態の変化，自由主義経済について講義する。
第2回	大陸ヨーロッパ産業革命期	イギリスとの同時性と後進性，技術移転，地政学的要因，国民国家形成と市場統合について講義する。
第3回	第二次産業革命期	興業政策，重化学工業の勃興，金融資本の成立，科学技術の応用，1873年の大不況，集中と多角化，垂直的統合と水平的統合，市場の内部化，新たな社会層の誕生について講義する。
第4回	帝国主義の時代	大企業体制，独占・寡占体制の成立，利益団体とコーポラティズム，海外進出について講義する。
第5回	第一次世界大戦期	大企業体制と統制経済，総力戦，労使協調について講義する。
第6回	ヴェルサイユ・ヴァイマール体制期	大戦の遺産，産業合理化，アメリカナイゼーション，対内的・対外的市場再編について講義する。
第7回	ナチ期	ナチ体制と企業の関係、再軍備、統制経済と企業の行為余地について講義する。
第8回	第二次世界大戦期	統制経済と企業の行為余地、占領地における企業、強制労働、「軍需経済の奇跡」について講義する。
第9回	占領期から高度成長期	独占解体、マーシャル・プラン、戦前の企業体制の再建、経済の奇跡、メイド・イン・ジャーマニーの強さ、ライン資本主義について講義する。
第10回	ダブル・ショック～新自由主義	成長神話の終わり、メイド・イン・ジャーマニーへの過信、ニッチ体質、欧州経済統合について講義する。
第11回	統一後～ハルツ改革	負担調整、ドイツ経済の強さ、今日のドイツ企業、今日のドイツ経済政策について講義する。
第12回	復習・試験対策　試験	本講義全体の要点確認と筆記試験を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。
準備については、ヨーロッパ近現代史に関する知識に自信のない学生は、高校の世界史Bから復習することを勧めます。また参考書を挙げるので、次回の該当章節を読んでおくと良いです。
復習については、毎回の授業で配布するレジュメと各自のノートを復習することが基本ですが、レジュメに挙げる参考文献を読むことにも挑戦しても良いでしょう。なお、参考文献の多くは専門の研究書であり、難易度は高いため、各自の理解度に合わせて関心のある章節や概論のピックアップでも良いです。

【テキスト（教科書）】
なし。レジュメを配布する。

【参考書】
・馬場哲 [ほか] 著『エレメンタル欧米経済史』晃洋書房, 2012.
・経営史学会編『外国経営史の基礎知識』有斐閣, 2005.
・原輝史, 工藤章編『現代ヨーロッパ経済史』有斐閣, 1996.
・渡辺尚, 作道潤編『現代ヨーロッパ経営史』有斐閣, 1996.
※毎回の授業で、参考文献を提示する。

【成績評価の方法と基準】
期末試験: 60点、授業内の小テスト、リアクション・ペーパー等: 40点

【学生の意見等からの気づき】
本年度新規科目につきアンケートを実施していません。

【Outline (in English)】
The period from the Industrial Revolution to the end of World War II is interpreted as the process of Germany's pursuit of hegemony in Europe, the failure of that attempt, and the process of cooperation as the "Germany of Europe,"
This course will focus on the contribution of German companies and the German corporate system to the development of the European economic system leading to economic integration, and how they have been affected by the development.
This course will help us understand the influence, roles, and responsibilities of companies and corporate systems in modern society.

MAN200TG（経営学 / Management 200）

経営学特講（夏期スクーリング）

齋藤　邦明

カテゴリー：**夏期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**3群終日**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義は、近代から現代までの日本経済を対象として、経済の歴史を解説します。現在、私たちが所与としている市場、制度、企業組織、環境は一体いつ・なぜ成立したのか、どのように変化してきたのでしょうか。第2次世界大戦は日本経済にどのような影響を与えたのでしょうか。日本の高度経済成長の内的要因と外的条件は、現代日本と比較すると、どのような特質を有するのでしょうか。こうした問いに、歴史的資料・データに基づいて応えていきます。本講義を通じて、「過去と現在との絶え間ない対話」を行い、私たちの生きる現代経済社会の理解を深めるための、知的基盤を提供します。

【到達目標】
受講生が本講義の受講終了時点で、日本の経済発展の長期的な特徴を理解するとともに、特定の時代における政治・経済・社会状況について、史実やデータに基づいた認識をもち、長期的な観点からの思考・考察ができるようになることも目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「経済学科：DP2」「商業学科：経営学・商学,自由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

【授業の進め方と方法】
対面での講義で進めます。また必要に応じてリアクションペーパーの提出を求めることがあります。リアクションペーパーや授業内課題に対するフィードバックは、スクーリングの各日の1時限目に口頭もしくは配布資料にて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	日本経済や日本企業を理解するうえで、歴史的なアプローチが有効であることを解説します。
第2回	日本社会の基層：「村」と「家」	日本経済が発展の軌道にのったとされる、江戸時代の経済を概観します。特に日本社会の特質である「家」と「村」について解説します。
第3回	戦前日本社会の概観：その発展と限界	明治維新から昭和戦前期までの日本経済を概観します。そのことで、近世や戦後日本との違いを説明します。
第4回	「帝国」日本と植民地経済	戦前日本における宗主国と植民地との関係、各植民地経済の特徴を論じます。
第5回	日本経済の現代化：第二次世界大戦期の統制経済	日中戦争開始前後に進んだ戦時統制経済の展開と、それが現代日本に与えた影響を説明します。
第6回	戦後改革：占領政策の特質とその転換	第二次世界大戦に敗戦した日本はGHQ/SCAPによる占領を受けました。戦後統制の影響や占領政策の転換を明らかにします。
第7回	日本の高度経済成長	日本の高度経済成長の特徴について、景気循環、産業政策、各産業の展開、労働市場の特徴から説明します。
第8回	安定成長期の日本：石油危機と企業社会の成立	石油危機によって高度経済成長の時代は終わりますが、日本は相対的に高い成長を維持していました。企業社会の成立の特徴と限界を論じます。
第9回	バブル経済の発生と崩壊	プラザ合意と日銀の金融緩和によって発生した、バブル経済の発生と崩壊を論じます。
第10回	平成期の日本経済：銀行危機と産業構造の変化	バブル崩壊後の日本経済について、不良債権処理の長期化に伴う銀行危機と、産業構造の変化を説明します。
第11回	平成・令和期の日本経済：「失われた30年」と構造改革	21世紀以降の、現在に至る日本経済・社会の動向を概観します。
第12回	まとめ・スクーリング試験	本講義のまとめと筆記試験（論述）を行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。
授業準備は授業各回の時代に関わる予習を参考書などを参考に事前学習を行うこと。
復習は授業時に配布した資料を読み直し、時代の流れ・重要事項（出来事、人物、学術用語）・資史料の解釈を確認すること。さらに最終試験において論述での回答を行えるよう、論述の準備や授業内容の要約を行うこと。

【テキスト（教科書）】
特に使用しません。授業資料を配付します。

【参考書】
『日本経済史 1600-2015』浜野潔ほか著　慶應義塾大学出版会　2017年　ISBN：978-4-7664-2335-8
『ハンドブック日本経済史 徳川期から安定成長期まで』平井健介・島西智輝・岸田真編 ミネルヴァ書房 2021年 ISBN：978-4623091942
『近現代日本経済史要覧 補訂版』三和良一・原朗編　東京大学出版会　2010年　ISBN：978-4-13-042136-2
『経済史 いまを知り、未来を生きるために』小野塚知二著　有斐閣　2018年　ISBN：978-4-641-16515-1
『日本経済の歴史 列島経済史入門』中西聡編著　名古屋大学出版会　2013年　ISBN：978-4-8158-0733-7
『日本経済史 近世から現代まで』沢井実・谷本雅之著　有斐閣　2016年　ISBN：978-4-641-16488-8
『岩波講座 日本経済の歴史 1～6』深尾京司・中村尚史・中林真幸編著　岩波書店　2017～2018年
その他、各回に関わる参考文献は授業内でお知らせします。

【成績評価の方法と基準】
期末試験（60%）、平常点（40%）

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【Outline (in English)】
This course deals with the economic history of Japan from the early modern period to the modern era. When and why were the markets, institutions, corporate organizations, and social environment that we now rely on established, and how have they changed over time? How did World War II affect the Japanese economy? What are the characteristics of the internal factors and external conditions of Japan's rapid economic growth compared to present-day Japan? These questions will be answered based on historical data. Through this course, we will engage in a "constant dialogue between the past and the present" and provide an intellectual foundation for a deeper understanding of the contemporary economic society in which we live.

教育心理学（夏期スクーリング）

田澤　実

カテゴリー：**夏期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**3群終日**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：**※旧法（平成10年改正法）用**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
・幼児、児童及び生徒の心身の発達の過程、外的及び内的要因の相互作用
・乳幼児期から青年期の各時期における運動発達・言語発達・認知発達・社会性の発達
・様々な学習の形態や概念及びその過程を説明する代表的理論
・主体的学習を支える動機づけ・集団づくり・学習評価の在り方
・主体的な学習活動を支える指導の基礎

【到達目標】
・身体的・精神的な発達の過程とその特徴について理解する。
・幼児・児童・生徒の学習に関する基本的な知識を習得する。
・学習を支援する指導の基本的な考え方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
講義の初めに前回の授業で提出されたリアクションペーパーについて講評する

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	この授業の概要および成績評価等を説明する。
第2回	教育における発達理解の意義	発達と教育の関連
第3回	対人関係の発達	幼児、児童及び生徒の対人関係の発達および主体的学習を支える集団づくりの理解
第4回	認知の発達	乳幼児期から青年期の各時期における運動発達・言語発達・認知発達
第5回	アイデンティティ	心身の発達の過程、外的及び内的要因の相互作用
第6回	学習の理論・学習の指導指導	様々な学習の形態や概念。主体的な学習活動を支える指導の基礎
第7回	動機づけ	主体的学習を支える動機づけ
第8回	学習の評価	主体的学習を支える学習評価の在り方
第9回	記憶の種類	様々な学習の過程を説明する代表的理論
第10回	性格の理解と測定法	乳幼児期から青年期の各時期における個人差および測定法
第11回	発達障害	発達障害のある児童・生徒に対する学習指導等
第12回	試験、まとめと解説	試験の実施、授業のまとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しない。授業時にレジュメを配布する。

【参考書】
子安増生ら 2015『教育心理学 第3版 (ベーシック現代心理学6)』有斐閣
文部科学省『中学校学習指導要領』『高等学校学習指導要領』（最新版）

【成績評価の方法と基準】
試験（70％）、授業への積極的参加（30％）で評価

【学生の意見等からの気づき】
前々年度に同科目を担当した。試験結果や感想を踏まえて授業内容の具体例等を修正した。

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【その他の重要事項】
資料配布・課題提出等のために学習支援システム等を利用する

【Outline (in English)】
This course introduces the fundamentals of educational psychology to students taking this course.
By the end of the course, students should be able to do the following:
- To understand the process and characteristics of physical and mental development of infants, children, and students,
- To acquire basic knowledge about the learning of infants, children, and students,
- To understand the basic concept of guidance that supports learning based on development.
Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting.
Your study time will be more than four hours for a class.
Grading will be decided based on the Term-end examination(70%) and in-class contribution(30%).

教育心理学（夏期スクーリング）

田澤　実

カテゴリー：**夏期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**3群終日**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：**※新法（平成28年改正法）用**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
・幼児、児童及び生徒の心身の発達の過程、外的及び内的要因の相互作用
・乳幼児期から青年期の各時期における運動発達・言語発達・認知発達・社会性の発達
・様々な学習の形態や概念及びその過程を説明する代表的理論
・主体的学習を支える動機づけ・集団づくり・学習評価の在り方
・主体的な学習活動を支える指導の基礎

【到達目標】
・身体的・精神的な発達の過程とその特徴について理解する。
・幼児・児童・生徒の学習に関する基本的な知識を習得する。
・学習を支援する指導の基本的な考え方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
講義の初めに前回の授業で提出されたリアクションペーパーについて講評する

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	この授業の概要および成績評価等を説明する。
第2回	教育における発達理解の意義	発達と教育の関連
第3回	対人関係の発達	幼児、児童及び生徒の対人関係の発達および主体的学習を支える集団づくりの理解
第4回	認知の発達	乳幼児期から青年期の各時期における運動発達・言語発達・認知発達
第5回	アイデンティティ	心身の発達の過程、外的及び内的要因の相互作用
第6回	学習の理論・学習の指導指導	様々な学習の形態や概念。主体的な学習活動を支える指導の基礎
第7回	動機づけ	主体的学習を支える動機づけ
第8回	学習の評価	主体的学習を支える学習評価の在り方
第9回	記憶の種類	様々な学習の過程を説明する代表的理論
第10回	性格の理解と測定法	乳幼児期から青年期の各時期における個人差および測定法
第11回	発達障害	発達障害のある児童・生徒に対する学習指導等
第12回	試験、まとめと解説	試験の実施、授業のまとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しない。授業時にレジュメを配布する。

【参考書】
子安増生ら 2015『教育心理学 第3版 (ベーシック現代心理学6)』有斐閣
文部科学省『中学校学習指導要領』『高等学校学習指導要領』（最新版）

【成績評価の方法と基準】
試験（70％）、授業への積極的参加（30％）で評価

【学生の意見等からの気づき】
前々年度に同科目を担当した。試験結果や感想を踏まえて授業内容の具体例等を修正した。

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【その他の重要事項】
資料配布・課題提出等のために学習支援システム等を利用する

【Outline (in English)】
This course introduces the fundamentals of educational psychology to students taking this course.
By the end of the course, students should be able to do the following:
- To understand the process and characteristics of physical and mental development of infants, children, and students,
- To acquire basic knowledge about the learning of infants, children, and students,
- To understand the basic concept of guidance that supports learning based on development.
Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting.
Your study time will be more than four hours for a class.
Grading will be decided based on the Term-end examination(70%) and in-class contribution(30%).

HSS100TA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 100）

健康・スポーツ科学概論（夏期スクーリング）

大久保　寛之

カテゴリー：**夏期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**3群終日**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では，健康・スポーツ科学分野における知識・理解を深める．健康スポーツ科学の「基礎」「応用」を学ぶ．さらにライフステージ別にみた運動・スポーツ．そして栄養・睡眠・環境などと運動・スポーツを学習することを目的とする．

【到達目標】
1.科学的根拠に基づいたスポーツ科学の基礎知識および応用知識を獲得する．
2.児童期，青年期，中年期および女性などの様々なライフステージ別にみた運動スポーツの効果や意義を正しく理解する．
3.栄養・睡眠（休養）・環境とスポーツに関する意義などを説明できるようになる．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP3」「史学科：DP1, DP3」「地理学科：DP1」「経済学科：DP5」「商業学科：幅広い教養」に関連

【授業の進め方と方法】
本授業は，夏期スクーリング期間中に連続3日間（1日4コマ）の間，実施する．授業は，指定した参考書の内容を踏まえた内容で講義を行う．授業の参画状況，レポートおよび試験の評価を総合的に判断して単位を授与する．講義終了後に，レポート課題を毎日課す．インターネットや書籍などを利用して課題を作成し，提出すること．詳細については初回ガイダンスの際に説明する．なお，授業内で行ったレポート等の課題に対する講評や解説は次回授業時に行う．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンスとオリエンテーション	授業の概要説明，ねらい，進め方，到達目標，成績評価などを説明する．
第2回	健康・スポーツ科学の基礎①	なぜ運動をするのか？
第3回	健康・スポーツ科学の基礎②	呼吸・循環機能と健康・スポーツ科学について学ぶ．
第4回	健康・スポーツ科学の基礎③	神経・筋機能と健康・スポーツ科学について学ぶ．
第5回	健康・スポーツ科学の応用①	疲労研究と健康・スポーツ科学について学ぶ．
第6回	健康・スポーツ科学の応用②	生活習慣病（呼吸・循環器疾患，糖尿病，肥満，骨粗鬆症）と運動について学ぶ．
第7回	健康・スポーツ科学の応用③	転倒予防のための運動プログラムについて学ぶ．
第8回	ライフステージ別における健康・スポーツ科学①	児童期，青年期のための運動・スポーツについて学ぶ．
第9回	ライフステージ別における健康・スポーツ科学②	中高年期および女性のための運動・スポーツについて学ぶ．
第10回	栄養・睡眠・環境と運動・スポーツ①	栄養・サプリメントと運動・スポーツについて学ぶ．
第11回	栄養・睡眠・環境と運動・スポーツ②	睡眠，環境および体温調節と運動・スポーツについて学ぶ．
第12回	12総括と試験	これまでの講義内容を総括する．その後，試験を実施する．

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特定のテキストは使用しません．

【参考書】
健康スポーツ（浅野勝巳・田中喜代次　編著/文光堂/2004）
※購入する必要はありませんが，あると講義内容の理解度が深まります．

【成績評価の方法と基準】
1）3日間合計12コマ（1日4コマ）のうち8コマ以上を出席していること．1点/1コマ×4コマ×3日間=12点が授業の参画状況から評価されます．
2）授業の到達目標に対応した3つのレポート課題(30点)を課します．
3）試験（58点）を行います．
以上から総合的に評価されます．成績評価は100点満点とし，60点以上を合格とします．

【学生の意見等からの気づき】
今回が初めてのため，特にありません．

【学生が準備すべき機器他】
レポート課題は，インターネットなどで調べものをしていただきます．携帯電話（スマホ）あるいはPCを使用します．インターネット環境を整えてください．また，レポート提出も「学生支援システム」を利用する予定をしています．

【その他の重要事項】
授業計画等は，受講者数や授業の進捗状況に応じて変更される場合があります．

【Outline (in English)】
Course outline
- Lecture
- Class discussion
Learning Objectives
- To further develop their knowledge that the effect of exercise on health.
Learning activities outside of classroom
- Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Grading Criteria /Policy
- Particiaption: 12%
- Report: 30%
- Final Exam: 58%

LAW100TA（法学 / law 100）

法学(日本国憲法)(後期メディア)

金子　匡良

カテゴリー：**後期メディア**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**後期**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、憲法を支える基本原理やその歴史的背景を理解するとともに、個別的な憲法条文に関する解釈や判例を学ぶことを通じて、憲法学的な視点と思考方法を身につけることを目的とする。

【到達目標】
①憲法の機能や役割を理解する。
②憲法の存在意義や歴史、憲法の土台となっている基本原理、および憲法の構造を理解する。
③憲法問題を考える際の基本的な視座や、憲法解釈の方法を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP3」「史学科：DP1, DP3」「地理学科：DP1」「経済学科：DP7」「商業学科：幅広い教養」に関連

【授業の進め方と方法】
授業はオンライン形式で実施する。まず、憲法の歴史や変遷、憲法を支える基本原理について学んだ上で、人権や国家機構にかかわる個別的な論点について論じていく。受講者の多様性を考慮し、基本的な法律用語の解説にも時間を割く予定である。質問があった際は、適宜フィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	憲法の意義と機能	法体系における憲法の位置づけや機能、あるいは憲法の目的について学ぶ。
第2回	憲法の歴史①	近代憲法の成立過程について学ぶ。
第3回	憲法の歴史②	近代憲法の現代的変容について学ぶ。
第4回	日本憲法史	明治憲法の成立と運用、および日本国憲法の成立過程とその問題点について学ぶ。
第5回	人権の類型	人権の類型と各人権の特質、および新しい人権について学ぶ。
第6回	平等権	平等権の内容やそれに関する主要な判例、および今日的な問題点について学ぶ。
第7回	思想・良心の自由、信教の自由、政教分離原則	思想・良心の自由、信教の自由、および政教分離原則の内容やそれに関する主要な判例、今日的な問題点について学ぶ。
第8回	表現の自由①	表現の自由の意義や内容、およびそれに関する主要な判例、今日的な問題点について学ぶ。
第9回	表現の自由②	表現の自由の限界、およびそれに関する主要な判例、今日的な問題点について学ぶ。
第10回	社会権	社会権の意義や内容、およびそれに関する主要な判例、今日的な問題点について学ぶ。
第11回	権力分立制	権力分立制の意義と目的、および日本の権力分立制の特色と問題点について学ぶ。
第12回	司法権と違憲審査制	司法権の範囲と限界、および違憲審査制の意義や種類について学ぶ。
第13回	司法権の独立	司法権の独立の意義と目的、および日本における司法権の独立をめぐる問題点について学ぶ。
第14回	憲法改正	憲法改正の意義と種類、および憲法改正をめぐる問題点について学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業前及び授業後に資料をよく読み、問題点を明らかにしておくこと。また、スクーリング開始前に、憲法の条文にひととおり目を通しておくことが望ましい。なお、本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特定のテキストは指定せず、資料に基づいて授業を行う。

【参考書】
初歩的なものとして、君塚正臣（編）『高校から大学への憲法〔第2版〕』（法律文化社、2016年）、入門的なものとして、毛利透『グラフィック憲法入門〔第2版〕』（新世社、2021年）、標準的なものとして、芦部信喜（高橋和之(補訂)）『憲法〔第7版〕』（岩波書店、2019年）、発展的なものとして、宍戸常寿ほか『憲法学読本〔第3版〕』（有斐閣、2018年）などがお勧めの参考書である。

【成績評価の方法と基準】
スクーリングの中間に行う中間試験と期末に行う期末試験によって成績評価を行う。（それぞれ50％。）

【学生の意見等からの気づき】
新規科目につきアンケートを実施していない。

【Outline (in English)】
In this class, students will understand the basic principles underpinning the Constitution and its historical background, as well as study interpretations and case law on individual constitutional articles.
Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.
Grading will be decided based on midterm examination (50%) and term-end examination (50%).

POL100TA（政治学 / Politics 100）

政治学概論(Ⅰ)(後期メディア)

及川　智洋

カテゴリー：**後期メディア**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**後期**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
政治学の基本的な概念と分析の手法、政治制度についての講義を行う。

【到達目標】
政治学と政治制度に関する基本的な知識を習得し、政治学的な思考力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP3」「史学科：DP1, DP3」「地理学科：DP1」「経済学科：DP7」「商業学科：幅広い教養」に関連

【授業の進め方と方法】
講義をメディア教材を通じて行う。履修生は授業ごとにその回の内容に関する選択式の小問題に答え、自動採点システムで回答を確認のうえで次の回に進む。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	なぜ「政治」は嫌われる	政治とは何か・政治学の目的
2	公権力と支配	「権力」と公権力の違い、支配のシステム
3	代表と議会	代表制と議会の形成はどのように進んだか
4	立憲制度	憲法の役割とは何か、三権分立の意味
5	選挙と政党	政党の形成と選挙権の拡大
6	市場・共同体・政府	それぞれの機能の違い、政治の役割
7	非「自由民主主義」体制	選挙と議会さえあれば民主主義、とは言えない
8	民主主義の弱点	民主主義の不完全さ　多数決は結果の正しさを保証するものではない
9	世論とメディア	「世論」は選挙以外でどう政治に反映されるか
10	政治参加と多元社会	中間団体の機能と政治への影響
11	政策と政権交代	議院内閣制と大統領制　政策と官僚
12	保守とリベラル	右と左の政党・政治勢力
13	政治不信とポピュリズム	政治的な「二極化」と増える無関心層、「大衆迎合政治」
14	政治と政治学の未来	論点整理と政治的思考力の意味

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
使用しない。

【参考書】
『政治学』（新川敏光、大西裕、大矢根聡、田村哲樹）有斐閣、2017年、2200円（税込）。
『政治的思考』杉田敦　岩波新書、2013年、836円（税込）。
『今を生きるための政治学』山口二郎　岩波書店、2013年、2100円（税別）
『民主主義とは何か』宇野重規　講談社現代新書、2020年、1034円（税込）。

【成績評価の方法と基準】
論述式の期末試験によって成績を決める(100％)。論述内容について、授業の理解度と政治学的な思考力を基準として評価する。

【学生の意見等からの気づき】
政治学への理解を深めるために、理論や概念に加えて現実の政治的な課題を例示して分析する。

【学生が準備すべき機器他】
放送授業にアクセスできるパソコンなどの機器。

【Outline (in English)】
You will study about basic concept and method of analysis and system of politics by lecture.

GEO100TA（地理学 / Geography 100）

自然地理学(後期メディア)

佐藤　崇徳

カテゴリー：**後期メディア**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**後期**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
私たちを取り巻く自然環境は世界各地で様々な表情を見せ、人間に恩恵や災害をもたらしている。自然環境の地域差にはどのような背景があるのか、また、それと人間社会との関わりはどのようになっているのかについて、気候学および地形学を中心に学び、自然環境と調和した人間社会のあり方について考察を深める。

【到達目標】
気候学の基礎を理解し、世界各地で様々な気候がある背景とその影響について説明することができる。
地形学の基礎を理解し、日本列島の地形がどのように形成され、地形と人間の暮らしとはどのような関係があるかを述べることができる。
以上をふまえて、自然環境の地域差にはどのような背景があるのか、自然環境と人間社会はどのような関係にあるのかを、地理学の観点から考察することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP3」「史学科：DP1, DP3」「地理学科：DP1」「経済学科：DP6, DP7」「商業学科：幅広い教養」に関連

【授業の進め方と方法】
オンラインの講義形式での授業を基本とするが、授業内で地図作業等の簡単な作業型学習を取り入れることがある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	自然地理学とは	導入として自然地理学とはどのような学問かを解説し、本授業科目の概要を紹介する。
第2回	気候（1）緯度と気候	世界各地で気候が異なる理由を大気の大循環を中心に解説する。
第3回	気候（2）海洋と気候、季節変化	海陸の分布が気候に及ぼす影響について解説するとともに、季節変化が生じる理由についても解説する。
第4回	気候（3）標高と気候、気候区分	標高が気候にに及ぼす影響について触れ、ここまでの講義内容をふまえて世界の気候区分について解説するとともに、気候とそのほかの自然環境との関係についても言及する。
第5回	地形（1）地形のとらえ方、内的営力と地形	地形をとらえる視点について説明し、内的営力がもたらす現象とその結果としての地形について解説する。
第6回	地形（2）地震と活断層	地震を生じさせる活断層を取り上げ、それによってできる地形、人間社会との関係について解説する。
第7回	自然地理学の方法	地形や植生等の空間分布を大縮尺で把握する手段である地形図・空中写真について解説する。
第8回	地形（3）河川の営力と地形	河川による土砂の運搬（侵食・堆積）作用とそれによってできる地形について解説する。
第9回	地形（4）平野の地形と土地利用	平野の地形の特徴およびそれと人間の暮らしとの関係について解説する。
第10回	地形（5）海岸の地形	海岸付近で生じる侵食・堆積作用とそれによってできる地形について解説する。
第11回	地形（6）海面変動と地形変化（前編）	海面の相対的な変化が地形にどのような変化をもたらしたかについて解説する。
第12回	地形（7）海面変動と地形変化（後編）、地形の上に展開する人間社会	第四紀の環境変遷が日本にどのような地形をもたらしたかを解説し、具体例として東京の地形について取り上げる。
第13回	自然地理学による地域再発見（1）たたら製鉄がもたらした地形変化	人間の活動が地形に大きな影響を及ぼした例として、山陰地方における「たたら製鉄」とそれによる地形変化について紹介する。
第14回	自然地理学による地域再発見（2）溶岩と湧水をいかした街づくり	自然環境と人間社会の関わりとして、静岡県三島市における溶岩と湧水をいかした街づくりについて紹介する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・復習時間は、各4時間を標準とする。
授業後は講義内容について各自で復習するとともに、講義内容に関する具体的な事例についてインターネット等も活用して自主的に情報収集を行ってほしい。
とくに参照すべき情報源や参考資料がある場合は、授業の中で紹介する。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しない。

【参考書】
仁科淳司『やさしい気候学』古今書院。
大山正雄・大矢雅彦『大学テキスト自然地理学』（上巻・下巻）古今書院。
中学校・高校の地図帳を持っている場合は適宜参照するとよい。

【成績評価の方法と基準】
メディアスクーリング試験（50％）および中間リポート（50％）により評価する。

【学生の意見等からの気づき】
本年度新規科目につきアンケートを実施していない。

【学生が準備すべき機器他】
通信教育部メディアスクーリングのシステムを通じて資料（PDFファイル）の配付や参照先ウェブサイトの紹介等を行います。地図作業を行うことがありますので、PDFファイルを印刷できる環境（カラープリンター）を用意してください。

【Outline (in English)】
The natural environment that surrounds us shows various expressions around the world, bringing both blessings and disasters to humans. Learn about the background of regional differences in the natural environment and how they relate to human society, focusing on the perspectives of climatology and geomorphology, and deepen your understanding of how human society should be in harmony with the natural environment.

LANe100TA（英語 / English language education 100）

英語S(1)(後期メディア)

今井　澄子

カテゴリー：**後期メディア**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**1単位**
期間：**後期**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
大学での学習の基礎となる英文読解力を「仕事」「動物」「音楽」「外国」という４つのトピックに関連する英文を読みながら養成し、あわせて読解に必要な英文法・構文、基本的語彙の知識を確実にする。

【到達目標】
基本的な英文法・構文の知識をもとにして、平易な語彙で書かれた２３０語程度の英文を読めるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP3」「史学科：DP1, DP3」「地理学科：DP1」「経済学科：DP5」「商業学科：幅広い教養」に関連

【授業の進め方と方法】
第１講で英文読解の基本となる文要素と文型について講義する。第２～４講ではテキスト各ユニットにある文法項目すべての解説を行う。第５講からは英文読解に入り、各講につき２ユニットずつ（英文passage２つずつ）を読み、内容に関する問題の解答・解説を行う。各回の小テストではシステム上で採点を実施し返却する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	文要素と文型	文要素SVOC ５文型
第2回	時制と進行形・完了形	Unit1～7のGrammar 現在形、現在進行形、過去形、未来形、現在完了形１・２・３
第3回	受動態と助動詞・準動詞１（不定詞）	Unit8～15のGrammar 受動態、助動詞１・２・３、不定詞１・２・３・４
第4回	準動詞２（動名詞・分詞）と分詞構文	Unit16～20のGrammar 動名詞１・２、分詞、分詞構文１・２
第5回	英文読解	Unit1 The Dog Walker Unit2 An Interview with a Paramedic
第6回	英文読解	Unit3 The Video Game Tester Unit4 The Trainee Chef
第7回	英文読解	Unit5 Working on an Oil Platform Unit6 The Hippopotamus
第8回	英文読解	Unit7 Amazing Travelers Unit8 The Animals of the Camargue
第9回	英文読解	Unit9 Just a Piece of Seaweed? The Leafy Sea Dragon Unit10 Racing Across Snow and Ice
第10回	英文読解	Unit11 Learning a Musical Instrument Unit12 How to Make a Glass Orchestra
第11回	英文読解	Unit13 Rock School Unit14 An Ancient Musical Instrument
第12回	英文読解	Unit15 Music Therapy Unit16 On Vacation in Guatemala
第13回	英文読解	Unit17 The Maldives Unit18 The Maori
第14回	英文読解	Unit19 Russia Unit20 Monaco

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
第４講までの文法項目は、あらかじめ教科書の該当Unitにある Grammar 問題を解いておくと理解しやすい（ただし第１講は教科書に該当箇所なし）。第５講からの英文読解は、辞書を使って英文を精読し、Understanding the main ideas と Reading for detail 問題を解いておくとよい。なお、テキスト音声のダウンロード／ストリーミングが可能だが、音声なしでも授業には支障がない。
本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
「Break Away 1（最新速読演習・基礎編）」成美堂

【参考書】
各種英和辞書。英文法などの参考書。

【成績評価の方法と基準】
評価は中間テスト、および、期末試験（いずれも１００点満点）の得点の平均を算出し、６０％以上の得点、すなわち、平均点が１００点満点中の６０点以上で合格となる。

【学生の意見等からの気づき】
問題や内容についての批評や誤りであるとの指摘をいただくことがある。メディア内部の例文、小テスト等の問題文・和訳は、一部例外はあるものの基本的にテキストおよびテキスト付属のものを使用している。このため、小テストや試験問題に関する質問、メディア内部の記述・説明、中間テストや期末試験に対する変更要求は受け付けていない。また、諸般の事情により質問には回答いたしかねる場合がある。

【Outline (in English)】
This class deals with reading an English passage. At the end of the course, students are expected to have sufficient knowledge of grammars and sentence constructions as well as basic lexicon. Your required study time is at least two hours for each class meeting. Final grade will be calculated according to the following process: Mid-term report (50%), and term-end examination (50%).

LANe100TA（英語 / English language education 100）

英語S(2)(後期メディア)

石原　紀子

カテゴリー：**後期メディア**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**1単位**
期間：**後期**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
多文化理解への招待
「ことばと文化は切り離せない」とよく言われます。確かに皆さんも日本語の使い方、たとえば敬語などに日本の文化や価値観が表れていると感じることがあるかもしれません。では英語はどうでしょうか。この授業では、英語の待遇表現を中心に、英語圏の文化がどのように反映しているのかを皆さんと一緒に解析していきます。一方で、英語は国際語として世界の様々な文化を表象する言語ともなってきました。世界の英語や、その他の言語の慣習も時おり垣間見ることで、言語文化の多様性を味わってみましょう。
英検2級（高校２・３年）程度の英語の知識および運用能力があることが前提の内容です。授業の一部は英語で行われます。生の英語を観察・解析できる基礎力を磨いてから受講してください。4技能（リスニング・リーディング・ライティング・スピーキング）特にリスニング・リーディングにおいて英語の知識を運用する練習をしたい方、そして多文化理解に関心のある方が対象です。

【到達目標】
英語の待遇表現について学ぶことで、状況に応じたことばの社会的意味を理解し、その文化背景や社会通念を理解したり説明したりできるようになっていきます。また、多文化間コミュニケーションの際に文化的な違いから生じる得る相互の誤解について認識を深め、衝突を解消することばの使い方や言動を考えていきます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP3」「史学科：DP1, DP3」「地理学科：DP1」「経済学科：DP5」「商業学科：幅広い教養」に関連

【授業の進め方と方法】
授業では日本語と英語の両方を使い、スライドに沿って講義形式で進めつつ、皆さんに考えてもらう問いを立て、参加していただきます。指示に従って、講義を一時停止して考え回答を書き留めたり、サンプルの会話を何度も聞いたり、辞書を使ったり、毎回の講義で学んだことを省察したりして自分のペースで学習しましょう。
毎回の講義の後には小テストがあります。提出直後に採点されますので、その場で復習できます。このテストは復習として何度でも受けられます。
中間テストは学習システム上で行う確認テストです。自分のペースで挑戦し、前半の復習に役立ててください。
期末のリポート試験の前には、ディスカッション機能を使って、他の受講者の方とことばや文化について話し合い、理解や気づきを深めましょう。その結果を期末のリポート試験に採り入れて考察してください。全体講評およびサンプル解答の掲示にてフィードバックを実施します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	導入 Introduction	ことばと文化、ことばとコンテクスト、英語の待遇表現
2	挨拶 Greetings	挨拶のことばとコンテクスト
3	呼称 Address terms – 1	人の呼び方とポライトネス
4	呼称 Address terms – 2	様々な呼称とその社会的文化的意味
5	ほめことば compliments – 1	ほめことばから見る文化と社会
6	ほめことば compliments – 2	ほめことばへのこたえから見る文化と社会
7	コミュニケーション方略 Communication strategies	英語コミュニケーションにおける誤解、その原因、解決に向けた方略
8	忠告 Advice-giving – 1	忠告からみる社会と文化
9	忠告 Advice-giving – 2	忠告のことば遣いとコンテクスト
10	依頼 Requests – 1	依頼から見る社会と文化
11	依頼 Requests – 2	依頼のことば遣いとコンテクスト
12	断り Refusals – 1	断りからみる社会と文化
13	断り Refusals – 2	断りのことば遣いとコンテクスト
14	皮肉・ユーモア irony/humor	英語圏の皮肉・ユーモア

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
英語表現が難しいと感じる場合には、こまめに講義ビデオを停止し、辞書などを使って自主的に内容理解に努めましょう。そして講義内の解説を参考に、会話例の音声・動画を何度も視聴して考察を深めましょう。和訳が提示されることもありますので参考にしてください。内容が易しいと感じる場合には、音声や動画の英語をシャドーイング練習して紹介される待遇表現を流暢に発話できるようになりましょう。
授業を受講して質問等がある場合は、「おしらせ」や「学習に関する質問」を活用してください。
本授業の準備・復習時間は、計2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書は特にありませんが、辞書を使って復習してください。英語に自信のある方、特に英語力をつけたい方は英英辞典を使ってみましょう。また多文化や英語の待遇表現に興味のある方は以下の参考書をご利用ください。

【参考書】
愛場吉子、アーサー・ウィン (2015).『相手を必ず味方につける英会話のロジック』アルク
デイビッド・セイン、佐藤淳子 (2018).『礼儀正しく、的確に伝える敬語の英語』Japan Times
石原紀子、アンドリュー・D・コーエン (2015)『多文化理解の語学教育 語用論的指導への招待』研究社

【成績評価の方法と基準】
中間テスト (40%)、リポート試験 (60%) を合算して評価します。
学期の後半にはディスカッション機能を使って課題を他の受講者の方と話し合う課題があります。ディスカッション自体は評価されませんが、そこから学んだ視座を、リポート試験の指示に従って明確に組み入れてリポート作成してください。
また、中間テストとリポート試験の両方を必ず受験してください。どちらかでは単位取得に至りませんので、ご注意ください。

【学生の意見等からの気づき】
英検2級（高校２・３年）程度の英語の知識および運用能力があることが前提の内容です。授業の一部は英語で行われます。生の英語を観察・解析できる基礎力を磨いてから受講してください。4技能（リスニング・リーディング・ライティング・スピーキング）特にリスニング・リーディング・ライティングにおいて英語の知識を運用する練習をしたい方、そして多文化理解に関心のある方であれば、楽しみながら多くの新たな発見をできるのではと思います。

【学生が準備すべき機器他】
本年度から、学習支援システムの「授業内掲示板」

【その他の重要事項】
ひとりでメディアスクーリングを受講してコツコツ学習するのは大変ですし、仲間の受講者から学ぶことも多いはずですので、後半にはディスカッション機能を使った交流を採り入れました。お互いの見解からともに学ぶ楽しさをぜひ体験してみてください。毎回の講義に何か発見があり、皆さんの人間関係を豊かにするものであることを願っています。一緒に英語圏の文化や、世界の言語文化を味わってみましょう！

【Outline (in English)】
This course looks into linguistic politeness especially of English (or Lingua Franca Englishes) to explore how language use is related to its deep culture. By focusing on both language and context, students will develop an awareness of how context influences language choice and how language in turn helps shape the context. Students will thus be able to understand the social meaning of linguistic politeness in context and explain why certain expressions are often socially preferred in the given culture. Students will also observe and analyze potential causes of intercultural misunderstandings and possible ways to resolve language-related conflicts.
During the course, students are asked to participate in activities by listening to audios or videos multiple times and answering discussion questions on their own. Doing so will prepare them for the mid-term exam conducted online. The outcome of the mid-term exam counts toward 40%of the final grade.
In the latter half of the course, students are invited to communicate with their peers through a discussion function to exchange their observations of linguistic politeness and relevant cultural practice. Such observations should be incorporated into the final paper, in which students are to reflect on the peer discussions and analyses. The final paper will comprise 60%of the course grade.

LANf100TA（フランス語 / French language education 100）

仏語S(後期メディア)

近江屋　志穂

カテゴリー：**後期メディア**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**1単位**
期間：**後期**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
フランス語初修者を対象とした入門クラスです。初級文法の前半部分を学習します。

【到達目標】
フランス語の初級文法を理解し、フランス語を正しく発音できるようになることを目指します。実用フランス語技能検定試験（仏検）5級～4級レベル到達を目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP3」「史学科：DP1, DP3」「地理学科：DP1」「経済学科：DP6, DP8」「商業学科：幅広い教養」に関連

【授業の進め方と方法】
・文法項目を説明した後、練習問題を解き、その解説を行います。
・理解度確認のため、毎回通教LMS上で選択式の小テストを行います。
・資料や課題の配信／回収、課題や試験へのフィードバックは、通教LMSを通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	Leçon 0	・フランス語の綴り字の発音
第2回	Leçon 1	・名詞の性と数 ・定冠詞／不定冠詞／部分冠詞
第3回	Leçon 1	・主語人称代名詞 ・動詞 être と avoir
第4回	Leçon 2	・er動詞の現在形 ・否定文と疑問文
第5回	Leçon 3	・ir動詞の現在形 ・命令法
第6回	Leçon 3	・動詞 partir ・疑問副詞
第7回	Leçon 4	・動詞 faire と prendre ・否定文における冠詞の変化
第8回	Leçon 4	・人称代名詞の強勢形 ・指示形容詞
第9回	Leçon 5	・形容詞の位置と性・数 ・所有形容詞
第10回	Leçon 6	・動詞 aller と venir の現在形 ・近接未来／近接過去
第11回	Leçon 6	・定冠詞の縮約
第12回	Leçon 7	・比較級 ・最上級 ・疑問形容詞
第13回	Leçon 7	・動詞 vouloir, pouvoir, devoir
	Leçon 8	・非人称構文
第14回	Leçon 8	・補語人称代名詞

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・自分の発音が正しいかどうか自信がなくても、繰り返し発音練習を行って下さい。
・早く上達したい方は必ず授業の復習を行って下さい。
・本授業の準備/復習時間は、各1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
近江屋志穂・竹本研史著≪ Apprenons les bases du français 文法と文化で学ぶ 基礎フランス語 ≫（朝日出版社）

【参考書】
森本英夫・三野博司著『新・リュミエール　フランス文法参考書』駿河台出版社（2008年）
＊説明が詳しく、自習向きの参考書です。

【成績評価の方法と基準】
音読録音ファイル提出30％、メディアスクーリング試験70％を目安とします。
＊音読録音ファイル提出に関しては、下記「その他の重要事項」をご覧ください。

【学生の意見等からの気づき】
期末試験では記述式問題と選択式問題を出題します。後者の割合をもう少し増やしたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】
仏和辞書をお持ちになることをおすすめします。

【その他の重要事項】
中間リポート／中間テストにかえて、音読録音ファイルを通教LMS上に提出していただきます。教科書の指定した箇所を音読・録音し、ファイルに変換し、ファイルを提出していただくということです。一番簡単な方法は、たとえばWindows10であれば、標準装着されている「ボイスレコーダー」機能（スタートボタンから選択することができます）を使うことです。授業が開講しましたら、詳細をご説明します。やり方が分からない場合は個別に対応します。

【Outline (in English)】
This course is designed for beginners who are learning basis French grammar. The goal of this course is to obtain the level A1 of CEFR. Before each class, students will be expected to have done their homework. Their required study time is at least one hour for each class. The overall grade in the class will be decided based on the following
Term-end examination : 70%, assignment : 30%

HSS100TA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 100）

健康・スポーツ科学概論 (スポーツコーチングの基礎)(後期メディア)

荒井　弘和

カテゴリー：**後期メディア**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**後期**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
授業のテーマは、体育・スポーツのコーチが求められる資質能力を習得することです。

【到達目標】
わが国のスポーツ界では、体罰などのハラスメントが長く横行していたと言われます。2012年に大阪の市立高校において、バスケットボール部の顧問教諭の体罰によって、バスケットボール部員が自死した事件に端を発し、文部科学省に「スポーツ指導者の資質能力向上のための有識者会議」が設置されました。その後2016年に、日本スポーツ協会 (当時は日本体育協会) は、コーチに求められる資質能力を確実に習得するために必要な内容として「モデル・コア・カリキュラム」を提示しました。
この授業では、このモデル・コア・カリキュラムに基づいて作成されたテキスト「グッドコーチになるためのココロエ」(培風館) を元に行います。テキストの「第1章　コーチングの理念・哲学」「第2章　対自分力と対他者力：セルフコントロールとコミュニケーション」「第3章　トレーニングのミニマム」「第4章　アスリートの健康」「第5章　現場のマネジメント」「アクティブ・ラーニング」を理解し、コーチングの実践に活用できるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP3」「史学科：DP1, DP3」「地理学科：DP1」「経済学科：DP5」「商業学科：幅広い教養」に関連

【授業の進め方と方法】
この授業では、日本スポーツ協会のモデル・コア・カリキュラムに基づいて作成されたテキスト「グッドコーチになるためのココロエ」(培風館) を元に行います。モデル・コア・カリキュラムは、大きく「人間力」に関する部分と「知識技能」に関する部分に分けられます。「人間力」は、「思考・判断」(コーチングの理念・哲学) と「態度・行動」(対自分力と対他者力) から構成され、「知識技能」は「トレーニング科学」(トレーニングのミニマム)、「スポーツ医・科学」(アスリートの健康)、「現場における理解と対応」(現場のマネジメント) から構成されます。
以上の内容を習得することによって、現代社会においてコーチが果たす役割を具体的に考え、適切なコーチングを実践できるようになることを目指します。
この授業は、コーチングに関心のない学生にも履修を勧めます。コーチが身につけるべき資質能力は、仕事や日常生活にも役立つためです。
なお、小テストに対する自動採点の結果をもって、受講生へのフィードバックに代えます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	ガイダンス／第1章　コーチングの理念・哲学	「はじめに・あとがき」「1-1　日本のコーチングの今」を理解し、コーチングの実践に活用できるようになる。
2	第1章　コーチングの理念・哲学	「1-2　多様なコーチング文脈」「1-3　コーチに求められるもの」「1-4　コーチの学び」を理解し、コーチングの実践に活用できるようになる。
3	第2章　対自分力と対他者力：セルフコントロールとコミュニケーション	「2-1　コーチのセルフコントロール」(前半) を理解し、コーチングの実践に活用できるようになる。
4	第2章　対自分力と対他者力：セルフコントロールとコミュニケーション	「2-1　コーチのセルフコントロール」(後半) を理解し、コーチングの実践に活用できるようになる。
5	第2章　対自分力と対他者力：セルフコントロールとコミュニケーション	「2-2　コーチのコミュニケーション」(前半) を理解し、コーチングの実践に活用できるようになる。
6	第2章　対自分力と対他者力：セルフコントロールとコミュニケーション	「2-2　コーチのコミュニケーション」(後半) を理解し、コーチングの実践に活用できるようになる。
7	第2章　対自分力と対他者力：セルフコントロールとコミュニケーション	「2-3　コーチングとリーダーシップ」「2-4　多様な思考法に基づくコーチング」「2-5　運動部員の進路・キャリアデザイン」を理解し、コーチングの実践に活用できるようになる。
8	第3章　トレーニングのミニマム	「3-1　スポーツトレーニングの基本的な考え方」「3-2　体力トレーニング」「3-3　技術トレーニング」を理解し、コーチングの実践に活用できるようになる。
9	第3章　トレーニングのミニマム	「3-4　メンタルトレーニング」を理解し、コーチングの実践に活用できるようになる。
10	第4章　アスリートの健康	「4-1　食事と栄養、サプリメント」「4-2　アスリートの休養・睡眠」「4-3　アンチ・ドーピング」を理解し、コーチングの実践に活用できるようになる。
11	第5章　現場のマネジメント	「5-1　発育発達に合わせたコーチング」「5-2　女性アスリートのコーチング」を理解し、コーチングの実践に活用できるようになる。
12	第5章　現場のマネジメント	「5-3　障害のある人のコーチング」を理解し、コーチングの実践に活用できるようになる。
13	第5章　現場のマネジメント	「5-4　コーチングにおけるリスクマネジメント (体罰・ハラスメント)」「5-5　運動部活動の外部指導者を探す・活用する」「5-6　運動部活動顧問の役割と負担」を理解し、コーチングの実践に活用できるようになる。
14	まとめ	これまでの授業内容を復習し、コーチングの実践で確実に活用できるようになる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
平野裕一・土屋裕睦・荒井弘和 (編)「グッドコーチになるためのココロエ」培風館

【参考書】
日本スポーツ協会 (編)「リファレンスブック」日本スポーツ協会
PHP研究所 (編)「実践！ グッドコーチング」PHP研究所
PHP研究所 (編)「実践！ グッドコーチング ジュニア指導編」PHP研究所
荒井弘和 (編著)「アスリートのメンタルは強いのか？ ―スポーツ心理学の最先端から考える―」晶文社

【成績評価の方法と基準】
授業の到達目標と対応した期末試験 (リポート試験) で100%評価します。中間課題 (中間リポート) は行いません。

【学生の意見等からの気づき】
・「とても知りたい分野でしたので、受けて良かったです」
→スポーツ指導に関わっている方々から、同様のコメントをいただいております。ありがたいことです。
・「先生の熱意が伝わってくる分かりやすい授業だった。レジュメも詳細に作られていた。実例も豊富にあげてくださっていた。他の資料も豊富に使われていた。『クロスロード』もとても興味を持てる内容だった。『柔』の熱唱も素晴らしかった。次はリアル講義で受講したいです」
→熱意には絶対の自信を持って授業を担当しましたので、素直に嬉しく思います。次はリアル講義でお会いしましょう。
・「緊張されてようで、時々『噛んで』いるときがあった。下を向いて→テキストに目を落とし続けているように思える場面がしばしばあった」これはおっしゃるとおりです。滑舌の悪さは自分でも痛感しましたので、あれから努力を重ねました。今は大幅に改善しています。次の機会を楽しみにしてください。

【学生が準備すべき機器他】
ありません。

【Outline (in English)】
(Course outline) The theme of the class is to acquire the qualities and abilities required of physical education and sports coaches. (Learning Objectives) This class is based on the textbook "Kokoroe for Becoming a Good Coach" (Baifukan), based on this model core curriculum. The students will be able to understand and utilize the following sections of the text: 'Chapter 1: Coaching Philosophy', 'Chapter 2: Competence for Oneself or Others: Self-Control and Communication', 'Chapter 3: Training Minimums', 'Chapter 4: Athlete Health', 'Chapter 5: On-Site Management' and 'Active Learning,' and use them in their coaching practice. (Learning activities outside of the classroom) The standard preparation and review time for this class is 2 hours each. (Grading Criteria /Policy) The final exam (report exam), which corresponds to the course objectives, will assess 100%. There will be no mid-term assignment (mid-term report).

BSP100TB（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）

総合特講(東南アジア現代史)(後期メディア)

佐々木　研

カテゴリー：**後期メディア**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**後期**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「東南アジア現代史」では、ミャンマーを事例として、①現代世界における諸問題を理解するため、②国際社会のしくみと近現代史を整理した上で、③諸問題が発生してきた背景について検討してゆきます。その過程で複合的に世界を捉えることが出来るようになることを目指します。

【到達目標】
通信手段の発達によりインターネット等を介した日本を含めた国際社会の動向に関する情報の収集が以前より格段に迅速、容易になってきています。国際社会の動向について自ら情報を収集しながら分析するためには、マス・メディアやソーシャル・メディアなどから得られる情報の中から、歴史的な背景や地域特有の事情を理解した上で有用なものを選択する力をつけておくことが必要となります。講義で扱う現在進行中の諸問題について、それに関連する歴史的な背景とを結びつけてこれらの因果関係を説明できるようになること目指して下さい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「法律学科： DP5」「日本文学科：DP1,DP2」「史学科：DP1,DP3」「地理学科：DP1,DP2,DP3」「経済学科：DP4,DP5」「商業学科：自由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

【授業の進め方と方法】
講義形式。講義内容に対する質問、レポートに対するフィードバック等は通教LMSを通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション：現代のミャンマー情勢	授業の概要と予定について説明する。また、ケーススタディーとして扱うミャンマーの情勢について、2011年の民政移管以降における少数民族武装勢力との和平プロセス、ラカイン州における難民発生、クーデターによる軍政への逆行等について概観する
第2回	国連と集団安全保障	国連は、第二次世界大戦後に集団安全保障体制によって世界平和を維持することを目的に設立されたが、冷戦によって間もなくその機能が制約を受けることになった。この推移について振り返ることにする
第3回	国際社会による介入	国際社会の秩序を維持するうえでは内政不干渉が原則であるが、内戦では深刻で悲惨な人権侵害が生起することがある。内戦下で悲惨な状況に置かれている市民を保護するための介入は正当化されるのか、どのような場合に正当化されるのかといった議論について取り上げる。
第4回	植民地時代の終焉	現在のミャンマーにおける諸問題の背景を検討していくための準備として、植民地時代から第二次世界大戦を経て独立に至るまでの推移を概観する。
第5回	和平プロセスの推移①	ミャンマーでは独立前後から国軍と武装勢力による戦闘が断続的に継続されてきた。他方で、政府と武装勢力の間で停戦に向けた交渉も続けられてきた。主に軍政期における停戦交渉について取り上げる。
第6回	和平プロセスの推移②	民政移管以降、全国規模停戦合意という新たな枠組みによる停戦交渉が開始されている。この新たな枠組みを軸にした和平プロセスの進展について取り上げる。
第7回	少数民族武装勢力の動向①	ミャンマーで最古の少数民族武装勢力であるカレン民族同盟は、2012年に入ってようやく政府との停戦合意に至った。反政府勢力として活動してきたカレン民族同盟やそこから派生した勢力の推移について見ていく。
第8回	少数民族武装勢力の動向②	第５回に引き続き、カレン（カイン）民族の武装勢力の推移と、最近の動向について見ていく。
第9回	ミャンマーの内戦と周辺国①	ミャンマーの内戦には、部分的とはいえ周辺国の政変や冷戦期における東西両陣営のイデオロギー対立が反映されてきた。まずは、中国との国境域に焦点を当て、内戦に対する周辺国などの関与について見ていく。
第10回	ミャンマーの内戦と周辺国②	前回に引き続き、ミャンマーの内戦に対する周辺国などの関与について見ていく。この回ではタイとの国境域に焦点を当て、難民の状況も含めながら見ていく。
第11回	ラカイン州における諸問題	ミャンマー西部のラカイン州では、ムスリム系住民を巡る国籍、コミュニティ衝突、出稼ぎに関連した人身売買、武装蜂起、難民流出といった様々な問題が山積している。これら諸問題について概観する。
第12回	ラカイン州における難民流出	２０１７年、ムスリム系武装勢力による武装蜂起とこれに対する治安部隊による掃討作戦により、大量の難民が隣国のバングラデシュに流出した。この事案の推移について見ていく。
第13回	難民流出を巡る国際社会の反応	大量の難民流出によって、ミャンマーは国際社会から厳しい非難を浴びることになった。国際社会とミャンマーの応酬について見ていくことにする。
第14回	まとめ：グローバル化した現代世界の問題	ここまでの講義内容を総括しつつ、全体に通じるテーマについて確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
国際社会のしくみとミャンマー情勢について、下記、参考文献を予習と復習に役立ててください。本授業の準備・復習学習は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しません。講義の中で関係する文献・書籍を紹介するので、関心に応じて読み進めてください。

【参考書】
ジョセフ･S.ナイ『国際紛争：理論と歴史』（第10版）有斐閣、2017年。
防衛大学安全保障研究会『安全保障学入門』（第５版）亜紀書房、2018年。
根本敬『物語　ビルマの歴史：王朝時代から現代まで』中公新書、2014年。
宇田有三『ロヒンギャ　差別の深層』高文研、2020年。
中西嘉宏『ロヒンギャ危機：「民族浄化」の真相』中公新書、2021年。

【成績評価の方法と基準】
期末レポート：１００％

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【Outline (in English)】
In this course, the current situation in Myanmar(Burma) is treated as a case study. The purpose of this course is to be able to understand situations of the world from multiple point of views. Grade will be counted by the final report.

LAW100TB（法学 / law 100）

民法総則(民法典全体に共通するルール)(後期メディア)

明石　真昭

カテゴリー：**後期メディア**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**後期**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
民法総則は、主として物権法、債権法に共通するルールを定めていますが、これにとどまらず、私法における共通のルールを定めています。この講義では、民法総則における基礎的な知識を修得することを目的とします。

【到達目標】
①民法総則の基礎的な知識を身に付ける。
②具体的な事例について、判例・学説を踏まえて自分の考えを論理的に展開する力を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP1,DP2,DP3,DP4」「日本文学科：DP1,DP2」「史学科：DP1」「地理学科：DP1,DP2,DP3」「経済学科：DP4,DP5」「商業学科：自由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

【授業の進め方と方法】
民法総則について、スライドを使用しながら講義形式で進めていきます。初学者にも理解しやすいように、基本的な用語についてはきちんと説明し、可能な限り事例を多く用いて内容をイメージしやすい講義となるよう努めるつもりです。
中間課題に対しては、①採点もしくは個別評価・添削、②全体講評、③模範解答や優秀リポート等の掲示、のうちいずれかを実施します。
なお、フィードバックは通教LMS上で行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション、民法の意義・基本原理	民法の全体像を説明し、民法の基本原理を説明します。
第2回	権利の主体①：自然人の権利能力	自然人の権利能力について説明します。
第3回	権利の主体②：行為能力	自然人の行為能力について説明します。
第4回	権利の主体③：法人	法人の意義、種類等について説明します。
第5回	権利の客体（物）、法律行為、意思表示①：心裡留保	「物」の種類、心理留保について説明します。
第6回	意思表示②：通謀虚偽表示	通謀虚偽表示について説明します。
第7回	意思表示③：錯誤、詐欺①	錯誤、詐欺について説明します。
第8回	意思表示④：詐欺②・強迫、意思表示の到達	詐欺、強迫、意思表示の到達について説明します。
第9回	代理①：代理の基礎	代理の基本事項について説明します。
第10回	代理②：代理行為、無権代理	代理行為、無権代理、無権代理の場合の法律関係について説明します。
第11回	代理③：無権代理と相続、表見代理	無権代理と相続、表見代理について説明します。
第12回	無効、取消、条件、期限	無効・取消し、条件・期限について説明します。
第13回	時効①：取得時効と消滅時効	取得時効と消滅時効について説明します。
第14回	時効②：時効の援用、完成猶予・更新	時効の援用、完成猶予・更新の制度について説明します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
テキストは指定しません。六法（『ポケット六法（有斐閣）』等、コンパクトなもので良い）を参照しながら受講してください。
※民法が一部改正されています。新しい六法を使用してください。

【参考書】
民法判例百選Ⅰ 総則・物権（第9版）有斐閣
法律学小辞典（第5版）有斐閣
※民法が一部改正されています。参考書類は新しいものを選ぶようにしてください。

【成績評価の方法と基準】
提出されたリポート課題で評価致します。

【学生の意見等からの気づき】
全くの初学者を念頭に置いて講義をする予定です。できるだけ平易な言葉遣いを心掛け、難しい用語も可能な限りその場で説明しながら進めていきたいと思います。

【Outline (in English)】
This course introduces the general provisions of the Civil Code. For example, Capacity to Act, Juridical Act, Agency, and so on. The aim of this course is to help students obtain basic knowledge about the general provisions of the Civil Code.

LAW300TB（法学 / law 300）

商法総則・商行為法(Ⅱ)(後期メディア)

桜沢　隆哉

カテゴリー：**後期メディア**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**後期**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
企業及び企業取引における法律関係の特質と法規制の基礎的理解

【到達目標】
この講義は､全14 回の講義で商取引法上の諸制度､内容、機能に関する基礎的・体系的な理解が得られることを主眼とし､今後現実の社会における応用問題に取り組んで行くことができるようしっかりとした事案の分析能力､解釈論を展開する能力を高めることを目標とする。企業の制度的背景である商取引(企業活動) を理解することにより、会社法等の企業関係法への理解を深化させることにある。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】
ディプロマポリシーのうち､「法律学科：DP1,DP2,DP3,DP4」「日本文学科：DP1,DP2」「史学科：DP1」「地理学科：DP1,DP2,DP3」「経済学科：DP2」「商業学科：自由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

【授業の進め方と方法】
本講義では商法の中で、第一編総則(商法1 条～31 条) および第二編商行為(商法501 条～617 条) を中心に、その他関連する法令や実務などについてもできる限り言及し、商取引の進化とともに発展・変化していく「商法」を学び、現代社会における企業・取引活動といった事象について法的な問題意識とその解釈を身に付けることを目的とします。特別な知識や能力は必要ありません。必要なのは、常に「なぜ」と考え、制度の背景事情を観察する知的好奇心と意欲であると考えています。
なお、中間課題に対しては、①採点もしくは個別評価・添削、②全体講評、③模範解答や優秀リポート等の掲示、のうちいずれかを実施します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	第１章：商行為総則 (1) ―商行為の特則―	商行為の営利性、契約の成立、債務者の連帯等について
第2回	第２章：商行為総則 (2) ―商行為の特則―	債権担保、有価証券に関する特則について
第3回	第３章：商事売買	国内商事売買と国際商事売買について
第4回	第４章：消費者取引 (1)	消費者取引の全体像と消費者契約法について
第5回	第５章：消費者取引 (2)	割賦販売法と特定商取引法について
第6回	第６章：交互計算とその他の決済手段	企業取引の決済手段、交互計算、その他の決済手段（ネッティング等）について
第7回	第７章：匿名組合	匿名組合、その発展的な仕組みとしての資産流動化、ファイナンスリースについて
第8回	第８章：仲立営業	仲立営業と仲立人、仲立人の権利義務について
第9回	第９章：問屋営業	他の仲介営業との比較、問屋の内部関係と外部関係について
第10回	第10章：運送営業 (1)	運送契約と商法・海商法との関係、物品運送（当事者の権利義務、運送人の責任）について
第11回	第11章：運送営業 (2)	相次運送・複合運送、運送書類、運送取扱人、旅客運送について
第12回	第12章：倉庫営業	倉庫寄託契約、倉荷証券について
第13回	第13章：場屋営業	場屋営業と場屋営業者の責任について
第14回	第14章：保険取引	損害保険契約、生命保険契約、傷害疾病保険契約について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等)】
本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。
配布資料、およびテキストの該当箇所をよく読んで予習・復習をすること。特に判例百選（参考書(5)の文献）は、実際の裁判例とその解説が書かれてありますので、講義中に出てきた知識と実際とをつなげる理解を得るために有益です。

【テキスト（教科書)】
大塚英明・川島いづみ・中東正文『商法総則・商行為法< 有斐閣アルマ> 』（有斐閣、第４版、2023 年）

【参考書】
(1)落合誠一=大塚龍児=山下友信『商法Ⅰ総則・商行為< 有斐閣Sシリーズ> 』（有斐閣、第６版、2019 年）
(2)近藤光男『商法総則・商行為法』（有斐閣、第9版、2023年）
(3)弥永真生『リーガルマインド商法総則・商行為法』（有斐閣、第３版、2019年）
(4)北村雅史編『スタンダード商法I 商法総則・商行為法』（法律文化社、第２版、2022年）
(5)江頭憲治郎『商取引法』（弘文堂、第9版、2022年）
(6)青竹正一『商法総則・商行為法』（信山社、第4版、2024年）
(7)神作裕之＝藤田友敬編『商法判例百選』（別冊ジュリスト243号、有斐閣、2019 年）
上記のテキスト(教科書)および参考書は、平成29年民法改正法・平成30年商法改正に対応しているものを挙げた。テキスト(教科書) は、商法総則・商行為の両分野にまたがり、基礎から応用に至るまで丁寧な説明で書かれており、初めて商法を学ぶ方々にも十分対応しているが、コンパクトに情報を伝えようとしているためか、その内容を参考書(7)で重要判例を補う必要がある。(1)～(4) は、資格試験等でよく利用されるものであり、全講義を通して体系的な整理のために利用するのが適切であると考えている。また(5)(6)は、商法総則・商行為法の詳細な体系書である。

【成績評価の方法と基準】
中間リポート（1 回／ 30 %）およびメディアスクーリング試験（70%）によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】
開始後、「おしらせ」や「ディスカッション」を活用してください。

【Outline (in English)】
Understanding Principal of Commercial Transaction Law

LAW300TB（法学 / law 300）

国際法総論(国際社会の法秩序)(後期メディア)

岡松　暁子

カテゴリー：**後期メディア**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**後期**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
国際法は、主として国家間関係を規律する法である。本講義では、その国際法の総論部分（国際法の基礎理論）を扱う。適宜事例を分析することにより、国際紛争においていかなる国際法の解釈問題が争点となっているかを検討し、国際秩序の形成および紛争解決における国際法の役割と意義を考察する。

【到達目標】
国際秩序の基本的な法的枠組みを把握する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP1,DP2,DP3,DP4」「日本文学科：DP1,DP2」「史学科：DP1」「地理学科：DP1,DP2,DP3」「経済学科：DP4,DP5」「商業学科：自由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

【授業の進め方と方法】
主として国際法の総論（理論）部分についての講義を行う。
中間課題に対しては、①採点もしくは個別評価・添削、②全体講評、③模範解答や優秀リポート等の掲示、のうちいずれかを実施しフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	国際法の基本原理	国際法の概念、近代国際法の特色
第2回	法源	法源の意義、国際慣習法、条約、法の一般原則、学説・判例、衡平と善
第3回	条約法	条約の締結手続き、条約の留保、条約の効力、条約の無効、条約の終了
第4回	国際法と国内法の関係	論理的関係、国際法における国内法、国内法における国際法
第5回	国家・国家機関（1）	国家の要件、国家承認、政府承認、国家承継
第6回	国家・国家機関（2）	国家機関
第7回	国家管轄権	国家管轄権の意義、国家管轄権の適用基準、国家管轄権の競合、国家免除
第8回	国際組織法（1）	国際組織の要件・類型・分類、国際組織の歴史的展開
第9回	国際組織法（2）	国際組織の構造、国際組織の意思決定、国際組織の機能、国際組織の法主体性、国際組織の権能、国際連合
第10回	個人	国籍、外国人の地位、難民
第11回	国家領域（1）	国家領域
第12回	国家領域（2）	領域主権、領土保全原則、領域使用の管理責任、領域権原の取得原因、新国家の成立と承認
第13回	国家責任(1)	国家責任の観念、国家責任の発生要件、違法性阻却事由
第14回	国家責任法（2）	国家責任の解除、国家責任の追及

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
教科書の該当部分をよく読んでから受講すること。
本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
岩沢雄司『国際法［第2版］』東京大学出版会、2023年
植木俊哉・中谷和弘編『国際条約集』有斐閣、2024年

【参考書】
森川幸一・兼原敦子・酒井啓亘・西村弓編『国際法判例百選［第3版］』有斐閣、2021年

【成績評価の方法と基準】
リポート試験（50％）、中間リポート課題（50％）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】
引き続き、質問への対応につとめます。

【学生が準備すべき機器他】
なし

【その他の重要事項】
なし

【Outline (in English)】
This course introduces the legal order and rules that govern the international society.　Students may learn the basic international theory and gain better understanding by reading leading cases.

LAW300TB（法学 / law 300）

行政救済法(後期メディア)

西田　幸介,久松　将大

カテゴリー：**後期メディア**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**後期**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、行政救済に関する法を取り上げる。行政救済とは、行政作用によって不利益を受けこれを不服とする私人が、行政を相手に自己の権利や法的利益を主張して、その回復を求めるための制度をいう。これは、行政争訟と国家補償とに区別される。行政争訟は行政上の法律関係をめぐる争訟（ないしそのための制度）であり、行政事件訴訟や行政上の不服申立てを含む。国家補償とは行政作用を中心とする国家活動により損害または損失を受けた私人がそれに対する賠償または補償を求めるための制度の総称である。

各種の行政救済のうち、この授業では、行政事件訴訟について、その概略と解説したうえで、それが抱える現代的課題について検討する。行政事件訴訟は、行政上の法律関係について争いがある場合に利害関係者または法定の原告からの訴訟の提起に基づき裁判所が特殊な訴訟手続を通して争いを解決するものである。

この授業の受講者は、行政事件訴訟法を修得し、とりわけ取消訴訟の訴訟要件について具体的な事例に当てはめて検討することができるようになるとともに、具体的な紛争事例について、取消訴訟以外の抗告訴訟、当事者訴訟および民事訴訟のいずれを提起すべきかを選択できるようになることが期待される。

【到達目標】

①行政事件訴訟の各類型の概要を説明することができる。
②取消訴訟の訴訟要件について説明することができる。
③取消訴訟の判決について説明することができる。
④取消訴訟における仮の救済について説明することができる。
⑤具体的な紛争事例について、取消訴訟の提起が可能かどうか、および、仮の救済が認められるか否かを判定することができる。
⑥取消訴訟以外の抗告訴訟について、取消訴訟との差異を意識しながら、それぞれの訴訟要件、認容要件および仮の救済について説明することができる。
⑦当事者訴訟の類型と訴訟要件を説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP1,DP2,DP3,DP4」「日本文学科：DP1,DP2」「史学科：DP1」「地理学科：DP1,DP2,DP3」「経済学科：DP4,DP5」「商業学科：自由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

【授業の進め方と方法】

一般的な講義形式による。

中間課題に対しては、①採点もしくは個別評価・添削、②全体講評、③模範解答や優秀リポート等の掲示、のうちいずれかを実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	行政救済法の意義	行政法の体系と行政救済法 行政事件訴訟 行政上の不服申立て
第2回	行政事件訴訟の意義と類型（1）	抗告訴訟、当事者訴訟
第3回	行政事件訴訟の意義と類型（2）	民衆訴訟、機関訴訟
第4回	取消訴訟の概略	取消訴訟の意義 訴訟要件、認容要件 教示制度 取消訴訟の排他的管轄
第5回	取消訴訟の訴訟要件（1）	処分性（取消訴訟の対象）
第6回	取消訴訟の訴訟要件（2）	原告適格
第7回	取消訴訟の訴訟要件（3）	訴えの利益
第8回	取消訴訟の訴訟要件（4）	出訴期間 被告適格 審査請求前置 裁決主義 裁判管轄
第9回	取消訴訟における仮の救済	仮の救済の意義 仮処分の排除 執行停止制度
第10回	取消訴訟の判決	取消訴訟の終了原因 判決の類型 取消判決の効力 事情判決
第11回	無効等確認訴訟	訴訟要件 認容要件 仮の救済
第12回	差止訴訟	訴訟要件 認容要件 仮の救済
第13回	不作為の違法確認訴訟 申請型義務付け訴訟	訴訟要件 認容要件 仮の救済
第14回	非申請型義務付け訴訟	訴訟要件 認容要件 仮の救済

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキスト、参考図書、その他授業内で指示された内容にもとづいて学習する。
本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。
フィードバックは通教LMS上で行う予定である。

【テキスト（教科書）】

指定しない。

【参考書】

稲葉馨『行政法と市民』（2006年、放送大学教育振興会）
宇賀克也『行政法概説Ⅱ［第7版］』（2021年、有斐閣）
塩野宏『行政法Ⅱ行政救済法［第6版］』（2019年、有斐閣）
芝池義一『行政救済法』（2022年、有斐閣）
原田尚彦『行政法要論［全訂第7版補訂2版］』（2012年、学陽書房）
藤田宙靖『行政法総論（下）』（2020年、青林書院）

【成績評価の方法と基準】

中間リポート（40%）とメディアスクーリング試験（60%）による。いずれにおいても、行政救済法の基本的な概念や法律論が適切に理解できているか、それらを具体的な問題に当てはめて考えることができるかを問うこととする。

【学生の意見等からの気づき】

とくに改善を要すると思われる点は、学生の意見からは見出せなかったが、今後とも、授業改善に努めていきたい。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【Outline (in English)】

In this course student learn the outline of Administrative Remedy Law. After taking this course, student will be able to:
- Explain the outline of the main Acts concerning administrative relief.
- Choose a legal means to obtain an appropriate solution for resolving administrative disputes.

- Understand the distinction between the Actions for the Judicial Review of Administrative Dispositions and the Public Law-Related Actions and explain the suit requirements and judgments in these actions.
- Explain types of administrative appeals, its requirements, its ruling, and its difference with the Actions for the Judicial Review of Administrative Dispositions.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Your overall grade in the class will be decided based on the following;
Mid-term report (40%)　and term-end examination (60%).

LAW300TB（法学 / law 300）

保険法・海商法(Ⅱ)(後期メディア)

桜沢　隆哉

カテゴリー：**後期メディア**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**後期**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
保険契約法と海上運送・海上企業に関する基本的知識の習得

【到達目標】
この講義は、全14回の講義で海上運送法（海商法）上の諸制度、内容、機能に関する基礎的・体系的な理解が得られることを主眼とし、今後現実の社会における応用問題に取り組んで行くことができるようしっかりとした事案の分析能力、解釈論を展開する能力を高めることを目標とします。海商法の教科書を解説するだけでは上記目標を達成することは難しいので、毎回の講義の中では具体的なケースを用いて、それを基に海商法の制度が実際にどのように運用されているのか、それは社会の実態に合致しているのか、さらにそれに問題があるとすればいかにして解決・克服すべきなのかといった観点から、海商法の諸制度と現実の社会における問題とをつなげる力の修得を目指したい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP2,DP4」「日本文学科：DP1,DP2」「史学科：DP1」「地理学科：DP1,DP2,DP3」「経済学科：DP4,DP5」「商業学科：自由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

【授業の進め方と方法】
この講義では、海上運送・海上企業組織に関する基本的知識の習得を目的とする。海商法はいずれも我々の実社会と密接に結びついた重要な法制度である。このうち、保険法・海商法（I）では保険法を扱い、保険法・海商法（II）では「海商法」を扱う。本講義で扱う海商法は、船舶を手段とする海上企業・海上運送に関する法制度である。船舶は、物品の運送に関しては今日でもなお主要な地位を占めている。われわれの社会は、様々な物資によって支えられており、それは海上運送をはじめとする輸出入に依存しているところも少なくない。本講義では、海上企業の組織、その活動(海上物品運送) および海上危険について概説する。中間課題に対しては、①採点もしくは個別評価・添削、②全体講評、③模範解答や優秀リポート等の掲示、のうちいずれかを実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	海商法の対象と沿革	海商法の対象、海商法の歴史と変化、海商法の意義・特異性、海商法の法源
第2回	船舶	船舶の意義・種類、船舶の国籍や公示手段
第3回	船舶運航主体とその補助者	船舶所有者・共有者、賃借人および定期傭船者
第4回	船舶所有者等の責任制限	船主責任制限制度
第5回	海上物品運送契約の意義および種類	海上物品運送契約の意義および法規整
第6回	船荷証券の意義及び発行	船荷証券の意義、船荷証券の発行と記載事項
第7回	船荷証券の効力	船荷証券の債権的効力、物権的効力、実務上の諸問題
第8回	海上物品運送契約の履行	運送品の船積み、航海および運送品の荷揚げ、運送品の引渡しなど
第9回	海上物品運送人の責任	運送人の責任原因、賠償額の定型化および高価品特則
第10回	海上物品運送人の責任制限と免責	運送人の責任制限、免責、免責約款など
第11回	海上旅客運送契約	海上旅客運送契約の意義および法規整、海上旅客運送人の責任
第12回	船舶衝突	船舶衝突の法規整、船舶衝突責任と損害の分担など
第13回	海難救助・共同海損	海難救助および共同海損の意義・性質と要件・効果など
第14回	船舶先取特権・船舶抵当権	船舶先取特権および船舶抵当権の意義、目的物など、船舶に対する強制執行等

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
配布資料、およびテキストの該当箇所をよく読んで予習・復習をすること。
判例・裁判例については、テキスト等に掲載されていないものや最新の判例も出されている。そのため、下記の参考書(5)・(6)など近年刊行されたもの等を参照して理解を深めていただきたい。また、本講義は、平成29年民法改正および平成30年改正への対応をしております。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
箱井崇史『基本講義現代海商法〔第５版〕』成文堂、2024年

【参考書】
＜平成30年商法改正前のもの＞
(1)鴻常夫ほか編『商法（保険・海商）判例百選（第２版）』有斐閣、1993年
(2)戸田修三『海商法〔第５版〕』文眞堂、1995年
(3)重田晴生編著『海商法』青林書院、1994年
(4)中村真澄・箱井崇史『海商法〔第２版〕』成文堂、2013年
＜平成30年商法改正に対応するもの＞
(5)神作裕之＝藤田友敬編『商法判例百選（別冊ジュリスト243号）』有斐閣、2019年
(6)山下友信＝神田秀樹編『商法判例集〔第9版〕』有斐閣、2023年
(7)江頭憲治郎『商取引法〔第9版〕』弘文堂、2023年
(8)岡田豊基『現代保険法・海商法』中央経済社、2020年
(9)小林登『新海商法〔増補版〕』信山社、2022年
(10)小林登『新海商法概論』信山社、2023年

【成績評価の方法と基準】
中間リポート（1回／30％）およびメディアスクーリング試験（70%）によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】
開始後、「おしらせ」や「ディスカッション」を活用してください。

【Outline (in English)】
Understanding Principal of Maritime &Aviation Law

SOC300TB（社会学 / Sociology 300）

労使関係論(Ⅰ)(後期メディア)

細川　良

カテゴリー：**後期メディア**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**後期**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「労使関係」とは、一般に一人一人の労働者個人と使用者（企業）との間の関係ではなく、労働組合などの労働者の集団と使用者（企業）あるいは使用者団体との間の関係のことを指します。そして、諸外国と比べた場合、日本における労使関係は、企業を中心として形成されてきた点に大きな特徴があるとされてきました。もっとも、こうした日本独自の発展を遂げた労使関係システムは、それを支えてきたいわゆる「日本的雇用慣行」およびそれを取り巻く社会的・経済的環境が変化するに伴い、変化への対応が迫られています。本講義では、こうした労使関係の現在について考えるうえでの基本的な制度や仕組み、社会的背景について学ぶとともに、現在の労使関係が抱えている様々な課題について考えたいと思います。

【到達目標】

受講する学生において、労使関係、あるいは労働組合というものに対する知識や関心は様々であろうと考えられます。しかし、日本の労働組合や労使関係が有していた日本の社会的に対する影響力が低下し、その存在意義が問われているということについては、大なり小なり共通する認識を有しているではないでしょうか。そこで、本講義では、本来、労使関係や労働組合は労働社会の中でどのような機能や役割が期待されてきたのか、日本の労使関係や労働組合はどのような役割を果たしてきたのか、そして、日本の労使関係がどのような課題に直面し、なぜそのような事態が生じたのかについてを知り、理解してもらいたいと思います。そして、これからの労使関係はどのように変わっていく必要があるのか（あるいは、変わる必要がないのか、労使関係に未来はないのか）という問いについて、自分なりの答えを見つけ出してほしいと思います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP2,DP3,DP5」「日本文学科：DP1,DP2」「史学科：DP1」「地理学科：DP1,DP2,DP3」「経済学科：DP4,DP5」「商業学科：自由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

【授業の進め方と方法】

本講義では、「授業の概要と目的」で述べたことについて、逐次検討していきたいと思います。具体的には、①日本の労使関係の基本的な特徴と展開を概観し、②それを支える集団的労使関係に関する法制度を理解したうえで、③日本における労使関係の現代的な課題を考えたいと思います。
中間課題に対しては、①採点もしくは個別評価・添削、②全体講評、③模範解答や優秀リポート等の掲示、のうちいずれかを実施します。
授業内容についての質問や、課題について気になる点があれば、積極的に提示してください。適宜、フィードバック等の補足を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	本講義の目的、労使関係について学ぶ意義、本講義の進め方等について説明します。
2	労働組合の団結～その歴史	そもそも、労使関係の基礎となる労働組合およびその活動は、どのような歴史的経緯で生まれてきたのか、なぜ労働組合の権利が保障される必要があるのか、労使関係の基礎的な前提について説明します。
3	日本的雇用慣行の形成と労使関係	日本の労使関係は、いわゆる「日本的雇用慣行」と深く結びつく形で発展してきました。この回では、日本的雇用慣行とはいかなるものか、という点を踏まえつつ、日本の労使関係の特徴について考えます。
4	労使関係の多様性～諸外国との比較	「労使関係」と一口に言っても、そのあり方は、国によって大きく異なります。そこで、この回では、諸外国におけるさまざまな労使関係のあり方について、その概要を説明し、それとの比較を通じて、日本の労使関係の特徴を改めて考えたいと思います。
5	公務員の労使関係	かつて、日本の労働組合運動において、極めて重要な課題となっていたのは、公務員に労働組合の権利を認めることでした。この問題は、いわゆる公務員制度改革をめぐって、ふたたび脚光を集めています。この回では、公務員の労使関係とそれをめぐる問題について考えます。
6	労働組合と労働者～プロスポーツ選手は「労働者？」	労使関係の担い手である労働組合は、労働者が集まって作った団体です。ところで、このような労働組合を結成することは、誰でもできるのでしょうか。この問題は、実は労使関係を考えるうえでの重要な論点です。この回では、労働組合を結成する「労働者」の意義について考えます。
7	労働組合～その基本的な活動とルール	労使関係の主要な担い手である労働組合ですが、実際、労働組合がどのような組織で、どのようなことをしているのか、そこにどのようなルールがあるのかは、案外知られていないのではないでしょうか。この回では、労働組合の実際とその活動をめぐるルールについて考えます。
8	団体交渉と争議	労働組合の重要な役割は。組合員（労働者）の労働条件や職場環境について使用者と交渉し、よりよい条件を勝ち取ることでしょう。この回では、こうした労働組合の団体交渉と、闘争手段である争議についての法規制について考えます。
9	労働組合の活動を守るために～不当労働行為制度	労働組合との良好な労使関係を形成しようとする使用者・企業がある一方で、労働組合を毛嫌いし、その活動を妨害しようとする使用者・企業があるのも事実です。この回では、こうした使用者による組合活動の妨害から保護する、不当労働行為制度について考えます。

10	労働組合と紛争解決	労働組合の活動については、労働条件や職場環境の向上という目的に注目が集まりがちですが、もう一つの重要な機能として、「紛争の解決」という役割があります。この回では、労働関係における様々な紛争解決制度も踏まえつつ、労働組合の紛争解決の機能について考えたいと思います。
11	労働組合の直面する課題～雇用の多様化と働き方の多様化	労働組合の組織率や影響力が長期低落傾向にあることはしばしば指摘されていることですが、そもそも、なぜ労働組合の組織率や影響力が低下しているのでしょうか。この回では、現在の労働組合を取り巻く状況について考えます。
12	法律による規制と「労使自治」	近年、労働関係について多くの法律が作られるようになってきました。この背景にはいろいろな事情がありますが、労使が自分たちで適切なルールを作出・運用し、問題を解決する能力が疑われていることもその一因でしょう。他方で、労働を取り巻く関係について、なんでも法律による規制でコントロールするのが適切かどうかは、議論のあるところです。この回では、法律による規制と「労使自治」との関係について考えてみたいと思います。
13	労使関係の意義～労使コミュニケーションがもたらす効果	日本における労使関係は、その影響力の低下がしばしば指摘される一方で、良好な労使関係が労働条件や企業経営に良い影響を与える例もしばしばみられます。この回では、現在において労使関係が良好に機能する実際的な例を見ながら、労使関係の意義について考えてみたいと思います。
14	労使関係の課題～労使関係は何のために存在するのか	これまでの講義で触れてきたように、現在は労使関係の存在意義が大きく問われている時代です。この回では、これまでの講義を踏まえつつ、そもそも労使関係は何のために存在するのか、という根本的な課題について考えてみたいと思います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

基本的には、講義の内容を丁寧に復習し、理解の定着を図ることが求められます。

もっとも、労使関係は、現実の社会の中にも多く存在し、また現在進行している様々な労働に関する法政策にも深く関係しています。したがって、新聞やニュースなどを通じて、労働組合や労使関係はもちろん、労働に関係する様々な事象について、日ごろからアンテナを延ばしてチェックするよう心掛けてほしいと思います。

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

指定はありません

【参考書】

指定はありません。各講義ごとに、必要に応じて参考となる文献資料等を提示します。

【成績評価の方法と基準】

最終成績は基本的に単位修得試験により評価します。（ただし、リポート学習もしっかりと行うこと。）授業をよく復習し、労使関係を取り巻くシステムをよく理解したうえで、その課題を考えてください。

【学生の意見等からの気づき】

特にありません。

【Outline (in English)】

At the end of this course, participants will learn the reality, problems and future prospects by looking directly at the structural change of labor relations relations.

LAW200TB（法学 / law 200）

法律学特講(国際労働法)(後期メディア)

山本　圭子

カテゴリー：**後期メディア**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**後期**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
学生は、労働者保護法、労働基本権、雇用保障等について国際比較を行い、日本の労働法令との対比を行う。

【到達目標】
日本の労働法は、国際条約や先進諸国の労働法の議論の影響を強く受けている。そこで、近年、日本において法改正や新たな議論が起きている14のテーマについて、比較法的検討を行い、日本の労働政策への影響を検証し、詳細に説明できることを目的としている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP1,DP3,DP4」「日本文学科：DP1,DP2」「史学科：DP1」「地理学科：DP1,DP2,DP3」「経済学科：DP4,DP5」「商業学科：自由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

【授業の進め方と方法】
現代における労働をめぐる諸問題について、比較法的視点を加味しながら、分析し理解することが目標です。ビデオ収録後に法令改正がなされたものについては、その都度、新しい法令のリファレンスを行います。
中間課題に対しては、採点もしくは個別評価・添削して返却によりフィードバックを行います。試験については、全体講評によりフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	労働者性・フリーランス	労働法の適用対象である「労働者」の範囲について国際比較を行い、雇用類似の働き方に関する制度も検討する
第2回	高齢者雇用	各国の高齢者の就業実態と法令を、日本の高年齢者雇用安定法の変遷と比較する。
第3回	外国人雇用	外国人労働者（移住労働者）に関する国際条約の状況と、日本の外国人労働者に対する労働法の適用関係を比較法的に考察する。
第4回	障害者雇用	障害者雇用をめぐる条約の状況と、日本における障害者雇用促進法の変遷を学ぶ。
第5回	雇用保険制度	離職時の生計を維持するための雇用保険制度について、国際比較を行う。
第6回	最低賃金制度	各国で制定されている最低賃金制度の状況、日本における最低賃金法の改正の経緯と課題について学ぶ。
第7回	労働時間規制	労働時間の上限規制の内容と適用除外の範囲について、国際比較を行う。
第8回	ワークライフバランス	仕事と私生活の調和に関する法政策について、欧米の例と日本の現状とを比較する。
第9回	テレワーク	通信機器を利用したテレワーク、在宅ワークの普及状況と、労働関係法令の適用について、比較法的考察を行う。
第10回	職場におけるハラスメント	職場におけるハラスメントについて国連のビジネスと人権に関する指導原則、2019年のILO条約の内容、各国の法制と日本の施策の比較を学ぶ。
第11回	過労死・過労自殺	長時間労働による健康障害を防止するための措置について、日本の法令の現状を学び比較法的考察を行う。
第12回	公務員の労働基本権	公務員の労働基本権の制限について歴史的展開と現状、国際比較を学ぶ。
第13回	パート・有期・派遣	パート・有期・派遣労働者に関する法規制の国際比較を行う。
第14回	企業組織変動と労働者保護	企業の組織変動にともなう労働者の帰属、整理解雇法理について、比較法的考察を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
日本の法令についての基礎知識を身につけてから視聴する。
日本の法令の改正状況については開講時にお知らせ欄で知らされる参考文献及び参照すべきURLを通読してから視聴する。手元に六法と条約集を備え、法令や条約を確認する。メモを取りながら視聴し、受講内容のノートを作成する。
本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
『データブック国際労働比較』（各年の最新版）
2024年については、下記で入手。https://www.jil.go.jp/kokunai/statistics/databook/2024/index.html、
『労働六法』2024年版、旬報社、2024年、6,050円

【参考書】
（1）濱口桂一郎『新・EUの労働法政策』（独立行政法人労働政策研究・研修機構、2022年）
（2）香川孝三編著『アジア労働法入門』晃洋書房、2022年、3200円
（3）菅野和夫・山川隆一『労働法（第13版』弘文堂、2024年

【成績評価の方法と基準】
中間リポートにおいてC－以上の評価を受けたうえで受験した試験（60％）と中間リポート（40%)の総合評価（中間リポートに合格しなければ試験を受けることはできない）を行う。
リポート及び試験においては、国際条約・先進諸国の法令と日本の制度との異同を理解し、「比較法的な観点」から詳細に考察できることが評価の対象となる。

【学生の意見等からの気づき】
LMSで配布される追加資料は、動画と同様に重要であり、動画を修正・補完するものであることからレポート課題作成に当たっては必ず目を通して欲しい。開講時に参考文献の重要性をリファレンスをして、最新の法改正の状況を反映させたい。

【学生が準備すべき機器他】
メディアスクーリングを視聴できる機器及びワードファイルでレポートを提出できる環境。

【その他の重要事項】
労働法(働き方に関する法ルール)、労働法(労働法II)を学び、さらに各種制度の国際比較をしたい、労働問題を社会・経済情勢を踏まえて学びたいという方々向けの講義内容を目指しています。労働法(働き方に関する法ルール)、および労働法(労働法II)を学んでからの履修が望ましいですが、前後しても支障はありません。
法律が大きく改正されており、お知らせ欄などで最新の参考文献を示している。これらを読まずに作成したレポート及び答案は不合格となっているので、注意のこと。中間レポートに合格していない場合には、試験を受けることはできない。レポートはワードファイルで提出のこと。

【Outline (in English)】
【Course　outline】

Students will conduct an international comparison on Labor Standards Law, Labor Union Law, Employment Security, and learn the current situation and issues of labor law in Japan.
【Learning　objectives】The goal is to conduct a comparative law study of labor law, examine the impact on Japan's labor policy, and explain it in detail.
【Learning activities outside of classroom】
Students acquire basic knowledge about Japanese labor law before watching videos.
Students read through references and URLs to refer to before watching the video.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend 4 hours to understand the course content.
【Grading Criteria /Policy】
Comprehensive evaluation of the test (60%) and the interim report (40%) taken after receiving an evaluation of C- or higher in the interim report.

LIT100TC（文学 / Literature 100）

日本文芸研究特講・上代(万葉集を読む)(後期メディア)

萩野　了子

カテゴリー：**後期メディア**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**後期**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
万葉集の和歌の解釈や、その問題点などの解説を通じて、古典作品読解の基礎的能力を身に付けると共に、古代の人々の心の有り様について理解を深める。

【到達目標】
万葉集やその他の上代文献を読みながら、現代と共通する点、全く異なる点などを理解することで、我々の文化のルーツに迫ることが出来る。同時に多様な価値観への理解を深めることが出来る。また、現代日本語と異なる古典文法の基礎を身に付け、古典作品解釈に抵抗なく取り組めるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP3、DP5」「日本文学科：DP1、DP2」「史学科：DP1」「地理学科：DP1、DP2、DP3」「経済学科：DP4、DP5」「商業学科：自由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

【授業の進め方と方法】
【授業の進め方と方法】
講義形式で授業を行い、毎回授業後に小テストを行う。中間、期末課題では、毎回の小テストよりも具体的な事柄を問うので、講義内容をよく復習しておくこと。
【課題等に対するフィードバック方法】
課題に対しては、個別の採点の後、模範解答の提示を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	万葉集概説	上代文学史及び万葉集の内容について
第2回	和歌の表現形式	寄物陳思歌と正述心緒歌について
第3回	歌の発生	歌謡の特徴及び歌われる場について
第4回	万葉集の表記	漢字で和歌を表記することについて
第5回	雄略天皇御詠	万葉集冒頭歌とその表現について
第6回	大和三山の歌	大和三山に伝わる伝承について
第7回	ひむかしの歌	万葉集の校異について
第8回	大津皇子と大伯皇女	挽歌の表現について
第9回	富士山の歌	長歌と反歌、山の讃美表現について
第10回	風土記伝承と天香具山	歌風の変容について
第11回	山上憶良の歌	和歌の題材について
第12回	人麻呂歌集歌	人麻呂歌集の成立について
第13回	東歌・防人歌	都と鄙の表現の違いについて
第14回	春愁三首	大伴家持詠の特異性について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
角川ソフィア文庫『ビギナーズ・クラシックス日本の古典 万葉集』角川書店編、角川書店、平成13年、680円

【参考書】
講義中適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】
中間試験50％、期末試験50％

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【Outline (in English)】
Course Outline: The aim of this class is to help students acquire the skills and knowledge needed to read MANYOSHU.
Learning Objectives: The goals of this course are to acquire: 1. the skills needed to read MANYOSHU; and 2. knowledge of Jodai literature.
Learning Activities Outside of the Classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Grading Criteria/Policy: Your overall grade in the class will be decided based on the following: term-end examination (50%); Mid-term examination (50%).

LIT100TC（文学 / Literature 100）

日本文芸研究特講・中古(『竹取物語』を読む―かぐや姫の”実像”)(後期メディア)

園　明美

カテゴリー：**後期メディア**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**後期**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
『竹取物語』は、現存する我が国最古の物語である。
この物語については、おとぎ話の「かぐや姫のお話」として、幼い頃に絵本や紙芝居で親しんだ人も多いであろう。また、２０１３年末にはアニメ映画化されて話題になった。
しかし、原典である『竹取物語』を読む機会は、意外に少ないのではないか。
実は、原典の『竹取物語』には、おとぎ話やアニメーションのかぐや姫とはかけ離れた、かぐや姫の驚くような言動や、他の登場人物たちの滑稽な言動を描く箇所が散見するのである。
本授業では、『竹取物語』の原典を読むことを通して、学生諸君それぞれの「かぐや姫像」・「『竹取物語』像」を見出してほしい。

【到達目標】
『竹取物語』のストーリー展開を、原典の本文を中心に追いながら、おとぎ話やアニメーションに描かれた姿との比較や、背景となる史実や当時の習慣等を知ることを通して、理解を深めてゆく。
なお、「受験のための古文」の学習ではなく、「文学としての『竹取物語』を読むことを目的とするので、文法等に過剰にこだわるのではなく、「何が語られているのかについての理解を目指し、可能な限りかみ砕いて解説を行うので、中学・高校時代に古文が苦手だったという人も心配する必要はない。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「法律学科：,DP3,DP5」「日本文学科：DP1,DP2」「史学科：DP1」「地理学科：DP1,DP2,DP3」「経済学科：DP4,DP5」「商業学科：自由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

【授業の進め方と方法】
『竹取物語』の本文を、14講を通して少しずつ区切りながら読み進め、毎講関連する史的背景や他の作品の本文等を紹介しつつ、作品の読みを深めてゆく。
中間課題に対しては、①採点もしくは個別評価・添削、②全体講評、③模範解答や優秀リポート等の掲示、のうちいずれかを実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
①	『竹取物語を読む』その1	『竹取物語』の概説と冒頭
②	『竹取物語を読む』その2	求婚者殺到　翁の説得
③	『竹取物語を読む』その3	求婚者に対する無理難題
④	『竹取物語を読む』その4	求婚者の受難Ⅰ 石作の皇子の恥辱とくらもちの皇子の謀略
⑤	『竹取物語を読む』その5	求婚者の受難Ⅱ くらもちの皇子撃退
⑥	『竹取物語を読む』その6	求婚者の受難Ⅲ 阿倍の大臣の落胆
⑦	『竹取物語を読む』その7	求婚者の受難Ⅳ 大伴の大納言の勇猛さ
⑧	『竹取物語を読む』その8	求婚者の受難Ⅴ 大伴の大納言の災難
⑨	『竹取物語を読む』その9	求婚者の受難Ⅵ 石上の中納言の悲劇
⑩	『竹取物語を読む』その10	帝の求婚Ⅰ かぐや姫に振られる帝
⑪	『竹取物語を読む』その11	帝の求婚Ⅱ かぐや姫との文通
⑫	『竹取物語を読む』その12	かぐや姫の昇天Ⅰ 阻もうとする人々
⑬	『竹取物語を読む』その13	かぐや姫の昇天Ⅱ 地上に思いを残して
⑭	『竹取物語を読む』その14	かぐや姫の昇天Ⅲ 遺された人 附・中世の説話と『竹取物語』

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
テキスト及び参考書として紹介した書籍等を読み、理解を深める助けとすること。
本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
室伏信助訳注『竹取物語』（角川ソフィア文庫）

【参考書】
平安貴族の環境（至文堂　1994）
平安時代の信仰と生活（至文堂　1994）
平安時代の儀礼と歳事（至文堂　1994）

【成績評価の方法と基準】
中間リポート（５０％）及びリポート試験（５０％）の内容によって評価を行う。
（注意事項１）
中間リポートとリポート試験は、両方とも提出しないと評価対象とならないので、必ず両方提出すること。
（注意事項２）
中間リポートの内容によっては、コメントを付けた上で再提出を指示する場合がある。この場合、指定された期間内に再提出されない場合はやはり評価対象とならないので、必ず期間内に書き直し、提出すること。

【学生の意見等からの気づき】
メディアスクーリングの性質上、疑問点があってもなかなか質問できないというコメントがあったが、教員に直接質問し、回答を得るためのフォームも用意されているので、是非とも遠慮なく活用してほしい。中には、質問内容について、「こんな基礎的なことは聞いてはいけないのではないか」と感じることもあるようだが、どんな些細なことでも、学びの深さにつながるものだと考えるし、基礎的なことゆえに大切なこともあるので、大歓迎である。

【Outline (in English)】
This course introduces to "The tale ob Taketori" students taking this course.
At the end of the course, participants are expected to understand contents of "The tale ob Taketori".

LIT100TC（文学 / Literature 100）

日本文芸研究特講・近世(西鶴大句数)(後期メディア)

浅沼　博

カテゴリー：**後期メディア**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**後期**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
俳諧連歌（連句）という座の文学が全盛を極めた近世文芸を、その背景もふくめて理解すること。

【到達目標】
井原西鶴による独吟連句（俳諧大句数）を読み解き、「知の共有化」が成立した近世文芸の諸条件を考究する。わけても連句のルール（式目）の中心をなす「付合と転じ」つまり連想と変化について、具体的な作品に即して説明できることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「法律学科：,DP3,DP5」「日本文学科：DP1,DP2」「史学科：DP1」「地理学科：DP1,DP2,DP3」「経済学科：DP4,DP5」「商業学科：自由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

【授業の進め方と方法】
一句の解釈、二句の付合、三句の転じ、序破急の流れと射程距離を広げていく。その際、テキストを叩き台に、他の学説もみながら連句の多様性について学ぶ。
各回の小テストについては、システム上で採点を実施し返却する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	連句概要	知の共有化について 百韻形式における連句用語
第2回	作家・作品解説	俳諧師としての西鶴 俳諧大句数の成立 〔自序〕の解釈
第3回	花にきてやの巻 序の一	緩やかな導入部 発句・脇・第三の作法 雅語と俗語・あしらい 中世と近代のせめぎ合い
第4回	序の二 四～七句目	四句目ぶり 月の定座・起情の付 映画的手法
第5回	破の一 初表八～裏三句目	自由で起伏に富んだ展開部 向付による述懐 其人の付
第6回	破の二 初裏四～七句目	恋句の流れについて 謡曲取り・逆付
第7回	破の三 初裏八～十二句目	名所付 抜け 釈教
第8回	破の四 初裏十三句目～ 二の表二句目	定座の移動について 発話体の取成し 故事付
第9回	破の五 三の表七～十句目	拍子・夜分 其場の付
第10回	破の六 三の表十一～十四句目	指合（観音開き） 句意付・会釈
第11回	破の七 三の裏一～四句目	短句下七の四三調について 病体・人名・時分
第12回	破の八 三の裏五～九句目	数詞の指合 遠輪廻
第13回	急の一 名残の裏一～四句目	軽く速やかな終結部 会話体の転じ
第14回	急の二 名残の裏五句目～挙句	匂いの花 挙句の作法・意義
第15回	まとめ	序破急と付合の諸相

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
さまざまな連句用語が出てくるので、予習・復習を徹底すること。
本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
新編日本古典文学全集『連歌集 俳諧集』暉峻康隆ほか・訳注（小学館）2001年

【参考書】
『俳文学大辞典』普及版（角川書店）2008年
『西鶴という鬼才』浅沼璞・著（新潮社・電子ブック）2008年
『俳句・連句ＲＥＭＩＸ』浅沼璞・著（東京四季出版）2016年

【成績評価の方法と基準】
メディアスクーリング試験（会場試験）による評価。
スライド資料をそのまま写すのは不可。必ず文章化すること。
持込不可。

【学生の意見等からの気づき】
西鶴の俳諧関連書籍は絶版・品切れ重版未定などが多いため、入手可能なものを当シラバス「参考書欄」に列記した。

【Outline (in English)】
To understand the literary arts in the early modern period when the haikai (renku)was the best, including its background.

LIT200TC（文学 / Literature 200）

日本文芸研究特講・児童文芸(後期メディア)

構　大樹

カテゴリー：**後期メディア**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**後期**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
［概要］
・宮沢賢治の童話作品をテーマ毎に取りあげ、テクストとしての同時代性を踏まえながら読み解きます。
・宮沢賢治の死後の受容について、児童文学の観点から整理します。
［目的］
宮沢賢治を通じて、大正～昭和の童話をめぐる状況や児童文学の評価をめぐる力学、童話作家としての〈生〉についての理解を深めます。

【到達目標】
・宮沢賢治という童話作家についての知見を広げる。
・児童文学というジャンルについての理解を深める。
・受容という観点を用いて作家や作品について考察できる。
・児童文学テクストの同時代的な社会・文化状況が意識できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP3、DP5」「日本文学科：DP1,DP2」「史学科：DP1」「地理学科：DP1、DP2、DP3」「経済学科：DP4、DP5」「商業学科：自由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

【授業の進め方と方法】
・通信学習。各回のテーマ・内容に示された作品は、必ず読んできてください。また各回小テストが課されます。
・中間リポートとリポート試験があります。フィードバックは個別評価・添削をもって行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	宮沢賢治という童話作家についての概要	・イントロダクション ・作家としての〈生〉について ・「虔十公園林」など
第2回	宮沢賢治の初期童話①	・賢治における童話執筆という営みについて ・「インドラの網」、「サガレンと八月」、『注文の多い料理店』の「序」など
第3回	宮沢賢治の初期童話②	・賢治の初期童話の特徴 ・「蜘蛛となめくじと狸」、「貝の火」、「シグナルとシグナレス」など
第4回	宮沢賢治童話の特徴①	・伝承や民話という視点について ・「狼森と笊森、盗森」、「ざしき童子のはなし」 など
第5回	宮沢賢治童話の特徴②	・異種間のコミュニケーションの不可能性という視点について ・「雪渡り」など
第6回	宮沢賢治童話の特徴③	・境界の揺らぎという視点について ・「注文の多い料理店」など
第7回	宮沢賢治童話の特徴④	・プロレタリア運動という視点について ・「オツベルと象」など
第8回	宮沢賢治童話の特徴⑤	・ユートピア志向という視点について ・「ポラーノの広場」など
第9回	大正～昭和（戦前）の童話作家としての宮沢賢治	・童話作家としての同時代性と生前評価について ・「風の又三郎」など
第10回	昭和（戦中）の童話作家としての宮沢賢治	・アジア太平洋戦争期の評価について ・「烏の北斗七星」など
第11回	昭和（戦後）の童話作家としての宮沢賢治	・戦後の評価について ・「どんぐりと山猫」など
第12回	宮沢賢治「銀河鉄道の夜」①	・現代におけるＳＦ的想像力のなかでの受容について
第13回	宮沢賢治「銀河鉄道の夜」②	・現代におけるナイーブな感性のなかでの受容について
第14回	宮沢賢治「グスコーブドリの伝記」	・献身・自己犠牲の文脈からの受容について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書はなし。

【参考書】
・構大樹『宮沢賢治はなぜ教科書に掲載され続けるのか』（大修館書店）
・米村みゆき『宮沢賢治を創った男たち』（青弓社）
・安藤恭子『宮沢賢治 〈力〉の構造』（朝文社）
・押野武志『宮沢賢治の美学』（翰林書房）
・宮沢賢治没後七十年「修羅はよみがえった」刊行編集委員会編『修羅はよみがえった』（宮沢賢治記念会）

【成績評価の方法と基準】
各回の小テスト10％、中間リポート40％、リポート試験を50％で評価します。リポートの評価基準は論旨が明解であるか、バランス感覚のある考察ができているか、です。

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【Outline (in English)】
［Outline］
This course will focus on Kenji Miyazawa's fairy tales.
［Goal］
Through Kenji Miyazawa, Students will deepen their understanding of the situation of Children's Literature in the Taisho and Showa periods.

LIN200TC（言語学 / Linguistics 200）

日本言語史(後期メディア)

間宮　厚司

カテゴリー：**後期メディア**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**後期**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日本言語史の中でも、特に沖縄古語に焦点を絞り、沖縄を象徴する言葉の語源・文法・表記について、大和古語（主に奈良・平安時代の言語）と比較しながら、解説します。

【到達目標】
文献資料に記録された沖縄古語の研究法を学ぶことで、論理的思考力を養い、卒業論文等作成の際に役立つならば良いと思います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「法律学科：,DP3,DP5」「日本文学科：DP1,DP2」「史学科：DP1」「地理学科：DP1,DP2,DP3」「経済学科：DP4,DP5」「商業学科：自由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

【授業の進め方と方法】
日本語の歴史に関する参考文献の紹介と日本語の歴史の概略を話した後に沖縄の古代歌謡『おもろさうし』の言語について、テキストを用いて、担当教員の専門としている研究を解説します。沖縄方言の古い姿を明らかにできるならばと思います。
中間課題に対しては、①採点もしくは個別評価・添削、②全体講評、③模範解答や優秀リポート等の掲示、のうちいずれかを実施します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	参考文献とテキストの紹介	日本語の歴史に関する参考文献の紹介や日本語の歴史の概略を説明します。
第2回	グスクの語源	沖縄で「城」の字を当てるグスクの語源について考えます。
第3回	テダの語源	沖縄で太陽の意を表すテダの語源について、大和古語と比較しながら考えます。
第4回	オモロの語源	沖縄の古代歌謡集『おもろさうし』のオモロ（神歌）の語源について、大和古語と比較しながら考えます。
第5回	按司の語源	沖縄で首長の意を表す按司（アジ）という語の語源について、大和古語と比較しながら考えます。
第6回	ミルヤ・カナヤの語源	『おもろさうし』で他界を表す概念語ミルヤ・カナヤの語源について、大和古語と比較しながら考えます。
第7回	アマミヤ・シネリヤの語源	『おもろさうし』で他界を表す概念語アマミヤ・シネリヤの語源について、大和古語と比較しながら考えます。
第8回	オボツ・カグラの語源	『おもろさうし』で他界を表す概念語オボツ・カグラの語源について、大和古語と比較しながら考えます。
第9回	係り結びの種類と用法	『おもろさうし』の係り結びの種類と用法について、大和古語と比較しながら考えます。
第10回	形容詞の種類と用法	『おもろさうし』の形容詞の種類と用法について、大和古語と比較しながら考えます。
第11回	助詞ガの表記	『おもろさうし』の助詞ガの表記の実態について調査結果を報告し考えます。
第12回	助詞テの表記と語釈	『おもろさうし』の助詞テの表記と語釈について考えます。
第13回	類推表記をめぐって	『おもろさうし』で「国」を「くに」以外に「こに」と書いた類推表記について再考します。
第14回	ヂャウ（門）の語源とウリズンの語源	沖縄のヂャウ（門）の語源とウリズンの語源について考えます。
第15回	自称名詞ア・ワ（我）と助詞ハの表記・発音	『おもろさうし』の自称名詞ア・ワ（我）と助詞ハの表記・発音について考えます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
テキストを受講前によく読んでおくと理解しやすくなります。また、機会があるならば、法政大学沖縄文化研究所を訪ね、利用して下さい。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
間宮厚司『沖縄古語の深層―オモロ語の探究［増補版］』（森話社、2014年、1900円＋税）

【参考書】
第１回の授業で、紹介します。

【成績評価の方法と基準】
中間リポート（40％）とリポート試験（60％）で評価します。

【学生の意見等からの気づき】
毎年、リポートの課題内容を変えていますので、既に履修した学生に聞いても、その点は参考になりません。

【Outline (in English)】
In the history of Japanese language, especially I will focus on Okinawa-Kogo (the ancient Okinawa language) and explain the origin, grammar, and notation that symbolize Okinawa with comparing Yamato-Kogo (the ancient Yamato language).
Learning objectives of this class:
Learning the way to study for Okinawa-Kogo (Okinawa Ancient Language) written on literature helps developing your logical thinking ability and it helps to acquire the necessary skill and knowledge for writing graduation thesis.
Learning activities outside of classroom:
Before each class, students need to read the textbook and it helps to understand the class better. I recommend students to visit the Hosei University Institute of Okinawa Studies if they have a chance. As preparation and review of the class, students will be expected to spend about 2 hours to understand the course content.
Grading Criteria/Policies:
Your overall grade in the class will be decided based on the following:
Midterm Report (40%) &Report Test (60%).

HIS100TD（史学 / History 100）

日本史概説(東アジアのなかの古代日本)(後期メディア)

浜田　久美子

カテゴリー：**後期メディア**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**後期**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
・東アジアのなかで展開してきた日本古代の歴史を学び、現代社会や地域社会に通じる問題関心を持てるようにする。
・史料や先行研究を用いて分析する歴史学研究の手法を学ぶ。
・文献探索や図書館の活用法を学び、リポートを作成できるようにする。

【到達目標】
・日本古代の歴史が東アジアのなかで展開してきたことを理解する。
・史料や先行研究を批判的に分析する歴史学研究の方法を理解する。
・調べた情報を整理して、考察に踏み込んだリポートを作成できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「法律学科：,DP3,DP5」「日本文学科：DP1,DP2」「史学科：DP1,DP3」「地理学科：DP1」「経済学科：DP4,DP5」「商業学科：自由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

【授業の進め方と方法】
【授業の進め方と方法】
動画の講義を視聴し、復習小テストに回答すること。
【課題等に対するフィードバック方法】
中間リポートについては、全体講評及び模範解答や優秀リポート等の掲示を実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	この講義の内容と学習の進め方、図書館の活用法について学ぶ。
第2回	リポートの書き方	文献探索の方法やリポートの書き方について学ぶ。
第3回	古代史を学ぶための基礎知識	古代という時代の特性や古代の史料などを学ぶ。
第4回	6世紀から7世紀へ	新羅の台頭と隋の建国が東アジアに与えた影響を学び、遣隋使派遣に関する史料を読む。
第5回	7世紀の東アジア	唐の建国が東アジアに与えた影響を学び、倭国の権力集中（乙巳の変）の史料を読む。
第6回	7世紀から8世紀へ	百済・高句麗の滅亡と天智・天武・持統朝の律令国家形成について学び、白村江の戦いに関する史料を読む。
第7回	律令国家の外交(1)唐・新羅との外交	遣唐使の派遣と新羅と外交から、律令国家の外交姿勢について学び、遣唐使関係の史料を読む。
第8回	大仏造立と東アジア(1)さまざまな社会不安	東大寺の大仏造立の背景となる奈良時代の社会不安について学び、国分寺建立の詔を読む。
第9回	大仏造立と東アジア(2)大仏造立へ	大仏造立を唐や新羅との交流のなかに位置付け、大仏造立の詔を読む。
第10回	律令国家の外交(2)渤海との外交	渤海使の来日と安史の乱の発生から、藤原仲麻呂政権の外交について学び、渤海と日本との外交文書を読む。
第11回	9世紀の転換(1)海商の来日	交易の拡大に伴う国際関係の転換について学び、張宝高との交易をめぐる記事を読む。
第12回	『入唐求法巡礼行記』を読む	9世紀の入唐僧円仁が書いた『入唐求法巡礼行記』の一部を読み、その史料的価値について学ぶ。
第13回	9世紀の転換(2)「境界」の生成	幼帝即位と相次ぐ自然災害、新羅海賊への警戒などが生み出す「境界」について学び、貞観地震などの記事を読む。
第14回	東アジア世界の変質	唐、渤海、新羅の滅亡を迎えて変質する東アジア世界のなかで日本日本の文化受容を考えるとともに、これまでの講義を総括する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。
予習として事前に配布した「本日の史料」を読み、復習として講義資料のほか、授業で紹介した文献を読むことを勧める。

【テキスト（教科書）】
教科書は用いず、講義資料を配布する。

【参考書】
・鈴木靖民監修、高久健二・田中史生・浜田久美子編『古代日本対外交流史事典』八木書店、2021年
・浜田久美子『日本史を学ぶための図書館活用術』吉川弘文館、2020年
その他のものは、各回の講義資料末尾に記す。

【成績評価の方法と基準】
中間リポート（40％）と期末リポート（60％）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【その他の重要事項】
国立国会図書館司書の経験を生かして、文献探索の方法や図書館活用術を講義する。

【Outline (in English)】
・Learn about the history of ancient Japan, which developed in East Asia, and have an interest in contemporary issues and local communities.
・Learn the methods of historical research to analyze using historical materials and previous research.
・Learn how to search for documents and how to use the library, and be able to create a report.

HUG300TE（人文地理学 / Human geography 300）

歴史地理学(Ⅱ)(後期メディア)

米家　志乃布

カテゴリー：**後期メディア**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**後期**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、歴史地理学における古地図や画像資料の利用方法やそれに基づく研究のあり方を学びます。

【到達目標】
地域の個性や景観の歴史を読み解く歴史地理学においては、古文書などの記録だけでなく、古地図や絵画・写真などの画像資料などの空間的な分析を通して研究を行うことが必要です。本授業では、史資料の分析をもとに「歴史地理学的考え方」ができるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
【授業の進め方と方法】
秋学期（2）の講義では、主に古地図や鳥瞰図、風景画、写真などの画像資料の分析・考察から、どのような歴史地理学的な考え方ができるのかを中心に取り上げます。中間のリポート課題に対しては、①採点もしくは個別評価・添削、②全体講評、③模範解答や優秀リポート等の掲示、のうちいずれかを実施します。
（課題等に対するフィードバック方法については、必要に応じて追記やご修正をお願いいたします。）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	歴史地理学と地図・画像資料	本授業の概要　歴史地理学の史料批判
第2回	世界・日本の古地図	世界や日本における様々な古地図の概観
第3回	古地図と世界像	古地図にみる様々な世界像を読み解く
第4回	日本と国土空間	様々な日本図から国土空間を読み解く
第5回	古地図と都市	様々な都市を古地図から読み解く
第6回	古地図と地域	地域を描いた地図から、地域像を読み解く
第7回	屏風絵・鳥瞰図	風景画と地図のあいだともいえる屏風絵・鳥瞰図の画像を読み解く
第8回	地図と芸術	地図のような絵画、絵画や工芸品に描かれた地図などから、地図と芸術の関係を読み解く
第9回	絵画と景観・風景（ヨーロッパを中心に）	イタリアの景観画やフランスの印象派、イギリスの風景画など、様々な絵画をもとに景観・風景を読み解く
第10回	絵画と景観・風景（日本を中心に）	山水画、真景図、浮世絵、風景画など様々な日本の絵画をもとに景観・風景を読み解く
第11回	写真と景観・風景	日本の写真史をもとに、写真に映し出された景観・風景を読み解く
第12回	彫刻・銅像と都市景観	戦前の銅像写真集の分析をもとに、彫刻・銅像と都市景観との関係を読み解く
第13回	絵図と測量図	江戸幕府撰絵図および伊能忠敬の測量図を対象とした近年の歴史地理学的研究動向を学ぶ
第14回	地図・画像資料の活用～歴史地理学の課題	歴史地理学的研究における古地図や画像資料を用いた分析・考察の重要性をまとめる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に指定しません。

【参考書】
多くの文献や史料を参考にしますので、各回の授業内で適宜紹介いたします。

【成績評価の方法と基準】
中間リポート（30％）、メディアスクーリング試験（70％）

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【Outline (in English)】
【Course outline】　This lecture examines how to use old maps and image materials in historical geography. 【Learning Objectives】 The goals of this
course is to understand research methods in historical geography.
【Learning activities outside of classroom】Your study time will be more than four hours for class.
【Grading Criteria】Mid-term report (30%) and term-exam(70%).

GEO200TE（地理学 / Geography 200）

地学概論(Ⅱ)(後期メディア)

宍倉　正展

カテゴリー：**後期メディア**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**後期**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「地学」は地球とそれを構成する岩石圏、気圏、水圏を対象とする自然科学の総称であり、学校教育においては天文分野も含まれる。本講義は地学概論Ⅰから続くものであり、おもに地球表面で起こると諸現象と人間活動について学び、地学の自然科学的な側面だけでなく、それが及ぼす自然災害の影響評価など社会学的な貢献についても習得する。

【到達目標】
地球上に住む生命がどのように誕生して進化してきたのか、また大気や海洋の構造やその変化がもたらす気候変動、そして地震や火山噴火など地球上での様々な現象によってもたらされる自然災害といった、地球と人類との関係を理解することを目標とする。また普段から地学に関連したニュースや科学番組に接し、教科書の範囲を超えた科学の最新事情を知る姿勢を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
宇宙から始まり、地球の構造と構成物質、地球内部から働く営力としてプレートテクトニクスとそれに付随する地震、地殻変動、火山活動について紹介していく。秋学期（２）では地球表層で起こる様々な事象を取り上げ、生命の歴史から気候変動、自然災害等について説明する。中間課題に対しては、①採点もしくは個別評価・添削、②全体講評、③模範解答や優秀リポート等の掲示、のうちいずれかを実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	地球表層の諸現象（ガイダンス）	地学概論Ⅱで学ぶ地球表層の現象と人間活動についてダイジェストで紹介する。
第2回	地球誕生からの歴史1	地球誕生46億年の歴史のうち地球ができてから多様な生命が誕生するまでを説明する。
第3回	地球誕生からの歴史2	地球誕生46億年の歴史のうちおもに古生代以降の生命の進化について説明する。
第4回	大気と海洋	大気と海洋の構造、表層や深層の循環などについて説明する。
第5回	気候変動１	おもに第四紀の氷期・間氷期サイクルとそのメカニズムについて説明する。
第6回	気候変動２	歴史時代の気候変動や現在の地球温暖化について考える。
第7回	侵食と堆積1	地球表層で生じる外的作用としておもに山の侵食を司る斜面移動や氷河地形について説明。
第8回	侵食と堆積2	地球表層で生じる外的作用としておもに川の侵食と堆積について説明。
第9回	侵食と堆積３	地球表層で生じる外的作用として海岸や海底の侵食・堆積について説明。
第10回	気象災害	台風など大雨を誘引とした斜面崩壊や河川氾濫による災害について考える。
第11回	地震災害	地震の揺れに伴う液状化や活断層による地盤の変位などの災害について考える。
第12回	津波災害	津波の浸水による災害と防災対策について考える。
第13回	火山災害	火山噴火に伴う災害と防災対策について考える.
第14回	防災教育と地学	地学の防災上の意義と社会的貢献について説明する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
普段から自然災害のニュースや行政の防災施策などに関する最近の話題を新聞、雑誌、インターネットなど媒体を問わず各自で情報収集し、リポート作成等に役立てる。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
テキストは特に定めない。

【参考書】
「改訂版　視覚でとらえるフォトサイエンス地学図録」数研出版
https://www.chart.co.jp/goods/item/rika/35056.php
宍倉正展「巨大地震をほり起こす」少年写真新聞社
http://www.schoolpress.co.jp/s-293/
大木聖子「地球の声に耳をすませて」くもん出版
http://kumonshuppan.com/ehon/ehon-syousai/?code=34518

【成績評価の方法と基準】
中間リポート（30％）
メディアスクーリング試験（70％）

【学生の意見等からの気づき】
新聞記事やネットニュースでの地学関連トピックについての質問をいただいている。授業内容に限らず地学に関する質問は随時受け付ける。

【Outline (in English)】
【Course outline】
Geoscience is generally known as a natural science covering the earth and its lithosphere, atmosphere, and hydrosphere, including astronomy in the case of school education. This course is a continuation of Chigaku-Gairon-I (Introduction to Geoscience I). Students will learn not only the natural science aspects of geoscience, but also the sociological contributions of geoscience, such as the assessment of the impact of natural disasters on human activities.
【Learning Objectives】
The goal is to understand the relationship between the Earth and humankind, including how life on Earth was born and evolved, the structure of the atmosphere and oceans, climate change caused by changes in these structures, and natural disasters brought about by earthquakes, volcanic eruptions, and various other phenomena on the Earth. In addition, students will be exposed to news and science programs related to geoscience on a regular basis and will acquire an attitude of knowing the latest developments in science beyond the scope of ordinary textbooks.
【Learning activities outside of classroom】
Students are expected to gather information on recent topics related to natural disaster news and government disaster prevention measures through newspapers, magazines, the Internet, and other media, and use this information to prepare reports and other materials. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
【Grading Criteria /Policy】
Mid-term report (30%)
Media schooling examination (70%)

GEO300TE（地理学 / Geography 300）

自然地理学(地形)(Ⅱ)(後期メディア)

前杢　英明

カテゴリー：**後期メディア**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**後期**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
自然地理学に関連する諸分野のうち、地形学に関する基本的な知識、考え方、研究成果等について、体系的に解説する。

【到達目標】
いつも漫然と見ていたなんでもない地形が、本授業を受講することにより、ダイナミックな地形形成過程を、風景の背後に想像できるようになること、また地形・地質学的タイムスケールで考えられるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
地形とは何かについて地球規模で確認することからはじめ、地形を形成する作用ごとに、地形形成の実例を紹介していく。秋学期（2）では主に「内作用」とよばれる地球内部の熱エネルギーを源とした地形形成作用について取り上げる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	地形と生活（導入）	本授業全体の概要。日本列島の地球規模からみた位置。
第2回	プレートテクトニクスと大地形（1）	プレートテクトニクス理論が発見された歴史、その概要を説明する。
第3回	プレートテクトニクスと大地形（2）	地球の内部構造とプレート運動の原動力、プリュームテクトニクスについて概説する。
第4回	プレートテクトニクスと大地形（3）	プレートテクトニクスによって出来る地形、内作用と変動帯、広域的地殻変動などを概説する。
第5回	断層と断層変位地形	断層とは何か？ 断層によって作られる地形にはどのようなものがあるのか？
第6回	活断層と地震	断層運動と地震の関係、それによって地表面に現れる新鮮な断層変位地形。
第7回	津波の原理と過去の津波	津波と普通の波は何が違うのか？ 過去に発生した津波を地形や地質から明らかにする方法。
第8回	火山活動と火山地形	火山とマグマの関係、噴火の様式、様々な火山地形
第9回	気候変化と氷河性海水準変動	10万年スケールでの気候変化と海水準変動
第10回	氷河性海水準変動と海成段丘	10万～数1000年スケールで変動する海水準変動と海成段丘の形成のメカニズム
第11回	地震性地殻変動による隆起海岸地形と過去の巨大地震	日本のような変動帯には、沿岸で発生する巨大地震により海岸が隆起し、その地形が保存されている。それらを紹介し、過去の地震を解き明かす過程を概説する。
第12回	アイソスタシーによる海岸地形の変動	海水や氷床変動により、陸地は変動する。それらによってどのような地形が形成され、どのようなことがわかるのか概説する。
第13回	広域火山灰と地形研究	地形の編年学的研究に大きな影響をあたえた火山灰編年学について概説する。
第14回	年代測定法	地形研究で利用されるいくつかの代表的な年代測定法について解説する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
日本や世界の独特な地形､美しい地形に興味を持ち、参考書、写真集、ＤＶＤ教材等を見ることによって、自ら授業への動機付けを行うこと。
本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
使用しない

【参考書】
『写真と図で見る地形学』（復刻版）太田陽子ほか、東京大学出版会、2007年
『日本列島の地形学』太田陽子ほか、東京大学出版会、2010年
『建設技術者のための地形図読図入門1～4巻』鈴木隆介、古今書院、1997～
『図説地球科学』杉村　新ほか、岩波書店、1988
『地震と断層』島崎邦彦・松田時彦、東京大学出版会、1994
『大地の動きをさぐる』杉村　新、岩波科学の本、1973
『プレートテクトニクス』上田誠也、岩波書店、1989
『変動する地球』笠原慶一・杉村　新、岩波地球科学選書、1991
『火山とプレートテクトニクス』中村一明、東京大学出版会、1989

【成績評価の方法と基準】
メディアスクーリング試験（100％）

【学生の意見等からの気づき】
中間レポートの課題はなるべく後半のテーマからは出さないように気をつけたい。

【Outline (in English)】
The aim of this course is to get fundamental knowledge of geomorphology.The goals of this course are to understand land-form processes and to recognize geological time scale.Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.Final grade will be calculated according to the following process Mid-term report (30%) and term-end examination (70%).

GEO300TE（地理学 / Geography 300）

自然地理学(海洋・陸水)(Ⅱ)(後期メディア)

小寺　浩二

カテゴリー：**後期メディア**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**後期**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
自然地理学を学ぶ上で重要な一分野である「海洋・陸水学」について、系統的な知識の習得と応用能力の育成を目指す。講義の対象としては、国内の具体的な課題を中心とするが、海外の事例に関しても紹介する。

【到達目標】
海洋・陸水学、水文地理学、水文学の研究課題の基礎的知識の習得と、具体的な課題に取り組む上での応用能力を育成する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「法律学科：,DP3,DP5」「日本文学科：DP1,DP2」「史学科：DP1」「地理学科：DP1」「経済学科：DP4,DP5」「商業学科：自由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

【授業の進め方と方法】
本分野における学習を深め、岩圏・水圏・気圏・生物圏の複合領域においてさまざまな形で存在する地球上の水循環の過程における河川・湖沼などのあり方を、人間活動との関連を中心に、水収支・水循環の理論と応用から解釈する方法について紹介し、具体的な課題に取り組みながら考察を深める。
中間課題に対しては、①採点もしくは個別評価・添削、②全体講評、③模範解答や優秀リポート等の掲示、のうちいずれかを実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	海洋・陸水学の理論と応用	海洋・陸水学の基礎知識を踏まえて、高度な理論と応用を理解する
第2回	河川学の理論と応用	流域特性と流域GIS物質収支モデル
第3回	地下水学の理論と応用	水循環と地下水の挙動
第4回	湖沼学の理論と応用	湖沼の分類・熱収支・集水域の物質収支
第5回	雪氷学の理論と応用	降雪・積雪・融雪
第6回	海洋学の理論と応用	沿岸海域・閉鎖性水域
第7回	その他・水文科学の理論と応用	水文科学の基礎知識を踏まえて理論と応用を理解する。
第8回	調査研究事例（河川）	河川を対象とした研究事例から理論の実践を理解する。
第9回	調査研究事例（地下水）	地下水を対象とした研究事例から理論の実践を理解する。
第10回	調査研究事例（湖沼）	湖沼を対象とした研究事例から理論の実践を理解する。
第11回	調査研究事例（雪氷）	雪氷を対象とした研究事例から理論の実践を理解する。
第12回	調査研究事例（沿岸域・汽水域）	沿岸域・汽水域を対象とした研究事例から理論の実践を理解する。
第13回	調査研究事例（自然災害）	自然災害を対象とした研究事例から理論の実践を理解する。
第14回	調査研究事例（流域圏）	流域圏を対象とした研究事例から理論の実践を理解する。
第15回	水環境の諸問題・まとめ	その他の水環境の諸問題と海洋陸水学の理論の実践の総合的な理解を深める

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
水環境全般に関する情報を収集し、整理する。特に新聞記事に関しては、切り抜きし、指定された形式に沿って、要旨をまとめる。また、関連する研究会・シンポジウム・学会への出席を奨励する。
本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
小寺浩二・三井嘉都夫（2019）：『自然地理学（海洋・陸水）』,法政大学通信教育部

【参考書】
・小寺浩二（2020）：『自然地理学概論』,法政大学通信教育部
・地学団体研究会編（1995）：新版地学教育講座⑩『地球の水圏一海洋と陸水』，東海大学出版会，211p，￥2,700
・新井　正（1994）：『水環境調査の基礎』，古今書院，168p，￥2,700
授業ごとに、適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
中間レポート・最終レポートを総合して評価する。配点は、中間レポート45%、最終レポート55%を原則とするが、いずれにしても、総合して評価する。

【学生の意見等からの気づき】
地球規模や国外の事例よりも、国内の事例についての要望が多いため、国内の具体的な調査・研究事例を重点的に扱う。

【学生が準備すべき機器他】
基本的には、毎回PowerPointを活用して講義を進める。課題に取り組むにあたっては、基本的な情報リテラシーとGISに関する技量が必要である。

【その他の重要事項】
「水圏」に関する問題を系統的に扱う科目である。環境問題などを扱う上での系統的な専門知識が修得できるはずである。海洋陸水学Ⅰの履修を前提とし、あわせて自然地理学演習・地理情報システム（GIS）などを履修することが好ましい。
海洋・陸水学Ⅱは、原則として海洋・陸水学Ⅰを履修した後で履修して下さい。基礎を学んでいることを前提に、応用面に関する講義、課題に取り組むため、やむを得ずⅠを未履修ながら履修する場合は、事前にテキストなどで基礎的な学習を行っておくこと。
また、メディアスクーリングでは、中間レポートや最終レポートの提出時期が重なるため（通学でも同じではありますが）、余り多くの科目を同時履修することはさけることが好ましい。やむを得ない場合は、期限に余裕をもってレポートに取り組むなど、計画的な履修をしていただきたい。

【Outline (in English)】
We aim to acquire systematic knowledge and develop applied abilities regarding "ocean and terrestrial hydrology", which is an important field for studying natural geography. The lecture will focus on specific domestic issues, but will also introduce overseas cases.
The midterm and final reports will be evaluated comprehensively. In principle, the midterm report will be scored 45%and the final report 55%, but in any case, the evaluation will be based on the overall results.

GEO300TE（地理学 / Geography 300）

世界地誌(１)(アジア)(後期メディア)

小寺　浩二

カテゴリー：**後期メディア**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**後期**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地理学において、系統地理学と並び重要な「地誌学」の基礎を理解し、中でも世界地誌・広域地誌の対象地域としてのアジアの具体的な地誌を学び、様々な地域特性とその地誌としての記述方法について学習する。まず、世界の中のアジアを理解し、つぎに、アジアの個々の地域について概観する。

【到達目標】

わが国と地理的にもっとも近いアジアの自然と、そこに暮らす人々の生活を理解する。気候・地形・植生・水環境など様々な自然環境の特徴を中心とした「自然誌」の理解を前提に、文化・社会的な特徴についても理解し、地誌の記述方法についても学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：,DP3,DP5」「日本文学科：DP1,DP2」「史学科：DP1」「地理学科：DP1」「経済学科：DP4,DP5」「商業学科：自由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

【授業の進め方と方法】

アジア全体の概観から各諸地域、個別の国の地誌を講義する。古くからの資料を活用しながらも、最新の研究成果なども紹介し、古くて新しいアジアの現況を示す。

また、具体的なデータなどから、自ら理解する工夫なども行い、「地誌の記述」についての理解も深めるよう指導する。

中間課題に対しては、①採点もしくは個別評価・添削、②全体講評、③模範解答や優秀リポート等の掲示、のうちいずれかを実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり /Yes

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	講義概要・ガイダンス	講義の概要と授業の進め方について説明。 アジアの特殊性についての概要。
第2回	アジア総論（１） 位置・地質・地形	アジアの地理的位置・地質構造・大地形。
第3回	アジア総論（２） 水文・気候・植生	アジアの代表的な河川・湖沼と気候の特徴。アジアの植生の特徴と、地域区分を理解。
第4回	東アジア（１） 中国と台湾	隣国である中国と台湾について。 香港・マカオも
第5回	東アジア（２） モンゴル・韓国・北朝鮮・極東ロシア	中国と台湾以外の東アジアについて。
第6回	東南アジア（１） インドシナ半島	インドシナ半島の自然環境と諸国について。 タイ・
第7回	東南アジア（２） 東南アジアの島嶼国	東南アジアの島嶼国について。
第8回	南アジア（１） 南アジア全域・インド・スリランカ	南アジア全域とインド・スリランカの概要。
第9回	南アジア（２） インド・スリランカ以外の南アジア	パキスタン・バングラディッシュ・ネパールなど。
第10回	中央アジア（１） 全域・新疆ウイグル自治区・ウズベキスタン・カザフスタン	中央アジア全域・新疆ウイグル自治区・ウズベキスタン・カザフスタンの概要。
第11回	中央アジア（２） その他の中央アジア	キルギス・タジキスタン・トルクメニスタンなど。
第12回	西アジア（１）	アフガニスタン・イラン・イラク・トルコ・キプロス
第13回	西アジア（２）	サウジアラビア・クゥエート・カタール・アラブ首長国連邦・オマーン・イエメン
第14回	西アジア（３）	シリア・ヨルダン・レバノン・イスラエル・エジプト・コーカサス
第15回	まとめ アジア地域の地誌総括	講義で紹介したアジア地域の地誌を総括する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

普段からアジア全域の動きに注目し、テレビのニュースや新聞の記事には、つねに問題意識を持つようにしてほしい。また、特に講義を受けた後の復習に力を注いで頂きたい。

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

多田文男(1972)：『世界地誌Ⅰ(アジア)』,法政大学通信教育部,291p.
古い教科書であるため、その他の図書も参考に。

【参考書】

河野通博編(1991)：世界地誌ゼミナールⅠ『新訂 東アジア』,大明堂，242p.
岩田慶治編(1972)：世界地誌ゼミナールⅡ『南アジア』,大明堂,212p.
など。
講義の度に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

中間レポート（40%）と最終レポート(60%)の総合評価。

【学生の意見等からの気づき】

資料や映像などをなるべく多く活用してわかりやすい講義とする。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

メディアスクーリングでは、中間レポートや最終レポートの提出時期が重なるため（通学でも同じではありますが)、余り多くの科目を同時履修することはさけることが好ましい。やむを得ない場合は、期限に余裕をもってレポートに取り組むなど、計画的な履修をしていただきたい。

【Outline (in English)】

In geography, understanding the basics of "geography" which is as important as systematic geography, and in particular learning the concrete topography of Asia as the target area of the world topography and wide-area topography, various regional characteristics and its topography Learn how to write. First, we will understand Asia in the world, and then we will give an overview of the individual regions of Asia.

Comprehensive assessment includes a midterm report (40%) and a final report (60%).

GEO300TE（地理学 / Geography 300）

地図学(Ⅱ)(後期メディア)

若林　芳樹

カテゴリー：**後期メディア**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**後期**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
デジタル化によって進化した地図や地理空間情報を使いこなすためには、GIS（地理情報システム）について理解する必要がある。この授業では、GISで地図を作成・利用するのに必要な地図学・地理情報科学の知識と技術を学び、その応用の仕方を修得することを目標とする。

【到達目標】
1）地図の基礎的事項を理解した上で、GISを用いて地図が作成できる。
2）地理空間情報の基本構造と利用の仕方を理解し、活用する技能を修得する。
3）社会との関わりでみたGISの役割を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP3,DP5」「日本文学科：DP1,DP2」「史学科：DP1」「地理学科：DP1」「経済学科：DP4,DP5」「商業学科：自由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

【授業の進め方と方法】
最初に、地図のデジタル化にともなってGISが登場した背景と発展の過程をたどり、地理空間情報の基本構造とGISの基本機能と活用方法を解説する。後半では、ウェブGISとフリーソフトを用いて実際にPCでGISを利用するとともに、社会での応用の仕方を学ぶ。最後に、この授業で学習したGISの知識と技術をふまえて、各自で地図を作成し、その利用の仕方を考えてもらう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	地理空間情報としての地図、授業計画
第2回	地理空間をデータ化する方法	GNSS、ジオコーディング、ベクトルとラスター
第3回	地理空間情報の特質	地理行列、空間的自己相関、可変地域単位問題
第4回	GISの機能	空間検索、空間解析、可視化
第5回	GISと空間的思考	空間的概念、空間的表現、空間的推論
第6回	参加型GIS	OpenStreetMap、ボランティア地理情報
第7回	ウェブ地図の利用（1）	地理院地図
第8回	ウェブ地図の利用（2）	今昔マップ、Google Maps/Earth、ハザードマップ（国交省，NHK）
第9回	ウェブGISの利用	jSTAT MAP，RESAS
第10回	オープンデータの利用	国土数値情報、統計GIS、基盤地図情報
第11回	MANDARAによる地図作成	インストール、データ作成、地図描画
第12回	QGISによる地図作成（1）	インストール，データ作成、地理座標系、地図描画
第13回	QGISによる地図作成（2）	バッファ，ボロノイ図、オーバーレイ
第14回	GISが切り開く未来	Society5.0、スマートシティ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
身の回りにあるGISの応用技術を探して実際に使ってみる。またウェブ地図や簡易GISを操作して、その内容・表現・用途を吟味しながら地図を作成する。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
使用しない

【参考書】
『GIS地理情報システム』（矢野桂司著、創元社、2021年）、『地理情報科学―GISスタンダード―』（浅見泰司ほか編著、古今書院、2015年）、『増補版　フリーGISソフトMANDARA10入門』（谷　謙二著、古今書院、2022年）、『QGIS入門　第3版』（今木洋大・伊勢紀著、古今書院、2022年）

【成績評価の方法と基準】
小テスト60％、レポート40％で総合評価

【学生の意見等からの気づき】
とくになし

【学生が準備すべき機器他】
インターネットに接続できるパソコン，EXCELの操作ができること．

【Outline (in English)】
With the progress of digitization, it is necessary to understand GIS (geographic information systems) to make full use of maps and geospatial information. The aim of this class is to learn the knowledge and skills of cartography and geographic information science necessary to create and use maps with GIS, and to learn how to apply them properly. Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than two hours for a class. Final grade will be calculated according to the following process: mid-term report (60%) and term-end examination (40%).

GEO200TE（地理学 / Geography 200）

自然地理学特講(人間の生活と気候)(後期メディア)

狩野　真規

カテゴリー：**後期メディア**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**後期**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
大気中で起きている現象について、様々なスケールから注目し、日々の生活と気候との関係性について考える。

【到達目標】
1. 講義で扱った現象やその成因を説明できる。
2. 身の回りで起きていたり、注目されている事象へ応用できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「法律学科：,DP3,DP5」「日本文学科：DP1,DP2」「史学科：DP1」「地理学科：DP1」「経済学科：DP4,DP5」「商業学科：自由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

【授業の進め方と方法】
一回ごとにテーマを絞り、それらについて講義を進める。映像（講義）を見終わったら確認テストを実施してもらい、内容の定着度を確認する。Web上の映像を見る形なので、映像（講義）の内容に関して適宜ディスカッションのコーナーで話題などを投げかけるつもりなので、積極的な発言を期待する。
中間リポートに対しては、個別に添削を実施する予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	Introduction	地理学や気候学について、その存在意義を考える。
第2回	放射収支とその仕組み	地表における気温の定まる仕組みを考える。
第3回	気候変動　その成因について	近年の温暖化の原因とその影響などを考える。
第4回	気候変動　過去の変動の実態	過去の気候変動を探る。
第5回	食料生産と気候・気象に関して	気象と農業生産との接点を探りつつ、将来への展望について考える。
第6回	豪雨・豪雪に関して	日本における災害の原因ともなる降水現象を考える。
第7回	何故、日本の夏は暑いのか？	熱的ストレスの原因となる日本の猛暑について考える。
第8回	山岳の気候・気象について	山岳地域の気候と気象が原因の山の事故について探る。
第9回	統計データの扱い方	平均値をはじめとする気候値の見方を考える。
第10回	気候景観について	気候により形作られる景色について探り、地理的な視点を養う。
第11回	小気候現象について	生活空間で発現する現象について考えていく。
第12回	都市気候　その実態	ヒートアイランド現象の実態や成因などについて考える。
第13回	都市気候　その緩和策	熱的な影響が大きい都市での緩和策について考える。
第14回	これまでのまとめ	ここまでの取り扱いの内容から、改めて大気現象と生活との接点を探る。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
履修にあたり、教科書は特に指定はしない。ただし、気候学・気象学に関連する文献はいろいろと手に取るべきであろう。あえてあげるならば『身近な気象の科学　熱エネルギーの流れ』（近藤純正、東京大学出版 、1987年）などから読み始めるといいであろう。
また、自然地理学についてこれまで関心の無かった場合は入門書として、地理学基礎シリーズ2『自然地理学概論』（高橋日出男・小泉武栄編、朝倉出版 、2008年）などを手に取るといいかもしれない（ただし、この文献は自然地理学全般を取り扱っている）。
その他に本学通信教育課程テキストの『自然地理学（気候・気象）』（佐藤典人、法政大学出版、2015年）などを手に取ってみると良い。
本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特に指定しない

【参考書】
『身近な気象の科学　熱エネルギーの流れ』（近藤純正、東京大学出版 、1987年）
地理学基礎シリーズ2『自然地理学概論』（高橋日出男・小泉武栄編、朝倉出版 、2008年）
『自然地理学（気候・気象）』（佐藤典人、法政大学出版（本学通信教育課程テキスト）、2015年）

【成績評価の方法と基準】
今年度は中間リポート提出と期末テストの受験の双方が必須となる。リポートの評価基準については以下の通りとする。
まず、講義の内容を正しく理解できていることが確認できるリポートが書けているかを重視する。特に、講義で学んだ内容に関連した事象について、その原理や付随する問題を論理的に説明しているリポートとしてまとめられているかが求められる。また、リポートの体裁（原稿用紙の使い方に準じているか、参考文献を適切に明示しているか、制限字数を意識しているかなど）も評価に関わるので注意してもらいたい。
次に、期末テストであるが、基本的には講義内容を元に出題するので、中間リポートと同様に講義内容の理解が大切であるが、応用問題も含まれるので内容を記憶するだけの学習では対応できないことがあるので注意すること。
評価の比率は中間リポートが40%、期末テストが60%である。
また、ディスカッションでの発言内容が他の受講生にも参考になるようなものがあれば加点することもある。
最後に、教室に赴いて受講することの代わりなのだから、しっかりとした受講が前提である。よって、視聴履歴がしっかりついていない場合には単位認定を行わないこともある。要は、しっかり取り組むことが大切である。

【学生の意見等からの気づき】
授業アンケートへの回答数が豊富ではないものの、これまでの意見をいくつか挙げると、個々のリポートに赤を入れたうえでコメントをつけて返却されたことで今後の学習への参考になったという声や、季節の推移と講義内容を絡めた話題を適宜ディスカッションで投げかけられたことが双方向の授業であることを意識できたなど、好意的なコメントをいただけた。これらを受けて今年度も同じような進め方を継続したい。一方で、フィールドワークなどが実施されないことに不満を感じたという意見もあったが、オンデマンドでのオンライン受講であったり、海外にも受講者がいる場合には対応ができないなどの課題が解決できないため、今後もその対応については難しいので、ご容赦いただきたい。

【Outline (in English)】
This course introduces the relationship between daily life and climate on various scale phenomena occurring in the atmosphere.
The goals of this course are to
(1)Be able to explain the phenomena in the atmosphere and theories of the phenomena.
(2)Apply theories or findings to real world situations.
Grading Criteria /Policy
Your final grade will be calculated according to the following process: Mid-term report (40%), term-end examination (60%)

ECN100TF（経済学 / Economics 100）

経済学入門B（後期メディア）

ブー　トウン　カイ

カテゴリー：**後期メディア**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**後期**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義の目的はマクロ経済学の基礎を学ぶことである。マクロ経済学とは経済全体を研究対象とする経済学の一分野である。本講義では、マクロ経済の指標の理解や活用、景気変動やインフレーション、失業、経済成長、外国経済との相互作用などの現象やその背後にあるメカニズム、さらに金融政策や財政政策などのマクロ経済政策について学ぶ。

【到達目標】
コースを通して、受講者がマクロ経済の指標、マクロ経済の働き、マクロ経済政策が果たしうる役割などについてしっかりと理解できるようになること、さらに、現実のマクロ経済問題に関心を持ち、その理解を応用して問題を分析できるようになることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
【授業の進め方と方法】
教員が、テキストに基づき作成したスライドの講義ノートをもとに授業を進める。講義ノートは受講者が事前にダウンロードできる。
【課題等に対するフィードバック方法】
毎回の授業の後、受講者は理解を確認するためにテキストの該当する章末の練習問題を解くことを勧められる。なお、巻末に掲載されている練習問題の解答を使って、自らの答えの正誤をチェックすることができる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	マクロ経済学の紹介	マクロ経済学の対象や考え方、分析方法など
2	マクロ経済を観察する（1）	経済規模（GDP）の計測
3	マクロ経済を観察する（2）	物価・労働・景気の計測
4	マクロ経済を支える金融市場	金融市場の仕組みや役割
5	マクロ経済における貨幣と中央銀行	貨幣の機能と中央銀行の役割
6	財政	財政の仕組みと機能
7	マクロ経済学の基本モデル（1）	消費と所得、GDPの決定
8	マクロ経済学の基本モデル（2）	投資と金利、貨幣市場と金利、IS-LMモデル
9	景気変動とマクロ経済政策	総需要・総供給モデルを用いる総生産と物価の決定の分析
10	インフレとデフレ	物価変動の影響と決定要因
11	国際収支	対外取引の計測、外国為替市場と為替レート
12	為替レートとマクロ経済	金利平価と為替レートの決定、外国経済と自国経済との関わり
13	経済成長	経済成長の定義や実際、メカニズム
14	資産価格	日本経済のバブルとその崩壊、資産価格の決まり方

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。毎回の授業で必ず講義ノートやテキストの該当する箇所を復習したうえで、テキストの章末の練習問題を解き、自らの理解を確認しておくと望ましい。

【テキスト（教科書）】
『マクロ経済学 – 入門の「一歩前」から応用まで 第3版』、平口良司・稲葉大 著、有斐閣 2023年.

【参考書】
1.『やさしいマクロ経済学』、塩路悦朗 著、日経BPマーケティング（日本経済新聞出版）; New版 2019年.
2.『コア・テキスト マクロ経済学　第2版』、宮尾龍蔵 著、新世社 2017年.
3.『マクロ経済学・入門 第6版』（有斐閣アルマ Basic）、福田慎一・照山博司 著、有斐閣 2023年.
4.『マンキュー マクロ経済学I 入門篇(第5版)』、N・グレゴリー・マンキュー 著、足立英之・地主敏樹・中谷武・柳川隆 翻訳、 東洋経済新報社 2024年.
5. 上の4. の続編『マンキュー マクロ経済学Ⅱ 応用篇(第5版)』.

【成績評価の方法と基準】
以下の通りに中間試験と期末試験の結果に基づいて成績評価を行う。
中間試験： 40%、学期末試験： 60%.

【学生の意見等からの気づき】
アンケートや毎回の授業に対する学生の反応や意見、あるいは課題の解答から見える受講者の理解度に基づき、授業の内容や進行を適切に変更することがある。

【学生が準備すべき機器他】
録画動画による講義であるので、その対応できる機器（パソコンなど）を準備しておくこと。

【その他の重要事項】
1.「経済学入門A」の履修、若しくは入門レベルのミクロ経済学の学習（独学も含め）をしてから本講義を履修すると望ましい。
2. 大学での学びの特徴の一つは、体系的な知識の習得である。その過程で、学習内容を理解し、思考能力を形成するためには、コンスタントに勉強に取り組むことがとても大切である。「塵も積もれば山となる」という諺のごとく、日々の努力の積み重ねがやがて大きな成果につながる。

【Outline (in English)】
Course outline: The purpose of this course is to provide a basic introduction to macroeconomics. Macroeconomics is a branch of economics that studies the economy as a whole. In this course, students will learn about macroeconomic indicators; macroeconomic phenomena such as business cycle fluctuations, inflation, unemployment, economic growth, and interactions between domestic and foreign economies, as well as the mechanisms behind these phenomena; and macroeconomic policies such as monetary and fiscal policy.
Learning objectives: Through the course, students are expected to acquire firm understandings about macroeconomic indicators, how the macroeconomy works, and the role that macroeconomic policy can play. Students are also expected to have an interest in macroeconomic issues in reality and be able to apply their understandings to analyze these issues.
Learning activities outside of classroom: To deepen understanding, the students are expected to read the class materials (lecture notes, textbooks, and other materials) after each lecture. Also, homework is assigned frequently. It is expected that at least 4 hours of study time will be required for study outside of class time.
Grading criteria: Grading is based on the students' homework and final report performance with weights being 40%and 60%, respectively.

ECN100TF（経済学 / Economics 100）

経済学入門Ⅱ (後期メディア)

ブー　トウン　カイ

カテゴリー：**後期メディア**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**後期**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義の目的はマクロ経済学の基礎を学ぶことである。マクロ経済学とは経済全体を研究対象とする経済学の一分野である。本講義では、マクロ経済の指標の理解や活用、景気変動やインフレーション、失業、経済成長、外国経済との相互作用などの現象やその背後にあるメカニズム、さらに金融政策や財政政策などのマクロ経済政策について学ぶ。

【到達目標】
コースを通して、受講者がマクロ経済の指標、マクロ経済の働き、マクロ経済政策が果たしうる役割などについてしっかりと理解できるようになること、さらに、現実のマクロ経済問題に関心を持ち、その理解を応用して問題を分析できるようになることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
【授業の進め方と方法】
教員が、テキストに基づき作成したスライドの講義ノートをもとに授業を進める。講義ノートは受講者が事前にダウンロードできる。
【課題等に対するフィードバック方法】
毎回の授業の後、受講者は理解を確認するためにテキストの該当する章末の練習問題を解くことを勧められる。なお、巻末に掲載されている練習問題の解答を使って、自らの答えの正誤をチェックすることができる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	マクロ経済学の紹介	マクロ経済学の対象や考え方、分析方法など
2	マクロ経済を観察する（1）	経済規模（GDP）の計測
3	マクロ経済を観察する（2）	物価・労働・景気の計測
4	マクロ経済を支える金融市場	金融市場の仕組みや役割
5	マクロ経済における貨幣と中央銀行	貨幣の機能と中央銀行の役割
6	財政	財政の仕組みと機能
7	マクロ経済学の基本モデル（1）	消費と所得、GDPの決定
8	マクロ経済学の基本モデル（2）	投資と金利、貨幣市場と金利、IS-LMモデル
9	景気変動とマクロ経済政策	総需要・総供給モデルを用いる総生産と物価の決定の分析
10	インフレとデフレ	物価変動の影響と決定要因
11	国際収支	対外取引の計測、外国為替市場と為替レート
12	為替レートとマクロ経済	金利平価と為替レートの決定、外国経済と自国経済との関わり
13	経済成長	経済成長の定義や実際、メカニズム
14	資産価格	日本経済のバブルとその崩壊、資産価格の決まり方

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。毎回の授業で必ず講義ノートやテキストの該当する箇所を復習したうえで、テキストの章末の練習問題を解き、自らの理解を確認しておくと望ましい。

【テキスト（教科書）】
『マクロ経済学 – 入門の「一歩前」から応用まで 第3版』、平口良司・稲葉大 著、有斐閣 2023年.

【参考書】
1.『やさしいマクロ経済学』、塩路悦朗 著、日経BPマーケティング（日本経済新聞出版）; New版 2019年.
2.『コア・テキスト マクロ経済学　第2版』、宮尾龍蔵 著、新世社 2017年.
3.『マクロ経済学・入門 第6版』（有斐閣アルマ Basic）、福田慎一・照山博司 著、有斐閣 2023年.
4.『マンキュー マクロ経済学I 入門篇(第5版)』、N・グレゴリー・マンキュー 著、足立英之・地主敏樹・中谷武・柳川隆 翻訳、 東洋経済新報社 2024年.
5. 上の4. の続編『マンキュー マクロ経済学Ⅱ 応用篇(第5版)』.

【成績評価の方法と基準】
以下の通りに中間試験と期末試験の結果に基づいて成績評価を行う。
中間試験： 40%、学期末試験： 60%.

【学生の意見等からの気づき】
アンケートや毎回の授業に対する学生の反応や意見、あるいは課題の解答から見える受講者の理解度に基づき、授業の内容や進行を適切に変更することがある。

【学生が準備すべき機器他】
録画動画による講義であるので、その対応できる機器（パソコンなど）を準備しておくこと。

【その他の重要事項】
1.「経済学入門A」の履修、若しくは入門レベルのミクロ経済学の学習（独学も含め）をしてから本講義を履修すると望ましい。
2. 大学での学びの特徴の一つは、体系的な知識の習得である。その過程で、学習内容を理解し、思考能力を形成するためには、コンスタントに勉強に取り組むことがとても大切である。「塵も積もれば山となる」という諺のごとく、日々の努力の積み重ねがやがて大きな成果につながる。

【Outline (in English)】
Course outline: The purpose of this course is to provide a basic introduction to macroeconomics. Macroeconomics is a branch of economics that studies the economy as a whole. In this course, students will learn about macroeconomic indicators; macroeconomic phenomena such as business cycle fluctuations, inflation, unemployment, economic growth, and interactions between domestic and foreign economies, as well as the mechanisms behind these phenomena; and macroeconomic policies such as monetary and fiscal policy.
Learning objectives: Through the course, students are expected to acquire firm understandings about macroeconomic indicators, how the macroeconomy works, and the role that macroeconomic policy can play. Students are also expected to have an interest in macroeconomic issues in reality and be able to apply their understandings to analyze these issues.
Learning activities outside of classroom: To deepen understanding, the students are expected to read the class materials (lecture notes, textbooks, and other materials) after each lecture. Also, homework is assigned frequently. It is expected that at least 4 hours of study time will be required for study outside of class time.
Grading criteria: Grading is based on the students' homework and final report performance with weights being 40%and 60%, respectively.

ECN200TF（経済学 / Economics 200）

金融論B(後期メディア)

武田　浩一

カテゴリー：**後期メディア**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**後期**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この講義では，金融の基本的な仕組みを知り，金融や経済に関する身近な問題を考えるときに金融の基礎理論がいかに役立つかを学ぶ。講義の目的は，初めて金融を学ぶ学生が，まず金融の面白さに触れ，さらに現実の金融問題を理解し自ら考察するために必要となる基本的な考え方の枠組みを身につけることである。

【到達目標】
この講義の最終的な目標は，現実の金融問題を理解し自ら考察するために必要となる基本的な考え方の枠組みを修得することである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP3,DP5」「日本文学科：DP1,DP2」「史学科：DP1」「地理学科：DP1,DP2,DP3」「経済学科：DP1,DP4,DP5」「商業学科：経済学」に関連

【授業の進め方と方法】
金融市場の動向や金融取引の仕組み，貸出市場とメインバンク，新しい金融環境下での金融監督・規制などについて主に解説する。金融取引は，近年の急速な金融技術革新の進展に伴って国境や伝統的な業態の枠を越えて行われるようになっており，従来からの業態や規制の体系に依拠した枠組みでは的確にその鳥瞰図を描くことが困難になりつつあるが，この講義では，金融の基本的な機能に立ち返って金融システムについて議論することによって，金融市場はどのように機能し，そこで市場参加者はどのように行動しているのか，また市場の変化に金融監督・規制がどのように対応しようとしているのか，などのテーマについて新しい視点から俯瞰してゆく。
中間課題に対しては、システム上で採点を実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	金融市場と金融取引	金融市場とは何か
第2回	金融市場	短期金融市場について
第3回	債券市場と株式市場	長期金融市場について
第4回	外国為替市場	外国為替市場について
第5回	金融派生商品市場	金融派生商品市場について
第6回	資産証券化	資産証券化とは何か
第7回	貸出市場とメインバンク	銀行貸出市場の特徴と日本のメインバンクについて
第8回	金融システムと中央銀行	金融システムにおける中央銀行の役割
第9回	金融システムの安定性と監督・規制①	金融システムの安定性とプルーデンス政策について
第10回	金融システムの安定性と監督・規制②	自己資本比率規制とセーフティーネットについて
第11回	アメリカの金融システム	アメリカの金融システムの特徴について
第12回	ヨーロッパの金融システム	ヨーロッパの経済通貨統合について
第13回	金融と情報の非対称性	金融取引における情報の非対称性について
第14回	金融政策	金融政策の目的、手段、およびメカニズムについて

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義では先に説明した知識を後の説明のときに使うので，講義で分からないことがあるときには，テキストを活用するなどして十分に復習して，次の講義までに分からないことを持ち越さないように心がけること。
本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
酒井良清・鹿野嘉昭『金融システム』第4版（有斐閣，2011年刊，2,200円）

【参考書】
特になし

【成績評価の方法と基準】
成績は試験によって評価する。メディアスクーリング試験（配分90％）だけでなく中間テスト（配分10％）も受講すること。
授業への出席が単位認定の前提条件となる。全てのメディアコンテンツを視聴・学習して小テストを受講した上で中間テストやメディアスクーリング試験を受講すること。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【Outline (in English)】
This is a course on the economics of money, banking and financial markets. The course aims to provide the students with an introduction to the role of money, financial markets, financial institutions, and monetary policy in the economy.
Students will be expected to have completed the required assignments after classes. Your study time will be more than four hours for a class. Your overall grade in the class will be decided based on Term-end examination (90%) and Mid-term examinations (10%).

ECN200TF（経済学 / Economics 200）

金融論Ⅱ (後期メディア)

武田　浩一

カテゴリー：**後期メディア**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**後期**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この講義では，金融の基本的な仕組みを知り，金融や経済に関する身近な問題を考えるときに金融の基礎理論がいかに役立つかを学ぶ。講義の目的は，初めて金融を学ぶ学生が，まず金融の面白さに触れ，さらに現実の金融問題を理解し自ら考察するために必要となる基本的な考え方の枠組みを身につけることである。

【到達目標】
この講義の最終的な目標は，現実の金融問題を理解し自ら考察するために必要となる基本的な考え方の枠組みを修得することである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP3,DP5」「日本文学科：DP1,DP2」「史学科：DP1」「地理学科：DP1,DP2,DP3」「経済学科：DP1,DP4,DP5」「商業学科：経済学」に関連

【授業の進め方と方法】
金融市場の動向や金融取引の仕組み，貸出市場とメインバンク，新しい金融環境下での金融監督・規制などについて主に解説する。金融取引は，近年の急速な金融技術革新の進展に伴って国境や伝統的な業態の枠を越えて行われるようになっており，従来からの業態や規制の体系に依拠した枠組みでは的確にその鳥瞰図を描くことが困難になりつつあるが，この講義では，金融の基本的な機能に立ち返って金融システムについて議論することによって，金融市場はどのように機能し，そこで市場参加者はどのように行動しているのか，また市場の変化に金融監督・規制がどのように対応しようとしているのか，などのテーマについて新しい視点から俯瞰してゆく。
中間課題に対しては、システム上で採点を実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	金融市場と金融取引	金融市場とは何か
第2回	金融市場	短期金融市場について
第3回	債券市場と株式市場	長期金融市場について
第4回	外国為替市場	外国為替市場について
第5回	金融派生商品市場	金融派生商品市場について
第6回	資産証券化	資産証券化とは何か
第7回	貸出市場とメインバンク	銀行貸出市場の特徴と日本のメインバンクについて
第8回	金融システムと中央銀行	金融システムにおける中央銀行の役割
第9回	金融システムの安定性と監督・規制①	金融システムの安定性とプルーデンス政策について
第10回	金融システムの安定性と監督・規制②	自己資本比率規制とセーフティーネットについて
第11回	アメリカの金融システム	アメリカの金融システムの特徴について
第12回	ヨーロッパの金融システム	ヨーロッパの経済通貨統合について
第13回	金融と情報の非対称性	金融取引における情報の非対称性について
第14回	金融政策	金融政策の目的、手段、およびメカニズムについて

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義では先に説明した知識を後の説明のときに使うので，講義で分からないことがあるときには，テキストを活用するなどして十分に復習して，次の講義までに分からないことを持ち越さないように心がけること。
本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
酒井良清・鹿野嘉昭『金融システム』第4版（有斐閣，2011年刊，2,200円）

【参考書】
特になし

【成績評価の方法と基準】
成績は試験によって評価する。メディアスクーリング試験（配分90％）だけでなく中間テスト（配分10％）も受講すること。
授業への出席が単位認定の前提条件となる。全てのメディアコンテンツを視聴・学習して小テストを受講した上で中間テストやメディアスクーリング試験を受講すること。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【Outline (in English)】
This is a course on the economics of money, banking and financial markets. The course aims to provide the students with an introduction to the role of money, financial markets, financial institutions, and monetary policy in the economy.
Students will be expected to have completed the required assignments after classes. Your study time will be more than four hours for a class. Your overall grade in the class will be decided based on Term-end examination (90%) and Mid-term examinations (10%).

ECN300TF（経済学 / Economics 300）

経済政策論B(後期メディア)

酒井　正

カテゴリー：**後期メディア**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**後期**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
学生は、ミクロ経済学の応用として、雇用や教育、医療等に関する諸施策について理解を深めます。特に、エビデンスに基づいた議論をおこなえるようにします。

【到達目標】
受講者が、本講義を通じて、諸制度が直面している課題や論点を把握することができるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP3,DP5」「日本文学科：DP1,DP2」「史学科：DP1」「地理学科：DP1,DP2,DP3」「経済学科：DP1,DP4,DP5」「商業学科：経済学,自由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

【授業の進め方と方法】
諸施策について、理論的なフレームワークを紹介した後に、現実の状況を見てゆきます。ミクロ経済学の知識は必ずしも前提としませんが、理論の検討に（経済政策論Aよりも）多くの時間を割きます。また、諸施策を議論するのにあたって実証分析の結果を検討する必要があるため、実証分析手法のエッセンスについても紹介します。それらの中には、やや高度な内容も含まれます。
スライド資料にはいくつもの「問い」を提示するので、受講者自身でもその答を考えることが期待されます。
各回の小テストではシステム上で採点を実施し返却します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	実証分析の考え方	政策の効果を計測するための方法
2	労働供給のモデル（基礎）	労働供給モデルを理解する
3	労働供給のモデル（応用）	労働供給モデルを応用することで諸制度を分析する
4	外国人労働問題	外国人労働力の受け入れがもたらす影響を分析する
5	最低賃金制度	最低賃金制度の影響を理解する
6	差別の経済学	労働市場における差別を経済学的に分析する
7	賃金格差・雇用の二極化	賃金格差をもたらす諸要因について分析する
8	教育施策（1）	人的資本理論等について理解する
9	教育施策（2）	少人数学級等の個別の教育施策の効果に関する経済学の分析を紹介する
10	補償賃金格差	補償賃金格差の理論とその応用について見る
11	貧困	貧困の測定法や時間貧困について見る
12	医療サービスの特徴	需要面と供給面の双方から医療サービスの特徴について理解する
13	失業	失業の定義や失業の要因について見る
14	まとめ	本講義の整理とまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
学生は、講義内容をよく復習し、毎回、自分で議論を整理してみることが求められます。
本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
なし

【参考書】
特になし（関連する文献は各回の講義内で紹介）

【成績評価の方法と基準】
期末におこなうレポート（100%）によって評価します。

【学生の意見等からの気づき】
期末レポートについては、問題の趣旨を明確にするよう心がけます。

【Outline (in English)】
The goal of this course is to understand social policies by applying micro-economics to them. Empirical evidences from economic researches are mentioned in every lecture.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Grading will be decided based only on term paper (100%).

ECN300TF（経済学 / Economics 300）

経済政策論Ⅱ (後期メディア)

酒井　正

カテゴリー：**後期メディア**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**後期**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
学生は、ミクロ経済学の応用として、雇用や教育、医療等に関する諸施策について理解を深めます。特に、エビデンスに基づいた議論をおこなえるようにします。

【到達目標】
受講者が、本講義を通じて、諸制度が直面している課題や論点を把握することができるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP3,DP5」「日本文学科：DP1,DP2」「史学科：DP1」「地理学科：DP1,DP2,DP3」「経済学科：DP1,DP4,DP5」「商業学科：経済学,自由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

【授業の進め方と方法】
諸施策について、理論的なフレームワークを紹介した後に、現実の状況を見てゆきます。ミクロ経済学の知識は必ずしも前提としませんが、理論の検討に（経済政策論Aよりも）多くの時間を割きます。また、諸施策を議論するのにあたって実証分析の結果を検討する必要があるため、実証分析手法のエッセンスについても紹介します。それらの中には、やや高度な内容も含まれます。
スライド資料にはいくつもの「問い」を提示するので、受講者自身でもその答を考えることが期待されます。
各回の小テストではシステム上で採点を実施し返却します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	実証分析の考え方	政策の効果を計測するための方法
2	労働供給のモデル（基礎）	労働供給モデルを理解する
3	労働供給のモデル（応用）	労働供給モデルを応用することで諸制度を分析する
4	外国人労働問題	外国人労働力の受け入れがもたらす影響を分析する
5	最低賃金制度	最低賃金制度の影響を理解する
6	差別の経済学	労働市場における差別を経済学的に分析する
7	賃金格差・雇用の二極化	賃金格差をもたらす諸要因について分析する
8	教育施策（1）	人的資本理論等について理解する
9	教育施策（2）	少人数学級等の個別の教育施策の効果に関する経済学の分析を紹介する
10	補償賃金格差	補償賃金格差の理論とその応用について見る
11	貧困	貧困の測定法や時間貧困について見る
12	医療サービスの特徴	需要面と供給面の双方から医療サービスの特徴について理解する
13	失業	失業の定義や失業の要因について見る
14	まとめ	本講義の整理とまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
学生は、講義内容をよく復習し、毎回、自分で議論を整理してみることが求められます。
本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
なし

【参考書】
特になし（関連する文献は各回の講義内で紹介）

【成績評価の方法と基準】
期末におこなうレポート（100%）によって評価します。

【学生の意見等からの気づき】
期末レポートについては、問題の趣旨を明確にするよう心がけます。

【Outline (in English)】
The goal of this course is to understand social policies by applying micro-economics to them. Empirical evidences from economic researches are mentioned in every lecture.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Grading will be decided based only on term paper (100%).

ECN200TF（経済学 / Economics 200）

ミクロ経済学B(後期メディア)

平井　俊行

カテゴリー：**後期メディア**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**後期**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ミクロ経済学について学習する。ミクロ経済学B/現代経済学Ⅱでは不完全競争市場・外部性を学ぶ。これらの分析に必須となるゲーム理論の学習もおこなう。ゲーム理論やミクロ経済学はそれ自体重要であるが経済学の専門的なトピックを学ぶための基礎でもあるので、内容を確実に身に付ける。

【到達目標】
・ミクロ経済学・ゲーム理論の用語の定義を理解し、説明できるようになる。
・実際の経済事象を必要に応じて不完全市場・外部性の問題と関連づけて捉えることができる。
・ゲーム理論の分析手法で、少なくとも簡単なモデルを分析できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP3,DP5」「日本文学科：DP1,DP2」「史学科：DP1」「地理学科：DP1,DP2,DP3」「経済学科：DP1,DP3,DP4,DP5」「商業学科：経済学」に関連

【授業の進め方と方法】
講義形式でおこないます。講義スライドをメディアスクーリング受講システムにアップロードしておくので受講前に必ずダウンロードして、必要があれば印刷しておいてください。
中間課題に対しては、システム上で採点を実施します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	講義内容の概説・講義の進め方。
2	ゲーム理論(1)	戦略形ゲームの導入。
3	ゲーム理論(2)	最適反応戦略、(弱)支配戦略、ナッシュ均衡。
4	ゲーム理論(3)	戦略形ゲームの応用：オークション
5	ゲーム理論(4)	混合戦略ナッシュ均衡。
6	不完全競争市場(1)	独占市場。
7	不完全競争市場(2)	数量競争寡占市場。
8	不完全競争市場(3)	価格競争寡占市場。
9	ゲーム理論(5)	展開形ゲーム。展開形ゲームの戦略形ゲーム表現。
10	ゲーム理論(6)	部分ゲーム完全均衡。後向き帰納法。
11	ゲーム理論(7)	繰返しゲームと、カルテルとしての独占の発生。
12	外部性(1)	外部(不)経済と市場の欠落。ピグー税・補助金。
13	外部性(2)	公共財の自発的供給と効率的な供給。
14	外部性(3)	メカニズムデザイン。VCGメカニズム。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
事前学習：講義資料や参考書を読んでおくこと。
事後学習：講義内容や講義中に解説した練習問題の復習。参考書についている演習問題を解く。
本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
テキストは用いない。

【参考書】
第１回の講義内で紹介します。配布スライドにも掲載しておきます。

【成績評価の方法と基準】
中間テスト30％、期末試験70%.

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【その他の重要事項】
ミクロ経済学Aの内容を前提とします。

【Outline (in English)】
[Course outline] This course introduces microeconomic theory, especially situations called imperfect competition and externalities. This course also introduces game theory that is essential for analyzing these situations.
[Learning objectives] Students should surely acquire the contents of this course since game theory and microeconomic theory are essential foundations for advanced topic courses.
[Learning activities outside of classroom] Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
[Grading criteria] 30%for midterm exam, 70%for final exam.

ECN200TF（経済学 / Economics 200）

現代経済学Ⅱ(後期メディア)

平井　俊行

カテゴリー：**後期メディア**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**後期**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ミクロ経済学について学習する。ミクロ経済学B/現代経済学Ⅱでは不完全競争市場・外部性を学ぶ。これらの分析に必須となるゲーム理論の学習もおこなう。ゲーム理論やミクロ経済学はそれ自体重要であるが経済学の専門的なトピックを学ぶための基礎でもあるので、内容を確実に身に付ける。

【到達目標】
・ミクロ経済学・ゲーム理論の用語の定義を理解し、説明できるようになる。
・実際の経済事象を必要に応じて不完全市場・外部性の問題と関連づけて捉えることができる。
・ゲーム理論の分析手法で、少なくとも簡単なモデルを分析できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP3,DP5」「日本文学科：DP1,DP2」「史学科：DP1」「地理学科：DP1,DP2,DP3」「経済学科：DP1,DP3,DP4,DP5」「商業学科：経済学」に関連

【授業の進め方と方法】
講義形式でおこないます。講義スライドをメディアスクーリング受講システムにアップロードしておくので受講前に必ずダウンロードして、必要があれば印刷しておいてください。
中間課題に対しては、システム上で採点を実施します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	講義内容の概説・講義の進め方。
2	ゲーム理論(1)	戦略形ゲームの導入。
3	ゲーム理論(2)	最適反応戦略、(弱)支配戦略、ナッシュ均衡。
4	ゲーム理論(3)	戦略形ゲームの応用：オークション
5	ゲーム理論(4)	混合戦略ナッシュ均衡。
6	不完全競争市場(1)	独占市場。
7	不完全競争市場(2)	数量競争寡占市場。
8	不完全競争市場(3)	価格競争寡占市場。
9	ゲーム理論(5)	展開形ゲーム。展開形ゲームの戦略形ゲーム表現。
10	ゲーム理論(6)	部分ゲーム完全均衡。後向き帰納法。
11	ゲーム理論(7)	繰返しゲームと、カルテルとしての独占の発生。
12	外部性(1)	外部(不)経済と市場の欠落。ピグー税・補助金。
13	外部性(2)	公共財の自発的供給と効率的な供給。
14	外部性(3)	メカニズムデザイン。VCGメカニズム。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
事前学習：講義資料や参考書を読んでおくこと。
事後学習：講義内容や講義中に解説した練習問題の復習。参考書についている演習問題を解く。
本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
テキストは用いない。

【参考書】
第１回の講義内で紹介します。配布スライドにも掲載しておきます。

【成績評価の方法と基準】
中間テスト30％、期末試験70%.

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【その他の重要事項】
ミクロ経済学Aの内容を前提とします。

【Outline (in English)】
[Course outline] This course introduces microeconomic theory, especially situations called imperfect competition and externalities. This course also introduces game theory that is essential for analyzing these situations.
[Learning objectives] Students should surely acquire the contents of this course since game theory and microeconomic theory are essential foundations for advanced topic courses.
[Learning activities outside of classroom] Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
[Grading criteria] 30%for midterm exam, 70%for final exam.

ECN200TF（経済学 / Economics 200）

国際経済論B(後期メディア)

田村　晶子

カテゴリー：**後期メディア**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**後期**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
国際金融論、国際マクロ経済学の基礎を勉強します。国際収支表の見方や経常収支と国内経済との関係について理解します。為替レートの決定理論を勉強した上で、為替介入の効果や現在の国際通貨体制の問題について考えます。

【到達目標】
国際収支表を理解し、経常収支、金融収支の内容を説明できる。為替レートの決定要因から、現在の為替レートの動きを説明できる。為替レートの適正水準を理解する。世界各国の為替制度の選択や欧州統一通貨など、国際通貨体制における問題を議論できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「法律学科：,DP3,DP5」「日本文学科：DP1,DP2」「史学科：DP1」「地理学科：DP1,DP2,DP3」「経済学科：DP1,DP3」「商業学科：経済学」に関連

【授業の進め方と方法】
パワーポイントを用いて講義を行います。キーワードや数式グラフなどを自分で書き込む空白のある配布資料を配布します。毎回の授業の練習問題を解いてもらい、練習問題の解答や解き方を解説します。中間課題に対しては、全体講評、または、模範解答や優秀リポート等の掲示、を実施します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	国際収支表	日本の国際収支表の見方
第2回	開放経済における国民所得恒等式	貯蓄・投資バランス
第3回	為替レートと外国為替市場	外国為替市場のしくみ
第4回	外国為替取引の種類	さまざまな外国為替取引
第5回	短期為替レート決定	アセットアプローチ
第6回	金融政策と為替レート	金融政策が与える影響
第7回	長期為替レート決定①	絶対的、相対的購買力平価
第8回	長期為替レート決定②	実質為替レートと貿易
第9回	短期の産出と為替レート	金融政策、財政政策の効果
第10回	固定為替レートと外国為替市場介入	外国為替市場介入の効果
第11回	国際通貨制度	政策目標と変動相場制支持論
第12回	金融のグローバル化とリスク	リスク要因と為替レート
第13回	最適通貨圏とユーロ	固定相場制の範囲
第14回	発展途上国と通貨危機	発展途上国における問題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
クルグマン・オブズフェルド・メリッツ著　『クルーグマン国際経済学 理論と政策：下　金融編（原著第10版）』丸善出版、2017年

【参考書】
清水順子・大野早苗・松原聖・川﨑健太郎著『徹底解説　国際金融』日本評論社、2016年
高木信二著「入門国際金融（第4版）」日本評論社、2011年

【成績評価の方法と基準】
中間レポート（40％）と期末レポート（60％）により評価します。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【Outline (in English)】
Students study the basics of International finance and Open Economy Macroeconomics. For International Finance foundation, students study the determination of exchange rates, then consider the effects of the foreign exchange intervention and the problems of monetary systems. For Open Economy Macroeconomics foundation, students learn balance of payments and the relation between current account and domestic economy.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grading will be decided based on midterm report(40%) and term-end report(60%).

ECN200TF（経済学 / Economics 200）

国際経済論Ⅱ (後期メディア)

田村　晶子

カテゴリー：**後期メディア**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**後期**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
国際金融論、国際マクロ経済学の基礎を勉強します。国際収支表の見方や経常収支と国内経済との関係について理解します。為替レートの決定理論を勉強した上で、為替介入の効果や現在の国際通貨体制の問題について考えます。

【到達目標】
国際収支表を理解し、経常収支、金融収支の内容を説明できる。為替レートの決定要因から、現在の為替レートの動きを説明できる。為替レートの適正水準を理解する。世界各国の為替制度の選択や欧州統一通貨など、国際通貨体制における問題を議論できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「法律学科：,DP3,DP5」「日本文学科：DP1,DP2」「史学科：DP1」「地理学科：DP1,DP2,DP3」「経済学科：DP1,DP3」「商業学科：経済学」に関連

【授業の進め方と方法】
パワーポイントを用いて講義を行います。キーワードや数式グラフなどを自分で書き込む空白のある配布資料を配布します。毎回の授業の練習問題を解いてもらい、練習問題の解答や解き方を解説します。中間課題に対しては、全体講評、または、模範解答や優秀リポート等の掲示、を実施します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	国際収支表	日本の国際収支表の見方
第2回	開放経済における国民所得恒等式	貯蓄・投資バランス
第3回	為替レートと外国為替市場	外国為替市場のしくみ
第4回	外国為替取引の種類	さまざまな外国為替取引
第5回	短期為替レート決定	アセットアプローチ
第6回	金融政策と為替レート	金融政策が与える影響
第7回	長期為替レート決定①	絶対的、相対的購買力平価
第8回	長期為替レート決定②	実質為替レートと貿易
第9回	短期の産出と為替レート	金融政策、財政政策の効果
第10回	固定為替レートと外国為替市場介入	外国為替市場介入の効果
第11回	国際通貨制度	政策目標と変動相場制支持論
第12回	金融のグローバル化とリスク	リスク要因と為替レート
第13回	最適通貨圏とユーロ	固定相場制の範囲
第14回	発展途上国と通貨危機	発展途上国における問題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
クルグマン・オブズフェルド・メリッツ著　『クルーグマン国際経済学 理論と政策：下　金融編（原著第10版）』丸善出版、2017年

【参考書】
清水順子・大野早苗・松原聖・川﨑健太郎著『徹底解説　国際金融』日本評論社、2016年
高木信二著「入門国際金融（第4版）」日本評論社、2011年

【成績評価の方法と基準】
中間レポート（40％）と期末レポート（60％）により評価します。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【Outline (in English)】
Students study the basics of International finance and Open Economy Macroeconomics. For International Finance foundation, students study the determination of exchange rates, then consider the effects of the foreign exchange intervention and the problems of monetary systems. For Open Economy Macroeconomics foundation, students learn balance of payments and the relation between current account and domestic economy.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grading will be decided based on midterm report(40%) and term-end report(60%).

ECN300TG（経済学 / Economics 300）

環境経済論Ｂ(後期メディア)

松波　淳也

カテゴリー：**後期メディア**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**後期**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
環境経済学のひとつの応用分野である「廃棄物・リサイクルの経済学」を学ぶ。

【到達目標】
環境経済学はその体系化への努力が始まって以来，地球環境問題などグローバルな環境問題への直面を経て，各方面への深化を遂げている。本講義は，最近,理論的発展の著しい「ごみ・リサイクルの経済学」を取り上げる。本講義受講により，標準的な環境経済学の基礎概念，手法の理解をより深めることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
現代の廃棄物問題の本質および「廃棄物経済学」の基礎概念を身につけてもらうことを目標とする。現実の廃棄物管理政策の状況の理解も図りたい。
中間課題に対しては，①採点，②採点基準の提示，③優秀リポートの掲示，を実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	ごみ問題とリサイクルⅠ- 現代的課題と理論的概観-	「ごみ問題」の構造分類.「ごみ」の定義.経済学における「ごみ」の扱い
第2回	ごみ問題とリサイクルⅡ- 経済学的定式化に向けて-	廃棄物経済学の主要アプローチ.廃棄物経済学の整備に向けて.最近のトピック，プラスチック問題，食品ロス，衣料品ロス
第3回	ごみ問題とリサイクルⅢ- 廃棄物リサイクルの経済モデル-	廃棄物経済学の誕生.廃棄物リサイクルの線形生産モデル
第4回	廃棄物管理政策Ⅰ- 循環型社会の法体系-	循環型社会形成推進基本法等.個別リサイクル法.３Ｒの優先順位.２つの基本理念，サーキュラー・エコノミー
第5回	廃棄物管理政策Ⅱ- 代表的な経済手法-	家庭ごみの有料化.埋立税・産業廃棄物税，有害物質への税・課徴金.特定製品への税・課徴金.デポジット・リファンド制度
第6回	廃棄物管理政策Ⅲ- 自治体の清掃行政-	３Ｒ＋適正処理の優先順位に即した政策展開.短期的政策，中長期的政策の位置づけ.地域特性に即したきめ細かい政策.環境政策の3手法
第7回	動脈産業と静脈産業Ⅰ- 経済学の暗黒面-	動脈経済と静脈経済.経済成長と動脈部門・静脈部門.静脈経済と潜在技術
第8回	動脈産業と静脈産業Ⅱ- ゼロエミッションと循環型社会-	ゼロエミッション思想.逆工場の考え方.「循環型社会」「サーキュラー・エコノミー」の考え方
第9回	動脈産業と静脈産業Ⅲ- システム，規制の効果-	市場リサイクルの条件.動脈と静脈の相互関係.規制と公共関与.企業のイニシャティブ
第10回	費用支払いと費用負担Ⅰ- PPPと汚染者負担原則-	汚染者支払い原則PPP.汚染者負担原則.ピグー税と負担の帰着
第11回	費用支払いと費用負担Ⅱ- PPPとEPR-	廃棄物管理費用の支払いと負担.EPRの物理的責任と金銭的責任
第12回	不法投棄と不適切処理	廃棄物管理と外部不経済.不法投棄と不適切処理の経済的動機
第13回	個別リサイクル法とEPR Ⅰ- 法体系と個別リサイクル法-	法体系と個別リサイクル法：再論.容器包装リサイクル法
第14回	個別リサイクル法とEPR Ⅱ- E-Wasteのリサイクル-	家電リサイクル法.PCリサイクル・システム.携帯電話リサイクル・システム.小型家電リサイクル法

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
環境経済論A/I（環境経済学の基礎理論・概念）を既習であることが望ましい。
本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
時政・薮田・今泉・有吉編著：『環境と資源の経済学』，勁草書房.
細田衛士：『グッズとバッズの経済学』，東洋経済新報社.

【参考書】
環境省ホームページ　https://www.env.go.jp/

【成績評価の方法と基準】
中間リポート(50%)とリポート試験(50%)の総合評価とする。

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【Outline (in English)】
The aim of this course is to help students acquire the economics of waste management, which is one application field of the environmental economics. The goal of this course is to acquire the basic concepts and methods of the economics of waste management. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Final grade will be calculated according to the following process: Mid-term report(50%), term-end report(50%).

ECN300TG（経済学 / Economics 300）

環境経済論Ⅱ (後期メディア)

松波　淳也

カテゴリー：**後期メディア**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**後期**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
環境経済学のひとつの応用分野である「廃棄物・リサイクルの経済学」を学ぶ。

【到達目標】
環境経済学はその体系化への努力が始まって以来，地球環境問題などグローバルな環境問題への直面を経て，各方面への深化を遂げている。本講義は，最近,理論的発展の著しい「ごみ・リサイクルの経済学」を取り上げる。本講義受講により，標準的な環境経済学の基礎概念，手法の理解をより深めることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
現代の廃棄物問題の本質および「廃棄物経済学」の基礎概念を身につけてもらうことを目標とする。現実の廃棄物管理政策の状況の理解も図りたい。
中間課題に対しては，①採点，②採点基準の提示，③優秀リポートの掲示，を実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	ごみ問題とリサイクルⅠ- 現代的課題と理論的概観-	「ごみ問題」の構造分類.「ごみ」の定義.経済学における「ごみ」の扱い
第2回	ごみ問題とリサイクルⅡ- 経済学的定式化に向けて-	廃棄物経済学の主要アプローチ.廃棄物経済学の整備に向けて.最近のトピック，プラスチック問題，食品ロス，衣料品ロス
第3回	ごみ問題とリサイクルⅢ- 廃棄物リサイクルの経済モデル-	廃棄物経済学の誕生.廃棄物リサイクルの線形生産モデル
第4回	廃棄物管理政策Ⅰ- 循環型社会の法体系-	循環型社会形成推進基本法等.個別リサイクル法.３Ｒの優先順位.２つの基本理念，サーキュラー・エコノミー
第5回	廃棄物管理政策Ⅱ- 代表的な経済手法-	家庭ごみの有料化.埋立税・産業廃棄物税，有害物質への税・課徴金.特定製品への税・課徴金.デポジット・リファンド制度
第6回	廃棄物管理政策Ⅲ- 自治体の清掃行政-	３Ｒ＋適正処理の優先順位に即した政策展開.短期的政策，中長期的政策の位置づけ.地域特性に即したきめ細かい政策.環境政策の3手法
第7回	動脈産業と静脈産業Ⅰ- 経済学の暗黒面-	動脈経済と静脈経済.経済成長と動脈部門・静脈部門.静脈経済と潜在技術
第8回	動脈産業と静脈産業Ⅱ- ゼロエミッションと循環型社会-	ゼロエミッション思想.逆工場の考え方.「循環型社会」「サーキュラー・エコノミー」の考え方
第9回	動脈産業と静脈産業Ⅲ- システム，規制の効果-	市場リサイクルの条件.動脈と静脈の相互関係.規制と公共関与.企業のイニシャティブ
第10回	費用支払いと費用負担Ⅰ- PPPと汚染者負担原則-	汚染者支払い原則PPP.汚染者負担原則.ピグー税と負担の帰着
第11回	費用支払いと費用負担Ⅱ- PPPとEPR-	廃棄物管理費用の支払いと負担.EPRの物理的責任と金銭的責任
第12回	不法投棄と不適切処理	廃棄物管理と外部不経済.不法投棄と不適切処理の経済的動機
第13回	個別リサイクル法とEPR Ⅰ- 法体系と個別リサイクル法-	法体系と個別リサイクル法：再論.容器包装リサイクル法
第14回	個別リサイクル法とEPR Ⅱ- E-Wasteのリサイクル-	家電リサイクル法.PCリサイクル・システム.携帯電話リサイクル・システム.小型家電リサイクル法

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
環境経済論A/I（環境経済学の基礎理論・概念）を既習であることが望ましい。
本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
時政・薮田・今泉・有吉編著：『環境と資源の経済学』，勁草書房.
細田衛士：『グッズとバッズの経済学』，東洋経済新報社.

【参考書】
環境省ホームページ　https://www.env.go.jp/

【成績評価の方法と基準】
中間リポート(50%)とリポート試験(50%)の総合評価とする。

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【Outline (in English)】
The aim of this course is to help students acquire the economics of waste management, which is one application field of the environmental economics. The goal of this course is to acquire the basic concepts and methods of the economics of waste management. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Final grade will be calculated according to the following process: Mid-term report(50%), term-end report(50%).

ECN200TF（経済学 / Economics 200）

開発経済入門B(後期メディア)

池上　宗信

カテゴリー：**後期メディア**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**後期**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
開発途上国の貧困家計の直面するリスクを概観し、不確実性および不完全情報のもとでの家計の意思決定の理論モデルを学びます。そして、それらに基づいて、貧困家計の保険、分益小作、信用、貯蓄、起業を概観します。

【到達目標】
途上国では貧困削減政策としてマイクロファイナンスなどが実施されています。このような開発途上国、国際社会に関連する経済問題を経済学の理論、手法を応用し、統計資料などを見ながら、主体的に考察、議論、公正に判断できるようになることが授業の到達目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP3,DP5」「日本文学科：DP1,DP2」「史学科：DP1」「地理学科：DP1,DP2,DP3」「経済学科：DP1,DP5」「商業学科：自由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

【授業の進め方と方法】
教員による講義が中心になりますが、授業中に演習問題があるので、ビデオを一時停止し、受講生自身で解く努力をしてから、ビデオを再生、解答を見てください。
中間課題に対しては、システム上で採点を実施します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	アドバース・セレクション	完全情報のケース、 不完全情報のケース、保険の例
2	スクリーニング	保険の例
3	分益小作1	小作人の生産性とスクリーニング
4	分益小作2	小作人の努力水準とモラル・ハザード
5	分益小作3	自作農の努力水準と効用最大化
6	分益小作4	マーシャルの非効率性、リスク分散
7	分益小作5	実証研究モラル・ハザード
8	信用1	アドバース・セレクション
9	信用2	グループ貸付、投資選択
10	信用3	努力選択、返済行動、実証研究
11	貯蓄	異時点間効用最大化、実証研究
12	労働需要	企業の利潤最大化
13	起業1	信用制約、一般均衡
14	起業2	貧困の罠、実証研究

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。
予習・復習として各授業のスライドの最後にある参考文献、特に参考文献リストの最初の文献を読んでください。授業、演習問題の内容を必要に応じて復習してください。講義の後に学生が自分でさらに調べたくなるような授業を目指したいと思います。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しません。

【参考書】
講義のスライドは、各授業のスライドの最後にある参考文献リストの文献、特にリストの一番上の文献に基づきます。以下のような文献などです。
- 植田健一 (2019)「金融システムの経済学 3.5 金融制約と起業における一般均衡の分析」『経済セミナー』12・1 月号 123 － 124 ページ
- ディーン・カーラン, ジェイコブ・アペル(2013)『善意で貧困はなくせるのか? 貧乏人の行動経済学』みすず書房
- 神取道宏(2014)「8 保険とモラル・ハザード」『ミクロ経済学の力』日本評論社
- 神戸伸輔 (2004)「16 章 1 節 スクリーニングとは、16 章 4 節 保険の自己負担」『入門ゲーム理論と情報の経済学』日本評論社
- 高野久紀(2014,2015)「実践　開発経済学　1-8」『経済セミナー』2014年6/7月号-2015年8/9号
- アビジット・バナジー、エスター・デュフロ（2012）『貧乏人の経済学』みすず書房
- Ray (1998) "Chapter 4 Land, Appendix 1: Principal-agent theory and applications", Appendix 2:Screening and Share-cropping" Development Economics Princeton University Press, pp.463-478

【成績評価の方法と基準】
オンラインシステム上の中間テスト20％、期末（メディアスクーリング）テスト80％で評価します。

【学生の意見等からの気づき】
開発経済入門Bの内容の多くは、開発経済入門Aの第9－ 14回で学んだ、リスク、モラル・ハザードに基づいています。開発経済入門Aを履修した後に、開発経済入門Bを履修することをおすすめします。授業改善アンケートへの回答が2021年度は1つしかありませんでした。2020、2022、2023年度は1つもありませんでした。回答へのご協力をよろしくお願いいたします。

【Outline (in English)】
* Course outline
We will review the risk which poor households in developing countries face.
We will study household decisions under uncertainty and asymmetric information.
Based on these models, we will study insurance, share cropping, credit, saving, and entrepreneurship for poor households in developing countries.
* Learning Objectives
The goal of this class is that students will become able to proactively think and discuss economic issues related to developing countries, such as microfinace as a poverty alleviation policy, based on economic theories, methods, and data.
* Learning activities outside of classroom
Students will read around 20 pages of texts that form the basis of each lecture slide as a reading assignment before each lecture.
Students will review the contents of the classes and exercises according to their own needs.
The standard time for preparation and review for this class is 2 hours each.
* Grading Criteria, Policies
Grading will be decided based on mid-term exams on online system (20%) and end-term exam (80%).

ECN300TF（経済学 / Economics 300）

国際貿易論B(後期メディア)

武智　一貴

カテゴリー：**後期メディア**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**後期**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では、国際貿易ルールをつかさどる国際機関である世界貿易機関(World Trade Organization, WTO)の歴史、役割について紹介します。

【到達目標】
世界の貿易ルールをつかさどる国際機関であるWTO。その歴史と、様々な貿易紛争を例にWTOの機能と役割について理解することを目的とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP3,DP5」「日本文学科：DP1,DP2」「史学科：DP1」「地理学科：DP1,DP2,DP3」「経済学科：DP1,DP3」「商業学科：自由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

【授業の進め方と方法】
スライドを用いてWTOの下での貿易紛争を経済学的な観点から分析します。
中間リポートに対しては、採点結果の返却および模範解答を掲示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1)	イントロダクション	GATT,WTOとは何か
2)	WTOの理念	国際機関の設立の理念史
3)	WTOルール	WTOにおける自由貿易促進の原則
4)	関税の影響	小国と大国、社会的余剰
5)	関税戦争	交易条件効果と関税
6)	WTOの存在意義	協調関税引き下げメカニズム
7)	WTOの紛争処理	紛争処理システム
8)	内国民待遇と日本の酒税	日本の酒税に関する紛争の帰結
9)	セーフガードとは何か	WTO下における数量制限
10)	日本による野菜セーフガード	中国からの野菜輸入に対するセーフガードの分析
11)	アンチダンピング	アンチダンピングとは何か
12)	日本によるアンチダンピング税の分析	アンチダンピング税の影響
13)	補助金相殺関税の分析	補助金相殺関税とは何か、補助金の認定と補助金の影響の分析
14)	WTO原則の例外	一般例外と安全保障例外

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義資料を元に学習を行うこと。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特になし。

【参考書】
特になし

【成績評価の方法と基準】
中間レポート（30%）およびレポートの結果等(70%)により成績の評価をします。

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【Outline (in English)】
In this course, we will learn the role of the international organization (World Trade Organization (WTO)), which governs the rule of international trade. Our learning objective is to understand the role of WTO in international trade. Students are expected to study four hours to prepare for the class. Grading will be determined by the performance of midterm report (30%) and final report (70%).

ECN300TF（経済学 / Economics 300）

経済地理(Ⅱ)(後期メディア)

近藤　章夫

カテゴリー：**後期メディア**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**後期**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義は、生産性と創造性に関わる経済活動の集積に注目し、産業集積や都市集積の盛衰メカニズムに関する具体的かつ実践的な思考力を身につけることを目的として、経済学における集積論の到達点とその含意を論じる。

【到達目標】
日本を中心とした世界の都市・産業地域における経済活動の集積事象について共通したメカニズムを理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「法律学科：,DP3,DP5」「日本文学科：DP1,DP2」「史学科：DP1,DP3」「地理学科：DP1」「経済学科：DP2,DP5」「商業学科：経済学」に関連

【授業の進め方と方法】
経済地理学とは、多様な人間活動が立地をつうじて相互に補完することで生じる、経済の諸事象の空間的配置を説明し、都市、地域、国際間の空間経済システムのダイナミックな変遷を分析する経済学と地理学の融合領域である。授業では経済地理学の一分野である集積論を扱い、古典的な集積論から新しい産業集積論までの系譜を理解するとともに、国内外の事例にもとづいて講義に資する資料を適宜提示し、地図・統計を用いながら理解を深める。
中間課題に対しては、①採点もしくは個別評価・添削、②全体講評、③模範解答や優秀リポート等の掲示、のうちいずれかを実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	講義の概要と学習のポイント
第2回	経済学と集積①	集積の利益とは何か
第3回	経済学と集積②	経済成長と集積の関係
第4回	集積論の潮流①	A.WeberとA.Marshallの集積論
第5回	集積論の潮流②	外部経済と集積の経済
第6回	現代の集積論①	新しい集積論の系譜、経済理論の発展
第7回	現代の集積論②	空間経済学とクラスター論
第8回	日本の都市・産業集積①	産地と企業城下町
第9回	日本の都市・産業集積②	都市集積とネットワーク型集積
第10回	自動車産業の集積①	生産システムと近接性
第11回	自動車産業の集積②	日本的生産システムの海外展開
第12回	ハイテク産業の集積①	知識経済とイノベーション
第13回	ハイテク産業の集積②	産学連携とシリコンバレーモデル
第14回	まとめ	集積論の温故知新

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
事前の予習は必要ないが、授業後にノート、レジュメ、地図等で関心を持った点を中心に復習して欲しい。
本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
教科書は指定しない。適宜、文献と資料を提示する。

【参考書】
石倉洋子ほか編著（2003）『日本の産業クラスター戦略』有斐閣
川端基夫（2008）『立地ウォーズ』新評論
アナリー・サクセニアン（2009）『現代の二都物語』日経BP社
山本健兒（2005）『産業集積の経済地理学』法政大学出版局

【成績評価の方法と基準】
期末試験の評価（60%）が中心となる。授業終了時小テスト（平常点20点）、レポート課題（20%）で最終評価とする。

【学生の意見等からの気づき】
講義だけでなく関連する話題や発展的学習につながる資料や文献なども積極的に提示する。

【その他の重要事項】
履修者の関心や授業の進捗状況によって、授業計画を一部変更することがある。

【Outline (in English)】
Course outline and objectives:
The aim of this lecture is to give participants a conceptual and experimental overview of industrial agglomeration in economic geography. Key themes focus on innovation, technological and managerial change, productivity, creativity, globalization, and changing geographies of spatial convergence.
Learning activities outside of classroom：
Before/after each class, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Grading Criteria /Policy:
Final grade will be calculated according to the following process, term-end exam(60%), each-class requirements(20%), and mid-term report(20%)

ECN200TF（経済学 / Economics 200）

経済学特講(循環型社会のミクロ経済学)(後期メディア)

赤石　秀之

カテゴリー：**後期メディア**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**後期**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、モノが生産者によって作られ、消費者によって使われ、その後排出者によってモノが捨てられ、最終的にゴミは処理者によって処分される、というモノの流れについて経済学の観点から考えていく。それにより、循環経済の構造を明らかにし、そこで取引されるモノやゴミの価格はどのようにして決まるのか、さらに取引に関わる人々の便益や利益はどのようにして決まるのか、といった点を明らかにすることができる。

【到達目標】

・モノの取引に関するミクロ経済分析ができるようになる。
・ゴミの取引に関するミクロ経済分析ができるようになる。
・循環型社会に関するミクロ経済分析ができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP3,DP5」「日本文学科：DP1,DP2」「史学科：DP1」「地理学科：DP1,DP2,DP3」「経済学科：DP1」「商業学科：経済学」に関連

【授業の進め方と方法】

授業の進め方としては、主にミクロ経済分析で用いるグラフを使った授業が行われる。また、授業内ではグラフを作成して考える学習などがある。
中間課題に対しては、①採点もしくは個別評価・添削、②全体講評、③模範解答や優秀リポート等の掲示、のうちいずれかを実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	循環経済の意味と構造	授業の進め方や循環経済の意味や基本的な仕組みについて解説する。
第2回	動脈経済での価格決定原則①（製品市場における生産者の意思決定）	モノの市場での生産者がどのような行動をするのかについて解説する。
第3回	動脈経済での価格決定原則②（製品市場における消費者の意思決定）	モノの市場での消費者がどのような行動をするのかについて解説する。
第4回	動脈経済での価格決定原則③（製品市場における価格の決定）	モノの市場での価格・取引量がどのように決定されるのかについて解説する。
第5回	静脈経済での価格決定原則①（廃品市場における排出者の意思決定）	ゴミの市場での排出者がどのような行動をするのかについて解説する。
第6回	静脈経済での価格決定原則②（廃品市場における処理者の意思決定）	ゴミの市場での処理者がどのような行動をするのかについて解説する。
第7回	静脈経済での価格決定原則③（廃品市場における価格の決定）	ゴミの市場での価格・取引量がどのように決定されるのかについて解説する。
第8回	循環経済での価格決定原則①（循環経済における製品需要・廃品供給の決定原則）	モノの市場での需要とゴミの市場での供給がどのように同時に決定されるのかについて解説する。
第9回	循環経済での価格決定原則②（循環経済における製品供給・廃品需要の決定原則）	モノの市場での供給とゴミの市場での需要がどのように同時に決定されるのかについて解説する。
第10回	循環経済での価格決定原則③（循環経済における価格の決定）	モノの市場とゴミの市場での価格・取引量がどのように同時に決定されるのかについて解説する。
第11回	動脈経済での便益決定原則	モノの市場での人々の便益・利益がどのように決定されるのかについて解説する。
第12回	静脈経済での便益決定原則	ゴミの市場での人々の便益・利益がどのように決定されるのかについて解説する。
第13回	循環経済での便益決定原則	モノの市場とゴミの市場での人々の便益・利益がどのように同時に決定されるのかについて解説する。
第14回	家電リサイクル法の政策効果	家電リサイクル法を例に、循環型社会での価格・便益がどのように決定されるるのかについて解説する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

特に事前の学習は必要ではないが、日ごろから新聞・テレビ・インターネットなどを通じて、自身の経済や環境に対する関心・興味を高めておくことが望ましい。
本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

使用しない。

【参考書】

植田和弘（1992）『廃棄物とリサイクルの経済学』有斐閣。
リチャード・C・ポーター（2005）『入門廃棄物の経済学』東洋経済新報社。
細田衛士（2012）『グッズとバッズの経済学（第2版）』東洋経済新報社。

【成績評価の方法と基準】

中間課題で４０％、期末試験で６０％、合わせて１００％の総合評価とする。

【学生の意見等からの気づき】

学生の目線に合わせた授業をさらに心掛けていきます。

【Outline (in English)】

In this course, we will explore the flow of goods from production by producers to consumption by consumers, followed by disposal by waste generators, and ultimately managed by waste processors. We will examine this flow from an economic perspective. By doing so, we can uncover the structure of a circular economy and understand how prices for traded goods and waste are determined.
The learning objectives:
- Ability to conduct microeconomic analysis of goods transactions.
- Ability to conduct microeconomic analysis of waste transactions.
- Ability to conduct microeconomic analysis related to circular economy.
Learning activities outside of classroom:
While specific pre-course preparation is not necessary, it is desirable to cultivate an interest in and awareness of one's own economy and environment through regular engagement with newspapers, television, and the internet. The standard preparation and review time for this course is two hours each.
The grading method and criteria:
The overall evaluation will be based on a total of 100％, with 40％ allocated to the midterm assignment and 60％ to the final exam.

LAN300TF

ビジネス英語B(後期メディア)

中谷　安男

カテゴリー：**後期メディア**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**後期**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日本を代表する企業のグローバルリーダーのケーススタディを通してビジネス英語力をつける。実際のとても興味深いビジネスの成功事例を理解しながら楽しく英語を学ぶ。英国オックスフォード大学式のディベートやリーダーシップの構築方法を学ぶ

【到達目標】
実際のビジネスケーススタディを英語で学びながら、ビジネスにおけるリーダーシップ、ビジネス戦略、国際マーケティングの基礎知識を身に付ける。国際ビジネスリーダーになるためのオックスフォード大学式ディベートとリーダーシップについて学ぶ。
The aim of this course is to learn about leadership in business, business strategy, and international marketing while studying real business case studies in English. Students can gain foundational knowledge in leadership, business strategy, and international marketing. They could engage in Oxford-style debates and leadership discussions to become an international business leader.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「法律学科：,DP3,DP5」「日本文学科：DP1,DP2」「史学科：DP1」「地理学科：DP1,DP2,DP3」「経済学科：DP6,DP8」「商業学科：自由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

【授業の進め方と方法】
有名企業のビジネスケースを扱い、語彙、リスニング、リーディングの演習を行う。
教科書を熟読しディベートやリーダーシップについて自学する。
The course deals with business cases of renowned companies. Students practice vocabulary, listening, and reading skills. They should engage in in-depth reading of textbooks and self-study on debating and leadership.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	イントロダクション Initiating World's Biggest Joint Marketing Project	Intel in It 事前知識
2	Creating Value and Making a Difference	Coca-Cola ディベートを知ろう
3	Enhancing Luxury Brand Identity	Chanel &Dior 逆の立場から考えよう
4	Changing a Big Company with Management of Technology	Sapporo オックスフォード大学の伝統とは
5	Reviving a Leading Brand	Ryohin Keikaku オックスフォード・ユニオン
6	Negotiating with Headquarters	Intel TQC プレジデントへの道
7	Making a Challenging Business Profitable	JR Kyushu Jet Ferry ディベート力をいかに身に付けるか
8	Becoming a Representative Corporate Citizen in China	Shiseido China ロールモデル理論
9	Developing New Business in Emerging Markets	Toshiba Vietnam なぜ？ という問いに答える
10	De-centralizing Marketing Strategies	Intel Marketing Mix 課題を見極めよう
11	Competing with Big Companies by Establishing a Regional Brand	Hakata Torimon どうすればフォロワーに伝わるのか
12	Sustaining Brand Identity and Global Business Strategies	Global Muji 英語と日本語のコンテクストの違いとは
13	Enhancing Global Brand Communication	Global Shiseido 低コンテクストの英語スピーチの基本とは
14	Konica Minolta	Business Culture 英国の国家リーダーのコミュニケーション戦略

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
予習・復習
本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。
Standard preparation and review time for this class is set at 2 hours each.

【テキスト（教科書）】
Global Leadership: Case Studies of Business Leaders in Japan. 2nd Revised Edition 金星堂　Nakatani, Y. &Smithers, R.
『オックスフォード世界最強のリーダーシップ教室』中谷安男　中央経済社

【参考書】
『ケース・メソッド入門』　石田英夫　他　慶應義塾大学出版

【成績評価の方法と基準】
中間リポート４割
期末リポート６割
・ビジネス英語の基礎力がついているか
・テキストで取り扱うビジネスリーダーシップの理解ができているか
・ビジネスケースの簡単な要約が英語でできるか
・ディベートやリーダーシップの重要性が把握できているか
Midterm report: 40%
Final report: 60%
Evaluation Criteria:
Proficiency in Business English
Understanding of Business Leadership as covered in the textbook
Ability to provide brief summaries of business cases in English
Understanding of the importance of debating and leadership

【学生の意見等からの気づき】
ディベートの自学自習を指示する。

【その他の重要事項】
ビジネス英語の履修目安の英語力としてはTOEIC480点、英検2級以上とする。
中谷の担当する「経済学特講」を必ず履修すること

【Outline (in English)】
The objective of this course is to develop your understanding of the basic principles, strategies, and tactics of effective negotiation in business contexts. By using case study approaches, this course improves your business English and debating skills.

ECN300TF（経済学 / Economics 300）

現代ファイナンスB(後期メディア)

高橋　秀朋

カテゴリー：**後期メディア**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**後期**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義は、ファイナンスのリスク資産評価に関する知識がある程度身についている者を対象として、ファイナンスの実証分析、デリバティブを利用したリスクの移転方法およびその応用に関して学習していく。具体的には、回帰分析を用いたCAPMの検証、2項モデル・BSモデルによるオプション評価、ポートフォリオ・インシュアランス、リアル・オプションによる投資評価である。それらの概念は数式などを通じて学習していくだけでは理解が難しいので、シミュレーションの方法も同時に学習し、数値例を用いてより理解を深めていく。

【到達目標】
本講義の目標は、確率・統計に関する基本的な知識を前提として、オプションを利用したリスク・インシュアランスの方法、オプションの価格評価、オプションが企業の投資意思決定に与える影響を理解し、実際に存在する投資ファンドや企業がどのような基準で投資判断を行っているのか、企業に関連するニュース（特に、M&A）の背後にはどのような経済的事情が存在するのかを考察できる力を身につけることにある。また、株価データを分析し、実証分析がきるようになるテクニックも身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「会計学・ファイナンス」に関連

【授業の進め方と方法】
本講義は講義形式で視聴してもらう形式となる。受講にあたっては、数学、統計、確率の知識に関して、ある程度身についているものとして進める。しかしながら、それらの知識がない学生にも配慮して、できる限り数値例を多く導入し、わかりやすく解説していく。そのため、講義では随時EXCELを利用した演習を取り入れていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	リスクの推定値	株価データの分析
2	シミュレーション1	株価シミュレーション
3	シミュレーション2	モンテカルロ法
4	シミュレーション3	確率変数間に相関がある場合
5	CAPMの検証	CAPMを用いたβの推定、CAPMの妥当性の検証
6	オプション1	オプションのキャッシュフロー
7	オプション2	オプションの裁定命題
8	オプションの価格付け1	2項モデル
9	オプションの価格付け2	複数期間2項モデル
10	オプションの価格付け3	ブラックショールズモデル
11	オプション応用1	リアルオプションによるプロジェクトのNPV
12	オプション応用2	デルタヘッジング
13	オプション応用3	ポートフォリオインシュアランス
14	オプション応用4	モンテカルロシミュレーションを用いたオプション価格の計算

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義ではEXCELを利用し計算を行う機会が多々ある。そのため、受講にかかる時間は実際の動画視聴にかかる時間より長くなることが予想され、それらは受講生に受講時間外で補ってもらう必要がある。目安として、講義の準備学習・復習時間（特に、EXCELの演習）は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
指定なし

【参考書】
ツヴィ・ボディー、ロバート・マートン（著）、大前恵一朗（翻訳）『現代ファイナンス論 第2版』（ピアソン・エドゥケーション、2011年
Z. Bodie, A. Kane, A. Marcus『Essentials of Investments 10th ed.』（McGraw-Hill, 2016）
S. Benninga『Financial Modeling 5th ed.』（The MIT Press, 2022）

【成績評価の方法と基準】
期末課題レポート100%で評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】
講義内容理解のためのフィードバックを可能な限り行い、学生の内容理解に尽力する。

【学生が準備すべき機器他】
講義ではEXCELを利用した演習を中心に進めるので、受講生はMS EXCELが利用可能なPCを準備して講義に臨むこと。

【Outline (in English)】
This course provides lectures to understand and valuate the basic derivatives and their applications in the financial risk management and investment. Concretely, after we learn how to examine financial theories using linear regression models, we focus on the theories and the methods in option pricing (binomial and Black-Sholes model), portfolio insurance, and real option. To understand practical application of the theories and the methods in derivatives more easily, numerical examples and simulation-based analyses are employed. The goal of this course is to acquire empirical techniques to analyze market data and basic skills concerning risk management using options. Before each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content. Students are also required to spend two hours to review the content after each class. Final grade will be calculated according to the term-end report (100%).

ECN300TG（経済学 / Economics 300）

ファイナンス論Ⅱ(後期メディア)

高橋　秀朋

カテゴリー：**後期メディア**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**後期**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義は、ファイナンスのリスク資産評価に関する知識がある程度身についている者を対象として、ファイナンスの実証分析、デリバティブを利用したリスクの移転方法およびその応用に関して学習していく。具体的には、回帰分析を用いたCAPMの検証、2項モデル・BSモデルによるオプション評価、ポートフォリオ・インシュアランス、リアル・オプションによる投資評価である。それらの概念は数式などを通じて学習していくだけでは理解が難しいので、シミュレーションの方法も同時に学習し、数値例を用いてより理解を深めていく。

【到達目標】
本講義の目標は、確率・統計に関する基本的な知識を前提として、オプションを利用したリスク・インシュアランスの方法、オプションの価格評価、オプションが企業の投資意思決定に与える影響を理解し、実際に存在する投資ファンドや企業がどのような基準で投資判断を行っているのか、企業に関連するニュース（特に、M&A）の背後にはどのような経済的事情が存在するのかを考察できる力を身につけることにある。また、株価データを分析し、実証分析がきるようになるテクニックも身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
本講義は講義形式で視聴してもらう形式となる。受講にあたっては、数学、統計、確率の知識に関して、ある程度身についているものとして進める。しかしながら、それらの知識がない学生にも配慮して、できる限り数値例を多く導入し、わかりやすく解説していく。そのため、講義では随時EXCELを利用した演習を取り入れていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	リスクの推定値	株価データの分析
2	シミュレーション1	株価シミュレーション
3	シミュレーション2	モンテカルロ法
4	シミュレーション3	確率変数間に相関がある場合
5	CAPMの検証	CAPMを用いたβの推定、CAPMの妥当性の検証
6	オプション1	オプションのキャッシュフロー
7	オプション2	オプションの裁定命題
8	オプションの価格付け1	2項モデル
9	オプションの価格付け2	複数期間2項モデル
10	オプションの価格付け3	ブラックショールズモデル
11	オプション応用1	リアルオプションによるプロジェクトのNPV
12	オプション応用2	デルタヘッジング
13	オプション応用3	ポートフォリオインシュアランス
14	オプション応用4	モンテカルロシミュレーションを用いたオプション価格の計算

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義ではEXCELを利用し計算を行う機会が多々ある。そのため、受講にかかる時間は実際の動画視聴にかかる時間より長くなることが予想され、それらは受講生に受講時間外で補ってもらう必要がある。目安として、講義の準備学習・復習時間（特に、EXCELの演習）は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
指定なし

【参考書】
ツヴィ・ボディー、ロバート・マートン（著）、大前恵一朗（翻訳）『現代ファイナンス論 第2版』（ピアソン・エドゥケーション、2011年
Z. Bodie, A. Kane, A. Marcus『Essentials of Investments 10th ed.』（McGraw-Hill, 2016）
S. Benninga『Financial Modeling 5th ed.』（The MIT Press, 2022）

【成績評価の方法と基準】
期末課題レポート100%で評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】
講義内容理解のためのフィードバックを可能な限り行い、学生の内容理解に尽力する。

【学生が準備すべき機器他】
講義ではEXCELを利用した演習を中心に進めるので、受講生はMS EXCELが利用可能なPCを準備して講義に臨むこと。

【Outline (in English)】
This course provides lectures to understand and valuate the basic derivatives and their applications in the financial risk management and investment. Concretely, after we learn how to examine financial theories using linear regression models, we focus on the theories and the methods in option pricing (binomial and Black-Sholes model), portfolio insurance, and real option. To understand practical application of the theories and the methods in derivatives more easily, numerical examples and simulation-based analyses are employed. The goal of this course is to acquire empirical techniques to analyze market data and basic skills concerning risk management using options. Before each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content. Students are also required to spend two hours to review the content after each class. Final grade will be calculated according to the term-end report (100%).

MAN200TG（経営学 / Management 200）

会計学入門Ⅱ (後期メディア)

神谷　健司

カテゴリー：**後期メディア**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**後期**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

会計学入門Ⅰでは,基本的な財務諸表の読み方、財務会計で用いられる基本的な考え方、会計用語の基本的なものについて学習してきたが、続く会計学入門Ⅱでは、会計基準を適用した具体的な会計処理や計算方法について学習を進め、財務会計の基本的テキストの内容を十分理解することを目標とする。最後の部分で原価計算と管理会計の基礎等についても触れることにする。なお財務会計のより専門的な学習は通教課程の『財務会計論Ⅰ・Ⅱ』で学ぶことになる。

【到達目標】

財務会計の基本的な考え方、重要な会計基準に基づく具体的な会計処理の方法、財務諸表の作成に対する基本的な考え方について学んでいく。後半の2回においては原価計算,管理会計,監査論の基礎などにも触れ、企業会計全体の領域も考えていきたい。テキストに出てくる重要な概念、専門用語については十分理解していただきたい。重要な部分については講義でも示していく。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：,DP3,DP5」「日本文学科：DP1,DP2」「史学科：DP1」「地理学科：DP1,DP2,DP3」「経済学科：DP2,DP3」「商業学科：会計学・ファイナンス」に関連

【授業の進め方と方法】

テキストに基づいてパワーポイントを用いた講義を行う。わかりにくい事例については具体的な計算例や事例に触れて説明を行う。

各回の小テストについては、システム上で採点を実施し返却する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	総論	会計学入門１の内容を確認するとともに、会計の意義、会計の種類、会計の役割、会計学の研究対象等について学ぶ。
第2回	企業会計の仕組み	財務諸表、財産法と損益報、棚卸法と誘導法、会計公準、会計原則等について学ぶ。
第3回	企業会計制度	会社法による会計規定、金融商品取引法による会計規定、法人税法による会計規定等について学ぶ。
第4回	資産会計（１）	資産と資産会計の意義、資産の分類、資産の評価基準、および流動資産のうち当座資産、棚卸資産の部分について学ぶ。
第5回	資産会計（２）	流動資産のうち前回触れなかった部分と、固定資産、繰延資産の会計処理について学ぶ。ここでは固定資産の減損処理についても言及する。
第6回	負債会計	負債と負債会計の意義、負債の分類、負債性引当金、流動負債、固定負債、負債の表示について学ぶ。リース債務について触れる際にリース取引の会計処理についても言及する。
第7回	資本会計（１）	資本と資本会計の意義、資本の分類、純資産と株主資本、資本金、資本剰余金について学ぶ。
第8回	資本会計（２）	利益剰余金、自己株式、評価・換算差額、新株予約権について学ぶ。
第9回	損益会計（１）	損益会計の意義、損益項目の分類、損益会計の諸原則、営業収益について学ぶ。わが国の「収益認識に関する会計基準」の基本的な考え方についても学ぶ。
第10回	損益会計（２）	営業費用、営業外損益、特別損益、法人税等について学ぶ。
第11回	財務諸表の作成（１）	財務諸表の意義と種類、会社法、金融商品取引法、法人税法に基づく財務諸表について学ぶ。
第12回	財務諸表の作成（２）	財務諸表の作成方法、財務諸表の作成例について学ぶとともに、連結財務諸表を作成する意義、目的、および基本的な考え方について学ぶ
第13回	原価計算と管理会計の基礎	原価計算の目的、原価概念、原価計算の体系等について学ぶ。また管理会計の役割、管理会計の体系、短期利益計画と予算管理等についても学んでいく。」
第14回	監査論と税務会計論の基礎と、この講義全体のまとめ	今まで話してきた内容でとのかかわりで監査論と税務会計論の基本的で重要な部分に言及する。また会計学入門Ⅱの講義全体での重要箇所について確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストを十分学習するとともに、テキスト各章末の研究問題を解くことが求められる。

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。最終的な試験においては、基本的な知識を問う問題ばかりあるので、テキストの重要事項の復習に力を入れていただきたい。

【テキスト（教科書）】

新井清光・川村義則『現代会計学（第3版）』中央経済社、2020年
この本について講義開始前までに必ず準備してください。

【参考書】

上野清貴『財務会計の基礎（第5版）』中央経済社、2018年、桜井久勝『財務会計講義（最新版）』中央経済社、通教課程テキスト：神谷健司・市川佳功『簿記Ⅲ・Ⅳ』、『会計法規集』中央経済社

【成績評価の方法と基準】

最終的な試験によって評価を行う（100％）。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

できれば『会計法規集』を用意して、講義に関連する会計基等にも目を通していただきたい。

【その他の重要事項】

日商簿記３級程度の知識があり、「会計学入門Ⅰ」程度の知識（基本的な財務諸表が読める）程度の知識があることがこの科目履修の前提である。

この科目履修後の会計関連専門科目として、『財務会計論』、『原価計算論』、『管理会計論』、『監査論』、『税務会計』、『経営分析論』、『簿記Ⅳ』といった科目があげられる。

【Outline (in English)】

The purpose of this lecture is to understand disclosure systems in Japan, and the specific accounting procedures in applying accounting standards. We learn accounting standards of assets items, liabilities items, and shareholders' equity items, revenues,and epenses items. We also will learn the basic subjeccts ofconsolidated financial statements, and management accounting.

Before/after each lectures,studennt will be expected to read text book at least 4 hours. Grading will be decided based on term-end examination(100%).

MAN200TG（経営学 / Management 200）

経営戦略論Ⅱ (後期メディア)

李　瑞雪

カテゴリー：**後期メディア**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**後期**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では、『経営戦略論Ⅰ』と合わせて経営学における中核領域の一つである経営戦略論に関する概論的内容を学びます。主に全社戦略とサプライチェーン戦略に関する基本的な理論や概念を理解するとともに、具体的な企業の取り組みとの関連について検討することを通じて、企業の戦略的行動を分析する能力を養うことを目的とします。

【到達目標】
主要な全社戦略とサプライチェーン戦略に関する理論と概念を使って、現実の戦略的行動とその効果を説明し、分析することができるようになることを、本講義の主たる到達目標としている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「法律学科：,DP3,DP5」「日本文学科：DP1,DP2」「史学科：DP1」「地理学科：DP1,DP2,DP3」「経済学科：DP4,DP5」「商業学科：経営学・商学」に関連

【授業の進め方と方法】
メディア授業の性格上、基本的には講義方式を採用します。授業中に提示される演習問題を使いながら練習・復習することによって、内容の理解を深めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第01回	ネットワーク外部性と競争優位	ネットワーク外部性、互換性、デファクト・スタンダード獲得戦略（クローズド戦略とオープン戦略）、クリティカル・マス、Fast Mover Advantage。
第02回	イノベーションと競争優位Ⅰ	イノベーションの定義と分類、イノベーションの特徴とそのマネジメント、イノベーションと競争優位との関係、「新結合」、「迅速な追随者」
第03回	イノベーションと競争優位Ⅱ	イノベーションのジレンマ、持続的技術と破壊的技術、「死の谷（デスバレー）」、知的財産戦略（イノベーションの収益化）、オープン・イノベーション、リーバス・イノベーション、フルーガル・イノベーション
第04回	競争優位の持続可能性	隔離メカニズム、強みの源泉の専有化、経営資源の不確実性、暗黙知と形式知、強みの累積、先手の連鎖、戦略フィット、活動システム、柔道ストラテジー
第05回	多角化と企業戦略Ⅰ	企業戦略、事業展開の方向、企業優位、多角化戦略の定義、多角化の誘因、多角化の類型
第06回	多角化と企業戦略II	多角化戦略の動機、多角化度、多角化の程度と経営パフォーマンスの関係、ダイナミックな学習プロセスとしての多角化、多角化の犯しやすい間違い
第07回	垂直統合と企業戦略Ⅰ	垂直方向の事業展開、垂直統合度、Make or Buyの意思決定、第３の取引形態
第08回	垂直統合と企業戦略II	取引統治メカニズムの類型（スポット市場契約、完備契約、逐次契約、関係性に基づく契約、内部市場、官僚制、クラン）、垂直統合と持続的競争優位との関係、垂直統合のための組織
第09回	国際化と企業戦略Ⅰ	国際化の類型、国際化戦略における範囲の経済、海外顧客の購入意思と購入能力、輸入障壁
第10回	国際化と企業戦略II	OLIフレームワーク、統合化と適応化、国際企業戦略の類型、CAGEフレームワーク、AAA戦略
第11回	合併買収と企業戦略Ⅰ	M&Aの類型、戦略的関連性の源泉、M&A戦略の動機、M&A戦略と企業パフォーマンスとの関係
第12回	合併買収と企業戦略II	ビディング企業の経営者の規範、ターゲット企業の経営者の原則、ターゲット企業の行動、ターゲット企業の対抗策の経済的効果
第13回	戦略提携と企業戦略	戦略的提携の定義と形態、戦略的提携と業界構造、戦略的提携の動機、提携におけるリスク
第14回	ロジスティクス／SCM戦略	ロジスティクス戦略、サプライチェーン戦略、プロセス管理、SCMと競争優位

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
日頃に日本経済新聞、日経ビジネス、Bloomberg Businessweekなどの経済紙、ビジネス誌を読む習慣を身に着け、とりわけ企業の戦略的取り組みをめぐる記事や論説を読んで考えることをお勧めします。

【テキスト（教科書）】
浅羽茂・牛島辰男『経営戦略をつかむ』有斐閣

【参考書】
M．E．ポーター『競争の戦略』ダイヤモンド社、デビッド・J．コリス＋シンシア・A・モンゴメリー『資源ベースの経営戦略論』東洋経済新報社、Jay B. Barney『企業戦略論』ダイヤモンド社

【成績評価の方法と基準】
中間リポートとリポート試験の総合評価とします。

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【その他の重要事項】
関連科目として経営戦略論Ⅰがある。あわせて履修することが望ましい。まずⅠを履修し、その後Ⅱを履修した方が理解が深まるため、Ⅰ、Ⅱの順で履修すると良い。主な関連科目として、経営学総論、経営分析、日本経営論、経営組織論、マーケティング論などが挙げられます。

【Outline (in English)】
This course deals with the strategic management, which is one of the core fields of business administration. The goal of this course is to understand the basic theories and concepts related to the strategic management. At the end of the course, students are expected to be able to analyze and assess companies' strategic activities based on relevant theoretical framworks and concrete cases. After each class meeting, students will be expected to spend more two hours to review the course content. Final grade will be calculated according to the following process. Mid-term report (50%),and term-end examination (50%).

MAN200TG（経営学 / Management 200）

マーケティング論Ⅱ(後期メディア)

竹内　淑恵

カテゴリー：**後期メディア**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**後期**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：
その他属性：**〈実〉**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
今日のマーケティングの課題は、製品やブランドを日常生活の一部にする、活発でインタラクティブな消費者のコミュニティを創造することです。本講義では、顧客価値を創造し、ロイヤル顧客を獲得する方法を学びます。内容は5つの主要なテーマから構成されています。
1.マーケティングの本質と市場競争への対応
2.顧客価値の発見と理解
3.顧客価値の創造と提供
4.顧客価値の説得と伝達
5.マーケティングの革新
この講義によって、今日のマーケティングの本質をとらえた革新的な顧客価値と顧客リレーションシップの枠組みを理解することができます。

【到達目標】
以下に挙げる点が本授業の達成目標です。
・マーケティングの概念と理論を中心に学び、マーケティング活動に関する実践的で役立つマネジメント・ノウハウを習得する。
・消費者購買行動の特徴を理解し、顧客の視点からマーケティング活動を計画的、合理的に行う能力と態度を身につける。
・マーケティングを通じて企業経営に対して興味・関心を持ち、新製品情報など市場の動向に敏感に反応する力を涵養する。
・レポート課題に積極的に取り組むことにより、文章作成・表現力、情報収集・分析力を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「法律学科：,DP3,DP5」「日本文学科：DP1,DP2」「史学科：DP1」「地理学科：DP1,DP2,DP3」「経済学科：DP4,DP5」「商業学科：経営学・商学」に関連

【授業の進め方と方法】
・マーケティング論Ⅱもマーケティング論Ⅰと同様、講義形式で授業を進めます。
・基本的には使用するテキストに沿って丁寧に解説しますが、随時いろいろなケースを取り上げます。
中間課題に対しては、システム上で採点を実施します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第01回	マーケティングの本質	マーケティングの定義、マーケティングの5つのステップのうち「顧客ニーズの理解」、「顧客とのリレーションシップの構築」、「顧客からの価値の獲得」について学ぶ。
第02回	企業とマーケティング戦略	マーケティングの5つのステップのうち、第1回で取り上げなかった「顧客主導型マーケティング戦略の設計」、「マーケティング・プログラムの設計」について学ぶ。
第03回	競争優位の創造	競合他社の明確化と競合他社の分析、自社のポジションの規定、競争的マーケティング戦略について学ぶ。
第04回	マーケティングの基本枠組み	マーケティングの基本枠組みであるセグメンテーション、ターゲティング、ポジショニングについて学ぶ。
第05回	マーケティング情報とカスタマー・インサイト	潜在的なニーズの掘り起こし、マーケティングに関する重要な情報の管理、カスタマー・インサイトについて学ぶ。
第06回	消費者の購買行動	消費者行動のモデル、消費者行動に影響を与える特性、購買行動のタイプ、購買者の意思決定プロセスについて学ぶ。
第07回	製品、サービス、ブランド	製品の定義、製品・サービスに関する意思決定、サービス・マーケティング、ブランディングについて学ぶ。
第08回	新製品開発と製品ライフサイクル戦略	新製品開発プロセスとそのマネジメント、製品ライフサイクル戦略、グローバルな展開について学ぶ。
第09回	マーケティング・チャネルによる顧客価値の提供	サプライ・チェーンと価値提供ネットワーク、チャネル・コンフリクトとマーケティング・システム、チャネル設計に関する意思決定、マーケティング・ロジスティクスについて学ぶ。
第10回	価格設定	価格設定戦略、価格調整戦略、価格変更について学ぶ。
第11回	コミュニケーションによる顧客価値の説得	コミュニケーション・ミックス、統合型マーケティング・コミュニケーション、予算とコミュニケーション・ミックスについて学ぶ。
第12回	広告とパブリック・リレーションズ	広告の定義、広告戦略の展開、広告媒体の選定、パブリック・リレーションズについて学ぶ
第13回	人的販売と販売促進	人的販売、セールス・フォースの管理、人的販売のプロセス、販売促進について学ぶ。
第14回	ダイレクト・マーケティングとオンライン・マーケティング	ダイレクト・マーケティングの捉え方とその形態、オンライン・マーケティングの実施について学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
マーケティングでは理論と実務の融合が重要です。毎回の講義内容を復習する意味でも、市場での実践の事例を見て、洞察することを各自フィールドワークとして実施してください。スーパーやドラッグストアなどの店頭に行ったり、イベントやキャンペーンに参加してみたり、授業で学習した内容を実際の製品・サービスで確認・経験してみましょう。
今年度の授業資料では、
・新しいデータを追加したり、
・１枚のスライドを複数枚に分割したり、
・まとめ方を修正したり、
・参考図書等の画像を新たに追加したり、
ビデオ内での説明や画面の内容と若干異なる改訂版を配布します。準備学習や復習等に役立ててください。修正・追加箇所については該当するページに明記してあります。なお、直近の最新データについては、各自webで検索して確認してみてください。
本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
コトラー, P., G. アームストロング, 恩藏直人(2014)『コトラー、アームストロング、恩藏のマーケティング原理』丸善出版。

【参考書】
・石井淳蔵・廣田章光・坂田隆文(2016)『1 からのマーケティング・デザイン』碩学舎。

・西尾チヅル編著(2007)『マーケティングの基礎と潮流』八千代出版。
・和田充夫・恩蔵直人・三浦俊彦(2016)『マーケティング戦略第5版』有斐閣。
・竹内淑恵編著(2014)『リレーションシップのマネジメント』文眞堂。この書籍は、特にマーケティングをテーマにした卒業論文に取り組む方の参考になると思います。

【成績評価の方法と基準】
中間テスト1,2を各々25％計50％、そして、レポート試験を50％とし合算して評価します。
(注) 2回実施する中間テストを未受験のまま、レポート課題を提出する受講生がいますが、レポートだけ(最高でも50点) では単位取得できませんので、ご注意ください。

【学生の意見等からの気づき】
授業を受講して質問等がある場合は、「お知らせ」や「学習に関する質問」を活用してください。14回あるメディアスクーリングの受講は大変だとは思いますが、皆さんの勉学に向けた努力と熱意に期待しています。一緒に頑張ってマーケティング論を勉強しましょう！

【その他の重要事項】
メーカーのマーケティング本部広告制作部と広告会社の戦略プランニング室に計20年間勤務した経験を有する教員が、その実務経験を活かし、マーケティングの理論に焦点を当てて、具体的、かつ、わかりやすく講義する。

【Outline (in English)】
Course outline: Today's marketing challenge is to create lively and interactive communities of consumers who make products and brands a part of their daily lives. In this course, students learn how to create customer value and acquire loyal customers. The content consists of five main themes:
1. Essence of marketing and addressing market competition,
2. Identifying and understanding customer value,
3. Creating and delivering customer value,
4. Persuading and communicating customer value,
5. Innovation in marketing.
Learning Objectives: The students will acquire marketing knowledge and skills and will be able to explain the significance and role of marketing. They will understand the innovative frameworks for customer value and customer relationship that capture the essence of today's marketing.
Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.
Grading Criteria /Policy: Final grade will be calculated according to the following process: two mid-term examinations 25%+25%, and term-end report 50%.

【実務経験のある教員による授業科目】
○

BSP100FA（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）

統計学入門(後期メディア)

高橋　慎

カテゴリー：**後期メディア**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**後期**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
近年、学術分野だけでなく、ビジネスの現場においても統計学が注目を集めています。経営分野において、マーケティング戦略の決定や投資行動などの意思決定を適切に行うには、データに基づいて客観的に決定する必要があります。そこで利用するのが、統計学です。この授業では、統計学の基本的な理論について学びます。

【到達目標】
・統計学の基本的な考え方を理解し、他の人に説明できる。
・データの整理・要約ができる。
・データの要約やグラフからデータの傾向について考察できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「情報・統計学」　に関連

【授業の進め方と方法】
・スライドを利用した講義形式で授業を進めます。
・授業で学習した内容について、小テストを解いて理解を深めます。
・各回の小テストについて、次の回に解答と解説を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス/統計学とは	授業の概要と進め方について説明します。また、データと母集団などの統計学の基本的概念を学びます。
第2回	1次元のデータ：図表の作成	データをわかりやすく図表にまとめる方法として、度数分布表とヒストグラムの作り方を学びます。
第3回	1次元のデータ：中心を表す標本特性値	データの中心を表す3つの特性値（平均、中央値、最頻値）の定義と特徴および利用方法を学びます。
第4回	1次元のデータ：ばらつきを表す標本特性値	データのばらつきをの程度を表す分散と標準偏差を学びます。
第5回	2次元のデータ：範囲と割合の関係	データの範囲と分布の割合について、経験的な関係とその応用例を学びます。
第6回	2次元のデータ：散布図/共分散	散布図を利用して2つの変数の大まかな相互関係を把握する方法を学びます。また、2つの変数間の相関関係を表す共分散を学びます。
第7回	2次元のデータ：相関係数/相関係数の注意点	2つの変数間の相関関係を表す相関係数を学びます。また、相関と因果関係の違いなど、相関係数の見方や解釈について注意すべき点を学びます。
第8回	確率変数	確率変数と確率分布の定義、期待値や分散などの基本概念を学びます。
第9回	確率分布1：離散確率分布	代表的な離散確率分布として、ベルヌーイ分布と二項分布を学びます。
第10回	確率分布2：連続確率分布	代表的な連続確率分布として、正規分布を学びます。
第11回	母数の推定1：基本概念	データから母集団の特性値（母数）を推測すること（推定）の考え方、推定量と推定値などの基本概念を学びます。
第12回	母数の推定2：点推定	母集団の平均（母平均）の推定量の統計的性質を学びます。
第13回	母数の推定3：区間推定	母平均が存在すると思われる区間の推定（区間推定）を学びます。
第14回	まとめ	授業で扱った内容を復習し、発展的なトピックを紹介します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・授業後にテキストや資料を見直し、基本概念の理解度を確認します。
・小テストを課題として解きます。
・本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
藪友良 (2012)『入門　実践する統計学』 東洋経済新報社

【参考書】
・Diez・Cetinkaya-Rundel・Barr著、国友・小暮・吉田訳 (2021)『データ分析のための統計学入門」("OpenIntro Statistics, 4th Edition")』日本統計協会、ISBN 978-4-8223-4105-3（PDF版は以下のリンクからダウンロードできます。
http://www.kunitomo-lab.sakura.ne.jp/2021-3-3Open(S).pdf）
・東京大学教養学部統計学教室編『統計学入門』 東京大学出版会
・その他の参考書は授業中に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
・中間テスト：50％
・期末テスト：50%

【学生の意見等からの気づき】
より発展的な内容も参考文献とともに紹介します。

【学生が準備すべき機器他】
授業内で行う演習や練習問題を解くには、統計計算ができる電卓またはエクセル（あるいはGoogleスプレッドシート）を使える端末(スマートフォン、タブレット、パソコン等)が必要となります。

【その他の重要事項】
・「授業の進め方と方法」および「授業形態」は、状況によって変更することがあります。
・「授業計画」は、履修者の関心や授業の進捗状況に応じて変更することがあります。

【関連科目】
なし

【Outline (in English)】
Recently, statistics has attracted attention from both business and academia. Making good business decisions, such as marketing and investment strategies, requires objective evidence based on data, i.e. statistics. In this course, we will learn the basic theories of statistics.
The primary goals of this course are: to understand the basic concepts of statistics and to be able to explain them to others; to be able to organize and summarize data; and to be able to discuss trends in data from summary statistics and graphs.
You will be expected to review the textbook and materials after class to check your understanding of the basic concepts. You will be required to complete practice questions as assignments. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
Grades will be based on 40%assignments and 60%final exam.

MAN300TG（経営学 / Management 300）

税務会計Ⅱ(後期メディア)

大下　勇二

カテゴリー：**後期メディア**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**後期**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、「税務会計Ⅰ」で会社の中心的な税金である法人税の課税所得計算の基礎を学んだ上で、今日的な企業課税の諸問題を取り上げ、法人税課税の基礎的な考え方を学習します。

【到達目標】
新しい事業体の課税問題、給与の新しい支給形態、不良債権の償却、組織再編と企業集団化、経済活動の国際化など、今日的なテーマにそって、法人課税上の諸問題を考え理論的に整理できる能力の修得を目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「法律学科：,DP3,DP5」「日本文学科：DP1,DP2」「史学科：DP1」「地理学科：DP1,DP2,DP3」「経済学科：DP4,DP5」「商業学科：会計学・ファイナンス」に関連

【授業の進め方と方法】
授業は、わが国法人税課税上、重要な問題となっている主要項目を、スライドに基づき解説する形で進めて行きます。また、各回の最後に受講生には簡単な問題を回答してもらい、理解の程度を確認しながら次に進みます。また、中間レポートを提出してもらいます。
中間レポートに対しては、提出期間終了後に模範解答を開示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
①	事業形態の多様化と課税問題	ペイ・スルー課税、パス・スルー課税を取り上げ、新しい事業体の出現により、いかなる課税問題が生じているかを学習する。
②	企業の社会的責任と交際費課税	交際費課税の基本的考え方を学習し、損金算入制限を企業の社会的責任の観点から考える。
③	企業の社会的責任と寄附金課税	寄附金課税の基本的考え方を学習し、損金算入制限を企業の社会的責任の観点から考える。
④	給与の支給形態の多様化と課税問題(1)	最近の役員給与の支給形態の変化と課税の問題を学習する。
⑤	給与の支給形態の多様化と課税問題(2)	役員給与の損金算入制限の考え方を理解し、役員給与の課税の問題を学習する。
⑥	不良債権の償却の課税問題(1)	不良債権の償却の問題につき、法人税法の貸倒損失の処理の考え方を学習する。
⑦	不良債権の償却の課税問題(2)	不良債権の償却の問題につき、法人税法の貸倒引当金の処理の考え方を学習する。
⑧	固定資産の減価償却-その2(1)	増加償却・陳腐化償却、評価減の考え方を学習する。
⑨	固定資産の減価償却-その2(2)	修繕費と資本的支出、除却、特別償却の考え方を理解する。
⑩	企業活動の集団化と課税問題(1)	合併・分割・株式交換・株式移転等の組織再編税制の考え方を学習する。
⑪	企業活動の集団化と課税問題(2)	グループ法人税制(グループ法人単体課税制度と連結納税制度)の特徴とその考え方を学習する。
⑫	企業活動の国際化と課税問題(1)	国際課税の基礎理論を学習する。
⑬	企業活動の国際化と課税問題(2)	国際課税の考え方を海外事業展開の例を用いて学習する。
⑭	企業活動の国際化と課税問題(3)	移転価格税制、過少資本税制、タックス・ヘイブン税制等の基礎を学習する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
事前にテキストを読んでおくことが必要です。中間レポートの作成・提出が求められます。
本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
大下勇二著『税務会計Ⅰ・Ⅱ(第2版)』法政大学,2019年

【参考書】
テキストの「参考文献」を参照。

【成績評価の方法と基準】
中間レポートの提出を前提に修了試験(100%)により成績を評価します。中間レポートの提出がない場合には、修了試験の結果にかかわらず、成績評価は「D」評価となりますので注意して下さい。

【学生の意見等からの気づき】
関心のある身近な事例をできるだけ取り上げたい。

【担当教員の専門分野等】
〈専門領域〉
財務会計、国際会計、税務会計
〈研究テーマ〉
フランス会計制度研究
プラン・コンタブルの国際比較研究
税務会計における会計基準の利用問題
〈主要研究業績〉
① 単著『連単分離の会計システム-フランスにおける2つの会計標準化-』法政大学出版局,2018年。
② 共著『プラン・コンタブルの国際比較』(野村健太郎編著)中央経済社、2005年。
② 共著『IFRS・IAS(国際財務報告基準・国際会計基準)徹底解説』(菊谷正人編著)税務経理協会,2009年。

【Outline (in English)】
This course deals with the problems of the current corporate income taxation in Japan.In this course,after learning the basics of taxable income of corporate income tax in 'Tax Accounting Ⅰ',we will take up various problems of current corporate income taxation(for example,new business entities,executive compensation,entertainment expense,donation,disposal of bad loans,corporate reorganization,group taxation and international taxation).
By the end of the course,students should be able to understand the relationship and differences between tax accounting and financial accounting.
Student will be expected to have completed mid-term report.Your overall grade will be decided based on term-end examination(100%).

ECN300TG（経済学 / Economics 300）

国際金融論Ⅱ (後期メディア)

横内　正雄

カテゴリー：**後期メディア**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**後期**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代はグローバル化の時代といわれるが、その中でも金融グローバル化（金融化）が著しく進んできている。日々のニュースなどでは、この金融グローバル化に関連した出来事がしばしば取り上げられてきている。国際金融論Ⅱでは、国際金融の基礎的な理論を理解した上で、金融グローバル化が進んできた歴史的な過程と国際金融の現状について学ぶ。

【到達目標】

国際金融論Ⅱは、国際通貨体制や国際金融の現象について、第一次大戦前の国際金本位制から現在に到るまでをだどりながら、その背後にある流れを捉え、国際金融の現状をより深く理解することを目標とする。この講義を通じて日頃われわれが耳にする国際金融のニュースが理解しやすくなれば良いと考える。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP3,DP5」「日本文学科：DP1,DP2」「史学科：DP1」「地理学科：DP1,DP2,DP3」「経済学科：DP1,DP5」「商業学科：経済学」に関連

【授業の進め方と方法】

講義はパワーポイントを用いるとともに、個別のテーマについて毎回完結した内容の講義を行う。また、できる限り多くの資料を用いることによって理解しやすいように努める。
中間課題に対しては、①採点もしくは個別評価・添削、②全体講評、③模範解答や優秀リポート等の掲示、のうちいずれかを実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	国際通貨体制とは何か。その定義と分析視角について学ぶ。
第2回	第一次大戦前の国際金本位制	第一次大戦前の国際金本位制の基本的な特徴について学ぶ。
第3回	両大戦間期の国際通貨システム	両大戦間期の再建金本位制がなぜ短命に終わったのかを学ぶ。
第4回	ＩＭＦの形成	1930年代の国際金融の混乱と戦後の国際通貨体制を構想したブレトンウッズ会議での議論について学ぶ。
第5回	ブレトンウッズ体制(1)	戦後のブレトンウッズ体制の基本的な特徴について学ぶ。
第6回	ブレトンウッズ体制(2)	戦後のブレトンウッズ体制の問題点とその崩壊過程について学ぶ。
第7回	変動為替相場制度	変動為替相場制度の長所と短所および様々な為替相場制度の特徴について学ぶ。
第8回	石油危機と累積債務問題	1970年代の石油危機が国際金融にもたらした影響と1980年代の途上国の累積債務問題について学ぶ。
第9回	1980年代の日米経常収支不均衡	1980年代以降生じている日米の経常収支不均衡の問題について学ぶ。
第10回	国際金融の政策協調	1980年代のドル高を是正するための国際政策協調の過程と国際政策協調の理論について学ぶ。
第11回	1990年代の円高問題	1990年代の円高をもたらした要因と内外価格差の原因について学ぶ。
第12回	欧州通貨統合	ユーロの導入に到る欧州の通貨統合の過程について学ぶ。
第13回	通貨危機	1990年代の３つの通貨危機についてその過程をたどるとともに通貨危機の理論を学ぶ。
第14回	通貨危機から金融危機へ	1997年のアジア通貨危機から2008年のリーマンショックに到るまでの国際金融の流れを学ぶ。
第15回	ユーロ危機	ギリシャの経済危機に端を発するユーロ危機についてその過程と背景について学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に国際金融論に関する文献の中の該当する箇所を読んで講義に臨むと理解しやすい。文献は特に指定しないが、以下の参考文献として挙げているもののうち初級レベルのものが読みやすい。また、日頃からテレビや新聞などの国際金融に関するニュースに関心を持っておくことが望ましい。

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストは用いない。

【参考書】

(1)初級レベルの参考書
・西村陽造・佐久間浩司『新・国際金融のしくみ』有斐閣、2020 年
・山本栄治『国際通貨システム』岩波書店、1997 年
・石見徹『国際通貨・金融システムの歴史』有斐閣、1995 年
(2)中級レベルの参考書
・上川孝夫・矢後和彦編『国際金融史』有斐閣、2007 年
・上川孝夫『国際金融史』日本経済評論社、2016 年
・田中素香・岩田健治編『現代国際金融』有斐閣、2008 年
・勝悦子『新しい国際金融論』有斐閣、2011 年
・川上孝夫・藤田誠一編『現代国際金融論』[第４版]有斐閣、2012 年
(3)資料集
・神田眞人編『図説国際金融2015-2016 年版』財経詳報社、2015 年

【成績評価の方法と基準】

中間レポート（40 %）と試験（60 %）による。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline (in English)】

In the course of International Finance II, students will learn the history and current status of international finance, starting with the international gold standard, based on their understanding of International Finance I. Specifically, this lecture will trace the evolution of the international monetary system, including the international gold standard, the Bretton Woods system, and the floating exchange rate system, and will cover topics such as currency crises, currency unification, and global imbalances. The goal of this lecture is to understand the nature of financial globalization that is currently underway. Students are expected to read reference books in advance and prepare a mid-term report for the class as study outside of class time. It is also helpful to keep up with daily news related to international finance. Evaluation will be based on the mid-term report (40%) and the final exam (60%).

MAN300TG（経営学 / Management 300）

管理会計論Ⅱ（後期メディア）

北田　皓嗣

カテゴリー：**後期メディア**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**後期**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
管理会計とは，組織管理に不可欠な経済的情報を提供する理論と技術である。したがって，管理会計の学習にあたっては，単に計算テクニックを使えるというだけでなく，組織実践との関係で，経営管理とは何であるかについて理解する必要がある。そのため講義では，企業の構想を実現するため会計の仕組みについて、組織構造との関係のなかで理解を試みる。

【到達目標】
経営管理問題と管理会計との関係についての知識の習得を目指します。管理会計情報が経営管理における問題ごとに異なる会計情報が利用されること、またそのときに必要となる財務・非財務情報について理解することを目指します。また関連した計算方法を使えるようにすることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP3,DP5」「日本文学科：DP1,DP2」「史学科：DP1」「地理学科：DP1,DP2,DP3」「経済学科：DP2,DP3」「商業学科：会計学・ファイナンス」に関連

【授業の進め方と方法】
講義形式で授業を進めるとともに，随時、計算問題や復習のための問題演習を取り入れていきます。そのため、講義を聴くだけでなく、授業中に設定されている問題についても必ず取り組むようにしてください。
中間課題に対しては、①採点もしくは個別評価・添削、②全体講評、③模範解答や優秀リポート等の掲示、のうちいずれかを実施します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	管理会計の基本	授業の概要と，費用の考え方の紹介
第2回	責任センター	コストセンター，プロフィットセンター
第3回	事業部制組織の管理会計1	事業部の業績評価，内部振替価格，事業部の利益概念
第4回	事業部制組織の管理会計2	ROCE，RI，本社費・共通費の配賦
第5回	バランスド・スコアカード（BSC）	４つの視点
第6回	コストマネジメント1	原価計算の考え方
第7回	コストマネジメント2	ABCとABM
第8回	コストマネジメント3	原価企画
第9回	コストマネジメント4	原価維持，原価低減
第10回	CSR 1	企業を取り巻く社会課題
第11回	CSR 2	CSRマネジメントの基礎
第12回	ESG投資	環境，社会，ガバナンスを考慮した投資活動
第13回	環境管理会計と環境コスト	企業の内部管理に特化した環境会計
第14回	MFCA（マテリアルフローコスト会計）	資源生産性の管理

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義後に復習を通じて知識の習得を行ってください。
本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
谷武幸(2013)『エッセンシャル管理会計（第3版）』中央経済社

【参考書】
浅田孝幸監訳(2008)『管理会計のエッセンス』同文舘

【成績評価の方法と基準】
「中間リポート」40％と「メディアスクーリング試験」60％との総合評価とする。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【Outline (in English)】
Management Accounting is an essential tool that enhances a manager's ability to make effective economic decisions. This course teaches students how to extract and modify costs in order to make informed managerial decisions.

MAN200TG（経営学 / Management 200）

経営学特講(ミクロ経済学)(後期メディア)

平田　英明

カテゴリー：**後期メディア**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**後期**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：
その他属性：**〈実〉**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ミクロ経済学の基本的な理論を理解します。ビジネスの現場で起きている事象や消費者行動を、ミクロ経済学的な視点より論理的に考えることができるようになることを目標にしていきます。

【到達目標】
ミクロ経済学の基本的な理論（経済学入門Ⅰ/A）程度の内容）を踏まえ、企業行動を中心に理解していくことを目標とします。単に理論の理解をするだけではなく、ビジネスの現場で起きている事象や消費者行動を、ミクロ経済学的な視点より論理的に考えることを目標にしていきます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「法律学科：,DP3,DP5」「日本文学科：DP1,DP2」「史学科：DP1」「地理学科：DP1,DP2,DP3」「経済学科：DP2」「商業学科：経営学・商学,自由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

【授業の進め方と方法】
ビジネスの現場で起きている事象や具体的なケースを、ミクロ経済学的な視点より論理的に考えることができるようになることを目標にしていきます。
中間課題に対しては、全体講評を実施します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	外部性１	外部性の意味と実際の例を理解します。
第2回	外部性２	外部性の存在が市場にもたらす影響を学びます。
第3回	公共財と共有資源１	公共財とは何かを学び、ミクロ経済学視点から考察します。
第4回	公共財と共有資源２	共有資源とは何かを学び、ミクロ経済学視点から考察します。
第5回	生産の費用１	企業の生産活動と費用構造を学びます。とくに、基礎的なコストの概念を学びます。
第6回	生産の費用２	企業の生産活動と費用構造を学びます。とくに、企業活動に関連するコストの種類を理解します。
第7回	生産の費用３、競争市場における企業１	企業の生産活動と費用構造を学びます。とくに、コストの種類をなぜ区別して理解する必要があるのかを理解します。
第8回	競争市場における企業２	競争市場の企業のパースペクティブの違いがもたらす影響を学びます。独占企業の基本的特徴を考えます。
第9回	競争市場における企業３、独占１	独占企業の企業行動を理解します。とくに、独占企業と完全競争企業の違いを理解し、違いの源泉を理解します。
第10回	独占２	独占企業の企業行動を理解します。とくに、独占企業としての合理的な行動を理解します。
第11回	寡占１	寡占企業の行動様式を学びます。
第12回	寡占２	ゲーム理論を使った寡占の理解の基礎を紹介します。
第13回	独占的競争	独占的競争の下での企業行動を学びます。合理的な独占的競争下の企業はどのような戦略をとり、利潤を最大化していくのかを理解します。
第14回	番外編（グローバル金融危機と日本経済）	リーマンショックに代表される金融危機をミクロ経済学の視点から考えてみます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
予習は不要ですが、しっかり復習しましょう。例題をきちんと自分で解き、しっかり理解してください。
本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
『マンキュー経済学Ⅰ ミクロ編（第４版）』N.グレゴリー・マンキュー著　（東洋経済新報社）
第３版でも大丈夫です。

【参考書】
『クルーグマン ミクロ経済学』ポール・クルーグマン他著　（東洋経済新報社）

【成績評価の方法と基準】
中間リポート40%、リポート試験60%で評価する予定です。いずれも４択などの選択方式かそれに準ずる方式の問題です。

【学生の意見等からの気づき】
中間試験、期末試験後、解答を求める声がたまに聞かれますが、原則として公開しません。全て授業内で教えている内容の範囲内の内容だからです。正答がわからない場合、自分がどのように解答を導出したかを説明の上、質問をするようにしてもらいます。最大３問まで返答します。
中間試験の結果が良くても、期末試験が悪いケースが散見されます。いろいろ理由はあるかと思いますが、気を抜かないようにしましょう。

【その他の重要事項】
過去に試験について、Yahoo知恵袋で質問をしているケースが見られました。同様の不正行為については、厳正な対処をしますので、絶対にしないようにしてください。
また、オンライン等でのカンニングの可能性を踏まえ、試験期間は中間リポート、リポート試験ともにきわめて限定した期間（２日間程度＜毎年、『法政通信』で日程を確定させて記載＞）で実施します。ご自身のカレンダーを確認の上、履修登録をしてください。
担当教員は、日本銀行における金融政策業務の経験を有します。また、国際通貨基金や世界銀行という国際機関におけるコンサルタント業務の経験も有します。こういった実務的な経験を踏まえ、生きた経済事象の説明を心がけたいと考えています。

【Outline (in English)】
This class offers lectures on introductory microeconomics. The theory of microeconomics is formal but this class tries to teach that as intuitively as possible. In doing so, the lecturer will give you a bunch of examples that can be observed in your real life and that are actually going on in real business. Understanding economics with relevant examples strengthen your knowledge of economics.
This lecture covers basic theory of microeconomics of firms. The ultimate objective is to let students think by themselves what is going on in the goods and services markets. Students will get familiar with a logical explanation of the market economy.

【実務経験のある教員による授業科目】
○

MAN300TG（経営学 / Management 300）

事業創造論(後期メディア)

稲垣　京輔

カテゴリー：**後期メディア**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**後期**
受講可能な学科・学年：**『法政通教』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義の目的は、ベンチャー企業や中小企業の経営者の組織化にまつわる行動について明らかにすることによって、企業家が事業を取り巻く環境をどのように変えて行くのかについて理解することです。

【到達目標】

本講義では、国内外で発展してきた企業家活動やベンチャー企業経営に関する経営学、社会学研究の理論的枠組みや事例を参照しながら、事業創造の担い手である起業家の活動の実態について明らかにします。そしてそこから、近年の日本にみられる組織現象に対して、より深い理解力、観察力を養うことを目的とします。 講義全体を通じて、「事業創造における経営戦略」、「スタートアップ・プロセス」、「事業創造とネットワーク」「事業創造における組織づくり」の４つを主要テーマとして設定し、事業創造にかかわるさまざまな経営現象を考察します。

各回の内容については以下の通りです。テキストはとくに設定しませんが、各テーマの講義において、以下の本をもとに講義の内容を作成しておりますので、是非これらを手にとって、事業で取り上げる箇所とその周辺領域をより深く学ぶようにしてください。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：,DP3,DP5」「日本文学科：DP1,DP2」「史学科：DP1」「地理学科：DP1,DP2,DP3」「経済学科：DP4,DP5」「商業学科：経営学・商学」に関連

【授業の進め方と方法】

この授業は、ビデオ学習の形式です。講義資料は要約しか記述されていないので、ノートを取りながら学習するようにしてください。また、習熟度を知るための小テストを利用して、授業内容の要点を学習してください。
中間課題に対しては、①採点もしくは個別評価・添削、②全体講評、③模範解答や優秀リポート等の掲示、のうちいずれかを実施します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第01回	導入－事業創造を取り巻く環境と日本の新規開業者	日本の新規開業企業にみる開業者のプロフィール。事業機会型と非事業機会型。
第02回	導入－企業家と経営戦略	企業家とは何か。企業家的人格と戦略作成。企業家とビジョナリー・リーダー。企業家アプローチの前提条件。
第03回	スタートアップ・プロセス－事業構想とスタートアップ	ベンチャー企業の創業経緯。事業構想とは何か。顧客を獲得するための戦略。事業を始めるリスク。
第04回	スタートアップ・プロセス－ベンチャー企業の成長と組織設計	成長過程における3つの死の谷。ベンチャー企業の存続率。経営チームの組成と組織デザイン。社長によるガバナンスと企業成長。
第05回	ベンチャー企業と戦略－ベンチャー企業の内なる戦略	ベンチャー企業の人的資源と組織設計。自社の資源を活用する事業のしくみの設計。
第06回	ベンチャー企業と戦略－ベンチャー企業の外への戦略	変化と競争優位性。産業のライフサイクル。産業組織の変化。戦略的変革のマネジメント。
第07回	事業創造とネットワーク－ネットワークと組織	経営環境の変化への対応。個人のおかれた環境の変化。資源の獲得とマネジメント。組織と市場とネットワーク。
第08回	事業創造とネットワーク－戦略的ネットワーク	戦略的ネットワークとは何か。ヒエラルキー組織から戦略的ネットワークへ。
第09回	事業創造とネットワーク－相互行為のネットワーク	相互行為的ネットワークとは何か。中小企業ネットワークにおける相互行為的なコミュニケーション。商店街の衰退と活性化。組合活動における相互行為的ネットワーク。
第10回	事業創造とネットワーク－事業システム戦略とネットワークの活用	事業システムとは何か。イタリアの中小企業にみる分業のしくみと事業システムの構築。
第11回	事業創造における組織マネジメント－実践のコミュニティ	実践のコミュニティとは何か。実践のコミュニティの形態。ほかの組織とどこがどのように違うのか。
第12回	事業創造における組織マネジメント－人的資源の管理	ベンチャー組織の人材マネジメント。動機づけの基本的プロセス、マズローの欲求段階論、X理論とY理論など。
第13回	事業創造における組織マネジメント－事業創造とリーダーシップ	ベンチャー企業のリーダーシップ。リーダーシップにおける２つの理論軸。変革型リーダーとは。
第14回	新事業創造支援－大企業における社内ベンチャーと事業創造戦略	社内ベンチャーの仕組みと機能。日本とアメリカの伝統的事例からみる、社内ベンチャーのしくみの違い。
第15回	新事業創造支援－大学発ベンチャーと産学官民連携	大学発ベンチャーとは何か。大学によってベンチャー創出活動になぜ、格差が生まれるのか。産学官連携の難しさ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事業創造論は、経営者の視点に立つことによって、日頃から企業の経営に関わるさまざまなことに関心を持つことが重要です。日経新聞から出版されている各種のビジネス雑誌は、もっとも新鮮な話題を提供しているので、是非そうした情報ソースを活用して役立ててください。ただし、これらの情報は幅広く、その時々の常に新しいビジネスの形態について教えてくれますが、これらの経営現象には、一定の傾向や理論的な枠組みに基づいており、そのことをより深く学ぶことが大切です。

本講義を学習するに当たっては、是非、このようなテキストを参照することでより深い洞察や観察力を養いながら、事業創造にまつわる経営現象や組織現象を理解するようにしてください。

本講義の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし。各回のスライドの最後に参考文献を表示します。

【参考書】

① 導入部分：日本政策金融公庫・鈴木『新規開業企業の軌跡』勁草書房　忽那・安田（2005）『日本の新規開業企業』白桃書房
② 事業創造における経営戦略：山田（2000）『新事業開発の戦略と組織』白桃書房　ミンツバーグ他（1999）『戦略サファリ』東洋経済新報社　榊原・大滝・沼上（1989）『事業創造のダイナミクス』白桃書房
③ スタートアップ・プロセス：長谷川（2010）『ベンチャーマネジメント「事業創造」入門』日本経済新聞社　シェーン・金井・渡辺（2005）『大学発ベンチャー』中央経済社　桐畑（2010）『日本の大学発ベンチャー』京都大学学術出版
④ 事業創造とネットワーク：若林（2009）『ネットワーク組織』有斐閣　朴（2003）『ネットワーク組織論』ミネルヴァ書房　稲垣（2003）『イタリアの起業家ネットワーク』白桃書房　加護野・井上（2007）『事業システム戦略』有斐閣アルマ

⑤ 事業創造における組織づくり：金井（1991）『変革型ミドルの探求』白桃書房　金井（2004）『組織行動の考え方』東洋経済新報社
　ロビンス・高木（2009）『組織行動のマネジメント　新版』ダイヤモンド社

【成績評価の方法と基準】
中間リポートと期末リポートで判定します。
中間リポート = 50%
期末リポート = 50%

【学生の意見等からの気づき】
中間リポートはほぼ自由な作文を求めてますが、いつもさまざまな視点があることに気づかされます。そうした視点を伸ばせるよう、少しでもインタラクティブでありたいと思います。

【Outline (in English)】
In this lecture, we will learn about the business creation process of a company in the early stages of its founding, and the managements and organizational behaviors to overcome maturity. Especially, we will deepen our understanding of the activities of small and medium-sized enterprises or venture companies as the main actors of change through some case studies based on the theory of business organization and strategy.
This lecture is in the form of video learning. Lecture materials only contain summaries, so be sure to take notes while studying. Also, use the quiz to know your proficiency level and learn the main points of the lesson content.
For intermediate assignments, one of (1) scoring or individual evaluation /correction, (2) overall comment, and (3) posting of model answers and excellent reports will be carried out.
This lecture will be judged by the interim report and the term-end report.
Intermediate report = 50%
Year-end report = 50%
Regarding additional learning, it is important for business creationism to be interested in various things related to corporate management on a daily basis by taking the perspective of the manager. The various business magazines published by the Nikkei newspaper offer the freshest topics, so please make use of those information sources.

MAN300TG（経営学 / Management 300）

消費者行動論(後期メディア)

新倉　貴士

カテゴリー：**後期メディア**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**後期**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
消費者の行動は、非常に微妙なものに左右されてしまいます。昨日まで飛ぶように売れていたブランドが、突然売れなくなってしまいます。一体何が消費者の行動を規定しているのでしょうか。当授業では、このような消費者行動について、さまざまな角度から講義します。また、マーケティングとブランド構築への応用のための消費者行動に関する体系的な理解について講義します。
履修生は、消費者行動に関する体系的な知識の獲得と、マーケティングとブランド構築のための応用的知識の獲得を目指します。

【到達目標】
当科目の履修生には、以下の３つの目標を掲げます。
①消費者行動に関する基礎的かつ体系的な知識とこれまでの歴史的展開を理解できるようになることを目指します。
②消費者行動とマーケティングに関する応用的な実務的な知識の獲得を目指します。
③消費者情報処理という視点から、消費者行動の背後にある細やかな認知や微妙な態度にも配慮できるようになることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「法律学科：,DP3,DP5」「日本文学科：DP1,DP2」「史学科：DP1」「地理学科：DP1,DP2,DP3」「経済学科：DP4,DP5」「商業学科：経営学・商学」に関連

【授業の進め方と方法】
授業は、消費者行動論を体系的に学ぶために、授業を５部構成として設定します。第Ⅰ部は「消費者行動分析の基本フレーム」、第Ⅱ部は「環境要因の変化と消費者行動」、第Ⅲ部は「消費者情報処理の分析フレーム」、第Ⅳ部は「購買意思決定プロセスと情報処理」、第Ⅴ部は「購買意思決定の特性とマーケティング」です。授業の方法は、講義形式で行います。スライドを事前に準備しますので、講義内容に合わせて参照してください。また、適宜ホワイトボードに板書をしますので、必要に応じてメモをとるようにしてください。中間試験に関するフィードバックは、システム上で採点を実施し返却します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第01回	消費者行動とマーケティング	消費者行動とは何か、市場の把握と消費者理解、マーケティングの今日的課題と消費者行動分析について講義します。
第02回	消費者行動の分析フレーム	消費者行動の分析レベル、購買行動分析の視点と枠組み、消費者行動の分析モデルについて講義します。
第03回	消費者行動研究の系譜	消費者行動研究の源流と系譜、モチベーション・リサーチの系譜、ブランド選択モデルの系譜、消費者情報処理研究の系譜、近年の展開について講義します。
第04回	消費行動と消費パターンの分析	生活資源配分と消費行動、消費行動分析の３つのアプローチ、消費様式の選択メカニズムについて講義します。
第05回	消費者行動の変化とその諸相	消費者行動の変化をどう捉えるか、家事の外部化と消費の多様化、インターネットが変える消費者行動について講義します。
第06回	情報処理のメカニズム	情報処理システムとしての消費者、処理能力と処理資源の限界とその克服、消費者情報処理モデル、消費者情報処理とマーケティング対応について講義します。
第07回	情報処理の動機づけ	動機としての問題認識、動機づけとしての目標と目標階層、動機づけられるメカニズム、動機づけられた状態としての関与について講義します。
第08回	情報処理の能力	情報処理能力と知識、長期記憶の仕組み、認知構造の水準、専門知識力について講義します。
第09回	購買意思決定の分析	購買意思決定プロセス、伝統的な意思決定理論、情報過負荷の影響、情報処理の多様性について講義します。
第10回	購買前の情報処理	情報の内部探索、情報の外部探索、情報の解釈メカニズム、解釈の多様性について講義します。
第11回	購買時の情報処理	低関与情報処理、情報処理のモード、相互適応的な情報処理について講義します。
第12回	購買後の情報処理	購買後の再評価、再評価と満足、消費者間の社会的相互作用について講義します。
第13回	購買意思決定プロセスとマーケティング	情報処理プロセスを捉える視点、情報処理プロセスとマーケティング・マネジメント、購買意思決定とマーケティングとの関わりについて講義します。
第14回	購買意思決定の特性とマーケティング	購買意思決定と提案価値のデザイン、購買意思決定と価値伝達のデザイン、購買意思決定とインターネットについて講義します。
第15回	ブランド構築と統合型マーケティングコミュニケーション	コモディティ化からの脱却とブランド構築、ブランド構築のための視点、CBBEから見たマーケティング・マネジメントについて講義します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
テキストの該当する章を事前に読んでおいてください。授業の内容は、スライドに要約してありますので、参照してください。また、各回が終了したら、その内容を再度復習して、次回への準備としてください。
本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
『消費者行動論：マーケティングとブランド構築への応用』（青木幸弘・新倉貴士・佐々木壮太郎・松下光司、有斐閣アルマ、2012年）。

【参考書】
『消費者行動論：購買心理からニューロマーケティングまで』（守口剛・竹村和久編著、八千代出版、2012年）。
『消費者の認知世界：ブランドマーケティング・パースペクティブ』（新倉貴士著、千倉書房、2005年）。
『ケースに学ぶマーケティング』（青木幸弘編著、有斐閣、2015年）

【成績評価の方法と基準】
1～2までの中間テストは各々25％として、トータル50％を平常点として扱い、リポート試験を50％として扱う。

【学生の意見等からの気づき】
ご質問に対しては、できる限り迅速に、且つ丁寧にフィードバックをさせて頂きたいと思っております。また本年度も、できるだけ多くの方が履修できるようにしたいと思っております。

【その他の重要事項】
マーケティング関連科目を履修しておくことが望ましい。

【Outline (in English)】
This course is a series of lectures, structured to give students some of the basic, fundamental understandings on consumer behavior and brand marketing strategy. To understand consumer, students will learn consumer's cognition, attitude, and behavior.
Learning course objectives are;
-To introduce students to knowledge about consumer behavior and marketing strategy.
-To learn consumer information processing model.
-To understand the relationship between consumer and brand.
【Learning activities outside of classroom】
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
【Grading Criteria /Policies】
Your overall grade in the class will be decided based on the Mid-term examination (50%) and the Term-end report (50%).

MAN300TG（経営学 / Management 300）

広告論(後期メディア)

竹内　淑恵

カテゴリー：**後期メディア**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**後期**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：
その他属性：**〈実〉**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
今日のマーケティングでは、優れた製品を開発して、魅力的な価格を設定し、入手しやすくするだけではなく、現在および潜在的な顧客とコミュニケーションをとる必要があります。したがって、多くのマーケターにとっての問題は、コミュニケーションをとるべきかどうかではなく、何を言うべきか、いつ、どのように、誰に、そしてどのくらいの頻度で伝えるかということです。このような観点から、企業はコミュニケーション活動を戦略的に設計し、管理する必要があります。本講義では、コミュニケーション活動の大きな比重を占める広告に焦点を当て、マーケティング・コミュニケーション活動への理解を深めることを目的としています。

【到達目標】
以下に挙げる点が本授業の達成目標です。
・マーケティング・コミュニケーションの中でも、特に広告の理論と実務について学び、理解を深める。
・新製品の場合、広告によって認知形成が行われることも多い。新発売の告知情報など市場の動向に敏感に反応する力を養う。
・企業が発信している広告を通じて企業経営に対して関心を持つ。
・レポート課題に積極的に取り組むことにより、文章作成・表現力、情報収集・分析力を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「法律学科：,DP3,DP5」「日本文学科：DP1,DP2」「史学科：DP1」「地理学科：DP1,DP2,DP3」「経済学科：DP4,DP5」「商業学科：経営学・商学」に関連

【授業の進め方と方法】
・授業はパワーポイントを使って、講義形式で進めます。
・基本的には使用するテキストに沿って丁寧に解説します。
・広告論の基礎となるマーケティング論について理解が十分でないと感じる場合は、参考書に挙げた書籍を用いて復習してください。
中間課題に対しては、システム上で採点を実施します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第01回	広告とは何か	広告の定義、広告の種類、広告機能の再検討、広告機能の変化の方向について学ぶ。
第02回	マーケティング計画と広告	広告戦略立案の基礎となるマーケティング、およびマーケティング・コミュニケーションについて学ぶ。
第03回	マーケティング・コミュニケーション組織	広告会社の機能と役割、広告会社と広告主の組織、広告業務の流れを学ぶ。
第04回	広告計画の構造と調査	どのようなプロセスを経て広告計画が立案され、広告が出稿されるのかを学ぶ。あわせて、必要なデータを見極めることの重要性を学ぶ。
第05回	広告戦略の立案	広告活動を方向づけるための戦略立案について理解し、セグメンテーション、ターゲティング、ポジショニングの決定を学ぶ。
第06回	広告予算の決定方法	日本の広告費の規模を確認した上で、合理的な予算決定方法について学ぶ。
第07回	広告コミュニケーション過程と効果	媒体接触からブランドの使用経験までのプロセスを理解するとともに、消費者行動の観点から広告効果を学ぶ。
第08回	表現計画	広告主の伝えたいメッセージをいかに表現化するのか、広告表現の制作プロセス、表現アイデアの開発について学ぶ。
第09回	媒体計画	広告媒体の種類と特徴、オーディエンスの概念と測定方法、媒体計画の立案プロセスを学ぶ。
第10回	インターネット広告戦略	インターネット広告の概略、分類、戦略について学ぶ。
第11回	広告効果の測定①	広告表現内容による効果とプロモーション効果(短期的なポジティブ効果)、広告への誤認による広告効果プロセスに対する影響(広告のネガティブ効果)について学ぶ。
第12回	広告効果の測定②	広告表現内容による長期的な効果と店頭における販売実績への影響(長期的なポジティブ効果)、広告への飽き(長期的なネガティブ効果)について学ぶ。
第13回	広告関連の法規と規制	表現の自由と広告の自由、広告規制の意義と根拠、日本の広告規制の現状、今後の広告規制について学ぶ。
第14回	グローバル広告戦略	グローバル広告の可能性、標準化とローカル化、グローバル広告管理の課題について学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
広告は、例えば通勤・通学中の電車内の交通広告、TV ドラマで放映される CM、いつも読んでいる新聞や雑誌、インターネット上の広告など、毎日の生活で接することができます。その際、単に視聴者という立場で見るだけでなく、企業がどのような戦略で広告を実施しているのかを考えながら見るという姿勢を持つと講義内容への理解がより進むでしょう。授業で学習した内容を各自フィールドワークをする気持ちで、実生活のさまざまなメディアを通じて確認することをお勧めします。
今年度の授業資料では、
・新しいデータを追加したり、
・１枚のスライドを複数枚に分割したり、
・まとめ方を修正したり、
・参考図書等の画像を新たに追加したり、
ビデオ内での説明や画面の内容と若干異なる改訂版を配布します。準備学習や復習等に役立ててください。修正・追加箇所については該当するページに明記してあります。なお、直近の最新データについては、各自 web で検索して確認してみてください。
本授業の準備・復習時間は、各2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
・岸志津江・田中洋・嶋村和恵著(2017)『現代広告論第3版』有斐閣(有斐閣アルマ)。
・竹内淑恵(2010)『広告コミュニケーション効果－ホリスティック・アプローチによる実証分析－』千倉書房。

【参考書】
・コトラー, P., G. アームストロング, 恩藏直人(2014)『コトラー、アームストロング、恩藏のマーケティング原理』丸善出版。
特に、第11章「コミュニケーションによる顧客価値の説得」、第12章「広告とパブリック・リレーションズ」を参考にしてください。
・西尾チヅル編著(2007)『マーケティングの基礎と潮流』八千代出版。
特に、第7章「コミュニケーション・デザイン」を参考にしてください。

・田中洋・岸志津江・嶋村和恵(2021)『現代広告全書－デジタル時代への理論と実践』有斐閣。

【成績評価の方法と基準】
中間テスト1,2を各々25％計50％、そして、レポート試験を50％とし合算して評価します。
(注) 2回実施する中間テストを未受験のまま、レポート課題を提出する受講生がいますが、レポートだけ(最高でも50点) では単位取得できませんので、ご注意ください。

【学生の意見等からの気づき】
授業を受講して質問等がある場合は、「お知らせ」や「学習に関する質問」を活用してください。14 回あるメディアスクーリングの受講は大変だとは思いますが、皆さんの勉学に向けた努力と熱意に期待しています。一緒に頑張って広告論を勉強しましょう！

【その他の重要事項】
メーカーのマーケティング本部広告制作部でブランド広告の企画制作に携わり、広告会社の戦略プランニング室で多数のクライアントの広告プランニングを立案した経験(計20年間勤務)を有する教員が、広告の理論と実務の融合の観点から、多くの事例を取り上げて講義する。

【Outline (in English)】
Course outline: Today's marketing calls for more than developing good products, pricing them attractively, and making them accessible. Companies must also communicate their present and potential customers. For more marketers, therefore, the question is not whether to communicate but rather what to say, when and how to say it, to whom, and how often. From such a point of view, companies need to strategically design and manage communication activities. This class focuses on advertising which accounts for a large part of communication activities.
Learning Objectives: The students will get a better understanding of marketing communication activities. They will acquire advertising knowledge and skills and will be able to explain the significance and role of advertising.
Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.
Grading Criteria /Policy: Final grade will be calculated according to the following process: two mid-term examinations 25%+25%, and term-end report 50%.

【実務経験のある教員による授業科目】
○

MAN300TG（経営学 / Management 300）

会計情報論Ⅰ (後期メディア)

坂上　学

カテゴリー：**後期メディア**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**後期**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では、会計情報システムの構築における会計データモデルの基本について学ぶ。
　会計データモデルは、Sorterの事象アプローチをきっかけとして、主としてデータベース理論の一領域であるデータモデル論の展開とともに進展してきた。具体的には、階層モデル、網モデル、関係モデル、実体関連モデル、オブジェクト指向モデルなどのモデルが提唱されてきたが、これらの集大成であるREA会計モデルについて学習する。

【到達目標】
会計データモデルの到達点であるREA会計モデルが開発されるに至るまでの展開を概観し、会計データモデルの意義と、その背後にあるデータベース理論の基礎を理解することを目標としている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
オンデマンドによるオンライン授業で実施し、授業動画を視聴した後に、小テストを受験すること。小テストは採点を実施し、期末の成績評価に反映させる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	会計データモデル論へのイントロダクション	会計データモデル論についての全体像と講義の進め方を解説する。
第2回	事象理論の形成	テキスト第1章「序論」および第2章「事象理論の形成」について学ぶ。
第3回	事象理論研究の展開	テキスト第3章「事象理論研究の展開」について学ぶ。
第4回	データモデリングの基本とANSI/X3/SPARCの3層スキーマ	テキスト第4章「会計データモデル論の展開」のデータモデルの基本について学ぶ。
第5回	階層モデルおよび網モデルによる会計データモデル論の展開	テキスト第4章「会計データモデル論の展開」の階層モデルおよび網モデルについて学ぶ。
第6回	関係モデルにおけるデータベースの構造	テキスト第4章「会計データモデル論の展開」の関係モデル（データベースの構造）について学ぶ。
第7回	関係モデルにおけるデータベースの一貫性	テキスト第4章「会計データモデル論の展開」の関係モデル（データベースの一貫性）について学ぶ。
第8回	関係モデルにおけるデータ操作言語	テキスト第4章「会計データモデル論の展開」の関係モデル（データ操作言語）について学ぶ。
第9回	オブジェクト指向モデルによる会計データモデルの展開	テキスト第4章「会計データモデル論の展開」のオブジェクト指向モデルについて学ぶ。
第10回	概念モデル研究の展開	テキスト第5章「REA会計モデル」の概念モデル研究の展開について学ぶ。
第11回	REA会計モデルの開発	テキスト第5章「REA会計モデル」のREA会計モデルの開発について学ぶ。
第12回	会計事象の体系化とオントロジー	テキスト第6章「会計事象の体系化とオントロジー」のオントロジーの基礎について学ぶ。
第13回	REA会計モデルのオントロジー分析	テキスト第6章「会計事象の体系化とオントロジー」のREA会計モデルのオントロジー分析について学ぶ。
第14回	会計データモデル論のまとめ	会計データモデル論に関するまとめをおこなう。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
事前にテキストを読んで、あらかじめ分からない点などを把握したうえで授業に臨むこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
坂上学（2016）『事象アプローチによる会計ディスクロージャーの拡張』中央経済社。

【参考書】
増永良文（2003）『リレーショナルデータベース入門－データモデル・SQL・管理システム〔新訂版〕』サイエンス社。

【成績評価の方法と基準】
各回の授業時に実施する小テストの得点と、リポート試験の得点を総合的に判断して評点を計算する。
計算された評点を基に、以下のとおり評価を行う。
100-90:S
87-89:A+
86-83:A
82-80:A-
79-77:B+
76-73:B
72-70:B-
69-67:C+
66-63:C
62-60:C-
59-0:D
リポート試験未提出: E

【学生の意見等からの気づき】
テクニカルな用語がたくさん出てくるので、理解するのが大変かもしれないが、頑張ってほしい。

【学生が準備すべき機器他】
特にはなし。

【その他の重要事項】
「ITパスポート」程度のコンピュータ全般に関する知識は、本授業の理解を大いに助けることになると思われるので、余裕があれば合わせて「基本情報技術者試験」「応用情報処理技術者試験」といった資格の取得も目指して欲しい。
また、本講義は「データベーススペシャリスト試験」に必要な内容を一部カバーしているので、将来データベーススペシャリストを目指す場合には、大いに役立つものとなるだろう。
・基本情報技術者試験： https://www.jitec.ipa.go.jp/1_11seido/fe.html
・応用情報技術者試験： https://www.jitec.ipa.go.jp/1_11seido/ap.html
・データベーススペシャリスト試験：https://www.jitec.ipa.go.jp/1_11seido/db.html

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞会計学、会計情報システム
＜研究テーマ＞事象アプローチによる会計情報開示システムの構築、機械学習を用いた企業評価方法の探索、財務諸表データのテキストマイニング。

＜主要研究業績＞
・『事象アプローチによる会計ディスクロージャーの拡張』、中央経済社、2016年.（2016年度経営分析学会森脇賞受賞）
・"The Impact of XBRL Adoption on the Information Environment: Evidence from Japan," The Japanese Accounting Review, Vol. 4 (January 2015), pp. 49-74. (with Bai Zhenyang and Fumiko Takeda)
・"Value Relevance of Profit Available for Dividend," (with Shin'ya Okuda, and Atsushi Shiiba) Asia-Pacific Journal of Accounting &Economics, Vol. 17, 2010, pp. 41-56.
・"Japanese Accounting Profession in Transition," (with Hiroshi Okano and Hiroshi Yoshimi) Accounting, Auditing & Accountability Journal, Vol. 12 No. 3, March 1999, pp. 340-357.
・『新版 会計人のためのXBRL入門』（単著）、同文舘、2011年.
・『財務情報の利用可能性と簿記・会計の理論』（新田忠誓氏との共編著）、森山書店、2008年.

【Outline (in English)】
(Course outline)
The objective of this lecture is to acquire basic knowledge of the accounting data model for building accounting information systems.
The design and development of accounting information systems proceeds on the premise of a fixed database management system (DBMS) and what is key at this time is the accounting data model. This lecture gives an overview of the development of accounting data model theory as represented by the REA accounting model with the objective of having students understand the fundamentals of accounting data models.
(Learning Objectives)
The goal of the course is to provide students with an overview of the development of the REA accounting model, the significance of the accounting data model, and the basic knowledge of the database theory behind it.
(Method)
This classes are conducted in online lectures (video-on-demand system). Students must take a mini-test after watching the class video.
(Learning activities outside of classroom)
This seminar will be based on the assumption that you have read the material in the textbook prior to class.
(Grading Criteria/Policy)
The evaluation will be based on the total score of the mini-test and the term report.
Grading will be based on the following percentages:
100-90:S
87-89:A+
86-83:A
82-80:A-
79-77:B+
76-73:B
72-70:B-
69-67:C+
66-63:C
62-60:C-
59-0:D
No term report: E

PRI100TG（情報学基礎 / Principles of informatics 100）

データサイエンス入門B(後期メディア)

児玉　靖司、髙田　美樹、坂上　学、長谷川　翔平、高橋　慎、伊藤　克亘、彌冨　仁

カテゴリー：**後期メディア**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**後期**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
現実の社会において、ビッグデータを用いて問題を解決する方法について、実例を用いて学ぶ。実際にインターネット等で収集できる実データを扱ったデータサイエンスを体感する。

【到達目標】
本物のデータを収集・分析・可視化する過程を理解する。データサイエンスの社会における貢献と役割を理解し、インターネットからのデータの収集方法、一般的に使われる分析法、そして、分析結果の解釈や可視化、さらにはその活用というデータサイエンスにおいて重要な３つの要素を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「法律学科： DP5」「日本文学科：DP1,DP2」「史学科：DP1,DP3」「地理学科：DP1,DP2,DP3」「経済学科：DP3,DP4」「商業学科：情報・統計学」に関連

【授業の進め方と方法】
オンデマンド方式により配信された講義資料と動画で学習し、毎回の小テストによって知識を定着させる。また、小テストの結果や、受講生から得られた質問・意見などは学習支援システムに投稿された質問に回答する形式でフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンスと導入	この講義の概要と学習内容について
第2回	実例紹介１　会計・金融におけるデータサイエンス・AIの活用	データサイエンス・AI技術がどのように活用されているかを、会計・金融における実例を通じて知る
第3回	実例紹介２　ファイナンスにおけるデータサイエンス・AIの活用	データサイエンス・AI技術がどのように活用されているかを、ファイナンスにおける実例を通じて知る
第4回	実例紹介３　マーケティングにおけるデータサイエンス・AIの活用	データサイエンス・AI技術がどのように活用されているかを、マーケティングにおける実例を通じて知る
第5回	実例紹介４　植物・医療におけるデータサイエンス・AIの活用	データサイエンス・AI技術がどのように活用されているかを、植物医科における実例を通じて知る
第6回	実例紹介５　音声処理におけるデータサイエンス・AIの活用	データサイエンス・AI技術がどのように活用されているかを、音声・音響処理における実例を通じて知る
第7回	e-Statの使い方　データの収集	e-Stat を例に実データの取得方法について学ぶ
第8回	データの分析１　ヒストグラムと箱ひげ図	ヒストグラムや箱ひげ図といった具体的なデータ処理手法を体験する
第9回	データの分析２　平均・分散・標準偏差	平均・分散・標準偏差といった代表的な統計処理手法を体験する
第10回	データの分析３　散布図と相関係数	散布図や相関係数といった具体的なデータ処理手法を体験する
第11回	データの分析４　回帰	具体的なデータ処理手法として回帰を体験する
第12回	データ表現（可視化）	データを適切に可視化する手法を学ぶ
第13回	質的なデータの解析	質的なデータの集計する方法、並びに、集計した結果からの解析手法について学ぶ
第14回	まとめ	授業内総合テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各２時間を標準とする。オンデマンドで課される章末テスト等に取り組むこと。

【テキスト（教科書）】
授業支援システムより講義資料を、オンデマンドシステムより映像を提供する。

【参考書】
・大学生のためのデータサイエンスⅠ　オフィシャルスタディーノート　滋賀大学データサイエンス学部編
・社会人のためのデータサイエンス入門　オフィシャルスタディーノート　総務省統計局

【成績評価の方法と基準】
各回の章末テスト（85%）、授業内総合テスト（15%）を合算して評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】
質問に対する回答を迅速に行うように努めます。

【学生が準備すべき機器他】
オンデマンド講義であり、オンデマンドシステムにアクセスして動画を視聴できる端末。
実習を行うため、Excelをインストールして実行できるパソコン

【Outline (in English)】
[Course outline]
Learn how to solve problems in real-world society using big data by studying real-life examples. Experience data science firsthand by working with actual data that can be collected from the Internet and other sources.
[Learning Objectives]
Understand the process of collecting, analyzing, and visualizing real data. Comprehend the contributions and roles of data science in society by learning methods of data collection from the internet, commonly used analysis techniques, interpretation and visualization of analysis results, and the application of these results, which are the three crucial elements in data science.
[Learning Activities Outside of Classroom]
After watching the video, you are expected to practice on the computer and take online tests.It will takes about 2 hours.
[Grading Criteria /Policy]
Your overall grade in the class will be decided based on the following
end-of-chapter test: 85%、in-class final test: 15%

PRI100TG（情報学基礎 / Principles of informatics 100）

データサイエンス応用基礎A(後期メディア)

児玉　靖司、髙田　美樹、宮崎　誠、高松　邦彦、卯木　輝彦

カテゴリー：**後期メディア**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**後期**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
数理・データサイエンス・AI（リテラシーレベル）を補完的・発展的に学ぶ。データから意味を抽出し、現場にフィードバックする能力、AIを活用し課題解決につなげる基礎能力について運用を行う側面を中心に修得する。そして、自らの専門分野に数理・データサイエンス・AIを応用するための大局的な視点を獲得する。

【到達目標】
データサイエンスおよびデータエンジニアリングの基本的な概念と手法、応用例を学ぶことで、データから意味を抽出し、現場にフィードバックするための方法を理解する。
AIの基本的な概念と手法、応用例を通して、AIを社会に生かしていく方法を学び、AI技術を活用した課題解決とは何かを理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP1」「史学科：DP1」「地理学科：DP2,DP4」「経済学科：DP3,DP4,DP9」「商業学科：情報・統計学」に関連

【授業の進め方と方法】
オンデマンド方式により配信された講義資料と動画で学習し、毎回の小テストによって知識を定着させる。また、小テストの結果や、受講生から得られた質問・意見などは学習支援システムを通じてフィードバックするので、それらを踏まえて講義内容を復習すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	講義の概要と進め方、諸注意
第2回	データ駆動社会とデータサイエンス	データ駆動型社会においてデータサイエンスを学ぶことの意義を理解する。データ利活用の流れを理解する。
第3回	ビッグデータとデータエンジニアリング	ビッグデータとデータエンジニアリングを実現可能とした背景としてICT(情報通信技術)の発展を理解する。ビッグデータの活用事例を理解する。
第4回	データの観察と可視化	データ分析を進めるための考え方を理解する。グラフによる可視化の方法を理解する。
第5回	データの分析	回帰分析の方法と応用例を理解する。時系列分析の方法と応用例を理解する。
第6回	データ収集と加工	通信技術と通信プロトコルを理解する。IoTからのデータ収集の方法を理解する。データクレンジングの必要性を理解する。
第7回	情報セキュリテイ	情報資産とリスクを理解する。脅威と対策を理解する。
第8回	AIの歴史	人工知能研究のはじまりから現在に至るまでの歴史を理解する。
第9回	AI技術	機械学習の種類と概要を理解する。
第10回	AIの応用分野	人工知能技術の活用について理解する。
第11回	AIと社会	データやAIにまつわる基本的な倫理と合意事項について理解する。AIの知的財産権について理解する。
第12回	AIの構築と運用	AIの開発環境と実行環境を理解する。AIの品質保証と信頼性を理解する。
第13回	AIを活用したシステム	AI技術によるサービスの例を理解する。
第14回	まとめ	期末テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各２時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
講義資料としてオンデマンドシステムより配布する。

【参考書】
オンデマンドシステムより適宜指定する。

【成績評価の方法と基準】
毎回の章末テスト（70%）と授業内総合テスト（期末テスト）（30%）との合計点で評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】
はじめての科目

【学生が準備すべき機器他】
インターネットに接続できる端末。オンデマンドの動画を視聴、ブラウザから章末テストに回答する必要がある。

【Outline (in English)】
[Course Outline(in English)]
You can learn mathematics, data science and AI in a complementary and developmental way. You can acquire the ability to extract meaning from data and provide feedback to the field, as well as the basic ability to utilize AI to solve problems, focusing on the operational aspect.
So you will acquire a broad perspective for your own fields to apply mathematics, data science, and AI.
[Learning Objectives]
Using the basic concepts, methods and application examples of data science and data engineering, you can understand methods for extracting meaning from data and providing feedback to the field.
[Learning Activities Outside of Classroom]
The standard preparatory study and review time for this class is 2 hour each. Work on quizzes, etc, that are imposed online.
[Grading Criteria/Policy]
Evaluation is based on the total score of each check test(70%),in-class comprehensive test(final test) (30%). Please note that each check test has a deadline.

PRI100TG（情報学基礎 / Principles of informatics 100）

データサイエンス応用基礎C(後期メディア)

髙田　美樹

カテゴリー：**後期メディア**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**後期**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
数理・データサイエンス・AI（リテラシーレベル）を補完的・発展的に学び、データから意味を抽出し、現場にフィードバックする能力、AIを活用し課題解決につなげる基礎能力を習得するための実習を行う。そして、自らの専門分野に数理・データサイエンス・AIを応用するための大局的な視点を獲得する。本科目は、実習形態で開講するが、具体的には、数理・データサイエンス・AIの活用における一連のプロセスである「課題の発見と定式化」・「データの取り扱い」・「モデル化」・「結果の可視化」・「検証、活用」を実習を通じて学ぶことを目的にしている。

【到達目標】
データサイエンスおよびデータエンジニアリングの基本的な概念を実践することで、データから意味を抽出し、現場にフィードバックするための方法を理解する。
ExcelVBAマクロプログラミングを実習し、プログラミングの考え方とプログラミングによるデータ解析の手法を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP1」「史学科：DP1」「地理学科：DP2,DP4」「経済学科：DP3,DP4,DP9」「商業学科：情報・統計学」に関連

【授業の進め方と方法】
オンデマンド方式により配信された講義資料と動画で学習し、動画に沿って実習を行う。質問は、オンデマンドシステムの質問機能により受付、回答する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	・プログラミングの考え方と、とりまく環境を理解する。 ・Excelの使い方をおさらいする。 ・自動マクロ記録を利用してサブルーチンの呼び出しを実習する。
第2回	オブジェクト・プロパティ・メソッド	・セルに数値を代入する方法を実習する。 ・セルにExcelの式や関数を設定する方法を実習する。
第3回	行ごとの処理	・文字の色や背景色の設定を実習する。 ・レコード内のデータ処理を実習する。
第4回	繰り返し	・繰り返し処理の記述を実習する。 ・大量のデータのレコード内の処理を実習する。
第5回	条件分岐	・二者択一の構文を実習する。 ・大量のデータの各レコードにおける選択的な処理を実習する。
第6回	多分岐	・多分岐の構文を実習する。 ・大量のデータの各レコードにおける多肢選択処理を実習する。
第7回	合計の算出	・全レコードの合計値を求める方法を実習する。 ・大量の実データについて合計を求める。
第8回	変数と型	・変数を導入し、型の概念を理解する。 ・変数を利用した実習を行う。 ・変数を利用して大量の実データの処理を行う。
第9回	最大値の求め方	・最大値を求めるアルゴリズムを理解し、最大値を求める実習を行う。 ・最大値の位置を求める実習を行う。 ・大量の実データについて最大値を求める。
第10回	データのクレンジング	・空欄を埋める、形式を変更するなど、データ解析を行うために必要な処理を実習する。 ・大量の実データについて、クレンジングを行う。
第11回	配列的な処理	・インデックスを利用したデータの検索を実習する。 ・大量の実データについて、インデックスを利用した処理を行う。
第12回	配列	・配列を利用したクロス集計を実習する。 ・大量の実データについて、クロス集計を行う。
第13回	データベース	・ SQLの実習を行う。
第14回	演習	期末テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
講義資料と映像をオンデマンドシステムより配信する。

【参考書】
・ExcelVBA本格入門　大村あつし　技術評論社

【成績評価の方法と基準】
各回の章末テスト（85%）、授業内総合テスト（期末テスト）（15%）で評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】
はじめての科目

【学生が準備すべき機器他】
インターネットに接続できる端末。オンデマンドの動画を視聴、ブラウザから章末テストに回答する必要がある。
Excelが動作するパソコン（Windows・Mac）

【オフィスアワー】
質問箱にて受け付ける

【Outline (in English)】
（Course outline）
Can learn about mathematics, data science, and AI (literacy level) Complementary and developmental. And can acquire the ability to extract meaning from data, to feed it back to the field, and to solve problems by utilizing AI by practical training. So will acquire a broad perspective for your own fields to apply mathematics, data science, and AI.
（Learning Objectives）
The goals of this course are to understand programming concepts and methods of data analysis through programming.
（Learning activities outside of classroom）
The standard preparatory study and review time for this class is 2 hour each. Work on quizzes, etc, that are imposed online.
（Grading Criteria /Policies）
Your overall grade in the class will be decided based on the following
end-of-chapter test: 85%、in-class final test: 15%

LIT100TA（文学 / Literature 100）

文学（秋期スクーリング）

中澤　忠之

カテゴリー：**秋期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：　｜　単位数：**2単位**
期間：**秋期**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講手続き等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
普段何気なく読んでいる小説が、きわめて政治的で社会的なものであるということを考えたことがあるでしょうか。文学作品は、人畜無害な単なるフィクションではありません。ときに世の中の差別や偏見を生み出し助長するものであり、特定の個人や集団を傷つけるものでもあります。あるいはまた、社会秩序を乱すとして批判される過激な暴力や性表現も無視できないでしょう。もちろんその一方で、社会の差別や偏見と戦ってきた歴史も、文学にはあります。文学作品における、こういった政治的かつ社会的な側面を、本講義では取り上げます。素材は性表現と差別表現がメインです。
メディア環境が激変している昨今の事情に対応させて、取り上げる表現は文学のみならず、映画やマンガなど多岐にわたる予定です。現在進行形の話題も積極的に扱います。

【到達目標】
これまでなんとなくイメージしてきた表現の自由や表現の暴力性といった概念を、法規制や表現史を通して具体的に捉えられる教養の獲得を到達目標とします。文学に関心がある学生のみならず、法律等社会の制度設計に関心のある学生も歓迎します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP3」「史学科：DP1, DP3」「地理学科：DP1」「経済学科：DP6, DP7」「商業学科：幅広い教養」に関連

【授業の進め方と方法】
配布する資料をもとに講義するスタイルです。
必要に応じてリアクションペーパーを書いてもらいます（3回程度）。
授業中・授業後の質問やリアクションペーパーにおける有意義なコメントは授業内で紹介し、今後の授業に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	講義の概要説明および導入。
第2回	文学が置かれた社会状況	表現規制の最近の動向を解説。
第3回	性表現・暴力表現と規制①	性・暴力表現とその規制の歴史を振り返る。
第4回	性表現・暴力表現と規制②	「わいせつ罪」を中心に、現代社会における性・暴力表現を考える。
第5回	性表現・暴力表現と規制③	「青少年保護」を中心に、現代社会における性・暴力表現を考える。
第6回	性表現・暴力表現と規制④	「児童ポルノ」を中心に、現代社会における性・暴力表現を考える。
第7回	性表現・暴力表現と規制⑤	ネット社会における性・暴力表現について解説する。
第8回	差別表現と規制①	差別表現とその規制の概要を解説する。
第9回	差別表現と規制②	差別の仕組みを知るために、具体的な作品を参照する。
第10回	差別表現と規制③	戦後の日本における差別の歴史を振り返る。
第11回	差別表現と規制④	差別には複数のパターンがあるので、それらを分節化して解説する。
第12回	差別表現と規制⑤	差別表現とその規制の現在。特にネット社会における差別表現（Metoo運動など）を考える。
第13回	差別表現と規制⑥	最近話題になる嫌韓・嫌中的な「ヘイトスピーチ」について考察する。
第14回	まとめと試験	これまでの講義の総括。表現の自由とその規制の社会的バランスを考える。 また、補足として、著作権やプライバシーの問題から表現の社会性をにも言及したい。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
まず何より活字や映像作品に触れてください。そして、表現規制の話題は常時ニュースになるので、そのつど気にかけて、新聞やウェブでの議論に触れてほしい。たとえば、昨今話題になっている性表現なり差別表現に対する規制強化の動き、あるいはネット上で盛んに行われている著作物の無断コピーや二次創作等について考えてみるのもよいでしょう。
ここ数年は、美術家の性的な表現物がわいせつ罪に問われたり、また差別的なヘイトスピーチがメディアで盛んに取り扱われています。文学作品にとらわれず、こういった表現にかかわる社会的問題に注目してください。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
随時プリントを配布します。

【参考書】
なし。

【成績評価の方法と基準】
最後の試験が評価の主要な対象となります。3回予定のリアクションペーパー（400字程度）も評価したい。評価の割合は最後の試験が70％、リアクションペーパーを30％とします。

【学生の意見等からの気づき】
基本的に口述と板書が多いので、「授業の概要を示すプリントがあればよい」という意見がありました。重要なポイントとなるところではプリントで示すことも考慮に入れようと思います。
映像を積極的に導入し、時事的な話題も取り入れました。

【Outline (in English)】
【Course outline】【Learning objectives】
The novel has a very political and social part. Literary works are not mere fiction. They sometimes produce discrimination and prejudice of the world, and they also hurt certain individuals and groups.Or you can not ignore radical violence or sexual expression that is criticized as disturbing the social order.
On the other hand, literature also has a history of fighting social discrimination and prejudice. This lecture will cover these political and social aspects of literary works. Sexual expression and discrimination are the main material.
Our goal is to acquire a culture that allows us to understand topics such as freedom of expression and violence of expression through legal regulations and the history of expression.
【Learning activities outside of classroom】
Please contact literary works and video works. And since the topic of freedom of expression and expression regulation is always news, please contact the discussion in newspapers and the web.
【Grading Criteria /Policy】
The final report is the main subject of evaluation. I also want to evaluate the short reports (about 400 characters) for each session. The evaluation rate is 70%for the final report and 30%for short reports.

PHL100TA（哲学 / Philosophy 100）

論理学（秋期スクーリング）

大貫　義久

カテゴリー：**秋期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：　｜　単位数：**2単位**
期間：**秋期**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講手続き等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
私たち人間は自分の意思を言葉によって表現し、他の人に伝えることができます。しかしその際、正しく考え、誤解のないように伝えることが大切です。そして正しく考えるには、正しい判断（認識）と正しい論理（推理）が必要です。その正しい思考を教えてくれるのが論理学です。この授業は、論理学を初めて学ぶ学生のために、「論理的」とはいかなることなのか、また論理的に考え、表現するためには、どのようにしたらよいのかということを、基礎から順に学んで行きます。論理的思考を身につけることは、今後に役立ちます。

【到達目標】
説明と練習問題によって、論理的に考え、表現する方法が実際に身につくようにすることが、到達目標です。試験においては、正しく論理的に考え、表現する力が、身についたかを見ます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP3」「史学科：DP1, DP3」「地理学科：DP1」「経済学科：DP4」「商業学科：幅広い教養」に関連

【授業の進め方と方法】
ノート（プリント）を配布し、それを使用して説明していきます。説明のあとに、問題演習を行い、論理的思考が実際に身に着くようにします。フィードバックとして、演習の答えについて解説し、その都度、各自で授業内容の理解度を確認してもらいます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の内容と論理学への導入
第2回	論理学の根本原理、概念について	同一の原理・矛盾の原理・排中の原理、概念の成り立ち、概念の内包・外延
第3回	命題について	判断と命題、定言命題の種類、命題の記号化
第4回	定言命題の4種類とオイラーの図について	定言命題のオイラーの図、概念の周延・不周延についての説明
第5回	判断の命題化（標準形式化）について	判断を命題の形にする方法の説明と練習問題
第6回	推理及び演繹推理について	推理とは何か、推理の妥当・非妥当、演繹推理の説明
第7回	演繹推理の直接推理、特に変形による推理について	対当による推理、変形による推理、練習問題に取り組む
第8回	演繹推理の直接推理について	換質・換位による本格的な推理を学ぶ
第9回	演繹推理の間接推理について	三段論法の定言三段論法について、その構造と規則を学ぶ。
第10回	演繹推理の間接推理について	定言三段論法の練習問題に取り組み、論理を身につける。
第11回	演繹推理の間接推理について	定言三段論法の練習問題に取り組み、論理を身につける。
第12回	演繹推理の間接推理について	仮言三段論法について学び、練習問題に取り組む。
第13回	現代論理への導入、	選言三段論法と両刀論法の説明。練習問題に取り組む命題論理学の紹介
第14回	まとめと試験	まとめのあと試験を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業で扱う項目を教科書に従い予習し、さらに授業で扱った項目をそのつど復習して下さい。本授業の準備・復習学習は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
大貫義久・他　『改訂版 論理学の初歩』梓出版社。　アマゾンＰＯＤで入手可能。教科書は、主に復習用に使用して下さい。

【参考書】
授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】
最終授業内での試験で決定します。

【学生の意見等からの気づき】
論理学は理解できれば楽しいという意見が多くありました。説明が少し早くなってしまった箇所もあったので、十分に理解してもらうために工夫したいと思います。

【その他の重要事項】
授業に出席し、内容を理解して下さい。理解すれば、論理は面白くなります。

【Outline (in English)】
The aim of this course is to help students acquire an ability to think logicaly.　This course introduces the basics of the traditional logic and symbolic logic to students. Students can understand the outline of the traditional logic（syllogisms）by taking this course.　Learning time outside of classroom is 4 hours: 2 hours each for preparation and review.　Your overall grade inn the class will be decided based on Term-end examination.

LAW100TA（法学 / law 100）

法学（日本国憲法）（秋期スクーリング）

山口　哲史

カテゴリー：**秋期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：　｜　単位数：**2単位**
期間：**秋期**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講手続き等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
主に法学の初学者・入門者を対象に、法学の基礎に関する講義を行う。内容は、主に日本国憲法の構造と基本原理に関するものである。

【到達目標】
この授業の目的は、はじめて法学を学ぶ学生が、法学の基礎を習得し、現代法の仕組みと基本原則を理解することにある。法的な知識と資質を身に付けると共に、民主的な国家の主権者として備えるべき基礎的な法的素養の習得を目指す。
到達目標は次の通り。
①法学の基本概念・用語の意味内容を習得し、現代法の基本的な仕組みと体系を理解する。
②社会の中での法の役割を理解し、法によって社会的な紛争がいかに解決されるか、個人の権利がどのように守られるかが分かるようになる。
③日本国憲法の基本を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP3」「史学科：DP1, DP3」「地理学科：DP1」「経済学科：DP7」「商業学科：幅広い教養」に関連

【授業の進め方と方法】
法学・日本国憲法の基本を解説していきます。授業内で学生のみなさんに発言を求める場合があります。授業の進み具合によって内容を修正・変更する場合があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	導入	授業の進め方と法学の意義について
2	日本国憲法	憲法総論－憲法とは何か、憲法の歴史、立憲主義
3	日本国憲法	憲法総論－憲法とは何か、憲法の歴史、立憲主義
4	日本国憲法	統治機構－国会
5	日本国憲法	統治機構－内閣
6	日本国憲法	統治機構－裁判所と司法権
7	日本国憲法	違憲審査制
8	日本国憲法	基本的人権－幸福追求権（包括的基本権）・法の下の平等
9	日本国憲法	基本的人権－精神的自由（思想・良心の自由、信教の自由）
10	日本国憲法	基本的人権―表現の自由
11	日本国憲法	基本的人権―経済的自由、人身の自由
12	日本国憲法	社会権・国務請求権
13	日本国憲法	平和主義・天皇制
14	期末試験	筆記試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
現時点で指定の教科書はありません。授業開始時に指定する教科書があれば、授業内でお知らせします。

【参考書】
宍戸常寿、石川博康編『法学入門』（有斐閣, 2021）ISBN：978-4641126183
毛利透『グラフィック 憲法入門 第2版』（新世社、2021） ISBN：978-4883843244
長谷部恭男・石川健治・宍戸常寿編『憲法判例百選Ⅰ・Ⅱ』（有斐閣、2019）
必要に応じて授業中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】
期末試験で評価します。これにより、到達目標欄の達成度を評価します。

【学生の意見等からの気づき】
引き続き、具体例を示しながら授業を進めていきます。

【学生が準備すべき機器他】
お知らせ等がある場合には、Hoppiiを利用することがあります。

【その他の重要事項】
特になし

【Outline (in English)】
The aim of this course is to help students acquire legal studies including constitutional law.
The goals of this course are to understand basics of legal studies, how to work law in society, and basics of constitutional law.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Final grade will be calculated according to term-end examination (100%).
Details will be announced later.

CUA100TA（文化人類学・民俗学 / Cultural anthropology 100）

文化人類学（秋期スクーリング）

ベル　裕紀

カテゴリー：**秋期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：　｜　単位数：**2単位**
期間：**秋期**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講手続き等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
学生は、マリノフスキー以降の文化人類学の諸概念および理論を毎回トピック別に学習し、文化人類学の基礎的かつ体系的な理解を目指す。それを通じて、文化人類学的な社会の見方を身に付け、「異文化」「他者」の理解とは何なのか、考える。

【到達目標】
学生は、文化人類学的な社会の見方を身に付け、「異文化」「他者」の理解について認識論的な立場から批判的に学習する。それを通じて、現代的な問題、身近な問題においても、内省的な思考力を養うことを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP3」「史学科：DP1, DP3」「地理学科：DP1」「経済学科：DP6, DP7」「商業学科：幅広い教養」に関連

【授業の進め方と方法】
講義を基本とするが、受講者の積極的な参加を期待する。授業後に毎回リアクションペーパーの提出を課し、次の回の冒頭で可能な限り紹介し、授業内容に反映させる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第一回	文化人類学の考え方	文化人類学が成立した時代的背景および学問的な特徴を概説する。
第二回	機能構造主義と文化相対主義	機能構造主義と文化相対主義が主張された理論的・時代的背景を踏まえた上で理解し、それに対する1960年代以降の批判を理解する。
第三回	親族研究	贈与・交換に並んで、人類学にとって重要な親族論の展開を通史的に把握する。
第四回	贈与・交換	文化人類学の理論の中核を成す、贈与、交換に関する研究の展開を学習する。
第五回	贈与・交換と「負い目」	D.グレーバーや小田亮の議論を手掛かりに、シェアリングや贈与、市場交換、再分配というモノやサービスの流通を「負い目」という観点から捉えなおす。
第六回	規範と法	法人類学における法の捉え方、諸研究を概観し、とりわけ法多元主義をめぐる議論に焦点を当てる。
第七回	暴力の人類学	暴力や戦争を扱った人類学的な研究を取りあげ、集団の境界や関係について、考察を深めていく。
第八回	人種と民族	人類学のみならず、社会科学全般にとって重要な概念である、「人種」と「民族」という概念の歴史的な変遷について学習する。
第九回	ジェンダー論と構築主義	ジェンダーという考え方、人類学におけるフェミニズムからの批判的な諸研究を概観し、構築主義的な考え方を理解する。
第十回	人権と人類学	1945年以降の人類学における人権の捉え方を通時的に把握した上で、近年の人権に関する議論について学習する。
第十一回	機械の人類学	人類学における科学技術論などを参照しながら、動く道具としての機械と製品のオーサーシップに対する理解を深める。
第十二回	技術と産業の人類学	企業は労働力とモノやサービスの流通の結節点として捉えることができる。またそれは様々な技術が折り重なったものでもある。この授業では、人類学における産業および技術の研究を概観しながら、巨大なネットワークとして産業を捉える視点を提示する。
第十三回	難民の人類学	難民という存在をH.アーレントを手がかりに、国民国家を基本とした国際秩序の枠組みの中で捉えた上で、人類学的な難民研究を紹介する。
第十四回	「異文化」「他者」の理解	人類学の目的である「異文化」「他者」の理解という問題を、これまでの講義の要点を踏まえて改めて確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回のリアクションペーパーを通じた復習と、翌週の授業の準備に概ね2時間程度の時間をかけるものとする。また、それに加えて授業内で紹介する参考文献を、各自の関心に応じて読みこみ、理解と思考を深めることが望ましい。

【テキスト（教科書）】
なし。毎回の授業で講義レジュメを配布する。

【参考書】
岸上伸啓編2018『はじめて学ぶ文化人類学：人物・古典・名著からの誘い』ミネルヴァ書房。
桑山敬己・綾部恒雄編2018『詳論　文化人類学：基本と最新トピックを深く学ぶ』ミネルヴァ書房。
中島成久編著2016『グローバリゼーションのなかの人類学案内』第7刷、明石書店。
松村圭一郎2011『ガイドブックシリーズ基本の30冊　文化人類学』人文書院。
ヘンドリー、ジョイ　2017『＜増補新版＞社会人類学入門　多文化共生のために』桑山敬己・堀口佐千子訳　法政大学出版局。
その他、授業時間内に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
期末レポート50％、毎回のリアクションペーパー42％、授業への参加度8％で評価する。

【学生の意見等からの気づき】
毎回の授業の冒頭に学生が前回提出したリアクションペーパーの一部を紹介し、応答を行ったり、講義の中で言及したりして、学生の理解を深めていく。

【Outline (in English)】
This course provides an introduction to cultural/social anthropological discussion.
Students who take this course will:
1, learn anthropological discussion about the gift, kinship, politics/power, ethnicity, gender, nation-states and so on.
2,gain anthropological understanding for interpretations and analyses of our daily lives and social system.
3, gain better understanding about culture and about difficulties inherent in writing culture.

BIO100TA（その他の総合生物・生物学 / Biology 100）

生物学３（講義）（秋期スクーリング）

大槻　涼

カテゴリー：**秋期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：　｜　単位数：**2単位**
期間：**秋期**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講手続き等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
生物学を「おぼえる」ではなく、「つなげる」ことで理解を深めることを目指します。生物学を２つの軸、「普遍性」と「多様性」にとらえ、秋学期では多様性に着目する。

【到達目標】
生物学に関する最新のニュースについて、背景となる事柄を自分で探すことができる。
講義で理解した事柄を文章で説明することができる。
生命現象の基本的な事柄を理解し、説明することができる。
大学初級向けの生物学の教科書を自力で理解することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP3」「史学科：DP1, DP3」「地理学科：DP1」「経済学科：DP3, DP7」「商業学科：幅広い教養」に関連

【授業の進め方と方法】
講義はPowerPointをつかったプレゼンテーションを主体とする予定です。
毎回の講義でリアクションペーパーを出し、翌回に解説と復習によるフィードバックを予定しています。
法政大学　学習支援システムを使用予定しています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	生物学とはどのような学問か？ 生物学の２つの「軸」	・イントロダクション ・なぜ、生物学を学ぶのか？ ・生物学と、ほかの自然科学は何が違うのか？ ・ティンバーゲンの４つのなぜ
第2回	多様性を生み出す「普遍性」：進化とはなにか？	・進化とはどのような現象か ・種分化の仕組み
第3回	「超高速進化現象」としての適応放散	・シクリッドとダーウィンフィンチ ・共進化がもたらす劇的な変化 ・生物間相互作用のふしぎ
第4回	すべての生物の歴史	・全生物の系統と「３ドメイン」 ・系統学とは何か？ ・分子系統学によって明らかになったこと
第5回	生物多様性とは？	・生物多様性を理解するには？ ・生物多様性条約とは？ ・「生態系サービス」はなぜ重要か？
第6回	生物多様性の３つのスケール（１）　遺伝的多様性	・DNAレベルで多様性を考えるには？ ・「分子マーカー」をつかった研究
第7回	生物多様性の３つのスケール（２）　種多様性	・いまいちど「種」とは何か？ ・多様性を「はかる」には？
第8回	生物多様性の３つのスケール（３）　生態的多様性	・生物同士の「つながり」を通してみた多様性 ・世界の生態系の現状と課題 ・多様性研究を始めるには？
第9回	絶滅：生物多様性の危機	・多様性と絶滅の関係は？ ・5大絶滅とは？ ・絶滅の渦 ・人間が生態系とかかわるとき ・ヒアリ問題
第10回	分類学基礎　分類するとは？	・多様性を知るには？ ・　図鑑を使って「名前」を調べるには？ ・博物館と標本館の役割　未来に伝える生物情報
第11回	新天地を求めての挑戦　生物の上陸作戦と空への挑戦（1）	・動物の上陸作戦と環境 ・相同器官と相似器官：古くて新しい問題 ・適応放散の実際
第12回	新天地を求めての挑戦　生物の上陸作戦と空への挑戦（2）	・植物の上陸作戦 ・性の進化と多様性
第13回	「ヒト」にいたる道	・2022ノーベル賞をひもとく ・人類史研究の現在 ・デニソワ人
第14回	多様性からみた生物学	・地球環境問題と生物多様性のこれから ・保全生物学と現在の課題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。
講義内容をノートにまとめ、自分の言葉で説明できるように、基本事項を自分から調べる必要があります。

【テキスト（教科書）】
指定はしないが、適宜必要な資料は提示します。

【参考書】
進化生物学 -ゲノミクスが解き明かす進化-、赤坂甲治、2021、裳華房、ISBN 978-4-7853-5872-3
岩波生物学辞典、巌佐庸　ら（編）、岩波書店、　2013、第5版、ISBN-13:978-4000803144
キャンベル生物学原書11版、池内昌彦　ら(監修,翻訳)、　丸善出版、　2018ISBN-13:978-4621302767

【成績評価の方法と基準】
期末試験（80％）およびリアクションペーパーによる評価（20％）

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【その他の重要事項】
積極的に最新の科学に関する話題も講義で取り上げる予定です。社会情勢などにより講義の順番を変更する場合もある。

【Outline (in English)】
【Course outline】
The course aims to deepen students' understanding of biology not only by learning it, but also by connecting it. The spring semester "Biology 3" focuses on universality. The course will focus on universality, and will explain the characteristics of all living organisms and the mechanisms that give rise to diversity, starting from the basics.
【Learning Objectives】
Can find background information on the latest news in biology on his/her own.
To be able to explain in writing what they have understood in the lectures.
Understand and explain the basic principles of biological phenomena.
Understand biology textbooks for beginners on their own.
【Learning activities outside of classroom】
The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

You will need to research basic matters on your own so that you can summarize the lecture content in your notes and explain it in your own words.
【Grading Criteria /Policy】
Grades will be based on two report assignments (40%each) and a reaction paper (20%).

CHM100TA（その他の化学 / Chemistry 100）

化学２（講義）（秋期スクーリング）

渡邉　永治

カテゴリー：**秋期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：　｜　単位数：**2単位**
期間：**秋期**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講手続き等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
身近にある化学を理解し、役に立つ化学を身につけることをねらいとする。そのために、生活の中でよく出合う化学物質の性質を題材とする。合成材料、あるいは生命に関する化学について、物性や反応のメカニズムを理解できるようにする。また、地球温暖化、オゾンホール、環境ホルモンなどの環境問題についても、分子レベルで理解することを目的とする。

【到達目標】
生活の中でよく出合う化学物質の物性、構造、反応などを、分子レベルで理論的に考察できるようになる。さらに、現代化学のトピックスについても、メカニズムを理解できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP3」「史学科：DP1, DP3」「地理学科：DP1」「経済学科：DP3, DP7」「商業学科：幅広い教養」に関連

【授業の進め方と方法】
教科書の内容について、板書を中心に講義を行ない、基本的な内容を理解していただき、その都度、参考書で紹介されている、関連する応用例も解説する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	有機反応論（1）	ラジカル反応、イオン反応
第2回	有機反応論（2）	活性化エネルギー、反応熱
第3回	求核置換反応と脱離反応	SN1、SN2、E1、E2
第4回	反応機構	ザイチェフ則、ホフマン則、マルコニコフ則
第5回	芳香族の反応	ニトロ化反応、位置選択性
第6回	官能基の反応（1）	ヒドロキシル基、エーテル、カルボニル基
第7回	官能基の反応（2）	ホルミル基、カルボキシル基、アミノ基
第8回	光化学	光異性化、ロドプシン
第9回	ビタミン	脂溶性と水溶性、補酵素
第10回	糖	糖の性質、反応
第11回	アミノ酸	アミノ酸の性質、反応
第12回	タンパク・酵素	アミノ酸配列、高次構造、酵素反応
第13回	核酸	DNA、RNA
第14回	ホルモン	ペプチドホルモン、ステロイドホルモン

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
ノートをまとめておくこと。重要なキーワードについて説明できるようにしておくとよい。
本授業の準備・復習時間は、各2時間を目安とする。

【テキスト（教科書）】
『絶対わかる有機化学』齋藤勝裕著、講談社、2003年、￥2,640

【参考書】
『グレイ 化学− 物質と人間− 』H.B.Gray、J.D.Simon、W.C.Trogler著、東京化学同人、1997年、￥2,200+税

【成績評価の方法と基準】
成績は、期末試験（配分100％）により評価する。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【Outline (in English)】
The aim of this course is letting students acquire general chemistry through studying various materials and phenomena. To achieve the goal, students will learn chemical topics closely related to our daily life. It is expected that students can understand properties and reaction mechanisms of synthetic materials as well as those of chemical species related to life sciences. In addition, environmental issues such as global warming, destruction of the ozone layer, and endocrine disruptor will be discussed to understand them in the viewpoint of chemistry. The final grade will be based on the term-end examinations, but the content of the previously submitted reports will be taken into consideration in the evaluation.

LANe100TA（英語 / English language education 100）

英語Ｓ(１)（秋期スクーリング）

青山　恵子

カテゴリー：**秋期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：　｜　単位数：**1単位**
期間：**秋期**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講手続き等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業は英語のテキストを正確に読解しながら、現在の日本が直面する様々な課題と将来の展望について考えていくことを目的としています。

【到達目標】
1.英和辞典を適切に使えるようになること
2.英語の文 章の内容を正確に理解できるようになること
3.適切な英語の音読ができるようになること
4.正確に英語の音声を聞き取ることができるようになること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP3」「史学科：DP1, DP3」「地理学科：DP1」「経済学科：DP6, DP8」「商業学科：幅広い教養」に関連

【授業の進め方と方法】
授業の進め方：
演習形式で行います。
1.paragraph reading(リーディング)
2.comprehension check(読解の確認)
3.reading aloud(音読練習)and dictation(リスニング)
フィードバック方法：
授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーをいくつかを取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introduction / Should Nuclear Power Dependency Be Halted? 原発依存 #1	1. Orientation オリエンテーション 2. Reading the first paragraph of Chapter 7
2	Should Nuclear Power Dependency Be Halted? 原発依存 #2	Understanding issue: 1.Paragraph reading 2.Comprehension Check
3	Should Nuclear Power Dependency Be Halted? 原発依存 #3	Understanding issue: 1.Paragraph reading 2.Comprehension Check
4	Should Nuclear Power Dependency Be Halted? 原発依存 #4	Exercise 1.Structure Practice 2.Listening Challenge 3.Reading aloud practice
5	Foreign Technical Intern Trainees 外国人技能実習生 #1	Understanding issue: 1.Paragraph reading 2.Comprehension Check
6	Foreign Technical Intern Trainees 外国人技能実習生 #2	Understanding issue: 1.Paragraph reading 2.Comprehension Check
7	Foreign Technical Intern Trainees 外国人技能実習生 #3	Exercise 1.Structure Practice 2.Listening Challenge 3.Reading aloud practice
8	Refugee Status 難民認定 #1	Understanding issue: 1.Paragraph reading 2.Comprehension Check
9	Refugee Status 難民認定 #2	Understanding issue: 1.Paragraph reading 2.Comprehension Check
10	Refugee Status 難民認定 #3	Exercise 1.Structure Practice 2.Listening Challenge 3.Reading aloud practice
11	Heading to the Country 地方移住 #1	Exercise 1.Comprehension Check 2.Dictation 3.Vocabulary Check
12	Heading to the Country 地方移住 #2	Understanding issue: 1.Paragraph reading 2.Comprehension Check
13	Heading to the Country 地方移住 #3	Exercise 1.Structure Practice 2.Listening Challenge 3.Reading aloud practice
14	Review &Test	Final Test 学期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備 学習・復習時間は合わせて授業 1 回あたり 1 時間を標準とします

【テキスト（教科書）】
James M. Vardaman, Japan's Dilemmas and Solutions: 15 Topics You Need to Consider（『考えよう日本の論点１５』, 音羽書房鶴見書店, 2023年）￥2,000＋税

【参考書】
授業中に指示します。

【成績評価の方法と基準】
授業への積極的参加 40%
学期末試験 60%
実授業日数のうち2分の1以上の出席がない場合、試験の受験資格を失うので注意してください

【学生の意見等からの気づき】
英文読解の解説が分かりやすかった、テキストの内容も興味深かったとのコメントに励まされています。今年度も「英語をていねいに読み」「英語で読んだ内容についてじっくり考える」授業を続けていきたいと思っています。

【学生が準備すべき機器他】
辞書（電子辞書可）

【Outline (in English)】
In this class, you will read English texts that focus on current social issues in Japan. You will practice not only systematic reading but listening skills to check your comprehension. By the end of the course, students should be able to do the followings:1.to use an English Japanese dictionary appropriately 2. to accurately understand English texts 3. to read aloud English sentences appropriately 4. to accurately listen to English sentences. University guidelines suggest preparation and review are around an hour a week for a one-credit course. Final grade will be calculated according to the following process in-class contribution (40%) and final test (60%).

LANe100TA（英語 / English language education 100）

英語Ｓ(２)（秋期スクーリング）

妻鹿　裕子

カテゴリー：**秋期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：　｜　単位数：**1単位**
期間：**秋期**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講手続き等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
CNNのニュース映像とスクリプトを使用し、様々なトピックについて学びながら、リスニングとリーディングを中心に総合的な英語力の向上を目指します。

【到達目標】
・英語の文章を正確に読む力をつけます
・論理的な思考力を養います
・語彙力を増やします
・様々な英語（Englishes）の発音に慣れます
・英語のリズムを身につけます

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP3」「史学科：DP1, DP3」「地理学科：DP1」「経済学科：DP6, DP8」「商業学科：幅広い教養」に関連

【授業の進め方と方法】
一つのunitを二回の授業で扱います。前半は語彙とリスニングを、後半はリーディングを中心に進めます。前半はExamplesを小テストとして行い、DefinitionとExamplesの答え合わせをした後、Blanks to Fill inでリスニングをし、答えの確認をします。後半はJudgments to Makeを小テストとして行い、リスニングのスクリプトの訳をした後、Judgments to Makeの答え合わせをします。小テストのフィードバックは授業中に、学期末試験のフィードバックは試験終了後に行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業内容・成績評価等に関する説明
第2回	Unit 7	The Dwindling Appeal of Parenthood (listening)
第3回	Unit 7	The Dwindling Appeal of Parenthood (reading)
第4回	Unit 8	For People on the Go (listening)
第5回	Unit 8	For People on the Go (reading)
第6回	Unit 9	Creative Thinking (listening)
第7回	Unit 9	Creative Thinking (reading)
第8回	Unit 10	India Joins the Club (listening)
第9回	Unit 10	India Joins the Club (reading)
第10回	Unit 11	Radical Calls for Action (listening)
第11回	Unit 11	Radical Calls for Action (reading)
第12回	Unit 12	Goofy Gadgets (listening)
第13回	Unit 12	Goofy Gadgets (reading)
第14回	試験・まとめと解説	学期末試験と復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
前半はDefinitionとExamplesを予習をしましょう。後半はスクリプトの訳をし、Judgments to Makeの答えを探しておきましょう。本授業の準備・復習時間は、合わせて2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
『CNNビデオで見る世界のニュース(25)』
（朝日出版社）

【参考書】
学習用音声ストリーミング配信
https://text.asahipress.com/free/english/

【成績評価の方法と基準】
テスト35％、小テスト35%、平常点30%で評価します。試験の受験資格として出席要件が定められていますので、各自確認しておいて下さい。

【学生の意見等からの気づき】
文法事項等の丁寧な説明と質問しやすい雰囲気づくりを心がけたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】
・辞書（英和・英英）
・学習支援システムに接続できる環境と情報機器

【Outline (in English)】
Course Outline
This class aims to help you develop your listening and reading skills.
Learning Objectives
Students will build up their vocabulary, learn the pronunciation features of English, and acquire reading strategies.
Learning Activities Outside of Classroom
Students will be expected to have completed the required assignments before each class meeting. Study time will be two hours for each class.
Grading Criteria/Policy
The final grade will be based on the following criteria:
1. Final Exam 35%
2. Mini Tests 35%
3. Classroom Participation 30%

LANe100TA（英語 / English language education 100）

英語Ｓ(３)（秋期スクーリング）

井上　紗央里

カテゴリー：**秋期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：　｜　単位数：**1単位**
期間：**秋期**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講手続き等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
映画教材を使用し、リーディング、リスニング、スピーキング、ライティングの演習を行います。特に映画のセリフを利用したスピーキングの練習を通して、英語の発音や会話に慣れることを目標とします。

【到達目標】
1. 映画の視聴を通して英語の音声に慣れリスニング力を強化する。
2. 映画スクリプトの読解を通して英語の文法、語彙力を強化する。
3. 映画で使用される会話表現を身に着けることで自分の意見を英語で述べられるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP3」「史学科：DP1, DP3」「地理学科：DP1」「経済学科：DP6, DP8」「商業学科：幅広い教養」に関連

【授業の進め方と方法】
授業形態は講義と演習形式。映画は The Intern を視聴します。授業では、英語の発音練習、語彙、演習問題の答え合わせ、リスニング練習、映画のスクリプトの読解、会話練習を行います。演習の答え、英文の内容などについて適宜受講生に質問をするので、その質問に答えられるように事前に予習が必要です。学習支援システム (Hoppii) から隔週で課題を出題します。フィードバックには学習支援システム (Hoppii) と E-mail を使用します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の進め方の説明と評価について、英語の発音について、テキストと映画の紹介
2	Unit 6 Applying for a Senior Internship ①	Unit 6 映画視聴, P41-42 Vocabulary. Plot Synopsis, Reading
3	Unit 6 Applying for a Senior Internship ②	P43-44 Reading Comprehension, Expressions, Note Taking
4	Unit 6 Applying for a Senior Internship ③ Unit 7 The Working Environment at ATF ①	P45-47 Note Taking, Listening Comprehension, Discussion, Writing Unit 7 映画視聴 Movie Review, Vocabulary
5	Unit 7 The Working Environment at ATF ②	P48-49 Reading, Reading Comprehension, Expressions
6	Unit 7 The Working Environment at ATF ③	P50-52 Note Taking, Listening Comprehension, Discussion, Writing
7	Unit 8 The Problems ATF Faces ①	P53-54 Unit 8 映画視聴, Movie Review, Vocabulary, Reading
8	Unit 8 The Problems ATF Faces ②	P55-56 Reading Comprehension, Expressions, Note Taking
9	Unit 8 The Problems ATF Faces ③ Unit 9 Working Women &Work Life Balance ①	57-59 Listening Comprehension, Discussion, Writing, Unit 4 映画視聴
10	Unit 9 Working Women &Work Life Balance ②	P59-61 Background Information, Vocabulary, Reading, Reading Comprehension, Expressions
11	Unit 9 Working Women &Work Life Balance ③	P62-64 Listening Comprehension, Note Taking, Discussion, Writing
12	Unit 10 The Possibility of Hiring a New CEO ①	P65-67 Unit 10 映画視聴, Background Information, Vocabulary, Reading, Reading Comprehension, Expressions
13	Unit 10 The Possibility of Hiring a New CEO ②	P68-70 Note Taking, Listening Comprehension, Subtitling, Discussion, Writing
14	期末試験とまとめ	第1回から13回までの授業内容を試験範囲とします。秋期全体のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
事前に指定したテキストの演習問題や Reading Script を予習してきてください。受講者が予習をしていることを前提にスクリプトのディクテーション、内容理解、演習問題の答え合わせなどを進めていきます。各ユニットの演習問題の一部を宿題として学習支援システム (Hoppii) から出題します。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
Active English through Movies　アクティブ・ラーニング型 映画で学ぶ英語4技能　塩見佳代子 /Matthew Coomber /宮林賀奈子 著 (金星堂2021) 2000円 (税別) ISBN 978-4-7647-4125-6

【参考書】
なし

【成績評価の方法と基準】
試験 50 %、平常点（予習、授業内での発言等の貢献度、学習支援システム (Hoppii) からの課題提出）50 %で評価します。最終試験の受験資格を得るためには実授業日数の 2 分の 1 以上の出席が必要となります。

【学生の意見等からの気づき】
受講者のレベルに合わせたペースで授業を進めるよう努めます。

【学生が準備すべき機器他】
授業連絡、課題の出題、フィードバック等はすべて学習支援システム (Hoppii) を通じて行います。課題提出の際に PC、タブレット PC、スマートフォン等インターネットに接続できるデバイスが必要です。教員と連絡をとるための E-mail アドレスも必要となります。

【その他の重要事項】
学習支援システムの授業ページに教員のメールアドレスを掲載するので連絡や質問がある場合はメールで連絡をお願いします。メールを送る際は「授業曜日、時限、学籍番号、氏名」を本文に明記してください。

【Outline (in English)】
The aim of this course is to improve students' reading, speaking, writing, and listening skills through watching movies in English. At the end of the course, participants are expected to acquire basic English skills for outputting their opinions in English. Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter from the text. Your required study time is at least one hour for each class meeting. Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination (50%), In-class contribution and assignment submissions (50%).

LANe100TA（英語 / English language education 100）

英語Ｓ(４)（秋期スクーリング）

中垣　恒太郎

カテゴリー：**秋期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：　｜　単位数：**1単位**
期間：**秋期**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講手続き等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
オンライン映像教材を導入した総合英語教科書を用いて、（1）リスニング力の増強をはかる、（2）ディスカッションに必要な準備の仕方、会話表現を学ぶ。
『映像で学ぶアメリカの素顔――都市・人々・視点』を教科書として、オンライン映像教材を通して、英語で内容を把握ことができることを目指す。学習用に製作されていることからも、語彙・会話表現についてディクテーションやクイズを通して無理なく身につけられる構成になっている。また、各課で学んだ会話表現を活用するアクティビティも盛り込まれていることから、リスニング・コンプリヘンション能力およびアウトプット力を増強する。
アメリカの多様な地域文化を題材とする教科書を通して、異文化に対する理解を深めることも狙いとする。

【到達目標】
（1）映像教材を通して、リスニング・コンプリヘンション力を身につける。
（2）学んだ会話表現をアウトプットする練習を通して、会話表現力を増強する。
（3）ディスカッションに必要な準備の仕方を学び、内容を踏まえた上で的確に意見を述べる。
（4）英語を通して異文化に対する理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP3」「史学科：DP1, DP3」「地理学科：DP1」「経済学科：DP6, DP8」「商業学科：幅広い教養」に関連

【授業の進め方と方法】
毎回１章ずつ演習を行う。練習問題を授業中に確認しながら進める。課題に関しては全体の講評としてフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	教科書『映像で学ぶアメリカの素顔――都市・人々・視点』についての導入	教科書『映像で学ぶアメリカの素顔――都市・人々・視点』の構成について。
第2回	教科書の演習（第１章）――アメリカ東海岸の文化	Unit 1 "Boston, Massachusetts"
第3回	教科書の演習（第２章）――アメリカ東海岸の文化	Unit 2 "Maine"
第4回	教科書の演習（第３章）――アメリカ東海岸の文化	Unit 3 "New York City ①"
第5回	教科書の演習（第５章）――アメリカの首都	Unit 5 "Washington, D.C."
第6回	教科書の演習（第６章）――アメリカの南部文化	Unit 6 "Charleston, South Carolina"
第7回	教科書の演習（第７章）――アメリカの南部文化	Unit 7 "Savannah, Georgia"
第8回	教科書の演習（第８章）――ニューヨーク州オスウェゴ郡	Unit 8"Oswego, New York"
第9回	教科書の演習（第９章）――アメリカの南西部文化	Unit 9 "Austin, Texas"
第10回	教科書の演習（第11章）――アメリカの南西部文化	Unit 11 "Santa Fe, New Mexico"
第11回	教科書の演習（第12章）――アメリカの南西部文化	Unit 12 "Arizona (Grand Canyon, Route 66)"
第12回	教科書の演習（第13章）――アメリカの西部文化	Unit 13 "Los Angeles ①"
第13回	教科書の演習（第15章）――アメリカの西部文化	Unit 15 "Seattle, Washington"
第14回	まとめ	「まとめ」演習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて１時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
『映像で学ぶアメリカの素顔――都市・人々・視点』（金星堂、2020年）

【参考書】
スクリーンプレイ社による映画を題材にした英語学習教材『スクリーンプレイ』シリーズ。

【成績評価の方法と基準】
授業中の演習（80％）、最終授業での「まとめ」演習（20％）

【学生の意見等からの気づき】
通信教育課程のスクーリングとして、対面授業が復活できた機会をどのように活用できるかを引き続き考えてみたい。通信教育課程は多彩な受講生が集っていることから、多彩な背景を持つ受講者がそれぞれの動機とペースで学習している姿からお互いに刺激を得られるような場を作り上げていきたい。

【Outline (in English)】
【Course outline】
This course aims to develop students' listening ability. Students will watch and listen to actual video interviews at natural speed in order to get accustomed to rhythms, and the pitch and intonation of natural spoken English. Students will also learn phrases and expressions typically found in broadcast English.
【Learning Objectives】
The goal is to develop students' listening ability so that they can grasp the outline and the main point of the broadcast and pick out necessary information.
【Learning activities outside of classroom】
Students are expected to spend at least 60 minutes per week before and after each class. Specific instructions will be given.
【Grading Criteria/Policy】
Evaluation will be based on (1) active class participation and commitment in class projects = 80%(2) essays in class = 20%.

LANe100TA（英語 / English language education 100）

英語Ｓ(５)（秋期スクーリング）

大和久　悌一郎

カテゴリー：**秋期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：　｜　単位数：**1単位**
期間：**秋期**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講手続き等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
現在、英語読解能力は、国際社会の中で専門的な学問領域だけでなく、一般的な時事問題・日常生活においても重要になってきています。本授業では、そうした社会の中で用いられている英語に対応するために必要な英語読解能力の習得を目的として、語彙力や文法の理解をより確実にみにつけるとともに、海外の社会のあり方についての理解も深めながら、英語運用能力を充実させていくことを目指します。

【到達目標】
・TOEICレベルのリーディングで用いられる文法事項の基礎を理解する。
・TOEICレベルのリーディングで用いられる語彙の基礎を身につける。
・英語時事ニュースの要旨を把握できる、基礎力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP3」「史学科：DP1, DP3」「地理学科：DP1」「経済学科：DP6, DP8」「商業学科：幅広い教養」に関連

【授業の進め方と方法】
日常的な英語表現と、英文法の各事項について解説しているテキストを用いて、基礎力を身につけていきます。また随時、新聞など海外の英語のニュース記事を読み、読解力を養っていきます。
授業期間中に、数回、アンケートとしてリアクション・ペーパーで回答必須の質問をだし、小テストとして成績に含めます。質問・感想へのフィードバックは次回の授業で行い、課題などについての解説も行います。必要に応じて、指示した箇所の予習をおこなうことをお願いします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の内容の紹介
第2回	Unit 7（例文読解）	商店街での日常表現
第3回	Unit 7（文法）	接続詞について
第4回	Unit 8（例文読解）	観光旅行での日常表現
第5回	Unit 8（文法）	過去完了形について
第6回	Unit 9（例文読解）	新幹線でもちいる日常表現
第7回	Unit 9（文法）	話法について
第8回	Unit 10（例文読解と文法）	旅行先での日常表現／話法
第9回	Unit 11（例文読解と文法）	お土産を買うさいの日常表現／関係代名詞について
第10回	Unit 12（例文読解と文法）	友人と会話するさいの日常表現／関係代名詞について
第11回	Unit 13（例文読解と文法）	日本について説明するさいの表現／関係副詞について
第12回	Unit 14（例文読解と文法）	思い出を語るさいの日常表現／仮定法について
第13回	Unit 15（例文読解と文法）	挨拶のための日常表現／仮定法について
第14回	まとめ	テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各回ごとに扱う章について、事前に予習をしておく。また、テキストに登場した単語や表現については復習する。
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて１時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
愛甲ゆかり、池田有花著『英語で紹介するニッポン！ -続・イングリッシュ・ワンス・モア！ - Introduce Japan in Easy English -English Once More! Ⅱ-』朝日出版社、2016年

【参考書】
特になし。

【成績評価の方法と基準】
平常点（出席・予習・小テスト、アンケートへの回答など）６０%、期末テスト４０%で評価します。

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
資料やレポード課題の提示・提出に際して、学生支援システムを利用することがありますので、利用できるようにしておいてください。

【Outline (in English)】
With reading text book, learning English grammar and words. First of all, I have set a goal of reading articles in English, not only in the classroom, but also in daily life. And toward this goal, I use educational textbook and handouts. As a procedure in one lesson, first, reading one chapter in the textbook, and in the rest of time, reading handouts for 15-30 minutes. Handouts including news stories, essays, and short fiction in newspapers and magazines. Topic is mainly on the current world news. And reading these hangouts, I encourage to read articles in English, not only classroom but also everyday life.
Grading criteria: Attending a lecture(60%), term-end exam(40%).

LANd100TA（ドイツ語 / German language education 100）

独語Ｓ（秋期スクーリング）

宮城　学

カテゴリー：**秋期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：　｜　単位数：**1単位**
期間：**秋期**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講手続き等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
秋期では春期で学んだ語形変化をさらに応用していきます。語形の変化がある体系のもとで行われていることに自らが気づき、それを応用できるようになることが目標です。

【到達目標】
助動詞や分離動詞などを学んで表現の幅を広げられるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP3」「史学科：DP1, DP3」「地理学科：DP1」「経済学科：DP6, DP8」「商業学科：幅広い教養」に関連

【授業の進め方と方法】
授業は基本的に講義形式ですが、テキストのドイツ語文を中心に学生諸君に発音、発言していただく機会を多くとり、さらに課題や小テストによって文法の習得を確認していく予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	命令文・非人称表現	命令文、非人称のes、非人称のesを含んだ慣用表現
第2回	命令文・非人称表現	命令文、非人称のes、非人称のesを含んだ慣用表現
第3回	前置詞	前置詞の格支配、3・4格支配の前置詞、前置詞の熟語的用法
第4回	前置詞	前置詞の格支配、3・4格支配の前置詞、前置詞の熟語的用法
第5回	接続詞	並列接続詞、従属接続詞、接続詞のような働きを持つ副詞
第6回	接続詞	並列接続詞、従属接続詞、接続詞のような働きを持つ副詞
第7回	話法の助動詞	話法の助動詞、話法の助動詞の種類と用法、話し手の推量を表す助動詞の用法
第8回	話法の助動詞	話法の助動詞、話法の助動詞の種類と用法、話し手の推量を表す助動詞の用法
第9回	分離動詞・非分離動詞	分離動詞と語順、分離前つづりと基礎動詞、非分離動詞
第10回	分離動詞・非分離動詞	分離動詞と語順、分離前つづりと基礎動詞、非分離動詞
第11回	再帰代名詞	再帰代名詞の種類と用法、再帰動詞、不定代名詞
第12回	再帰代名詞	再帰代名詞の種類と用法、再帰動詞、不定代名詞
第13回	総復習と練習	文法や語彙、表現を復習し、練習問題で定着を図る。
第14回	確認テスト	定着度の確認とまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
宿題や課題は重要な予習ですので必ずしてくるようにしてください。また前回の既習事項を確認してから授業に臨むようにしましょう。本授業の準備・復習時間は、各1時間を目安とする。

【テキスト（教科書）】
これからはじめるドイツ語入門
著者：高橋亮介
出版社：NHK出版
価格：2200円税込み

【参考書】
授業中に指示します。

【成績評価の方法と基準】
授業への参加度（平常点）（４０％）および学期末の確認テスト（６０％）により評価します。

【学生の意見等からの気づき】
学生諸君の理解度・習得度を確認しながら授業を進めていくよう心掛けているため、総合的に満足のいく評価をいただいていますが、やはり語学は「わかった」よりも「できた」が大切です。真の実力がつくように反復練習を増やしていきたいと思います。

【Outline (in English)】
The student will further study the word forms. The goal is to become aware of a system, under which the words change, and to be able to apply it to other words.

LANf100TA（フランス語 / French language education 100）

仏語Ｓ（秋期スクーリング）

石川　典子

カテゴリー：**秋期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：　｜　単位数：**1単位**
期間：**秋期**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講手続き等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
フランス語の初学者が文法や会話表現を学ぶ授業です。最低限の文法知識をもとに、簡単なフランス語が聞き取れ、運用することができるようになることを目指します。フランス語を身近なものに感じることで、フランスの文化について理解を深めてゆきましょう。
春学期の私の授業か、独習やほかの授業で、近接未来・過去（実用フランス語技能検定試験の５級レベル）まで学習していることが受講条件です。まったく初めて学習する人は受講できません。

【到達目標】
フランス語で過去のことについて話せるようになる。
フランス語で未来のことについて話せるようになる。
フランス語で仕事や社会のことを話せるようになる。
フランス語で関心のある分野について話せるようになる。
実用フランス語技能検定試験の4級レベルへの到達を目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP3」「史学科：DP1, DP3」「地理学科：DP1」「経済学科：DP6, DP8」「商業学科：幅広い教養」に関連

【授業の進め方と方法】
文法の解説が中心ですが、フランス語を聞いて、理解する力の伸長にも取り組みます。文法内容が難しくなるので、理解度に応じて授業の深度を調整します。
各回授業の初めに、前回の授業の疑問点や課題などに対して、フィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	アイス・ブレイク、Leçon 11	夏学期の復習、vouloir, pouvoirの直接法現在、非人称構文
第2回	Leçon 11, Leçon 12	命令法、人称代名詞強制形、avoirを用いた直接法複合過去
第3回	Leçon 12	avoir, êtreを用いた直接法複合過去
第4回	Révision 3	Leçon 11, 12 の復習
第5回	Leçon 14	直接目的補語の人称代名詞
第6回	Leçon 14	間接目的補語の人称代名詞
第7回	Leçon 15	代名動詞の直接法現在、代名動詞の用法
第8回	Leçon 16	関係代名詞・強調構文
第9回	Révision 4	Leçon 14,15,16の復習
第10回	Leçon 17	直接法半過去
第11回	Leçon 17	直接法複合過去と直接法半過去の使い分け
第12回	Leçon18	直接法単純未来
第13回	Leçon 18	中性代名詞、これまでのまとめ
第14回	最終試験	期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・復習時間は、各1時間を標準とします。とくに復習に力を入れてください。家でも声を出して練習してみましょう。その際は、付属の音声ファイルや「書き込み復習ノート」を活用してください。

【テキスト（教科書）】
『À pied！（ア・ピエ！ ―フランス語初級文法）』、西部由里子著、朝日出版社、2022年、2200円＋税

【参考書】
参考書は指定しませんが、授業中に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
授業内での毎回の取り組み50%、期末試験50%で、総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
フランス語を運用するための基本的な文法確認をしっかりとおこないます。その上で、学習したことを実際に活かす演習をおこないます。

【学生が準備すべき機器他】
辞書に関しては、電子辞書、紙の辞書どちらでも良いですが、手元に用意しておくと便利です。授業の復習にぜひ活用してください。

【Outline (in English)】
This course is the continuation of my French course in spring. Students who learn at the first time can't attend.
Students will learn the basic expressions and vocabulary of the French language. At the end of the course, students will be able to express themselves in French.
After each class meeting, students will be expected to spend one hour on this review. Repeating learned expressions aloud will be a good method.
Grading will be decided based on in-class contribution (50%) and term-end examination(50%).

LAW300TB（法学 / law 300）

商法総則・商行為法（秋期スクーリング）

石井　宏司

カテゴリー：**秋期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：　｜　単位数：**2単位**
期間：**秋期**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講手続き等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
商法第二編商行為法についての講義を行う。
商行為法は商人の行為、特に商人の取引に関する法規制に関するものである。商行為法は個人商人と会社の双方に適用されるものであり民法の特別法である。民法と商法を比較しつつ、商人がかかわる契約の成立等や商人間の売買に関する規制を学ぶ。この他に商行為法において規制される交互計算や匿名組合、仲介営業や運送営業など各種の営業などに商行為法独自の法制度を学ぶ。
　本講義においては法学概論および民法等を未修であっても受講者が理解できるよう法学や民法の基礎から丁寧な解説を行うことを予定している。また本講義では条文の文言に即して詳しくわかりやすく講義していく予定である。条文の文言解釈にあたり重要な法の沿革、学説、判例等を理解する
　学生は商行為法の各制度、条文の重要な文言の解釈、主要な判例学説を理解できるようになることが本講義の目標となる。本講義を通して、商行為法の法規制を理解し実社会において活用することができるレベルまで到達することが望ましい。

【到達目標】
商行為法の条文の文言の理解に関して、文言の理解に必須な解釈と沿革、学説等について十分に理解できるようにする。
また、一般用語と異なる商法における専門用語の理解ができるようにする。
さらに民法との関係において商法の特殊性を理解できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
　対面式授業を行います。
　配布資料は教科書の要点を中心にイラストをまじえさらにわかりやすくしたものであり、配布資料と教科書を同時並行で読むことが望ましい。さらに配布資料においては小テストと答えを添付するので事後的な復習に利用して欲しい。
　授業においては質問等を行い、簡単な議論を行ってもらうことがある。質問やディスカッションを通じて商法や法律全般についての理解を深めてもらうこととする。
　授業内容に対する質問等は授業後に受け付けます。授業や課題等に対するフィードバックは授業中に行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス・商行為法総則①	授業の進め方を説明する 商行為法とは何かと言う問題とその沿革について学ぶ
第2回	商行為法総則②	商行為法総則のうち、契約の成立に関する規定と債務の履行・債権担保に関する規定を学ぶ
第3回	商行為法総則③	商行為法総則のうち、有価証券に関する規定を学ぶ その際、有価証券概念について説明を行う。
第4回	商行為法総則④	代理及び委任に関する規定と商行為の営利性が重視された規定を学ぶ
第5回	売買①	商事売買と消費者売買の区分の意義について学ぶ 商事売買の法規制を学ぶ
第6回	売買②	商事売買の法規制を学ぶ 消費者売買に関する法規制を学ぶ
第7回	交互計算	交互計算の意義および効果について学ぶ
第8回	匿名組合	匿名組合の意義およびその法規制を学ぶ 民法の組合との違いについて学ぶ
第9回	仲立営業	仲立営業の意義およびその法規制を学ぶ
第10回	問屋営業	問屋営業の意義およびその法規制を学ぶ
第11回	運送営業①	物品運送の意義およびその法規制を学ぶ
第12回	運送営業②	旅客運送の意義およびその法規制を学ぶ
第13回	運送営業③ 運送取扱営業	旅客運送・運送取扱営業の意義およびその法規制を学ぶ
第14回	寄託	寄託営業の意義およびその法規制を学ぶ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
受講する学生は予習と復習を行うこと。
予習に関して、次回範囲の教科書及び概要に目を通して2時間分程度一読する程度で良い。
復習に関して、教科書を中心として配布資料と六法を用いて3時間程度読み合わせを行ってほしい。復習の際は必ず六法で全ての条文を確認して欲しい。また、復習する際には配布資料で赤文字等で特に強調した文言や学説等を中心に勉強してほしい。自分がその要件に当たるか等、現実への応用意識を考慮しながら復習することが望ましい。その際に必ず六法の条文を参照することが望ましい。
より高度な学習を望む場合は、配布資料にある判例を裁判所ウェブサイトで調査し判決の原文を読むと理解がさらに深まる。判例を全て読む場合の学習時間はさらに2時間から3時間程度になると想定されます。

【テキスト（教科書）】
近藤光男『商法総則・商行為法(第9版)』(有斐閣、2023)

【参考書】
『商法判例百選〔No.243〕』（有斐閣、2019）

【成績評価の方法と基準】
学期末の授業内試験により成績を評価する（配分：100％）

【学生の意見等からの気づき】
商行為の総則部分はは抽象的難解な文言が多く非常にわかりにくいので最新の判例を踏まえ、具体的な説明を加えて授業を行うようにしています。
商行為の運送等においては配布資料で現実に使われている約款等の実際の事例等を活用しわかりやすく現実社会での役に立つようにしています。

【学生が準備すべき機器他】
対面型授業においては筆記用具、小型六法、教科書を所持して出席すること。
資料等の参照時にインターネットを用いることがあるのでパソコンまたはスマホ等があることが望ましい。

【その他の重要事項】
特になし

【Outline (in English)】
This course is intended to provide understanding of The Commercial Acts.　In addition to providing a general introduction to the Japanese legal system, this course will concentrate on specific legal topics such as commercial transactions , open account, and silent partnership agreement. Through this course , students will learn the history, the case law and the doctrine of The Commercial Acts.
【Learning activities outside of classroom】

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.
【Grading Criteria /Policy】
Your overall grade in the class will be decided based on the following:Term-end examination:100%

LAW300TB（法学 / law 300）

会社法（秋期スクーリング）

石井　宏司

カテゴリー：**秋期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：　｜　単位数：**2単位**
期間：**秋期**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講手続き等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義は商法に属する会社法に関する講義である。
本講義を通じて、現在の日本の経済活動の主役である会社（特に株式会社）を規律する会社法の基本原則を理解し、会社に関する問題に関心を持ってもらいたい。
会社に関連する会社法以外の法律にも関心を持ってもらいたい。

【到達目標】
・会社の仕組みや原則について会社法の条文を通じて理解する。
・会社法の条文について解釈上の問題がある場合は学説や判例等を通じて理解し、自分で説明できるようにする。
・自分の身の周りや実社会において生じている会社法上の問題に気付き、会社法による解決策を考えられるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
本科目は講義形式で行う。
本科目は基礎的事項の解説に重点を置き、丁寧に進める。講義内で資料を配布し、図等を使用して、受講生ができるかぎり容易に理解できるように講義する。
授業内容に対する質問等は主に授業後に受け付けます。
授業や課題等に対するフィードバックは授業中に行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス 会社法　総論	ガイダンス、及び、会社法を学ぶための前提知識・用語等の解説
第2回	株式会社の設立1	発起人、定款等に関する解説
第3回	株式会社の設立2	出資の履行、役員の選任等に関する解説
第4回	株式会社の設立3	設立の瑕疵に関する解説
第5回	株式会社の設立4	設立の論点等に関する解説
第6回	株式1	株式の概要、株主の権利、株式の種類等に関する解説
第7回	株式2	株券、株主名簿等に関する解説
第8回	株式3	株式譲渡に関する解説
第9回	株式4	自己の株式の取得に関する解説
第10回	株式5	株式の併合・分割等に関する解説
第11回	募集株式1	募集株式の概要に関する解説
第12回	募集株式3	募集株式の発行手続きに関する解説
第13回	募集株式3	募集株式の発行等を争う方法に関する解説
第14回	定期試験とまとめ	定期試験とまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
受講する学生は予習と復習を行うこと。
予習に関して、次回範囲の教科書及び概要に目を通して2時間分程度一読する程度で良い。
復習に関して、教科書を中心として配布資料と六法を用いて3時間程度読み合わせを行ってほしい。復習の際は必ず六法で全ての条文を確認して欲しい。また、復習する際には配布資料で赤文字等で特に強調した文言や学説等を中心に勉強してほしい。自分がその要件に当たるか等、現実への応用意識を考慮しながら復習することが望ましい。その際に必ず六法の条文を参照することが望ましい。
より高度な学習を望む場合は、配布資料にある判例を裁判所ウェブサイトで調査し判決の原文を読むと理解がさらに深まる。判例を全て読む場合の学習時間はさらに2時間から3時間程度になると想定されます。

【テキスト（教科書）】
柴田和史『会社法詳解〔第 3 版〕』（商事法務、2021）。

【参考書】
・柴田和史『日経文庫ビジュアル　図でわかる会社法〔第 2 版〕』（日本経済新聞出版社、2014）。
・神作裕之ほか編『会社法判例百選〔第4版〕』別冊ジュリストNo.254（有斐閣、2021）。

【成績評価の方法と基準】
成績評価は、期末の定期試験による（定期試験100％）。

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
現在の法律を参照できる六法等を準備してください。この点については最初の授業で説明をします。

【Outline (in English)】
【Course outline】
This course introduces the foundations of the corporation law to students taking this course. The aim of this course is to help students acquire an understanding of clauses and fundamental principles of the corporation law.
This course introduces the foundations of the corporation law to students taking this course. The aim of this course is to help students acquire an understanding of clauses and fundamental principles of the corporation law.
【Learning Objectives】
The goals of this course are to (1) able to obtain basic knowledge about the corporation law, (2) able to explain clauses and systems of the corporation law, (3) able to understand the relationship between the corporation law and our society.
【Learning activities outside of classroom】
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
【Grading Criteria /Policy】
Your overall grade in the class will be decided based on the following：Term-end examination 100%.

LAW300TB（法学 / law 300）

行政救済法（秋期スクーリング）

氏家　裕順

カテゴリー：**秋期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：　｜　単位数：**2単位**
期間：**秋期**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講手続き等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国・都道府県などの行政は、警察行政、医事衛生行政、環境行政、教育行政、経済行政、公共施設行政などの多様な行政領域において、われわれ私人の生活に関係し影響を及ぼしている。行政活動が適法にされることのほか、行政活動により権利利益を侵害され又は必然的に侵害されるおそれのある私人が利用しうる救済制度が、その権利利益の回復・予防のために適切かつ十分なものであることも、重要である。

民事法上のものとは異なる、行政の分野に特有の救済制度として、行政事件訴訟、行政不服審査（行政上の不服申立て）、国家賠償、損失補償が存在する。

行政事件訴訟とは、行政上の紛争があるとき、それを裁判所が審理し、解決するものである。行政不服審査は、行政上の紛争があるとき、それを行政機関が審理し、解決するものである。国家賠償とは、国・公共団体の活動により私人が被った損害を、国・公共団体が補填するものである。損失補償とは、過誤のない国・公共団体の活動により私人に生じた特別の犠牲を、補填するものである。

上記の各救済制度のうち、秋期スクーリングでは、行政事件訴訟がとりあげられる。行政事件訴訟の概要を理解するとともに、その抱える問題を学ぶ。

【到達目標】

行政事件訴訟の類型とそれらの相互関係を説明することができる。
取消訴訟の概要と抱える問題を説明することができる。
取消訴訟以外の抗告訴訟を説明することができる。
抗告訴訟における仮の救済を説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式で行う。フィードバックは授業内で行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	導入講義	各種の行政救済制度（行政の分野に特有の救済制度）　行政事件訴訟と民刑事訴訟の違い
第2回	各種の行政事件訴訟(1)	行政事件訴訟の類型（抗告訴訟、形式的当事者訴訟）
第3回	各種の行政事件訴訟(2)	行政事件訴訟の類型（実質的当事者訴訟、客観訴訟、機関訴訟）　各訴訟類型の相互関係
第4回	取消訴訟(1)	訴訟要件と本案勝訴要件　訴訟要件の教示の制度
第5回	取消訴訟(2)	処分性
第6回	取消訴訟(3)	原告適格
第7回	取消訴訟(4)	訴えの客観的利益
第8回	取消訴訟(5)	判決の種類と効力　事情判決
第9回	取消訴訟以外の抗告訴訟(1)	無効等確認訴訟
第10回	取消訴訟以外の抗告訴訟(2)	不作為違法確認訴訟
第11回	取消訴訟以外の抗告訴訟(3)	義務付け訴訟
第12回	取消訴訟以外の抗告訴訟(4)	差止訴訟
第13回	抗告訴訟における仮の救済	執行停止　仮の義務付け　仮の差止め　講義予定に組み込めなかった事項
第14回	定期試験	試験と解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

後掲の参考書を参照しながら、予習・復習を行う。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストは指定しない。配布するレジメ・資料を用いる。

【参考書】

宇賀克也『行政法概説II〔第７版〕』（有斐閣、2021年）
神橋一彦『行政救済法〔第３版〕』（信山社、2023年）
塩野宏『行政法II〔第６版〕』（有斐閣、2019年）
芝池義一『行政法読本〔第４版〕』（有斐閣、2016年）
芝池義一『行政救済法』（有斐閣、2022年）
藤田宙靖『新版行政法総論（下）』（青林書院、2020年）
そのほか、初回の授業で紹介するもの。
最新版のものを参照すること。

【成績評価の方法と基準】

第14回授業において実施する試験による（100％）が、Covid-19の再感染爆発に伴う感染症り患リスクを回避するために通学できない場合にはレポートによる（100％）。

【学生の意見等からの気づき】

準備学習と復習が授業内容を理解するために必要である。

【学生が準備すべき機器他】

レジメ・資料を印刷して配布する一方、それらのデータを学習支援システムに掲載する予定である。そのため、データにアクセスしたい場合には、学習支援システムを利用するためにPCあるいはスマートフォンを準備されたい。ただし、定期試験では紙媒体のもののみ、参照可能とする。

Covid- 19の再感染爆発に伴う感染症り患リスクを回避するために通学できない場合にはさらに、(1) Zoomが利用できるだけの通信環境、(2) 各回の配布物を参照するためのPDF閲覧ソフトウェア（Adobe Acrobat Reader〔無料〕など）、(3) レポート課題の閲覧・提出のために用いる、.doc, .docxの形式で保存できるソフトウェア（Microsoft Wordなど）が必要となる。

【その他の重要事項】

行政救済法の授業を理解するためには、行政法の内容を修得していることが必要である。行政法でとりあげられる事柄を修得できていない場合、それらを自習すること。自習範囲は担当教員に相談すること。

【Outline (in English)】

This course is designed to sketch out the Administrative Case Litigation Act 1962 (c.139) and to lean inherent problems of the Act 1962.

After completing this course, you should be able to:
· Explain kinds of actions laid down in the Act 1962 and spell out relationship between the actions;
· Sketch out Actions for the Revocation of Administrative Dispositions (these are included in Actions for the Judicial Review of Administrative Dispositions – see Art. 3 and 9 of the Act 1962), with identifying its problems;
· Explain the rest actions of Actions for the Judicial Review of Administrative Dispositions; and
· Explain provisional remedies which could be asked before the court where each Actions for the Judicial Review of Administrative Dispositions are field.

You should spend at least 4 hours on independent learning in order to prepare for and/or follow up every class, reading your own reference book(s).

Assessment for degree of your understanding is done by an end-of-term written exam (100%). If you cannot attend school because of the spread of COVID-19, it is done by an essay in using 'Learning Management System [an internet-based system for learning]'.

LAW300TB（法学 / law 300）

債権各論（秋期スクーリング）

足利　沙緒理

カテゴリー：**秋期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：　｜　単位数：**2単位**
期間：**秋期**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講手続き等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「民法第三編債権第三章事務管理、第四章不当利得、第五章不法行為」の規定に関わる諸問題について学ぶ。
関連する判例等についてもあわせて学習をすることで、各規定が実際にどのような場面において、どのようなかたちで適用されているかを理解する。

【到達目標】
①一般不法行為の要件・効果等を理解する。
②特殊不法行為の要件・効果等を理解する。
③事務管理の要件・効果等を理解する。
④不当利得の要件・効果等を理解する。
⑤①～④をもとに、具体的な検討ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
講義形式で行う。
授業では、テキスト・六法を使用し、適宜資料も配付する。
フィードバックは授業内で行う予定。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス 不法行為とは	授業の内容や進め方についての説明 不法行為法の構造などについての解説
第2回	不法行為の要件①	故意・過失に関する問題についての解説（709条）
第3回	不法行為の要件②	権利侵害・法律上保護される利益侵害に関する問題についての解説（709条、710条）
第4回	不法行為の要件③	因果関係などに関する問題についての解説（709条、711条～713条、720条）
第5回	不法行為の効果①	損害賠償請求権者についての解説（721条）
第6回	不法行為の効果②	損害賠償の範囲、損害賠償額の算定などについての解説（722条1項、723条）
第7回	不法行為の効果③	過失相殺・損益相殺などについての解説（722条2項、724条・724条の2）
第8回	責任無能力者の監督者責任 使用者責任	未成年者等の監督者の責任、使用者責任の意義・要件・効果などについての解説（714条、715条）
第9回	土地工作物責任 動物の占有者の責任	土地工作物責任、動物の占有者の責任の意義・要件・効果などについての解説（717条、718条）
第10回	共同不法行為	共同不法行為の意義・効果などについての解説（719条）
第11回	事務管理	事務管理の要件・効果などについての解説（697条～702条）
第12回	不当利得①	不当利得の要件・効果などについての解説（703条、704条）
第13回	不当利得②	特殊な不当利得についての解説（705条～708条）
第14回	試験	授業で扱った内容についての試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。
予習：次回の授業で扱う条文に目を通す。
復習：配付資料も参照するなどしながら、改めてテキストの該当部分を読み、理解を確認する。

【テキスト（教科書）】
滝沢昌彦・武川幸嗣・花本広志・執行秀幸・岡林伸幸『債権各論』（新ハイブリッド民法４）、法律文化社、2018年

【参考書】
窪田充見・森田宏樹編『民法判例百選Ⅱ債権』（第９版）、有斐閣、2023年
そのほか、授業内でも適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
期末試験により評価（100％）。

【学生の意見等からの気づき】
身近な例も積極的に取り上げるなどして、より具体的な解説をひきつづき心がける。

【Outline (in English)】
・Course outline
This course deals with the rules and problems about the legal relations, when someone is done for others interests on no duty, interests are yielded on no legal grounds and the rights are infringed.
And by learning about the cases that have relations to the problems stated previously, students aim to acquire how to apply each of these articles, practically.
・Learning Objectives
By the end of the course, students will be expected to be able to do the followings:
①to understand what case is judged to be tort and if the case is judged tort, what effects come up.
②to understand what case is judged to be negotiorum gestio and if the case is judged negotiorum gestio, what effects come up.
③to understand what case is judged to be unjust enrichment and if the case is judged unjust enrichment, what effects come up.
④to apply each article that learn at this course to practical case, taking ①～③ into consideration.
・Learning activities outside of classroom
Before each class meeting, students will be expected to have read the articles that took up at next class.
After each class meeting, students will be expected to review the content that took up at last class by reading the relevant part of the text, referring to the explanation and the papers about summary that provided at each class meeting.
Your required study time is at least four hours for each class meeting.
・Grading Criteria
Final grade will be decided based on Term-end examination(100%).

LAW300TB（法学 / law 300）

刑法各論（秋期スクーリング）

LEBRETON CAROLINE

カテゴリー：**秋期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：　｜　単位数：**2単位**
期間：**秋期**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講手続き等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
刑法とは何が犯罪であるか、それに対してどのような刑罰が科されるかを規定した法律であり、このうち刑法総論が刑法典1編（1条～72条）を基礎として各犯罪類型のいわば共通項としての一般的成立要件を中心に論ずるものであるのに対し、刑法各論は刑法典2編（77条～264条）、個別犯罪について、それぞれの成立要件を検討する作業である。本授業では，このうち，財産犯を除く個人的法益に対する罪及び社会的法益に対する罪の主要な犯罪について，保護法益を探究し，解釈により構成要件を中心とする成立要件について学ぶことを目的とする。

【到達目標】
刑法各論の勉強は犯罪の成立要件を単に覚えるのではなく、条文から厳格な理論を展開しつつ、実際上も妥当な結論を導きという、特有の思考様式が必要となる。このような思考方法の基礎を身に着けることを目的とする。
　財産犯を除く個人的法益に対する罪及び国家的法益に対する罪のうち，刑法典における典型的な犯罪について，判例・学説で問題とされている基本的な論点に関して，解釈論を展開することができる。
　以上のような解釈論の結論を，所与の事実に適用し，犯罪の成否を議論することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
受講生が本講義で学んだ知識を道具として社会事象に適用できるという「考える力」を身につけることが目標であり、授業内で学説(内容と根拠)と具体的な事例(主に判例)研究を行う。 フィードバックは試験採点後にオンラインでアクセスできる資料と して提供する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	この授業の進め方の説明、授業理解の前提となる刑法総論の知識の確認。
第2回	生命に対する罪	殺人罪・同意殺人罪
第3回	生命に対する罪（2）	堕胎罪各類型
第4回	生命に対する罪（3）	遺棄罪、保護責任者遺棄罪など
第5回	身体に対する罪	暴行罪、傷害罪
第6回	身体に対する罪（2）	過失致死傷害、危険運転致死傷罪、凶器準備集合罪
第7回	自由に対する罪(1)	自由に対する罪概観。脅迫罪、強要罪
第8回	自由に対する罪（2）	逮捕罪、監禁罪略取罪、誘拐罪
第9回	自由に対する罪（3）	性的自由に対する罪
第10回	自由に対する罪（4）	住居侵入罪
第11回	秘密・名誉に対する罪	名誉毀損罪、侮辱罪
第12回	秘密・名誉に対する罪	信用および業務に対する罪
第13回	社会的法益に他する罪	放火罪、失火罪
第14回	まとめ、試験	全体的なまとめ試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業の復習を中心に行う。具体的には，授業の説明及びレジュメと照らし合わせながら，各自で教科書及び判例集の判例を読む。
本授業の準備学習・復習時間は、各4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
西田典之「刑法各論（第７版）」(弘文堂)
山口厚, 佐伯仁志, 橋爪隆「判例刑法各論〈第八版〉」(有斐閣)

【参考書】
別冊ジュリスト刑法判例百選２各論［第７版］(有斐閣)

【成績評価の方法と基準】
最終時限に試験評価する。(100 %)

【学生の意見等からの気づき】
次の講義で予習した方が良い判例の番号を指示するようにします。

【学生が準備すべき機器他】
「デイリー六法」三省堂など、オンラインで閲覧することも可

【Outline (in English)】
The main objective of this course is to be able to read a section of the law and understand the discussions regarding its interpretation. Therefore, it is not only about memorizing the elements of the crime but rather to focus on the interpretation process. In this class, we will mainly look at the protection of human life, bodily integrity and freedom.
Learning objectives: The main goal is for students to understand the constitutive elements of each offense, and what are the discussions related to their interpretation.
Mainly
1- understand how to read a section of the law and apply it to an actual situation (mostly through studying jurisprudence)
2- understand the different doctrines(the reason of the differences in interpretation and the practical consequences of those differences) and their understanding of the jurisprudence
Learning activities outside the classroom: Before/after each class meeting, each student should spend approximately four hours to understand the course content.
Grading criteria : Final examination 100%

LIT200TC（文学 / Literature 200）

日本文芸史Ⅰ（秋期スクーリング）

伊海　孝充

カテゴリー：**秋期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：　｜　単位数：**2単位**
期間：**秋期**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講手続き等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
◆秋学期は中世（院政期～室町時代）と近世（安土桃山時代～江戸時代）の文学史・芸能史を学ぶ。
◆芸能史の展開を辿ることを中心としながら、主要な文学作品についても解説していく。

【到達目標】
◆古典文学・古典芸能の特色・表現を知る。
◆古典文学・古典芸能の歴史的展開を知り、日本文化の大枠を把握する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
授業は対面で行うが、状況見てオンラインも用いる。基本的に講義形式で進め、適宜発言を求める。質問と意見はリアクションペーパーで募る。授業のはじめにリアクションペーパーからいくつか取り上げて、フィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	中世・近世の文学と芸能	概説
第2回	古代から中世	『平家物語』等
第3回	平家（平家語り）	『徒然草』・『無名抄』等
第4回	猿楽	『宇治拾遺物語』等
第5回	田楽	『太平記』等
第6回	連歌	「座」の文芸略史
第7回	能・狂言	『風姿花伝』等
第8回	古今伝授	中世和歌略史
第9回	幸若舞曲	『信長公記』・奈良絵本等
第10回	風流踊	芸能を描く絵画
第11回	人形浄瑠璃	「曾根崎心中」等
第12回	歌舞伎	狂言と役者
第13回	舌耕芸能	『醒睡笑』等
第14回	まとめ	中近世の文学史・芸能史の流れ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各２時間を標準とする。中世・近世の文芸は１４回で収まりきれないほどの多様性がある。授業で紹介する参考文献をもとに、自身で興味を広げる研究をしてほしい。

【テキスト（教科書）】
毎回資料を配布する。
◎足立直子ほか監修『プレミアムカラー国語便覧』(数研出版)

【参考書】
ジャンルごとに授業内で紹介する。

【成績評価の方法と基準】
◆期末レポート(70％)、各回のリアクションペーパー(30％)。

【学生の意見等からの気づき】
教室・ハイフレックス・完全オンラインの授業形態に併せて、動画・スライドの見え方を工夫する。

【Outline (in English)】
Course Outline: This course introduces the history of literature and performing arts in the medieval and early modern periods.
Learning Objectives: The goals of this course are to acquire an overview of classical literature and the classical performing arts.
Learning Activities Outside of the Classroom: Students will be expected to use this class as an opportunity to expand their own interests. Your study time will be more than four hours for a class.
Grading Criteria/Policy: Grading will be decided based on assignments (80%), and reaction papers (20%).

LIN100TC（言語学 / Linguistics 100）

日本言語学概論（秋期スクーリング）

古牧　久典

カテゴリー：**秋期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：　｜　単位数：**2単位**
期間：**秋期**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講手続き等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では、ことばについての考え方を学ぶ。特に、言語の持つ安定性・規則性という側面を中心に概観する。

【到達目標】
・言語学の基礎知識を習得する。
・ことばについて多角的な視点で考えることができる。
・ことばの性質に迫るための考察技法を運用できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
授業は配布資料によるスライドを使用しての講義形式で行い、リアクションペーパーで内容についてのコメント・意見を求めるという形式で進む。考える必要のあるコメント・意見を集約し、一部を次の授業内で紹介することにより、理解を深め、検討や議論を行う。毎回テーマごとに講義内で扱われた用語について、定義やその具体例を考える。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	概要と目的、授業の方法について
第2回	「ことば」を考えるとは？	ことばの学問
第3回	ことばの様々な側面とは？	言語学の射程
第4回	言語学の隣接領域とは？	学際分野としての言語学
第5回	コミュニケーションとは？	語用論・コミュニケーション論
第6回	ことばの意味とは？	意味論
第7回	ことばの比喩とは？	レトリック論
第8回	文法とは？	文法論
第9回	文の構造とは？	統語論
第10回	単語とは？	形態論
第11回	言語音には何種類あるのか？	音声学
第12回	同じ発音とは？ 違う発音とは？	音韻論
第13回	ことばの相同性をどう考えるか？	言語類型論
第14回	まとめ	全体総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業で登場する用語・概念について、正確な定義と的確な具体例を提示できるかを確認するための課題が毎回出る。その課題に取り組む中で、疑問が生じた場合には、（質問も歓迎するが）図書館等を積極的に活用し、調べる。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
配布資料

【参考書】
黒田 龍之介 著 『はじめての言語学』（講談社現代新書）
斎藤 純男 著 『言語学入門』（三省堂）
斎藤 純男・田口 善久・西村 義樹 編 『明解言語学辞典』（三省堂）
その他、講義内で適時紹介する。

【成績評価の方法と基準】
リアクションペーパー・課題（70 %）、期末レポート（30 %）
（ただし、提出物の遅延提出や未提出があった場合には、合格評価とはならない。）

【学生の意見等からの気づき】
できるだけ身近な例を使ってわかりやすい説明を心がけます。

【その他の重要事項】
同科目Ａを履修済みであることが望ましい。（必須ではない。）

【Outline (in English)】
Course Outline: This course is a general introduction to linguistics, the study of human language. This class provides an introduction to linguistic subfields analyzing sound pronunciation systems (phonetics and phonology), word and sentence structure (morphology and syntax, or grammar), and systems of meaning (semantics and pragmatics).
Learning Objectives: At the end of the course, students are expected to understand linguistic data by using the methodology of modern linguistics.
Learning Activities Outside of the Classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Grading Criteria/Policy: Your overall grade in the class will be decided based on the following: Short reports (70%); Term-end report (30%). (You will not pass this course without submitting each report.)

LIN200TC（言語学 / Linguistics 200）

日本言語史（秋期スクーリング）

松永　明

カテゴリー：**秋期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：　｜　単位数：**2単位**
期間：**秋期**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講手続き等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日本語の歴史について様々な面から、ある時は広く浅く、ある時は狭く深く学びます。

【到達目標】
日本語の「過去・現在・未来」について理解を深めます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
プリントやビデオ等を使用して、日本語の歴史に関する知識を修得します。毎時間、100～200字程度の小レポートを授業中に提出してもらい、次の時間に紹介し、質問に答えます。なお、受講者数が確定した段階で、座席を指定する予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業内容・受講の仕方・成績評価等についての説明
第2回	江戸時代の言語的特徴（1） 受講生の春学期の大レポートの報告（1）	プリント等で解説し、授業中に小レポートを提出（1）
第3回	江戸時代の言語的特徴（2） 受講生の春学期の大レポート報告（2）	プリント等で解説し、授業中に小レポートを提出（2）
第4回	江戸時代の言語的特徴（3） 受講生の春学期の大レポート報告（3）	プリント等で解説し、授業中に小レポートを提出（3）
第5回	江戸時代の言語的特徴（4） 受講生の春学期の大レポート報告（4）	プリント等で解説し、授業内に小レポートを提出（4）
第6回	明治時代から戦前の言語的特徴（1） 受講生の春学期の大レポート報告（5）	プリント等で解説し、授業中に小レポートを提出（5）
第7回	明治時代から戦前の言語的特徴（2） 受講生の春学期の大レポート報告（6）	プリント等で解説し、授業中に小レポートを提出（6）
第8回	明治時代から戦前の言語的特徴（3） 受講生の春学期の大レポート報告（7）	プリント等で解説し、授業中に小レポートを提出（7）
第9回	明治時代から戦前の言語的特徴（4） 受講生の春学期の大レポート報告（8）	プリント等で解説し、授業中に小レポートを提出（8）
第10回	戦後の言語的特徴（1） 受講生の春学期の大レポート報告（9）	プリント等で解説し、授業中に小レポートを提出（9）
第11回	戦後の言語的特徴（2） 受講生の春学期の大レポート報告（10）	プリント等で解説し、授業中に小レポートを提出（10）
第12回	戦後の言語的特徴（3） 受講生の春学期の大レポート報告（11）	プリント等で解説し、授業中に小レポートを提出（11）
第13回	戦後の言語的特徴（4） 受講生の春学期の大レポート報告（12）	プリント等で解説し、授業中に小レポートを提出（12）
第14回	まとめ	大レポート提出と総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
図書館を活用し、日本語史に関する本を積極的に多く読みましょう。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
テキストは指定せず、プリントを使用します。

【参考書】
参考書は授業の進行にそって、そのつど紹介します。

【成績評価の方法と基準】
毎時間提出する「課題（感想等）」(50%)と学期末の大レポート(50%)の内容を勘案して、評価します。

【学生の意見等からの気づき】
学期末レポートの提出期限は、もう少し遅くしてほしい。

【その他の重要事項】
特記事項なし

【Outline (in English)】
Course Outline: The lecture introduces the history of the Japanese language. We will use several handouts to be distributed in class.
Learning Objectives: Students deepen their understanding of Japanese (past, present, and future).
Learning Activities Outside of the Classroom: Use the library and read as many books related to the history of Japanese as you can. As preparation and review of the class, students will be expected to spend about 2 hours to understand the course content.
Grading Criteria/Policy: Your overall grade in the class will be decided based on the following: short report at each class meeting (50%); long report at the last class meeting (50%).

LIT200TC（文学 / Literature 200）

文学概論（秋期スクーリング）

山田　稔

カテゴリー：**秋期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：　｜　単位数：**2単位**
期間：**秋期**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講手続き等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
現代において「文学」とはどういうものか。前期の講義から引き続き、昭和以降の文学についてその時々の状況を踏まえて考えていく。その中で、文学作品の構造・文学の研究方法・他ジャンルとの学際的研究などを知り理解を深める。また、戦後の文学の代表者と、その文学精神の継承者について、個々の独自性と表現についての認識を深めていく。

【到達目標】
昭和以降の文学作品の個々におけるテーマと構造の把握、それらを研究する方法論の認識を深める。特に、戦後以降の多様な文学のありようと作家精神について認識を深め、自己の今後の文学研究に生かせることを目標に学んでいく。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
秋学期は、昭和以降の現代文学の状況と文学の研究方法について、多方面から考えていく。特に戦後の文学の検討とそれ以降の文学の関係性にも注意しながら、作品分析を行い、多様な方法について状況論なども踏まえ検討していく。また、文学の多様な方法意識についても、その歴史性を意識しながら、認識を深めていく。前期と同様、基本は講義形式だが、より多く出席者の発言を求め、作品研究についても実際に行ってもらうことで、授業を進めていきたい。フィードバック方法としては、書かれたものや発言に対する授業内での講評や、よりよい先行研究や資料の例示などを行っていきます。授業後に質問を受け付けます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	文学と文学研究	小田切秀雄『文学概論 増補版』―春学期の復習もかねて
第2回	文学理論と方法意識１	批評理論と学際と、様々な文学理論へのアプローチ
第3回	文学理論と方法意識２	批評理論と学際と、様々な文学理論へのアプローチ２
第4回	戦前・戦中の文学状況１	転向と横光利一・小林秀雄など
第5回	戦前・戦中の文学状況２	中原中也・梶井基次郎・中島敦など
第6回	敗戦と文学	志賀直哉『灰色の月』と石川淳『焼け跡のイエス』の位置
第7回	敗戦と文学２	太宰治と安吾ー敗戦の意味『斜陽』と『白痴』
第8回	戦後の文学について１	近代文学派と戦後派作家
第9回	戦後の文学について２	武田泰淳と埴谷雄高―『蝮のすゑ』、『ひかりごけ』、自同律と存在革命『死霊』
第10回	戦後の文学について３	戦後詩―「荒地」と「列島」と田村隆一
第11回	現代の文学１―第三の新人以降	戦後派への対し方―大江健三郎、遠藤周作、安岡章太郎、古井由吉
第12回	現代の文学２	中上健次と村上春樹、村上龍
第13回	さまざまな現代文学	小川洋子と川上弘美―日常性への異和と静かな世界（「バックストローク」「ことり」「神様」など）
第14回	さまざまな現代文学２	村田沙耶香などとＳＦ的世界、その他

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義で取り上げる作品は事前に読んでおくこと。そして作品論を書くことを想定して準備をしておくこと。

【テキスト（教科書）】
上記に挙げた作品
どの作品も文庫などで比較的入手しやすいものである。特に本の指定はしない。各自で入手しやすいものを使ってください。

【参考書】
別冊國文學№51「近代文学　現代文学　論文・レポート作成必携」學燈社
前期の参考書を基本に置きつつ、現代的なものとして
『同時代としての戦後』大江健三郎（講談社文庫、他）
『主体の変容』三浦雅士（中公文庫）
『日本の同時代小説』斎藤美奈子（岩波新書）
『らせん状想像力　平成デモクラシー文学論』福嶋亮大（新潮社）

【成績評価の方法と基準】
数回に１回の授業日の小課題提出（２０％）と取り上げたテキスト作品から一つを作品論の論述テスト（７０％）として実施する。
また、授業への参加度（１０％）などを総合的に判断し評価します。

【学生の意見等からの気づき】
今年度新たに担当するので、ありません。

【学生が準備すべき機器他】
なし

【その他の重要事項】
作品は変更する場合があります。その場合は事前に連絡します。

【Outline (in English)】
Course Outline: What is "literature" in modern times? Continuing from the lecture in the first semester, I will think about literature after the Showa era based on the situation at that time.
Learning Objectives: Through this, you will learn about the structure of literary works, research methods for literature, and interdisciplinary research with other genres, and deepen your understanding.
Learning Activities Outside of the Classroom: Read the works covered in the lecture in advance. After that be prepared to write a literary review.
Grading Criteria/Policy: The evaluation is comprehensively judged by the submission of short assignments in class (20%), an essay test (70%), and the degree of participation in the class (10%).

LIT100TC（文学 / Literature 100）

日本文芸研究特講・漢文（秋期スクーリング）

吉井　涼子

カテゴリー：**秋期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：　｜　単位数：**2単位**
期間：**秋期**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講手続き等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
親しみのある歴史上人物の話をテキストとして用い、漢文（古典中国語）訓読の基礎を学習する。
当時の中国文化・歴史に触れつつ長文を精読し、漢文読解のための基礎力を高める。

【到達目標】
漢文の基礎構造を学び、訓読のスキルを習得する。
有名な故事成語の典拠や書物、エピソードを用いることで、古代中国の歴史・文化に対する広い視野を持つ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
講義形式で行う。訓点（句読点・返り点・送り仮名）を付した漢文をテキストとして配布し、文の構造を解説しながら精読する。
毎回授業時にリアクションペーパーもしくは小課題を提出してもらい、学生の理解度や興味の方向性を確認し、補足が必要な部分や疑問点などは次の授業時に解説する。また、このリアクションペーパー（又は小課題）の提出と内容で平常点を決定する。
授業計画各回の「内容」にあるものは主として取り扱う部分であり、適宜加える可能性がある。
Lecture format. Chinese materials with *kunten* (punctuation marks, *kaeriten*, *okurigana*) are distributed as texts and we read them carefully as I explain the structure of the sentences. I will also explain the historical background necessary for reading and knowledge of ancient Chinese culture in a timely manner.
In each class, you will submit a reaction paper or sub-assignment, which check the students' understanding and interests, and I will explain the sections and questions that need to be supplemented in the next class. In addition, a general grade will be based on the reaction papers (or short assignments).
The "contents" of each lesson plan may be added to as appropriate.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業内容及び採点方法などの説明をする。また、『史記』や司馬遷についての概要を学習する。
第2回	『史記』刺客列伝を読む（1）	『史記』の刺客列伝から荊軻の部分を精読する。
第3回	『史記』刺客列伝を読む（2）	精読することで、燕国と秦国の状況や荊軻の置かれた立場などを理解する。
第4回	『史記』刺客列伝を読む（3）	太子と荊軻の認識の差などに留意しつつ精読する。
第5回	『史記』刺客列伝を読む（4）	荊軻の暗殺計画がどのような結末を迎えたのか、その結果歴史がどうなっていったのかを理解する。
第6回	『史記』秦始皇本紀を読む（1）	「本紀」について解説し、秦の始皇帝とその時代について知る。
第7回	『史記』秦始皇本紀を読む（2）	始皇帝の行った歴史的事業を理解する。
第8回	『史記』項羽本紀を読む（1）	所謂「項羽と劉邦」のことを学ぶ。
第9回	『史記』項羽本紀を読む（2）	「鴻門の会」の箇所など、登場人物を整理しながら精読する。
第10回	『史記』項羽本紀を読む（3）	項羽と劉邦の関係などに重点を置きつつ、彼らの移動・転戦を地図を用いながら読み進める。
第11回	『史記』項羽本紀を読む（4）	「四面楚歌」の出典となった部分を精読する。
第12回	「報任少卿書」を読む	漢代に至るまでの多くの人間の歴史を知り尽くした司馬遷自身の死生観を学ぶ。
第13回	復習と総括	改めて、漢文の基礎構造や初歩的な訓読方法を復習する。
第14回	試験・まとめと解説	授業で学んだ知識などが身についているか確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
事前に配られたテキストには必ず予習を行うこと。
予習には漢和辞典・漢字辞典が必須となる。
本授業の準備・復習時間は、各２時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
授業時に配布するプリントをテキストとする。
Texts will be distributed in class.

【参考書】
三省堂『全訳　漢辞海』（漢和辞典）
高校時代に使用した国語便覧など。
A dictionary of Chinese characters explained in Japanese.
High school supplementary textbook.

【成績評価の方法と基準】
毎回のリアクションペーパーもしくは小課題を主とする平常点を３０％、期末考査の点数を７０％として評価する。出席は大前提とする。

【学生の意見等からの気づき】
本授業は、漢文訓読を通じて行う。中国・台湾などからの留学生の方には難解な技法かと思うが、この点にご留意の上で受講を決めるようにしていただきたい。
This class is conducted through *kundoku*, or a method for reading ancient Chinese in literary Japanese. I think that it may be difficult for international students from China, Taiwan, etc., but please pay attention to this point before deciding to take the course.

【学生が準備すべき機器他】
・できれば紙のものが望ましいが、アプリ等でも構わないので漢和辞典
・高校の副教本(便覧・要覧)
など。
・また、オンライン授業になった場合はHoppiiを使うので、使用できるような環境を整えておくこと。
・If possible, a paper dictionary is desirable, but it does not matter if it is an app, as long as it is a Chinese-Japanese dictionary.
・High school supplementary textbook.
・Also, if we have an online class, I will use Hoppii, so make sure you have an environment where you can use it.

【その他の重要事項】
対面授業の予定だが、オンライン(オンデマンド)になる可能性のあることを了解の上で登録すること。その場合はHoppiiを利用し、zoomなどは使わない予定である。
I'm planning a face-to-face class, but I'm going to register with the understanding that it might be online (on demand). In that case, I plan to use Hoppii rather than Zoom.

【Outline (in English)】

Course Outline: In this class, we learn how to read classical Chinese using stories about familiar historical figures. We read longer passages, reading them carefully while touching on Chinese culture and stories, in order to strengthen basic skills in reading classical Chinese.

Learning Objectives: Students will learn the basic structures of classical Chinese and gain an understanding of the *kundoku* method for reading Chinese in literary Japanese. They will also deepen their knowledge of the history and culture of ancient China by reading famous works of literature, historical stories and episodes.

Learning Activities Outside of the Classroom: Students should prepare by examining the materials distributed in advance. Chinese-Japanese dictionaries and Chinese character dictionaries are necessary for preparation. The preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading Criteria/Policy: Grades will be based on the following: a general grade based on contents of regular reaction papers and short assignments (70%), and a final examination (30%). Attendance is assumed.

ART300TC（芸術学 / Art studies 300）

書道史（秋期スクーリング）

山口　恭子

カテゴリー：**秋期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：　｜　単位数：**2単位**
期間：**秋期**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講手続き等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講座では、中国、および日本の「書の歴史」を学びます。また、このことを通じ、広く文字の文化に関する知見を養います。

【到達目標】
中国、および日本の書芸術の流れと、それに関わる基本的な事項を習得することを目標とします。とくに、主要な書道史的事項、人物、作品、それらの書道史上の意義等について理解し、説明することができるよう目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
中国、および日本における書の史的展開について講義します。中国の書道史では漢字の起こりから唐代までを、日本の書道史では飛鳥・奈良時代から江戸時代初期までを中心に取り上げます。
なお、授業の内容に関して毎時リアクションペーパーを提出していただきます。次回授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行ってゆきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	・書および書道史研究について
	中国書道史１	・古代の漢字
	（殷・周の書）	・甲骨文と金文
第2回	中国書道史２	・始皇帝の文字統一
	（秦・漢の書）	・隷書の発展と後漢の石碑
第3回	中国書道史３	・書体の発展
	（三国の書）	
第4回	中国書道史４	・王羲之、王献之の書
	（東晋の書）	
第5回	中国書道史５	・北朝の石刻について
	（南北朝の書）	
第6回	中国書道史６	・初唐の三大家と楷書
	（唐の書）	
第7回	日本書道史１	・文字の受容
	（飛鳥・奈良の書）	・聖武天皇、ならびに光明皇后の書
第8回	日本書道史２	・三筆の書
	（平安前期の書）	
第9回	日本書道史３	・三蹟の書
	（平安中期の書）	・和様の成立
第10回	日本書道史４	・仮名の書とその書美
	（仮名の書のさまざま）	
第11回	日本書道史５	・西本願寺本三十六人家集
	（平安後期の書）	
第12回	日本書道史６	・尊円親王の書
	（中世の書）	・さまざまな書流
第13回	日本書道史７	・寛永の三筆の書
	（近世の書）	
第14回	まとめ	中国書道史、日本書道史のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
図書館で、『書道全集』（平凡社、１９７４年）、石川九楊『書の宇宙』（二玄社、１９９６年）といった全集、図版類を見たり、可能であれば博物館・美術館での展示に足を運ぶなどして、より多くの書にふれること。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
指定しません。パワーポイント資料や配布プリントをもとに進めます。

【参考書】
・書学書道史学会編『日本・中国・朝鮮　書道史年表事典』（萱原書房、２００５年）
・角井博監修『中国書道史』（芸術新聞社、２００９年）
・名児耶明監修『日本書道史』（芸術新聞社、２００９年）
そのほか、講義時に提示します。

【成績評価の方法と基準】
期末試験（50％）、課題（30％）、平常点（20％）により評価します。とくに、試験では、主要な書道史的事項、書家、書作品、それらの書道史上の意義について理解し、説明することができるかを評価基準とします。

【学生の意見等からの気づき】
書の歴史を講ずるだけでなく、作品の鑑賞や解釈などについてみなさんとともに考察する機会を設け、学習のモチベーションを高める工夫をしたいと考えています。

【Outline (in English)】
Course Outline: This course deals with the history of Chinese and Japanese calligraphy.
Learning Objectives: The aim of this course is to understand the fundamentals of the history of calligraphy, such as styles and schools of calligraphy, major calligraphers, and the significance of surviving examples of calligraphy.
Learning Activities Outside of the Classroom: Before and after each class meeting, students are expected to spend two hours understanding the content of the course
Grading Criteria/Policy: The overall grade of the class will be determined based on: final exam (70%); and performance in class (30%).

ART200TC（芸術学 / Art studies 200）

日本美術史（秋期スクーリング）

山本　ゆかり

カテゴリー：**秋期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：　｜　単位数：**2単位**
期間：**秋期**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講手続き等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
江戸時代を中心に、近代まで視野に入れた日本美術の歴史を学習します。江戸時代になると、身分の高い特別な人だけではなく、普通に暮らす人々も美術を楽しむようになりました。そのような社会の変化にともなって多彩な美術が生み出されます。江戸と京都を中心に、それぞれの地域で育まれた美術と、その感性がどのように近代に展開したのかを学びます。

【到達目標】
①日本美術の歴史に対する基礎的な理解。②「美しい」と評されてきた美術作品を鑑賞することで、「美しさ」に対する感性を育む。③美術について感じたことを、自分の言葉で語れるようになる。上記を学習目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「日本文学科：DP1, DP2」「史学科：DP1, DP3, DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
講義形式で、パワーポイントを使用したデジタル画像による作品解説を中心に授業を進めます。またリアクション・ペーパーの提出を課し、授業でフィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の概要や進め方について。
第2回	浮世絵1　浮世絵の誕生―菱川師宣	浮世絵の祖・菱川師宣と浮世絵の誕生について。
第3回	浮世絵2　錦絵（多色摺木版画）のはじまり―鈴木春信	初期浮世絵の展開と錦絵の誕生について。
第4回	浮世絵3　美人と役者―喜多川歌麿・東洲斎写楽	歌麿の美人画と写楽の役者絵にみる成熟期の浮世絵について。
第5回	浮世絵4　旅と風景―葛飾北斎・歌川広重	北斎と広重の浮世絵風景画について。
第6回	浮世絵5　ジャポニスム―西洋近代美術と浮世絵	浮世絵に触発された西洋近代美術について。
第7回	江戸絵画のアカデミズム―狩野探幽・土佐光起	幕府や朝廷に仕えた御用絵師の絵画について。
第8回	琳派1　京都のデザイン―俵屋宗達・尾形光琳	京都で生まれたデザインに視点をおいた美術・琳派について。
第9回	琳派2　江戸のデザイン―酒井抱一・鈴木其一	琳派を継承して江戸で復興した江戸琳派について。
第10回	京都の絵画1　文人画の洒脱―池大雅・与謝蕪村	大雅と蕪村の文人画について。
第11回	京都の絵画2　写生画のリアリズム―円山応挙	写生に基づく応挙の新しい絵画について。
第12回	京都の近代美術―円山四条派と京都画壇	応挙の後を受けて京都で展開した近代美術について。
第13回	東京の近代美術―日本美術院と東京画壇	明治維新後に東京で展開した近代美術について。
第14回	試験・まとめと解説	今期の授業を振り返り、理解を確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
参考書を授業の予習復習に活用し、特に授業を振り返り、自身が抱いた思いや印象などを書き留めるなど、復習を充実させてください。また授業外の時間に美術館、博物館、寺院などに積極的に行き、実際の美術を自身の目で確かめてください。授業時間外の学習は予習復習各2時間を基本とします。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しない。授業時にプリントを配布します。

【参考書】
辻惟雄監修『カラー版　日本美術史　増補新装』（美術出版社、2003年初版、1,900円+税）。山下裕二・高岸輝監修『日本美術史』（美術出版社、2014年初版、3,200円+税）。辻惟雄『日本美術の歴史　補訂版』（東京大学出版会、2021年初版、2,800円+税）。※上記三冊は日本美術史全般を概観する参考書です。小林忠監修『カラー版　浮世絵の歴史』（美術出版社、1998年初版、2,500円+税）。※上記は浮世絵の歴史を知るために有益な参考書です。

【成績評価の方法と基準】
リアクション・ペーパーの提出と内容　35％、期末試験　55％、平常点　10％

【学生の意見等からの気づき】
学生の皆さんからの声を活かしながら、相互のやりとりを重視します。カラーの配付資料が見たいという要望を受けて、「学習支援システム」もしくは「Google classroom」からカラーの配布資料のPDFを配信する予定です。

【学生が準備すべき機器他】
「学習支援システム」もしくは「Google classroom」にアクセスできるスマホやPCなどのデジタル機器があると、カラーの配布資料を見ることができます。

【その他の重要事項】
「日本美術史」の授業では、春学期は縄文時代から江戸時代初期まで、秋学期は江戸時代から近代までを学習します。

【Outline (in English)】
Students learn about Japanese Art History from the Edo period to modern times in this course.　At the end of this course, students get basic understanding of Japanese art history, and improve the aesthetic of arts.　Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting.　Your study time will be more than four hours for a class.　Your overall grade in the class will be decided based on the following Term-end examination: 55%, Short reports: 35%, in class contribution: 10%

HIS300TD（史学 / History 300）

日本近世史（秋期スクーリング）

中山　学

カテゴリー：**秋期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：　｜　単位数：**2単位**
期間：**秋期**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講手続き等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
中世後期以降の地域社会の動向をふまえつつ、「近世の村」の成立について学習します。

【到達目標】
「近世の村」の成立要因について説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
授業は講義形式で実施します。学習支援システムを介して中間に2度の小リポートを課すと共に、質問へのフィードバックを通じて理解を助けます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	近世の村-村の景観と構造-	近世の村のイメージをつかむ。
2	近世の村-村運営の仕組み1-	「村掟」を素材として近世の村の成り立ち方と性格について理解を持つ。
3	近世の村-村運営の仕組み2-	「村請制」について学び、近世の村の成り立ち方と性格についてさらに理解を深める。
4	近世の村の源流-中世後期の地域社会1-	近世の村が成立する前に地縁が重要な意味を持つようになった時代があることを確認する。
5	近世の村の源流-中世後期の地域社会2-	甲賀の歴史に着目して「一揆」の形成について学ぶ。
6	近世の村の源流-中世後期の地域社会3-	甲賀の歴史に着目して「一揆」の形成について学ぶ（続）。
7	近世の村の源流-中世後期の地域社会4-	甲賀の歴史に着目して、16世紀代の画期性について学ぶ。
8	近世の村の成立-太閤検地と兵農分離1-	下伊那の地域に着目して、中世後期の地域が直面した変動について理解を深める。
9	近世の村の成立-太閤検地と兵農分離2-	下伊那の地域に着目して、中世後期の地域が直面した変動について理解を深める（続）。
10	近世の村の成立-村方騒動と村内秩序の変容1-	下伊那地域における近世前期の村の秩序と実態について学習し、近世の村が成立するためにはどのような変化が要求されたかということを考える。
11	近世の村の成立-村方騒動と村内秩序の変容2-	下伊那地域における近世前期の村の秩序と実態について学習し、近世の村が成立するためにはどのような変化が要求されたかということを考える（続）。
12	近世の村の成立-村方騒動と村内秩序の変容3-	先行研究が取り上げてきた畿内の史料を素材として、近世前期の村の秩序と実態をさらに点検する。
13	近世の村の成立-村方騒動と村内秩序の変容4-	先行研究が取り上げてきた畿内の史料を素材として、近世前期の村の秩序と実態をさらに点検する（続）。
14	総括	これまでの学習過程を振り返る。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
水本邦彦『（シリーズ日本近世史②）村　百姓たちの近世』岩波書店、2015年
吉田ゆり子『（日本史リブレット）兵と農の分離』山川出版社、2008年

【参考書】
初回授業で案内します。

【成績評価の方法と基準】
小リポート2回（40点）、期末リポート（60点）

【学生の意見等からの気づき】
開設内容が難解にならないように注意したいと思います。

【学生が準備すべき機器他】
パソコン

【その他の重要事項】
質問や課題の提出は、すべて学習支援システムを使用して実施することを予定していますので、パソコンの使用が必須となると考えてください。

【Outline (in English)】
Learn about the formation of early modern villages in Japan.

HIS300TD（史学 / History 300）

日本史特講（対外関係史）（秋期スクーリング）

宇都宮　美生

カテゴリー：**秋期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：　｜　単位数：**2単位**
期間：**秋期**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講手続き等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
四方を海に囲まれた日本は、古くより東アジアを中心に諸外国・諸地域と関係を有してきた。グローバル化がさけばれ、国際関係が問題となる現代において、日本が対外関係をいかに構築してきたか、日本の対外関係史について理解を深めていく。

【到達目標】
日本が諸外国とどのように交流していったか、日本の歴史および諸外国の歴史を考えながら理解する。原因・経過・結果・影響が自分の言葉でまとめられるようにする。今後の日本がどのように外交を進め、諸外国と交流すべきかを考えられるようにする。地図や年表の作成ができるようにする。
試験あるいはレポートを通して、自分の意見を論理化・体系化して相手に伝え、かつ相手の意見を理解するコミュニケーション能力を備える。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
日本の対外関係について時代ごとに学習する。日本の社会の発展に外国との交流がいかに関わっているかを具体的にみていく。学生からの質問に関しては授業の最後に受け付け、学習内容に対するフィードバックも行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	古代の外交１	倭国の対外関係１
第2回	古代の外交２	倭国の対外関係２
第3回	古代の外交３	遣隋使
第4回	古代の外交４	遣唐使１
第5回	古代の外交５	遣唐使２
第6回	古代の外交６	遣唐使３
第7回	中世の外交１	日宋貿易
第8回	中世の外交２	日元貿易と元寇
第9回	近世の貿易１	日明貿易
第10回	近世の貿易２	日清貿易１
第11回	近世の貿易３	日清貿易２
第12回	近世の貿易４	日清貿易３
第13回	近代の外交	日欧外交
第14回	学習のまとめ	学習内容の確認（試験）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業が終わった後、復習をかねて年表や地図を作成する。関心のある時代に関しては図書館の文献等で調べて、知識を深める。また、諸外国からみた日本との交流についても各自調べて、双方向からの学習をする。
最後のレポートに関係するので、各回学習終了後、時代の特徴をまとめておく。
本授業の準備・復習時間は、各２時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
指定の教科書はないが、随時プリントを配布し、参考文献を紹介する。

【参考書】
森克己・沼田次郎編『対外関係史』山川出版社、1978年
鈴木靖民編『日本古代交流史入門』勉誠出版、2017年、3800円+税
村井章介『中世日本の内と外』筑摩書房、2013年、1200円+税
中田易直編『近世対外関係史論』有信堂高文社、1979年、2500円＋税
簑原俊洋,・奈良岡聰智編著『ハンドブック近代日本外交史：黒船来航から占領期まで』ミネルヴァ書房、2016年、3000円+税
田中健夫編『日本前近代の国家と対外関係』吉川弘文館、1987年、13000円＋税
＊このほか、日本の対外関係史に関する文献は多数あるので、図書館等で利用してほしい。

【成績評価の方法と基準】
平常点30％、期末試験70％

【学生の意見等からの気づき】
わかりやすい授業を心がける。
身近な物事に関心を持ち、その歴史や変遷の経緯について考える姿勢を持ってほしい。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【その他の重要事項】
【重要】当該授業を履修した者（合格者）の再履修はできません。残りの単位はリポートで取得ください。
写真撮影・録音をすべて禁止します。

【Outline (in English)】
This course introduces an understanding of Japanese history in respect to international relations with other Asian countries. The aim of this course is to help students acquire historical changes in politics, economy, organization, military affairs, agriculture, culture and diplomacy.
Learning Objectives: The goal of this course is to understand the flow of History of Japanese international relations, the factors and backgrounds that created the historical facts, their influence and development, and the mutual influence and international relations with the surrounding areas.
Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Grading Criteria/Policies: Your overall grade in the class will be decided based on assignments at each class meeting (30%) and term-end examination(70%).

HIS200TD（史学 / History 200）

東洋史概説（秋期スクーリング）

柏倉　優一

カテゴリー：**秋期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：　｜　単位数：**2単位**
期間：**秋期**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講手続き等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、歴史学の方法を通じて唐代までの中国という地域の歴史を理解することを目的とします。

歴史学とは、過去の事実を淡々と羅列するのではなく、過去の事実を考証によって確定させた上で、様々な過去の事実の間に関係を見出し、そうした諸事実間の関係に意味や価値を付与する営みです。現在に生きる人間がこのようにして過去の事実の意味を理解することは、同時に過去への理解をもって現在の自明性を問い直し、理解し直すことにもつながります。

ここでは中国古代を対象としてそうした歴史学の営みを学びます。中国古代の社会は世界史的視点で見ると、同時代の社会の中でも際立って発展した社会の一つであり、また周辺諸地域に与えた影響、及び後の時代に与えた影響という点でも有数の歴史的社会の一つといえます。それを歴史学的に理解することは、現代の中華人民共和国のみならず、日本をはじめとする近隣諸地域を含めた東アジア、あるいは人類全体を理解し直し、新たな意味を見出す機会となり得ます。

【到達目標】

・中国古代の社会の歴史的特性について基本的知識を習得する。
・歴史学の方法論を理解する。
・現在の中国や東アジア地域、あるいは人類社会に対する既存の理解を見直し、新たな意味や価値を見出すきっかけや方法を得る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

この授業は講義形式で行います。講義資料は紙で配布します。
また、講義の真ん中と最後に学生からの質問の時間を設けます。この時間は講義内容を頭の中で整理する時間としても活用してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	導入	授業のねらい
第2回	新石器時代	中国における文明社会の出現
第3回	二里頭・殷	中原王朝の登場
第4回	西周・春秋	都市国家連合の時代
第5回	戦国・秦・前漢前半期	「天下共有」と「天下一統」
第6回	前漢後半期・王莽	統一国家体制の定着
第7回	後漢	古典的国制の成立
第8回	後漢末・三国・西晋	社会の動乱と変質
第9回	五胡十六国	民族問題と南北分裂
第10回	東晋・南朝	貴族の台頭と文化の発展
第11回	北朝	胡漢の融合と統合
第12回	隋・唐前半期	新たな国家体制の出現と国際的展開
第13回	唐後半期	安史の乱と社会の動揺
第14回	次の時代への展望・授業のまとめ	中国古代史が次の時代に与えた影響・授業のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

特定の教科書は使用しませんが、事前に参考書に目を通しておいてもらいたいと思います。
準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教材として毎回プリントを配布します。

【参考書】

・冨谷至・森田憲司編『概説中国史・上』昭和堂、2016年
・尾形勇・岸本美緒編『中国史・上』山川出版社、2019年
・渡辺信一郎『シリーズ中国の歴史1　中華の成立　唐代まで』岩波書店、2019年

【成績評価の方法と基準】

期末レポート100％

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規担当につきアンケートを実施していません。

【Outline (in English)】

Course outline：
This course introduces Ancient Chinese History from the Neolithic Age to the Tang Dynasty to students taking this course.
In this course, students will also learn about the methods of historiography.
Learning Objectives：
By the end of the course, students should be able to do the followings:
− Acquire basic knowledge of the historical characteristics of China.
− Understand the methods of historiography.
− Gain an opportunity to re-understand the universal character of human society and the current China and East Asia region.
Learning activities outside of classroom：
Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter from the text.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.
Grading Criteria /Policies：
Final grade will be calculated according to the following process
Term-end report (100%).

CUM200TD（文化財科学・博物館学 / Cultural assets study and museology 200）

歴史資料学（日本近代）（秋期スクーリング）

鈴木　隆春、山下　大輔

カテゴリー：**秋期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：　｜　単位数：**2単位**
期間：**秋期**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講手続き等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：
その他属性：**〈実〉**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
授業では、主として独立行政法人国立公文書館及び外務省外交史料館の所蔵資料を中心に、文字資料等、様々な形態の資料の読解や内容解説を行う。授業を通じて、日本近代史における史料の探し方、読み方を学び、自らの研究テーマに関わる史料を渉猟し、内容を理解し、活用する能力を身に着けることを目指す。

【到達目標】
日本近代史の研究において必要となる、自らの研究テーマに関連する史料を探し、理解するための基礎的な能力の獲得を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
授業は基本的に講義形式で行う。授業では、事前配布した実物資料の複写物等をテキストとして使用するので、受講生は必ず予習を行うこと。また、受講者に発言を求めることもあるので、積極的に参加してもらいたい。なお、資料の配布は「学習支援システム」を使用して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス(前半)	授業全体と各回の概要について説明を行う。
第2回	国立公文書館の概要　公文書の作成過程(昭和22年まで)	公文式と公式令、政策の立案過程と公文書について
第3回	公文書の作成過程(昭和22年以降)	皇室法・関係法令廃止後、慣例の踏襲と変化について
第4回	終戦の詔書を読む	原本と活字の比較、史料の来歴調査について
第5回	オーラルヒストリー	板垣退助襲撃事件の報告書(「板垣遭害一件」)を読む
第6回	歴史絵画を読む	聖徳記念絵画館の壁画を中心に絵画史料を読み解く
第7回	まとめに代えて	第1回～第6回の復習、公文書管理法について
第8回	ガイダンス(後半)	後期の授業形態を中心に説明を行う
第9回	外交史料館の概要紹介	外交史料館の概要紹介と、以後の授業で使う題材説明を行う
第10回	史料を読む①　条約	条約の読解を通じて、国家間の取り決めをどのように行うかを理解する
第11回	史料を読む②　訓令・電報	訓令・電報の読解を通じて、史料の構造を理解し、くずし字で書かれた文書を読む
第12回	史料を読む③　国書・親書	国書・親書の読解を通じて、史料の来歴と意味を考える
第13回	史料を読む④　個人文書	個人文書の読解を通じて、私文書について理解し、くずし字で書かれた文書を読む
第14回	まとめと解説　試験	授業全体の振り返りと試験の出題(試験については、当日に課題を電子ファイルで提示するので、期日(翌週の指定日)までに提出すること)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業のテキストは事前に配布するので、内容を確認し、語意のわからない部分などは必ず調べておくこと。本授業の準備・復習時間は、各2時間を目安とする。

【テキスト（教科書）】
特定のテキストは使用せず、各授業前に資料を配布し、それをもとに授業を行う。なお、資料の再配布は行わない。

【参考書】
岩壁義光・小林和幸・広瀬順晧編『史料で透視する近代日本』(ゆまに書房、2004年)
歴史学研究会編『日本史史料 [4]近代』(岩波書店、1997年)
熊本史雄『近代日本の外交史料を読む』(ミネルヴァ書房、2020年)
児玉幸多編『くずし字用例辞典』(東京堂出版)

【成績評価の方法と基準】
評価は授業最終回に行う試験及び授業での学習状況や参加度を評価する平常点で行う。(試験60％、平常点40％)
試験については、授業で取り上げた史料に基づいた課題を出題する。課題は試験当日に電子ファイルで提示するので、期日(翌週の指定日)までに提出すること。

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

【学生が準備すべき機器他】
授業前に資料を配布するので、パワーポイント、ワードもしくはpdf形式のファイルを読める環境を整えておくこと。

【その他の重要事項】
教員は国立公文書館職員として、公的機関に対する専門的技術的助言や利用者に対する利用・普及活動に関する実務経験を有している。これらの経験に基づき、歴史学研究の基礎的技術となる資料の検索、読解等に関する内容を主に講義を展開する。
オフィス・アワー制度については、後日、授業資料に記載するメールアドレスにて行う。

【Outline (in English)】
In the classes, reading comprehension and explanation of various forms of materials, such as textual materials, are mainly provided in the possession of the National Archives of Japan and the Diplomatic Archives of the Ministry of Foreign Affairs of Japan.Through classes, we aim to learn how to find and read historical materials in modern Japanese history, explore historical materials related to our research topic, and acquire the ability to understand and utilize the contents.

【実務経験のある教員による授業科目】
○

HIS300TD（史学 / History 300）

史学演習（西洋）（秋期スクーリング）

山野　貴彦

カテゴリー：**秋期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：　｜　単位数：**2単位**
期間：**秋期**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講手続き等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では聖書を歴史文献批判的に精読する。それによって西洋史およびキリスト教の歴史の基礎を築く要因の１つとなったこの書物の特性を学ぶ。

【到達目標】
1) 歴史におけるキリスト教の影響を考察する際に必須である聖書の内実をその史的背景をふまえて知る
2) 歴史学において重要な史料批判・文献批判の方法論を多種多様な文書群で構成される聖書を通して知る
3) 各自の関心・視点に応じた文献収集力および調査力を獲得する
4) レジュメ・口頭発表・リポートの作成力を実際の演習発表を通して獲得する
5) 演習を通してこれまで以上の聴解、議論、問題解決力を獲得する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
新約聖書のマルコによる福音書を精読する。
教員が概観を行う回を除く各回においては、担当者の発表を受けて担当者以外の参加者が各自の見解・疑問点・掘り下げたい部分について言及し全体討議を行い、その後、教員が講評を加えることとする。
各人は担当箇所（第１回目に決定する）について、当日の自身の発表前までにレジュメを用意して配布することが求められる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	新約聖書概略	新約聖書に収録されている文書の特徴について教員が概論を行う。 また、演習の進め方や報告担当者の割り当てなども決定する。
第2回	イエス前史	イエスの研究史、イエスの物語の前史について教員が解説を行う。
第3回	マルコ福音書1章	発表担当者による概要報告と質疑応答
第4回	マルコ福音書2-3章	発表担当者による概要報告と質疑応答
第5回	マルコ福音書4章	発表担当者による概要報告と質疑応答
第6回	マルコ福音書5章	発表担当者による概要報告と質疑応答
第7回	マルコ福音書6章	発表担当者による概要報告と質疑応答
第8回	マルコ福音書7-8章	発表担当者による概要報告と質疑応答
第9回	マルコ福音書9-10章	発表担当者による概要報告と質疑応答
第10回	マルコ福音書11-12章	発表担当者による概要報告と質疑応答
第11回	マルコ福音書13章	発表担当者による概要報告と質疑応答
第12回	マルコ福音書14章	発表担当者による概要報告と質疑応答
第13回	マルコ福音書15章	発表担当者による概要報告と質疑応答
第14回	マルコ福音書16章 新約聖書と歴史	マルコによる福音書の内容総括と福音書の歴史観、また、新約聖書における歴史観について検討する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各２時間を標準とする。
「準備」においてはその回で扱う聖書箇所の精読（レジュメを作成する発表者はもちろんであるが、議論の時間があるので発表者以外もこれを行う）および参考文献の精読が、「復習」においてはその回に扱った文書に関する議論をふまえた再読・参考文献の確認が該当する。
新約聖書には様々な相互関連性があるので、取り組めば取り組むほどその成果が期待できるものとなる。

【テキスト（教科書）】
日本聖書協会『聖書新共同訳　旧約聖書続編つき』を推奨する：
様々な版があるが、標準サイズ（小型）の『聖書　新共同訳　旧約聖書続編つき』は￥3,600+税、ハンディタイプは￥3,100+税
※その他の翻訳聖書（聖書協会共同訳、岩波新約聖書翻訳委員会訳、田川建三訳、フランシスコ会訳など）でもかまわない。
ただし、いずれにせよ、旧約と新約の両方を参照できるようにしておくことを望む。
なお、ギリシャ語原典で新約聖書を読むことのできる受講者には
・Nestle E. /Aland K., Novum Testamentum Graece (Aufl. 28). Stuttgart, 2012. ￥ 6,000 + 税（オンラインショップなどで購入すればこれより安価に購入可能な場合もある）
を推奨する（27版 = Aufl. 27 でもよい）。

【参考書】
・荒井献／石田友雄（監修）『(縮刷版)旧約新約聖書大事典』教文館 2023年
・上村静『宗教の倒錯――ユダヤ教・イエス・キリスト教』岩波書店 2008年
・大貫隆／山内眞 監修『新版 総説新約聖書』 日本キリスト教団出版局 2003年
・大貫隆『イエスという経験』岩波現代文庫 2014年
・大貫隆『イエスの時』岩波書店 2016年
・佐藤研『聖書時代史 新約篇』岩波現代文庫 2003年
（参考として山我哲雄『聖書時代史 旧約篇』岩波現代文庫 2003年も推奨）
・佐藤研『福音書共観表』岩波書店 2005年
・佐藤研『はじまりのキリスト教』岩波書店 2010年
・杉本智俊『図説 新約聖書の考古学』河出書房新社 2021年
・田川建三『原始キリスト教史の一断面――福音書文学の成立』勁草書房 1968年
・田川建三『イエスという男』作品社 2004年
・田川建三『新約聖書　訳と註』（８分冊）　参考URL　https://sakuhinsha.com/list/bible.html

---

・フラウィウス・ヨセフス『ユダヤ戦記』（秦剛平訳、全3巻）（ちくま学芸文庫）および『ユダヤ古代誌』（秦剛平訳、全6巻――この授業の扱う範囲としては特に第4巻から第6巻）は歴史批判的に検証される必要があるが、紀元前後のユダヤ教・キリスト教の歴史を知るための重要な史料となるので推奨したい――新本では手に入りにくいが電子書籍化もされており、そちらであれば入手可能。

他にも必要に応じて提示する。

【成績評価の方法と基準】
平常点のみとする。
なお、基準は以下を予定している
1) 文書精読の予習度および精度：30％
2) 担当文書発表の内容：40％
3) 質問・討議への参加度など授業への積極的参加度：30％
このような成績評価の方法と基準であるため、出席は評価基準ではなく大前提となるので注意されたい。

【学生の意見等からの気づき】
聖書の文章は訳文としても難しい表現や普段目にしない言い回しが多く、また、聞き慣れない人名・地名が多いということがあるため、上記参考文献の事典を推奨するとともに、補足説明を適宜行う。ご質問を歓迎する。

【Outline (in English)】
In this course, the Bible will be analyzed in the method of the historical-literary criticism. We will study the characteristics of this book, which has become the basis of Western history and the history of Christianity.

HIS300TD（史学 / History 300）

史学演習（日本）（秋期スクーリング）

中川　洋

カテゴリー：**秋期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：　｜　単位数：**2単位**
期間：**秋期**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講手続き等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
産業近代化の過程で遺されてきたモノ史料である産業遺産（近代化遺産）の調査・研究・保全に関する学問＝産業考古学について基礎的な知識を習得し、歴史学研究の一助とする。

【到達目標】
1）日本近現代の産業遺産に関する概念・理論・現状と課題を理解し、産業遺産の調査・研究および保存・活用の知識を含む産業考古学全般の基礎を習得する。
2）日本の近代化について、産業遺産を通して、自分なりの見方、考え方を持つ手がかりを得る。
3）近代史研究の方法の一つとして、産業考古学を援用する力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
1）講義形式とするが、演習的な要素も採り入れる。
2）産業遺産に関連する文献・論文・報告・史料・映像・画像等を参照しながら、担当教員の講義と受講生との質疑応答を通して、産業考古学全般への理解を深める。
3）事前に配布する資料は、次回講義開始までに読んでおくこと。
4）毎回、講義の終わりに小課題を含むリアクションペーパーの提出を求める。
5）授業の初めに、前回提出されたリアクションペーパーから質問等をいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。
6）諸連絡、資料の配布、課題の提出受付などに「学習支援システム」を利用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス・導入 産業考古学史	講義の内容と進め方、スケジュール、評価の方法等についてシラバスに沿って解説。 産業考古学の発祥から現在に至るまでの学史、研究史を繙き、産業考古学の進歩と社会との歴史的な関わりを学ぶ。
第2回	産業考古学入門講座1 産業考古学史	産業考古学の発祥から現在に至るまでの学史、研究史を繙き、産業考古学の進歩と社会との歴史的な関わりを学ぶ。
第3回	産業考古学入門講座2 産業考古学の理念	永年培われてきた産業考古学の基本的な理念と、学問としての到達点、課題について学ぶ。
第4回	産業考古学入門講座3 日本における産業遺産の概観	日本の産業遺産の現状について概要を学び、日本における産業考古学の今日的な使命について考える。
第5回	産業考古学応用講座1 日本近代史研究と産業考古学	日本近代史研究における産業考古学の位置づけ、役割、学問的貢献について、具体的事例から考える。
第6回	産業考古学応用講座2 現代日本社会と産業考古学	現在の文化財行政、観光行政の両側面を軸に、現代日本社会の中での産業考古学の意義と課題について考える。
第7回	ケーススタディ１ 日本の交通関連産業遺産	国内の交通事業に関連する産業遺産を紹介し、その歴史的意義、調査研究、活用の事例を学ぶ。
第8回	ケーススタディ２ 海外の交通関連産業遺産	海外の交通事業に関連する産業遺産を紹介し、その歴史的意義、調査研究、活用の事例を学ぶ。
第9回	ケーススタディ３ バーチャルツアー 産業遺産を歩く	教室で映像等によるエクスカーション(見学ツアー)を実施し、理解を深める。
第10回	産業考古学応用講座３ 産業考古学の最前線	近年の産業考古学関連文献・論文・報告、保存と活用の事例をベースに、研究動向と最新の研究成果について学ぶ。
第11回	産業考古学実践講座１ 産業遺産の調査と研究	産業遺産の調査と研究の視点、方法などを、具体例から学び、実践的に考える。
第12回	産業考古学実践講座２ 産業遺産の保存と活用	産業遺産の保存と活用の視点、方法などを、具体例から学び、実践的に考える。
第13回	産業考古学実践講座３ 産業考古学実務演習	産業遺産の調査と保全に関わる実務を、実際に体験して理解を深める。
第14回	まとめと解説 試験	講義の総括、補遺。 筆記試験。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
1）配布資料の予習・復習を行い、理解を深めるとともに、知識の定着に努める。
2）本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
・教科書は使わない
・毎回、プリントを配布する
・毎回、参考文献を紹介、回覧する

【参考書】
・中川洋『産業遺産でめぐる川崎の鉄道史』(かわさき市民アカデミー)
・北河大次郎ほか編『図説　日本の近代化遺産』(河出書房新社)
・伊東孝『日本の近代化遺産』（岩波新書）、
・平井東幸ほか『産業遺産を歩こう』（東洋経済新報社）
・日本産業遺産研究会ほか『建物の見方・しらべ方　近代産業遺産』(ぎょうせい)
その他、講義のなかで適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
・毎回、リアクションペーパーで理解度を確認する。
・最終回に、筆記試験を実施する。受験資格については、他の科目と同じ。
・平常点(課題レポート、小課題を含むリアクションペーパーの評価)40％、試験60％の配分で成績評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】
・受講生の意向も聴きながら、双方向的な授業運営を行う。
・受講生の能動的な学習を促すために、作業的学習や質疑応答を活用する。

【学生が準備すべき機器他】
・諸連絡、資料の配布、課題の提出受付などに「学習支援システム」を利用するのでアクセス環境を整えておくこと。

【その他の重要事項】
・講義に関する受講生の質問や疑問等には、講義終了後、教室において直接対応する。リアクションペーパーからも質問できる。

【Outline (in English)】
This course has two main points. The first point is to study the Japanese modern history through modern industrial heritage. The second is to obtain a basic knowledge on the industrial archaeology and the heritage of industrial modernization.

HIS300TE（史学 / History 300）

東洋史概説（秋期スクーリング）

柏倉　優一

カテゴリー：**秋期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：　｜　単位数：**2単位**
期間：**秋期**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講手続き等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、歴史学の方法を通じて唐代までの中国という地域の歴史を理解することを目的とします。

歴史学とは、過去の事実を淡々と羅列するのではなく、過去の事実を考証によって確定させた上で、様々な過去の事実の間に関係を見出し、そうした諸事実間の関係に意味や価値を付与する営みです。現在に生きる人間がこのようにして過去の事実の意味を理解することは、同時に過去への理解をもって現在の自明性を問い直し、理解し直すことにもつながります。

ここでは中国古代を対象としてそうした歴史学の営みを学びます。中国古代の社会は世界史的視点で見ると、同時代の社会の中でも際立って発展した社会の一つであり、また周辺諸地域に与えた影響、及び後の時代に与えた影響という点でも有数の歴史的社会の一つといえます。それを歴史学的に理解することは、現代の中華人民共和国のみならず、日本をはじめとする近隣諸地域を含めた東アジア、あるいは人類全体を理解し直し、新たな意味を見出す機会となり得ます。

【到達目標】

・中国古代の社会の歴史的特性について基本的知識を習得する。
・歴史学の方法論を理解する。
・現在の中国や東アジア地域、あるいは人類社会に対する既存の理解を見直し、新たな意味や価値を見出すきっかけや方法を得る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

この授業は講義形式で行います。講義資料は紙で配布します。
また、講義の真ん中と最後に学生からの質問の時間を設けます。この時間は講義内容を頭の中で整理する時間としても活用してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	導入	授業のねらい
第2回	新石器時代	中国における文明社会の出現
第3回	二里頭・殷	中原王朝の登場
第4回	西周・春秋	都市国家連合の時代
第5回	戦国・秦・前漢前半期	「天下共有」と「天下一統」
第6回	前漢後半期・王莽	統一国家体制の定着
第7回	後漢	古典的国制の成立
第8回	後漢末・三国・西晋	社会の動乱と変質
第9回	五胡十六国	民族問題と南北分裂
第10回	東晋・南朝	貴族の台頭と文化の発展
第11回	北朝	胡漢の融合と統合
第12回	隋・唐前半期	新たな国家体制の出現と国際的展開
第13回	唐後半期	安史の乱と社会の動揺
第14回	次の時代への展望・授業のまとめ	中国古代史が次の時代に与えた影響・授業のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

特定の教科書は使用しませんが、事前に参考書に目を通しておいてもらいたいと思います。
準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教材として毎回プリントを配布します。

【参考書】

・冨谷至・森田憲司編『概説中国史・上』昭和堂、2016年
・尾形勇・岸本美緒編『中国史・上』山川出版社、2019年
・渡辺信一郎『シリーズ中国の歴史1　中華の成立　唐代まで』岩波書店、2019年

【成績評価の方法と基準】

期末レポート100％

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規担当につきアンケートを実施していません。

【Outline (in English)】

Course outline：
This course introduces Ancient Chinese History from the Neolithic Age to the Tang Dynasty to students taking this course.
In this course, students will also learn about the methods of historiography.
Learning Objectives：
By the end of the course, students should be able to do the followings:
− Acquire basic knowledge of the historical characteristics of China.
− Understand the methods of historiography.
− Gain an opportunity to re-understand the universal character of human society and the current China and East Asia region.
Learning activities outside of classroom：
Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter from the text.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.
Grading Criteria /Policies：
Final grade will be calculated according to the following process
Term-end report (100%).

HUG400TE（人文地理学 / Human geography 400）

人文地理学演習（秋期スクーリング）

前畑　明美

カテゴリー：**秋期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：　｜　単位数：**2単位**
期間：**秋期**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講手続き等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
世界の陸域は、大小を問わずそのすべてが水域に囲まれています。それら陸域同士の相互関係のもとで現代世界が存在しており、一つ一つの島はいわば「世界の縮図」ということになります。今回講読していくのは昨年9月に出版された『島嶼SDGs観光論―沖縄とハワイとの比較を通して―』であり、本書には近年の興味深い人文現象が多く盛り込まれています。本書の読解と全体議論を通して、沖縄とハワイはもとより、日本列島の島嶼社会システムについて理解を深めていくことを目指します。またスクーリング終盤では、受講者による論文紹介や研究テーマの発表など、卒業論文を見据えたトレーニングを行います。

【到達目標】
まずは説得的なレジュメを作成すること、テキスト内の大切なポイントや問題点などを的確に捉え、議論を重ねた上で根拠ある見解を確立していくことを目標としたいと思います。また、海と島々の融合的空間についての認識を深め、そこで生起する諸現象について、その全体的状況はどうなっているのか、いかなる仕組み・構造のもとで発現しているのか、どのような意味を有しているのかなど、論理的に考えて説明できるようになることも本演習の目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
・初回時に講読書の分担箇所を決定し、第2回からは担当者による発表と、出席者全員での議論を中心に、解説を加えながら授業を進めていくこととします。論文紹介や研究テーマの発表についても同様といたします。
・課題（最終日に提出いただくレポート）については、後日「学習支援システム」を通してフィードバックを行います。初回時に詳しく説明いたします。
・履修や授業に関するご質問は、授業の前後や「学習支援システム」にてお伺いいたします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	授業のガイダンス、「島を学ぶ」「島嶼地理学」	授業の概要とテキストの説明、担当箇所の割り振り、重要事項の説明
第2回	テキストの講読（1）	担当箇所の発表、および議論
第3回	テキストの講読（2）	担当箇所の発表、および議論
第4回	テキストの講読（3）	担当箇所の発表、および議論
第5回	テキストの講読（4）	担当箇所の発表、および議論
第6回	テキストの講読（5）	担当箇所の発表、および議論
第7回	テキストの講読（6）	担当箇所の発表、および議論
第8回	テキストの講読（7）	担当箇所の発表、および議論
第9回	テキストの講読（8）	担当箇所の発表、および議論
第10回	テキストの講読（9）	担当箇所の発表、および議論
第11回	卒論トレーニング（1）	地理学関連論文の紹介、および議論（1）
第12回	卒論トレーニング（2）	地理学関連論文の紹介、および議論（2）
第13回	卒論トレーニング（3）	研究テーマの発表、および議論（1）
第14回	卒論トレーニング（4）	研究テーマの発表、および議論（2）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。
できるだけ事前にテキストを入手し、一通り目を通しておくこと。
各回の授業では、発表・議論を踏まえて自身の知識や意見を補足・修正していくことにご注力ください。

【テキスト（教科書）】
嘉数　啓著（2023）：『島嶼SDGs観光論―沖縄とハワイとの比較を通して―』ネクパブ・オーサーズプレス　￥2,100＋税
山口不二雄著（1992）：『地理調査法（人文編）』法政大学通信教育部

【参考書】
参考文献は初回時をはじめ授業内で随時紹介していきますが、ぜひ授業の開始前に、以下の文献のいずれかと、興味のもたれる島関連の一般書を1冊程度通読いただきたいと思います。
・スティーヴン・A.ロイル、中俣均訳（2018）：『島の地理学：小さな島々の島嶼性』法政大学出版局　￥4,400＋税
・田辺悟（2015）：『島』法政大学出版局　￥3,200＋税
法政大学の図書館、もしくは最寄りの図書館をご活用ください。

【成績評価の方法と基準】
レジュメ・発表・議論の内容50％、レポート50％（最終日に提出）。レジュメの作成や発表、議論への参加など、積極的な姿勢を評価いたします。

【学生の意見等からの気づき】
質問時間を設けながら、ぜひ双方向的な学びをしていただける機会としていきたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【Outline (in English)】
All the land areas of the world, large and small, are surrounded by water. The modern world exists under the mutual relationship of these land areas, and each island is a "microcosm of the world." This time, we will be reading "Islands SDGs Tourism Theory" published in September last year, and this book contains many interesting human phenomena related to Okinawa and Hawaii in recent years. In this course, we aim to deepen our understanding of the social system in the Japanese archipelago based on reading comprehension and overall discussion of this book. In addition, at the end of the schooling, we provide training that focuses on the graduation thesis, such as introducing the thesis and presenting the research theme by the students.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Your overall grade in the class will be decided based on the following :
in class contribution : 50%, term-end reports : 50%

GEO300TE（地理学 / Geography 300）

地理情報システム(GIS)（2）（秋期スクーリング）

沼尻　治樹

カテゴリー：**秋期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：　｜　単位数：**2単位**
期間：**秋期**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講手続き等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地理情報システムの発達とともに，専門的な商圏分析や立地分析，災害情報管理や自然環境分析などで地理情報の高度利用が行われてきただけでなく，地理情報の「見える化」がWebGISなどを通じて日常生活に普及してきた。そこで本授業では，講義と実習，課題を行いながら基本的な地理情報の種類・構造，分析の理解を深めることを目標とする。

【到達目標】

地理情報システムの基礎を学び，地理学的課題のみならず社会的課題に対して有効なツールとして地理情報システムを活用できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

本授業では，地理情報システムに初めて触れる受講生に合わせ，まず地理情報システムの構造や考え方，地理情報（デジタルデータ）の説明を行った上で実習を進める。さらに習得した技術を用いたレポートの作成を行う。無料のアプリケーションソフトウェア，データを使用して授業を進める。

受講者からの質問やコメントの重要なものについては，授業内で取り上げ，受講者全体にフィードバックする。

実習は，Windows環境を想定している。また，電算教室を利用するが，私物のノートパソコンを利用してもよい。GISの実習であるので基本的なWindowsの操作についてはフォローしない。MAC，Linux環境での受講も認めるがトラブル時に十分なフォローができるか保証できない。Windowsは32 ビット，64 ビットを問わないが，パソコンのスペックによってはデータ処理に時間がかかってしまう可能性もある。資料の配付・課題の提出は学習支援システムを利用する。

実習回ごとに，課題の提出と出席確認を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	地理情報システムとは何か 地理情報システムアプリケーションに触れる	地理情報システムについて構造やデータについて説明する
第2回	地理情報データのマッピング	地理情報システムアプリケーションでデータを表示しレイアウトを変更する
第3回	地理情報データと統計データ	統計データが入力されたベクタ型地理情報データを扱う
第4回	地理情報データの統計演算（1）	ベクタ型地理情報データに統計データを新規追加する
第5回	地理情報データの統計演算（2）	ベクタ型地理情報データに入力された統計データの変換・演算を行う
第6回	地理情報データの統計演算（3）	属性データの演算とグラフを表示させる
第7回	数値標高モデル（DEM）による地形解析	DEMについて解説し簡単な地形解析を行う
第8回	地物の取得	地理院地図を使いながらラインデータやポリゴンデータの自作やGNSSを用いた位置情報の取得と表示を行う
第9回	地理情報解析の実践（1）	空間内挿を行い地理情報の推定を行う
第10回	地理情報解析の実践（2）	ベクタ型地理情報データの加工の基礎
第11回	地理情報解析の実践（3）	ベクタ型地理情報データのCRS変換・ジオメトリの解析と集計
第12回	地理情報の分析と考察（1）	課題に対して地理情報を選択する
第13回	地理情報の分析と考察（2）	地理情報の処理を行う
第14回	地理情報の分析と考察（3）	処理した地理情報から考察を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に配布した資料を用いて事前学習を行い，授業後には復習・自習を行って実習内容の確認または課題を行う。それぞれ2時間を目安とする。

また，この授業ではパソコンを利用する。Windowsによるパソコンの操作方法は解説しないので，受講生は基本操作が十分出来ることが望まれる。

【テキスト（教科書）】

自作テキストを使用する。

【参考書】

「地理情報学入門」（野上道男ほか，東京大学出版会，2001 年）
「国土を測る技術の基礎　―地理空間情報技術者を目指す人のために―」（高木方隆，（公社）日本測量協会，2018 年）（改訂第2 版）
その他，適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

本授業は実習科目であることから，平常点を重視する。その他，レポートによって成績評価を行う。レポート課題においてテーマに対して適切に地理情報を処理しているか評価する。

成績評価の配分は，平常点として出席点が30％と小課題点が30％，レポートが40％である。

小課題点は，実習ごとに提出する課題であるが，提出物の完成度は問わない。

【学生の意見等からの気づき】

質問しやすい環境作りを心がけている。また地理情報システムの知識と技術を同時に身につけることを目指している。さらに，地理情報システムの社会での最新の動向を紹介し，授業と社会の乖離が起こらないようにしている。

資料はなるべく丁寧に作成するよう心がけているが，受講学生の習熟度を上げるため，シラバス前半は細かに手順を記載するが，後半は実習済みの内容については省略して手順を記載する。

【学生が準備すべき機器他】

対面授業では電算教室を利用する。また学習支援システムを用いて資料の配付や課題の提出を行う。また必要に応じてUSB メモリなどの外部記録装置を各自用意して欲しい。私物のノートパソコンで実習を行ってもよい。

【その他の重要事項】

この授業では，講義・実習を通して地理情報システムの理解を深めつつ，コンピュータの扱いとデジタルデータを活用する基礎的な知識を学ぶ。無料のアプリケーション，無料のデジタルデータを使用するので自習も可能である。

Windows の基本操作が十分できることが望まれる。

オフィスアワーは授業の前後，質問は学習支援システムの掲示板，メールにて受け付ける。

【Outline (in English)】

The purpose of this lesson is to understand the geographic information

system and learn the spatial analysis method. We learn the structure and analysis method of geographic information data from lecture and practical training. Before/after each class meeting, students will be
expected to spend two hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the following
Term-end report: 40%, in class contribution: 60%

ECN200TF（経済学 / Economics 200）

財政学Ｂ（秋期スクーリング）

島澤　諭

カテゴリー：**秋期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：　｜　単位数：**2単位**
期間：**秋期**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講手続き等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日本財政は現在、（１）少子化、高齢化の進展への対応、（２）財政健全化への対応、（３）世代間格差是正、といった多くの課題を抱えています。
本講義では、政府の経済活動に関する実態及び基礎的理論について踏まえた後、市場主義経済における政府の役割などについて学習します。

【到達目標】
市場経済における政府の役割の概念を理解する。また、日本の財政が抱える問題をデータ等を通じて客観的に理解する。この理解をもとに、政府の役割や日本の財政のあり方について、自分なりの意見を形成できる論理的思考力・分析力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
最新の経済・財政情勢を踏まえながら、わが国財政が直面している課題について、官公庁や、民間シンクタンク等の統計データ、報告資料、並びに新聞・雑誌等のメディア媒体等を活用しつつ、具体的に取り上げます。
授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	財政学とは何か 政府の４つの機能
第2回	政府の経済活動その１	日本財政の規模 国民負担率
第3回	政府の経済活動その２	小さな政府と大きな政府 福祉レジーム論
第4回	租税理論その１	租税原則、租税の公平性
第5回	租税理論その２	消費税、所得税、税の帰着
第6回	財政政策の効果その１	国民所得決定の理論
第7回	財政政策の効果その２	乗数効果
第8回	所得再分配政策	日本の所得再分配の実態
第9回	財政の持続可能性その１	基礎的財政収支、構造的財政収支、循環的財政収支、財政健全化目標
第10回	財政の持続可能性その２	ドーマー条件、異時点間の政府の予算制約
第11回	公債の負担	新正統派、ＩＳバランス論、国債価格と金利
第12回	国民と投票	中位投票者定理、投票のパラドクス
第13回	世代間不平等の政治経済学その１	世代会計とシルバー民主主義、全世代型社会保障
第14回	世代間不平等の政治経済学その２	国民代表、委任代表、小選挙区制、７条解散、シルバー民主主義のパラドクス

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
日々の経済ニュースをTVや新聞を通じて吸収するよう心がけてください。授業内容の理解を確実にするために必ず復習してください。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に指定しない。レジュメを配布する。

【参考書】
受講者が授業を補完するために勉強する場合は、以下の文献が参考となる。
（１）井堀利宏『財政学（第４版）』新世社
（２）釣雅雄、宮崎智視『グラフィック財政学』新世社
（３）上村敏之『コンパクト財政学（第２版）』新世社
（４）島澤諭『シルバー民主主義の政治経済学』日本経済新聞出版社
（５）林宜嗣等『基礎コース財政学（第４版）』新世社

【成績評価の方法と基準】
出席40％、期末試験60％
経済理論を用いて、日本財政を分析し、自分なりの処方箋を提示できる

【学生の意見等からの気づき】
わかりやすい講義にします。

【Outline (in English)】
The aim of this course is to help students learn about the role of the government in the market-oriented economy after taking into consideration the basic theory on the economic activities of the government.
This will also help you to predict the effects of fiscal policy to your life at a much deeper level.
To understand the concept of the role of the government in a market-based economy. The course will also provide an objective understanding of the problems facing Japan's public finances through data and other means. Based on this understanding, students will acquire the logical thinking and analytical skills to be able to form their own opinions about the role of the government and how Japan's public finances should be.
Try to absorb daily economic news through TV and newspapers. Be sure to review the class content to ensure your understanding.
The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
Attendance 40%, Final exam 60
To be able to analyze Japanese public finances using economic theory and to present one's own prescriptions

ECN200TF（経済学 / Economics 200）

経済学特講（秋期スクーリング）

南部　和香

カテゴリー：**秋期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：　｜　単位数：**2単位**
期間：**秋期**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講手続き等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
現在の日本は鉱物資源や原料資源といった天然資源が乏しく、原材料の多くを輸入に頼っています。しかし国内にも多くの資源が眠っています。たとえば都市鉱山に代表されるように、使用済み電気電子機器の中にはリサイクル資源として活用できる金属資源が多く含まれています。本講義を通して、資源の賦存、廃棄物処理やリサイクルの状況、関連する環境法、スクラップ資源の利活用などについて学びながら、国内および国際的な資源循環について理解を深めていきましょう。また、資源の利活用と付加価値を生み出すモノづくりを体験するためにアップサイクル・ワークショップを実施します。

【到達目標】
・我が国の資源や廃棄物をめぐる現状と課題を理解する
・資源循環の現状について、マクロ的視点とミクロ的視点の双方から捉えることができる
・資源循環を身近なこととして捉え、持続可能な社会の実現のための方策を考えることができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「経済学科：DP1」「商業学科：経済学」に関連

【授業の進め方と方法】
授業は講義形式で進めます。
アップサイクルのワークショップを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	講義の概要や進め方、ワークショップについて説明します。
2	資源の賦存量	さまざまな資源の賦存量について説明します。
3	枯渇性資源	枯渇性資源の最適消費について説明します。
4	日本のごみ処理	日本のごみ処理の現状について説明します。
5	個別リサイクル法	個別リサイクル法について説明します。
6	プラスチック資源循環法	プラスチックをめぐる状況について説明します。
7	プラスチックの資源循環	貿易統計の見方、プラくずやPETフレークの貿易の状況について説明します。
8	貴金属スクラップの貿易	貴金属スクラップの貿易とリサイクルについて説明します。
9	廃棄物の越境移動とバーゼル条約	有害廃棄物の越境移動とバーゼル条約・バーゼル法について説明します。
10	下水道資源	下水汚泥の利活用について説明します。
11	エシカル消費	エシカル消費について説明します。
12	アップサイクル・ワークショップ１	ワークショップを実施します。
13	アップサイクル・ワークショップ２	付加価値のあるモノづくりに挑戦します。
14	試験・まとめと解説	試験を実施します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
テキストは使用しません。

【参考書】
適宜講義内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】
試験（70％）、ワークショップ（20％）、平常点（10％）

【学生の意見等からの気づき】
本年度新規科目につきアンケートを実施していません。

【学生が準備すべき機器他】
アップサイクル・ワークショップで使う材料は持参してもらいます。材料については講義時に説明します。

【その他の重要事項】
講義資料は印刷したものは配布しません。
初回講義時に講義資料をダウンロードするサイトを提示します。

【Outline (in English)】
【Course outline】
Currently, Japan lacks natural resources such as mineral and raw materials and heavily relies on imports for most of its raw materials. However, there are many resources lying dormant in Japan as well. For instance, used electrical and electronic devices contain a significant amount of metal resources that can be utilized as recycled resources, exemplified by urban mining. Through this lecture, you will deepen your understanding of the domestic and international resource cycle as you learn about resource endowment, the status of waste disposal and recycling, related environmental laws, and the utilization of scrap resources. In addition, an upcycling workshop will be held to experience resource utilization and value-added manufacturing.
【Learning Objectives】
The goal of the course is to understand the current situation and issues surrounding resources and waste in Japan, and to be able to consider measures to achieve a sustainable society.
【Learning activities outside of classroom】
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
【Grading Criteria/Policy】
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Term-end examination: 70%、Workshop : 20%、in class contribution: 10%

ECN300TG（経済学 / Economics 300）

財政学Ⅱ（秋期スクーリング）

島澤　諭

カテゴリー：**秋期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：　｜　単位数：**2単位**
期間：**秋期**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講手続き等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日本財政は現在、（1）少子化、高齢化の進展への対応、（2）財政健全化への対応、（3）世代間格差是正、といった多くの課題を抱えています。
本講義では、政府の経済活動に関する実態及び基礎的理論について踏まえた後、市場主義経済における政府の役割などについて学習します。

【到達目標】
市場経済における政府の役割の概念を理解する。また、日本の財政が抱える問題をデータ等を通じて客観的に理解する。この理解をもとに、政府の役割や日本の財政のあり方について、自分なりの意見を形成できる論理的思考力・分析力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「経済学」に関連

【授業の進め方と方法】
最新の経済・財政情勢を踏まえながら、わが国財政が直面している課題について、官公庁や、民間シンクタンク等の統計データ、報告資料、並びに新聞・雑誌等のメディア媒体等を活用しつつ、具体的に取り上げます。
授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	財政学とは何か 政府の４つの機能
第2回	政府の経済活動その１	日本財政の規模 国民負担率
第3回	政府の経済活動その２	小さな政府と大きな政府 福祉レジーム論
第4回	租税理論その１	租税原則、租税の公平性
第5回	租税理論その２	消費税、所得税、税の帰着
第6回	財政政策の効果その１	国民所得決定の理論
第7回	財政政策の効果その２	乗数効果
第8回	所得再分配政策	日本の所得再分配の実態
第9回	財政の持続可能性その１	基礎的財政収支、構造的財政収支、循環的財政収支、財政健全化目標
第10回	財政の持続可能性その２	ドーマー条件、異時点間の政府の予算制約
第11回	公債の負担	新正統派、ＩＳバランス論、国債価格と金利
第12回	国民と投票	中位投票者定理、投票のパラドクス
第13回	世代間不平等の政治経済学その１	世代会計とシルバー民主主義、全世代型社会保障
第14回	世代間不平等の政治経済学その２	国民代表、委任代表、小選挙区制、７条解散、シルバー民主主義のパラドクス

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
日々の経済ニュースをTVや新聞を通じて吸収するよう心がけてください。授業内容の理解を確実にするために必ず復習してください。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に指定しない。レジュメを配布する。

【参考書】
受講者が授業を補完するために勉強する場合は、以下の文献が参考となる。
（1）井堀利宏『財政学（第４版）』新世社
（2）釣雅雄、宮崎智視『グラフィック財政学』新世社
（3）上村敏之『コンパクト財政学（第２版）』新世社
（4）島澤諭『シルバー民主主義の政治経済学』日本経済新聞出版社
（5）林宜嗣等『基礎コース財政学（第４版）』新世社

【成績評価の方法と基準】
出席40％、期末試験60％
経済理論を用いて、日本財政を分析し、自分なりの処方箋を提示できる

【学生の意見等からの気づき】
わかりやすい講義にします。

【Outline (in English)】
The aim of this course is to help students learn about the role of the government in the market-oriented economy after taking into consideration the basic theory on the economic activities of the government.
This will also help you to predict the effects of fiscal policy to your life at a much deeper level.
To understand the concept of the role of the government in a market-based economy. The course will also provide an objective understanding of the problems facing Japan's public finances through data and other means. Based on this understanding, students will acquire the logical thinking and analytical skills to be able to form their own opinions about the role of the government and how Japan's public finances should be.
Try to absorb daily economic news through TV and newspapers. Be sure to review the class content to ensure your understanding.
The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
Attendance 40%, Final exam 60
To be able to analyze Japanese public finances using economic theory and to present one's own prescriptions

MAN200TG（経営学 / Management 200）

経営管理論Ⅱ（秋期スクーリング）

松本　潔

カテゴリー：**秋期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：　｜　単位数：**2単位**
期間：**秋期**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講手続き等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
経営管理論Ⅱにおいては、春期の学説・理論の歴史的な流れを踏まえ、まず「近代的組織論」としてのC．I．バーナード、H．A．サイモンなどの「意思決定論」を取り上げて解説を加えていく。また、続いて、組織と環境との適応行動を解く、T．バーンズ＆G．M．ストーカーなどの「コンティンジェンシー理論」を取り上げ解説していく。また、その後の新たな理論として、J．G．マーチらの「意思決定のゴミ箱モデル」、E．H．シェインなどの「組織文化論」などにも論及していく。

【到達目標】
・経営管理の理論・学説の意義を理解することができる。
・経営管理の理論と実際の企業活動についての関連性を理解することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「経営学・商学」に関連

【授業の進め方と方法】
講義を中心とするが、企業などの経営管理活動の実際を企業事例などを通じて解説し、時間的な余裕があれば映像資料などを活用して紹介する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の進め方および春期スクーリング「経営管理論Ⅰ」の振り返り
第2回	近代的管理論Ⅰ	組織協働の近代的理論（1）（C．I．バーナード）
第3回	近代的管理論Ⅱ	組織の意思決定理論（2）（H．A．サイモン）
第4回	近代的管理論Ⅲ	組織の経営戦略理論（1）（J．G．マーチ＆H．A．サイモン
第5回	近代的管理論Ⅳ	組織の経営戦略理論（2）（H．I．アンゾフ）リーダーシップの条件適合理論（F．E．フィードラーのおよびP．ハーシー＆K．H．ブランチャード）
第6回	コンティンジェンシー理論Ⅰ	リーダーシップの条件適合理論（F．E．フィードラーのおよびP．ハーシー＆K．H．ブランチャード）
第7回	コンティンジェンシー理論Ⅱ	組織構造の条件適合理論（T．バーンズ＆G．M．ストーカーおよびJ．ウッドワード）
第8回	コンティンジェンシー理論Ⅲ組織文化論Ⅰ	組織業績およびコンフリクト解決方法の条件適合理論（P．R．ローレンス&J．W．ローシュ）
第9回	組織文化論Ⅰ	シンボリック・マネジャーによる組織文化形成（T．ディール＆A．ケネディ）
第10回	組織文化論Ⅱ	超優良企業の価値観共有による組織文化（T．J．ピーターズ&R．I．ウォータマン）
第11回	組織文化論Ⅲ	組織変革の視点からの組織文化（E．H．シャイン）
第12回	新たな経営管理の理論Ⅰ	意思決定のあいまい理論（J．G．マーチ＆オルセン）
第13回	新たな経営管理の理論Ⅱ	組織の進化と組織認識論（K．ワイク）
第14回	経営管理論Ⅱの総括および授業時間内の定期試験	これまで学習してきた経営管理の諸理論の振り返りおよび今後の理論的な展望を行い、最後に定期試験を実施する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業において配布されたプリント教材の読み直し・再確認をすることが要求される。また、事前に各授業スケジュールにおけるテーマについて下調べをしておくと理解が促進される。なお、本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
授業時に配布されるプリント教材を使用する。

【参考書】
授業スケジュールの各回において適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
成績評価の方法と基準は、教室内での定期試験（７０％）および平常点（３０％）の観点から総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
一昨年度からの授業評価アンケートから、できる限り実際の企業事例を経営管理の難しい理論や学説と関連づけながら、その理解をいかにして促進できるよう改善の努力を傾けていきたい。

【学生が準備すべき機器他】
特にありません。

【その他の重要事項】
特にありません。

【Outline (in English)】
In Business Management Theory II, based on the historical flow of spring theory and theory, first, C.I. Barnard as "modern organizational theory", H. A. Simon will take up "decision-making theory" such as and add commentary. Then, to solve the adaptive behavior between the organization and the environment, we will take up and explain "contingency theory" such as T. Burns &G. M.Stalker. In addition, as a new theory after that, J. G. March advocated "Decision-Making Garbage Can Model". We will also discuss "organizational culture theory" such as E. H. Schein.

MAN300TG（経営学 / Management 300）

演習【エリアマーケティング論】(秋期スクーリング)

松本　潔

カテゴリー：**秋期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：　｜　単位数：**2単位**
期間：**秋期**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講手続き等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本演習では、テーマを「エリア・マーケティング」に焦点を当て、企業等における特定地域(エリア)の特性を考慮したマーケティング管理・活動のあり方を探求していく。特に、全授業スケジュールの前半は、講義としてエリア・マーケティングの理論的な側面を学習し、その後半は、近隣に在住するメンバー同士によるグループ演習活動を通じて、その実務的な側面を考察していく。なお、後半のグループ演習活動は、積極的なメンバー間の意見・情報交換ができる受講者の参加を希望する。

【到達目標】
・エリア・マーケティングの理論とその実際を理解することができる。
・グループ演習の場面を通じて、エリア・マーケティングの手法を修得することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「経済学科：DP4, DP5」「商業学科：自由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

【授業の進め方と方法】
対面式の教室授業では、グループでの演習授業を中心とするが、エリア・マーケティングの理論的な理解を深めるため、講義と映像資料の活用などを交えながら進めていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション＆　授業テーマである「エリアマーケティング」の位置づけ	授業の概要、進め方などについて、また「エリア・マーケティング」の意味・位置づけについて簡単に解説を行う。
第2回	「マーケティング論」概説	マーケティングについての基礎知識の学習を進める。
第3回	プリント教材の第Ⅰ章＆第Ⅱ章	エリア・マーケティングの定義、およびその誕生の背景と成熟期のマーケティングの思考の重要性について学習する。また、地域特性の理解とエリア・マーケティングのアプローチ方法について学習する。
第4回	プリント教材の第Ⅲ章＆第Ⅳ章	エリア・マーケティングにおける地域差と市場特性について事例を踏まえて学習する。また、エリア・マーケティングにおける戦略的思考について学習する。
第5回	プリント教材の第Ⅰ章～第Ⅳ章のビデオ学習・解説	映像資料を通じてこれまでの学習の理解を促進する。
第6回	プリント教材の第Ⅴ章	エリア・マーケティング展開のための実践的ステップを学習する。
第7回	プリント教材の第Ⅴ章のビデオ学習・解説	映像資料を通じてこれまでの学習の理解を促進する。
第8回	グループ演習の確認・準備	グループ演習のためのメンバー編成、分析用ワークシートおよび資料類の説明・課題テーマの設定を行う。
第9回	グループ演習の実施（1）	調査対象エリアの選定および調査分析事項の役割分担を検討する。
第10回	グループ演習の実施（2）	調査分析事項の役割分担決定と各担当者による調査分析活動を進める。
第11回	グループ演習の実施（3）	担当者間の調査分析資料の読み合わせと分析資料の修正を検討する。また、担当者間の調査分析資料の再調整および分析資料の再修正の作業を図る。
第12回	グループ演習の実施（4）	再修正した調査分析資料の確認および各担当者の発表用資料を完成させ、ワークシート原稿を提出する。
第13回	グループ演習の実施（5）	グループ演習成果の発表を行い、各グループで取り組んだ成果を共有する。最後に総括してまとめる。
第14回	エリアマーケティングのまとめと授業時間内での定期試験	エリアマーケティングについての振り返りと総括を行い、最後に定期試験を実施する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業において配布されたプリント教材の読み直し・再確認をすることが要求される。また、各授業スケジュールにおけるテーマについて、事前に下調べ学習をしておくと理解が促進される。さらに、グループ演習に際して、グループ演習の準備・実施に際して、グループ・メンバー間でのコミュニケーションを取り合いながら進めていくことが要求され、それにより、授業時間外の学習として取り組むことが求められる。なお、本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
各回の授業テーマに関するプリント教材を配布・使用する。

【参考書】
各授業スケジュールに対応した参考資料・文献などを適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
対面式の教室授業を実施した際の成績評価の方法と基準は、教室内実施での定期試験（７０％）、および平常点（特にグループ演習への参加状況を踏まえて）（３０％）の観点から総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
一昨年度のアンケートによる受講者の声としては、できるだけ新しい事例研究を取り上げて欲しいという要望があり、この点を授業に反映させることを心掛けたい。

【学生が準備すべき機器他】
グループ演習時において、必要に応じてノートパソコンを活用しての資料作成を行う場面があるため、現在使用しているノートパソコンがあれば便利である。（※なお、ノートパソコンを使用せずに、アナログ的に電卓を使用して資料を手作業で作成することも可能である。）、

【その他の重要事項】
特にありません。

【Outline (in English)】
In this exercise, we will focus on "areamarketing" as the theme, and explore the ideal way of marketing management and activities inconsideration of the characteristics of specific areas(areas) in companies. Inparticular, the first half of the entire lesson schedule will be a lecture to learn the theoretical aspects of areamarketing,and the second half will consider the

practical aspects through group exercises by members living in the neighborhood.To go.In the latter half of the group exercise activities,we hope that students who can actively exchange opinions and information will participate.

MAN200TG（経営学 / Management 200）

経営学特講【航空輸送概論】（秋期スクーリング）

恩田　登志夫

カテゴリー：**秋期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：　｜　単位数：**2単位**
期間：**秋期**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講手続き等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：
その他属性：**〈実〉**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
航空事業は、規制緩和が進んだことから既存航空会社間の競争が激しくなり、一企業だけで生存することが厳しくなりました。現在ではグローバル規模の連携やLCCをはじめとする低価格航空会社の台頭など、目まぐるしく変化しています。この講義では、航空ビジネス全般に関する現状と課題を学ぶことができる。

【到達目標】
①運航方式の違いを説明できる。
②アライアンスの現状とメリットを説明できる。
③LCCのビジネスモデルを説明できる。
④わが国の空港経営の現状を説明できる。
⑤航空ビジネスとインバウンドツーリズムとの現状を説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「経済学科：DP2」「商業学科：経営学・商学, 自由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

【授業の進め方と方法】
通常の講義形式による授業に加えて、ディスカッションを実施することにより理解を深める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	航空ビジネスの概要	講義全般の主要なトピックを提示し、講義の方向性を示す。
2	航空輸送の歴史的発展経緯	航空事業の起源 わが国の航空輸送の草分け日本航空の設立
3	国際航空法	シカゴ条約 バミューダ協定以降の航空協定 航空運送人の運送責任
4	規制緩和とオープンスカイ政策	米国の規制緩和 米国のオープンスカイ政策
5	わが国の航空政策の変遷	航空法施行 45・47体制 1986年の新航空政策
6	低コスト航空会社（LCC）	LCCのビジネスモデル
7	運航方式の相違	ハブ・アンド・スポーク運航 ポイント・ツー・ポイント運航
8	サウスウエスト航空のビジネスモデル（1）	ノンフリル 二次的空港の積極的利用 10分間ターン
9	サウスウエスト航空のビジネスモデル（2）	サウスウエスト航空のビジネスモデルをテーマにディスカッション
10	アライアンス	航空会社間のアライアンスの現状 アライアンスのメリット 海運アライアンスとの比較
11	航空貨物輸送の歴史的経緯	航空貨物機の歴史的変遷 旅客機のベリー積載と貨物機による積載方法
12	航空フォワーダーとインテグレーター	航空フォワーダーの現状 インテグレーターの現状
13	わが国空港の現状と課題	わが国の空港の現状 わが国の空港が抱える課題
14	わが国の航空ビジネスとインバウンドツーリズム	インバウンド旅行者増加の現状 航空ビジネスとインバウンドビジネスにおける課題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
準備学習として、授業の事前にテキストを確認して、要点を整理すること。
復習として、準備学習として要点を整理したことを、授業中のメモと確認し、理解を深めること。
本授業の準備・復習時間は、各2時間を目安とする。

【テキスト（教科書）】
必要なプリントを配布する。

【参考書】
『最新航空事業論』井上泰日子、日本評論社、2016年、3024円
『航空産業入門』ANA総合研究所、東洋経済新報社、2017年、2592円
『空港のはなし』岩見宣治・渡邉正己、成山堂書店、2018年、1728円

【成績評価の方法と基準】
期末テスト100％

【学生の意見等からの気づき】
受講生から、この経営学特講（秋学期スクリーング）の時間割を、隔年で6時限、7時限と入れ替えて欲しいという要望から、2024年度のこの授業は、6時限にて実施する予定です。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【その他の重要事項】
「実務経験のある教員による授業」
航空会社に約20年勤務していたことから、実務経験を踏まえて説明する。

【Outline (in English)】
In the airline business, competition among existing airlines has intensified due to deregulation, and survival by only one company became strict. Today, global collaboration and the rise of low-cost airlines including LCC are changing quickly. In this lecture, you can learn the current situation and issues related to the airline business in general.

【実務経験のある教員による授業科目】
○

MAN300TG（経営学 / Management 300）

演習【国際物流論】（秋期スクーリング）

恩田　登志夫

カテゴリー：**秋期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：　｜　単位数：**2単位**
期間：**秋期**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講手続き等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：
その他属性：**〈実〉**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
経済のグローバル化が進展しています。わが国の企業は、諸外国に積極的に展開し、現地での生産・販売体制を構築・維持しなければなりません。それら企業の国際物流を担う国際物流事業者は、荷主と海運会社、航空会社の中間に位置して、国際物流をプロデュースする役割があります。この授業では、国際物流の現状を学ぶことができます。また、実際に国際物流事業者を訪問して、理解を深めることができます。

【到達目標】
①ハブ・アンド・スポーク（フィーダー）システムを説明できる。
②多国籍企業の発展的4類型を説明できる。
③国際物流事業者の関係者を説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「経済学科：DP4, DP5」「商業学科：自由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

【授業の進め方と方法】
一般的な授業に加え、統計資料や視聴覚メディアを活用したり、ディスカッションを実施することにより参加型の授業を行います。なお、授業内にて、国際物流の企業より「国際物流現場での現状と課題」をテーマに講演を予定している。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	国際物流の現状	国際物流の現状 国際物流業界構造とフレート・フォワーダーの現状
2	国際物流における基礎的理論	ハブ・アンド・スポークの概要と仕組み
3	企業の国際化	多国籍企業とは 多国籍企業の発展的4類型
4	定期船海運	定期船海運の概要 海運同盟の概要 アライアンスの現状
5	定期船海運の運賃	定期船海運の基本料金計算 定期船海運の諸料金
6	定期船海運の実務	定期船海運の現場組織
7	不定期船海運の現状	不定期船による輸送の概要 国際バルク戦略港湾の概要
8	港湾運送の現状	港湾業界の概要 国際コンテナ戦略港湾の概要
9	航空貨物業界の現状	航空貨物業界構造 航空貨物の輸送品の特徴 航空業界のアライアンスの現状
10	航空貨物運賃の仕組み（1）	航空貨物運賃計算の仕組み 一般貨物運賃率
11	航空貨物運賃の仕組み（2）	航空貨物運賃の計算 特定品目運賃率 品目別運賃率
12	国際複合輸送の現状と課題	国際複合輸送の歴史的経緯 国際複合輸送のルートの現状 複合運送人の責任
13	倉庫業界の現状	倉庫業法の理解 倉庫業の種類 保管料金の計算方法
14	ドレージ輸送の現状	現在、国際物流業界で大きな課題であるドレージ輸送の実態と問題点

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
準備学習として、授業の事前にテキストを確認して、要点を整理すること。
復習として、準備学習として要点を整理したことを、授業中のメモと確認し、理解を深めること。
本授業の準備・復習時間は、各2時間を目安とする。

【テキスト（教科書）】
『国際物流の理論と実務（6訂版）』鈴木暁他著、成山堂書店、

【参考書】
『新貿易取引・基礎から最新情報まで』石原伸志他著、経済法令研究会出版、3024円（税込）

【成績評価の方法と基準】
期末テスト100%

【学生の意見等からの気づき】
受講生より、演習（秋学期スクリーング）を隔年で6時限、7時限にて入れ替えて欲しいという要望から、2024年度のこの授業は、7時限にて実施予定。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【その他の重要事項】
「実務経験のある教員による授業」
航空会社に約20年の実務経験があるため、航空貨物輸送については、実務経験を踏まえて説明できる。

【Outline (in English)】
Globalization of the economy is advancing. Companies in our country must actively develop in foreign countries and build and maintain local production and sales systems. International logistics companies that are responsible for international logistics of these companies are located between shippers, shipping companies, and airlines, and are responsible for producing international logistics. In this lesson, you can learn the current state of international logistics. Also, you can actually deepen your understanding by visiting international logistics providers.

【実務経験のある教員による授業科目】
○

MAN200TG（経営学 / Management 200）

経営学特講【企業価値評価】（秋期スクーリング）

甚内　俊人

カテゴリー：**秋期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：　｜　単位数：**2単位**
期間：**秋期**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講手続き等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義は、企業価値を分析・評価するための方法を学ぶことを目的とする。財務会計と企業財務（コーポレート・ファイナンス）の基礎知識の習得を通じて、財務諸表の仕組み、時間価値の意味、DCF法や配当割引モデルなど様々な計算手法の特徴、企業価値を算定する上で重要なファクターである資本コストの計算方法などを理解することを目指す。

【到達目標】
1. 財務会計と企業財務の基本的知識の習得を通じて、企業価値に対する理解を深める。
2. 資本収益性と資本コストの関係性を理解することができる。
3. 企業価値評価の手法を理解して、企業価値・株主価値を推定する方法を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「経済学科：DP2」「商業学科：経営学・商学, 自由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

【授業の進め方と方法】
本講義はPowerPointあるいはレジュメに基づいて講義形式で進める。講義資料は配付、あるいは「学習支援システム」を通じて掲出する。ワークシートを用いて実際に計算することも予定している。
また、「学習支援システム」上でアンケートを実施して、感想や質問を提出してもらうことを予定している。建設的な質問やコメントは授業内で紹介してさらなる議論に活かす。また、課題に対する講評も授業内で行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	本講義の概要と進め方
第2回	企業と資本市場の関係	株式会社の仕組みや資本市場、ステークホルダーについて学ぶ。
第3回	ディスクロージャーとIR	企業が求められる開示について学ぶ。
第4回	会計制度と財務諸表の役割	会計制度と財務諸表の役割を学ぶ。
第5回	財務会計と企業財務の関係	財務会計と企業財務の関係性を学ぶ。
第6回	キャッシュフローの時間的価値	キャッシュフローの割引現在価値の考え方を学ぶ。
第7回	投資プロジェクトの評価	プロジェクト評価の手法について学ぶ。
第8回	企業価値評価の考え方	インカムアプローチ、マーケットアプローチによる手法の特徴を学ぶ。
第9回	資本コストの測定と管理（1）	株主資本コスト、株式ベータを学ぶ。
第10回	資本コストの測定と管理（2）	負債コスト、加重平均資本コストを学ぶ。
第11回	企業価値評価（1）	DCF法
第12回	企業価値評価（2）	EVA、MVA
第13回	企業価値評価（3）	マルチプル法、サム・オブ・ザ・パーツ法
第14回	本講義のまとめと期末試験	本講義のまとめと期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
事前学習として、「簿記」や「会計学」の基本的知識があると本講義の理解も深まる。もし未履修の場合には、日商簿記検定3級の内容を学んでおくことを薦める。
なお、本講義の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
指定はない。講義資料は配付する。以下の参考書に基づいて資料・スライドを作成する。

【参考書】
・伊藤邦雄『企業価値経営』日本経済新聞社, 2024年4月現在の最新版.
・桜井久勝『財務諸表分析』中央経済, 2024年4月現在の最新版.
・リチャード・A・ブリーリー、スチュワート・C・マイヤーズ、フランクリン・アレン『コーポレート・ファイナンス 上』日経BP, 第10版.
そのほか、必要に応じて講義内で紹介する。

【成績評価の方法と基準】
期末試験：80%
平常点：20%
講義終了後にアンケート（任意提出）を実施することがある。講義の内容を深める意見や質問に対しては加点対象とする。

【学生の意見等からの気づき】
本年度新規科目につきアンケートを実施していない。

【学生が準備すべき機器他】
講義および試験には、電卓を持参すること。なお、講義内では表計算ソフトウェア（Excel）用いて計算する方法も説明する予定。

【その他の重要事項】
経営学特講［財務諸表分析］（春期スクリーニング）と併せて受講するとより理解が深まることが期待される。

【Outline (in English)】
【授業概要（Course outline）】
The objective of this course is to provide an understanding of financial accounting and corporate finance. It covers the structure of financial statements, the time value of money, and various calculation methods such as the DCF method and Dividend Discount model. Additionally, it covers the calculation method of cost of capital.
【到達目標（Learning Objectives）】
By the end of the course, students should be able to do the followings:
1) To understand the value of a company through the acquisition of basic knowledge in financial accounting and corporate finance.
2) To understand the relationship between return on capital and cost of capital.
3) To comprehend corporate valuation techniques and acquire the skills to estimate corporate value.
【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】
After each class meeting, students are expected to have completed the required assignments. The study time required for each class is more than four hours.
【成績評価の方法と基準（Grading Criteria /Policies）】
The final grade will be determined based on the term-end examination (80%) and in-class contribution (20%).

MAN300TG（経営学 / Management 300）

演習【企業価値評価】（秋期スクーリング）

甚内　俊人

カテゴリー：**秋期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：　｜　単位数：**2単位**
期間：**秋期**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講手続き等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本演習は、テキストの輪読を通して、企業価値経営に対する理解を深めることを目的とする。また、実際の会計データを用いて、財務諸表分析や企業価値評価ができる力を身に付けることを目指す。

【到達目標】
1. 企業価値を中心に企業経営に対する理解を深める。
2. 財務諸表に基づいて、企業の戦略や行動を推論する力を習得する。
3. 実際の開示資料から企業の財務状況を分析できる力を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「経済学科：DP4, DP5」「商業学科：自由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

【授業の進め方と方法】
講師から財務分析に向けた簡単な講義の後、2度のグループワークに取り組んでいただきます。
各チーム、6名～7名を想定（実際の受講生の数に応じて決定する）。
1回目は指定テキストの該当範囲を要約するプレゼン資料を作成する。
2回目はメンバーを変更して、各グループ共通の企業を対象にファンダメンタル分析を実践する。
グループワークの時間は講義内で確保します（400分・300分）。発表資料をパワーポイントにまとめた上で、各チームに発表していただきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	演習の進め方の説明、序章を読み進める
第2回	（講義日）財務諸表から読む企業活動	財務会計の基本を学ぶ
第3回	グループワーク1回目① - テキストの要約	グループワーク
第4回	グループワーク1回目② - テキストの要約	グループワーク
第5回	グループワーク1回目③ - テキストの要約	グループワーク
第6回	グループワーク1回目④ - テキストの要約	グループワーク
第7回	発表1（前半5チーム）	報告に基づいてディスカッション
第8回	発表2（後半5チーム）	報告に基づいてディスカッション
第9回	（講義日）ファンダメンタル分析の事例紹介	ファンダメンタル分析の事例を紹介する
第10回	グループワーク2回目① - ファンダメンタル分析の実践	グループワーク
第11回	グループワーク2回目② - ファンダメンタル分析の実践	グループワーク
第12回	グループワーク2回目③ - ファンダメンタル分析の実践	グループワーク
第13回	発表1（前半5チーム）	報告に基づいてディスカッション
第14回	発表2（後半5チーム）	報告に基づいてディスカッション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本演習の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。
各章を担当する受講生は事前に準備を行い、発表に備える。そのほかの受講生も事前にテキストを読み進め、質問・議論等に備える。
各章の学習内容を踏まえて、最終日までに各自が分析レポートを作成する。

【テキスト（教科書）】
・伊藤邦雄『企業価値経営 第2版』日本経済新聞社, 2024年4月現在の最新版.

【参考書】
・桜井久勝『財務諸表分析』中央経済, 2024年4月現在の最新版.
・リチャード・A・ブリーリー、スチュワート・C・マイヤーズ、フランクリン・アレン『コーポレート・ファイナンス 上』日経BP, 第10版.
そのほか、必要に応じて演習内で紹介する。

【成績評価の方法と基準】
グループワークへの参加40％（20点×2回）
グループワークの相互評価40％（20点×2回）
期末レポート20％
【グループワークの相互評価】
グループワーク後に「チームメンバーの相互評価」シートを提出いただきます。こちらの評価を成績評価に反映させます。
【期末レポート】
個人で企業分析を実践したレポートを提出いただきます。対象となる企業は任意です。財務分析だけでなく、企業価値評価の内容も歓迎いたします。締切日については決定次第、後日お伝えします。

【学生の意見等からの気づき】
本年度新規科目につきアンケートを実施していない。

【学生が準備すべき機器他】
WordやExcel、PowerPointを活用するため、各自PCを用意すること。

【Outline (in English)】
【授業概要（Course outline）】
The objective of this course is to comprehend corporate value management by reading the text. Additionally, it aims to enhance the ability to analyze financial statements and assess corporate value using actual accounting data.
【到達目標（Learning Objectives）】
By the end of the course, students should be able to:
1. The objective of this task is to comprehend corporate management through corporate value.
2. The aim is to develop the ability to deduce corporate strategies and actions based on financial statements.
3. To gain the ability to analyze companies based on their actual disclosure documents.
【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】
The recommended preparation and review time for this exercise is two hours.
Students assigned to oversee each chapter should prepare in advance and be ready to present. Other students should also read the textbook beforehand and be prepared for questions and discussions.
Each student will prepare an analytical report on the content of their assigned chapter by the end of the course.
【成績評価の方法と基準（Grading Criteria /Policies）】
The final grade will be determined based on the following criteria: presentation of assigned sections (40%), mutual evaluation in group work (40%), and the final report (20%).

MAN200TG（経営学 / Management 200）

経営学特講【事例で学ぶ人材マネジメント入門】（秋期スクーリング）

石川　了

カテゴリー：**秋期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：　｜　単位数：**2単位**
期間：**秋期**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講手続き等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
時代や環境が変化しても、人材を活用し、モチベーションを高めながら、生産性や利益を上げ、企業をサスティナブル（持続的）に維持していくことは、人材マネジメントの普遍的な役割と言えます。SDGsや社会的信用の観点からも法令（ワークルール）を遵守し、適切な人事処遇制度を運用する必要があります。そこで、具体的な事例を基に、賃金や労働時間等人事諸制度の理解を深め、企業・組織と個人（従業員）にとっての最適なマネジメントとは何か、その基礎を学んでいきます。

【到達目標】
事例（ケース）を基に、人材マネジメントの基礎的知識を押さえ、総合的に学ぶことを授業の到達目標とします。具体的には、①「働く」意義と人材マネジメントの歴史と概要、②ワークルール（労働諸法の概要）、③雇用関連指標の見方と使い方、④人事処遇制度の基礎知識、⑤人材育成とキャリアデザイン、⑥老舗の人材重視経営、⑦人事労務管理をめぐる現状の課題や今後の方向などを学びます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「経済学科：DP2」「商業学科：経営学・商学, 自由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

【授業の進め方と方法】
基本的に講義形式で行いますが、ディスカッション・実習も取り入れます。講義はレジュメ・資料をプリントとして配布し、それに沿って講義をすすめるとともに、必要に応じて参考図書を指定します。リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。また、課題（レポート、試験など）に対する講評も行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	・授業の概要と進め方
第2回	「働く」をめぐる環境変化	・事例で見る環境変化 (人的資本経営、ジョブ型人事など新しいキーワードを含む) ・労働統計の見方
第3回	人材マネジメントの歴史と位置付け	・事例で見る歴史 ・人材マネジメントの現在
第4回	ワークルール（労働諸法）の概要	・憲法/労働基準法 ・労働契約法ほか
第5回	採用管理から配置・異動	・採用から配置・異動 ・出張・転勤、出向など
第6回	労働時間制度①	・労働基準法上の制約 ・テレワーク等柔軟な制度ほか
第7回	労働時間制度②	・労働判例から見る最近の事例 ・メンタルヘルス問題ほか
第8回	賃金制度と賃金管理	・職能・職務・役割基準の諸制度（事例） ・諸外国との比較 ・賞与・退職金ほか
第9回	雇用管理制度の実際①	・長期雇用/契約社員 ・パート・アルバイト ・派遣社員など
第10回	雇用管理制度の実際②	・女性活躍推進 ・ダイバーシティ ・高齢者雇用（定年・再雇用含む）など
第11回	人材育成・能力開発と人生100年時代のキャリアデザイン	・企業の人材育成と能力開発 ・人生100年時代のキャリア開発
第12回	事例発表	・身近な企業や組織の人事制度
第13回	老舗企業の経営と「人」づくり	・なぜ日本には長寿企業が多いのか（事例）
第14回	授業の振り返りと今後に向けて	・ポイント解説とまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
予習は、レジュメ、関連書籍、ネット情報、新聞報道等いずれかのツールを使って行い、日常の問題意識を授業の入口とします。一方、復習は授業で使用したレジュメ、授業内容のまとめをはじめ、ディスカッションの結果を踏まえたレポート等で行います。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間以内を標準とします。

【テキスト（教科書）】
主にレジュメを使用、必要に応じて参考図書を指定します。

【参考書】
各回の授業でテーマごとに指示します。

【成績評価の方法と基準】
授業における取り組み（積極性、協調性、発言内容等）３０％、課題・レポート等　３０％（講義、ディスカッション等を踏まえた理解力・洞察力、まとめ等）、試験結果４０％

【学生の意見等からの気づき】
簡単な授業アンケートを実施することがあります(学習支援システム、google　form等を使用)。また、時宜に応じたテーマを優先し、授業の順序を入れ替える場合があります。

【学生が準備すべき機器他】
特にありません。

【Outline (in English)】
Even if the times and environment change, it can be said that the universal role of human resources management is to utilize human resources, increase motivation, increase productivity and profits, and maintain the company sustainably. From the perspective of SDGs and social credibility, it is necessary to comply with laws and regulations (work rules) and operate an appropriate personnel
Therefore, based on specific cases, we will deepen our understanding of personnel systems such as wages and working hours, and learn the basics of what is optimal management for companies /organizations and individuals (employees).
The goals of this course are to learning a basic human resource management and the case of management.
Basically, it will be given in a lecture format, but discussions and practical training will also be included.
Learning is done using one of the tools: resume, related books, online information, newspaper coverage, etc.
Your final grade will be decided based on the following
Term-end examination: 40%、Short reports : 30%、in class contribution: 30%.

MAN300TG（経営学 / Management 300）

監査論Ⅱ（秋期スクーリング）

市川　佳功

カテゴリー：**秋期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：　｜　単位数：**2単位**
期間：**秋期**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講手続き等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
財務諸表監査を受けている企業の粉飾事例がしばしば報道されています。現代の財務諸表監査は企業の粉飾を見逃してしまうリスクと常に背中合わせといえます。そこで、財務諸表監査ではリスク概念を制度的に導入し、リスクに注意を払いながら監査をすることが要求されています。これを監査リスク・アプローチといいます。そして、監査が終了した後は、最終結論として財務諸表が適正か否かについて監査意見を表明します。これを監査報告といいます。監査報告の内容は財務諸表の適正性レベルによって異なってきます。
「監査論Ⅱ」では、監査リスク・アプローチを理解したうえで、異なる監査報告の内容について学習して行きます。

【到達目標】
リスクに注意を払いながら監査をするといういわば当然の事柄が、現代の財務諸表監査においてどのように制度的に盛り込まれているかを理解するとともに、監査を実施した結果に対応してどのような監査報告をすべきかを適切に判断するために必要な基礎知識を身につけることを到達目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「会計学・ファイナンス」に関連

【授業の進め方と方法】
授業は指定テキストを使用した講義形式で進めます。毎回の授業の後に学生から質問を受けます。受けた質問の内容については、次回の授業の冒頭で紹介し前回授業の復習及び理解に厚みが出るようにしていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	「監査リスクアプローチ」1	財務諸表監査における「リスク」概念一般
第2回	「監査リスクアプローチ」2	「実施基準」基本原則の内容
第3回	「監査リスクアプローチ」3	「実施基準」監査計画の策定
第4回	「監査リスクアプローチ」4	「実施基準」監査の実施
第5回	「監査報告」1	「報告基準」基本原則の内容
第6回	「監査報告」2	「報告基準」監査報告書の記載区分
第7回	「監査報告」3	「報告基準」無限定適正意見の記載事項
第8回	「監査報告」4	「報告基準」意見に関する除外（不適正事項と不適正意見）
第9回	「監査報告」5	「報告基準」監査範囲の制約（監査制約事項と意見不表明）
第10回	「監査報告」6	「報告基準」継続企業の前提
第11回	「監査報告」7	「報告基準」追記情報（強調事項）
第12回	「監査報告」8	「報告基準」後発事象の取扱い
第13回	「監査報告」9	内部統制報告書に対する監査制度
第14回	総復習と期末試験	リスクアプローチと監査報告の総復習の後、授業中に試験を実施します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
監査論で学習する概念には抽象的なものが多く存在します。理解しにくい場合には、テキスト以外の書籍等も参考にして自らの理解を補強していく必要があります。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
伊豫田隆俊・松本祥尚・林隆敏『ベーシック監査論　九訂版』同文舘出版　3,800円＋消費税

【参考書】
蟹江 章/井上 善弘/栗濱 竜一郎【編著】『監査論スタンダードテキスト（第６版）』中央経済社　4,800円＋税

【成績評価の方法と基準】
授業最終日に行う試験（期末試験）により成績評価（配分100％）を行います。

【学生の意見等からの気づき】
難しい用語については逐次解説をしながら、ゆっくりと説明をしていきます。

【Outline (in English)】
In this lecture we will learn about the audit risk approach and audit reports in various cases.

MAN200TF（経営学 / Management 200）

簿記Ⅳ（秋期スクーリング）

市川　佳功

カテゴリー：**秋期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：　｜　単位数：**2単位**
期間：**秋期**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講手続き等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日商簿記検定1級レベルの商業簿記を学習対象とします。日商簿記検定1級では商業簿記と会計学、工業簿記と原価計算の知識が要求されますが、簿記Ⅳでは商業簿記のみを学習します。ただし、テーマを理論的に理解することも含みます。

【到達目標】
日商簿記検定1級の商業簿記の出題テーマは広範にわたっています。授業でこれらの全てのテーマを取り扱うことはできません。そこで、1級の中でも上場会社に適用されている特に重要であると思われる会計処理に関するテーマを選択して学習していきます。日商1級に合格するというより、実務社会でよく耳にする高度な会計制度の意味が理解できるようになることを到達目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「経済学科：DP2, DP3」「商業学科：経営学・商学, 会計学・ファイナンス」に関連

【授業の進め方と方法】
授業は指定テキストを使用した講義形式で進めます。毎回の授業の後に学生から質問を受けます。受けた質問の内容については、次回の授業の冒頭で紹介し前回授業の復習となり理解が深まるようにしていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	有価証券	有価証券の保有目的と期末の会計処理
第2回	有価証券	有価証券の減損処理と修正受渡基準
第3回	デリバティブ取引1	デリバティブ取引と会計処理の基本 債券先物取引の会計処理
第4回	デリバティブ取引2	金利スワップ取引の会計処理
第5回	ヘッジ会計	ヘッジ取引とは何か 繰延ヘッジと時価ヘッジの会計処理
第6回	外貨建取引1	ドル単位で取引が行われた場合の会計処理
第7回	外貨建取引2	為替予約の会計処理
第8回	固定資産1	圧縮記帳の制度趣旨と会計処理
第9回	固定資産2	固定資産の減損処理の意味と会計処理
第10回	税効果会計1	税法上の税金計算方法の概要 税効果会計の意味
第11回	税効果会計2	具体的な税効果会計の会計処理
第12回	税効果会計3	具体的な税効果会計の会計処理
第13回	純資産会計	純資産の部の表示 株主資本等変動計算書 自己株式の会計処理
第14回	総復習と期末試験	総復習の後、期末試験を実施します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
簿記ができるようになるには問題を解くことが必要不可欠です。市販されている日商1級レベルの問題集をたくさん解いてください。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
神谷健司　市川佳功『簿記Ⅳ』法政大学通信教育部

【参考書】
日商簿記検定１級（商業簿記・会計学）の学習テキスト（各社が出版しています）
日商簿記検定試験1級の問題集（各社が出版しています）

【成績評価の方法と基準】
授業最終日に行う試験（期末試験）により成績評価（配分100％）を行います。

【学生の意見等からの気づき】
仕訳の仕方だけでなく、理論的なことについても解説していきます。

【Outline (in English)】
In this lecture, students will learn about major themes that are important regarding the first grade of Nissho bookkeeping certificate.

BSP100TA（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）

基礎特講（札幌市スクーリング）

向井　知大

カテゴリー：**札幌市**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**終日**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
薬の開発は人類の寿命を大きく伸ばし、医学の発展に大きく寄与してきました。この授業では、薬とはどのようなものか、人体にどのような働きをするのか、薬はどのように開発されるか、など、薬の原理について有機化学を用いて紹介していきます。

【到達目標】
薬の働きについての学習を通して、医師の処方に従って薬を服用することの重要さ、栄養バランスの取れた食事が体の健康はもちらん心の健康にも重要なことを化学的に理解することを目標とします。さらに、有機化合物の構造式を身近なものにし、有機化合物の性質を左右する構造的特徴について理解することを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP3」「史学科：DP1, DP3」「地理学科：DP1」「経済学科：DP5」「商業学科：幅広い教養」に関連

【授業の進め方と方法】
パワーポイント資料をスクリーンに投影し、解説する形式で対面授業を行います。資料は学習支援システムで電子ファイルで配布します。授業時間内、授業終了後に質問を受け付けます。最終回では、講義内容のまとめや復習だけでなく、授業内で行った課題に対する講評や解説も行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	講義計画と概要、薬の歴史について
第2回	化学の基礎	原子と分子、有機化合物の構造や性質について
第3回	DNAとタンパク質	アミノ酸の化学構造と、タンパク質やDNAの立体構造について
第4回	酵素と代謝	タンパク質や炭水化物などを分解する酵素について
第5回	栄養の化学	食品に含まれる栄養素が体内でどのように変化し、働くかについて
第6回	抗炎症薬①	非ステロイド薬とステロイド薬の作用機序について
第7回	抗炎症薬②	花粉症などアレルギーの薬、抗ヒスタミン薬の分子設計と副作用改善について
第8回	抗菌薬	抗生物質や化学療法薬の構造と作用機序について
第9回	抗ウイルス薬	インフルエンザやエイズ、新型コロナウイルスの薬について
第10回	抗がん薬	がんの薬の種類、近年の副作用を抑えた抗がん薬の標的物質について
第11回	脳の薬	神経細胞間で働く物質、うつの薬や危険ドラッグについて
第12回	まとめ	これまでの内容の復習と最終試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義の内容に関連すると考えられる現象や用語について、各自が興味を持って書籍やWeb検索などで調査してみて下さい。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
使用しません。毎回資料を電子ファイルで配布します。

【参考書】
特にありません。

【成績評価の方法と基準】
各授業ごとに出題される正誤問題を平常点(配分20%)とし、最終時限に実施する試験(配分80%)と併せて成績評価します。

【学生の意見等からの気づき】
これまでの理系科目の履修の有無にかかわらず理解できるよう努めます。

【学生が準備すべき機器他】
資料の表示のためにpdfファイルリーダーが必要です。紙媒体に印刷する場合は、A4用紙1枚(横向き)につき4ページの割付印刷で十分な文字の大きさにしています。

【Outline (in English)】
Pharmaceutics has extended the human lifespan and has greatly contributed to the development of medical science. This course introduce the basic principles of medical supplies using organic chemistry.
The goals of this course are to understand about organic compounds and to improve your scientific literacy.
Your required study time is at least two hours for each class meeting.
Your overall grade in the class will be decided based on the usual performance score (20%) and final examination (80%).

BSP100TE（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）

総合特講（札幌市スクーリング）

小寺　浩二

カテゴリー：**札幌市**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**終日**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地方スクーリングの「総合特講」ということで、様々な分野を学ぶ学生に、地理学的な視点で地域を理解する手法や知識を提供し、具体的に自分たちの地域についてまとめる技術や事例を紹介する。

特に、今回は、国内外の水環境に関して、基本的な学術知識を示すだけでなく、具体的な研究事例をもとに身近な地域の水環境をまとめる能力の育成も目指す。なるべく多く、北海道の事例や通信教育部の学生の成果を示したい。

【到達目標】

自分たちが暮らす「地域」の特性や「環境」の変化を理解し、記述するために必要な、「地理学」、「地誌学」、「水文学」、「陸水学」の基礎知識を学び、具体的に、身近な水環境を調べ、結果を解析し、まとめる能力を育成する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科： DP5」「日本文学科：DP1,DP2」「史学科：DP1,DP3」「地理学科：DP1,DP2,DP3」「経済学科：DP4,DP5」「商業学科：自由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

【授業の進め方と方法】

授業全体を通して、「地理学」、「地誌学」、「水文学」、「陸水学」の基礎を学んだ上で、国内外の様々な研究事例を紹介し、身近な水環境を理解し、調べ、問題点を明確にし、課題に取り組む方法について示すことができるようにする。

あわせて、データ処理や結果の図化、主題図の作成方法などについても講義し、レポート執筆能力の向上や論文作成技術の基礎も習得する。

今年度から「学習支援システム」が利用できるようになったので、予習・復習に活用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	①講義内容概略 ②地球惑星科学の中での地理学 ③研究事例	・授業計画と概略の説明 ・地球惑星科学と地理学の関係について ・タクラマカン沙漠・ブラジル
第2回	①地理学の中での自然地理学 ②地理学の歴史 ③研究事例	・地理学における自然地理学の位置づけ ・世界・日本の地理学の歴史 ・多田・三井・大矢・市瀬先生の研究成果
第3回	①自然地理学と水文学・陸水学 ②水文学・陸水学の歴史 ③研究事例	・自然地理学と水文学・陸水学の関係について ・世界・日本の水文学・陸水学の歴史 ・安芸・高橋・吉村先生の研究成果
第4回	①地球の水循環と水収支 ②流域の水循環と水収支 ③研究事例	・地球上の水循環と水収支 ・流域の水循環と水収支 ・尻別川・阿武隈川・最上川
第5回	①流域特性と流域解析 ②水系網解析と水文誌・流域データベース ③研究事例	・流域の特性の把握法と解析法 ・水系網解析法と水文誌の記述方、流域データベースの紹介 ・仁淀川・吉野川・阿賀野川
第6回	①流域の水循環と物質循環 ②SWATモデルと小流域原単位法 ③研究事例	・水循環に伴う物質循環について ・GISを用いた流域解析法の紹介 ・芦田川・
第7回	①浅層地下水 ②水文地形学 ③研究事例	・不圧地下水の研究の歴史と調査法 ・水文地形学の成果 ・武蔵野台地・大間々扇状地
第8回	①深層地下水 ②地下水塩水化・地盤沈下 ③研究事例	・深層地下水の賦存と利用 ・地下水塩水化・地盤沈下の事例と対策 ・岳南地域・三浦半島
第9回	①湖沼 ②湖沼の3分類 ③研究事例	・湖沼額の基礎 ・湖沼の3分類について ・恐山湖・猪苗代湖
第10回	①雪氷 ②季節雪氷圏 ③研究事例	・地球上の雪氷圏 ・季節雪氷圏の性質 ・チベット・魚野川
第11回	①山・川・海問題 ②閉鎖性水域・島嶼 ④研究事例	・流域を超えた水循環 ・内湾などの閉鎖性水域・河口堰・島嶼の水環境 ・島嶼・火山
第12回	①身近な水環境研究について ②まとめ	・まとめと試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各授業の予習・復習は、原則として2時間を標準とするが、3日間の集中講義であるため、できる限り、以下のように配分して予習・復習を行う

①　事前学習：シラバスを参考に、講義を受ける前までに、示された教科書・参考書を中心に予習する（合計8時間程度）

②　講義期間の予習・復習：講義前日を含めた4日間で、毎日2時間程度予習復習を行う（合計8時間程度）

③　講義を終えた後、レポート提出のために、十分時間をかける（8時間程度）。

なお、試験以外に、「自分が住んでいる地域の水環境」もしくは、「興味のある水環境問題」いずれかのレポート提出を求めるので、そのつもりで、講義を受ける前に、文献や資料の収集と整理をしておくことが望まれる。それによって、講義内容の理解が深まり、受講後のレポートの質が向上し、他の分野も含めて、論文や学術レポートの執筆能力が向上するはずである。

ただし、受講生の環境は、様々であるため、①講義出席、②毎回の小レポート、③試験だけでも合格点となるように配点するが、レポートを提出するつもりで参加することが、講義内容を深く理解するうえでも有効である。

なお、今年度から「学習支援システム」が利用できるようになったので、予習・復習に関しては、システムを活用して指示・提出などを行う。

【テキスト（教科書）】

・小寺浩二（2020）：『自然地理学概論（1）』.法政大学通信教育部,346pp.

・小寺浩二・三井嘉都夫（2019）：『自然地理学（海洋・陸水）』.法政大学通信教育部,

【参考書】

・長谷川典夫(1994)：『地誌学研究－地誌学作成法とその実例』,大明堂

・山本正三・田中真吾・太田 勇（1973）：『世界の自然環境』,大明堂

・藤岡謙二郎ほか（1982）：『世界地誌』-改訂増補版- ,大明堂

・杉谷隆・平井幸弘・松本淳（2005)：『風景の中の自然地理「改訂版」』,古今書院

その他、授業内で紹介する。

【成績評価の方法と基準】
①講義出席時の毎回の小レポート、②試験、③レポート（講義後提出）の結果を総合して評価する。
配点は、①40%、②45%、③15%とするが、全体の状況を見て微修正することもある。

【学生の意見等からの気づき】
昨年に引き続いての地方スクーリングであるため、昨年とは違い、「水環境問題」中心の講義とする。北海道や通信教育部の学生の成果を具体的な事例としてなるべく紹介し、身近な問題としての理解を含めてもらいたい。また、Zoomなどを用いて、何人かのゲストスピーカーを予定しており、他分野を専攻している学生にもわかりやすい講義を心掛け、受講生全員に得るところの多い授業としたい。

【学生が準備すべき機器他】
原則として、毎回、PowerPointや映像資料を活用してわかりやすく説明する。講義を受ける上では必要ないが、レポートを出すにあたっては、基本的なパソコンの準備が必要で、3日間の予習・復習のためにも、必要な機能のあるノートパソコンを持参することが好ましい。

【その他の重要事項】
理論だけでなく、具体的な研究についても理解してもらいたいため、国内外の多くの研究成果を紹介すると同時に、北海道でのスクーリングということで、なるべく北海道の事例や、通信教育部の学生の研究成果を多く盛り込みたい。また、Zoomなどを用いて、一部ゲストスピーカーをお願いし、より具体的な事例を紹介する予定なので、期待されたい。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞自然地理学・水文学・陸水学
＜研究テーマ＞
1）水循環に伴う物質循環
2）人間活動に伴う水環境変化と保全
3）GISを用いた流域水・物質循環解析と環境マネージメント

【Outline (in English)】
As a "comprehensive special lecture" for regional schooling, it will provide students studying a variety of fields with methods and knowledge to understand regions from a geographical perspective, and introduce concrete techniques and case studies for summarizing their own regions.
In particular, this time, rather than just imparting basic academic knowledge about water environments both in Japan and abroad, it also aims to foster the ability to summarize the water environments of familiar regions based on concrete research cases. We would like to present as many case studies from Hokkaido and the results of students in the correspondence education department as possible.
The evaluation will be based on a combination of the results of ① short reports submitted at each lecture, ② exams, and ③ reports (submitted after the lecture).
Points will be allocated as follows: ① 40%, ② 45%, ③ 15%, however slight adjustments may be made based on the overall situation.

LAW200TB（法学 / law 200）

法律学特講（札幌市スクーリング）

金子　匡良

カテゴリー：**札幌市**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**終日**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業の目的は、憲法の視点から現代社会を分析し、そこに存在する問題や課題を考察することである。そのために、授業では憲法に関する今日的なトピックをいくつか取り上げ、その背景にある法的・政治的要因や歴史的経緯、関連する学説や判例を解説していく。また、それに先立って、憲法の役割や機能、法体系における位置づけといった基本的な事項についても説明する。

【到達目標】
①憲法の機能と役割を理解する。
②現代社会における憲法問題の内容およびその背景を理解する。
③憲法の観点から社会的な問題を考察する分析力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP1，DP3，DP4」「日本文学科：DP1，DP2」「史学科：DP1」「地理学科：DP1，DP2，DP3」「経済学科：DP4，DP5」「商業学科：自由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

【授業の進め方と方法】
学習支援システムを通じて配布するプリントを用いて、講義形式で授業を進める。質問に対しては教室において授業中に回答し、全体で共有すべき事項については、授業時間中にフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の内容および進め方、試験の方法等について説明する。
第2回	憲法の基礎①：立憲主義	憲法の基本原理である立憲主義について学ぶ。
第3回	憲法の基礎②：憲法の構造と内容	人権保障と統治機構という憲法の構造とそれぞれの規定内容について学ぶ。
第4回	日本国憲法の制定経緯をめぐる問題	日本国憲法成立の法理とそこにおける法的問題について学ぶ。
第5回	国民主権をめぐる問題	国民主権の内容とそこにおける法的問題について学ぶ。
第6回	象徴天皇制をめぐる問題	象徴天皇制の内容とそこにおける法的問題について学ぶ。
第7回	安全保障をめぐる問題	憲法9条の内容とそこにおける法的問題について学ぶ。
第8回	人権の享有主体をめぐる問題	人権の享有主体、特に外国人の人権享有主体性とそこにおける法的問題について学ぶ。
第9回	政教分離をめぐる問題	政教分離原則の内容とそこにおける法的問題について学ぶ。
第10回	議院内閣制と政党国家をめぐる問題	議院内閣制および政党国家現象の内容とそこにおける法的問題について学ぶ。
第11回	憲法改正をめぐる問題	憲法改正手続とそこにおける法的問題について学ぶ。
第12回	全体のまとめと試験	授業全体のまとめと試験を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
受講者は予習としてプリントに目を通し、復習としてプリント・ノートを見直すこと。なお、本授業の予習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
テキストは指定しない。

【参考書】
入門的なものとして、毛利透『グラフィック憲法入門〔第2版〕』（新世社、2021年）
、標準的なものとして、芦部信喜（高橋和之（補訂））『憲法〔第8版〕』（岩波書店、2023年）、発展的なものとして、安西文雄・巻美矢紀・宍戸常寿『憲法学読本〔第3版〕』（有斐閣、2018年）が役立つと思われる。また、資料集的なものとして、初宿正典・大沢秀介ほか(編著)『目で見る憲法〔第6版〕』（有斐閣、2024年）が参考になる。

【成績評価の方法と基準】
最終授業で行う試験の点数によって成績を評価する（100％）。

【学生の意見等からの気づき】
受講者の多様性を考慮して、法学の基本的な概念の説明にも配慮する。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムで配布するプリントを持参すること。プリントはパソコンやタブレット上で見てもよいが、試験の際はパソコン・タブレット等の持ち込みは認めない。

【その他の重要事項】
国会議員政策担当秘書の資格を有し、かつ実務経験がある。授業では、その経験を活かし、現実政治と憲法の関係についても論及する。

【Outline (in English)】
The purpose of this class is to analyze contemporary society from a constitutional perspective and to examine the problems and issues that exist in it. To this end, the class will focus on several current topics related to constitutional law, explaining the legal and political factors and historical background behind them, as well as related theories and precedents. Prior to that, basic matters such as the role and function of the constitution and its position in the legal system will also be explained.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Final grade will be calculated according to the term-end examination (100%).

GEO100TA（地理学 / Geography 100）

自然地理学（名古屋市スクーリング）

齋藤　圭

カテゴリー：**名古屋市**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**終日**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では自然環境と人間生活の関係を学ぶことを目的とします。地球化学をキーワードとして、水質や大気質の面から「自然環境が人間へ及ぶ影響」「人間活動が自然環境へ及ぶ影響」について、事例を紹介していきます。

【到達目標】
・水文学や陸水学、地球化学の知識を深め、火山活動、熱水について化学の側面から理解することができる
・火山活動と熱水に関する災害と資源の両面について理解することができる
・人間活動によって引き起こされた大気汚染を地球化学的に理解することができる
・海の酸性化と地球温暖化が密接に関係していること、背景には人間活動が関わっていることを理解することができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP3」「史学科：DP1, DP3」「地理学科：DP1」「経済学科：DP6, DP7」「商業学科：幅広い教養」に関連

【授業の進め方と方法】
授業進行は主に講義形式よって授業を展開します。なお一部においては、実験室を必要としない簡単な実習を実施します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	地球温暖化と大気環境	地球の温度はどうやって決まるのか。その基本的なメカニズムと地球温暖化の原因について学ぶ。
第2回	地球環境の歴史と気候変化	地球の温度が長い歴史の中でどう変化してきたのかを理解する。また、それを知るための手法や実践例について紹介する。
第3回	大気質の基礎	大気質とは何か、問題となる化学成分を紹介しながら、基本前提に立って学ぶ。
第4回	酸性雨	大気汚染によって引き起こされる酸性雨のメカニズムと被害事例について学ぶ。
第5回	公害問題と大気質	大気汚染によって引き起こされた公害問題について学ぶ。
第6回	海の酸性化	海の酸性化問題について学ぶ。平衡計算に基づく簡単なシミュレーション解析をおこなう。
第7回	水質の基礎	水質とは何か、ミネラルウォーターといった身近な飲料水などを紹介しつつ、基本前提に立って学ぶ。
第8回	日本の湖沼	湖沼の成因やいくつかの分類法について紹介する。そのうえで、日本の特徴について理解する。
第9回	火口湖と火山	火口湖の特徴を紹介しつつ、背景にある火山活動のメカニズムなどについて学ぶ。
第10回	温泉の化学	温泉の泉質の種類について紹介し、それぞれの形成過程について解説する。
第11回	温泉の持続可能性（1）	温泉の資源量に関する問題について学ぶ。
第12回	温泉の持続可能性（2）	温泉の資源量に関する問題と現在行われている調査と課題について解説する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
テキストは使用せず資料を配布します。

【参考書】
松原彰子（2006）：自然地理学（第6版）――地球環境の過去・現在・未来．慶応義塾大学出版会
松山洋，川瀬久美子，辻村真貴，高岡貞夫，三浦英樹（2020）：自然地理学（第3版）．ミネルヴァ書房
J.E. アンドリューズ，P. ブリンブルコム，T.D. ジッケルズ，P.S. リス，B.J. リード（2021）：地球環境化学入門．渡辺正 訳，丸善出版
小熊幸一，上原伸夫，保倉明子，谷合哲行，林英男（2013）：これからの環境分析化学入門．講談社
高橋嘉夫（2021）：分析地球化学．名古屋大学出版会

【成績評価の方法と基準】
実習時の課題40%
レポート課題60%

【学生の意見等からの気づき】
フィードバックは授業内で行う

【学生が準備すべき機器他】
パソコン（Excelをはじめとする表計算ソフトをインストール済み）、スマートフォン、関数電卓のいずれか。パソコンだと望ましいですが、なくても構いません。会場では人数分の電源ポートを用意できないため、予め充電してから持参してください。主に第6回の平衡計算で使用します。また、レポート課題の提出は後日担当教員へのメールアドレス経由での送付を予定しています。パソコンなど、提出可能な情報機器のご用意をお願いします。

【Outline (in English)】
The purpose of this course is to study the relationship between the natural environment and human life. Using geochemistry as a key word, examples will be presented of the impact of the natural environment on humans in terms of water and air quality, and the impact of human activities on the natural environment.

BSP100TD（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）

総合特講（名古屋市スクーリング）

内田　康太

カテゴリー：**名古屋市**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**終日**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
古代地中海世界に成立した諸国家のうち、アテナイ民主政とローマ共和政の国制について概説する。個々に独立した分析だけではなく、両者の比較という方法でそれぞれの特質を把握することにより、歴史研究における比較史の有用性も学ぶ。

【到達目標】
この授業の到達目標は以下のとおり。
・アテナイ民主政とローマ共和政の国制について基礎的知識を習得する。
・両者の国制について、類似点と相違点を説明できる。
・両者の国制を比較することの意義を理解できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP1，DP2」、「史学科：DP1，DP3」「地理学科：DP1，DP2，DP3」「経済学科：DP4，DP5」「商業学科：自由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

【授業の進め方と方法】
この授業は講義形式で行うが、授業時間内に質疑応答の機会を設ける。さらに、第５日目までは毎日、その日の講義内容に対するリアクションペーパーを書いてもらい、翌日の授業でフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	アテナイ民主政とローマ共和政
第2回	アテナイ民主政の国制（1）	参政権
第3回	アテナイ民主政の国制（2）	投票
第4回	アテナイ民主政の国制（3）	民会
第5回	アテナイ民主政の国制（4）	役人・政務官
第6回	アテナイ民主政の国制（5）	裁判
第7回	ローマ共和政の国制（1）	参政権
第8回	ローマ共和政の国制（2）	投票
第9回	ローマ共和政の国制（3）	民会
第10回	ローマ共和政の国制（4）	役人・政務官
第11回	ローマ共和政の国制（5）	裁判
第12回	試験・まとめと解説	到達度の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各２時間を標準とする。参考書として挙げた書籍などを用いて、自主的に学習することが求められる

【テキスト（教科書）】
特になし。担当教員が作成したレジュメ・資料を配布する。

【参考書】
橋場弦『古代ギリシアの民主政』，岩波新書，2022年.
島田誠『世界史リブレット3 古代ローマの市民社会』，山川出版社，1997年.

【成績評価の方法と基準】
期末の筆記試験（80％）
リアクションペーパーや質問等、授業への積極的参加度（20％）

【学生の意見等からの気づき】
本年度より新規担当のためフィードバックできない。

【Outline (in English)】
Course outline: This course outlines the constitution of the Athenian democracy and the Roman republic. Not only analyzing them individually but also comparing each other to identify their characteristics, it also helps students learn the usefulness of comparative history.
Learning Objectives: The followings are the goals of this course.
- Students are able to acquire fundamental knowledge concerning the constitution of the Athenian democracy and the Roman republic.
- Students are able to explain similarities and differences between them.
- Students are able to understand the significance of comparing them each other.
Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. They are expected to read relevant books, such as those listed in the reference section, and learn by themselves.
Grading Criteria: Grading will be decided based on term-end examination (80%) and in-class contribution (20%).

MAN200TG（経営学 / Management 200）

経営学特講（名古屋市スクーリング）

宮澤　信二郎

カテゴリー：**名古屋市**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**終日**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
企業の経営者あるいは部門の責任者は，どのようなことに注意して，どのように行動したら良いのでしょうか。自社の製品をどのぐらい，どのように生産したら良いでしょうか。そのとき製品の価格はどうなるのでしょうか。どのような人を雇って，どのように処遇したら良いでしょうか。必要となるお金はどのように調達したら良いでしょうか。
この授業では，ミクロ経済学の基本的な考え方を用いて上記のような問題にアプローチする，「経営の経済学」の基礎を学びます。
同時に，最適化理論，ゲーム理論，情報の経済学，契約理論といった理論の基礎を学びます。

【到達目標】
以下の3 点をこの授業の到達目標とします。１）企業の生産・販売，人事・組織，財務に関して，どのようなことに注意して，どのような決定をすればよいのかについて自分の頭で考えられるようになる。２）関連する経済学の考え方，つまり，最適化，ゲーム，契約の理論に関して，その基本を押さえ，具体的な状況に当てはめて考えられるようになる。３）複雑な状況の本質を押さえて，より論理的に考えられるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP3, DP5」「日本文学科：DP1, DP2」「史学科：DP1」「地理学科 DP1, DP2, DP3」「経済学科：DP2」「商業学科：経営学・商学, 自由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

【授業の進め方と方法】
この授業では，各テーマについて，具体的な状況の例を挙げながら，基本的な考え方を説明します。説明にあたっては，概念図や簡単なグラフなどを用い，なるべく直観的に理解できるようにします。質疑・応答の時間を十分に取り，必要に応じて，簡単な例題を出題するなどして，受講者の理解度を確認しながら進めます。受講者は，毎回，授業内容の復習をすることが求められます。課題等のフィードバックは授業中に行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション／市場均衡	授業の目的・内容・進め方などについて説明した上で，「市場均衡」の考え方について確認します。
第2回	市場構造と生産活動	完全競争と独占，そしてその間の寡占という市場構造の違いについて説明した上で，それらの市場において，企業がどのように生産量を選択するのか，その結果，市場の取引量と価格はどのようになるのかについて学びます。
第3回	労働市場と企業	労働の需要・供給と労働市場の働きについて学びます。
第4回	シグナリングと雇用	労働者の能力に関する情報の非対称性の問題について確認した上で，就職・採用活動における学歴・資格の役割について学びます。
第5回	スクリーニングと雇用	労働者の能力に関する情報の非対称性の問題を踏まえて，就職・採用活動における雇用条件の決まり方について学びます。
第6回	モラル・ハザード問題と雇用	労働者の努力に関する情報の非対称性の問題について確認した上で，報酬契約のあり方について学びます。
第7回	ホールドアップ問題と人材・組織	契約がうまく書けないときに生じる問題について確認した上で，従業員教育や組織形態の在り方について学びます。
第8回	資本市場と企業	資金の需要・供給と市場の働きについて学びます。また，資金調達の種類と企業価値について学びます。
第9回	隠された情報と資金調達	企業の財務状況や投資プロジェクトの価値に関する情報の非対称性の問題が及ぼす影響と資金調達のあり方について学びます。
第10回	隠された行動と資金調達	企業行動に関する情報の非対称性の問題が及ぼす影響と資金調達のあり方について学びます。
第11回	その他のトピックス／まとめ	経営の経済学の内容で，ここまでで取り上げられなかったトピックスについて紹介するとともに，全体のまとめを行います。
第12回	期末試験とその講評	期末試験を実施し，その講評を行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回, 授業内容の復習をしてください。また, 新聞を読んだり, ニュースを聞いたりする中で，この授業で扱っている内容と関連があるものを探し，当てはめて考える訓練をしてみてください。
本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
使用しません。

【参考書】
マンキュー（足立ほか訳）『マンキュー経済学　ミクロ編（第四版）』東洋経済新報社（2019 年）
神戸伸輔『入門ゲーム理論と情報の経済学』日本評論社（2004 年）
柳川範之『契約と組織の経済学』東洋経済新報社（2000 年）

【成績評価の方法と基準】
期末試験の結果（100％）で評価します。

【学生の意見等からの気づき】
抽象的な理論の説明だけだと理解が追いつきにくいようです。
具体的な状況を踏まえたより直感的な説明を交え、また、簡単な例題を出題して理解を確認しながら授業を進めていきたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムの「教材」フォルダに資料をアップロードする予定です。
詳しくは学習支援システムの「お知らせ」で確認してください。

【Outline (in English)】
In this course, you will learn various applications of the basic ideas of microeconomics to managing (i) trade relations, (ii) personnel and organization, and (iii) corporate finance. You will also learn the basics of optimization theory, game theory, informational economics, and contracting theory.
By the end of the course, students should be able to
A) Analyze various issues related to trade relations, personnel and organization, and corporate finance.
B) Investigate various practical situations based on the fundamentals of optimization theory, game theory, informational economics, and contracting theory.

C) Understand the essence of complex situations and think more logically.
Students are required to review the course content after each class meeting. In addition, they are expected to find some content related to what they have learned in this class in other classes and daily news, and train themselves to apply the ideas they have learned.
Before/after each class meeting, they will be expected to spend four hours practicing the above activities.
The final grade will be based on the final exam (100%).

PHY100TA（物理学 / Physics 100）

物理学３（講義）（後期週末スクーリング）

藤田　貢崇

カテゴリー：**後期週末**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**終日**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
（概要）物理学は自然科学の基本原理を利用して、あらゆる自然現象を筋道立てて説明する学問です。高校までに学んだ「物理」「化学」「生物」「地学」という領域にこだわることなく、自然現象を物理法則に基づいて科学的に説明することができるような能力を身につけることは、ものごとを理論的に思考するためにも重要なことです。
（目的）この授業で受講者は、自然現象を引き起こす法則性を理解し、身の回りのいろいろな現象を論理的に説明する力を身につけます。

【到達目標】
身の回りのあらゆる出来事は、さまざまな自然現象が組み合わされて起こっています。この授業での到達目標は、以下のとおりです。
・いろいろな現象を、科学法則を用いて理解し、説明できるようになる
・宇宙に存在するさまざまな天体も物理法則に基づいて存在しますが、宇宙のさまざまな現象がどのような物理法則で生じるのかを説明できるようになる
・現代社会の諸問題について、科学的な見解を交えて説明し、議論することができるようになる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP3」「史学科：DP1, DP3」「地理学科：DP1」「経済学科：DP3, DP7」「商業学科：幅広い教養」に関連

【授業の進め方と方法】
・オンラインで実施します。
・地球物理学・宇宙物理学・素粒子物理学の基本的な法則を理解することができるように配慮します。
・各回の授業は「なぜ・・・か？」などの疑問をテーマに掲げ、その答えとなる自然や宇宙の現象を受講者自身がわかりやすく説明できるような授業内容とします。
・課題や質問等に対するフィードバックは、当該時間内にできるだけ速やかに行います。
・最新の科学研究の成果の紹介や、わかりやすく解説された映像などを使いながら、受講者の理解が進むようにします。
・最近の科学ニュースなどを取り上げ、科学技術と社会のつながりについて意識できるような話題を提供します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の実施方法・評価方法などについて説明する
第2回	【地球物理学】地震はなぜ起こるのか？	地震のしくみを理解し、地震予知がなぜ難しいのかを理解する
第3回	【気象物理学】天気はなぜ変わるのか？	気象物理学について理解し、大気や海洋の物理学的な現象を理解する
第4回	【宇宙物理学】太陽はなぜ輝くのか？	太陽のエネルギー源について理解し、恒星がどのように生まれ、どのような経過をたどるかを理解する
第5回	【光学】空と海はなぜ青いのか？	色が生じる仕組みを理解し、空と海が特有の色をもつ理由を理解する
第6回	【惑星物理学】地球や月はどのようにつくられたのか？	惑星としての地球、衛星としての月の起源を理解する
第7回	【宇宙物理学】宇宙に多様な天体が存在するのはなぜか？	さまざまな天体を説明する物理現象を理解する
第8回	【宇宙論】夜空はどうして暗いのか？	夜空が暗いのは太陽が見えなくなるからではない。夜空が暗い理由を、宇宙論をもとに的確に理解する
第9回	【宇宙論】宇宙はこれからどうなるのだろうか？	人類が観測してきた宇宙はどこまで広がっているのか、これから宇宙はどのように変わっていくと考えられるかを理解する
第10回	【原子核物理学】わたしたちの身の回りの物質の起源はなんだろうか？	物質は最初から存在しているわけではなく、起源をもつものである。物質がどのように生じたかを理解する
第11回	【素粒子物理学】ミクロな世界とマクロな世界に違いはあるのだろうか？	素粒子の世界はわたしたちの身の回りの法則がまったく違っている。その違いについて理解する
第12回	【生物物理学・その他】私たちはどのように生きていくべきか?	生命の起源を洞察し、環境問題など、幅広い社会問題について「科学的なものの見方」を理解する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しません。

【参考書】
書名：「『なぜ・どうして』からはじめる物理学」（著者：藤田貢崇）出版社：培風館（2024）￥2,400（＋消費税 10%）

【成績評価の方法と基準】
「授業中に課す小課題」（50％）および「最終日の４コマ目に実施する試験」（50％）の得点を（　）内の比率で合計し、60％以上の得点率で合格とする。ただし、「最終日の４コマ目に実施する試験」については、受験資格を設ける。受験資格は以下のとおりとする。
【最終日の４コマ目に実施する試験の受験資格】
対面授業での出席要件【①３日間合計12コマ（午前・午後各２コマ×３日）のうち８コマ以上の出席、かつ毎日出席していること（各コマの遅刻もしくは早退は、0.5コマ分の出席としてカウントする）。②最終日（試験日）の午後のみ、前半授業を２コマとしてカウントする（欠席は２コマ分の欠席、遅刻もしくは早退は１コマ分の欠席）】を満たした場合、最終日の４コマ目に実施する試験を受験できる。

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】
・学習支援システムとZoomに接続できる環境と情報機器が必要です。スマートフォンでは画面が小さいため、PCや比較的大画面のタブレットの使用を推奨します。
・授業時間中あるいは授業時間外などにGoogle Formなどを用いて回答を送信することを想定しているため、インターネットに接続でき、ウェブブラウザを起動できる機器が必要です。

【その他の重要事項】
【授業の進め方と方法】に示しているとおり、この授業ではさまざまな自然現象を取り上げ、その現象を科学的に説明できるような能力を身につけられるように授業を行います。さらに、わかりやすく編集された動画などを用いながら、基本的なことから理解できるように留意して授業を進めます。
　そのため、高校で物理学を履修していない人や、高校で理系ではなかった人も問題なく履修できると考えます。自然現象や身の回りの機器の仕組みに対して、「なぜ・・・だろうか？」と好奇心を持つ人の受講を歓迎します。

【Outline (in English)】
【Course outline】Physics is a logical science that deals with matter and energy and their actions upon each other in the fields of mechanics, heat, light, electricity, sound, the atomic nucleus and so on. Developing the ability to explain natural phenomena scientifically on the basis of physical laws is important for thinking about things theoretically.

【Learning Objectives】The goals of this course are (1) to understand and explain natural phenomena, your surroundings and astronomical objects with physical laws and (2) to be able to explain and discuss contemporary social issues with a scientific perspective.

【Learning activities outside of classroom】Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【Grading Criteria /Policy】Your overall grade in the class will be decided based on the following; Term-end examination: 50%、Short reports : 50% . Students will not go up the term-end examination if students attend more than 8 class meeting during 3 days.

LAW200TB（法学 / law 200）

法律学特講（後期週末スクーリング）

島村　健太郎

カテゴリー：**後期週末**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**終日**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
私たちの生活する自由経済社会では、市場における競争が基盤となっています。独占禁止法は、公正かつ自由な競争の促進を目的としており、我が国における自由経済秩序を維持・促進するために制定された経済活動に関する基本法とされています。経済法は、市場における経済秩序に関する様々な法制度を含む法概念ですが、本講義では、経済法の中心と位置付けられる独占禁止法について解説します。具体的には、独占禁止法の規制（不当な取引制限規制、私的独占規制、不公正な取引方法規制及び企業結合規制）の内容及び手続を解説します。
本講義を通じて、独占禁止法に関する知識を習得し、今日の経済システムの根本となる法制度を理解することを目的とします。

【到達目標】
独占禁止法の位置付けを理解した上で、独占禁止法の基本概念や各規制の解釈論・手続に関する知識を習得し、事業者の経済活動について独占禁止法の観点から検討、分析できることを到達目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP1,DP3,DP4」「日本文学科：DP1,DP2」「史学科：DP1」「地理学科：DP1,DP2,DP3」「経済学科：DP4,DP5」「商業学科：自由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

【授業の進め方と方法】
授業は、Zoom（オンライン）で実施します。授業の進め方として、資料を配布しますので、資料に沿って授業を行います。授業では、必要に応じて独占禁止法の条文を参照しますので、最新の六法（コンパクトのもので構いません）を持参してください。なお、講義テーマのほか、最新の独占禁止法・公正取引委員会に関するニュースや公正取引委員会の報道発表資料等について授業中に簡単に紹介・解説することがあります。
授業計画は目安ですので、進捗に応じて前後する可能性があります。毎回、授業中にリアクションペーパーの提出を求めます。授業への質問等に関するフィードバックはリアクションペーパーへのコメント等により行います。また、レポートに関するフィードバックは、提出期限後に学習支援システムにより行う予定です。
Zoom情報（URL）の周知、資料の配布、レポートの提出、リアクションペーパーの提出、出欠確認等では、学習支援システムを使用します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	経済法の概説、独占禁止法の概要等
第2回	独占禁止法の目的、基本概念	独占禁止法の目的、基本概念（事業者、一定の取引分野、競争の実質的制限、公正競争阻害性、公共の利益等）
第3回	独占禁止法の措置・手続	公正取引委員会の組織・違反処理手続等、刑事制裁、民事的救済制度
第4回	不当な取引制限①	不当な取引制限の行為要件、市場効果要件
第5回	不当な取引制限②、事業者団体規制	不当な取引制限のエンフォースメント、事業者団体規制の概要
第6回	私的独占①	私的独占の行為要件、市場効果要件
第7回	私的独占②	私的独占のエンフォースメント
第8回	企業結合規制①	企業結合規制の概要等
第9回	企業結合規制②	企業結合規制の事例、手続等
第10回	不公正な取引方法①	不公正な取引方法の概要、不当な差別的取扱い
第11回	不公正な取引方法②	不当対価取引、事業活動の不当拘束
第12回	不公正な取引方法③、まとめ	優越的地位の濫用、不当な顧客誘引・取引強制、不当な取引妨害・内部干渉、まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
岸井大太郎ほか『経済法』（有斐閣、第 9 版補訂版、2022 年）
最新の六法（コンパクトのもので構いません）

【参考書】
金井貴嗣ほか編『経済法判例・審決百選（第 2 版）』（有斐閣）
公正取引委員会ホームページ　https://www.jftc.go.jp/

【成績評価の方法と基準】
①レポート（70 %）と平常点（30 %）で評価します。
②レポートの提出資格に係る要件として、3日間合計12コマ（午前・午後各2コマ×3日）のうち8コマ以上、かつ毎日リアクションペーパーを提出していることとします。
※　レポートの提出期限は、第12回授業終了後から1週間以内とする予定です（具体的な日程は授業中に発表します）。
※　平常点は、主に、出席・リアクションペーパーで評価します。出席管理はリアクションペーパーの提出で行います。

【学生の意見等からの気づき】
過去のアンケートを踏まえ、事例紹介を多く取り入れるなどの工夫をしつつ、実務家の観点からの解説を行い、受講生の理解が深まるより良い授業を実施したい。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムとZoomに接続できる環境と情報機器

【Outline (in English)】
In a free economic society, competition in a market is the foundation. The Antimonopoly Act aims to promote fair and free competition, and is regarded as a basic rule for business activities enacted to maintain and promote free economic order in Japan. Economic law is a legal concept that includes various legal systems related to economic order in a market. This lecture will focus on the Antimonopoly Act, which is positioned as the core of economic law. This lecture will take up regulations and procedures of the Antimonopoly Act (unreasonable restraint of trade, private monopolization, regulations on unfair trade practices, and merger control).
The goal of this lecture is to acquire a knowledge of the Antimonopoly Act and an understanding of the legal system that is fundamental to today's economic system.

ART300TC（芸術学 / Art studies 300）

書道史（後期週末スクーリング）

山口　恭子

カテゴリー：**後期週末**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**終日**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
中国、および日本の書の歴史を学ぶ

【到達目標】
中国、および日本の書芸術の流れと、それに関わる基本的な事項を習得することを目標とします。とくに、主要な書道史的事項（様々な書体や、「三筆」「三跡」等の用語など）、書作品、人物名、それらの書道史上の意義等について理解し、説明、考察することができるよう目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP3,DP5」「日本文学科：DP1,DP2」「史学科： DP1」「地理学科： DP1,DP2,DP3」「経済学科： DP4,DP5」「商業学科：自由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

【授業の進め方と方法】
※Zoom で実施します。また、「学習支援システム」を使用します。
中国、および日本における書の史的展開について講義します。中国の書道史では漢字の起こりから唐代までを、日本の書道史では飛鳥・奈良時代から江戸時代初期までを中心に取り上げます。
なお、授業終了時には主に授業内容に関してのコメントを提出してもらいます。また、次回授業時には、前回の授業で提出されたコメントからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	・書および書道史研究について
	中国書道史１（殷・周の書）	・古代の漢字 ・甲骨文と金文
第2回	中国書道史２（秦・漢の書）	・始皇帝の文字統一 ・隷書の発展と後漢の石碑
第3回	中国書道史３（三国の書）	・書体の発展
第4回	中国書道史４（東晋の書）	・王羲之、王献之の書
第5回	中国書道史５（南北朝の書）	・北朝の石刻について
第6回	中国書道史６（唐の書）	・初唐の三大家と楷書
第7回	日本書道史１（飛鳥・奈良の書）	・文字の受容 ・聖武天皇、ならびに光明皇后の書
第8回	日本書道史２（平安前期の書）	・三筆の書
第9回	日本書道史３（平安中期の書）	・三蹟の書 ・和様の成立
第10回	日本書道史４（平安後期の書、仮名の書のさまざま）	・仮名の書美とはなにか
第11回	日本書道史５（中世の書、近世初期の書）	・書流書道 ・寛永の三筆
第12回	まとめ試験	本スクーリングのまとめ試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
角井博監修『中国書道史』（芸術新聞社、２００９年）、名児耶明監修『日本書道史』（芸術新聞社、２００９年）、『書道全集』（平凡社、１９７４年）、石川九楊『書の宇宙』（二玄社、１９９６年）といった本で書作品の図版類を見るなどして、より多くの書にふれること。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
指定しません。資料を配布します。

【参考書】
・書学書道史学会編『日本・中国・朝鮮　書道史年表事典』（萱原書房、２００５年）
・角井博監修『中国書道史』（芸術新聞社、２００９年）
・名児耶明監修『日本書道史』（芸術新聞社、２００９年）
そのほか、講義時に提示します。

【成績評価の方法と基準】
試験（70％）平常点（30％）により評価します。試験では、主要な書道史的事項、人物、書作品、それらの書道史上の意義について理解し、かつ自身の考察を深められたかを評価基準とします。

【学生の意見等からの気づき】
パワーポイント資料などによってなるべく多くの図版を示し、書の歴史とともに書作品の鑑賞についても講じたい。

【その他の重要事項】
・オフィスアワーとして、Zoomによる授業後、および学習支援システムで対応します。

【Outline (in English)】
Course Outline: In this course, you will learn the history of calligraphy in China and Japan.
Learning Goal: The goal is to master the flow of calligraphy and art in China and Japan and the basic problems associated with it.
Out-of-class learning activities: The standard preparatory survey /review time for this class is 2 hours each.
Scoring Criteria: Ratings are based on exams (70%) and regular scores (30%). The exam is based on understanding and deepening one's thoughts on the history of calligraphy, people, works of calligraphy, and the key issues of their importance in the history of calligraphy.

ECN200TF（経済学 / Economics 200）

経済学特講（後期週末スクーリング）

持元　江津子

カテゴリー：**後期週末**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**終日**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
文化芸術と経済の関係について、思想や理論、実践、政策または施策、倫理などさまざまな側面から捉えつつ学び、身のまわりで実際に行われている文化政策や文化施策に気づき、その効果などについて考えられるようになる。

【到達目標】
・文化資本の意味を理解し説明できる。
・文化政策または文化施策の意味するところを理解し説明できる。
・身近な文化政策または文化施策に気づき、そのメリットとデメリットを考察できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP3,DP5」「日本文学科：DP1,DP2」「史学科：DP1」「地理学科：DP1,DP2,DP3」「経済学科：DP1」「商業学科：経済学」に関連

【授業の進め方と方法】
講義形式で行う。一部でZoomを通じてグループディスカッションを取り入れ、グループ内プレゼンテーション報告書の提出を求める。講義は配布するレジュメに沿って進める。毎時間リアクションペーパーの記述と提出を求める。各提出物については、次週の授業においてフィードバックとしてコメントを返す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	理論または思想の萌芽	アダム・スミス、ジョン・ラスキン、ウィリアム・モリス
第2回	芸術支援の担い手の変遷	王侯貴族または宗教からやがて一般市民へ
第3回	芸術と国家、芸術と商業、芸術と科学	ロジャー・フライとJ. M. ケインズ、芸術のもつ公共性
第4回	革新的芸術の担い手たちの生計費問題	オメガ工房、ディアギレフバレエ団、ロンドン芸術家協会、アートギャラリー、クラウドファンディング
第5回	芸術への財政支出	国家行事、文化施設、助成金、アーツカウンシルの成立と波及
第6回	文化的価値と文化資本	文化的価値と経済的価値、文化経済学における文化資本の定義
第7回	文化遺産	インフラたりうる文化資本、経済社会への影響
第8回	文化政策または文化施策	文化芸術基本法、文化施設、指定管理者制度、生涯教育
第9回	文化芸術と市場	市場メカニズム、倫理
第10回	企業メセナ	メセナ活動、助成認定制度
第11回	文化産業の可能性	創造産業、創造都市
第12回	まとめとテスト	講義全体の振り返り 試験は論述形式

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・復習時間は、各２時間を標準とする。
初回講義時に指定する課題について、最終回の試験までに地方自治体のウェブサイトや広報誌などを参照して調べること。課題については事業時に説明する。

【テキスト（教科書）】
指定テキストはなし

【参考書】
デイヴィッド・スロスビー「文化経済学入門」（2002年、日本経済新聞社）
ジョン・ラスキン「芸術経済論」（1998年、厳松堂出版　または2020年、水曜社）
橋本努編「現代の経済思想」（2014年、勁草書房）の「3-4 文化と経済」および「3-5 芸術の売買」
小林瑠音「英国のコミュニティ・アートとアーツカウンシル」（2023年、水曜社）
文化芸術基本法条文（http://www.bunka.go.jp/seisaku/bunka_gyosei/shokan_horei/kihon/geijutsu_shinko/kihonho_kaisei.html）

【成績評価の方法と基準】
平常点30%、最終回に実施する論述試験70%
平常点は主にリアクションペーパーなどの提出物をもとに評価する
到達目標の達成の度合いを平常点と論述試験の両方から判断しての評価となる

【学生の意見等からの気づき】
Zoomを通じたグループディスカッションについて、グループ内における受講生同士の顔出しは今年度も受講生個々の希望・意思に任せることとする。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムとZoomに（同時に）接続できる環境と情報機器
WordまたはPagesを操作できるパソコン

【その他の重要事項】
受講生は文化施設の利用経験があったり文化活動に関心を持っていることが望ましい（スポーツ・レクレーション・ボランティアを含む）
Zoomを使用してリアルタイムで授業を実施する
講義資料は学習支援システムを通じて配布する
リアクションペーパー等の提出は学習支援システムを利用する予定（不都合が生じた場合はGoogle Form等のWebツールを活用する）
学習支援システムまたはZoomを通じて出席を取る予定（ただしリアクションペーパーの提出がない場合は欠席とみなす）
オフィスアワーについて、Zoomによる授業前後に質問を受け付けるが、リアクションペーパーでも質問可とする予定
自習において生成AIの活用を禁じるものではないが、情報に偏りがあったり間違っていることも少なくないため、地道な学習を期待する

【Outline (in English)】
・Course outline
This course introduces the relations between culture and economic phenomenon. The aim of this course is to help students acquire the basic skills and knowledge of how to notice cultural policies and measures close to every student and consider effectiveness of them.
・Learning Objectives
At the end of the course, participants are expected to understand and explain the cultural capital (in the context of cultural economics), cultural polices and the administration of cultural matters, and consider what merits and demerits of them are.
・Learning activities outside of classroom
The participants are expected to use 2 hours to each of preparation and review for each lecture basically.
The participants need to research on an assignment which will be given at the 1st lecture by the term-end examination.
・Grading Criteria /Policy
Reaction papers and short reports: 30%
Term-end examination: 70%

MAN200TG（経営学 / Management 200）

経営学特講（後期週末スクーリング）

小池　祐二

カテゴリー：**後期週末**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**終日**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
全ての学部に開かれた授業であることを念頭に，経済学や経営学を専門としない学生でも、経済社会や企業経営の成り立ちと現在の課題を理解し，様々な社会課題を解決していこうとする意識や思考力を身に着けることを目的とする。そのために，①経済史・経営史の流れをたどり，現在の経済社会がどのように成立し，企業経営が行われているかを理解する。②現在の経済社会や企業経営が抱える様々な課題を認識し，解決の試みとしてのソーシャルビジネスや社会起業，NPOなどのマネジメントについて検討する。③近年，注目されている人的資本について理解し，人々の生活や労働におけるウエルビーイングを考える。

【到達目標】
①基礎知識として経済社会と近代的な企業経営成立の流れ，また，主要な経済学と経営学の学説の知識を知り，現在の経済社会や企業経営が抱える課題の成り立ちと現状を理解する力を得る。②現在の経済社会や企業経営が抱える様々問題を理解し，解決する手がかりとしてソーシャルビジネス，社会起業，NPOなどのマネジメントに注目し，ビジネスの立場からの課題解決に取り組む方法を考える力を得る。③現在，注目されている人的資本経営について学び，生活や労働におけるウエルビーイングを考えることによって，これからの時代の働き方や企業経営を考える力を得る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP3,DP5」「日本文学科：DP1,DP2」「史学科：DP1」「地理学科：DP1,DP2,DP3」「経済学科：DP2」「商業学科：経営学・商学、自由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

【授業の進め方と方法】
すべてオンラインの講義形式で授業を行う。それぞれの授業時間の中で，適宜，小課題を課し，学習支援システムなどを通じてオンラインで提出してもらい，出席と理解度のチェックを行う。また、授業で使用する資料は，事前にオンラインで配布する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の概要と進め方，諸注意について，詳しく説明する。
第2回	近代経済社会の成り立ち	現在の経済社会がどのように成立してきたのか，欧米やアジアなどのそれぞれの視点から流れをたどる。
第3回	近代的な経済発展と企業経営の発展①	近代的な経済社会の発展は，それぞれの時代においてどのように考えられてきたかを，スミス，ミル，マーシャル，マルクス，ケインズ，フリードマンなどの学説や思想をもとに理解する。
第4回	近代的な経済発展と企業経営の発展②	近代的な企業経営の成立と発展について，ロックフェラーやカーネギー，フォード，シャネルなど企業家や，近代的な経営管理の先駆けとなったテイラー，メイヨーなどの考え方をもとに理解する。
第5回	経営学の発展と企業倫理	石油危機後の1980年頃から本格的に発展しはじめた経営学の主要な学説を概観し，あわせて2008年の世界金融危機によって示された企業経営に対する倫理面から多くの疑問や批判について「共通善」や「社会善」,「利他」といったワードを手掛かりに考える。
第6回	新しい経済の考え方や企業経営の潮流	サーキュラーエコノミー，ステークホルダー資本主義など，現在の社会課題に即した新しい経済社会の考え方や，ESG投資，SDGsなどの潮流を考える。
第7回	社会課題の解決と企業	山積する社会課題について企業はどのように向き合っていくべきかを，ソーシャルビジネス，フィランソロピー，CSV経営などから考えていく。
第8回	ソーシャル・スタートアップ	社会課題をビジネスの手法で解決するための社会起業やNPOのマネジメントなどについて，具体的な事例も交えて考える。また，それらのイノベーションの基礎として，リーンスタートアップやシステム思考，デザイン思考を紹介する。
第9回	人的資本の考え方	現在，注目が集まっている「人的資本」の考え方について，スミスや，ベッカー，ミンサー，ヘックマンなどの考え方を見ながら「人への投資」を考える。
第10回	人的資本経営と情報開示	現在，企業の人的資本への投資が活発になり，その状況は「統合報告書」という形で開示されてきている。具体的な事例をもとに企業の人的資本経営の考え方と実際を見ていく。
第11回	人的資本と企業、ウエルビーイング	人的資本が重視されるようになっている現在の経済社会や企業でのウエルビーイングを考え，そこから明らかになる課題と解決，将来の在り方について論じる。
第12回	まとめと試験	授業全体のまとめと試験を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・復習時間は，各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
以下の「テキスト（教科書）」は受講前に読了しておくこと。
○中村隆之『はじめての経済思想史 アダム・スミスから現代まで』講談社現代新書
○田中靖浩『会計と経営の七〇〇年史　五つの発明による興奮と狂乱』ちくま新書
○山口周『クリティカル・ビジネス・パラダイム』プレジデント社
○岩本隆『人的資本経営まるわかり』PHPビジネス新書
○マルクス・ガブリエル（土方奈美訳）『倫理資本主義の時代』ハヤカワ新書

【参考書】
参考になる資料などは，授業前の資料配布や授業中に適宜紹介するが，講義の基礎として以下のものは簡便で読みやすいので，受講前に読んでおくとよい。

○洞口治夫・小池祐二編著『集中講義　高校生の経営学　経営学部の受験を迷っている人に』文眞堂（教科書には指定しないが，授業ではこの中に書かれている事柄を，いくつか取り上げる。全体に目を通しておくとよい。）
○ナイアル・キシテイニー（月沢李歌子訳）『若い読者のための経済学史』すばる舎
○佐々木聡編著『グラフィック経営史』新世社
○マイケル・サンデル（鬼沢忍訳）『これから「正義」の話をしよう　今を生き延びるための哲学』ハヤカワ文庫
○杉本伸也『グローバル経済史入門』岩波新書
○駒崎弘樹『「社会を変える」を仕事にする　社会起業家という生き方』ちくま文庫
○倉戸康行『金融史が分かれば世界史が分かる【新版】』ちくま新書
○前野隆司他『ウェルビーイング』日経文庫

【成績評価の方法と基準】
それぞれの授業中に出す小課題の品質を40％，第12回の授業中に行う試験の品質を60％とする。

【学生の意見等からの気づき】
新規開講科目のためなし。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムとZoom，Google Classroomに接続できる環境と情報機器は必須とする。

【その他の重要事項】
課題や試験では，剽窃を行うことや生成AIを使用することは禁止する。

【Outline (in English)】
This course deals with (1)Understand how the current economic society is established and corporate management is conducted (2)To examine the management of social business, social entrepreneurship, and NPOs (3)Understand human capital and consider wellbeing in people's lives and work. The goals of this course are to cultivate a comprehensive understanding of the key areas mentioned above. Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content, and before each class meeting, students will be expected to have read the relevant textbooks. Your overall grade in the class will be decided based on the following Term-end examination:60%, Short reports:40%.

LANe100TA（英語 / English language education 100）

英語S（福岡市スクーリング）

LASSEGARD JAMES

カテゴリー：**福岡市**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**1単位**
期間：**終日**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
In this intensive course, students study English (reading, writing, speaking, listening) while learning about international and intercultural communication. The topics covered in this course include learning about different cultures, diversity in society, communication styles, and non-verbal communication. This course requires daily homework (please see below). Student performance is evaluated based on attendance,participation,one quiz,and a final written test.

【到達目標】
Students will learn effective English communication (especially speaking and listening) techniques for working in culturally diverse work environments.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP3」「史学科：DP1, DP3」「地理学科：DP1」「経済学科：DP6, DP8」「商業学科：幅広い教養」に関連

【授業の進め方と方法】
Some lecture using presentation software is done to provide background and to stimulate thinking and discussion.
We will do lots of pair work, active learning, and group discussion in class. Students should do the readings before coming to class each day. Regular feedback will be provided during class sessions regarding student performance in class and on the tests. Student may also contact the instructor via e-mail.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	Introduction: The Internationalization of Japanese Society	Course Explanation. Lecture, pair work activity & discussion
第2回	What is “Culture?”: Culture as an Iceberg	Explore definitions of culture. Pair and group work, Discussion.
第3回	You as a Multicultural Person &Cultural Categories	Discovering ourselves as cultural beings. Pair work & discussion.
第4回	Learning about Stereotypes and Generalizations Culture and Values	Learn about our cultural values and differences with others. Pair/Group work.
第5回	Culture and Value Orientations What is Communicative Competence?	"Across the River" exercise. Lecture on communication competence. Pair work. First Quiz.
第6回	The Relationship between Communication and Culture Non-verbal Communication	Lecture on the importance of Non-verbal communication (body language).
第7回	Gestures and Cross-Cultural Perceptions Effective Body Language	Lecture on effective body language: The SOFTEN technique. Discussion.
第8回	Learning about Communication Patterns-Comparing American and Japanese Communication Styles	Lecture and case studies. Role play dialogues in pairs.
第9回	Cultural Context: High and Low Context Cultures	The importance of context in communication: lecture, discussion, and role play.
第10回	Communication Case Studies	Lecture, discussion, pair work role plays.
第11回	Direct and Indirect Expressions Effective Communication and Human Relationships	Lecture and discussion: Role play dialogues.
第12回	Strategies for Effective Communication & Active Listening. Course wrap-up	Practice effective communication through role play dialogues. Final Quiz.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Students should have completed the readings before class (approximately 5-10 pages per day). Unfamiliar vocabulary should be checked and learned. This will take 1-2 hours of preparation.

【テキスト（教科書）】
The textbook will be provided by instructor. Part one will be made available to students on the Learning Support System and the complete text will be distributed in class.

【参考書】
Students should have a good English-Japanese; Japanese-English dictionary (paper or electric), which they can bring to class.

【成績評価の方法と基準】
Attendance and active participation: 30%
Quiz and Final Test: 70%

【学生の意見等からの気づき】
Some difficult English vocabulary and grammar is translated and explained in Japanese.

【Outline (in English)】
In this intensive course, students study English (reading, writing, speaking, listening) while learning about international and intercultural communication. The topics covered in this course include learning about different cultures, diversity in society, communication styles, and non-verbal communication

BSP100TC（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）

総合特講（福岡市スクーリング）

中丸　宣明

カテゴリー：**福岡市**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**終日**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日本近代文学の形成過程を講ずる。日本の近代文学は、明治三十年代の末に成立した自然主義文学によって成立したという説が有力である。それはアリズム文学としての自然主義文学の形成と言う視点に立つものであるが、これまで、何を以てリアリズムが可能になったか、そこにはどのような作家の試みがあったのか、を説明する文学史はなかった。そこで、本講義では、島崎藤村・田山花袋・徳田秋聲という作家の具体的作品を論ずることによってリアリズム文学の仕組みを明らかにする。

【到達目標】
「授業の概要と目的」に示した、内容を持つ講義であり、日本近代文学の文学史的な理解を求めものであるが、受講者はまず日本の自然主義文学に親しみ、日本の近代文化を考えるきっかけをつかんでもらうのが基本的目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「法律学科： DP5」「日本文学科：DP1,DP2」「史学科：DP1,DP3」「地理学科：DP1,DP2,DP3」「経済学科：DP4,DP5」「商業学科：自由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

【授業の進め方と方法】
講義による。適宜映画等の鑑賞（短時間）を挟むこともある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	日本近代文学の出発	立身出世主義の問題 近世的秩序の解体と近代社会
第2回	日本近代文学の仕組み	物語と小説 その違いと共通性
第3回	島崎藤村の出発期	「緑葉集」の諸短編での試み・ 「破戒」の達成と挫折
第4回	田山花袋の出発期	初期の短編における苦闘 外国文学への学び
第5回	徳田秋聲の出発期	「藪柑子」「雲のゆくえ」紅葉門下として
第6回	島崎藤村の達成１	「春」、自分を語ることについて
第7回	島崎藤村の達成２	「家」 旧家との葛藤
第8回	田山花袋の達成１	「蒲団」のスキャンダルの意味
第9回	田山花袋の達成２	「生」と「妻」 二つの物語
第10回	徳田秋聲の達成１	「足迹」と「黴」、錯綜する時間構造
第11回	徳田秋聲の達成２	「あらくれ」の世界、伝統の再生
第12回	講義のまとめとテスト	日本近代文学への新視点の確認。 受講生の理解度を確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
中丸宣明著『物語を紡ぐ女たちー自然主義小説の生成』（翰林書房）2022/2/28刊、3740円

【参考書】
テキストに記載、事前参考書はなし。

【成績評価の方法と基準】
講義最後にテストを課す。
テスト６０％
出席４０％

【学生の意見等からの気づき】
集中講義形式なので、講義中の受講者の質問にアドフォックに答える形式とする。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【その他の重要事項】
特になし。

【Outline (in English)】
Lectures on the formation process of modern Japanese literature. The prevailing theory is that modern Japanese literature was born out of naturalistic literature, which was established at the end of the 1900s. This is from the perspective of the formation of naturalistic literature as realism literature, but it is a literature that explains what made realism possible and what kinds of attempts have been made by writers to date. There was no history. Therefore, in this lecture, we will clarify the structure of realist literature by discussing the specific works of writers Toson Shimazaki, Hanabukuro Tayama, and Shusei Tokuda.

ECN200TF（経済学 / Economics 200）

経済学特講（福岡市スクーリング）

藤原　徹

カテゴリー：**福岡市**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**終日**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
住宅や土地が経済活動に果たす役割はきわめて大きい。本講義では、標準的な都市経済学・地域経済学のトピックスのうち、住宅や土地に焦点を当て、ミクロ経済学で通常想定するような財との違い、それらを踏まえた市場分析の手法、日本における住宅・土地政策が市場に与える影響などについて講義する。

【到達目標】
（1）日本における住宅・土地市場の概略を把握する。
（2）ミクロ経済学・マクロ経済学の分析手法を住宅・土地市場に応用する方法を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP3,DP5」「日本文学科：DP1,DP2」「史学科：DP1」「地理学科：DP1,DP2,DP3」「経済学科：DP1」「商業学科：経済学」に関連

【授業の進め方と方法】
対面講義を行う。講義時間内に演習課題にも取り組む。演習課題については次回講義において解説する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション、住宅や土地が経済活動に果たす役割	・講義の進め方について ・経済活動における住宅や土地の果たす役割の重要性、財としての特徴
第2回	住宅・土地市場の分析の基礎（1）需要と供給	・需要曲線、供給曲線の基礎 ・余剰分析の基礎
第3回	住宅・土地市場の分析の基礎（2）政策の必要性	・課税の余剰分析 ・市場の失敗 ・外部不経済の余剰分析
第4回	地価と地代、住宅の賃貸価格と資産価格	・割引現在価値 ・地価と地代の違い ・日本の土地市場 ・家賃と住宅価格の関係
第5回	住宅政策の経済分析（1）家賃補助	・日本の住宅市場 ・家賃補助の余剰分析
第6回	住宅政策の経済分析（2）公共住宅	・公共住宅の余剰分析
第7回	住宅政策の経済分析（3）家賃規制	・家賃規制の余剰分析
第8回	住宅政策の経済分析（4）借地借家法	・経済学から見た借地借家法 ・定期借家権の経済的効果
第9回	土地政策の経済分析（1）土地保有税	・日本の土地税制 ・土地保有税の経済効果
第10回	土地政策の経済分析（2）土地取引税	・日本の土地取引税の概要 ・譲渡所得税のロックイン効果
第11回	土地政策の経済分析（3）土地利用規制	・日本の土地利用規制の概要 ・土地利用規制の経済効果
第12回	講義のまとめと試験	・講義のまとめ ・60分間の試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
使用しない

【参考書】
金本良嗣・藤原徹（2016）『都市経済学第２版』東洋経済新報社
高橋孝明（2012）『都市経済学』有斐閣
八田達夫（2008，2009）『ミクロ経済学１，２』東洋経済新報社

【成績評価の方法と基準】
講義内の演習（30％）
最終講義内試験（70％）
講義内試験は講義資料、自筆ノートを参照可としますが、電卓およびタブレット端末等の電子機器は使用不可とします。

【学生の意見等からの気づき】
講義資料の修正点についてアンケートでご指摘いただいたので、それを踏まえた修正を行いました。

【Outline (in English)】
【授業の概要（Course outline）】
Housing and land play an extremely important role in economic activity.
Among the standard urban and regional economics topics, this lecture focuses on housing and land, including how they differ from goods as usually assumed in microeconomics, the methods of market analysis based on these differences, and the impact of housing and land policies in Japan on the market.
【到達目標（Learning Objectives）】
(1) To gain an overview of the housing and land market in Japan.
(2) To learn how to apply microeconomic and macroeconomic analysis methods to the housing and land market.
【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】
The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
【成績評価の方法と基準（Grading Criteria /Policy）】
In-class exercises (40%)
Final in-lecture examination (60%)

HIS100TA（史学 / History 100）

日本史（冬期スクーリング）【オンライン】

矢越　葉子

カテゴリー：**冬期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**1群午前**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講手続き等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では、日本古代史を研究する上で欠かすことのできない史料となっている木簡や墨書土器、文字瓦といった出土文字資料を対象に、正史や正倉院文書を交えつつ、日本古代の社会を支えていた制度や構造について検討する。それを通じて、史料の扱い方や研究方法を学ぶ。

【到達目標】
日本古代の社会のあり方について、要素を個別に把握するのではなく、その関連性を理解し総合的に考える姿勢を養う。また、史料の分析、先行研究を踏まえて論理を構築し実証する歴史学の研究方法を身につけることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP3」「史学科：DP1, DP3」「地理学科：DP1」「経済学科：DP7」「商業学科：幅広い教養」に関連

【授業の進め方と方法】
講義形式で行う。重要な史料についてはその都度訓読し、読解のポイントについて解説する。
課題に対するフィードバックは、最終授業（第12回）の中で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	歴史学の基本的な研究方法と出土文字資料の特徴について学ぶ。
第2回	平城宮の官衙と運営	特に木簡を中心に、平城宮の官衙とその運営方法を学ぶ。
第3回	貴族の家政機関	長屋王家木簡や二条大路木簡に見える貴族の家政機関のあり方を学ぶ。
第4回	貴族の経済活動	貴族の家政機関の活動のうち、経済活動を中心に取り上げる。
第5回	地方から都に届く貢納物	地方から都へと届けられた貢納物について学ぶ。
第6回	地方官衙でつくられる貢納物	都に届けられる調庸物を、地方官衙はどのように作り出していたのかを学ぶ。
第7回	長登銅山と大仏建立	大仏建立を支えた長登銅山の実態を文字資料から読み解く。
第8回	都における寺院の造営と僧侶の生活	都における寺院の造営と僧侶の生活を文字資料から読み解く。
第9回	国分寺の造営	各地の国分寺の造営を、特に文字瓦を中心に学ぶ。
第10回	知識と文字	知識集団による造営の実態を、特に文字瓦を中心に学ぶ。
第11回	都と地方の祭祀	墨書土器や祭祀具から、都と地方の祭祀のあり方を学ぶ。
第12回	試験／まとめと解説	試験、まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。
（準備）高校までの教科書が手許にある場合は、古代史部分について事前に目を通しておくことが望ましい。
（復習）配付したレジュメを読み返す。

【テキスト（教科書）】
特になし。資料を配付します。

【参考書】
渡辺晃宏『日本の歴史４　平城京と木簡の世紀』（講談社学術文庫、2009 年）
木簡学会編『木簡から古代がみえる』（岩波新書新赤版1256、2010年）
吉村武彦ほか編『墨書土器と文字瓦―出土文字史料の研究―』（八木書店、2023年）
この他にも必要に応じて、授業時に指示をします。

【成績評価の方法と基準】
記述式試験100％で評価します。

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムとZoomに接続できる環境と情報機器

【Outline (in English)】
In this course, we will study the excavated documents, and compare them with official and legal historical materials and the Shosoin documents to explore the systems and structures that supported the ancient Japanese society. Through that, we will learn the methods of historical science and materials.
The goals of this course are 1) to develop an attitude of thinking comprehensively about the systems and structures that supported the ancient Japanese society by understanding the relationship between the elements rather than grasping them individually, and 2) to understand the research methods of historiography, which constructs and demonstrates logic based on historical documents and previous research.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.
Your overall grade in the class will be decided based on the Term-end examination.

PSY100TA（心理学 / Psychology 100）

心理学（冬期スクーリング）【オンライン】

桶谷　雅人

カテゴリー：**冬期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**1群午前**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講手続き等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
心理学の諸領域の基本的な理論や考え方に関する基礎知識を習得し、心理学がどのような学問かを学ぶための授業である。知覚、学習、発達、社会、臨床など心理学全体について概観し、日常生活の中での経験と関連づけ、人間の様々な心理的機能について理解を深めることが目的である。

【到達目標】
心理学の主要分野を概観し、心理学の基礎知識を取得することができる。人の心の基本的な仕組みおよび働きについて理解を深め、他者や自分の行動についての洞察力を養うことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP3」「史学科：DP1, DP3」「地理学科：DP1」「経済学科：DP7」「商業学科：幅広い教養」に関連

【授業の進め方と方法】
授業は主に講義形式で進めますが、毎授業グループワークを行います。講義内容はおおむねテキストの当該箇所に沿って行います。グループワークでは数人の小グループに分かれ、教員が指定したテーマに関する意見交換や感想の共有等を行い、それらについてフィードバックしながら進めていく予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	心理学の研究対象と歴史
第2回	知覚	図と地、錯覚
第3回	学習１	古典的条件づけによる学習
第4回	学習２	オペラント条件づけによる学習
第5回	記憶	記憶のメカニズム
第6回	認知	言語、思考
第7回	性格	性格類型
第8回	発達	発達段階、発達課題
第9回	社会	印象形成、対人認知、同調
第10回	臨床１	心理検査
第11回	臨床２	心理療法
第12回	試験・まとめと解説	最終試験（小論文）、授業全体のまとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。テキストを参考に、主要理論や概念について自分の言葉で簡潔にまとめておくことが望ましいです。
配布資料に内容確認テスト（QRコードよりアクセス可）をつけますので、復習に適宜ご活用ください。

【テキスト（教科書）】
長谷川寿一・東條正城・大島尚・丹野義彦・廣中直行著 2020 『はじめて出会う心理学 第 3 版』（有斐閣アルマ）
https://www.yuhikaku.co.jp/books/detail/9784641221451

【参考書】
参考書は用いません。随時、追加資料として紹介します。

【成績評価の方法と基準】
第12回の試験による評価（100％）を行います。第1回から第11回までの講義内容を踏まえ、数問の小論文形式で出題します（テキスト、配布資料の参照は可）。
なお、出席要件を満たしていない場合、最終試験の受験資格がありません。出席要件の確認を各自お願いいたします。

【学生の意見等からの気づき】
6日間（オンライン授業）での開講を担当するのが初めてとなります。皆さんのご意見やご感想をお伺いさせていただけたらと思います。
対面授業時には、講義のペース配分やグループワークに関するご指摘をいただきました。講義での話すボリュームやスピードに留意し、グループワークも時間や内容を工夫したいと思います。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムとZoomに接続できる環境と情報機器

【その他の重要事項】
・オフィスアワーは特に指定しません。授業前後の時間にチャット等でお声がけください。また、授業時にお伝えするアドレス宛にご連絡いただいても構いません。質問等にできる限りお答えしたいと思います。
・Zoomの機能を用いてグループ分けを行い、小グループで意見交換等を行います。グループワークの際は、カメラやビデオONのご協力をお願いいたします。また、授業中はZoomのチャットを利用し、授業内容に関する質問を受ける予定です。Zoomの操作に不慣れな方は事前に練習をお願いいたします。
・2022年度開講「心理学（春期スクーリング）」、「心理学（秋期スクーリング）」および2023年度開講「心理学（福岡市スクーリング）」と同様の講義内容になります。

【Outline (in English)】
This course is designed for students to acquire basic knowledge of the basic theories and concepts of the various fields of psychology and to learn what psychology is all about. The purpose of this course is to provide an overview of psychology as a whole, including perception, learning, development, society, and clinical psychology. It also aims to deepen the understanding of various psychological functions of human beings in relation to their experiences in daily life.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Your overall grade in the class will be decided based on Term-end examination (100%).

MAT100TA（数学 / Mathematics 100）

数学３（冬期スクーリング）【オンライン】

若井　健太郎

カテゴリー：**冬期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**1群午前**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講手続き等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
数学は言語であると言われており、実際、様々なところで利用される道具となっている。この授業では、数え上げ理論に関する話題を例として、いろいろな問題解決方法について学ぶ。

【到達目標】
数学で用いられる考え方に接し、実際に問題を解けるようになることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP3」「史学科：DP1, DP3」「地理学科：DP1」「経済学科：DP3, DP7」「商業学科：幅広い教養」に関連

【授業の進め方と方法】
様々な例で具体的なイメージを作りながら重要事項を理解する、という方法で授業を進めていく。そのために講義の中で演習の時間を多くとるつもりである。疑問点があったら積極的に質問してもらいたい。
オンライン授業の実施形態はZoomの使用を予定。
資料や課題の配信、課題の回収、質疑応答のフィードバック等は学習支援システムを通じて行う予定。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	並べ方を数える	順列について学ぶ。
第2回	選び方を数える	組合せについて学ぶ。
第3回	演習	順列、組合せに関する問題を考える。
第4回	道順を数える	パスカルの三角形について学ぶ。
第5回	演習	パスカルの三角形に関する問題を考える。
第6回	分割の仕方を数える	分割について学ぶ。
第7回	演習	分割に関する問題を考える。
第8回	増えてゆくものを数える	漸化式について学ぶ。
第9回	演習	漸化式に関する問題を考える。
第10回	プレゼント交換と包除原理	包除原理について学ぶ。
第11回	演習	包除原理に関する問題を考える。
第12回	まとめと試験	まとめの後、試験を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
演習問題を充分に解くこと。その際、失敗しても良いので、とにかく手を動かして（紙に書いて）考えること。
本授業の準備・復習学習は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
「離散数学「数え上げ理論」」野崎昭弘　著、講談社、2008年
ISBN978-4-06-257619-2

【参考書】
特になし。

【成績評価の方法と基準】
最終回の試験(100%)によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】
問題の難易度の調整に気を配りたい。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムとZoomに接続できる環境と情報機器

【Outline (in English)】
Mathematics is said to be language, and in fact it is a tool used in various places. In this class, as an example of the topic of counting theory, we will learn about various problems.

ECN100TA（経済学 / Economics 100）

経済学（冬期スクーリング）【オンライン】

関口　駿輔

カテゴリー：**冬期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**1群午後**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講手続き等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
初級レベルレベルのマクロ経済学を修得し、経済社会情勢と対比させながら考察します。具体的には、経済学の基本原理、国民経済計算、財市場、貨幣市場、IS-LMモデル、AD-ASモデルを学修します。また公務員試験、不動産鑑定士論文試験等に出題された過去問を利用して問題演習を行います。

【到達目標】
経済社会の一員として求められる経済学の考え方を修得するとともに、経済社会情勢について考察することができ、公務員試験等に出題される経済学の問題を理解することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP3」「史学科：DP1, DP3」「地理学科：DP1」「経済学科：DP5」「商業学科：幅広い教養」に関連

【授業の進め方と方法】
講義形式で行います。事前に配布する資料に重要なキーワードを記入するとともに、例題問題を授業内で解いていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス、アクティブラーニング「地産地消について考える」	授業の概要説明、「地産地消」について考える。
第2回	経済学の基本原理	経済学の基本的考え方を学ぶ（トレードオフ、機会費用、限界概念など）
第3回	国民経済計算	フロー循環図、名目と実質、三面等価の原則
第4回	財市場の分析(1)	45度線分析
第5回	財市場の分析(2)	IS曲線
第6回	貨幣市場の分析(1)	貨幣と債券
第7回	貨幣市場の分析(2)	LM曲線
第8回	IS-LMモデル(1)	財政政策
第9回	IS-LMモデル(2)	金融政策
第10回	AD-ASモデル(1)	労働市場
第11回	AD-ASモデル(2)	AD曲線とAS曲線
第12回	試験・まとめと解説	全体の総括を行い、理解を定着させる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。
経済社会情勢に関するニュースに触れ、経済学で学修する項目と照らし合わせて考えるようにしてください。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しません。学習には授業内で配布する講義資料を活用してください。

【参考書】
マンキュー『入門経済学』東洋経済新報社
資格試験研究会『新スーパー過去問ゼミ　マクロ経済学』実務教育出版

【成績評価の方法と基準】
到達目標への達成度を測るため、下記の通り評価を行う。
レポート課題20%、期末テスト80%

【学生の意見等からの気づき】
前年度、通信教育部（スクーリング）のため、アンケートを実施しておりません。

【学生が準備すべき機器他】
○学習支援システムとZoomに接続できる環境と情報機器
○事前に配布する資料は穴埋め形式の資料（A4サイズ）です。
次のいずれかの方法で準備すると良いと思います。
１．前もって資料を印刷する
２．穴埋め箇所をノート等にメモする
３．タッチパネル形式での入力ができる環境(タブレットやタッチパネル対応PC等)

【その他の重要事項】
初回の授業までに、各自「地産地消」をキーワードに調べてみてください。経済学を意識する必要はなく、ご自身のご経験を最大限活かして考察してみてください。
昨年度は対面授業のため、授業後に学生から授業内容を含め多くの質問や意見を頂く機会がありました。オンラインでもできる限り対応いたします。

【Outline (in English)】
Students will master macroeconomics at the introductory level and examine it in relation to current economic and social conditions.Specifically, students will learn the basic principles of economics, national accounts, goods markets, money markets, the IS-LM model, and the AD-AS model.In addition, students will practice using past papers from civil service examinations, real estate appraiser essay examinations, and other related tests.

BSP100TA（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）

基礎特講（冬期スクーリング）

中平　千彦

カテゴリー：**冬期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**2群午前**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講手続き等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
今回の『基礎特講』(冬期スクーリング)では、学部基礎レベルの「ミクロ(マイクロ)経済学」と「マクロ経済学」を担当教員がコンパクトに解説し、受講生にそれらを速習してもらうことを目指します。
受講生の皆さんは、「経済学」に対してどのような印象を持っているでしょうか？ 経済学は、我々の形成する社会で観察される、経済主体の活動や相互依存関係によって導かれた多様な経済問題を分析し、その中に存在する経済法則を究明することによって、望ましい社会的経済厚生を研究する学問です。あるいは、希少性を有する財・サービスの最適な選択と配分を、相互に競合する目的を考慮しながら決定し、また、その決定を行うための方法を研究する学問です。

【到達目標】
・ミクロ(マイクロ)経済学とマクロ経済学の理論的基礎を説明できるようになる。
・ミクロ(マイクロ)経済学とマクロ経済学に関する基本的問題を、社会科学的に思考・表現することができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP3」「史学科：DP1, DP3」「地理学科：DP1」「経済学科：DP5」「商業学科：幅広い教養」に関連

【授業の進め方と方法】
経済学理論は、「ミクロ(マイクロ)経済学」と「マクロ経済学」に大別されます。「ミクロ(マイクロ)経済学」は、個々の経済主体における最適化された行動を前提に、市場における経済主体間の相互関係、資源配分と所得分配の決定における市場機構の役割などを分析する、あるいは、いくつかの代表的な公理に依拠した最適化行動に基づき、個から市場、そして経済全体へとアプローチする研究分野です。一方、「マクロ経済学」は、消費者部門における消費、企業部門における投資と生産物供給、政府部門における財政支出と貨幣供給、貿易バランス、そして、それらの相互連関によって決定される国民所得、インフレーションと失業、景気変動などに着目し、経済全体についての集計変数における均衡水準と決定経路を分析する研究分野です。これらの2分野は相互補完的な関係にあります。例えば、「ミクロ(マイクロ)経済学」において、個々の経済主体の最適な行動がマクロ経済にいかなる影響を与えるかを分析するには、「マクロ経済学」の理論が必要となります。また、「現代マクロ経済学」にとって「マクロ経済学のミクロ(マイクロ)的基礎」は不可欠な要素となっています。
この講義では「ミクロ(マイクロ)経済学」と「マクロ経済学」の基礎理論を学びますが、講義時間に余裕があれば、「ミクロ(マイクロ)経済学」の理論と現実との関係、また、マクロ経済学や公共政策学のミクロ(マイクロ)的基礎などのトピックも採り入れたいと思っています。
我々には、講義回数12回という極めて厳しい時間制約が課されていますが、担当教員は、受講生諸氏が要領よくミクロ(マイクロ)経済学とマクロ経済学の基礎項目を学ぶことができるよう努力します。また、この講義が、受講生各位における将来の発展的学習・研究に役立つものとなることを願っています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第01回	経済学の基本問題と経済システム	経済学の基本問題と市場の仕組み、経済システム
第02回	消費者行動(Ⅰ)	選好と効用関数(1)
第03回	消費者行動(Ⅱ)	選好と効用関数(2)
第04回	消費者行動(Ⅲ)	需要関数
第05回	生産者行動(Ⅰ)	生産技術と費用関数(1)
第06回	生産者行動(Ⅱ)	生産技術と費用関数(2)、供給関数
第07回	市場均衡	完全競争市場と調整過程、余剰と比較静学
第08回	経済厚生	市場の失敗、パレート効率性、厚生経済学の基本定理
第09回	国民所得分析の基礎、消費関数(Ⅰ)	SNA、マクロ経済指標、消費関数(1)
第10回	消費関数(Ⅱ)、投資関数	消費関数(2)、投資関数
第11回	有効需要と乗数理論、IS曲線とLM曲線	有効需要の原理、乗数効果、IS曲線・LM曲線
第12回	総需要曲線・総供給曲線＋＜定期試験＞	総需要曲線・総供給曲線による経済分析、＜定期試験＞ ＊最終日2コマ目の後半60分を定期試験時間とします

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。
・受講後に講義ノートとテキストによって講義内容を復習してください。また、必要に応じて予習を行ってください。

【テキスト（教科書）】
・塩澤修平(著) (2011)『基礎コース 経済学(第2版)』新世社.

【参考書】
・浅田統一郎(著) (2022)『マクロ経済学基礎講義(第4版)』中央経済社.
・浅田統一郎(著) (2017)『ミクロ経済学の基礎(第2版)』中央経済社.
・アセモグル, ダロン／レイブソン, デヴィッド／リスト, ジョン(著), 岩本康志(監訳), 岩本千晴(訳) (2020)『入門経済学』東洋経済新報社.
・井堀利宏(著) (2021)『入門経済学(第4版)』新世社.
・スティグリッツ, ジョセフ・E. /ウォルシュ, カール・E. (著), 藪下史郎/秋山太郎/蟻川靖浩/大阿久博/木立力/宮田亮/清野一治(訳) (2012)『スティグリッツ入門経済学(第4版)』東洋経済新報社.
・福岡正夫(著) (2008)『ゼミナール経済学入門(第4版)』日本経済新聞出版社.
・マンキュー, N. グレゴリー(著), 足立英之/石川城太/小川英治/地主敏樹/中馬宏之/柳川隆(訳) (2019)『マンキュー入門経済学(第3版)』東洋経済新報社.
・Bade, Robin and Michael Parkin (2022) *Foundation of Economics* (9th ed.)(global edition, pap.), Pearson.
・Hirshleifer, Jack, Amihai Glazer and David Hirshleifer (2005) *Price Theory and Applications: Decisions, Markets, and Information* (7th ed.)(pap.), Cambridge Univ. Press.
・Hubbard, R. Glenn and Anthony Patrick O'Brien (2018) *Essentials of Economics* (6th ed.), Pearson.
・Hubbard, R. Glenn and Anthony Patrick O'Brien (2022) *Economics* (8th ed., Global Edition), Pearson.
・Krugman, Paul and Robin Wells (2023) *Essentials of Economics* (6th ed., International Edition), Macmillan Learning.
・Landsburg, Steven E (2024) *Price Theory and Applications* (10th ed.)(pap.), World Scientific Publishing.
・Sloman, John and Dean Garratt (2023) *Essentials of Economics* (9th ed.)(pap), Pearson Education Limited.

【成績評価の方法と基準】
・[定期試験点(90％)＋平常点(10％)＝総合点(100％)] の評点配分で成績が決定されます。
・単位認定には規定数以上の出席が必要です。

【学生の意見等からの気づき】
・受講生による講義アンケートの結果は、講義内容を改善するための参考資料とします。

【学生が準備すべき機器他】
・特別な指定はありません。

【その他の重要事項】
・出席確認を行いますので注意してください。
・テキストは購入し、参考文献の購入は、必要性に応じて判断してください。
・本講義の趣旨は、アカデミックな経済学の基礎理論を平易に解説することですが、公務員、国税専門官、公認会計士、不動産鑑定士、中小企業診断士、ファイナンシャル・プランナーなどの、各種資格・就職試験で経済学を受験科目として選択する受講生にも配慮した解説を行います。

【オフィス・アワー】
・講義終了後、または、相談により個別の日程を設定。

【関連科目】
・通信教育課程で開講されている『経済学』、『統計学』、『数学』に関わる講義。

【Outline (in English)】
【Course outline】
＊ This course is designed to provide the student with an opportunity to understand the basic theory of microeconomics and macroeconomics. Generally, economic theory broadly divided into two parts - microeconomics and macroeconomics. Microeconomics focuses on decision making at the individual level, while macroeconomics studies the economy as a whole.
＊ This course is a comprehensive guide on how to get started with microeconomics and macroeconomics.
【Learning Objectives】
＊ Through this course, the students will be able to:
− explain the basic theories of microeconomics and macroeconomics;
− think and express basic issues of economics from the aspect of social science.
【Learning activities outside of classroom】
＊ Students will have normally 2 hours of preparation and review for each class.
＊ Students are expected to prepare for a class and to review what was learned in each class by the textbook or the lecture note as necessary.
【Grading Criteria/Policy】
*Final examination(90%) + Active Participation(10%) = Evaluation Score(100％).
*Students must meet the minimum attendance requirements to get course credits.

PHY100TA（物理学 / Physics 100）

物理学３（実験）（冬期スクーリング）

井坂　政裕

カテゴリー：**冬期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**2群午前**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講手続き等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
自然科学の１つである物理学では、実験や観測を通して物理法則が発見され、さらに、それをもとに得られた物理理論自身も実験や観察によって検証されることで発展してきました。
この授業では、光・波・重力・エネルギーなどの身近な現象に関する実験を学生自らが行うことにより、これらの現象の本質を理解できるようになるとともに、その背後にある物理法則や理論を深く理解することを目的としています。

【到達目標】
身の回りの物理現象に関する実験を通して、物理学に関する知識を深めるとともに、科学的なものの見方を修得することを目標としています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP3」「史学科：DP1, DP3」「地理学科：DP1」「経済学科：DP3, DP7」「商業学科：幅広い教養」に関連

【授業の進め方と方法】
学生自身が行う４種類の実験を中心に授業が行われます。高校での物理の基礎知識が無くても実験内容の理解が深められるように、実験の前には印刷資料や一部映像を使用して講義を行います。なお、４種類の実験をローテーションで行うため、場合によっては実験の順番が授業計画欄に記載のものから前後します。質問などに対するフィードバックは、講義内で行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス及び落体の法則	授業全体の進め方について説明し、その後、実験１に関する落体の法則についての講義を行う。
第2回	熱エネルギー	実験２に関する熱エネルギーについての講義を行う。
第3回	光の性質	実験３と実験４に関する光の性質について講義を行う。
第4回	光の二重性	光の性質に関連して、光や電子などが持つ二重性についての講義を行う。
第5回	太陽電池とLED	第3回と第4回に引き続き、光の性質や、太陽電池と発光ダイオード（LED）の構造について講義を行う。
第6回	実験１（落体実験）	重力によって落下する物体の様子を調べ、落体の法則やエネルギー保存則について理解を深める。
第7回	実験２（熱の仕事等量の測定）	熱の仕事当量を測定することにより、熱についての理解を深めるとともに、エネルギー変換について理解を深める。
第8回	実験３（LEDの実験）	LEDを発光させるために必要な電気エネルギーと光の色との関係を調べることによって、光の性質について理解を深める。
第9回	実験４（光スペクトルの観察）	蛍光灯やLEDなどが放つ光の波長を測定することによって、それぞれの光源の原理や、原子の発光メカニズムについての理解を深める。
第10回	万有引力の法則	落体の法則に関連して、万有引力の法則についての講義を行う。
第11回	無重力状態での物理現象	日常では経験できない無重力状態での物理現象について紹介する。
第12回	超伝導現象	日常では見ることができない超伝導現象について紹介する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
実験をスムーズに行うため、実験前に予め配布プリントを読んで予習してください。さらに、実験後にデータ解析とレポート作成を行う必要があります。授業の準備やレポート作成を含めた予習・復習時間は、各２時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
配付プリントを使用するため、テキストは使用しません。

【参考書】
必要に応じて授業中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】
試験は実施せず、実験のレポート（80％）と平常点（20%）で評価します。

【学生の意見等からの気づき】
特にありません。

【学生が準備すべき機器他】
筆記用具に加えて、15cm程度の定規と電卓（携帯電話やスマートフォンのアプリでも可）を持参してください。
レポートを手書きで作成する場合は、市販のA4サイズ横書きのレポート用紙を用意してください。レポートをワープロソフトで作成する場合は、作成後、各自で印刷する必要があります。

【Outline (in English)】
In this course, students carry out experiments related to physical phenomena such as light, wave, gravity, and energy by themselves. The goals are to understand various fields in physics by experimental methods, and to acquire the scientific perspective. Before/after each class, students will be expected to spend four hours to understand the course content and to write reports. Grading will be decided based on reports (80%), and in class contribution (20%).

PHL100TA（哲学 / Philosophy 100）

哲学（冬期スクーリング）

鵜澤　和彦

カテゴリー：**冬期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**2群午後**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講手続き等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
哲学とは、問題を原理的に解明することによって、その解決を探求する人間の知的営みのことです。冬期スクーリングでは、わたしたちが日々の生活の中で遭遇するテーマを取り上げ、ディスカッションを通じて、哲学の考え方を学んでいきます。学習内容としては、わたしたちの身の回りで起こる差別、抑圧、暴力、また、これらの解決策として赦し、寛容、仁恵、さらに、現代文明の喫緊の課題であるAIと人間の知性を取り上げます。本授業は、これらの問題について自分で考える力、討議する力、表現する能力をつけることをねらいとします。

【到達目標】
①日常生活で出会う様々な出来事から哲学・倫理学の問題を捉え、原理的に探究する思考法を身につけることができる。
②具体的な事例に即して哲学・倫理学の概念や学説を理解し、それを文章にまとめたり、口頭で発表することができる。
③グループディスカッションと全体発表を通じて、自他の見解の相違を知り、自分の考えをより一層深めることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP3」「史学科：DP1, DP3」「地理学科：DP1」「経済学科：DP7」「商業学科：幅広い教養」に関連

【授業の進め方と方法】
本授業は対面で行われ、学習支援システムを通じて、資料や課題の配信、課題の回収、フィードバック等を行います。課題や質問のフィードバックは、学習支援システムおよびオフィス・アワーで実施します。さらに、各テーマの終了時には、グループワークを行い、授業内容の理解の深化を図ります。出席は通信教育部の所定の出席票で取ります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	導入：哲学とは何か	シラバスの内容を説明するほか、哲学の課題と方法について説明します。
第2回	差別、暴力、赦し：教科書第1章「持続可能性の哲学と津波てんでんこ」	暴力と悪の概念及びその多義性、「津波てんでんこ」とその解釈の多義性、赦しと約束の可能性、について説明します。
第3回	差別、暴力、赦し：教科書第1章「持続可能性の哲学と津波てんでんこ」	東日本大震災における大川小学校の悲劇、赦しの課題と倫理、時間概念の変換、語り伝えることの意義と役割について解説します。
第4回	グループディスカッションと全体発表	暴力や悪の根源、赦しの可能性について少人数のグループで考えていきます。
第5回	共同体と寛容：教科書第2章「境界線上のアリア」	共生と寛容、その限界（パラドクス）、反知性的なものとの対決について考えます。
第6回	信頼と仁恵：教科書第4章「生命・医療倫理とゲシュタルトクライス」	人格的転回と医学的人間学、ゲシュタルトクライス、パトス（信頼・仁恵）の概念について説明します。
第7回	グループディスカッションと全体発表	寛容と仁恵の可能性について少人数のグループで考えていきます。
第8回	AIと人間の知性：教科書第3章「AIにはなにができないか」	人工知能（AI）の概念、その飛躍的発展、AIの二つの道を解説します。
第9回	AIと人間の知性：教科書第3章「AIにはなにができないか」	知識及び認識の概念、経験論と合理論、人間に可能なことと不可能なことを説明します。
第10回	グループディスカッションと全体発表	AIと人間の関係について少人数のグループで議論します。
第11回	授業全体のまとめ	概念整理と質疑応答
第12回	筆記試験	概念の説明と論説問題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
予習：受講生は、授業前に教科書の該当箇所に目を通し、あらかじめ概要を把握しておいて下さい。また、受講生は、参考書や関連書籍を使って、専門用語の意味等を理解してください（2時間）。復習：受講生は、授業時に配布された資料（講義原稿と参考資料）を読み直してください。また、受講生は、ディスカッションでの他の受講生の意見を参考にしながら、そのテーマに関する自分の考えや理解をノートにまとめてください（2時間）。

【テキスト（教科書）】
牧野英二・小野原雅夫・山本英輔・齋藤元紀（編）『哲学の変換と知の越境－伝統的思考法を問い直すための手引き』（法政大学出版局、2024年、新装版）

【参考書】
①三木清著『哲学入門』、（岩波新書、赤版R8、1976年、本体価格780円+税）ISBN 4-00-400008-4 C0210。（青空文庫にも所収）

【成績評価の方法と基準】
①課題の評価が全体評価の25％を占めます。課題プリントの評価については、哲学の概念とその議論を正しく理解しているかどうかを基準とします。
②グループディスカッション及び全体発表への積極的参加は25%。共同討議の評価は、自分と異なる立場の特徴をよく理解できているかどうか、また、それを踏まえたうえで、自分の考えをより深め、説得的に表現することができているかどうかを基準とする。
②筆記試験は全体評価の50%。試験問題は、概念の説明と論説問題からなります。

【学生の意見等からの気づき】
ディスカッションの時間を十分に取ります。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムを使用しますので、パソコンやタブレットを使用します。

【その他の重要事項】
オフィスアワーは、授業後に実施しますので、その時に教員と話したり、質疑応答を行うことができます。なお、授業で配布される資料については、教員がプリントアウトして配布します。

【Outline (in English)】
Philosophy is a human intellectual activity that seeks solutions to problems by elucidating their principles. In the winter schooling, we will take up themes that we encounter in our daily lives and learn the philosophical way of thinking through discussions. In these lectures, we will focus on discrimination, oppression, and violence, as well as on forgiveness, tolerance, and humanity as solutions to these problems. And on AI and human intelligence, which are pressing issues in modern civilization. These lectures aim at developing the ability to think, discuss and express oneself on these issues. In preparing for the assignment, students should start by reading the assigned text to understand technical terms (2 hours). They will revise their responses to the questions and complete assignments for the class (2 hours). Your performance in this course will be evaluated based on two factors: assignment evaluation each time and a final report at the end of the semester. Both carry equal weightage in the grading criteria.

LANe100TA（英語 / English language education 100）

英語Ｓ（１）（冬期スクーリング）【オンライン】

磯部　芳恵

カテゴリー：**冬期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**1単位**
期間：**1群午前**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講手続き等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
テキストやインターネット教材などを使って、学生の批判的思考力を育て、英語で様々なトピックについてを自分の意見を表現する機会を持つ。
異文化間の文化的側面について学びながら、コミュニケーション力を強化する。
This course aims to provide students with opportunities to have critical thinking skills and express their opinions on different topics in English, using the textbook and authentic materials. Students will learn about aspects of culture and society across cultures, while building their communication skills in all aspects.

【到達目標】
The first goal of this course is to enable students to learn about various cultural aspects from around the world. The second goal is for students to develop discussion and critical thinking skills.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP3」「史学科：DP1, DP3」「地理学科：DP1」「経済学科：DP6, DP8」「商業学科：幅広い教養」に関連

【授業の進め方と方法】
Exercises will be done both in class and as homework. There will be a quiz at the end of the semester.
The first language of the classroom is English.
Classroom methods include:
1. The textbook includes various activities
2. short lectures and explanations by the teacher
3. pair and group discussions
4. presentations
5. feedback in class

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	Unit 1 Baseball in Japan	Vocabulary Topic Paragraph Transcript Completion Summary
第2回	Unit 1 Baseball in Japan	Summary Try this, too! Discussion
第3回	Unit 2 Restaurant Robot	Vocabulary Topic Paragraph Transcript Completion Summary
第4回	Unit 2 Restaurant Robot	Summary Try this, too! Discussion
第5回	Unit 3 Keeping Food Fresh	Vocabulary Topic Paragraph Transcript Completion Summary
第6回	Unit 3 Keeping Food Fresh	Summary Try this, too! Discussion
第7回	Unit 4 The Metaverse	Vocabulary Topic Paragraph Transcript Completion Summary
第8回	Unit 4 The Metaverse	Summary Try this, too! Discussion
第9回	Unit 5 Lionfish Problem	Vocabulary Topic Paragraph Transcript Completion Summary
第10回	Unit 5 Lionfish Problem	Summary Try this, too! Discussion
第11回	Unit　1-5	Presentation
第12回	Wrap-up and review	End of term review Individual Oral Examination Q &A(in-class test)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。11回目の授業で、Unit 1～５で興味をもったトピックを掘り下げたり、違う角度から考察して、PowerPointでスライドを作成し、プレゼンテーションをする。
Students are required to do listening homework, which involves completing a transcript exercise. In addition, students will research a variety of topics and prepare and perform presentations on a similar topic at the end of the course.
University guidelines suggest preparation and review are around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】
NN 10 Vol.12 − Student News −＜2024年＞（朝日出版社）

【参考書】
Students will use online information resources to research and prepare presentations. These include:
http://www.bbc.co.uk/learningenglish
https://learningenglish.voanews.com/
https://www.newsinlevels.com/
https://breakingnewsenglish.com

【成績評価の方法と基準】
Grading will be based on participation in class activities(30%), homework(30%), test(30%), and a presentation(10%).

【学生の意見等からの気づき】
Not applicable

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムとZoomに接続できる環境と情報機器

【その他の重要事項】
最終日には個別口頭試問とまとめを行う。

【Outline (in English)】
This course aims to provide students with opportunities to have critical thinking skills and express their opinions on different topics in English, using the textbook and authentic materials. Students will learn about aspects of culture and society across cultures, while building their communication skills in all aspects.

LANe100TA（英語 / English language education 100）

英語Ｓ（３）（冬期スクーリング）

吉田　季実子

カテゴリー：**冬期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**1単位**
期間：**2群午前**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講手続き等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
海外向けのニュース番組という最新の身近な題材を通して、英語のListening, Reading, Writing, Speakingの技能を高める

【到達目標】
実際に放送されている英語での海外向けニュース映像を見て、身近な話題に関しては日本語字幕なしでも内容が理解できるようになるまた実際に話されている文章についてもある程度まで聞き取れるようになる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP3」「史学科：DP1, DP3」「地理学科：DP1」「経済学科：DP6, DP8」「商業学科：幅広い教養」に関連

【授業の進め方と方法】
テキストの課題に添って進めていくが、各章の終わり事に確認の小テスト、問題演習を行う。
テキスト内で使用されている音声を、別途ダウンロードして視聴が必須となるがそちらについては毎回指示
最終授業で、講義内容のまとめや復習だけでなく、授業内で行った試験や小レポート等、課題に対する講評や解説も行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	Unit1	単語や表現を確認 映像をみての問題演習
第2回	Uint1	聞き取りと本文の和訳 英作文
第3回	Unit1/2	Unit1の小テスト Unit2 単語や表現を確認 映像をみての問題演習
第4回	Unit2	聞き取りと本文の和訳 英作文
第5回	Unit2/3	Unit2の小テスト Unit3 単語や表現を確認 映像をみての問題演習
第6回	Unit3	聞き取りと本文の和訳 英作文
第7回	Unit3/4	Unit3の小テスト Unit4 単語や表現を確認 映像をみての問題演習
第8回	Unit4	聞き取りと本文の和訳 英作文
第9回	Unit4/5	Unit4の小テスト Unit5 単語や表現を確認 映像をみての問題演習
第10回	Unit5	聞き取りと本文の和訳 英作文
第11回	Unit5/6	Unit5の小テスト Unit6 単語や表現を確認 映像をみての問題演習
第12回	Unit6	聞き取りと本文の和訳 英作文

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。
小テストに合わせて前回学習範囲の復習をすること
また各章冒頭、表題とその下のページは予習の時に目を通しておくことが望ましい

【テキスト（教科書）】
NHK NEWSLINE7
山﨑達朗
金星堂　2024年　2500円（税別）

【参考書】
特になし

【成績評価の方法と基準】
小テスト80％
平常点20％

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
辞書
また、自宅学習用のオンライン教材があるので
それを再生できるPC　スマートフォンなどのメディア機器があると望ましい

【その他の重要事項】
学習支援システムを使用する可能性があります

【Outline (in English)】
This course introduce students 4 skills of English (Reading, Writing, Listening, Speaking) through NHK news.
The goals of this course are to understand the familiar topics in English.
Students will be expected to have completed the required assignments before each class meeting. Your study time will be more than an hour.
Your overall grade in the class will be based on the following, Short tests 80%, in class contribution 20%

LANe100TA（英語 / English language education 100）

英語Ｓ（4）（冬期スクーリング）

本間　章郎

カテゴリー：**冬期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**1単位**
期間：**2群午前**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講手続き等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ニュース英語を題材にします。これまでの英語の授業を踏まえて、特に読む、聞くという英語の技能の運用能力を課題を通して深めることを目的とします。最初は早いと思うかもしれませんが、英語の音声を聞きながら、練習問題を通して内容を理解する練習をおこないます。特に、まとまった量の英文の内容を的確に理解できるようになってもらえればと思います。同時に、ニュース英語を題材にした英語の勉強を通して、日本の現代社会に対する理解を深めていきます。

【到達目標】
授業の到達目標としては、英語の運用能力の向上を目指して次の目標を意識してほしいと思います。
(1) ある程度の分量の英文を聞いて、内容を適切に理解する。
　教科書の練習問題を通じて確認します。
(2) 重要な単語及び表現を身に着ける。
　教科書の練習問題を通じて確認します。
(3) リスニングの力を育成する。
　教科書の練習問題を通じて確認します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP3」「史学科：DP1, DP3」「地理学科：DP1」「経済学科：DP6, DP8」「商業学科：幅広い教養」に関連

【授業の進め方と方法】
教科書に沿って授業を進めていきます。基本的に教科書の練習問題を通して、内容理解の練習をおこないます。また、数回、表現・単語の理解などを確認する小テストをおこないます。小テストは、翌日の授業で受講者に返却し、講評や解説をおこないます。また、最終日の授業で、講義内容のまとめや復習をおこないます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業の説明 Unit 1: Studying in the Metaverse	授業の目標と進め方の説明 リスニング及び内容理解
第2回	Unit 1: Studying in the Metaverse	問題演習
第3回	Unit 2: Japanese Firms Switching to English Amid Engineer Shortage	リスニング及び内容理解
第4回	Unit 2: Japanese Firms Switching to English Amid Engineer Shortage	問題演習
第5回	Unit 3: Recycling Car Parts Into Fashion Treasure	リスニング及び内容理解
第6回	Unit 3: Recycling Car Parts Into Fashion Treasure	問題演習
第7回	Unit 4: Japanese Family Steps Up to Support Evacuee	リスニング及び内容理解
第8回	Unit 4: Japanese Family Steps Up to Support Evacuee	問題演習
第9回	Unit 5: Mixing Art With Online Meeetings	リスニング及び内容理解
第10回	Unit 5: Mixing Art With Online Meeetings	問題演習
第11回	Unit 6: Deer Ramen	リスニング及び内容理解 問題演習
第12回	理解度の確認	授業のまとめとテストをおこないます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業の終わりに、次の授業で前もってやっておいてほしい内容を指示します。該当する英文を読み、わからない単語・表現を調べて内容を把握し、問題演習などを自宅で済ませて授業に臨んでください。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
NHK Newsline 7（『映像で学ぶNHK英語ニュースが伝える日本 7』）
山﨑達朗他著　金星堂　2024年　2500円

【参考書】
参考書は特にありません。

【成績評価の方法と基準】
学期末試験（50%）、小テスト（30%）、平常点（20%）から成績を評価します。主に到達目標の (1) と (3) を毎回の授業から、(2) を小テストおよび学期末試験から判断します。平常点は授業における学習状況から評価します。学期末試験は教科書の問題から作成するので、復習をよくおこなってください。
毎回、授業の初めに出席を取ります。単位取得には、6 日間合計12コマ（1日2コマ×6日）のうち8コマ以上出席していることが必要です。特別に考慮すべき理由のない遅刻は、0.5コマとして考えます。最終日（試験日）のみ、前半授業を2コマとしてカウントし、欠席は 2 コマ分の欠席、遅刻もしくは早退は 1 コマ分の欠席とします。

【学生の意見等からの気づき】
毎回の授業における受講者の学習状況を成績評価に反映し、学習目標を達成しているかどうか確認しながら授業を進めていきたいと思います。

【その他の重要事項】
教科書のUnitの構成はどのUnitも同じです。授業が始まったあと、どの問題をあらかじめ予習して欲しいのか指示をします。また、授業で扱わないUnitに関しては、講義終了後に、問題の解答などを公表します。自学自習を進める上で役立ててください。

【Outline (in English)】
(Course outline)
In this course, students will be introduced to various social and cultural issues of contemporary Japan through NHK World.
The topics ranges from business to environmental issues, which help students understand our society better. NHK World news can help students realize various aspects of Japanese society And watching the news reports, students can improve their listening ability.
The news videos are useful to get the gist of them. Then by reading the news reports of the textbook, students can grasp the details of them and broaden their vocabularies. I hope students can improve English skills and get a better sense of our society.
(Learning Objectives)
The goals of this course are to comprehend news in English properly, improve English listening and broaden English vocabularies.
(Learning activities outside of classroom)
Before each class meeting, students will be expected to have reviewed and read the relevant chapter(s) from the text. Your required study time is at least one hour for each class meeting.

(Grading Criteria /Policies)
Your overall grade in the class will be decided based on
the following Term-end examination: 60%and quizzes: 40%.

LANe100TA（英語 / English language education 100）

英語S（5）（冬期スクーリング）

JAMES O ESSEX

カテゴリー：**冬期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**1単位**
期間：**2群午前**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講手続き等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
このコースでは、中級から上級のリーディングスキルの基礎をしっかりと学びます。様々な興味深い物語や記事を読みながら、流暢な読解力と理解力の向上を目指す。また、予測力と主旨の理解力も引き続き伸ばします。また、文法や語彙の新たな特徴への認識を高めるなど、言語の細部に焦点を当てることで、読解力を養います。

【到達目標】
The primary aim of this course is to prepare you for extended study abroad in a university in an English speaking country. Students will receive training and experience in critical reading skills to analyze, synthesize and evaluate articles from sources such as periodicals and newspapers. The texts will be chosen to cover issues important to many students. Students may also do extensive reading appropriate for their level. In addition to reading, students will also engage in written and spoken activities/assignments.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP3」「史学科：DP1, DP3」「地理学科：DP1」「経済学科：DP6, DP8」「商業学科：幅広い教養」に関連

【授業の進め方と方法】
The professor will provide a blend of lecture-style and workshop classes. Feedback will be provided face-to-face, through Hoppii or LessonAccess. Regarding review/preparation, the standard preparation and review time for this class is two hours per week: 1 hour preparation and 1 hour review

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	Course Introduction and LessonAccess explanation Unit 1	From Dust to Dawn
第2回	Unit 2	How Verbs Came To Be
第3回	Unit 3	Brainwaves and Epiphanies
第4回	Unit 4	The Spice of Life
第5回	Unit 5	Bones of Contention
第6回	Unit 6	Singularities Slippery Slope
第7回	Unit 7	Divided we Browse
第8回	Unit 8	Head and Shoulders Above
第9回	Unit 9	Mountain of Mysteries
第10回	Unit 10	Cultivating Concerns
第11回	Unit 11	Altruistic Animals
第12回	Final Test	Final Test

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Homework - task completion from the previous lesson, preparation for a subsequent lesson or a combination of both will be assigned daily. The standard preparation and review time for this class is two hours per week: 1 hour preparation and 1 hour review

【テキスト（教科書）】
Immersive Reading - Read, Reflect, and Discover: Book 2
Michael Dyer
Independently published
ISBN 979-88-7600-750-6
Available from: https://www.amazon.co.jp/dp/B0CSDFG9LB
This textbook is ONLY available from Amazon. You will not find it in any bookstores.

【参考書】
www.lessonaccess.com
Please check your Hosei email regarding how to log in.

【成績評価の方法と基準】
Participation: 10%
Vocabulary Quizzes: 20%
Textbook Review Quizzes: 25%
Comprehension Quizzes: 25%
Final Test: 20%
All quizzes (including the final test) need to be completed in LessonAccess.

【学生の意見等からの気づき】
From this year, the class has been overhauled following student feedback. The textbook and material are not only more appropriate, but more conducive to helping students meet the aims and goals of the class.

【学生が準備すべき機器他】
Notebook and pen for class notes

【Outline (in English)】
The course will provide a strong foundation in intermediate and advanced reading skills. The course will seek to increase students' reading fluency and comprehension while reading a variety of interesting stories and articles. The skills of prediction and the comprehension of main ideas will continue to be developed. A focus on language details will also help to develop reading skills, such as raising awareness of new features of grammar and vocabulary.

LANe100TA（英語 / English language education 100）

英語Ｓ（２）（冬期スクーリング）

高井　美紀子

カテゴリー：**冬期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**1単位**
期間：**2群午後**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講手続き等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、19世紀末から20世紀初めのイギリスの恐怖小説を題材に、英語のリーディング、リスニング、そして文法力を強化する講座です。授業では、ヘクター・マンロー（サキ）、オスカー・ワイルド、リチャード・ミドルトン、アーサー・クィラ=クーチ、ヘンリー・ジェームズという5人のイギリス人、アメリカ人小説家の短編を取り扱います。扱われる短編は、すべて原文の語彙文体を損なわない形で英語学習者の取り組みやすい英文にリライトされています。本授業は読解力を鍛えることを目指し、授業の中心はリーディングとなりますが、リスニングの演習も行います。テキストの本文のストーリーを理解した後には文法の演習も行います。このようにして、英語で小説を楽しみながら、リーディング、リスニング、文法力をバランスよく鍛えます。18世紀のイギリスで生まれたゴシック小説というジャンルがいかに現代のエンターテイメントに影響を及ぼしているかなどの考察も行い、その意義についても考えてみたいと思います。学生が、各々の習熟度に応じて様々な英語の文章を読み、それを楽しむ土台となるスキルと身に着けることが本授業の目的です。

【到達目標】
学生は、本授業を通して以下の能力を身に着けます。
①2分程度の長さのストーリーを英語で聞き、必要な情報を正確に聞き取るリスニング力。
②英語の短編小説を読み、日本語に訳さずに原文のまま意味を理解するリーディング力。
③英文を読むために必須の5文型の正確な知識。
④動詞の正確な理解、特に自動詞と他動詞の正確な理解。
⑤標準レベルの英文を読むのに必要な基本語彙の習得。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP3」「史学科：DP1, DP3」「地理学科：DP1」「経済学科：DP6, DP8」「商業学科：幅広い教養」に関連

【授業の進め方と方法】
授業は演習形式で行います。2回の授業で短編小説を１つ読み終えるペースで進めます。
各授業の最初に導入リスニングを行い物語の背景的知識を得ます。その後リーディングに取り組み、最後に物語の結末を再びリスニングで聞きとります。ストーリーを理解した後、Comprehension QuestionsやGrammar Practiceに取り組み、学んだ知識の定着を図ります。まった、授業時間内に課題プリントのフィードバックも行います。演習形式ですので、学生の積極的な授業参加が求められます。
　最終授業（第12回授業）で行う筆記試験のフィードバックは、試験の後に講評において行います。試験内容や採点の基準について解説を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	Chapter1: Sredni Vashtar < 1>	ヘクター・マンローの短編小説を題材にしたリーディング、リスニング、文法課題に取り組む
第2回	Chapter2: Sredni Vashtar < 2>	ヘクター・マンローの短編小説を題材にしたリーディング、リスニング、文法課題に取り組む
第3回	Chapter3: The Cabterville Ghost < 1> Chapter4:The Cabterville Ghost < 2>	オスカー・ワイルドの短編小説を題材にしたリーディング、リスニング、文法課題に取り組む
第4回	Chapter5: The Cabterville Ghost < 3>	オスカー・ワイルドの短編小説を題材にしたリーディング、リスニング、文法課題に取り組む
第5回	Chapter6: On the Brighton Road < 1 >	リチャード・ミドルトンの短編小説を題材にしたリーディング、リスニング、文法課題に取り組む
第6回	Chapter7: On the Brighton Road < 2 >	リチャード・ミドルトンの短編小説を題材にしたリーディング、リスニング、文法課題に取り組む
第7回	Chapter8：A Pair of Hands < 1>	アーサー・クィラ=クーチの短編小説を題材にしたリーディング、リスニング、文法課題に取り組む
第8回	Chapter9: A Pair of Hands < 2>	アーサー・クィラ=クーチの短編小説を題材にしたリーディング、リスニング、文法課題に取り組む
第9回	Chapter10: The Romance of Certain Old Clothes < 1>	ヘンリー・ジェームズの短編小説を題材にしたリーディング、リスニング、文法課題に取り組む
第10回	Chapter11:The Romance of Certain Old Clothes < 2>	ヘンリー・ジェームズの短編小説を題材にしたリーディング、リスニング、文法課題に取り組む
第11回	Chapter12:The Romance of Certain Old Clothes < 3>	ヘンリー・ジェームズの短編小説を題材にしたリーディング、リスニング、文法課題に取り組む
第12回	筆記試験 試験フィードバック	学習の定着度を確認するための筆記試験（60分）、筆記試験の内容・採点基準の解説、質疑応答等（40分）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。
準備学習として、取り上げる5人の作家の背景について書かれた日本語の導入文を授業前に読んで物語の背景的知識を得てください。導入文はChapter1、Chapter3、Chapter6、Chapter8、Chapter10の冒頭に載っています。復習としては、毎回の授業後に学習したChapterに出てきた重要語句に関するVocabulary ListとSummary Practiceのプリントを配布しますので、復習教材として取り組んでください。これらのプリントは翌日回収し、採点したうえでフィードバックを行います。

【テキスト（教科書）】
【教科書名】Wicked and Shuddering Tales with Love
【著者】Yuko Hosokawa
【出版社】開文社
【出版年】2011年
【価格】税抜き1800円

【参考書】
特に指定しません。

【成績評価の方法と基準】
成績は評価の内訳は以下の通りです。
平常点：40%（授業貢献度20％、復習プリント20％）
筆記試験：60%
の合計100％で評価します。
全授業12回のうち8回以上出席していることが筆記試験受験の条件となります。
遅刻や早退は0.5コマとしてカウントされます。

【学生の意見等からの気づき】
前年度の冬期スクーリングで、英語の5文型に関する補助プリントを作成して配布したところ、分かりやすいと講評でしたので、今回も5文型に関する補助教材のプリントを配布する予定です。

【学生が準備すべき機器他】
特に必要ありません。

【その他の重要事項】
授業開始前までに各自テキストを購入しておいてください。
授業には辞書を持参してください。電子辞書、または紙の辞書を推奨しますが、どちらもない場合はスマートフォンの辞書を使うことを認めます。

【Outline (in English)】
The aim of this course is to help students improve their skills in English reading, listening, and grammar, using English Gothic novels as material. In the course, students will read five short stories written between the end of the19th century and the beginning of the 20th century, by five English or American novelists, Hector H. Munro (Saki), Oscar Wilde, Richard Middleton, Arthur Q. Couch, and Henry James. All these short stories are rewritten versions of the original texts, rewritten in simple, plain English without spoiling the atmosphere and style of the originals. Each lesson consists of listening practice, reading practice, comprehension questions, and grammar practice, giving students well-balanced training in English. Moreover, students will consider how the genre of Gothic novels born in 18th century Britain still impact various works of entertainment today. At the end of the course, students are expected to read and enjoy various types of English texts according to each student's interest and ability. Before each class meeting, students will be expected to have read the Japanese introduction of the author of the story. After each class meeting, students will have to do review assignments. Your study time will be more than one hour for a class.
Grading will be decided based on review assignments (20%), in class contribution (20%), and term-end examination (60%).

LANe100TA（英語 / English language education 100）

英語Ｓ（6）（冬期スクーリング）

LASSEGARD JAMES

カテゴリー：**冬期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**1単位**
期間：**2群午後**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講手続き等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
In this intensive course, students study English (reading, writing, speaking, listening) while learning about international and intercultural communication. The topics covered in this course include learning about different cultures, diversity in society, communication styles, and non-verbal communication. This course requires daily homework (please see below). Student performance is evaluated based on attendance,participation,one quiz,and a final written test.

【到達目標】
Students will learn effective English communication (especially speaking and listening) techniques for working in culturally diverse work environments.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP3」「史学科：DP1, DP3」「地理学科：DP1」「経済学科：DP6, DP8」「商業学科：幅広い教養」に関連

【授業の進め方と方法】
Some lecture using presentation software is done to provide background and to stimulate thinking and discussion.
We will do lots of pair work, active learning, and group discussion in class. Students should do the readings before coming to class each day. Regular feedback will be provided during class sessions regarding student performance in class and on the tests. Student may also contact the instructor via e-mail.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	Introduction: The Internationalization of Japanese Society	Course Explanation. Lecture, pair work activity & discussion
第2回	What is “Culture?”: Culture as an Iceberg	Explore definitions of culture. Pair and group work, Discussion.
第3回	You as a Multicultural Person &Cultural Categories	Discovering ourselves as cultural beings. Pair work & discussion.
第4回	Learning about Stereotypes and Generalizations Culture and Values	Learn about our cultural values and differences with others. Pair/Group work.
第5回	Culture and Value Orientations What is Communicative Competence?	"Across the River" exercise. Lecture on communication competence. Pair work. First Quiz.
第6回	The Relationship between Communication and Culture Non-verbal Communication	Lecture on the importance of Non-verbal communication (body language).
第7回	Gestures and Cross-Cultural Perceptions Effective Body Language	Lecture on effective body language: The SOFTEN technique. Discussion.
第8回	Learning about Communication Patterns-Comparing American and Japanese Communication Styles	Lecture and case studies. Role play dialogues in pairs.
第9回	Cultural Context: High and Low Context Cultures	The importance of context in communication: lecture, discussion, and role play.
第10回	Communication Case Studies	Lecture, discussion, pair work role plays.
第11回	Direct and Indirect Expressions Effective Communication and Human Relationships	Lecture and discussion: Role play dialogues.
第12回	Strategies for Effective Communication & Active Listening. Course wrap-up	Practice effective communication through role play dialogues. Final Test.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Students should have completed the readings before class (approximately 5-10 pages per day). Unfamiliar vocabulary should be checked and learned. This will take 1-2 hours of daily preparation.

【テキスト（教科書）】
Provided by instructor

【参考書】
Students should have a good English-Japanese; Japanese-English dictionary (paper or electric), which they can bring to class.

【成績評価の方法と基準】
Attendance and active participation: 30%
Quiz and Final Test: 70%

【学生の意見等からの気づき】
Some difficult English vocabulary and grammar is translated and explained in Japanese.

【Outline (in English)】
In this intensive course, students study English (reading, writing, speaking, listening) while learning about international and intercultural communication. The topics covered in this course include learning about different cultures, diversity in society, communication styles, and non-verbal communication

LANe200TA（英語 / English language education 200）

総合外国語特講（英語）（冬期スクーリング）

平野井　ちえ子

カテゴリー：**冬期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**2群午後**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講手続き等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
映画の歴史をその起源から学ぶことで、現代の映像文化とポップカルチャーについて理解を深めます。学生は、映像表現を論じるための基礎知識を身につけることができます。

【到達目標】
１．映画の歴史を起源から現代に至るまで巨視的に把握できる。
２．後掲の英文テキストに基づく講義と読解を中心とした授業なので、映像文化に関わる表現を日本語と英語で学ぶことができる。
３．映像文化がどのように成熟してきたかを学ぶので、鑑賞眼を養う一助となる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP3,DP5」「日本文学科：DP1,DP2」「史学科：DP1」「地理学科：DP2,DP3」「経済学科：DP6, DP8」「商業学科：自由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

【授業の進め方と方法】
１．講義と英文読解を通じて、映画の歴史についての理解を深める。
２．原則として、スクーリング各日の１限目には講義、２限目には英文読解が中心となる。
３．英文読解は、学生による日本語訳の発表と教員からのフィードバックで進める。
４．毎日リアクションペーパー（日本語）の提出（学習支援システム「テスト／アンケート」を利用）を求める。
５．最終試験（学習支援システム「課題」を利用）では、英文テキストの理解を確認する日本語訳等の設問に対する解答、自分の意見をまとめるショートエッセイ（日本語）などを求める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション テキスト序章・第１章	１．講座概要の説明と受講者の履修動機の確認（学習支援システム「テスト／アンケート」を利用）２．テキスト序章・第１章に関する日本語講義
第2回	テキスト第１章 First Images	映画の起源と初期の映画づくりに関する英文テキストを読み解く。
第3回	テキスト第２章 (講義) From Silence to Sound	1950年代までのハリウッドの歴史に関する講義
第4回	テキスト第２章(英文読解) From Silence to Sound	1950年代までのハリウッドの歴史に関する英文テキストを読み解く。
第5回	テキスト第３章（講義） Animation	アニメ映画の歴史に関する講義
第6回	テキスト第３章（英文読解） Animation	アニメ映画の歴史に関する英文テキストを読み解く。
第7回	テキスト第４章（講義） Special Effects	特殊効果に関する講義
第8回	テキスト第４章（英文読解） Special Effects	特殊効果に関する英文テキストを読み解く。
第9回	テキスト第５章（講義） Making a Movie	映画制作の現場に関する講義
第10回	テキスト第５章（講義・映像解説） Making a Movie	映画制作の現場に関する講義と映像解説
第11回	テキスト第５章（英文読解） Making a Movie	映画制作の現場に関する英文テキストを読み解く。
第12回	講座のまとめと最終試験	重点講義を行った後、学習支援システム「課題」により、最終試験を実施する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
後掲テキストを事前に読んであることが前提で講義・訳読を進めます。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
The Amazing History of Cinema -From Edison to Spielberg
Christopher Kenworthy
Seibido
2,000円（税別）

【参考書】
特に指定しない。

【成績評価の方法と基準】
平常点（積極的参加態度＋リアクションペーパー）50%
最終試験50%
最終試験受験資格に関わらず、欠席すればその分平常点は下がります。受験資格はあっても、結果として単位を取得できないこともあるので、ご注意下さい。

【学生の意見等からの気づき】
本年度新規科目につき、アンケートを実施していません。

【学生が準備すべき機器他】
BT0309教室（CALL教室）での授業です。教室のPCを使用するためには、統合認証が必要です。ご自分のIDとパスワードを確認しておいてください。対面授業ですが、授業の効率アップのため、学習支援システムを利用します。特に「お知らせ」「教材」「テスト／アンケート」「課題」の使い方は、マニュアルをよく読んで操作を学んでおいてください。もちろんPCのキーボード入力操作も必須です。授業では、学習支援システムの操作について説明することはありません。マニュアルを読んでもわからない場合、通信教育部事務にご相談ください。

【その他の重要事項】
１．初回講義にテキストを持参できない場合、受講をお断りします。「注文したが届かない」などの言い訳は認めません。時間的余裕をもって注文してください。
２．テキストの予習は必須ですが、授業当日は必ず辞書（電子辞書も可）を持参してください。
３．季節柄、健康管理には十分注意してください。他の受講生に心配・迷惑をかけるような症状がある場合、受講をお断りします。
４．個人情報を執拗に聞き出すなどの迷惑行為には、厳しく対応します。

【Outline (in English)】
This course deals with history of cinema. It also enhances the development of students' skill in reading essays in English on this topic. By the end of the course, students should improve their reading skill and they must be familiar with expressions related to the topic both in English and in Japanese. Before /after each class, you will be expected to spend two hours to learn the class materials. Grading will be decided based on active participation(50%) and final exam(50%).

LANd100TA（ドイツ語 / German language education 100）

独語Ｓ（冬期スクーリング）

三ツ石　祐子

カテゴリー：**冬期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**1単位**
期間：**2群午後**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講手続き等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業はドイツ語を初めて学習する学生のための授業です。ドイツ語文法の基礎の基礎を身につけることを目標とします。その際、ドイツ語やドイツ語圏の文化を断片的ではありますが紹介します。ドイツ語やドイツ語圏の文化に対する興味や理解を深めることによって、日本や他の文化圏に対する理解が深まることを期待します。

【到達目標】
この授業を履修することで以下のことが出来るようになります。
1）発音ルールを覚え、初見の単語や文章も発音できる。
2）挨拶ができる。
3）基本的な文法事項を習得する。
4）簡単な文（1週間の予定、1週間の出来事など）が理解できる。
5）数字を使った表現（時間や値段を確認するなど）ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP3」「史学科：DP1, DP3」「地理学科：DP1」「経済学科：DP6, DP8」「商業学科：幅広い教養」に関連

【授業の進め方と方法】
・アルファベットや復習を兼ねたウォーミングアップ的な発音練習を毎回行います。
・内容の理解を深めるためにペア、あるいはグループワークを行います。
・学習した内容を応用した会話練習なども行い、実際に自分で声に出して発音します。
・この授業は「対面授業」で行います。
・授業内で行われたアウトプットに対しては授業の場でコメントします。
・提出物などのフィードバックは適宜全体と各自に向けて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	文字と発音	ドイツ語のアルファベット、母音の綴りと発音、子音の綴りと発音、あいさつ
第2回	動詞(1)	人称、現在人称変化
第3回	動詞(2)	現在人称変化、命令形
第4回	動詞(3)	1週間の予定、アドヴァイスする
第5回	名詞（1）	名詞の性数格、定冠詞の格変化
第6回	名詞（2）	不定冠詞の格変化、否定冠詞の格変化、所有冠詞の格変化
第7回	前置詞（1）	2格・3格・4格支配の前置詞、人称代名詞の格変化
第8回	前置詞（2）	3・4格支配の前置詞
第9回	枠構造（1）	話法の助動詞
第10回	動詞（4）	分離動詞
第11回	枠構造（2）	現在完了形、1週間の出来事
第12回	まとめ	第1回から11回までの振り返り、試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
予習は特に必要ありませんが、毎回の授業で学習した内容の復習は必須です。各回で学習したことを定着させるのには個人差があると思いますが、平均的に毎回 1 時間程度の復習を標準とします。また授業進度によっては、標準復習時間とは別に、練習問題や簡単な作文の宿題を課す場合もあります。

【テキスト（教科書）】
使用しません。毎回資料を配布します。

【参考書】
『はじめてのドイツ語』　福本義徳著、　講談社現代新書1073、1991年初版、　￥800＋税、　ISBN 978-4-06-149073-4
『知ってほしい国　ドイツ』　新野守広・飯田道子・梅田紅子編著、　高文研　2017年初版　￥1700 ＋税
『ドイツ語のしくみ＜新版＞』　清野智昭著　白水社　2014年　￥1300 ＋税

【成績評価の方法と基準】
平常点（授業への参加態度（ペアワーク、グループワーク等含む）、宿題、発言など）50 %＋試験50 %とし、60 %以上 (各 30 %以上) で合格となります。

【学生の意見等からの気づき】
「教科書の使用頻度が少ない」「授業内容が教科書の記載項目順ではなく、多少混乱した」というコメントがあったので、敢えて教科書を使用しないことにしました。

【学生が準備すべき機器他】
可能な限り辞書をご用意ください(電子辞書でも構いません)。

【その他の重要事項】
「授業計画」は、授業の進度や内容の一部など、状況により変更する可能性があります。
質問・相談などは授業の前後、または以下の連絡先でも随時受け付けます。
メールアドレス： yuko.mitsuishi.2x@hosei.ac.jp

【Outline (in English)】
【Outline】
This course is designed for students who are learning German for the first time. The aim is to provide students with a basic grounding in German grammar. In doing so, students will be introduced to the German language and the culture of German-speaking countries, albeit in fragments. By deepening your interest in and understanding of the German language and German-speaking cultures, we hope that you will deepen your understanding of Japan and other cultural areas.
【Learning Objectives】
By taking this class, you will be able to.
(1) Learn pronunciation rules and be able to pronounce words and sentences that are new to you.
(2) Be able to greet people.
(3) Acquire basic grammatical matters.
(4) Understand simple sentences (e.g. weekly schedule, what happened during the week).
(5) Be able to use numerical expressions (e.g. checking time and prices).
【Learning activities outside of classroom】
No specific preparation is required, but review of what is learnt in each lesson is essential. Although it may take different individuals to consolidate what they have learnt in each session, on average, about one hour of review is standard for each session. Depending on the progress of the class, students may also be required to do some homework in addition to the standard review time, such as exercises or simple writing assignments.
【Grading Criteria/Policy 】
The grade is 50%of normal marks (e.g. class participation (including pair work, group work, etc.), homework, comments, etc.) plus 50%for the examination, with a minimum of 60% (minimum of 30%each).

LANf100TA（フランス語 / French language education 100）

仏語Ｓ（冬期スクーリング）

柴崎　秀穂

カテゴリー：**冬期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**1単位**
期間：**2群午後**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講手続き等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
フランス語を初めて学習する学生のためのクラスです。フランス語の初歩的な会話と文法を学びます。

【到達目標】
簡単なフランス語が話せて、聞けて、書けて、読めるようになること。実用フランス語技能検定試験の５級レベルに対応します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP3」「史学科：DP1, DP3」「地理学科：DP1」「経済学科：DP6, DP8」「商業学科：幅広い教養」に関連

【授業の進め方と方法】
ＣＤを聞き、教師が解説した後、学生たちに基本例文を暗記してもらいます。その後、指名された学生が口頭で発表します。単語についても同様に暗記します。テキストの練習問題は適当に飛ばし、２回の授業でテキストの１課を終える予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の進め方等の説明
	Leçon 1	アルファベ
		国籍を言う
第2回	Leçon 1	主語人称代名詞
		「～である」
第3回	Leçon 2	職業・身分を言う
第4回	Leçon 2	er 動詞現在形
第5回	Leçon 3	名詞の性と数
第6回	Leçon 3	否定文
第7回	Leçon 4	「持つ」
		否定の冠詞
第8回	Leçon 4	疑問文
第9回	Leçon 5	所有形容詞
		疑問詞
第10回	Leçon 5	形容詞の性と数
第11回	Leçon 6	定冠詞
第12回	期末試験	期末試験とまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・復習時間は、合わせて1時間を標準とします（予習の必要はありませんが、1時間程度の復習は必ずすること。まず文法事項を確認し、テキストの「対話」を繰り返し音読してください）。

【テキスト（教科書）】
『新装　カフェ・フランセ』、ニコラ・ガイヤール他著、朝日出版社

【参考書】
『ゼロから始めるフランス語』、猪狩著、三修社
『クラウン仏和辞典』三省堂
『プチ・ロワイヤル仏和辞典』旺文社

【成績評価の方法と基準】
平常点５０％、期末試験５０％で総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
より理解しやすいように、授業資料を加筆・修正しました。

【学生が準備すべき機器他】
仏和辞典は必ず持参すること。なお、配布資料と期末試験の正解は授業支援システム（Hoppii）にアップしますので、パソコンを持っている方が便利でしょう。

【その他の重要事項】
若いころ短期間ですが、日仏会館日本事務所に勤務していました。仕事で使うフランス語および外国語一般について、アドヴァイスができると思います。また、TOEICスコアも「975点」を持っていますので、英語との比較でフランス語を解説します。

【Outline (in English)】
・Course outline
This is a course for students who start to study French. You will learn especially French conversation.
・Learning objectives
At the end of the course, students are expected to be able to speak basic French.
・Lecture/Exercise
Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be almost an hour for a class.
・Grading Criteria /Policies
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Term-end examination: 50%、Short reports: 25%、in-class contribution: 25％

HSS100TA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 100）

スポーツ総合演習（冬期スクーリング）

山田　快

カテゴリー：**冬期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**2群午後**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講手続き等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
スポーツや運動に代表される身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯にわたる身体的・精神的・社会的な健康（well-being）の維持増進、自己管理に資する基礎的な知識や態度を身につける。

【到達目標】
①身体活動の意義や役割について、さまざまな視点から理解を深める。
②豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段として、スポーツ活動を利用する能力を獲得する。
③自己管理に資する基礎的な知識や態度を養う。
④卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケートを通じて、リーダーシップの発揮、問題解決などの能力を身につける。
⑤就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルを獲得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP3」「史学科：DP1, DP3」「地理学科：DP1」「経済学科：DP5」「商業学科：幅広い教養」に関連

【授業の進め方と方法】
本授業は、1日2時限（連続）を6日間にわたり実施する形式となっている。各種スポーツの実践と講義から構成され、毎回の活動に対する参画状況や態度に加え、最終回に実施する試験などの出来を総合的に勘案して評価を行う。リアクションペーパーやディスカッションから出された示唆に富むコメントは、積極的に授業内で紹介し、さらなる議論に活かしていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス（講義）	授業概要および評価方法の解説、出席にあたっての心得や諸注意などを伝達する。
第2回	アイスブレイク（実習）	運動を通じ、人間関係（受講者間の関係性）を構築する方法について学ぶ。
第3回	体力測定（実習）	新体力テストを行う。
第4回	体力測定のフィードバック（講義）	体力テストの結果を振り返り、個人の体力レベルの現状と課題を理解する。また、体力増進や課題克服に向けた有効な取り組みについて考える。
第5回	スポーツとこころの健康（講義）	スポーツ・運動とこころの健康とのつながりについて学ぶ。
第6回	卓球（実習）	卓球の特性やルールを理解し、種目を楽しむ方法について学ぶ。
第7回	運動への取り組みに向けて（講義）	スポーツ・運動をより効果的に実践する方法について学ぶ。
第8回	バドミントン（実習）	バドミントンの特性やルールを理解し、種目を楽しむ方法について学ぶ。
第9回	スポーツの価値（講義）	スポーツの価値について学び、スポーツを発展させる取り組みを考える。
第10回	バレーボール（実習）	バレーボールの特性やルールを理解し、種目を楽しむ方法について学ぶ。
第11回	ユニバーサルホッケー（実習）	ユニバーサルホッケーの特性やルールを理解し、種目を楽しむ方法について学ぶ。
第12回	試験・まとめ	授業の総括を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
実習にあたっては、授業で実施する各種身体活動時に心身の不備がないよう、各自が体調を整えた上で授業に臨む。また、授業後に取り組むべき課題や次回に向けての準備などを適宜指示するため、その内容に従って実践すること。なお、本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特定のテキストは使用しない。適宜、資料を配布する。

【参考書】
大学生の健康・スポーツ科学（大学生の健康・スポーツ科学研究会，道和書院）
また、適宜資料を配布する。

【成績評価の方法と基準】
①授業内の活動に対する参画姿勢・状況：60％
②課題および筆記試験：40％
以上の項目と配点に準じて、総合的に評価を行う。
ただし、6日間の開講中、5日以上の出席があることを前提とする。また最終日（試験日）は、前半授業のみを1日分として換算し、後半授業（試験受験）は出席日数（受験資格日数）に換算しない。

【学生の意見等からの気づき】
過年度受講生や通学課程学生から寄せられたコメントなどを踏まえ、受講者がスポーツの楽しさや意義をより実感できるよう、授業の構成や種目の選定を柔軟に行う。また、受講者同士で交流を深め、以後につながるコミュニティの形成も意識する。

【その他の重要事項】
教材や資料の配信、課題の提示・回収などは、主に学習支援システムより行う。受講者の特性や要望に伴う授業計画の変更については、適宜案内する。
またオフィスアワーとして、毎授業の前後あるいはE-mail、学習支援システムで質問を受け付ける。

【Outline (in English)】
【Course outline】
This course will make students deeply understand the significance and the effect of physical activity. Therefore, students who take this course can improve properly learning and attitude about physical, mental, and social health (well-being) necessary throughout the students' future of life.
【Learning objectives】
By the end of the course, students should be able to:
1) Understand more about the meaning and role of physical activity from various perspectives.
2) Use sports and physical activities to establish a prosperous and healthy student life and social life.
3) Develop essential knowledge and attitudes that contribute to self-management.
4) Develop the ability to demonstrate leadership and solve problems through communication with others.
5) Acquire various skills related to the development of employability.
【Learning activities outside of classroom】
Students are expected to follow the lecture's instructions in charge of the class regarding the assignments to be done after class and preparations for the next class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
【Grading Criteria/Policy】
Grading will be decided based on the contents of experiments, investigations, and presentations (60%) and the class participation (not attendance) (40%).

LAW200TB（法学 / law 200）

法律学特講（冬期スクーリング）

笹久保　徹

カテゴリー：**冬期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**2群午前**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講手続き等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は商法総則を解説するものである。商法総則は企業法の総論的な部分であり、学生が企業に関連する他の科目（会社法等）を学ぶ上でも役立つものである。学生には、本授業を通じて商法に慣れ親しみ、会社法、手形法・小切手法、保険法等にも興味を持ってもらう。

【到達目標】
・商法を学ぶために必要な基礎的概念や法理念を理解する。
・商法総則の条文から制度を説明できるようにする。
・商法に関心を持ち、社会に生じる問題を商法の視点から分析できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
本授業は講義形式である。初めて商法総則を学ぶ学生がほとんどであろうから、基礎的な事項をできる限り丁寧に、わかりやすく解説する。
本授業は、教室での対面授業である。フィードバックは授業内で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス、商法の意義と法源(1)	ガイダンス及び商法の意義について解説する。
第2回	商法の意義と法源(2)	商法の法源について解説する。
第3回	商人と商行為（1）	商人について解説する。
第4回	商人と商行為（2）	商行為について解説する。
第5回	商号（1）	商号の概要について解説する。
第6回	商号（2）	商号の譲渡等ついて解説する。
第7回	商業登記	商業登記について解説する。
第8回	商業使用人	支配人等について解説する。
第9回	代理商	代理商について解説する。
第10回	営業(1)	営業の概要について解説する。
第11回	営業(2)	営業の譲渡等について解説する。
第12回	商業帳簿、最終試験	商業帳簿について解説する。最終試験を実施する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業1回に付き、学生の予習時間は1時間、復習時間は3時間を目安とする。復習の際には、授業内での配布物及びテキストを熟読すること。必ず条文を参照しつつ、復習すること。

【テキスト（教科書）】
柴田和史『商法総則・商行為法』（三省堂テミスシリーズ）（三省堂、2024）本体価格2600円。

【参考書】
神作裕之＝藤田友敬編「商法判例百選」(別冊ジュリストNo.243)（有斐閣、2019年）本体価格2500円。

【成績評価の方法と基準】
成績評価は、最終授業内の最終試験によって行う(最終試験100％)。

【学生の意見等からの気づき】
資料と図解を用いた説明が好評のため、引き続き行う。

【学生が準備すべき機器他】
緊急連絡等で学習支援システムを使用する可能性がある。学生は、学習支援システムを使用できるようにしておくこと。

【その他の重要事項】
学生は、最新の六法を用意すること。
テキスト及び参考書は、初回の授業で講師の説明を受けてから購入した方がよい。
本授業では、毎回、授業内でレジュメや資料を配布する。

【Outline (in English)】
This course introduces general rules and transactions of the commercial law to students taking this course. The aim of this course is to help students acquire an understanding of clauses and fundamental principles of the commercial law. The goals of this course are to (1) able to obtain basic knowledge about the commercial law, (2) able to explain clauses and systems of the commercial law, (3) able to understand the relationship between the commercial law and our society.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Your overall grade in the class will be decided based on the following,　Term-end examination: 100%.

LAW200TB（法学 / law 200）

法律学特講（冬期スクーリング）【オンライン】

國分　典子

カテゴリー：**冬期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**1群午前**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講手続き等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
　この講義では、韓国の法をとりあげます。今日の韓国の法制度には過去の歴史が深く関わっています。主に憲法上のトピック・事例を学びながら、その背景にある歴史や政治的問題を理解することを目指します。また日韓関係の法的課題は何かも考えます。

【到達目標】
日本とも深く関わる韓国の歴史を理解した上で、現代韓国の国家と法、特に憲法の基本的特徴を把握することを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
学習支援システム上にレジュメをアップし、必要に応じて関連文献を提示しつつ、講義を行います。授業内および授業前後に質問を受け付けます。またフィードバックも授業内で行う予定ですが、最後の試験についてのフィードバックは学習支援システム上で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	序・東アジアの近代化と西洋法受容	韓国法の内容に入る前に、東アジアに西洋法がどのように受容され、近代国家が形成されたかを考えます。
第2回	植民地支配と独立運動	朝鮮半島の植民地時代の法制と独立運動下での臨時憲法について考えます。
第3回	韓国憲法の歴史	1948年の建国後の韓国の発展と憲法の改正史を概観します。
第4回	韓国憲法の基本原理（1）：領土と統一	法的視点からみた朝鮮半島の南北問題を考えます。
第5回	韓国憲法の基本原理（2）：国民	韓国法上の国民にまつわる問題を考えます。
第6回	韓国の国会	韓国の国会制度を考え、韓国の民主主義のあり方を考えます。
第7回	韓国の大統領制	朴槿恵大統領弾劾問題や最近の話題をとりあげ、韓国の大統領制の特徴を考えます。
第8回	韓国の司法と憲法裁判所	ドイツ型といわれる韓国の憲法裁判所の特徴を考えます。
第9回	韓国の憲法裁判所の機能	憲法裁判所の機能を考えます。
第10回	韓国憲法裁判所を巡る諸問題	近年の憲法裁判所を巡る問題を考えます。
第11回	戦後補償の問題	最近の徴用工関係の訴訟などの論点を考えます。
第12回	試験と本講義のまとめ	最終試験と全体のまとめを行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・復習学習は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書は指定しませんが、韓国憲法の条文を用意すること。『世界憲法集』等のタイトルの本の中に収められているほか、インターネット上でも韓国憲法の翻訳があります（授業で使用する翻訳語と若干異なっている部分があります）ので、それをダウンロードしても結構です。
また毎回レジュメをアップする予定です。

【参考書】
尹龍澤ほか編『コリアの法と社会』（日本評論社、2020年）
在日コリアン弁護士協会編『韓国憲法裁判所　社会を変えた違憲判決・憲法不合致判決ー重要判例44－』（日本加除出版、2010年）

【成績評価の方法と基準】
オンラインでの期末テスト100％で評価することを予定しています（但し、学習支援システムの作動状況によってレポートに切り替える可能性があります）。

【学生の意見等からの気づき】
話のスピードが速くなりがちなので、ゆっくりわかりやすい説明ができるようにしなければと思っています。

【学生が準備すべき機器他】
オンラインで授業を受けることができる機器を用意してください。特に最終日にオンライン試験を行う予定ですので、電波環境のよいところで問題なく受けられるようにご準備ください。

【Outline (in English)】
In this lecture, we will focus on Korean law.　Korean Legal system is deeply rooted in modern history.　This lecture is aimed at understanding historical and political background. We will also touch on the recent legal problems in Japan-Korea relations.
Before and after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Final grade will be calculated according to the term-end examination
(100%).

LAW400TB（法学 / law 400）

国際法各論（冬期スクーリング）【オンライン】

田中　佐代子

カテゴリー：**冬期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**1群午後**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講手続き等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
国際法の各論分野を学ぶ。

【到達目標】
現代国際法の各論分野における基本的な概念や法制度を説明できるようになることが、最低限の到達目標である。
これに加えて、各概念・制度の歴史的展開と今日の実態を、その背景にある国際社会の構造とその変化をふまえながら深く理解することが求められる。それにより、日々生起する国際問題を法的視点からどのように捉えるべきかを自ら考えるための基礎を築くことが、最終的な到達目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
下記【授業計画】に示す項目について検討する。（内容は、前年度までの同科目と一部重複することがある。）
講義形式の授業だが、教科書の内容について受講生との質疑応答を交えつつ進める。
特定の分野について理解を深めるためのゲスト講義も実施することを検討している。
学生に対するフィードバックは、授業中のコメント等により行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	海洋法（1）	歴史、各海域
第2回	海洋法（2）	海洋境界画定、海洋紛争解決
第3回	南極、空、宇宙	南極、空、宇宙
第4回	人権	国籍、難民、人権
第5回	刑事	犯罪人引渡し、国際犯罪
第6回	紛争の平和的解決（1）	概説
第7回	紛争の平和的解決（2）	ICJ
第8回	武力行使の規制と国際安全保障（1）	歴史、自衛権
第9回	武力行使の規制と国際安全保障（2）	PKO、集団安全保障
第10回	武力紛争法（1）	交戦法規
第11回	武力紛争法（2）、軍縮	中立、軍縮
第12回	総括、試験	全体の復習と試験実施

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
下記掲載の教科書（玉田・水島・山田『国際法〔第２版〕』）第５章２，第７章～第９章，第１２章を事前に読んでおくこと。
ざっと目を通しておく程度でもかまわないが、短期集中のスクーリング授業に対応するためには、予習によって全体像を把握しておくことがきわめて重要である。
本授業の準備学習・復習時間は各２時間を標準とする（ただし、これはあくまで一般的な標準の時間を示したものにすぎず、各回の内容等により大きく異なることがある）。

【テキスト（教科書）】
玉田大・水島朋則・山田卓平『国際法〔第２版〕』（有斐閣、2022年）
『国際条約集』（有斐閣）
教科書と条約集、いずれも必ず授業に持参すること。なお、条約集は、ここ数年のものであれば、最新年度版でなくてもよい。

【参考書】
森川幸一、兼原敦子、酒井啓亘、西村弓編『国際法判例百選〔第3版〕』（有斐閣、2021年）
その他は開講時に指示する。

【成績評価の方法と基準】
筆記試験（60％）および平常点（40％）。
詳細は初回授業で説明する。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムとZoomに接続できる環境と情報機器。
授業で使用する資料は、学習支援システムを通じて配布予定。また、リアクションペーパーや試験解答の提出も、学習支援システムを通じて行うこととなる。
オンライン（Zoom）授業の際、ビデオはオフでも構わないが、必要に応じてマイクはオンにして発言できる環境で受講すること。

【Outline (in English)】
【Course outline and Learning Objectives】This course provides students with an advanced understanding of public international law with reference to particular topics such as: law of the sea, air and space law, status of individuals and human rights, international dispute settlement, and the regulation of use of force and armed conflict.
【Learning activities outside of classroom】Students are expected to read the assignment before each class.
【Grading Criteria /Policy】Grading is based on the term-end examination (60%) and the in-class contribution (40%).

LAW300TB（法学 / law 300）

倒産法（冬期スクーリング）【オンライン】

倉部　真由美

カテゴリー：**冬期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**1群午後**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講手続き等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
倒産とは、債務者が、その有する財産、信用力、収入・収益などを総合的に考慮して、債権者に対して債務の全般を支払えなくなる状況をいう。このような状況を処理するための法律を総称して、一般的に倒産法というが、その中には、破産法、会社法の特別清算の部分、民事再生法、会社更生法が含まれる。前二者を清算型と呼び、債務者の財産を換価することによって得られた換価金から債権者に平等に配当することを主たる目的としている。後二者を再建型と呼び、債務者を再生・再建することにより将来の収益から債権者に弁済することを主たる目的とする。
　本講義では、これらの倒産処理法の基本である破産法を扱う。

【到達目標】
①破産法の理念と手続の目的を理解する。
②破産手続の基本的な流れと基礎概念を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
・授業は、レジュメに沿って進行する。
・レジュメは、授業中に配布する紙で配付する。
・レジュメの中で、テキストの該当箇所も指示するので、復習に役立ててもらいたい。
・質問は、授業の開始前後の時間や学習支援システムの掲示板にて対応し、必要に応じて、授業中または学習支援システムを通じてクラス全体で共有する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	倒産方の世界へようこそ	ガイダンス／倒産法の必要性と目的
第2回	倒産処理手続のアウトライン	わが国の倒産処理制度にはどのようなものがあるのか、法的な手続、私的整理、倒産ADRなど広く紹介する。
第3回	破産手続の申立てから開始まで	破産手続の開始申立て、開始決定、保全処分を扱う。
第4回	破産財団	破産財団、破産管財人とその職務、取戻権を扱う。
第5回	破産債権・財団債権	破産債権、破産債権の種類と優先劣後関係、財団債権を扱う。
第6回	契約関係の処理	双方未履行双務契約に関する一般原則、賃貸借契約、請負契約の取扱いを扱う。
第7回	担保権	別除権とその取扱いを扱う。
第8回	相殺権	相殺権の行使、相殺禁止を扱う。
第9回	否認権	否認の対象行為の類型、否認権の要件、その行使方法を扱う。
第10回	債権の届出・調査・確定／配当と手続の終了	債権の届出・調査・確定、配当、手続の終了を扱う。
第11回	消費者破産	消費者破産のポイントを扱う。
第12回	まとめ	授業全体を振り返り、質問を受け付ける。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・必ず六法を携行し、こまめに条文を確認すること。
・法律学の勉強は、忍耐強く反復することが求められる。レジュメやテキストを１度読んで理解できなくても、心配することはない。１度は通読すること、分からない部分は繰り返し読むこと、それでも分からないところは、質問することで、理解を深めていってほしい。
・本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
高田賢治＝上江洲純子＝倉部真由美『ストゥディア倒産法』（有斐閣、2018年）
携行するサイズの六法を必ず持参すること。

【参考書】
読みやすいものを選んで自習すること。
・山本和彦『倒産処理法入門〔第5版〕』（有斐閣、2018年）
・山本和彦ほか『倒産法概説〔第2版補訂版〕』（弘文堂、2015年）
倒産判例について
・松下淳一＝菱田雄郷編『倒産判例百選〔第6版〕』（有斐閣、2021年）

【成績評価の方法と基準】
出席（３３％）、試験（６７％）

【学生の意見等からの気づき】
とくになし

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムとZoomに接続できる環境と情報機器

【Outline (in English)】
【Learning Objectives】
This course is designed to provide a comprehensive overview of the insolvency system and the law of bankruptcy in Japan. We will primarily focus on the procedure of Bankruptcy, treatment of contracts, the rights of secured creditors, set-off, and avoidance under the Bankruptcy law.
Students are expected to understand concepts of the law and the procedure of Bankruptcy.
【Learning activities outside of classroom】
Before/after each class meeting, students will be expected to spend 4 hours to understand the course content.
【Grading Criteria /Policy】
Grading will be decided based on percentage of attendance(33%) and final examination(67%).

LAW300TB（法学 / law 300）

労働法（冬期スクーリング）

沼田　雅之

カテゴリー：**冬期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**2群午前**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講手続き等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この講義では、講学上の「労働法」のうち「労働契約法」や「労働基準法」といった、個別的労働関係法のほか、「労働組合法」を中心とする集団的労働関係法の基本的内容や関連する判例法理について解説します。

【到達目標】
１．授業の概要で示した法領域とそれに関連する判例法理について理解できる。
２．授業の概要で示した法領域とそれに関連する判例法理についての基本的な問題や少し難易度の高い問題（ワークルール検定・法学検定アドバンスト〈上級〉コースレベル）に解答できるようになる。
３．授業の概要で示した法領域とそれに関連する判例法理に関する事例問題
（司法試験の問題を平易にしたもの）に文章で解答できる。
４．１～３で獲得した知識をもって、労働関係の発展的な問題に、リーガルマインドをもって積極的に関与できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
授業の実施形態：
・対面
オフィス・アワー制度（＝質疑応答の方法）：
・授業の後
資料や課題の配信、回収方法：
・紙資料を講義時に配付。
試験のフィードバック方法：
・試験終了時に問題の解説を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	・労働法の法源と労働条件の決定ルール ・労働法のプレイヤー	・労働条件がどのようなツールによって定められているかについて解説する。 ・労働者・使用者・労働組合等について解説する。
第2回	採用・採用内定・試用	採用内定法理等について解説する。
第3回	就業規則と労働条件の変更	就業規則による堂々条件の不利益変更法理について解説する。
第4回	人事－配転・出向・転籍・組織変更	配転法理、出向法理について解説する。
第5回	賃金の規制	賃金の支払いに関する法規制等について解説する。
第6回	労働時間（１）	法定労働時間、時間外休日労働について解説する。
第7回	労働時間（２）	変形労働時間制などの柔軟な労働時間管理を可能とする制度について解説する。
第8回	団体交渉・団交拒否（その他の不当労働行為を含む）	不当労働行為の一類型である団体交渉の拒否を中心に、不当労働行為制度について解説する。
第9回	労働協約	労働協約に関するルールと判例法理について解説する。
第10回	労働契約の終了（１）	解雇に関するルールについて解説する。
第11回	労働契約の終了（２）	辞職や合意解約など、解雇以外の労働契約の終了に関するルールについて解説する。
第12回	非正規労働者の保護	雇止め法理など、非正規労働者の保護を目的とする制度について解説する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・事前にテキストの該当部分と配付プリントに十分目を通すこと。
・本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
・藤本茂・山本圭子・沼田雅之・細川良編著『ファーストステップ労働法』（エイデル研究所、2020年）
・プリント教材

【参考書】
・ジュリスト増刊『労働法の争点』（2014年、有斐閣）
・別冊ジュリスト『労働判例百選（第10版）』（2022年、有斐閣）

【成績評価の方法と基準】
・期末試験として論述式の筆記試験（100％）を実施します。概要は講義中に説明します。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【【専門領域と研究業績】】
＜専門領域＞　社会法（社会保障法・労働法）
＜研究テーマ＞　非正規労働者の社会保障法、労働法上の課題
＜主要研究業績＞
沼田雅之ほか編著『社会法をとりまく環境の変化と課題』（2023年、旬報社）、同『労働法における最高裁判例の再検討』（旬報社、2022年）、同『ファーストステップ労働法』（エイデル研究所、2020年）、「労働契約申込みみなし制度における偽装請負と「免れる目的」」法律時報94巻9号（2022年）、沼田雅之「均衡・均等処遇規定で、正規・非正規間の労働条件格差は縮小するのか？」法律時報96巻5号（2024年）」、同「プラットフォームワーカーの自由と保障―「新しい働き方」のため、社会が準備すべきこと」世界960号（2022年）、同「プラットフォームワークと社会保障」日本労働法学会誌135号（2022年）、同「派遣労働者の「同一労働同一賃金」の課題－派遣先均等・均衡方式を中心として－」季刊労働法272号（2021年）ほか
＜社会貢献活動＞
・2024年から神奈川県労働委員会公益委員（会長代理）
・2028年から2024年まで千葉県労働委員会公益委員　ほか。

【Outline (in English)】
1. Course Outline
The purpose of this course is to lecture on the basic principles and basic legal issues of Japanese labor law.
The outline is as follows:
- A. A Labor Contract Act;
- B. A case law concerning the Labor Contract Act;
- C. A Labor Standards Act;
- D. A Labor Union Act;
- E. A case regarding A to D above.

2. Learning Objectives
By the end of the course, students should be able to do the followings:
- A. Understand the legal domain shown in the "Class Outline" above and the related case law.
- B. You will be able to answer basic questions about the legal domain and related case law and slightly more difficult questions (work rule test /legal test advanced course level) shown in the above "Outline of class".
- C. You can answer the case questions (simplified bar examination questions) related to the legal domain and related judicial doctrine shown in the above "Outline of Class" in sentences.

− D. With the knowledge acquired in A to C, you will be able to actively participate in the developmental problems of labor relations with a legal mind.
3. Learning Activities Outside of Classroom
Lecture/Exercise（two-credits）
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
4.Grading Criteria /Policies
Your overall grade in the class will be decided based on the following:
− Term-end examination: 100%

LAW400TB（法学 / law 400）

刑事訴訟法（冬期スクーリング）

朝村　太一

カテゴリー：**冬期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**2群午前**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講手続き等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
犯罪捜査段階を含む刑事手続の概要を把握するとともに，刑事訴訟法の基本問題に関する判例・学説の考え方を理解する。

【到達目標】
刑事手続の流れを具体的な条文と結びつけて把握するとともに，刑事訴訟法の諸問題のうちの基本的なものについて，それぞれの問題の所在をつかんだうえで，これらに対する判例・学説の考え方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
講義形式で行う（必ず六法を持参すること）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	序論	刑事訴訟法とは
	捜査①	刑事手続の概観
		捜査法総論
		捜査の端緒
第2回	捜査②	被疑者の身体拘束
		供述証拠の収集・保全
第3回	捜査③	捜索・差押え
第4回	捜査④	その他の捜査処分
		被疑者の防御
		捜査の終結
第5回	公訴の提起	公訴提起に関わる諸原理
		訴訟条件
		公訴提起の手続
第6回	公判①	審判対象論
		訴因変更
第7回	公判②	公判の準備
		公判手続
第8回	証拠①	証拠法総論
		証拠の関連性
第9回	証拠②	自白法則
		伝聞証拠の意義
第10回	証拠③	伝聞例外
		違法収集証拠排除法則
第11回	裁判	公判の裁判
	上訴	公訴・上告
	非常救済手続	再審
第12回	試験とその講評	試験を行った上で，その講評を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
予習：あらかじめ，教科書をざっと通読しておくと，講義内容の理解が深まる。
復習：教科書や（必要があれば）参考文献を参照しつつ，講義内容を自分なりに整理して理解を深める。
本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
田中開ほか『刑事訴訟法〔第6版〕』（有斐閣，2020）

【参考書】
適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
第12回に実施する試験による（100％）。

【学生の意見等からの気づき】
（担当者変更により）特になし。

【Outline (in English)】
[Course of outline]
This course lectures the basic principle of the criminal procedurelaw.
[Learning Objectives]
The goal of this course is to understand the contents of case law and literatures on basic issues of criminal procedure.
[Learning activities outside of classroom]
Before /after each class, students are expected to spend 2hours to prepare for /review the lesson.
[Grading Criteria/Policy]
The overall grade will be based on the term-end examination(100%).

LAW400TB（法学 / law 400）

民事執行法（冬期スクーリング）

杉本　和士

カテゴリー：**冬期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**2群午前**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講手続き等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
・この講義では民事執行法及び民事保全法について学修します。民事訴訟法に関する基礎知識をすでに修得していることを前提に、民事上の権利の強制的実現とその機会確保という観点から、民事執行法及び民事保全法の規律する各手続がどのような性格を有しているのか、それぞれにおける諸概念がどのような意義を有しているのか、また、具体的に各手続がどのように運営されているのかについて理解することを目的とします。

【到達目標】
①民事執行法の理念と各手続の目的を理解する。
②強制執行手続の基本的な流れと基礎概念を理解する。
③民事保全法の理念と民事保全手続の概要を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
・この講義では、教員の配布する教材に沿って進行します。受講者が講義に出席するだけでなく十全な予習復習を行ってくることを前提として講義を行います。
・受講生には、講義期間中、適宜、講義内容に関するリアクションペーパーを提出してもらい、講義において、その内容を取り上げつつ全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス（講義の進め方等）／民事執行・民事保全の概要，民事執行手続の基本構造	ガイダンスを行った後、民事執行・保全制度の全体像及び強制執行手続の基本構造について学修する。
第2回	執行当事者と執行機関／強制執行の要件，債務名義・執行文の意義と役割	執行手続の主体である執行当事者と執行機関について、さらに、強制執行の要件、債務名義及び執行文の意義と役割について学修する。
第3回	請求異議の訴え／強制執行の対象財産と第三者異議の訴え	不当執行排除のための救済手続である請求異議の訴えについて学修する。
第4回	強制執行の対象財産とその調査、第三者異議の訴え	強制執行の対象財産についての考え方とその調査手続について概観した上で、第三者の責任財産に対する不当執行排除のための救済手段である第三者異議の訴えについて学修する。
第5回	不動産強制競売（1）―競売申立て、差押え・売却の準備	強制執行各論としての不動産強制競売手続につき、その開始段階の手続、競売申立て・競売開始決定・差押えを学修し、次いで売却の準備に関する規律を学修する。
第6回	不動産強制競売（2）―売却の条件、売却の手続・効果、配当	不動産強制競売手続における売却の条件に関する規律を学修した上で、売却の手続・効果、配当手続について学修する。
第7回	不動産強制管理，動産執行／債権執行（1）	不動産強制管理の概略を扱うとともに、動産執行について、その実際上の機能や実態の点を中心に学修する。債権執行について、特に金銭債権に対する強制執行を中心に採り上げて、民法における「債権総論」分野との関連性にも留意しつつ学修する。
第8回	債権執行（2）	債権執行について、特に金銭債権に対する強制執行を中心に採り上げて、民法における「債権総論」分野との関連性にも留意しつつ学修する。
第9回	非金銭執行	非金銭執行について、執行の態様を確認した上で、物の引渡し・明渡しの強制、作為・不作為の強制執行、意思表示の強制執行について学修する。
第10回	担保不動産競売，担保不動産収益執行	担保権実行手続について、強制執行手続と比較しつつ検討を行う。次いで、不動産に対する担保権実行としての担保不動産競売手続について学修する。さらに担保不動産収益執行について、従来、同様の機能を果たしてきた物上代位と対比しつつ検討する。
第11回	民事保全手続（1）	民事保全手続の目的や種類について学修し、次いで民事保全の審理手続についての基本的な性質を民事訴訟や民事執行と対比しつつ学修する。
第12回	民事保全手続（2）	民事保全手続の目的や種類について学修し、次いで民事保全の審理手続についての基本的な性質を民事訴訟や民事執行と対比しつつ学修する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・授業時間外の学習（予習・復習のほか、発展学習）に関する一般的な指示は初回ガイダンスで行うほか、各回の講義の際に指示します。
・なお、本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
・教科書は使用しません（講義時に配布する、教員作成の教材を用います）。

【参考書】
＜自習用教材＞
・和田吉弘『基礎からわかる民事執行法・民事保全法』（弘文堂、第3版、2021年）（※講義の文字起こしを元にしており、読みやすく、独習に適している）
・中野貞一郎（青木哲補訂）『民事執行・保全入門』（有斐閣、補訂第2版、2022年）（※独習に適した入門書の最新版）
・上原敏夫ほか『民事執行・保全法（有斐閣アルマ）』（有斐閣、第6版、2020年）（※標準的な内容のコンパクトな教科書）
・中西正＝中島弘雅＝八田卓也『民事執行・民事保全法』（有斐閣、第2版、2021年）（※応用的な内容を含む教科書）
＜判例集＞
・上原敏夫ほか編『民事執行・保全判例百選[第3版]』（別冊ジュリ247号）（有斐閣、2020年）（※学習用の判例集）
＜その他＞
・その他の参考資料・文献については、講義の際に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
・成績評価は、リアクションペーパー（40％）及び試験（60%）により行います。
・リアクションペーパーの提出等の詳細については、講義の際にお伝えします。

【学生の意見等からの気づき】
・特になし。

【学生が準備すべき機器他】
・特になし。

【その他の重要事項】
・この講義は、あらかじめ「民事訴訟法」について一通り学修を済ませ、その基礎知識を修得していることを前提として実施します。
・オフィスアワーとして、講義時間の前後において適宜質問を受け付けます。

【Outline (in English)】
This course introduces the principles of civil execution procedure to students taking this course.
The goals of this course are to
(1) obtain basic knowledge about the principles and proceedings of civil execution procedure.
(2) be able to understand and explain how to apply the principles and proceedings to the cases.
-Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
-Your overall grade in the class will be decided based on the following ;
Term-end examination: 60%and Reaction paper : 40%

POL200TB（政治学 / Politics 200）

政治学（冬期スクーリング）

佐賀　香織

カテゴリー：**冬期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**2群午前**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講手続き等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「政治」とよばれている活動は様々な意味で理解されてきました。「政治」をめぐる問いは古代より繰り返され、現代においても決着をみる定義はありません。広く定義するならば「権力をめぐる人間の営み」ということができるでしょう。
本講義は政治学の基礎概念を理解し、私たちが生きる社会における政治制度の理解を通して現代社会の課題を認識することが目的です。

【到達目標】
政治学の基礎概念を把握し、現在の政治状況で論じられている問題を本やメディアからの情報で知ったうえで、それらの問題に関して自ら考えることができるようになる知識の習得を目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
本講義では毎回事前に公開するレジュメに沿って進行します。特定の教科書はありません。自らニュースに多く接して、現在の政治問題として何が取り上げられているかを把握してください。
本講義では受講生によるディスカッション等アクティブラーニングを予定しています。テーマに沿って、毎回グループディスカッションも行う予定です。
また、リアクションペーパーを提出していただきます（計3回）。講義を通じて得た自分自身の気付きや変化を書いてください。翌日、リアクションペーパーのフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	政治とは何だろうか	政治不信、理想の政治について考える。 第1回　リアクションペーパー
第2回	戦後の日本政治	日本の政治過程を振り返り、政治学の基礎について学ぶ。
第3回	国家という枠組	国家を巡る概念について学ぶ。
第4回	政治体制	政治体制の分類について学ぶ。
第5回	民主化と近代化	近代化の3つの波について学ぶ。
第6回	民主主義における選挙	現代日本の政治参加について考える。 第2回　リアクションペーパー
第7回	政党と政治家	誰がどのような活動をしているのか
第8回	政治的弱者の存在	政治は本当に「みんな」のためのものか？ を考える。
第9回	官僚・政官関係	官僚・公務員の数はなぜ減らされ続けているのかについて考える。
第10回	メディア	メディア環境の変化と政治への影響について考える。 第3回　リアクションペーパー
第11回	地方自治	民主主義の学校について理解する。
第12回	全講義の振りかえりとグループワークのまとめ	グループワーク成果発表会 まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
「現代」や「今」起こっていることを授業では積極的にとりあげるので、自らニュースに多く接して、現在の政治問題として何が取り上げられているか把握するように努めてください。
本講義の準備・復習学習は各2時間を標準とします。
グループワークでの準備などが必要になると思います。また、グループワークの進行具合に沿って、自分のアイデアなどをまとめる作業を行ってください。

【テキスト（教科書）】
使用しない。レジュメを事前に公開します。

【参考書】
上神貴佳、三浦まり編『日本政治の第一歩「新版」』有斐閣、2023。

【成績評価の方法と基準】
筆記試験（60％）、リアクションペーパー(20％)、グループワーク(20％)。
グループワークは平常点の対象となります。積極的に参加してください。
なお筆記試験の試験範囲は全講義が対象となります。
筆記試験はレポート課題（1,500～2,000字程度)を予定しています。レポートは期日までにメール提出となります。レポート課題及び期日は、第12回終了時に提示します。

【学生の意見等からの気づき】
新しい時代の流れに即したアクティブラーニング方法について検討していきたいと考えています。

【学生が準備すべき機器他】
ＰＣを持参できる方は持参してください。グループワーク

【その他の重要事項】
オフィスアワーは授業終了直後に行います。希望者は申し出てください。

【Outline (in English)】
What is a political definition? According to the definition it would be possible to say that dispute over human behavior. This lecture understands a basic concept of political science and a political system in the society.
【Learning activities outside of classroom】
Your study time will be more than four hours for a class. Also, according to the progress of the group work, please do things such as putting together your own ideas.
【Grading Criteria /Policies】
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Term-end examination: 60%、Short reports : 20%、in class contribution: 20%

LAW200TB（法学 / law 200）

物権法（冬期スクーリング）

伊藤　栄寿

カテゴリー：**冬期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**2群午後**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講手続き等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この講義では、民法の中でも、物に対する権利を定めている「物権法」と呼ばれる部分（担保物権法を除く）、すなわち、民法第2編物権の第1章から第6章について学ぶ。

【到達目標】
物権法の基本的知識を身につけ、説明することができるようになることを目指す。とりわけ、物権と債権の違い、物権の効力、対抗要件主義、占有制度、所有権の内容、用益物権の内容について、理解し説明できるようになることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
基本的に、テキストに従って講義形式で行うが、受講生に発言を求めることもある。学生の発言や質問に対するフィードバックは、授業内で行う。
レジュメは「学習支援システム」に掲載する。紙媒体での配布は行わない。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス、物権的請求権	物権法とは何か、物権的請求権
第2回	物権変動序説、対抗問題	物権変動とは何か、民法177条
第3回	取消・解除と登記	取消と登記、解除と登記
第4回	相続・時効と登記	相続と登記、時効と登記
第5回	177条の第三者論	177条の第三者に含まれる者
第6回	不動産登記、動産物権変動	不動産登記制度、民法178条、動産譲渡登記制度
第7回	即時取得	即時取得制度
第8回	占有権	占有権の意義、効力
第9回	所有権	所有権の内容
第10回	相隣関係、用益物権	相隣関係制度、用益物権
第11回	共有関係	共有者の内部関係、外部関係、共有物分割、区分所有
第12回	授業内試験と解説	授業内での試験、試験の解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
事前にテキストの該当部分を読み、授業後には、知識の定着を図る為の復習を行う。予習・復習時間は、各2時間（合計4時間）を標準とする。
履修に当たって、民法総則の基本的知識を習得済であることを前提として授業を進める。

【テキスト（教科書）】
秋山靖浩ほか『NBS物権法（第3版）』（日本評論社、2022年）

【参考書】
潮見佳男＝道垣内弘人編『民法判例百選Ⅰ総則・物権（第9版）』（有斐閣、2023年）

【成績評価の方法と基準】
定期試験による（100％）

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
レジュメ配布には「学習支援システム」を利用する（紙での配付は行わない）。

【Outline (in English)】
【Course outline】
In Property Law, students learn about basic knowledges and systematic understandings of Property law.
Also, students train legal thinking slills.
【Learning Objectives】
The goal of this course is to enable students to understand and explain each theme described in the "Class Plan" below.
【Learning activities outside of classroom】
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
【Grading Criteria /Policies】
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Term-end examination: 100%.

LAW400TB（法学 / law 400）

民事訴訟法（冬期スクーリング）

廣尾　勝彰

カテゴリー：**冬期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**2群午後**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講手続き等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では，民事訴訟法（平成８年６月２６日法律第１０９号）第２編第５章に規定されている「判決」および同法同編第６章に規定されている「裁判によらない訴訟の完結」について，その要点を解説します。
本授業の目的は，「判決」および「裁判によらない訴訟の完結」に関する民事訴訟法上の基本ルールをしっかりと学ぶことです。

【到達目標】
本授業の到達目標は，①判決の種類，②判決の成立と確定，③判決の効力の種類，④既判力の範囲，⑤確定判決の変更・取消しを求める訴え，⑥裁判によらない訴訟の完結について，それぞれの要点を書面または口頭で正確に説明できるようになることです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
講義形式の授業です。
ただし、適宜、授業中に質疑応答も実施します。
なお、課題等に対するフィードバックは授業中に行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の概要と目的，到達目標，授業の進め方と方法，授業計画，授業時間外の学習，テキスト，参考書，成績評価の方法と基準について説明します。
第2回	民事訴訟法の全体像	民事訴訟法の全体像について，その要点を説明します。
第3回	民事訴訟の基本構造	民事訴訟の基本構造について，その要点を説明します。
第4回	判決の種類	民事訴訟法第２４３条から第２４５条までについて，その要点を説明します。
第5回	判決の成立と確定	民事訴訟法第１１６条および第２５０条から第２５５条までについて，その要点を説明します。
第6回	判決の効力の種類	判決の効力の種類について，その要点を説明します。
第7回	既判力の範囲①	民事訴訟法第１１４条について，その要点を説明します。
第8回	既判力の範囲②	民事訴訟法第１１５条について，その要点を説明します。
第9回	確定判決の変更・取消しを求める訴え	民事訴訟法第１１７条および第３３８条から第３４８条までについて，その要点を説明します。
第10回	裁判によらない訴訟の完結①	訴えの取下げ，請求の放棄または認諾について，その要点を説明します。
第11回	裁判によらない訴訟の完結②	訴訟上の和解について，その要点を説明します。
第12回	まとめ，試験	授業全体のまとめをしたあと試験を実施します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
六法を参照しながら，テキストの該当箇所を繰り返し読んでください。
なお、本授業の準備・復習学習は各２時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
『民事訴訟法』第７版（有斐閣Ｓシリーズ）、上原敏夫・池田辰夫・山本和彦、有斐閣、2017年、￥1,700＋税

【参考書】
『民事訴訟法判例百選』第６版、高田裕成・畑瑞穂・垣内秀介編、有斐閣、2023年、￥2,800＋税

【成績評価の方法と基準】
試験（１００％）
なお，成績評価の際は上記の到達目標を指標とします。

【学生の意見等からの気づき】
とくにありません。

【Outline (in English)】
【Course outline】
In this class, the main points of "Judgment" and "Conclusion of Litigation Other Than by Judicial Decision" stipulated in the Civil Procedure Code (Law No. 109 of June 26, 1996) will be explained.
【Learning Objectives】
The purpose of this lesson is for students to learn the basic rules of the Civil Procedure Law concerning "Judgment" and "Conclusion of Litigation Other Than by Judicial Decision".
【Learning activities outside of classroom】
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
【Grading Criteria /Policy】
Grading will be decided based on the term-end examination (100%).

LIT200TC（文学 / Literature 200）

日本文芸史Ⅱ（冬期スクーリング）【オンライン】

康　潤伊

カテゴリー：**冬期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**1群午前**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講手続き等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、日本文学の歴史を学びます。特に戦後から現代を対象とします。また、いわゆる「日本文学」だけではなく、日本語で書かれたマイノリティの文学についても取り扱います。

【到達目標】
1.戦後の文学史のおおまかな流れを理解する。
2.評価の定まりきっていない文学作品も、時代背景や他の作品との関連性から、文学史的意義を考察する視点の基礎を持つ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
基本的には講義形式で進めます。オンライン授業でも双方向性を一定程度担保するために、随時ZOOMのチャット機能を用いて簡単なコメントや意見、質問を求めることがあります。
また、2日目と4日目に、リアクションペーパーの提出を求めます。リアクションペーパーは匿名で授業中に紹介し、フィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス／敗戦直後の文学状況	授業の進め方や「文学史」という枠組みについて／敗戦直後の文学状況
第2回	戦後文学の始まり１	第一次戦後派等
第3回	戦後文学の始まり２	三島由紀夫と安部公房の位置等
第4回	1960～70年代の文学状況	第三の新人と「内向の世代」等
第5回	1980～90年代の文学状況	島田雅彦、中上健次、村上春樹等
第6回	周縁的な者たちの文学史１	在日朝鮮人文学
第7回	周縁的な者たちの文学史２	沖縄文学
第8回	女性たちの日本文学史１	1950年代から1970年の女性文学
第9回	女性たちの日本文学史２	1980年代から現在に至る女性文学
第10回	日本語文学と芥川賞１	日本語文学という概念について／2000年代以降の日本語文学と芥川賞
第11回	日本語文学と芥川賞２	2010年代以降の日本語文学と芥川賞
第12回	授業のまとめ・試験	ここまでの内容をまとめ、最終試験を行います

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特になし

【参考書】
奥野健男『日本文学史―近代から現代へ―』中公新書
中村光夫『日本の現代小説』岩波新書
斎藤美奈子『日本の同時代小説』岩波新書

【成績評価の方法と基準】
最終試験60％、リアクションペーパー20％、平常点（授業中のチャットを用いたコメント等）20％で評価します。

【学生の意見等からの気づき】
本年度新規科目のため、特になし。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムとZoomに接続できる環境と情報機器

【Outline (in English)】
In this class, we will learn the history of Japanese literature. The focus is particularly on post-war and modern times.

BSP100TC（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）

リポート作成基礎講座（冬期スクーリング）

関口　雄士

カテゴリー：**冬期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**2群午前**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講手続き等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
リポートの作成に必要な考えかた・ルール・資料の探しかたを基礎から学び、実習をとおして身につけることを目的とします。

【到達目標】
1：リポートの作成に必要な考えかた・ルールを理解する。
2：リポートの作成に必要な資料の探しかた・使いかたを理解する。
3：1・2を踏まえて実際にレポート作成をおこなうことで、論文作成の基礎となる力をつける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
1：各回テーマにあわせた内容を講義形式で学びます。
2：講義で学んだ内容をもとに実習をおこないます。
3：実習した内容に適宜フィードバックをおこなうことで理解を深めます。
授業内で実習を複数回おこなうため、たいへんだとは思いますが、実際にやってみることで身につくものは多いので、がんばりましょう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	リポート作成の基礎①	授業内容のガイダンス・リポート執筆の基本的な規則や考えかたを学ぶ
第2回	リポート作成の基礎②	第1回内容の質疑応答と実習
第3回	資料の使いかた①	引用に関するルールを学ぶ
第4回	資料の使いかた②	第3回内容の質疑応答と実習
第5回	資料の探しかた①	大学図書館の利用方法を学び、実際に使う
第6回	資料の探しかた②	インターネットを利用した文献検索を学び、実際に使う
第7回	学術的文章の考えかた①	事実と意見の分けかたを学ぶ
第8回	学術的文章の考えかた②	テーマの決めかたを学ぶ
第9回	学術的文章の読み書き①	文献の要約を学ぶ
第10回	学術的文章の読み書き②	段落構成と読みやすい文章について学ぶ
第11回	リポート作成実習①	学習内容のまとめと質疑応答・参考文献紹介
第12回	リポート作成実習②	準備してきた内容をもとにリポートを実際に作成する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。
各回の授業で学んだ内容は必ず復習をしてください。
初回授業の前にHoppii（学習支援システム）で事前に指示する内容でリポートを作成・提出してもらいます。
また、最後のリポート作成実習のために、初回から授業最終日のあいだに下書きを準備する必要があります。

【テキスト（教科書）】
指定の教科書はありません。適宜プリントを配布します。

【参考書】
授業内で単元ごとに紹介します。
また、第11回授業で参考文献紹介プリントを配布する予定です。

【成績評価の方法と基準】
第1～10回授業内での実習内容を50％、第12回で作成したリポートを50％とします。
全回出席を前提とします。

【学生の意見等からの気づき】
本年度新規科目につきアンケートを実施していません。

【学生が準備すべき機器他】
①事前の課題提出や授業に関する連絡のためにHoppii（学習支援システム）を使用します。
②第5・6回授業では図書館とオンラインデータベースを使うので、ライブラリーカードをあらかじめ作成しておいてください。
③いくつかの単元でパソコンを使用します。授業は情報実習室でおこなうためパソコンはありますが、普段使い慣れているパソコンがあればそちらを使ってもよいです。なお、その場合は、授業時に使用するＯＳはWindowsですので留意してください。

【Outline (in English)】
The objective of this course is to learn the basics of how to think, follow the rules, and search for materials necessary for writing a report, and to acquire these skills through practical training.

BSP300TC（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 300）

卒業論文作成講座（冬期スクーリング）

園　明美

カテゴリー：**冬期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**2群午前**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講手続き等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
卒業論文の作成は、日本文学科における学業の集大成となるものである。その作成にあたっては、「論文」というものがいかなるものかを理解した上で、十分な準備を行うころが必要となる。本科目では、論文の構造を理解した上で、執筆の準備段階におけるテーマ設定・データ分析・調査方法の方法や、基礎作業となる先行研究の検索方法と、収拾した文献の活用方法などについて、実習を通じて学ぶ。

【到達目標】
１．論文の基本構造を理解する。
２．卒業論文作成にあたって、それぞれの段階で必要な作業を理解する。
３．レポート、論文を執筆する上で、先行研究を踏まえることの重要性を理解する。
２．インターネットを利用し、先行研究（研究書、雑誌論文）の検索方法を習得する。
３．先行研究の引用方法と、研究書、雑誌論文名の記載方法を習得する。
４．大学図書館等の専門図書館の活用方法について理解する。
５．収集した先行研究の整理・利用法を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
卒業論文を作成する上で、テーマ設定の方法・形式を整えることや先行研究を踏まえることの重要性・それぞれの段階における必要な作業について講義と例題を用いた実習によって理解する。
また、法政大学図書館の利用方法を実地で習得するとともに、情報自習室において、インターネットを利用した先行研究の検索方法及び収集した文献の利用方法等も実習形式で学ぶ。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	卒業論文執筆に向けて（１）	良い論文を書くために大切なことは何か考える。
第2回	卒業論文執筆に向けて（２）	テーマ設定の重要性を理解し、実際に行ってみる。
第3回	卒業論文執筆に向けて（３）	論文の形式・基礎文献となるテキストの選定や辞書の種類や利用法について理解する。
第4回	大学図書館を利用しよう	法政大学図書館の利用ガイダンスを行う。
第5回	卒業論文執筆に向けて（４）	インターネット上に公開されたデータベースを利用した文献検索の方法を理解する。
第6回	卒業論文執筆に向けて（５）	実習を通して、実際に文献を検索してみる。
第7回	卒業論文執筆に向けて（６）	収集した先行研究（研究書・雑誌論文）の整理・活用法について理解する。
第8回	卒業論文執筆に向けて（５）	第６回授業で取得した文献を用いて実際に整理方法を実習してみる。
第9回	卒業論文執筆に向けて（８）	文献の引用と表記の方法を学ぶ。
第10回	卒業論文執筆に向けて（９）	収集した先行研究（研究書・雑誌論文）を利用して論文を執筆する際の基礎的な手順を理解する。
第11回	卒業論文執筆に向けて（１０）	卒業論文第１次指導・第２次指導を受ける際の注意点を理解する。
第12回	総まとめの解説と試験	第１回～第１１回までにの内容に関する総まとめを行い、習得度を測る試験を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。
なお、習熟度を上げ、授業内容をしっかり理解するためにも、受講前に自分が卒業論文で扱う内容（作品・作者・時代・ジャンルなど）を明確にしておくこと。

【テキスト（教科書）】
『日本文学科のしおり』

【参考書】
なし。（授業の中で、適宜必要な文献を紹介する。）

【成績評価の方法と基準】
試験70％、授業中に提示する課題の完成度30％の配分で評価を行う。
なお、この授業は実習を伴う科目であるため、原則として途中での欠席は認められない。

【学生の意見等からの気づき】
本年度新規科目につきアンケートを実施していません。

【学生が準備すべき機器他】
情報実習室でパソコンを利用して行う。
なお、パソコンは、教室備え付けの物を使用するので、持参する必要はない。
なお、授業内で提示する課題の中には、学習支援システムから提出すべきものが含まれる。

【その他の重要事項】
本科目は、卒業論文で扱う扱う内容（作品・作者・時代・ジャンルなど）が明確になっている学生を対象とする。
なお、第１次指導を受講している場合も、講義内容には受講前の注意点に関する内容が含まれることを了承されたい。
また、基本的なパソコンの操作（インターネット・ワープロ機能）能力を必要とする。

【Outline (in English)】
This course introduces to writing method of the graduation thesis students taking this course.
By the end of the course, students should be
able to do the following:
· Understand the tasks required to write a thesis.
· Look for literature cited on the Internet.
· Evaluate major studies in terms of their methods, results, conclusions and implications.

LIT100TC（文学 / Literature 100）

日本文芸研究特講・漢文（冬期スクーリング）

永井　弥人

カテゴリー：**冬期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**2群午後**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講手続き等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
現代ではほぼ廃れてしまいましたが、戦前までは、尚盛んに漢文が実作されておりました。江戸の遺風が存していた、ということでしょう。今期夏スクでは、井上寅軒が物した九州旅行記『鴻爪餘錄』（大正１５年発行）を扱います。漢学の専門家ではなく、実業界の方の手に成る著作ですが、それだけに、判りやすい漢文で書かれています。また、国内旅行記ですので、親しみを覚える内容なのでは、と思います。※ 毎授業、復文練習を行います。字数を決めた上で、書き下し文を原文に戻すという、古来の稽古法です。江戸、明治の頃、漢作文向けの導入的練習として、大いに励行されておりました。現在におきましても、復文練習の実践により、句形・句法を理解する上で、大きな効果を見込むことが出来ます。

【到達目標】
訓点・添え仮名（送り仮名）付きの漢文を読解出来る様にする。漢文の基本的な句法（文法）を理解する。簡単な復文に習熟する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「日本文学科：DP1,DP2」「史学科：DP1,DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
１復文の答え合わせと解説。２テキストを講師が朗読。３テキストの解説、訳。４全員で朗読。※授業中のご質問は、解説の切れ目辺りでお願い致します。授業後、ご質問下さっても勿論大丈夫です。※毎次、前回分の復習を致します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	テキスト及び復文全般、及び復文Ｉの解説　西郷南洲故宅（前半）	西郷隆盛の故居をめぐる紀行文（前半）
第2回	西郷南洲故宅（後半）	西郷隆盛の故居をめぐる紀行文（後半）
第3回	復文１答え合わせ・解説　川口雪蓬(前半)	西郷隆盛の旧友川口雪蓬をめぐる紀行文(前半)
第4回	川口雪蓬（後半）	西郷隆盛の旧友川口雪蓬をめぐる紀行文（後半）
第5回	復文２答え合わせ・解説　甕府所見（上）	鹿児島をめぐる紀行文（上）
第6回	甕府所見（中）	鹿児島をめぐる紀行文 （中）
第7回	復文３答え合わせ・解説　甕府所見（下）	鹿児島をめぐる紀行文 （下）
第8回	青島(上)	青島神社をめぐる紀行文(上)。
第9回	復文４答え合わせ・解説　青島（下）	青島神社をめぐる紀行文（下）
第10回	鵜戸(上)	鵜戸神宮をめぐる紀行文(上)。
第11回	復文５答え合わせ・解説　鵜戸(下)	鵜戸神宮をめぐる紀行文(下)
第12回	試験および授業内容の振り返り	前半は各自授業内容の振り返り含質疑応答。後半１時間で試験実施。 持ち込み不可。※①如何なる問題が出るか。②それぞれの問題の出題箇所。①、②については、スクーリング第５回目、教場にて説明致します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
２時間程。毎回、復文の解答を作成しておいて下さい。また、その日学習した文章を一度でよいので読み返し、翌日扱う文章に一 通り目を通しておいて下さい。

【テキスト（教科書）】
『鴻爪餘錄』コピーを配布。（講師が訓点と送り仮名を付けたもの。）

【参考書】
漢和辞典 お手持ちの物で結構です。新しくお買い求めになる場合は、新明解 (三省堂) 漢字源 (学研) 新字源 (角川) 辺りがお勧めです。文法書 『漢文を読むための助字小字典』内山書店

【成績評価の方法と基準】
試験 70 % 平常点 30 %

【学生の意見等からの気づき】
前回のスクーリング時に寄せられたコメントを参考に致します。

【その他の重要事項】
※ 実際の授業進度は、多少遅速が生じる可能性があります。早めにテキストの予定箇所を学習し終えた場合には、続きの文章に進みます。

【Outline (in English)】
The aim of this course is to help students acquire the reading skill in classical Chinese. —

ART200TC（芸術学 / Art studies 200）

日本美術史（冬期スクーリング）

山本　ゆかり

カテゴリー：**冬期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**2群午後**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講手続き等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
縄文時代から江戸時代までの日本美術の歴史を学習します。美術は権威の象徴として、信仰の対象として、あるいは暮らしを彩るために、人々の心を楽しませるために、長い歴史のなかで育まれてきました。先人の生み出した多様な造形を手がかりに、日本文化の成り立ち、そこに宿る特質、美術を通して見えてくる歴史を学びます。

【到達目標】
①日本美術の歴史に対する基礎的な理解。
②「美しい」と評されてきた美術作品を鑑賞することで、「美しさ」に対する感性を育む。
③美術について感じたことを、自分の言葉で語れるようになる。
上記を学習目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「日本文学科：DP1, DP2」「史学科：DP1, DP3、DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
講義形式で、パワーポイントを使用したデジタル画像による作品解説を中心に授業を進めます。またリアクション・ペーパーの提出を課し、授業でフィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス、縄文、弥生、古墳文化（ものを飾る―日本美術史のはじまり）	ガイダンス、および日本美術史のはじまりについて解説。
第2回	飛鳥、白鳳、天平文化（仏教美術）	6世紀に日本へ仏教が伝来して以後、仏教文化圏に入ってからの日本の美術について。
第3回	平安文化１（仏教美術）	重厚な仏像から繊細な仏像へ、平安期の仏教美術の展開について。
第4回	平安文化２（絵巻）	絵で長大な物語や説話を表現する絵巻について。
第5回	鎌倉文化（運慶と仏教美術）	運慶を中心とした迫真的な鎌倉彫刻について。
第6回	室町文化（水墨画）	中国から日本にもたらされたモノクローム絵画世界・水墨画について。
第7回	桃山文化（狩野派）	狩野派作品を中心に、戦国武将が好んだ壮大な襖絵や屏風について。
第8回	桃山・江戸文化（風俗画）	身近な暮らしを題材とする風俗画の成立と展開について。
第9回	江戸文化１（浮世絵１）	江戸庶民の文化・浮世絵の誕生と初期の展開について。
第10回	江戸文化２（浮世絵２）	錦絵（多色摺木版画）誕生以後の浮世絵の展開について。
第11回	江戸文化３（琳派：俵屋宗達・尾形光琳）	宗達や光琳など琳派の“デザイン”に視点をおいた美術について。
第12回	江戸文化のまとめ、試験	さまざまな江戸文化の解説。試験の実施。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
参考書を授業の予習復習に活用し、特に授業を振り返り、自身が抱いた思いや印象などを書き留めるなど、復習を充実させてください。また授業外の時間に美術館、博物館、寺院などに積極的に行き、実際の美術を自身の目で確かめてください。授業時間外の学習は予習復習各2時間を基本とします。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しません。授業時にプリントを配布します。

【参考書】
『カラー版　日本美術史　増補新装』（美術出版社、2003年初版、1,900円+税）
辻惟雄『日本美術の歴史』（東京大学出版会、2021年初版、2,800円+税）
山下裕二・高岸輝『日本美術史』（美術出版社、2014年、3,200円+税）
※上記三冊は日本美術史全般を概観する参考書です。
日高薫『日本美術のことば案内』（小学館、2003年初版、1,800円+税）
田辺昌子『浮世絵のことば案内』（小学館、2005年初版、1,800円+税）
※上記二冊は日本美術史の用語の解説から理解を深める参考書です。新版の流通はないので、図書館か古書で見てください。

【成績評価の方法と基準】
リアクション・ペーパーの提出と内容　30％
最終時限の試験　60％
平常点　10％

【学生の意見等からの気づき】
受講生の皆さんからの意見を取り入れながら授業を進めます。

【Outline (in English)】
Students learn a Japanese Art History from the Jomon period to the Edo period in this course.
At the end of this course, students get basic understanding of Japanese art history, and improve the aesthetic of arts.
Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.Your overall grade in the class will be decided based on the following Term-end examination: 60%, Short reports: 30%, in class contribution: 10%

ART300TC（芸術学 / Art studies 300）

西洋美術史（冬期スクーリング）

濱西　雅子

カテゴリー：**冬期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**2群午後**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講手続き等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

美術史は、時代・社会・文化の鏡ともいえる芸術作品を巡る学問である。授業では、古代から20世紀にかけての時代の、建築・彫刻・絵画・工芸等多様な表現形式をとる西洋の美術作品について考察するなかで、その造形的表現の特質を学ぶ。

【到達目標】

西洋美術の名作について、図像(主題・内容)、(時代・地域・個人)様式、技法、造形的表現の特質、美術史上の意義といった美術史的な観点から、総合的に理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「日本文学科：DP1, DP2」「史学科：DP1, DP3、DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

一昨年度の冬期スクーリングでは、（キリスト教）図像を中心に授業を進めたが、今回のスクーリングでは、（時代）様式を軸に講義を行う。

Google Classroomとは Google社のオンライン授業システムである。Gmail や Google Drive等と連携しており、動画・画像・文書ファイル等各種資料の安全な配布、小テスト、ストリーム（掲示板）での意見交換や質疑応答、課題の回収等、様々な機能を備えており、現在数多くの教育機関で用いられている。今回の冬期スクーリングは対面授業であるが、資料配布や小テスト等にこのGoogle Classroomを使用する（ただしコンピューターやスマホが使用できない状況等の事情がある場合は、適宜対応する）。

・資料配布は、原則としてGoogle Classroomを介したGoogle Drive上で行う。

・授業のポイントについては、Google Classroom 経由の Google Formsで学期末小テストを行い、理解度を確認することができるよう配慮する。採点結果は即時通知する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	序、古代ギリシア・ローマ	授業全般の説明、美術史の方法論、《パルテノン神殿》
第2回	初期キリスト教・ビザンティン初期中世	《サン・ヴィターレ聖堂》《アーヘン宮廷礼拝堂》
第3回	ロマネスク	《サンティアゴ・デ・コンポステーラ大聖堂》
第4回	ゴシック	《シャルトル大聖堂》
第5回	イタリア・ルネサンス マニエリスム	ラファエロ《アテネ(アテナイ)の学堂》
第6回	北方ルネサンス	ホルバイン《大使たち》
第7回	バロック ロココ	レンブラント《夜警》ヴァトー《シテール(キュテラ)島の巡礼》
第8回	新古典主義 ロマン主義 写実主義	ダヴィッド《皇帝ナポレオンの聖別式と皇妃ジョゼフィーヌの戴冠》フリードリヒ《山上の十字架》ミレー《落ち穂拾い》
第9回	印象主義	モネ《睡蓮の池（日本の太鼓橋）》
第10回	後期印象主義	ゴッホ《タンギー爺さんの肖像》
第11回	アール・ヌーヴォー 20世紀	クリムト《アデーレ・ブロッホ＝バウアーの肖像Ⅰ》モンドリアン《赤、黄、青のコンポジション》
第12回	ヨーロッパの美術館、まとめ	ヨーロッパの美術館とその所蔵作品についての紹介、小テスト等

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

まず通史概説書を通読し、西洋美術史の全体的な枠組み、大まかな流れを掴み、基本を押さえておくこと。予習として、【授業計画】に記載されている、各回の授業で取り扱う主要作品を中心に、図像内容、（時代・地域・個人）様式等について、専門書や配布資料等で確認し、自分の考えをまとめる(各回二時間程)。復習として、授業で取り扱った主要作品を中心に、授業中のディスカッションや解説を踏まえつつ、図像内容、（時代・地域・個人）様式、技法、造形的表現の特質といった美術史的な観点から総合的な理解を深める(各回二時間程)。

また冬期スクーリングは最終課題リポートの準備期間が短いため、下記を参考に事前にある程度の準備をしておくことが望ましい。

＜インターネットによる検索について＞

●検索対象：

インターネット検索の際は、専門家以外の人物の記述物（Wikipedia、個人のBlogやHP等）を参照することは厳禁とする（部分的にも利用した場合は、評価の対象外）。大学の紀要論文等、「西洋美術史・西洋建築史」の専門家による学術論文や、美術館の公式HPの専門家による解説等を参照すること（他分野の専門文献は基本的に不可。ただし文学の専門家の論文は、美術史的な観点からも詳細に論じているものは可。なお斎藤氏によるラファエロ関連論文や、一条氏によるレオナルド関連論文等、医学等の専門家による、題目からは判断が難しい文献には特に注意すること）。参考文献の著者は、「氏名 研究者情報」等のキーワードで検索し、美術史(ないし建築史)の専門家かどうかよく確認してから参照すること。また、田中氏等の博士論文の要旨、学会の大会報告、科学研究費助成金の報告書等、美術史の専門家によるものであっても「論文の本文」でない場合も参照不可。

●検索先：

1. IRDB（学術機関リポジトリデータベース） IRDB検索画面：https://irdb.nii.ac.jp/（「学術機関リポジトリ」とは、大学等学術研究機関における教育・研究活動等の成果物を収集し，電子的形態による恒久的な蓄積・保存を行い、ネットワークを通して学内外に無償公開・還元するシステム。なお IRDB 検索では、左の「すべて」ではなく、右の「本文あり」の方をクリックしてから検索をかけると、本文が公開されている論文のデータが検索可能。）

2. CiNii（サイニー、サイニィ、サイニイ）国立情報学研究所の論文情報データベース CiNii 検索画面： https://ci.nii.ac.jp/ja

3. Googl 等での検索（論文でないものも検出されるので要注意。キーワードの「論文」に傍線が引かれて「含まれない」表示が、最後の行に出ていたら不可）

●検索キーワード：

1.「画家名」（よくある名前の場合、ファーストネームのイニシアルも入れる。例：C. D. フリードリヒ） 2.「作品名」3.「論文」4. その他（よくある名前の場合等）「美術」といった分野名等、各自様々に工夫をこらし検索をかける。

＜ネット公開論文ではなく実物の文献(本・論文)を参照する場合の注意事項＞

実際に用いた文献データは、参照ページを含め、文末の参考文献表に表示し、添付する必要があるので控えておくこと（専門誌掲載論文の場合は、著者、論文のタイトル、掲載誌名、号数、発行年、参照ページの順で記載する。書籍の場合は、著者名、書名、出版社名、発行年、参照ページの順で記載する。詳細については、授業で解説する）。

またネット公開論文ではなく、実物の文献(本・論文)を参照する場合は、参照した部分(実物でもコピーでも可)をスマートフォンやデタルカメラで撮影し、Word文書の最終課題リポートの末尾に、参考文献表とともに張り付けて提出する必要があるため、図書館等で参照する際には、本の基本データとともに、必ず参照ページの画像記録（テキスト部分、図版部分、ページ番号部分も欠けないように）も取っておくこと。

＜最終課題リポートについて＞：
●リポート全体の注意事項：
授業で取り扱った作品（授業内で考察課題とされた作品、ないし配布資料に掲載された作品）の中から気に入った一つの作品を選択し論考する。ただし、以前「西洋美術史」の試験やリポートで詳しく論じた作品は選択不可。
下記各項目を含め、選択した作品の基本データ（制作者名・作品名・制作年代・素材・大きさ・所蔵先等）や時代様式の特徴を踏まえた上で、図像内容、（時代・地域・個人）様式、技法、造形的表現の特質といった美術史的な観点から、2000字以上かけて総合的に論じること。
画家の伝記や、複数の作品についてではなく（比較にために少し言及するのは可）、一つの作品について論考する。
●提出期限： 2025年1月31日(金) 16:30（最終授業終了10分前）
●提出先、メールの件名、提出ファイル名： 法政大学のアカウントで、授業担当教員宛(masako.hamanishi.47@hosei.ac.jp) にメールの添付ファイルとして送付すること (法政大学アカウントのメールアドレス以外は不可)。メールの件名および提出ファイル名は、【授業出席番号　名字　作品名】とすること（例：1番　法大　洗礼者ヨハネ）。
●提出形式：
・出来る限りWord（ないしPDF）で提出。Google Documentは出来れば避ける。
・スマホのみ利用可能で文書の作成が難しい場合は、手書き文書を写メり（写真は印刷用に、スマホカメラで撮影可能な最大サイズ、最高画質で撮影）提出すること。
・コンピューター、スマホ、デジカメすべて利用不可な場合は、要相談。
●リポート表紙に表示する事項：
・授業名、提出日
・授業出席番号（採点整理のためこの授業限定で発行する番号。初回授業時に連絡する。）
・学科、学年、学生証番号、氏名
・選択した作品の（できれば解像度の高いカラー）図版とその図版出典（図版に関してのみ、Wikipedia、個人のBlogやHP等の参照可。アドレスないし文献データ参照元も明記すること。）
・選択した作品の基本データ（制作者名・作品名・制作年代・素材・大きさ・所蔵先等）
●リポート文末に表示する事項（参考文献表、参照ページの画像）：
・総字数（Word→「校閲」→「文字カウント」→「総文字数（スペースを含めない）」、Word以外→ 一行何文字×何行＝何文字）（例：40文字×55行＝約2200字）
・参考文献表（実際に用いた文献の参照ページを含めたデータ
・実物の文献(本・論文)を参照した場合は、参照したページの画像（テキスト部分、図版部分、ページ番号部分も欠けないように）リポートWord文書の末尾に張付け提出すること。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しない。下記の参考書等を参照すること。

【参考書】
＜通史概説書＞
高階秀爾監修『増補新装 カラー版 西洋美術史』 美術出版社　2002年　(2,090円)
H. W. ジャンソン他著　木村重信他訳『西洋美術の歴史』 創元社　2001年　(3,740円)
＜美術辞典類＞
諸川春樹監修『西洋絵画の主題物語・1 聖書編』 美術出版社　1997年　(絶版)
諸川春樹監修『西洋絵画の主題物語・2 神話編』 美術出版社　1997年　(絶版)
柳宗玄、中森義宗編『キリスト教美術図典』 吉川弘文館　1990年　(9,460円)
J. ホール著　高階秀爾監修訳『西洋美術解読事典』 河出書房新社　2021年　(4,345円)
『新潮世界美術辞典』 新潮社　1985年　(絶版) 等
＜美術全集＞
『世界美術大全集』西洋編 全28巻　小学館　1992-97年（各30,800円）等
その他、画家別の画集、時代様式や作品について一冊論じられた専門書等を参照すること。

【成績評価の方法と基準】
・平常点 30％、学期末小テスト30％、最終課題リポート40％で、上記到達目標に照らした各回の授業の理解・習熟度を総合的に評価する。
・最終課題リポートでは、西洋美術史の専門文献で得た知識を基に深く考察を行い、美術史的な観点から総合的に論ずる力を見る。

【学生の意見等からの気づき】
映像機器を多用すること等から、外濠校舎教室の使用が望ましい。

【学生が準備すべき機器他】
スライドショーの際、暗くてメモが取りにくい場合は、各自ペン型ライトを持参すること。
また単眼鏡等を用意すると、画像をより鮮明に詳細まで見ることができる。
なお、Google Classroomを使用するための準備もしておくこと（下記【その他の重要事項】参照。ただし、コンピューターやスマホが使用できない状況等の事情がある場合は、適宜対応する）。

【その他の重要事項】
＜各種アプリとセキュリティソフトについて＞
スマホのみ利用する場合や、PCの不具合時にスマホを利用する場合に備えて、あらかじめ各種無料アプリ（Google Chrome、Google Classroom、Google Drive、Gmail、Google Calendar等）をダウンロードし、その上で、それぞれのソフトウェアに大学のアカウントで一度ログインをしておくこと（例えばGoogle Driveを入れていない場合、「ファイルが保護されています」と表示が出て、配布資料が閲覧できない）。なおGoogle Classroomへは、Google Chromeでアクセスすることが推奨されている（Microsoft EdgeやInternet Explorer利用時より安定するとのこと）。
また、クラス全体のセキュリティの観点から、特にスクーリング期間中は、受講の際に用いる各種端末に（30日間の無料お試し版等でもよいので）セキュリティソフトを入れ、日々アップデートを行うこと。https://home.kaspersky.co.jp/store/kasperjp/ja_JP/html/pbPage.v20_trial/ThemeID.37143000
＜Google Classroomの使用方法について＞
Google社の公式ヘルプセンターをはじめ
https://support.google.com/edu/classroom/answer/6315899?co=GENIE.Platform%3DDesktop&hl=ja
下記サイト他、多くの教育機関関係者等も解説を公開しているので、各自検索・参照し、使用方法についてある程度おおまかに把握しておくこと。
http://sysnavi.bukkyo-u.ac.jp/use/uploads/326e5df35a149768c7281131a6270bcd2fab3f1c.pdf
https://www.youtube.com/playlist?list=PL-AMTOjkSDF-V9ZKo6DBVvDzEyVopdTgm

【Outline (in English)】
【Course outline】
Art History is an academic field surrounding works of art that can be said to be mirrors of times, society, and culture. In the lecture, studying the artistic expressions of Western art from the ancient to the twentieth century, considering Western art works taking various forms of expression such as architecture, sculpture, painting, crafts and so on.
【Learning Objectives】
By the end of the course, students should be able to comprehensively discuss masterpieces of Western art from the viewpoint of art history, such as iconographic content, (era /region /individual) style, technique, and characteristics of sculptural expression.
【Learning activities outside of classroom】

First, read through a general historical overview book to get a grasp of the overall framework and general flow of Western art history and get a grasp of the basics. As preparation, students will review the iconographic content, style (by period, region, individual), etc. of the main works covered in each class, as listed in the [Class Plan], using specialized books and handouts, and summarize their thoughts (about two hours each). As a review, students will deepen their overall understanding from an art historical perspective, such as the iconographic content, style (by period, region, individual), technique, and characteristics of plastic expression, based on the discussions and explanations in class, focusing on the main works covered in class (about two hours each).

【Grading Criteria /Policies】

Comprehensive evaluation of understanding and proficiency of each class in light of the above goals will be made using 30%normal score, 30%end-of-semester quiz, and 40%final assignment report.

HIS300TD（史学 / History 300）

日本古文書学（冬期スクーリング）【オンライン】

大塚　紀弘

カテゴリー：**冬期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**1群午前**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講手続き等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
教科書を基に日本古文書学を体系的に学ぶとともに、古文書読解の基礎的な能力を身につける。日本の古代から中世（奈良時代から室町時代）に成立した代表的な古文書の様式・機能について理解し、日本漢文を読解する力を養成することを目的とする。

【到達目標】
律令に規定された公式様文書、公式様文書から派生した公家様文書、公家様文書から派生した武家様文書の機能と様式について理解することができる。教科書に取り上げられた古文書の日本漢文を正確に訓読し、内容の概要を読み取ることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
教科書の内容に沿いつつ、配布プリントを基に講義を進める。古文書について解説した後、参加者に日本漢文を訓読してもらう。配布プリント（ＰＤＦファイル）は、事前に章ごとに「学習支援システム」にアップロードする。漢文訓読の基礎知識を有することを前提に進める。授業の初めに、前回の授業で訓読した古文書をいくつか取り上げ、フィードバックを行なう予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	古文書学とは	履修のガイダンス
第2回	公式様文書１　符・移	様式・機能の解説と訓読
第3回	公式様文書２　牒・解	様式・機能の解説と訓読
第4回	公家様文書１　宣旨・官宣旨	様式・機能の解説と訓読
第5回	公家様文書２　院庁下文・政所下文	様式・機能の解説と訓読
第6回	公家様文書３　綸旨・院宣・御教書	様式・機能の解説と訓読
第7回	武家様文書１　下文	様式・機能の解説と訓読
第8回	武家様文書２　下知状１	様式・機能の解説と訓読
第9回	武家様文書２　下知状２	様式・機能の解説と訓読
第10回	武家様文書３　鎌倉幕府の御教書	様式・機能の解説と訓読
第11回	武家様文書４　室町幕府の奉書・直状	様式・機能の解説と訓読
第12回	授業内容の総括	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
教科書を用いて予習し、教科書と配布プリントを用いて復習する。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
佐藤進一『新版　古文書学入門』（法政大学出版局、２００３年）

【参考書】
日本歴史学会編『概説古文書学　古代・中世編』（吉川弘文館、１９８３年）
久留島典子・五味文彦編『史料を読み解く１　中世文書の流れ』（山川出版社、２００６年）
苅米一志『日本史を学ぶための古文書・古記録訓読法』（吉川弘文館、２０１５年）

【成績評価の方法と基準】
試験（文書名を問う）の点数１００％で評価する予定である。

【学生の意見等からの気づき】
本年度新規科目につきアンケートを実施していません。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムとZoomに接続できる環境と情報機器。Zoomによるオンライン授業に参加し、学習支援システムを用いて配布資料をダウンロードしたり、試験を受けたりすることが求められる。

【Outline (in English)】
The aim of this course is to help students learn Japanese archaeological studies systematically. The goals of this course are to acquire the basic ability of reading old documents. Before /after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.　Your overall grade in the class will be decided based on the following. term-end examination : 100%.

HIS200TD（史学 / History 200）

東洋史概説（S）（冬期スクーリング）【オンライン】

宇都宮　美生

カテゴリー：**冬期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**1群午後**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講手続き等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：**※史学科本科生用**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
豊富な歴史資料を有する中国を基軸として東アジア世界の形成の歴史過程を学習し、日本の制度や文化と深い関係をもつ東アジア諸国家に対する認識を深めていく。特に、日本と中国の交流史を通して、中国および世界の人々への関心を深め、国際社会の一員としての自覚と資質を培っていく。宋から清までの中国の歴史を世界帝国の興亡と国際関係をテーマに見ていく。征服王朝と漢族の関係を軸に体制がどのように後世に継承されあるいは影響を与えたか、政治・財政・法制・軍政・農業・文化・対外関係などの視点から変遷過程を学んでいく。同時に欧米及び日本との関係史も学び、中国史から現在の日本社会を再考していく。

【到達目標】
中国史の流れをつかみ、史実を生み出した要因と背景、それによる影響と発展、さらには周辺国との相互影響と国際関係について理解する。また具体的事例を通して、文献史料だけでなく文物・遺構・古地図などを併用した研究の方法、分析および考察について実践的テクニックを身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「史学科：DP1, DP3」「地理学科：DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
この授業は講義形式で行う。
授業前に配布資料をすべて印刷しておく。
授業ではパワーポイントで概要を説明するので、配布資料の空欄に必要事項を記入し、説明を記録する。文献・地図・写真・絵・表などの資料を多用し、その活用の仕方を学ぶ。学生からの質問に関しては授業中随時受け付け、学習内容に対するフィードバックも行う。なお、講義中はチャットを確認する余裕がないため、質問は口頭でいただきたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	北宋の時代	中国再統一の社会
第2回	南宋による再建と安定	領土縮小と南方文化の開花
第3回	北宋・南宋の文化	発明と国外への伝播
第4回	南宋の滅亡とモンゴルの統一	金・モンゴルとの関係
第5回	元の繁栄と衰亡	多民族国家の政治と文化
第6回	明の成立と安定	皇帝独裁政治と靖難の変
第7回	アジアの中の明帝国	海禁から永楽帝の中華世界
第8回	北虜南倭の時代	長城と南海貿易
第9回	明の斜陽	中央政権の弱体化と北京落城
第10回	満洲族の中国統一	満洲国の樹立から北京遷都へ
第11回	清の全盛と華夷思想	康熙帝から乾隆帝へ
第12回	オンライン試験	授業内での試験と解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
事前に資料・論文等を配布もしくは指示するので、それを読んでおく。授業内で質疑応答により確認をし、理解度を高める。授業後は、各自参考書等により補足する。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特になし。レジュメを事前に配布するので各自印刷しておくこと（その資料を参照しながら、授業内での試験に回答していただくため、写真撮影、録画、録音は禁止する。試験中にこれらを参照する時間はない）。

【参考書】
冨谷至・森田憲司『概説　中国史（上）』昭和堂、2016年
冨谷至・森田憲司『概説　中国史（下）』昭和堂、2016年
愛宕元・冨谷至編『中国の歴史　上・下』昭和堂、2009年改訂版
『中国の歴史（全集叢書）』7～10巻、講談社、2005年
その他、随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点(30%)と試験（70%）
【重要：試験方法】
最後の授業で、Zoomに接続したまま配布資料の最後の頁にある解答用紙に記載し、デジカメかスマホで写真撮影したファイルを、授定時間内にHoppiiの「課題」から提出してもらう。その方法については初回のガイダンスで説明をするので、必ず参加すること。他の学生の迷惑になるため、2回目以降の授業中に、初回のガイダンス欠席者に対しての追加説明はしない。また、個別の問い合わせには一切答えない。解答用紙の写真撮影と「課題」からの提出はスマホで行ってもかまわない。写真撮影やファイル電送に自信のない人は、試験の提出時間の時、家族など代行してくれる人に頼むこと。
試験中は配布資料の閲覧は可能。したがって、授業中の写真撮影、録画、録音では試験中の解答に間に合わないため禁止とし、かならず、授業中に配布資料に書き込むようにしてほしい（書く時間は設ける）。

【学生の意見等からの気づき】
学生にわかりやすい授業を心掛けるが、書き写すだけでなく、考えていく姿勢を求める。また、授業内での教師の質問にも積極的に答えてほしい。

【学生が準備すべき機器他】
色鉛筆、マーカーなど。
オンライン受講の機器に関してはPC使用を推奨する。

【その他の重要事項】
以下、成績に関わる内容ですので必ず目を通しておいてください。
【Zoom接続機器】受講にあたり、PC使用を推奨します。スマホでの受講は、Zoom操作が容易ではなく、何度も接続が途中で切れることがあります。PowerPointのスライドの文字がかなり小さく、それを見て穴埋め式の配布資料に書き込むことも容易ではありません。また、授業中に出席確認の連絡と講師から出された問題についてチャットで回答していただきますが、時間内で送信できるようチャット操作にも慣れておく必要があります。以上のように、スマホ使用は受講環境としては大変不便でありますのでPCでの受講を推奨します。
【Zoom操作について】
履修希望者は第1回目の授業に出席し、オンライン操作になれること。初回欠席した人に対する追加説明の時間は設けません。
【必要な機器】
授業および試験の時に必要なものは、Zoom用のPCおよび写真撮影用のスマホかデジカメです。
デジカメ使用の人は、あらかじめ、撮影した写真をPCかスマホで送付できる操作に慣れて置いてください。授業中にその操作の練習はしません。
【Hoppiiの操作】
Hoppiiの操作にも慣れておいてください。
授業開始1週間前にHoppiiの「お知らせ」にて、資料の配布、ZoomのURL、事前に用意していただく作業等を通知しますので、必ず確認して準備しておいてください。

【Outline (in English)】
This course introduces an understanding of Chinese history (from Southern Song to Qing Periods) in respect to international relations with other countries. The aim of this course is to help students acquire historical changes in politics, economy, organization, military affairs, agriculture, culture and diplomacy.

Learning Objectives: The goal of this course is to understand the flow of Chinese history, the factors and backgrounds that created the historical facts, their influence and development, and the mutual influence and international relations with the surrounding areas.
Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Grading Criteria/Policies: Your overall grade in the class will be decided based on assignments at each class meeting (30%) and term-end examination(70%).

HIS200TD（史学 / History 200）

東洋史概説（冬期スクーリング）【オンライン】

宇都宮　美生

カテゴリー：**冬期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**1群午後**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講手続き等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：**※地理学科本科生および科目等履修生用**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
豊富な歴史資料を有する中国を基軸として東アジア世界の形成の歴史過程を学習し、日本の制度や文化と深い関係をもつ東アジア諸国家に対する認識を深めていく。特に、日本と中国の交流史を通して、中国および世界の人々への関心を深め、国際社会の一員としての自覚と資質を培っていく。宋から清までの中国の歴史を世界帝国の興亡と国際関係をテーマに見ていく。征服王朝と漢族の関係を軸に体制がどのように後世に継承されあるいは影響を与えたか、政治・財政・法制・軍政・農業・文化・対外関係などの視点から変遷過程を学んでいく。同時に欧米及び日本との関係史も学び、中国史から現在の日本社会を再考していく。

【到達目標】
中国史の流れをつかみ、史実を生み出した要因と背景、それによる影響と発展、さらには周辺国との相互影響と国際関係について理解する。また具体的事例を通して、文献史料だけでなく文物・遺構・古地図などを併用した研究の方法、分析および考察について実践的テクニックを身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「史学科：DP1, DP3」「地理学科：DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
この授業は講義形式で行う。
授業前に配布資料をすべて印刷しておく。
授業ではパワーポイントで概要を説明するので、配布資料の空欄に必要事項を記入し、説明を記録する。文献・地図・写真・絵・表などの資料を多用し、その活用の仕方を学ぶ。学生からの質問に関しては授業中随時受け付け、学習内容に対するフィードバックも行う。なお、講義中はチャットを確認する余裕がないため、質問は口頭でいただきたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	北宋の時代	中国再統一の社会
第2回	南宋による再建と安定	領土縮小と南方文化の開花
第3回	北宋・南宋の文化	発明と国外への伝播
第4回	南宋の滅亡とモンゴルの統一	金・モンゴルとの関係
第5回	元の繁栄と衰亡	多民族国家の政治と文化
第6回	明の成立と安定	皇帝独裁政治と靖難の変
第7回	アジアの中の明帝国	海禁から永楽帝の中華世界
第8回	北虜南倭の時代	長城と南海貿易
第9回	明の斜陽	中央政権の弱体化と北京落城
第10回	満洲族の中国統一	満洲国の樹立から北京遷都へ
第11回	清の全盛と華夷思想	康熙帝から乾隆帝へ
第12回	オンライン試験	授業内での試験と解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
事前に資料・論文等を配布もしくは指示するので、それを読んでおく。授業内で質疑応答により確認をし、理解度を高める。授業後は、各自参考書等により補足する。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特になし。レジュメを事前に配布するので各自印刷しておくこと（その資料を参照しながら、授業内での試験に回答していただくため、写真撮影、録画、録音は禁止する。試験中にこれらを参照する時間はない）。

【参考書】
冨谷至・森田憲司『概説　中国史（上）』昭和堂、2016年
冨谷至・森田憲司『概説　中国史（下）』昭和堂、2016年
愛宕元・冨谷至編『中国の歴史　上・下』昭和堂、2009年改訂版
『中国の歴史（全集叢書）』7～10巻、講談社、2005年
その他、随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点(30%)と試験（70%）
【重要：試験方法】
最後の授業で、Zoomに接続したまま配布資料の最後の頁にある解答用紙に記載し、デジカメかスマホで写真撮影したファイルを、授定時間内にHoppiiの「課題」から提出してもらう。その方法については初回のガイダンスで説明をするので、必ず参加すること。他の学生の迷惑になるため、2回目以降の授業中に、初回のガイダンス欠席者に対しての追加説明はしない。また、個別の問い合わせには一切答えない。解答用紙の写真撮影と「課題」からの提出はスマホで行ってもかまわない。写真撮影やファイル電送に自信のない人は、試験の提出時間の時、家族など代行してくれる人に頼むこと。
試験中は配布資料の閲覧は可能。したがって、授業中の写真撮影、録画、録音では試験中の解答に間に合わないため禁止とし、かならず、授業中に配布資料に書き込むようにしてほしい（書く時間は設ける）。

【学生の意見等からの気づき】
学生にわかりやすい授業を心掛けるが、書き写すだけでなく、考えていく姿勢を求める。また、授業内での教師の質問にも積極的に答えてほしい。

【学生が準備すべき機器他】
色鉛筆、マーカーなど。
オンライン受講の機器に関してはPC使用を推奨する。

【その他の重要事項】
以下、成績に関わる内容ですので必ず目を通しておいてください。
【Zoom接続機器】受講にあたり、PC使用を推奨します。スマホでの受講は、Zoom操作が容易ではなく、何度も接続が途中で切れることがあります。PowerPointのスライドの文字がかなり小さく、それを見て穴埋め式の配布資料に書き込むことも容易ではありません。また、授業中に出席確認の連絡と講師から出された問題についてチャットで回答していただきますが、時間内で送信できるようチャット操作にも慣れておく必要があります。以上のように、スマホ使用は受講環境としては大変不便でありますのでPCでの受講を推奨します。
【Zoom操作について】
履修希望者は第1回目の授業に出席し、オンライン操作になれること。初回欠席した人に対する追加説明の時間は設けません。
【必要な機器】
授業および試験の時に必要なものは、Zoom用のPCおよび写真撮影用のスマホかデジカメです。
デジカメ使用の人は、あらかじめ、撮影した写真をPCかスマホで送付できる操作に慣れて置いてください。授業中にその操作の練習はしません。
【Hoppiiの操作】
Hoppiiの操作にも慣れておいてください。
授業開始1週間前にHoppiiの「お知らせ」にて、資料の配布、ZoomのURL、事前に用意していただく作業等を通知しますので、必ず確認して準備しておいてください。

【Outline (in English)】
This course introduces an understanding of Chinese history (from Southern Song to Qing Periods) in respect to international relations with other countries. The aim of this course is to help students acquire historical changes in politics, economy, organization, military affairs, agriculture, culture and diplomacy.

Learning Objectives: The goal of this course is to understand the flow of Chinese history, the factors and backgrounds that created the historical facts, their influence and development, and the mutual influence and international relations with the surrounding areas.
Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Grading Criteria/Policies: Your overall grade in the class will be decided based on assignments at each class meeting (30%) and term-end examination(70%).

HIS300TD（史学 / History 300）

史学演習（日本）（冬期スクーリング）

仁平　義孝

カテゴリー：**冬期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**1群午後**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講手続き等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
『吾妻鏡』を講読する。貞応２年（１２２３）正月１日条から読み進めていく。
中世史料の基礎的な読解力をつけることを目的とする。

【到達目標】
中世史料を読み下し、語句や人名、関連事項を調べて史料の内容を理解し、現代語訳することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
受講生に史料の読み下し、語句の説明、現代語訳などをしてもらう。受講生間で議論し、条文の理解を深めていく。授業時間内に関連する史料などを配布して、その場で読むこともある。
質問、課題等に対するフィードバックは授業内に行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	『吾妻鏡』解説1	授業の進め方と『吾妻鏡』の解説①
第2回	『吾妻鏡』解説2	『吾妻鏡』の解説②
第3回	史料講読1	貞応2年正月1日～18日条
第4回	史料講読2	同年正月20日～24日条
第5回	史料講読3	同年正月25日～26日条①
第6回	史料講読4	同年正月25日～26日条②
第7回	史料講読5	同年2月1日～8日条
第8回	史料講読6	同年2月27日～3月28日条
第9回	史料講読7	同年4月8日～16日条
第10回	史料講読8	同年4月19日～30日条
第11回	史料講読9	同年5月4日～14日条
第12回	まとめと試験	まとめと試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
事前に読み下し文を作り、語句などを調べ、現代語訳をしておくこと。貞応２年（１２２３）正月１日から同月２６日条については、十全な準備を進めておくように。
本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
新訂増補国史大系『吾妻鏡 第３』（吉川弘文館）
テキストを購入する必要はない。貞応２年（１２２３）正月１日条から同年５月１４日条（５～８頁）を講読する予定なので、その部分のコピーを各自用意すること。

【参考書】
五味文彦『増補吾妻鏡の方法』（吉川弘文館、2000年）
西田友広編『ビギナーズ・クラシックス 日本の古典 吾妻鏡』（ＫＡＤＯＫＡＷＡ、2021年）
その他、授業時に紹介する。

【成績評価の方法と基準】
授業時の発言・討論参加（40％）、試験（60％）。

【学生の意見等からの気づき】
受講生が発言しやすい環境にする。

【Outline (in English)】
The purpose of this course is to study political history of the Kamakura Shogunate by reading the Azumakagami.

HIS100TD（史学 / History 100）

日本史概説（S）（冬期スクーリング）

矢越　葉子

カテゴリー：**冬期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**2群午前**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講手続き等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：**※史学科本科生用**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
歴史学を学ぶためには様々な形態の史料を扱う必要があるが、読み解く方法もそれぞれ異なる。本授業では、古代を中心とした日本の前近代の史料とその扱い方を概観することを通じて、そこに現れてくる女性のあり方を考えていく。

【到達目標】
次の２点を到達目標とする。
①日本史を学ぶ上で不可欠な史料に関する基礎的な知識を得て、その性格や扱い方を正しく理解する。
②各時代の女性のあり方は、社会の構造に根ざしたものであることを理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「史学科：DP1, DP3」「地理学科：DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
講義形式で行う。重要な史料についてはその都度訓読し、読解のポイントについて解説する。
課題に対するフィードバックは、最終授業（第12回）の中で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス／編纂史料にみる古代の女性 1. 六国史	歴史学の基本的な史料の形態と研究方法について学ぶ。／編纂史料のうち、国家が編纂した六国史を扱う。
第2回	編纂史料にみる古代の女性 2. 律令	国家が編纂した律令に規定された女性の在り方を学ぶ。
第3回	一次史料にみる古代の女性 1. 戸籍	一次史料のうち正倉院文書中に残る古代の戸籍を扱う。
第4回	文学作品にみる古代の女性 1. 万葉集	文学作品のうち『万葉集』にみえる婚姻や恋愛にかかわる作品を扱う。
第5回	一次史料にみる古代の女性 2. 木簡・墨書土器	一次史料のうち出土文字史料から女性の果たした役割を学ぶ。
第6回	一次史料にみる古代の女性 3. 経典	一次史料のうち主に古写経から女性の果たした役割を学ぶ。
第7回	一次史料にみる古代の女性 4. 文書	一次史料のうち主に文書から女性の果たした役割を学ぶ。
第8回	一次史料にみる古代の女性 5. 古記録	一次史料のうち古記録から平安中期の女性の在り方を学ぶ。
第9回	文学作品にみる古代の女性 2. 王朝文学	文学作品のうち王朝文学から平安中期の女性の在り方を学ぶ。
第10回	中世以降の変化 1. 家	中世以降の変化について、家の成立という観点から概観する。
第11回	中世以降の変化 2. 宗教	中世以降の変化について、宗教という観点から概観する。
第12回	試験／まとめと解説	試験、まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。
（準備）高校までの教科書が手許にある場合は、古代史部分について事前に目を通しておくことが望ましい。
（復習）配付したレジュメを読み返す。

【テキスト（教科書）】
特になし。資料を配付します。

【参考書】
大口勇次郎・成田龍一・服藤早苗編『新　体系日本史9　ジェンダー史』山川出版社、2014年
国立歴史民俗博物館編『企画展示　性差の日本史』2020年
この他にも必要に応じて、授業中に指示をします。

【成績評価の方法と基準】
記述式試験100％で評価します。

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【Outline (in English)】
To study historiography, it is necessary to deal with various forms of historical documents, and the methods of reading and understanding them differ from one another. In this course, through an overview and reading of pre-modern Japanese historical documents, mainly from ancient times, we will consider the ways in which women appear in these documents. The goals of this course are 1) to gain a basic knowledge of historical sources and a proper understanding of their character and how to handle them, and 2) to understand that the state of women in each period is rooted in the structure of society.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.
Your overall grade in the class will be decided based on the Term-end examination.

HIS100TD（史学 / History 100）

日本史概説（冬期スクーリング）

矢越　葉子

カテゴリー：**冬期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**2群午前**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講手続き等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：**※地理学科本科生および科目等履修生用**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
歴史学を学ぶためには様々な形態の史料を扱う必要があるが、読み解く方法もそれぞれ異なる。本授業では、古代を中心とした日本の前近代の史料とその扱い方を概観することを通じて、そこに現れてくる女性のあり方を考えていく。

【到達目標】
次の２点を到達目標とする。
①日本史を学ぶ上で不可欠な史料に関する基礎的な知識を得て、その性格や扱い方を正しく理解する。
②各時代の女性のあり方は、社会の構造に根ざしたものであることを理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「史学科：DP1, DP3」「地理学科：DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
講義形式で行う。重要な史料についてはその都度訓読し、読解のポイントについて解説する。
課題に対するフィードバックは、最終授業（第12回）の中で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス／編纂史料にみる古代の女性 1. 六国史	歴史学の基本的な史料の形態と研究方法について学ぶ。／編纂史料のうち、国家が編纂した六国史を扱う。
第2回	編纂史料にみる古代の女性 2. 律令	国家が編纂した律令に規定された女性の在り方を学ぶ。
第3回	一次史料にみる古代の女性 1. 戸籍	一次史料のうち正倉院文書中に残る古代の戸籍を扱う。
第4回	文学作品にみる古代の女性 1. 万葉集	文学作品のうち『万葉集』にみえる婚姻や恋愛にかかわる作品を扱う。
第5回	一次史料にみる古代の女性 2. 木簡・墨書土器	一次史料のうち出土文字史料から女性の果たした役割を学ぶ。
第6回	一次史料にみる古代の女性 3. 経典	一次史料のうち主に古写経から女性の果たした役割を学ぶ。
第7回	一次史料にみる古代の女性 4. 文書	一次史料のうち主に文書から女性の果たした役割を学ぶ。
第8回	一次史料にみる古代の女性 5. 古記録	一次史料のうち古記録から平安中期の女性の在り方を学ぶ。
第9回	文学作品にみる古代の女性 2. 王朝文学	文学作品のうち王朝文学から平安中期の女性の在り方を学ぶ。
第10回	中世以降の変化 1. 家	中世以降の変化について、家の成立という観点から概観する。
第11回	中世以降の変化 2. 宗教	中世以降の変化について、宗教という観点から概観する。
第12回	試験／まとめと解説	試験、まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。
（準備）高校までの教科書が手許にある場合は、古代史部分について事前に目を通しておくことが望ましい。
（復習）配付したレジュメを読み返す。

【テキスト（教科書）】
特になし。資料を配付します。

【参考書】
大口勇次郎・成田龍一・服藤早苗編『新　体系日本史9　ジェンダー史』山川出版社、2014年
国立歴史民俗博物館編『企画展示　性差の日本史』2020年
この他にも必要に応じて、授業中に指示をします。

【成績評価の方法と基準】
記述式試験100％で評価します。

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【Outline (in English)】
To study historiography, it is necessary to deal with various forms of historical documents, and the methods of reading and understanding them differ from one another. In this course, through an overview and reading of pre-modern Japanese historical documents, mainly from ancient times, we will consider the ways in which women appear in these documents. The goals of this course are 1) to gain a basic knowledge of historical sources and a proper understanding of their character and how to handle them, and 2) to understand that the state of women in each period is rooted in the structure of society.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.
Your overall grade in the class will be decided based on the Term-end examination.

HIS200TD（史学 / History 200）

西洋史概説（S）（冬期スクーリング）

竹下　和亮

カテゴリー：**冬期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**2群午前**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講手続き等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：**※史学科本科生用**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
西洋は世界の様々な地域の一つであるに過ぎないが、同時に、いま私たちが生きる世界の形成にあたって極めて大きな役割を果たしてきたことも事実である。本講義ではその両面をみすえた上で、とくに中世以降の西洋の歴史の流れ、基本的な歴史用語を解説する。今学期は、とくにスペインとポルトガルに焦点を当てる予定である。

【到達目標】
中世以降の西洋の歴史に関する基礎的な知識を習得し、他の地域の歴史と比較したときの独自の特徴と、その後の世界史の形成に果たした役割を理解することができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「史学科：DP1, DP3」「地理学科：DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
年表と王家の系図を詳細にみていきながら、スペインとポルトガルを中心とする西洋の歴史を講義します。質問は、授業内、授業終了後などいつも受け付けます。課題等のフィードバックは授業内で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	スペインとポルトガルの諸地域
第2回	中世カスティーリャ連合王国I	カスティーリャ連合王国の成立とレコンキスタ
第3回	中世カスティーリャ連合王国II	カスティーリャ連合王国の発展
第4回	中世アラゴン連合王国I	アラゴン連合王国の成立とレコンキスタ
第5回	中世アラゴン連合王国II	アラゴン地中海帝国の形成
第6回	カトリック両王の時代	イサベルとフェルナンドの「スペイン」統治
第7回	ハプスブルク朝からブルボン朝へ	スペイン帝国の形成と衰退
第8回	ポルトガルの歴史	ポルトガルの誕生から現在まで
第9回	スペイン帝国の諸相	ラテンアメリカの歴史的展開
第10回	近代国家の誕生	アンシアン・レジームの解体と自由主義改革
第11回	近現代のイベリア半島	帝国と独裁の時代から多様性の社会へ
第12回	試験	世界史のなかのスペインとポルトガル

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
立石博高『スペイン史10講』岩波書店、2021年

【参考書】
立石博高編『スペイン・ポルトガル史〈上〉〈下〉』山川出版社、2022年
関哲行・立石博高・中塚次郎編『世界歴史大系スペイン史〈1〉〈2〉』山川出版社、2008年
立石博高監訳、竹下和亮・内村俊太・久木正雄訳『スペインの歴史』明石書店、2014年
J・H・エリオット（立石博高・竹下和亮訳）『歴史ができるまで』岩波書店、2017年
クリシャン・クマー（立石博高・竹下和亮訳）『帝国』岩波書店、2024年

【成績評価の方法と基準】
試験（100%）

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【その他の重要事項】
学習支援システムで資料の配信をする場合がありますので、指示に従い確認してください。そのさい、手元に紙媒体が必要な学生は各自で準備してください。

【Outline (in English)】
Europe is only a part of the world just like any other regions on the earth; however, we can't deny its considerable contributions to the formation of the present world. By focusing on these aspects of Europe, this course will lecture on the general flow of its history, from the Medieval Age onwards, and the basic terminology for the historical research.

HIS200TD（史学 / History 200）

西洋史概説（冬期スクーリング）

竹下　和亮

カテゴリー：**冬期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**2群午前**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講手続き等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：**※地理学科本科生および科目等履修生用**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
西洋は世界の様々な地域の一つであるに過ぎないが、同時に、いま私たちが生きる世界の形成にあたって極めて大きな役割を果たしてきたことも事実である。本講義ではその両面をみすえた上で、とくに中世以降の西洋の歴史の流れ、基本的な歴史用語を解説する。今学期は、とくにスペインとポルトガルに焦点を当てる予定である。

【到達目標】
中世以降の西洋の歴史に関する基礎的な知識を習得し、他の地域の歴史と比較したときの独自の特徴と、その後の世界史の形成に果たした役割を理解することができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「史学科：DP1, DP3」「地理学科：DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
年表と王家の系図を詳細にみていきながら、スペインとポルトガルを中心とする西洋の歴史を講義します。質問は、授業内、授業終了後などいつも受け付けます。課題等のフィードバックは授業内で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	スペインとポルトガルの諸地域
第2回	中世カスティーリャ連合王国I	カスティーリャ連合王国の成立とレコンキスタ
第3回	中世カスティーリャ連合王国II	カスティーリャ連合王国の発展
第4回	中世アラゴン連合王国I	アラゴン連合王国の成立とレコンキスタ
第5回	中世アラゴン連合王国II	アラゴン地中海帝国の形成
第6回	カトリック両王の時代	イサベルとフェルナンドの「スペイン」統治
第7回	ハプスブルク朝からブルボン朝へ	スペイン帝国の形成と衰退
第8回	ポルトガルの歴史	ポルトガルの誕生から現在まで
第9回	スペイン帝国の諸相	ラテンアメリカの歴史的展開
第10回	近代国家の誕生	アンシアン・レジームの解体と自由主義改革
第11回	近現代のイベリア半島	帝国と独裁の時代から多様性の社会へ
第12回	試験	世界史のなかのスペインとポルトガル

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
立石博高『スペイン史10講』岩波書店、2021年

【参考書】
立石博高編『スペイン・ポルトガル史〈上〉〈下〉』山川出版社、2022年
関哲行・立石博高・中塚次郎編『世界歴史大系スペイン史〈1〉〈2〉』山川出版社、2008年
立石博高監訳、竹下和亮・内村俊太・久木正雄訳『スペインの歴史』明石書店、2014年
J・H・エリオット（立石博高・竹下和亮訳）『歴史ができるまで』岩波書店、2017年
クリシャン・クマー（立石博高・竹下和亮訳）『帝国』岩波書店、2024年

【成績評価の方法と基準】
試験（100%）

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【その他の重要事項】
学習支援システムで資料の配信をする場合がありますので、指示に従い確認してください。そのさい、手元に紙媒体が必要な学生は各自で準備してください。

【Outline (in English)】
Europe is only a part of the world just like any other regions on the earth; however, we can't deny its considerable contributions to the formation of the present world. By focusing on these aspects of Europe, this course will lecture on the general flow of its history, from the Medieval Age onwards, and the basic terminology for the historical research.

ART300TD（芸術学 / Art studies 300）

東洋美術史（冬期スクーリング）

久野　美樹

カテゴリー：**冬期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**2群午後**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講手続き等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
仏教、仏教美術の基本から学び始め、中国仏教美術を中心に学習することで、中国文化が日本に与えた影響についても考えます。

【到達目標】
○仏教と仏教美術の基本を理解することができます。　○中国人、日本人のものの考え方を造形を通して知ることができます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
各回授業の初めに授業概要を表したレジュメを配布し、それに沿い講義します。講義では常にパワーポイントによるスライドを用います。リアクションペーパーを実施した際にはスクーリング中に添削してお返しします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	仏教と仏教美術の基本	美術史学について解説します。釈迦の生涯の美術、上座部系仏教、大乗仏教の美術をもって仏教、仏教美術の基本を学びます
第2回	中国石窟美術の始まり	北中国の五胡十六国時代の美術に中国石窟美術の始まりをみます
第3回	敦煌莫高窟の始まり	A.D.5c.敦煌莫高窟初期窟の造形と思想、東西文化
第4回	北魏の漢化と雲岡石窟	北魏の漢化政策と雲岡石窟概説
第5回	北魏の政治思想と仏教美術	北魏皇帝に擬えた雲岡石窟の大仏像について
第6回	漢民族様式と北方民族様式	絵画作品を例にとり、漢民族様式と北方民族様式の相違を学習します
第7回	龍門石窟北魏窟	北魏が洛陽遷都した後、洛陽郊外に造られた龍門石窟を代表する古陽洞と賓陽中洞の造形
第8回	一州一寺制と皇帝等身像	唐時代以降に本格化する一州一寺制と皇帝等身像に、中国の世俗王権と仏教美術の関係をみます
第9回	インド・中国・日本に伝わった釈迦像、優填王（うでんおう）像について	優填王像に中国を中心とした世俗王権と仏教美術の関係をみます
第10回	唐代龍門石窟奉先寺洞像	日本奈良東大寺大仏像の思想的源である龍門石窟奉先寺洞大仏像について考えます
第11回	大唐長安の栄華と正倉院	唐長安の華やかな文化とそれを今に伝える奈良正倉院の宝物
第12回	前半40分：密教美術 後半60分：筆記試験	前半は密教、密教美術、曼荼羅の基本 後半はプリントした４つの図について解説していただく試験をします

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・復習学習は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しません。

【参考書】
『世界美術大全集　東洋編』全18巻各国・時代別　小学館　1997～2001、『中国の美術』昭和堂　2003、『東洋美術史』武蔵野美術大学出版会　2016、『増補新訂　カラー版東洋美術史』美術出版社　2012、『すぐわかる東洋の美術』東京美術　2012、『アジア仏教美術論集　東アジアⅠ　後漢・三国・南北朝』中央公論美術出版　2017、『アジア仏教美術論集　東アジアⅡ　隋・唐』中央公論美術出版　2019、肥田路美『初唐仏教美術の研究』中央公論美術出版　2011、久野美樹『唐代龍門石窟の研究』中央公論美術出版　2011

【成績評価の方法と基準】
リアクションペーパー20％、第12回目後半実施の筆記試験80％。期末の筆記試験は、授業でお見せしたスライドの中から4つの図を印刷したものについて解説していただきます。採点基準は、授業内容を正しく理解しているか、論理の構築ができているか、主語述語の整った文章になっているかということです。初めてその図を見る人が受験者の答案を読んで理解できるかをみます。

【学生の意見等からの気づき】
より一層わかりやすい講義を心がけます。

【学生が準備すべき機器他】
特にありません。

【その他の重要事項】
授業内容についてどのような事でも質問してください。授業終了後に質問していただくのが望ましいです。

【Outline (in English)】
(Course outline) Buddhist Art History of China.
(Learning Objectives) By the end of the course, students should be able to do the followings: understanding Chinese Material Culture and Buddhist Thought.
(Learning activities outside of classroom) Your study time will be more than four hours for class.
(Grading Criteria/Policy) Your overall grade in the class will be decided based on the following Term-end examination 80%, Short reports 20%.

CUM200TD（文化財科学・博物館学 / Cultural assets study and museology 200）

歴史資料学（日本近世）（冬期スクーリング）

米崎　清実

カテゴリー：**冬期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**2群午後**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講手続き等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
さまざまな歴史資料の中で、近世の地方文書は日本各地にあり、地域の文化財にもなっています。また、近世地域史を研究するうえで中心となる史料です。しかし、和紙に墨を用いてくずし字で書かれた地方文書は、現代人には容易に読み解くことができません。本授業では、地方文書の史料学的な意義、近世地域史研究の知識を身につけるとともに、くずし字の基礎的な読解力を養うことを目的とします。

【到達目標】
①くずし字の読解能力を身につける。
②近世地方文書の特徴と保存の方法を覚える。
③近世地域史研究の知識を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
対面により講義と演習を併用します。配付する資料（古文書のコピー）をまずは自力で解読に取り組みます。授業では受講生に板書または口頭で答えてもらった後に、答え合わせをしながら解説します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	ガイダンス、近世の地方文書とは、地方文書の特徴
第2回	地方文書の伝来と保存	地方文書の伝来と保存、地方文書の資料学
第3回	地域史研究の方法	基本的文献の紹介と特徴、地域史研究の方法
第4回	くずし字に慣れる①	変体かなを覚える
第5回	くずし字に慣れる②	数字や人名の書き方を覚える
第6回	くずし字に慣れる③	くずし字辞書の引き方を覚える
第7回	くずし字の文章に慣れる①	幕府法令を読む①
第8回	くずし字の文章に慣れる②	幕府法令を読む②
第9回	地方文書に慣れる①	地方文書を読む①
第10回	地方文書に慣れる②	地方文書を読む②
第11回	地方文書に慣れる③	地方文書を読む③
第12回	まとめと試験	くずし字の独習法、近世地域史研究に向けた独習法、授業時間内試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
配付資料（古文書のコピーなど）を辞書を引きながら予習してください。授業後は必ず復習をしてください。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
なし。資料を配付します。

【参考書】
授業時間外に自主学習する際の参考書は特に指定しません。スクーリング終了後に近世の地方文書や地域史研究に関する知識を深めるための参考書は授業の中で紹介します。

【成績評価の方法と基準】
成績の評価は期末試験（100％）。全日程の出席を原則とします。欠席した場合は、期末試験の評価から減点します。

【学生の意見等からの気づき】
アクティブラーニングを用いながら双方向での授業に取り組みます。くずし字や近世史料に初めて接する学生にも、今後の勉強方法を身につけてもらえるような授業にしたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】
くずし字の辞書。授業では、『増訂近世古文書解読字典』（柏書房）にもとづいて解説します。今後も日本近世史を学びたいと考える受講者、日本近世史で卒論を書きたいと考える受講者には『くずし字用例辞典（普及版）』（東京堂出版）を推薦します。すでにくずし字の辞書を所持している場合は、改めて買い揃える必要はありません（ただし、『くずし字解読辞典』（東京堂出版）のみを所持している場合は、『近世古文書解読字典』も所持することをお勧めします）。必ず辞書を持参して授業に出席してください。

【Outline (in English)】
Among various historical materials, local documents from the early modern period can be found all over Japan and have become cultural properties of the region. In addition, they are core historical materials used for researching the regional history of early modern Japan. However, it is difficult for the people of this age to decipher the documents written in Kuzushi-Ji (classical cursive handwriting characters) on Japanese paper using Indian ink. In this course, students will learn the significance of regional documents as historical studies, acquire basic knowledge of early modern Japanese regional history, and develop elementary skills to decipher Kuzushi-Ji.
We will engage in interactive teaching while using active learning.
Please prepare for the distributed materials by checking a dictionary.
Be sure to review after class.
Glade evaluation: Final exam (100%), Attendance at all sessions is the general rule. In case of absence, points will be deducted from the evaluation of the final examination.

HUG400TE（人文地理学 / Human geography 400）

人文地理学演習（冬期スクーリング）【オンライン】

米家　志乃布

カテゴリー：**冬期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**1群午前**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講手続き等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、4年生で作成する卒業論文に必要な知識や考え方を演習形式の授業のなかで修得するためのものです。具体的には、人文地理学のテキストや論文を読み、関連の学術論文を読むことで地理学の研究論文を作成するうえで必要な知識や考え方を学びます。担当者の専門の関係から、特に歴史地理・文化地理・観光地理分野を中心に行います。

【到達目標】
本授業は、人文地理学のなかでも、歴史地理学・文化地理学・観光地理学分野で卒業論文制作を考えている受講生を対象にして、そのために必要な知識や考え方、調査方法、論文のまとめ方などが修得できるようにします。通信教育部の受講生が、卒業論文を自分の力でまとめることができるように、卒業論文の作成方法を学ぶことを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
オンライン授業（Zoom配信授業）です。講義、実習、演習を組み合わせて行います。教員からの資料や課題の配信は学習支援システムを使います。学生の発表資料は学習支援システムで送っていただきます。Zoom授業内でパワーポイント等での発表資料の作成実習や発表テーマごとに分かれてグループワーク作業も行います。最後に発表ごとに総評をコメントをしたものをフィードバックいたします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス 調査・論文作成の基本①	ゼミのすすめかた 受講生の自己紹介 発表の準備方法と順番決定
第2回	調査・論文作成の基本②	地理学科編『卒業論文作成について』の概要 図書館利用・文献の探し方・調べ方など
第3回	調査・論文作成の基本③	地理学の学習と卒業論文作成について、『ジオ・パル』をもとに学ぶ～地図作成の方法、データの収集・フィールドワークの方法
第4回	調査・論文作成の基本④	地理学の学習と卒業論文作成について、『ジオ・パル』をもとに学ぶ～データ処理・図表のまとめ方・考察・論文全体の執筆方法
第5回	研究テーマの設定について① 受講生による発表	『人文地理学事典』のなかから、各自が歴史・文化の項目(第Ⅵ部　歴史にアプローチする地理学)を選んで発表する ～
第6回	研究テーマの設定について② 受講生による発表	『人文地理学事典』のなかから、各自が歴史・文化の項目（第Ⅶ部　4．ツーリズム・観光）を対象とする地理学選んで発表する
第7回	研究テーマの設定について③ 受講生による発表	『人文地理学事典』のなかから、歴史・文化項目（第Ⅴ部　地域にアプローチする地理学）を選んで発表する
第8回	研究テーマの設定④ 受講生による発表	『人文地理学事典』のなかから、歴史・文化の項目（第Ⅳ部　社会・経済・政治・文化と地理学）を選んで発表する
第9回	学術論文を読む①	学術論文の読み方・自分でのまとめ方 どのように自学自習をしたらいいのか、を説明
第10回	学術論文を読む② グループワークの発表	各班でテーマを決めて、学術論文を探して発表する。 ～歴史地理編
第11回	学術論文を読む③ グループワークの発表	各班でテーマを決めて学術論文を探して発表する。 ～文化地理・観光地理編
第12回	これまでの発表のまとめをする 卒業論文の作成方法のまとめ	人文地理学の卒業論文について、その課題について議論する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。他の授業の課題などの兼ね合いもあり、受講生の体調などに配慮しながら、授業時間外の学習について指示します。

【テキスト（教科書）】
指定しません。

【参考書】
1）野間晴雄・香川貴志・土平博・山田周二・河角龍典・小原丈明著『ジオ・パルNEO地理学便利帖』第2版、海青社、2017年、2500円＋税
2）人文地理学会編『人文地理学事典』丸善出版、20,000円＋税
必要個所のPDFを学習支援システムの教材にアップいたしますので、購入する必要はありません。ただし、興味のある方は購入してみてください。
また、各テーマごとに随時、授業内で参考文献を紹介いたします。

【成績評価の方法と基準】
授業への参加状況（平常点50％）、プレゼンテーション（授業内でのレポート発表）とその内容50％

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者交代によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】
演習・実習なので、意見交換が重要です。マイク・カメラは必ず準備してください。

【その他の重要事項】
卒業論文作成用のゼミのため、Zoom授業に集中できる環境で受講してください。発表用のパワーポイントやレジュメは画面共有しますが、画面上で確認することが難しい場合は、あらかじめファイルを学習支援システムで送付していただき、教員が画面共有をします。なお、Zoom授業には受講者のみなさんの個人情報もあります。録画や録音、スクリーンショットなどでの画像撮影は一切禁止させていただきます。

【Outline (in English)】
【Course outline】Seminar of Historical, Cultural and Tourism Geography.【Learning Objectives】The purpose of this seminar to study and discuss for preparing graduation theme.
【Learninng adtivities outside classroom】Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
【Grading Criteria/Policy】Your overall grade in the class will be decided based on the following
reports and　presentation: 50%、class contribution: 50%

GEO400TE（地理学 / Geography 400）

自然地理学演習（冬期スクーリング）【オンライン】

小寺　浩二

カテゴリー：**冬期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**1群午後**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講手続き等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
地理学分野の研究を行い、卒論を書くにあたって必要な基本的な能力を育成する。できれば、自然地理学分野（特に水文学・陸水学）で個人的なテーマを設定することが好ましいが、分野には限らない基礎的なスキルの修得を中心とする。

【到達目標】
テーマの選定、先行研究の文献レビュー、資料・データ収集、データ解析、各種主題図の作成、まとめと、地理学の研究論文を書く上で必要な能力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
事前に指示された方法に従ってテーマを設定し、先行論文のレビューを行った上で、研究構想発表の段階から授業に入る。そして、事前準備内容の修正をしながら、正しい研究の仕方、論文の書き方について、毎時間細かく指導する。特に、データ解析や各種主題図の作成法については、コンピュータとＧＩＳを活用しながら(不得手な方でも十分活用できる基礎的なものを中心とする)、具体的な実習の中で技術を身につける。その上で、論文としてまとめる上でのポイントについても指導し、実際に小論文を書くことで、身につけた内容を確実なものとする。
課題は、学習支援システムを利用して提出し、毎回、採点しコメントを提示すると同時に、優秀課題について授業中に紹介し、毎時間フィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	研究テーマの選び方	いくつかの具体的なテーマを示した上で、各自、個別のテーマを選定する。
第2回	対象地域の選び方	個別テーマに従って、対象地域を選定する方法について学ぶ。
第3回	先行研究のレビュー①（文献リスト）	文献リストの作成法について学ぶ
第4回	先行研究のレビュー②（論文要旨のまとめ方）	いくつかの論文の要旨をまとめ、比較しながら研究課題を見つける方法について学ぶ。
第5回	資料・データの収集法	インターネットなどを活用した資料・データ収集方法について学ぶ。
第6回	データの解析法	主に、Excelを用いたデータ解析について学ぶ
第7回	ＧＩＳを用いた主題図作成①	日本全図スケールでの主題図を作成
第8回	ＧＩＳを用いた主題図作成②	都道府県スケールでの主題図を作成
第9回	ＧＩＳを用いた主題図作成③	市町村スケールでの主題図を作成
第10回	結果のまとめ方	様々な図表などを用いたまとめ方を学ぶ
第11回	論文の記述法	実際に論文を書く上で必要な具体的なポイントについて学ぶ
第12回	小論文の評価・講評	提出された小論文について講評する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
１）事前準備：受講確定後、指示される方法に従って、テーマを決定し、文献リストを作成する。
２）事後学習：講義期間に提出した小論文に対する講評を受けて、期限までに修正したものを再提出する。
本授業の準備・復習学習は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
プリント資料を配付。

【参考書】
実習では、MANDARA10を使いますが、谷謙二『MANDARA10入門増補版』2022、古今書院は、実習では用いず、実習時間内に指導します。しかし、旧版でも、後藤真太郎・谷謙二・酒井聡一・坪井塑太郎・加藤一郎(2013)：『MANDARAとEXCELによる市民のためのGIS講座 第3版－地図化すると見えてくる－』
古今書院, 2,600円(絶版になっていますが、多くの図書館にあり、古本でも入手可能です。）は、参考になるので、可能であれば、入手してください。

【成績評価の方法と基準】
①事前学習、②平常点、③実習課題　④小論文　を総合的に評価。①20%、②30％、③30％、④20％を目安とするが、受講生全体の状況により修正することもある。

【学生の意見等からの気づき】
限られた分野だけでなく、幅広い分野に対応した実習とする。また、水文学・陸水学に関する基礎講義についての要望も多いので、ある程度の講義は行う。

【学生が準備すべき機器他】
授業はオンラインで実施する予定なので、「学習支援システムとZoomに接続できる環境と情報機器」を準備しておくことが必要である。GISソフトは、Windows版を利用するため、Windows　のノートパソコンを用意することが望ましい。

【その他の重要事項】
ＧＩＳの活用が前提なので、基本的なコンピュータのスキルが必要である。事前に自習して、リテラシーの能力をアップさせ、GISについても学んでおくこと。

【Outline (in English)】
This course will develop the basic skills required to conduct research in the field of geography and write a thesis. If possible, it is preferable to set a personal theme in the field of physical geography (especially hydrology and limnology), but the focus will be on acquiring basic skills that are not limited to a particular field.
1) Advance preparation: After confirming your enrollment, follow the instructions to decide on a theme and create a bibliography.
2) Post-learning: Receive feedback on the essay you submitted during the class period and resubmit it by the deadline with revised versions.
The standard time for preparation and review for this class is 2 hours each.
A comprehensive evaluation will be based on ① advance learning, ② regular marks, ③ practical assignments, and ④ essays. The target is ① 20%, ② 30%, ③ 30%, and ④ 20%, but this may be revised depending on the overall situation of the students.

GEO300TE（地理学 / Geography 300）

測量学及び測量実習（１）（冬期スクーリング）

木村　勲

カテゴリー：**冬期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**1群前半集中**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講手続き等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
空間に関する最も基本的な情報は位置に関する情報である。位置に関する情報を取得する手段として用いられるのが測量である。この授業では、測量に関する基礎理論を学ぶとともに、実習を行い、測量の基礎的技術の習得を目指す。特に、測量データの基礎的な取り扱い及び測地測量の一つの柱である高さを測る水準測量を中心に講義・実習を行う。

【到達目標】
測量に関する基礎理論を学び、測量実習を体験することで測量に関する基礎的知識を習得できる。また、測量に関する誤差理論や誤差要因を解明することで、測量数学のみならず、測量の精度や品質について理解できる。特に水準測量の講義と実習では、水準測量の役割や誤差等についての基礎知識や水準儀を用いた測量技術を習得できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2に関連」

【授業の進め方と方法】
測量の歴史から測量の基準・測量に関係する法律等の事項や様々な測量方法の紹介はスライド等で講義する。また、測量の観測データの処理や誤差の扱い、測量数学等の基礎的理論もスライドによる講義と練習問題を解答していただきながら進める。特に、基本的測量の１つの水準測量は、講義と野外での測量機器を使った実習を行い、観測データの処理方法や測量機器の取り扱いを体験する。疑義については努めて授業内で解説していく。
教材の共有及び連絡事項については、学習支援システムも登録するので確認すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	測量の概要	測量とは何か、測量の歴史など測量の概要について講義する。
第2回	測量法及び資格について	測量の関する法律と測量の資格について講義する。
第3回	地球と測量の基準について	地球の大きさや形状とそれを基にした測量の基準（特に座標系や我が国の測量基準の歴史・役割）について講義する。
第4回	様々な測量と公共測量について	距離測量、GPS 測量、トータルステーションを用いた測量などの原理及びそれらを用いて実施する公共測量について講義する。
第5回	水準測量の原理	水準測量の原理、使用する機器等について講義する。
第6回	水準測量の観測・計算	三角関数などの測量数学計算と水準測量の観測での誤差消去について講義する。
第7回	測量の誤差について	測量の誤差について誤差の種類や誤差の取り扱い含め、水準測量の誤差とその処理方法などを講義と計算実習を行う。
第8回	水準測量の実習	水準測量の方法・水準儀(レベル)の使い方について実習する
第9回	水準測量の実習	構内において自動水準儀を用いた水準測量を実習する。
第10回	水準測量の実習	構内において自動水準儀を用いた水準測量を実習する
第11回	水準測量の実習	水準測量のデータ処理を実習する。
第12回	まとめ・試験	データ処理の結果をまとめ、測量精度等を評価する。 試験後模範解答の説明を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
テキストの序章～３章及び７章を中心に予習しておくこと。授業時間内に計算問題やデータ作成・整理等も実施しますので、努めて講義期間内に終わらせること。
本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします

【テキスト（教科書）】
長谷川昌弘・川端良和　「改訂三版基礎測量学」電気書院￥3,630（税込）
「改訂二版基礎測量学」、「改訂新版（第一版）基礎測量学」も可能

【参考書】
書店には測量学、また測量の種別により様々なテキスト、図解テキストが置かれている。測量のデータ処理には数学が欠かせないものの、自分のレベルや興味に応じ、以下の本などを参考にすること。
中堀義郎ほか著「絵で見る基準点測量　第２版」日本加除出版、斎藤博ほか著「新版　教程　基準点測量」山海堂、大滝三夫ほか共著「公共測量教程　水準測量」東洋書店、大滝三夫ほか共著「公共測量教程　測量計算」東洋書店

【成績評価の方法と基準】
成績評価は試験４０％程度と授業中・実習等の態度６０％程度を総合して評価します。

【学生の意見等からの気づき】
関数電卓を使用した経験がないとの意見が多く、度分秒の１０進数変換や三角関数について授業の中で習得します。

【学生が準備すべき機器他】
関数電卓(スマートフォンのアプリ、例えば「関数電卓Panecal」でも可能）

【その他の重要事項】
測量に関連する授業として、引き続き冬期スクーリングで「測量学及び測量実習（２）」があります。本授業では全体を網羅できていないので、合わせて履修することを推奨します。

【Outline (in English)】
This course will give a lecture about the land surveying, which is the method to obtain geospatial information about location, with a particular focus on the leveling surveying.
In this class, you can also experience practical training together with the lecture in order to learn not only the basic theories concerning surveying but how to use them at the actual situation.
Students are expected to study 2 hours in total before and after each class meeting in order to understand the content of the course.
The overall grade of this course will be determined based on the following evaluation: 40%for the result of the final exam and 60%for the contribution to the class.

GEO300TE（地理学 / Geography 300）

測量学及び測量実習（2）（冬期スクーリング）

菅　富美男

カテゴリー：**冬期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**1群後半集中**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講手続き等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
空間に関する最も基本的な情報は位置に関する情報である。位置に関する情報を取得する手段として用いられるのが測量である。この授業では、測量に関する基礎的な理論を学ぶとともに、実習を行うことにより測量の基礎的技術の習得を目指す。特にトータルステーションを用いた基準点測量及び最新の技術であるＧＮＳＳ測量を中心に講義、実習を行う。あわせて、測量士補資格に必要な知識を習得する。

【到達目標】
トータルステーションを用いた基準点測量の理論を理解しデータ処理ができるようになる．GNSS測量の原理，方法を理解できる．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
基準点測量の方法について学び実習を行う．実習で得られた観測データに基づいて新点の座標及び標高の計算を行う．また、ＧＮＳＳ測量の原理について講義を行い簡単な実習を行う．この授業では，教室で行う講義と実際に機材を使った実習を組み合わせて基準点測量の方法について学ぶ．
また，講義中に，課題並びに実習及びその取りまとめの内容に対して，適宜，講評・解説を行う．
教材の共有，連絡事項等については，学習支援システムにも登録するので，閲覧環境がある場合は確認すること．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	測量の基準と基準点測量の概要	測量の基準と基準点測量の概要について講義を行う．
第2回	測量の誤差	測量で発生する誤差の概要とその処理方法について講義を行う．
第3回	基準点測量の方法並びに観測計画	基準点測量の手順及び方法と，トータルステーションを用いた基準点測量の観測計画（選点）について講義する．
第4回	測量機器（トータルステーション）の使用方法及び測量機器の誤差	トータルステーションによる角観測及び距離測定方法を講義，実機により習熟する．併せて測量機器に起因する誤差について講義する．
第5回	基準点測量の実習１	トータルステーションを用いた基準点測量を実習する．
第6回	基準点測量の実習２	トータルステーションを用いた基準点測量を実習する．
第7回	基準点測量の実習３	トータルステーションを用いた基準点測量を実習する．
第8回	実習で取得した観測データの整理	基準点測量の記録である観測手簿の整理方法と観測の制限について講義し，実習データの整理を実習する．
第9回	基準点測量の距離の補正計算と座標計算	距離の測定に関わる補正の原理と補正計算に必要となる標高を求める計算及び座標の計算方法と点検計算の制限について講義する． また，実習データにより距離の補正計算，座標計算を実習する．
第10回	ＧＮＳＳ測量の原理と精度低下要因	ＧＮＳＳ測量の原理と精度低下の要因について講義する．
第11回	ＧＮＳＳ測量（単点観測法）の実習	１級ＧＮＳＳ受信機によりネットワーク型ＲＴＫ測量の単点観測法を体験する．
第12回	試験，まとめと解説	講義全体のまとめと実習結果の総評をおこない，試験を実施する．

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業時間内に終了しなかったデータ整理はグループごとに協力して次の時間までに終わらせておくこと．
電卓は機種によって使い方が異なるので，持参した電卓を使えるようにしておくこと．（例：sin、cos の関数，角度単位（10進，60進）の変換）
授業時間外の本授業の準備・復習時間は，2時間を標準とする．

【テキスト（教科書）】
長谷川昌弘　・　川端良和　「改訂３版　基礎測量学」　電気書院（2021年発行、本体価格3,300円＋税）

【参考書】
飯村友三郎ほか著　「公共測量教程　ＴＳ－ＧＰＳによる基準点測量　三訂版」東洋書店
国土交通省「作業規程の準則」令和6年6月26日更新（web版）
https://www.gsi.go.jp/common/000258734.pdf

【成績評価の方法と基準】
授業中に行う計算・測量の成果（最終課題），実習態度及び試験を総合して評価する．提出物の欠如と４回以上（計算を含む実習期間については２回以上）の欠席者には単位を与えられない．
評価の割合は「平常点」及び実習態度４０％，授業中に行う計算・測量成果２０％，試験４０％とする．

【学生の意見等からの気づき】
授業及び実習時に出された疑問については，適宜解説を行うとともに，課題，レポートについては，次以降の講義時に解答・標準例を提示して解説する時間を設ける．

【学生が準備すべき機器他】
簡単な図を書くための直定規と，度分秒の６０進法を用いた三角関数・逆三角関数等を使う計算を行うため関数電卓（同等のスマートフォンアプリでも可）を必ず持参すること．
なお，事前に電卓を使用し，度分秒⇔度単位，sin，cos等の関数機能を確認しておくこと．
また，学習支援システムを使用する場合は，システムに接続するための機器を準備すること．

【Outline (in English)】
This course introduces land surveying, especially focusing on the theory of acquiring horizontal position. In particular, a course and practice will be held for control point surveying by total station and the latest GNSS surveying.
Your overall grade in the class will be decided based on the following. Term-end examination: 40%, Calculation /survey results performed during class : 20%、in class contribution: 40%.

GEO300TE（地理学 / Geography 300）

現地研究（冬期スクーリング）

中川　秀一

カテゴリー：**冬期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**1単位**
期間：**2群前半集中**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講手続き等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
岡山とその周辺地域について、都市計画や地域産業と地域づくりの現場を視察します。現在の日本の地方のおかれている状況と課題について、地域の計画や産業の現状を通じて学びます。調査地域は、岡山県岡山市及び倉敷市周辺です。

【到達目標】
フィールドワークの経験を通じて調査研究方法の技術を高めること、現地での調査を通じて日本の地方の置かれている状況についての理解を深めること、これらを通じて地理的な見方、考え方をよりよく理解することを到達目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
都市計画と地域産業をつうじて、さまざまな歴史資産、産業遺産を活用した地域づくりの実践について学びます。具体的には、岡山市の都市計画の沿革と現在の計画、倉敷市の地域づくりと紡績産業、まちの文化、児島のジーンズストリートなどを視察し、まちづくりに取り組む人たちにヒアリングを行います。受講生は、ミーティングでのディスカッションを通じて調査活動を振り返ります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	現地集合 キックオフミーティング	概要の説明・確認 参加者の自己紹介
第2回	岡山市の都市計画	岡山市役所　ヒアリング
第3回	地区計画と地域づくり活動	地域づくり団体ヒアリング
第4回	ディスカッション	岡山市の都市計画　まとめ
第5回	倉敷美観地区の町並み整備	まち歩き
第6回	大原家と倉敷	IVY―SQUAREと各種資料館の見学
第7回	倉敷のまちづくり	倉敷市役所ヒアリング
第8回	ディスカッション	倉敷のまちづくりの振り返り
第9回	児島の繊維産業	ベティスミス・ジーンズミュージアム・児島学生服資料館見学
第10回	交通・開発	旧下津井電鉄児島駅・七番街見学
第11回	町並みと塩業の歴史	ジーンズストリート・旧野崎家住宅（野崎家塩業歴史館）見学
第12回	ディスカッション	調査活動の振り返り、研究課題の検討

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に指定しない。

【参考書】
対象地域、訪問先に関するwebサイトなどを各自で参照しておくこと。

【成績評価の方法と基準】
事前調査レポート（20％）＋現地調査への取り組み（30％）＋現地調査レポート（50％）＝最終レポート(100％)
（ただし、事前調査レポートの内容は、最終レポートに含むこととする）

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【学生が準備すべき機器他】
「学習支援システム」を用いるので、PCでインターネットによる通信で資料の送受信ができるようにして下さい。現地での緊急時に備えて、スマホ・携帯電話を携行して下さい。

【その他の重要事項】
・所定の場所で食事をすることも調査の一部となります。食品に関するアレルギーなど、必要な事項はあらかじめ連絡して下さい。
・現地での移動は、基本的に徒歩です。児島では貸切バスを利用します。

【Outline (in English)】
This course deals with the spot of urban planning and the local industry and community improvement about Okayama and the outskirts area. Students will learn about the current local situation through a regional plan and the industry. Research areas are around Okayama-shi and Kurashiki-shi Okayama.
The goal of this course are to improve the research methods and geographical perspectives and to understand the local areas in Japan through field surveys.
Before this course, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Final grade will be calculated according to the following process Preliminary Survey report (20%), term-end neport (50%), and in-class contribution(30%).

GEO300TE（地理学 / Geography 300）

地理情報システム（GIS）（1）（冬期スクーリング）

中山　大地

カテゴリー：**冬期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**2群前半集中**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講手続き等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
無料で使用できるデスクトップ型地理情報システムであるMANDARAと表計算ソフトのエクセルを用いて，GISの基本的な操作方法・分析方法を習得する．

【到達目標】
本授業では，インターネットから無料で取得できるGISデータと，エクセルで作成した様々な表を地図上に表示する手法を学ぶ．本授業の到達目標は，卒業論文などで使えるコロプレスマップをMANDARAを用いて作成できるようになることである．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
20分程度の講義と70分程度の実習で1回の授業とする．初日と二日目には提出物を作成し，内容について授業内で教員による講評を行う．最終日は最終レポートを作成し，試験としてプレゼンテーションを行う．最終レポートはある課題に対してMANDARAを用いた分析を数名のグループで行い，その結果を5分程度のプレゼンテーション（パワーポイントで作成）にまとめる．プレゼンテーションに対しては各自に採点表を配付し，自己採点と相互採点を行い，発表後に教員による講評を行う．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業ガイダンス，アンケート	GISの基礎的な概念を解説し，簡単なアンケートを行う．
第2回	MANDARAの基礎	MANDARAの基礎的な操作方法を学ぶ．使用データは適宜配付する．
第3回	コロプレスマップの基礎（提出物1）	基本的な地図であるコロプレスマップの作成方法を学ぶ．
第4回	都道府県コロプレスマップの作成（提出物2）	都道府県別の人口マップと人口密度マップを作成し，考察を加えて提出物を作成する．
第5回	エクセルとMANDARAを用いた地図の作成（提出物3）	表計算ソフトであるエクセルでデータを処理し，その結果をMANDARAで地図化する方法を学び，提出物を作成する
第6回	統計データの活用	総務省統計局のホームページから統計データをダウンロードし，エクセルを使って分析を行い結果を地図化する．
第7回	統計データを用いた地図の作成（提出物4）	e-statからダウンロードしたデータを用い，人口統計に関する地図を4枚作成する．
第8回	市区町村別マップの作成（提出物5）	市区町村単位のコロプレスマップ作成について学び，提出物を作成する．
第9回	グループワーク1：課題の検討	グループごとに一都三県（埼玉県，千葉県，東京都，神奈川県）の市区町村（東京都の島嶼部を除く）における少子高齢化に関係する事象を示す地図を作成し，考察を行う．
第10回	グループワーク2：データの入手と地図の作成	e-statなどから必要なデータをダウンロードし，エクセルなどを用いてデータ処理を行い地図を作成する．
第11回	グループワーク3：考察とプレゼンテーション	作成した地図を元に考察を行い，パワーポイント5枚以内のプレゼンテーションを作成する．
第12回	グループワーク4：発表会	発表会を行い，自己採点と相互採点を行う．相互採点の結果からベストプレゼンテーションを選ぶ．作成したプレゼンテーションは最終レポートとして提出する．

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・復習時間は各2時間を標準とする．
エクセルなどの表計算ソフトについて基本的な操作方法を学習しておくこと．参考書などを用いてMANDARAの基本的な概要について学習をしておくこと．授業時に指示される方法での復習を行うこと．

【テキスト（教科書）】
プリントを配布する．

【参考書】
谷謙二（2022）『フリーGISソフトMANDARA10入門　増補版』古今書院，2,750円（本体2,500円＋税）
，ISBN9784772281232
谷謙二（2018）『フリーGISソフト MANDARA10 パーフェクトマスター』古今書院，￥3,800＋税，ISBN9784772281195

【成績評価の方法と基準】
授業内で提出する提出物（5回，合計50%）と最終プレゼンテーションにおける自己・相互採点（50%）で成績を評価する．
提出物の評価基準：コロプレスマップの作成方法（階級区分の方法，各階級の塗り分け，階級のシンボルなど）がきちんと理解できていること．増減を表す図が適切に作成できていること．作成した図を適切に考察できていること．
最終プレゼンテーションの評価基準：自分のグループのプレゼンテーションと，他のグループのプレゼンテーションに対して5段階で評価を行う．評価の基準は以下である．適切なデータを用いているか，適切な分析がなされているか，適切な図が作成できているか．

【学生の意見等からの気づき】
特になし．

【学生が準備すべき機器他】
情報実習室を使用する．データ持ち帰り用のUSBメモリ（空き容量8GB程度）を持参すること．初回の授業時に色鉛筆を使用する（10色程度）ので持参すること．

【Outline (in English)】
The aims of this lecture are to learn the basic usage and application of GIS (MANDARA) and Excel.
The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
Students are required to learn basic operations of spreadsheet software such as Excel. Study the basic outline of MANDARA by using reference books. Students are expected to review the material as instructed in class.
Grades will be based on the submissions in class (5 submissions, total 50%) and self and peer grading of the final presentation (50%).
Criteria for evaluation of the submissions: The student should have a good understanding of how to create choropleth-maps (class classification method, coloring of each class, symbols for classes, etc.). The student should be able to draw a figure showing the increase/decrease in the choropleth-map appropriately. The student should be able to discuss the diagrams appropriately.

Evaluation criteria for the final presentation: The students will be evaluated on a 5-point scale for their group's presentation and the presentations of the other groups. The evaluation criteria are as follows; Whether or not appropriate data is used, appropriate analysis is made, and appropriate diagrams are created.

GEO300TE（地理学 / Geography 300）

現地研究（冬期スクーリング）

宇津川　喬子

カテゴリー：**冬期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**1単位**
期間：**2群後半集中**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講手続き等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
佐賀を中心にフィールドワークを通して「地形・地質から見た伝統文化と産業の発展」を主なテーマに、産業や町の発展における地形・地質的背景を捉えることを目的とする。

【到達目標】
現地調査の方法を学びつつ、地圏で起きている自然現象について理解した上で、伝統文化や産業が発展に至った背景を地形・地質的な側面をも踏まえて地理学的に捉えることができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
基本的には、終日屋外で実施する（一部、屋内施設を利用する）。
主な見学地域（予定）は以下の通り。
1日目：佐賀県鹿島市・嬉野市（集合：博多駅　貸切バスで肥前鹿島干潟および塩田宿を回る。解散：武雄温泉駅）
2日目：佐賀県西松浦郡有田町・伊万里市（集合：武雄温泉駅　公共交通機関で移動　解散：武雄温泉駅）
3日目：佐賀県嬉野市（集合：武雄温泉駅　公共交通機関で移動　解散：嬉野温泉駅）
見学場所の都合によっては、一部を周辺地域に変更することもある。
２・３日目は公共交通機関および徒歩で移動するため、各日の交通費が必要となる。
宿泊先は武雄温泉駅周辺において個々人で予約手配を行う。
実習内容について、現地にてその都度フィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	1日目：九州北部の地形と地質	九州地方の中の「佐賀」という地域の地形・地質を地図等を用いて捉える
第2回	干潟地形と自然環境	有明海を例に，干潟という地形の特性を考える
第3回	「塩田津」の役割	産業・文化発展のの入口となりうる「港」について，地形の観点から考える
第4回	長崎街道	塩田宿で「長崎街道」の位置付けと考える
第5回	２日目：焼物産業の発展と地形・地質（１）	なぜ，佐賀では焼物産業が発達したのか
第6回	焼物産業の発展と地形・地質（２）	伊万里焼を例に考える
第7回	焼物産業の発展と地形・地質（３）	有田焼を例に考える
第8回	佐賀の温泉産業	武雄温泉，嬉野温泉を例に考える
第9回	３日目：茶産業と地形・地質の関係（１）	なぜ，嬉野では茶栽培が盛んなのかを現場で考える
第10回	茶産業と地形・地質の関係（２）	茶産業を主体とした交流拠点を見学する
第11回	火山地形と景観	「轟の滝」の形成要因を現地で考える
第12回	まとめ	これまでの見学地点の関係性を考える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
事前に巡検先の地勢や地理的な概要について予習しておくとともに、事後レポートでまとめてみたいテーマについても検討しておくこと。
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
使用しない。

【参考書】
特に指定しない。

【成績評価の方法と基準】
全日程の出席が成績評価の前提である。
授業への積極的な姿勢（50%）および事後レポート（50%）により評価する。
なお、事後レポートは原則学習支援システムを使用して提出されたものを評価対象とする。

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
動きやすい恰好（履き慣れた靴．スニーカーでよい）・防寒着・カメラ（レポートに挿入する写真を撮影するため．スマートフォン可）・野帳（コクヨのSketchBook：方眼紙タイプを推奨）・筆記用具（赤，青，黄，緑の色鉛筆が1本ずつあるとよい）

【その他の重要事項】
野外活動が中心となるため、防寒・防風対策を念入りにしてほしい。
徒歩や公共交通機関による移動を念頭に動きやすい服装・装備で臨むこと。
実施期間：2025年1月30日（木）～2月1日（土）
実施場所：佐賀県（鹿島市・有田町・伊万里市・嬉野市）

【Outline (in English)】
This course introduces the geomorphological and geological background on human activity, especially in the development of traditional Japanese culture and industry in Saga Prefecture, Kyushu, Japan.
The goals of this course are to understand the method of field survey and the role of natural phenomena in the developmet of the traditional Japanese culture and industry.
Before/after each class meeting students will be expected to spend one
hour to understand the course content.
Grading will be decided based on the quality of the student's performance (50%) and report (50%).

GEO200TE（地理学 / Geography 200）

地誌学特講（冬期スクーリング）

前畑　明美

カテゴリー：**冬期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**2群後半集中**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講手続き等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：**※地理学科本科生用**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
国連海洋法条約の定義に従うと、「島」とは自然に形成され、常に水に囲まれている陸地であり、日本列島には1万5千余の島々が存在しています。このように南北に長い多島海の島々には、一体どのような一般性と地域的特性がみられるのでしょうか。本科目では、地図、海図、統計、映像、写真などの諸資料をもとに多くの島々を地誌的に考察し、その一般的性質や島々の多様な姿について捉えていくことを目的としています。

【到達目標】
全12回の授業を通して、普遍的でダイナミックな「島嶼性」という島の性質を捉えていくことを目指します。また、国内外の島々にみられる興味深い実態、諸現象について、その全容はどうなっているのか、いかなる仕組み・構造のもとで発現しているのか、現代社会においてどのような意味を有しているのかなど、「島嶼性」と諸要因を総合的に勘案しながら論理的に説明できるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
・基本的には講義形式ですが、プリント教材等に沿いながら、出席者の個人的経験や見解を交えつつ授業を進めていきます。
・ご質問や連絡事項は、授業の前後にお伺いいたします。
・最終日、試験後にフィードバックいたします。初回時に詳しく説明することといたします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス，地誌とは	授業の概要説明，大学で学ぶ地誌
第2回	「島」とは（1）	人々の暮らしと島，「島」から「離島」へ
第3回	「島」とは（2）	島の定義，島嶼性，島嶼ネットワーク，島嶼地理学の動向
第4回	島々の産業（1）	島々の石材産業の盛衰と「島嶼性」
第5回	島々の産業（2）	島々の石炭産業の盛衰と「島嶼性」
第6回	日本の島嶼政策（1）	島国日本の島の政策
第7回	日本の島嶼政策（2）	公式統計データによる検証
第8回	日本の島嶼政策（3）	架橋列島，架橋島の現状（1）
第9回	日本の島嶼政策（4）	架橋島の現状（2），交通の社会的機能
第10回	「島嶼性」を活かす（1）	コミュニティの力と島嶼ネットワークの展開（1）
第11回	「島嶼性」を活かす（2）	コミュニティの力と島嶼ネットワークの展開（2）
第12回	まとめ，試験	授業の総括，試験，解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
島・海について、日頃からキーワードとして留意し、情報収集に努めてください。その際、できるだけ複数の資料にあたっていただきたいと思います。また授業後には、気づいた点・疑問点をそのままにせず、積極的に図書館などを活用して探究してください。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特になし。毎回プリント教材を配布します。

【参考書】
地図帳をご用意いただくと、位置確認が容易となり役立つことと思います。参考文献については初回時をはじめ随時紹介していきますが、ぜひ授業前に、以下の文献のいずれかと、興味のもたれる島関連の一般書を1冊程度通読いただきたいと思います。
・スティーヴン・A.ロイル、中俣均訳『島の地理学：小さな島々の島嶼性』法政大学出版局2018年
・田辺悟『島』法政大学出版局2015年
法政大学の図書館、もしくは最寄りの図書館をご活用ください。

【成績評価の方法と基準】
平常点（50％）・最終日の試験（50％）
質問やコメントなど積極的な姿勢を評価いたします。

【学生の意見等からの気づき】
質問時間を設けながら、ぜひとも双方向的な学びをしていただける機会にしていきたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【その他の重要事項】
授業関連の連絡は、「学習支援システム」の「お知らせ」を介して行います。

【Outline (in English)】
According to the definition of the United Nations Convention on the Law of the Sea, an island is a piece of land formed naturally, completely surrounded by water. The Japanese archipelago consists of over 15,000 islands. What kind of generalities and regional characteristics can be seen in these long north-south archipelago? The purpose of this course is to learn many islands based on maps, charts, statistics, videos, photographs, and various other materials, and to comprehend their general nature and island diversity.
Before/after each class, students will be expected to spend four hours to understand the class content.
Your overall grade in the class will be decided based on the following:
Normal score: 50%Final exam: 50%

GEO200TE（地理学 / Geography 200）

地誌学特講（S）（冬期スクーリング）

前畑　明美

カテゴリー：**冬期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**2群後半集中**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講手続き等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：**※科目等履修生用**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
国連海洋法条約の定義に従うと、「島」とは自然に形成され、常に水に囲まれている陸地であり、日本列島には1万5千余の島々が存在しています。このように南北に長い多島海の島々には、一体どのような一般性と地域的特性がみられるのでしょうか。本科目では、地図、海図、統計、映像、写真などの諸資料をもとに多くの島々を地誌的に考察し、その一般的性質や島々の多様な姿について捉えていくことを目的としています。

【到達目標】
全12回の授業を通して、普遍的でダイナミックな「島嶼性」という島の性質を捉えていくことを目指します。また、国内外の島々にみられる興味深い実態、諸現象について、その全容はどうなっているのか、いかなる仕組み・構造のもとで発現しているのか、現代社会においてどのような意味を有しているのかなど、「島嶼性」と諸要因を総合的に勘案しながら論理的に説明できるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
・基本的には講義形式ですが、プリント教材等に沿いながら、出席者の個人的経験や見解を交えつつ授業を進めていきます。
・ご質問や連絡事項は、授業の前後にお伺いいたします。
・最終日、試験後にフィードバックいたします。初回時に詳しく説明することといたします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス，地誌とは	授業の概要説明，大学で学ぶ地誌
第2回	「島」とは（1）	人々の暮らしと島，「島」から「離島」へ
第3回	「島」とは（2）	島の定義，島嶼性，島嶼ネットワーク，島嶼地理学の動向
第4回	島々の産業（1）	島々の石材産業の盛衰と「島嶼性」
第5回	島々の産業（2）	島々の石炭産業の盛衰と「島嶼性」
第6回	日本の島嶼政策（1）	島国日本の島の政策
第7回	日本の島嶼政策（2）	公式統計データによる検証
第8回	日本の島嶼政策（3）	架橋列島，架橋島の現状（1）
第9回	日本の島嶼政策（4）	架橋島の現状（2），交通の社会的機能
第10回	「島嶼性」を活かす（1）	コミュニティの力と島嶼ネットワークの展開（1）
第11回	「島嶼性」を活かす（2）	コミュニティの力と島嶼ネットワークの展開（2）
第12回	まとめ，試験	授業の総括，試験，解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
島・海について、日頃からキーワードとして留意し、情報収集に努めてください。その際、できるだけ複数の資料にあたっていただきたいと思います。また授業後には、気づいた点・疑問点をそのままにせず、積極的に図書館などを活用して探究してください。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特になし。毎回プリント教材を配布します。

【参考書】
地図帳をご用意いただくと、位置確認が容易となり役立つことと思います。参考文献については初回時をはじめ随時紹介していきますが、ぜひ授業前に、以下の文献のいずれかと、興味のもたれる島関連の一般書を1冊程度通読いただきたいと思います。
・スティーヴン・A.ロイル、中俣均訳『島の地理学：小さな島々の島嶼性』法政大学出版局2018年
・田辺悟『島』法政大学出版局2015年
法政大学の図書館、もしくは最寄りの図書館をご活用ください。

【成績評価の方法と基準】
平常点（50％）・最終日の試験（50％）
質問やコメントなど積極的な姿勢を評価いたします。

【学生の意見等からの気づき】
質問時間を設けながら、ぜひとも双方向的な学びをしていただける機会にしていきたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【その他の重要事項】
授業関連の連絡は、「学習支援システム」の「お知らせ」を介して行います。

【Outline (in English)】
According to the definition of the United Nations Convention on the Law of the Sea, an island is a piece of land formed naturally, completely surrounded by water. The Japanese archipelago consists of over 15,000 islands. What kind of generalities and regional characteristics can be seen in these long north-south archipelago? The purpose of this course is to learn many islands based on maps, charts, statistics, videos, photographs, and various other materials, and to comprehend their general nature and island diversity.
Before/after each class, students will be expected to spend four hours to understand the class content.
Your overall grade in the class will be decided based on the following:
Normal score: 50%Final exam: 50%

ECN200TF（経済学 / Economics 200）

経済学特講（冬期スクーリング）【オンライン】

石川　貴幸

カテゴリー：**冬期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**1群午後**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講手続き等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では、日本が長期停滞から脱し経済成長を達成するための重要な論点である、生産性や無形資産について紹介する。簡単な経済成長のモデルを用いて、どうして国家が成長するのか、生産性はどのようにしたら向上するのかなどを明らかにしていく。また、実際のデータをマクロ経済学で説明し、経済学を実体経済へ応用する方法も紹介する。
【キーワード】技術革新、経済成長、生産性、成長会計、長期停滞論、無形資産

【到達目標】
・生産性や無形資産と言った専門用語を正しく理解する。
・経済データを経済理論を用いて説明できるようになる。
・経済を分析するための強力なツールである成長会計を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「経済学科：DP1」「商業学科：経済学」に関連

【授業の進め方と方法】
Zoomを用いた遠隔・講義型授業

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	経済成長と生産性	授業の進め方と、経済成長はどうして必要かについて説明する。
第2回	統計から眺める日本経済	実際の経済データを用いて日本経済を俯瞰する。データの取得方法などについても紹介する。
第3回	国民経済計算	経済規模を測るとはどうやって行われているのかを説明する。
第4回	生産の理論	経済で行われる生産についてモデルを用いた理論的説明を行う。
第5回	労働と資本	生産に必要な要素である労働と資本はどのように計測するのかを説明する。
第6回	資本蓄積の低迷	日本の資本蓄積の低迷について説明する。
第7回	経済成長の理論	Solowモデルと呼ばれる成長理論を紹介する。
第8回	成長会計①	経済成長を分解し、成長に必要な要素が何かを明らかにする。
第9回	成長会計②	成長会計を国際比較し、日本との違いや過去の成長がどのように達成されたのかを考察する。
第10回	生産性を向上させるには	何が必要かを考えてみる。
第11回	何かがおかしい	長期停滞はもはや日本だけの問題ではなく世界的な問題でもある。より大きな観点から今一度経済を眺めてみる。
第12回	まとめ	レポート課題についての説明と授業の振り返りを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。
・配布している授業資料をよく読みこんでおくこと。また配布したデータや引用先のWebサイトなどを見て実際にデータをいじってみること。

【テキスト（教科書）】
特に指定しない

【参考書】
基本的に買う必要はない。
1冊ほしいということであれば、本講義に似た内容を扱うものならば1、生産性についての本ということであれば2か5、無形資産の性質などについて知りたいのであれば2、3、4がおすすめ。6は経済成長理論の専門書であるのでより高度な数理モデルによる理解や大学院博士課程などを検討している以外は不要。7は授業で扱うトピックスなので一読してもらえると嬉しい。
1. 平口良司『入門・日本の経済成長』日本経済新聞出版，2022
2. 宮川努『生産性とは何か―日本経済の活力を問いなおす―』ちくま新書，2018
3. ジョナサン・ハスケル，スティアン・ウェストレイク（山形浩生訳）『無形資産が経済を支配する』東洋経済，2020
4. ジョナサン・ハスケル，スティアン・ウェストレイク（山形浩生訳）『無形資産経済　見えてきた5つの壁』東洋経済，2023
5. 森川正之『生産性　誤解と真実』日本経済出版社，2021
6. R.J.バロー、X.サラ・イ・マーティン（大住圭介訳）『内生的経済成長理論[第2版]』九州大学出版会，2006
7. 石川貴幸『研究開発投資の効率性 ～都道府県間・主要国間における比較～』（https://x.gd/RQoXC）（一般財団法人）日本経済研究所，2024

【成績評価の方法と基準】
・平常点50％、期末レポート50％
・平常点に含まれるクイズを数回実施する可能性がある。
・期末レポートは経済成長と無形資産、生産性の関係を授業で用いたデータや図などを利用して説明することやこれらキーワードについて国際比較を行うことなどを検討している。

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムとZoomに接続できる環境と情報機器

【その他の重要事項】
・シラバスの内容は進度に応じて若干前後する場合がある。
・授業資料は学習支援システムを通じて配布する。早い段階で過去資料を配布するのであらかじめ目を通しておくこと。
・Zoomに参加する場合、出席管理のため表記名を学籍番号にすること。
・オフィスアワーは1コマ目の前と2コマ目の後で計30分ずつを考えている（初日は1コマ目前は無し）。Zoomのリンクを掲示しておく予定である。

【Outline (in English)】
This class will present an introduction to economic growth, particularly "productivity" and "intangibles" These keywords are important issues to lift off from secular stagnation in Japan.
The course has a number of objectives: The first is to provide the technical terms (productivity, intangibles, assets, etc.) defined by economic theory; the second is to explain the economic situation using economic statistics; and finally, to provide growth accounting as the most powerful tools to analyze economic growth.
Keywords: Economic growth, Intangibles, Growth accounting, Productivity, Secular stagnation, Technological progress.
Students will be expected to study more than four hours for a class (reading lecture note, investigating data, and comparing between the past and today).
Grade [Total 100 points]:
・Participation: 50 points
・Report: 50 points

ECN300TF（経済学 / Economics 300）

日本経済論B（冬期スクーリング）

萬代　悠

カテゴリー：**冬期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**2群午前**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講手続き等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では、日本の経済社会化が進展した16世紀末から、日本が明治維新を迎える直前の19世紀中頃までを対象とし、市場経済の発展に強く影響を与えた制度に着目しながら、各時代を特徴づけた政策・市場・社会構造を解説する。本授業の目的は、日本の経済発展の歴史を「用語」の羅列として理解するのではなく、日本の経済が発展した「要因」を制度・技術・担い手などの諸側面から理解することにある。

【到達目標】
過去の人びとが現代の私たちよりも合理的でなかったなどという先入観を捨て、それぞれの時代の制度（法や規則、慣習）に制約を受けながら、市場と向き合った人びとの試行錯誤の歴史を学ぶ。決められた制度のなかでどのような行動選択が経済成長にとって合理的であったか、あるいは、より経済を発展させるにはどのような制度の設計が必要であったかを考え、私たちが制度と市場に対してよりよい選択をするための素地を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「経済学科：DP2,DP5」「商業学科：経済学」に関連

【授業の進め方と方法】
偶数回は講義方式、初回を除く奇数回は受講生からの質問やコメントをふまえた解説・応答・協働授業方式でおこなう。偶数回のあと課題に応じた質問やコメントを提出し、それへの解説・応答授業である奇数回の授業中には理解度テストをおこなう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業ガイダンス	経済史を語るにあたって、なぜ制度に着目するのかを解説する。
第2回	外延的経済成長の時代：17世紀の人口増加と新田開発	17世紀を中心として、豊臣政権と江戸幕府が推進した所有権の保護、および新田の拡大と社会資本の整備を説明し、なぜ17世紀に人口が大きく増大したかを説明する。
第3回	解説・応答授業	第2回授業の質問やコメントをふまえて解説・応答し、意見交換をする。
第4回	綱吉と吉宗の時代：江戸幕府の法と改革（1）	17世紀末から18世紀中頃を中心として、江戸幕府が講じた貨幣改鋳や年貢増徴、特定の債権保護を説明し、これらの政策が市場経済に与えた影響を説明する。
第5回	解説・応答授業	第4回授業の質問やコメントをふまえて解説・応答し、意見交換をする。
第6回	内的成長の時代：18世紀の「勤勉革命」	18世紀を中心として、畿内からはじまった農業技術の進歩と労働節約の追求を説明し、なぜ18世紀に農業生産性が高まったのかを説明する。
第7回	解説・応答授業	第6回授業の質問やコメントをふまえて解説・応答し、意見交換をする。
第8回	田沼意次と松平定信の時代：江戸幕府の法と改革（2）	18世紀中頃から18世紀末を中心として、江戸幕府が講じた税収改革や新貨幣の鋳造、特定の財産権保護、備荒貯蓄を説明し、これらの政策が市場経済に与えた影響を説明する。
第9回	解説・応答授業	第8回授業の質問やコメントをふまえて解説・応答し、意見交換をする。
第10回	領主金融と投資の時代：19世紀前半のインフレ的経済成長	9世紀前半を中心として、江戸幕府の公金貸付、あるいは諸藩や二宮尊徳、豪農・豪商らが講じた資金運用を説明し、なぜ19世紀前半に金融取引が拡大したかを説明する。
第11回	解説・応答授業	第10回授業の質問やコメントをふまえて解説・応答し、意見交換をする。
第12回	開国前夜の時代：江戸幕府の法と改革（3）	19世紀中頃を中心として、江戸幕府が講じた物価統制や株仲間解散令、株仲間再興令を説明し、これらの政策が市場経済に与えた影響を説明する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業の前には、参考書を用いて予習する（作業2時間程度）。授業のあとには、授業の内容を復習したり、授業で提示した参考文献から理解を深める（作業2時間程度）。

【テキスト（教科書）】
なし。

【参考書】
アブナー・グライフ、岡崎哲二・神取道宏監訳（2021）『比較歴史制度分析　上下（ちくま学芸文庫版）』筑摩書房。
沢井実・谷本雅之（2015）『日本経済史　近世から現代まで』有斐閣。
中西聡編（2023）『日本経済の歴史　列島経済史入門　第2版』名古屋大学出版会。
深尾京司・中村尚史・中林真幸編（2017）『岩波講座日本経済の歴史　第1巻　中世　11世紀から16世紀後半』岩波書店。
深尾京司・中村尚史・中林真幸編（2017）『岩波講座日本経済の歴史　第2巻　近世　16世紀末から19世紀前半』岩波書店。

【成績評価の方法と基準】
偶数回の授業のあとに提出する質問・コメント（30％）
初回を除く奇数回の授業でおこなう理解度テスト（20％）
最終試験（50％）

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】
なし。

【その他の重要事項】
原則、対面形式でおこなうが、仮に受講生が教室収容人数を超えた場合には、ハイブリッド形式でおこなうことを検討する。

【Outline (in English)】
授業の概要（Course outline）
This course introduces cover the early modern period through the opening of the country, and will introduce students to the market and social structure.
到達目標（Learning Objectives）
The goals of this course are to cultivate the groundwork for us to make better choices about institutions and markets.
授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）
Before class, students should prepare for the class using reference books (about 2 hours of work). After class, review the class content and deepen understanding from the references presented in class (about 2 hours of work).
成績評価の方法と基準（Grading Criteria /Policy）

Your overall grade in the class will be decided based on the following
Short reports: 30%, Mid-term examination :20%, Term-end examination: 50%.

ECN300TF（経済学 / Economics 300）

日本経済論Ⅱ（冬期スクーリング）

萬代　悠

カテゴリー：**冬期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**2群午前**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講手続き等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では、日本の経済社会化が進展した16世紀末から、日本が明治維新を迎える直前の19世紀中頃までを対象とし、市場経済の発展に強く影響を与えた制度に着目しながら、各時代を特徴づけた政策・市場・社会構造を解説する。本授業の目的は、日本の経済発展の歴史を「用語」の羅列として理解するのではなく、日本の経済が発展した「要因」を制度・技術・担い手などの諸側面から理解することにある。

【到達目標】
過去の人びとが現代の私たちよりも合理的でなかったなどという先入観を捨て、それぞれの時代の制度（法や規則、慣習）に制約を受けながら、市場と向き合った人びとの試行錯誤の歴史を学ぶ。決められた制度のなかでどのような行動選択が経済成長にとって合理的であったか、あるいは、より経済を発展させるにはどのような制度の設計が必要であったかを考え、私たちが制度と市場に対してよりよい選択をするための素地を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「経済学科：DP2,DP5」「商業学科：経済学」に関連

【授業の進め方と方法】
偶数回は講義方式、初回を除く奇数回は受講生からの質問やコメントをふまえた解説・応答・協働授業方式でおこなう。偶数回のあと課題に応じた質問やコメントを提出し、それへの解説・応答授業である奇数回の授業中には理解度テストをおこなう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業ガイダンス	経済史を語るにあたって、なぜ制度に着目するのかを解説する。
第2回	外延的経済成長の時代：17世紀の人口増加と新田開発	17世紀を中心として、豊臣政権と江戸幕府が推進した所有権の保護、および新田の拡大と社会資本の整備を説明し、なぜ17世紀に人口が大きく増大したかを説明する。
第3回	解説・応答授業	第2回授業の質問やコメントをふまえて解説・応答し、意見交換をする。
第4回	綱吉と吉宗の時代：江戸幕府の法と改革（1）	17世紀末から18世紀中頃を中心として、江戸幕府が講じた貨幣改鋳や年貢増徴、特定の債権保護を説明し、これらの政策が市場経済に与えた影響を説明する。
第5回	解説・応答授業	第4回授業の質問やコメントをふまえて解説・応答し、意見交換をする。
第6回	内的成長の時代：18世紀の「勤勉革命」	18世紀を中心として、畿内からはじまった農業技術の進歩と労働節約の追求を説明し、なぜ18世紀に農業生産性が高まったのかを説明する。
第7回	解説・応答授業	第6回授業の質問やコメントをふまえて解説・応答し、意見交換をする。
第8回	田沼意次と松平定信の時代：江戸幕府の法と改革（2）	18世紀中頃から18世紀末を中心として、江戸幕府が講じた税収改革や新貨幣の鋳造、特定の財産権保護、備荒貯蓄を説明し、これらの政策が市場経済に与えた影響を説明する。
第9回	解説・応答授業	第8回授業の質問やコメントをふまえて解説・応答し、意見交換をする。
第10回	領主金融と投資の時代：19世紀前半のインフレ的経済成長	9世紀前半を中心として、江戸幕府の公金貸付、あるいは諸藩や二宮尊徳、豪農・豪商らが講じた資金運用を説明し、なぜ19世紀前半に金融取引が拡大したかを説明する。
第11回	解説・応答授業	第10回授業の質問やコメントをふまえて解説・応答し、意見交換をする。
第12回	開国前夜の時代：江戸幕府の法と改革（3）	19世紀中頃を中心として、江戸幕府が講じた物価統制や株仲間解散令、株仲間再興令を説明し、これらの政策が市場経済に与えた影響を説明する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業の前には、参考書を用いて予習する（作業2時間程度）。授業のあとには、授業の内容を復習したり、授業で提示した参考文献から理解を深める（作業2時間程度）。

【テキスト（教科書）】
なし。

【参考書】
アブナー・グライフ、岡崎哲二・神取道宏監訳（2021）『比較歴史制度分析　上下（ちくま学芸文庫版）』筑摩書房。
沢井実・谷本雅之（2015）『日本経済史　近世から現代まで』有斐閣。
中西聡編（2023）『日本経済の歴史　列島経済史入門　第2版』名古屋大学出版会。
深尾京司・中村尚史・中林真幸編（2017）『岩波講座日本経済の歴史　第1巻　中世　11世紀から16世紀後半』岩波書店。
深尾京司・中村尚史・中林真幸編（2017）『岩波講座日本経済の歴史　第2巻　近世　16世紀末から19世紀前半』岩波書店。

【成績評価の方法と基準】
偶数回の授業のあとに提出する質問・コメント（30％）
初回を除く奇数回の授業でおこなう理解度テスト（20％）
最終試験（50％）

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】
なし。

【その他の重要事項】
原則、対面形式でおこなうが、仮に受講生が教室収容人数を超えた場合には、ハイブリッド形式でおこなうことを検討する。

【Outline (in English)】
授業の概要（Course outline）
This course introduces cover the early modern period through the opening of the country, and will introduce students to the market and social structure.
到達目標（Learning Objectives）
The goals of this course are to cultivate the groundwork for us to make better choices about institutions and markets.
授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）
Before class, students should prepare for the class using reference books (about 2 hours of work). After class, review the class content and deepen understanding from the references presented in class (about 2 hours of work).
成績評価の方法と基準（Grading Criteria /Policy）

Your overall grade in the class will be decided based on the following
Short reports: 30%, Mid-term examination :20%, Term-end examination: 50%.

BSP100TF（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）

総合特講（冬期スクーリング）

赤石　秀之

カテゴリー：**冬期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**2群午前**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講手続き等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
リサイクルとは、社会の中で利用されなくなった製品を分解して再び資源に戻し、その資源から新たな製品を作り出す事である。リサイクルが促進されると、自然環境から取り出される資源を抑えられ、また自然環境へ戻される廃棄物が減らされる事により、社会が自然環境に与える負荷を小さくすることが出来る。日本のように自然環境に大きな負荷を及ぼしている社会にとって、リサイクルが成功するか否かは近年では大きな関心事の一つである。一般的に、リサイクルの成功のためには、製品から資源に戻し新たな製品を生み出す技術があり、新たな製品を人々が好み、そして社会によるリサイクルの ルールが必要であると言われている。この授業では、これらリサイクル成功のための三つの条件についてミクロ経済学の視点から考察する事を目的とする。

【到達目標】
この授業を受ける事により、次の事が身につけられる：
①ミクロ経済学の基本的な知識をリサイクルに適用する方法
②リサイクルを促進するための法制度をミクロ経済学の視点から解釈する方法
③リサイクル法をミクロ経済学の立場から評価する方法

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP1，DP2」「史学科：DP1，DP3」「地理学科：DP1，DP2，DP3」「経済学科：DP4，DP5」「商業学科：自由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

【授業の進め方と方法】
基本的には、講義を中心とする。適宜、ミニ課題という形の課題を授業中や宿題として実施する場合がある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	リサイクルの経済学の役割	リサイクルの経済学の目的・方法・意義とは？
第2回	生産者行動の決定原則	製品の生産者はどのような行動をするのか？
第3回	消費者行動の決定原則	製品の消費者どのような行動をするのか？
第4回	製品市場の決定原則	製品市場では、どのような取引が行われるのか？
第5回	排出者行動の決定原則	製品の排出者はどのような行動をするのか？
第6回	再生者行動の決定原則	再生財の生産者（再生者）はどのような行動をするのか？
第7回	再生財市場の決定原則	再生された製品の市場では、どのような取引が行われるのか？
第8回	処理者行動の決定原則	廃品の処理者はどのような行動をするのか？
第9回	廃品市場の決定原則	廃棄された製品の市場では、どのような取引がお請われるのか？
第10回	製品市場と再生財市場の同時決定原則	製品市場と再生財市場が同時に成立するための条件とは？
第11回	製品市場と廃品市場の同時決定原則	製品市場と廃品市場が同時に成立するための条件とは？
第12回	試験・まとめと解説	授業のまとめと、試験を実施し、解説を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
毎回レジメを配布するため、テキストは使用しない。

【参考書】
特に使用しない。

【成績評価の方法と基準】
授業中または宿題として行う「ミニ課題」で40％、最終日に実施する「最終試験」で60％分の評価とする

【学生の意見等からの気づき】
学生の立場に立った授業を心がけています。

【Outline (in English)】
Recycling is to disassemble products that are no longer used in society, return them to resources again, and create new products from those resources. When recycling is promoted, the resources taken out of the natural environment are suppressed, and the waste returned to the natural environment is reduced, so that the burden on the society on the natural environment can be reduced. For a society like Japan that has a great burden on the natural environment, whether recycling will be successful or not is one of the major concerns in recent years. In general, it is said that for the success of recycling, there is technology to return from products to resources and create new products, people like new products, and the rules of recycling by society are necessary. The purpose of this class is to consider these three conditions for successful recycling from the perspective of microeconomics.

ECN100TF（経済学 / Economics 100）

社会経済学B（冬期スクーリング）

舩木　恵子

カテゴリー：**冬期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**2群午後**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講手続き等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義はこれから経済学を学ぶ初学者の学生を対象とし、現代経済を理論的・歴史的に考察する。「なぜ経済学の基礎理論が必要なのか」という問いを重視し、経済学の目的やその学問的源泉からわかりやすく講義をする。経済学は単なる金儲けの学問や理論のための理論ではなく、人々の現実の暮らしを深く分析するための理論であることを学習する。社会経済学では基本的にマルクス経済学に基づく視点から資本主義経済を分析する。本講義では特に資本主義経済の再生産のメカニズムについてジェンダー理論や経済学史も加えて学習する。

【到達目標】
1.資本主義経済の基本的仕組みを歴史的・理論的に理解する。具体的には第二次世界大戦後の世界の金融システムの特徴や現実経済の事例を理解した上で、マルクス経済学『資本論』に基づいた経済理論の概要を理解する。
2.現代資本主義の諸問題の解明に必要な基礎理論の概要を習得しメディアに扇動されることなく、自ら考察することができるような基礎的知識を取得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP3,DP5」「地理学科：DP1」「経済学科：DP2, DP4」「商業学科：経済学」に関連

【授業の進め方と方法】
講義形式の授業である。講義時にプリントを配布する予定。配布方法やプリントの使用方法等の詳細は最初の授業時に説明する。授業内で適宜確認問題等を実施する予定。確認問題を実施し、理解度を確認し、それに合わせて次の単元へ進むように授業をすすめる。もし理解度が不足しているようであれば、再度授業を繰り返して理解度を深める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業開始にあたって 経済学とは何か	社会経済学の課題 授業の進め方など
第2回	経済学の対象 経済学とは何か	経済学説史の確認とpolitical Economyと Economicsの目的性の違いを理解する
第3回	マルクス経済学	リカード経済学からマルクス経済学へ。 主流派・非主流派経済学・現代の異端派経済学
第4回	金融資本 信用制度の成立(1)	銀行の成立過程 金融資本論(ヒルファーディング) 金融の役割
第5回	信用制度の成立(2) 独占体の形成	商業信用と銀行信用 中央銀行の金融政策を理解する
第6回	国際通貨システムの変容	ブレトンウッズ体制の成立と崩壊 日本のバブルと平成不況の理解を含めて理解
第7回	資本主義の基礎概念 現実経済と純粋な資本主義 経済原論とは何か	現実には存在しない純粋な資本主義を解明する必要性とは 理論と現実の相克
第8回	資本主義の生産・再生産	労働と再生産 マルクス経済学とジェンダーの経済学
第9回	競争と市場経済 (資本主義の分配)	利潤と価格 資本と競争
第10回	土地と地代 信用と利子 景気循環	地代論の変遷 商業資本 産業資本 銀行資本
第11回	現代資本主義の構造	冷戦＝軍事国家 新保守主義 グローバリゼーション 現代をめぐる諸問題
第12回	冬期スクーリングの復習	授業内容のまとめ 確認試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・復習時間は、各2時間程度を標準とし、事前準備にはHoppii（学習支援システム）にアップされたサブ・テキストやプリント等を読んでおくことを前提とします。

【テキスト（教科書）】
図書は特に定めない。

【参考書】
『現代経済と経済学』増田・沢田編　有斐閣ブツクス　2010年
『経済学』日高晋　岩波全書1997年
『資本論』(1巻)カール・マルクス(大月書店・岩波書店・新日本出版社など)
『ジェンダーの政治経済学ー福祉国家・市場・家族』原伸子有斐閣,2016年
『経済学史への招待』柳沢哲哉 社会評論社,2018年

【成績評価の方法と基準】
理解度を確認する目的で通常時間内に実施するリアクションペーパーや小テストなどを30%の割合で、またレポートもしくは確認試験を70%の割合で評価する。
リアクション・ペーパーや確認ペーパーは復習の目的もあり取り組むことで最後の確認試験にも役立つ。

【学生の意見等からの気づき】
アンケートを実施していません

【学生が準備すべき機器他】
なし

【Outline (in English)】
In this course, we will consider the modern economy theoretically and historically. Economics is a theory for deep analysis of the real economy. Socioeconomics analyzes the capitalist economy from perspective based on Marxian economics. In this course B, we will learn about the mechanism of reproduction of the capitalist economy, including the history of economic thought.
The standard preparation and review time for this class is about two hours each and assumed you have read the paper before class.
Reaction papers, quizzes, etc. for the purpose of reviewing during class time = 30%will be reflected in the evaluation.
Report or confirmation exam = 70%evaluation.

ECN100TF（経済学 / Economics 100）

社会経済学Ⅱ（冬期スクーリング）

舩木　恵子

カテゴリー：**冬期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**2群午後**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講手続き等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義はこれから経済学を学ぶ初学者の学生を対象とし、現代経済を理論的・歴史的に考察する。「なぜ経済学の基礎理論が必要なのか」という問いを重視し、経済学の目的やその学問的源泉からわかりやすく講義をする。経済学は単なる金儲けの学問や理論のための理論ではなく、人々の現実の暮らしを深く分析するための理論であることを学習する。社会経済学では基本的にマルクス経済学に基づく視点から資本主義経済を分析する。本講義では特に資本主義経済の再生産のメカニズムについてジェンダー理論や経済学史も加えて学習する。

【到達目標】
1.資本主義経済の基本的仕組みを歴史的・理論的に理解する。具体的には第二次世界大戦後の世界の金融システムの特徴や現実経済の事例を理解した上で、マルクス経済学『資本論』に基づいた経済理論の概要を理解する。
2.現代資本主義の諸問題の解明に必要な基礎理論の概要を習得しメディアに扇動されることなく、自ら考察することができるような基礎的知識を取得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP3,DP5」「地理学科：DP1」「経済学科：DP2, DP4」「商業学科：経済学」に関連

【授業の進め方と方法】
講義形式の授業である。講義時にプリントを配布する予定。配布方法やプリントの使用方法等の詳細は最初の授業時に説明する。授業内で適宜確認問題等を実施する予定。確認問題を実施し、理解度を確認し、それに合わせて次の単元へ進むように授業をすすめる。もし理解度が不足しているようであれば、再度授業を繰り返して理解度を深める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業開始にあたって 経済学とは何か	社会経済学の課題 授業の進め方など
第2回	経済学の対象 経済学とは何か	経済学説史の確認とpolitical Economyと Economicsの目的性の違いを理解する
第3回	マルクス経済学	リカード経済学からマルクス経済学へ。 主流派・非主流派経済学・現代の異端派経済学
第4回	金融資本 信用制度の成立(1)	銀行の成立過程 金融資本論(ヒルファーディング) 金融の役割
第5回	信用制度の成立(2) 独占体の形成	商業信用と銀行信用 中央銀行の金融政策を理解する
第6回	国際通貨システムの変容	ブレトンウッズ体制の成立と崩壊 日本のバブルと平成不況の理解を含めて理解
第7回	資本主義の基礎概念 現実経済と純粋な資本主義 経済原論とは何か	現実には存在しない純粋な資本主義を解明する必要性とは 理論と現実の相克
第8回	資本主義の生産・再生産	労働と再生産 マルクス経済学とジェンダーの経済学
第9回	競争と市場経済 (資本主義の分配)	利潤と価格 資本と競争
第10回	土地と地代 信用と利子 景気循環	地代論の変遷 商業資本 産業資本 銀行資本
第11回	現代資本主義の構造	冷戦＝軍事国家 新保守主義 グローバリゼーション 現代をめぐる諸問題
第12回	冬期スクーリングの復習	授業内容のまとめ 確認試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・復習時間は、各2時間程度を標準とし、事前準備にはHoppii（学習支援システム）にアップされたサブ・テキストやプリント等を読んでおくことを前提とします。

【テキスト（教科書）】
図書は特に定めない。

【参考書】
『現代経済と経済学』増田・沢田編　有斐閣ブツクス　2010年
『経済学』日高晋　岩波全書1997年
『資本論』(1巻)カール・マルクス(大月書店・岩波書店・新日本出版社など)
『ジェンダーの政治経済学ー福祉国家・市場・家族』原伸子有斐閣,2016年
『経済学史への招待』柳沢哲哉 社会評論社,2018年

【成績評価の方法と基準】
理解度を確認する目的で通常時間内に実施するリアクションペーパーや小テストなどを30%の割合で、またレポートもしくは確認試験を70%の割合で評価する。
リアクション・ペーパーや確認ペーパーは復習の目的もあり取り組むことで最後の確認試験にも役立つ。

【学生の意見等からの気づき】
アンケートを実施していません

【学生が準備すべき機器他】
なし

【Outline (in English)】
In this course, we will consider the modern economy theoretically and historically. Economics is a theory for deep analysis of the real economy. Socioeconomics analyzes the capitalist economy from perspective based on Marxian economics. In this course B, we will learn about the mechanism of reproduction of the capitalist economy, including the history of economic thought.
The standard preparation and review time for this class is about two hours each and assumed you have read the paper before class.
Reaction papers, quizzes, etc. for the purpose of reviewing during class time = 30%will be reflected in the evaluation.
Report or confirmation exam = 70%evaluation.

MAN200TG（経営学 / Management 200）

経営学特講（冬期スクーリング）【オンライン】

山田　裕美

カテゴリー：**冬期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**1群午前**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講手続き等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
経営学は、経営や組織の運営、成果を向上に重要な多様な領域に焦点を当てています。本講義では、組織内部のマネジメント、戦略など外部環境に対するマネジメントなどの経営学の基礎となる部分を深め、経営について実践的・戦略的なアプローチを身につけること、また新しいビジネスアイデアを発展させるためのアントレプレナーシップの重要性を理解し、イノベーション、ビジネスの成長を学ぶことを目的としています。

【到達目標】
・経営学の多様な側面、枠組みを活用して論理的に問題を分析し、経営に対する総合的な視点を養う。組織内のマネジメントや経営戦略分析の戦略的なアプローチを身に付け、実務に即して理解することができるようになる。
・ビジネスにおける倫理的な問題、社会的責任を考慮した経営の重要性を理解しつつ、アントレプレナーシップの定義や特徴を理解し、新しいビジネスアイデアを発展させるためのプロセスを活用することができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「経済学科：DP2」「商業学科：経営学・商学,自由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

【授業の進め方と方法】
基礎的な理論や必要な知識を伝達するレクチャーと実践的な活動に結びつくグループワークやワークショップを組み合わせ、学生参加型の体験的な学習を重視します。
課題については、提出日以降の授業内で講評など、フィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	経営学の基礎、歴史①	科目に対するオリエンテーションと経営学の基礎となる定義、主要な理論
第2回	経営学の基礎、歴史②	科目に対するオリエンテーションと経営学の基礎となる定義、主要な理論
第3回	戦略：経営戦略、競争戦略①	テーマについて、基礎となる定義、主要な理論とグループワーク
第4回	戦略：経営戦略、競争戦略②	テーマについて、基礎となる定義、主要な理論とグループワーク
第5回	組織：組織構造、組織行動とリーダシップ①	テーマについて、基礎となる定義、主要な理論とグループワーク
第6回	組織：組織構造、組織行動とリーダシップ②	テーマについて、基礎となる定義、主要な理論とグループワーク
第7回	マーケティング：マーケティング戦略、市場分析①	テーマについて、基礎となる定義、主要な理論とグループワーク
第8回	マーケティング：マーケティング戦略、市場分析②	テーマについて、基礎となる定義、主要な理論とグループワーク
第9回	アントレプレナーシップ：アントレプレナーシップの定義、ビジネスアイデア、ビジネスモデル①	テーマについて、基礎となる定義、主要な理論とグループワーク
第10回	アントレプレナーシップ：アントレプレナーシップの定義、ビジネスアイデア、ビジネスモデル②	テーマについて、基礎となる定義、主要な理論とグループワーク
第11回	経営倫理と社会的責任グループ発表、期末試験	テーマについてミニレクチャー、グループ発表、期末試験
第12回	グループ発表、期末試験	テーマについてミニレクチャー、グループ発表、期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。
授業内で使用するテキストやケースがある場合には、事前に配布をしますので、よく読んでおくこと。
授業内のグループワークで実施した課題に対して、事後にふりかえりのための小レポート等提出を復習、宿題とします。

【テキスト（教科書）】
特になし。必要な資料は適宜配布します。

【参考書】
加護野忠男・吉村典久（編著）「1 からの経営学（第 3 版）」2021
その他、アントレプレナーシップに関する資料等、適宜授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】
１．平常点（出席、授業での貢献、小レポート）　45 %
２．グループワークでの課題、発表　25 %
３．定期試験（最終試験もしくは期末レポートを課します）30 %
6 日間合計 12 コマ (1 日 2 コマ ×6 日) のうち 8 コマ以上 (2/3 以上) の出席が必要です。
基本的に理由に関わらず、欠席の場合は、欠席として取り扱います。

【学生の意見等からの気づき】
パソコン等のツール等の使い方について、受講生には、初心者から上級者までいると認識し、初回授業やその都度新しいツールについては、使い方の説明を十分に行います。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムとZoomに接続できる環境と情報機器
レポートを書くためのマイクロソフトオフィス WORD 等の文書用ソフト、プレゼンテーション資料作成のためのパワーポイント等スライド作成用ソフトがあると望ましい。

【Outline (in English)】
【Course outline】Business Administration focuses on diverse areas that are important to management, the operation of organizations, and improving results. In this course, students will deepen their understanding of the fundamentals of business administration, including management inside organizations and management of the external environment, such as strategy, to acquire a practical and strategic approach to management, as well as the importance of entrepreneurship in developing new business ideas, innovation, and business growth.
【Learning Objective】
At the end of the course, students are expected to understand the fundamentals of management studies, enhance strategic thinking skills, recognize the importance of entrepreneurship and acquire practical skills
【Learning activities outside of classroom】

Students will be expected to dedicate approximately 2 hours for both preparation and review for each class session. Any texts or cases to be used in class will be distributed beforehand, and students are required to read them thoroughly in advance. After each class, students will be assigned short reflective reports or similar tasks based on the group work conducted during the session, which will serve as part of their review and homework.

【Grading Criteria /Policies】

Final grade will be calculated according to the following process,

In-class contribution, attendance, short reports - 45%

Group work assignments and presentations - 25%

Final exam (or Final report) - 30%

A minimum of 8 out of 12 classes (two-thirds attendance) is required over the six days (2 classes per day x 6 days). Regardless of the reason, absences are generally treated as such without exception.

MAN300TG（経営学 / Management 300）

人的資源管理論Ⅱ（冬期スクーリング）【オンライン】

田上　皓大

カテゴリー：**冬期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**1群午後**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講手続き等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
人的資源管理（Human Resource Management）は、経営学・商学のなかで、経営資源としてのヒトの管理を行う学問分野です。本科目では、そうした人的資源管理の基礎として、①人的資源管理の基本的考え方、②人的資源管理にかかわる課題や論点、③日本企業の人的資源管理の現状や変化について学びます。人的資源管理論Ⅱでは特に②と③を中心的に学ぶことで、会社や職場でのヒトの管理に関わる制度と慣行について、理解を深めることができます。

【到達目標】
人的資源管理論Ⅱでは、人的資源管理の課題と変化について理解すること
を学習目標とします。
①現代における人的資源管理の課題について理解する。
②これからの人的資源管理の変化について理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「経営学・商学」「自由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

【授業の進め方と方法】
授業は配付資料に沿って講義形式で行います。また、毎回の授業で10～15分の時間をとり、リアクションペーパーを提出してもらいます。リアクションペーパーは、授業内容に関連した設題に回答する形式とし、翌日の授業内でフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業概要の説明、基本的概念の整理
第2回	内外環境の変化	人的資源管理システムが直面する変化
第3回	多様な人材に関する理論的考察	男性稼ぎ主モデル
第4回	均等から活躍へ	女性の働き方
第5回	引退から生涯現役へ	高齢者の働き方
第6回	排除から包摂へ	外国人の働き方
第7回	多様な働き方に関する理論的考察	雇用社会と労働者性
第8回	多様な雇用形態	非正社員、雇用ポートフォリオ、多様な正社員
第9回	雇用によらない働き方	フリーランス、クラウド・ギグワーカー、副業
第10回	変貌する働き方	ボランティア・NPO、協同組合
第11回	まとめ	少子高齢化社会における人的資源管理のゆくえ
第12回	試験	試験、解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。準備学習として、テキストの該当する箇所を読んでおいてください。復習として、参考書の該当箇所や、関心のあるトピックを扱った学術論文を探して読んでみましょう。また、新聞記事に日々目を通し、仕事や雇用に関する最新の情報に触れることも大事です。

【テキスト（教科書）】
『よく分かる　産業社会学』ミネルヴァ書房、上林千恵子編著、2012年、￥2,600+税

【参考書】
『新しい人事労務管理　第6版』、有斐閣、佐藤博樹・藤村博之・八代充史著、2020年、￥2,100+税

【成績評価の方法と基準】
平常点40％、試験60％で評価します。平常点には、毎回のリアクションペーパーへの評価も含めます。①人的資源管理の基本的な考え方を理解しているかだけでなく、②示されたデータから要点を読み取ることができているか、③論理的な記述をできているか、を重要な評価基準とします。

【学生の意見等からの気づき】
学生からの意見や要望には、可能な範囲で応えるようにします。意見や要望は、授業の前後に直接、あるいは毎回のリアクションペーパー上で受け付けます。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムとZoomに接続できる環境と情報機器

【その他の重要事項】
夏期開講した人的資源管理論Ⅰと合わせて受講することで、人的資源管理についてより深く理解することができます。本講は学術的に人的資源管理論を学ぶことを目的とする講義で、経営・労務における実務的なノウハウやスキルを教授する講義でありません。

【Outline (in English)】
Human Resource Management (HRM) is a field of study in business administration and commerce that deals with the management of "human" as management resources. In this course, students will learn (1) basic concepts of HRM, (2) issues and problems related to HRM, and (3) current situation and changes of HRM in Japanese companies. In Human Resource Management II, by focusing on (2) and (3) in particular, students will be able to deepen their understanding of the systems and practices related to HRM in companies and workplaces. Here is the English translation:
—
The standard time for preparation and review for this class is two hours each. For preparation, please read the relevant sections of the textbook. For review, try to find and read the corresponding sections of reference books or academic papers on topics of interest. Additionally, it is important to regularly read newspaper articles to stay informed about the latest information on work and employment. Here is the English translation:
—
Assessment will be based on 40%for regular performance and 60%for the exam. The regular performance score will include the evaluation of reaction papers submitted each time. The key evaluation criteria are: ① whether you understand the basic concepts of human resource management, ② whether you can grasp the key points from the presented data, and ③ whether you can write logically.

MAN200TG（経営学 / Management 200）

経営学特講（冬期スクーリング）【オンライン】

李　瑞雪

カテゴリー：**冬期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**1群午後**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講手続き等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業は、ロジスティクス・マネジメントに関する概論的講義です。ビジネス・ロジスティクス・マネジメントの概念・理論とロジスティクス・オペレーションズに関する基礎的理解と分析能力を養うことを主たる目的とします。具体的には、ロジスティクス・マネジメントとサプライチェーン・マネジメント（SCM）に関する基本概念を学んだうえで、企業におけるロジスティクス・オペレーションズ、国際物流がどのように行われるかを検討します。

【到達目標】
企業経営におけるロジスティクス・マネジメント、ロジスティクス・オペレーションズ、サプライチェーン・マネジメント、国際物流に関する全般的な知見の習得を目標とします。また、ケースメソッドや現場観察などを通して、ロジスティクス実務に関わる分析能力と立案能力につながる知的基盤の形成を狙います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「経済学科：DP2」「商業学科：経営学・商学,自由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

【授業の進め方と方法】
基本的に講義方式で行いますが、グループディスカッションの実施があります。事前にレジュメやケースなど講義資料を配布し受講者の予習を求めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	（1）ビジネス・ロジスティクスの定義、概念の起源と変遷 （2）企業におけるロジスティクスの役割　（3）主なロジスティクス活動　（4）ロジスティクス活動のトレードオフと統合、トータルコストの概念 （5）ロジスティクスと企業収益の関係　（6）経済におけるロジスティクスの重要性
2	サプライチェーンマネジメント	（1）サプライチェーンマネジメントの定義、ロジスティクスとの相違,（2）延期戦略と投機戦略 ,（3）サプライチェーンマネジメントとスピードの経済、サプライチェーンの応答性、ERP(効率的な顧客対応)とQR(迅速な顧客反応)の概念、ブルウィップ効果,（4）サプライチェーン・ネットワーク構造,（5）サプライチェーン・ビジネス・プロセス,（6）サプライチェーンマネジメントの経営要素,（7）サプライチェーンと競争的パフォーマンス
3	ロジスティクス/サプライチェーンマネジメントの戦略とプランニング	（1）全社戦略とロジスティクス/サプライチェーンマネジメント戦略,（2）プロセス・ベースの戦略指向、マーケット・ベースの戦略指向、チャネル・ベースの戦略指向のロジスティクス戦略,（3）機能的ロジスティクス戦略と外部指向のロジスティクス戦略,（4）ロジスティクス/サプライチェーン・プランニング,（5）プランニングの次元,（6）主要なプランニング領域,（7）ロジスティクス/サプライチェーンの計画問題の概念化,（8）戦略策定のためのガイドライン
4	顧客サービス	（1）顧客サービスの定義,（2）顧客サービスの要素,（3）顧客サービス戦略の策定方法: トレードオフ分析とＡＢＣ分析、顧客サービス監査,（4）グローバル顧客サービスの問題
5	ケーススタディ	ケースを用いる受講者のプレゼンとディスカッション
6	ロジスティクス・オペレーションⅠ：在庫管理	（1）在庫の機能範囲,（2）在庫の定義と種類,（3）在庫保持コスト,（4）在庫計画,（5）注文管理,（6）ABC分析と在庫管理,（7）ベンダー主導の在庫管理（VMI）、連続自動在庫補充（CRP）、共同計画・予測・在庫補充（CPFR）
7	ロジスティクス・オペレーションⅡ：輸送インフラと輸送業務	（1）リンク、ノード、モード、キャリア,（2）輸送モードとモーダルシフト,（3）輸送産業に関する法規制,（4）輸送サービス：混載, 複合輸送, 運賃構造, 船荷証券, ロジスティクス業務統合, 宅配便と急送サービス, サードパーティロジスティクス,（5）輸送管理システム,（6）国際輸送
8	ロジスティクス・オペレーションⅢ：保管	（1）保管施設の種類,（2）保管機能と保管業務 ,（3）自社倉庫と営業倉庫, （4）ダブル・トランザクション・システム,（5）倉庫管理システム ,クロスドッキングとミルクラン,（6）倉庫の統廃合,（7）バイヤーズ・コンソリデーショ,（8）保管サービスと物流金融(ABL)）
9	ロジスティクス・オペレーションⅣ：包装と荷役	（1）包装の機能,（2）包装材料の選択,（3）ユニットロードシステム、パレッチゼーション、コンテナリゼーション,（4）荷役活動,（5）荷役機器,（6）デザイン・フォ・ロジスティクス
10	ケーススタディ	ケースを用いる受講者のプレゼンとディスカッション
11	製造戦略と調達戦略	（1）生産戦略の類型、（2）マスカスタマイゼーション、（3）生産工程の基本タイプ、（4）製品・工程マトリックス、（5）生産性ジレンマ、（6）４つの調達方式、（7）TCOの最小化、（8）調達戦略のマトリックス
12	授業内試験	授業の復習と総括、授業内試験の実施

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
『業界別　物流管理とSCMの実践』ミネルヴァ書房（2022年）

【参考書】
Global Logistics and Supply Chain Management, 4th Edition, John Mangan, Chandra Lalwani, Agustina Calatayud, Wiley, 2021
The Handbook of Logistics and Distribution Management: Understanding the Supply Chain, 7th Edition, Alan Rushton, Phil Croucher, Peter Baker, Kogan Page, 2022
Logistics Management and Strategy: Competing through the Supply Chain, 6th Edition, Alan Harrison, Pearson, 2019
E-Logistics: Managing Digital Supply Chains for Competitive Advantage, 2nd Edition, Yingli Wang, Stephen Pettit, Kogan Page, 2021.
Supply Chain Logistics Management,5th Edition, Donald Bowersox, David Closs, M. Bixby Cooper, McGraw Hill, 2019.

【成績評価の方法と基準】
基本的に講義方式で行うが、毎回、教材・参考書のリーディング部分を指定し、予習・復習を求めます。プレゼンテーション(20%)、ディスカッション(20%)、期末テスト(60%)を総合して成績を評価します。

【学生の意見等からの気づき】
とくにありません。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムとZoomに接続できる環境と情報機器

【Outline (in English)】
This course deals with logistics management and supply chain management. The main aim is to help students acquire basic knowledge and analytical ability regarding the theories and frameworks of logistics/supply chain management and operations. At the end of the course, students are expected to have basic abilities to plan and analyze logistics/supply chain strategies, organizations, and operating systems based on knowledge acquired from this course. Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapters from the text and handout uploaded on the HOPPII system. During each class meeting, students will be welcomed to contribute to the discussion and Q&A. Your overall grade in the class will be decided based on the following. Term-end examination: 60%, Presentation: 20%, Contribution in class: 20%.

MAN200TG（経営学 / Management 200）

経営学特講（冬期スクーリング）

近能　善範

カテゴリー：**冬期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**2群午前**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講手続き等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
イノベーションとは、「新しい製品やサービス、新しい生産や流通の手段、新しい技術、新しいビジネスの仕組み、あるいはそれらの新しい組み合わせなどのうちで、顧客にこれまでにない新しい価値をもたらして新規需要を創出するもの」のことを意味しています。もっと単純には、「顧客に新しい価値をもたらすようなモノやサービス、仕組みを実現し、新規需要を創出すること」と考えて差し支えありません。例えば、パソコンやスマートフォン、SNSなど各種のインターネット・サービスなどは、身近なイノベーションの事例です。イノベーションは、われわれの生活を一変するインパクトを有するばかりでなく、企業や経済が持続的に成長していくために必要不可欠な役割を果たします。
こうしたイノベーションを実現していく上では、一般に、研究・技術開発の成果を製品化し、市場に投入し、それが幅広い顧客に受け入れられるまで育て上げ、なおかつ、続々と参入してくる競合他社との激烈な競争に勝ち残っていくためのマネジメントが必要不可欠となります。ここでは、単なる技術マネジメントを超えた、組織や戦略に対する深い理解と実践が問われることになります。
本講義では、こうしたイノベーション・マネジメント（技術管理論）の基礎的な部分を、さまざまな業界の事例を交えながら、なるべく分かりやすく説明していきます。

【到達目標】
この授業では、イノベーション・マネジメント（技術管理論）に関わる基本的な考え方や概念、基礎的な知識などを身につけていただくことを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「経済学科：DP2」「商業学科：経営学・商学,自由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

【授業の進め方と方法】
受講者の人数にもよりますが、基本的に授業は講義形式で進めます。また、理解を助けるために、ビデオ教材を適宜取り入れます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス、イントロダクション	講義ガイダンス イノベーション・マネジメント（技術管理論）とはどういう学問か
第2回	イノベーションとは何か、なぜ重要なのか(1)	イノベーションの定義
第3回	イノベーションとは何か、なぜ重要なのか(2)	なぜイノベーションが重要なのか
第4回	イノベーションのプロセス	イノベーションのプロセスと3つの関門
第5回	イノベーションのパターン(1)	「製品ライフサイクル」と「普及曲線」①
第6回	イノベーションのパターン(2)	「普及曲線」②と「技術進歩のS字曲線」
第7回	イノベーションのパターン(3)	「A-Uモデル」①
第8回	イノベーションのパターン(4)	「A-Uモデル」②と「ラディカル・イノベーション」と「インクリメンタル・イノベーション」
第9回	ラディカル・イノベーションと企業の競争力	「チャレンジ精神の喪失」「組織的な柔軟性の喪失」「過去の資産の負債化」
第10回	イノベーションのタイプと企業の競争力(1)	「能力増強型イノベーション」／「能力破壊型イノベーション」と企業の競争力
第11回	イノベーションのタイプと企業の競争力(2)	「持続的イノベーション」／「分断的イノベーション」と企業の競争力
第12回	学習成果の確認	授業内試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回の授業に際し、テキストの該当箇所や配布資料を事前に読み込んでおくことが求められます。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
近能善範・高井文子 著『新改版 コア・テキスト イノベーション・マネジメント』, 新世社, 2024年（9月刊行予定）。（第1章～5章までを使用する予定です。）

【参考書】
・参考書は特にありません。
・毎回、学習支援システムにてプリントを配布する予定です。
（※配布時期につきましては、講義3日前までを予定しています。）

【成績評価の方法と基準】
授業内の課題（クイズやビデオ感想など）が20点満点、授業内試験が80点満点の、総合計に基づいて評価します。なお、授業内試験を受けなかった場合は成績を「E」とします。

【学生の意見等からの気づき】
学生からの要望が強いので、企業の具体的な事例を、なるべく数多く盛り込む予定です。また、適宜ビデオ教材を取り入れたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】
配布資料のPDFファイルは、原則として法政大学学習支援システムを通じて配布する予定です。配布資料を予め印刷した上で授業に持参するか、あるいは授業時に持参した情報機器でファイルを閲覧できるようにしてください。

【その他の重要事項】
経営学の基本的な科目（経営管理、経営戦略、マーケティング関連の科目）は、受講済みの方が望ましいです。
また、当たり前のことではありますが、授業中の私語や携帯電話の使用は、他の学生に迷惑がかかるので厳禁です。2回以上注意しても直らない場合、教室から退出していただきます。授業中の迷惑行為が目に余る場合には、本授業の単位取得をその場で剥奪します。

【Outline (in English)】
【Learning Objectives】
“Innovation management” (or "Technology management") means strategic management leveraged by innovation (or technology). The main objective of this class is to learn basic knowledge, concepts, and ideas on “Innovation management” as clearly as possible, with examples from various industries.
【Learning activities outside of classroom】
The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
【Grading Criteria /Policy】
Grades will be based on the following: Quiz &Video feedback (20％) + Test (80％).

PRI200TG（情報学基礎 / Principles of informatics 200）

情報学入門（1）（表計算）（冬期スクーリング）

髙田　美樹

カテゴリー：**冬期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**2群午前**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講手続き等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ワープロ、表計算、インターネットを活用した情報リテラシーを習得する。

【到達目標】
ワープロ(文書処理)ソフト、表計算ソフト、インターネットをツールとして利用し、情報を収集し、集計してレポートを作成することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「法律学科： DP5」「日本文学科：DP1,DP4」「史学科：DP1」「地理学科：DP2,DP4」「商業学科：情報・統計学」に関連

【授業の進め方と方法】
実習室のパソコンを利用して表計算、文書作成、インターネットからの情報収集を行います。
パソコンの初級者を対象として基本操作から始めます。基礎を中心とするため、事前の準備は特に必要としませんが、毎回の講義で積み上げていきます。毎回の講義を一つひとつ身につけていきましょう。
文字の入力操作に自信のない人はそれなりの努力が必要になります。
普段から実務等で既に文書作成や表計算を活用している方にはやや物足りない内容となるかもしれませんが、再度、基礎から俯瞰的に実習をしたい方には勧められます。Classroomならびに授業支援システムを利用して、講義資料を配布し、課題の提出はClassroomで行います。課題のフィードバックもClassroom上で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	Windowsの基本操作と表計算の基礎	アプリケーションの起動、ファイルの整理などの基本操作と表計算の基本操作を実習します。
第2回	表計算による表の作成	罫線などで表を整え、データを入力し、表を作成します。
第3回	表計算による計算	表計算の計算式について学びます。
第4回	表計算による関数（1）	表計算でよく使う関数を学びます。
第5回	表計算による関数（2）	少し高度な表計算の関数を学びます。
第6回	インターネット情報検索	インターネットからデータを収集する方法を学びます
第7回	情報の可視化	グラフを作成し、収集したデータを可視化します。
第8回	文書の作成	長い文書を作成するときに必要なスキルを学びます。
第9回	レポートの書き方	アカデミックライティングの詳細を学びます。
第10回	アプリケーションの連携	表計算により作成したグラフを取り込んでレポートを作成する方法を学びます。
第11回	最終課題とまとめ	収集したデータを可視化・集計して考察します。
第12回	最終課題とまとめ	これまで学んだことをすべて利用して最終課題としてレポートを作成します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
事前に講義資料を確認し、内容を把握してください。
講義終了後は、その日の目標を完成させてください。
課題は２つあります
１。Excelファイルの作成（前半）
２。データ解析レポートの作成（後半）
本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
講義資料を提供します。

【参考書】
授業内で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
中間課題４０％　最終課題６０％とします。毎回授業に参加して、各回の実習をこなし、積み上げていくことが大切です。

【学生の意見等からの気づき】
前半のExcelの関数部分は、もともとのスキルの差に対応することが求められており、練習問題などで対応します。
後半のレポート作成では、WORDの使い方とアカデミックライティングを同時に行うので、負担が大きいと感じました。レポート作成の条件のいくつかを取りやめます。

【学生が準備すべき機器他】
教室のパソコンを利用します。

【その他の重要事項】
2024年度より付与される「統合認証アカウント ユーザID」を使用します。
各種ログインに使用しますので、教室で使用できるように準備してください。

【オフィスアワー】
授業時間内に積極的に質問してください。
時間外には、メールで対応します。
miki.takata.43@hosei.ac.jp

【Outline (in English)】
（Course outline）
You will learn information literacy through word ,Excel, and the Internet.
（Learning Objectives）
You can write your report with collecting data from the Internet.
（Learning activities outside of classroom）
It takes about 2 hours.
（Grading Criteria /Policy）
40%intermediate assignment; 60%final assignment.

PRI200TG（情報学基礎 / Principles of informatics 200）

コンピュータ入門（1）（表計算）（冬期スクーリング）

髙田　美樹

カテゴリー：**冬期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**2群午前**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講手続き等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ワープロ、表計算、インターネットを活用した情報リテラシーを習得する。

【到達目標】
ワープロ(文書処理)ソフト、表計算ソフト、インターネットをツールとして利用し、情報を収集し、集計してレポートを作成することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP4」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】
実習室のパソコンを利用して表計算、文書作成、インターネットからの情報収集を行います。
パソコンの初級者を対象として基本操作から始めます。基礎を中心とするため、事前の準備は特に必要としませんが、毎回の講義で積み上げていきます。毎回の講義を一つひとつ身につけていきましょう。
文字の入力操作に自信のない人はそれなりの努力が必要になります。
普段から実務等で既に文書作成や表計算を活用している方にはやや物足りない内容となるかもしれませんが、再度、基礎から俯瞰的に実習をしたい方には勧められます。Classroomならびに授業支援システムを利用して、講義資料を配布し、課題の提出はClassroomで行います。課題のフィードバックもClassroom上で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	Windowsの基本操作と表計算の基礎	アプリケーションの起動、ファイルの整理などの基本操作と表計算の基本操作を実習します。
第2回	表計算による表の作成	罫線などで表を整え、データを入力し、表を作成します。
第3回	表計算による計算	表計算の計算式について学びます。
第4回	表計算による関数（1）	表計算でよく使う関数を学びます。
第5回	表計算による関数（2）	少し高度な表計算の関数を学びます。
第6回	インターネット情報検索	インターネットからデータを収集する方法を学びます
第7回	情報の可視化	グラフを作成し、収集したデータを可視化します。
第8回	文書の作成	長い文書を作成するときに必要なスキルを学びます。
第9回	レポートの書き方	アカデミックライティングの詳細を学びます。
第10回	アプリケーションの連携	表計算により作成したグラフを取り込んでレポートを作成する方法を学びます。
第11回	最終課題とまとめ	収集したデータを可視化・集計して考察します。
第12回	最終課題とまとめ	これまで学んだことをすべて利用して最終課題としてレポートを作成します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
事前に講義資料を確認し、内容を把握してください。
講義終了後は、その日の目標を完成させてください。
課題は２つあります
１。Excelファイルの作成（前半）
２。データ解析レポートの作成（後半）
本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
講義資料を提供します。

【参考書】
授業内で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
中間課題４０％　最終課題６０％とします。毎回授業に参加して、各回の実習をこなし、積み上げていくことが大切です。

【学生の意見等からの気づき】
前半のExcelの関数部分は、もともとのスキルの差に対応することが求められており、練習問題などで対応します。
後半のレポート作成では、WORDの使い方とアカデミックライティングを同時に行うので、負担が大きいと感じました。レポート作成の条件のいくつかを取りやめます。

【学生が準備すべき機器他】
教室のパソコンを利用します。

【その他の重要事項】
2024年度より付与される「統合認証アカウント ユーザID」を使用します。
各種ログインに使用しますので、教室で使用できるように準備してください。

【オフィスアワー】
授業時間内に積極的に質問してください。
時間外には、メールで対応します。
miki.takata.43@hosei.ac.jp

【Outline (in English)】
（Course outline）
You will learn information literacy through word ,Excel, and the Internet.
（Learning Objectives）
You can write your report with collecting data from the Internet.
（Learning activities outside of classroom）
It takes about 2 hours.
（Grading Criteria /Policy）
40%intermediate assignment; 60%final assignment.

MAN300TG（経営学 / Management 300）

演習（冬期スクーリング）

横山　斉理

カテゴリー：**冬期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**2群午前**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講手続き等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
オンライン上で実施する「マーケティング・ゲーム」を通じてマーケティング論の基本概念であるマーケティング・ミックスについて深く理解します。「マーケティング・ゲーム」とは、インターネットにつながったパソコンやタブレット端末などを活用して、ある製品市場で競争する企業を想定して行われる実践的なマーケティングの学習ゲームです。受講生はグループ（3 5社）に分かれ、経営方針・戦略や、意思決定法を設定し、それに基づいてマーケティング・ミックス（4P）を決定していくことで、仮想的な市場（a市場とb市場の２地域）において、それぞれの目標を追求する競争を行います。

【到達目標】
この授業を履修することで、マーケティング論の基本概念であるマーケティング・ミックス（4P）を他人に説明できるほど深く理解することができます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「経済学科：DP4,DP5」「商業学科：経営学・商学,自由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

【授業の進め方と方法】
演習形式で進めます。受講生は3～5つのグループに分けられ、グループ単位で「マーケティング・ゲーム」に取り組み、売り上げやシェアなどの成果を競います。ゲームの進め方の詳細は授業内で説明します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	マーケティングの基礎	STPとマーケティング・ミックスについて解説する
第2回	マーケティング・ゲーム進め方	マーケティング・ゲームの概要と進め方を説明する
第3回	マーケティング・ゲームの設定	マーケティング・ゲームに参加するチームを決定し、チームの方針を決定する
第4回	マーケティング・ゲーム：第１年度第１四半期	第0年度第４四半期の結果を吟味した上で、第１期第１四半期の事業計画を決定する
第5回	マーケティング・ゲーム：第１年度第2四半期	第1年度第1四半期の結果を吟味した上で、第１期第2四半期の事業計画を決定する
第6回	マーケティング・ゲーム：第１年度第3四半期	第1年度第2四半期の結果を吟味した上で、第１期第3四半期の事業計画を決定する
第7回	マーケティング・ゲーム：第１年度第4四半期	第1年度第3四半期の結果を吟味した上で、第１期第4四半期の事業計画を決定する
第8回	マーケティング・ゲーム：第１年度の振り返り	第１年度の結果を踏まえてグループの方針を話し合う
第9回	マーケティング・ゲーム：第2年度第1四半期	第1年度の結果を吟味した上で、第2年度第1四半期の事業計画を決定する
第10回	マーケティング・ゲーム：第2年度第2四半期	第2年度第1四半期の結果を吟味した上で、第2期第2四半期の事業計画を決定する
第11回	マーケティング・ゲーム：第2年度第3四半期	第2年度第2四半期の結果を吟味した上で、第2期第3四半期の事業計画を決定する
第12回	マーケティング・ゲーム：第2年度第4四半期、授業内レポート	第2年度第3四半期の結果を吟味した上で、第2期第4四半期の事業計画を決定する、授業内レポートを実施する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特になし。授業内で資料を配布します。

【参考書】
特になし。

【成績評価の方法と基準】
平常点＝70％、授業内レポート＝30％

【学生の意見等からの気づき】
受講生の理解度を考慮しながら授業を進めます。

【学生が準備すべき機器他】
インターネットにつながるパソコンやタブレット端末、スマートフォンを持参することが望ましい。

【その他の重要事項】
演習形式で授業を進めるため、受講希望者が３０人を超える場合は抽選等を実施します。

【Outline (in English)】
In this course, students gain an in-depth understanding of the marketing mix, a fundamental concept in marketing theory, through an online ‘marketing game’. The ‘Marketing Game’ is a practical marketing learning game played on the assumption of a company competing in a certain product market, using internet-connected computers and tablet terminals. Students are divided into groups (3-5 companies) and compete in pursuit of their respective goals in two hypothetical markets (market a and market b) by setting up management policies and strategies, decision-making methods and determining the marketing mix (4Ps) based on these. By taking this course, students will gain a deep enough understanding of the marketing mix (4Ps), a fundamental concept in marketing theory, to be able to explain it to others. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each. The evaluation method for this class is 70%for regular marks and 30%for in-class reports.

MAN200TG（経営学 / Management 200）

経営学特講（冬期スクーリング）

吉田　健二

カテゴリー：**冬期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**2群午後**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講手続き等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この講義では、経営戦略についての様々な概念や理論を理解するとともに、企業が実際にとっている経営戦略を学ぶ。

【到達目標】
経営戦略の基礎を身につけ、経営戦略とはどのようなものであり、企業は経営戦略をどのように策定し、実行しているのかを説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「経済学科：DP2」「商業学科：経営学・商学,自由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

【授業の進め方と方法】
この授業は、対面授業形式で行います。
学生に対するフィードバックは、授業内で行います。
講義を行いますが、ときどきビデオを使って、なるべく分かりやすいようにするつもりです。
板書されないことでも自分が重要だと思ったことは、ノートに書くようにして下さい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	経営戦略の概念（1）	経営戦略とは何か
第2回	経営戦略の概念（2）	経営戦略の3つのレベル 戦略的なものの見方
第3回	経営戦略の策定プロセス	経営戦略の策定プロセス SWOT分析
第4回	経営理念とドメイン	経営理念 ドメイン
第5回	外部環境分析	顧客分析 競争業者分析 業界分析 マクロ（一般）環境分析
第6回	自社能力分析	自社能力分析
第7回	事業戦略（1）	3つの基本戦略 先発優位・後発優位
第8回	事業戦略（2）	製品ライフサイクル 市場地位別の戦略
第9回	企業戦略（1）	製品・市場マトリックス 垂直統合戦略
第10回	企業戦略（2）	PPM
第11回	経営戦略の実行	経営戦略の実行
第12回	まとめと試験	まとめ 試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業内容の復習とテキストの指定された部分を事前に読むこと。
本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。
第1回目の授業までに、沼上幹のテキストの「序章　イントロダクション」を読んでくること。

【テキスト（教科書）】
沼上幹『わかりやすいマーケティング戦略〔第3版〕』有斐閣、2023年。

【参考書】
①伊丹敬之『経営戦略の論理（第4版）』日本経済新聞出版社、2012年。
②清水勝彦『戦略の原点』日経BP社、2007年。
③デービッド・アーカー『戦略立案ハンドブック』東洋経済新報社、2002年。
④マイケル・ヒット、デュエーン・アイルランド、ロバート・ホスキソン『戦略経営論< 改訂新版> 』センゲージラーニング、2014年。
他は、授業時にその都度指示します。

【成績評価の方法と基準】
試験（100％）
詳細は、第1回目の授業で説明します。

【学生の意見等からの気づき】
経営戦略論の基礎を身につけるために、分かりやすい授業にするつもりです。
また、見やすいように板書することに努めます。

【学生が準備すべき機器他】
「学習支援システム」を使用して講義資料やお知らせの配信を行いますので、それに接続できる環境と情報機器

【Outline (in English)】
This course deals with concepts and theories of strategic management and their applications to companies.
At the end of the course, students are expected to develop their perspective on what is a strategy and to gain insight into the ways in which organizations develop and implement strategies.
Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter(s) from the text. Your required study time is at least four hours for a class.
Final grade will be decided based on term-end examination(100%).

MAN200TG（経営学 / Management 200）

経営学特講（冬期スクーリング）

松本　敦則

カテゴリー：**冬期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**2群午後**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講手続き等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日本の人口が減少する中で、どのようにすれば地域は活性化するのか。この授業では地域の歴史や現状を分析することにより、地域産業や地域活性化を理解することを目的とする。特に「産業集積」、「創造都市」、「関係人口」という視点から理論を学び事例研究を行う。日本とイタリアの地域活性化の過去の事例研究の比較検討を行ったのち、現在の地域活性化に関する様々な課題を検討する。

【到達目標】
本授業では地域や地域産業が抱える課題の解決を主眼とした歴史的経緯、現状分析などの理論的な理解を進める。
さらに、実践的な力を獲得するために、現時点では東京都の近郊都市の産業集積や創造都市の事例について検討することを考えている。その都市の産業政策や商工会、観光協会などの課題を検討していきたい。受講生が本授業を通して各自の調査や研究において解決するべき地域課題の抽出方法、調査方法、解決の手法のヒントを得ることを期待する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「経済学科：DP2」「商業学科：経営学・商学,自由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

【授業の進め方と方法】
まず初めに、日本の人口減少について理解する。その上で、地域産業や地域活性に関する理論、特に産業集積の視点から学ぶ。地域活性の過去の事例研究の整理を行ったのち、現在の地域活性に関する様々課題を検討する。授業では、はじめに地域にの基礎的な概念や制度の変遷、日本やイタリアの事例などを整理する。基本的には講義形式で行うが、授業内でグループディスカッションを行いたい。また、小レポートに対するフィードバックを授業内で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	地方消滅と人口減少	増田編（2014）『地方消滅』、について、その考え方やその反論などを整理し議論していく。
第2回	イタリアの地域研究と産業集積１	イタリアの産業集積について検討する。G・ベカッティニらの理論や地理的な構造を理解する。
第3回	地域研究と産業集積に関する理論研究	主に産業集積の観点から検討する。A・マーシャルやピオリ＆セーブル、A・サクセニアン、清成忠男などを取り上げる。
第4回	イタリアの地域研究と産業集積２	イタリアの産業集積について事例研究を行う。
第5回	創造都市１	創造都市の定義と理論を学ぶ。佐々木（2001）を基にイタリアの創造都市の事例研究を行う。
第6回	創造都市２	創造都市の定義と理論を学ぶ。佐々木（2001）を基に日本の創造都市の事例研究を行う。
第7回	地域産業と中小企業１	地域の中での中小企業支援機関の役割りや中小企業政策を取り上げる。
第8回	地域産業と中小企業２	地域の中での中小企業の事例や中小企業政策を取り上げる。
第9回	関係人口１	田中（2021）らの関係人口の定義や理論を学ぶ。
第10回	関係人口２	関係人口の先進都市である島根県浜田市の事例を取り上げ、地域や産業を学ぶ。
第11回	日本の地域研究と産業集積	JAPANブランド育成支援事業における甲州ワインなどの事例を取り上げる。
第12回	授業のまとめと試験	授業のまとめと60分間試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・復習学習は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
テキストは特に指定しない。必要に応じて参考文献を紹介する。

【参考書】
清成忠男、橋本寿郎（編）（1997）『日本型産業集積の未来像』日本経済新聞社
清成忠男（2010）『地域創生への挑戦』有斐閣
佐々木雅幸（2001）『創造都市への挑戦』岩波書店
増田寛也編（2014）『地方消滅』中公新書
松本敦則（2017）「戦後経済と「第三のイタリア」」土肥秀行、山手昌樹（編）『教養のイタリア近現代史』ミネルヴァ書房
田中輝美（2021）『関係人口の社会学』大阪大学出版会

【成績評価の方法と基準】
期末試験（60％）、小レポート課題（30％）、授業での発言（10％）

【学生の意見等からの気づき】
ディスカッションの時間配分やグループ分けを工夫していきたい。

【Outline (in English)】
・Outline and objectives
With Japan's population declining, how can the region be revitalized?　The purpose of this class is to understand regional industries and regional development by analyzing the history and current situation of the region.　In particular, we will study theories and conduct case studies from the perspectives of "industrial districts," "creative cities," and "related populations." After comparative examination of past case studies of regional revitalization in Japan and Italy, various issues related to current regional revitalization will be examined.
・Goal
This class will promote theoretical understanding of historical background and current situation analysis with a focus on solving issues facing regions and local industries.
Furthermore, in order to acquire practical skills, we are currently considering examining examples of industrial clusters and creative cities in cities near Tokyo.　We would like to examine issues such as the industrial policies, chambers of commerce, and tourist associations of these cities.　It is hoped that through this class, students will gain hints on how to extract, investigate, and solve regional issues that need to be solved in their own research and studies.
・Work to be done outside of class (preparation, etc.)
The standard time for preparation and review for this class is 2 hours each.
・Grading criteria
Final exam (60%), short report assignment (30%), speaking in class (10%)

PRI200TG（情報学基礎 / Principles of informatics 200）

情報学入門（2）（データ演習）（冬期スクーリング）

児玉　靖司

カテゴリー：**冬期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**2群午後**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講手続き等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
表計算ソフトウェア Excel のマクロ言語としての Visual Basic Applications (以下、VBAという）について学ぶ。最初に、コンピュータの基礎として、ネットワークやWordによる文書作成を行う。その後、 Excel について簡単に触れ、マクロ言語の意義を解説し、VBA の文法から応用問題について解説する。

【到達目標】
コンピュータの基礎を理解し、表計算ソフトウェア Excel について理解してマクロ言語を使いこなして応用となる処理を記述できることが目標である。問題解決のためにモデル化し適宜プログラミングできることが望ましい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「法律学科： DP5」「日本文学科：DP1,DP4」「史学科：DP1」「地理学科：DP2,DP4」「商業学科：情報・統計学」に関連

【授業の進め方と方法】
コンピュータ上で様々な処理を実行することができる表計算ソフトウェア Excel 全般について解説し、そのマクロ言語としてのVBA を解説する。プログラミング言語として細かな命令から比較的大きなプログラミングまで行なうことができるようにする。最初に、コンピュータの基礎として、ネットワークに関する話題、ワードによる簡単な文書作成を行い、変数と型から、式、文について説明し、分岐文、繰り返し文を説明する。後半には、ユーザフォームを使った簡単なアプリケーション、アルゴリズムについて説明する。
毎回、Classroom から Google フォームにて授業アンケートをとり、次回の授業の最初にフィードバックする。さらに、質問は、Classroom や、チャットにて受け付ける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	本講義の導入を行う。
第2回	コンピュータの仕組み	簡単にコンピュータの仕組みとネットワークについて学ぶ。
第3回	Word による文書作成	Word による簡単な文書作成について学ぶ。
第4回	表計算の基礎	Excel の入門について学ぶ。
第5回	表計算の応用	Excel の応用について学ぶ。
第6回	VBAの起動	Excel のマクロとして備わっている Visual Basic Applications の簡単な使い方について学ぶ。
第7回	変数と型	変数と型について学ぶ。
第8回	定数と演算子	定数と演算子について学ぶ。
第9回	分岐	分岐について学ぶ。
第10回	繰り返し	繰り返しについて学ぶ。
第11回	構造化プログラムラミング	構造化プログラミングの応用について学ぶ。
第12回	レポート課題	簡単な試験としてレポート課題を課す。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
プログラミングに関する実習なので予習、復習をすることが望ましい。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
Google Classroom 上に講義資料（配布資料のみ）を提示する。

【参考書】
特に専門性の高い内容については、適宜、講義の中で指示する。

【成績評価の方法と基準】
平常点（50%）、提出されたレポートと最終試験（50%）により総合的に判断する。

【学生の意見等からの気づき】
プログラミングの初学者でも理解できるように工夫する。

【学生が準備すべき機器他】
コンピュータ、講義資料を多用し詳しく解説する。Classroom 上で情報をやり取りする。

【その他の重要事項】
問題解決のための情報活用能力および簡単なプログラミング能力を養う。

【関連科目】
情報学に関する基礎科目

【Outline (in English)】
[Course Outline]
Learning about Visual Basic for Applications (VBA) as a macro language for spreadsheet software called Excel. First, as a basis for a computer, documents are created using a network or Word. We will explain the significance of the macro language and explain applications from the VBA grammar.
[Learning Objectives]
The goal is to understand programming for more expressive problem-solving from the mechanism of computers and how to use computers necessary for earning academics. In addition, we will learn some statistical analysis methods and introduce examples of problem solving necessary for practical work.
[Learning Activities outside of classroom]
It is necessary to prepare and review so that you can understand the basic operation of computers and programming. The standard preparatory study /review time for this class is 2 hours each.
[Grading Criteria/Policy]
A test will be given once each in the spring and fall semesters (which may be replaced by a report submission or a quiz in class)(50%), and will be evaluated in consideration of attendance and assignment submission(50%).

PRI200TG（情報学基礎 / Principles of informatics 200）

コンピュータ入門（2）（データ演習）（冬期スクーリング）

児玉　靖司

カテゴリー：**冬期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**2群午後**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講手続き等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

表計算ソフトウェア Excel のマクロ言語としての Visual Basic Applications (以下、VBAという）について学ぶ。最初に、コンピュータの基礎として、ネットワークやWordによる文書作成を行う。その後、 Excel について簡単に触れ、マクロ言語の意義を解説し、VBA の文法から応用問題について解説する。

【到達目標】

コンピュータの基礎を理解し、表計算ソフトウェア Excel について理解してマクロ言語を使いこなして応用となる処理を記述できることが目標である。問題解決のためにモデル化し適宜プログラミングできることが望ましい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP4」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】

コンピュータ上で様々な処理を実行することができる表計算ソフトウェア Excel 全般について解説し、そのマクロ言語としてのVBAを解説する。プログラミング言語として細かな命令から比較的大きなプログラミングまで行なうことができるようにする。最初に、コンピュータの基礎として、ネットワークに関する話題、ワードによる簡単な文書作成を行い、変数と型から、式、文について説明し、分岐文、繰り返し文を説明する。後半には、ユーザフォームを使った簡単なアプリケーション、アルゴリズムについて説明する。

毎回、Classroom から Google フォームにて授業アンケートをとり、次回の授業の最初にフィードバックする。さらに、質問は、Classroom や、チャットにて受け付ける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	本講義の導入を行う。
第2回	コンピュータの仕組み	簡単にコンピュータの仕組みとネットワークについて学ぶ。
第3回	Word による文書作成	Word による簡単な文書作成について学ぶ。
第4回	表計算の基礎	Excel の入門について学ぶ。
第5回	表計算の応用	Excel の応用について学ぶ。
第6回	VBAの起動	Excel のマクロとして備わっている Visual Basic Applications の簡単な使い方について学ぶ。
第7回	変数と型	変数と型について学ぶ。
第8回	定数と演算子	定数と演算子について学ぶ。
第9回	分岐	分岐について学ぶ。
第10回	繰り返し	繰り返しについて学ぶ。
第11回	構造化プログラムラミング	構造化プログラミングの応用について学ぶ。
第12回	レポート課題	簡単な試験としてレポート課題を課す。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

プログラミングに関する実習なので予習、復習をすることが望ましい。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

Google Classroom 上に講義資料（配布資料のみ）を提示する。

【参考書】

特に専門性の高い内容については、適宜、講義の中で指示する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（50%）、提出されたレポートと最終試験（50%）により総合的に判断する。

【学生の意見等からの気づき】

プログラミングの初学者でも理解できるように工夫する。

【学生が準備すべき機器他】

コンピュータ、講義資料を多用し詳しく解説する。Classroom 上で情報をやり取りする。

【その他の重要事項】

問題解決のための情報活用能力および簡単なプログラミング能力を養う。

【関連科目】

情報学に関する基礎科目

【Outline (in English)】

[Course Outline]

Learning about Visual Basic for Applications (VBA) as a macro language for spreadsheet software called Excel. First, as a basis for a computer, documents are created using a network or Word. We will explain the significance of the macro language and explain applications from the VBA grammar.

[Learning Objectives]

The goal is to understand programming for more expressive problem-solving from the mechanism of computers and how to use computers necessary for earning academics. In addition, we will learn some statistical analysis methods and introduce examples of problem solving necessary for practical work.

[Learning Activities outside of classroom]

It is necessary to prepare and review so that you can understand the basic operation of computers and programming. The standard preparatory study /review time for this class is 2 hours each.

[Grading Criteria/Policy]

A test will be given once each in the spring and fall semesters (which may be replaced by a report submission or a quiz in class)(50%), and will be evaluated in consideration of attendance and assignment submission(50%).

教育実習事前指導（国語）（平成10年改正法）（冬期スクーリング）

丸山　義昭

カテゴリー：**冬期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**2群午後**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講手続き等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：**※旧法（平成10年改正法）用**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
授業テーマは、「授業づくり」である。教育実習の流れやその準備に触れた上で、学習指導案や授業に関わる基礎的な理論や知識、および授業実践に不可欠な方法・技術と心構えなどを取り上げる。

【到達目標】
教育実習に参加する前提として、教職に関する基礎的な知識と、教科指導に関わる基礎知識と力量、教育実習に取り組むための方法・技術を獲得し、それらを用いることができる。
教材理解を深め、学習指導案、指導言計画、板書計画を自ら作成することができる。
生徒たちの学習状況、内容理解を確かめながら、授業を展開することができる。
自他の授業を分析的に検討することができる。
生徒たちの人権に配慮した指導や言動ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
授業内容は、①教育実習とは何か、それに向けてどういう準備が必要か、実習中の諸注意、②教材研究の進め方と学習指導案・指導言計画・板書計画の作成、③授業を行うための知識と技量の獲得、④模擬授業とその検討、を中心的な内容として構成する。毎回、振り返りシートに意見や感想、質問を書き、提出。それらを次時に全員で共有し、学生の応答と教員のコメントを交えながら学びを深めていく。なお、学習支援システムを用いて、お知らせや授業資料の事前配信、課題提出の受付を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	『教育実習の手引き』の読み合わせ確認。講義計画の説明。教育実習に関わる諸注意、重要事項の確認。
第2回	教材研究とその授業化について	教材研究の進め方、学習指導案と指導言計画、板書計画の作成について理解を深める。
第3回	授業づくりの実際(1)	模擬授業に参加し、教材研究とその授業化の実際について知見を深める。
第4回	授業づくりの実際(2)	模擬授業に参加し、教材研究とその授業化の実際について知見を深める。
第5回	授業づくりの実際(3)	模擬授業（中学校・説明的文章）を行い、振り返りをする中で、成果と課題を共有する。
第6回	授業づくりの実際(4)	模擬授業（中学校・小説）を行い、振り返りをする中で、成果と課題を共有する。
第7回	授業づくりの実際(5)	模擬授業（中学校・小説）を行い、振り返りをする中で、成果と課題を共有する。
第8回	授業づくりの実際(6)	模擬授業（高校・評論）を行い、振り返りをする中で、成果と課題を共有する。
第9回	授業づくりの実際(7)	模擬授業（高校・小説）を行い、振り返りをする中で、成果と課題を共有する。
第10回	授業づくりの実際(8)	模擬授業（詩・短歌・俳句）を行い、振り返りをする中で、成果と課題を共有する。
第11回	授業づくりの実際(9)	模擬授業（古典）を行い、振り返りをする中で、成果と課題を共有する。
第12回	講義のまとめと論作文試験	授業全般の振り返りと、教育実習に関わる重要事項の確認を行い、論作文試験に取り組む。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。
『教育実習の手引き』（予備登録用紙請求時に配付する）をよく読んでくる。
教育実習校での打ち合わせが既にある場合（教材の指定など）は、講義前に伝えられるように、教材等を持ち込むこと。

【テキスト（教科書）】
特に指定しない。毎回、必要な参考文献や資料などを指定、もしくは配布する。

【参考書】
『学習指導要領』及び解説書（文部科学省）

【成績評価の方法と基準】
①各回の講義への積極的な受講、②話し合い・討論への参加状況、③模擬授業への取り組みの様子、④学習指導案などの課題作成、⑤振り返りシートの記入等に対する評価と、⑥論作文試験で評価する。評価の配分は①②④は10パーセントずつ、③⑤は20パーセントずつ、⑥は30パーセントとする。

【学生の意見等からの気づき】
説明的文章・評論、小説など、教材の種類別に、教材研究の進め方と授業構想の立て方に関わる学びを深めたいという声に応えて、模擬授業を交えながら具体的な読解過程・授業過程について、さらに理解の進展をはかりたい。

【学生が準備すべき機器他】
授業内もしくは授業時間外において、学習支援システムを使って、課題や振り返りシート等の提出を課しますのでパソコンを用意してきてください。

【その他の重要事項】
国語科教育法の授業で作成した学習指導案に基づいて、全員が模擬授業を行います。授業時間や方法については追って指示します。それに伴って、全員が板書計画を作成します。また、必要に応じて指導言計画も立てます。
以上について、詳しくは、スクーリングが近づいたところで、学習支援システムによってお知らせします。

【Outline (in English)】
【Course outline】
The theme of this course is “how to give classes that develop students’creativity”.
This course includes classes on how to write teaching plan, the basic theory and knowledge on the teaching profession, and the essential method and skills necessary for teaching.Also,the students can learn the specific tackling about the practice teaching,listening to the experience of the seniors who have completed it.
【Learning Objectives】
Before you engage in teaching practice, you have to make sure that you meet the following points:
1.You have to have basic knowledge of teaching profession.
2.You have to have basic knowledge of and competence in your target subject.
3.You have to know the method of and the skill in the teaching practice, and actually put them in use.
4.You have to deepen your knowledge of teaching materials, and thereby be able to make out teaching plans and details of how to use the blackboard.
5.You have to be able to deploy your class as you observe how your students are working, and how their understanding is.

6.You have to be able to analyze other teachers' classes as well as your own classes.
7.You have to be able to act and advise in consideration for human rights.
【Learning activities outside of classroom】
You are supposed to spend two hours on preparation and reviewing of this class respectively.
Read in advance the guideline for teaching practice which will be given to you when you ask for an extra registration paper. If you have already made arrangements for teaching practice with a school (designated teaching materials, for example), bring them with you so that you can report them before the lecture.
【Grading Criteria／Policy】
The grading system is based on the evaluation of:
① how active you are in each lecture, ② how active your participation in group interactions and discussions is, ③ how you tackle your mock class,④how well you do your assignments such as making out your teaching plan, ⑤ how good is your feedback paper,and ⑥ how good your writing examination is.
The evaluation distribution will be as follows:① 10%② 10%③ 20%④ 10%⑤ 20%⑥ 30%

教育実習事前指導（国語）（平成28年改正法）（冬期スクーリング）

丸山　義昭

カテゴリー：**冬期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**2群午後**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講手続き等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：**※新法（平成28年改正法）用**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
授業テーマは、「授業づくり」である。教育実習の流れやその準備に触れた上で、学習指導案や授業に関わる基礎的な理論や知識、および授業実践に不可欠な方法・技術と心構えなどを取り上げる。

【到達目標】
教育実習に参加する前提として、教職に関する基礎的な知識と、教科指導に関わる基礎知識と力量、教育実習に取り組むための方法・技術を獲得し、それらを用いることができる。
教材理解を深め、学習指導案、指導言計画、板書計画を自ら作成することができる。
生徒たちの学習状況、内容理解を確かめながら、授業を展開することができる。
自他の授業を分析的に検討することができる。
生徒たちの人権に配慮した指導や言動ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
授業内容は、①教育実習とは何か、それに向けてどういう準備が必要か、実習中の諸注意、②教材研究の進め方と学習指導案・指導言計画・板書計画の作成、③授業を行うための知識と技量の獲得、④模擬授業とその検討、を中心的な内容として構成する。毎回、振り返りシートに意見や感想、質問を書き、提出。それらを次時に全員で共有し、学生の応答と教員のコメントを交えながら学びを深めていく。なお、学習支援システムを用いて、お知らせや授業資料の事前配信、課題提出の受付を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	『教育実習の手引き』の読み合わせ確認。講義計画の説明。教育実習に関わる諸注意、重要事項の確認。
第2回	教材研究とその授業化について	教材研究の進め方、学習指導案と指導言計画、板書計画の作成について理解を深める。
第3回	授業づくりの実際(1)	模擬授業に参加し、教材研究とその授業化の実際について知見を深める。
第4回	授業づくりの実際(2)	模擬授業に参加し、教材研究とその授業化の実際について知見を深める。
第5回	授業づくりの実際(3)	模擬授業（中学校・説明的文章）を行い、振り返りをする中で、成果と課題を共有する。
第6回	授業づくりの実際(4)	模擬授業（中学校・小説）を行い、振り返りをする中で、成果と課題を共有する。
第7回	授業づくりの実際(5)	模擬授業（中学校・小説）を行い、振り返りをする中で、成果と課題を共有する。
第8回	授業づくりの実際(6)	模擬授業（高校・評論）を行い、振り返りをする中で、成果と課題を共有する。
第9回	授業づくりの実際(7)	模擬授業（高校・小説）を行い、振り返りをする中で、成果と課題を共有する。
第10回	授業づくりの実際(8)	模擬授業（詩・短歌・俳句）を行い、振り返りをする中で、成果と課題を共有する。
第11回	授業づくりの実際(9)	模擬授業（古典）を行い、振り返りをする中で、成果と課題を共有する。
第12回	講義のまとめと論作文試験	授業全般の振り返りと、教育実習に関わる重要事項の確認を行い、論作文試験に取り組む。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。
『教育実習の手引き』（予備登録用紙請求時に配付する）をよく読んでくる。
教育実習校での打ち合わせが既にある場合（教材の指定など）は、講義前に伝えられるように、教材等を持ち込むこと。

【テキスト（教科書）】
特に指定しない。毎回、必要な参考文献や資料などを指定、もしくは配布する。

【参考書】
『学習指導要領』及び解説書（文部科学省）

【成績評価の方法と基準】
①各回の講義への積極的な受講、②話し合い・討論への参加状況、③模擬授業への取り組みの様子、④学習指導案などの課題作成、⑤振り返りシートの記入等に対する評価と、⑥論作文試験で評価する。評価の配分は①②④は10パーセントずつ、③⑤は20パーセントずつ、⑥は30パーセントとする。

【学生の意見等からの気づき】
説明的文章・評論、小説など、教材の種類別に、教材研究の進め方と授業構想の立て方に関わる学びを深めたいという声に応えて、模擬授業を交えながら具体的な読解過程・授業過程について、さらに理解の進展をはかりたい。

【学生が準備すべき機器他】
授業内もしくは授業時間外において、学習支援システムを使って、課題や振り返りシート等の提出を課しますのでパソコンを用意してきてください。

【その他の重要事項】
国語科教育法の授業で作成した学習指導案に基づいて、全員が模擬授業を行います。授業時間や方法については追って指示します。それに伴って、全員が板書計画を作成します。また、必要に応じて指導言計画も立てます。
以上について、詳しくは、スクーリングが近づいたところで、学習支援システムによってお知らせします。

【Outline (in English)】
【Course outline】
The theme of this course is “how to give classes that develop students’creativity”.
This course includes classes on how to write teaching plan, the basic theory and knowledge on the teaching profession, and the essential method and skills necessary for teaching.Also,the students can learn the specific tackling about the practice teaching,listening to the experience of the seniors who have completed it.
【Learning Objectives】
Before you engage in teaching practice, you have to make sure that you meet the following points:
1.You have to have basic knowledge of teaching profession.
2.You have to have basic knowledge of and competence in your target subject.
3.You have to know the method of and the skill in the teaching practice, and actually put them in use.
4.You have to deepen your knowledge of teaching materials, and thereby be able to make out teaching plans and details of how to use the blackboard.
5.You have to be able to deploy your class as you observe how your students are working, and how their understanding is.

6.You have to be able to analyze other teachers' classes as well as your own classes.
7.You have to be able to act and advise in consideration for human rights.
【Learning activities outside of classroom】
You are supposed to spend two hours on preparation and reviewing of this class respectively.
Read in advance the guideline for teaching practice which will be given to you when you ask for an extra registration paper. If you have already made arrangements for teaching practice with a school (designated teaching materials, for example), bring them with you so that you can report them before the lecture.
【Grading Criteria／Policy】
The grading system is based on the evaluation of:
① how active you are in each lecture, ② how active your participation in group interactions and discussions is, ③ how you tackle your mock class,④how well you do your assignments such as making out your teaching plan, ⑤ how good is your feedback paper,and ⑥ how good your writing examination is.
The evaluation distribution will be as follows:① 10%② 10%③ 20%④ 10%⑤ 20%⑥ 30%

教育実習事前指導（社会・商業）（平成10年改正法）（冬期スクーリング）

木村　良成

カテゴリー：**冬期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**2群午後**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講手続き等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：**※旧法（平成10年改正法）用**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
社会科学系の教科における教育実習に参加する際に、その目的や指導方法を理解し、達成できるようにする。実習の心得や指導案作成を含めた模擬授業を行うことによって学生が授業を行うにあたっての技術を向上させる。また生徒理解を深め、担当教科及び学級担任としての活動および生徒の理解方法を習得する。

【到達目標】
中等教育実習に参加した際、教育実習生(Student Teacher)として最高水準で参加できるような学習を行う。その事前の学習を集中的に、効果的に習得することを目標と定める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
教育実習に対する十分な心構えを学習するとともに、学生の模擬授業も併せておこなう。また、今後展開が予想される主体的・対話的で深い学びをはじめとする（アクティブラーニング）に関しての考察も受講者全員で行う。（「主体的・対話的で深い学び」と「アクティブラーニング」の違いは必ず事前に内容及び授業での対応方法を調査しておいてください。）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	受講に対するアンケート，教育実習への心構え，模擬授業の順序の確認など（初日の連絡事項を含む）
第2回	教育実習のための心構え①	教育実習に対する事前の用意
第3回	教育実習のための心構え②	教育実習中における教材研究方法
第4回	教育実習のための心構え③	教育実習中における教壇実習（情報機器操作の応用を含む）
第5回	教育実習のための心構え④	教育実習中における教員や生徒との接し方
第6回	教育実習のための心構え⑤	研究授業に向けての用意（学習指導案の書き方）一般授業とアクティブラーニングの相違点
第7回	模擬授業①（中学校社会科）	学生の模擬授業 その模擬授業に対する学生同士のグループ討議及び反省点
第8回	模擬授業②（高等学校地歴科）	学生の模擬授業 その模擬授業に対する学生同士のグループ討議及び反省点
第9回	模擬授業③（高等学校公民科）	学生の模擬授業 その模擬授業に対する学生同士のグループ討議及び反省点
第10回	模擬授業④（高等学校商業科）	学生の模擬授業 その模擬授業に対する学生同士のグループ討議及び反省点
第11回	模擬授業⑤（複数教科を取得する学生）	学生の模擬授業 その模擬授業に対する学生同士のグループ討議及び反省点
第12回	まとめ・教育の目的・意義を考える 提出課題について※	まとめの講義（教育実習における失敗事例を学ぶ）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
これといった事前学習は特に必要ないが、各自が歩んできた中等学校（中学校及び高等学校）の体験を整理し、書きとめておく。模擬授業における学習指導案（一般授業で行った場合とアクティブラーニングで行った場合）を期間中に宿題として出します。
本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。
なお、「教職課程センター」による個別相談では、Zoom等のオンライン指導も可能であり、教育実習に関する相談をすることや、学習指導案の添削、模擬授業の指導を受けることができる。スクーリング前後や教育実習前の準備に必ず役立てること。

【テキスト（教科書）】
特に使用しない。プリント配布。

【参考書】
中学校学習指導要領解説
高等学校学習指導要領解説
（自らが教育実習で担当する教科の学習指導要領は必携）

【成績評価の方法と基準】
授業における取組状況（３０％），模擬授業（３０％），課題としてのレポート（４０％）が評価基準です。
※授業への出席を鑑み、最終日の課題用紙を渡します。（最終日に試験は実施しません。）
全て総合的に判断し、教育実習への参加の可否を評価します。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。（授業で使用できる電子機器類に関しては事前に調査しておくこと。）
また、課題提出のため、ＰＣが必要である。従って、授業後にＰＣやプリンタ，ＵＳＢメモリ等が使用できる環境を整えておくこと。（特に宿泊で授業に参加する学生は、ＰＣ環境を事前調査しておいてください。）

【その他の重要事項】
教育実習に参加予定の学生は必修である。来年度以降実習予定のある学生は必ず受講すること。

【Outline (in English)】
Students learn in order to perform at the highest level when they participate in the teaching practice. They study how to prepare for it. They make guidance plan, do mock lesson, and consider active learning.
日本国籍外で教員免許を取得した場合、教育活動に制限が多いため留意すること。

教育実習事前指導（社会・商業）（平成28年改正法）（冬期スクーリング）

木村　良成

カテゴリー：**冬期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**2群午後**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講手続き等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：**※新法（平成28年改正法）用**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
社会科学系の教科における教育実習に参加する際に、その目的や指導方法を理解し、達成できるようにする。実習の心得や指導案作成を含めた模擬授業を行うことによって学生が授業を行うにあたっての技術を向上させる。また生徒理解を深め、担当教科及び学級担任としての活動および生徒の理解方法を習得する。

【到達目標】
中等教育実習に参加した際、教育実習生(Student Teacher)として最高水準で参加できるような学習を行う。その事前の学習を集中的に、効果的に習得することを目標と定める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
教育実習に対する十分な心構えを学習するとともに、学生の模擬授業も併せておこなう。また、今後展開が予想される主体的・対話的で深い学びをはじめとする（アクティブラーニング）に関しての考察も受講者全員で行う。（「主体的・対話的で深い学び」と「アクティブラーニング」の違いは必ず事前に内容及び授業での対応方法を調査しておいてください。）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	受講に対するアンケート，教育実習への心構え，模擬授業の順序の確認など（初日の連絡事項を含む）
第2回	教育実習のための心構え①	教育実習に対する事前の用意
第3回	教育実習のための心構え②	教育実習中における教材研究方法
第4回	教育実習のための心構え③	教育実習中における教壇実習（情報機器操作の応用を含む）
第5回	教育実習のための心構え④	教育実習中における教員や生徒との接し方
第6回	教育実習のための心構え⑤	研究授業に向けての用意（学習指導案の書き方）一般授業とアクティブラーニングの相違点
第7回	模擬授業①（中学校社会科）	学生の模擬授業 その模擬授業に対する学生同士のグループ討議及び反省点
第8回	模擬授業②（高等学校地歴科）	学生の模擬授業 その模擬授業に対する学生同士のグループ討議及び反省点
第9回	模擬授業③（高等学校公民科）	学生の模擬授業 その模擬授業に対する学生同士のグループ討議及び反省点
第10回	模擬授業④（高等学校商業科）	学生の模擬授業 その模擬授業に対する学生同士のグループ討議及び反省点
第11回	模擬授業⑤（複数教科を取得する学生）	学生の模擬授業 その模擬授業に対する学生同士のグループ討議及び反省点
第12回	まとめ・教育の目的・意義を考える 提出課題について※	まとめの講義（教育実習における失敗事例を学ぶ）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
これといった事前学習は特に必要ないが、各自が歩んできた中等学校（中学校及び高等学校）の体験を整理し、書きとめておく。模擬授業における学習指導案（一般授業で行った場合とアクティブラーニングで行った場合）を期間中に宿題として出します。
本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。
なお、「教職課程センター」による個別相談では、Zoom等のオンライン指導も可能であり、教育実習に関する相談をすることや、学習指導案の添削、模擬授業の指導を受けることができる。スクーリング前後や教育実習前の準備に必ず役立てること。

【テキスト（教科書）】
特に使用しない。プリント配布。

【参考書】
中学校学習指導要領解説
高等学校学習指導要領解説
（自らが教育実習で担当する教科の学習指導要領は必携）

【成績評価の方法と基準】
授業における取組状況（３０％），模擬授業（３０％），課題としてのレポート（４０％）が評価基準です。
※授業への出席を鑑み、最終日の課題用紙を渡します。（最終日に試験は実施しません。）
全て総合的に判断し、教育実習への参加の可否を評価します。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。（授業で使用できる電子機器類に関しては事前に調査しておくこと。）
また、課題提出のため、ＰＣが必要である。従って、授業後にＰＣやプリンタ，ＵＳＢメモリ等が使用できる環境を整えておくこと。（特に宿泊で授業に参加する学生は、ＰＣ環境を事前調査しておいてください。）

【その他の重要事項】
教育実習に参加予定の学生は必修である。来年度以降実習予定のある学生は必ず受講すること。

【Outline (in English)】
Students learn in order to perform at the highest level when they participate in the teaching practice. They study how to prepare for it. They make guidance plan, do mock lesson, and consider active learning.
日本国籍外で教員免許を取得した場合、教育活動に制限が多いため留意すること。

教職実践演習（平成10年改正法）（冬期スクーリング）

遠藤　野ゆり

カテゴリー：**冬期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**2群午後**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講手続き等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：**※旧法（平成10年改正法）用**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
授業は、模擬授業やディスカッションを基本とした演習形式の集団指導と個別指導とを組み合わせて構成する。
具体的には、個別的指導については、開始当初に「教職のための力量獲得についての自己評価」と「履修カルテ」を提出してもらい、個別課題を設定する。必要に応じて中間報告を提出してもらい、講義修了時に個人研究成果報告書の作成を求める。なお，必要に応じて適宜、個別面談も行う。
演習形式を基本とする講義は，次の4つから構成される。
①教職のあり方や実態等々を理解し考える報告・討論，②模擬授業も含めた授業実践の共同研究，③生徒指導に関する事例研究，④以上を踏まえて，学生自ら設定した模擬授業も含む研究成果発表である。

【到達目標】
教職科目及び関連科目の履修を踏まえ，教職を担うに相応しい知識や技能，姿勢や態度を理解し習得することを通じて，教員免許取得に求められる資質・能力を形成することが目標である。
具体的には，①学校現場における授業を進める指導スキル（授業指導案の作成を含む）の習熟，②専門とする教科領域における教育内容についての研究力量の形成，③子ども理解及び学級・学校の実態の理解，④教職に向けての明確な意志と各自の目標設定の形成，⑤演習参加（グループ討論を含む）における積極的なコミュニケーションと対人関係のスキルの獲得，の５点が到達目標となる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
グループワークや模擬授業を含めた演習形式で行う。初回には、あらかじめ課した課題をグループで検討し、今後の授業方針を、受講者のニーズに応じて詳細に決める。原則として全授業に出席し、討議や模擬授業に積極的に参加することが求められる。毎時授業後に簡単な課題が出るので次回までにそれを遂行したうえで臨むことが求められる。なお、受講生のニーズ等に合わせて組み立てや順番を変更する可能性がある。原則として履修者全員が模擬授業を求められたら実施する責任を負う。
2回に1回、授業のふりかえりを実施し、意見を共有するなどの活動を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション：本講義の目標と構成	講義の目標と構成をオリエンテーションし，履修カルテや事前提出レポート等を，修正を含めて点検する。
第2回	教育実習の振り返り	各自の教育実習の総括および事前提出レポートを素材に，教職に就くために欠かせない力量やスキルとはなにかという観点から，教育実習を振り返る。
第3回	教職のあり方－報告と討論①：職務や労働条件	職務の多様性（登校指導，給食指導，身体・健康管理に関する指導，清掃指導等を含む）の理解を含み，教師の職務の全体像と労働条件を理解する。
第4回	教職のあり方－報告と討論②：教師の専門性と権限	教育法規に基づき，教師の権限や自由，子どもの権利を理解し，教師の専門性を向上させる制度やしくみを理解する。併せて，教師が学び続ける姿勢や取組みについても考える。
第5回	教職のあり方－報告と討論③：学級運営と教員の評価・管理，学校評価	学級経営の基本的あり方について理解し，また教員が相互に協力して学校教育を推進していく同僚性のあり方を考える。
第6回	授業指導の実際－授業記録の共同研究（１）：単元，目標と評価，生徒理解を重点に	6，7，8回については，担当教科・分野に関する授業記録（VTR，DVD，実践記録等）を素材に，授業の構成要素に関する重点を毎回設定しながら，共同で授業研究をする。
第7回	授業指導の実際－授業記録の共同研究（２）：教材と教具，内容と構成を重点に	6，7，8回については，担当教科・分野に関する授業記録（VTR，DVD，実践記録等）を素材に，授業の構成要素に関する重点を毎回設定しながら，共同で授業研究をする。
第8回	授業指導の実際－授業記録の共同研究（３）：指導方法とコミュニケーションを重点に	6，7，8回については，担当教科・分野に関する授業記録（VTR，DVD，実践記録等）を素材に，授業の構成要素に関する重点を毎回設定しながら，共同で授業研究をする。
第9回	生徒指導の事例研究（１）：不登校やいじめ，対人関係トラブル	9，10回については，テーマに対応する個別事例を取り上げ，その中での生徒認識や教師の指導方法を，ロールプレイなども取り入れて検討する。
第10回	生徒指導の事例研究（2）：家庭・親との対話や支援，地域・他機関との連携	9，10回については，テーマに対応する個別事例を取り上げ，その中での生徒認識や教師の指導方法を，ロールプレイなども取り入れて検討する。
第11回	学生研究成果発表とその集団検討（１）：研究対象は中学校	11，12，13回については，学生自らが設定した模擬授業を含む研究発表をおこない，発表者自身の省察もふくめて集団で事実や出来事を確認し，問題点や課題を出し合い議論する。
第12回	学生研究成果発表とその集団検討（2）：研究対象は高校	11，12，13回については，学生自らが設定した模擬授業を含む研究発表をおこない，発表者自身の省察もふくめて集団で事実や出来事を確認し，問題点や課題を出し合い議論する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
初回を受講する前に教育実習の振り返りをしておく（教育実習日誌にまとめたレポートを中心に）。特に、教育実習期間中に実施した自分の授業に関して、授業記録（指導案、実際の進行、生徒との対応、指導教諭からの指摘）を 事前にまとめておく。また、自分の担当科目に関して、ICT機器の活用を含んだ内容の模擬授業が実施できるように準備する。なお、受講者数に応じて模擬授業は20分程度になる可能性があることを見越した準備をしてくることが望ましい。以上の具体的課題は初回時に提示する。
本授業の準備・予習時間は、模擬授業の準備を中心に、各２時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
筒井美紀・遠藤野ゆり編『ベストをつくす教育実習　強みを活かし実力を伸ばす』2017・有斐閣（事前に入手しておくこと）
その他必要な文献や資料は授業内で指定，あるいは配布する。

【参考書】
文部科学白書最新版（インターネットによる文科省ホームページを利用）等のデータ
中学校学習指導要領、高等学校学習指導要領（最新版　文部科学省）

【成績評価の方法と基準】
①実施した模擬授業に基づく教職遂行能力関する評価（30％）、②授業におけるディスカッションへの貢献度等の平常点（20％）　③期末レポート課題（50％）を目安として，総合的に評価する。また、模擬授業は評価の30％を占めるが、一定の水準をクリアすることを、単位取得の必須要件とし、合格ラインに到達しない場合は他の課題が60点を上回っていても単位取得とならない。なお，最終的評価については，必要に応じて個別面接を実施する場合もある。

【学生の意見等からの気づき】
教育実習の体験を実践的に振り返る参加型の授業を希望する声が多く、この形式を踏襲する。また実践演習の内容については事前指導の教員とも情報を共有する。

【学生が準備すべき機器他】
「ICT機器を用いた模擬授業」ができるように、授業案のプランを作成し、教科書等の教材（コピー）、資料、パソコンなど、必要な教具の準備をしてきてください。

【その他の重要事項】
模擬授業の実施のタイミングなどは、参加者の都合を考慮して調整します。そのため、シラバスの順番どおりに授業が実施されない可能性があります。全員が模擬授業を実施すると理解してください。その際に、何らかの方法で「ICT機器を活用する」ことにしてください。
また､授業ではGoogleドライブを用いて情報共有を行います。Googleドライブ
の基本的な使い方を理解しておいてください。受講前に各自で法政大学の
Googleアカウントにログインできるよう準備しておいてください。
なお、大学には、HDMI等各種の回線、投影器具などがあります。コピー機（有料）もあります。

【Outline (in English)】
Course outline：This Class consists of combination of group works and individual guidance.Specifically, for individual guidance, at the beginning of the program, students will be asked to submit “Self-assessment of ability acquisition for teaching profession”and“Study chart”, and set individual tasks. If necessary, we have them submit an interim report, and ask them to prepare a personal research result report at the end of the lecture. Individual interviews will also be conducted as appropriate.
Learning Objectives：The lecture based on the practice form is composed of the following four.(1) Report and discussion to understand and understand the teaching actual situation, laws, etc., (2) Collaborative research on the record of lesson practice including simulated lessons, (3) Case study on student guidance, (4) Students’ presentation
In addition, lectures of incumbent teachers may be incorporated as necessary.
Learning activities outside of classroom：Students are required to review their teaching practice before attending the first session. In particular, it is necessary to compile in advance a lesson record (teaching plan, actual progress, correspondence with students, comments from the instructor) regarding the lessons conducted during the teaching practice period. In addition, all students are required to be prepared to conduct mock lessons in their assigned subjects. After each class, you will write a mini-report on what you have learned in class, and the final report will be a summary of this. The above specific assignments will be presented by the teacher at the first session.The standard time for preparation and homework for this class is two hours each, centering on the preparation of a mock class.
Grading Criteria /Policy：Comprehensive evaluation based on (1) evaluation of teaching ability based on mock classes conducted (30%), (2) normal score for contribution to discussion in class (20%), and (3) final report assignment (50%). In addition, although mock lessons account for 30%of the evaluation, clearing a certain level is an essential requirement for obtaining credits, and if you do not reach the passing line, you will not be able to obtain credits even if other assignments exceed 60 points. For the final evaluation, individual interviews may be conducted as necessary.

教職実践演習（平成28年改正法）（冬期スクーリング）

遠藤　野ゆり

カテゴリー：**冬期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2単位**
期間：**2群午後**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講手続き等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：**※新法（平成28年改正法）用**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
授業は、模擬授業やディスカッションを基本とした演習形式の集団指導と個別指導とを組み合わせて構成する。
具体的には、個別的指導については、開始当初に「教職のための力量獲得についての自己評価」と「履修カルテ」を提出してもらい、個別課題を設定する。必要に応じて中間報告を提出してもらい、講義修了時に個人研究成果報告書の作成を求める。なお，必要に応じて適宜、個別面談も行う。
演習形式を基本とする講義は，次の4つから構成される。
①教職のあり方や実態等々を理解し考える報告・討論，②模擬授業も含めた授業実践の共同研究，③生徒指導に関する事例研究，④以上を踏まえて，学生自ら設定した模擬授業も含む研究成果発表である。

【到達目標】
教職科目及び関連科目の履修を踏まえ，教職を担うに相応しい知識や技能，姿勢や態度を理解し習得することを通じて，教員免許取得に求められる資質・能力を形成することが目標である。
具体的には，①学校現場における授業を進める指導スキル（授業指導案の作成を含む）の習熟，②専門とする教科領域における教育内容についての研究力量の形成，③子ども理解及び学級・学校の実態の理解，④教職に向けての明確な意志と各自の目標設定の形成，⑤演習参加（グループ討論を含む）における積極的なコミュニケーションと対人関係のスキルの獲得，の５点が到達目標となる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
グループワークや模擬授業を含めた演習形式で行う。初回には、あらかじめ課した課題をグループで検討し、今後の授業方針を、受講者のニーズに応じて詳細に決める。原則として全授業に出席し、討議や模擬授業に積極的に参加することが求められる。毎時授業後に簡単な課題が出るので次回までにそれを遂行したうえで臨むことが求められる。なお、受講生のニーズ等に合わせて組み立てや順番を変更する可能性がある。原則として履修者全員が模擬授業を求められたら実施する責任を負う。
2回に1回、授業のふりかえりを実施し、意見を共有するなどの活動を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション：本講義の目標と構成	講義の目標と構成をオリエンテーションし，履修カルテや事前提出レポート等を，修正を含めて点検する。
第2回	教育実習の振り返り	各自の教育実習の総括および事前提出レポートを素材に，教職に就くために欠かせない力量やスキルとはなにかという観点から，教育実習を振り返る。
第3回	教職のあり方－報告と討論①：職務や労働条件	職務の多様性（登校指導，給食指導，身体・健康管理に関する指導，清掃指導等を含む）の理解を含み，教師の職務の全体像と労働条件を理解する。
第4回	教職のあり方－報告と討論②：教師の専門性と権限	教育法規に基づき，教師の権限や自由，子どもの権利を理解し，教師の専門性を向上させる制度やしくみを理解する。併せて，教師が学び続ける姿勢や取組みについても考える。
第5回	教職のあり方－報告と討論③：学級運営と教員の評価・管理，学校評価	学級経営の基本的あり方について理解し，また教員が相互に協力して学校教育を推進していく同僚性のあり方を考える。
第6回	授業指導の実際－授業記録の共同研究（1）：単元，目標と評価，生徒理解を重点に	6，7，8回については，担当教科・分野に関する授業記録（VTR，DVD，実践記録等）を素材に，授業の構成要素に関する重点を毎回設定しながら，共同で授業研究をする。
第7回	授業指導の実際－授業記録の共同研究（2）：教材と教具，内容と構成を重点に	6，7，8回については，担当教科・分野に関する授業記録（VTR，DVD，実践記録等）を素材に，授業の構成要素に関する重点を毎回設定しながら，共同で授業研究をする。
第8回	授業指導の実際－授業記録の共同研究（3）：指導方法とコミュニケーションを重点に	6，7，8回については，担当教科・分野に関する授業記録（VTR，DVD，実践記録等）を素材に，授業の構成要素に関する重点を毎回設定しながら，共同で授業研究をする。
第9回	生徒指導の事例研究（1）：不登校やいじめ，対人関係トラブル	9，10回については，テーマに対応する個別事例を取り上げ，その中での生徒認識や教師の指導方法を，ロールプレイなども取り入れて検討する。
第10回	生徒指導の事例研究（2）：家庭・親との対話や支援，地域・他機関との連携	9，10回については，テーマに対応する個別事例を取り上げ，その中での生徒認識や教師の指導方法を，ロールプレイなども取り入れて検討する。
第11回	学生研究成果発表とその集団検討（1）：研究対象は中学校	11，12，13回については，学生自らが設定した模擬授業を含む研究発表をおこない，発表者自身の省察もふくめて集団で事実や出来事を確認し，問題点や課題を出し合い議論する。
第12回	学生研究成果発表とその集団検討（2）：研究対象は高校	11，12，13回については，学生自らが設定した模擬授業を含む研究発表をおこない，発表者自身の省察もふくめて集団で事実や出来事を確認し，問題点や課題を出し合い議論する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
初回を受講する前に教育実習の振り返りをしておく（教育実習日誌にまとめたレポートを中心に）。特に、教育実習期間中に実施した自分の授業に関して、授業記録（指導案、実際の進行、生徒との対応、指導教諭からの指摘）を 事前にまとめておく。また、自分の担当科目に関して、ICT機器の活用を含んだ内容の模擬授業が実施できるように準備する。なお、受講者数に応じて模擬授業は20分程度になる可能性があることを見越した準備をしてくることが望ましい。以上の具体的課題は初回時に提示する。
本授業の準備・予習時間は、模擬授業の準備を中心に、各２時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
筒井美紀・遠藤野ゆり編『ベストをつくす教育実習　強みを活かし実力を伸ばす』2017・有斐閣（事前に入手しておくこと）
その他必要な文献や資料は授業内で指定，あるいは配布する。

【参考書】
文部科学白書最新版（インターネットによる文科省ホームページを利用）等のデータ
中学校学習指導要領、高等学校学習指導要領（最新版　文部科学省）

【成績評価の方法と基準】
①実施した模擬授業に基づく教職遂行能力関する評価（30％）、②授業におけるディスカッションへの貢献度等の平常点（20％）　③期末レポート課題（50％）を目安として，総合的に評価する。また、模擬授業は評価の30％を占めるが、一定の水準をクリアすることを、単位取得の必須要件とし、合格ラインに到達しない場合は他の課題が60点を上回っていても単位取得とならない。なお，最終的評価については，必要に応じて個別面接を実施する場合もある。

【学生の意見等からの気づき】
教育実習の体験を実践的に振り返る参加型の授業を希望する声が多く、この形式を踏襲する。また実践演習の内容については事前指導の教員とも情報を共有する。

【学生が準備すべき機器他】
「ICT機器を用いた模擬授業」ができるように、授業案のプランを作成し、教科書等の教材（コピー）、資料、パソコンなど、必要な教具の準備をしてきてください。

【その他の重要事項】
模擬授業の実施のタイミングなどは、参加者の都合を考慮して調整します。そのため、シラバスの順番どおりに授業が実施されない可能性があります。全員が模擬授業を実施すると理解してください。その際に、何らかの方法で「ICT機器を活用する」ことにしてください。
また、授業ではGoogleドライブを用いて情報共有を行います。Googleドライブ
の基本的な使い方を理解しておいてください。受講前に各自で法政大学の
Googleアカウントにログインできるよう準備しておいてください。
なお、大学には、HDMI等各種の回線、投影器具などがあります。コピー機（有料）もあります。

【Outline (in English)】
Course outline ： This Class consists of combination of group works and individual guidance.Specifically, for individual guidance, at the beginning of the program, students will be asked to submit “Self-assessment of ability acquisition for teaching profession”and“Study chart”, and set individual tasks. If necessary, we have them submit an interim report, and ask them to prepare a personal research result report at the end of the lecture. Individual interviews will also be conducted as appropriate.
Learning Objectives ： The lecture based on the practice form is composed of the following four.(1) Report and discussion to understand and understand the teaching actual situation, laws, etc., (2) Collaborative research on the record of lesson practice including simulated lessons, (3) Case study on student guidance, (4) Students’ presentation
In addition, lectures of incumbent teachers may be incorporated as necessary.
Learning activities outside of classroom ： Students are required to review their teaching practice before attending the first session. In particular, it is necessary to compile in advance a lesson record (teaching plan, actual progress, correspondence with students, comments from the instructor) regarding the lessons conducted during the teaching practice period. In addition, all students are required to be prepared to conduct mock lessons in their assigned subjects. After each class, you will write a mini-report on what you have learned in class, and the final report will be a summary of this. The above specific assignments will be presented by the teacher at the first session.The standard time for preparation and homework for this class is two hours each, centering on the preparation of a mock class.
Grading Criteria /Policy ： Comprehensive evaluation based on (1) evaluation of teaching ability based on mock classes conducted (30%), (2) normal score for contribution to discussion in class (20%), and (3) final report assignment (50%). In addition, although mock lessons account for 30%of the evaluation, clearing a certain level is an essential requirement for obtaining credits, and if you do not reach the passing line, you will not be able to obtain credits even if other assignments exceed 60 points. For the final evaluation, individual interviews may be conducted as necessary.

法政大学
HOSEI University